

# 日本医科大学研究業績年報

第 48 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 48



平成 13 ( 2001 ) 年度

April 2001    March 2002

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 48 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 48

平成 13 ( 2001 ) 年度

April 2001—March 2002

# まえがき

学長 浅野 伍朗

新しい世紀を迎えて医学分野に於ける教育・研究の評価，医療の質の更なる向上に向けての大きな変革が求められています。

ここに本学における2001年度〔平成13年度〕の研究業績年報が完成しました。これは基礎科学，基礎医学，臨床医学，老人病研究所など全学各施設からの研究成果をまとめたもので原著論文〔欧文・和文〕，学会発表〔国際・国内〕，特別講演，教育講演，ワークショップ，シンポジウム，招請講演，症例報告，総説，著書等々広い範囲に及びます。

これらの論文をみると国際的にも高く評価されている専門誌における掲載が多く，その成果の幾つかはカバー写真に選考され掲載されております。年毎に研究の質の向上がみられると共に論文総数は1998編と増加しており，その中の欧文論文数の比率をみても約38.59%と前年度に比較して増加がみられます。

近年，情報化，国際化が急速に進む中で，医学の領域においても優れた独創的な研究成果を公表して，高い評価をうけることで社会への還元が可能で，教育・医療の見直し，改変が進められ，その基盤であり成果ともなる研究を推進するために，充実した研究環境の整備とその支援も必要とされます。

本学における大学院重点化構想の推進の課程の中でTLOセンターが設置され，学術研究の高度化推進が計られております。「ハイテクリサーチセンター整備事業，学術フロンティア推進事業，バイオベンチャー研究開発」等の研究の成果に加えて，本学の各専門領域における研究成果も高く評価されています。

その結果は私立大学施設整備費，経常費補助金・特別補助，文部科学省からの科学研究費，厚生労働省からの厚生科学研究費など各省庁，自治体，財団からの補助金の交付状況に反映されております。

私立医科大学はわが国の医学教育の約40%を担うといわれています。本学においても医療の第一線で活躍する医師の育成を行うと共に独創的な研究成果を基盤に質の高い医療を提供することで社会の要請に応えております。

終わりに，この業績集の編集にご尽力下さいました芝崎研究委員会委員長と大学事務局の皆様には謝意を表します。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学 .....	1
[国文学] .....	1
[心理学] .....	1
[歴史学] .....	2
[文化人類学] .....	3
[経済学] .....	3
2. 自然科学 .....	4
[数 学] .....	4
[物理学] .....	5
[化 学] .....	6
[生物学] .....	7
3. 外国語 .....	10
[英 語] .....	10
[ドイツ語] .....	11
4. スポーツ科学 .....	12
[スポーツ科学] .....	12

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座 .....	17
2. 解剖学第二講座 .....	20
3. 生理学第一講座 .....	24
4. 生理学第二講座 .....	27
5. 生化学第一講座 .....	30
6. 生化学第二講座 .....	33
7. 薬理学講座 .....	39
[薬理学] .....	39
[臨床薬理センター] .....	41
8. 病理学第一講座 .....	44
9. 病理学第二講座 .....	50
10. 微生物学・免疫学講座 .....	57
11. 衛生学・公衆衛生学講座 .....	64
12. 法医学講座 .....	67
13. 医療管理学講座 .....	71
14. 基礎医学共同研究利用施設 .....	75
[実験動物管理室] .....	75
[中央電子顕微鏡研究施設] .....	77
[情報科学センター] .....	79

### 〔3〕臨床医学

1. 内科学第一講座	83
〔付属病院第1内科〕	83
〔付属病院老人科〕	97
〔第二病院内科〕	101
〔多摩永山病院内科〕	103
2. 内科学第二講座	109
〔付属病院第2内科〕	109
〔付属病院リウマチ科〕	124
3. 内科学第三講座	129
〔付属病院第3内科（血液，消化器，内分泌・代謝内科）〕	129
4. 内科学第四講座	141
〔付属病院呼吸器内科〕	141
5. 精神医学講座	154
〔付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科〕	154
〔付属病院東洋医学科〕	160
6. 小児科学講座	162
〔付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科〕	162
7. 放射線医学講座	177
〔付属病院放射線科〕	177
〔第二病院放射線科〕	190
〔多摩永山病院放射線科〕	192
〔千葉北総病院放射線科〕	194
8. 皮膚科学講座	196
〔付属病院皮膚科〕	196
〔第二病院皮膚科〕	203
〔多摩永山病院皮膚科〕	204
〔千葉北総病院皮膚科〕	205
9. 外科学第一講座	206
〔付属病院第1外科〕	206
〔多摩永山病院外科〕	219
〔多摩永山病院消化器科〕	224
〔千葉北総病院外科〕	227
10. 外科学第二講座	230
〔付属病院第2外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科〕	230
〔第二病院外科〕	245
〔多摩永山病院内視鏡科〕	248

11. 脳神経外科学講座	252
[ 付属病院脳神経外科 ]	252
[ 第二病院脳神経外科 ]	271
[ 多摩永山病院脳神経外科 ]	274
[ 千葉北総病院脳神経外科 ]	277
12. 整形外科科学講座	282
[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科 ]	282
13. 産婦人科学講座	291
[ 付属病院女性診療科・産科 ]	291
[ 第二病院女性診療科・産科 ]	306
[ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]	311
[ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]	315
14. 耳鼻咽喉科学講座	317
[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ]	317
[ 第二病院耳鼻咽喉科 ]	329
[ 多摩永山病院耳鼻咽喉科 ]	331
[ 千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]	332
15. 泌尿器科学講座	334
[ 付属病院泌尿器科 ]	334
[ 第二病院泌尿器科 ]	338
[ 多摩永山病院泌尿器科 ]	341
[ 千葉北総病院泌尿器科 ]	343
16. 眼科学講座	345
[ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]	345
[ 千葉北総病院眼科 ]	353
17. 麻酔科学講座	355
[ 付属病院麻酔科 ]	355
[ 第二病院麻酔科 ]	360
[ 多摩永山病院麻酔科 ]	362
[ 千葉北総病院麻酔科 ]	364
18. 救急医学講座	367
[ 付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・ 新東京国際空港クリニック ]	367
[ 多摩永山病院救命救急センター ]	380
[ 千葉北総病院救命救急センター ]	385
[ 新東京国際空港クリニック ]	390
19. 形成外科学講座	393
[ 付属病院形成外科・美容外科 ]	393
[ 第二病院形成外科 ]	400

	[ 千葉北総病院形成外科 ] .....	402
20.	付属病院付置施設等 .....	403
	[ 付属病院集中治療室 ] .....	403
	[ 付属病院病理部 ] .....	408
	[ 付属病院中央検査部 ] .....	412
	[ 付属病院薬剤部 ] .....	414
	[ 付属病院生理機能センター ] .....	416
	[ 付属病院看護部 ] .....	418
	[ 付属病院放射線科技師室 ] .....	419
	[ 日本医科大学腎クリニック ] .....	421
	[ ワクチン療法研究施設 ] .....	422
21.	第二病院付置施設等 .....	423
	[ 第二病院消化器病センター ] .....	423
	[ 第二病院リハビリテーションセンター ] .....	427
	[ 第二病院病理部 ] .....	430
	[ 第二病院中央検査室 ] .....	435
	[ 第二病院薬剤科 ] .....	435
22.	多摩永山病院付置施設等 .....	437
	[ 多摩永山病院病理部 ] .....	437
	[ 多摩永山病院中央検査室 ] .....	442
	[ 多摩永山病院薬剤科 ] .....	444
	[ 多摩永山病院看護部 ] .....	445
23.	千葉北総病院付置施設等 .....	447
	[ 千葉北総病院内科 ] .....	447
	[ 千葉北総病院集中治療室 ] .....	454
	[ 千葉北総病院リハビリテーション科 ] .....	459
	[ 千葉北総病院病理部 ] .....	460
	[ 千葉北総病院中央検査室 ] .....	465
	[ 千葉北総病院薬剤科 ] .....	466
	[ 千葉北総病院中央画像検査室 ] .....	467
	[ 千葉北総病院歯科 ] .....	468
	[ 千葉北総病院看護部 ] .....	470

#### [ 4 ] 付置研究施設

1.	老人病研究所 .....	473
	[ 病理学部門 ] .....	473
	[ 生化学部門 ] .....	477
	[ 免疫部門 ] .....	480
	[ 疫学部門 ] .....	482
	[ 分子生物学部門 ] .....	485
	[ 臨床部門 ] .....	494

付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....	497
1. 平成13年度科学研究費補助金交付決定一覧 .....	497
2. 平成13年度科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況 .....	503
3. 平成13年度厚生省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況 .....	503
4. 平成13年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況 .....	505
5. 平成13年度各種補助金の交付状況一覧 [内訳].....	507
6. 平成13年度「私立大学学術研究高度化事業」関係補助金 .....	508



## 〔 1 〕 基 礎 科 学

# 1. 人文科学・社会科学

## [ 国文学 ]

### 研究概要

本年は、ロンドン大学アジア・アフリカ研究学科において1年間の海外研修を行い、1900年から1902年までロンドンに留学した夏目漱石の英国での足跡を調査し、「鏡を割った街：漱石文学におけるロンドン」を発表した。

また現代女性文学研究においては2001年4月28日から6月10日まで開催された「佐藤愛子展」(世田谷文学館主催)のカタログに「佐藤愛子年譜」を執筆した。

芥川龍之介研究は、英国での資料不足のため、論考としての成果はあげられなかったが、「芥川龍之介の詩歌」「芥川龍之介：その文学の地下水を探る」という二つの芥川龍之介研究の著書の紹介を執筆した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) 神田由美子：鏡を割った街：漱石文学におけるロンドン．国語展望 2001；(108)：13-15．

##### (2) 書評：

1) 神田由美子：小室義弘「芥川龍之介の詩歌」．国文学解釈と鑑賞 2001；66(8)：205-205．

2) 神田由美子：佐藤嗣男「芥川龍之介：その文学の地下水を探る」．国文学解釈と鑑賞 2002；67(4)：175-175．

##### (3) 年譜：

1) 神田由美子：佐藤愛子年譜．世田谷文学館編「佐藤愛子展」 2001；122-133．

## [ 心理学 ]

### 研究概要

本年度はコラージュ療法の臨床的研究と啓蒙に加えて、前年から取り組んでいる臨床心理学の教科書の作成に力を注いだ。「臨床心理学講義 - 実習を通して学ぶ」は2002年5月に出版される予定である。また昨年来編集作業に取り組んでいたアヴェ・ラルマンの「心理療法におけるワルテック描画テスト」が2002年1月に出版された。引き続きアヴェ・ラルマンの「パウムテスト」の翻訳の責任編集作業を行っている。パウムテストは2002年7月に出版の予定である。8月にはスイスに投影描画法テストバッテリーの研究に出かけた。共同研究者の国士館大学の鈴木康明氏と共に、ユング派分析作家であるブルーノ・ルーネル氏のスーパービジョンを受けた。今後の研究に弾みがつき実り多い夏であった。

1. 「心理療法のツールとしての投影描画法テスト・バッテリー、星と波テスト・パウムテスト・ワルテック描画テスト」を国士館大学の鈴木康明氏とポスターセッション・学会発表した。

2. 韓国で開催された韓日美術治療国際学術大会に講師として招かれ投影描画法テストバッテリーのワークショップを行った。

3. 痴呆のコラージュ療法 - アルツハイマー - 病患者的コラージュ表現を「臨床精神医学」誌に共著で掲載した。本学の紀要に高梨利恵子氏と共に「投影描画法テストバッテリーの検討」を原著としてまとめた。

4. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動を本年度も行った。東京コラージュ療法研究会を5月、7月、9月、11月2001年2月の5回行った。大学生の卒論(テーマは家族)、産業(うつ病の会社員)、思春期(不登校児の集団)、病院(不登校高校生)学生相談(うつ症状と過敏性下痢の大学生)など各領域からの事例研究会を行った。また今年

度は九州コラージュ研究会, 広島コラージュ療法研究会が設立され講師として招かれた。その他長野県教育センター, 法務省研修センターなどで講師を務めた。また日本心理臨床学会で研修会の講師や座長を, 描画テスト・描画療法学会においてワークショップの講師を務めた。

5. 学生相談室開室以来7年目となった。新入生会員にUPI (学生健康調査) テストを行った。2000年度の相談室活動報告およびUPIの結果などを含めた学生相談室報告書第6号を発行した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 杉浦京子, 高梨利恵子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>成城墨岡クリニック): 投影描画法テストバッテリーの検討。日本医科大学基礎科学紀要 2001; (31): 11-31.
- 2) 杉浦京子, 石崎淳一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学): 痴呆のコラージュ療法 アルツハイマー病患者のコラージュ表現。臨床精神医学 2001; (増刊号): 103-109.

### 著書

- 1) 杉浦京子, 高辻玲子<sup>1)</sup>, 杉浦まそみ子<sup>2)</sup>, 渡邊祥子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>保健所心理員, <sup>2)</sup>お茶の水女子大学大学院人間文化研究科後期課程, <sup>3)</sup>神奈川県立衛生短大教授): [編集] 心理相談のためのワルテッグ描画テスト。心理相談のためのワルテッグ描画テスト (責任編集), 2001; 川島書店。
- 2) 杉浦京子, 松原達哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>立正大学大学院教授): [分担] コラージュ技法, 星と波テスト, ワルテッグ描画テスト。心理テスト法入門 第4版 基礎知識と技法修得のために, 2002; pp217-222, 日本文化科学社。

### 学会発表

#### (1) 招待講演:

- 1) 杉浦京子: Inner world of elderly patients with dementia shown by collage. Wartegg-Zeichentest (WZT). Star-Waves-Test (SWT), Baum Test。韓日美術治療国際学術学会 (韓国), 2001. 11.

#### (2) シンポジウム:

- 1) 杉浦京子, 入江 茂<sup>1)</sup>, 中村勝治<sup>2)</sup>, 服部令子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>入江クリニック, <sup>2)</sup>中村心理カウンセリング, <sup>3)</sup>早稲田大学): コンピューターを利用したコラージュ療法の展開。日本心理臨床学会, 2001. 9.

#### (3) ワークショップ:

- 1) 杉浦京子: コラージュ技法。日本描画テスト・描画療法学会, 2001. 9.
- 2) 杉浦京子, 森谷寛之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都文京大学): 心理臨床介入技法としてのコラージュの利用。日本心理臨床学会, 2001. 9.

## [ 歴史学 ]

### 研究概要

近年も間近になったので, いままでの鎌倉幕府研究の集大成をしようと努めたが, ますます気になることが続出したので, 結局は従来の鎌倉研究を, 若干, 深化させ得たに過ぎなかったようである。

もちろん執筆活動や朝日カルチャーその他での講演も, いままで通り数多くこなしたと思っている。単独著書がついに32冊になったが, 64歳という年齢に比べると, 生まれてから一年おきに本を出してきたことになる。もちろん算術的に云ってのことである。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 奥富敬之：北条時宗の危機管理能力．プログレス 2001；(603)：17-20．
- 2) 奥富敬之：北条時輔：陽の当たらない道の果てに．歴史街道 2001；(161)：44-47．

### 著書

- 1) 奥富敬之：〔自著〕鎌倉歴史散歩，2001；新人物往来社．
- 2) 奥富敬之：〔分担〕北条時宗，起死回生の決断．その時歴史が動いた 12 (NHK取材班編)，2002；pp1-61，KTC中央出版．
- 3) 奥富敬之：〔自著〕源氏三代101の謎，2002；新人物往来社．

## [文化人類学]

### 研究概要

文化・文明の構造と機能，人間の行動原理と文化・文明の変容原理との関連性，生活の豊かさの本質，現代社会における宗教的精神性の意義，理想的社会像とその方向性等について究明している．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 研究報告：

- 1) 伊藤末博：神への気付き：宇宙が神に変わるとき．日医大基礎科学紀要 2001；(31)：33-39．

## [経済学]

### 研究概要

経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し，これまでの研究を継続，発展させてきた．今年度は日本経済と世界経済とを関連づけ，東アジアの経済発展，とりわけ近年顕著な発展を見せる中国経済が日本の産業と雇用に与える影響について調査研究を進めた．いわゆる空洞化が問題となるが，それへの日本の対応についても検討を加えた．成果は『グローバル化・IT革命と日本の雇用に関する調査研究報告書』に収めた．

また文部省科学研究費補助金（平成10年～12年度）の交付を受けて実施してきた電子マネーに関する研究については研究成果報告書（「電子マネーの貨幣・信用論上の意義と金融システム・金融政策への影響に関する研究」）として纏めたところである．さらに理論的考察をすすめて，『電子マネーの「貨幣論」』として貨幣論的・信用論的考察を行うとともに，経済理論学会（第48回大会，於高知大学）において『電子マネーのインパクト』と題した発表を行った．

なお年度初めには，介護保険導入後高齢者の受療動向と医療費の推移に関する昨年度の研究の成果を「介護保険制度導入後の高齢者の受療機会の変化と医療費の推移に関する調査研究報告書」として纏め公表したところである．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 三輪春樹：電子マネーの貨幣・信用論上の意義と金融システム・金融政策への影響に関する研究．電子マネー

の貨幣・信用論上の意義と金融システム・金融政策への影響に関する研究 2001 ; 1-83 .

2) 三輪春樹：電子マネーの「貨幣論」. 総合教育センター紀要（東海大学） 2002 ; (22) : 55-69 .

(2) 研究報告書：

- 1) 三浦宏一<sup>1)</sup>, 太田保世<sup>2)</sup>, 三輪春樹, 深代達也<sup>3)</sup>, 中島清彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 先端技術産業調査会, <sup>2)</sup> 太田総合病院, <sup>3)</sup> 日本能率協会総合研究所): 介護保険制度導入後の高齢者の受療機会の変化と医療費の推移に関する調査研究報告書 . 介護保険制度導入後の高齢者の受療機会の変化と医療費の推移に関する調査研究報告書 2001 ; pp1-111 .
- 2) 唐津 一<sup>1)</sup>, 山田勝久<sup>2)</sup>, 竹内 宏<sup>3)</sup>, 伊藤純逸<sup>4)</sup>, 北原保之<sup>5)</sup>, 駒村康平<sup>6)</sup>, デイビススコット<sup>7)</sup>, 樋口美雄<sup>8)</sup>, 広田 薫<sup>9)</sup>, 宮嶋光男<sup>10)</sup>, 三輪春樹, 森永卓郎<sup>11)</sup>, 三浦紘一<sup>12)</sup>(<sup>1)</sup> 東海大学, <sup>2)</sup> 上五島石油備蓄, <sup>3)</sup> 竹内経済工房, <sup>4)</sup> 産業立地研究所, <sup>5)</sup> テレビ東京メディアネット, <sup>6)</sup> 東洋大学, <sup>7)</sup> 麗澤大学, <sup>8)</sup> 慶應義塾大学, <sup>9)</sup> 日本能率協会総合研究所, <sup>10)</sup> 共同通信社, <sup>11)</sup> 三和総合研究所, <sup>12)</sup> 先端技術産業調査会): グローバリゼーション・IT革命と日本の雇用に関する調査研究報告書 . グローバリゼーション・IT革命と日本の雇用に関する調査研究報告書 2002 ; pp1-102 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 三輪春樹：電子マネーのインパクト . 経済理論学会, 2001 . 10 .

## 2 . 自然科学

### [ 数 学 ]

#### 研究概要

正射影作用素により線形空間は互いに直交する部分空間に分割される . この分割の視点は多くの基本的な統計解析法の論理構造を見易くする . この視点から整理した所の小冊子「統計数理入門 - 自由度とは - 」の脱稿に多くの時間を費やした . 統計演習の授業に Windows 上の統計ソフト EXCEL を導入して来たが , それの最終的完成に力を注いだ . ( 三宅 )

Lipschitz 領域における , 楕円型偏微分作用素の解析半群の生成で , Laplacian+1 階微分の項という場合について一定のところまでまとめた . また , 抽象的作用素論の研究を始めた . ( 儀我 )

強結合繰り込み群の特性関数法のさらなる応用として , hierarchical  $O(N)$  model の繰り込み群軌道を ,  $N$  が十分大きい場合について考察した . また , 場の量子論の基礎的な問題について , 数学的な観点から , 大学院生向けに集中講義をした . ( 渡辺 )

講義用に  $m$  次元実数空間と  $n$  次元実数空間が位相同型にならない事の , 初等的証明或いは例を作っている . ( 飯田 )

#### 研究業績

##### 論 文

(1) 原著：

- 1) Hara T<sup>1)</sup>, Hattori T<sup>1)</sup>, Watanabe H ( <sup>1)</sup> Nagoya Univ ): Triviality of Hierarchical Ising Model in Four Dimensions . Communications in Mathematical Physics 2001 ; 220 ( 1 ): 13-40 .
- 2) 三宅章彦：統計教育への EXCEL の導入 ( 続 ) . 数学教育学会研究紀要 2001 年度秋季例会発表論文集 2001 ; 39-41 .
- 3) 三宅章彦：ピタゴラスの定理と統計教育 . 数学教育学会研究紀要 2002 年度春季年会発表論文集 2002 ; 49-51 .

(2) 綜説：

- 1) 渡辺 浩：くりこみ群．数理科学 2001；40-46．
- 2) 渡辺 浩：格子で考える場の理論．数学セミナー 2001；34-37．

著 書

- 1) 三宅章彦：〔自著〕統計数理入門：自由度とは，2002；pp1-52，新町館．

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 渡辺 浩：4次元階層模型の自明性．名古屋大学大学院多元数理談話会，2001．7．
- 2) 儀我真理子：作用素エントロピーの単調性．作用素論セミナー，2002．3．

(2) 一般講演：

- 1) 三宅章彦：統計教育へのEXCELの導入（続）．数学教育学会 2001年度秋季例会，2001．10．
- 2) 儀我真理子：Lipschitz領域における自己共役でない楕円型偏微分作用素の解析半群の生成．日本数学会 秋季総合分科会，2001．10．
- 3) 三宅章彦：ピタゴラスの定理と統計教育．数学教育学会 2002年度春季年会，2002．3．

(3) 研究集会：

- 1) 渡辺 浩：4次元スカラー階層模型の自明性．京都大学数理解析研究所「くりこみ群の数理科学での応用」，2001．7．
- 2) 渡辺 浩：「4次元階層モデルの繰り込み群軌道」．慶応大学「非可換幾何学と物理学」，2001．12．

(4) 集中講義：

- 1) 渡辺 浩：「場の量子論の数学的基礎」．名古屋大学大学院多元数理「確率論特別講義」，2001．7．

(5) 談話会：

- 1) 儀我真理子：1, 2, 3, ...から複素数まで：他分野の人に数学を話す．第8回数学教育談話会，2002．2．

## [ 物理学 ]

### 研究概要

1) 1. リン酸の酸解離の量子化学計算を行った．2. 完全変分型分子軌道法を用いて電子の質量を仮想的に変化させたときの系の波動関数の挙動のシミュレーションを行った．3. トロポロンおよびそのハロゲン置換体の最低励起状態におけるトンネル効果によるプロトン移動の理論的研究を行っている．[香川]

2) 米国シアトルワシントン大学医学部に留学中．[菊地]

3) 量子 古典対応領域でのカオスについて検討している．これから，量子系と古典系の連続性，接続性について検討する．生体系の安定性について物理的にグローバルに捉えることを試みている．神経系についてシミュレーションプログラムを開発している．[須田]

4) 重粒子の低いエネルギーにおける振る舞いを調べるときに，非相対論的な記述が実際上有効に働いている．これを暗に指導原理とした LFQCD を研究している．8 - 9年前に，Wilson 達が非解析的な方法で，3次元回転対称を破るが，紫外発散と赤外発散を取り除くクリコミ理論を提案した．これに対して，最近 S. D. Glazek や M. Brisudova 等がブースト不変な形式でこれらを除くクリコミ理論を提案しており，これを勉強している．[三浦]

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Kagawa H, Ichimura A<sup>1)</sup>, Kamka N A<sup>2)</sup>, Mori K<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Kokushikan University, <sup>2)</sup> PT Matsushita Gobel Electric Works Manufacturing, <sup>3)</sup> WCSC): Parameters of Average Molecular Polarizability in the MNDO, AM1 and PM3 Methods. J. Mol. Struct. ( THEOCHEM ) 2001 ; 546 : 127-141 .
- 2) Kagawa H, Kawauchi S<sup>1)</sup>, Tamura Y<sup>2)</sup>, Suzuki K<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Institute of Technology, <sup>2)</sup> SGI Japan, Ltd. , <sup>3)</sup> Takachiho University ): Simulations to Demonstrate Flexibility of Full Variational Molecular Orbital Method by Fictitious Change in the Electron Mass . JCPE Journal 2001 ; 13 ( 4 ): 235-240 .
- 3) Kagawa H, Tamura Y<sup>1)</sup>, Kawauchi S<sup>2)</sup>, Mori K<sup>3)</sup>, Suzuki K<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> SGI Japan, Ltd. , <sup>2)</sup> Tokyo Institute of Technology, <sup>3)</sup> WCSC, <sup>4)</sup> Takachiho University ): Molecular Orbital Study on Dissociation of Phosphoric Acid . Bull. Lib. Arts & Sci. Nippon Med. Sch. 2001 ; ( 31 ): 1-10 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) 香川 浩, 森 和英<sup>1)</sup>, 立川仁典<sup>2)</sup>, 川内 進<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> WCSC, <sup>2)</sup> 理化学研究所分子光化学, <sup>3)</sup> 東工大高分子工): AM1-RPA 法を用いた励起水素結合系におけるプロトン・トンネリングの理論的研究. 日本物理学会 2001年秋季大会, 2001 . 9 .

## [ 化 学 ]

### 研究概要

石田:

シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), 及び他の金属の三成分分離
- (2) 塩類 - 有機溶媒 - 水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

菅原:

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中:

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

- (1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン, 電子移動反応

中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究

- (1) 生体内微量元素等と疾患, 環境等との関連

永井:

2, 2'-ビピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究 .

(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田：

CMセルロースTLC及びゼオライトTLCに関する研究

(1) 塩類水溶液系 - 有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動

(2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討

(3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明

貴金属元素の分離および定量に関する研究

(1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構

(2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

1) Suganuma T<sup>1)</sup>, Tanada A<sup>1)</sup>, Tomizawa H<sup>2)</sup>, Tanaka M, Miki E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Rikkyo Univ. , <sup>2)</sup>Int. Univ. Health and Welfare ): Relationship between pKa of 8-quinolinol derivatives and a P-donor ability of the 8-quinolinolato oxygen in linear nitrosylruthenium ( II ) complexes . Inorg Chim Acta 2001 ; 320 ( 1-2 ) : 22-33 .

2) Shigeta A<sup>1)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Ratanamaneechat S<sup>2)</sup>, Suwanagool S<sup>2)</sup>, Srisukho S<sup>3)</sup>, Miki M<sup>4)</sup>, Tanaka M ( <sup>1)</sup>Center for Digestive Disease, Second Hospital , <sup>2)</sup>Dept. Prevent. Social Med. , Mahidol Univ. , <sup>3)</sup>Dept. Surgery, ChiangMai Univ. , <sup>4)</sup>Yokohama Daijin Hosp. ) : Epidemiological Correlation between Chromium Content in Gallstones and Cholesterol in Blood . J Med Assoc Thai 2002 ; 85 ( 2 ) : 183-194 .

## [ 生物学 ]

### 研究概要

1) 北極圏のように生育可能な期間が短く年毎の変動も激しい環境において植物が示す適応現象を明らかにすることを目的に生態学的な研究を行なっている．北極圏は温暖化の影響が最も大きいと危惧され，そこに生育する植物の生態に関する基礎データの収集は気候変化に対する生態系の反応予測の上でも重要である．12年度から科研費補助金を受け，プレフォーマーション（翌春の成長のために芽の中に葉や繁殖器官を準備する現象）とフェノロジー（一生育シーズン内での成長と繁殖のスケジュール）に主眼をおき，温度と栄養塩の影響を調べる栽培実験，毎年夏のノルウェーでの野外調査を行っている．（西谷）

2) カロテノイド色素に関して，物理化学的性質，紅色光合成細菌 *Rvi. gelatinosus* のカロテノイド生合成遺伝子の単離・酵素の性質・生合成経路，新規光合成細菌の同定と色素の生合成経路，コリネバクテリアの色素分析と生合成経路，シアノバクテリアのカロテン生合成における異性化酵素の存在と必要性，原始的緑藻の進化と色素組成の変化との関係，などを研究している（国際，国内共同研究）．（高市）

3) 生理活性脂質データベース（LIPID<sub>BANK</sub> for Web；<http://lipid.bio.m.u-tokyo.ac.jp>）のカロテノイド部門の責任者としてデータの追加・修正とデータベースの紹介をした．国際原核光合成生物シンポジウム（2003年，東京）の組織委員，日本植物生理学会の評議委員になった．他大学の大学院生などに対する研究指導も行っている．（高市）

4) ウニ体腔細胞の発生学上の由来を探るために必要な受精卵から稚ウニまで（卵割期・ブルテウス期・変態期を経て）の飼育法を確立した．体腔細胞のうちphagocyteに関する抗体を作成した（都立大・矢崎との共同研究）．ウニの発生過程での骨片・変態後の棘の形成などを検討し，骨片の腹横桿の癒合，球棘（棘の一種）の形成などが種によって違うことを明らかにした．（関）



## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Takaichi S, Jung Deborah O<sup>1)</sup>, Madigan Michael T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Southern Illinois Univ. ): Accumulation of unusual carotenoids in the spheroidene pathway, demethylspheroidene and demethylspheroidenone, in an alkaliphilic purple nonsulfur bacterium *Rhodobaca bogoriensis* . Photosynth. Res. 2001 ; 67 ( 3 ): 207-214 .
- 2) Takaichi S, Maoka T<sup>1)</sup>, Masamoto K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. , <sup>2)</sup> Kumamoto Univ. ): Myxoxanthophyll in *Synechocystis* sp. PCC 6803 is myxol 2'-dimethyl-fucoside, ( 3*R*, 2'*S* )-myxol 2'- ( 2, 4-di-*O*-methyl- -L-fucoside ) , not rhamnoside . Plant Cell Physiol. 2001 ; 42 ( 7 ): 756-762 .
- 3) Kurubasik P<sup>1)</sup>, Takaichi S, Maoka T<sup>2)</sup>, Kobayashi M<sup>3)</sup>, Masamoto K<sup>4)</sup>, Sandmann G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> J. W. Goethe Univ. , <sup>2)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. , <sup>3)</sup> Mitsubishi Chemical , <sup>4)</sup> Kumamoto Univ. ): Detailed biosynthetic pathway to decaprenoxanthin diglucoside in *Corynebacterium glutamicum* and identification of novel intermediates . Arch. Microbiol. 2001 ; 176 ( 3 ): 217-223 .
- 4) Andersson Per O<sup>1)</sup>, Takaichi S, Cogdell Richard J<sup>2)</sup>, Gillbro T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Kalmar Univ. , <sup>2)</sup> Univ. of Glasgow , <sup>3)</sup> Univ. of Umea ): Photophysical characterization of natural *cis*-carotenoids . Photochem. Photobiol. 2001 ; 74 ( 4 ): 549-557 .
- 5) Harada J<sup>1)</sup>, Nagashima K VP<sup>1)</sup>, Takaichi S, Misawa N<sup>2)</sup>, Matuura K<sup>1)</sup>, Shimida K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. , <sup>2)</sup> Kirin Brewery ): Phytoene desaturase, CrtI, of the purple photosynthetic bacterium, *Rubrivivax gelatinosus*, produces both neurosporene and lycopene . Plant Cell Physiol. 2001 ; 42 ( 10 ): 1112-1118 .
- 6) Takaichi S, Maoka T<sup>1)</sup>, Yamada M<sup>2)</sup>, Matsuura K<sup>2)</sup>, Haikawa Y<sup>3)</sup>, Hanada S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. , <sup>3)</sup> National Institute of Advanced Industrial Science and Technology ): Absence of carotenes and presence of a tertiary methoxy group in a carotenoid from a thermophilic filamentous photosynthetic bacterium *Roseiflexus castenholzii* . Plant Cell Physiol. 2001 ; 42 ( 12 ): 1335-1362 .
- 7) Masamoto K<sup>1)</sup>, Wada H<sup>2)</sup>, Kaneko T<sup>3)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Kumamoto Univ. , <sup>2)</sup> Kyushu Univ. , <sup>3)</sup> Kazusa DNA Research Institute ): Identification of a gene required for *cis*-to-*trans* carotene isomerization in carotenogenesis of the cyanobacterium *Synechocystis* sp. PCC 6803 . Plant Cell Physiol. 2001 ; 42 ( 12 ): 1398-1402 .
- 8) Hanada S<sup>1)</sup>, Takaichi S, Matsuura K<sup>2)</sup>, Nakamura K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Institute of Advanced Industrial Science and Technology , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. ): *Roseiflexus castenholzii* gen. nov. , sp. nov. , a thermophilic, filamentous, photosynthetic bacterium that lacks chlorosomes . Int. J. Syst. Evol. Microbiol. 2002 ; 52 ( 1 ): 187-193 .

#### (2) 研究報告書 :

- 1) 関 俊則 : チュートリアル教育の試み . 日本医科大学基礎科学紀要 2001 ; 31 : pp41-48 .

### 著書

- 1) Takaichi S, Maoka T<sup>1)</sup>, Masamoto K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. , <sup>2)</sup> Kumamoto Univ. ): [ 分担 ] Myxol 2'-dimethyl-fucoside, ( 3*R*, 2'*S* )-myxol 2'- ( 2, 4-di-*O*-methyl- -L-fucoside ) , in *Synechocystis* sp. PCC 6803 and nomenclature of myxoxanthophyll . Proceedings of the 12th International Congress on Photosynthesis ( CD-ROM ) ( Keith Boardman ), 2001 ; pp1-4 , CSIRO Publishing .
- 2) Harada J<sup>1)</sup>, Takaichi S, Nagashima K V P<sup>1)</sup>, Matuura K<sup>1)</sup>, Shimada K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. ): [ 分担 ] Functional analysis of spheroidene mono-oxygenase, CrtA, of the purple photosynthetic bacterium, *Rubrivivax gelatinosus* . Proceedings of the 12th International Congress on Photosynthesis ( CD-ROM ) ( Keith Boardman ), 2001 ; pp1-4 , CSIRO Publishing .

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) Takaichi S, Misawa N<sup>1)</sup>, Ito M<sup>2)</sup>, Yamano Y<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Yokoyama A<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Kirin Brewery , <sup>2)</sup> Kobe Pharmaceutical Univ. , <sup>3)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. , <sup>4)</sup> Eco-Tichno ): LIPID<sub>BANK</sub> for Web, a newly developed lipid database in Japan ; Carotenoid class . 13th International Carotenoid Symposium ( Honolulu ), 2002 . 1 .
- 2) 高市真一, 三沢典彦<sup>1)</sup>, 伊藤允好<sup>2)</sup>, 山野由美子<sup>2)</sup>, 眞岡孝至<sup>3)</sup>, 横山明裕<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> キリンビール ( 株 ) 医薬カンパニー , <sup>2)</sup> 神戸薬科大学 , <sup>3)</sup> 京都薬科大学 , <sup>4)</sup> ( 株 ) 環境テクノ ): 生理活性脂質データベース ( LIPID<sub>BANK</sub> for Web ): カロテノイド部門の紹介 . 第15回カロテノイド研究談話会 , 2001 . 9 .

(2) 一般講演 :

- 1) Akimoto S<sup>1)</sup>, Yamazaki I<sup>1)</sup>, Takaichi S, Mimuro M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido Univ. , <sup>2)</sup> Yamaguchi Univ. ): Excitation relaxation dynamics of carotenoids with a carbonyl group probed by the femtosecond fluorescence up-conversion method . 4th International Conference on Biological Physics ( ICBP2001 ) ( Kyoto ), 2001 . 7 .
- 2) Takaichi S, Maoka T<sup>1)</sup>, Masamoto K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ. , <sup>2)</sup> Kumamoto Univ. ): Myxol 2'-dimethyl-fucoside, ( 3*R*, 2'*S* ) -myxol 2'- ( 2, 4-di-*O*-methyl- -L-fucoside ), in *Synechocystis* sp. PCC 6803 and nomenclature of myxoxanthophyll . The 12th International Congress on Photosynthesis ( Brisbane ), 2001 . 8 .
- 3) Harada J<sup>1)</sup>, Takaichi S, Nagashima K V P<sup>1)</sup>, Matuura K<sup>1)</sup>, Shimada K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Univ. ): Functional analysis of spheroidene monooxygenase, CrtA, of purple photosynthetic bacterium, *Rubrivivax gelatinosus* . The 12th International Congress on Photosynthesis ( Brisbane ), 2001 . 8 .
- 4) Sorokin D Y<sup>1)</sup>, Banciu H<sup>2)</sup>, Takaichi S, Kuenen JG<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Russian Academy of Sciences , <sup>2)</sup> Kluiver Laboratory of Biotechnology, TU Delft ): Extremely salt-tolerant and alkaliphilic chemolithoautotrophic sulfur-oxidizing bacteria from soda lakes . International Conference on Halophilic Microorganisms ( Sevilla ), 2001 . 9 .
- 5) Masamoto K<sup>1)</sup>, Wada H<sup>2)</sup>, Takaichi S ( <sup>1)</sup> Kumamoto Univ. , <sup>2)</sup> Kyushu Univ. ): Identification of a gene ( *crtH* ) required for *cis*-to-*trans* carotene isomerization in carotenogenesis of the cyanobacterium *Synechocystis* sp. PCC 6803 . 13th International Carotenoid Symposium ( Honolulu ), 2002 . 1 .
- 6) 高市真一, 眞岡孝至<sup>1)</sup>, 山田光則<sup>2)</sup>, 松浦克美<sup>2)</sup>, 花田 智<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都薬科大学 , <sup>2)</sup> 都立大・院 , <sup>3)</sup> 産総研・生物資源 ): クロロソームを欠く緑色繊維状光合成細菌 *Roseiflexus castenholzii* HL08 のカロテノイドと生合成経路 . 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー IX , 2001 . 6 .
- 7) El-Sayed W<sup>1)</sup>, 高市真一, 才田春夫<sup>1)</sup>, Abu-Shady M<sup>1)</sup>, 關 文威<sup>1)</sup>, 桑原朋彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大学・院 ): ハロバクテリア色素の分析法の確立 : ヒドロキシルアミン存在下における色素抽出 . 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー IX , 2001 . 6 .
- 8) 高市真一, Krubasik P<sup>1)</sup>, 眞岡孝至<sup>2)</sup>, 正元和盛<sup>3)</sup>, Sandmann G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> J. W. Goeth Univ. , <sup>2)</sup> 京都薬科大学 , <sup>3)</sup> 熊本大学 ): *Corynebacterium glutamicum* のデカブレノキサンチン配糖体の生合成経路と新規カロテノイドの同定 . 第15回カロテノイド研究談話会 , 2001 . 9 .
- 9) 高市真一, 眞岡孝至<sup>1)</sup>, 山田光則<sup>2)</sup>, 松浦克美<sup>2)</sup>, 花田 智<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都薬科大学 , <sup>2)</sup> 都立大・院 , <sup>3)</sup> 産総研・生物資源 ): クロロソームを欠く緑色繊維状光合成細菌 *Roseiflexus castenholzii* HL08 の色素 : BChl *c* , カロテンの不在とカロテノイド生合成経路 . 日本植物学会第65回大会 , 2001 . 9 .
- 10) 吉井幸恵<sup>1)</sup>, 高市真一, 須田彰一郎<sup>2)</sup>, 井上 薫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大学・院 , <sup>2)</sup> 海洋バイオ研究所 ): 緑色植物プランノ藻類におけるシホナキサンチンシリーズの分布と系統分類学的考察 . 日本植物学会第65回大会 , 2001 . 9 .
- 11) 清和 成<sup>1)</sup>, 河野哲郎<sup>1)</sup>, 森 一博<sup>1)</sup>, 花田 智<sup>2)</sup>, 高市真一 ( <sup>1)</sup> 山梨大学 , <sup>2)</sup> 産総研・生物資源 ): 活性汚泥より単離した non-photosynthetic chloroflexi の特性 . 日本微生物生態学会第17回大会 , 2001 . 11 .
- 12) 西谷里美, 増沢武弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 静岡大・理 ): 北極圏のムカゴトラノオにおける, フェノロジーと葉の特性 . 第24回極域生物シンポジウム , 2001 . 12 .

- 13) 増沢武弘<sup>1)</sup>, 八十島悠貴<sup>1)</sup>, 西谷里美, 神田啓史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>静岡大・理,<sup>2)</sup>国立極地研): カナダ北極域における *Cassiope tetragona* の形態学的研究. 第24回極域生物シンポジウム, 2001. 12.
- 14) 高市真一, 大岡宏造<sup>1)</sup>, Madigan MT<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大阪大学・院,<sup>2)</sup>Southern Illinois Univ. ): 新種ヘリオバクテリア *Heliorestis* 2種のジアポニューロスポレン配糖体脂肪酸エステル. 日本植物生理学会2002年度年会および第42回シンポジウム, 2002. 3.
- 15) 原田二郎<sup>1)</sup>, 高市真一, 永島賢治<sup>1)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 嶋田敬三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立大・院): 紅色光合成細菌におけるカロテノイド分子種による光酸素障害防止機能の相違. 日本植物生理学会2002年度年会および第42回シンポジウム, 2002. 3.
- 16) 正元和盛<sup>1)</sup>, 和田 元<sup>2)</sup>, 金子貴一<sup>3)</sup>, 高市真一(<sup>1)</sup>熊本大学,<sup>2)</sup>九州大学・院,<sup>3)</sup>かずさDNA研究所): ラン藻 *Synechocystis* sp. PCC 6803 の暗中で *all-trans* lycopene 生合成には *cis* carotene 異性化のための遺伝子が必要である. 日本植物生理学会2002年度年会および第42回シンポジウム, 2002. 3.
- 17) 西谷里美, 増沢 武<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡大・理): 北極圏のムカゴトラノオ: フェノロジーに対する温度と栄養塩の効果. 第49回日本生態学会大会, 2002. 3.

### 3. 外国語

#### [ 英 語 ]

##### 研究概要

March, 2001 saw the retirement of Professor Shunji Yamaguchi after ten years as Visiting Professor in the English Department, and it is appropriate here to make grateful acknowledgement of his invaluable contributions to the department over the years.

The 2001 academic year was the third under the new curriculum, and the department's program followed the established pattern of providing basic training in the four major language skills together with seminars in comparative culture, literature, and media English. We also provided a course on British and American Studies for the second-year students.

The department continued to pursue both linguistic and literary research and contributed to several publications in the 2001 academic year. In the linguistic field, the published work focused on English grammar and usage (particularly in relation to adjectives, adverbs, the passive voice, and negative passive constructions) and communicative skills. In the latter area, a contribution was made to a conversational handbook for dermatologists. The department also cooperated in the collection and editing of materials from the American Heart Association's conference in Anaheim (California) in November, 2001.

The department's involvement in research into "Body, Medicine and Culture" continued. This research focused on the description of the female body in eighteenth- and nineteenth-century fiction in Britain, and part of it was made public through an article and a presentation on the novels of Maria Edgeworth.

##### 研究業績

##### 論 文

(1) 原著:

- 1) Minton T: On English Adjectives: Problems Associated with Using Adjectives in the Attributive Position; Classifying vs. Descriptive Adjectives in Relation to the Different Meanings of the Adverb *Quite*. The

Bulletin of Liberal Arts & Sciences, Nippon Medical School 2001 ; (30): 1-7 .

- 2) 中村哲子：ドゥラクール夫人の乳癌を検証する マライア・エッジワースの『ペリンダ』をめぐる。日本医科大学基礎科学紀要 2001 ; (30): 9-18 .

(2) 研究ノート：

- 1) 西川純恵：日英語の否定受動文における主語名詞句についての考察。日本医科大学基礎科学紀要 2001 ; (31): 49-58 .

著 書

- 1) Fellows J gen ed<sup>1)</sup>, Nakamura T (<sup>1)</sup> Cambridge University): [分担編集] Annual Bibliography of English Language and Literature for 2000, Vol. 75, 2001 ; Maney Publishing for the Modern Humanities Research Association, Leeds .
- 2) 山口俊治, Minton T : [共著] 英会話 Make It! 基本表現編, 2001 ; pp1-396, 語学春秋社 .
- 3) 山口俊治, Minton T : [共著] 英会話 Make it! 場面攻略編, 2001 ; pp1-418, 語学春秋社 .
- 4) 中村哲子：[分担] 注釈 . George Orwell, Animal Farm ( 齋藤兆史 < 監修 > , ロン・カーター < 解説 > ), 2001 ; pp97-119, ICGミュージズ出版 .
- 5) Minton T : [自著] ここがおかしい日本人の英文法 II , 2002 ; pp1-259, 研究社 .
- 6) Minton T : [英文翻訳] 皮膚科医のための外来英会話 ( 東京都皮膚科医会編 ), 2002 ; pp1-106, メジカルセンス .

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) Minton T : English as it is taught in Japan : some common misconceptions . 東京私立中学高等学校協会 文系 ( 外国語 ) 教科講演会 , 2001 . 6 .

(2) ワークショップ：

- 1) 中村哲子：育てる者・育てられる者：Maria Edgeworthの*Ennui* ( 1809年 ) を中心に。身体医文化論研究会第2回ワークショップ, 2002 . 3 .

## [ ドイツ語 ]

### 研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く"Kommunikativer Sprachunterricht"が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個別的活動については、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、

安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

## 研究業績

### 著書

- 1) 金森誠也<sup>1)</sup>, 安藤 勉<sup>(1)</sup> 日本大学): [ 翻訳 ] 人間性なき医学 : ナチスと人体実験 (アレキサンダー・ミッチャーリッヒ+フレート・ミールケ 編・解説), 2001 ; ピング・ネット・プレス発行 星雲社発売 .
- 2) 金森誠也<sup>1)</sup>, 安藤 勉<sup>(1)</sup> 日本大学): [ 翻訳および解説 ] A・フィッシャー : 明治日本印象記 : オーストリア人の見た百年前の日本, 2001 ; 講談社 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演 :

- 1) 国信浩洋 : 幕末明治期の来日外国人の見た八王子 : シュリーマン, サトウなど . 日本独学史学会, 2001 . 11 .
- 2) 安藤 勉 : フィッシャー夫妻の新発見資料と田中文弥 : ダーレム美術館所蔵の百済観音像などの模刻について . 日本独学史学会, 2001 . 11 .

## 4 . スポーツ科学

### [ スポーツ科学 ]

#### 研究概要

三上 : 以下の項目についての研究を行った . 1) 「運動と heat shock protein 70 (HSP70)」に関する研究では、運動前の全身の加温により骨格筋HSP70を増加させることが、その後の運動時の筋損傷を有意に抑制することを明らかにした . 2) 他大学の研究者との共同研究より、骨格筋での糖取り込みがキサンチンオキシダーゼ活性の亢進によりもたらされること (佐賀医科大学との共同研究)、運動トレーニングにより骨格筋レドックスタンパク質の発現が増加すること (大阪学院大学との共同研究) を明らかにした . 3) 大学以外の研究機関との共同研究では、牛乳カゼイン由来のペプチドを長時間の持続的運動中のマウスに投与して、運動中の糖質維持および骨格筋分解におよぼす影響について検討した . その結果、ペプチドが運動による筋グリコーゲンの低下に対してデキストリンに匹敵する抑制効果を発揮し、かつ運動時の骨格筋分解を抑制することを明らかにした . (森永乳業株式会社・栄養科学研究所との共同研究)

武藤 : 幼児から高齢者にわたる体格と体力について体育測定評価の面から継続して研究している . 今年度は青少年および高年者を中心に研究を行った . 1) 高校生男子における体格と体力について3年間縦断的に測定調査を行った結果、15年前のデータと比較して体格では差がみられないが、体力では敏捷性、柔軟性、全身持久力に顕著な低下傾向がみられた . 2) 昨年に継続して看護学生の体力、生活習慣および自覚症状愁訴に関する調査結果は、体力は全国平均値に比して顕著に劣り、喫煙習慣がある学生や運動習慣が無い学生、および愁訴が多い学生に体力の劣る傾向がみられ、体力の向上とともに生活習慣の改善の必要性が示唆された . 3) 60歳以上の高年者の体力と運動習慣に関しては、生活体力は年齢が上がるにつれて所要時間が増加し、加齢と体力の顕著な負の関係がみられた . さらに運動習慣は体力に影響することが明らかになった .

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 三上俊夫: ビタミンEの摂取状態が運動トレーニング時の肝臓過酸化脂質に及ぼす影響. 日本未病システム学会誌 2001; 7(1): 118-120.
- 2) 三上俊夫: 低尿酸血症における活性酸素消去機構. 通風と核酸代謝 2001; 25(2): 174-177.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 三上俊夫: 運動時の抗酸化物質としての尿酸の役割. 第122回日本体力医学会関東地方会, 2001. 6.

#### (2) 一般講演:

- 1) 武藤三千代, 白石まりも<sup>1)</sup>, 大内哲彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>二松学舎大学, <sup>2)</sup>日本体育大学): 高校生における体格・体力の縦断的考察. 日本運動・スポーツ科学学会第8回大会, 2001. 6.
- 2) 反町 誠, 三上俊夫, 早澤宏紀<sup>1)</sup>, 篠田一三<sup>1)</sup>, 中村宏彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>森永乳業(株)栄養科学): 持久的運動中のペプチド摂取が運動時の糖質維持および骨格筋分解におよぼす影響. 第69回日本体力医学会総会, 2001. 9.
- 3) 檜垣靖樹<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 小山勝弘<sup>2)</sup>, 清野哲也<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>佐賀医科大学医学部地域保健科, <sup>2)</sup>山梨大学教育人間学部, <sup>3)</sup>木更津高等専門学校): キサンチンオキシダーゼ活性による骨格筋糖取り込み亢進. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
- 4) 角田 聡<sup>1)</sup>, 三上俊夫(<sup>1)</sup>大阪学院大学): 骨格筋レドックス調節タンパク質の発現に及ぼすトレーニングの影響. 第69回日本体力医学会総会, 2001. 9.
- 5) 武藤三千代, 高橋修和<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>(社)老人病研究会): 看護学生における体力と生活習慣および自覚症状愁訴について. 第60回日本公衆衛生学会総会, 2001. 11.
- 6) 武藤三千代: 高年者における生活体力と運動習慣について. 日本体育測定評価学会平成13年度例会, 2001. 12.

## 〔 2 〕 基 礎 医 学

# 1. 解剖学第一講座

## 研究概要

形態と機能の関係を主テーマに、教室構成員による多彩な分野での研究が進められた。

血管内皮細胞の研究では細胞骨格要素と heat shock protein (HSP) の因果関係を in vivo で調べることを始めた。手始めに内皮細胞におけるアクチンストレスファイバーの発達の良い/悪い動脈部位を選び HSP70 分子の発現状況を見た。両者間には正の相関性が認められ、この関係には細胞の形変化が付随していることから、HSP70 の発現、およびストレスファイバーの形成は流れ刺激の影響を強く受けていることを示した(杉本, 羅ら)。

骨格筋の組織構築と機能との関係では、間質結合組織と筋細胞との結合部位を微細構造的に調べた。特に筋腱結合部における核の集積について筋衛星細胞との関連を検討した(後藤ら)。

遺伝子の発現に関する研究では、ニワトリ脊髄の発生に伴って発現が増加する遺伝子に注目し、発現領域と時期を in situ hybridization 法を用いて解析し、cDNA library からのスクリーニングで同定した。この遺伝子については報告があるが、胎児期の脊髄での発現を報告するものは皆無であり、さらに実験を進め、その意義について分析を進めた(今城, 三嶋ら)。

各種組織の立体構築に関しては、連続切片再構築法の基本的な完成とリアルタイムで立体像を観察するソフトとハードの導入によってこの方面の技術的レベルを大幅に向上させることができた。これにより肝臓小葉構造、下垂体前葉細胞分布、腎糸球体旁装置(以上石川, 森, 山下ら)、固有舌筋(三枝, 山下ら)などの三次元的表現により新たな事実を明らかにした。

糖尿病実験動物の膵島の研究では、島の再生における導管系の重要性を指摘した(市川ら)。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Imaki T<sup>1)</sup>, Katsumata H<sup>1)</sup>, Miyata M<sup>2)</sup>, Naruse M<sup>2)</sup>, Imaki J, Minami S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Department of Physiology, Tokyo Women's Medical University ): Expression of corticotropin releasing factor (CRF), urocortin and CRF type 1 receptors in hypothalamic-hypophyseal systems under osmotic stimulation. *J Neuroendocrinol* 2001; 13 (4): 328-338.
- 2) Imaki T<sup>1)</sup>, Katsumata H<sup>1)</sup>, Miyata M<sup>2)</sup>, Naruse M<sup>2)</sup>, Imaki J, Minami S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Department of Physiology, Tokyo Women's Medical University ): Expression of corticotropin-releasing hormone type 1 receptor in paraventricular nucleus after acute stress. *Neuroendocrinology* 2001; 73 (5): 293-301.
- 3) Yoshida K<sup>1)</sup>, Kim J<sup>1)</sup>, Imaki J, Hiromi I<sup>1)</sup>, Nishi S<sup>2)</sup>, Matsuda H<sup>1)</sup>, Harada T<sup>1)</sup>, Harada C<sup>1)</sup>, Ohno S<sup>1)</sup>, Sakai M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry, Hokkaido University School of Medicine ): Proliferation in the posterior region of the lens of c-maf/-mice. *Curr Eye Res* 2001; 23 (2): 116-119.
- 4) Saigusa H<sup>1)</sup>, Niimi S<sup>2)</sup>, Yamashita K, Gotoh T, Kumada M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Otolaryngology, Isesaki Municipal Hospital, <sup>2)</sup> Department of Speech Physiology, Faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>3)</sup> First Department of Physiology, National Defense Medical Collage ): Morphological and histochemical studies of the genioglossus muscle. *Ann Otol Rhinol Laryngol* 2001; 110 (8): 779-784.
- 5) Kawahara H<sup>1)</sup>, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>1)</sup>, Onodera H<sup>1)</sup>, Imaki J, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department Anesthesiolo-



gy): A prostaglandin E2 receptor subtype EP1 receptor antagonist (ONO-8711) reduces hyperalgesia, allodynia, and c-fos gene expression in rats with chronic nerve constriction. *Anesth Analg* 2001; 93(4): 1012-1017.

- 6) Yoshida K<sup>1)</sup>, Nakayama K<sup>1)</sup>, Nagahama H<sup>1)</sup>, Harada T<sup>1)</sup>, Harada C<sup>1)</sup>, Imaki J, Matsuda A<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>1)</sup>, Ito M<sup>1)</sup>, Ohno S<sup>1)</sup>, Nakayama K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine ): Involvement of p27 ( KIP1 ) degradation by Skp2 in the regulation of proliferation in response to wounding of corneal epithelium. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2002; 43(2): 364-370.
- 7) Hamada T<sup>1)</sup>, Ui-Tei K<sup>1)</sup>, Imaki J, Takahashi F<sup>1)</sup>, Onoderah<sup>2)</sup>, Mishima T, Miyata Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology, <sup>2)</sup> Department Anesthesiology ): The expression of SCDGF/PDGF-C/fallotin and SCDGF-B/PDGF-D in the rat central nervous system. *Mech Dev* 2002; 112(1-2): 161-164.

## (2) 総説:

- 1) 土谷 健<sup>1)</sup>, 今城純子 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大第4内科 ): 腎発生における oncogene Maf の役割. *Annual Review 腎臓* 2002; 2002.

## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) Ichikawa Y, Yamashita K: Morphological Observations on the Pancreatic Islets of Spontaneous Diabetic KKAY Mice. *The 15th Japan Association of Animal Diabetes Research (Tokyo)*, 2001. 7.
- 2) Ekataksin W<sup>1,2)</sup>, Asuvapongpatana S<sup>2)</sup>, Kinjo N<sup>3)</sup>, Kaneda K<sup>4)</sup>, Yamashita K, Ohtani O<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy, Division 1, Tokyo Medical and Dental University School of Medicine, <sup>2)</sup> Liver Research Unit Department of Anatomy, Faculty of Science, Mahidol University, Bangkok, Thailand, <sup>3)</sup> Department of Biology, Tokyo Medical and Dental University School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Anatomy Division1, Osaka City University School of Medicine, <sup>5)</sup> Department of Anatomy Division 1, Toyama Medical and Pharmaceutical University School of Medicine ): Honeycomb architecture: The principle of interstitial space division that quantumizes the extravascular migration/movement of cells and fluid. *The Third Asian Pacific International Congress of Anatomists (Hamamatsu)*, 2002. 3.
- 3) 杉本啓治, 山下和雄: 血管内皮細胞における伸展刺激によるストレスファイバー形成とストレス蛋白質発現の相関性. 第106回日本解剖学会全国学術集会, 2001. 4.
- 4) 市川安昭, 石川朋子, 森 美貴, 山下和雄: 自然発症糖尿病 KKAY マウス膵島の形態学的観察. 第106回日本解剖学会全国学術集会, 2001. 4.
- 5) 浜田 剛<sup>1)</sup>, 程久美子<sup>1)</sup>, 高橋史峰<sup>1)</sup>, 今城純子, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 三嶋拓也, 宮田雄平<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 薬理, <sup>2)</sup> 麻酔科 ): 成熟ラットの運動ニューロンで発現する新規細胞増殖因子 SCDGF - B. 第24回日本神経科学第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
- 6) 市川安昭, 山下和雄: 自然発症糖尿病 KKAY マウス膵島の形態学的観察. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 7) 斎藤敏之<sup>1)</sup>, 田沼 久美子<sup>1)</sup>, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 益田律子<sup>3)</sup>, 山下和雄 ( <sup>1)</sup> 解剖学第二, <sup>2)</sup> 帝京大・医学部・解剖学, <sup>3)</sup> 麻酔科 ): 硬膜上腔とクモ膜下腔の構造について. 第89回日本解剖学会関東支部学術集会, 2001. 10.
- 8) 杉本啓治, 藤井幸子, 羅 善順, 武政 徹<sup>1)</sup>, 山下和雄 ( <sup>1)</sup> 筑波大・体育科学系 ): 内皮細胞での伸展刺激によるストレスファイバー形成におけるストレスタンパク質の役割. 第9回日本血管細胞生物学会大会, 2001. 11.
- 9) 浜田 剛<sup>1)</sup>, 程久美子<sup>1)</sup>, 高橋史峰<sup>1)</sup>, 今城純子, 小野寺英貴<sup>2)</sup>, 三嶋拓也, 宮田雄平<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 薬理, <sup>2)</sup> 麻酔科 ): 脊髄由来新規細胞増殖因子ファミリー, SCDGF, の中枢神経系における発現. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.

- 10) 市川安昭, 山下和雄: 自然発症糖尿病 KKAY マウス膵島の形態学的観察. 第8回日本未病システム学会, 2002. 1.
- 11) 市川安昭, 山下和雄: 自然発症糖尿病 KKAY マウス膵臓の膵島内分泌細胞の観察. 第16回日本糖尿病動物研究会, 2002. 2.
- 12) 市川安昭, 山下和雄: 自然発症糖尿病 KKAY マウス膵臓の膵島内分泌細胞の観察. 第107回日本解剖学会全国学術集会, 2002. 3.
- 13) 斎藤敏之<sup>1)</sup>, 田沼久美子<sup>1)</sup>, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 益田律子<sup>3)</sup>, 山下和雄 ( <sup>1)</sup>解剖学第二, <sup>2)</sup>帝京大・医学部・解剖学, <sup>3)</sup>麻酔科 ): クモ膜下腔の膜構造について. 第107回日本解剖学会全国学術集会, 2002. 3.
- 14) 羅 善順, 杉本啓治, 山下和雄: 動脈各部の内皮細胞におけるストレスタンパク質70の発現とストレスファイバー形成の相関性. 第107回日本解剖学会全国学術集会, 2002. 3.

## 2. 解剖学第二講座

### 研究概要

解剖学第二講座の研究は神経解剖学と人体肉眼解剖学の二つの分野からなっている。神経解剖学の分野では、系統発生と進化を土台とした比較神経学を主体としている。研究の基本的なアイデアは、全ての脊椎動物の脳は共通の基本設計に基づいて形成され、各々の種が獲得した生態的地位によって修飾されている、というものである。これまで、種に特有な脳構造をその種のもつ生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在、大脳新皮質の進化の解明、特に無層性皮質の成立証明、二つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般体性感覚）の脳内での関連機構の解明、各種感覚系上行路の系統発生的な解析、脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、視床下部の進化、中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性感覚投射の解析と機能の解明、などに重点を置いている。これらの研究には、通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による線維の解析、HRPやDilを用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行なっている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造（variation）や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行なっている。これらの対象となる範囲は、各部の動脈系と静脈系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、運動器系（筋肉と骨格）、末梢神経系、などである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hirai I<sup>1)</sup>, Murakami G<sup>2)</sup>, Kimura W<sup>1)</sup>, Tanuma K, Ito H ( <sup>1)</sup>1st Department of Surgery Yamagata University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Sapporo Medical University ): Origin of the thoracic duct and pancreaticoduodenal lymphatic pathways to the para-aortic lymph nodes . J. Hepatobiliary Pancreat. Surg. 2001 ; 8 ( 5 ): 441-448 .
- 2) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Yoshimoto M, Yamamoto N, Ito H, Yasuda T<sup>1)</sup>, Tokunaga F<sup>2)</sup>, Iigo M<sup>3)</sup>, Wakamatsu Y<sup>4)</sup>, Ozato K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Science , <sup>2)</sup> Faculty of Science, Osaka University , <sup>3)</sup> Department of Anatomy, St. Marianna University , <sup>4)</sup> Bioscience Center, Nagoya University ): Brain structures of a medaka mutant, *el AieyelessAj*, in which eye vesicles do not evaginate . Brain Behav. Evol. 2001 ; 58 ( 3 ): 173-184 .
- 3) Xue H-G, Yamamoto N, Yoshimoto M, Yang C-Y, Ito H : Fiber connections of the nucleus isthmi in the carp ( *Cyprinus carpio* ) and tilapia ( *Oreochromis niloticus* ) . Brain Behav. Evol. 2001 ; 58 ( 4 ): 185-204 .
- 4) Saito T, Tanuma K, Tanuma Y<sup>1)</sup>, Futami C, Shichinohe K, Shimizu M, Mitsuru S, Shafland J<sup>2)</sup>, Wang B C<sup>2)</sup>, Carlsson C<sup>3)</sup>, Carney E ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy, Teikyo University School of Medicine , <sup>2)</sup> New York University , <sup>3)</sup> University of Malmo ): Appendectomy in Rabbit with Extended Unilateral Anesthesia . Experimental Animals 2002 ; 51 ( 1 ): 63-68 .

##### (2) 綜説：

- 1) 伊藤博信：魚類の視神経交叉．脳21（特集：視神経交叉を考える） 2002；5（1）：9-13．

## 著 書

- 1) 齋藤敏之, 田沼久美子, 田 秀蘭<sup>1)</sup>, 田沼 裕<sup>2)</sup>, 宮川国久<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 国立がんセンター中央病院麻酔科, <sup>2)</sup> 東京大・医学部解剖学, <sup>3)</sup> 国立がんセンター中央病院放射線中央診断部): [共著] 図解 硬膜外腔穿刺: 硬膜外麻酔・鎮痛治療を効率よく行うために. 図解 硬膜外腔穿刺(硬膜外麻酔・鎮痛治療を効率よく行うために), 2001; pp1-146, 真興交易(株) 医書出版部, 東京.
- 2) 伊藤博信: [翻訳] マーチン神経解剖学: 解説と図譜. マーチン神経解剖学(嶋井和世・出浦滋之 監訳), 2002; pp1-476, 広川書店, 東京.
- 3) 植松一真<sup>1)</sup>, 岡 良隆<sup>2)</sup>, 伊藤博信(<sup>1)</sup> 広島大・生物生産学部, <sup>2)</sup> 東京大・理学系研究科): [編集] 魚類のニューロサイエンス: 魚類神経科学の最前線. 魚類のニューロサイエンス: 魚類神経科学の最前線(植松一真・岡 良隆・伊藤博信), 2002; pp1-311, 恒星社厚生閣, 東京.
- 4) 伊藤博信: [分担] 魚類の脳研究の歴史と展望. 魚類のニューロサイエンス: 魚類神経科学の最前線(植松一真・岡 良隆・伊藤博信), 2002; pp1-8, 恒星社厚生閣, 東京.
- 5) 山本直之, 伊藤博信: [分担] 硬骨魚類の視覚神経路. 魚類のニューロサイエンス: 魚類神経科学研究の最前線(植松一真・岡 良隆・伊藤博信), 2002; pp122-136, 恒星社厚生閣, 東京.
- 6) 吉本正美, 伊藤博信: [分担] 終脳(端脳)の構造と機能. 魚類のニューロサイエンス: 魚類神経科学研究の最前線(植松一真・岡 良隆・伊藤博信), 2002; pp178-195, 恒星社厚生閣, 東京.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) Yamamoto N, Ito H, Oka Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Tokyo): Glutamate may be a co-transmitter of terminal nerve GnRH neurons. 2nd International Symposium on the Comparative Biology of GnRH Neurons (Penang, Malaysia. ), 2001. 6.
- 2) 川崎重克<sup>1)</sup>, 飯郷雅之<sup>2)</sup>, 山本直之, 伊藤博信, 西源二郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東海大・海洋, <sup>2)</sup> 聖マリアンナ医大・解剖): ホンベラとゴンズイの脳内メラトニン受容体. 第5回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2001. 8.
- 3) 石川裕二, 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信, 保田隆子<sup>1)</sup>, 徳永史生<sup>2)</sup>, 飯郷雅之<sup>3)</sup>, 若松祐子<sup>4)</sup>, 尾里健二郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 独立行政法人放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup> 大阪大・理学部, <sup>3)</sup> 聖マリアンナ医大・解剖, <sup>4)</sup> 名古屋大・生物応答センター): ダカ(メなしメダカ)の脳について. 第5回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2001. 8.
- 4) 山本直之, 伊藤博信, 岡 良隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京大・理学系研究科): 終神経のGnRHペプチドニューロンがグルタミン酸をco-transmitterとして持つ可能性について. 第5回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2001. 8.
- 5) 筒井秀和<sup>1,2)</sup>, 山本直之, Wolf A M<sup>2)</sup>, Knpfel T<sup>2)</sup>, 伊藤博信, 岡 良隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京大・理学系研究科, <sup>2)</sup> 理化学研究所): 糸球体核構成細胞の生理学. 第5回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2001. 8.
- 6) 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類の延髄の一次一般臓性領域と上位中枢との線維連絡. 第5回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2001. 8.
- 7) 楊 春英, 吉本正美, Xue Hao-G, 山本直之, 井村幸介, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアの小脳弁外側核は終脳-小脳路の中継核である. 第5回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2001. 8.
- 8) 井村幸介, 山本直之, 澤井信彦, 吉本正美, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピア(*Oreochromis niloticus*)の終脳-小脳路. 第5回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」, 2001. 8.
- 9) 齋藤敏之: 胸部硬膜外腔穿刺のコツ. 第8回硬膜外麻酔研究会, 2002. 2.

### (2) 一般講演:

- 1) Saito T, Den S<sup>1)</sup>, Tanuma K, Tanuma Y<sup>2)</sup>, Carlsson C<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> National Cancer Center Hospital, Department of Anesthesiology, <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Teikyo University School of Medicine, <sup>3)</sup> University of Malmo,

- Department of Anesthesiology, Sweden): Use of single injection multi-segmental lower thoracic paravertebral block for pain control after herniorrhaphy. European Society of Regional Anaesthesia( Warsaw, Poland ), 2001. 9.
- 2) 石川裕二<sup>1)</sup>, 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信<sup>(1)</sup>独立行政法人放射線医学総合研究所): 遺伝性奇形, 眼なしメダカ (*el*) の脳の構造. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 3) 井村幸介, 山本直之, 澤井信彦, 吉本正美, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアの中継核を介した終脳 小脳路. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 4) 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信: スズキ型硬骨魚類での腹部内臓感覚情報の伝達経路. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 5) 山本直之, 澤井信彦, 吉本正美, 伊藤博信: コイ科魚類の前系球体核前部の線維連絡. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 6) Xue H-G, 山本直之, 吉本正美, 楊 春英, 伊藤博信: 硬骨魚類コイの峽核の線維連絡. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 7) 澤井信彦, 井村幸介, 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類の終脳背側中心部は, 背側部と腹側部に分けられる. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 8) 齋藤敏之, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>1)</sup>, 二見長一郎<sup>(1)</sup>帝京大・医・解剖): 硬膜上腔穿刺(傍正中法)において患者に突然の背部痛を与える神経の検索. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 9) 田沼久美子, 田沼 裕<sup>1)</sup>, 齋藤敏之, 二見長一郎, 益田律子<sup>2)</sup>, 神田尚俊<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大・医・解剖, <sup>2)</sup>附属北総病院・麻酔科, <sup>3)</sup>農工大・農・家畜解剖): 全内臓逆位症例の臨床所見とその家族の染色体について. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 10) 浅川光夫: 本邦胎児腎臓の形態学的研究: II. 皮髄質比について. 第106回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2001. 4.
  - 11) 揖斐孝之<sup>1)</sup>, 稲毛道憲<sup>1)</sup>, 浅川光夫<sup>(1)</sup>本学4年生): 本邦成人における重複下大静脈の1例. 第69回日本医科大学医学部総会, 2001. 9.
  - 12) Xue H-G, 山本直之, 吉本正美, 楊 春英, Kerem G, 伊藤博信: 硬骨魚類のコイとテラピアにおける峽核の線維連絡. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
  - 13) 井村幸介, 山本直之, 澤井信彦, 吉本正美, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアの後交連傍核の線維連絡: 終脳小脳路と軸索側副枝の投射. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
  - 14) 澤井信彦, 井村幸介, 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類の終脳: テラピアにおいて発達している背側野中心部. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
  - 15) 山本直之, 伊藤博信, 岡 良隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大・理学系研究科): グルタミン酸が終神経 GnRH細胞の co-transmitterである可能性について. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
  - 16) 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信: スズキ型魚類テラピアの延髄一次一般臓性領域と上位中枢との線維連絡. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
  - 17) 楊 春英, 吉本正美, Xue H-G, 山本直之, 井村幸介, 伊藤博信: スズキ型硬骨魚類テラピアの小脳弁外側核の線維連絡. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
  - 18) 齋藤敏之, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 山下和雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大・医・解剖, <sup>2)</sup>千葉北総病院・麻酔科, <sup>3)</sup>解剖学第一): 脊柱管内の構造について. 第89回日本解剖学会関東地方会, 2001. 10.
  - 19) Kerem G, 吉本正美, 楊 春英, Xue H-G, 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピア *Oreochromis ÂiTilapiaÂj niloticus* の三叉神経節内における神経節細胞の体部位局在性. 第12回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 2001. 11.
  - 20) 益田律子<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 齋藤敏之, 横山和子<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院・麻酔科, <sup>2)</sup>多摩永山病院・麻

酔科): 硬膜上腔とクモ膜下腔の解剖学的構造について. 第14回日本局所麻酔学会, 2001. 11.

21) 石崎摩美<sup>1)</sup>, 飯郷雅之<sup>2)</sup>, 山本直之, 岡 良隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大・理学系研究科, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医大): ドワーフ  
グーラミー GnRH 神経系からの GnRH ペプチド分泌活動の解析. 第26回日本比較内分泌学会, 2001. 12.

22) 山本直之, 伊藤博信: コイ科魚類半円堤の線維連絡. 第107回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2002. 3.

23) Xue H-G, 山本直之, 楊 春英, Kerem G, 吉本正美, 伊藤博信: 硬骨魚類イトウダイにおける視蓋と縦走  
堤の線維連絡. 第107回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2002. 3.

24) 齋藤敏之, 田沼久美子, 田沼 裕<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>2)</sup>, 山下和雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大・医・解剖, <sup>2)</sup>千葉北総病院・麻酔  
科, <sup>3)</sup>解剖学第一): クモ膜下腔の膜構造について. 第107回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2002. 3.

(3) 受賞講演:

1) 山本直之: ゴナドトロピン放出ホルモン (GnRH) 細胞群の形態と機能の多様性 (平成13年度日本解剖学会奨  
励賞受賞者講演). 第107回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2002. 3.

### 3. 生理学第一講座

#### 研究概要

本年度も生殖生理学を中心とする神経内分泌学を課題として、思春期の発動機序や思春期の問題行動など情動の中枢機序の研究を進めた。キーワードにはGnRH, エストロゲン, 受容体, 性差, 転写調節, 生殖行動, イオンチャンネル, トランスジェニックなどがある。学部教育では実習を充実させ、基礎配属では意欲ある学生の参加を得て成果もあがっている。昨年発足した博士研究員には引き続き2名を採用し、研究が進んだ。科学研究費については基盤研究(C), 萌芽の研究, 奨励研究(A)各1件の継続課題に加え、10件の新規申請を行って基盤研究(C)の2件が採択された。大学院重点特別経費研究科分の「エストロゲン受容体陽性ニューロンによる脳機能の調節」、日本学術振興会日米科学協力事業「脳研究」分野(代表, 佐々木和夫)「性成熟と情動行動の調節にGnRHが果たす役割」は第2年度となった。6月にはマレーシアのパナン島で「GnRH分子と受容体の多様性」と題する国際比較内分泌学会のサテライトシンポジウムを主催し、院生、学部学生を招待し成果を発表してもらった。このシンポジウムのプロシーディングは*Prog Brain Res*の一卷として公刊される。日米科学協力事業では博士研究員1名を共同研究先のロックフェラー大学に派遣した。また、共同研究の一つの成果として、*Proc Natl Acad Sci USA*にエストロゲン受容体ベータの脳内発現に見られる性差を報告した。その他引き続き進行しているプロジェクトには国立岡崎研究機構生理学研究所計画共同研究「個体レベルの遺伝子操作を用いた生理学的研究」などがある。今年度は上述のシンポジウムの手配やプロシーディングの編集に時間をとられたこと、またいくつかの新規研究計画がスタートしたことから、論文発表の数がいささか少なくなったが、年度末時点で受理されている原著がすでに3編あり、新たな知見も得られていることから明年度は従来以上の成果を報告できると考える。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Cheon KW<sup>1)</sup>, Lee HS<sup>1)</sup>, Parhar IS, Kang IS<sup>2,3)</sup> ( <sup>1)</sup>Laboratory of Reproductive Biology and Infertility, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Samsung Cheil Hospital and Women's Healthcare Center, Sungkyunkwan University School of Medicine, <sup>3)</sup> Division of Reproductive Endocrinology and Infertility, Department of Obstetrics and Gynecology, Samsung Cheil Hospital, Sungkyunkwan University School of Medicine ): Expression of the second isoform of gonadotrophin-releasing hormone ( GnRH-II ) in human endometrium throughout the menstrual cycle . *Molecular Human Reproduction* 2001 ; 7 ( 5 ): 447-452 .
- 2) Parhar IS, Tosaki H<sup>1)</sup>, Sakuma Y, Kobayashi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Aquatic Bioscience, Graduate School of Agricultural and Life Science, University of Tokyo ): Sex differences in the brain of goldfish : Gonadotropin-releasing hormone and vasotocineric neurons . *Neuroscience* 2001 ; 104 ( 4 ): 1099-1110 .
- 3) Miura T<sup>1)</sup>, Kondo Y, Akimoto M<sup>1)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Department of Urology ): Electromyography of male rat perineal musculature during copulatory behavior . *Urologia Internationalis* 2001 ; 67 ( 3 ): 240-245 .
- 4) Sudo T, Sakuma Y, Kato M : Bradykinin and angiotensin II-induced[Ca<sup>2+</sup>]<sub>i</sub> rise in cultured rat pituitary folliculo-stellate cells . *Journal of Neuroendocrinology* 2001 ; 13 ( 11 ): 942-950 .
- 5) Oriyasa C, Kondo Y, Hayashi S<sup>1)</sup>, McEwen BS<sup>2)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Laboratory of Endocrinology, Graduate School of Integrated Science, Yokohama City University, <sup>2)</sup> Laboratory of Neuroendocrinology, The Rockefeller University ): Sexually dimorphic expression of estrogen receptor in the anteroventral periventricular nucleus of the rat preoptic area : Implication in luteinizing hormone surge . *Proceedings of the National*

Academy of Sciences of the United States of America 2002 ; 99 ( 5 ) : 3306-3311 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 佐久間康夫 : 性の起源 . 臨床精神医学 2001 ; 30 ( 7 ) : 691-695 .
- 2) 佐久間康夫 : 肥満と生殖 . 肥満研究 2001 ; 7 ( 2 ) : 93-97 .
- 3) 折笠千登世 , 佐久間康夫 : 視床下部エストロゲン受容体と生殖機能 . クリニカルニューロサイエンス 2001 ; 19 ( 10 ) : 1125-1128 .

著 書

- 1) Sakuma Y : [ 共著 ] Different subsets of preoptic neurons for proceptive and receptive components of female rat sexual behavior . Neuroplasticity, Development, and Steroid Hormone Action ( RJ Handa, S Hayashi, E Terasawa, M Kawata ), 2002 ; pp243-256 , CRC Press .

学会発表

( 1 ) 招待講演 :

- 1) Parhar IS : Multiple embryonic origins and differential regulation of GnRH molecular forms . Second International Symposium on the Comparative Biology of GnRH : Molecular Forms and Receptors ( Penang, Malaysia ), 2001 . 6 .
- 2) Sakuma Y : The role of midbrain GnRH in the regulation of female rat sexual behavior . Second International Symposium on the Comparative Biology of GnRH : Molecular Forms and Receptors ( Penang, Malaysia ), 2001 . 6 .
- 3) Soga T, Tamano K, Kawai T, Sakuma Y, Parhar IS : Social status controls terminal nerve GnRH isoforms . Second International Symposium on the Comparative Biology of GnRH : Molecular Forms and Receptors ( Penang, Malaysia ), 2001 . 6 .
- 4) 佐久間康夫 : 生殖機能と心理的・身体的ストレス . 日本下垂体研究会第16回学術集会 , 2001 . 8 .
- 5) 佐久間康夫 : 雄テラピア群内の社会的地位と終神経GnRH免疫活性 . 第4回GnRHフォーラム , 2002 . 1 .

( 2 ) 一般講演 :

- 1) Orikasa C, Hayashi S<sup>1)</sup>, McEwen BS<sup>2)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup>Laboratory of Endocrinology, Graduate School of Integrated Science, Yokohama City University , <sup>2)</sup>Laboratory of Neuroendocrinology, The Rockefeller University ): Sex difference in ER expression in the anteroventral periventricular nucleus of the rat preoptic area . Society for Behavioral Neuroendocrinology Annual Meeting ( Phenix, AZ, USA ), 2001 . 7 .
- 2) Kato M, Sudo T, Sakuma Y : Petidergic regulation of intracellular calcium concentration of rat pituitary folliculo-stellate cells in primary culture . XXXIV International Congress of Physiological Sciences ( Christ Church, New Zealand ), 2001 . 8 .
- 3) Kondo Y, Sakuma Y : The medial amygdala controls a coitalpace of female rats via emotional response . The 31st Annual Meeting Society for Neuroscience ( SanDiego, CA, USA ), 2001 . 11 .
- 4) Kiyama R<sup>1)</sup>, Onishi Y<sup>1)</sup>, Kiyama Y ( <sup>1)</sup>National Institute of Bioscience and Human-Technology ): Functional nucleosomal phases over HS2 of the human beta-LCR1 . The 2001 Annual Meeting of the American Society of Hematology ( Orlando, FL, USA ), 2001 . 12 .
- 5) 須藤隆彦 , 佐久間康夫 , 加藤昌克 : ペプチドによるラット下垂体濾胞星状細胞の細胞内カルシウム濃度の調節 . 第74回日本内分泌学会 , 2001 . 6 .
- 6) 金石圭祐 , 佐久間康夫 , 加藤昌克 : GnRHニューロン株細胞 ( GT1細胞 ) はフォルスコリンに反応して細胞内ナトリウムイオンとカルシウムイオンの濃度を上昇する . 第74回日本内分泌学会 , 2001 . 6 .



- 7) 近藤保彦, 佐久間康夫: 雌ラット扁桃体内側核による情動反応と交尾ペースの調節. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
- 8) 大西裕子, 近藤保彦, 佐久間康夫: 雌ラットにおける雄型性行動の誘発: 視床下部腹内側核後部切断の効果. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
- 9) 折笠千登世, 近藤保彦, 林しん治<sup>1)</sup>, 佐久間康夫<sup>(1)</sup> 横浜市立大学・総合理学研究科): ラット前脳視索前野脳室周囲核に性特異的に発現するエストロゲン受容体 陽性ニューロン. 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会, 2001. 9.
- 10) 近藤保彦, 佐久間康夫: 雌ラット扁桃体内側核は情動反応を介して交尾ペースを調節する. 第61回日本動物心理学会, 2001. 9.
- 11) 上坂伸宏, 小山哲司<sup>1)</sup>, 河辺京子<sup>1)</sup>, 森下登史<sup>1)</sup>, 賀羽常道<sup>1)</sup>, 塩 栄夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 司測研, <sup>2)</sup> 守山市民病院): 赤血球変形能測定の意義と新しい変形能測定装置の完成. 第49回レオロジー討論会, 2001. 10.
- 12) 魯 禎妍, 李 曉曼, 木山裕子, 佐久間康夫, 木山亮一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 産業技術総合研究所・分子細胞工学): ヒト・エストロゲン受容体 遺伝子転写制御におけるDNA折れ曲がりの意義. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 13) 金石圭祐, 佐久間康夫, 加藤昌克: GT1細胞におけるcAMPの作用機序. 第29回自律神経生理研究会, 2001. 12.
- 14) 岡本和彦<sup>1)</sup>, 丸山 徹<sup>1)</sup>, 馬渡志郎<sup>2)</sup>, 藤野武彦<sup>1)</sup>, 上坂伸宏 (<sup>1)</sup>九州大学大学院医学研究院・病態修復内科学, <sup>2)</sup>福岡女子大学・人間環境学部): 酸化ストレスが赤血球変形能に及ぼす影響. 第79回日本生理学会大会, 2002. 3.
- 15) 木山裕子, 魯 禎妍, 佐久間康夫: ヒト・エストロゲン受容体 遺伝子転写制御におけるDNA折れ曲がり構造の意義. 第79回日本生理学会大会, 2002. 3.
- 16) 折笠千登世, 佐久間康夫: ラット視索前野脳室周囲核に出現するエストロゲン受容体 陽性ニューロン. 第79回日本生理学会大会, 2002. 3.
- 17) 渡部美穂, 加藤昌克, 佐久間康夫: GnRHニューロン株細胞(GT1-7細胞)に発現する電位依存性カルシウムチャネルの電気生理学的解析. 第79回日本生理学会大会, 2002. 3.
- 18) 肖 凱, 近藤保彦, 佐久間康夫: 外側中隔野および内側視索前野による雌ラット性的動機づけの調節. 第79回日本生理学会大会, 2002. 3.

## 4. 生理学第二講座

### 研究概要

今年度に当教室で発表された原著論文の内容は、喫煙者の体重が禁煙後に増加する機序をラットを用いて解析したものと、ヒト下垂体腺腫におけるグレリンの発現を解析したものである。その結果、14日間のニコチン持続投与は摂食量と体重を減少させたにもかかわらず、pair-fedラットに比較し有意に血中レプチン濃度と大網、後腹膜等のレプチンの発現を増し、さらに褐色脂肪細胞でのUCP1の発現を増した。これらの結果はニコチンがエネルギー摂取の抑制のみならず、エネルギー消費を促進していることを示唆するものであり、喫煙中止後の体重増加機序の一部を説明しうる結果であったと考えられる。後者の研究では、種々下垂体腺腫でグレリンが発現し、成長ホルモン産生腺腫では腺腫の大きさと負の相関があることが明らかになり、腺腫の発育にグレリンが何らかの役割を担っていることが推測された。

今年度に発表された当教室での原著論文数は少なかったが、これは投稿後、editorとの間で往復している論文が多かったためである。来年度にはそれらの原著論文が発表されることが期待できる。教室では現在、新たに発見されたCRFファミリーペプチドの発現調節や作用に関する研究、GHS受容体の発現を抑制したトランスジェニックラットを用いてのGHS受容体の機能の解明等の研究が進行中である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kim K, Arai K, Sanno N<sup>1)</sup>, Osamura Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Shibasaki T ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University ): Ghrelin and growth hormone ( GH ) secretagogue receptor ( GHSR ) mRNA expression in human pituitary adenomas . Clin Endocrinol 2001 ; 54 : 759-768 .
- 2) Arai K, Kim K, Kaneko K, Iketani M, Otagiri A, Yamauchi N, Shibasaki T : Nicotine infusion alters leptin and uncoupling protein 1 mRNA expression in adipose tissues of rats . Am J Physiol Endocrinol Metab 2001 ; 280 : E867-E876 .

##### (2) 綜説：

- 1) Arai K, Shibasaki T, Chrousos G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Pediatric and Reproductive Endocrinology Branch, National Institute of Child Health and Human Development, National Institutes of Health, Bethesda, Maryland ): Pseudohypoadosteronism : sporadic and familial mineralocorticoid resistance . Hormone Resistance and Hypersensitivity States 2002 ; 389-397 .
- 2) 新井桂子, 芝崎 保 : 神経系の機能に対するエストロゲンの作用 . 内分泌・糖尿病科 2001 ; 13 ( 4 ) : 337-342 .
- 3) 丸 栄一 : 学習とてんかん発作に伴う神経可塑性 : Long-term potentiation ( LTP ) と kindling-induced potentiation ( KIP ) . 精神神経学雑誌 2001 ; 103 ( 10 ) : 866-881 .
- 4) 新井桂子, 芝崎 保 : ミネラルコルチコイド受容体異常に起因する疾患 . 日本臨床 2002 ; 60 ( 2 ) : 361-366 .
- 5) 周東祐仁<sup>1)</sup>, 芝崎 保 ( <sup>1)</sup> 内科学第三 ) : 肥満女性の健康管理 . 産科と婦人科 2002 ; 69 ( 2 ) : 197-201 .

##### (3) 研究報告書：

- 1) 芝崎 保, 新井桂子 : ニコチンによる食欲抑制機序に関する解析 . 平成12年度喫煙科学研究財団研究年報 2001 ; pp581-586 .

- 2) 新井桂子, 芝崎 保: グレリンのエネルギー調節機構における役割. 財団法人成長科学協会研究年報 2001 ; (24): pp119-123 .
- 3) 芝崎 保, 堀田眞理<sup>1)</sup>, 高野和寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学第二内科): 神経性食欲不振症患者における血清エストラジオール (E2) 値と骨代謝マーカーの関係. 厚生労働省特定疾患対策研究事業中枢性摂食異常症に関する調査研究平成12年度研究報告書 2001 ; pp44-48 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム:

- 1) 芝崎 保, 小田切あすか, 大畠久幸, Samarghandian S, 曾我朋子: CRFファミリーペプチドのストレス反応における役割 (ストレス研究の新たな展開). 第75回日本薬理学会年会, 2002 . 3 .

##### (2) 一般講演:

- 1) Arai K, Soga T, Ohata H, Iketani M, Otagiri A, Shibasaki T : Food restriction alters the size of adipocytes, PPAR- 2 and GR messenger ribonucleic acid expression in white adipose tissue of normal rats . The Endocrine Society's 83rd Annual Meeting ( Denver, USA ), 2001 . 6 .
- 2) Soga T, Tamano K, Kawai T, Sakuma Y, Parhar I : Social status controls terminal nerve GnRH isoform . 2nd International symposium on the comparative biology of GnRH ; Molecular forms and receptors ( Malaysia ), 2001 . 6 .
- 3) 新井桂子, 曾我朋子, 大畠久幸, 小田切あすか, 芝崎 保: 食餌制限によるラット脂肪組織の形態とPPAR-およびグルココルチコイド受容体の発現動態の変化. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001 . 6 .
- 4) 新井桂子, 中込美子<sup>1)</sup>, 雨宮 伸<sup>1)</sup>, 大山 健<sup>1)</sup>, 中澤眞平<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>山梨医科大学小児科): ミネラルコルチコイド受容体遺伝子のコザックシークエンス部位に点変異を認めた偽性低アルドステロン症の本邦孤発例. 第35回小児内分泌学会, 2001 . 10 .
- 5) 山内直子, 小田切あすか, 周東祐仁<sup>1)</sup>, 金 景成, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>内科学第三): 成長ホルモン分泌刺激物質受容体 (GHS-R) とその内因性リガンドであるグレリンの体内分布についての検討. 第74回日本内分泌学会学術大会, 2001 . 6 .
- 6) 小田切あすか, 芝崎 保: 条件性恐怖ストレスによる行動変化及び血中ホルモン動態に対するニューロステロイドの効果. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001 . 6 .
- 7) 曾我朋子, 芝崎 保: 絶食ラットにおける脳内NPYおよびCRH ニューロンの形態学的検討. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001 . 6 .
- 8) 金 景成, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 新井桂子, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>脳神経外科学): 各種下垂体腺腫におけるghrelin 遺伝子発現の検討. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001 . 6 .
- 9) 原田嘉夫: 外液塩素イオン除去により出現する幼若脊髄運動ニューロンの同期した興奮. 第24回日本神経科学, 第44回日本神経化学合同大会, 2001 . 9 .
- 10) 金 景成, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 新井桂子, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>脳神経外科学): GH産生腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討 The expression of TRH receptor mRNA in GH-producing pituitary adenoma . 第2回日本分子脳神経外科学会, 2001 . 9 .
- 11) 小田切あすか, 周東祐仁<sup>1)</sup>, 山内直子, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>内科学第三): Growth hormone secretagogue (GHS) 受容体アンチセンス発現トランスジェニックラットへのKP-102投与による視床下部でのFos発現について. 第28回日本神経内分泌学会, 2001 . 10 .
- 12) 大畠久幸, 芝崎 保: Urocortin IIとCorticotropin releasing factorの脳室内投与による摂食量および活動量の変化. 第28回日本神経内分泌学会, 2001 . 10 .
- 13) 金 景成, 新井桂子, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>脳神経外科学): 各種下垂体腺腫における

ghrelin及びGHSR遺伝子発現に関する検討 The expression of ghrelin and GHSR mRNA in pituitary adenomas . 第60回日本脳神経外科学会総会 , 2001 . 10 .

14) 酒井直之, 金 景成<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保 ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): GH産生腺腫におけるGHRHR遺伝子発現及び調節に関する検討 . 第60回日本脳神経外科学会総会 , 2001 . 10 .

15) 大畠久幸, 小田切あすか, 池谷光江, 稲田詩乃, 芝崎 保 : Urocortin ( Ucn ) II , Ucn III , CRF の脳室内投与による運動活動量への影響の比較 . 第13回CRH・ACTH研究会 , 2002 . 3 .

## 5. 生化学第一講座

### 研究概要

本教室では活性酸素種など近年情報伝達や病態などに広くかかわっている分子の生成と制御機能を中心として、タンパク質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因など幅広い問題に取り組んでいる。それらに關与するのは主に金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質である。それらの蛋白質について分子生物学的手法、分光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1) 低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に關与し、数々の疾患の原因ともなっている。スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素(脱水素酵素)についてはX線結晶解析による三次元構造の解析結果を基に、パキユロウイルス/昆虫細胞系による発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行っている。X線結晶解析では現在1.6 Åの構造をえているが、さらに高分解能および種々の阻害剤との複合体の解析を行っている。またタンパク質の補欠分子族の形成とその以上について分子生物学的方法を用いて取り組んでいる。

2) 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質と予想されるHBP23に關して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その変異体の作成とその性質の検討をおこなった。また、その蛋白質の結晶を得て、立体構造の解明を行ったが、引き続き変異体の構造とヘム結合の様式につき研究も行っている。

3) 上記以外の金属を有するタンパク質の分光学的研究とともに、さらにプロテオミックス法と結びつけ、新しい金属タンパク質の網羅的検索を行っている。大腸菌における亜鉛タンパク質の探索に続き、現在鉄タンパク質の探索をヒト培養細胞を用いて行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Coper NJ<sup>1)</sup>, Scott RA<sup>1)</sup>, Hori H<sup>2)</sup>, Nishino T, Iwasaki T ( <sup>1)</sup> University of Georgia , <sup>2)</sup> Ehime University ): X-ray absorption spectroscopic analysis of the high-spin ferriheme site in substrate-bound neuronal nitric-oxide synthase . J Biochem 2001 ; 130 ( 2 ): 191-198 .
- 2) Ichida K<sup>1)</sup>, Matsumura T, Sakuma R<sup>2)</sup>, Hosoya T<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup> Department of Internal medicine, Jikei University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department Clinical Chemistry Toranomon Hospital ): Mutation of human molybdenum cofactor sulfurase gene is responsible for classical xanthinuria type II . Biochem. Biophys. Res. Commun 2001 ; 282 : 1194-1200 .
- 3) Nishino T, Okamoto K, Pai E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Biochem. Univ. Toronto ): High-Resolution Structure of Bovine Milk Xanthine Oxidoreductase and Inhibitor Complexes . SPring-8 Research Frontiers 2001 ; 11-13 .
- 4) Suzuki T<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Uzawa T<sup>2)</sup>, Hara K<sup>3)</sup>, Nemoto N<sup>3)</sup>, Kon T<sup>1)</sup>, Ueki T<sup>1)</sup>, Yamagishi A<sup>3)</sup>, Oshima T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Institute of Technology , <sup>2)</sup> Osaka Kyoiku University , <sup>3)</sup> Tokyo University of Pharmacy and Life Science ): *Sulfolobus tokodaii sp. nov.* ( f. *Sulfolobus sp.* strain 7 ), a new member of the genus *Sulfolobus* isolated from Beppu Hot Springs, Japan . Extremophiles 2002 ; 6 : 39-44 .
- 5) Samoilova T<sup>1)</sup>, Kolling D<sup>2)</sup>, Uzawa T<sup>3)</sup>, Iwasaki T, Crofts AR<sup>2)</sup>, Dikanov SA<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> Russian Academy of Science , <sup>2)</sup> University of Illinois , <sup>3)</sup> Osaka Kyoiku University ): The interaction of the Rieske Iron-sulfur pro-

tein with occupants of the Qo-site of the *bc<sub>1</sub>* complex, probed by electron spin echo envelope modulation . J. Biol. Chem 2002 ; 277 : 4605-4608 .

- 6) Yoshimatsu K<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Fujiwara T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Shizuoka University): Sequence and electron paramagnetic resonance analyses of nitrate reductase NarGH from a denitrifying halophilic euryarchaeote *Haloarcula marismortui* . FEBS Lett 2002 ; 516 : 145-150 .
  - 7) Nishino T : Crystal structures of bovine milk xanthine dehydrogenase and mechanism of conversion from the dehydrogenase to the oxidase . Indian J. Chem 2002 ; 41 : 78-79 .
  - 8) Igarashi I<sup>1)</sup>, Momohara I<sup>1)</sup>, Nishino T, Samejima M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Tokyo): Kinetics of inter-domain electron transfer in flavocytochrome cellobiose dehydrogenase from the white-rot fungus *Phanerochaete chrysosporium* . Biochem. J 2002 ; 365 : 521-526 .
  - 9) Katayama A, Tsujii A, Wada A<sup>1)</sup>, Nishino T, Ishihama A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Osaka Medical School , <sup>2)</sup> National Institute of Genetics): Systematic search for zinc-binding proteins in *Escherichia coli* . Europ. J. Biochem 2002 ; 269 : 2403-2413 .
- (2) 欧文紀要 :
- 1) Iwasaki T, Kounosu A, Dikanov SA<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Illinois): The [2Fe-2S] cluster in sulredoxin from the thermoacidophilic archaeon *Sulfolobus sp. strain 7*, a novel water-soluble Rieske protein . In The proceedings of Third Asia-Pacific EPR/ESR Symposium APES '01. ( Kawamori, A. , ed. ) 2001 ; in press .

## 著 書

- 1) Nishino T, Pai E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Toronto): [ 共著 ] The molybdenum-containing xanthine and picolic acid dehydrogenase . In Metal Ions in Biological Systems ( Eds. A. Siegel and H. Sigel ), 2002 ; pp431-454 , Marcel Dekker, Inc .

## 学会発表

- (1) 招待講演 :
- 1) 西野武士 : Xanthine Oxidase/Dehydrogenase . Gordon Research Conferences ( Queen's College, Oxford ), 2001 . 7 .
  - 2) 西野武士 : Extremely potent Inhibitors of xanthine oxidoreductase : mechanism of inhibition and crystal structure of the enzyme-inhibitor complex . アジア学術セミナー ( 名古屋 ), 2001 . 11 .
- (2) シンポジウム :
- 1) 岩崎俊雄 : NO合成酵素の構造と機能 . 日本NO学会第1回講演会ランチオンセミナー , 2001 . 5 .
  - 2) 松村智裕 : 硫黄化酵素の遺伝子異常によるキサンチン脱水素酵素およびアルデヒド酸化酵素活性の二重欠損 . 第74回日本生化学会大会 , 2001 . 10 .
  - 3) 岩崎俊雄 : 古細菌呼吸鎖複合体IIの機能進化 . 第74回日本生化学会大会 , 2001 . 10 .
  - 4) 岩崎俊雄 : 神経型NO合成酵素の構造と機能 . 理研シンポジウム「有機化学反応の新展開」第3回 , 2001 . 12 .
- (3) 一般講演 :
- 1) Cospér N<sup>1)</sup>, Cospér MM<sup>1)</sup>, Johnson MK<sup>1)</sup>, Meyer J<sup>2)</sup>, Iwasaki T, Scott RA<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Georgia , <sup>2)</sup> CEA-Grenoble): Correlation of structure with redox potentials for [2Fe-2S] clusters . 10th International Conference on Bioinorganic Chemistry ( Firenze, Italy. ), 2001 . 8 .
  - 2) Samoilova RI<sup>1)</sup>, Kolling D<sup>2)</sup>, Iwasaki T, Crofts AR<sup>2)</sup>, Dikanov SA<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup> Russian Academy of Science , <sup>2)</sup> University of Illinois , <sup>3)</sup> Osaka Kyoiku University): Probing the interaction of the Rieske cluster with the occupants of the Qo-site of the *bc<sub>1</sub>* complex by 1D and 2D ESEEM . Third Asia-Pacific EPR/ESR Symposium

- APES '01 ( Kobe, Japan ), 2001 . 10 .
- 3) Iwasaki T, Kounosu A, Dikanov SA<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Illinois): The [2Fe-2S] cluster in sulredoxin from the thermoacidophilic archaeon *Sulfolobus sp.* strain 7, a novel water-soluble Rieske protein . Third Asia-Pacific EPR/ESR Symposium APES '01 ( Kobe, Japan ), 2001 . 10 .
  - 4) 片山 映, 辻井厚子, 和田 明<sup>1)</sup>, 西野武士, 石浜 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大阪市大, <sup>2)</sup>国立遺伝研究所): 金属結合蛋白プロテオミクス: 大腸菌亜鉛結合蛋白の探索と分析 . 第一回日本蛋白質科学会, 2001 . 6 .
  - 5) 阿部靖子, 松村智裕, 堀 弘幸, 広津晶子<sup>1)</sup>, 岡田健吾<sup>1)</sup>, 箱嶋敏雄<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>奈良先端大・生体高分子): ヘム結合蛋白質HBP23の構造と機能 . 第一回日本蛋白質科学会, 2001 . 6 .
  - 6) 岡本 研, 西野朋子, Enroth C<sup>1)</sup>, Eger B<sup>1)</sup>, Emil P<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>トロント大学生化学): キサンチン脱水素酵素/酸化酵素の活性変換機構 . 第一回日本蛋白質科学会, 2001 . 6 .
  - 7) 松村智裕, 市田公美<sup>1)</sup>, 細谷龍男<sup>1)</sup>, 岡本 研, 西野武士 (<sup>1)</sup>慈恵医大 腎臓高血圧内科): モリブデンコファクター合成に関与するタンパク質遺伝子のクローニング . 第一回日本蛋白質科学会, 2001 . 6 .
  - 8) 岩崎俊雄, 鴻巣麻子: 好熱性古細菌リスキ型鉄硫黄タンパク質の酸化還元に伴う微細構造変化 . 第一回日本蛋白質科学会, 2001 . 6 .
  - 9) 西野朋子, 西野武士: パキキュロウイルスノ昆虫細胞を用いた蛋白質の発現と精製: 特に複合金属フラビン蛋白質の場合 . 文部省科学研究費特定領域 ( A ) 「シンクロトロン放射光による生物マシナリーの構造生物学」第4回ワークショップ, 2001 . 8 .
  - 10) 岡本 研, 西野武士, Bryan TE<sup>1)</sup>, Emil FP<sup>1)</sup>, 西野朋子 (<sup>1)</sup>University of Toronto): サンチン脱水素酵素の阻害剤 ( 抗痛風剤 ) との複合体結晶構造 . 文部省科学研究費特定領域 ( A ) 「シンクロトロン放射光による生物マシナリーの構造生物学」第4回ワークショップ, 2001 . 8 .
  - 11) 岩崎俊雄, 鴻巣麻子, 青島美穂<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>東京大学・農学部): 古細菌呼吸鎖複合体IIの機能進化 . 第74回日本生化学会大会, 2001 . 10 .
  - 12) 西野武士, 岡本 研, 松村智裕, 西野朋子, Bryan TE<sup>1)</sup>, Emil FP<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Biochem. Univ. Toronto): キサンチン脱水素酵素の構造と反応機構および基質特異性変換機構 . 第74回日本生化学会大会, 2001 . 10 .
  - 13) 岡本 研, 近藤史郎<sup>1)</sup>, Bryan TE<sup>2)</sup>, Emil FP<sup>2)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>帝人・生物医学総合研究所, <sup>2)</sup>Biochem. Univ of Toronto): キサンチン脱水素酵素-阻害剤複合体の結晶構造 . 第74回日本生化学会大会, 2001 . 10 .
  - 14) 西野朋子, 堀 弘幸, 岡本 研, 草野輝男, 西野武士: Milk Sulphydryl Oxidase によるキサンチン脱水素酵素の酸化酵素への変換機構: 変異酵素及びX線結晶構造からの検討 . 第74回日本生化学会大会, 2001 . 10 .
  - 15) 阿部靖子, 松村智裕, 安藝理彦<sup>1)</sup>, 北川禎三<sup>1)</sup>, 岡田健吾<sup>2)</sup>, 箱嶋敏雄<sup>2)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>分子研, <sup>2)</sup>奈良先端大・バイオサイエンス): ヘム結合蛋白質HBP23のperoxidase活性とその変化 . 第74回日本生化学会大会, 2001 . 10 .
  - 16) 松村智裕, 市田公美<sup>1)</sup>, 細谷龍男<sup>1)</sup>, 岡本 研, 西野武士 (<sup>1)</sup>慈恵医大・腎臓高血圧内科): 硫黄化酵素の遺伝子異常によるキサンチン脱水素酵素およびアルデヒド酸化酵素活性の二重欠損 . 第74回日本生化学会大会, 2001 . 10 .

## 6. 生化学第二講座

### 研究概要

#### 1) 遺伝子治療基礎研究

遺伝子導入技術の開発：ハイブリッド・アデノウイルスベクター及びカラム，限外ろ過法を組み合わせた精製濃縮法により，従来の方法より10倍以上力価の高いHIVベクターの作製に成功した．HIVベクターがin vivoでも，リンパ球特異的に遺伝子導入できることを明らかにし，エイズ及びATLの遺伝子治療への可能性を示した．受容体発現ベクターと組み合わせた二段階遺伝子導入法による肝癌細胞，筋肉細胞，HIV感染細胞，オリゴデンドロ細胞への細胞ターゲティング法を開発した．

多能性幹細胞の研究：マーカー遺伝子を導入したマウスの骨髄細胞の移植実験で，骨髄中にはグリア系細胞，筋肉細胞，骨細胞に分化できる多能性幹細胞が存在することを明らかにした．更に，骨髄中の幹細胞の多能性を検討するため，グリーンマウスの骨髄を移植したキメラマウスを作製した．キメラマウスの実験から骨髄細胞が心筋細胞，ニューロン，網膜細胞にも分化することを示した．

遺伝子修復技術の開発：レトロウイルスベクターによる遺伝子導入ではクローンにして10%以上(1/10,000塩基対以上)の頻度で変異が導入されていることを明らかにした．ミスマッチ修復アッセイ系を確立し，オリゴヌクレオチドを介したin vitroでの塩基変異にミスマッチ蛋白(hMSH2, hMSH6)が関与していることを示した．

#### 2) 遺伝子治療前臨床研究

遺伝病の治療実験としては，AAVベクターによる異染性白質ジストロフィー(MLD)及びFabry病のノックアウトモデルマウスに対する遺伝子治療実験を行った．MLDマウスの脳内にAAVベクターで正常遺伝子を導入したところ，遺伝子の発現と運動能力の著明な改善を認めた．Fabryマウスに対してはAAVベクターの筋肉内注射を行ったところ発現分泌した酵素が全身臓器に取り込まれ蓄積していた脂質の著明な減少を認めた．これらのプロトコールについては米国の企業(Avigen社)と臨床試験を開始するための検討を開始している．

後天性疾患に対する遺伝子治療研究として，パーキンソン病の原因である黒質ドーパミンニューロンの変性の分子機構を調べるとともに，アポトーシスを抑制することで病気の進展を遅らせる新しい治療法の開発を行った．

その他，HIVベクターを使った眼内新生血管病や慢性関節リウマチの治療実験を行っている．既に有効性が明らかにされている先天性免疫不全症の遺伝子治療をわが国でも早急に実施できるように，他大学と共同してヒトに投与するベクターの作製を始めている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kawada A<sup>1)</sup>, Kashima A<sup>2)</sup>, Shiraishi H<sup>1)</sup>, Gomi H<sup>2)</sup>, Matsuo I<sup>2)</sup>, Yasuda K<sup>3)</sup>, Sasaki G<sup>4)</sup>, Sato S<sup>4)</sup>, Orimo H ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Kinki University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Teikyo University School of Medicine, Ichihara Hospital, <sup>3)</sup> Department of Clinical Chemistry, Kagawa Nutrition University, <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Keio University School of Medicine ): Pyridoxine-induced photosensitivity and hypophosphatasia . *Dermatology* 2000 ; 201 ( 4 ): 356-360 .
- 2) Yokoze M<sup>1)</sup>, Ohyama K<sup>2)</sup>, Tsuji M<sup>2)</sup>, Goseki-Sone M<sup>3)</sup>, Oida S<sup>4)</sup>, Orimo H, Moriyama K<sup>1)</sup>, Kuroda T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of orthodontics, School of Dentistry, University of Tokushima, <sup>2)</sup> Section of Maxillofacial Orthognathics, Department of Maxillofacial Reconstruction and Function, Division of Maxillofacial/Neck reconstruction, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Department of Food and Nutrition,



- Japan Women's University , <sup>4)</sup> Department of Biochemistry, School of Dental Medicine, Tsurumi University ): A case of Japanese cleidocranial dysplasia with a *CBFA1* frameshift mutation . J. Craniofac. Genet. Dev. Biol 2000 ; 20 : 121-126 .
- 3 ) Miyake koichi, Iijima O<sup>1)</sup>, Suzuki N, Matsukura M<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Tsukuba Laboratories, Hisamitsu Pharmaceutical , <sup>2)</sup> Department of Development Pediatrics, Kumamoto University ): Selective Killing of HIV infected cells by targeted gene transfer and inducible gene expression using a recombinant HIV vector . Hum. Gene. Ther 2001 ; 12 ( 3 ) : 227-233 .
- 4 ) Akasaka S<sup>1)</sup>, Suzuki S, Shimizu H<sup>1)</sup>, Igarashi T, Akihito M<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Urology ): Suicide gene therapy for chemically rat bladder tumors entailing instillation of adenoviral vectors . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 ( 5 ) : 568-575 .
- 5 ) Nishiyama Y<sup>1,2)</sup>, Nejima L<sup>1)</sup>, Watanabe A, Kotani E<sup>1)</sup>, Sakai N, Hatamachi A<sup>3)</sup>, Shinkai H<sup>3)</sup>, Kikuchi K<sup>1)</sup>, Tamura K<sup>4)</sup>, Shimada T, Takano T<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Coronary and Intensive Care Medicine , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine , <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Chiba University School of Medicine , <sup>4)</sup> The First Department of Pathology ): Ehlers-Danlos syndrome type IV with a unique point mutation in COL3A1 and familial phenotype of myocardial infarction without organic coronary stenosis . J. Intern. Med 2001 ; 249 : 103-108 .
- 6 ) Sakai N, Miyake K, Suzuki N, Shimada T : Selective transduction of HIV-1-infected cells by the combination of HIV and MMLV vectors . Int J Hematol 2001 ; 73 ( 4 ) : 476-482 .
- 7 ) Nakano K<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Dept of Pediatrics , <sup>2)</sup> Dept of Neurology, Juntendo Univ. ): Differentiation of transplanted bone marrow cells in the adult mouse brain . Transplantation 2001 ; 71 ( 12 ) : 1735-1740 .
- 8 ) Okino T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Inada Ken-iti<sup>2)</sup>, Tatematu M<sup>2)</sup>, Suzuki S, Shimada T ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery , <sup>2)</sup> Division of Oncological Pathology, Aichi Cancer Center Research institute ): Sequential Histopathological changes in vivo after suicide gene therapy of gastric cancer induced by N-methyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine in rats . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 ( 6 ) : 673-679 .
- 9 ) Goseki-Sone M<sup>1)</sup>, Orimo H, Watanabe A, Hamatani R<sup>1)</sup>, Yokozeki M<sup>2)</sup>, Ohyama K<sup>3)</sup>, Kuroda T<sup>3)</sup>, Watanabe H<sup>4)</sup>, Miyazaki H<sup>5)</sup>, Shimada T, Oida S<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University , <sup>2)</sup> Department of Orthodontics, School of Dentistry, University of Tokushima , <sup>3)</sup> Section of Maxillofacial Orthognathics, Department of Maxillofacial Reconstruction and Function, Division of Maxillofacial/Neck Reconstruction, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University , <sup>4)</sup> Department of Hard Tissue Engineering ( Periodontology ) , Graduate School, Tokyo Medical and Dental University , <sup>5)</sup> First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Department of Maxillofacial Reconstruction and Function, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University , <sup>6)</sup> Department of Biochemistry, School of Dental Medicine, Tsurumi University ): Identification of a novel frameshift mutation ( 383insT ) in the *RUNX2* ( PEBP2-alpha/CBFA1/AML3 ) gene in a Japanese patient with cleidocranial dysplasia . J. Bone Miner. Metab 2001 ; 19 ( 4 ) : 263-266 .
- 10 ) Suzuki S, Shimada T : Suicide gene therapy for bladder tumor . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ) : 368-369 .
- 11 ) Mochizuki M<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>2)</sup>, Migita M<sup>2)</sup>, Shibata M, Tanaka R, Suzuki A, Shimo-Nakahishi Y, Urabe T, Yamada M, Tamayose K, Shimada T, Miura M, Mizuno Y ( <sup>1)</sup> Dept of Neurology, Juntendo Univ. , <sup>2)</sup> Dept of Pediatrics ): An AAV-derived Apaf-1 dominant negative inhibitor prevents MPTP toxicity as anti-apoptotic gene therapy for Parkinson's disease . Proc. Natl. Acad. Sci. USA 2001 ; 98 ( 19 ) : 10918-10923 .
- 12 ) Orimo H, Girschick Hermann J<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Ito M<sup>3)</sup>, Oda K<sup>3)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, University of Wuerzburg , <sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University , <sup>3)</sup> De-

partment of Oral Biochemistry, Faculty of Dentistry, Niigata University): Mutational analysis and functional correlation with phenotype in German patients with childhood-type hypophosphatasia. J. Bone Miner. Res 2001; 16 (12): 2313-2319.

- 13) Watanabe H<sup>1)</sup>, Hashimoto-Uoshima M<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Orimo H, Ishikawa I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Hard Tissue Engineering (Periodontology), Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University): A novel point mutation (C571T) in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene in a case of adult-type hypophosphatasia. Oral Diseases 2001; 7: 331-335.
- 14) Watanabe A<sup>1)</sup>, Kawabata Y<sup>2)</sup>, Okada O<sup>1)</sup>, Tanabe N<sup>1)</sup>, Kimura H<sup>1)</sup>, Hatamochi A<sup>3)</sup>, Shinkai H<sup>3)</sup>, Sakai N, Shimada T, Hiroshima K<sup>4)</sup>, Kuriyama T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. Respiriology, Chiba University, <sup>2)</sup> Dept. Laboratory Medicine, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, <sup>3)</sup> Clinical Biology of Extracellular Matrix, Chiba University, <sup>4)</sup> Dept. Basic Pathology, Chiba University): Ehlers-Danlos syndrome type IV with few extrathoracic findings: a newly recognized point mutation on the Col 3A1 gene. Eur. Respir. J 2002; 19 (1): 195-198.
- 15) Orimo H, Goseki-Sone M<sup>1)</sup>, Inoue M<sup>2)</sup>, Tsubakio Y<sup>3)</sup>, Sakiyama T<sup>4)</sup>, Shimada T (<sup>1)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, <sup>2)</sup> Department of Pedodontics, Showa University School of Dentistry, <sup>3)</sup> Department of Pediatrics, Osaka Municipal Juso Hospital, <sup>4)</sup> Department of Pathology, St. Marianna University School of Medicine): Importance of deletion of T at nucleotide 1559 in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene in Japanese patients with hypophosphatasia. J. Bone Miner. Metab 2002; 20 (1): 28-33.

## (2) その他:

- 1) 島田 隆: カラー図説: 遺伝子修復技術の進歩. 日臨 2001; 59: 2-5.
- 2) 埴 秀樹, 島田 隆: 臨床で有望な新規ベクター開発研究の現状 (特集: 遺伝子治療の現況と将来). 分子細胞治療 2001; 2: 223-229.
- 3) 島田 隆: 遺伝子治療の現状と将来. 東日整災外会誌 2001; 13: 127-130.
- 4) 島田 隆: 遺伝子治療の現状と展望. 耳鼻免疫アレルギー 2001; 19: 1-6.
- 5) 島田 隆: 遺伝子治療技術の新しい展開. 分子呼吸器病 2001; 5: 75-77.
- 6) 島田 隆: 遺伝子治療に使われるベクター. 細胞 2001; 33: 208-212.
- 7) 島田 隆: 遺伝子治療の現状と展望. 東京小児医会報 2001; 20: 6-10.
- 8) 池島三与子, 島田 隆: ミスマッチ修復の分子機構. 蛋白質・核酸・酵素 2001; 46: 1124-1129.
- 9) 島田 隆: 癌遺伝子治療の現況 (特集: 遺伝子医療 - 現況と将来). 臨婦産 2001; 55: 918-921.
- 10) 島田 隆: 遺伝子治療の将来「癌治療の先端にせまる」. 実験医学 2001; 19: 2552-2556.
- 11) 島田 隆: 遺伝子医療の倫理的課題. J Nippon Med Sch 2001; 68 (5): 430-434.
- 12) 島田 隆: 遺伝子を治療する遺伝子治療. 「先天性代謝異常症: 最新の治療」. 小児内科 2001; 1021-1024.

## 著 書

- 1) 島田 隆: [分担] レトロウイルスベクターゲノムの安定性「遺伝子治療の最前線」. 細胞工学, 2001; pp1243-1249, 秀潤社.
- 2) 神田佳和: [分担] トランスサイレチン, プレアルブミン. 広川 タンパク質化学 第5巻 血漿タンパク質1 (編集委員長 矢島治明 第5巻編集 長澤滋治), 2001; pp7-12, 広川書店.
- 3) 神田佳和: [分担] レチノール結合タンパク質. 広川 タンパク質化学 血漿タンパク質 (編集委員長 矢島治明 第5巻編集 長澤滋治), 2001; pp13-19, 広川書店.
- 4) 島田 隆: [分担] レトロウイルスベクター (第2部第1章第1節 遺伝子治療用医薬品の品質/安全性評価法. バイオ医薬品の品質・安全評価 (早川, 山崎, 延原編集), 2001; pp351-363, LIFE-SCIENCE INFORMA-

TION CENTER .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 高橋 啓, 平井幸彦, 島田 隆, 清野精彦<sup>1)</sup>, 桜庭 均<sup>2)</sup>, 橋本康弘<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>東京都臨床医学総合研究所, <sup>3)</sup>理研フロンティア): AAV ベクターによる Fabry 病遺伝子治療の基礎的研究 . リビドーシス研究会, 2001 . 12 .

(2) パネルディスカッション :

- 1) 杉山 修, 白井康正<sup>1)</sup>, 折茂英生, 島田 隆 (<sup>1)</sup>整形外科学): 初代培養の骨髄ストローマ細胞を用いた遺伝子治療による骨形成 . 第16回日本整形外科学会基礎学術集会, 2001 . 10 .

(3) 一般講演 :

- 1) Suzuki N, Miyake K, Shimada T : A new method for preparation of high-titer lentiviral vectors using adenovirus-based expression vectors . The 4th Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Seattle, USA ), 2001 . 5 .
- 2) Hirai Y, Takahashi H, Takahashi K, Shimada T : Production of an adenoviral vector carrying the AVV genome using Rep resistant 293 cells . The 4th annual meeting of the American Society of Gene Therapy ( Seattle, USA ), 2001 . 5 .
- 3) Ikejima M, Nakajima E, Watanabe A, Yamamoto M, Shimada T : Interaction between chimeric RNA/DNA oligonucleotides and double-stranded DNA . The 4th annual meeting of the American Society of Gene Therapy ( Seattle, USA ), 2001 . 5 .
- 4) Takahashi H, Hirai Y, Takahashi K, Sakuraba H<sup>1)</sup>, Kase R<sup>1)</sup>, Shimada T (<sup>1)</sup>The Tokyo Metropolitan Organization for Medical Research): Muscle mediated gene therapy of Fabry disease . The 4th annual meeting of the American Society of Gene Therapy ( Seattle, USA ), 2001 . 5 .
- 5) Miyake K, Suzuki N, Shimada T : A novel packaging strategy of HIV vectors using adenovirus-based expression vectors . The 4th annual meeting of the American Society of Gene Therapy ( Seattle, USA ), 2001 . 5 .
- 6) Sugiyama O, Orimo H, Suzuki S, Shimada T : Gene therapy of bone defects using genetically modified bone marrow stromal cells . The 4th annual meeting of the American Society of Gene Therapy ( Seattle, USA ), 2001 . 6 .
- 7) Takahashi H, Hirai Y, Shimada T : Development of AAV Vector Mediated Enzyme Replacement Therapy for Fabry Disease . The 4th annual Meeting of the American Society of Gene Therapy ( Seattle, USA ), 2001 . 6 .
- 8) Shimada T, Takahashi H, Hirai Y, Takahashi K, Migita M<sup>1)</sup>, Sakuraba H<sup>2)</sup>, Kase R<sup>2)</sup>, Hashimoto Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Pediatrics, <sup>2)</sup>The Tokyo Metropolitan Organization for Medical Research, <sup>3)</sup>RIKEN Frontier Research System): Long term correction of lipid storage in multiple organs of Fabry mice by direct injection of AAV vectors into skeletal muscle . 51st Annual Meeting of the American Society of Human Genetics ( San Diego, USA ), 2001 . 10 .
- 9) Shimada T : AAV mediated muscle directed gene therapy of Fabry disease . The 4th Annual Asia LSD Symposium ( Seoul ), 2001 . 11 .
- 10) Miyake K, Suzuki N, Shimada T : Lentiviral mediated systemic antiangiogenic therapy for high-grade non-hodgkin lymphoma . The 43th Annual Meeting of The American Society of Hematology ( Orlando, USA ), 2001 . 12 .
- 11) Hayakawa J<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Kuromachi Y, Kawabata K, Ueda T<sup>1)</sup>, Shimada T (<sup>1)</sup>Dept. Pediatrics): Estab-

- ishment of chimeric mice for studying differentiation of bone marrow derived cells . The 43nd annual meeting of the American Society of Hematology ( Orland, USA ), 2001 . 12 .
- 12) Kato Ko, Koichi Miyake, Suzuki Noriko, Igarashi Tsutomu, Nagashima Masakazu<sup>1)</sup>, Yoshino Sinichi<sup>1)</sup>, Shimada Takashi ( <sup>1)</sup>Department of Joint Disease and Rhermatism ): Angiostatic gene therapy of rheumatoid arthritis . The 7th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy ( TOKYO ), 2001 . 7 .
- 13) Sugiyama O, Orimo H, Suzuki S, Shimada T : Gene therapy of bone defects using genetically modified primary bone marrow stromal cells . The 7th annual meeting of Japanese Society of Gene Therapy ( TOKYO ), 2001 . 7 .
- 14) Orimo H, Shin Joon S<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, University of Munich ): G317D mutation in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene associated with childhood hypophosphatasia in a German family . 第4回ALPS研究会, 2001 . 7 .
- 15) Takahashi H, Hirai Y, Shimada T : Development of AAV vector mediated enzyme replacement therapy for Fabry disease . The 7th annual meeting of Japanese Society of Gene Therapy ( TOKYO ), 2001 . 7 .
- 16) Hiranuma T, Watanabe A, Mizuguchi H<sup>1)</sup>, Hayakawa T<sup>1)</sup>, Matsukura M<sup>2)</sup>, Miike T<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Division of Biol. Chem. and Biologicals, NIHS , <sup>2)</sup> Dept. Child Development, Kumamoto Univ. ): Specific gene expression system for vascular smooth muscle cells . The 7th annual meeting of the Japan Society of Gene Therapy ( TOKYO ), 2001 . 7 .
- 17) Ikejima M, Nakajima E, Watanabe A, Shimada T : Molecular Study of Oligonucleotide-Mediated Gene Repair . 第7回日本遺伝子治療学会, 2001 . 7 .
- 18) 五十嵐勉, 三宅弘一, 鈴木紀子, 加藤 興<sup>1)</sup>, 高橋 浩<sup>2)</sup>, 大原國俊<sup>2)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup>リウマチ科, <sup>2)</sup>眼科 ): 角膜上皮幹細胞, TA細胞への遺伝子導入 . 第24回角膜カンファレンス, 2001 . 2 .
- 19) 島田 隆 : 遺伝子医学の現状と将来 . 第53回東海地区歯科医学大会 ( 名古屋 ), 2001 . 2 .
- 20) 五十嵐勉, 三宅弘一, 鈴木紀子, 加藤 興<sup>1)</sup>, 高橋 浩<sup>2)</sup>, 大原國俊<sup>2)</sup>, 島田 隆 ( <sup>1)</sup>リウマチ科, <sup>2)</sup>眼科 ): 角膜上皮幹細胞およびTA細胞への遺伝子導入 . 第105回日本眼科学会総会, 2001 . 4 .
- 21) 三宅弘一, 鈴木紀子, 島田 隆 : HIVベクターによるATL遺伝子治療の検討 . 第63回日本血液学会総会, 2001 . 4 .
- 22) 神田佳和 : マウス胚性腫瘍細胞のF9およびP19に対する作用 . 日本ビタミン学会第53回大会, 2001 . 5 .
- 23) 早川 潤<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 島田 隆, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>小児科 ): 骨髄細胞の多能性の解析に向けて ~ GFP陽性骨髄細胞のモデルマウスの作成 ~ . 第104回日本小児科学会学術集会 ( 仙台 ), 2001 . 5 .
- 24) Miyake K, Suzuki N, Shimada T : Production of high-titer lentiviral vectors using adenovirus-HIV hybrid expression vectors . The 7th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy , 2001 . 7 .
- 25) 早川 潤<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 島田 隆, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>小児科 ): 骨髄細胞の多能性の解明にむけた : GFP陽性骨髄細胞モデルマウスの作成 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 26) 早川 潤<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 島田 隆, 福永慶隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>小児科 ): 骨髄細胞の多能性の解明にむけた GFP陽性骨髄細胞モデルマウスの作成 : 再生医学への応用 . 第43回日本小児血液学会, 2001 . 9 .
- 27) 池島三与子, 中島英逸, 渡辺 淳, 島田 隆 : オリゴヌクレオチドを用いた遺伝子改変技術の検討 . 第60回日本癌学会総会, 2001 . 9 .
- 28) 神田佳和 : ヒト胚性腫瘍細胞NT2のMGFおよびRAによる分化条件の検討 . 第74回日本生化学大会, 2001 . 10 .
- 29) 久安早苗, 平井幸彦, 島田 隆 : TATペプチド融合AVVRep78蛋白質の精製と機能の検討 . 第74回日本生化学大会, 2001 . 10 .
- 30) 杉山 修, 白井康正<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 折茂英生, 鈴木 聡 ( <sup>1)</sup>整形外科 ): 初代培養の骨髄ストローマ細胞を用いた遺伝子治療による骨形成 . 第16回日本整形外科学会基礎学術集会, 2001 . 10 .

- 31) 池島三与子, 中島英逸, 渡辺 淳, 島田 隆: ミスマッチ修復を利用した遺伝子修復技術の基礎的研究. 第74回日本生化学会総会, 2001. 10.
- 32) 高橋 啓, 平井幸彦, 島田 隆: AAVベクターによるFabry病遺伝子治療の基礎的実験. 第44回日本先天代謝異常学会, 2001. 11.
- 33) 早川 潤<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 島田 隆, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科): 骨髄細胞の多能性の解明に向けて: GFP陽性骨髄細胞モデルマウスの作成. 第44回日本先天代謝異常学会, 2001. 11.

## 7. 薬理学講座

### [ 薬理学 ]

#### 研究概要

当教室では、薬理学の基本的な目的である、内因性生理活性物質および薬物と生体の相互作用について、神経伝達とそれらを制御する物質を中心に研究している。そしてこれらの研究が、疾患の新しい理解、新しい作用機序に基づいた薬の開発につながることを目指している。現在進行中の主な研究は以下のとおりである。

##### 1. 精神神経疾患病態の神経基盤

抑うつや不安障害の神経基盤は未だ十分解明されていない。我々は神経伝達の異常という観点から、これらの疾患を解明しようとしている。そのために動物モデルを作成し、神経伝達の異常を分子生物学、行動科学、電気生理学的に解析している。特に不安情動の情報処理に重要な役割をしている扁桃体を中心に検討している。

##### 2. 痛みの発症・持続機構

神経損傷などによって発症する神経因性疼痛について、その発症に関わる神経回路の可塑的变化を解明することを目指している。主に末梢組織からの痛みの入力系である一次求心性神経線維について、その生存を支える神経栄養因子、痛覚伝達に関わる神経伝達物質とその受容体を中心に研究を進めている。

##### 3. 平滑筋の収縮・弛緩機構

モルモット摘出回腸縦走筋および摘出気管筋の膜透過性標本を用いて、 $Ca^{2+}$ 濃度変化に依存しない収縮・弛緩反応における細胞内収縮タンパク系やGタンパクの関与を検討し、平滑筋の収縮・弛緩機構を解明することを目指している。

##### 4. エンドトキシン血症の発症機構

エンドトキシン血症の発症機構を解明するために、敗血症性の麻痺性イレウス *in vivo* モデルをモルモットで作成し、*in vivo* 条件下に、敗血症治療薬の検討およびエンドトキシン血症の発症メカニズムの検討を行っている。

##### 5. 発生分化に関わる遺伝子

ニワトリ胚を用いて脊髄発生分化関連遺伝子を探索し、新規細胞成長因子を含め、幾つかの遺伝子を単離した。これらの遺伝子の発現パターンと機能についての解析を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Konishi S<sup>1,2)</sup>, Saitow F<sup>2)</sup>, Satake S<sup>2)</sup>, Yamada J<sup>2)</sup>, Ikebuchi Y<sup>2)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Kasei Inst Life Sci , <sup>2)</sup> CREST, JST ): Molecular mechanism underlying facilitation of cerebellar GABA-mediated transmission following activation of monoaminergic afferent fibers . Biogenic Amines 2001 ; 16 ( 2 ): 115-125 .
- 2) Piao ZF, Ui-Tei K, Nagano M, Miyata Y : Participation of intracellular  $Ca^{2+}$ /calmodulin and protein kinase ( s ) in the pathway of apoptosis induced by a *Drosophila* cell death gene, *reaper* . Molecular Cell Biology Research Communications 2001 ; 4 : 307-312 .
- 3) Hamada T, Ui-Tei K, Imaki J<sup>1)</sup>, Takahashi F, Onodera H<sup>1)</sup>, Mishima T<sup>1)</sup>, Miyata Y ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy ): The expression of *SCDGF/PDGF-C/fallotin* and *SCDGF-B/PDGF-D* in the rat central nervous system . Mechanisms of Development 2002 ; 112 : 161-164 .

##### (2) 綜説：

- 1) 岡村忠夫, 根本香代: 細胞内 $Ca^{2+}$ 濃度が変化せず起こる平滑筋収縮と弛緩: 創薬の視点から . J Nippon

- Med Sch 2001 ; 68 ( 3 ): 289-289 .
- 2) 鈴木秀典 : 神経因性疼痛と神経栄養因子 . 脳の科学 2001 ; 23 : 837-844 .
- 3) 程久美子, 善野修平<sup>1)</sup>, 宮田雄平, 西郷 薫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大・理・生化): RNA interference による新しい遺伝子機能破壊法 . Clinical Neuroscience 2001 ; 19 ( 7 ): 744-745 .

## 著 書

- 1) 鈴木秀典 : [ 分担 ] 神経伝達物質 . 標準薬理学 第6版 ( 監修 : 鹿取 信 , 編集 : 今井 正 , 宮本英七 ) , 2001 ; pp75-100 , 医学書院 .

## 学会発表

### ( 1 ) 一般講演 :

- 1) Suzuki H, Taoka M<sup>1)</sup>, Ikegami S<sup>2)</sup>, Konishi S<sup>2,3)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Metropol Univ , <sup>2)</sup> Mitsubishi Kasei Inst Life Sci , <sup>3)</sup> CREST, JST ): Protein expression after fear conditioning in the rat amygdala . Society for Neuroscience 31st Annual Meeting ( San Diego, CA. USA ), 2001 . 11 .
- 2) Nagano M, Suzuki H : Developmental change of neurotrophic factors in rat skeletal muscles . Society for Neuroscience 31st Annual Meeting ( San Diego, CA. USA ), 2001 . 11 .
- 3) Suzuki H, Taoka M<sup>1)</sup>, Makanae K<sup>2)</sup>, Nakano A<sup>3)</sup>, Ikebuchi Y<sup>2)</sup>, Ikegami S<sup>3)</sup>, Konishi S<sup>2,3)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Metropol Univ , <sup>2)</sup> CREST, JST , <sup>3)</sup> Mitsubishi Kasei Inst Life Sci ): Characterization of proteins and mRNAs in the rat amygdala with increased expression following fear conditioning . The 28th NIPS International Symposium : Inhibitory Neural Transmission in the Brain, Structure and Function ( Okazaki, Aichi, JAPAN ), 2002 . 2 .
- 4) Ui-Tei K, Zenno S<sup>1)</sup>, Ueda R<sup>2)</sup>, Doi N<sup>1)</sup>, Takahashi F, Hamada T, Saigo K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Univ Tokyo , <sup>2)</sup> Mitsubishi Kagaku Inst Life Sci ): Inverted DNA-directed RNA interference in *Drosophila* and mammalian cultured cells . Keystone Symposia, RNA Interference, Cosuppression and Related Phenomena ( Taos, New Mexico, USA ), 2002 . 2 .
- 5) Suzuki H, Song SY<sup>1,2)</sup>, Nakano A<sup>1)</sup>, Konishi S<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup> Mitsubishi Kasei Inst Life Sci , <sup>2)</sup> CREST, JST ): Selective enhancement of GABA-mediated inhibitory transmission by tachykinins in the rat amygdala . Conference on the Amygdala in Brain Function : Basic and Clinical Approaches ( Galveston Island, Texas, USA ), 2002 . 3 .
- 6) 高橋直樹<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 海野雅浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科麻酔・生体管理学): 慢性絞扼性損傷モデルにおける神経栄養因子の定量的解析 . 日本麻酔科学会第48回大会 , 2001 . 4 .
- 7) 鈴木秀典, 田岡万悟<sup>1)</sup>, 羽田栄輔<sup>2,3)</sup>, 中野朝彩子<sup>2)</sup>, 蒔苗公司<sup>2,3)</sup>, 池上司郎<sup>2,3)</sup>, 小西史朗<sup>2,3)</sup>(<sup>1)</sup> 都立大・理 , <sup>2)</sup> 三菱化学生命研 , <sup>3)</sup> CREST, JST ): ラット扁桃体における恐怖条件づけ連合学習によるタンパク発現変化 . 科学技術振興事業団・戦略的基礎研究推進事業「脳を知る」・「脳を守る」合同シンポジウム 脳の機能とその異常 , 2001 . 4 .
- 8) 朴 正福, 程久美子, 宮田雄平 : ショウジョウバエ細胞死誘導遺伝子 *rpr*Δ*Cgrim* および *hid* によるアポトーシスに関わる caspase の検討と *Dapaf-1* の関与 . アポトーシス研究会第10回研究集談会 , 2001 . 8 .
- 9) 程久美子, 永野昌俊, 浜田 剛, 高橋史峰, 実川佐智恵, 太田成男<sup>1)</sup>, 宮田雄平 (<sup>1)</sup> 老研・生化学): 運動ニューロン生存活性をもつ RNA の構造と分布 . 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会 , 2001 . 9 .
- 10) 浜田 剛, 程久美子, 高橋史峰, 今城純子<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 宮田雄平 (<sup>1)</sup> 解剖学第一): 成熟ラットの運動ニューロンで発現する新規細胞増殖因子-SCDGF-B . 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会 , 2001 . 9 .

- 11) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代, 岡村忠夫, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): Lipopolysaccharideの意識下無拘束モルモットの腸管収縮に及ぼす影響. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 12) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 柴田康史<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 不活性ガス (IG-541) による低酸素環境の人体に対する影響. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 13) 程久美子, 梶 隆英<sup>1)</sup>, 善野修平<sup>2)</sup>, 土井 昇<sup>2)</sup>, 内藤雄樹<sup>2)</sup>, 上田 龍<sup>3)</sup>, 西郷 薫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>三菱化学, <sup>2)</sup>東大・理・生化, <sup>3)</sup>三菱化学生命研): ショウジョウバエおよび哺乳類細胞における siRNA による RNAi 効果の検討. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 14) 浜田 剛, 程久美子, 高橋史峰, 今城純子<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 宮田雄平(<sup>1)</sup>解剖学第一): 脊髄由来新規細胞増殖因子ファミリー, SCDGF, の中枢神経系における発現. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 15) 高橋史峰, 程久美子, 浜田 剛, 永野昌俊, 実川佐智恵, 三嶋拓也<sup>1)</sup>, 今城純子<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>2)</sup>, 宮田雄平(<sup>1)</sup>解剖学第一, <sup>2)</sup>老研・生化学): 運動ニューロン生存活性をもつ RNA の胚発生における特異的分布. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 16) 上田 龍<sup>1)</sup>, 善野修平<sup>2)</sup>, 程久美子, 佐藤尚武<sup>1)</sup>, 黒田和史<sup>1)</sup>, 山本美智子<sup>1)</sup>, 栗野若枝<sup>1)</sup>, 島村理恵子<sup>1)</sup>, 大津香苗<sup>1)</sup>, 東野亜沙美<sup>2)</sup>, 西郷 薫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>三菱化学生命研, <sup>2)</sup>東大・理・生化): DNA型RNAiを用いたショウジョウバエ変異体ライブラリの構築. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 17) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代, 岡村忠夫, 野崎正太郎<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 意識下無拘束モルモット腸管平滑筋実験モデルにおける lipopolysaccharide の腸管収縮に及ぼす影響. 第6回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2002. 1.
- 18) 永野昌俊, 鈴木秀典: ラット骨格筋における神経栄養因子発現の発達変化. 第75回日本薬理学会年会, 2002. 3.
- 19) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代, 岡村忠夫, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 覚醒モルモットにおける lipopolysaccharide の結腸弛緩作用. 第75回日本薬理学会年会, 2002. 3.
- 20) 朴 正福, 程久美子: ショウジョウバエ細胞死誘導遺伝子 *reaper*, *grim* および *hid* によるアポトーシスに必須なカスパーゼの同定と *dapaf-1* の関与. 第75回日本薬理学会年会, 2002. 3.

## [ 臨床薬理センター ]

### 研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている。

1. Population pharmacokineticsの研究: NONMEM (Non-Linear Mixed Effect Model) は患者一人当たりの採血点が1-2点でも解析可能な population pharmacokinetics 理論を応用した薬物動態解析プログラムである。抗不整脈薬の光学異性体の薬物動態の特徴を分析した。

2. センター長の大橋は, 新GCPに関する平成9年度, 10年度, 厚生科学研究の"モニタリングと監査のあり方"に参加し, また平成11年度"医療機関におけるモニタリング受け入れガイドライン"作成のため厚生省の作業班に参加し, この方面の研究を重ねてきた。平成11年11月より日本医科大学付属病院に治験支援室が新設され臨床薬理センターもその業務を担当している。特に治験データの品質管理, 品質保証部門を臨床薬理センターが担当し, モニタリングのあり方についての研究成果を実地に役立てているが, 今後更にモニタリング特にデータマネジメントについて研究を進めていく。

3. 薬害予防の立場から医薬品の有害事象に関する情報収集を行い, 内容を分析している。

4. *Helicobacter pylori* (HP) urease 蛋白を精製し, マウスに免疫することにより抗 HP urease 活性を有する hybridoma を誘導した。また HP urease を構成する重複した合成ペプチド群を作成して ELISA 法により中和抗体の認識部位と最小抗原決定基を同定した。さらにこれらの同定部位のペプチドを合成し, それぞれウサギに免疫して得られた血清より IgG を精製し, HP urease に対する中和能を比較検討した。また各種 urease に対する薬剤の urease 中



和能についても検討している。

5. 自然発症慢性膵炎モデルのWBN / Kobラットを用いた抗慢性膵炎治療薬の効果の評価法に関する研究。開発中の膵炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せ検討している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Ohashi K, Aso R : Influence of age on the pharmacokinetics of vapiprost, a thromboxane A<sub>2</sub> receptor antagonist, and platelet aggregation : Comparison of pharmacokinetics by routine approach and population pharmacokinetics . International Journal of Clinical Pharmacology Research 2001 ; 21 ( 2 ): 85-94 .
- 2) Ohashi K, Aso R, Nakama K<sup>1)</sup>, Akimoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Laboratory Animal Science ): A new drug evaluation method for the treatment of chronic pancreatitis using WBN/Kob rats as a model of human chronic pancreatitis . Jpn J Clin Pharmacol Ther 2001 ; 32 ( 5 ): 231-247 .
- 3) Aso R, Ohashi K, Katoh T<sup>1)</sup>, Ogata H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Dep Biopharmaceutics, Meiji Pharmaceutical Univ ): Population pharmacokinetics, protein binding and antiarrhythmic effects of disopyramide enantiomers in arrhythmic patients . International Journal of Clinical Pharmacology Research 2001 ; 21 ( 3 ): 137-146 .
- 4) Ohashi K, Aso R, Osuga E, Nara H, Ota S : An attempt to evaluate the quality of clinical trial data by the investigational medical institution itself : Survey of quality of clinical trial data from the source documents verification ( SDV ) viewpoint . Jpn J Clin Pharmacol Ther 2001 ; 32 ( 6 ): 295-312 .
- 5) Hirota K, Nagata K<sup>1)</sup>, Norose Y<sup>2)</sup>, Futagami S<sup>3)</sup>, Nakagawa Y<sup>2)</sup>, Senpuku H<sup>4)</sup>, Kobayashi M<sup>3)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep Bacteriology, Hyogo College of Medicine , <sup>2)</sup> Dep Microbiology and Immunology , <sup>3)</sup> Third Dep Intern Med , <sup>4)</sup> Dep of Oral Science, National Institute of Infectious Disease ): Identification of an antigenic epitope in helicobacter pylori urease that induces neutralizing antibody production . Infection and Immunity 2001 ; 69 ( 11 ): 6597-6603 .

#### (2) 綜説：

- 1) 奈良弘恵：目で見るクスリ：アルツハイマー型痴呆治療薬。NIC STUDY 2001；22-24。
- 2) 奈良弘恵：目で見るクスリ：抗血小板薬。NIC STUDY 2001；22-24。
- 3) 奈良弘恵：目で見るクスリ：抗うつ薬。NIC STUDY 2001；22-24。
- 4) 奈良弘恵：目で見るクスリ：漢方薬。NIC STUDY 2001；22-24。

### 著書

- 1) 大橋和史：〔分担〕腫瘍。標準薬理学（鹿取 信），2001；pp439-458，医学書院。
- 2) 大橋和史：〔分担〕臨床試験のインフラストラクチャー IRB 審査の実際とIRB事務局の業務：日本医科大学の場合。医薬品の臨床試験とCRC（（財）日本薬剤師研修センター・中野重行他），2001；pp88-98，薬事日報社。
- 3) 大橋和史，廣田 薫：〔監修〕薬物療法の基礎知識と服薬指導。服薬指導に役立つ治療薬ガイド（大橋和史・廣田 薫），2001；ブレンドットコム。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子，奈良弘恵，太田詩穂子，大橋和史：日本医科大学付属四病院薬物治験審査委員会（IRB）年間報告（平成12年度）。第69回日本医科大学医学会総会，2001。9。

- 2) 中島博子<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 大橋和史 ( <sup>1)</sup>薬剤部, <sup>2)</sup>内科学第1 ): 治験コーディネーター (CRC) 業務報告 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 3) 大橋和史, 阿曾亮子, 奈良弘恵, 太田詩穂子 : 医療機関自身による治験データの品質評価の試み : 不整合率の分析 . 第22回日本臨床薬理学会年会, 2001 . 12 .

## 8. 病理学第一講座

### 研究概要

基礎的研究としては、主に肺臓病理学、腎臓病理学が行われた。肺では、予後の異なる間質性肺炎におけるリモデリングの機序、肺線維症の上皮細胞再生に関わる MMP-2 の活性化の検討が行われた。また、肺癌の新分類における神経内分泌癌の位置づけ、肺癌におけるエピモルフィンの減少、呼吸器の胎生期発生、間質性肺炎における急性増悪因子、過敏性肺臓炎の検討、前癌病変としての特発性間質性肺炎、ブラ・ブレイブのエラストーシスなどが報告された。その他に、難病指定疾患である特発性間質性肺炎の病型分類と治療への提言がまとめられた。

腎臓では、糸球体腎炎に対する VEGF および HGF の治療効果、高血圧ラットにおける尿細管間質傷害、腎疾患におけるアポトーシス、糖尿病性腎症における糸球体門部毛細血管、移植腎における拒絶反応および IV 型コラーゲンの変化、糸球体病変の共焦点レーザー顕微鏡による三次元立体構造、糸球体腎炎におけるメサンギウム流路障害、アミロイドーシスなどが報告された。また、進行性糸球体腎炎における糸球体毛細血管網の破綻、消失の重要性が報告された。

その他の臓器として心弁膜病変の解析、角膜アルカリ熱症における羊膜移植、乳腺の微小乳頭癌、縦隔腫瘍の臨床病理学的検討などが報告された。

本年度も、学内の臨床各科との共同研究が多く行われ、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ファブリー病、癌、リンパ増殖性疾患、間質性肺炎、閉塞性気管支炎、気管支性嚢胞、嚢胞性縦隔腫瘍、脳内リンパ腫、慢性関節リウマチなどの症例、また各種病変の細胞診が検討報告された。合同 CPC 症例については、検討された内容がまとめられている。これらは、症例から学ぶ人体病理学として重要である。その他に、国内外の研究者との共同研究が行われた。特にマサチューセッツ総合病院、東京女子医科大学、日本大学、熊本大学などで、人的交流も含め今後のさらなる発展が期待される。

### 研究業績

#### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Koura T<sup>1)</sup>, Gon Y<sup>1)</sup>, Hashimoto S<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>2)</sup>, Kudoh S<sup>2)</sup>, Fukuda Y, Sugawara I<sup>1)</sup>, Yodoi J<sup>1)</sup>, Horie T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>内科第4 ): Expression of thioredoxin in granulomas of sarcoidosis : possible role in the development of T lymphocyte activation . Thorax 2000 ; 55 : 755-761 .

(1) 原著：

- 1) Yamanishi M<sup>1)</sup>, Takeuchi S<sup>1)</sup>, Kurashina R<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shibuya M<sup>3)</sup>, Okada D, Haraguchi S<sup>2)</sup>, Yoshimura A<sup>3)</sup>, Gemma A<sup>3)</sup>, Kudoh S<sup>3)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup> Medical student , <sup>2)</sup> Department of Surgery II , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine IV ): High Survival rate of 6 cases of pulmonary large cell neuroendocrine carcinoma formerly classified as small cell carcinoma . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (4) : 335-339 .
- 2) Wang Pei-R, Masuda Y, Kitamura H, Yamanaka N : Tubulointerstitial injury of Thy-1 nephritis in uninephrectomized stroke-prone spontaneously hypertensive rats . J Nippon Med Sch 2001 ; 64 (4) : 301-309 .
- 3) Masuda Y, Shimizu A, Mori T, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Ohashi R, Ishizaki M, Asano G<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): Vascular endothelial growth factor enhances glomerular capillary repair

- and accelerates resolution of experimentally-induced glomerulonephritis . *Am J Pathol* 2001 ; 159 : 599-608 .
- 4) Utsumi K<sup>1)</sup>, Shimizu A, Yamato M<sup>1)</sup>, Tojimbara T<sup>1)</sup>, Nakajima I<sup>1)</sup>, Adachi E<sup>1)</sup>, Fuchinoue S<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Medical University, Kidney Center, Department of Surgery ): Alteration of collagen IV in acutely deteriorated renal allografts . *Transplantation* 2001 ; 71 ( 12 ) : 1757-1765 .
  - 5) Kawase T<sup>1)</sup>, Shimizu A, Adachi E<sup>1)</sup>, Tojimbara T<sup>1)</sup>, Nakajima I<sup>1)</sup>, Fuchinoue S<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Medical University, Kidney Center, Department of Surgery ): Collagen IV is upregulated in chronic transplant nephropathy . *Transplant Proc* 2001 ; 33 : 1207-1208 .
  - 6) Ishii Y<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>1)</sup>, Shimizu A, Tojimbara T<sup>1)</sup>, Nakajima I<sup>1)</sup>, Fuchinoue S<sup>1)</sup>, Teraoka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Medical University, Kidney Center, Department of Surgery ): An experimental sclerosing encapsulating peritonitis model in mice . *Nephrol Dial Transplant* 2001 ; 16 : 1262-1266 .
  - 7) Sonntag KC<sup>1)</sup>, Emery DW<sup>2)</sup>, Yasumoto A<sup>3)</sup>, Haller G<sup>4)</sup>, Germana S<sup>1)</sup>, Sablinski T<sup>5)</sup>, Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup>, Shimada H<sup>3)</sup>, Arn S<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, LeGuern C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School , <sup>2)</sup> Division of Medical Genetics, University of Washington , <sup>3)</sup> Department of Surgery ( II ) , Chiba University School of Medicine , <sup>4)</sup> Klinikum Mannheim GmbH, Chirurgische Klinik , <sup>5)</sup> Novartis Pharmaceuticals, Clinical Research and Development ): Tolerance to solid organ transplants through transfer of MHC class II genes . *J Clin Invest* 2001 ; 107 : 65-71 .
  - 8) Fukuda Y, Mochimaru H, Terasaki Y, Kawamoto M, Kudoh S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科第4 ): Mechanism of structural remodeling in pulmonary fibrosis . *Chest* 2001 ; 120 : 41S-43S .
  - 9) Kunugi S, Fukuda Y, Ishizaki M, Yamanaka N : Role of MMP-2 in alveolar epithelial cell repair after bleomycin administration in rabbits . *Lab Invest* 2001 ; 81 : 1309-1318 .
  - 10) Uematsu K<sup>1)</sup>, Yoshimura A<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Mochimaru H, Hosoya Y<sup>1)</sup>, Kunugi S, Matsuda K<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Kurimoto F<sup>1)</sup>, Takenaka K<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Fukuda Y, Tanaka S<sup>2)</sup>, Chin K<sup>3)</sup>, Joblons D<sup>4)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科第4 , <sup>2)</sup> 外科第2 , <sup>3)</sup> Cancer Genetics, University of California , <sup>4)</sup> Thoracic Oncology Lab. , University of California ): Aberration in the Fragile Histidine Triad ( FHIT ) genes in idiopathic pulmonary fibrosis . *Cancer Res* 2001 ; 61 : 8527-8533 .
  - 11) Shimura T<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Fukino K<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Kawamoto M ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery , <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital ): Detection of Epstein-Barr virus DNA and expression of CD30 antigen in primary anaplastic diffuse large B-cell lymphoma of the brain . *Brain Tumor Pathol* 2001 ; 18 : 161-165 .
  - 12) Okada D<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Fukushima M<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery II ): A case of Dumbbell tumor of the superior mediastinum removed by combined thoracoscopic surgery . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 1 ) : 58-61 .
  - 13) 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 石井伸<sup>4)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>3)</sup>, 大野忠明<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>5)</sup>, 松信精一<sup>5)</sup>, 津久井拓<sup>6)</sup>, 川本雅司, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 坂本静樹<sup>5)</sup>, 吉野慎一<sup>4)</sup>, 清水章, 清野精彦<sup>2)</sup>, 寺崎泰弘 ( <sup>1)</sup> 内科第4 , <sup>2)</sup> 内科第1 , <sup>3)</sup> 付属病院病理部 , <sup>4)</sup> 同リウマチ科 , <sup>5)</sup> 内科第2 , <sup>6)</sup> 内科第3 ): 慢性関節リウマチ治療中に心不全を発症した1例 . *内科* 2001 ; 87 ( 4 ) : 766-775 .
  - 14) 清水章 : 急性腎不全とアポトーシス . *Medical Technology* 2001 ; 29 ( 5 ) : 487-488 .
  - 15) 中山智子, 川本雅司, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 長野県がん検診・救急センター検査部 , <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部 ): Invasive micropapillary carcinomaの成分を認めた乳癌の2例 . *診断病理* 2001 ; 18 ( 3 ) : 270-273 .
  - 16) 清水章, 北村博司 : 初回腎生検で細動脈周囲の肉芽腫形成を, 2ヶ月後の再生検で糸球体へのアミロイド蛋白の急速な集積を認めた1例 ( 病理側の考え方 ) . *腎と透析* 2001 ; 51 ( 5 ) : 677-687 .

- 17) 榎本達治<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 持丸 博, 福田 悠, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4): 肺聴診所見が診断のきっかけとなった, 閉塞性細気管支炎の1例. 日呼吸学誌 2001; 39: 882-887.
- 18) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 松信精一<sup>1)</sup>, 亀谷 純<sup>2)</sup>, 青木 宏<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>3)</sup>, 壇 和夫<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>4)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup>, 勝田悌実<sup>3)</sup>, 川本雅司, 森 修<sup>5)</sup>, 工藤翔二<sup>6)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>, 北村博司, 清野精彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2, <sup>2)</sup>内科第3, <sup>3)</sup>内科第1, <sup>4)</sup>付属病院病理部, <sup>5)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>6)</sup>内科第4): 敗血症をきたしたBarrter 症候群の1例. 内科 2002; 89(1): 145-155.

(2) 綜説:

- 1) 清水 章: 急性腎不全とアポトーシス. 内科 2001; 88(1): 96-102.
- 2) 北村博司, 三瀬直文, 温 敏<sup>1)</sup>, 山中宣昭(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 糸球体門部小血管増生. 腎と透析 2001; (増刊号): 228-232.
- 3) 山中宣昭: 糖尿病性糸球体硬化症とその進展. 腎と透析 2001; (増刊号): 209-216.
- 4) 清水 章: 管外増殖性病変と腎疾患. 病理と臨床 2001; 19: 973-981.
- 5) 福田 悠: 呼吸器の発生. 連載講座: 個体の生と死. 生体の科学 2001; 52: 245-251.
- 6) 福田 悠: 間質性肺炎におけるリモデリング. J Nippon Med Sch 2001; 68: 551-553.
- 7) 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 三上 徹<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 窪倉浩敏<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 吉野直之, 川本雅司, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二): 嚢胞性縦隔腫瘍の診断と治療: 特に気管支性嚢胞について. J Nippon Med Sch 2001; 68: 65-68.

(3) 研究報告書:

- 1) 福田 悠: 間質性肺炎の病理形態からみた治療への提言. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患研究班. 平成12年度報告書 2002; pp240-244.

(4) 話題:

- 1) 福田 悠: 治る間質性肺炎, 治らない間質性肺炎. J Nippon Med Sch 2001; 68(5): 456.

著 書

- 1) 清水 章: [分担] 腎臓病とアポトーシス. 先端医療シリーズ13 腎臓病: 腎臓病の最新医療(荒川正昭, 小磯謙吉, 浅野 泰, 富野康日己, 石田尚志, 富田公夫, 大島伸一, 寺岡 慧, 伊藤貞嘉, 榎野博史, 後藤淳郎, 今井圓裕), 2001; pp45-51, 先端医療技術研究所.
- 2) 福田 悠: [分担] 間質性肺炎におけるリモデリングの機序について. The 8th Symposium of Asthma in Tokyo(森田 寛, 伊藤幸治), 2001; pp19-31, ライフサイエンス出版.

学会発表

[ 2000 年度追加分 ]

一般講演:

- 1) Tamura K<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Saku T<sup>2)</sup>, Yu Z<sup>3)</sup>, Ferrans VJ<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>新潟大学歯学部口腔病理, <sup>3)</sup>NIH, NHLBZ, Pathology): Histopathological study of congenital bicuspid valve. American College of Cardiology 50th Annual Scientific Session (Orlando USA), 2001. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 福田 悠: 間質性肺炎におけるリモデリング. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 2) 清水 章: 移植腎の拒絶反応: 急性拒絶反応から慢性拒絶反応. 第18回沖縄県臓器移植臨床研究会, 2001. 11.

(2) ワークショップ:

- 1) 川本雅司, 松原美幸<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 肺 Large Cell Neuroendocrine Carcinoma の細胞所

見；病理側から：Large Cell Neuroendocrine Carcinomaの多くは小細胞癌に分類されていた。第40回日本臨床細胞学会秋期大会，2001．11．

2) 福田 悠：間質性肺炎の線維化形成過程．第91回日本病理学会総会，2002．3．

3) 清水 章：糸球体硬化にまで進展する進行性実験腎炎における糸球体毛細血管網の動態．第91回日本病理学会総会，2002．3．

(3) 一般講演：

1) Kawamoto M, Matsubara M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital): Differential diagnosis of pulmonary large cell neuroendocrine carcinoma from large cell carcinoma and small cell carcinoma . 14th International Conference of Cytology ( Amsterdam, the Netherland ), 2001 . 5 .

2) Matsubara M<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology II ): Degenerative tumor cell nuclei is a useful marker for the diagnosis of chondrosarcoma . 14th International Conference of Cytology ( Amsterdam, the Netherland ), 2001 . 5 .

3) Shimizu A, Masuda Y, Mori T, Kitamura H, Ohashi R, Ishizaki M, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部 ): Vascular endothelial growth factor 165 ( VEGF165 ) prevents immune-mediated glomerular injury and accelerates the recovery from progressive crescentic glomerulonephritis ( GN ) in rats . ASN/ISN World Congress of Nephrology ( San Francisco, California, USA ), 2001 . 10 .

4) Terasaki Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Koizumi K<sup>2)</sup>, Kudo S<sup>3)</sup>, Takeya M<sup>1)</sup>{<sup>1)</sup> 熊本大学第1病理,<sup>2)</sup> 日本医科大学外科第2,<sup>3)</sup> 同内科第4}: Expression of epimorphin in lung cancer .2001 Int Conf Am Thoracic Society( San Francisco ),2001 .

5) 笠原成彦<sup>1)</sup>, 高雄泰行<sup>1)</sup>, 江藤 因<sup>1)</sup>, 向山美雄<sup>1)</sup>, 水村泰治<sup>1)</sup>, 城 謙輔<sup>2)</sup>, 清水 章(<sup>1)</sup> 上尾中央総合病院内科, <sup>2)</sup> 国立佐倉病院病理部): 持続性蛋白尿を呈し, 電顕所見より Fabry 病と診断した1例．第30回埼玉腎臓研究会, 2001．4．

6) 豊田 朗<sup>1)</sup>, 今村茂樹<sup>1)</sup>, 森 穂波<sup>1)</sup>, 黒田 豊<sup>1)</sup>, 田部井薫<sup>1)</sup>, 山田茂樹<sup>2)</sup>, 城 謙輔<sup>3)</sup>, 清水 章(<sup>1)</sup> 自治医科大学付属大宮医療センター腎臓科, <sup>2)</sup> 自治医科大学付属大宮医療センター病理部, <sup>3)</sup> 国立佐倉病院病理部): 外傷後急性腎不全にて発症した感染後急性糸球体腎炎症候群の1例．第30回埼玉腎臓研究会, 2001．4．

7) 小林和裕<sup>1)</sup>, 菅野義彦<sup>1)</sup>, 岡田浩一<sup>1)</sup>, 井上 勉<sup>1)</sup>, 小林竜也<sup>1)</sup>, 菅原壮一<sup>1)</sup>, 中元秀友<sup>1)</sup>, 鈴木洋通<sup>1)</sup>, 城 謙輔<sup>2)</sup>, 清水 章(<sup>1)</sup> 埼玉医科大学腎臓内科, <sup>2)</sup> 国立佐倉病院病理部): 肉芽腫性間質性腎炎を伴った結節型糖尿病性糸球体硬化症の1例．第30回埼玉腎臓研究会, 2001．4．

8) 今給漆敏彦<sup>1)</sup>, 菊池勇一<sup>1)</sup>, 兵頭俊武<sup>1)</sup>, 逸見憲秋<sup>1)</sup>, 鈴木重伸<sup>1)</sup>, 吉澤信行<sup>2)</sup>, 三浦総一郎<sup>1)</sup>, 城 謙輔<sup>3)</sup>, 清水 章(<sup>1)</sup> 防衛医科大学第二内科, <sup>2)</sup> 同公衆衛生学, <sup>3)</sup> 国立佐倉病院病理部): 接触性皮膚炎を契機に発症し, 生検組織像により Henoch-Sch 嗜lein 紫斑病性腎炎 ( HSPN ) と診断したネフローゼ症候群の1例．第30回埼玉腎臓研究会, 2001．4．

9) 功刀しのぶ, 福田 悠, 山中宣昭: プレオマイシン肺臓炎における MMP-2 の活性化．第48回マトリックス研究会大会, 2001．4．

10) 田村浩一<sup>1)</sup>, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): 僧帽弁および大動脈弁 floppy valve における proteoglycan についての免疫組織学的検等．第90回日本病理学会総会, 2001．4．

11) 秋岡祐子<sup>1)</sup>, 服部元史<sup>2)</sup>, 山口 裕<sup>3)</sup>, 山中宣昭, 宿谷明紀<sup>4)</sup>, 及川 剛<sup>4)</sup>, 白井信男<sup>4)</sup>, 鈴木順造<sup>5)</sup>, 鈴木仁<sup>5)</sup>, 伊藤克己<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉県こども病院腎臓科, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学腎臓小児科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学柏病院病理部, <sup>4)</sup> 東京慈恵会医科大学小児科, <sup>5)</sup> 福島県立医科大学小児科): 小児頻回再発型ネフローゼ症候群におけるサイクロスポリンの治療成績：prospective study．第44回日本腎臓学会学術総会, 2001．5．

12) 森 貴博, 清水 章, 益田幸成, 北村博司, 大橋隆治, 王 培荣, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山中宣昭(<sup>1)</sup> 付属病院病理部): HGF による障害糸球体の修復促進効果．第44回日本腎臓学会学術総会, 2001．5．

- 13) 王 培荣, 益田幸成, 清水 章, 北村博司, 大橋隆治, 森 貴博, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>(1)</sup> 付属病院病理部): Thy-1腎炎への抗 VEGF 抗体投与による影響について. 第44回日本腎臓学会学術総会, 2001. 5.
- 14) 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 温 敏<sup>1)</sup>, 石崎正通, 益田幸成, 山中宣昭<sup>(1)</sup> 付属病院病理部): 糸球体病変における無吻合分葉の意義: 連続切片及び共焦点レーザー顕微鏡による三次元的解析. 第44回日本腎臓学会学術総会, 2001. 5.
- 15) 益田幸成, 清水 章, 北村博司, 大橋隆治, 森 貴博, 王 培荣, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>(1)</sup> 付属病院病理部): Thy-1腎炎のメサンギウム流路障害負荷による影響について. 第44回日本腎臓学会学術総会, 2001. 5.
- 16) 森山 岳<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 岡野哲也<sup>1)</sup>, 日比野俊<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 逸見しのぶ, 川本雅司, 福田 悠<sup>(1)</sup> 内科学第四): 腸腰筋転移を認めた扁平上皮癌の1例. 第131回日本肺癌学会関東支部会, 2001. 7.
- 17) 北村博司: 異種移植腎における Delayed xenograft rejection と病理形態像. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 18) 新井孝司, 片岡光枝, 石川吾利美, 田村尚美, 益田幸成, 清水 章, 杉崎祐一<sup>1)</sup> 付属病院病理部): 補体依存性糸球体メサンギウム細胞死: apoptotic DNA fragmentation を伴った cell necrosis. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会, 2001. 9.
- 19) 清水 章: 実験糸球体腎炎における VEGF の役割. 第15回若手のための腎セミナー, 2001. 9.
- 20) 石崎正通, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐佐木信広<sup>1)</sup>, 若松恭子, 載 威<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): 糸球体係締壁基底膜の高電子密度化と腎疾患. 第3回, 日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 21) 佐藤悦子<sup>1)</sup>, 川本雅司, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 原口秀司<sup>2)</sup>, 岡田大輔, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup> 日本医科大学第四学年, <sup>2)</sup> 外科学第二, <sup>3)</sup> 付属病院病理部): 肺低分化腺癌の垂分類の試み. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 22) 安藤岳史<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 川本雅司, 中村 隆<sup>3)</sup>, 五十嶋一成<sup>4)</sup> 日本医科大学医学部第5学年, <sup>2)</sup> 内科学第一, <sup>3)</sup> 中村病院, <sup>4)</sup> 自衛隊中央病院): 北アルプス中高年登山者における登山中の疾病発症予防: 山小屋における SpO<sub>2</sub> 測定の意義. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 23) 榊原桂太郎<sup>1)</sup>, 宮本晴子<sup>1)</sup>, 平松久弥子<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 水谷英明<sup>1)</sup>, 藤本雅美<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 谷内七三子<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 逸見しのぶ, 川本雅司, 福田 悠<sup>(1)</sup> 内科学第四): 慢性過敏性肺炎の4症例に関する検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 24) 橋本和政<sup>1)</sup>, 大塚美穂<sup>1)</sup>, 北村博司, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 内科第2): 内皮下に大型の Deposit の沈着を大量に認めた IgA 腎症の1例. 第31回日本腎臓学会東部学術大会, 2001. 10.
- 25) 清水 章: 実験的糸球体腎炎に対する VEGF 投与の影響: VEGF による糸球体腎炎の新たな治療戦略 (腎疾患に対する治療戦略). 第5回腎糸球体カンファランス, 2001. 11.
- 26) 岡田大輔, 川本雅司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>1)</sup>, 福田 悠, 田中茂夫<sup>1)</sup> 外科学第二): 当教室での肺大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) における多剤耐性蛋白の免疫組織学的検討. 第42回日本肺癌学会総会, 2001. 11.
- 27) 岡田大輔, 逸見しのぶ, 中山智子, 川本雅司, 福田 悠, 原口秀司<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>2)</sup>, 榎本達治<sup>2)</sup>, 吾妻安良太<sup>2)</sup>, 吉村明修<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup> 外科学第二, <sup>2)</sup> 内科学第四): 間質性肺炎合併肺癌手術症例の検討. 第65回間質性肺疾患研究会, 2001. 11.
- 28) 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 川本雅司, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>3)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第二, <sup>3)</sup> 泌尿器科学): 尿中に出現した膀胱中腎癌 (Mesonephric adenocarcinoma) の1例. 第40回日本臨床細胞学会秋期大会, 2001. 11.
- 29) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第二): 間質性肺

- 炎の細胞像．第40回日本臨床細胞学会秋期大会，2001．11．
- 30) 沖野恵子<sup>1)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，川本雅司，松原美幸<sup>2)</sup>，釜口晴美<sup>2)</sup>，浅川一枝<sup>2)</sup>，渡會泰彦<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>女性診療科・産科，<sup>2)</sup>付属病院病理部)：卵巣原発平滑筋肉腫．第40回日本臨床細胞学会秋期大会，2001．11．
- 31) 原口秀司<sup>1)</sup>，川本雅司，福田 悠(<sup>1)</sup>外科学第二)：気腫性嚢胞のelastofibrosisの形成機序について．第2回Elastosis and Emphysema Research Meeting，2001．11．
- 32) 工藤祐子<sup>1)</sup>，桑山文代<sup>1)</sup>，新村文男<sup>1)</sup>，林 秀樹<sup>1)</sup>，岩垣浩之<sup>1)</sup>，市川家國<sup>1)</sup>，清水 章(<sup>1)</sup>東海大学医学部小児科)：学校検尿で発見された，低補体血症を伴うfocal MPGNの1例．第66回関東小児腎臓研究会，2001．12．
- 33) 池園哲郎<sup>1)</sup>，新藤 晋<sup>1)</sup>，李 麗淑<sup>1)</sup>，斉藤明彦<sup>1)</sup>，ルビーパワンカール<sup>1)</sup>，八木聡明<sup>1)</sup>，石崎正通，渡辺 淳<sup>2)</sup>，本田邦博<sup>3)</sup>，小林俊光<sup>4)</sup>，ラスクアンダーセン<sup>5)</sup>，工田昌也<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻科，<sup>2)</sup>同生化第2，<sup>3)</sup>浜松医科大学耳鼻科，<sup>4)</sup>東北大学耳鼻咽喉科，<sup>5)</sup>広島大学耳鼻科)：COCH遺伝子発現の異質性とプロモーター解析の有用性．厚生労働省特定疾患対策研究事業，前庭機能異常調査研究班，急性高度難聴調査研究班，合同総会，2001．12．
- 34) 福田 悠，寺崎泰弘，中山智子：プレオマイシン肺線維症におけるMMP-2の役割．第41回日本呼吸器学会総会，2001．
- 35) 寺崎泰弘<sup>1)</sup>，福田 悠，小泉 潔，竹屋元裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大学病理)：肺癌におけるエピモルフィン．第41回日本呼吸器学会総会，2001．
- 36) 福田 悠，寺崎泰弘，中山智子，山中宣昭：MMP-2ノックアウトマウスにおけるプレオマイシン肺線維症．第90回日本病理学会総会，2001．
- 37) 寺崎泰弘<sup>1)</sup>，竹屋元裕<sup>1)</sup>，福田 悠(<sup>1)</sup>熊本大学病理)：肺癌におけるエピモルフィン．第90回日本病理学会総会，2001．
- 38) 杉崎祐一<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，福田 悠，青木見佳子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>3)</sup>皮膚科)：7年間に3回組織学的検索されたprimary cutaneous CD30+ lymphoproliferative disorders．第90回日本病理学会総会，2001．
- 39) 藤本雅美<sup>1)</sup>，宮本晴子<sup>1)</sup>，榎本達治<sup>1)</sup>，弦間昭彦<sup>1)</sup>，吾妻安良田<sup>1)</sup>，谷内七三子<sup>1)</sup>，平松久弥子<sup>1)</sup>，臼杵二郎<sup>1)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，古明地弘和<sup>2)</sup>，荒牧琢己<sup>2)</sup>，逸見しのぶ，川本雅司，福田 悠，角 勇樹<sup>3)</sup>，吉沢靖之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科第4，<sup>2)</sup>同内科第1，<sup>3)</sup>東京医科歯科大学内科)：原発性胆汁性肝硬変と自己免疫性肝炎のoverlap症候群に合併した過敏性肺臓炎の1例．第144回日本呼吸器学会関東地方会，2001．
- 40) 福田 悠，中山智子，寺崎泰弘，功刀しのぶ，糸原重美<sup>1)</sup>，山中宣昭(<sup>1)</sup>理化学研究所行動遺伝学)：MMP-2ノックアウトマウスのプレオマイシン肺線維症．第48回マトリックス研究会大会，2001．
- 41) 寺崎泰弘，福田 悠，竹屋元裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大学第2病理)：肺癌におけるエピモルフィン．第48回マトリックス研究会大会，2001．
- 42) 高橋 浩<sup>1)</sup>，五十嵐勉<sup>1)</sup>，藤本千明<sup>1)</sup>，大原國俊<sup>1)</sup>，石崎正通(<sup>1)</sup>眼科)：角膜アルカリ熱傷に対する羊膜移植の免疫組織学的検討．第26回角膜カンファレンス，2002．2．
- 43) 寺崎泰弘<sup>1)</sup>，一門和也<sup>2)</sup>，東元一晃<sup>3)</sup>，福田 悠，弦間昭彦<sup>4)</sup>，持丸 博<sup>4)</sup>，竹屋元裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大学第2病理，<sup>2)</sup>熊本大学医学部第1内科，<sup>3)</sup>鹿児島市立病院内科，<sup>4)</sup>日本医科大学内科第4)：Micronodular pneumocyte hyperplasia (MNPH) 2例の検討．第91回日本病理学会総会，2002．3．
- 44) 益田幸成，清水 章，北村博司，石崎正通，杉崎祐一<sup>1)</sup>，福田 悠(<sup>1)</sup>付属病院病理部)：Thy-1腎炎のメサングウム流路障害負荷による影響について．第91回日本病理学会総会，2002．3．
- 45) 北村博司：メサングウム・管内増殖と巣状糸球体硬化病変を認めたネフローゼ症候群の1例．第26回東京腎生検カンファレンス，2002．3．
- 46) 北村博司：壊死性糸球体腎炎像を呈した急性拒絶反応の1例．第26回東京腎生検カンファレンス，2002．3．



## 9. 病理学第二講座

### 研究概要

現在、病理学第二講座では、人体病理学および実験病理学を効果的に組み合わせ治療へ応用すべく、以下の内容を中心に研究を進めている。

心血管系に関する研究；動脈硬化、心筋梗塞症や糖尿病における血管障害や組織障害の発生機序の解明を目的に、これらの病態発生に関わる形態変化をレーザー顕微鏡や電子顕微鏡などを用いて解析している。さらに病態の発生進展に関連する脂質成分、変性糖化物質（AGEs）やFGF（Fibroblast growth factor）などの増殖因子、フィブロネクチンなどの影響を細胞外基質成分の影響を種々の蛋白質の産生と遺伝子の発現の観点から検討している。

腫瘍の増殖進展に関する研究；腫瘍細胞の増殖進展転移にともなう癌遺伝子・癌抑制遺伝子の発現の変化、Epithelial growth factor（EGF）などの増殖因子の関与、ラミニンなどの細胞外基質の産生や細胞外基質との接着による影響について検討している。また、これらの遺伝子や蛋白質の発現を調節する因子（熱ショック蛋白など）の役割や細胞内シグナル伝達機構について検討している。

癌の増殖、転移に重要な役割を果たす血管およびリンパ管にも注目し、血管内皮細胞やリンパ管増殖に関与するVascular endothelial growth factor（VEGF）などの増殖因子やそれらの受容体についても研究を行っている。

消化器疾患に関する研究；特に胃、消化器疾患に関しては、過去7年間に集積した胃生検23000例を用い、ヘリコバクターピロリと胃炎、胃癌発生との関連やアジア、アフリカ各国の民族差も含め解析を進めている。また、各種肝障害ならびに肝癌や胃癌発生におけるチトクロームP450など薬物代謝酵素の関与や、p53癌抑制遺伝子などの遺伝子異常や遺伝子多型との関係についても検討している。

脳神経疾患に関する研究；脳神経病理学の領域では、老人性痴呆症であるアルツハイマー病やパーキンソン病、レビー小体病などの中枢神経変性疾患の形態的变化を中心に研究を進めている。特にアルツハイマー病に関しては、病態の発生進展に重要な老人斑の形成に注目し、老人斑の形成に関与する異常燐酸化Tau蛋白質や $\beta$ -amyloidなどの異常沈着物の発生機序の解明を目指して研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Taniai N<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Yushida H<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup>Dept. Surg): Synchronous carcinoma of gall bladder in a patient with intrahepatic bile duct carcinoma. *Hepato-Gastroenterology* 2000 ; 47 : 121-124 .
- 2) Nagashima M, <sup>1)</sup>, Hasegawa J<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Yamazaki J, <sup>1)</sup>, Nishigai K, Ishiwata T, , Asano G, Yoshino S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Joint and Rheumatism): Hepatocyte growth factor ( HGF ), HGF activator, and c-Met in synovial tissues in rheumatoid arthritis and osteoarthritis . *J Rheumatol* 2001 ; 28 ( 8 ): 1772-1778 .
- 3) Masuda Y, <sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Mori T<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Kitamura H<sup>1)</sup>, Ohashi R<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Asano G, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Yamanaka N<sup>1)</sup> : Vascular endothelial growth factor enhances glomerular capillary repair and accelerates resolution of experimentally induced glomerulonephritis . *Am J Pathol* 2001 ; 159 ( 2 ): 599-608 .
- 4) Li X, <sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Sawada N, Sun Y, , Ishiwata T, , Yokoyama M, Naito Z, Asano G ( <sup>1)</sup>Dept. Pathol, Tama-Nagayama Hospital ): Expression and localization of basic fibroblast growth factor and its mRNA in solitary fibrous tumor . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 ( 5 ): 384-392 .
- 5) Yano M, Hirai K, Naito Z, Yokoyama M, Ishiwata T, Shiraki Y, Inokuchi M, Asano G : Expression of cathepsin B and cystatin C in human breast cancer . *Surg Today* 2001 ; 3 ( 5 ): 385-389 .

- 6) Qin H, Ishiwata T, Asano G : Effects of the extracellular matrix on lumican expression in rat aortic smooth muscle cells in vitro . J Pathol 2001 ; 195 ( 5 ) : 604-608 .
- 7) Wang YG, Takashi E, Xu MF, Ayub A, Ashraf M : : Down-regulation of protein kinase C inhibits activation of mitochondrial K-ATP channels by diazoxide . Circulation 2001 ; 104 : 85-90 .
- 8) Obara K<sup>1)</sup>, Yokoyama M, Asano G, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Dept. Surg ) : Evaluation of myc and chromosome 8 copy number in colorectal cancer using interphase cytogenetics . Int. J. Onco 2001 ; 18 : 233-239 .
- 9) Aida N<sup>1)</sup>, Yamada N, Asano G, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Second Dept. Surg ) : 3-D analysis of vascular and capsular invasion in thyroid follicular carcinoma . Pathol. Int 2001 ; 51 : 425-430 .
- 10) Yamada S<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsuda N<sup>2)</sup>, Matsuhisa Takeshi <sup>3)</sup>, Yamada N, Miki M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. Faculty of Med. , Chiang Mai Univ. , <sup>2)</sup> Dept. Sug. , <sup>3)</sup> Dept. Endosc. , Tama-Nagayama Hospital ) : Genetic differences in CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among four Asian populations . J. Gastroenterol 2001 ; 36 : 669-672 .
- 11) Yamada S<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsuda N<sup>2)</sup>, Matsuhisa T<sup>3)</sup>, Yamada N, Miki M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. Faculty of Med. , Chiang Mai Univ. , <sup>2)</sup> Dept. Sug. , <sup>3)</sup> Dept. Endosc. , Tama-Nagayama Hospital ) : Genetic differences in CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among four Asian populations ; Prediction for H. pylori eradication by PPI-based triple therapy . J. New Rem. Clin 2001 ; 50 : 801-804 .
- 12) Wauke K<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Asano G, Yoshino S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Joint and Rheumatism ) : Expression and localization of vascular endothelial growth factor : C in rheumatoid arthritis synovial tissue . J Rheumatol 2002 ; 29 ( 1 ) : 34-38 .
- 13) Lu Y-P, Ishiwata T, Asano G : Lumican expression in alpha cells of islets in pancreas and pancreatic cancer cells . J Pathol 2002 ; 196 ( 3 ) : 324-330 .
- 14) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Mori O<sup>2)</sup>, Yokoyama M, Kawamoto Y, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Obstetrics and Gynecology , <sup>2)</sup> Surgical pathology, Chiba hokusoh hospital ) : Epithelioid trophoblastic tumor of the uterus : Cytological and immunohistochemical observation of a case . Pathol. Int 2002 ; 52 : 75-81 .
- 15) Onda M, Ishiwata T, Kawahara K, Wang R, Naito Z : Expression of lumican in thickened intima and smooth muscle cells in human coronary atherosclerosis . Exp Mol Pathol 2002 ; 72 : 142-149 .
- 16) 山田宣孝, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科第1, <sup>2)</sup> 多摩永山病院内視鏡科 ) : 内視鏡下三定点生検法 . 日本臨床 59 : 252-257 .
- 17) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山田宣孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ) : 日本とタイ王国における老年者, 高齢者の胃十二指腸疾患 : *Helicobacter pylori* 感染を含めて . 日高齢消化器会誌 2000 ; 2 : 40-45 .
- 18) 古力娜尔 庫尔班, 石渡俊行, 呂 月平, 藤井雄文, 川原清子, 内藤善哉, 山田宣孝, 淺野伍朗 : ヒト子宮頸癌における fibroblast growth factor ( FGF ) -10 の発現と細胞内情報伝達経路の検討 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 3 ) : 253-258 .
- 19) 横山宗伯, 西海けい子, 恩田宗彦, 内藤善哉, 淺野伍朗 : ヒト大動脈硬化病変への Chlamydia pneumoniae の関与 . 老人病紀要 2001 ; 18 : 26-29 .
- 20) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山田宣孝, Le Kim S ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup> 外科第1 ) : 日本とベトナムにおける老年者胃十二指腸疾患, *Helicobacter pylori* 感染の観察 . 日高齢消化器会誌 2001 ; 3 : 103-109 .
- 21) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山田宣孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ) : ベトナム人と日本人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の比較観察 . Prog. Dige. Endosc 2001 ; 59 : 27-31 .
- 22) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山田宣孝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup> 外科第1 ) : ベトナム人と日本人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の比較観察 . 消化器内視鏡の進歩 2001 ; 59 : 27-31 .

- 23) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 江上 聡<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>2)</sup>, 秋元成太<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>泌尿器科): 後腹膜転移巣の病理診断にて原発巣を診断しえた前立腺癌の1例. 日外科系連会誌 2001; 26: 110-114.
- 24) 内藤善哉, 横山宗伯, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 神経内分泌細胞への分化を伴った浸潤性乳癌の3例. J. Jpn. Soc. Clin. Cytol 2001; 41: 14-20.
- 25) 松久威史<sup>1)</sup>, 中村 洋<sup>2)</sup>, 吉野慎一<sup>2)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>付属病院リウマチ科): NSAIDsを長期投与されている慢性リウマチ患者の*Helicobacter pylori*感染に関する case control study. 消化器科 2002; 34: 106-112.
- 26) 松久威史<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): *Helicobacter pylori*除菌後にみられる食道, 胃, 十二指腸病変の観察. Therapeutic rese 2002; 22: 1872-1874.
- 27) 小林義典<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>4)</sup>, 中山一隆<sup>5)</sup>, 川本雅司<sup>6)</sup>, 杉原仁<sup>5)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯, 田村浩一<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>外科第1, <sup>4)</sup>外科第2, <sup>5)</sup>内科第3, <sup>6)</sup>病理第1): 炎症性偽腫瘍と診断された両側副腎癌の1例. 内科 2002; 89(5).

#### 学会発表

##### (1) 招待講演:

- 1) Yamada N, Matsuhisa T, Takeshi T(<sup>1)</sup> Dept. Endosc., Tama-Nagayama Hospital): Geographic Pathology of Helicobacter Pylori Infection-Comparative study in 9 regions among Asian 4 races- . 2nd Sino-Japanese Symposium On Digestive System Tumor (Guangzhou), 2001. 12.

##### (2) ワークショップ:

- 1) 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): NSAIDs長期服用者における*Helicobacter pylori*感染と背景胃粘膜の臨床的観察. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 2) 松倉則夫<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 山田シリカン<sup>1)</sup>, 富樫晃祥<sup>1)</sup>, 徳永 明<sup>1)</sup>, 山田宣孝, 松久威史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院内視鏡科): アジア各国での*H. Pylori*感染と胃癌との関係の paradox と interleukin-1\_SNPs. 第12回日本消化器癌発生学会総会, 2001. 9.

##### (3) 一般講演:

- 1) Xu G, Takashi E, Naito Z, Ishiwata T, Yokoyama M, Yamada N, Asano G: Hyperglycemia induced intracellular protein glycation and activation of ERK1/2 in ischemic and reperfused rat heart. The 8th International workshop on lessons from animal diabetes, 2001. 7.
- 2) Takashi E, Xu G, Ishiwata T, Naito Z, Yokoyama M, Yamada N, Asano G: Different activation of ERK1/2 by ischemia & reperfusion in short and long period of diabetic rat heart. ISHR The 18th annual meeting of Japanese section, 2001. 10.
- 3) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Kyono S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Naito Z, Horiba K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Surg): Expression of matrix metalloproteinase-2, -3, -7, and -9 and type IV collagen in colorectal cancer. 9th United European Gastroenterology Week, 2001. 10.
- 4) Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Ishikawa N, Yokoi K<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Naito Z, Kyono S<sup>1)</sup>, Takasaki H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Surg): Is the extended lateral lymphadenectomy combined to autonomic nerve preservation for advanced rectal cancer the standard operation?. 9th United European Gastroenterology Week, 2001. 10.
- 5) Xu G, Takashi E, Ishiwata T, Naito Z, Yokoyama M, Yamada N, Asano G: Long-term Hyperglycemia Reduced Myocardial ERK1/2 Phosphorylation is Directly Related with ERK1/2 Glycation in STZ-treated Rats. 6th Japan-China Joint Seminar on Histochemistry and Cytochemistry, 2001. 12.
- 6) Yokoyama M<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>3)</sup>, Katuki H<sup>4)</sup>, Suzuki T<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Asakawa K<sup>5)</sup>, Sugisaki Y<sup>5)</sup>

- (<sup>1</sup>) Department of Pathology, (<sup>2</sup>) Department of Obstetrics and Gynecology, (<sup>3</sup>) Division of Surgical Pathology, (<sup>4</sup>) Division of Pathology, (<sup>5</sup>) Division of Surgical Pathology): Three Interesting Cases of Trophoblastic Tumor. The 8th Tahi-Japanese cytopathology workshop (Chiangmai), 2002. 1.
- 7) Matsuhisa T<sup>1</sup>), Matsukura N<sup>2</sup>), Kuwabara K<sup>3</sup>), Yamada N, Tomitchong P<sup>4</sup>), Yamada S<sup>5</sup>), Boonyaritchaikij S<sup>6</sup>) (<sup>1</sup>) Endosc., Tama-Nagayama Hospital, (<sup>2</sup>) Dept. Surg, (<sup>3</sup>) Dep. Pediat Chiba-Hokusou Hospital, (<sup>4</sup>) Dept. Surg., Thammasat University Hospital, (<sup>5</sup>) Dept. Surg. Chiangmai University, (<sup>6</sup>) Dept. Family Med., Chiangmai University): Study of Helicobacter pylori infection in Thai adult and children comparing with Japanese. 世界消化器病学会 (バンコク), 2002. 2.
- 8) Machida M<sup>1</sup>), Kameyama K, Onda M, Asano G, Kumazak T<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Radiology): Spectroscopic analysis using hematoporphyrin as a microenvironmental probe for early atherosclerotic changes. European Congress of Radiology (Vienna), 2002. 3.
- 9) Boonyaritchaikij S<sup>1</sup>), Kuwabara K<sup>2</sup>), Matsuhisa T<sup>3</sup>), Yamada N (<sup>1</sup>) Dept. Family Med., Chiangmai University, (<sup>2</sup>) Dep. Pediat Chiba-Hokusou Hospital, (<sup>3</sup>) Dep. Endosc Tama-nagayama Hospital): Prevalence of Helicobacter pylori infection in Chiang Mai Children. 25th Annual Scientific Meeting on Mahidol's Day Chiangmai Medical Bulletin (Chiangmai), 2001. 8.
- 10) 町田 稔<sup>1</sup>), 亀山孝二, 恩田宗彦, 林 宏光<sup>1</sup>), 田島廣之<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 日本医科大学放射線科ハイテクリサーチセンター): 光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた動脈硬化巣微小環境変化の蛍光および吸光スペクトル解析. 第60回日本医学放射線学会総会, 2001. 4.
- 11) Sirikan1 Yamada <sup>1</sup>), 恩田昌彦<sup>1</sup>), 加藤俊二<sup>1</sup>), 松田徳子<sup>1</sup>), 松久威史<sup>2</sup>), 山田宣孝, 徳永 昭<sup>1</sup>), Supot Wuthikarn <sup>3</sup>), 松倉則夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 外科第1, (<sup>2</sup>) 多摩永山病院内視鏡科, (<sup>3</sup>) Dept. Surg., Faculty of Med., Chiang Mai Univ): Genetic difference of CYP2C19 single nucleotide polymorphism in four Asian countries. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 12) 松倉則夫<sup>1</sup>), 山田宣孝, 松久威史<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>) 外科第1, (<sup>2</sup>) 多摩永山病院内視鏡科): アジア各国でのH. Pylori感染と胃粘膜萎縮/腸上皮化生の違いとinterleukin-1 polymorphism. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 13) 廣井 信<sup>1</sup>), 恩田昌彦<sup>1</sup>), 内田英二<sup>1</sup>), 相本隆幸<sup>1</sup>), 横山 正<sup>1</sup>), 中村慶春<sup>1</sup>), 山村 進<sup>1</sup>), 松下 晃<sup>1</sup>), 柳健<sup>1</sup>), 福原宗久<sup>1</sup>), 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>2</sup>), 浅野伍朗, 田尻 孝<sup>1</sup>), 江上 格<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 外科第1, (<sup>2</sup>) 付属病院病理部): 膵癌における神経細胞接着分子 (NCAM) およびp-53蛋白の発現の意義. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 14) 柳 健<sup>1</sup>), 恩田昌彦<sup>1</sup>), 内田英二<sup>1</sup>), 廣井 信<sup>1</sup>), 福原宗久<sup>1</sup>), 松下 晃<sup>1</sup>), 山村 進<sup>1</sup>), 中村慶春<sup>1</sup>), 相本隆幸<sup>1</sup>), 田尻 孝<sup>1</sup>), 江上 格<sup>1</sup>), 内藤善哉, 浅野伍朗 (<sup>1</sup>) 外科第1): 膵癌肝転移および腹膜播種に対するサリドマイドの血管新生抑制効果の実験的検討. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 15) 加藤俊二<sup>1</sup>), 恩田昌彦<sup>1</sup>), 松田範子<sup>1</sup>), 平方敦史<sup>1</sup>), 峯田 章<sup>1</sup>), 吉岡正人<sup>1</sup>), 谷合信彦<sup>1</sup>), 真々田裕宏<sup>1</sup>), 吉田寛<sup>1</sup>), 松倉則夫<sup>1</sup>), 徳永 昭<sup>1</sup>), 田尻 孝<sup>1</sup>), 田尻 孝<sup>1</sup>), 内藤善哉, 浅野伍朗 (<sup>1</sup>) 外科第1): アルコール代謝に關与する cytochrome p450 2E1 (CYP2E1) 酵素の肝における局在とmRNA レベルおよびその遺伝子多型性との関連. 第37回日本肝臓学会総会, 2001. 4.
- 16) 松久威史<sup>1</sup>), 芳村昇治<sup>1</sup>), 日下部史郎<sup>1</sup>), 前田昭太郎<sup>2</sup>), 山田宣孝 (<sup>1</sup>) 多摩永山病院内視鏡科, (<sup>2</sup>) 同病理部): *Helicobacter pylori*除菌後の長期予後: 食道, 胃, 十二指腸病変の観察. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.
- 17) 松久威史, 松倉則夫, 山田宣孝 (<sup>1</sup>) 多摩永山病院内視鏡科, (<sup>2</sup>) 外科第1): ベトナム人と日本人における *Helicobacter pylori*感染, 背景胃粘膜の比較観察. 第72回回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 18) 松久威史<sup>1</sup>), 芳村昇治<sup>1</sup>), 日下部史郎<sup>1</sup>), 井上泰夫<sup>1</sup>), 山田宣孝 (<sup>1</sup>) 多摩永山病院内視鏡科): *Helicobacter pylori*除菌後の長期予後: 食道, 胃, 十二指腸病変の内視鏡的観察. 第7回日本ヘリコバクター学会, 2001. 6.

- 19) 松久威史<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 桑原健太郎<sup>3)</sup>, 松倉則夫<sup>4)</sup>, Boonyaritchaikij Surasak<sup>5)</sup>, 山田宣孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>千葉北総病院小児科, <sup>4)</sup>日本医科大学外科第1, <sup>5)</sup>チェンマイ大学家庭医学): タイ人小児における *Helicobacter pylori* 感染: 日本人小児との比較. 第7回日本ヘリコバクター学会, 2001. 6.
- 20) 川野陽一<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>(1)</sup>外科第1): ファーター乳頭部異型カルチノイド腫瘍の1例. 日本肝胆膵外科関連会議, 2001. 6.
- 21) 松田範子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉村成子<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>(1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>吉村せいこクリニック): 障害肝ラット肝切後の残肝再生に及ぼす高尿酸療法の効果. 第4回関東地区高気圧環境医学懇話会総会, 2001. 6.
- 22) 古力娜尔 庫尔班, 石渡俊行, 内藤善哉: ヒト子宮頸癌における fibroblast growth factor (FGF)-10 の発現と局在の検討. 第60回日本癌学会総会, 2001. 6.
- 23) 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 吉村和泰<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 美濃部かおり<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>(1)</sup>外科第1): 結腸放線菌症の1例. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 24) 廣井 信<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳健<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 浅野伍朗, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 膵癌における神経細胞接着分子 (NCAM) および p-53 蛋白の発現の意義. 第32回日本膵臓学会大会, 2001. 7.
- 25) 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): NSAIDs 長期服用慢性リウマチ患者における消化性潰瘍の臨床的観察: 胃炎を含めて. 第10回潰瘍病態研究会フォーラム, 2001. 8.
- 26) 石渡俊行: 線維芽細胞増殖因子 (FGF) ファミリーの消化器疾患における分子病理学的検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 27) 澤田名美枝, 孫 宇良, 石渡俊行, 浅野伍朗, 杉崎祐一, 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎: Solitary fibrous tumor における血管新生因子およびそのレセプターの発現. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 28) 古力娜尔 庫尔班, 石渡俊行, 呂 月平, 内藤善哉, 山田宣孝, 杉崎祐一, 浅野伍朗: ヒト子宮頸癌における Fibroblast growth factor (FGF)-10 の発現と局在. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 29) 徐 光, 喬 炎, 手塚 潔, 内藤善哉, 石渡俊行, 横山宗伯, 山田宣孝, 杉崎祐一, 浅野伍朗: 高血糖状態におけるグリケーションと心筋細胞内 ERK1/2 のリン酸化に及ぼす影響. 第5回日本心血管内分泌学会, 2001. 9.
- 30) 徐 光, 喬 炎, 手塚 潔, 藤井雄文, 王 若皎, 内藤善哉, 石渡俊行, 横山宗伯, 山田宣孝, 浅野伍朗: 高血糖ラットの虚血再灌流モデルにおける心筋の ERK1/2 の活性化と細胞内グリケーション. 第33回日本臨床電顕学会, 2001. 9.
- 31) 喬 炎, 徐 光, 川原清子, 藤井雄文, 河本陽子, 内藤善哉, 石渡俊行, 横山宗伯, 山田宣孝, 浅野伍朗: 加齢ラットにおける虚血再灌流後の心臓のリン酸化 ERK1/2 の減少と細胞内 AGEs の形成. 第33回日本臨床電顕学会, 2001. 9.
- 32) 徐 光, 喬 炎, 内藤善哉, 石渡俊行, 杉崎祐一: 長期間高血糖ラットにおける心筋 ERK1/2 の活性低下とグリケーションによる ERK1/2-AGE の形成. 第69回日本医科大学医学会, 2001. 9.
- 33) 松久威史<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 山田宣孝<sup>(1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>同病理部): *Helicobacter pylori* 感染率の地域差に関する検討: 付属第一病院 (千代田区) と付属多摩永山病院 (多摩市) の比較. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 34) 河本陽子, 川原清子, 須田浩光, 山田宣孝, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 小林 匡<sup>2)</sup>, 富樫晃祥<sup>2)</sup>, 三樹 勝<sup>2)</sup>,

- 松久威史<sup>3)</sup>, 三宅一昌<sup>4)</sup>, 坂元優美<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部,<sup>2)</sup>外科第1,<sup>3)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>4)</sup>内科第3)  
: *H. pylori*感染の検討: 鏡検法感染率と抗体陽性率の比較. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
- 35) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗(<sup>1)</sup>外科第1): 進行直腸癌における自律神経温存, 拡大側方郭清術. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 36) 田中宣威, 瀬谷知子, 山下精彦, 横井公良, 石川紀行, 松本智司, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 高崎秀明, 恩田昌彦, 内藤善哉, 浅野伍朗(<sup>1)</sup>外科第1): 大腸癌における MMP-2, 3, 7, 9 および IV 型 collagen の発現. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 37) 松田範子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 徳永昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗(<sup>1)</sup>外科第1): HCV 感染の有無および Cytochrome p450 2E1 (CYP2E1) の肝における局在, その mRNA レベル, 遺伝子多型性との関連. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 38) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): Cytochrome p450 2E1 の正常肝, 肝硬変, 肝細胞癌における発現の特徴と mRNA レベルおよびその遺伝子多型性との関連. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 39) 廣井 信<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 山村進<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): ハムスター膵癌腹膜播腫モデルにおける Tranilast の血管新生抑制効果. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 40) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内藤 善哉(<sup>1)</sup>外科第1): 肝発癌機序におけるアルコール代謝酵素の役割: Cytochrome p450 2E1 (CYP2E1) の mRNA, 蛋白発現およびアルコール代謝関連遺伝子の多型性の関与. 第12回日本消化器癌発生学会総会, 2001. 9.
- 41) 福原宗久<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 横山正<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 肝転移巣で減弱した VEGF の膵内における再発現について: ハムスター膵癌細胞株を用いた実験的検討. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 42) 内藤善哉, 横山宗伯, 杉崎祐一, 前田昭太郎: 神経内分泌細胞への分化を伴った浸潤性乳癌の3例. 第15回日本臨床細胞学会関東連合会総会, 2001. 9.
- 43) 松久威史<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>同病理部): *Helicobacter pylori*除菌に伴う上部消化管病変の内視鏡的検討. 第15回日本臨床内科医学会, 2001. 10.
- 44) 松久威史, 松倉則夫, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>外科第1): 中国(北京, 福州)と日本における胃十二指腸疾患, *Helicobacter pylori*感染の観察. 第43回日本消化器病学会大会, 2001. 10.
- 45) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>外科第1): ペプシノゲン値からみたアジア人の胃粘膜: *Helicobacter pylori*感染別観察. 第62回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 10.
- 46) 松田範子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Cytochrome p450 2E1 の正常肝, 肝硬変, 肝細胞癌における発現の特徴と mRNA レベルおよびその遺伝子多型性との関連. 第5回 日本肝臓学会大会, 2001. 10.
- 47) 松田範子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 吉村成子<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1): 高ビリルビン血症に対する高圧酸素療法の基礎的および臨床的研究. 第36回 日本高気圧環境医学会総会, 2001. 10.
- 48) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝硬変から肝癌への進行におよぼすアルコール代謝酵素の役割: Cytochrome p450 2E1 の mRNA, 蛋白発現およびアルコール代謝関連遺伝子の多

- 型性の関与．第5回日本肝臓学会大会，2001．10．
- 49) 松田範子<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，秋丸琥甫<sup>1)</sup>，徳永昭<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，内藤善哉，浅野伍朗( <sup>1)</sup>外科第1): 胃酸分泌を制御するIL-1 遺伝子多型性と胃粘膜萎縮，胃癌の発生および残胃の発癌におよぼす cytochrome p450 2E1 遺伝子多型の関与．第43回日本消化器病学会大会，2001．10．
- 50) 渡會泰彦<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>，田村浩一<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，横山宗伯，木村 剛<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1，<sup>3)</sup>泌尿器科学): 尿中に出現した膀胱中腎癌の1例．第40回日本臨床学会秋期大会学術集会，2001．11．
- 51) 横山宗伯，劉 愛民<sup>1)</sup>，大橋隆治<sup>2)</sup>，内藤善哉，前田昭太郎<sup>3)</sup>，福田 悠<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設，<sup>2)</sup>病理第1，<sup>3)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>4)</sup>付属病院病理部): 弛張熱と全身倦怠感を伴う孤立性肝腫瘍．第121回東京病理集談会，2001．11．
- 52) 町田 稔<sup>1)</sup>，亀山孝二，恩田宗彦，林 宏光<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線医学): 動脈硬化巣におけるヘマトポルフィリンを用いた散乱分光および位相解析．第42回日本脈管学会総会，2001．11．
- 53) 亀山孝二，町田 稔<sup>1)</sup>，長谷場健，王 若皎，町田 幹<sup>1)</sup>，恩田宗彦，横山宗伯，内藤善哉( <sup>1)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 冠動脈化病変の顕微分光とフーリ工位相散乱解析による検討．第42回日本脈管学会総会，2001．11．
- 54) 鶴田宏之<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，古川清憲<sup>1)</sup>，高崎秀明<sup>1)</sup>，吉村和泰<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>，会田邦晴<sup>1)</sup>，源河敦史<sup>1)</sup>，美濃部かおり<sup>1)</sup>，柏原 元<sup>1)</sup>，高橋 健<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，内藤善哉( <sup>1)</sup>外科第1): 結腸放線菌症の1例．第14回日本外科感染症研究会，2001．11．
- 55) 松久威史，芳村昇治，日下部史郎，前田昭太郎，山田宣孝( <sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>同病理部): *Helicobacter pylori*感染率の地域差に関する検討：東京都千代田区と多摩市の比較．第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．12．
- 56) 松久威史<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>2)</sup>，山田宣孝( <sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>外科第1): *Helicobacter pylori*陽性アジア人高齢者における組織学的胃炎の胃内分布：日本人高齢者との比較観察．第4回日本高齢消化器医学会議，2001．12．
- 57) 町田 稔<sup>1)</sup>，亀山孝二，恩田宗彦，林 宏光<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>日本医科大学放射線科ハイテクリサーチセンター) 動脈硬化モデルにおけるヘマトポルフィリンを用いた顕微散乱分光およびフーリ工位相解析．第54回心臓血管放射線研究会，2002．1．
- 58) 松久威史<sup>1)</sup>，芳村昇治<sup>1)</sup>，日下部史郎<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，山田宣孝( <sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>同病理部): これからの *Helicobacter pylori*除菌 regimenの検討．日本医科大学医学会第106回例会，2002．2．
- 59) 松久威史<sup>1)</sup>，桑原健太郎<sup>2)</sup>，Sang Le Kim<sup>3)</sup>，山田宣孝( <sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>2)</sup>千葉北総病院小児科，<sup>3)</sup>Tung Vuong Emergency Center, Ho-Chi-Minh, Vietnam ): ベトナム人小児における *Helicobacter pylori*感染の観察．第6回日本小児 *Helicobacter pylori*研究会，2002．3．

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、教職員および大学院生が一丸となって感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などの研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。また講座主任高橋が赴任している京都大学においても、HIV感染抵抗性の解明に向けた研究をさらに進めている。また昨年より、ハーバード大学医学部より結核菌脂質の抗原提示研究者として世界的に著名な杉田昌彦博士を教授として迎え、益々の充実をめざしている。

感染症学および感染免疫学：[A]HIVに対する免疫応答の検討とワクチン開発：(1) 千葉大学齋藤研究室との共同研究で開発したHIVウイルス特異的キラーT細胞(CTL)のT細胞レセプターを発現したトランスジェニックマウスを用い、CTLの感染防御における意義を追求している。(2)そして、こうしたCTLがウイルス由来のペプチド断片により活性低下やApoptosisに陥るメカニズムを解明するとともに、免疫制御剤であるサイクロスポリンAによりこうしたCTLの破壊が抑制される可能性を見出した。(3)また粘膜免疫研究の本邦におけるメッカである大阪大学清野研究室や慶応大学石川研究室との共同研究を展開し、HIVに対する粘膜免疫システムの解明および粘膜ワクチンの開発を進めている。(4)さらに、これら粘膜や皮膚において侵入異物分子の提示に関わる樹上細胞の分離や誘導の研究を、皮膚組織あるいは分泌型IgA抗体を大量に含有する乳汁を用いて展開している。(5)一方、京都大学との共同研究において粘膜投与したNef遺伝子欠損ウイルスにより効率よく親株に対する感染抵抗性が惹起されたこと、それにCTLが関与することを見出した。(6)現在、欠損したNef遺伝子の意義を探りCTLの認識抗原を同定する目的で、HIVのNef及びGag/Pol領域遺伝子を効率よく移入することのできるベクターを開発している。[B]C型肝炎関連：HCVウイルス自体に特異的CTLの活性化を抑制し持続感染を誘発する機能が存在すること、またこのCTLが個体内で肝炎発症に関与することを、都臨床研の小原博士らと共同研究で見出しており、現在その詳細な機序の解明に取り組んでいる。[C](1)ピロリ菌ウレアーゼを不活性化する抗体の認識部位を同定するとともに、この中和抗体が実際にピロリ菌の経口感染に対する感染防御効果を有するかをモデル動物において検討中である。[D]結核菌の脂質抗原がCD1分子によって免疫系に提示されるメカニズムを解析中であり、本結果をもとに現在のBCGワクチンよりも更に強力な活性を有する結核菌を制御するための新たなワクチン開発をモデル動物を用いた研究により展開中である。

腫瘍免疫学：(1)腫瘍細胞表面より弱酸抽出法により腫瘍特異抗原分離・採取した抗原物質の実体を解明したところ、糖脂質が抗原物質の一部になっていることを見出し、これらの糖脂質を特異的に認識するCTLが抗腫瘍作用を有することを確認した。(2)丸山ワクチンなどの結核菌由来の免疫賦活物質の本体が蛋白ではなく、糖や脂質から構成されること、(3)及びこうした物質が樹状細胞を介してNKT細胞やT細胞を活性化することを見出した。(4)また、これらT細胞が粘膜に発生した腫瘍を制御するのみならず細胞の成長そのものに強く関与することも見出し、その認識抗原の実体を追跡中である。

アレルギー・膠原病学：[A](1)卵白OVAをコレラ毒素とともに経口投与した場合には、糞便中の分泌型IgAならびにアレルギーの原因である特異的IgE抗体産生が誘発されること、そしてこの分泌には粘膜由来のT細胞が強く関与することを見出し、アレルギー制御におけるT細胞の役割を解明する研究を展している。



## 研究業績

### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

綜説 :

- 1) 大園英一, 新谷英滋, 高橋秀実, 栗原 怜 : CDC ガイドラインに基づいた透析室内感染予防対策 : 特に MRSA 感染予防対策について . 日本透析医学会誌 2001 ; 16 ( 3 ): 327-334 .
- 2) 大園英一, 栗原 怜 : 透析患者における感染症学 : 診断と治療の進歩 II 特殊な病態における感染症 ( 5 ) 呼吸管理中の患者 . 臨透析 2001 ; 17 ( 8 ): 1111-1116 .

( 1 ) 原著 :

- 1) Machida K<sup>1,2)</sup>, Tsukiyama-Kohara K<sup>1)</sup>, Seike E<sup>1,3)</sup>, Tone S<sup>4)</sup>, Shibasaki F<sup>5)</sup>, Shimizu M, Takahashi H, Hayashi Y<sup>6)</sup>, Funata N<sup>6)</sup>, Taya C<sup>7)</sup>, Yonekawa H<sup>7)</sup>, Kohara M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Cell Biology, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science , <sup>2)</sup> Department of Immunology, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, University of Tokyo , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Self-Defense Forces Central Hospital , <sup>4)</sup> Department of Biochemistry, Kawasaki Medical School , <sup>5)</sup> Department of Molecular Cell Physiology, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science , <sup>6)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital , <sup>7)</sup> Laboratory of Animal Science, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science ): Inhibition of cytochrome c release in Fas-mediated signaling pathway in transgenic mice induced to express hepatitis C viral proteins . Journal of Biological Chemistry 2001 ; 276 ( 15 ): 12140-12146 .
- 2) Turuoka S, Osono E, Nishiki K, Kawaguchi A, Arai T, Furuyoshi S, Saito T, Takata S, Sugimoto K, Kurihara S, Fujimura A : Removal of digoxin by column for specific adsorption of beta 2 microglobulin : A potential use for digoxin intoxication . Clinical Pharmacology and Therapeutics 2001 ; 69 ( 6 ): 422-430 .
- 3) Das H<sup>1)</sup>, Groh V<sup>2)</sup>, Kujil C<sup>1)</sup>, Sugita M, Morita CT<sup>3)</sup>, Spies T<sup>2)</sup>, Bukowski JF<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Rheumatology, immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School, <sup>2)</sup> Fred Hutchinson Cancer Research Center, Clinical Research Division, <sup>3)</sup> Division of Rheumatology, University of Iowa ): MICA engagement by human Vgamma2Vdelta2 T cells enhances their antigen-dependent effector function . Immunity 2001 ; 15 ( 1 ): 83-93 .
- 4) Pena-Cruz V<sup>1)</sup>, Ito S<sup>2)</sup>, Oukka M<sup>1)</sup>, Yoneda K<sup>3)</sup>, Dascher CC<sup>4)</sup>, Von Lichtenberg F<sup>5)</sup>, Sugita M ( <sup>1)</sup> Department of Immunology and Infectious Disease, Harvard School of Public Health, <sup>2)</sup> Department of Neurobiology, Harvard Medical School, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Akita University School of Medicine, <sup>4)</sup> Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School, <sup>5)</sup> Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School ): Extraction of human Langerhans cells : A method for isolation of epidermisresident dendritic cells . Journal of Immunological Methods 2001 ; 255 ( 1-2 ): 83-91 .
- 5) Hirota K, Nagata K<sup>1)</sup>, Norose Y, Futagami S<sup>2)</sup>, Nakagawa Y, Senpuku H<sup>3)</sup>, Kobayashi M<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine , <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Oral Science, National Institute of Infectious Disease ): Identification of an antigenic epitope in Helicobacter pylori urease that induces neutralizing antibody production . Infection and Immunity 2001 ; 69 ( 1 ): 6597-6603 .
- 6) Bannai M<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Naito T<sup>1)</sup>, Kameyama H<sup>1)</sup>, Abe T<sup>1)</sup>, Kawamura H<sup>1)</sup>, Tsukada C<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hatakeyama K<sup>2)</sup>, Hamada H<sup>3)</sup>, Nishiyama Y, Ishikawa H<sup>3)</sup>, Takeda K<sup>4)</sup>, Okumura K<sup>4)</sup>, Taniguchi M<sup>5)</sup>,

- Abo T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, Niigata University School of Medicine, <sup>2)</sup> First Department of Surgery, Niigata University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Microbiology, Keio University School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Immunology, Juntendo University School of Medicine, <sup>5)</sup> Department of Molecular Immunology, Graduate School of Medicine, Chiba University ): Abundance of unconventional CD8+ natural killer T cells in the large intestine . European Journal of Immunology 2001 ; 31 ( 11 ): 3361-3369 .
- 7) Giuliani A<sup>1,2)</sup>, Prete SP<sup>1)</sup>, Graziani G<sup>1)</sup>, Aquino A<sup>1)</sup>, Balduzzi A<sup>1)</sup>, Sugita M, Brenner MB<sup>3)</sup>, Iona E<sup>4)</sup>, Fattorini L<sup>4)</sup>, Orefici G<sup>4)</sup>, Porcelli SA<sup>5)</sup>, Bonmassar E<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neuroscience, University of Rome, <sup>2)</sup> Institute of Neurobiology and Molecular Medicine, National Council of Research, <sup>3)</sup> Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School, <sup>4)</sup> Laboratory of Bacteriology and Medical Mycology, Istituto Superiore di Sanita, <sup>5)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Albert Einstein College of Medicine, <sup>6)</sup> Istituto Dermopatico dell'Immacolata ): Influence of *Mycobacterium bovis* Bacillus Calmette Guerin on in vitro induction of CD1 molecules in human adherent mononuclear cells . Infection and Immunity 2001 ; 69 ( 12 ): 7461-7470 .
- 8) Watari E, Shinya E, Kurane S, Takahashi H : Effects of cyclosporin A on cell fusion in a monkey kidney cell line persistently infected with measles virus . Intervirology 2001 ; 44 ( 4 ): 209-214 .
- 9) Hamada H<sup>1,2)</sup>, Hiroi T<sup>3)</sup>, Nishiyama Y, Takahashi H, Masunaga Y<sup>4)</sup>, Hachimura S<sup>4)</sup>, Kaminogawa S<sup>4)</sup>, Takahashi-Iwanaga H<sup>5)</sup>, Iwanaga T<sup>6)</sup>, Kiyono H<sup>3)</sup>, Yamamoto H<sup>2)</sup>, Ishikawa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology, Keio University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Immunology, Graduate School of Pharmaceutical Science, Osaka University , <sup>3)</sup> Department of Mucosal Immunology, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University , <sup>4)</sup> Department of Applied Biological Chemistry, University of Tokyo , <sup>5)</sup> Department of Anatomy, School of Medicine, Hokkaido University , <sup>6)</sup> Laboratory of Anatomy, Graduate School of Veterinary Medicine, Hokkaido University ): Identification of multiple isolated lymphoid follicles on the antimesenteric wall of the mouse small intestine . The Journal Immunology 2002 ; 168 ( 1 ): 57-64 .
- 10) Nishiyama Y, Hamada H<sup>1,2)</sup>, Nonaka S<sup>1)</sup>, Yamamoto H<sup>2)</sup>, Nanno M<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>4)</sup>, Takahashi H, Ishikawa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology, Keio University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Immunology, Graduate School of Pharmaceutical Science, Osaka University , <sup>3)</sup> Yakult Central Institute for Microbiological Research , <sup>4)</sup> Second Department of internal Medicine, Nippon Medical School ): Homeostatic regulation of intestinal villous epithelia by B lymphocytes . The Journal of Immunology 2002 ; 168 ( 6 ): 2626-2633 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 熊谷善博 : Biotechnology を有効に利用したモノクローナル抗体の作製法 . 臨床消化器内科増刊号 消化器疾患の分子医学 2001 ; 16 ( 7 ): 815-823 .
  - 2) 高橋秀実 : DNA ワクチンの実体と応用 . 細胞 2001 ; 33 ( 9 ): 352-355 .
  - 3) 高橋秀実 : 樹状細胞による細胞性免疫の賦活 . 感染・炎症・免疫 2001 ; 31 ( 1 ): 20-28 .
  - 4) 高橋秀実 : HIV 感染症における粘膜免疫の役割 : 樹状細胞と T 細胞の関与 . 医学のあゆみ 2001 ; 199 ( 1 ): 111-114 .
  - 5) 高橋秀実 : HIV と免疫不全 : ワクチン戦略の全貌 . Mebio 2001 ; 18 ( 11 ): 42-49 .
  - 6) 高橋めぐみ, 高橋秀実 : グランザイム B のレセプターは mannose 6- phosphate/Insulin-like growth factor II receptor である . 臨床免疫 2001 ; 36 ( 6 ): 944-948 .
  - 7) 杉田昌彦 : CD1 : 抗原提示の新たなパラダイム . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 6 ): 466-471 .
  - 8) 高橋秀実 : エイズワクチン開発に向けて . J. AIDS Res 2001 ; 3 ( 2 ): 115-117 .
  - 9) 高橋秀実 : 樹状細胞を用いた腫瘍制御の可能性 . 炎症と免疫 2001 ; 9 ( 3 ): 287-288 .
  - 10) 中川洋子, 高橋秀実 : 樹状細胞による抗原特異的細胞傷害性 T 細胞の賦活 . 炎症と免疫 2001 ; 9 ( 3 ): 320-327 .

- 11) 高橋秀実：感染症における免疫とワクチン：細胞性免疫の重要性．臨床と微生物 2002；29（2）：191-194．
- 12) 榎崎秀彦<sup>1)</sup>，杉田昌彦（<sup>1)</sup>小児科学）：CD1：感染免疫の新たなパラダイム．別冊・医学のあゆみ 免疫疾患（第2版） 2002；72-76．

(3) 研究報告書：

- 1) 高橋秀実：HIV 構造遺伝子と HIV 制御遺伝子のコンビネーションワクチンの開発に関する研究「ワクチンの CTL 誘導能及び免疫学的交差性」．平成 13 年度創薬等ヒューマンサイエンス財団報告書 2001；1（1）：pp1-2．
- 2) 高橋秀実：生体内のリアルタイムの情報に基づいた HIV ウイルス特異的 T 細胞の試験管内再構築技術の確立に関する研究「HIV ウイルスに対する T 細胞の免疫応答」．平成 13 年度創薬等ヒューマンサイエンス財団報告書 2001；1（1）：pp1-2．
- 3) 高橋めぐみ，中川洋子，高橋秀実：HIV 由来浮遊抗原ペプチドによる特異的 CTL のアポトーシス誘導（II）．平成 13 年度厚生科学研究費補助金報告 2001；1（1）：pp1-2．

著 書

- 1) 高橋秀実：〔分担〕免疫学辞典（大沢利昭，小山次郎，奥田研爾，矢田純一），2001；東京化学同人社．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Sugita M：CD1 monitors mycobacterial infection．International Symposium on NK/NKT cells in autoimmunity (Tokyo, Japan), 2001．12．
- 2) Sugita M：T lymphocyte recognition of microbial lipid antigens presented by CD1．The 1st Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences, 2001．10．
- 3) 高橋秀実：ウイルス感染と特異的キラー T 細胞．平成 13 年度京都大学ウイルス研究所学術講演会，2001．6．
- 4) 杉田昌彦：CD1：脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子．第 69 回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 5) 杉田昌彦：CD1：抗原提示の新たなパラダイム．第 8 回 NIH 研究会，2001．12．
- 6) 高橋秀実：新たな腫瘍免疫への期待．第 8 回外科侵襲とサイトカイン研究会，2001．12．
- 7) 杉田昌彦：脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子 CD1 と腫瘍との関わり．第 553 回日本泌尿器学会東京地方会，2002．3．

(2) 教育講演：

- 1) 渡理英二：インフルエンザへのアプローチ 1. 基礎的な立場から．平成 13 年度第 3 回日本医師会生涯教育講座，2001．10．
- 2) 馬淵綾子：ラット肝星細胞の活性化とクラスター形成．大学院セミナー長崎大学医学部医動物学講座，2001．12．

(3) シンポジウム：

- 1) 高橋秀実：細胞性免疫による腫瘍制御の可能性．第 43 回日本歯科基礎医学会学術大会，2001．9．
- 2) 高橋秀実：免疫応答「先天免疫と獲得免疫」．第 15 回日本エイズ学会学術集会，2001．11．

(4) セミナー：

- 1) 高橋秀実：ウイルス感染制御における細胞性免疫の役割：Ⅰ型 T 細胞とⅡ型 T 細胞の関与について．第 49 回日本ウイルス学会総会，2001．11．

(5) ワークショップ：

- 1) Mabuchi A, Mullaney I, Sheard P, Hessian P, Zimmermann A, Wheatley AM：肝再生の早期に活性化するラット肝星細胞のクラスター形成．第 4 回肝臓生物学会，2001．12．

(6) 一般講演：

- 1) Takahashi H, Takahashi M, Berzofsky Jay A<sup>1)</sup>, Nakagawa Y (<sup>1)</sup> Mol. Immunogenet. and Vaccine Res. Sec. ,

- NCI, NIH. ): Counter-regulation of cytolytic activity and cytokine production in HIV-1-specific murine CD8<sup>+</sup> CTL by free epitopic peptide . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 2 ) Kumagai Y, Kiyoshima Y<sup>1)</sup>, Owaki A, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Biomedical Div. , Sumitomo Electric Industry, Yokohama, Japan. ): The processing of epitopes grafted into the immunoglobulin hypervariable regions . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 3 ) Sugiyama H, Yanagie H<sup>1)</sup>, Takaku S, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Dpt. Tumor surgery, Institute of Medical sci. University of Tokyo. ): Cytotoxicity of hepatitis C virus nonstructural protein 2 . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 4 ) Takaku S, Wakita Y<sup>1)</sup>, Nakawaga Y, Takano T<sup>2)</sup>, Kohara M<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Dept. Microbiol. , The Tokyo Metro. Inst. Med. Sci. , Tokyo, Japan. , <sup>2)</sup> Dept. First. Int. Med. , Nippon Medical School, Tokyo, Japan. ): Induction and analysis of cytotoxic T lymphocytes against hepatitis C virus ( HCV ) structural antigens using HCV transgenic mice with Cre/Lox-P switching expression system . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 5 ) Ichikawa M, Takahashi M, Takeshita T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Dept. Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan ): The character and potentiality of macrophages in human breast milk . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 6 ) Yanagihara T, Norose Y, Matsuoka Y<sup>1)</sup>, Kumagai Y, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Yakult Central Institute for Microbiol. Res. , Tokyo, Japan. ): Polymeric Ig receptor deficiency in glomerulus is responsible for the IgA nephropathy in DDY mice . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 7 ) Takeuchi J, Watari E, Owaki A, Takahashi M, Shinya E, Kawana S<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatol. , Nippon Medical School, Tokyo, Japan ): The effects of CpG motif on various type of dendritic cells induced from human blood mononuclear cells . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 8 ) Shinya E, Watari E, Takahashi H : Plasmid-lentivirus : A novel non-viral /viral vector . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 9 ) Yokosuka T<sup>1)</sup>, Takase K<sup>1)</sup>, Takahashi H, Arase H<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Molecular Genetics, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan. ): Unexpectedly high flexibility of CDR3b in antigen recognition by cytotoxic T cells from HIV gp160-specific TCR-transgenic mice . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 10 ) Wakabayashi A, Watari E, Takahashi M, Kumagai Y, Hirokawa K<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Dept. Pathol. and Immunol. , Tokyo Med. and Dent. Univ. , Tokyo, Japan. ): Analysis of the mechanisms of oral tolerance mediated in OVA-immunized mice : Detection of antigenic OVA fragments in the sera . 11th International Congress of Immunology ( Stockholm, Sweden ), 2001 . 7 .
- 11 ) Mabuchi A, Mullaney I, Sheard P, Hessian P, Zimmermann A : Cluster formation and activation of hepatic stellate cells during early stages of liver regeneration in the rat . 2nd International Conference on Hepatic & Splanchnic Circulation in Health & Diseases ( Dunedin, New Zealand ), 2001 . 8 .
- 12 ) Kurane S, Watari E, Hosoya M, Shimizu H, Takahashi H, Kudoh S : A sensitive gamma -IFN assay capable of detecting nosocomial Mycobacterium tuberculosis ( TB ) infection . 2001 Infectious Diseases Society of America Annual Meeting ( San Francisco, USA ), 2001 . 10 .
- 13 ) Ohkuni H, Watanabe Y, Todome Y, Takahashi H, Ohkura K, Nagamune H, Hishima Y : Cloning and domain expression of streptococcus mitis-derived human platelet aggregation factor ( Sm-hPAF ) gene in Escherichia coli . The Seventh International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone, Japan ), 2001 . 12 .

- 14) Takahashi H, Takahashi M : Brief exposure to the epitopic peptide can induce apoptosis for HIV-1-specific CD4+ CTL . Japan-US Cooperative Medical Science Program : The 14th Joint Scientific Meeting of AIDS ( Seattle, USA ), 2002 . 3 .
- 15) Shinya E, Owaki A, Watanabe K, Kawashima T, Iizumi T, Takahashi H : Production of multimeric soluble CD4 using C-terminal fragment of C4-binding protein gene . 第31回日本免疫学会総会 , 2001 . 12 .
- 16) Sugita M, Brenner MB ( <sup>1</sup>Harvard Med. Sch. ) : CD1 monitors intracellular mycobacteria . 第31回日本免疫学会総会 , 2001 . 12 .
- 17) 若林あや子, 高橋めぐみ, 中川洋子, 熊谷善博, 高橋秀実 : OVAの消化が血中OVA抗原と免疫寛容に与える影響 . 第55回日本栄養・食糧学会大会 , 2001 . 5 .
- 18) 渡邊ユキノ, 留目優子, 加藤晃子, 斉藤栄一, 小澤素子, 高橋秀実, 大国寿士 : 組み換え型レンサ球菌発熱毒素 - B ( rSPE B/SCP ) の生物学的性状に関する研究 . 第10回ランスフィールドレンサ球菌研究会 , 2001 . 6 .
- 19) 大国寿士, 留目優子, 加藤晃子, 高橋秀実 : 組み換え型レンサ球菌発熱毒素 - B ( SPEB ) の作製とその性状 . 第22回日本炎症・再生医学会 , 2001 . 7 .
- 20) 西山康裕, 浜田裕正, 高橋秀実, 石川博通 : gd型上皮細胞間T細胞サブセットによる腸管上皮細胞の再生統御 . 第38回日本消化器免疫学会 , 2001 . 8 .
- 21) 榎瀬良美<sup>1)</sup>, 三宅在子<sup>1)</sup>, 宇井雅博<sup>1)</sup>, 鈴木 元<sup>1)</sup>, 上坂浩実<sup>1)</sup>, 国澤 純<sup>2)</sup>, 清野 宏<sup>2)</sup>, 高橋秀実, 速水正憲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>京都大学ウイルス研究所エイズ研究部門, <sup>2)</sup>大阪大学微生物病研究所免疫・生体防御研究部門 ) : nef欠損SIVmac/HIV-1キメラウイルス ( SHIV-dn ) の免疫誘導能と粘膜感染防御効果 . 第49回日本ウイルス学会総会 , 2001 . 11 .
- 22) 赤畑 渉<sup>1)</sup>, 井戸栄治<sup>1)</sup>, 秋山尚志<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 速水正憲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>京都大学ウイルス研究所感染病態 ) : 非感染性粒子を産生するSHIV全ゲノムプラスミドを用いたDNAワクチン . 第49回日本ウイルス学会総会 , 2001 . 11 .
- 23) 山西慎吾, 花輪智子, 田口晴彦, 大崎敬子, 山本友子, 高橋秀実, 神谷 茂 : Listeria monocytogenesにおけるDnaKの病原因子発現への関与 . 第84回日本細菌学会関東支部総会 , 2001 . 11 .
- 24) 栗林秀樹, 金子礼志, 中川洋子, 渡理英二, 斉藤 隆, 熊谷善博, 高橋秀実 : HIV-P18特異的CTLのTCRトランスジェニックマウスを用いたHIV-P18組み換えワクチニアウイルスに対する感染防御能の解析 . 第15回日本エイズ学会総会 , 2001 . 11 .
- 25) 宇賀神秀樹, 福島達伸, 上坂浩実, 清水真澄, 日高千鶴乃, 渡理英二, 速水正憲, 高橋秀実 : SHIV感染防御能獲得ザルを用いた感染抵抗性の解析 : 感染T細胞を特異的に傷害するキラーT細胞の特性 . 第15回日本エイズ学会総会 , 2001 . 11 .
- 26) 高久 俊, 清水真澄, 脇田隆字<sup>2)</sup>, 中川洋子, 石井律子, 杉山弘高, 高野照夫<sup>1)</sup>, 小原道法<sup>3)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>日本医大 第一内科, <sup>2)</sup>東京都精神研 微生物, <sup>3)</sup>東京都臨床研 感染生体防御 ) : C形肝炎ウイルス ( HCV ) トランスジェニックマウスにおけるHCV構造蛋白特異的細胞傷害性Tリンパ球の誘導とその解析 . 第31回日本免疫学会総会 , 2001 . 12 .
- 27) 渡理英二, 倉根修二<sup>1)</sup>, 清水真澄, 日高千鶴乃, 杉田昌彦, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup>内科学第4 ) : Mycobacterium ( M. tuberculosis ) のT細胞活性化蛋白 ( EAST-6 ) 由来ペプチドに対する人リンパ球反応性の検討 . 第31回日本免疫学会総会 , 2001 . 12 .
- 28) 大国寿士<sup>1)</sup>, 渡邊ユキノ, 留目優子, 櫻田紳策<sup>2)</sup>, 高橋秀実, 斉藤博久<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>メデカジャパン・総合研, <sup>2)</sup>国際医療センター, <sup>3)</sup>国立小児医療センター研究所 ) : 組み換え型Streptococcal pyrogenic exotoxin B ( rSPE B ) の性状に関する研究 マスト細胞からのヒスタミン遊離能 . 第31回日本免疫学会総会 , 2001 . 12 .
- 29) 高橋めぐみ, 大園英一, 馬淵綾子, 高橋秀実 : 浮遊ペプチド抗原によるキラーT細胞のアポトーシス誘導 ( II ) . 第31回日本免疫学会総会 , 2001 . 12 .
- 30) 熊谷善博, 大脇敦子, 栗林秀樹, 高橋秀実 : 免疫グロブリン超可変部へ分子移植したHIV-1のgp120V3エピト

ープのプロセッシングと抗原提示．第31回日本免疫学会総会，2001．12．

- 31) 市川雅男，高橋めぐみ，金 栄淳，里見操緒，竹下俊行<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>(1)</sup>産婦人科学): 母乳由来マクロファージの特徴と樹状細胞への分化．第31回日本免疫学会総会，2001．12．
- 32) 竹内淳子，渡理英二，大脇敦子，新谷英滋，藤本千明，川名誠司<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>(1)</sup>皮膚科学): ヒト末梢血単球由来樹状細胞の菌体成分に対する反応．第31回日本免疫学会総会，2001．12．
- 33) 中川洋子，清水真澄，山西慎吾，福島達伸，高橋秀実: D-アミノ酸を含むエピトープペプチドを特異的に認識するキラーT細胞の誘導(その2)第31回日本免疫学会総会．第31回日本免疫学会総会，2001．12．
- 34) 西山康裕，金城安慶<sup>2)</sup>，浜田裕公<sup>1)</sup>，坂上静香<sup>1)</sup>，栗原さやか<sup>1)</sup>，野中聡史<sup>1)</sup>，高橋秀実，山岸秀夫<sup>2)</sup>，石川博通<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶応大学・医・微生物免疫，<sup>2)</sup>京都大学・医・生物物理): 型上皮細胞間T細胞サブセットによる腸管上皮細胞の再生統御．第31回日本免疫学会総会，2001．12．
- 35) 坂上静香<sup>1)</sup>，栗原さやか<sup>1)</sup>，野中聡史<sup>1)</sup>，浜田裕公<sup>1)</sup>，西山康裕，高橋秀実，石川博通<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶応大学・医・微生物免疫): 免疫機能関連遺伝子ミュータントマウスにおける腸管上皮細胞の増殖．第31回日本免疫学会総会，2001．12．
- 36) 柳原 剛，野呂瀬嘉彦，松岡良彰<sup>2)</sup>，茂呂 周<sup>3)</sup>，榎崎秀彦，村上睦美<sup>1)</sup>，熊谷善博，高橋秀実<sup>(1)</sup>日本医科大学小児科学，<sup>2)</sup>ヤクルト本社中央研究所，<sup>3)</sup>日本大学歯学部病理学): 腎におけるpoly Ig receptor (pIgR) 発現の低下はddY マウスにおけるIgA 腎症発症要因の一つである．第31回日本免疫学会総会，2001．12．
- 37) 浜田裕公<sup>1)</sup>，廣井隆親<sup>2)</sup>，西山康裕，高橋秀実，八村敏志<sup>3)</sup>，上野川修一<sup>3)</sup>，清野 宏<sup>2)</sup>，山元 弘<sup>4)</sup>，石川博通<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶応大学・医・微生物免疫，<sup>2)</sup>阪大・微研・免疫化学，<sup>3)</sup>東大院・農生科・応生科，<sup>4)</sup>阪大院・薬・細胞生理): マウス腸管粘膜に分布する孤立リンパ小節(第2報)．第31回日本免疫学会総会，2001．12．
- 38) 若林あや子，清水真澄，中川洋子，西山康裕，斉藤 善，熊谷善博，高橋秀実: OVA 経口投与による抗OVA 抗体産生ならびにOVA 特異的CTLの誘導．第31回日本免疫学会総会，2001．12．

## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

研究室では中毒や疾病の発症機序を明らかにすることを目的に研究を進めている。(1) サリンとその合成過程での副生成物への被曝とアセチルコリンエステラーゼ及びパラオキシナーゼとの関係についての研究：既に副生成物の存在を報告した。現在はパラオキシナーゼが中毒の発症する過程を抑制するという仮説に基づいて研究を進めており、ヒト赤血球アセチルコリンエステラーゼと血清パラオキシナーゼの精製を行っている。(2) ダイオキシンの代謝に関する研究：ダイオキシンの被曝の際にモニタリングの指標になる新たな代謝産物の分析同定を行っている。(3) 有機リンによるNK細胞の活性の阻害とグランザイムとの関係についての研究：ヒト・グランザイムのクローニング、大量発現及び精製を行い、生理的機能の多様性を研究している。(4) 喫煙の身体的影響およびコチニンを指標にしたバイオロジカル・モニタリングに関する研究：ニコチンの代謝物であるコチニンの簡易かつ高精度の分析法を確立し、禁煙指導に用いる予定である。(5) 鉛中毒に関連するポルフォビリノーゲン合成酵素の酵素学的、分子生物学的研究：既にヒトのリコンビナント酵素を作成した。酵素の構造と機能関連の研究結果を踏まえ、酵素の個体差と鉛中毒の感受性との関連について研究を進めている。(6) シアンに対する防御因子であるメルカプトピルビン酸硫黄転移酵素の酵素学的、分子生物学的研究：本酵素は多様性に富んでおりシアンを無毒化する他、細胞内のレドックスの変化に感受性を示す。また先天的に欠損するメルカプト乳酸システインジスルフィド尿症が知られているが、統一した疾患概念はない。病態の解明を目指して国内外の研究者と共同研究を行っている。(7) 有機リン中毒の指標に用いられる血清コリンエステラーゼに関する研究：有機リン中毒の際に血清中の酵素の比活性の低下を測定するためのモノクローナル抗体を作成している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Saito A<sup>1)</sup>, Noguchi Y<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Doi C<sup>1)</sup>, Fukuzawa K<sup>1)</sup>, Matsumoto A<sup>1)</sup>, Ito T<sup>1)</sup>, Tsuburaya A<sup>1)</sup>, Nagahara N<sup>(1)</sup> (Yokohama City Univ. ): Gastrectomized patients are in a state of chronic protein malnutrition analysis of 23 amino acids. *Hepatogastroenterology* 2001 ; 48 (38) : 585-589 .
- 2) Kato K<sup>1)</sup>, Kato Y<sup>1)</sup>, Ijiri R<sup>1)</sup>, Misugi K<sup>1)</sup>, Nanba I<sup>1)</sup>, Nagai J<sup>1)</sup>, Nagahara N, Kigasawa H<sup>1)</sup>, Toyoda Y<sup>1)</sup>, Nishi T<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup> (1) Kanagawa Childrens' Medical Center ): Ewing's sarcoma family of tumor arising in the adrenal gland - possible diagnostic pitfall in pediatric pathology : Histologic, immunohistochemical, ultrastructural, and molecular study . *Human Pathol* 2001 ; 32 (9) : 1012-1016 .
- 3) Nishiwaki Y<sup>1)</sup>, Maekawa K<sup>2)</sup>, Ogawa Y<sup>3)</sup>, Asukai N<sup>4)</sup>, Minami M, Omae K<sup>1)</sup>, the sarin health effects study group (1) Keio Univ. , 2) Univ. of Tokyo , 3) National Institute of Industrial Health , 4) Tokyo Institute of Psychiatry ): Effects of sarin on the nervous system in rescue team staff members and police officers 3 years after the Tokyo subway sarin attack . *Environ. Health Perspect* 2001 ; 109 (11) : 1169-1173 .
- 4) Tanaka Y<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Notohara K<sup>2)</sup>, Hojo H<sup>3)</sup>, Ijiri R<sup>1)</sup>, Miyake T<sup>1)</sup>, Nagahara N, Sasaki F<sup>4)</sup>, Kitagawa N<sup>4)</sup>, Nakatani Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>5)</sup> (1) Kanagawa Childrens' Medical Center , 2) Okayama Univ. , 3) Fukushima Prefectural Univ. , 4) Hokkaido Univ. , 5) Osaka City General Medical Center ): Frequent beta-catenin mutation and cytoplasmic/nuclear accumulation in pancreatic solid-pseudopapillary neoplasm . *Cancer Res* 2001 ; 61 (23) : 8401-8404 .

(2) 綜説：

- 1) 永原則之：ヒトはなぜ環境に適応できるのか：適応のしくみと破綻の顛末．日本長生医学会誌 2002；38 (2)：3-11．

(3) 解説：

- 1) 南 正康：健康リスク・アセスメントの例示．労働の科学 2001；56 (6)：332-334．
- 2) 永原則之：研究に思うこと．公衆衛生 2002；66 (3)：227．

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 永原則之：ヒトはなぜ環境に適応できるのか．第62回日本長生医学会総会，2001．11．

(2) 一般講演：

- 1) Nagahara N, Minami M：The initial process in the reaction mechanism of a bisubstrate enzyme, rat mercaptopyruvate sulfurtransferase：inactivation study by using chloropyruvate．7th International Congress on Amino Acids (Vienna), 2001．8．
- 2) Sawada N, Nagahara N, Minami M：Characterization of H131R mutant porphobilinogen synthase cloned from Hep3B Cell．7th International Congress on Amino Acids (Vienna), 2001．8．
- 3) Sreeja VG, Nagahara N, Li Q, Minami M：Neural and hepatic cellular toxicity of linamarin and potassium cyanide．第72回日本衛生学会総会，2002．3．
- 4) 李 卿, 永原則之, 平田幸代, 南 正康：有機リン農薬によるNK, LAK及びCTL活性低下の機序．第74回日本産業衛生学会，2001．4．
- 5) 中台亜里, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 南 正康：Wood Creosote摂取のヒト尿中 *o*-cresol に対する影響．第74回日本産業衛生学会，2001．4．
- 6) 勝又聖夫, 稲垣弘文, 南 正康：亜鉛ヒューム熱患者の血清中サイトカインと尿中及び血清中亜鉛濃度の変動．第74回日本産業衛生学会，2001．4．
- 7) 斉藤麗子<sup>1)</sup>, 勝又聖夫<sup>(1)</sup> (東京都村山大和保健所)：ロールプレイによる禁煙指導体験学習．第33回日本医学教育学会大会，2001．7．
- 8) 李 卿, 永原則之, 平田幸代, 南 正康：有機リン農薬がGranzyme活性の障害を介してNK, LAK及びCTL活性を抑制する．第38回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会/第8回免疫毒性学術大会，2001．9．
- 9) 澤田典里, 永原則之, 南 正康：H131R変異体Porphobilinogen synthaseの性質．第30回ボルフィリン研究会，2001．10．
- 10) 勝又聖夫, 斉藤麗子<sup>1)</sup>, 南 正康<sup>(1)</sup> (東京都村山大和保健所)：喫煙の身体影響指標としての尿中オルトクレゾール測定の有用性とその他の喫煙関連代謝産物との関連性．第60回日本公衆衛生学会総会，2001．10．
- 11) 若山葉子, 植田悠紀子<sup>1)</sup> (1) 県立長崎シーボルト大)：肝炎流行地区の予後の検討：肝疾患死亡の推移 (1975～99年)．第60回日本公衆衛生学会総会，2001．10．
- 12) 永原則之, 南 正康：ラット mercaptopyruvate sulfurtransferase の酸化ストレスによる可逆的障害について．第74回日本生化学会大会，2001．10．
- 13) 澤田典里, 永原則之, 勝又聖夫, 南 正康：リコンビナント Human Porphobilinogen Synthase の精製と亜鉛について．第74回日本生化学会大会，2001．10．
- 14) 平田幸代, 李 卿, 稲垣弘文, 南 正康：大腸菌によるヒト recombinant Granzyme 3 の発現．第74回日本生化学会大会，2001．10．
- 15) 永原則之, 南 正康：クロロピルビン酸の不可逆的な酵素の障害について：メルカプトピルビン酸硫黄転移酵素を例にして．第72回日本衛生学会総会，2002．3．



- 16) 澤田典里, 永原則之, 南 正康:  $\alpha$ -アミノレブリン酸脱水素酵素における遠位の亜鉛と鉛中毒の関連. 第72回日本衛生学会総会, 2002. 3.
- 17) 南 正康, 恵 答美: 有機リンを代謝する酵素パラオキシナーゼ (PON) の研究, 新しいPONの発見. 第72回日本衛生学会総会, 2002. 3.
- 18) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 南 正康: 固相抽出法を用いたヒト唾液中コチニンの定量. 日本薬学会第122年会, 2002. 3.

## 12. 法医学講座

### 研究概要

#### 1. 臨床法医中毒学

急性薬物中毒の疑われる救急患者の緊急薬物分析法を開発し、GC/MS、LC/MS等を用いた高精度の分析システムの開発に取り組んでいる。また、毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたTetrodotoxin等の微量毒物検出法の開発にも取り組んでいる。

#### 2. トリカプト毒に関する研究

トリカプト毒について、急性中毒のみならず、長期投与における生体内での代謝、死体内での物理・化学的变化等についても実験的研究を行っている。同時にLC/MS、GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法について開発、検討している。

#### 3. アルコールの代謝とMolecular toxicology

アルコールの代謝機序を明らかにするため、その鍵酵素であるADH1およびADH3の寄与およびその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討している。また、アルコール感受性の性差・個体差、アルコール関連障害の機序をADH遺伝子改変を含む各種の培養細胞およびノックアウトマウスを用いて研究している。さらに、アルコールの溶液構造とその生体作用への影響や、培養心筋細胞を用いた細胞内小器官および分子レベルでの生理・薬理的検討を行っている。

#### 4. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・救急医学等と共同研究を行っている。

#### 5. その他の研究

死後変化の病理組織学的検討、死後経過時間推定に関する実務的研究、医事法や生命倫理に関わる調査検討等を行っている。なお、法医学実務として、刑事・民事にかかわる具体的事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

〔2000年度追加分〕

原著：

- 1) Jinno K<sup>1)</sup>, Kawazoe M<sup>1)</sup>, Hayashida M ( <sup>1)</sup> Toyohashi Univ. of Technology ): Solid-Phase Microextraction Coupled with Microcolumn Liquid Chromatography for the Analysis of Amitriptyline in Human Urine . Chromatographia 2000 ; 52 ( 5/6 ): 807-809 .
- 2) Saito Y<sup>1)</sup>, Kawazoe M<sup>1)</sup>, Hayashida M, Jinno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Toyohashi Univ. of Technology ): Direct coupling of microcolumn liquid chromatography with in-tube solid-phase microextraction for the analysis of antidepressant drugs . Analyst 2000 ; 125 : 807-809 .
- 3) 黒須三恵：臓器移植法の見直し論議と移植実施例の検証．医療と倫理 2001；(3)：56-67．

(1)原著：

- 1) Mashimo K, Sato S<sup>1)</sup>, Ohno Y ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches ): Acute Cytotoxic

Effects of Ethanol on Cultured Mouse Myocardial Cells in a Monolayer : Enzymatic, Chronotropic and Ultrastructural Studies . Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence 2001 ; 36 ( 2 ): 142-153 .

2) Yamada T, Hayashida M, Nihira M : Influence of Ethanol on Metabolism of Methamphetamine in Rats Including Hair Analysis . Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence 2001 ; 36 ( 3 ): 182-200 .

3) 岩切 致<sup>1)</sup>, 王 春梅<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子 ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): <sup>1</sup>H-NMR法を用いたケロイド, 肥厚性癬痕の代謝学的研究 . 日形会誌 2001 ; 21 : 472-480 .

4) 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 藤本将史<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): シリコンバッグ挿入後, 被膜全体に高度の石灰沈着をきたした1例 . 日美外報 2001 ; 23 ( 3 ): 28-34 .

5) 大野曜吉 : 異状死体 . 救急・集中治療 2001 ; 13 ( 臨時増刊号 ): e11-e14 .

6) 仁平 信, 早川秀幸, 山田文士, 林田眞喜子, 大野曜吉, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>救急医学 ): GC-MSによる救急患者からのMDMAとPCPの検出 . 中毒研究 2002 ; 15 : 47-52 .

#### (2) 綜説 :

1) 仁平 信, 林田眞喜子, 大野曜吉 : 日本医科大学における救急薬毒物分析 . 法中毒 2001 ; 19 ( 3 ): 195-205 .

#### (3) 研究報告書 :

1) 長谷場健, 清水昭夫<sup>1)</sup>, 黒沢則夫<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>2)</sup>, 真下啓子, 山本伊佐夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>創価大学生物工学, <sup>2)</sup>日本医科大学病理学, <sup>3)</sup>神奈川歯科大学法医歯科学 ): 細胞防御系ハウスキーピング酵素 Class III ADHのアルコール代謝における役割 : ノックアウトマウスを用いる in vivo実験と酵素の活性調節機能解明のための in vitro実験 . 平成11年度 - 平成13年度 科学研究費補助金 ( 基盤研究B2 ) 研究成果報告書 2002 .

#### (4) その他 :

1) 大野曜吉 : 「シンポジウム : 21世紀の急性中毒の治療の展開」 : 法医学からみた急性薬毒物中毒 . 中毒研究 2002 ; 15 ( 1 ): 28-29 .

#### (5) 判例診断 :

1) 野村好弘<sup>1)</sup>, 杉田雅彦<sup>2)</sup>, 伊藤文夫<sup>3)</sup>, 黒木宣夫<sup>4)</sup>, 櫻井浩治<sup>5)</sup>, 平沼高明<sup>6)</sup>, 大野曜吉, 山内春夫<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都立大学法学部, <sup>2)</sup>静岡県弁護士会, <sup>3)</sup>自動車保険料率算定会, <sup>4)</sup>東邦大学佐倉病院, <sup>5)</sup>新潟大学医学部, <sup>6)</sup>第一東京弁護士会 ): 外傷後ストレス障害 ( PTSD ). 賠償科学 2001 ; 26 : 73-92 .

2) 野村好弘<sup>1)</sup>, 杉田雅彦<sup>2)</sup>, 堀内行雄<sup>3)</sup>, 小川節郎<sup>4)</sup>, 大野曜吉, 平沼高明<sup>5)</sup>, 伊藤文夫<sup>6)</sup>, 田邨正義<sup>7)</sup>, 江口保夫<sup>8)</sup>, 山内春夫<sup>9)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都立大学法学部, <sup>2)</sup>静岡県弁護士会, <sup>3)</sup>川崎市立川崎病院整形外科, <sup>4)</sup>日本大学医学部, <sup>5)</sup>第一東京弁護士会, <sup>6)</sup>自動車保険料率算定会, <sup>7)</sup>第二東京弁護士会, <sup>8)</sup>東京弁護士会, <sup>9)</sup>新潟大学医学部 ): 反射性交感神経性萎縮症 ( RSD ). 賠償科学 2001 ; 26 : 93-111 .

#### 著 書

1) 大野曜吉 : [ 分担 ] 一章 一酸化炭素毒殺事件とトリカブト事件 ある保険金殺人の記録 . 事件からみた毒 : トリカブトからサリンまで ( Anthony T. Tu 編著 ), 2001 ; pp1-32, ( 株 ) 化学同人 .

2) 仁平 信 : [ 分担 ] V. 社会における中毒事例 4.2 薬毒物分析法 . 中毒学 : 基礎・臨床・社会医学 ( 荒記俊一 編 ), 2002 ; pp362-363, 朝倉書店 .

3) 大野曜吉 : [ 分担 ] V. 社会における中毒事例 4.7 トリカブト中毒事件 . 中毒学 : 基礎・臨床・社会医学 ( 荒記俊一 編 ), 2002 ; pp382-385, 朝倉書店 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム :

1) 林田眞喜子 : 法医中毒学におけるGC/MSおよびLC/MS分析「21世紀を担う分離科学 セッション2 危機管理」 . Separation Sciences 2001 , 2001 . 6 .

- 2) 大野曜吉：法医学からみた急性薬物中毒「21世紀の急性中毒の治療の展開」．第23回日本中毒学会総会，2001．7．
- (2) ワークショップ：
- 1) 長谷場健：アルコール代謝とClass IIIアルコール脱水素酵素（ADH3）．第36回日本アルコール・薬物医学会総会，2001．10．
- (3) 一般講演：
- 1) 山田丈士，林田眞喜子，仁平 信，早川秀幸，大野曜吉：エタノール存在下における覚醒剤の体内動態の変化．第85次日本法医学会総会，2001．4．
- 2) 仁平 信，林田眞喜子，山田丈士，早川秀幸，大野曜吉：救急患者尿・血清中のMDMAとPCPのGC/MSによる分析．第85次日本法医学会総会，2001．4．
- 3) 黒須三恵，向井敏二<sup>1)</sup>，大野曜吉（<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学法医学）：法医解剖より得られる臓器等の研究利用における取扱いについて．第85次日本法医学会総会，2001．4．
- 4) 河原理子<sup>1)</sup>，井上幸彦<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，平川慶子（<sup>1)</sup>形成外科学）：顔面に対するハイドロジェル注入後，後遺症例の経験．第44回日本形成外科学会総会・学術集会，2001．4．
- 5) 林田眞喜子，早川秀幸，山田丈士，仁平 信，大野曜吉，清水尚登<sup>1)</sup>，岩田和則<sup>2)</sup>，関根 均<sup>3)</sup>，宮口 一<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>横河アナリティカルシステムズ（株），<sup>2)</sup>昭和電工（株），<sup>3)</sup>埼玉科搜研）：カラムスイッチングLC/MS/ESIを用いた血中アコニチン系アルカロイド及びその代謝物の一斉分析．日本法中毒学会第20年会，2001．7．
- 6) 上田康晴<sup>1)</sup>，平田清貴<sup>2)</sup>，林田眞喜子，仁平 信，相星淳一<sup>1)</sup>，平野公晟<sup>2)</sup>，大野曜吉，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>救急医学，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部）：海外から持ち込んだ薬剤を大量誤食して意識障害を呈した小児中毒の1症例．第23回日本中毒学会総会，2001．7．
- 7) 平田清貴<sup>1)</sup>，折戸謙介<sup>4)</sup>，林田眞喜子，仁平 信，平野公晟<sup>1)</sup>，大野曜吉，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕<sup>2)</sup>，山本保博<sup>3)</sup>，赤堀文昭<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>同多摩永山病院救命救急センター，<sup>3)</sup>同救急医学，<sup>4)</sup>麻布大学獣医学部薬理学研究室）：ラットにおけるグルコン酸クロルヘキシジン投与時の血中濃度．第23回日本中毒学会総会，2001．7．
- 8) 小川 令<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，藤本将史<sup>1)</sup>，青木 律<sup>1)</sup>，平川慶子（<sup>1)</sup>形成外科学）：シリコンバック挿入後，被膜全体に高度の石灰沈着をきたした1例．第225回日本形成外科学会東京地方会，2001．7．
- 9) 大久保暁司<sup>1)</sup>，石井和博<sup>1)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>，河原理子<sup>2)</sup>，平川慶子（<sup>1)</sup>大浜第一病院形成外科，<sup>2)</sup>日本医科大学形成外科学）：中国製ハイドロジェル（Amazingel<sup>®</sup>）の注入実験と後遺症例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 10) 藤本将史<sup>1)</sup>，小川 令<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，平川慶子（<sup>1)</sup>形成外科学）：シリコンバック挿入後の危険性：シリコン粒子の微量な漏出を呈した症例を経験して．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 11) 柴田泰史<sup>1)</sup>，野村剛史<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>，吉田竜介<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>，仁平 信，林田眞喜子，大野曜吉（<sup>1)</sup>付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>救急医学）：乱用薬物スクリーニング検査キットTOX/See<sup>TM</sup>の有用性．第29回日本救急医学会総会，2001．9．
- 12) 真下啓子，佐藤 茂<sup>1)</sup>，大野曜吉（<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設）：慢性エタノール曝露培養心室筋細胞の拍動数とミトコンドリアの増大．第36回日本アルコール・薬物医学会総会，2001．10．
- 13) 仁平 信，林田眞喜子，早川秀幸，松本美保，大野曜吉，柴田泰史<sup>1)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>救急医学）：薬物スクリーニングキットTOX/See<sup>TM</sup>の有用性の検討．第70回日本法医学会関東地方会，2001．10．
- 14) 堀江正一<sup>1)</sup>，清水尚登<sup>2)</sup>，岩田和則<sup>3)</sup>，林田眞喜子，仁平 信，大野曜吉（<sup>1)</sup>埼玉県衛生研究所，<sup>2)</sup>横河アナリティカルシステムズ（株），<sup>3)</sup>昭和電工（株））：LC/MSによるフグ毒テトロドキシンの分析．フォーラム2001，2001．10．
- 15) 平川慶子，植草協子，坂井庸子<sup>1)</sup>，山田丈士，早川秀幸，若松信吾<sup>1)</sup>，大野曜吉（<sup>1)</sup>東京女子医科大学付属第

二病院形成外科): 「コラーゲン」注入豊胸術を受けた女性の膿瘍より排出された人工異物の分析．第70回日本法医学会関東地方会，2001．10．

- 16) 大久保暁司<sup>1)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>，河原理子<sup>2)</sup>，平川慶子<sup>(1)</sup>大浜第一病院形成外科，<sup>2)</sup>日本医科大学形成外科学): 注入ハイドロジェルのウサギ生体内注入実験：シリコンジェルとの比較．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 17) 亀山孝二<sup>1)</sup>，町田 稔<sup>2)</sup>，長谷場健，王 若皎<sup>1)</sup>，町田 幹<sup>2)</sup>，恩田宗彦<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学，<sup>2)</sup>放射線科ハイテクリサーチセンター): 冠動脈硬化病変の顕微散乱分光とフーリエ位相解析による検討．第42回日本脈管学会総会，2001．11．

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

教育：医療管理学は学部教育で大きな位置を占めてきた。平成13年から医師国家試験必修項目の約40%が医療管理学と関連がある項目となった。学部教育は、当教室のテーマである「質」を教えることと共に、求められている医師としての素養を身につけさせるために医療システム、EBM、医師患者関係、面接技法、リスクマネジメントなど臨床の基礎である医療管理の部門を中心におこなった。自主学習では情報収集方法、EBM、患者体験などを取り入れた。

研究：教室には医療の質に関する研究会があり、木村、太田を中心にリハビリテーションにおける医療の質の評価を中心に8月に評価スタンダード第一版を完成した。パフォーマンス測定としてアウトカム評価は、retrospective調査とprospective調査を行い、分析手順を完成した。診療のプロセス管理のためのデータベース開発が本年度着手された。付属病院の院長をはじめとする臨床科教授と当教室で癒しの医療を考える会が作られた。人工的自然環境における精神免疫系変化などの研究を行い、今後学際的な学問体系として注目された。医療環境での患者安全管理のための研究、救命救急医療のアウトカムの質の同僚評価研究。高柳は欧米で始まったNarrative Based Medicineの研究会を立ち上げて、患者の語りを中心に求められる医療の構築をめざしている。癒しの環境研究会は精神安寧の研究を行い全国展開を行っている。

学術活動：木村はライフサポート学会大会長として8月に21世紀を支える医療・福祉工学技術をテーマに盛大に行われた。また、木村はバイオフィリアリハビリテーション学会会長となり2002年11月に日米Joint Meeting を開催することとなった。大学院の北川は博士論文「脊髄損傷リハビリテーションにおける合併症の及ぼす影響」を提出して、博士号を授与された。中国留学生王徳宏氏がリハ領域に於ける中国伝統的物理療法の近代リハ手技への応用と検証の研究をおこなった。

教室の今後：医療管理学は医師教育で大きな位置を占めると共に、世の中の情報化の流れと医療の質の向上の中で、社会の注目を浴びニーズも大きい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著：

- 1) Kitagawa T, Kimura T, Takeuchi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院リハビリテーションセンター): Cause of Active Motor Function by Passive Movement. J. Phys. Ther. Sci 2001 ; 13 (2): 167-172 .
- 2) Suyama T<sup>1)</sup>, Kimura T, Nihei R<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医科大学, <sup>2)</sup>National Rihabilitationcenter): Rehabilitation of Spinal Cord Injury in Japan. ISPRM ( International Society of Physical and Rihabilitation Medicine) 2001 .
- 3) Ota H, Kitahara M<sup>1)</sup>, Nishioka M<sup>2)</sup>, Kanno Y<sup>2)</sup>, Shibata K<sup>3)</sup>, Satake S<sup>4)</sup>, Endo K<sup>5)</sup>, Takeda Y<sup>6)</sup>, Aoki M<sup>7)</sup>, Hirose C<sup>8)</sup>, Kanbayashi S<sup>9)</sup>, Kobayashi J<sup>10)</sup>, Gunji A<sup>11)</sup>, Iwasaki S, Kimura T (<sup>1)</sup>東京都再生会中央病院, <sup>2)</sup>東京大学, <sup>3)</sup>聖路加国際病院, <sup>4)</sup>群馬大学, <sup>5)</sup>琉球大学, <sup>7)</sup>サクラ精器(株), <sup>8)</sup>日本看護協会, <sup>9)</sup>日本医療評価機構, <sup>10)</sup>医療の質に関する研究会, <sup>11)</sup>聖学院大学): Development of "Standards for the Evaluation of Hospital Infection Control Policies and Procedures, the Second Version". Japan Hospitals 2001 ; 20 : 11 -20 .
- 4) 高柳和江：医療の質とリスクマネジメント シェルを用いた分析とは。月刊ナースデータ 2001 ; 22 (4): 52-59 .
- 5) 高柳和江：患者安全管理とリスクマネジメント：シェルの要因を分析する。月刊ナースマネージャー 2001 ; 3 (5): 67-69 .

- 6) 木村哲彦：パラリンピック．臨床スポーツ医学 2001；18(6)：725-728．
- 7) 高柳和江：笑いはこんなに健康にいい．NISSEI NEWS 2001；427：6-7．
- 8) 高柳和江：高齢者の照明環境．准看護婦資格試験 2001；42(6)：56-58．
- 9) 高柳和江：患者安全管理とリスクマネジメント：シェルの要因決定と実際．月刊ナースマネージャ 2001；3(6)：49-53．
- 10) 高柳和江：医療の質とシルクマネジメント シェルを用いた分析とは：患児のベットから転落3例の分析．月刊ナースデータ 2001；22(6)：75-80．
- 11) 高柳和江：高齢者の孤独と孤立を理解する．月刊総合ケア 2001；11(6)：40-45．
- 12) 高柳和江：リスクマネジメントからみた医療の質と院内感染．medical corner 2001；109(1)：15-16．
- 13) 高柳和江：患者の権利．消化器外科NURSING 2001；6(8)：1-1．
- 14) 高柳和江：医療の質とリスクマネジメント シェルの要因分析．月刊ナースデータ 2001；22(8)：74-83．
- 15) 高柳和江：小児疾患．アポロニア21 2001；92(8)：94-95．
- 16) 木村哲彦：他動運動により誘発される自動運動の訓練効果．ロボット学会誌 2001；131(11)：21-26．
- 17) 高柳和江：癒しの概念と環境づくり．看護技術 2001；47(13)：97-101．
- 18) 高柳和江：狂牛病と豚．アポロニア21 2001；95(11)：94-95．
- 19) 高柳和江：心の癒し．病院 2001；60(12)：1062-1063．
- 20) 高柳和江：グループホームへの訪問調査の留意点と配慮．アポロニア21 2001；96(12)：94-95．
- 21) 高柳和江：医療事故．HOLISTIC Magazine 2001；23-25．
- 22) 高柳和江：「求められる根拠のある介護(EBC)」．高齢者ケア 2002；6(1)：91-96．
- 23) 高柳和江：がんセンター．アポロニア21 2002；97(1)：86-87．
- 24) 高柳和江：根拠ある介護の実際．アポロニア21 2002；98(2)：84-85．
- 25) 高柳和江：「生き方」を伝える．アポロニア21 2002；99(3)：84-85．
- 26) 高柳和江：患者中心の医療と患者の権利(上)．健康保険 2002；40-45．
- 27) 高柳和江：患者中心の医療と患者の権利(中)．健康保険 2002；26-31．

## (2) 綜説：

- 1) Takizawa S<sup>1)</sup>, Kimura T ( <sup>1)</sup> 藤沢市立看護専門学校)：Ambulation from Bedridden . Proceeding of ISPRM 2001 .
- 2) Takizawa S<sup>1)</sup>, Kimura T, Kijima H<sup>2)</sup>, Okamoto Y<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> 藤沢市立看護専門学校, <sup>2)</sup> 木島クリニック, <sup>3)</sup> 湘南の丘老人保健施設)：Biophilia Rehabilitation and Propotion of the Solitin to the Aging Crisis . Proceeding of ISPRM 2001 .

## (3) 研究報告書：

- 1) 四宮葉一<sup>1)</sup>, 関根 修<sup>1)</sup>, 仲島了治<sup>1)</sup>, 王 碩玉<sup>2)</sup>, 石田健司<sup>2)</sup>, 木村哲彦 ( <sup>1)</sup> 松下電工, <sup>2)</sup> 高知工科大学)：乗馬療法機器の開発とトレーニング効果の検証．日本バーチャルリアリティ学会誌 2001；6(3)：pp197-202．
- 2) 王 碩玉<sup>1)</sup>, <sup>1)</sup> 隅田由紀<sup>1)</sup>, 河田耕一<sup>1)</sup>, 四宮葉一<sup>2)</sup>, 石田健一<sup>3)</sup>, 木村哲彦, 土谷武士<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup> 高知工科大学, <sup>2)</sup> 松下電工, <sup>3)</sup> 高知医科大学, <sup>4)</sup> 北海道大学)：健康増進機能と全方向移動機能を備えた電動椅子．バイオメディカル・ファジィ・システム学会年次大会講演論文集 2001；14(1)：pp122-123．
- 3) 王 碩玉<sup>1)</sup>, 河田耕一<sup>1)</sup>, 石田健二<sup>2)</sup>, 木村哲彦, 四宮葉一<sup>3)</sup>, 仲島了治<sup>3)</sup>, 関根 修<sup>3)</sup>, 土谷武士<sup>4)</sup>( <sup>1)</sup> 高知工科大学, <sup>2)</sup> 高知医科大学, <sup>3)</sup> 松下電工, <sup>4)</sup> 北海道大学)：健康増進用乗馬ロボットの展開研究．バイオメディカル・ファジィ・システム学会年次大会講演論文集 2001；14(1)：pp124-125．

## 著 書

- 1) 辻本好子<sup>1)</sup>, 高柳和江, 亀田信介<sup>2)</sup>, 井関利明<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> ささえあい医療人権センターCOML, <sup>2)</sup> 亀田総合病院,

- 3) 千葉商科大学): [分担] こんな病院あったらいいな～理想の病院づくりとリレーションシップ・マーケティング. こんな病院「あったらいいな」が実現する本, 2001; pp237-279, 日総研出版.
- 2) Yajima R, Takayanagi K: [分担] Healthcare in Japan. Handbook of International Health Care Systems, 2001; pp457-486, MARCEL DEKKER, INC.
- 3) 高柳和江: [分担] クウェートの医療体系について. 世界の公衆衛生体系(松田 朗), 1999; pp71-81, 日本公衆衛生協会.
- 4) 木村哲彦: [監修] 1. 物理的環境 2. 教育的環境 3. 行政的環境 4. 地球規模の環境. 生活環境論, 2001; 医歯薬出版.
- 5) 木村哲彦: [分担] 総論 III・整形外科的療法. 整形外科テキスト(二瓶隆一・木村哲彦), 2001; pp17-26, 南工堂.
- 6) 木村哲彦: [分担] 健康福祉機器の位置づけ. 健康福祉工学ガイドブック(山越憲一), 2001; pp8-13, 工業調査会.
- 7) 高柳和江: [分担] 癒しの環境. 医療・病院管理用語辞典〔改訂版〕(日本病院管理学会情報・用語委員会), 2001; pp18-18, エルゼビア・サイエンス ミクス.
- 8) 高柳和江: [分担] インフォームド・コンセント. 医療・病院管理用語辞典〔改訂版〕(日本病院管理学会・用語委員会), 2001; pp39-39, エルゼビア・サイエンス ミクス.
- 9) 高柳和江: [分担] エイズ拠点病院. 医療・病院管理用語辞典〔改訂版〕(日本病院管理学会・用語委員会), 2001; pp41-41, エルゼビア・サイエンス ミクス.
- 10) 高柳和江: [分担] QOL. 医療・病院管理用語辞典〔改訂版〕(日本病院管理学会・用語委員会), 2001; pp81-81, エルゼビア・サイエンス ミクス.
- 11) 高柳和江: [分担] パターナリズム. 医療・病院管理用語辞典〔改訂版〕(日本病院管理学会・用語委員会), 2001; pp194-194, エルゼビア・サイエンス ミクス.
- 12) 高柳和江: [分担] ホリスティック医療. 医療・病院管理用語辞典〔改訂版〕(日本病院管理学会・用語委員会), 2001; pp226-226, エルゼビア・サイエンス ミクス.
- 13) 木村哲彦, 太田久彦, 小林順子<sup>1)</sup>, 陶山哲夫<sup>2)</sup>, 草野修輔<sup>3)</sup>, 高橋邦泰<sup>4)</sup>, 及川忠人<sup>5)</sup>, 大田仁史<sup>6)</sup>, 長谷川幹<sup>7)</sup>, 比留間ちづ子<sup>8)</sup>, 羽生耀子<sup>9)</sup>, 橋谷美智子<sup>9)</sup>, 園田啓示<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup> 医療の質に関する研究会, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学, <sup>3)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター, <sup>4)</sup> 国際医療福祉大学, <sup>5)</sup> 東八幡平病院, <sup>6)</sup> 茨城県立医療大学, <sup>7)</sup> 桜新町リハビリテーションクリニック, <sup>8)</sup> 日本作業療法士協会, <sup>9)</sup> 日本福祉専門学校, <sup>10)</sup> 東北文化学院大学): [共著] リハビリテーション病院機能評価スタンダード Ver. 10(木村哲彦), 2001; 医療の質に関する研究会リハビリテーション部会.
- 14) 高柳和江: [自著] 癒しの国のアリス, 2001; 医歯薬出版.
- 15) 太田久彦: [分担] いろいろな症例における利用状況. 介護・依存からの自立へ1(木村哲彦), 2002; pp51-52, シビル出版.
- 16) 太田久彦: [分担] いろいろな症例における利用状況. 介護・依存からの自立へ1(木村哲彦), 2002; pp70-71, ジビル出版.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 高柳和江: 21世紀の癒し. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 2) 高柳和江: 高齢者の孤独と孤立. 在宅福祉を支える友愛活動交流集会, 2002. 1.
- 3) 高柳和江: 患者さんにやさしい環境づくり. 国保直診医師及び職員合同セミナー, 2002. 2.
- 4) 高柳和江: 人間の尊厳とは. 第93回中材業務及び滅菌技法研究会, 2002. 3.



- 5) 高柳和江：新生児感染症とCDCガイドライン．第11回日本新生児学会近畿新生児研究会，2002．3．
- (2) 招待講演：
- 1) 木村哲彦：これからの生活支援のあり方．経済産業省ワークショップ，2001．4．
  - 2) 木村哲彦：環境とQOL．都立保健科学大学「福祉のまち造り研究会」，2001．8．
  - 3) 木村哲彦：受動運動より誘発される能動機能の誘発．慶応工学会，2001．9．
  - 4) 木村哲彦：医療・福祉機器とリハビリテーション．日本エム・イー学会セミナー，2001．10．
- (3) 教育講演：
- 1) 木村哲彦：生活支援のための福祉機器．千葉県・埼玉県共済セミナー，2001．11．
  - 2) 木村哲彦：脊髄損傷と保険．パラプレジア医学会，2001．11．
- (4) 基調講演：
- 1) 木村哲彦：21世紀のリハビリテーションを取り巻く情勢．バイオフィリアリハビリテーション，2001．8．
  - 2) 高柳和江：癒しの環境．第2回癒しの環境研究会全国大会，2001．8．
  - 3) 高柳和江：「患者が求めている診療情報と医療側の診療情報」～インフォームド・コンセントを中心にして．第3回歯科医師臨床研修指導医診療情報講習会，2001．8．
  - 4) 高柳和江：癒しの環境と園芸療法．西日本園芸療法研究会，2002．2．
- (5) シンポジウム：
- 1) 木村哲彦：福祉に役立つ工学技術とは．生活支援工学会，2001．4．
  - 2) 遠藤和郎<sup>1)</sup>，土井英史<sup>2)</sup>，渡邊都貴子<sup>3)</sup>，高柳和江（<sup>1)</sup> 沖縄県立中部病院，<sup>2)</sup> ヘスルケアリソース研究所，<sup>3)</sup> 岡山大学医学部付属病院）：感染担当者の育成と活用．第51回日本病院学会，2001．6．
  - 3) 高柳和江，向井秀人<sup>1)</sup>，柳川忠二<sup>2)</sup>，長谷川三枝子<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> ふたば薬局，<sup>2)</sup> 聖マリアンナ医科大学，<sup>3)</sup> 日本リウマチ友の会）：インフォームドパーシエント・患者さん中心の医療と医薬品情報．第34回日本薬剤師学会，2001．10．
- (6) 一般講演：
- 1) 太田久彦，木村哲彦，陶山哲夫<sup>1)</sup>，高橋邦泰<sup>2)</sup>，及川忠人<sup>3)</sup>，大田仁史<sup>4)</sup>，長谷川幹<sup>5)</sup>，郡司篤晃<sup>6)</sup>（<sup>1)</sup> 埼玉医科大学，<sup>2)</sup> 国際医療福祉大学，<sup>3)</sup> 東八幡平病院，<sup>4)</sup> 茨城県立医療大学，<sup>5)</sup> 桜新町リハビリテーションクリニック，<sup>6)</sup> 聖学院大学）：リハビリテーション病院機能評価スタンダードの開発．第5回日本病院学会，2001．6．
  - 2) 高柳和江，木村哲彦，隈崎達夫<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>，徳永 昭<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>3)</sup>，山本保博<sup>4)</sup>，遠藤俊吉<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院長，<sup>2)</sup> 同外科学第1，<sup>3)</sup> 同内科学第1，<sup>4)</sup> 同付属病院高度救急救命センター，<sup>5)</sup> 同精神医学）：入院患者の絵画における心理的・免疫学的影響．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 3) 太田久彦，中島英樹<sup>1)</sup>，清水秀昭<sup>2)</sup>，高橋邦泰<sup>3)</sup>，陶山哲夫<sup>4)</sup>，小林順子<sup>5)</sup>，木村哲彦，郡司篤晃<sup>6)</sup>，岩 榮（<sup>1)</sup> 青梅市立総合病院，<sup>2)</sup> 河北総合病院，<sup>3)</sup> 国際医療福祉大学，<sup>4)</sup> 埼玉医科大学，<sup>5)</sup> 医療の質に関する研究会，<sup>6)</sup> 聖学院大学）：アウトカムによるリハビリテーション病院機能評価の試み．第30回日本病院管理学会学術総会，2001．10．
  - 4) 高柳和江，木村哲彦：単純な笑いとバーチャルリアリティ（VR）ゲームによる笑いにおける心理および免疫効果．第60回日本公衆衛生学会総会，2001．10．

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [ 実験動物管理室 ]

#### 研究概要

実験動物管理室では、新しい疾患モデル動物の開発あるいは既知の実験動物の新たな有用性および特性の解析を行っている。

WBN/Kob rat は糖尿病発症時期が9ヶ月齢以降であることから、その発症時期を早めるために、leptin receptor の異常により肥満を誘起する突然変異遺伝子 *Lepr<sup>fa</sup>* を WBN/Kob rat に導入した congenic 系を作成し、N6 世代に達している。N3 世代では *Lepr<sup>fa</sup>/Lepr<sup>fa</sup>* 個体が生後3ヶ月齢で糖尿病発症を認めている。一方、Hairless rat (WBN/IIa-Ht) の原因遺伝子 *Ht* と同一染色染色体上にある被毛および胸腺の形成に関する転写調節因子をコードしている遺伝子 *whn* との位置関係を明らかにし、現在この遺伝子の機能について解析中である。

スナネズミは、従来から寄生虫高感受性が知られているが、当施設において近交化された被毛色突然変異体を用いて、遺伝的背景と寄生虫感染症状との関連を示すモデルが作成され、新たな有用性が示された。

また、近年注目されている代替補完医療に用いられる物質について、医学的有効性を検討する実験モデルの開発を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ohashi K<sup>1)</sup>, Aso R<sup>1)</sup>, Nakama K, Akimoto T ( <sup>1)</sup>臨床薬理センター ): A new drug evaluation method for the treatment of chronic pancreatitis using WBN/Kob rats as a model of human chronic pancreatitis . Jpn J Clin Pharmacol Ther 2001 ; 32 ( 5 ): 231-247 .
- 2) Saito T<sup>1)</sup>, Tanuma K<sup>1)</sup>, Tanuma Y<sup>2)</sup>, Futami C<sup>3)</sup>, Shichinohe K, Shimizu M, Sasako M<sup>3)</sup>, Shafland J, Wang BC, Carlsson C, Carney E, Hiraga K ( <sup>1)</sup>解剖学第二, <sup>2)</sup>帝京大・医・解剖, <sup>3)</sup>麻酔科学 ): Appendectomy in rabbits with extended unilateral anesthesia . Exp Anim 2002 ; 51 ( 1 ): 63-68 .
- 3) Amao H<sup>1)</sup>, Akimoto T, Komukai Y<sup>1)</sup>, Sawada T<sup>2)</sup>, Saito M<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日獣大・獣医畜産・実験動物, <sup>2)</sup>日獣大・獣医畜産・獣医微生物 ): Detection of *Corynebacterium kutscheri* from the oral cavity of rats . Exp Anim 2002 ; 51 ( 1 ): 99-102 .

##### (2) 綜説：

- 1) Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Arai S<sup>2)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部 ): Ebola hemorrhagic fever ( EHF ): Mechanism of transmission and pathogenicity . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ): 370-375 .
- 2) 七戸和博, 菅沼 ( 清水 ) 眞澄, 城田恵次郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東武医技専 ): 動物実験と動物福祉 . 東武医学技術専門学校紀要 2001 ; 6 ( 1 ): 41-44 .

##### 著書

- 1) 菅沼 ( 清水 ) 眞澄 : [ 分担 ] 第7章補完代替医療の実践 3. サメ軟骨とがん-マウスによる実験 . 適切な代替医療 ( 鈴木信孝 ), 2001 ; pp169-179, 日本医療情報出版 .

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Akimoto T, Nakama K, Sugawara M<sup>1)</sup>, Komeda K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日獣大・獣医畜産・動物生化学,<sup>2)</sup>東医大・実験動物センター): Characteristics of WBN/Kob-*Lep<sup>fa</sup>*, a new diabetic congenic rat strain with obesity. The 8th international workshop on lessons from animal diabetes (Tokyo, Japan), 2001. 7.
- 2) Sato K<sup>1)</sup>, Murata N<sup>2)</sup>, Tsutsumi M<sup>2)</sup>, Shichinohe K, Shimizu-Suganuma M, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Ohtsuki K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都府大・人間環境,<sup>2)</sup>奈良医大・腫瘍病理): Moduration of cancer by oral intake of shark cartilage and its extract in animal models. Second international conference and exhibition on nutraceuticals and functional foods (Portland, OR, USA), 2001. 11.
- 3) Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Suzuki K<sup>2)</sup>, Yajima M<sup>2)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二,<sup>2)</sup>国立療養所多磨全生園): L'ulcère de Buruli: Pathogénie et nécessité de la recherche animale. 第25回日仏獣医学会(東京), 2002. 2.
- 4) 林 栄治<sup>1)</sup>, 赤尾信明<sup>1)</sup>, 七戸和博, 菅沼(清水)眞澄, 藤田紘一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東医歯大・医・国際環境寄生虫): スナネズミを用いた実験的鼠トキソカラ症: スナネズミ系統差や感染方法の相違による眼病変. 第70回日本寄生虫学会・衛生動物学会合同大会, 2001. 4.
- 5) 菅沼(清水)眞澄, 佐藤健司<sup>1)</sup>, 七戸和博(<sup>1)</sup>京都府大・人間環境): ガン細胞移植マウスに対するサメ軟骨食品の影響(2). 第55回日本栄養食糧学会大会, 2001. 5.
- 6) 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 林 栄治<sup>1)</sup>, 赤尾信明<sup>1)</sup>, 藤田紘一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東医歯大・医・国際環境寄生虫): 寄生虫感染モデルとしてのスナネズミの特性(3) 鼠トキソカラ症. 日本実験動物科学技術大会2001, 2001. 5.
- 7) 七戸和博, 菅沼(清水)眞澄, 月館説子<sup>1)</sup>, 赤尾信明<sup>1)</sup>, 藤田紘一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東医歯大・医・国際環境寄生虫): 寄生虫感染モデルとしてのスナネズミの特性(4) 糞線虫. 日本実験動物科学技術大会2001, 2001. 5.
- 8) 仲間一雅, 秋元敏雄, 手塚 進, 白石政明, 篠塚貴志<sup>1)</sup>, 菅原盛幸<sup>1)</sup>, 米田嘉重郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日獣大・獣医畜産・動物生化学,<sup>2)</sup>東医大・実験動物センター): 高血糖を伴う新しい遺伝性肥満ラット: WBN/Kob-*Lep<sup>fa</sup>* コンジェニック系の特性. 日本実験動物科学技術大会2001, 2001. 5.
- 9) 手塚 進, 白石政明, 浦山利巳, 山崎邦広, 秋元敏雄, 仲間一雅: 日本医科大学におけるSPF動物維持のためのバリアシステムの紹介. 日本実験動物科学技術大会2001, 2001. 5.
- 10) 手塚 進, 白石政明, 浦山利巳, 山崎邦広, 秋元敏雄, 仲間一雅: 基礎医学動物室SPF飼育エリアにおける微生物モニタリングおよび空中落下菌検査について(第4報). 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 11) 七戸和博, 菅沼(清水)眞澄: アロマオイルのモルモット腸管収縮反応への影響. 第51回日本アレルギー学会総会, 2001. 10.
- 12) 秋元敏雄, 鈴木浩悦<sup>1)</sup>, 仲間一雅, 鈴木勝士<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日獣大・獣医畜産・獣医生理): ヘアレスラット(WBN/Ht)の原因遺伝子 *Ht* とヌードラットの原因遺伝子 *rnv* との位置関係について. 第132回日本獣医学会学術集会, 2001. 10.
- 13) 長戸孝道<sup>1)</sup>, 秋元敏雄, 張 雪君<sup>1)</sup>, 加藤良人<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 仲間一雅, 荒牧琢己<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第一): 二次性胆汁性肝硬変ラットモデルにおけるビタミンK2の延命効果. 第43回日本消化器病学会大会, 2001. 10.
- 14) 七戸和博, 菅沼(清水)眞澄: モルモット盲腸収縮反応における植物性精油の影響. 第75回日本薬理学会年会, 2002. 3.

## [ 中央電子顕微鏡研究施設 ]

### 研究概要

本研究施設では、ヒト組織の電顕診断、動物実験による研究、および電顕技術開発を行っている。また、臨床ならびに基礎医学の各講座との共同研究や電顕技術の提供が行われている。

年間400余の検体が電顕診断として処理されている。主な対象臓器は腎臓と肝臓であり、他に心臓や各臓器の腫瘍等も含まれている。

腎生検検体の中から、糸球体の末梢係蹄壁並びにメサンギウム領域の基底膜が高電子密度化する症例群を見つけ、この病理学的意義について検討している。

動物実験では、肝細胞増殖因子促進因子 (pHGF) の治療あるいは保護効果について、急性肝障害ならびに肺障害モデルを用いて検討した。pHGFが肝細胞、肺胞上皮細胞ならびに毛細血管内皮細胞の細胞膜を保護することを明らかにした。pHGFは広く肝炎患者に対して中国で使用されているが、ARDSの炎症抑制に対しても効果があることが示された。

ウーロン茶抽出物 (OTE) を用いた電顕試料作製技術についても、幾つかの開発を行った。

1) OTEをグルタル・アルデヒドに混入した固定液 (OTE固定液) を用いて肺組織をブロック染色することにより、通常電顕試料作製法では漏出してしまふ肺表面被覆層や、気管支粘膜層が良く保存されることを見出した。

2) 気管支上皮細胞の走査型電子顕微鏡観察にOTE固定液を用いることにより、臨界点乾燥法や白金蒸着を省略出来ることを明らかにし、走査型電子顕微鏡試料作製を、簡便かつ迅速に行うことを可能にした。

3) OTE固定液により固定した検体を、反射電子で観察することにより、走査型電子顕微鏡でも細胞内の情報が得られ、好酸球の細胞内顆粒も認識されるようになった。このことにより、従来困難であった走査型電子顕微鏡観察からの末梢血の血球分類を可能とした。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Mashimo K<sup>1)</sup>, Sato S, Ohno Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Legal Medicine ): Acute Cytotoxic Effects of Ethanol on Cultured Mouse Myocardial Cells in a Monolayer -Enzymatic, Chronotropic and Ultrastructural Studies-. Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence 2001 ; 36 ( 2 ): 142-153 .
- 2) Liu XL, Sato S, Dai W, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>1st Dept. of Pathology ): The protective effect of hepatocyte growth-promoting factor ( pHGF ) against hydrogen peroxide-induced acute lung injury in rats . Med Electron Microsc 2001 ; 34 ( 2 ): 92-102 .
- 3) Liu QL, Sato S, Kishikawa T, Matsuzaki H<sup>1)</sup>, Yamanaka N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Lab. of Nutritional Physiological Chemistry, Dept. of Nutrition, Faculty of Agriculture, Tokyo Univ. of Agriculture , <sup>2)</sup>1st Dept. of Pathology ): Effectiveness of a traditional Chinese medicine, Wulingsan, in suppressing the development of nephrocalcinosis induced by a high phosphorus diet in young rats . Med Electron Microsc 2001 ; 34 ( 2 ): 103-114 .
- 4) Liu AM, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Asano G<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hp , <sup>2)</sup>2nd Dept. of Pathology ): Use of electron microscopic evaluation for the diagnosis of adrenal cortical carcinoma in fine needle aspiration cytology : a case report and review of the literature . Med Electron Microsc 2001 ; 34 ( 3 ): 190-197 .
- 5) Sasaki Y, Sato S, Adachi A, Dan Y<sup>1)</sup>, Nishimura M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Application Technology Dept. , Techno Res. Lab. , Hitachi Science Lab. ): Use of oolong tea extract staining of soft-tissue specimens in low-vacuum scanning electron microscope with a cooling stage . Med Electron Microsc 2001 ; 34 ( 4 ): 254-257 .

- 6) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Liu AM, Azuma K<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Yamamoto H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hp , <sup>2)</sup> Dept. of Neurosurgery, Tama Nagayama Hp , <sup>3)</sup> Dept. of Surgert, Tama Nagayama Hp ): Amelanotic melanoma of the anterior mediastinum . J. Jpn. Soc. Clin. Cytol 2002 ; 41 ( 2 ): 106-111 .
- 7) 戴 威, 佐藤 茂, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): 四塩化炭素投与によるラットの急性肝障害に対する促肝細胞増殖因子 ( pHGF ) の治療効果 II. 細胞膜障害の抑制 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 2 ): 154-164 .

#### 学会発表

##### (1) ワークショップ:

- 1) 広畑泰久, 安達公一: 「技術認定委員会セッション(第2部)」レプリカの限界とコントラスト. 日本電子顕微鏡学会第57回学術講演会, 2001. 5.

##### (2) 一般講演:

- 1) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 孫 宇良<sup>2)</sup>, 谷内良成<sup>3)</sup>, 山田浩子<sup>3)</sup>, 横田明重<sup>3)</sup>, 越野立夫<sup>3)</sup>, 劉 愛民, 浅野伍朗<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 多摩永山病院産婦人科 ): Deciduoid malignant mesothelioma が考えられる腹腔腫瘍の1例. 第90回日本病理学会総会, 2001. 4.
- 2) 平坂雅男<sup>1)</sup>, 朝倉健太郎<sup>2)</sup>, 広畑泰久, 長沢忠広<sup>3)</sup>, 斎藤 実<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝人, <sup>2)</sup> 東大, <sup>3)</sup> コニカ, <sup>4)</sup> 大妻女子大 ): 計装化ウルトラマイクロトームを用いた材料評価. 日本電子顕微鏡学会第57回学術講演会, 2001. 5.
- 3) 長沢忠広<sup>1)</sup>, 朝倉健太郎<sup>2)</sup>, 広畑泰久, 平坂雅男<sup>3)</sup>, 斎藤 実<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> コニカ, <sup>2)</sup> 東大, <sup>3)</sup> 帝人, <sup>4)</sup> 大妻女子大 ): 計装化ウルトラマイクロトームを用いた異種界面の評価. 日本電子顕微鏡学会第57回学術講演会, 2001. 5.
- 4) 秋元 剛<sup>1)</sup>, 広畑泰久, 島田光世<sup>1)</sup>, 杉 晴夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝京大学医学部生理学教室 ): ガス雰囲気試料室用 TAC-Sio 隔膜に関する研究. 日本電子顕微鏡学会第57回学術講演会, 2001. 5.
- 5) 劉 愛民, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 同脳神経外科 ): 脳転移が初発症状であった肺原発 large cell neuroendocrine carcinoma と考えられる2例. 第48回日本臨床検査医学会総会 第41回日本臨床化学会年会連合大会 - 検査2001, 2001. 8.
- 6) 劉 愛民, 杉崎祐一, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 同外科 ): 生検材料からの電顕観察が診断に有用であった食道原発小細胞癌の1例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 7) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 劉 愛民, 谷内良成<sup>2)</sup>, 山田浩子<sup>2)</sup>, 横田明重<sup>2)</sup>, 越野立夫<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 同産婦人科 ): Deciduoid mesothelioma と考える腹膜腫瘍の1例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 8) 秋山裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 原 博<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 阿部久美子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 小浜真澄<sup>1)</sup>, 田島敬夫<sup>1)</sup>, 澤田名美枝<sup>1)</sup>, 孫 宇良<sup>1)</sup>, 劉 愛民 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 乳腺穿刺吸引細胞診での組織型推定の重要性について. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 9) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 劉 愛民, 谷内良成<sup>2)</sup>, 山田浩子<sup>2)</sup>, 横田明重<sup>2)</sup>, 越野立夫<sup>2)</sup>, 杉崎祐一: Deciduoid mesothelioma の1例: 電顕的検索を中心に. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 10) 劉 愛民, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 永野玲子<sup>2)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 同産婦人科 ): 電顕検索が診断に有用であった子宮頸部原発色素欠乏性悪性黒色腫 ( amelanotic melanoma ) の1例. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 11) 石崎正通<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広, 若松恭子<sup>1)</sup>, 戴 威, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup> 病理学第1 ): 糸球体糸蹄壁基底膜の高電子密度化と腎疾患. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.

- 12) 劉 效蘭, 佐藤 茂, 戴 威, 佐佐木喜広, 杉崎祐一: 過酸化水素投与による肺機能障害に対するpHGFの治療効果 2. 空気 - 血液関門部. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 13) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 安達彰子, 劉 愛民, 佐藤 茂, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科 ): 中枢性神経細胞腫の超微形態. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 14) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 井上京子, 戴 威, 杉崎祐一: チルドSEMの生検診断への有用性 3. リンパ球系細胞の観察. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 15) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 安達彰子, 井上京子, 杉崎祐一: ウーロン茶抽出物 (OTE) による切片染色 (結合組織の染色と切片染色増強効果). 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 16) 並松茂樹<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 ): 種々の市販飲料に含まれるポリフェノールによる結合組織の染色性の検討. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 17) 佐藤 茂, 里村克章<sup>1)</sup>, 安達彰子, 佐佐木喜広, 戴 威, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup> 内科第1 ): 自己免疫性肝疾患に出現する粗面小細胞体の変性像 2. ステレオ観察. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.

## [ 情報科学センター ]

### 研究概要

本年の大きな成果としては、阪大との共同研究が結実しBrain Researchへの掲載という結果が得られた。

#### 研究概要

##### 1. 医療情報学

医療管理学との共同研究としてリハビリテーション病院の機能評価研究について、報告書が纏められた。治療評価ビデオデータベースの構築を検討しているが、患者さんの個人情報保護との関連は大きな課題である。

##### 2. 教育と情報環境

2001年度、学内LANの高速化及びメールなどのサーバーの外部委託が行われサーバでのウイルスのチェックが開始された。Nimda等のウイルスが大量配布された年であったが、大量感染の事態は生じなかった。情報の便利さと危険性は両輪のごとくあり、不用意な情報の取り扱いの危険さ、倫理の重要性を訴える必要がある。センターでは情報セキュリティ、倫理の研究を行い、情報リテラシーの現況について、医療情報学会などへ発表している。

##### 3. 教育のマルチメディア化

従来からビデオオンデマンド (VOD) について、調査、実験、研究を行ってきたが、本年度末に全学対象としたVODシステムが導入された。多地点遠隔講義システムの導入、仮想大学としての仮想卒業教育の創立などが行われ、2002年度よりマルチメディア教育コンテンツの開発研究体制の確立が求められている。

医学教育の新しい局面として、メディア活用教育の研究を開始する他、コンテンツ開発環境の整備も重点施策として行う予定である。

##### 4. バイオインフォマティクス環境の確立へ

ポストゲノム時代として、計算機科学と生命科学との融合が期待されている。本年末、安価な36CPUの並列コンピュータが導入された。生命系の科学計算環境として標準的なOSであるLinuxが稼動している。全学的に開放する為、現在整備を進めている。必要なソフトは積極的に導入し、新たな時代への第1歩とすることを2002年度の課題とする。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Kimura M<sup>1)</sup>, Mori T<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Endo S<sup>1)</sup>, Kawano K ( <sup>1)</sup>Dept. Neuropsychiatry, Nippon Medical School ): EEG Changes in Odor Effects after the Stress of Long Monotonous Work . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2001 ; 19 ( 2 ): 271-278 .
- 2) Hosoi R<sup>1)</sup>, Momosaki S<sup>1)</sup>, Ibi N<sup>2)</sup>, Abe K<sup>1)</sup>, Itoh T, Inoue O<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. Medical Physics, School of Allied Health, Faculty of Medicine, Osaka University , <sup>2)</sup>Drpt. Drug Safety Evaluation, Developmental Research Laboratories, Shinongo and CO. , Ltd. ): The Role of the cAMP-PKA system in the short-term regulation of striatal [<sup>14</sup>C]-2-deoxyglucose uptake in freely moving rats . Brain Research 2001 ; 921 : 260-263 .
- 3) 河野貴美子, 近喰ふじ子<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東京家政大学 ): 騒音環境下における思考活動と脳波 . 催眠と科学 2001 ; 16 ( 1 ): 38-42 .
- 4) 河野貴美子: 脳波から見た香りの効果に関する検討: 瞑想時の脳波と比較して . 人体科学 2001 ; 10 ( 2 ): 11-18 .
- 5) 寺田有我<sup>1)</sup>, 小川修平<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 金井直明<sup>1)</sup>, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>東海大学開発工学部生体工学科 ): 視覚指標群の動きの認知に及ぼす提示色の効果 . 東海大学紀要 2002 ; 11 ( 11 ): 106-108 .

#### (2) 研究報告書:

- 1) 木村哲彦<sup>1)</sup>, 太田久彦<sup>1)</sup>, 伊藤高司 ( <sup>1)</sup>医療管理学 ): ( 分担 ) アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発 . 厚生科学研究費補助金医療技術総合研究事業平成12年度総括分担報告書 2001 .
- 2) 河野貴美子: 経験度別にみた香りの瞑想効果と脳波 . Aroma Research 2001 ; 2 ( 1 ): pp30-33 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 河野貴美子: 脳, 心, 人間 ( 21世紀は心の時代, 女性の時代 ). 第13回日本医療法政学会, 2001 . 11 .
- 2) 河野貴美子: 脳波から見た精神世界 ( 脳と心 ). 第15回日本ME学会秋季大会, 2001 . 12 .

#### (2) 一般講演:

- 1) 河野貴美子: 騒音環境下の脳波からリラックスと 波を考える . 人体科学会第11回大会, 2001 . 11 .
- 2) 渡部 昇, 大坂元久, 河野貴美子, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: 医学生のPCスキルの変遷と導入教育の対応 . 第21回医療情報学連合大会 ( 第2回医療情報学会学術大会 ), 2001 . 11 .
- 3) 河野貴美子, 山本幹男<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 田中昌孝<sup>1)</sup>, 陳 偉中<sup>1)</sup>, 張 トウ<sup>1)</sup>, 古角智子<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 子供における課題集中時脳波の経年変化 . 第13回生命情報科学シンポジウム, 2002 . 3 .
- 4) 陳 偉中<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 山本幹男<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所 ): 対人遠隔作用実験における受信者左手労宮部位の皮膚表面温度の変化 ( その2 ). 第13回生命情報科学シンポジウム, 2002 . 3 .
- 5) 田中昌孝<sup>1)</sup>, 山本幹男<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 古角智子<sup>1)</sup>, 張 トウ<sup>1)</sup>, パルホムチュクデミトリ<sup>1)</sup>, 陳 偉中<sup>1)</sup>, 原口鈴恵<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 相馬隆郎<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>東京都立短期大学 ): 対人遠隔作用における心拍分析 ( II ). 第13回生命情報科学シンポジウム, 2002 . 3 .

## 〔 3 〕 臨 床 医 学



# 1. 内科学第一講座

## [ 付属病院第 1内科 ]

### 研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，不整脈に関する研究として，1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，臨床効果の検討，3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，4) 失神患者における自律神経機能の評価，5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討ならびに抗不整脈薬の評価，6) 単相性活動電位記録による不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，自律神経機能との関連，3) 急性心筋梗塞後の左室リモデリング，4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，5) 虚血心筋保護法の検討，6) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，7) 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討。

肝臓病学では，1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，3) SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生，4) 慢性肝疾患における肺循環異常，5) 二次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化と NO の関係。

糖尿病学では，1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，2) 糖尿病患者における自律神経機能，3) 無症候性心筋虚血の病態，を検討している。

### 研究業績

#### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

#### 原著：

- 1) Nishiyama Y<sup>1,2)</sup>, Nejima J<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>3)</sup>, Kotani E<sup>1)</sup>, Sakai N<sup>3)</sup>, Hatamochi A<sup>4)</sup>, Shinkai H<sup>4)</sup>, Kiuchi K<sup>1)</sup>, Tamura K<sup>5)</sup>, Shimada T<sup>3)</sup>, Takano T, Katayama Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> The Department of Coronary and Intensive Care Medicine, <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine, <sup>3)</sup> Biochemistry and Molecular Biology, <sup>4)</sup> Department of Dermatology, Chiba University School of Medicine, <sup>5)</sup> The First Department of Pathology ): Ehlers-Danlos syndrome type IV with a unique point mutation in COL3A1 and familial phenotype of myocardial infarction without organic coronary stenosis. J Intern Med 2001 ; 249 ( 1 ): 103-108 .
- 2) Kiuchi K, Nejima J, Tanaka T, Ohta M, Hashimoto H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Intensive and Coronary Care Unit ): Increased serum levels of advanced glycation and products : a marker of coronary artery disease activity in diabetic patients. Heart 2001 ; 85 ( 1 ): 87-91 .
- 3) Hirayama Y, Kuruma A<sup>1)</sup>, Hiraoka M<sup>2)</sup>, Kawano S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Development Neurobiology Laboratory, Brain Science Institute, the Institute of Physical and Chemical Research, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Diseases, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University ): Beat Dependent Alternation of Ca<sup>2+</sup>-Activated Cl<sup>-</sup> Current during Rapid Stimulation in Rabbit Ventricular Myocytes. Jpn Heart J 2001 ; 42 ( 2 ): 207-219 .
- 4) 上村竜太，高山守正，和田健太郎，関戸司久，安武正弘，高野照夫，大久保直子<sup>1)</sup>，矢島俊己<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科第2) ): 広範囲ST低下を呈したバルサルバ洞動脈瘤破裂の1例. 心臓 2000 ; 32 ( 11 ): 897-901 .

綜説：

- 1) 木内 要：循環器疾患の病態生理．Pharmavision 2000；4(4)：13-16．
- 2) 木内 要，高野照夫：急性心筋梗塞の診断基準・病型分類・重症度．内科 2000；1318-1322．
- 3) 木内 要：右心不全と神経体液性因子．呼吸と循環 2000；48(10)：999-1003．
- 4) 木内 要：患者のための自己管理・高血圧の自己管理．日病薬誌 2000；52(12)：1813-1818．
- 5) 木内 要：患者のための自己管理・高脂血症の自己管理．日薬師会誌 2001；53(1)：119-124．
- 6) 木内 要，高野照夫：難治性心不全の概念．循環器 2001；49(1)：1-6．
- 7) 木内 要，高野照夫，小川晃生：急性肺動脈血栓塞栓症：血栓性素因．日内会誌 2001；90(2)：212-216．

(1)原著：

- 1) Sutovsky I, Katoh T, Takayama H, Seino Y, Takano T, Hayakawa H : Brain Natriuretic Peptide Reflects the Severity of Ventricular Arrhythmia . J Arrhythmia 2001 ; 17 ( 4 ) : 479-482 .
- 2) Katoh T, Iinuma H<sup>1)</sup>, Inoue H<sup>1)</sup>, Ohe T<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup>, Kasanuki H<sup>1)</sup>, Tanabe T<sup>1)</sup>, Hayakawa H ( <sup>1)</sup>Executive Committee for JALT-2 Study ): Multicenter Prospective Nonrandomized Study of Long-Term Antiarrhythmic Drug Therapy in Patients With Tachyarrhythmias-Japanese Antiarrhythmics Long-Term Study-2 ( JALT-2 Study ) - . Jpn Circ J 2001 ; 65 : 275-278 .
- 3) Ochi M<sup>1)</sup>, Hatori N<sup>1)</sup>, Besho R<sup>1)</sup>, Fujii M<sup>1)</sup>, Saji Y<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Honma H ( <sup>1)</sup>Department of Surgery II ): Adequacy of flow capacity of bilateral internal thoracic artery T graft . Ann Thorac Surg 2001 ; 72 ( 6 ) : 2008-2011 .
- 4) Suzuki K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Aoki M<sup>1)</sup>, Takezaki S, Tuchida T, Takano T, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Dermatology ): Persistent Plaques and Linear pigmentation in Adult-Onset Still's Disease . Dermatology 2001 ; 202 : 333-336 .
- 5) Tanaka K<sup>1)</sup>, Seino Y, Ohbayashi K, Takano T ( <sup>1)</sup>Division of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital ): Cardiac Emergency Triage and Therapeutic Decisions Using Whole Blood Rapid Troponin T Test for Patients With Suspicious Acute Coronary Syndrome . Jpn Circ J 2001 ; 65 : 424-428 .
- 6) Honma H, Kusama Y, Matsuzaki T<sup>1)</sup>, Ohno T, Nishigaki R, Munakata K, Kishida H, Takano T ( <sup>1)</sup>Department of Physiological Examination ): Resting Ultrasonic Tissue Characterization and Dobutamine Stress Echocardiography for Prediction of Functional Recovery in Chronic Left Ventricular Ischemic Dysfunction . Jpn Circ J 2001 ; 65 : 381-388 .
- 7) Katoh T, Ohara T, Kim E M, Hayakawa H : Non-Invasive Diagnosis of Concealed Wolff-Parkinson-White Syndrome by Detection of Concealed Anterograde Pre-Excitation . Jpn Circ J 2001 ; 65 : 367-370 .
- 8) Kashiwagi M, Seino Y, Tsukamoto H, Takano T, Kaseki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Gynecology ): Transdermal Estrogen Replacement Therapy and Vasomotor Response . Jpn Heart J 2001 ; 42 ( 3 ) : 307-315 .
- 9) Wu X, Seino Y, Ogura H, Fukuma N, Katoh T, Takano T : Plasma Natriuretic Peptide Levels and Daily Physical Activity in Patients with Pacemaker Implantation . Jpn Heart J 2001 ; 42 ( 4 ) : 471-482 .
- 10) Hata N<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Kunimi T<sup>1)</sup>, Kishida H, Takano T ( <sup>1)</sup>Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital ): Lack of Antagonism Between Nicorandil and Sulfonylurea in Stable Angina Pectoris . Int J Clin Pharma Res 2001 ; 21 : 59-63 .
- 11) Hayashi M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Ino T, Atarashi H, Takano T : A Randomized Comparison of the Straight Linear Approach with Electrogram Mapping Focal Approach in Selective Slow Pathway Ablation . PACE 2001 ; 24 : 1187-1197 .
- 12) Wu X-Y, Katoh T, Ohara T, Takano T, Hayakawa H : Comparison and Prediction of Class I Antiarrhythmic

Effects in Patients with Ventricular Arrhythmias Using Signal-averaged Electrocardiography . 不整脈 2001 ; 17 ( 5 ): 572-578 .

- 13) Hata N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Makino T<sup>3)</sup>, Takano T ( <sup>1</sup> The Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital , <sup>2</sup> The Division of Intensive Care Unit and Coronary Care Unit , <sup>3</sup> New Tokyo International Airport Clinic, Narita ): Prognosis of Economy Class Syndrome Treated in Intensive Care Unit . Intern Med 2002 ; 41 ( 2 ): 91-94 .
- 14) Kato Kimura Y, Seino Y, Hirayama Y, Aramaki T, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Amano H<sup>2)</sup>, Takano T ( <sup>1</sup> The Second Department of Internal Medicine , <sup>2</sup> The Department of Rheumatology ): Systemic Lupus Erythematosus Related Transverse Myelitis Presenting Longitudinal Involvement of the Spinal Cord . Intern Med 2002 ; 41 ( 2 ): 156-160 .
- 15) Yasutake M, Kunimi T, Sato N, Yokoyama H, Sasaki Y, Kusama Y, Hata N, Takayama M, Munakata K, Kishida H, Takano T, Hayakawa H : Effects of a Single Oral Dose of Cilostazol on Epicardial Coronary Arteries and Hemodynamics in Humans . Circ J 2002 ; 66 : 241-246 .
- 16) Morita N, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Hayashi M, Atarashi H, Katoh T, Takano T : Pronounced Effect of Procainamide on Clockwise Right Atrial Isthmus Conduction Compared with Counterclockwise Conduction : Possible Mechanism of the Greater Incidence of Common Atrial Flutter During Antiarrhythmic Therapy . J Cardiovasc Electrophysiol 2002 ; 13 : 212-222 .
- 17) Hata N<sup>1)</sup>, Tanaka K, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1</sup> The Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital ): Clinical Significance of Pleural Effusion in Acute Aortic Dissection . Chest 2002 ; 121 : 825-830 .
- 18) 上村竜太<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 笠神康平, 関戸司久, 横山広行, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院心臓病センター・内科 ): 急性心筋梗塞の再灌流不良例における責任冠動脈内圧の特徴 . Jpn J Interv Cardiol 2001 ; 16 ( 5 ): 408-414 .
- 19) 木村祐子, 福間長知, 及川恵子, 美浦和代, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫: 予後不良の指標である最大酸素摂取量低下と喚気応答亢進が表す病態の差異 . 心臓リハビリテーション 2001 ; 6 ( 1 ): 98-101 .
- 20) Yamamoto T<sup>1)</sup>, Kasagami Y<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Saeki K<sup>1)</sup>, Kanemura M<sup>1)</sup>, Munakata K, Takano T ( <sup>1</sup> Kitamura-ayama General Hospital ): Left internal mammary-to-left circumflex coronary artery collateral pathway in a patient with occluded left circumflex artery . Jpn Circ J 2001 ; 65 : 753-754 .
- 21) 相澤瑞穂, 小林義典, 平澤泰弘, 阿部純子, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 井野 威<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 多摩永山病院, <sup>2</sup> 第二病院 ): 短期高頻度刺激による心房有効不応期の短縮およびその回復過程における自律神経の影響 . 不整脈 2001 ; 17 ( 4 ): 467-471 .
- 22) 上村竜太<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院内科 ): 急性冠症候群における新世代と旧世代冠動脈ステントの初期および長期成績の比較 . Jpn J Endovascular Intervention 2002 ; 3 ( 1 ).
- 23) 関戸司久, 上村竜太, 高山守正, 木内 要, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1</sup> 鶴見大学歯学部内科 ): ドブタミン負荷時における左室収縮期最高血圧 / 左室収縮末期容積比変動を用いた心収縮予備能の評価 : 左室収縮末期圧 容積関係勾配 ( Emax ) との比較検討 . J Cardiol 2002 ; 39 ( 2 ): 75-84 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 淀川顕司, 高山英男, 平山悦之, 高野照夫: 血液ガス ( 特集 : 循環器疾患の検査法 : 循環器専門医からの報告の読み方 ). クリニカ 2002 ; 29 ( 2 ): 93-97 .
- 2) 加藤貴雄, 松本 真, 斎藤寛和: QT 間隔電気的交互脈, 特に<sub>p</sub>V-TWA について . JPN. J. Electrocardiology 2001 ; 21 ( 4 ): 436-442 .

- 3) 加藤貴雄: 心電図の自動診断. 総合臨 2001 ; 50 (4): 688-691 .
- 4) 清野精彦: 心筋トロポニン T 全血迅速判定法の活用と今後の展望 ESC/ACC 心筋梗塞診断基準改定をうけて. 生物試料分析 2001 ; 24 (4): 263-269 .
- 5) 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科): 血栓の色調からみた急性肺動脈血栓梗塞症の臨床的特徴. 脈管学 2001 ; 41 : 207-211 .
- 6) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中沢賢<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 山本 剛, 高山守正, 田中啓治, 高野照夫 (<sup>1)</sup>放射線医学・ハイテクリサーチセンター): カテーテルの回転による急性塊状肺血栓の破砕治療. 脈管学 2001 ; 41 (4): 217-219 .
- 7) 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室): 急性心筋梗塞のガイドライン: 10年の進歩. Current Topics in Cardiology 2001 ; 27 : 16-26 .
- 8) 岸田 浩: 胸部痛のいろいろ. 総合臨 2001 ; 50 (5): 979-982 .
- 9) 高野照夫, 木内 要: 急性心筋梗塞. 集中治療医学 2001 ; 219-230 .
- 10) 大野忠明, 本間 博, 岸田 浩: 負荷心電図. 総合臨 2001 ; 50 : 1868-1873 .
- 11) 勝田悌実, 張 雪君, 荒牧琢己: 門脈肺高血圧 (特集: 肺高血圧症). Nippon Rinsho 2001 ; 59 (6) : 1186-1192 .
- 12) 草間芳樹, 馬淵浩輔, 酒井俊太, 本間 博, 岸田 浩, 高野照夫: 虚血性心疾患と運動負荷試験 (運動負荷心電図). 心臓 2001 ; 33 (特2) : 109-111 .
- 13) 清野精彦, 福島正人: 心筋傷害と生化学マーカー: 特に非ST上昇型急性冠症候群について. Heart View 2001 ; 5 (6) : 704-711 .
- 14) 岸田 浩: 無症候性心筋虚血. Medical Technology 2001 ; 6 (29) : 581-582 .
- 15) 岸田 浩: 虚血性心疾患の治療薬としてのカルシウム拮抗薬の使い方. 東京医師会誌 2001 ; 54 (5) : 539-544 .
- 16) 宮内靖史, 小林義典, 相澤瑞穂, 阿部純子, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 大村和子, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫, 新田 隆<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2): Radial Incision術後に出現した心房頻拍に対してカテーテルアブレーションを施行した2例. 臨床心臓電気生理 2001 ; 24 : 195-204 .
- 17) 高野照夫, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高木啓倫 (<sup>1)</sup>集中治療室): 急性心筋梗塞のプレホスピタルケアをどうするか. 心臓 2001 ; 33 (6) : 505-509 .
- 18) 林 明聡, 小林義典: IDC 植込み例における抗不整脈薬併用の実際とその意義. Prg. Med 2001 ; 21 (6) : 1443-1450 .
- 19) 勝田悌実, 荒牧琢己: (17) アミロイドーシス (第II部 消化器疾患の臨床と分子医学の接点). 臨床消化器内科 2001 ; 16 (7) : 1080-1086 .
- 20) 岸田 浩: 安定狭心症の薬物療法. 心臓 2001 ; 33 (9) : 739-740 .
- 21) 高野仁司: 無麻酔ウサギのlate preconditioning現象におけるkatpチャネルの役割; 抗スタニング効果と梗塞サイズ縮小効果での検討. 循環器専門医 2001 ; 19 (2) .
- 22) 中込明裕, 高野照夫: 心筋梗塞二次予防ガイドライン (前半). 日病薬誌 2001 ; 37 (10) : 1277-1285 .
- 23) 清野精彦: 慢性心不全における血液生化学的検査: どこまで評価できるか? 何をチェックすべきか? medicina 2001 ; 38 (10) : 1639-1641 .
- 24) 清野精彦: 急性心筋梗塞の新しい生化学的迅速診断法. Ther Res 2001 ; 22 (10) : 2303-2306 .
- 25) 荒牧琢己, 大須賀勝: NASHと脂肪肝. 診断と治療 2001 ; 89 (10) : 1839-1844 .
- 26) 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 尾科隆司<sup>1)</sup>, 上森真理子<sup>1)</sup>, 小菅 豊<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 佐野純子, 田中啓治, 岸田 浩, 高野照夫 (<sup>1)</sup>放射線科): 半導体検出器搭載モバイル

- 型ガンマカメラ Digirad 2020tc Imager™を用いた左室機能解析．核医学 2001；38（6）：249-254．
- 27) 福島正人，吉川雅智，清野精彦：急性冠症候群の血液生化学検査：役に立つもの，立たぬもの．Medical Practice 2001；18（11）：1809-1814．
- 28) 加藤貴雄：不整脈の診断．からだの科学 2001；（221）：28-34．
- 29) 岸田 浩：各種心臓発作の診断のための患者携帯用心電計の役割について．循環器情報処理研究会誌 2001；16（別冊）：145-150．
- 30) 中込明裕：安定狭心症から急性冠症候群への悪化におけるCRPによる単球tissue factorの上昇（特集：急性心筋梗塞の病態と治療：最近の話題）．循環器 2001；50（6）：475-478．
- 31) 平山悦之，高野照夫：2．カリウムと各種疾患 2）心疾患とカリウム（特集：カリウム代謝異常の臨床と治療）．医薬ジャーナル 2001；37（12）：78-81．
- 32) 小林義典，加藤貴雄：発作性頻脈．日本臨 2001；59（8）：792-798．
- 33) 清野精彦，安武ひろ子，豊田隆志：心筋マーカー：トロポニンT（特集：救急・集中治療Key word）．救急・集中治療 2001；13：64-69．
- 34) 加藤貴雄：心室頻拍．Heart view 2001；5（12）：78-79．
- 35) 加藤貴雄：5．脚ブロック，脚枝ブロック．Heart View 2001；5（12）：72-74．
- 36) 高野照夫，亀山幹彦<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>集中治療室）：21世紀に向けての急性心筋梗塞の診断と治療の変遷．日集中医誌 2002；9（1）：3-9．
- 37) 塚田弥生，川嶋 朗<sup>1)</sup>，山下 仁<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化部門，<sup>2)</sup>筑波技術短期大学附属診療所 代替医療としての鍼灸治療：国際比較とプライマリケア医が知っておくべき鍼灸の適応とその現状，安全性について．治療 2002；84（1）：85-91．
- 38) 加藤貴雄：不整脈薬物療法の新しい考え方 Sicilian Gambitの臨床応用．J Nippon Med Sch 2002；69（1）：7-12．
- 39) 荒牧琢己，勝田悌実，張 雪君：8．肝肺症候群．肝臓 2002；43（2）：94-100．
- 40) 小林義典：下壁心筋梗塞後のVT：Mitral isthmus VTの1例．Cardiovascular Med-Surg 2002；4（1）：109-113．
- 41) 清野精彦：受容体遮断薬（特集：循環器系薬剤の新しい視点：検証と展望）．呼吸と循環 2002；50（2）：139-146．
- 42) 山本 剛，佐藤直樹<sup>1)</sup>，高野照夫（<sup>1)</sup>集中治療室）：急性期救急治療：とくにショック対策（特集：急性肺動脈塞栓症）．総合臨 2002；51：318-322．
- 43) 清野精彦：Minor myocardial damageとongoing myocardial damage：心筋トロポニンT測定により明らかにされてきたこと．心臓 2002；34（3）：231-234．
- 44) 高木啓倫<sup>1)</sup>，高山守正（<sup>1)</sup>集中治療室）：急性冠症候群（特集：心電図の読み方：基本を見直す）．救急医学 2002；26（3）：281-285．
- 45) 高山守正，高野照夫：東京都CCUネットワークにおける患者集計の解析．循環器医 2002；10（1）：21-26．
- 46) 加藤貴雄：2．心電図（特集：内科 - 100年のあゆみ（循環器））．日内会誌 2002；91（3）：797-800．
- (3) 研究報告書：
- 1) 横山光宏<sup>1)</sup>，杉下靖郎<sup>2)</sup>，増田善昭<sup>3)</sup>，友池仁暢<sup>4)</sup>，中野 赴<sup>5)</sup>，玉木長良<sup>6)</sup>，野原隆司<sup>7)</sup>，中嶋憲一<sup>8)</sup>，岸田浩，延吉正清<sup>9)</sup>，吉川純一<sup>10)</sup>，児玉和久<sup>11)</sup>，似鳥俊明<sup>12)</sup>，山辺 裕<sup>13)</sup>，川合宏哉<sup>13)</sup>，石光敏行<sup>14)</sup>，桑原洋一<sup>15)</sup>，高須準一郎<sup>15)</sup>，久保田功<sup>16)</sup>，井阪直樹<sup>17)</sup>，森田浩一<sup>18)</sup>，足立 至<sup>18)</sup>，稲田秀郎<sup>19)</sup>，滝 淳一<sup>20)</sup>，草間芳樹，斎藤 勉，木村 剛<sup>21)</sup>，寺柿政和<sup>22)</sup>，平山篤志<sup>23)</sup>，横山健一<sup>24)</sup>（<sup>1)</sup>神戸大学第一内科，<sup>2)</sup>筑波記念病院，<sup>3)</sup>千葉大学第三内科，<sup>4)</sup>山形大学第一内科，<sup>5)</sup>三重大学第一内科，<sup>6)</sup>北海道大学大学院医学研究科核医学科，<sup>7)</sup>京都大学大学院医学研究科循環器病態学，<sup>8)</sup>金沢大学核医学講座，<sup>9)</sup>社会保険小倉記念病院，<sup>10)</sup>大阪市立

大学大学院医学研究科循環器病病態内科学, <sup>11)</sup>大阪警察病院内科, <sup>12)</sup>杏林大学放射線医学, <sup>13)</sup>神戸大学第一内科, <sup>14)</sup>筑波大学臨床医学系内科, <sup>15)</sup>千葉大学第三内科, <sup>16)</sup>山形大学第一内科, <sup>17)</sup>三重大学第一内科, <sup>18)</sup>北海道大学大学院医学研究科核医学科, <sup>19)</sup>京都大学大学院医学研究科循環器病態学, <sup>20)</sup>金沢大学核医学講座, <sup>21)</sup>社会保険小倉記念病院内科, <sup>22)</sup>大阪市立大学大学院医学研究科循環器病態内科学, <sup>23)</sup>大阪警察病院内科, <sup>24)</sup>杏林大学放射線医学): 慢性虚血性心疾患の診断と病態把握のための検査法の選択基準に関するガイドライン. Jpn Circ J 2001; 65 (Suppl. IV): pp913-920.

- 2) 笠貫 宏<sup>1)</sup>, 相澤義房<sup>2)</sup>, 大江 透<sup>3)</sup>, 奥村 謙<sup>4)</sup>, 川田志明<sup>5)</sup>, 田中茂夫<sup>6)</sup>, 早川弘一<sup>7)</sup>, 比江嶋一昌<sup>8)</sup>, 平岡昌和<sup>9)</sup>, 三崎拓郎<sup>10)</sup>, 三井利夫<sup>11)</sup>, 山口 巖<sup>12)</sup>, 石川利之<sup>13)</sup>, 岩 亨<sup>14)</sup>, 梅村 純<sup>15)</sup>, 大西 哲<sup>16)</sup>, 加藤貴雄, 栗田隆志<sup>17)</sup>, 庄田守男<sup>18)</sup>, 住友直方<sup>19)</sup>, 中里祐二<sup>20)</sup>, 中村好秀<sup>21)</sup>, 新田 隆<sup>22)</sup>, 庭野慎一<sup>23)</sup>, 平尾見三<sup>24)</sup>, 松本万夫<sup>25)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所循環器内科, <sup>2)</sup>新潟大学医学部第一内科, <sup>3)</sup>岡山大学医学部循環器内科, <sup>4)</sup>弘前大学医学部第二内科, <sup>5)</sup>慶應義塾大学医学部外科, <sup>6)</sup>日本医科大学第二外科, <sup>7)</sup>久我山病院院長, <sup>8)</sup>金沢医科大学客員教授, <sup>9)</sup>東京医科歯科大学難治疾患研究所, <sup>10)</sup>富山医科薬科大学医学部第一外科, <sup>11)</sup>筑波大学臨床医学系外科, <sup>12)</sup>筑波大学臨床医学系内科, <sup>13)</sup>横浜市立大学医学部第二内科, <sup>14)</sup>愛知医科大学第三内科, <sup>15)</sup>榊原記念病院内科, <sup>16)</sup>NTT 東日本関東病院内科, <sup>17)</sup>国立循環器病センター内科心臓部門, <sup>18)</sup>東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所循環器内科, <sup>19)</sup>日本大学医学部小児科, <sup>20)</sup>順天堂大学医学部循環器内科, <sup>21)</sup>近畿大学医学部心臓小児科, <sup>22)</sup>日本医科大学第二外科, <sup>23)</sup>北里大学医学部第二内科, <sup>24)</sup>東京医科歯科大学医学部循環器内科, <sup>25)</sup>埼玉医科大学第二内科): 不整脈の非薬物治療ガイドライン. Jpn Cir J 2001; 65 (Suppl. V): pp1127-1175.

## 著 書

- 1) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室): [ 分担 ] 補助循環の有用性. 改訂版 目でみる循環器病シリーズ2 心不全 ショック (篠山重威), 2001; pp140-146, メジカルビュー社.
- 2) 磯田麻里, 里村克章, 荒牧琢己: [ 分担 ] 急性肝炎様発症を示すPBC5例の臨床病理学的検討: PBCからAICあるいはAIHへの移行型か. 自己免疫性肝障害の臨床 (恩地森一, 東 俊宏, 山本和秀), 2001; pp223-229, 日本医学館.
- 3) 大野忠明, 本間 博: [ 分担 ] 4. 心臓編 心エコー図. 麻酔のhow to 技術編 (小川 龍), 2001; pp126-127, 克誠堂.
- 4) 加藤貴雄: [ 分担 ] 遅延電位 (LP). 循環器研修医ノート (永井良三, 岡部英男, 三田村秀雄, 川名正敏, 長谷川昭, 廣井透雄, 山下武志), 2001; pp235-239, 診断と治療社.
- 5) 岸田 浩: [ 分担 ] 6. 虚血性心臓病とリズム. 実地診療に役立つヒトのリズム時間診療学 (田村康二), 2001; pp146-155, 永井書店.
- 6) 高野照夫, 木内 要: [ 分担 ] 6. 急性心筋梗塞. 集中治療医学 (平澤博之, 小川 龍, 勝屋弘忠, 窪田達也, 高野照夫, 前川剛志), 2001; pp219-230, 秀潤社.
- 7) 岸田 浩: [ 分担 ] Ca拮抗薬. 今日の循環器疾患治療指針 (細田瑛一), 2001; pp141-143, 医学書院.
- 8) 高野照夫: [ 分担 ] 急性心不全の治療方針. 今日の循環器疾患治療指針 (細田瑛一), 2001; pp266-269, 医学書院.
- 9) 岸田 浩: [ 分担 ] 虚血性心疾患の診断のポイント. 今日の循環器疾患治療指針 (細田瑛一), 2001; pp309-311, 医学書院.
- 10) 清野精彦: [ 分担 ] 急性心筋梗塞に合併する心不全の治療. 今日の循環器疾患治療指針 (細田瑛一), 2001; pp343-348, 医学書院.
- 11) 吉岡ゆうこ, 哲翁弥生: [ 編著 ] カルテの読み方と基礎知識. カルテの読み方と基礎知識 (長澤紘一, 村田正弘), 2001; じほう.

- 12) 中込明裕, 清野精彦: [分担] II. 心不全 A. 収縮障害による慢性心不全 11. 慢性心不全治療にCa拮抗薬は必要か?. EBM循環器疾患の治療(三田村秀雄, 山科 章, 川名正敏, 桑島 巖), 2001; pp280-287, 中外医学社.
- 13) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>(1)</sup>集中治療室): [分担] II. 心不全 C. 急性心不全 2. 急性心不全の初期治療: 利尿薬と血管拡張薬: どちらが先か?. EBM循環器疾患の治療(三田村秀雄, 山科 章, 川名正敏, 桑島 巖), 2001; pp352-355, 中外医学社.
- 14) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>(1)</sup>集中治療室): [分担] I. 虚血性心疾患 A. 急性心筋梗塞 1. 急性期のリスク層別化とは?: 救急室, ccuでハイリスク(低リスク)と判断される臨床所見(ない所見も)は?. EBM循環器疾患の治療(三田村秀雄, 山科 章, 川名正敏, 桑島 巖), 2001; pp22-31, 中外医学社.
- 15) 清野精彦, 池田真人: [分担] ミオシン軽鎖. KEY WORD 心臓病(山口 徹, 中川雅夫, 小川 聡, 横山光宏), 2001; pp274-275, 先端医学社.
- 16) 加藤貴雄: [分担] 心室遅延電位. KEY WORD 心臓病(山口 徹, 中川雅夫, 小川 聡, 横山光宏), 2001; pp174-175, 先端医学社.
- 17) 荒牧琢己, 清水秀治: [分担] B. 肝・胆・膵. 3. エージングと身体機能(武谷雄二), 2001; pp282-290, 中山書店.
- 18) 高野照夫: [分担] ESC/ACC心筋梗塞診断基準改訂について. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp2-3, メジカルビュー社.
- 19) 清野精彦, 緒方憲一, 福島正人: [分担] 心筋傷害と生化学マーカー. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp4-13, メジカルビュー社.
- 20) 清野精彦, 神野尚美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社): [分担] 第2章. 細胞質マーカー ミオグロブリンの全血迅速定量法. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp76-79, メジカルビュー社.
- 21) 清野精彦, 緒方憲一, 渡辺利夫<sup>1)</sup>, 坂井康律<sup>2)</sup>, 大軽靖彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>湧永製薬創薬研究所, <sup>2)</sup>大日本製薬ラボラトリープロダクツ部): [分担] 第2章. 細胞質マーカー Rapid H-FABP Test: 心臓型脂肪酸結合蛋白全血迅速診断法. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp88-93, メジカルビュー社.
- 22) 清野精彦, 富田喜文, 星野公彦: [分担] 第3章. 構造蛋白マーカー 心筋トロポニンT定量. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp94-107, メジカルビュー社.
- 23) 清野精彦, 島井新一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>島井内科小児科クリニック): [分担] 第3章. 構造蛋白マーカー ミオシン軽鎖・重鎖. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp120-125, メジカルビュー社.
- 24) 清野精彦, 説田浩一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都立駒込病院循環器科・検査科): [分担] 第3章. 心不全・心筋ストレスマーカー 心不全の血液生化学マーカーについて. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp126-131, メジカルビュー社.
- 25) 中込明裕, 清野精彦: [分担] 第6章. 新しいマーカーについて CRP. 心筋傷害と心筋/血管マーカー(心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断)(清野精彦), 2002; pp178-186, メジカルビュー社.
- 26) 清野精彦: [分担] 3. 心不全. 認定医・専門医のための内科学レビュー2002(酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢), 2002; pp43-48, 総合医学社.
- 27) 岸田 浩: [分担] 胸部痛の鑑別のポイント. 循環器診療二頁の秘訣(永井良三), 2002; pp94-95, 金原出版.
- 28) 高野照夫: [分担] 心不全患者の外来診療と入院基準. 循環器診療二頁の秘訣(永井良三), 2002; pp102-103, 金原出版.

- 29) 林 明聡, 加藤貴雄: [分担] 治療抵抗性心室不整脈. 循環器疾患最新の治療 2002-2003 (篠山重威, 矢崎義雄), 2002; pp331-335, 南江堂.
- 30) 安武正弘, 高野照夫: [分担] 急性心筋梗塞. 循環器疾患最新の治療 2002-2003 (篠山重威, 矢崎義雄), 2002; pp37-42, 南江堂.
- 31) 山本 剛, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>集中治療室): [分担] Valsalva洞破裂. 循環器疾患最新の治療 2002-2003 (篠山重威, 矢崎義雄), 2002; pp247-249, 南江堂.

#### 学会発表

[ 2000 年度追加分 ]

#### シンポジウム:

- 1) Takano H, Tang XL<sup>1)</sup>, Kodani E, Bolli R<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Experimental Research Laboratory, Division of Cardiology, University of Louisville): Differential role of K (ATP) channels in late preconditioning against myocardial stunning and infarction in rabbits. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.

#### (1) 特別講演:

- 1) 加藤貴雄: 新しい心電図解析法を用いた不整脈重症度の評価. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.

#### (2) シンポジウム:

- 1) 高山守正: 21世紀の新たな冠インターベンション: 超選択的冠動脈分枝薬剤注入による心疾患新治療の可能性 (21世紀におけるインターベンション). 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 2) 本間 博, 宗像 亮, 吉川雅智, 大野忠明, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫, 松崎つや子: ドブタミン負荷心エコー法: 心筋虚血と心筋 viability の臨床評価 (心筋虚血と心筋 viability 評価の現状). 日本超音波学会関東甲信越地方会第13回学術集会, 2001. 10.
- 3) 高野照夫: 外科医・麻酔科医相互の提言: 外科と麻酔科の融合 (心臓大血管手術と麻酔). 第25回日本外科学系連合学会学術集会, 2001. 10.
- 4) 安武正弘, 田中啓治<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高山守正, 清野精彦, 高野照夫(<sup>1</sup>集中治療室): 急性冠症候群のリスク層別と初期治療 (冠症候群の病態と治療). 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.

#### (3) ワークショップ:

- 1) 清水秀治, 荒牧琢己, 奥村英正<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東京なんばん白光園): 一般肝機能検査値の加齢変化 (加齢と臓器機能). 第38回日本臨床生理学会総会, 2001. 9.
- 2) 斎藤寛和: 生体情報の信頼性: 心血管系を中心として (生体情報の信頼性 (心電図・心機能)). 第38回日本臨床生理学会総会, 2001. 9.

#### (4) 一般講演:

- 1) Oikawa K: Chemoreflex activation modulate heart rate response to exercise. 48th Annual Meeting of the American College of Sports Medicine ( Baltimore, USA ), 2001. 5.
- 2) Takayama M: Serum Brain Natriuretic Peptide Predicts Efficacy on Intravascular Pressure Gradient After Percutaneous Ethanol Ablation of Septal Myocardium in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2001 ( Washington DC, USA ), 2001. 9.
- 3) Sato N: The Inotropic Effect of Milrinone Depends on Baroreflex Sensitivity in Heart Failure Patients. Heart Failure Society of America 5th Scientific Meeting ( Washington DC, USA ), 2001. 9.
- 4) Hata N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Makino T<sup>3)</sup>, Takano T (<sup>1</sup>ICU & CCU, Nippon Medical School Chiba-hokuso Hospital, <sup>2</sup>ICU & CCU, Nippon Medical School Hospital, <sup>3</sup>New Tokyo International Airport Clinic, Nippon Medical School): Treatment of Economy Class Syndrome. 5th



- Congress of European Association for Odense Clinical Pharmacology and Therapeutics , 2001 . 9 .
- 5) Oikawa K : Modulation of heart rate reaction by sympathetic abnormality associated with ventilatory response during exercise in patients with chronic heart failure . the 2001 Annual Meeting of the American Association of Cardiovascular and Pulmonary Rehabilitation ( Minneapolis, USA ), 2001 . 9 .
  - 6) Ohmura K, Kobayashi Y, Ueno A, Abe J, Morita N, Iwasaki Y, Hayashi M, Takayama H, Katoh T, Takano T : Electrophysiological Characteristics of Atrial Fibrillation Organized into Atrial Flutter by Oral Administration of Class I Antiarrhythmic Agents . The VII Asian-Pacific Symposium on Cardiac and Electrophysiology ( Beijing, China ), 2001 . 10 .
  - 7) Wu XY, Seino Y, Ogura H, Fukuma N, Katoh T, Takano T : Plasma Natriuretic Peptides Reflect the Condition of Physiological Pacing and Daily Physical Activity in Pacemaker Patients . The VII Asian-Pacific Symposium on Cardiac and Electrophysiology ( Beijing, China ), 2001 . 10 .
  - 8) Takayama H, Katoh T, Wu XY, Ohmura K, Ohara K, Ohara T, Yodogawa K, Kobayashi Y, Takano T : Analysis of Ventricular Tachycardia ( VT ) in Cardiomyopathy by Wavelet Transform . The VII Asian-Pacific Symposium on Cardiac and Electrophysiology ( Beijing, China ), 2001 . 10 .
  - 9) Iwasaki Y, Miyauchi Y, Osaka M, Abe J, Miyauchi M, Morita N, Hayashi M, Ohmura K, Hirayama Y, Kobayashi Y, Saitoh H, Katoh T, Takano T : Quantification of the Effect of Autonomic Activity on the AV Node by Spectral Analysis of Heart Rate Variability during Regular Atrial Pacing . American Heart Association Scientific Sessions 2001 ( Anaheim, USA ), 2001 . 11 .
  - 10) Ohno T, Honma H, Tokita Y, Munakata R, Yoshikawa M, Matsuzaki T, Kusama Y, Takayama M, Kishida H, Takano T : Combined Assessment of Coronary Flow Velocity and Myocardial Perfusion during Dobutamine Stress Echocardiography in the Detection of Coronary Artery Disease . American Heart Association Scientific Sessions 2001 ( Anaheim, USA ), 2001 . 11 .
  - 11) Yasutake H, Seino Y, Kashiwagi M, Honma H, Matsuzaki T : Detection of Cardiac Sarcoidosis Using Myocardial Integrated Backscatter and Cardio-Related Chemical Markers . American Heart Association Scientific Sessions 2001 ( Anaheim, USA ), 2001 . 11 .
  - 12) Sato N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Asai K, Takano T ( <sup>1)</sup>Coronary/Intensive Care Unit ): Comparison of inotropic responses to inotropic agents that act on components of  $\alpha$ -adrenergic receptor signaling pathway in conscious dogs with heart failure . 国立循環器病センターCOE国際シンポジウム「心機能 大阪2001 : ゲノム, 蛋白, フィジオームにおけるトピックス」( 大阪 ), 2002 . 2 .
  - 13) Nakagomi A, Akutsu K, Aoki S, Yamane Y, Takagi H, Fujita N, Takano H, Kusama Y, Takayama M, Takano T : Elevated plasma levels of C-creative protein may modulate myocardial damage in patients with acute myocardial infarction underwent successful percutaneous coronary intervention . American College of Cardiology 50th Annual Scientific Sessions ( Atlanta, USA ), 2002 . 3 .
  - 14) 田中古登子, 太田眞夫, 藤田進彦, 川嶋修司, 藤岡幹雄, 橋本英洋, 高野照夫 : 糖尿病性腎症における内皮細胞関連因子その他の病態比較 . 第44回日本糖尿病学会年次学術集会, 2001 . 4 .
  - 15) 時田祐吉, 大村和子, 古明地弘和, 長戸孝道, 清水秀治, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己 : 肝細胞癌に無症候性の腎盂癌を合併し, 両癌に対し一期的に根治手術を施行し得た1例 . 第264回日本消化器病学会関東支部例会, 2001 . 5 .
  - 16) 清水秀治, 里村克章, 加藤良人, 長戸孝道, 古明地弘和, 大須賀勝, 関山達也, 勝田悌実, 荒牧琢己, 大本安一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>大塚製薬医薬第一研究所 ): ヒトキマーゼを有する肥満細胞の肝組織内分布について . 第37回日本肝臓学会総会, 2001 . 5 .
  - 17) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>2)</sup>, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村

- 竜太<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>2)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同集中治療室 ): 血管内視鏡モニター下の冠動脈インターベンション . 第12回日本臨床モニター学会総会, 2001 . 5 .
- 18) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>2)</sup>, 豊田隆志<sup>2)</sup>, 品田卓郎<sup>2)</sup>, 岡松健太郎<sup>2)</sup>, 掃部弘行<sup>2)</sup>, 清宮康嗣<sup>2)</sup>, 高野雅充<sup>2)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>2)</sup>, 上村竜太<sup>2)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>2)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>3)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同胸部外科 ): 糖尿病患者における血管内超音波モニター下のステント留置 . 第12回日本臨床モニター学会総会, 2001 . 5 .
- 19) 福島正人, 藤岡幹雄, 福岡長知, 高野照夫, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性大動脈解離治療中に肺血栓塞栓症を再発し治療に苦慮した1例 . 日本循環器学会関東甲信越地方会第180回学術集会, 2001 . 6 .
- 20) 藤岡幹雄, 中込明裕, 清野精彦, 高野照夫, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 前壁中隔閉塞に極めて類似した所見を呈した肺血栓塞栓症の1例 . 日本循環器学会関東甲信越地方会第180回学術集会, 2001 . 6 .
- 21) 古明地弘和, 長戸孝道, 清水秀治, 張 雪君, 大須賀勝, 里村克章, 勝田侑実, 荒牧琢己: 3年3ヶ月間, 無治療で経過観察中の門脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌の1例 . 第37回日本肝癌研究会, 2001 . 6 .
- 22) 石井健輔<sup>1)</sup>, 田中邦夫<sup>1)</sup>, 田邊 潤<sup>1)</sup>, 小川 剛<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>博慈会記念総合病院循環器科 ): 著明な左室肥大及び大量の心嚢液貯留を認めた進行性全身性硬化症 ( PSS ) の1例 . 日本循環器学会関東甲信越地方会第180回学術集会, 2001 . 6 .
- 23) 紅葉 良<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 高井恵美子<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 市川和雄<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科 ): 拡大偽腔の圧排による左総腸骨動脈垂完全閉塞に対して自己拡張型ステント留置が奏功した逆行性III型急性大動脈解離の1例 . 日本循環器学会関東甲信越地方会第180回学術集会, 2001 . 6 .
- 24) 吉川雅智, 松本 真, 福岡長知, 小林義典, 荒牧琢己, 高野照夫, 青木 律<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>形成外科 ): アルコール性肝硬変に合併したbenign symmetrical lipomatosisの1例 . 第492回日本内科学会関東地方会, 2001 . 7 .
- 25) 高山守正, 高野照夫: 閉塞性肥大型心筋症への経皮的中隔焼灼術の自験28例における治療実施と初期成績の現況 . 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001 . 7 .
- 26) 青木 聡, 高山守正, 吉川雅智, 椎葉邦人, 竹永清人, 加藤浩司, 高木啓倫, 山根吉人, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 大野忠明, 中込明裕, 安武正弘<sup>1)</sup>, 本間 博, 草間芳樹, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 閉塞性肥大型心筋症への経皮的中隔心筋焼灼術の初期・遠隔期成績 . 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001 . 7 .
- 27) 山根吉人, 中込明裕, 青木 聡, 椎葉邦人, 田近研一郎, 吉川雅智, 高木啓倫, 藤田進彦, 藤岡幹雄, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性冠症候群患者においてExtent scoreは心事故予測に有用である . 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001 . 7 .
- 28) 豊田隆志<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター ): 新世代冠動脈ステントの使用は急性冠症候群への治療に有効か ( 旧世代ステント使用時間との初期および長期成績の比較 ) . 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001 . 7 .
- 29) 笠神康平<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高山守正, 田近研一郎, 椎葉邦人, 吉川雅智, 高木啓倫, 山根吉人, 藤田進彦, 青木 聡, 藤岡幹雄, 中込明裕, 草間芳樹, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): ACSにおける冠動脈吸引内容物の病理組織学的検討 . 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001 . 7 .

- 30) 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高山守正, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科): 吸引した血栓の色調からみた急性広範性肺血栓塞栓症の臨床的特徴. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 31) 吉川雅智, 高山守正, 椎葉邦人, 竹永清人, 加藤浩司, 高木啓倫, 藤田進彦, 大野忠明, 中込明裕, 安武正弘<sup>1)</sup>, 本間 博, 草間芳樹, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室): 閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中心筋焼灼術による僧帽弁収縮期前方運動の推移並びにその発現機序への考察. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 32) 野村敦宣: 心電図T波の2次解析による先天性QT延長症候群の評価. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 33) 高柳和江<sup>1)</sup>, 木村哲彦<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>3)</sup>, 高野照夫, 山本保博<sup>4)</sup>, 遠藤俊吉<sup>5)</sup>, 新井桂子<sup>6)</sup>, 芝崎 保<sup>6)</sup>, 三上ちづ子<sup>7)</sup>, 菅沼隆夫<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>医療管理学, <sup>2)</sup>病院長, <sup>3)</sup>外科学第1, <sup>4)</sup>高度救命救急センター, <sup>5)</sup>神経科, <sup>6)</sup>生理学第2, <sup>7)</sup>付属病院看護部, <sup>8)</sup>同事務部): 入院患者の絵画における心理的・免疫学的影響. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 34) 高尾英龍<sup>1)</sup>, 宗像 亮, 佐藤直樹, 福間長知, 小林義典, 高山守正, 清野精彦, 岸田 浩, 高野照夫, 寺本明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>医学部6学年, <sup>2)</sup>脳神経外科): 意識障害のため入院し汎下垂体機能低下を伴う下垂体ラトケ嚢胞と診断された1例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 35) 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 金澤宏美, 美浦和代, 木村祐子, 及川恵子, 馬淵浩輔, 福間長知, 高野照夫(<sup>1)</sup>生理機能センター): 心臓リハビリテーション施行中の心筋梗塞患者におけるビタミンC血中濃度と影響をおよぼす因子. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 36) 中島博子<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 高野照夫, 大橋和史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>薬剤部, <sup>2)</sup>臨床薬理センター): 治験コーディネーター(CRC)業務報告. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 37) 安藤岳史<sup>1)</sup>, 高山守正, 川本雅司<sup>2)</sup>, 中村 隆<sup>3)</sup>, 五十嶋一成<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>医学部第5学年, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>中村病院, <sup>4)</sup>自衛隊中央病院内科(日本医科大学山岳医学研究会)): 北アルプス中高年登山者における登山中の疾病発症予防: 山小屋におけるSpO<sub>2</sub>測定の意義. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 38) 金澤宏美, 古明地弘和, 磯田麻里, 長戸孝道, 清水秀治, 張 雪君, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 肝実質に類上皮性肉芽腫を認めた自己免疫性肝炎の1例. 第266回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 9.
- 39) 宗像 亮, 本間 博, 時田祐吉, 吉川雅智, 大野忠明, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫: 非心臓手術のための周術期心評価におけるドブタミン負荷心エコー法の有用性. 日本循環器学会関東甲信越地方会第181回学術集会, 2001. 9.
- 40) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 高井恵美子<sup>1)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明総<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>3)</sup>, 朽方規喜<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科, <sup>3)</sup>外科第2): Popliteal venous aneurysmが原因と考えられた急性肺血栓塞栓症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第181回学術集会, 2001. 9.
- 41) 坏 宏一<sup>1)</sup>, 中込明裕, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室): C-Reactive Proteinは再灌流療法成功例の急性心筋梗塞患者において心筋保護作用を有する. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 42) 吉田博史<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 石川正也<sup>1)</sup>, 石井健輔<sup>1)</sup>, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 長澤鉦一<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 冠動脈ステント留置周縁部の慢性期狭小化に血管のnegative remodelingが関係する. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 43) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室): 心不全患者においてホスホジエステラーゼ阻害薬の強心作用は圧受容体機能に依存する. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.

- 44) 木村祐子, 福間長知, 及川恵子, 美浦和代, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫: 化学受容体反射感受性の異常と運動負荷時の心血管系の適応障害. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 45) 林 明聡<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 非侵襲的連続心拍出量測定モニター ( NICO ) に対する有効性の検討. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 46) 横山広行<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清水秀一<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 淀川顕司, 高野仁司, 小嶋俊一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>国立東静病院循環器内科 ): 冠攣縮性狭心症における血管内皮機能; 冠動脈内皮機能と上腕動脈内皮機能の検討. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 47) 青木 聡, 中込明裕, 高木啓倫, 山根吉人, 藤田進彦, 高野仁司, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫: Extent scoreは糖尿病を有する急性冠症候群患者において心事故予測に有用である. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 48) 山根吉人, 中込明裕, 青木 聡, 藤田進彦, 高野仁司, 藤岡幹雄, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫: 急性冠症候群においてExtent scoreは心事故予測に有用である. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 49) 安武守正<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 中込明裕, 草間芳樹, 高山守正, 岸田 浩, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 非Q波梗塞の予後は発症時のST上昇の有無で異なる. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 50) 福島正人, 清野精彦, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中条秀信<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>集中治療室 ): 診断基準改訂により包括された急性心筋梗塞症例における微小心筋傷害の分析: TI/BMIPP Dual SPECTによる評価. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 51) 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): IABPカテーテル抜去時における経皮的血管縫合デバイスProstarの有用性. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 52) 笠神康平<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 中込明裕, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫, 恩田宗彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>病理第2 ): ACSに対する血栓吸引療法の成績: 特に冠動脈吸引内容物の病理組織学的検討. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 53) 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 石川正也<sup>1)</sup>, 吉田博史<sup>1)</sup>, 石井健輔<sup>1)</sup>, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 長澤鉦一<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ): 冠動脈攣縮に血管内皮機能障害は必ずしも関与しない: 低用量acetylcholine負荷による冠動脈内皮機能の検討. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 54) 美浦和代, 福間長知, 及川恵子, 木村祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫: 心疾患例における化学受容体反射感受性亢進が呼気終末炭酸ガス分圧におよぼす影響. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 55) 坏 宏一<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室 ): 急性大動脈解離における血清中MMP測定の意義. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 56) 木村祐子, 福間長知, 及川恵子, 美浦和代, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫: 化学受容体反射感受性の運動負荷時の心血管系に及ぼす影響. 第7回日本心臓リハビリテーション学会, 2001. 9.
- 57) 美浦和代, 福間長知, 及川恵子, 木村祐子, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫: 化学受容体反射感受性の運動負荷時の呼気終末炭酸ガス分圧の関係. 第7回日本心臓リハビリテーション学会, 2001. 9.
- 58) 伊藤恵子, 本間 博, 大野忠明, 時田祐吉, 宗像 亮, 吉川雅智, 横島友子, 安武ひろ子, 菅原博子, 高野照夫, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>生理機能センター ): 急性心筋梗塞における再灌流療法後の心内膜下虚血: 経静脈心筋コントラストエコー法を用いて. 日本超音波学会関東甲信越地方会第13回学術集会, 2001. 10.
- 59) 岩崎雄樹, 小林義典, 上野 亮, 谷口宏史, 館岡克彦, 山科郁子, 阿部純子, 森田典成, 林 明聡, 高山英男, 松本 真, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: 発作性心房細動に対する運動負荷試験の有用性. 第18

回日本心電学会学術集会, 2001. 10.

- 60) Sutovsky I, 加藤貴雄, 本間 博, 大野忠明, 小原啓子, 高野照夫: 心不全のない心室期外収縮の重症度とBNPおよび左室壁運動の関係. 第18回日本心電学会学術集会, 2001. 10.
- 61) 高山英男, 加藤貴雄, 高野照夫: ウェーブレット変換法を用いた非加算心電図解析による致死性不整脈の検出と予知. 第18回日本心電学会学術集会, 2001. 10.
- 62) 松本 真, 平山悦之, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹, 大野則彦<sup>2)</sup>, 緒方憲一<sup>3)</sup>, 大坂元久<sup>4)</sup>, 小林義典, 清野精彦, 新博次<sup>3)</sup>, 加藤貴雄, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>同健康管理科, <sup>3)</sup>多摩永山病院内科, <sup>4)</sup>老人病研究所): 基礎心疾患別に検討した重症心室性不整脈予測における T-wave alternans (TWA) の有用性. 第18回日本心電学会学術集会, 2001. 10.
- 63) 阿部純子, 小林義典, 森田典成, 上野 亮, 館岡克彦, 谷口宏史, 岩崎雄樹, 林 明聡, 高山英男, 松本 真, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 純III群薬 Ibutilide の電気生理学的効果と心房粗動停止のメカニズム. 第18回日本心電学会学術集会, 2001. 10.
- 64) 藤田進彦, 高山守正, 高木啓倫, ブライガトジハド, 椎葉邦人, 吉川雅智, 坏 宏一, 山根吉人, 山本 剛, 笠神康平, 青木 聡, 藤岡幹彦, 中込明裕, 草間芳樹, 高野照夫: ハイボチューブモノレールバルーンのガイドカテ内断裂に対する処置成功例とその考察. 第19回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2001. 10.
- 65) 高野仁司, 高山守正, 福島正人, 椎葉邦人, 吉川雅智, 高木啓倫, 藤田進彦, 草間芳樹, 高野照夫, 山初和也<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>外科第二): 左主幹部狭窄を合併した高齢者僧帽弁狭窄症への Hybrid Treatment に成功した1例. 第19回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2001. 10.
- 66) 上村竜太<sup>1)</sup>, 椎葉邦人<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 児山 順<sup>1)</sup>, 島袋高志<sup>2)</sup>, 小宮山秀一<sup>2)</sup>, 李 武志<sup>2)</sup>, 高山守正, 水野杏一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>埼玉東部循環器病院循環器内科, <sup>2)</sup>同胸部外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院内科): 治療に苦慮難渋した左主幹部病変の1例. 第19回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2001. 10.
- 67) 安武ひろ子, 清野精彦, 本間 博, 柏木睦美, 松崎つや子, 岸田 浩, 高野照夫: Detection of cardiac sarcoidosis using myocardial integrated backscatter and cardio-related chemical markers. 第5回日本心不全学会学術集会, 2001. 10.
- 68) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 安武正弘, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 高橋保裕, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科): Useful markers for functions of cardiac sympathetic nerves in human heart failure. 第5回日本心不全学会学術集会, 2001. 10.
- 69) 吳 小怡, 清野精彦, 本間 博, 高崎雄司, 村田 朗, 高野照夫: Limitation of chronic low dose pimobendan therapy on patients with cor-pulmonale. 第5回日本心不全学会学術集会, 2001. 10.
- 70) 村井鋼児, 高山英男, 松本 真, 岩崎雄樹, 高木啓倫, 古明地弘和, 小林義典, 高野照夫: 長期間経過を観察しえた肺高血圧症合併皮膚筋炎の1例. 第495回日本内科学会関東地方会, 2001. 11.
- 71) 上野 亮, 小林義典, 谷口宏史, 館岡克彦, 阿部純子, 淀川顕司, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 高山英男, 松本 真, 大村和子, 八島正明, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: 心機能障害を伴う無症候性持続性心室頻拍症例の臨床背景と治療: 持続性頻拍誘発群と非誘発群間の検討. 第21回東京不整脈フォーラム, 2001. 11.
- 72) 吉川雅智, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 太田眞夫, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: Non-alcoholic steatohepatitis (NASH) に合併した肝細胞癌の1例. 第267回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 73) 高木啓倫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>集中治療室): 血栓吸引療法のみで良好な再灌流が得られた急性心筋梗塞の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第182回学術集会, 2001. 12.
- 74) 館岡克彦, 小林義典, 上野 亮, 谷口宏史, 阿部純子, 淀川顕司, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明聡, 高山英男, 松本 真, 大村和子, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 高周波通電前より左室後中隔

- で記録された拡張期電位に一方向性ブロックを認めた特発性心室頻拍の1例．第14回臨床不整脈研究会，2002．1．
- 75) 村上大介，藤田進彦，鈴木雄一郎，田中古登子，藤岡幹雄，太田眞夫，高野照夫，服部幹彦<sup>1)</sup>，橋口 宏<sup>1)</sup>，伊藤博元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科)：肩甲骨結核性骨髓炎を合併した高齢者糖尿病の1例．第39回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，2002．1．
- 76) 神谷仁孝，中込明裕，高野仁司，青木 聡，小原啓子，小林義典，大須賀勝，清野精彦，加藤貴雄，高野照夫：BMIPP心筋シンチ無集積とI型CD36欠損および心房中隔欠損症を伴った冠攣縮性狭心症の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第183回学術集会，2002．2．
- 77) 熊谷智昭<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，江原彰仁<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，亀山幹彦<sup>1)</sup>，林 明聡<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，神谷仁孝，青木 聡，安武正弘，高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室)：Kennedy-Alter-Sung病に急性心筋梗塞を合併した1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第183回学術集会，2002．2．
- 78) 館岡克彦，長戸孝道，清水秀治，古明地弘和，大須賀勝，里村克章，勝田悌実，荒牧琢己：Syncytial giant cell hepatitisを呈したステロイド抵抗性自己免疫性肝炎の1例．第268回日本消化器病学会関東支部例会，2002．2．
- 79) 小原啓子，中込明裕，大須賀勝，長戸孝道，清水秀治，古明地弘和，里村克章，勝田悌実，荒牧琢己，高野照夫：Colestyramine投与によりPIVKA IIが上昇し肝細胞癌が疑われた肝硬変の1例．第497回日本内科学会関東地方会，2002．2．
- 80) 淀川顕司，高山英男，松本 真，小林義典，清野精彦，加藤貴雄，高野照夫：サルコイドーシスにおける潜在性心筋病変の心電図診断．第12回体表心臓微小電位研究会，2002．2．
- 81) 亀山幹彦<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，林 明聡<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，高山英男，中島裕史<sup>1)</sup>，金徹<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，安武正弘，竹田晋浩<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，加藤貴雄，高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室)：難治性不整脈に対する塩酸ニフェカラント注(シンビット)の使用経験．日本集中治療医学会第29回大会，2002．2．
- 82) 田近研一郎<sup>1)</sup>，横山広行<sup>1)</sup>，山科郁子<sup>1)</sup>，田邊 潤<sup>1)</sup>，小川晃生<sup>1)</sup>，清水秀一<sup>1)</sup>，小嶋俊一<sup>1)</sup>，高野仁司，高野照夫(<sup>1)</sup>国立東静岡病院循環器内科)：腎機能障害を合併したうっ血性心不全に対する心房性ナトリウム利尿ペプチドの効果．日本集中治療医学会第29回大会，2002．2．
- 83) 清水哲也<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，江原彰仁<sup>1)</sup>，亀山幹彦<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，林 明聡<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，中島裕史<sup>1)</sup>，池崎弘之<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，竹田晋浩<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室)：高度骨粗鬆症に伴う多発性肋骨骨折，胸郭変形から難治性重症呼吸不全を呈したCushing病の1例．日本集中治療医学会第29回大会，2002．2．
- 84) 高橋 啓，清野精彦，福本裕子，平井幸彦<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>，高野照夫(<sup>1)</sup>生化第2)：Fabry病に対する遺伝子治療の有効性に関する実験的検討．第39回日本臨床分子医学会学術総会，2002．3．
- 85) 及川恵子，福間長知，金澤宏美，美浦和代，木村祐子，馬淵浩輔，草間芳樹，宗像一雄，高野照夫：心疾患における化学受容体反射感受性亢進は心拍応答低下と換気亢進の一因となりえるか．第99回日本内科学会講演会，2002．3．
- 86) 馬淵浩輔，草間芳樹，美浦和代，木村祐子，及川恵子，福間長知，本間 博，高野照夫：Q波陳旧性心筋梗塞における運動負荷誘発ST上昇例の残存心筋虚血をST上昇パターンにより検討．第99回日本内科学会講演会，2002．3．
- 87) 高山英男，加藤貴雄，高野照夫：新しい心電図解析法を用いた重症心疾患における催不整脈性の評価．第99回日本内科学会講演会，2002．3．

## [ 付属病院老人科 ]

### 研究概要

老年者の糖尿病，動脈硬化，脂質代謝異常などに関する臨床的研究を行った。

糖尿病に関して，1) グリベンクラミドの至適投与法を血糖日内変動の面より検討した。2) スルホニル尿素薬の併用薬としての - グルコシダーゼ阻害薬の有用性を明らかにした。3) 経口血糖降下薬療法時の血糖コントロール指標としての各時間血糖値の臨床的意義を明らかにした。4) 早期腎症の指標としての尿中NAG指数の問題点を明らかにした。5) 尿中NAG指数が，大血管病変進展の指標となることを明らかにした。6) 加齢の食後血糖値に及ぼす影響を明らかにした。7) 厚生省長寿科学総合研究「高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究」の患者登録を開始した。8) 女性患者の無症候性尿路感染症の実態とその背景因子を明らかにした。9) 老年患者の食事療法の問題点を検討した。

動脈硬化に関して，1) 末梢血NOx値の測定意義を動脈内皮機能と総頸動内膜中膜複合体厚との関連から検討した。2) 総頸動脈血流速の左右差が心血管病変進展の予測因子なることを明らかにした。

脂質代謝に関して，1) 低分子量Lp(a)の糖尿病性網膜症の危険因子として重要性を明らかにした。2) 糖尿病性腎症と血清Lp(a)との関係をフェノタイプ別に検討した。3) PATE研究において高齢者の高コレステロール血症治療の必要性を証明した。

その他，1) 在宅老人の心理的評価とそれに影響する諸因子の検討を行った。2) 痴呆患者の行動と心理面の症状について検討した。3) 高齢者多発性骨髄腫の骨病変の臨床的検討を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Oba K, Ito T, Nakatani C, Okamura K, Yamaguchi H, Ajiro Y, Suzuki T, Nakano H, Metori S, Sano K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Plastic and Reconstructive Surgery , <sup>2)</sup> Pathology ): An elderly patient with gastric carcinoma developing multiple metastasis in skeletal muscle . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 3 ): 271-274 .
- 2) Ito H<sup>1)</sup>, Ouchi Y<sup>2)</sup>, Ohashi Y<sup>2)</sup>, Saito Y<sup>3)</sup>, Ishikawa T<sup>4)</sup>, Nakamura H<sup>4)</sup>, Orimo H<sup>1)</sup>, for the PATE Study Group ( Oba K, Nakano H ) ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital , <sup>2)</sup> University of Tokyo , <sup>3)</sup> University of Chiba , <sup>4)</sup> National Defense Medical College ): A comparison of low versus standard dose pravastatin therapy for the prevention of cardiovascular events in the elderly ; The Pravastatin Antiatherosclerosis in the Elderly ( PATE ). J Atherosclr Thromb 2001 ; 8 ( 2 ): 33-44 .
- 3) Nakano H, Oba K, Saito Y, Ouchi M, Yamashita N, Okamura K, Takai E, Mizuno S, Matsumura N, Inuzuka Y, Suzuki T : Asymtomatic pyuria in diabetic women . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ): 405-410 .
- 4) Nakano H, Okazaki K, Ajiro Y, Suzuki T, Oba K : Clinical usefulness of the common carotid artery blood flow velocity ratio as measured by an ultrasonic quantitative flow measurement system : Evaluation with respect to prevalence of ischemic heart disease . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 6 ): 482-489 .
- 5) Nakano H, Okazaki K, Ajiro Y, Suzuki T, Oba K : Clinical usefulness of measuring pulse wave velocity in predicting cerebrovascular disease : Evaluation from a cross-sectional and longitudinal follow-up study . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 6 ): 490-497 .
- 6) Suzuki T, Oba K, Igari Y, Matsumura N, Inuzuka Y, Kigawa Y, Matsuura Y, Ajiro Y, Okazaki K, Nakano H : Relation of apolipoprotein ( a ) phenotypes to diabetic retinopathy in elderly type 2 diabetes . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ): 31-38 .
- 7) 鈴木達也，大庭建三，猪狩吉雅，松村典昭，犬塚有紀，木川好章，網代由美子，岡崎恭次，中野博司，妻鳥昌

平：老年2型糖尿病患者の心・脳血管障害発症に及ぼす高Lp(a)血症の影響について：4年間の追跡調査．日老医誌 2001；38(4)：507-513．

(2) 総説：

- 1) 板倉弘重<sup>1)</sup>，J-LIT 研究参画医(鈴木達也他)<sup>(1)</sup>国立健康・栄養研究所)：日本における大規模疫学試験からわかったこと：J-LIT．The Lipid 2001；12(3)：239-247．
- 2) 大庭建三：老年者糖尿病の経口血糖降下薬療法．日老医誌 2001；38(3)：288-290．
- 3) 大庭建三：糖尿病性腎症の発症予知．日本医事新報 2001；(4036)：89-89．
- 4) 中野博司，妻鳥昌平：高齢者の糖尿病治療．治療 2001；83(10)：2766-2770．
- 5) 中野博司，鈴木達也，大庭建三：高齢者の外来診療：日本医科大学付属病院老人科．Geriatric Medicine 2001；39(10)：1539-1541．
- 6) 広瀬信義<sup>1)</sup>，谷 正人<sup>1)</sup>，鳥羽研二<sup>2)</sup>，大荷満生<sup>2)</sup>，新 弘一<sup>3)</sup>，難波吉雄<sup>4)</sup>，大内尉義<sup>4)</sup>，井藤英喜<sup>5)</sup>，大庭建三<sup>(1)</sup>慶応義塾大学老年内科，<sup>(2)</sup>杏林大学高齢医学，<sup>(3)</sup>東京医科大学老年科，<sup>(4)</sup>東京大学老年病科，<sup>(5)</sup>東京都多摩老人医療センター)：東京地区における介護保険導入に伴う介護状況の変化1：導入前の介護状況．日老医誌 2002；39(1)：20-21．

(3) 研究報告書：

- 1) 大庭建三，中野博司，岡崎恭次：高齢者のプラバスタチン治療が末梢血NOx値，総頸動脈内中膜複合体厚(IMT)および動脈内皮機能に及ぼす影響．長寿科学総合研究平成13年度研究報告：高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究 2002；pp54-64．

著 書

- 1) 大庭建三，中野博司：〔分担〕低血糖．看護のための最新医学講座．17．老人医療(日野原重明，井村裕夫，井藤英喜)，2001；pp303-306，中山書店．
- 2) 大庭建三：〔分担〕高齢者の疾病と予防．介護福祉1(高齢者介護福祉研究会)，2001；pp21-33，高齢者介護福祉研究会．
- 3) 大庭建三：〔分担〕内分泌代謝疾患．標準理学療法学・作業療法学，専門基礎分野，老年学(大内尉義)，2001；pp107-116，医学書院．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大庭建三：老年者糖尿病の経口血糖降下薬療法．日本医科大学医学会第104回例会，2001．5．

(2) 教育講演：

- 1) 鈴木達也：糖尿病性網膜症と血清Lp(a)について．第5回高齢者生活習慣病研究会，2002．2．
- 2) 中野博司：高齢者糖尿病と動脈硬化．第5回高齢者生活習慣病研究会，2002．2．

(3) シンポジウム：

- 1) Nakano H, Okazaki K, Suzuki T, Oba K : Effect of HMG-CoA reductase inhibitor on albuminuria in elderly type 2 diabetic patients . 14th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism ( New York ), 2001 . 9 .
- 2) Horiuchi H et al<sup>1)</sup>, J-LIT Study Group ( Suzuki T et al )<sup>(1)</sup>Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University) : The J-LIT Study : The relationship between plasma lipid levels and risk of coronary heart disease in Japanese elderly hypercholesterolemic patients without coronary heart disease . 14th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism ( New York ), 2001 . 9 .
- 3) Itakura H et al<sup>1)</sup>, J-LIT Study Group ( Suzuki T et al )<sup>(1)</sup>Department of Food Sciences, Ibaraki Christian



University): Primary prevention of coronary events with simvastatin in 47, 294 Japanese hypercholesterolemic patients: Results of J-LIT Study. 14th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism (New York), 2001. 9.

- 4) Nakaya N et al<sup>1)</sup>, J-LIT Study Group (Suzuki T et al)<sup>(1)</sup> Fussa General Hospital): The relationship between plasma lipid levels and risk of cerebrovascular diseases in Japanese hypercholesterolemic patients. 14th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism (New York), 2001. 9.
- 5) Saito Y et al<sup>1)</sup>, J-LIT Study Group (Suzuki T et al)<sup>(1)</sup> Department of Clinical Cell Biology, Graduate School of Medicine Chiba University): L-LIT Study secondary prevention cohort: Target value for lipid lowering therapy in Japanese hypercholesterolemic patients with coronary heart disease. 14th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism (New York), 2001. 9.
- 6) Sasaki J et al<sup>1)</sup>, J-LIT Study Group (Suzuki T et al)<sup>(1)</sup> International University Graduate School of Health and Welfare): J-LIT Study: The relationship between plasma lipid levels and risk of coronary heart diseases in Japanese hypercholesterolemic patients with or without hypertension. 14th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism (New York), 2001. 9.
- 7) Oikawa S et al<sup>1)</sup>, J-LIT Study Group (Suzuki T et al)<sup>(1)</sup> Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School): Significance of the lipid lowering therapy for diabetic patients in J-LIT Study. 14th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism (New York), 2001. 9.
- 8) 広瀬信義<sup>1)</sup>, 谷 正人<sup>1)</sup>, 鳥羽研二<sup>2)</sup>, 大荷満生<sup>2)</sup>, 新 弘一<sup>3)</sup>, 難波吉雄<sup>4)</sup>, 大内耐義<sup>4)</sup>, 井藤英喜<sup>5)</sup>, 大庭建三<sup>(1)</sup>慶應義塾大学老年内科,<sup>2)</sup>杏林大学高齢医学,<sup>3)</sup>東京医科大学老年科,<sup>4)</sup>東京大学老年病科,<sup>5)</sup>東京都多摩老人医療センター): 東京地区における介護保険導入に伴う介護状況の変化1: 導入前の介護状況(介護保険と高齢者医療 - 2001大阪). 第43回日本老年医学会学術集会, 2001. 6.

(4) 一般講演:

- 1) Okazaki K, Nakano H, Suzuki T, Oba K: Asymmetry of common carotid artery velocity is a marker for cardiovascular disease in elderly patients. The 17th Congress of the International Association of Gerontology (Vancouver), 2001. 7.
- 2) Oba K, Nakano H, Okazaki K, Suzuki T: Asymptomatic bacteriuria in elderly diabetic women. The 17th Congress of the International Association of Gerontology (Vancouver), 2001. 7.
- 3) Suzuki T, Okazaki K, Nakano H, Oba K: Apolipoprotein (a) phenotype and retinopathy in elderly diabetics: prospective study. The 17th Congress of the International Association of Gerontology (Vancouver), 2001. 7.
- 4) Nakano H, Okazaki K, Suzuki T, Oba K: Clinical usefulness of evaluation of pulse wave velocity on stroke incidence. The 17th Congress of the International Association of Gerontology (Vancouver), 2001. 7.
- 5) 鈴木達也, 中谷千瑞子, 松村典昭, 木川好章, 網代由美子, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病性網膜症発症に及ぼす血清Lp(a)フェノタイプ別の影響について: 4年間経年観察. 第98回日本内科学会講演会, 2001. 4.
- 6) 岡崎恭次, 中野博司, 渡邊健太郎, 工藤律子, 増谷祐人, 山口 寛, 猪狩吉雅, 矢野 誠, 大庭建三: 末梢血NOx測定 of 臨床的意義: 臨床像との関連からの検討. 第98回日本内科学会講演会, 2001. 4.
- 7) 中野博司, 岡崎恭次, 渡邊健太郎, 大内基司, 山下直子, 斎藤好史, 鯉淵 仁, 網代由美子, 大庭建三: 総頸動脈超音波検査成績と頭蓋内動脈病変の関連性に関する検討. 第98回日本内科学会講演会, 2001. 4.
- 8) 大庭建三, 岡村弘次郎, 高井恵美子, 水野重芳, 松村典昭, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司: 糖尿病患者の無症候性尿路感染症に関する検討. 第98回日本内科学会講演会, 2001. 4.
- 9) 中野博司, 岡崎恭次, 中谷千瑞子, 水野重芳, 松村典昭, 伊藤 民, 山下直子, 網代由美子, 鈴木達也, 大庭建三: 高齢2型糖尿病に対するスタチンの作用: LDL-コレステロールとの関連の面よりの検討. 第44回日本糖

尿病学会年次学術集会, 2001 . 4 .

- 10) 大庭建三, 高井恵美子, 増谷祐人, 鯉淵 仁, 猪狩吉雅, 矢野 誠, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司: 老年糖尿病患者のスルホニル尿素 (SU) 葉単独療法と  $\beta$ -グルコシダーゼ阻害 ( $\beta$ -GI) 葉併用療法時の血糖測定の臨床的意義. 第44回日本糖尿病学会年次学術集会, 2001 . 4 .
- 11) 岡崎恭次, 中野博司, 渡邊健太郎, 工藤律子, 大内基司, 斎藤好史, 鯉淵 仁, 網代由美子, 鈴木達也, 大庭建三: 2型糖尿病患者の頸動脈病変と頭蓋内動脈血流との関連性: 超音波診断法による検討. 第44回日本糖尿病学会年次学術集会, 2001 . 4 .
- 12) 鈴木達也, 山口 寛, 猪狩吉雅, 松村典昭, 犬塚有紀, 網代由美子, 木川好章, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病性網膜症発症に及ぼす血清Lp (a) フェノタイプ別の影響について: 4年間経年観察. 第44回日本糖尿病学会年次学術集会, 2001 . 4 .
- 13) 村田雄一<sup>1)</sup>, 竹澤健司<sup>2)</sup>, 木川暁子<sup>1)</sup>, 木川好章<sup>1)</sup>, 鈴木英郎<sup>2)</sup>, 黒澤 尚<sup>1)</sup>, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 遠藤俊吉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 飯能好友病院, <sup>2)</sup> 精神医学): 痴呆専門病院における入院時の行動と心理面の症状について. 第16回日本精神医学会, 2001 . 6 .
- 14) 鈴木達也, 猪狩吉雅, 松村典昭, 犬塚有紀, 網代由美子, 木川好章, 中野博司, 大庭建三: 老年2型糖尿病患者における網膜症発症に及ぼす血清Lp (a) フェノタイプ別の検討: 4年間経年観察. 第43回日本老年医学会学術集会, 2001 . 6 .
- 15) 渡邊健太郎, 中野博司, 岡崎恭次, 大内基司, 伊藤 民, 鯉淵 仁, 網代由美子, 鈴木達也, 大庭建三: 頸動脈病変と頭蓋内動脈病変の関連性: 超音波診断法による検討. 第43回日本老年医学会学術集会, 2001 . 6 .
- 16) 岡崎恭次, 中野博司, 渡邊健太郎, 増谷祐人, 山口 寛, 猪狩吉雅, 矢野 誠, 鈴木達也, 大庭建三: 末梢血NOx測定の臨床的意義: 臨床像との関連からの検討. 第43回日本老年医学会学術集会, 2001 . 6 .
- 17) 高井恵美子, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 中野博司, 大庭建三, 高野照夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 内科第1): 高齢者における急性冠症候群の臨床的特徴. 第43回日本老年医学会学術集会, 2001 . 6 .
- 18) 中野博司, 岡崎恭次, 中谷千瑞子, 工藤律子, 山下直子, 網代由美子, 鈴木達也, 大庭建三: 高齢2型糖尿病患者に対するスタチンの作用: LDL-Cとの関連性の面より. 第43回日本老年医学会学術集会, 2001 . 6 .
- 19) 斎藤好史, 岡村弘次郎, 高井恵美子, 水野重芳, 松村典昭, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 老年女性糖尿病患者の無症候性尿路感染症に関する検討. 第43回日本老年医学会学術集会, 2001 . 6 .
- 20) 山下直子, 藤本あみか, 岡村弘次郎, 水野重芳, 山口 寛, 奥山 裕, 矢野 誠, 岡崎恭次, 中野博司, 大庭建三: Ankle brachial index の併用によりpulse wave velocityの心血管病変の検出感度は低下する. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 21) 高橋 央, 大内基司, 網代由美子, 安岡比呂子, 福長麻美, 中谷千瑞子, 木川好章, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 周期性クッシング症候群が疑われた高齢者の1例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 22) 新井みどり, 渡邊健太郎, 二見章子, 戸田 繁, 斎藤好史, 増谷祐人, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 大葉性肺炎を呈したマイコプラズマ肺炎の1例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 23) 工藤律子, 高井恵美子, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 山本英世<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 内科第1, <sup>2)</sup> 集中治療室): 高齢者‘たこつぼ型心筋症’の1例. 第34回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2001 . 9 .
- 24) 大内基司, 鈴木一成, 伊藤 民, 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡邊健太郎, 網代由美子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: プラバスタチン投与中にクラリスロマイシンの併用により横紋筋融解症を来した高齢者に1例. 第34回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2001 . 9 .
- 25) 高井恵美子, 伊藤 民, 中野博司, 大庭建三, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 内科第1): 高齢者における急性冠症候群の臨床的特徴. 第1回

Geriatric Medical Frontier Forum, 2001. 10.

- 26) 二見章子, 増谷祐人: 突然死をきたした高齢者 craniopharyngioma の 1 症例. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 27) 藤本あみか: インスリノームが疑われたが確定診断に至らなかった 1 例. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 28) 大内基司, 水野重芳: 2 型糖尿病に化膿性頸椎椎体炎, 深部静脈血栓症を併発した 1 例. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 29) 安岡比呂子: 2 椎体に感染巣を認めた高齢者化膿性脊椎炎の 1 例. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 30) 福長麻美, 山下直子: 心病変の合併が疑われた高齢者悪性リンパ腫の 1 例. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 31) 松村典昭, 奥山 裕: 高齢者における自律神経機能の検討: 血糖コントロール・糖尿病合併症の面からの検討. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 32) 渡邊健太郎: 高齢者の頭頸部超音波検査の検討: 内皮依存性血管拡張反応との関連の面からの検討. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 33) 犬塚有紀: 女性患者における無症候性糖尿の臨床的意義に関する検討. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 34) 澗湯由美子, 山口 寛: 老年糖尿病の血糖値の臨床的評価: 糖尿病治療の面からの検討. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 35) 岡崎恭次, 岡村弘次郎: メパロチンと血管内皮機能に関する検討. 第 5 回高齢者生活習慣病研究会, 2002. 2.
- 36) 安岡比呂子, 犬塚有紀, 二見章子, 福長麻美, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 北村繁行<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>1)</sup>, 伊藤元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科): 3 椎体に感染巣を認めた高齢化膿性脊椎炎の 1 例. 第 35 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2002. 3.
- 37) 高井恵美子, 関水憲一, 藤本あみか, 高橋 央, 鈴木一成, 新井みどり, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者大腸 angiodysplasia の 1 例. 第 35 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2002. 3.
- 38) 鈴木達也, 二見章子, 伊藤 民, 松村典昭, 猪狩吉雅, 木川好章, 犬塚有紀, 奥山 裕, 中野博司, 大庭建三: 虚血性心疾患 (IHD) と血清 Lp (a) フェノタイプ別の影響について; 年齢, 性別よりの検討. 第 99 回日本内科学会講演会, 2002. 3.
- 39) 中野博司, 岡崎恭次, 渡邊健太郎, 安岡比呂子, 高橋 央, 中谷千瑞子, 岡村弘次郎, 山口 寛, 水野重芳, 大庭建三: 末梢血 NOx 測定の臨床的意義; 断面調査における有用性の検討. 第 99 回日本内科学会講演会, 2002. 3.
- 40) 大庭建三, 鈴木一成, 藤本あみか, 新井みどり, 大内基司, 斎藤好史, 高井恵美子, 網代由美子, 鈴木達也, 中野博司: コレスチミドの 2 型糖尿病患者の血糖降下作用に関する検討. 第 99 回日本内科学会講演会, 2002. 3.
- 41) 岡崎恭次, 福長麻美, 工藤律子, 山下直子, 増谷祐人, 渡邊健太郎, 矢野 誠, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2 型糖尿病の腎症早期指標としての末梢血 NOx 測定の意義. 第 99 回日本内科学会講演会, 2002. 3.

## [ 第二病院内科 ]

### 研究概要

虚血性疾患の診断法の一つとして, RI を用いた検査法について研究が開始された. 血液浄化療法と不整脈との関連性についての研究が引き続きなされている. 痴呆, 脳循環に関する研究の一部が論文にされた. この他循環器, 腎, 消化器および呼吸器領域の比較的稀な疾患について症例報告をした.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Honma H<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Matsuzaki T<sup>1)</sup>, Ohno T<sup>1)</sup>, Nishigaki R<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>1st department of Internal Medicine ): Resting Ultrasonic Tissue Characterization and Dobutamine Stress Echocardiography for Prediction of Functional Recovery in Chronic Left Ventricular Ischemic Dysfunction . Jpn Circ J 2001 ; ( 65 ): 381-388 .
- 2) Oikawa K<sup>1)</sup>, Fukuma N<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Mabuchi K<sup>1)</sup>, Munkata K, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>1st department of Internal Medicine ): Attenuated heart rate response to exercise correlates with severity of heart failure . Jpn J Appl Physiol 2001 ; 6 ( 31 ): 315-322 .
- 3) Yasutake M<sup>1)</sup>, Kunimi T<sup>1)</sup>, Sato Naoki<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Kusama T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Munakata K, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>1st department of Internal Medicine ): Effects of a single oral dose of cilostazol on epicardial coronary arteries and hemodynamics in humans . Jpn Circ J 2002 ; ( 66 ): 241-246 .
- 4) 平井俊策<sup>1)</sup>, 丸山純一<sup>2)</sup>, 兼重 裕<sup>3)</sup>, 西村 崇<sup>4)</sup>, 近藤 進<sup>5)</sup>, 柳沢孝之<sup>6)</sup>, 北村 伸, 丸山博志<sup>7)</sup>, 高堂松平<sup>8)</sup>, 浜口吉克<sup>9)</sup>, 土井利毅<sup>10)</sup>, 太田規世志<sup>11)</sup>, 中野重行<sup>12)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都立神経病院神経内科, <sup>2)</sup>旭川リハビリテーション病院内科, <sup>3)</sup>道都病院神経内科, <sup>4)</sup>(財)秀芳園弘前中央病院内科, <sup>5)</sup>桐生厚生総合病院神経内科, <sup>6)</sup>上毛会伊勢崎福島病院神経内科, <sup>7)</sup>神奈川県厚生連伊勢原協同病院内科, <sup>8)</sup>富山県厚生連高岡病院神経内科, <sup>9)</sup>済生会明和病院神経内科, <sup>10)</sup>京都桂病院神経内科, <sup>11)</sup>鳥取赤十字病院神経内科, <sup>12)</sup>大分医科大学臨床薬理学 ): 脳卒中による自覚症状重症度スケールの検討 . geriatric medicine 2001 ; 39 : 1339-1348 .

#### (2) 総説:

- 1) 北村 伸: 脳血管性痴呆の画像診断上の問題点 . Therapeutic Reearch 2001 ; 22 : 2457-2460 .
- 2) 北村 伸: 脳循環の測定: PET . 日医師会誌 2001 ; 125 : 114-117 .
- 3) 北村 伸: アルツハイマー病における画像診断上の特徴 . 日医師会誌 2002 ; 127 : 309-404 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) 村澤恒男, 齋藤寛和, 伊佐治剛, 宜保陽介, 保倉利江, 網谷賢一, 山口朋禎, 酒井行直, 西垣朝裕, 宗像一雄: 維持透析患者の血液透析に伴う ARI dispersion の変動と血液データの関連性 . 第46回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2001 . 6 .
- 2) 門松 豊<sup>1)</sup>, 稲葉敦彦<sup>1)</sup>, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 ( <sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室 ): ビタミンEを固定化ポリスルホン膜ダイアライザー (CL-PSE-15N) の膜性能評価 . 第46回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2001 . 6 .
- 3) 山本 彰<sup>1)</sup>, 山本博人<sup>1)</sup>, 林 敏彦<sup>1)</sup>, 菊池真理<sup>1)</sup>, 梶原景子<sup>1)</sup>, 山田丈士<sup>1)</sup>, 金城忠史<sup>1)</sup>, 佐藤雅司<sup>1)</sup>, 宗像一雄, 櫛方美文, 内田高浩, 高橋直人, 山口朋禎, 網谷賢一 ( <sup>1)</sup>第二病院放射線科 ): p-FAST の自動輪郭抽出における問題点の基礎的検討 . 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001 . 9 .
- 4) 原田英博, 山口朋禎, 緒方憲一, 伊佐治剛, 宜保陽介, 網谷賢一, 櫛方美文, 高橋直人, 寺田秀人, 宗像一雄: 不整脈治療中に偶発発見された末梢型肺胞蛋白症の1例 . 第495回日本内科学会関東地方会, 2001 . 11 .
- 5) Murasawa T, Sakai Y, Isaji G, Amitani K, Yamaguchi T, Nishigaki T, Saitoh H, Munakata K : Myocardial ARI Dispersion Increases During Hemodialysis in Patients Undergoing Maintenance Dialysis . The 13th World Congress of International society for Artificial Organs ( Japan ), 2001 . 11 .
- 6) 村澤恒男, 齋藤寛和, 網谷賢一, 山口朋禎, 酒井行直, 西垣朝裕, 宗像一雄: 維持透析患者の血液透析に伴う

ARI dispersion の変動について．第44回日本腎臓学会学術総会，2001．5．

- 7) 酒井行直，村澤恒男，宗像一雄，門松 豊<sup>1)</sup>，稲葉敦彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室): クリオフィルトレーションが有効と思われたクリオグロブリン血症の1例．第46回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2001．6．
- 8) 網谷賢一，宗像一雄，村澤恒男，齋藤寛和，西垣朝裕，酒井行直，山口朋禎，門松 豊<sup>1)</sup>，稲葉敦彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室): 透析維持患者における血液透析前後の細胞内外水分量の変化率とANP, BNP との関連についての検討(続報)．第46回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2001．6．
- 9) 網谷賢一，山口朋禎，寺田秀人，宗像一雄，久吉隆郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院胸部外科): 斑状陰影にて発症した肺アミロイドーシスの1例．第493回日本内科学会関東地方会，2001．9．
- 10) 伊佐治剛，竹永清人，網谷賢一，山口朋禎，高橋直人，内田高浩，櫛方美文，齋藤寛和，宗像一雄: 拡張型心筋症に合併した原発性冠動脈解離の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会 第181回学術集会，2001．9．
- 11) 高橋直人，竹永清人，網谷賢一，山口朋禎，小野卓哉，内田高浩，櫛方美文，宗像一雄: 興味ある不整脈と臨床経過を示した拡張型心筋症の1例．日本医科大学医学会第105回例会，2001．11．
- 12) 高橋直人，山口朋禎，網谷賢一，緒方憲一，内田高浩，櫛方美文，齋藤寛和，宗像一雄: 急性心筋梗塞における急性期 hybrid 療法の慢性期左心機能に及ぼす影響．第42回日本脈管学会総会，2001．11．
- 13) 寺田秀人，鯨澤理人，宜保陽介，伊佐治剛，網谷賢一，山口朋禎，高橋直人，宗像一雄，塩谷 猛<sup>1)</sup>，山本泰一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>同病理部): ケーキザレットとソルビトールにより結腸潰瘍・結腸膀胱瘻をきたした1例．第496回内科学会関東地方会，2001．12．
- 14) 宜保陽介，寺田秀人，伊佐治剛，原田英博，本郷公英，岩本将人，石渡京子，網谷賢一，山口朋禎，酒井行直，竹永清人，鯨澤理人，村澤恒男，北村 伸，宗像一雄: 肝脳瘍が原因と考えられた膿胸の1例．第19回川崎医師会医学会，2002．2．

## [ 多摩永山病院内科 ]

### 研究概要

循環器専攻の内科医により構成されているが，多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とする体制をとっている．臨床研究が主体となるが，実験的研究にも積極的に従事している．

- 1) 虚血性心疾患に関する経皮的カテーテル治療に関連したインターベンションならびに非観血的評価法による治療効果ならびに予後判定に関する研究．
- 2) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断，治療に関する研究．
- 3) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療に関する研究．
- 4) 心不全における 受容体，レニン・アンジオテンシン系の役割に関する研究．

上記の循環器領域における虚血，不整脈，心不全といった中心的研究テーマにつき重要な研究活動を行っている．

また，当院薬剤部との協力により慢性肺疾患，心疾患患者のQOL改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる．

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Maruyama M, Ino T, Tadera T, Miyamoto S, Atarashi H, Nagasawa K : Automatic Atrial Tachycardia Originating from the Tricuspid Annulus : A Possible Role of Specialized Ring Tissue Remnants . HeartWeb 2001 ; 5 ( 8 ) : Article06010001 .
- 2) Atarashi H, Ogawa S<sup>1)</sup>, Harumi K<sup>2)</sup>, Sugimoto T<sup>3)</sup>, Inoue H<sup>4)</sup>, Murayama M<sup>5)</sup>, Toyama J<sup>6)</sup>, Hayakawa H<sup>7)</sup>

- (<sup>1</sup>) Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>) Department of Internal Medicine Showa University Fujigaoka Hospital, <sup>3</sup>) Kanto central Hospital, <sup>4</sup>) Second Department of Internal Medicine Toyama Medical and Pharmaceutical University, <sup>5</sup>) Department of Internal Medicine ST. Marianna University School of Medicine, <sup>6</sup>) Aichi prefectural Owari Hospital): Three-Year Follow-up of Patients With Right Bundle Branch Block and ST Elevation in the Right Precordial Leads. J Am Coll Cardiol 2001; 37: 1916-1920.
- 3) Atarashi H: Cost-effectiveness of antiarrhythmic drugs for prevention of thromboembolism in patients with paroxysmal atrial fibrillation. Jpn Circ J 2001; 65: 765-768.
- 4) Tsukada Y, Yamazaki Y, Tanaka K, Suzuki T, Ohtsu F, Nagasawa K, Fuji-i M<sup>1</sup>), Tanaka S<sup>1</sup>), Iino Y<sup>2</sup>), Tamura K<sup>3</sup>) (<sup>1</sup>) Second Department of Surgery Nippon Medical School, <sup>2</sup>) Second Department of Internal Medicine Nippon Medical School, <sup>3</sup>) Department of Pathology Nippon Medical School): Hyponatremic-Hypertensive Syndrome Associated With Renovascular Hypertension: A Case Report. Circulation Journal 2002; 66: 297-301.
- 5) 小林義典<sup>1</sup>), 森田典成<sup>1</sup>), 阿部純子<sup>1</sup>), 相澤瑞穂<sup>1</sup>), 平澤泰弘<sup>1</sup>), 岩崎雄樹<sup>1</sup>), 林 明聡<sup>1</sup>), 宮内靖史<sup>1</sup>), 大村和子<sup>1</sup>), 平山悦之<sup>1</sup>), 加藤貴雄<sup>1</sup>), 高野照夫<sup>1</sup>), 新 博次 (<sup>1</sup>) 付属病院第一内科): 純III群薬 Ibutilide の心房粗動に対する停止効果. Ther. Res 2001; 22: 42-46.
- 6) 吉田博史, 雪吹周生: 胸部単純X線写真. 救急・集中治療 2001; 13(5): 485-492.
- 7) 宮内靖史<sup>1</sup>), 小林義典<sup>1</sup>), 相澤瑞穂<sup>1</sup>), 阿部純子<sup>1</sup>), 盛田典成<sup>1</sup>), 岩崎雄樹<sup>1</sup>), 林 明聡<sup>1</sup>), 大村和子<sup>1</sup>), 新 博次, 加藤貴雄<sup>1</sup>), 高野照夫<sup>1</sup>), 新田 隆<sup>2</sup>), 田中茂夫<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>) 付属病院第一内科, <sup>2</sup>) 同第二外科): Radial Incision 術後に出現した心房頻拍に対してカテーテルアブレーションを施行した2例. 臨床心臓電気生理 2001; 24(6): 195-204.
- 8) 山中博之, 新 博次, 大塚俊昭, 遠藤康実, 丸山光紀, 宮本新次郎, 田寺 長, 緒方憲一, 浅井邦也, 雪吹周生, 鈴木 健, 長澤紘一: 発作性心房細動に対しアミオダロンを使用し著明なQOL改善をみた冠動脈疾患の1例. Prog Med 2001; 22: 618-621.
- 9) 遠藤康実, 新 博次: 不明熱で来院した成人スチル病, ペーチェット病の各1例. J Nippon Med Sch 2001; 68: 534-537.
- 10) 安武正弘<sup>1</sup>), 賈 大林<sup>2</sup>), 加藤浩司<sup>2</sup>), 石井健輔, 高木啓倫<sup>2</sup>), 草間芳樹<sup>2</sup>), 田中啓治<sup>1</sup>), 岸田 浩, 高野照夫<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>) 付属病院集中治療部, <sup>2</sup>) 付属病院第一内科): ラット低流量虚血モデルにおけるニコランジルの梗塞サイズ縮小効果: 再灌流早期ミトコンドリアATP感受性Kチャンネル開口の役割. 臨床薬理 2002; 33(1): 27S-28S.
- 11) 藤中祐美子<sup>1</sup>), 伊藤淳雄<sup>1</sup>), 村田和也<sup>1</sup>), 遠藤康実, 新 博次, 長澤紘一 (<sup>1</sup>) 多摩永山病院薬剤科): 外来診療における抗凝固療法の現状: 心房細動患者での検討. 臨床薬理 2002; 33(2): 261s-262s.
- (2) 総説:
- 1) 新 博次: Brugada 症候群の疫学・呼吸と循環 2001; 49(5): 415-420.
- 2) 丸山光紀, 新 博次: 不整脈の治療法-併用療法の注意点. 臨床成人病 2001; 31(6): 719-723.
- 3) 新 博次: 抗不整脈薬注射剤の薬物療法. 循環器科 2001; 49: 571-572.
- 4) 新 博次: 心室頻拍・心室細動. 臨床医 2001; 27: 1127-1129.
- 5) 宮本新次郎, 田寺 長, 新 博次: ペースメーカーの適応と機種を選択. 臨床医 2001; 27: 1138-1143.
- 6) 新 博次: 心房細動の薬物治療1-除細動治療. 治療学 2001; 39: 957-960.
- 7) 新 博次: 除細動の実際-薬理学的除細動と電気的除細動. 内科 2002; 89(1): 72-75.
- 8) 新 博次: Naチャンネルブロッカーの適応. 診断と治療 2002; 90: 123-126.
- 9) 新 博次: わが国における Brugada 症候群の特徴・治療法と予後. 医学のあゆみ 2002; 200(9): 739-743.

10) 新 博次：抗不整脈薬による心房細動の停止・再発予防．Ther Res 2002；23：327-334．

## 著 書

- 1) Atarashi H：〔分担〕Cardiovascular and renal disease. D：Pharmacological treatment of cardiac arrhythmias . in Drug Benefits and Risks：International Textbook of Clinical Pharmacology (Ed . by van Boxtel CJ, Santos B, Edwards IR, John Wiley & Sons, ), 2001；pp517-524, Chichester .
- 2) 新 博次：〔分担〕心房細動の再発．別冊・医学のあゆみ，循環器疾患 ver. 2-state of arts ( 矢崎義雄，島田和幸，井上 博，永井良三編)，2001；pp381-383，医歯薬出版株式会社．
- 3) 新 博次：〔分担〕心房粗動．今日の循環器治療指針 第2版 ( 細田瑳一編)，2001；pp222-225，医学書院．
- 4) 斎藤寛和，新 博次：〔分担〕洞不全症候群．循環器研修医ノート 改訂版2版 ( 永井良三編)，2001；pp536-539，診断と治療社．
- 5) 岸田 浩：〔分担〕無症候性心筋虚血．心臓病 ( 山口 徹，中川雅夫，小川 聡，横山光宏編)，2001；pp276-277，先端医学社．
- 6) 新 博次：〔分担〕心房細動：再発とその予防．不整脈2001 ( 井上 博編)，2001；pp93-99，メデカルレビュー社．
- 7) 新 博次：〔分担〕単相性活動電位．KEY WORD 心臓病 ( 山口 徹，中川雅夫，横山光宏編)，2001；pp212-213，先端医学社．
- 8) 新 博次：〔分担〕不整脈．内科学レビュー2002 ( 酒井 紀，早川弘一，西崎 統，小林祥泰，福井次矢編)，2001；pp38-42，総合医学社．
- 9) 岸田 浩：〔分担〕胸部痛の鑑別のポイント．循環器診療二頁の秘訣 ( 永井良三 編)，2002；pp94-95，金原出版．

## 学会発表

〔2000 年度追加分〕

### コントラバース：

- 1) 新 博次：心房細動の管理にまつわるコントラバースカルディオバージョン前に TEE と抗凝固療法は必須か？．第64回日本循環器学会学術集会，2001．3．

### (1) シンポジウム：

- 1) 岸田 浩：循環器疾患患者における薬剤の作用と安全性．日本薬学会第122年回，2002．3．

### (2) 一般講演：

- 1) Shimokawa H<sup>1)</sup>，Iinuma H<sup>2)</sup>，Kishida H, Nakashima M<sup>3)</sup>，Kato K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Kyushu Univ Graduate Sch of Med Sciences, <sup>2)</sup> CV Inst, <sup>3)</sup> Haamamatsu Inst of Clin Pharrmaacology and Therapeutics): Antianginal Effect of Fasudil, a Rho-Kinase Inhibitor, in Patients with Stable Effort Angina: A Multicenter Study . American Heart Association 74rd Scientific Sessions ( Anaheim, USA ), 2001 . 11 .
- 2) Ohno T<sup>1)</sup>，Honma H<sup>1)</sup>，Tokita Y<sup>1)</sup>，Munakata R<sup>1)</sup>，Yoshikawa M<sup>1)</sup>，Matsuzaki T<sup>2)</sup>，Kusama Y<sup>1)</sup>，Takayama M<sup>1)</sup>，Kishida H, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicin, <sup>2)</sup> 付属病院生理機能センター): Combined Assessment of Coronary Flow Velocity and Myocardial Perfusion during Dobutamine Stress Echocardiography in the Detection of Coronary Artery Disease . American Heart Association ( Anaheim USA ), 2001 . 11 .
- 3) 鈴木 健，石川正也，壬生倉徹志，大塚俊昭，山根吉人，浅井邦也，山中博之，雪吹周生，新 博次，長澤紘一：心筋梗塞における area at risk の存在は自律神経機能に影響する．第98回日本内科学会総会，2001．4．
- 4) 美浦和代，遠藤康実，大塚俊昭，丸山光紀，壬生倉哲志，山中博之，雪吹周生，鈴木 健，新 博次，長澤紘

- 一：多発性肺結節性陰影を伴ったシエーグレン症候群の1例．第490回日本内科学会関東地方会，2001．5．
- 5) 宮本新次郎，井野 威，田寺 長，遠藤康実，川口直美，丸山光紀，新 博次，長澤紘一：上大静脈内心房筋の解剖学的，電気生理学的検討．第16回日本心臓ペースング，電気生理学会学術大会，2001．5．
- 6) 遠藤康実，新 博次，壬生倉徹志，田寺 長，山中博之，雪吹周生，鈴木 健，長澤紘一：高齢高血圧患者の血中体液性因子（HANP, BNP）について．第43回日本老年医学会学術集会，2001．6．
- 7) 壬生倉徹志，新 博次，遠藤康実，田寺 長，山中博之，雪吹周生，鈴木 健，長澤紘一：高齢心疾患患者のrenin-angiotensin system にACE-1 および angiotensin II receptor antagonist が及ぼす影響．第43回日本老年医学会学術集会，2001．6．
- 8) 大塚俊昭，雪吹周生，鈴木 健，石川正也，壬生倉徹志，石井健輔，吉田博史，山根吉人，浅井邦也，長澤紘一：冠攣縮性狭心症における冠動脈内低用量acetylcholine 負荷による血管内皮機能の検討．第33回日本動脈硬化学会総会，2001．6．
- 9) 吉田博史，雪吹周生，大塚俊昭，石川正也，石井健輔，浅井邦也，鈴木 健，長澤紘一：冠動脈ステント留置周縁部における慢性期狭小化の規定因子；血管内超音波による観察．第14回多摩地区虚血性心疾患研究会，2001．6．
- 10) 館岡克彦，丸山光紀，遠藤康実，田寺 長，浅井邦也，山中博之，雪吹周生，鈴木 健，新 博次，長澤紘一：重症妊娠中毒症を契機に発症した産褥心筋症の1例．第492回日本内科学会関東地方会，2001．6．
- 11) 石川正也，田寺 長，大塚俊昭，丸山光紀，宮本新次郎，浅井邦也，雪吹周生，鈴木 健，新 博次，長澤紘一：一過性の1対1房室伝導心房粗動によりAdams-Stokes発作をきたした筋緊張性ジストロフィーの1例．第180回日本循環器学会関東甲信越地方会，2001．6．
- 12) 浅井邦也，Stephen F V<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>The Weis Center for Research, Pennsylvania State University, College of Medicine, USA)：加齢における血管内皮障害とエンドセリンB受容体由来の血管収縮性の奇異性亢進．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 13) 手島浩恵<sup>1)</sup>，酒井貴史<sup>1)</sup>，水谷行伸<sup>1)</sup>，杉原秀人<sup>1)</sup>，田所久子<sup>1)</sup>，久保田稔<sup>1)</sup>，佐藤綾子<sup>1)</sup>，佐藤寛之<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：虚血発作より誘発された心室細動の1症例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 14) 藤木直美<sup>1)</sup>，井上 淳<sup>1)</sup>，菅野由紀<sup>1)</sup>，相澤 正<sup>1)</sup>，鈴木美子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：心筋梗塞急性期にトロポニン陽性に先行してhs-CRP上昇を認めた1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 15) 真下 恵<sup>1)</sup>，柴田明佳<sup>1)</sup>，鈴木純子<sup>1)</sup>，佐藤知枝<sup>1)</sup>，菊池英子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：インフルエンザウイルスの検体別検出状況．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 16) 柴田明佳<sup>1)</sup>，真下 恵<sup>1)</sup>，鈴木純子<sup>1)</sup>，佐藤知枝<sup>1)</sup>，菊池英子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：インフルエンザOLAの判定を安易にする測定環境についての検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 17) 相澤泰与<sup>1)</sup>，井口輝彦<sup>1)</sup>，浅井信治<sup>1)</sup>，恩田怜子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：全自動輸血検査機器オートビューと試験管法の比較検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 18) 浅井信治<sup>1)</sup>，井上 淳<sup>1)</sup>，菊池英子<sup>1)</sup>，恩田怜子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：臨床検査システムTLABO-CLの構築と導入効果について．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 19) 相澤 正<sup>1)</sup>，鈴木美子<sup>1)</sup>，井上 淳<sup>1)</sup>，菅野由紀<sup>1)</sup>，藤木直美<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：東芝TBA-200FR自動分析装置の基礎的検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 20) 吉田博史，浅井邦也，徳山権一，石井健輔，大塚俊昭，丸山光紀，宮本新次郎，遠藤康実，田寺 長，雪吹周生，鈴木 健，新 博次，長澤紘一：冠動脈攣縮にQT延長を伴い心室細動を発症したと考えられる1例．第181回日本循環器学会関東甲信越地方会，2001．9．



- 21) 大塚俊昭, 雪吹周生, 鈴木 健, 石川正也, 吉田博史, 石井健輔, 浅井邦也, 長澤紘一, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科): 冠動脈攣縮に血管内皮機能障害は必ずしも関与しない: 低用量 acetylcholine 負荷による冠動脈内皮機能の検討. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 22) 吉田博史, 雪吹周生, 大塚俊昭, 石川正也, 石井健輔, 浅井邦也, 鈴木 健, 長澤紘一, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科): ステンント留置周縁部の慢性期狭小化に血管の positive remodeling が関係する. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 23) 藤中祐美子<sup>1)</sup>, 伊藤淳雄<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 遠藤康実, 新 博次, 長澤紘一(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科): 心房細動における warfarin 療法の現状. 第9回不整脈薬物療法研究会, 2001. 9.
- 24) 佐藤寛之<sup>1)</sup>, 水谷行伸<sup>1)</sup>, 手嶋浩恵<sup>1)</sup>, 佐藤綾子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 鈴木 健(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室): 逆流率を用いた僧帽弁逆流重症度の再評価について. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 25) 伊藤憲祐, 田寺 長, 大野則彦, 丸山光紀, 遠藤康実, 石井健輔, 吉田博史, 鈴木 健, 新 博次, 長澤紘一: 胸痛・呼吸困難をきたしLDH高値が持続した1例. 第494回日本内科学会関東地方会, 2001. 10.
- 26) 鈴木 健, 吉田博史, 石井健輔, 大塚俊昭, 浅井邦也, 田寺 長, 雪吹周生, 長澤紘一, 関 勝洋<sup>1)</sup>, 三原宏俊<sup>1)</sup>, 緒方宏泰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>明治薬科大学大学院臨床薬学): 高脂血症治療薬の作用機序の違いが血管内皮機能に影響する. 第42回日本脈管学会総会, 2001. 11.
- 27) 藤中祐美子<sup>1)</sup>, 伊藤淳雄<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 遠藤康実, 新 博次, 長澤紘一(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科): 外来心房細動患者における薬剤疫学的調査. 第7回日本薬剤疫学会学術総会, 2001. 11.
- 28) 石井健輔, 浅井邦也, 吉田博史, 大野則彦, 丸山光紀, 緒方憲一, 宮本新次郎, 遠藤康実, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次, 岸田 浩: 利尿剤投与後 Wernicke-Korsakoff 症候群を呈した脚気心の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第182回学術集会, 2001. 12.
- 29) 與田小百合, 浅井邦也, 緒方憲一, 宮本新次郎, 遠藤康実, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次, 岸田 浩: 重症感染症, 反復性気胸を合併し, 治療に難渋した重症筋無力症クリーゼの1例. 第496回日本内科学会関東地方会, 2001. 12.
- 30) 藤中祐美子<sup>1)</sup>, 伊藤淳雄<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 遠藤康実, 新 博次, 長澤紘一(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科): 外来診療における抗凝固療法の現状: 心房再動患者での検討. 第22回日本臨床薬理学会, 2001. 12.
- 31) 小川 紅, 緒方憲一, 宮本新次郎, 浅井邦也, 大塚俊昭, 徳山権一, 遠藤康実, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次, 岸田 浩: 喘息発作時に認められた一過性左室内伝導障害より診断に至った Löffler 心内膜心筋炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第183回学術集会, 2002. 2.
- 32) 伊藤淳雄<sup>1)</sup>, 藤中祐美子<sup>1)</sup>, 加藤浩子<sup>1)</sup>, 亀山明美<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 浅井邦也, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 岸田 浩, 三原 潔<sup>2)</sup>, 緒方宏泰<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科, <sup>2)</sup>明治薬科大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻): 当院における2型糖尿病患者の末梢神経障害に関する評価と自覚症状の検討. 日本薬学会第122年回, 2002. 3.
- 33) 山田朋子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 岸田 浩, 村田和也<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬大薬, <sup>2)</sup>多摩永山病院薬剤科): 外来虚血性心疾患患者のQOL; 疾患の種類と治療内容による影響. 日本薬学会第122年回, 2002. 3.
- 34) 横田訓男<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 岸田 浩, 村田和也<sup>2)</sup>, 池田俊也<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬大薬学部, <sup>2)</sup>多摩永山病院薬剤科, <sup>3)</sup>慶応大学医学部): 気管支喘息患者のQOLと薬剤師管理指導の効果. 日本薬学会第122年回, 2002. 3.
- 35) 鈴木 健, 大塚俊昭, 雪吹周生, 徳山権一, 石井健輔, 吉田博史, 浅井邦也, 新 博次, 長澤紘一, 岸田 浩: 血管平滑筋収縮機序の差が冠動脈攣縮発現に関係する. 第99回日本内科学会総会講演会, 2002. 3.
- 36) 吉川真由美, 遠藤康実, 石井健輔, 吉田博史, 丸山光紀, 宮本新次郎, 浅井邦也, 田寺 長, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次, 岸田 浩, 川口直美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院付属東病院循環器科): アミオダロンにより著明なQOLの改善をみせた左室瘤に合併した心室貧拍の1例. 日本医科大学医学会第106回例会, 2002. 3.

(3) 公開講座：

1) 岸田 浩：運動負荷試験でどこまで分るか．第18回日本心電学会学術集会，2001．10．

(4) ファイヤーサイドカンファランス：

1) 新 博次：日本における Brugada 症候群の現状と短期予後．第18回日本心電学会学術集会，2001．10．

## 2. 内科学第二講座

### [ 付属病院第 2内科 ]

#### 研究概要

内科学第二講座は、神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では脳血管障害、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んでおります。研究にあたっては動物実験に基づく基礎的なアプローチと臨床データに基づいた臨床的アプローチの両面から行っています。

実験的研究では、主としてラットを用いた中大脳動脈閉塞モデルを使用して脳梗塞の病態の解明のためオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法を用いて局所脳循環代謝を測定している。

また、脳梗塞体積および脳浮腫容積を測定し、各種薬剤の脳保護作用を検討している。近年、当教室で力を注いでいる研究の一つは免疫抑制薬やそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護作用であるが、それらの治療薬や治療法のアポトーシス誘導遺伝子への影響についても検討を行っている。

また、ウイルスベクターを用いた遺伝子治療も試みている。臨床的には脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組んでおり、MRIを用いたDiffusion, Perfusion Weighted Imageによる診断法の開発に力を注いでいる。その他、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。

腎臓内科では、従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。

また、腎クリニックや北総病院内科および脳卒中センター（SCU）に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

[ 1999 年度追加分 ]

原著：

- 1) 駒場祐一：小脳脳血管障害患者におけるcrossed cerebellocerebral diaschisis の検討：SPECT study . 千葉核医学研究会誌 2000 ; 11 ( 16 ): 34-35 .

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Kase R, Uwe B, Andreas K, Thomas K, Utsumi K, Itoh K, Konrad S, Sakuraba H : Characterization of two galactosidase mutants ( Q279E and R301Q ) found in an atypical variant of Fabry disease . Biochimica et Biophysica Acta 2000 ; 1501 : 227-235 .

( 1 ) 原著：

- 1) Katsumata T, Katayama Y, Otori T, Muramatsu H, Nishiyama Y, Nakamura H, Seta T, Terashi A : Effect of long-term administration of JTP-2942, a novel thyrotropin releasing hormone analogue , on neurological outcome, local cerebral blood flow and glucose utilization in a rat focal cerebral ischemia . Brain Res 2001 ; 901 : 62-70 .

- 2) Hiraide T, Katsura K, Muramatsu H, Asano G, Katayama Y : Adenosine receptor antagonists cancelled the ischemic tolerance phenomenon in gerbil . *Brain Res* 2001 ; 910 : 94-98 .
- 3) Mishina M, Ohyama M, Ishii K, Mitani K, Komaba Y, Kobayashi S, Kitamura S, Katayama Y, Senda M : Statistical parametric map for cerebral metabolism of glucose in progressive supranuclear palsy . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( suppl. 1 ) : S229-S229 .
- 4) Katsumata T, Nakamura H, Muramatsu H, Kikuchi Y, Katayama Y : Neuroprotective effects of NS 7, a novel Na<sup>+</sup> and Ca<sup>2+</sup> channel blocker , in the rat focal ischemic model . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( suppl. 1 ) : S397-S397 .
- 5) Nakamura H, Katsumata T, Kamiya T, Katsura K, Katayama Y : The mechanism of ischemic tolerance phenomenon in gerbils : an approach of regional cerebral blood flow . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( suppl. 1 ) : S233-S233 .
- 6) Igarashi H, Nakada T, Kwee IL, Katayama Y : Predicting pathological fate of focal cerebral ischemic using 1H - magnetic resonance spectroscopic imaging . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( Suppl. 1 ) : 353-353 .
- 7) Igarashi H, Hamamoto M, Yamaguchi H, Okubo S, Nagashima J, Nagayama H, Amemiya S, Arii K, Sakamaki M, Katayama Y : Diffusion Perfusion mismatch during the acute stage of cerebral ischemia may predict enlargement of the infarcted area . *J Cereb Blood Folw Metab* 2001 ; 21 ( Suppl. 1 ) : 352-352 .
- 8) Ohyama M, Mishina M, Senda M, Ishii K, Mitani K, Katayama Y, Ishii K, Sakamoto S, Sadato N : Comparison of FDG normal brain image among three PET centers . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( suppl. 1 ) : S578-S578 .
- 9) Nito C, Kamiya T, Ueda M, Arii T, Terashi A, Katayama Y : Mild hypothermia enhances neuriprotective effects of immunosuppressant FK506 following transient focal ischemia in rats . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( suppl. 1 ) : S405 .
- 10) Kamiya T, Ueda M, Nito T, Arii T, Kato K, Amemiya S, Muramatsu H, Katayama Y : Effect of immunosuppressant, FK506, on pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolites during cerebral ischemia and reperfusion in gerbil brain . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( suppl. 1 ) : S406 .
- 11) Okubo S, Igarashi H, Hamamoto M, Yamaguchi H, Arii K, Nagashima J, Katayama Y : Prognosis of small deep infarcts evaluated by T2<sup>\*</sup> -weighted dynamic MRI . *J Cereb Blood Flow Metab* 2001 ; 21 ( Suppl. 1 ) : S354-S354 .
- 12) Katsura K, Kurihara J, Kato H, Katayama Y : Ischemic preconditioning effects the subcellular distribution of protein kinase C and calcium/calmodulin dependent protein kinase II in the gerbil hippocampal CA1 neurons . *Neurol Res* 2001 ; 23 ( 10 ) : 751-754 .
- 13) Yamazaki M, Makifuchi T, Kwang-Ming C, Mori O, Katayama Y, Takahashi H, Oyanagi K : Progressive supranuclear palsy on Guam . *Acta Neuropathol* 2001 ; 102 : 510-514 .
- 14) Arii T, Kamiya T, Arii K, Ueda M, Nito C, Katsura K, Katayama Y : Neuroprotective effect of immunosuppressant FK506 in transient focal ischemia in rat . *Neurol Res* 2001 ; 23 ( 10 ) : 755-760 .
- 15) Igarashi H, Kwee IL, Nakada T, Katayama Y, Terashi A : 1H magnetic resonance spectroscopic imaging of permanent focal cerebral ischemic in rat : longitudinal metabolic changes in ischemic core and rim . *Brain Res* 2001 ; 907 : 208-221 .
- 16) Uchihara T, Nakamura A, Yamazaki M, Mori O, Ikeda K, Tsuchiya K : Different conformation of neuronal tau deposits distinguished by double immunofluorescence with AT8 and thiazin red combined with Gallyas method . *Acta Neuropathol* 2001 ; 102 : 462-466 .
- 17) De Volder AG, Toyama H, Kimura Y, Kiyosawa M, Nakano H, Vanlierde A, Wanet Defalque MC, Mishina M,

- Oda K, Ishiwata K, Senda M : Auditory triggered mental imagery of shape involves visual association areas in early blind humans . *Neuroimage* 2001 ; 14 ( 1 ) : 129-139 .
- 18 ) Ohta Y, Narita T, Ishii K, Mishina M, Imae S, Senda M, Ohno K : SPM analysis of PET parameters to predict the surgical outcome of intractable mesial temporal lobe epilepsy . *Neuroimage* 2001 ; 13 ( 6 ) : S823-S823 .
- 19 ) Ueda M, Hamamoto M, Nagayama H, Okubo S, Amemiya S, Katayama Y : Biochemical alterations during medication withdrawal in Parkinsons disease with and without neuroleptic malignant like syndrome . *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2001 ; 71 : 111-113 .
- 20 ) Bannai M, Kawamura T, Naito T, Kameyama H, Abe T, Kawamura H, Tsukada C, Watanabe H, Hatakeyama K, Hamada H, Nishiyama Y, Ishikawa H, Takeda K, Okumura K, Taniguchi M, Abo T : Abundance of unconventional CD<sup>8+</sup>Vnatural Killer T cells in the large intestine . *Eur J immunol* 2001 ; 31 : 3361-3369 .
- 21 ) Simo Y, Urabe T, Hattori N, Watanabe Y, Nagao T, Yokochi M, Hamamoto M, Mizuno Y : Polymorphism of the lipoprotein lipase gene and risk of atherothrombotic cerebral infarction in the Japanese . *Stroke* 2001 ; 32 ( 7 ) : 1481-1486 .
- 22 ) Nishiyama Y, Nejima J, Watanabe A, Kotani E, Sakai N, Hatamochi A, Shinkai H, Kiuchi K, Tamura K, Shimada T, Takano T, Katayama Y : Ehlers-Danlos syndrome type IV with a unique point mutation in COL3A1 and familial of phenotype of myocardial infarction without organic coronary stenosis . *J Internal Med* 2001 ; 249 : 103-108 .
- 23 ) Saitoh Y, Yamazaki M, Kanazawa I, Murayama S : Severe involvement of the ambient gyrus in a case of argyphilic grain disease . *J Neurol Sci* 2002 ; 196 : 71-75 .
- 24 ) Nishiyama Y, Hamada H, Nonaka S, Yamamoto H, Nannno M, Katayama Y, Takahashi H, Ishikawa H : Homeostatic regulation of intestinal villous epithelia by B lymphocytes . *J Immunol* 2002 ; 168 : 2626-2633 .
- 25 ) Hamada H, Hiroi T, Nishiyama Y, Takahashi H, Masunaga Y, Hachimura S, Kaminogawa S, Iwanaga T, Kiyono H, Yamamoto H, Ishikawa H : Identification of multiple isolated lymphoid follicles on the antimesenteric wall of the mouse small intestine . *J Immunol* 2002 ; 168 : 57-64 .
- 26 ) Muramatsu H, Igarashi H, Okubo S, Katayama Y : Montelase reduces infarct volume and hemorrhagic transformation in rat model of embolic stroke . *Neurological Research* 2002 ; 24 : 311-316 .
- 27 ) 渡辺綾子, 柏木哲也, 石黒 望, 窪田 実, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗 : 多発性嚢胞腎 (ADPKD) のCAPD症例について . 第10回東京PD研究会誌 40-42 .
- 28 ) 三品雅洋, 大山雅史, 成相 直, 石井賢二, 外山比南子, 千田道雄, 片山泰朗 : PET を用いた脳神経細胞密度と脳血流の加齢変化の研究 . 老人病研究所紀要 2001 ; 10 : 8-10 .
- 29 ) 三品雅洋, 駒場祐一, 萩原 浩, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 大山雅史, 北村 伸, 片山泰朗, 三谷和子, 石井賢二, 千田道雄 : SPM99 を用いた痴呆のないParkinson 病患者のブドウ糖代謝の検討 . 千葉核医学研究会誌 2001 ; 12 ( 2 ) : 35-37 .
- 30 ) 勝又俊弥, 神谷達司, 上田雅之, 大鳥達雄, 片山泰朗 : 脳血管痴呆の発現メカニズムの研究 . 老人病研究所紀要 2001 ; 10 : 1-7 .
- 31 ) 駒場祐一, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明 : PET activation にて両側言語野を認めた脳梁無形成の1例 . 千葉核医学研究会誌 2001 ; 17 ( 2 ) : 38-40 .
- 32 ) 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 大久保誠二, 有井一正, 酒巻雅典, 永島淳一, 片山泰朗 : Diffusion MRI, Perfusion MRI による脳塞栓急性期所見と病巣の進展 . : 急性期脳灌流画像と慢性期所見との比較 . Proceeding of the Mt. Fuji Workshop on CVD 2001 ; 19 : 30-34 .
- 33 ) 酒巻雅典, 西山 穰, 五十嵐博中, 萩原 浩, 安藤 順, 知識鐵郎, 片山泰朗 : 大梗塞病変での glycerol による mass effect 悪化の可能性と, その抗浮腫作用の MRI を用いての評価 . *Progress in Research on Brain Edema*

and ICP 2001 ; 93-99 .

- 34) 平井俊策,丸山純一,兼重 裕,西村 崇,近藤 進,柳沢孝之,北村 伸,丸山博志,高堂松平,浜口吉克,土井利毅,太田規世志,中野重行:脳卒中による自覚症状重度スケールの検討. Geriatric medicine 2001 ; 39 (8): 1339-1348 .

(2) 綜説:

- 1) Ueda M : Nature and science : the best of both worlds . Nerve Net 2001 ; 11 (4) : 4-5 .
- 2) 柏木哲也,飯野靖彦,右田 真,島田 隆,石橋正彦,片山泰朗:多発性嚢胞腎(ADPKD)の治療におけるカウセンシングの重要性.厚生省特定疾患 進行性腎障害調査研究班平成12年度 研究業績集 .
- 3) 勝又俊弥:ブレインアタック 用語と解説. J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (2) : 211 .
- 4) 勝又俊弥:脳卒中専門病棟 用語と解説. J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (2) : 213 .
- 5) 片山泰朗:内科領域から診ためまい. 東京都医師会雑誌 2001 ; 54 (5) : 52-58 .
- 6) 北村 伸,三品 雅洋:脳血管障害の臨床. III. 脳血管障害の検査法,脳循環の測定 PET. 日医師会誌特別号 2001 ; 12 : 124 .
- 7) 北村 伸:脳血管性痴呆の画像診断上の問題点. Therapeutic Research 2001 ; 22 (11) : 2457-2460 .
- 8) 坂本静樹,片山泰朗:プライマリケアにおける治療. めまい. 治療 2001 ; 83 (6) : 1953-1058 .
- 9) 萩原万里子:頭痛の予防的管理 - 特集:頭痛の新しい治療に向けて. 臨床と薬物治療 2001 ; 20(12) : 1283-1287 .
- 10) 勝又俊弥,片山泰朗:ラット局所脳虚血モデルに対するイコサペント酸エチルの遅延投与は梗塞部容積に影響なく,局所脳血流量および脳代謝を改善する. Atherothrombosis 2001 ; 6 (4) : 44-45 .
- 11) 勝又俊弥,片山泰朗:(翻訳)女性における魚および 3脂肪酸摂取量と脳卒中発症リスク. JAMA 毎日新聞社 2001 ; 285 (3) : 304-312 .
- 12) 桂 研一郎,片山泰朗:脳血管障害の臨床「一過性脳虚血発作(TIA)/RIND」. 日医師会誌特別号 2001 ; 125 (12) : S196-S202 .
- 13) 有井孝子,片山泰朗:脳血管生涯の臨床「脳循環代謝改善薬の使い方」. 日医師会誌特別号 2001 ; 125 (12) : S168-S171 .
- 14) 上田雅之:細胞内シグナル伝達系の脳虚血による変化. J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (4) : 362-363 .
- 15) 高田大輔,飯野靖彦,片山泰朗,江見 充:高血圧関連遺伝子は何か. 臨床成人病 2001 ; 32 : 5151-5159 .
- 16) 松信精一,飯野靖彦:A. 一般症候 9. 脱水. 産婦治療 2001 ; 82 : 111-115 .
- 17) 松信精一,柏木哲也,飯野靖彦:1. カリウムについての基礎知識~カリウムの代謝とその作用~. 医薬ジャーナル 2001 ; 37 (12) : 69-72 .
- 18) 藤田有子,松信精一,飯野靖彦:治療抵抗性浮腫.(特集:水・電解質・酸塩基異常,輸液療法). 総合臨床 2001 ; 50 : 3036-3041 .
- 19) 飯野靖彦,柏木哲也,林 美穂:水電解質・酸塩基平衡の臨床検査について. Medical Practice 2001 ; 18 (6) : 1052 .
- 20) 葉山修陽:MRSA 関連腎症. 腎疾患の最新の治療. 2002-2004 2001 ; 111-113 .
- 21) 柏木哲也,松信精一,飯野靖彦:新しいエリスロポイエチンNESPと腎性貧血. 臨床成人病 2001 ; 31 (11) : 1452-1454 .
- 22) 橋本和政,飯野靖彦:Fanconi症候群. EBMに基づく臨床データブック. 臨床医2001増刊号 2001 ; 27 : 554-555 .
- 23) 橋本和政,飯野靖彦:脱水症(成人). 臨床でよくみる水・電解質代謝異常. 今月の治療 2001 ; 9 (5) : 71-73 .
- 24) 桂 研一郎:特殊治療4. 脳保護薬(脳梗塞の急性期治療と二次予防). 診断と治療 2001 ; 89 (11) : 2017-2022 .
- 25) 五十嵐博中,片山泰朗:心原性脳塞栓症:発作要因と病態およびその臨床対策. Medical Practice 2001 ; 18 (4) : 595-598 .
- 26) 五十嵐博中,片山泰朗:「キーノートレクチャー」EBM時代の脳卒中診療に求められる画像診断とは. その現

状と21世紀の展望．EBMジャーナル 2001；2(4)：74-80．

- 27) 五十嵐博中，片山泰朗：拡散強調画像・灌流画像の有用性．Modern Physician 2001；21(7)：936-941．
- 28) 山口 博，片山泰朗：脳卒中病態診断法の進歩．Pharma Medica 2001；19(8)：27-32．
- 29) 石川博通，西山康裕，浜田裕正：腸管上皮内T細胞の発達分化とクリプトパッチ．免疫2002 2001；136-141．
- 30) 浜田 裕正，西山康裕，石川博通：クリプトパッチ．医学のあゆみ 2001；49-52．
- 31) 神谷達司，片山泰朗：脳血管障害の臨床「抗血小板療法の開始時期と投与期間」．日本医師会雑誌特別号 2001；125(12)：S172-S174．
- 32) 片山泰朗：めまい．15. 神経・筋疾患．今日の治療指針 2002年版 2002；591-592．
- 33) 片山泰朗：脳卒中慢性期の治療：脳循環代謝改善薬の使い方．PTM 2002；8(1)．
- 34) 片山泰朗，桂 研一郎：脳保護療法の現状と展望．分子脳血管病 2002；1(2)：1-6．
- 35) 片山泰朗，西山 穰：脳卒中中の輸液と注意．臨床看護 2002；28(6)：913-917．
- 36) 北村 伸：アルツハイマー病における画像診断上の特徴．日医師会誌 2002；127(3)：309-404．
- 37) 萩原万里子：頭痛の最近の話題：診断と治療の進歩．田園調布新聞(調心記) 2002；139：2-3．
- 38) 柏木哲也，松信精一，飯野靖彦：電解質異常と輸液管理Na, K, Ca, P．救急集中治療 2002；14(1)：25-38．
- 39) 中島亜希子，柏木哲也，松信精一，飯野靖彦：高齢者の腎尿路疾患とその管理薬剤性腎障害．腎と透析 2002；52(3)：295-299．
- 40) 朝本俊司，杉山弘行，土居 浩，飯田昌孝，長尾毅彦，小林信介，林 宗貴，池田幸穂：高気圧酸素とプロスタグランディンE1 製剤を併用した変形性頸椎症に対する保存的療法の有効性．脊髄外科 2002；16(1)：39-42．
- 41) 神谷達司，片山泰朗：Intraluminal Suture Model．分子脳血管病 2002；1(2)：87-91．

### (3) 症例報告：

- 1) 高田大輔，柏木哲也，金子朋広，王 恒維，中村 正，臼田和弘，神谷達司，河辺満彦，飯野靖彦，片山泰朗：Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis (CAPD) 患者に腹膜サルコイドーシスを合併し透析効率の低下を来した1例．日内会誌 2001；90(7)：1342-1344．
- 2) 猪口孝一，中山一隆，緒方清行，笹島耕二，内藤善哉，平山悦之，杉崎祐一，檀 和夫，高野照夫，田村浩一，片山泰朗，青木見佳子，弦間昭彦，吉村明修：《Conference room》「皮膚病変憎悪と食道癌の合併がみられ，急性の転帰をとった成人T細胞性白血病症例」．内科 2001；88(3)：551-562．
- 3) 葉山修陽，松信精一，亀谷 純，青木 宏，藤田進彦，檀 和夫，田村浩一，杉崎祐一，勝田悌実，川本雅司，森 修，工藤翔二，高野照夫，北村博司，清野精彦：《Conference room》「敗血症をきたしたBartter症候群の1例」．内科 2001；89(1)：145-155．
- 4) 松信精一，柏木哲也，飯野靖彦：急性腎不全の予防と薬物療法 特集 急性腎不全 診断・治療・血液浄化療法の適応．内科 2001；88(1)：33-36．
- 5) 弦間昭彦，藤田進彦，杉崎祐一，石神 伸，高野照夫，田村浩一，大野忠明，片山泰朗，松信精一，津久井 拓，川本雅司，工藤翔二，坂本静樹，吉野慎一，清水 章，清野精彦，寺崎泰弘：《Conference room》「慢性関節リウマチ治療中に心不全を発症した1例」．内科 2001；87(4)：766-776．
- 6) 清野精彦，石川昌弘，福岡長知，阿部信二，吉村明修，山崎峰雄，坂本静樹，杉原 仁，田村浩一，高野照夫，山中宣昭，川本雅司，佐藤直樹：《Conference room》「間質性肺炎，心機能低下など多彩な臨床症状を呈し筋ジストロフィーを考えられた1例」．内科 2001；87：356-367．
- 7) 藤田有子，雨宮守正，岸雄一郎，金子明弘，新井弘一，高橋秀明，池田裕美，浅野 泰，飯野靖彦，片山泰朗：DCPA + NAC 合剤中毒に対し，早期の血液吸着およびメチレンブルーの経口投与が有効であったと考えられた1症例．救急医学 2001；25：1891-1894．
- 8) 大内牧子，柏木哲也，金子朋広，林 美穂，中村 正，青木 宏，松信精一，河辺満彦，飯野靖彦，片山泰朗：CAPDが腹膜病変により困難となった原発性腎サルコイドーシスの1例．腹膜透析 2001；209-211．

- 9) 町田佳恵, 金子朋広, 吉山直樹, 飯野靖彦, 片山泰朗: 検診で見つかった腹腔内悪性神経鞘腫の1例. 内科 2001; 87(10): 782-784.
- 10) 岸雄一郎, 柏木哲也, 金子朋広, 林 美穂, 清水光義, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 大橋隆治: Unusual patternのlight chain deposition diseaseを呈した多発性骨髄腫の1例. 日内会誌 2002; 91(2): 243-245.

## 著 書

- 1) 片山泰朗: [分担] I. 急性期の診断技術. 1. 脳卒中急性期診断の進め方. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp13-16, ヴァンメディカル, 東京.
- 2) 坂本静樹: [分担] I. 急性期の診断技術. 2. 脳梗塞の臨床症候 テント上. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp17-20, ヴァンメディカル, 東京.
- 3) 坂本静樹: [分担] I. 急性期の診断技術. 3. 脳梗塞の臨床症候 テント下. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp21-24, ヴァンメディカル, 東京.
- 4) 永積 惇: [分担] I. 急性期の診断技術. 4. 脳出血の臨床症候. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp25-28, ヴァンメディカル, 東京.
- 5) 中沢 勝: [分担] I. 急性期の診断技術. 6. 重症度・予後. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp34-38, ヴァンメディカル, 東京.
- 6) 五十嵐博中: [分担] I. 急性期の診断技術. 7. CT (3D - CTを含む)・MRI. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp39-42, ヴァンメディカル, 東京.
- 7) 駒場祐一: [分担] I. 急性期の診断技術. 8. 脳血管撮影・DSA・MRA. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp43-46, ヴァンメディカル, 東京.
- 8) 白田和弘: [分担] I. 急性期の診断技術. 9. 神経超音波診断. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp47-54, ヴァンメディカル, 東京.
- 9) 北村 伸: [分担] I. 急性期の診断技術. 10. SPECT・PET. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp55-58, ヴァンメディカル, 東京.
- 10) 長尾毅彦: [分担] I. 急性期の診断技術. 11. 血液凝固・線溶因子, 血小板機能検査. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp59-63, ヴァンメディカル, 東京.
- 11) 片山泰朗・於保倫之助: [分担] II. 急性期の治療. 1. 脳卒中急性期治療の基本方針. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp64-67, ヴァンメディカル, 東京.
- 12) 青山純夫: [分担] II. 急性期の治療. 2. 血圧管理. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp68-71, ヴァンメディカル, 東京.
- 13) 柏木史彦: [分担] II. 急性期の治療. 3. 脳浮腫対策. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp72-75, ヴァンメディカル, 東京.
- 14) 神谷達司: [分担] II. 急性期の治療. 4. 脳梗塞急性期の治療の基本. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp76-83, ヴァンメディカル, 東京.
- 15) 片山泰朗: [分担] III. 臨床病型別の病態と治療. 1. 脳卒中の分類. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp89-91, ヴァンメディカル, 東京.
- 16) 神谷達司: [分担] III. 臨床病型別の病態と治療. 2. アテローム血栓性脳梗塞. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp92-96, ヴァンメディカル, 東京.
- 17) 勝又俊弥: [分担] III. 臨床病型別の病態と治療. 3. 心原性脳塞栓症. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp97-100, ヴァンメディカル, 東京.
- 18) 西山 穰: [分担] III. 臨床病型別の病態と治療. 4. ラクナ梗塞. 脳卒中ハンドブック, 2001; pp101-104, ヴァンメディカル, 東京.



- 19) 桂研一郎：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 7. 特殊な脳血管疾患. iv) 若年者の脳卒中. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp123-124, ヴァンメディカル, 東京 .
- 20) 桂研一郎：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 7. 特殊な脳血管疾患. v) 主幹動脈閉塞. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp125-126, ヴァンメディカル, 東京 .
- 21) 桂研一郎：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 7. 特殊な脳血管疾患. vi) 奇異性脳塞栓症. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp127-129, ヴァンメディカル, 東京 .
- 22) 上田雅之：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 7. 特殊な脳血管疾患. vii) 静脈洞血栓症. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp130-132, ヴァンメディカル, 東京 .
- 23) 上田雅之：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 7. 特殊な脳血管疾患. viii) Binswanger病. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp133-135, ヴァンメディカル, 東京 .
- 24) 上田雅之：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 7. 特殊な脳血管疾患. ix) アミロイドアンギオパチー. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp136-137, ヴァンメディカル, 東京 .
- 25) 大坪孝一, 片山泰朗：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 8. TIA. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp138-142, ヴァンメディカル, 東京 .
- 26) 片山泰朗, 上田雅之, 神谷達司：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 9. 高血圧性脳症. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp143-146, ヴァンメディカル, 東京 .
- 27) 大鳥達雄：〔分担〕III. 臨床病型別の病態と治療. 10. 脊髄血管障害. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp147-149, ヴァンメディカル, 東京 .
- 28) 福地孝明：〔分担〕IV. 慢性期の病態と治療. 1. 脳卒中の再発予防. i) 基礎疾患の管理. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp150-153, ヴァンメディカル, 東京 .
- 29) 山室 学：〔分担〕IV. 慢性期の病態と治療. 1. 脳卒中の再発予防. ii) 抗血小板薬および抗凝固薬の使い方. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp154-157, ヴァンメディカル, 東京 .
- 30) 有井孝子：〔分担〕IV. 慢性期の病態と治療. 2. 脳循環代謝改善薬の使い方. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp158-161, ヴァンメディカル, 東京 .
- 31) 北村 伸：〔分担〕IV. 慢性期の病態と治療. 3. 脳血管性痴呆の診断と治療. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp162-165, ヴァンメディカル, 東京 .
- 32) 五十嵐博中：〔分担〕V. 脳血管障害の診断・治療の動向. 1. 脳卒中急性期の新しい診断技術. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp181-186, ヴァンメディカル, 東京 .
- 33) 濱本 真：〔分担〕V. 脳血管障害の診断・治療の動向. 2. 脳卒中急性期治療役の開発動向 (t PAを含めて). 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp187-190, ヴァンメディカル, 東京 .
- 34) 南澤宏明：〔分担〕V. 脳血管障害の診断・治療の動向. 4. 脳卒中急性期の低体温療法. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp196-199, ヴァンメディカル, 東京 .
- 35) 目々澤 肇：〔分担〕V. 脳血管障害の診断・治療の動向. 5. Therapeutic Time Window. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp200-204, ヴァンメディカル, 東京 .
- 36) 高木信一：〔分担〕VI. 予防医学. 1. 脳卒中の疫学. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp205-209, ヴァンメディカル, 東京 .
- 37) 永積 惇：〔分担〕VI. 予防医学. 2. 脳ドックの意義. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp210-213, ヴァンメディカル, 東京 .
- 38) 萩原万里子：〔分担〕VI. 予防医学. 3. 無症候性脳梗塞. 脳卒中ハンドブック, 2001 ; pp214-218, ヴァンメディカル, 東京 .
- 39) 桂 研一郎：〔分担〕4章 脳虚血 B：興奮性アミノ酸. 脳血管2001：文献レビュー, 2001 ; pp124-128, 金芳堂, 東京 .

- 40) 坂本静樹：頭蓋内圧亢進の是正輸液法．輸液実践ガイド：縮刷版：Medical Practice 編集委員会編，2001；pp309-311，文光堂，東京．
- 41) 高田大輔，飯野靖彦：生化学検査 Mg．臨床検査マニュアル，2001；pp519-521，永井書店，東京．
- 42) 柏木哲也，飯野靖彦：髄質嚢胞性疾患．多発性嚢胞腎（小出 輝，東原英二編），2001；pp168-172，南山堂，東京．
- 43) 長尾毅彦： 予防できる時代を迎えて ．明日の友，2001；pp14-26，婦人之友社，東京．
- 44) 金子朋広，飯野靖彦：糸球体嚢胞性腎．多発性嚢胞腎（小出 輝，東原英二編），2001；pp173-176，南山堂，東京．
- 45) 柏木哲也，松信精一，飯野靖彦：移植後の慢性腎機能低下をどう治療するか？．腎疾患最新の治療2002-2004（二瓶 宏，飯野靖彦，槇野博史編），2001；pp29-32，南江堂，東京．
- 46) 桂 研一郎：特殊治療4. 脳保護薬 （脳梗塞の急性期治療と二次予防）．診断と治療，2001；pp2017-2022，診断と治療社，東京．
- 47) 橋本和政，飯野靖彦：腎不全に合併した電解質異常の治療．腎疾患最新の治療 2002-2004，2002；pp234-235，南江堂，東京．
- 48) 長尾毅彦：〔分担〕脳血管障害に伴う睡眠障害とその治療について．睡眠障害ハンドブック，2002；pp33-38，診療新社，大阪．
- 49) 長尾毅彦：〔分担〕脳血流障害に伴う睡眠障害とその治療について．また，睡眠時無呼吸症候群と脳血管障害の関係についてご享受ください．睡眠障害の診断・治療Q&A，2002；pp207-212，診療新社，大阪．

#### 学会発表

〔2000 年度追加分〕

##### 一般講演：

- 1) 駒場祐一，酒井直之，山崎道生，雨宮志門，斎藤寛浩，村井保夫，鈴木紀成，三品雅洋，小南修史，水成隆之，小林士郎，片山泰朗，寺本 明，岡田 進：小脳脳血管障害患者における crossed cerebellocerebral diaschisis の検討；SPECT study．第31回千葉核医学研究会（千葉），2000．4．
- 2) 桂 研一郎，栗原順一，赫 彰郎，片山泰朗：虚血耐性のprotein phosphorylationへの影響．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 3) 駒場祐一，三品雅洋，原島克之，村井保夫，鈴木紀成，小南修史，水成隆之，小林士郎，片山泰朗，寺本 明：脳卒中治療室（SCU）開設による入院脳血管障害患者の変化について．第26回日本脳卒中学会総会（大阪），2001．3．

##### (1) 特別講演：

- 1) 神谷達司：「急性期脳卒中の治療戦略：脳循環代謝からのアプローチ：脳循環代謝におけるトロンピン制御の意義：実験的低体温モデルからの検討」．第26回日本脳卒中学会総会 ランチョンセミナー（大阪），2001．3．
- 2) 片山泰朗：「慢性期脳梗塞の治療：特に血管性痴呆について」．第16回日本老年精神医学会ランチョンセミナー（大阪），2001．6．
- 3) 片山泰朗：「痴呆の基礎知識」．東海ケアマネジメント研究会講演会（名古屋），2001．6．
- 4) 片山泰朗：「脳血管障害慢性期の治療」．第45回社会保険指導者講習会教育講演（東京），2001．9．
- 5) 片山泰朗：「脳血管障害慢性期の治療」．社会保険指導者講習会における伝達講習会講演会（兵庫），2001．9．
- 6) 片山泰朗：「脳梗塞超急性期の診断と治療」．第9回岡山脳梗塞懇話会特別講演会（岡山），2001．10．
- 7) 五十嵐博中：「Diffusion / Perfusion MRIによるProgressing Stroke の予測は可能か？」．第13回脳循環代謝学会 ランチョンセミナー（横浜），2001．10．

- 8) 片山泰朗：「脳梗塞急性期の診断と治療」. 第14回甲子園ニューロサイエンスセミナー講演会(兵庫), 2001. 11.
- 9) 片山泰朗：「脳血管系疾患治療の進歩と適正な薬物療法」. 第17回東京都病院薬剤師会 臨床薬学研究会 特別講演(東京), 2002. 1.
- 10) 片山泰朗：「脳血管障害慢性期の治療」. 平成13年度静岡県医師会社会保険伝達講習会(静岡), 2002. 1.
- 11) 神谷達司：「脳梗塞における低体温とアルガトロバンの脳保護作用」. 第6回岡山ブレインアタック研究会特別講演(岡山), 2002. 1.
- 12) 片山泰朗：「生活習慣病と脳血管障害」. 朝日医学フォーラム講演会(岡山), 2002. 3.
- 13) 桂 研一郎：「脳梗塞急性期治療におけるフリーラジカル消去剤の位置づけ, 基礎から臨床へ」. 第6回埼玉イブニングフォーラム(浦和), 2002. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 五十嵐博中, 中田 力, Kwee IL, 片山泰朗：Rat Perfusion Focal IschemiaにおけるNAA, lactate の動態と慢性期病理所見の比較. 第14回臨床脳機能MR研究会(新潟), 2001. 8.
- 2) 桂 研一郎：虚血耐性現象. 第13回関東脳卒中研究会(東京), 2001. 11.
- 3) 五十嵐博中：「脳梗塞急性期におけるDWI, PIの臨床的意義」. 第1回東京stroke フロンティア(東京), 2002. 3.

(3) 一般講演：

- 1) Suwa H, Yokochi M, Doi N, Isikura N, Sibui F, Ittuse K, Hirabayasi K, Nagao T, Koshimura I：Electroconvulsive Therapy (ECT) for Psychiatric Symptoms Associated with Parkinson's disease. Vth International conference on Progress in Alzheimer's and Parkinson's Disease (Kyoto), 2001. 3.
- 2) Mishina M, Ohyama M, Ishii K, Mitani K, Komaba Y, Kobayashi S, Kitamura S, Katayama Y, Senda M：Statistical parametric map for cerebral metabolism of glucose in progressive supranuclear palsy. The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.
- 3) Ohyama M, Mishina M, Senda M, Ishii K, Mitani K, Katayama Y, Ishii K, Sakamoto S, Sadato N：Comparison of FDG normal brain image among three PET centers. The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.
- 4) Hiraide T, Katsura K, Muramatsu H, Asano G, Katayama Y：Adenosin receptor antagonists cancelled the ischemic tolerance phenomenon in gerbil. The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.
- 5) Ueda M, Nowak TS J：Depolarization thresholds for mitogen - activated protein kinase (MAPK) activation following transient forebrain ischemic in the rat. The XXth International Symposium on cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.
- 6) Katsumata T, Nakamura H, Muramatsu H, Kikuchi Y, Katayama Y：Neuroprotective effect of NS 7, a novel Na<sup>+</sup> and Ca<sup>2+</sup> channel blocker, in the rat focal ischemic model. The XXth International Symposium on cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.
- 7) Nakamura H, Katsumata T, Kamiya T, Katsura K, Katayama Y：The mechanism of ischemic tolerance phenomenon in gerbils：an approach of regional cerebral blood flow. The XXth International Symposium on cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.
- 8) Otori T, Joel HG, Welsh FA：Preconditioning with cortical spreading depression reduces injury resulting from permanent focal ischemia in rat brain. The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.
- 9) Okubo S, Igarashi H, Hamamoto M, Yamaguchi H, Ariei K, Nagashima J, Katayama Y：Prognosis of small deep infarcts evaluated by T2\*-weighted dynamic MRI. The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Taipei), 2001. 6.

- 10) Igarashi H, Nakada T, Kwee IL, Katayama Y : Predicting pathological fate of cerebral ischemia using 1H - magnetic resonance spectroscopic imaging . The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Taipei ), 2001 . 6 .
- 11) Igarashi H, Hamamoto M, Yamaguchi H, Okubo S, Nagashima H, Amemiya S, Arii K, Sakamaki M, Katayama Y : Diffusion - Perfusion mismatch during the acute stage of cerebral ischemia may predict enlargement of the infarcted area .XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function( Taipei ), 2001 . 6 .
- 12) Nito C, Kamiya T, Ueda M, Arii T, Terashi A, Katayama Y : Mild hypothermia enhances neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 following transient focal ischemia in rats . The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Taipei ), 2001 . 6 .
- 13) Kamiya T, Ueda M, Nito T, Arii T, Kato K, Amemiya S, Muramatsu H, Katayama Y : Effect of immunosuppressant , FK506 , on pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolites during cerebral ischemia and reperfusion in gerbil brain . The XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function ( Taipei ), 2001 . 6 .
- 14) Ohta Y, Nariai T, Ishii K, Mishina M, Imae S, Senda M, Ohno K : SPM analysis of PET parameters to predict the surgical outcome of intractable mesial temporal lobe epilepsy . 7th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping ( Brighton ), 2001 . 6 .
- 15) Yokochi M, Sugano K, Koshimura I, Kitami T, Sakurai J, Onoguchi M : Usefulness of Dopa concentration measurement in plasma in parkinson's Disease Patients under Levodopa Therapy . XVth International Congress on Parkinson's Disease ( Finland ), 2001 . 7 .
- 16) Ueda M, Nowak TS J : Depolarization thresholds for extracellular signal - regulated kinase ( ERK ) and Jun phosphorylation following transient forebrain ischemic in the rat . The 31st annual Meeting of Society for Neuroscience ( SanDiego, USA ), 2001 . 11 .
- 17) Otori T, Sinson G, Raghupathi R, Welsh FA : Traumatic brain injury induces tolerance to ischemia in CA-1 hippocampus of the rat . The 19th Annual National Neurotrauma Society Meeting , Nov8 10 ( SanDiego ), 2001 . 11 .
- 18) 橋本和政, 大塚美穂, 北村博司, 葉山修陽: 非典型的な沈着パターンを示した IgA 腎症の1例 . 第8回千葉県腎疾患懇話会 ,
- 19) 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 大久保誠二, 有井一正, 酒巻雅典, 永島淳一, 片山泰朗: Diffusion MRI , Perfusion MRIによる脳塞栓急性期所見と病巣の進展 急性期脳灌流画像と慢性期所見との比較 . 第98回日本内科学会総会 ( 横浜 ), 2001 . 4 .
- 20) 瀬田 健博, 水村 直, 坂本静樹, 石渡明子, 永山 寛, 神谷信雄, 片山泰朗: 無症候性脳梗塞症例における梗塞発生部位に基づいた脳血流の検討 3次元統計処理画像 ( 3D SSP ) を用いた統計的アプローチ . 第98回日本内科学会総会 ( 横浜 ), 2001 . 4 .
- 21) 鎌野千佐子, 駒場祐一, 王 恒維, 酒寄 修, 飯野靖彦, 片山泰朗: 腎移植患者における脳血流<sup>123</sup>I-IMPを用いたARG SPECT法による検討 . 第98回日本内科学会総会 ( 横浜 ), 2001 . 4 .
- 22) 福地孝明, 桂 研一郎, 松信精一, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: 局所脳血流量に及ぼす影響: ネフローゼ症候群患者での検討 . 第98回日本内科学会総会 ( 横浜 ), 2001 . 4 .
- 23) 福地孝明, 桂 研一郎, 松信精一, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: SPECT でみたネフローゼ症候群患者の局所脳血流量の検討 . 第42回日本神経学会総会 ( 東京 ), 2001 . 5 .
- 24) 坂本静樹, 瀬田健博, 石渡明子, 水村 直, 片山泰朗: 塩酸ドネベジル投与によるアルツハイマー型痴呆患者の脳血流変化. : 3次元統計処理画像 ( 3D SSP ) を用いた検討 . 第42回日本神経学会総会 ( 東京 ), 2001 . 5 .

- 25) 桂 研一郎, 栗原順一, 平出智晴, 赫 彰郎, 片山泰朗: 免疫抑制薬 Tacrolimus 虚血直後投与の protein phosphorylation への影響. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 26) 石渡明子, 北村 伸, 片山泰朗: 「神経学的な健常者」の脳血流量は年齢, 性差によって異なるか?. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 27) 大久保誠二, 五十嵐博中, 濱本 真, 永山 寛, 雨宮志門, 山口 博, 有井一正, 永島淳一, 片山泰朗: T2\* : weighted dynamic MRI による深部小梗塞の進行に関する検討. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 28) 勝又俊弥, 中村秀紀, 西山 穰, 大島達雄, 片山泰朗: 新規 Na<sup>+</sup>, Ca<sup>2+</sup> チャンネルブロッカー (NS - 7) の脳虚血後投与の時間的閾値について. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 29) 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 大久保誠二, 有井一正, 酒巻雅典, 永島淳一, 片山泰朗: 脳酸素急性期の diffusion perfusion mismatch の存在は梗塞拡大の危険性を示唆する. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 30) 神谷達司, 仁藤智香子, 村松浩美, 上田雅之, 雨宮志門, 加藤健吾, 片山泰朗: Rat 局所脳虚血モデルにおける選択的抗トロンピン薬アルガトロパンの神経保護作用の検討: 軽微低体温との併用療法. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 31) 山崎峰雄, 森 修, 斎藤祐子, 山崎昌子, 新井裕至, 笠畑尚喜, 山之内 博, 片山泰朗, 村山繁雄: アルツハイマー病の発症年齢は最終病理所見に影響するか?. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 32) 萩原万里子, 稲村憲治, 赫 彰郎, 片山泰朗, フリオ ガルシア: 実験的局所脳虚血再灌流モデルにおける血栓溶解療法と神経病理学的所見, 臨床所見に関する検討. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 33) 三品雅洋, 大山雅史, 駒場祐一, 北村 伸, 片山泰朗, 三谷和子, 石井賢二, 千田道雄, 小林士郎: SPM99 を用いた進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝の検討. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 34) 大山雅史, 三品正洋, 片山泰朗, 千田道雄, 石井賢二, 定藤規弘, 坂本 撰: 3 PET 施設における FDG 正常データの検討. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 35) 新井裕至, 山崎峰雄, 森 修, 村松浩美, 浅野伍朗, 山崎昌子, 片山泰朗: -シヌクレイン凝集は脳アミロイドアンギオパチーを促進するか? アルツハイマー病での検討. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 36) 中村秀紀, 勝又俊弥, 片山泰朗: 局所脳ブドウ糖代謝からみた虚血耐性現象: Preconditioning の影響. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 37) 山口 博, 五十嵐博中, 有井一正, 大久保誠二, 濱本 真, 永島淳一, 片山泰朗: Perfusion MRI Peak Delay to Input Function (PDIF) 値を用いた急性期脳梗塞の進展予測. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 38) 永山 寛, 濱本 真, 永島淳一, 片山泰朗: 高齢者パーキンソン病における MIBG 心筋シンチの経時的変化. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 39) 菅野和彦, 越村 勲, 萩原万里子, 平林久吾, 長尾毅彦, 水越元気, 横地正之, 竹本征史: パーキンソン病患者の血中 Dopa 濃度測定: 治療管理の有用性. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 40) 小柳清光, 山崎峰雄, 渡部和彦, 森田 俊, 高橋 均, 神田尚俊: 筋萎縮性側索硬化症: 前角細胞のリボソーム RNA gene の転写活性に関連して. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 41) 近藤誉之, 高橋和也, 幸原伸夫, 高橋 洋, 山崎峰雄, 山村 隆: 日本人那須 - Hakola 病の遺伝子解析. 第42回日本神経学会総会 (東京), 2001. 5.
- 42) 山崎峰雄, 森 修, 斎藤祐子, 山崎昌子, 笠畑尚喜, 新井裕至, 山之内博, 片山泰朗, 村山繁雄: アルツハイマー病の発症年齢は最終病理所見に与える影響に関する検討. 第42回日本神経病理学会学術研究会 (東京), 2001. 5.
- 43) 山崎峰雄, 新井裕至, 山崎昌子, 森 修, 小松崎八寿子, 浅野伍朗, 小柳清光, 片山泰朗: 軽度の進行性核上性麻痺の病変を伴うパーキンソン病の1剖検例. 第42回日本神経病理学会学術研究会 (東京), 2001. 5.
- 44) 内原俊記, 中村綾子, 長岡詩子, 山崎峰雄, 森 修: 免疫蛍光染色二重増感法で観察した神経原線維変化内のコ

- ピキチン．第42回日本神経病理学会学術研究会（東京），2001．5．
- 45) 森 修，鈴木恒道，渡辺英樹，大秋美治，山崎峰雄，新井裕至，淺野伍朗，真柳佳昭：皮質異形性（FCD）に認められる神経細胞内封入体（myelinoid body）：病理診断的意義と病因への関与．第42回日本神経病理学会学術研究会（東京），2001．5．
- 46) 柏木哲也，石黒 望，窪田 実，松信精一，飯野靖彦，片山泰朗：多発性嚢胞腎（ADPKD）のCAPD症例について．第44回日本腎臓学会総会（東京），2001．5．
- 47) 栗原 怜，葉山修陽，小野田教高，大和田一博，桜井祐成，須賀 優，大園英一，秋葉 隆：透析患者腸骨における海綿骨部と皮質骨部の骨代謝動態について．第44回日本腎臓学会総会（東京），2001．5．
- 48) 高田大輔，江見 充，飯野靖彦，片山泰朗：SNPs検索による高脂血症の遺伝的解析．第104回日本医科大学医学学会例会（東京），2001．5．
- 49) 土井永史，中村 満，一瀬邦弘，米良仁志，鮫島達夫，武山静夫，長尾毅彦，井田正博：神経因性疼痛の脳内モニターとしてのSPECT．第12回日本臨床モニター学会総会（東京），2001．5．
- 50) 松信精一，柏木哲也，吉田 晃，有馬ゆう子，坂野弥生，大沢弘和，橋本和政，鎌野千佐子，武井寛之，大塚美穂，飯野靖彦，片山泰朗：透析中の頭蓋内圧モニターが可能であった血液透析患者の1例．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 51) 青木 宏，奥村ともみ，河辺満彦，飯野靖彦，片山泰朗：維持血液透析患者の循環血液量の検討．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 52) 藤田有子，王 恒維，柏木哲也，松信精一，新井弘一，高橋秀明，雨宮守正，池田裕美，淺野 泰，飯野靖彦，片山泰朗：DCPA中毒に対する血液吸着療法及び併発するメトヘモグロビン血症に対するメチレンブルー経口投与が有効であった1例．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 53) 大塚美穂，鎌野千佐子，柏木哲也，金子朋広，清水光義，飯野靖彦，片山泰朗：Ca，IP値のコントロールにより肺異所性石灰化の著明な改善が認められた維持透析患者の1例．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 54) 柏木哲也，石神 伸，吉野禎一，金子朋広，松信精一，藤田進彦，飯野靖彦，片山泰朗：LDL-apheresis が有効であった慢性関節リウマチ（RA）の1例．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 55) 金子朋広，白木優子，清水光義，鈴木一人，内海甲一，飯野靖彦，片山泰朗：2-MG，サイトカイン，接着分子などの変動からみた透析液を浄化したHD，on-line HDFの臨床効果．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 56) 王 恒維，中村 正，葉山修陽，飯野靖彦，片山泰朗：当院における透析患者の脳血管障害についての検討．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 57) 松沢一郎，柏木哲也，清水宏之，斎藤友香，金子礼志，菊地 修，吉野禎一，飯野靖彦，吉田和弘：DEPPが奏功した悪性関節リウマチの1例．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 58) 千田和美，藤田美保，森 美華，王 恒維，中村 正，葉山修陽：栄養状態から検討する腹膜透析患者のQOL向上のための看護アプローチ．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 59) 御園恒一郎，田口雪江，久島英二，葉山修陽，五味淵 誠，今泉孝敬：心筋生検後，心タンポナーゼに伴う慢性腎不全の急性憎悪に対し，各種血液浄化療法が著効した1症例．第46回日本透析医学会総会（大阪），2001．6．
- 60) 瀬田健博，水村 直，永山 寛，五十嵐博中，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗：無症候性脳梗塞における梗塞発生部位に基づいた脳血流の検討：3次元統計処理画像（3D-SSP）を用いて．第10回脳ドック学会総会（東京），2001．6．
- 61) 山口 博，五十嵐博中，大久保誠二，有井一正，酒巻雅典，濱本 真，片山泰朗：Diffusion MRI，Perfusion MRIによる脳塞栓超急性期所見と病巣の進展．第43回日本老年医学会総会（大阪），2001．6．
- 62) 坂本静樹，瀬田健博，福地孝明，臼田和弘，片山泰朗：MRIで両側海馬に病巣を認める非ヘルペス性辺縁系脳炎の検討．第19回日本神経治療学会総会（東京），2001．6．

- 63) 臼田和弘, 鎌野千佐子, 石渡明子, 中沢 勝, 福地孝明, 五十嵐博中, 桂研一郎, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 脳血管性うつ状態における選択性セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) の効果と脳血流量に対する影響. 第19回日本神経治療学会総会 (東京), 2001. 6.
- 64) 渡辺めぐみ, 田中伸幸, 山口 博, 永島淳一, 永山 寛, 濱本 真, 片山泰朗: 髄液循環障害を伴う高齢健忘患者の cine MRI を用いた中脳水道髄液流速の tap test による変化の検討 (3). 第19回日本神経治療学会総会 (東京), 2001. 6.
- 65) 永山 寛, 濱本 真, 雨宮志門, 大久保誠二, 渡辺めぐみ, 田中伸幸, 萩原博子, 片山泰朗: 高齢パーキンソン病患者のレボドーパ動態に及ぼすアスコルビン酸の影響. 第19回日本神経治療学会総会 (東京), 2001. 6.
- 66) 高田大輔, 仲沢一郎, 飯野靖彦, 片山泰朗, 江見 充: 高脂血症修飾因子の遺伝的解析. 第11回日本人類遺伝学会 Medical Genetics 研究会 (東京), 2001. 6.
- 67) 水越元気, 長尾毅彦, 井田正博, 大西貴弘, 横地正之: Wernicke脳症急性期症例の H MRS 所見. 第157回日本神経学会関東地方会 (東京), 2001. 6.
- 68) 安藤有希子, 山崎峰雄, 桂 研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 脳梗塞亜急性期に頭部 MRI で著明な gyral enhancement を認めた類もやもや病の1例. 第157回日本神経学会関東地方会 (東京), 2001. 6.
- 69) 岸 雄一郎, 新井弘一, 藤田有子, 金子明弘, 飯野靖彦, 片山泰朗: 巨赤芽球形貧血に人格変化を伴う後発性低血糖症候群を合併した1例. 第491回日本内科学会関東地方会 (東京), 2001. 6.
- 70) 竹内 緑, 桂研一郎, 石渡明子, 有井孝子, 中沢 勝, 福地孝明, 神谷達司, 片山泰朗: 皮膚病変を認めず, VEGF 高値を認めた Crow - Fukase 症候群 (CFS) の1例. 第491回日本内科学会関東地方会 (東京), 2001. 6.
- 71) 角南英子, 小島康正, 新井裕至, 安藤 順, 知識鉄郎, 西山 稯, 五十嵐博中, 酒巻雅典, 片山泰朗: 脳梗塞における glycerol の抗浮腫効果 (第二報): MRI 緩和時間を用いた抗脳浮腫効果の mapping. 第4回脳浮腫頭蓋内圧研究会 (東京), 2001. 7.
- 72) 仁藤智香子, 神谷達司, 上田雅之, 有井孝子, 片山泰朗: 免疫抑制薬-FK506-と軽微低体温の併用療法. 第5回脳梗塞フォーラム (東京), 2001. 7.
- 73) 藤田有子, 桂研一郎, 谷村恭子, 柏木哲也, 武井寛之, 松信精一, 福地孝明, 神谷達司, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性腎症に合併し画像上診断困難であった腎細胞癌の1例. 第492回日本内科学会関東地方会 (東京), 2001. 7.
- 74) 神谷達司, 仁藤智香子, 上田雅之, 有井孝子, 片山泰朗: アルガトロパンの脳保護作用. 第5回脳梗塞フォーラム (東京), 2001. 7.
- 75) 三品雅洋, 石井賢二, 大山雅史, 成相 直, 太田禎久, 織田圭一, 木村裕一, 佐々木徹, 石渡喜一, 外山比奈子, 千田道雄: [<sup>11</sup>C]flumazenil PET - Benzodiazepine 受容体分布画像の意義とは. . . . PET サマーセミナー 2001 (札幌), 2001. 8.
- 76) 桂 研一郎, 長尾毅彦, 駒場祐一, 小林士郎, 杉山弘行, 寺本 明, 片山泰朗: 岐路に立つ脳動脈瘤治療 神経内科からみた無症候性未破裂動脈瘤の治療の選択の現状. XXth The Mt. Fuji Workshop on CVD (札幌), 2001. 8.
- 77) 雨宮志門, 水越元気, 長尾毅彦, 神谷達司, 横地正之, 片山泰朗: 脳幹部梗塞における椎骨脳底動脈解離. XXth The Mt. Fuji Workshop on CVD (札幌), 2001. 8.
- 78) 西山康裕, 浜田裕正, 高橋秀実, 石川博通: 型上皮細胞間T細胞サブセットによる腸管上皮細胞の再生統御. 第35回日本消化器免疫学会 (札幌), 2001. 8.
- 79) 高田大輔, 江見 充, 飯野靖彦, 片山泰朗: 家族性高脂血症における LDL 受容体と APOAII 変異の遺伝子相互作用. 第69回日本医科大学医学会総会 (東京), 2001. 9.
- 80) 駒場祐一, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明: PET activation にて両側言語野を認めた脳梁無形成の1例. 第34回千葉核医学研究会 (千葉), 2001. 9.
- 81) 永山 寛, 濱本 真, 雨宮志門, 大久保誠二, 片山泰朗: 高齢者パーキンソン病診断における補助検査としての

- MIBG心筋シンチの位置付け．第1回パーキンソン病フォーラム（東京），2001．9．
- 82）長尾毅彦，横地正之，平林久吾，船田信顕，高松和弘：病変診断に苦慮したBalc同心円硬化症．第158回日本神経学会関東地方会（東京），2001．9．
- 83）岡村正哉，長汐千秋，桂研一郎，坂本静樹，片山泰朗：血漿交換が奏効したEpstein Barr ウィルス神経感染症の1例．第158回日本神経学会関東地方会（東京），2001．9．
- 84）櫻澤 誠，桂研一郎，有井孝子，中沢 勝，福地孝明，勝又俊弥，神谷達司，片山泰朗：肥厚性硬膜炎により痙攣とTososa - Hunt症候群様症状を来した1例．第493回日本内科学会関東地方会（東京），2001．9．
- 85）三品雅洋，駒場祐一，小林士郎，大山雅史，北村 伸，片山泰朗，石井賢二，千田道雄：進行性核上性麻痺の[F 18]FDG PET SPMを用いたJackknife 検定を含めて．第41回日本核医学会総会（金沢），2001．10．
- 86）大山雅史，石渡喜一，石井賢二，三谷和子，三品雅洋，北村 伸，千田道雄，織田圭一，木村裕一，片山泰朗：シグマ受容体リガンド11C SA4503によるアルツハイマー病への臨床応用．第41回日本核医学会総会（金沢），2001．10．
- 87）濱本 真，五十嵐博中，渡辺めぐみ，山口 博，永島淳一，片山泰朗：髄液循環障害を伴う高齢健忘患者のDiffusion anisotropy による検討．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 88）福地孝明，桂 研一郎，五十嵐博中，松信精一，神谷達司，片山泰朗：ネフローゼ症候群患者での局所脳血流量 腎機能障害の程度，PSL治療，糖尿病有無による分類の検討．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 89）中沢 勝，水村 直，北村 伸，片山泰朗：脊髄小脳変性症・パーキンソン病・進行性核上性麻痺における歩行時脳血流分布の検討．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 90）坂本静樹，瀬田健博，有井孝子，山崎峰雄，臼田和弘，五十嵐博中，水村 直，片山泰朗：塩酸ドネペジル投与によるアルツハイマー型痴呆患者の脳血流変化：3次元統計処理画像（3D SSP）を用いた検討．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 91）桂 研一郎，栗原順一，片山泰朗：脳虚血再灌流障害に及ぼす増強したアシドーシスの影響：protein phosphorylationへの影響．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 92）萩原 浩，中村秀紀，北原功雄，片山泰朗：脳梗塞診療におけるPerfusion CTによる脳血流評価の有用性．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 93）大久保誠二，五十嵐博中，濱本 真，山口 博，有井一正，酒巻雅典，片山泰朗：Diffusion MRI，Perfusion MRIによる脳梗塞急性期所見と病巣の進展：組織予後予測における各計算画像有用性の比較．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 94）角南英子，小島康正，新井裕至，安藤 順，知識鉄郎，西山 穰，五十嵐博中，酒巻雅典，片山泰朗：MRI緩和時間を用いたglycerol抗浮腫効果のmapping．第13回日本脳循環代謝学会総会（横浜），2001．10．
- 95）山崎峰雄，森 修，斎藤祐子，山崎昌子，笠畑尚喜，新井裕至，山之内 博，片山泰朗，村山繁雄：アルツハイマー病の発症年齢が最終病理所見に及ぼす影響：2施設多数例での臨床病理学的検討．第20回日本痴呆学会学術集会（三重県），2001．10．
- 96）柏木哲也，松信精一，藤田有子，大内牧子，武井寛之，藤田進彦，飯野靖彦，高野照夫，片山泰朗：心嚢液貯留による心不全を繰り返したmultiple myelomaの1例．第31回日本腎臓学会東部学術大会（山梨），2001．10．
- 97）藤田有子，大内牧子，武井寛之，柏木哲也，松信精一，飯野靖彦，片山泰朗：慢性腎症に合併し画像上診断困難であった腎細胞癌の1例．第31回日本腎臓学会東部学術大会（山梨），2001．10．
- 98）橋本和政，大塚美穂，北村博司，葉山修陽，飯野靖彦：内皮下に大型のDepositの沈着を多量に認めたIgA腎症の1例．第31回日本腎臓学会東部学術大会（山梨），2001．10．
- 99）栗原 怜，桜井祐成，小野田教高，須賀 優，大園英一，葉山修陽： $^{51}$ Cr-EDTA吸着カラム使用中にEPO抵抗性貧血の憎悪を認めた透析患者の1例．第31回日本腎臓学会東部学術大会（山梨），2001．10．



- 100) 高田大輔, 江見 充: 高脂血症発症における主遺伝子と修飾遺伝子の関与. 第48回日本人類遺伝学会(シンポジウム)(大宮), 2001. 10.
- 101) 岡村正哉, 桂研一郎, 長汐千秋, 中沢 勝, 福地孝明, 勝又俊弥, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 慢性活動性EBウイルス感染症に伴い治療可能な痴呆症状を呈した1例. 第494回日本内科学会関東地方会(東京), 2001. 10.
- 102) 神谷達司, 仁藤智香子, 上田雅之, 加藤健吾, 雨宮志門, 有井孝子, 片山泰朗: 選択的抗トロンピン薬アルガトロパンの神経保護作用の検討: 35 軽微低体温との併用療法. 第13回日本脳循環代謝学会総会(横浜), 2001. 10.
- 103) 三品雅洋: 脳梗塞の内科的治療. 第2回千葉県北総地区脳卒中フォーラム(佐倉), 2001. 11.
- 104) 櫻澤 誠, 桂 研一郎, 坂本静樹, 三谷和子, 片山泰朗: Primary progressive aphasia の1例. 第159回日本神経学会関東地方会(東京), 2001. 11.
- 105) 瀬田健博, 桂研一郎, 永山 寛, 内海甲一, 福地孝明, 勝又俊弥, 臼田和弘, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 中枢神経障害を認めた高齢発症の混合性結合組織病(MCTD)の1例. 第495回日本内科学会関東地方会, 2001. 11.
- 106) 櫻澤 誠, 町田佳恵, 有井孝子, 中澤 勝, 福地孝明, 勝又俊弥, 五十嵐博中, 臼田和弘, 神谷達司, 桂 研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 肥厚性硬膜炎により頭痛, 痙攣, 脳神経症状をきたした1例. 第29回日本頭痛学会(大宮), 2001. 11.
- 107) 福地孝明, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞患者の血小板機能と脳血流に対するシロスタゾールの検討. 第3回Tokyo ischemic stroke workshop(東京), 2001. 12.
- 108) 西山康裕, 金成安慶, 浜田裕正, 坂上静香, 栗原さやか, 野中聡史, 高橋秀実, 山岸秀夫, 石川博通: 型上皮細胞間T細胞サブセットによる腸管上皮細胞の再生統御. 第31回日本免疫学会総会(大阪), 2001. 12.
- 109) 野本達也, 島崎久仁子, 岡田尚己, 水上浩明, 花園 豊, 久米晃啓, 桂研一郎, 麻生定光, 太田成男, 片山泰朗, 小澤敬也: 5型AAVベクターを用いたスナネズミ海馬への遺伝学導入. 第24回日本分子生物学会年会(横浜), 2001. 12.
- 110) 藤田有子, 桂 研一郎, 大内牧子, 柏木哲也, 青木 宏, 松信精一, 福地孝明, 神谷達司, 飯野靖彦, 片山泰朗: MPO ANCAが比較的低値であったにもかかわらず, 活動性の肺病変を認めたANCA関連腎炎の1例. 第496回日本内科学会関東地方会(東京), 2001. 12.
- 111) 高田大輔, 江見 充: 高脂血症修飾遺伝子による遺伝子間相互作用について. 文部省学術フロンティア推進事業研究者会議(東京), 2001. 12.
- 112) 高田大輔, 江見 充: 高脂血症における主遺伝子と修飾遺伝子の関与. 厚生省原発性高脂血症研究班班会議(京都), 2002. 1.
- 113) 足立真理, 桂 研一郎, 山崎峰雄, 福地孝明, 勝又俊弥, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 家族性アルツハイマー病が疑われた若年性痴呆の1例. 第497回日本内科学会関東地方会(東京), 2002. 2.
- 114) 内海甲一, 河辺満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病性腎症におけるインテグリン 1, 3の尿中排泄の増加. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.
- 115) 永山 寛, 濱本 真, 山口 博, 片山泰朗: 高齢パーキンソン病患者のレボドーパ動態に及ぼすアスコルビン酸の影響. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.
- 116) 神谷達司, 仁藤智香子, 上田雅之, 加藤健吾, 雨宮志門, 片山泰朗: 選択的抗トロンピン薬アルガトロパンの神経保護作用の検討: 超軽微低体温(35 )との併用療法. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.
- 117) 五十嵐博中, 大久保誠二, 濱本 真, 山口 博, 有井一正, 酒巻雅典, 片山泰朗: Diffusion / Perfusion MRIによる深部白質梗塞の症状進行予測. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.
- 118) 福地孝明, 桂 研一郎, 松信精一, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: 局所脳血流量に及ぼす影響: ネフローゼ症候群患者での検討 第2報. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.

- 119) 坂本静樹, 瀬田健博, 有井孝子, 山崎峰雄, 臼田和弘, 五十嵐博中, 片山泰朗: 塩酸ドネペジル投与によるアルツハイマー型老年痴呆患者の臨床効果と脳血流変化の検討. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.
- 120) 中村秀紀, 萩原 浩, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: CT Perfusionにおける脳梗塞の予測指標の検討. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.
- 121) 瀬田健博, 永山 寛, 内海甲一, 武井寛之, 桂 研一郎, 福地孝明, 臼田和弘, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: Guillain Barré症候群(GBS)における免疫吸着療法についての検討. 第99回日本内科学会総会(名古屋), 2002. 3.
- 122) 田中紀子, 内海甲一, 桂研一郎, 坂本静樹, 三谷和子, 片山泰朗: 若年性多発性脳梗塞を来したFabry病の1例. 第160回日本神経学会関東地方会(東京), 2002. 3.
- 123) 安藤有希子, 山崎峰雄, 桂 研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 脳梗塞亜急性期に頭部MRIで著明なgyral enhancementを認めた類もやもや病の1例. 第160回日本神経学会関東地方会(東京), 2002. 3.
- 124) 藤野鉄平, 酒寄 修, 濱本 真, 片山泰朗, 吉野 英: Bickerstaff型脳幹脳炎で発症し, 遷延型GBSを呈したIgM抗GM1抗体長期陽性例. 第160回日本神経学会関東地方会(東京), 2002. 3.
- 125) 中野純子, 桂研一郎, 中沢 勝, 勝又俊弥, 福地孝明, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 遺伝性血小板減少症に脳梗塞を合併した1例. 第498回日本内科学会関東地方会(東京), 2002. 3.
- 126) 田中紀子, 内海甲一, 臼田和弘, 桂 研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 若年性の脳梗塞を発症したFabry's diseaseの1症例. 第1回東京フロンティア(東京), 2002. 3.
- 127) 内海甲一, 田中紀子, 臼田和弘, 桂 研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 若年性脳塞をきたした24歳男性例. 第11回お茶の水visual neurology(東京), 2002. 3.

## [ 付属病院リウマチ科 ]

### 研究概要

リウマチ科の研究課題は, 関節リウマチ(RA)・全身性変形性関節症(GOA)などのリウマチ性疾患患者に対し, 薬物治療, 外科治療, リハビリテーション治療, そして精神的指導等のトータルマネージメントと, 滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究, 全身性エリテマトーデス, 強皮症, 多発性筋炎等の膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御である.

より具体的に述べれば, 臨床研究として 1) より大きな可動域を追及した人工膝関節のシステムの開発, 2) 時に死に至る術後合併症である肺塞栓症の病態解明と予防, 3) リウマチ性疾患患者の全人的ケアの大切を客観的に知るため, 精神・神経・内分泌システムの相関に関する研究などを行っている.

一方, 基礎的研究としては, 1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与, 2) 各種抗リウマチ剤の滑膜培養細胞に対する増殖抑制作用およびそのサイトカイン産生抑制作用, 3) 全身性エリテマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御, 4) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析, Th 1 / Th 2 誘導に関する分子群の同定とその機能, 5) GOA 発症における免疫学的機序の解明, などである.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Morishita MI, Yamahatsu S, Ohkuni H<sup>1)</sup>, Nagashima M, Yoshino Shin-ichi ( <sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所): Streptococcal toxic shock syndrome in a patient with rheumatoid arthritis. Clin. Exp. Rheumatol 2001; 19(1): 231-232.
- 2) Nakajima A, Seroogy CM<sup>1)</sup>, Sandora MR<sup>1)</sup>, Tarner IH<sup>1)</sup>, Costa GL<sup>1)</sup>, Taylor-Edwards C<sup>1)</sup>, Bachmann

- MH<sup>1)</sup>, Contag CH<sup>1)</sup>, Fathman CG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. and Rheumatol., Stanford Univ. ): Antigen - specific T cell - mediated gene therapy in collagen - induced arthritis . J. Clin. Invest 2001 ; 107 ( 10 ): 1293-1301 .
- 3) Nakajima A : Manipulation of costimulatory molecules in rheumatic diseases . Mod. Rheumatol 2001 ; 11 ( 3 ): 184-191 .
- 4) Nakazawa M<sup>1)</sup>, Ishii H, Aono H<sup>2)</sup>, Takai M<sup>2)</sup>, Honda T<sup>2)</sup>, Aratani S<sup>3)</sup>, Fukamizu A<sup>3)</sup>, Nakamura H<sup>1)</sup>, Yoshino Shin-ichi, Kobata T<sup>1)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup>, Nakajima T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>St. Marianna University School of Medicine, <sup>2)</sup>Santen pharmaceutical Company, Ltd., <sup>3)</sup>University of Tsukuba, ): Role of Notch - 1 Intracellular Domain in Activation of Rheumatoid Synoviocytes . Arthritis & Rheumatism 2001 ; 44 ( 7 ): 1545-1554 .
- 5) Nagashima M, Hasegawa J, Kato K, Yamazaki J, Nishigai K<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Yoshino S ( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School ): Hepatocyte growth factor ( HGF ), HGF activator, and c - Met in synovial tissues in rheumatoid arthritis . J Rheumatol 2001 ; 28 ( 8 ): 1772-1778 .
- 6) Costa GL<sup>1)</sup>, Sandora MR<sup>1)</sup>, Nakajima A, Nguyen EV<sup>1)</sup>, Taylor-Edwards C<sup>1)</sup>, Slavin AJ<sup>1)</sup>, Contag CH<sup>1)</sup>, Fathman CG<sup>1)</sup>, Benson JM<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. and Rheumatol., Stanford Univ. ): Adoptive immunotherapy of experimental autoimmune encephalomyelitis via T cell delivery of the IL - 12 p 40 subunit . J. Immunol 2001 ; 167 ( 4 ): 2379-2387 .
- 7) Ishii H, Nakazawa M<sup>1)</sup>, Yoshino S, Nakamura H<sup>1)</sup>, Nishioka K, Nakajima T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dep. of Genome Science, Institute of Medical Science, St. Marianna University School Medicine ): Expression of notch homologues in the synovium of rheumatoid arthritis and osteoarthritis patients . Rheumatol. Int 2001 ; 21 ( 1 ): 10-14 .
- 8) Nagashima M, Ishigami S, Kakumoto S, Matsuoka T, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Yoshino S ( <sup>1)</sup>Department of Pathology ): Hereditary protein S deficiency associated with rheumatoid arthritis : a case report pulmonary embolism after total hip arthroplasty . Mod. Rheumatol 2001 ; 11 ( 4 ): 328-331 .
- 9) Ishii H, Wauke K, Nagashima M, Yoshino S : A case of asymptomatic acute pulmonary embolism due to deep venous thrombosis after total knee arthroplasty in a patient with rheumatoid arthritis . Mod. Rheumatol 2001 ; 11 ( 4 ): 348-352 .
- 10) Wauke K, Nagashima M, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Yoshino S ( <sup>1)</sup>Department of Pathology ): Expression and localization of vascular endothelial growth factor - C ( VEGF ) in synovial tissues of rheumatoid arthritis . J. Rheumatol 2002 ; 29 ( 1 ): 34-38 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 吉野 槿一, 向井 英一 : RA と 神経・内分泌・免疫系 . リウマチ科 2001 ; 26 ( 4 ): 346-354 .
- ( 3 ) 解説 :
- 1) 永島 正一 : ジクロフェナックナトリウム ( 特集 : 臨床医のための新薬の知識 ) . 臨と薬物治療 2001 ; 20 ( 1 ): 358-359 .

## 著 書

- 1) 永島 正一 : [ 分担 ] サラゾスルファピリジン . 実地医家のための抗リウマチ薬使用マニュアル ( 西岡久寿樹, 中村 洋 ), 2001 ; pp66-71, 医薬ジャーナル社 .
- 2) 山本宗宏, 山崎純司, 宮本洋介, 竹之内研二, 田中秀和, 永島正一, 吉野槿一 : [ 共著 ] RA 患者を対象とした人工股関節全置換術後の脱臼の検討 . リウマチ科, 2001 ; pp503-506, 科学評論社 .
- 3) 山崎純司, 永島正一, 吉野槿一 : [ 共著 ] 人工関節置換術後の感染症 ( 特集 : 整形外科に必要な現在の薬物療

法). 整形外科, 2001; pp900-904, 南江堂.

- 4) 田中秀和, 岩川賀世, 山本宗宏, 山崎純司, 永島正一, 吉野槇一: [共著] MTX 効果不十分例に対する追加併用療法. リウマチ科, 2002; pp39-46, 科学評論社.

#### 学会発表

[ 2000 年度追加分 ]

##### 一般講演:

- 1) 岡田匡司, 山崎 秀<sup>1)</sup>, 鈴木明夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>丸の内病院リウマチ科): 化膿性股関節炎と腸腰筋膿瘍の合併したRAの1例. 第31回 信州リウマチ膠原病懇談会, 2000. 11.

##### (1) 教育講演:

- 1) 吉野槇一: 下肢の人工関節置換術後の合併症: 感染症と肺塞栓症について. 第21回 九州リウマチ学会(日本リウマチ学会九州支部学会), 2001. 3.
- 2) 金子礼志, 小笠原均<sup>1)</sup>, 岡田真紀子<sup>1)</sup>, 内藤俊夫<sup>2)</sup>, 菱川隆史<sup>1,3)</sup>, 関川 巖<sup>4)</sup>, 吉野槇一, 橋本博史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学膠原病内科, <sup>2)</sup>順天堂大学総合診療科, <sup>3)</sup>東京都老人医療センター感染症膠原病科, <sup>4)</sup>順天堂大学伊豆長岡病院内科): ヒトレトロウィルス外被糖蛋白による SLE 類似の免疫異常の誘導. 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 和宇慶晃一, 菊池 修, 倉井年幸, 永島正一, 吉野槇一: 人工膝関節置換術時の肺塞栓症: 特に駆血帯使用の有無について. 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 2) 田中秀和, 吉野槇一, 永島正一, 倉井年幸, 富田真智子: 各種 DMARDs 効果不十分例に対する追加療法の比較検討: 特にメトトレキサート(MTX)を中心に. 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 3) 永島正一, 山崎純司, 吉野槇一, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学): 若年期の慢性関節炎の手術適応と実際(JRAからRAへ). 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 4) 吉野槇一: 人工膝関節開発の歴史. 第29回 日本リウマチ・関節外科学会, 2001. 10.

##### (3) ワークショップ:

- 1) 永島正一, 田中秀和, 和宇慶晃一, 吉野槇一, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 血管新生と滑膜細胞増殖のメカニズム: SCIDマウスへのヒト移植滑膜組織における検討. 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 2) 永島正一, 吉野槇一, 和宇慶晃一, 山崎純司, 石井博泰: 関節炎モデルラットにおける血管新生抑制遺伝子導入の検討(リウマチ性疾患の遺伝子診療). 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 3) 吉野槇一: リウマチ教育研修会の目的とその実態. 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 4) 中島敦夫, Fathman CG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. and Rheumatol., Stanford Univ.): 抗原特異的T細胞を用いた関節リウマチの遺伝子治療; 抗原特異的T細胞の可視化. 第30回 日本免疫学会総会, 2001. 12.
- 5) 中島 敦夫, Fathman CG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. and Rheumatol., Stanford Univ.): 抗原特異的T細胞を介した自己免疫性関節炎の遺伝子治療. 第29回 日本臨床免疫学会総会, 2001. 12.

##### (4) 一般講演:

- 1) Nakajima A, Seroogy CM<sup>1)</sup>, Sandora MR<sup>1)</sup>, Tarner IH<sup>1)</sup>, Costa GL<sup>1)</sup>, Taylor-Edwards C<sup>1)</sup>, Bachmann MH<sup>1)</sup>, Contag CH<sup>2)</sup>, Fathman CG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. and Rheumatol., <sup>2)</sup>Dept. of Pediatrics, Stanford Univ.): Antigen-specific T cell-mediated gene therapy in collagen-induced arthritis. 1st Federation of clinical immunology society (FOCIS) meeting (Boston), 2001. 5.
- 2) Nakajima A, Seroogy CM<sup>1)</sup>, Sandora MR<sup>1)</sup>, Tarner IH<sup>1)</sup>, Costa GL<sup>1)</sup>, Taylor-Edwards C<sup>1)</sup>, Bachmann MH<sup>2)</sup>, Contag CH<sup>2)</sup>, Fathman CG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. and Rheumatol., <sup>2)</sup>Dept. of Pedi-

- atrics, Stanford Univ. ): Retrovirally-engineered antigen-specific T cells home to the inflamed joints and suppress collagen-induced arthritis . 2nd International meeting, Innovative Rheumatology : Gene and cell therapies of arthritis and related disorders ( Montpellier, France ), 2001 . 5 .
- 3) Kato K, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Yoshino shin-ichi, Shimada T ( <sup>1)</sup>Dept. of Biochem. and Mol. Biol. Nippon Medical School ): Angiostatic gene therapy of rheumatoid arthritis . The 7th annual meeting The Japan Society of gene therapy ( Tokyo ), 2001 . 7 .
  - 4) Nakajima A, Fathman CG<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. and Rheumatol. , Stanford Univ. ): Visualization of antigen-specific T cell in vivo : application for gene therapy . The 7th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity ( Awaji Island ), 2001 . 9 .
  - 5) Ishii HI, Iwakawa K, Nagasima M, Yoshino Shin-ichi : Phycological stress induced by deep emotion with tears effects on neuroendocrine and immune response in patients with rheumatoid arthritis . 65 st National Meeting, American College of Rheumatology ( San Francisco ), 2001 . 10 .
  - 6) Kato K, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Nagasima M, Yoshino Shin-ichi, Shimada T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Biochem. and Mol. Biol. ): HIV virus-mediated gene transfer of angiostation inhibits inflammation of collagen-induced mouse model . 65 st National Meeting, American College of Rheumatology ( San Francisco ), 2001 . 10 .
  - 7) 和宇慶晃一, 永島正一, 山崎純司, 山本宗宏, 菊池 修, 倉井年幸, 吉野槇一: 人工膝関節置換術における駆血帯の使用による肺塞栓症発生への影響 . 第 74 回 日本整形外科学会学術集会, 2001 . 4 .
  - 8) 山本宗宏, 山崎純司, 永島正一, 和宇慶晃一, 菊池 修, 吉野槇一: 人工股関節全置換術における soft tissue balance の検討: RA 脱臼例を中心に . 第 74 回 日本整形外科学会学術集会, 2001 . 4 .
  - 9) 永島正一, 加藤 興, 平野大地, 和宇慶晃一, 吉野槇一: 関節リウマチ前足部変形に対する Hohmann 変法および中足骨短縮骨切り術の手術成績 . 第 74 回日本整形外科学会学術集会, 2001 . 4 .
  - 10) 中村 洋<sup>1)</sup>, 吉野槇一, 鎌田利一<sup>2)</sup>, 岩瀬育男<sup>3)</sup>, 杉山泰憲<sup>4)</sup>, 西岡久寿樹<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>聖マリアンナ医大難治研センター, <sup>2)</sup>原整形外科病院, <sup>3)</sup>松井外科病院, <sup>4)</sup>埼玉脳神経外科病院 ): 変形性関節症に対する Glucosamin / Chondroitin 合剤の効果と血清中 YKL-40 濃度 . 第 74 回日本整形外科学会学術集会, 2001 . 4 .
  - 11) 平野大地, 永島正一, 向井英一, 山本宗宏, 小川 龍<sup>1)</sup>, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup>麻酔科学 ): 関節リウマチ患者における精神的ストレスマーカーとしての血清 IL-6 , その他のストレス関連物質について . 第 45 回 日本リウマチ学会総会, 2001 . 5 .
  - 12) 若川賀世, 篠 美和, 山本宗宏, 山崎純司, 永島正一, 吉野槇一: RA 上位頸椎障害に対する頸椎カラー有用性の検討 . 第 45 回 日本リウマチ学会総会, 2001 . 5 .
  - 13) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 斎藤友香<sup>1)</sup>, 吉田和弘<sup>2)</sup>, 柏木哲也<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 金子礼志, 菊池 修, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup>内科第二, <sup>2)</sup>泌尿器科 ): DFPP が奏功した悪性関節リウマチの 1 例 . 第 46 回 ( 社 ) 日本透析医学会学術集会, 2001 . 5 .
  - 14) 柳田たみ子<sup>1)</sup>, 富田哲也<sup>2)</sup>, 越智隆弘<sup>2)</sup>, 中村 洋<sup>3)</sup>, 吉野槇一, 広畑俊成<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>帝京大学医学部内科, <sup>2)</sup>大阪大学医学部整形外科, <sup>3)</sup>聖マリアンナ医大難治研 ): 慢性関節リウマチ患者骨髄 CD34 陽性細胞の VEGF および sVCAM-1 産生能 . 第 45 回 日本リウマチ学会総会, 2001 . 5 .
  - 15) 西島 徹, 山崎純司, 山本宗宏, 金子礼志, 中島敦夫, 永島正一, 吉野槇一: 下腿疼痛を主訴とした血管炎の 2 例 . 第 42 回 関東リウマチ研究会, 2001 . 6 .
  - 16) 向井英一<sup>1)</sup>, 本田哲三<sup>2)</sup>, 吉野槇一 ( <sup>1)</sup>東京都リハビリテーション病院 整形外科, <sup>2)</sup>東京都リハビリテーション病院リハビリテーション科 ): 関節リウマチ患者のリハビリテーション訓練に関する予備的研究: 第一報: 心理的影響による免疫能の変化について . 第 38 回 日本リハビリテーション医学会学術集会, 2001 . 6 .
  - 17) 宮本洋介, 加藤 興, 永島正一, 山本宗宏, 西島 徹, 吉野槇一: 関節リウマチ前足部変形に対する Hohmann 変法および中足骨短縮骨切り術の手術成績 . 第 30 回リウマチの外科研究会, 2001 . 8 .

- 18) 西島 徹, 田中秀和, 山崎純司, 森 伸哉, 永島正一, 吉野槇一: 人工膝関節置換術における駆血帯非使用の早期感染予防効果. 第29回 日本リウマチ・関節外科学会, 2001. 10.
- 19) 高地雄太, 岩川賀世, 山本宗宏, 山崎純司, 金子礼志, 中島敦夫, 永島正一, 吉野槇一, 手島伸一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>同愛記念病院整形外科): 両側人工膝関節置換後2年経過して四肢末梢・下腿に潰瘍をきたした1例. 第4回 東京リウマチ膠原病研究会, 2001. 10.
- 20) 宮本洋介, 山本宗宏, 石井博泰, 山崎純司, 加藤 興, 和宇慶晃一, 田中秀和, 永島正一, 吉野槇一: 関節リウマチの人工膝関節置換術後早期に合併した深部静脈血栓症および肺塞栓症の1例. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001. 11.
- 21) 永島正一, 山崎純司, 山本宗宏, 宮本洋介, 竹之内研二, 森 伸哉, 田中秀和, 吉野槇一: Hy-Flex II 人工膝関節置換術とその術後成績. 第32回 日本人工関節学会, 2002. 1.
- (5) 症例報告:
- 1) 金子礼志, 関真奈美<sup>1)</sup>, 田村直人<sup>1)</sup>, 山田雅人<sup>2)</sup>, 菱川隆史<sup>1)</sup>, 戸叶嘉明<sup>1)</sup>, 関川 巖<sup>2)</sup>, 吉野槇一, 橋本博史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学膠原病内科, <sup>2)</sup>順天堂伊豆長岡病院内科): 長期経過にて MGUS のクラススイッチをみとめ, 大腸カルチノイドを発症した関節リウマチの1例. 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 2) 篠 美和, 倉井年幸, 菊池 修, 金子礼志, 吉野槇一: 汗孔角化症, 胸腺腫に合併した全身性エリテマトーデスの1例. 第45回 日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- (6) 展示:
- 1) 島本 実<sup>1)</sup>, 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 陳 貴史<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 新井克志<sup>2)</sup>, 和宇慶晃一, 宮本洋介(<sup>1)</sup>日本医科大学形成外科学, <sup>2)</sup>防衛医科大学校病院形成外科): posterior thigh flap. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.

### 3. 内科学第三講座

#### [ 付属病院第 3内科 ( 血液 , 消化器 , 内分泌・代謝内科 ) ]

##### 研究概要

血液病学の基礎的研究では遺伝子異常と造血器腫瘍の発症および病態との解析, 造血器腫瘍細胞の細胞生物学的解析, 巨核球・血小板造血の造血機構に関する研究, 等を主に行った. 臨床的研究では造血器腫瘍の治療成績に関する検討, 造血幹細胞移植療法に関する検討, 造血器腫瘍における細胞生物学的予後因子に関する検討などを主に行い, また多くの開発治験に参加した.

消化器病学の研究では, COX-2と胃潰瘍, 胃癌, 胃粘膜との関連に関する研究, *Helicobacter pylori*除菌療法に関する検討, 食道運動機能の病態生理学的研究, 食道疾患の治療に関する検討, 門脈圧亢進症に対するTIPS治療の有効性に関する検討, 大腸疾患の病態に関する検討などを主に行った.

内分泌・代謝病学の基礎的研究では, growth hormone secretagogue receptor (GHS-R)に関する研究, 胃壁から発見されたghrelinの遺伝子に関する研究, ghrelinと摂食に関する研究, 甲状腺腫瘍とマトリックス・成長因子の関係, 糖尿病発症における高脂血症の役割, 過酸化脂質と高脂血症との関連についての研究を行った. 臨床的研究では厚生省研究班の原発性高脂血症の成因・治療についての研究, 日本脂質介入試験のまとめ, アディポネクチンと代謝因子との関連, などを行った.

##### 研究業績

###### 論文

[ 1999 年度追加分 ]

綜説:

- 1) 檀 和夫: Evidenceに基づく内科的治療の進め方: 特発性血小板減少性紫斑病. 最新医 2000; 55 (増刊号): 639-646.

[ 2000 年度追加分 ]

原著:

- 1) Minegishi Y, Lavoie A, cunningham C, Bedard PM, Hebert J, Cote L, Dan K, Sedlak D, Buckley RH, Fisher A, Durandy A, Conley ME: Mutations in activation-induced cytidine deaminase in patients with hyper IgM syndrome. Clin Immunol 2000; 97 (3): 203-210.
- 2) 豊田茂雄, 中村典彦, 檀 和夫: 特発性血小板減少性紫斑病に対する脾摘後に発症した混合式自己免疫性溶血性貧血. 臨床血液 2001; 42 (1): 51-53.

(1) 原著:

- 1) Amano Y<sup>1)</sup>, Tajika K, Amano M<sup>1)</sup>, Dan K, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Radiology ): All-trans retinoic acid syndrome: chest CT assessment. Eur Radiol 2001; 11 (4): 1516-1517.
- 2) Narahara Y, Kanazawa H, Kawamata H<sup>1)</sup>, Tada N, Saitoh H, Matsuzaka S, Osada Y, Mamiya Y, Nakatsuka K, Yoshimoto H, Koizumi N, Sakamoto C, Kobayashi M ( <sup>1)</sup>Department of Radiology ): A randomized clinical trial comparing transjugular intrahepatic portosystemic shunt with endoscopic sclerotherapy in the long-term management of patients with cirrhosis after recent variceal hemorrhage. Hepatology Research 2001; 21 (3): 189-198.
- 3) Toyota T<sup>1)</sup>, Oikawa S, Abe R<sup>2)</sup>, Sano R<sup>3)</sup>, Suzuki N<sup>4)</sup>, Hisamichi S<sup>5)</sup>, Fukao A<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>3rd Department of In-

- ternal Medicine, Tohoku University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine in Diabetes Center, Ohta Nisinouchi Hospital , <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Yonezawa City Hospital , <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine, Mizusawa City Hospital , <sup>5)</sup> Department of Public Health, Tohoku University School of Medicine , <sup>6)</sup> Department of Public Health, Yamagata University School of Medicine ): Effect of cilostazol on lipid, uric acid and glucose metabolism in patients with impaired glucose tolerance or type 2 diabetes mellitus. : A double-blind, placebo-controlled study . Clin Drug Invest 2001 ; 21 ( 5 ): 325-335 .
- 4) Inokuchi S<sup>1)</sup>, Kimura K, Sugaya T, Inokuchi K, Murakami K, Sakai T ( <sup>1)</sup> Juntendo University ): Organiza-tion of hyperplastic vascular smooth muscle cells of the intrarenal arteries in angiotensin II type 1a receptor null mutant mice . Kidney International 2001 ; 60 ( 6 ): 182-187 .
  - 5) Ogata K, An E, Shioi Y, Nakamura K, Luo S, Yokose N, Minami S<sup>1)</sup>, Dan K ( <sup>1)</sup> Institute of Gerontology ): As-sociation between natural killer cell activity and infection in immunologically normal elderly people . Clin Exp Immunol 2001 ; 124 ( 3 ): 392-397 .
  - 6) Yokose N, Ogata K, Sugisaki Y, Mori S, Yamada T, An E, Dan K : CD20-positive T cell leukemia/lym-phoma : report and review of the literature . Ann Hematol 2001 ; 80 ( 6 ): 372-375 .
  - 7) Sugiura T, Iwakiri K, Kotoyori M, Kobayashi M : Relationship between severity of reflux esophagitis accord-ing to the Los Angeles classification and esophageal motility . J Gastroenterol 2001 ; 36 ( 4 ): 226-230 .
  - 8) Naito T<sup>1)</sup>, Oikawa S, Kotake H<sup>2)</sup>, Hayasaka K<sup>3)</sup>, Toyato T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Saka Gen-eral Hospital , <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine , <sup>3)</sup> Depart-ment of Internal Medicine, Diabetic Center, Sendai Kousei Hospital ): Effect of glucose concentration on foam cell formation in THP-1 cell . J Atheroscler Thromb 2001 ; 8 ( 3 ): 55-62 .
  - 9) Inokuchi K, Hamaguchi H, Taniwaki M, Yamaguchi H, Tanosaki S, Dan K : Establishment of a cell line with AML1-MTG8, TP53, and TP73 abnormalities from acute myelogenous leukemia . Genes, Chromosomes & Can-cer 2001 ; 32 ( 2 ): 182-187 .
  - 10) Kamegai J, Tamura H, Shimizu T, Ishii S, Sugihara H, Oikawa S : Regulation of the ghrelin gene : growth hormone-releasing hormone upregulates ghrelin mRNA in the pituitary . Endocrinology 2001 ; 142 ( 9 ): 4154-4157 .
  - 11) Yamaguchi H, Inokuchi K, Sakuma Y, Dan K : Mutation of the p51/p63 gene is associated with blastic crisis in chronic myelogenous leukemia . Leukemia 2001 ; 15 ( 10 ): 1729-1734 .
  - 12) Ogata K : A simple centrifugation method for harvesting myeloblasts . Int J Hematol 2001 ; 74 ( 3 ): 272-276 .
  - 13) Kamegai J, Tamura H, Shimizu T, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I : Chronic central infusion of ghrelin in-creases hypothalamic neuropeptide Y and Agouti-related protein mRNA levels and body weight in rats . Dia-betes 2001 ; 50 ( 11 ): 2438-2443 .
  - 14) Ogata K, Yokose N, Shioi Y, Ishida Y, Tomiyama J, Hamaguchi H, Yagasaki F, Bessyo M, Sakamaki H, Dan K, Kuriya S : Reappraisal of the clinical significance of CD7 expression in association with cytogenetics in de novo acute myeloid leukemia . Br J Haematol 2001 ; 115 ( 3 ): 612-615 .
  - 15) Yamaguchi H, Inokuchi K, Tarusasa M, Dan K : Mutation of bcl-x gene in Non-Hodgkin's lymphoma . Am J Hematol 2002 ; 69 ( 1 ): 74-76 .
  - 16) Yamaguchi H, Inokuchi K, Yokomizo E, Miyata J, Watanabe A, Inami M, Tajika K, Dan K : Philadelphia chro-mosome-positive acute myelogenous leukemia with tetraploidy . Int J Hematol 2002 ; 75 ( 1 ): 63-66 .
  - 17) Toyota T<sup>1)</sup>, Oikawa S ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine ): Effect of beraprost sodium ( Dorner ) in patients with diabetes mellitus complicated by chronic arterial obstruction . Angiology 2002 ; 53 ( 1 ): 7-13 .



- 18) Nagashima T<sup>1)</sup>, Oikawa S, Hirayama Y<sup>2)</sup>, Tokita Y<sup>3)</sup>, Sekikawa A, Ishigaki Y<sup>3)</sup>, Yamada R<sup>1)</sup>, Miyazawa T<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup> Tohoku Electronic Industrial Co, <sup>2)</sup> Graduate School of Life Science and Agriculture, Tohoku University, <sup>3)</sup> Third Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine): Increase of serum phosphatidylcholine hydroperoxide dependent on glycemic control in type 2 diabetic patients. *Dia Res Clin Pract* 2002; 56 (1): 19-25.
- 19) Inokuchi K, Yamaguchi H, Tarusawa M, Futaki M, Hanawa H, Tanosaki S, Dan K: Abnormality of c-kit oncoprotein in certain patients with chronic myelogenous leukemia: potential clinical significance. *Leukemia* 2002; 16 (2): 170-177.
- 20) Toyota S<sup>1)</sup>, Nakamura N<sup>1)</sup>, Dan K (<sup>1)</sup> Yokosuka Kyosai Hospital): T-cell prolymphocytic leukemia with hemorrhagic gastrointestinal involvement and a new chromosomal abnormality. *Int J Hematol* 2002; 75 (3): 314-317.
- 21) Fujimura K, Harada Y, Fujimoto T, Kuramoto A, Ikeda Y, Akatsuka J, Dan K, Omine M, Mizoguchi H: Nationwide study of idiopathic thrombocytopenic purpura in pregnant women and the clinical influence on neonates. *Int J Hematol* 2002; 75 (3): 426-433.
- 22) Miyake K, Tsukui T, Wada K, Tatsuguchi A, Futagami S, Hiratsuka T, Shinoki K, Iizumi T, Akamatsu T, Sakamoto C, Kobayashi M: Irritant-induced cyclooxygenase-2 is involved in the defense mechanism of the gastric mucosa in mice. *J Gastroenterol* 2002; 37 (3): 164-171.
- 23) 中村佳代, 猪口孝一, 檀和夫: 骨髄異形成症候群におけるp53, N-ras, DCC, FLT-3各癌関連遺伝子異常の研究. *J Nippon Med Sch* 2001; 68 (2): 143-148.
- 24) 弦間昭彦, 藤田進彦, 杉崎祐一, 石神伸, 高野照夫, 田村浩一, 大野忠明, 片山泰朗, 松信精一, 津久井拓, 川本雅司, 工藤翔二, 坂本静樹, 吉野慎一, 清水章, 清野精彦, 寺崎泰弘: 慢性関節リウマチ治療中に心不全を発症した1例. *内科* 2001; 87 (4): 766-775.
- 25) 柴田喜明, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 篠澤功, 田中周, 辰口篤志, 佐藤順, 藤森俊二, 吉田豊, 岸田輝幸: 内視鏡的大腸ポリープ切除後クリッピング症例の検討. *日大腸検会誌* 2001; 18 (1): 356-357.
- 26) 渡辺綾子, 山門進, 篠澤功, 永井俊彦<sup>1)</sup>, 岡田夢<sup>2)</sup>, 相田順子<sup>2)</sup>, 伊藤雄二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都多摩老人医療センター消化器科, <sup>2)</sup> 同病理科): 内視鏡的粘膜切除術を施行したMALT lymphomaの1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2001; 59 (2): 120-121.
- 27) 竹内司, 山門進<sup>1)</sup>, 角岡真帆, 永井俊彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都多摩老人医療センター): 高齢者における逆流性食道炎の検討. *多摩消化器シンポジウム誌* 2001; 15 (1): 14-21.
- 28) 谷村恭子, 金沢秀典, 吉本均, 小泉信人, 間宮康貴, 長田祐二, 黒田肇, 坂本長逸, 小林正文, 下田隆也<sup>1)</sup>, 新井弘隆<sup>1)</sup>, 鈴木秀幸<sup>1)</sup>, 阿部毅彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 前橋赤十字病院消化器科): CO<sub>2</sub>を造影剤に用いたTIPSにより改善を得たII型肝腎症候群の1例. *日消病会誌* 2001; 98 (5): 57-61.
- 29) 林良紀, 杉浦敏昭, 琴寄誠, 石川久木, 岩切勝彦, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文, 松田明久<sup>1)</sup>, 野村勤<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山浩<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 外科第1, <sup>2)</sup> 病理第2): 早期Barrett腺癌の1例. *第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会論文集* 2001; 58 (2): 70-71.
- 30) 及川真一, 井藤英喜<sup>1)</sup>, 江草玄士<sup>2)</sup>, 柏木厚典<sup>3)</sup>, 春日雅人<sup>4)</sup>, 山田信博<sup>5)</sup>, 齋藤康<sup>6)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩老人医療センター, <sup>2)</sup> 江草クリニック, <sup>3)</sup> 滋賀大学第三内科, <sup>4)</sup> 神戸大学糖尿病代謝・消化器・腎臓内科, <sup>5)</sup> 筑波大学代謝内分内分泌内科, <sup>6)</sup> 千葉大学第二内科): 委員会報告 糖尿病における動脈硬化症診療のガイドラインおよび提言 糖尿病の動脈硬化診療ガイドライン. *糖尿病* 2001; 44 (9): 777-782.
- 31) 中谷矩章<sup>1)</sup>, 寺本民生<sup>2)</sup>, 多田紀夫<sup>3)</sup>, 佐々木淳<sup>4)</sup>, 及川真一, 高橋季人<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都国民健康保険団体連合会福生病院, <sup>2)</sup> 帝京大学内科, <sup>3)</sup> 東京慈恵大学内科, <sup>4)</sup> 福岡大学循環器科, <sup>5)</sup> 万有製薬株式会社): 高脂血症に

対する MK-733 ( Simvastatin ) 20mg の有効性と安全性の検討 : 5mg , 10mg を対照とした第三相二重盲検討 . 臨床医学 2001 ; 17 ( 11 ): 1501-1547 .

32) 中谷矩章<sup>1)</sup>, 寺本民生<sup>2)</sup>, 多田紀夫<sup>3)</sup>, 佐々木淳<sup>4)</sup>, 及川眞一, 高橋季人<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東京都国民健康保険団体連合会福生病院, <sup>2)</sup>帝京大学内科, <sup>3)</sup>東京慈恵大学内科, <sup>4)</sup>福岡大学循環器科, <sup>5)</sup>万有製薬株式会社): 高脂血症に対する Simvastatin 高用量 ( 20mg ) の長期投与による安全性と有効性の検討 . 臨医薬 2001 ; 17 ( 11 ): 1549-1604 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) Inokuchi K, Dan K : Philadelphia chromosome-negative, bcr/abl-positive chronic myelogenous leukemia . J Nippon Med School 2001 ; 68 ( 4 ): 292-293 .
- 2) Saito T<sup>1)</sup>, Ishigaki Y<sup>2)</sup>, Oikawa S, Yamamoto T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, Fukuoka University School of Medicine, <sup>2)</sup>Tohoku University Gene Research Center): Role of apolipoprotein E variants in lipoprotein glomerulopathy and other renal diseases . Clin Exp Nephrol 2001 ; 5 ( 4 ): 201-208 .
- 3) 津久井拓, 坂本長逸 : 消化性潰瘍と COX-2 . G. I. Research 2001 ; 9 ( 2 ): 141-145 .
- 4) 坂本長逸 : 胃癌における COX-2 の発現 . 胃癌の診断と治療 : 最新の研究動向 2001 ; 59 ( Sup. 4 ): 598-603 .
- 5) 坂本長逸 : COX-2 は胃粘膜の防御と修復に関与する . 医のあゆみ 2001 ; 197 ( 2 ): 160-160 .
- 6) 津久井拓, 坂本長逸 : 胃潰瘍修復過程における COX-2 の意義 . 消化器科 2001 ; 32 ( 4 ): 342-347 .
- 7) 三宅一昌, 小林正文 : 消化器系の疾患 : 胃癌 . 産婦治療 2001 ; 82 ( 増刊号 ): 338-342 .
- 8) 田村秀樹, 及川眞一 : 2型糖尿病 . 臨床医 2001 ; 27 ( 増刊号 ): 814-823 .
- 9) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一(<sup>1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): プロブコール, ニコチン酸製剤, 陰イオン交換樹脂 . 臨床と研究 2001 ; 78 : 895-900 .
- 10) 及川眞一 : 外国人の成績を日本人に適用できるか . The Lipids 2001 ; 12 ( 4 ): 391-394 .
- 11) 坂本長逸 : COX-2 阻害薬の臨床的意義 . MEDICAL PHARMACY 2001 ; 35 ( 3 ): 84-88 .
- 12) 岡島史宜, 及川眞一 : インスリン抵抗性症候群・ Syndrome X, 死の四重奏・内臓脂肪症候群の定義と病像 . 内科 2001 ; 87 ( 5 ): 850-854 .
- 13) 及川眞一 : 高脂血症と臓器障害 : 動脈から膵・腎へ . 日臨内科医会誌 2001 ; 15 ( 5 ): 355-358 .
- 14) 田村秀樹, 及川眞一 : 肥満のメカニズム . 血圧 2001 ; 8 ( 6 ): 27-31 .
- 15) 及川眞一, 小竹英俊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症診療ガイドライン . カレントセラピー 2001 ; 19 ( 6 ): 679-685 .
- 16) 坂本長逸 : COX-2 と潰瘍治療 . Geriatric Medicine ( 老年医学 ) 2001 ; 39 ( 8 ): 1280-1282 .
- 17) 津久井拓, 三浦崇幣, 辰口篤志, 和田 謙, 坂本長逸 : 胃潰瘍修復過程における cyclooxygenase ( COX ) -2 の血管新生に果たす役割 - 胃線維芽細胞の vascular endothelial growth factor ( VEGF ) 産生と COX-2 - . Progress in Medicine 2001 ; 21 ( 8 ): 2089-2090 .
- 18) 二神生爾, 坂本長逸 : COX-2 選択的薬剤 . Mebio 2001 ; 18 ( 9 ): 53-58 .
- 19) 三宅一昌, 坂本長逸 : 症例から学ぶ胃の病理 : 消化性潰瘍総論と特殊胃潰瘍 . Modern physician 2001 ; 21 ( 10 ): 1461-1465 .
- 20) 及川眞一 : 各種ガイドラインの使い方 . 日内会誌 2001 ; 90 ( 10 ): 2003-2009 .
- 21) 谷村恭子, 及川眞一 : 細小血管症と大血管症との関係 . 内分泌・糖尿病科 2001 ; 4 ( 10 ): 422-426 .
- 22) 檀 和夫 : 再生不良性貧血 ( 本邦臨床統計集 ) . 日臨 2001 ; 59 ( 増刊号 ): 452-458 .
- 23) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一(<sup>1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 原発性高脂血症の薬物療法 . Clinic Magazine 2001 ; 11 : 50-54 .
- 24) 及川眞一, 鈴木健司 : マルチプルリスクファクターとしての IGT . Diabetes Frontier 2001 ; 12 ( 3 ): 332-334 .
- 25) 山田 隆, 檀 和夫 : 他の病気に伴う貧血の注意点 . からだの科学 2002 ; 222 ( 1 ): 76-79 .
- 26) 三宅一昌, 坂本長逸 : 治療の動向 - 新しい消化管治療薬 . Annual review 消化器 2002 ; 193-197 .

- 27) 坂本長逸：粘膜傷害，欠損とその修復，再生．Modern physician 2002；22(1)：95-98．
- 28) 坂本長逸：H. pylori感染胃・十二指腸潰瘍粘膜における組織学的変化とその除菌後におよぼす影響．Nippon Med School 2002；69(1)：67-70．
- 29) 津久井拓，坂本長逸：胃粘膜防御機構をめぐる新しい展開．日本臨牀 2002；60(増刊号2)：64-68．
- 30) 三宅一昌，坂本長逸：H. pylori時代の消化性潰瘍学：NSAIDs粘膜傷害の予防．日本臨牀 2002；60(増刊号2)：577-582．
- 31) 辰口篤志，坂本長逸：COX-2の意義．日本臨牀 2002；60(増刊号2)：207-210．
- 32) 坂本長逸：胃潰瘍：ストレスと潰瘍．診断と治療 2002；90(3)：360-364．
- 33) 辰口篤志，坂本長逸，津久井拓，小林正文：胃癌における cyclooxygenase (COX)-2の役割．Progress in Medicine 2002；22(3)：723-727．
- 34) 小竹英俊<sup>1)</sup>，及川眞一<sup>(1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科)：HDL-コレステロール低値の改善策・薬物療法(開発中の薬物を含む)．Progress in Medicine 2002；22(4)：983-987．

## 著 書

- 1) 杉浦敏昭，岩切勝彦，小林正文：〔分担〕除菌後に起こる問題点．ヘリコバクター・ピロリ胃炎[エビデンスとプラクティス]，2001；pp94-97，金原出版．
- 1) 坂本長逸：〔分担〕IL-1 stimulates Tyrosine phosphorylation of EGF receptors in co-cultured gastric fibroblasts and MKN-28 gastric epithelial cells．GI Forum 2001 in Atlanta - Gastrointestinal Cell Damage and Repair，2001；pp65-66，山之内製薬．
- 2) Futagami S, Hiratsuka T, Wada K, Tatsuguchi A, Tsukui T, Miyake K, Shinji Y, Iizumi T, Shinoki K, Akamatsu T, Hosone M<sup>1)</sup>, Sakamaoto C, Kobayashi M<sup>(1)</sup> Department of Pathology): 〔分担〕Interrelations of nonsteroidal antiinflammatory drugs, H. pylori infection, and gastric damage．Trends in Gastroenterology and Hepatology，2001；pp242-245，Springer-Verlag Tokyo．
- 3) 坂本長逸：〔分担〕胃の病気：早期胃癌．やさしい食道・胃・十二指腸疾患の自己管理，2001；pp49-53，医薬ジャーナル社．
- 4) 檀 和夫：〔分担〕溶血性貧血．看護のための最新医学講座(日野原重明，井村裕夫)，2001；pp134-144，中山書店．
- 5) 檀 和夫：〔分担〕発作性夜間血色素尿症．看護のための最新医学講座(日野原重明，井村裕夫)，2001；pp144-148，中山書店．
- 6) 檀 和夫：〔分担〕好中球減少患者への生活指導．インフォームド・コンセントガイドランス：血液疾患診療編(月本一郎)，2001；pp339-347，先端医学社．
- 7) 辰口篤志，坂本長逸：〔分担〕消化管腫瘍の治療：そのトピックス：薬物療法．21世紀の消化管がんの内科学治療：現況での問題点の総括と展望，2001；pp221-226，新興医学出版社．
- 8) 檀 和夫：〔分担〕急性骨髄性白血病．アトラス対応血液病学ケーススタディ 124例(吉田弥太郎)，2001；pp182-184，医薬ジャーナル社．
- 9) 坂本長逸：〔編集・分担〕どのように応用する - NSAIDs潰瘍との関係．ヘリコバクター・ピロリ胃炎[エビデンスとプラクティス]，2001；pp107-111，金原出版．
- 10) 岸田輝幸：〔分担〕消化器の内視鏡検査．図説消化器病シリーズ2，2001；pp168-172，メジカルビュー社．
- 11) 小林正文：〔分担〕逆流性食道炎：client 21．21世紀の耳鼻咽喉科領域の臨床(野村恭也他編)，2001；pp158-163，中山書店．
- 12) 檀 和夫：〔分担〕特発性血小板減少性紫斑病．今日の処方 改訂第3版(高久史磨，水島 裕)，2002；pp429-430，南江堂．

- 13) 檀 和夫：〔分担〕アレルギー性紫斑病．今日の処方 改訂第3版（高久史磨，水島 裕），2002；pp429-430，南江堂．
- 14) 檀 和夫：〔分担〕悪性貧血．今日の治療指針 2002（多賀須幸男，尾形悦郎），2002；pp412-413，医学書院．
- 15) 坂本長逸：〔分担〕消化管疾患：腹痛．今日の治療指針2002年版ポケット判，2002；pp320-321，医学書院．
- 16) 小林正文，岩切勝彦，杉浦敏昭：〔分担〕逆流性食道炎：機能異常の診断．図説消化器病シリーズ5. 食道疾患（本郷道夫編），2002；pp189-197，メジカルビュー．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 田村秀樹，亀谷 純，石井新哉，周東祐仁，杉原 仁，及川眞一：グレリンはNeuropeptide Y（NPY）/Agouti-related protein（AGRP）神経細胞に作用し摂食を促進する．第74回日本内分泌学会学術総会，2001．6．
- 2) 及川眞一：動脈硬化症発症におけるマルチプルリスクファクターの意義．第33回日本動脈硬化学会，2001．6．
- 3) 亀谷 純：成長ホルモンの分泌調節．第28回日本神経内分泌学会，2001．10．
- 4) 及川眞一：患者指導の実際：糖尿病対策．第2回動脈硬化フォーラム，2002．1．

##### (2) シンポジウム：

- 1) 三宅一昌，津久井拓，坂本長逸：*H. pylori*除菌後の胃，十二指腸粘膜傷害におけるH2 blockerの効果．第43回日本消化器病学会大会，2001．10．
- 2) 津久井拓：潰瘍修復におけるCOX-2の役割．第43回日本消化器病学会大会，2001．10．

##### (3) パネルディスカッション：

- 1) 津久井拓，三浦崇幣，坂本長逸：TGF- $\beta$  産生胃癌の転移と血管新生 - 癌・線維芽細胞相互作用とcyclooxygenase（COX）-2．第87回日本消化器病学会総会，2001．4．
- 2) 杉浦敏昭，岩切勝彦，小林正文：パレット食道の食道運動機能．第43回日本消化器病学会大会，2001．10．

##### (4) セミナー：

- 1) 及川眞一：糖尿病合併症としての高脂血症．第16回日本糖尿病合併症学会，2001．10．

##### (5) ランチョンセミナー：

- 1) 中塚雄久，金沢秀典，坂本長逸：門脈圧亢進性胃症の診断と治療．第37回日本肝臓学会総会ランチョンセミナー，2001．5．

##### (6) ワークショップ：

- 1) 山門 進，永井俊彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都多摩老人医療センター)：早期胃癌に対するアルゴンプラズマ凝固法を用いた内視鏡治療の検討．第62回日本消化器内視鏡学会総会，2001．10．

##### (7) 一般講演：

- 1) Tsukui T, Miura S, Tatsuguchi A, Wada K, Futagami S, Miyake K, Sakamoto C : Cyclooxygenase-2 regulates vascular-endothelial growth-factor (VEGF) production stimulated with interleukin-1 by gastric fibroblasts . The 9th Taisho International Symposium on Gastroenterology ( Shimoda, Japan ), 2001 . 4 .
- 2) Futagami S, Hiratsuka T, Tatsuguchi A, Wada K, Akamatsu T, Shinji Y, Iizumi T, Shinoki K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C, Kobayashi M : MCP-1 released from gastric epithelial cells by *H. pylori* stimulation is involved in COX-2 expression and activation of T cells . The 102th Meeting of the American Gastroenterological Association ( Atlanta ), 2001 . 5 .
- 3) Hiratsuka T, Futagami S, Tatsuguchi A, Wada K, Akamatsu T, Shinji Y, Iizumi T, Shinoki K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C, Kobayashi M : COX-2 protects gastric mucosa against ischemia-reperfusion injuries through down-regulation of the expression of ICAM-1 in mice . The 102th Meeting of the American Gastroenterological Association ( Atlanta ), 2001 . 5 .

- 4) Sueoka N, Tabuchi M, Nishigaki H, Sakamoto C, Kobayashi M, Sasajima K : Magnification endoscopy with vital dye staining for detection of a minute focus of early adenocarcinoma in Barrett's esophagus . The Meeting of American Society for Gastrointestinal Endoscopy 2001 ( Atlanta ), 2001 . 5 .
- 5) Tatsuguchi A, Sakamoto C, Tsukui T, Fukuda Y, Kobayashi M : Cyclooxygenase-2 is associated with angiogenesis and apoptosis in gastric cancer . The 102th Meeting of the American Gastroenterological Association ( Atlanta ), 2001 . 5 .
- 6) Tatsuguchi A, Sakamoto C, Kishida T, Fujimori S, Sato J J, Fukuda Y, Kobayashi M : Expression of nuclear  $\beta$ -catenin correlated with cyclin D1 and COX-2 in colorectal adenomas . The 102th Meeting of the American Gastroenterological Association ( Atlanta ), 2001 . 5 .
- 7) Kamegai J, Shimizu T, Tamura H, Ishii S, Shuto Y, Sugihara H, Oikawa S : Estrogen receptor ( ER ) , but not ER , gene is expressed in hypothalamic growth hormone-releasing hormone neurons of the female as well as the male rat . The Endocrine society 83rd Annual meeting ( Denver ), 2001 . 6 .
- 8) Tarusawa M, Yamaguchi H, Nakamura H, Nakayama K, Inokuchi K, Shimada T, Dan K : Loss of bcl-xs expression is an important prognostic factor in acute myelogenous leukemia . 30th Annual Meeting of the International Society for Experimental Hematology ( Tokyo ), 2001 . 8 .
- 9) Inokuchi K, Yamaguchi H, Hanawa H, Tanosaki S, Tarusawa M, Miyake K, Shimada T, Dan K : Loss of DCC gene expression is of prognostic importance in acute myelogenous leukemia . 30th Annual Meeting of the International Society for Experimental Hematology ( Tokyo ), 2001 . 8 .
- 10) Urabe A, Dan K, Mizoguchi H : Effects of pegylated recombinant megakaryocyte growth and development factor on hematopoiesis in patients with aplastic anemia and myelodysplastic syndrome . 30th Annual Meeting of the International Society for Experimental Hematology ( Tokyo ), 2001 . 8 .
- 11) Oikawa S : Significance of the lipid lowering therapy in type 2 diabetic patients in J-LIT study . Drug Affecting Lipid Metabolism ( New York ), 2001 . 9 .
- 12) Ogata K, Nakamura K, Yokose N, Dan K, Sakamaki H, Tohyama K, Mori M, Murai Y, Hayashi T, Nonaka Y, Tomoyasu S, Yoshida Y : Determination of phenotypic features of blasts from patients with myelodysplastic syndrome ( MDS ): analyses of blasts harvested by a new method . 43rd Annual Meeting of the American Society of Hematology ( Orlando ), 2001 . 12 .
- 13) Inami M, Inokuchi K, Yamaguchi H, Tarusawa M, Watanabe A, Uchida N, Nakayama K, Nakamura H, Hanawa H, Tanosaki S, Miyake K, Shimada T, Dan K : FLT3-TD, -D835, N-ras, p53 mutations in Japanese patients with acute myelogenous leukemia . 43rd Annual Meeting of the American Society of Hematology ( Orlando ), 2001 . 12 .
- 14) Dan K, Nomura S, Hotta T, Fujimura K, Ikeda Y : Biological effect of pegylated recombinant megakaryocyte growth and development factor ( PEG-MGDF ) in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura . 43rd Annual Meeting of the American Society of Hematology ( Orlando ), 2001 . 12 .
- 15) Dan K, Ogura M, Oyama A, Asano S : Long-term follow-up in aggressive non-Hodgkin's lymphoma ( NHL ) patients treated with rHuG-CSF ( Lenograstim ) combined biweekly CHOP . 43rd Annual Meeting of the American Society of Hematology ( Orlando ), 2001 . 12 .
- 16) 城所秀子, 周東祐仁, 岡島史宜, 城所 葉, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 金沢秀典, 及川眞一 : 門脈圧亢進症治療のため TIPS 施行後に低血糖発作を繰り返した肝硬変の症例 . 第 39 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2001 . 3 .
- 17) 兵頭英也, 橘美紀子, 塩井由美子, 中村恭子, 横瀬紀夫, 緒方清行, 檀 和夫 : 免疫染色による lung resistance proteins ( LRP ) 検出法の検討 . 第 63 回日本血液学会総会, 2001 . 4 .

- 18) 横瀬紀夫, 塩井由美子, 安 恵美, 緒方清行, 檀 和夫, 石田陽治, 厨信一郎, 坂巻 寿, 矢ヶ崎史治, 別所正美, 浜口裕之, 富山順治: 8; 21 転座を有する急性骨髄性白血病の臨床的検討. 第63回日本血液学会総会, 2001. 4.
- 19) 足澤美樹, 山口博樹, 中村佳代, 猪口孝一, 檀 和夫: 再発性急性骨髄性白血病における予後因子としての bcl - xs 遺伝子の解析. 第63回日本血液学会総会, 2001. 4.
- 20) 中山一隆, 山口博樹, 中村弘之, 足澤美樹, 松岡弘樹, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 造血器腫瘍由来樹立細胞株における p51, MGMT 遺伝子の発現解析. 第63回日本血液学会総会, 2001. 4.
- 21) 中村弘之, 山口博樹, 足澤美樹, 中山一隆, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 急性骨髄性白血病における p51/p63 遺伝子の変異解析. 第63回日本血液学会総会, 2001. 4.
- 22) 山口博樹, 足澤美樹, 中村弘之, 中山一隆, 田近賢二, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: 造血器腫瘍における多倍体染色体異常と p53 遺伝子異常. 第63回日本血液学会総会, 2001. 4.
- 23) 三宅弘一, 鈴木紀子, 猪口孝一, 島田 隆: HIV ベクターによる ATL 遺伝子治療の検討. 第63回日本血液学会総会, 2001. 4.
- 24) 三宅一昌, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 永田和弘, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: *H. pylori* 除菌後の胃粘膜傷害と酸分泌との関連 (除菌後 H2 blocker を用いた検討). 第98回日本内科学会, 2001. 4.
- 25) 和田 謙, 津久井拓, 篠木 啓, 永田和弘, 坂本長逸: Interleukin (IL) -1 刺激によるヒト胃腺線芽細胞の epidermal growth factor (FGF) 受容体発現に関する検討. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 26) 平塚哲郎, 二神生爾, 辰口篤志, 津久井拓, 進士陽子, 飯泉 匡, 篠木 啓, 永田和弘, 三宅一昌, 和田 謙, 坂本長逸, 小林正文: 急性胃粘膜傷害における好中球接着能亢進と COX-2 蛋白発現 Ischemia-Reperfusion モデルを用いて. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 27) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 石川久木, 琴寄 誠, 三宅一昌, 津久井拓, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 十二指腸潰瘍 (DU) 患者における *Helicobacter pylori* (*Hp*) 除菌前後の食道内圧検査所見. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 28) 榎原義之, 金沢秀典, 木村 祐, 滝 保彦, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 中塚雄久, 名知志子, 斉藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 難治性腹水に対する TIPS の長期成績. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 29) 吉本 均, 金沢秀典, 斉藤 整, 中塚雄久, 小泉信人, 名知志子, 長田祐二, 間宮康貴, 榎原義之, 木村 祐, 滝 保彦, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: TIPS 後の急性短絡路閉塞に関する検討. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 30) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 林 良紀, 石川久木, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: つかえ感症例の食道運動異常の合併頻度と non-specific esophageal motility disorder (NEMD) の病態. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 31) 厚川正則, 中野忠澄<sup>1)</sup>, 井藤英喜<sup>1)</sup>, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一, 若林一二 ( <sup>1)</sup>多摩老人医療センター ): 高齢2型糖尿病における血中レプチン濃度と体重変化. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 32) 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一, 若林一二: 肥満者に対する短期間食事, 運動療法の体脂肪分布に与える影響. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 33) 小野瀬裕之, 及川眞一: 糖尿病初診時に合併する高脂血症の意義. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 34) 鴫田克久<sup>1)</sup>, 石垣 泰<sup>1)</sup>, 関川明宏<sup>1)</sup>, 小竹英俊<sup>1)</sup>, 及川眞一, 豊田隆謙<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科 ): コレステロール食, フルクトース水負荷家兔における腓組織学的変化と耐糖能異常. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 35) 兵頭英也, 横瀬紀夫, 中山一隆, 中村弘之, 中村恭子, 田近賢二, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 白血病クローンとは異なる染色体異常が長期間続いている寛解持続中の急性骨髄性白血病症例. 第141回日本臨床血液

学会例会, 2001. 5.

- 36) 木村 祐, 金沢秀典, 吉本 均, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 名知志子, 長田祐二, 中塚雄久, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 超音波検査で発見された無症候性Budd-Chiari症候群の1例. 第264回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 5.
- 37) 藤森俊二, 岸田輝幸, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 佐藤 順, 吉田 豊, 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 坂本長逸, 小林正文<sup>(<sup>1)</sup>外科第1)</sup>: 平均赤血球容積(MCV)と閉経後女性の大腸腺腫危険率の検討. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.
- 38) 山門 進, 渡辺綾子, 篠澤 功, 永井俊彦<sup>1)</sup>, 岡田 夢<sup>2)</sup>, 相田順子<sup>2)</sup>, 伊藤雄二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都多摩老人医療センター消化器科, <sup>2)</sup>東京都多摩老人医療センター病理科): Algon Plasma Coagulationのヒト切除胃における照射効果の検討. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.
- 39) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 小野寺裕之<sup>1)</sup>, 李 栄浩<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 奥田武志<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 末岡伸夫, 小林正文, 坂本長逸, 山下精彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 表層拡大型胃癌の診断と治療. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 40) 大磯義一郎, 長田祐二, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 平塚哲郎, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中周, 佐藤 順, 藤森俊二, 津久井拓, 岸田輝幸, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文, 吉村和康<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 小腸イレウスを合併した回腸子宮内膜症の1例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 41) 濱本達彦, 小泉信人, 末岡伸夫, 西垣 均, 永田和弘, 坂本長逸, 小林正文, 二見良平<sup>1)</sup>, 牧野浩二<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 食道癌肉腫の1例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 42) 野村 務<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 末岡伸夫, 西垣 均(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 肝硬変患者におけるArgon plasma coagulation(APC)を用いた食道表在癌治療の検討. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 43) 田中由理子, 田中 周, 末岡伸夫, 柴田喜明, 榎原義之, 名知志子, 坂本長逸, 小林正文, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 十二指腸楔状切除を行った陥凹型早期十二指腸癌の1例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 44) 林 良紀, 杉浦敏昭, 中村弘之, 石川久木, 琴寄 誠, 岩切勝彦, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: GVHDにより食道狭窄を来した1例. 第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 45) 藤森俊二, 琴寄 誠, 岸田輝幸: 当科における日帰り, 入院別での内視鏡的大腸ポリープ切除後の分析. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 46) 関田祥久, 琴寄 誠, 内田直哉, 片倉珠樹, 小野瀬裕之, 中塚雄久, 藤森俊二, 吉沢雅史, 岸田輝幸: 急性膵炎発症後に胃前庭部に胃潰瘍の出現を確認し得た1例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 47) 渡辺綾子, 山門 進, 篠澤 功, 永井俊彦<sup>1)</sup>, 岡田 夢<sup>2)</sup>, 相田順子<sup>2)</sup>, 伊藤雄二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都多摩老人医療センター消化器科, <sup>2)</sup>東京都多摩老人医療センター病理科): 内視鏡的に治療切除が可能であった直腸原発MALT omaの1例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 48) 山門 進: 高齢者における抗生物質起因性腸炎の現状. 第43回日本老年医学会学術集会, 2001. 6.
- 49) 周東祐仁, 田村秀樹, 石井新哉, 小野瀬裕之, 亀谷 純, 杉原 仁, 江本直也, 及川眞一, 小田切あすか<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理第二): Growth hormone secretagogue(GHS)受容体アンチセンス発現トランスジェニックラットにおける成長ホルモン分泌動態の検討. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001. 6.
- 50) 石井新哉, 亀谷 純, 田村秀樹, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一: インスリン様成長因子I(IGF-I)のGrowth Hormone Secretagogue(GHS)受容体発現におよぼす効果. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001. 6.
- 51) 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一: 成熟雌ラットGHRH神経細胞にエストロゲン受容体が存在する. 第74回日本内分泌学会総会, 2001. 6.

- 52) 鴫田克久<sup>1)</sup>, 石垣 泰<sup>1)</sup>, 関川明宏<sup>1)</sup>, 小竹英俊<sup>1)</sup>, 豊田隆謙<sup>2)</sup>, 及川眞一, 平山善丈<sup>3)</sup>, 宮澤陽夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科, <sup>2)</sup>東北労災病院, <sup>3)</sup>東北大学農学部機能分子解析学): コレステロール食, フルクトース負荷家兎における動脈硬化巢の組織学的変化と過酸化脂質. 第33回日本動脈硬化学会, 2001. 6.
- 53) 谷村恭子, 田中 周, 田辺義博, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一, 村野武義<sup>1)</sup>, 白井厚治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学医学部佐倉病院臨床検査医学): 原発性高カイロミクロン血症例のインスリン分泌能について. 第33回日本動脈硬化学会, 2001. 6.
- 54) 平塚哲郎, 三宅一昌, 進士陽子, 飯泉 匡, 篠木 啓, 長田祐二, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: 抗生物質にて治療し得た限局型の胃蜂窩織炎の1例. 第265回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 7.
- 55) 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 橋本真一<sup>2)</sup>, 猪口孝一, 松島網治<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学生化学第2, <sup>2)</sup>東京大学衛生学): ATLにおける発現遺伝子の網羅的検索. 第60回癌学会総会, 2001. 9.
- 56) 城所秀子, 金沢秀典, 名知志子, 吉本 均, 長田祐二, 斎藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸: TIPSにより改善した難治性肝性胸水の1例. 第266回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 9.
- 57) 榎原義之, 金沢秀典, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 小泉信人, 中塚雄久, 名知志子, 小林正文: 肝硬変における難治性腹水の臨床像に関する検討. 第8回日本門脈圧亢進症学会総会, 2001. 9.
- 58) 木村 祐, 金沢秀典, 吉本 均, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 名知志子, 中塚雄久, 坂本長逸, 黒田 肇, 小林正文: 消化管出血合併肝硬変における門脈血栓症に関する検討. 第8回日本門脈圧亢進症学会総会, 2001. 9.
- 59) 滝 保彦, 金沢秀典, 名知志子, 中塚雄久, 吉本 均, 長田祐二, 間宮康貴, 榎原義之, 木村 祐, 斎藤 整, 坂本長逸, 黒田 肇, 小林正文: 肝硬変における腎動脈Resistive Index. 第8回日本門脈圧亢進症学会総会, 2001. 9.
- 60) 水木太郎, 植木伸江, 中村弘之, 中山一隆, 横瀬紀夫, 田近賢二, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)にネフローゼ症候群を合併し, 副腎皮質ステロイドが著効した1例. 第142回日本臨床血液学会例会, 2001. 10.
- 61) 木村 祐, 金沢秀典, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 名知志子, 小泉信人, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: TIPS後肝性脳症の検討. 第28回急性肝不全研究会, 2001. 10.
- 62) 中塚雄久, 金沢秀典, 滝 保彦, 木村 祐, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 名知志子, 吉本 均, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: Portal hypertensive gastropathy (PHG)に見られる発赤所見と門脈圧の関連. 第43回日本消化器病学会大会, 2001. 10.
- 63) 小田切あすか<sup>1)</sup>, 山内直子<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>1)</sup>, 周東祐仁, 杉原 仁(<sup>1)</sup>生理第二): Growth hormone secretagogue (GHS) 受容体アンチセンス発現トランスジェニックラットへのKP-102投与による視床下部でのFos発現について. 第28回日本神経内分泌学会, 2001. 10.
- 64) 田村秀樹, 亀谷 純, 石井新哉, 城所 葉, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一: グレリンのGH分泌促進作用についての検討. 第28回日本神経内分泌学会, 2001. 10.
- 65) 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一: 下垂体グレリンの遺伝子発現調節. 第28回日本神経内分泌学会, 2001. 10.
- 66) 中村弘之, 中山一隆, 山口博樹, 足澤美樹, 松岡弘樹, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 急性白血病再発例におけるp53, p51およびN-ras遺伝子解析. 第43回日本臨床血液学会総会, 2001. 11.
- 67) 中山一隆, 中村弘之, 山口博樹, 足澤美樹, 松岡弘樹, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 造血器腫瘍由来樹立細胞株におけるDCC遺伝子methylationに関する研究. 第43回日本臨床血液学会総会, 2001. 11.
- 68) 植木信江, 水木太郎, 中山一隆, 中村弘之, 足澤美樹, 山口博樹, 横瀬紀夫, 田近賢二, 山田 隆, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: Ph陰性bcr/abl陰性(Ph-/bcr-) CML3症例とPh-/bcr+CML2症例の臨床的検討. 第43



- 回日本臨床血液学会総会, 2001. 11.
- 69) 稲見光春, 山口博樹, 足澤美樹, 中村弘之, 中山一隆, 松岡弘樹, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 骨髄移植後再発した急性リンパ性白血病より樹立した MLL/AF4 融合遺伝子陽性細胞株. 第 43 回日本臨床血液学会総会, 2001. 11.
- 70) 緒方清行: 有用な骨髄芽球精製法. 第 43 回日本臨床血液学会総会, 2001. 11.
- 71) 兵頭英也, 緒方清行, 橘美紀子, 檀 和夫: プラストレトリーバー, smear FISH, フローサイトメトリー (FCM) を用いた微量な芽球の解析について. 第 43 回日本臨床血液学会総会, 2001. 11.
- 72) 平塚哲郎, 二神生爾, 辰口篤志, 津久井拓, 進士陽子, 飯泉 匡, 篠木 啓, 赤松知憲, 三宅一昌, 和田 謙, 坂本長逸, 小林正文: 急性胃粘膜傷害における好中球接着能亢進と COX-2 蛋白発現: Ischemia-Reperfusion モデルを用いて. 第 29 回日本実験潰瘍学会, 2001. 11.
- 73) 木村 祐, 金沢秀典, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 名知志子, 中塚雄久, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: TIPS 後肝性脳症に関する検討. 第 28 回急性肝不全研究会, 2001. 11.
- 74) 城所 葉, 江本直也, 小野瀬裕之, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>(1)</sup> 外科第二): ヒト甲状腺サイログロブリンのヘパリン結合能及び FGF 結合能の検討. 第 44 回日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 75) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 杉浦敏明, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 林 良紀, 小林正文, 山下精彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 外科第 1, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科): 食道壁肥厚を示した食道運動機能異常症の 1 例. 第 267 回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 76) 三井啓吾<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 竹内雅文<sup>1)</sup>, 中島 泰<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 吉沢雅史<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 坂本長逸, 小林正文 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科): 回転性めまいを初発症状とした, 胃癌脳転移の 1 剖検例. 第 267 回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 77) 新井政男<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 広瀬洋一郎<sup>1)</sup>, 藤野鉄平, 榎原義之 (<sup>1)</sup> 外科第 1): Von Recklinghausen 病に合併した小腸 gastrointestinal stromal tumor (GIST) の 1 例. 第 267 回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 78) 鷹野さやか<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 小林正文, 坂本長逸, 名知志子, 石崎 晃 (<sup>1)</sup> 外科第 1): 進行胆嚢癌と術前診断された黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 例. 第 267 回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 79) 滝 保彦, 金沢秀典, 榎原義之, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 名知志子, 中塚雄久, 小泉信人, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: TIPS 後に肝部下大静脈狭窄を生じた肝硬変の 1 例. 第 267 回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 80) 川見典之, 杉浦敏明, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科第 1): 手術を必要とした Superior Mesenteric Artery (SMA) 症候群の 1 例. 第 267 回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 81) 小林 剛<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 竹内雅文<sup>1)</sup>, 中島 泰<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 吉沢雅史<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 坂本長逸, 小林正文, 高橋由至<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 同外科): 胆道出血を契機に胆嚢動脈瘤破裂が疑われた 1 例. 第 267 回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 82) 篠澤 功, 山門 進, 植木信江, 永井俊彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都多摩老人医療センター): 高齢者における大腸憩室症の臨床像. 多摩消化器シンポジウム, 2002. 1.
- 83) 石井新哉, 田村秀樹, 岡島史宜, 城所 葉, 谷村恭子, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一, 橋本綱子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 皮膚科学): 低ガンマグロブリン血症を伴った hypersensitivity syndrome (HS) を生じた 1 型糖尿病の 1 例. 第 39 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2002. 1.
- 84) 小野瀬裕之, 関田祥久, 竹内雅文, 及川眞一, 江本直也: Insulin lispro による持続皮下注入療法 (CSII) を試みた糖尿病性胃症合併糖尿病の 1 例. 第 39 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2002. 1.

- 85) 橘美紀子, 足澤美樹, 中村弘之, 田近賢二, 山田 隆, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: 脳炎症状で発症した CD2, CD3, CD5, CD56陽性の成人 T細胞白血病の1例. 第143回日本臨床血液学会例会, 2002. 2.
- 86) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 石川久木, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 芍薬甘草湯が著効した nutcracker esophagus の1例. 第268回日本消化器病学会関東支部例会, 2002. 2.
- 87) 小野千速, 石井新哉, 田村秀樹, 岡島史宜, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 谷村恭子, 城所 葉, 及川真一: 肺癌の下垂体転移による中枢性尿崩症の1例. 第12回臨床内分泌代謝 Update, 2002. 3.
- 88) 横溝英菜, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 周東祐仁, 岡島史宜, 城所 葉, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川真一: 高カルシウム血症を合併した甲状腺未分化癌の1例. 第12回臨床内分泌代謝 Update, 2002. 3.
- 89) 竹内雅文, 小野瀬裕之, 江本直也, 近藤幸壽<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同放射線科): 頻回の妊娠中毒症の既往をもつ原発性アルドステロン症の1例. 第12回臨床内分泌代謝 Update, 2002. 3.
- (8) 要望演題:
- 1) 中塚雄久, 金沢秀典, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 名知志子, 小泉信人, 吉本 均, 小林正文: 門脈圧変動が門脈圧亢進性胃症にみられる Mosaic-like pattern (MLP) の重症度に与える影響. 第8回日本門脈圧亢進症学会総会, 2001. 9.

## 4. 内科学第四講座

### [ 付属病院呼吸器内科 ]

#### 研究概要

呼吸器疾患を対象に平成13年度に以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

臨床研究； 特発性肺線維症（IPF）、慢性過敏性肺臓炎、膠原病関連肺疾患、血管炎、サルコイドーシス（サ症）、などについての症例検討報告、 IPF患者に対する高血糖の与える影響についての研究、 マクロライドの抗炎症作用を期待したIPFの急性増悪防止及びIPF合併肺癌の術後増悪防止に対する効果の検討、 IPFに対する抗線維化剤Pirfenidone臨床治験、NAC吸入試験（全国共同研究）、 高齢者慢性閉塞性肺疾患患者における患者指導に関する研究、テレメディスンによる病診連携、 睡眠時無呼吸症候群患者のADLに及ぼす治療効果の評価、 慢性閉塞性肺疾患患者と類瘦、成長ホルモンの検討、 びまん性肺疾患の肺音の音響学的解析、 咳嗽音の音響学的解析と咳カウンターの開発、 離島における大気汚染と呼気中NOとの関係の研究、 肺癌科学療法臨床研究 [非小細胞肺癌：weekly CDDP+CPT-11 (phase II), CDDP+TXT vs CDDP+VDS (phase III), CDDP+TXT+UFT (phase I, II), CDDP+UFT+concurrent RT (phase II), GEM+VNR (phase I, II), second line CBDCA+TXL (phase I, II), 新規抗癌剤 (phase I, II), 小細胞癌：alternating chemotherapy]、 各種制吐剤の臨床試験等を行った。

基礎研究； プレオマイシン誘発肺線維症モデルマウスを用いた肺傷害機序に関わる物質（活性酸素種、メタロプロテアーゼなど）や接着分子の解明、各段階を阻止しうる薬剤の検討、 インターフェロンの線維化抑制機序の解明、

新規薬剤の実験的間質性肺炎抑制効果の検討、 DPB関連気道病変についての疾患感受性遺伝子の探究（共同研究）、マクロライド作用機序の解明、 ヒト肺腺癌株（PC-9）由来多臓器高転移株を用いたIntegrinと転移臓器特異性に関する検討、 Laminin 5 chainのG-domain由来peptidesの腫瘍増殖、実験的転移に及ぼす効果と発現機序、

新規MMP inhibitor FK-2によるヒト肺腺癌高転移株PC-9/multiの転移及び増殖に及ぼす効果、 ヒト肺腺癌細胞株PC-9の高転移能獲得に伴う血管新生能および血管新生因子の変化に関する検討、 サルコイドーシスにおけるApoptosis抑制因子の関与、 肺癌における網羅的遺伝子発現解析とオーダーメイド化学療法への応用、 細胞周期調節因子のクローニングとゲノム構造の決定、 ヒト肺癌における癌抑制遺伝子候補の変異解析、 肺線維症の癌発生母地としての分子生物学的研究等の研究を推進した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hayashihara K, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Takemoto T, Kudoh S ( <sup>1)</sup>Saitama Cancer Center, Saitama, Japan ): Persistent cytotoxicity after exposure to antineoplastic agents : The succinate dehydrogenase inhibition test re-examined . *annal cancer rerch and therapy* 2000 ; 8 : 143-154 .
- 2) Watari E, Shinya E, Kurane S, Takahashi H : Effect of Cyclosporin A on a cell line Persistently infected with Measles virus . *Intervorology* 2001 ; 44 ( 3 ) : 209-214 .
- 3) Azuma Arata, Keicho Naoto <sup>1)</sup>, Furukawa Hiroshi, Yabe Toshio, Kudoh Shoji ( <sup>1)</sup>国立国際医療センター，呼吸器研究部 ): Prolonged Survival of Bare Lymphocyte Syndrome Type I Patient with Diffuse Panbronchiolitis Treated with Erythromycin . *Sarcoidosis Vasculitis and Diffuse Lung Disease* 2001 ; 183 : 312-313 .
- 4) Takeda Y, Kobayashi K, Akiyama Y, Soma T, Handa S, Kudoh S, Kudoh K : Prevention of irinotecan (CPT-11) - induced diarrhea by oral alkalization combined with control of defecation in cancer patients . *international Journal of cancer* 2001 ; 92 ( 2 ) : 269-275 .

- 5) Gemma A, Takenaka K, Hosoya Y, Matuda K, Seike M, Kurimoto F, Ono Y, Uematsu K, Takeda Y, Hibino S, Yoshimura A, Shibuya M, Kudoh S : Altered expression of many genes playing specific roles accumulates in highly metastatic subpopulations of a human pulmonary adenocarcinoma cell line . *European Journal of Cancer* 2001 ; 37 : 1554-1561 .
- 6) Yamanishi M<sup>1)</sup>, Takeuchi S<sup>1)</sup>, Kurashina R<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shibuya M, Okada D<sup>1)</sup>, Haraguchi S<sup>2)</sup>, Yoshimura A, Gemma A, Kudoh S, Tanaka S<sup>2)</sup>, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Department of Pathology , <sup>2)</sup> 2nd Department of Surgery ) : High survival rate of 6 cases of pulmonary large cell neuroendocrine carcinoma formerly classified as small cell carcinoma . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 : 335-339 .
- 7) Aoki M<sup>1)</sup>, Niimi Y<sup>1)</sup>, Takezawa S<sup>1)</sup>, Seike M, Azuma A, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Dermatology ) : Primary cutaneous CD30+ anaplastic large cell lymphoma with aggressive onset and indolent clinical course representing lymphomatoid papuloma . *British J Dermatol* 2001 ; 145 : 123-126 .
- 8) Azuma A, Li YJ, Usuki J, Aoyama A, Enomoto T, Kudoh S : FOURTEEN MEMBERED-RING MACRILIDES INHIBIT THE VCAM-1 mRNA INDUCTION PREVENTING NEUTROPHIL INDUCED LUNG INJURY AND FIBROSIS IN BLEOMYCIN CHALLENGED MICE . *Chest* 2001 ; 120 : 20-22 .
- 9) Fukuda Y<sup>1)</sup>, Mochimaru H<sup>1)</sup>, Terasaki Y<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup> The Department of Pathology ) : Mechanism of Structural Remodeling in Pulmonary Fibrosis . *Chest* 2001 ; 120 : 41S-43S .
- 10) Gemma A, Seike Y, Seike M, Uematsu K, Kurimoto F, Hibino S, Yoshimura A, Shibuya M, Kudoh S, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School ) : Genomic Structure of the Human MAD2 Gene and Mutation Analysis in Human Lung and Breast Cancers . *Lung Cancer* 2001 ; 32 (( 3 )) : 289-295 .
- 11) Usuki J, Enomoto T, Azuma A, Miyamoto H, Takahashi T, Aoyama A, Kudoh S : THE INFLUENCE OF HYPERGLYCEMIA TO THE SEVERITY OF PULMONARY FIBROSIS . *Chest* 2001 ; 120 : 71-71 .
- 12) Kawahara M<sup>1)</sup>, Furuse K<sup>1)</sup>, Segawa Y<sup>2)</sup>, Yoshimori K<sup>3)</sup>, Matsui K<sup>4)</sup>, Kudoh S, Hasegawa K<sup>5)</sup>, Niitani H<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, National Kinki Central Hospital for Chest Disease, Osaka , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, National Shikoku Cancer Center Hospital, Matuyama , <sup>3)</sup> Department of Respiratory Organs, Japan Anti-Tuberculosis Association Fukujju Hospital, Tokyo , <sup>4)</sup> Second Department of Internal Medicine, Osaka Prefectural Habikino Hospital, Osaka , <sup>5)</sup> Department of Internal Medicinem Jizankai Tsuboi Hospital Fukushima , <sup>6)</sup> The Tokyo Cooperative Oncology Group, Tokyo, Japan ) : Phase II study of S-1, a novel oral fluorouracil, in advanced non-small-cell lung cancer . *British Journal of Cancer* 2001 ; 85 ( 7 ) : 939-943 .
- 13) Yang Cheng-Ta<sup>1, 2)</sup>, You L<sup>2)</sup>, Uematsu K, Yeh Che-C<sup>3)</sup>, McCormick F<sup>2)</sup>, Jablons David M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Pulmonary and Critical Care Medicine, Chang Gung Memorial Hospital, Taipei, Taiwan , <sup>2)</sup> Thoracic Oncology Laboratory, UCSF Cancer Center, University of California, San Francisco, California , <sup>3)</sup> Molecular Urology Laboratory, Mt. Zion Hospital, University of California, San Francisco ) : p14ARF Modulates the Cytolytic Effect of ONYX-015 in Mesothelioma Cells with Wild-type p-53 . *Cancer Research* 2001 ; 61 ( 16 ) : 5959-5963 .
- 14) Furuse K<sup>1)</sup>, Kawahara M<sup>1)</sup>, Hasegawa K<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Takada M<sup>1)</sup>, Sugiura T<sup>1)</sup>, Ichinose Y<sup>1)</sup>, Fukuoka M<sup>1)</sup>, Ohashi Y<sup>1)</sup>, Niitani H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The S-1 cooperative Study Group ( Lung Cancer Working Group ) ) : Early phase II study of S-1, a new oral fluoropyrimidine, for advanced non-small-cell lung cancer . *International Journal of clinical oncology* 2001 ; 6 : 236-241 .
- 15) Kunugi S, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ) : Role of MMP-2 in Alveolar Epithelial Cell Repair after Bleomycin Administration in Rabbits . *Laboratory Investigation* 2001 ; 81 : 1309-1318 .

- 16) Takahashi Takuo, Azuma Arata, Abe Shinji, Ohara Kunitoshi<sup>1)</sup>, Kudoh Shoji ( <sup>1)</sup> 付属病院眼科 ): Significance of Lymphocytosis in Broncho-Alveolar Lavage in Ocular Sarcoidosis Suspects . *Eur Respir J* 2001 ; 515-521 .
- 17) Fumimoto H<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Chang C-H<sup>2)</sup>, Eremenco S<sup>2)</sup>, Fujiki Y<sup>3)</sup>, Uemura S, Ohashi Y<sup>4)</sup>, Kudoh S. ( <sup>1)</sup> East Japan Chesters Group ( EJCG ) , Department of Respiratory Medicine, Respiratory Section, Saitama Cancer Center, Saitama , <sup>2)</sup> Center on Outcomes, Research and Education ( CORE ) , Evanston, IL, USA , <sup>3)</sup> EPS Co, Ltd , <sup>4)</sup> School of Health Science and Nursing, University of Tokyo, ) : Cross-cultural validation of an international questionnaire the General Measure of the Functional Assessment of Cancer Therapy scale ( FACT-G ) , for Japanese . *Quality of Life Research* 2001 ; 10 : 701-709 .
- 18) Ishii T<sup>1)</sup>, Keicho N<sup>2)</sup>, Teramoto S<sup>1)</sup>, Azuma A, Kudoh S, Fukuchi Y<sup>3)</sup>, Ouchi Y<sup>4)</sup>, Matsuse T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Yokohama City Univ. , <sup>3)</sup> Juntendo Univ. , <sup>4)</sup> Univ. Tokyo ) : Association of genetic variation of Gc-globulin with susceptibility to chronic obstructive pulmonary disease and diffuse panbronchiolitis . *Eur Respir J* 2001 ; 18 : 753-757 .
- 19) Azuma A, Takahashi T, Kudoh S, Henmi S<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. Pathology ) : The Value and Limitation of Transbronchial Lung Biopsy for the Diagnosis of Diffuse Interstitial Lung Diseases ( Excerpta Medica, International Congress Series 1217 ) . *Bronchol Bronchoesophageology : State of the Art* 2001 ; 107-109 .
- 20) Ishii T<sup>1)</sup>, Keicho N<sup>2)</sup>, Teramoto S<sup>3)</sup>, Azuma A, Kudoh S, Fukuchi Y<sup>4)</sup>, Ouchi Y<sup>1)</sup>, Matsue T<sup>5)</sup>( <sup>1)</sup> Dept of Geriatric Medicine University of Tokyo, <sup>2)</sup> Dept of Respiratory Disease, Research Institute, International Medical Center of Japan, <sup>3)</sup> Dept of Internal Medicine, San-no Hospital, and Medical Research Center, International University of Health and Welfare, <sup>4)</sup> Dept of Respiratory Medicine, Juntendo University School of Medicine , <sup>5)</sup> Dept Of Pulmonary Medicine, Yokohama City University Medical Center, Yokohama, Japan ) : Association of Gc-globulin variation with susceptibility to COPD and diffuse panbronchiolitis . *The European Respiratory Journal* 2001 ; 18 : 753-757 .
- 21) Uematsu K, Yoshimura A, Gemma A, Mochimaru H, Hosoya Y, Kunugi S, Matsuda K, Seike M, Kurimoto F, Takenaka K, Koizumi K<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Chin K<sup>3)</sup>, Jablons DJ<sup>3)</sup>, K, S ( <sup>1)</sup> 1st department of Pathology , <sup>2)</sup> 2nd Department of Surgery , <sup>3)</sup> University of Carifornia, San Francisco ) : Aberrations in the fragile histidine triad ( FHIT ) gene in idiopathic pulmonary fibrosis . *Cancer Research* 2001 ; 61 ( 23 ) : 8527-8533 .
- 22) Azuma Arata : Novel Activity of Erythromycin Derivatives on Inflammatory Lung Diseases . *Recent Res. Development Respiratory Critical Care Med* 2002 ; 1 : 191-207 .
- 23) Eishi Y<sup>1)</sup>, Suga M<sup>3)</sup>, Ishige I<sup>1)</sup>, Kobayashi D<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Takemura T<sup>2)</sup>, Takizawa T<sup>1)</sup>, Koike M<sup>1)</sup>, Kudoh S, Costabel U<sup>4)</sup>, Guzman J<sup>5)</sup>, Rizzato G<sup>6)</sup>, Gambacorta M<sup>7)</sup>, Du Bois R<sup>8)</sup>, GNicholson A<sup>9)</sup>, Om PSharma<sup>10)</sup>, Ando M<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Human Pathology, School of Medicine, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center, Tokyo , <sup>3)</sup> First Department of Internal Medicine, School of medicine, Kumamoto University, Kumamoto , <sup>4)</sup> Department of Pneumology and Allergology, Ruhrlandklinik, Essen, Germany , <sup>5)</sup> Department of General and Experimental Pathology, Bochum University, Bochum, Germany , <sup>6)</sup> Sarcoidosis Clinic, Niguarda Hospital, Milan, Italy , <sup>7)</sup> Institute of Pathology, Niguarda Hospital, Milan, Italy , <sup>8)</sup> Interstitial Lung Disease Unit, Royal Bormpton Hospital, London, England , <sup>9)</sup> Department of Histopathology, Royal Bormpton Hospital, London, England , <sup>10)</sup> Department of Medicine, School of Medicine, University of Southern California, Los Angels, California, USA ) : Quantitative Analysis of Mycobacterial and Propionibacterial DNA in Lymph Nodes of Japanese and European Patients with Sarcoidosis . *Journal of Clinical Microbiology* 2002 ; 40 ( 1 ) : 198-204 .

- 24) Ikegami T<sup>1)</sup>, Ha L<sup>1)</sup>, Arimori K<sup>1)</sup>, Latham P<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Ceryak S<sup>1)</sup>, Matsuzaki Y<sup>1)</sup>, Bouscarel B<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Medicine, The George Washington University Medical Center, N. W. Washington, D. C. 20037, USA ): Intestinal alkalization as a possible preventive mechanism in irinotecan ( CPT-11 )-induced diarrhea . Cancer research 2002 ; 62 ( 1 ) : 179-187 .
- 25) 石井健男<sup>1)</sup>, 慶長直人<sup>2)</sup>, 寺本信嗣<sup>3)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二, 福地義之助<sup>4)</sup>, 大内尉義<sup>1)</sup>, 松瀬 健<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 東京大学医学部附属病院老年病科, <sup>2)</sup> 国立国際医療センター研究所呼吸器疾患研究部, <sup>3)</sup> 国際医療福祉大学, <sup>4)</sup> 順天堂大学医学部呼吸器内科, <sup>5)</sup> 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター): NADPH/NADH oxidaseの遺伝子多型とびまん性汎細気管支炎 (DPB), 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) との関連についての検討 . 日呼吸会誌 2001 ; 39 ( 5 ) : 328-332 .
- 26) 石井健男<sup>1)</sup>, 慶長直人<sup>2)</sup>, 寺本信剛<sup>1)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二, 福地義之助<sup>3)</sup>, 大内 義<sup>4)</sup>, 松瀬 健<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 横浜市立大学呼吸器内科, <sup>2)</sup> 国立国際医療センター研究部, <sup>3)</sup> 順天堂大学呼吸器内科, <sup>4)</sup> 東京大学第3内科): NADH/NADPH oxidaseの遺伝子多型とびまん性汎細気管支炎 (DPB), 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) との関連についての検討 . 日呼吸器会誌 2001 ; 39 : 328-332 .
- 27) 工藤翔二: 特発性間質性肺炎の概念に関するわが国の歴史と課題 . 日胸臨 2001 ; 60 ( 6 ) : 487-494 .
- 28) 村田 朗, 工藤翔二, 渋谷淳夫<sup>1)</sup>, 棚橋ひとみ<sup>1)</sup>, 太田奈緒<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本女子大学家政学科): 咳嗽音の波形の特徴と識別法の研究 . 薬理と臨 2001 ; 11 ( 4 ) : 429-434 .
- 29) 吾妻安良太, 高橋卓夫, 工藤翔二, 山口恵子<sup>1)</sup>, 大原国俊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院眼科): 眼サルコイドーシス疑い患者における気管支肺胞洗浄液中のリンパ球増多の診断的有用性 . 日本眼科紀要 2001 ; 527 : 567-572 .
- 30) 工藤翔二, 斉藤 厚<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 琉球大学第一内科): 新興・再興感染症 司会のことば . 日内科会誌 2001 ; 90 ( 9 ) : 105-105 .
- 31) 榎本達治<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 持丸 博<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科第4, <sup>2)</sup> 病理第1): 肺聴診所見が診断のきっかけとなった, 閉塞性細気管支炎の1例 . 日呼吸器会誌 2001 ; 39 ( 11 ) : 882-887 .
- 32) 小林国彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 栗原 稔<sup>2)</sup>, 長谷川浩一<sup>3)</sup>, 堀越 昇<sup>4)</sup>, 中井祐之<sup>5)</sup>, 安藤真弘<sup>3)</sup>, 樋口昭子<sup>6)</sup>, 平方真<sup>7)</sup>, 亀岡祐一<sup>8)</sup>, 片倉恒徳<sup>9)</sup>, 小林信之<sup>10)</sup>, 松川正明<sup>11)</sup>, 三浦 健<sup>12)</sup>, 西田二郎<sup>13)</sup>, 小野充一<sup>14)</sup>, 佐藤俊哉<sup>15)</sup>, 渋谷昌彦, 篠崎俊秀<sup>16)</sup>, 滝口裕一<sup>17)</sup>, 武内浩一郎<sup>18)</sup>, 横山晶<sup>19)</sup>, 吉森浩三<sup>20)</sup>, 仁井谷久暢<sup>21)</sup>, 長尾啓一<sup>22)</sup>, 塚越茂<sup>23)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科, <sup>2)</sup> 桜会病院, <sup>3)</sup> (財) 慈山会医学研究所附属坪井病院, <sup>4)</sup> (財) 癌研究会附属病院化学療法科, <sup>5)</sup> (財) 仙台厚生病院, <sup>6)</sup> 富山県立中央病院麻酔科, <sup>7)</sup> 諏訪中央病院, <sup>8)</sup> (財) 光が丘スベルマン病院内科, <sup>9)</sup> (医) 医徳会真壁病院消化器科, <sup>10)</sup> 国立国際医療センター呼吸器科, <sup>11)</sup> 昭和大学付属病院豊洲病院消化器科, <sup>12)</sup> 三浦病院外科, <sup>13)</sup> 新座志木中央総合病院, <sup>14)</sup> 戸田中央総合病院緩和治療科, <sup>15)</sup> 周行会内科佐藤病院内科, <sup>16)</sup> 君津中央病院呼吸器科, <sup>17)</sup> 千葉大学医学部附属病院呼吸器内科, <sup>18)</sup> 横浜労災病院呼吸器科, <sup>19)</sup> 新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器科, <sup>20)</sup> 結核予防会複十字病院呼吸器科, <sup>21)</sup> 東京がん化学療法会, <sup>22)</sup> 千葉大学保健管理センター, <sup>23)</sup> 臨床薬理開発研究会): 癌性疼痛患者に対するTNK951の有効性及び安全性の検討: 硫酸モルヒネ徐放剤からの切り替え試験 . 医と薬学 2001 ; 46 ( 5 ) : 715-726 .
- 33) 森山 岳, 阿部信二, 榎本達治, 日比野俊, 宮本晴子, 三上礼子, 高橋卓夫, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 吉村明修, 工藤翔二, 小泉 潔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科第二): 人間ドックにて偶然発見された先天性気管支食道瘻の1例 . 日呼吸器会誌 2001 ; 39 ( 11 ) : 888-892 .
- 34) 森本泰介<sup>1)</sup>, 武内浩一郎<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>1)</sup>, 榎原桂太郎<sup>1)</sup>, 山里将也<sup>1)</sup>, 打越 暁<sup>1)</sup>, 坂本和裕<sup>2)</sup>, 河村俊治<sup>3)</sup>, 角田幸雄<sup>3)</sup>, 三上理一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 横浜労災病院呼吸器科, <sup>2)</sup> 横浜労災病院呼吸外科, <sup>3)</sup> 横浜労災病院病理部): 胸部X線・胸部CT上異常を認めずTBLBにて診断が確定した脊髄サルコイドーシスの1例 . 日呼吸器会誌 2001 ; 39 ( 11 ) : 871-876 .
- 35) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科): 癌性疼痛かんじゃにたいするTNK951の有効性および安全性

の検討：硫酸モルヒネ徐放錠からの切り替え試験．医と薬学 2002；46：715-726．

(2) 綜説：

- 1) Keicho N<sup>1)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup> Department of Respiratory Disease, Research Institute, International Medical Center of Japan, Toyama, Shinjuku-ku, Tokyo ): Diffuse Panbronchiolitis : Role of Macrolides in Therapy . American Journal of Respiratory Medicine 2002 ; 1 ( 2 ): 119-131 .
- 2) 吉村明修：疾患の病因と病態；9. 肺癌発生母地としての特発性肺線維症．Annual Review呼吸器2002 2002；112-117．
- 3) 村田 朗，工藤翔二：COPDに対する薬物療法．医のあゆみ 2001；196(9)：651-655．
- 4) 倉根修二，工藤翔二：肺結核の症候学・活動性分類．化学療法の領域 2001；増刊号：89-94．
- 5) 村田 朗：エビデンスに基づいた21世紀の慢性閉塞性肺疾患の診断，治療と在宅呼吸ケア 在宅酸素療法の実際．Pharma Medica 2001；19(11)：39-45．
- 6) 弦間昭彦：肺癌における遺伝子発現プロファイル解析．医のあゆみ 2001；199(9)：9925-9929．
- 7) 吾妻安良太，工藤翔二：疾患概念の変遷：呼吸器疾患研究のあゆみ びまん性汎細気管支炎（DPB）．医のあゆみ 2001；197：567-573．
- 8) 倉根修二，工藤翔二：胸部疾患の鑑別診断としての結核．臨と微生物 2001；28(6)：373-387．
- 9) 村田 朗：COPDの最新治療．内科 2001；187(6)：1061-1067．
- 10) 村田 朗，工藤翔二：第II部主訴からみた女性内科．c呼吸・心・血管系の症候．4呼吸困難．産婦治療 2001；82(増刊)：794-800．
- 11) 弦間昭彦：large cell neuroendocrine carcinoma (LCNEC)．治療学 2001；35(7)：786-789．
- 12) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科)：在宅癌治療：通院化学療法について．日本癌病態治療研究会 2001；7：16-18．
- 13) 伊藤永喜，吾妻安良太，榎本達治，工藤翔二：COPDに対するマクロライド抗生物質の奏効機序：特集 COPDの免疫学的側面：喘息と対比しながら．アレルギー科(科学評論社) 2001；123：258-263．
- 14) 倉根修二：インフルエンザの迅速診断．臨床と研究 2001；60(9)：999-1004．
- 15) 村田 朗，工藤翔二：特集；COPD(慢性閉塞性肺疾患)をどうするか？：外来での対応と在宅療法 気道感染合併時の治療．今月の治療 2001；9(4)：425-425．
- 16) 大松広伸<sup>1)</sup>，柿沼龍太郎<sup>1)</sup>，細見幸生，仁木 登<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 国立がんセンター東病院呼吸器科，<sup>2)</sup> 徳島大学工学部)：CAD(Computer-aided diagnosis)による肺がんCT検診サポート．胸部臨床 2001；60(9)：786-791．
- 17) 吉村明修，工藤翔二：胸・腹部 内臓疾患の痛み；呼吸器疾患に由来する痛みの特徴 診断と治療．痛みと臨床 2001；1(2)：123-131．
- 18) 吾妻安良太：細胞分子病態を基礎にした特発性肺線維症(IPF)の治療法の開発動向．最新医学 2001；56(11)：2542-2551．
- 19) 細見幸生，渋谷昌彦：Etoposide(VP-16)．癌と化学療法 2001；28(10)：1352-1356．
- 20) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科)：在宅癌治療：通院化学療法を中心として．Biotherapy 2001；15：455-460．
- 21) 倉根修二：インフルエンザと細菌二次感染．感染と抗菌薬 2001；4(4)：377-382．
- 22) 吾妻安良太，工藤翔二：改訂・本邦臨床統計集「びまん性汎細気管支炎」．日本臨床：増刊号 2001；3：32-45．
- 23) 工藤翔二：慢性気道炎症とマクロライド療法．神戸市医師会報 2001；491(11)：15-32．
- 24) 工藤翔二：エビデンスに基づいた21世紀の慢性閉塞性肺疾患の診断，治療と在宅呼吸ケア 特集にあたって．Pharma Medica 2001；19(11)：11-11．
- 25) 工藤翔二：特集 びまん性肺疾患をめぐる最新の進歩：序にかえて：我が国のびまん性肺疾患研究の進歩と課題．最新医 2001；56(11)：2497-2503．

- 26) 村田 朗：慢性閉塞性肺疾患の臨床No. 11 COPDの急性増悪とその対策．日医師会誌 2001；126(10)：31-33．
- 27) 宮本晴子，吾妻安良太，工藤翔二：5．呼吸器疾患：びまん性汎細気管支炎．今日の処方（改訂第3版）2001；189-191．
- 28) 倉根修二：マイコプラズマ肺炎の治療．Pharmavision 2001；49(49)：46-51．
- 29) 田部井敏夫<sup>1)</sup>，酒井 洋<sup>1)</sup>，菅又徳孝<sup>1)</sup>，小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター呼吸器科)：真実を告げた患者へのケア：マニュアル化の試み．がん患者と対症療法 2001；12：20-24．
- 30) 榎本達治，吾妻安良太：23．慢性気道感染症の治療「呼吸器薬の使い方2002」．medicina 2002；392：91-93．
- 31) 榎本達治，吾妻安良太：慢性下気道感染症の治療．Medicina 2002；39(1)：91-93．
- 32) 弦間昭彦，渋谷昌彦：化学療法による長期生存の考え方．Lung Cancer Today 2002；2(1)．
- 33) 吾妻安良太：マクロライドの新しい使い方：構造と活性．臨床医 2002；28：604-609．
- 34) 工藤翔二：特集 びまん性肺疾患の診断と治療：びまん性肺疾患の診断の進め方．呼吸器科 2002；1(1)：2-5．
- 35) 渋谷昌彦，吉村明修：副作用のベストケア；肺毒性のケア．Expert Nurse 2002；18(1)：60-61．
- 36) 伊藤永喜，吾妻安良太：COPDと吸入ステロイド療法．臨床成人病（東京医学社）2002；32：213-216．
- 37) 吾妻安良太：DPB -マクロライドの作用機序-．THE LUNG perspectives 2002；10：51-59．
- 38) 倉根修二，工藤翔二：肺結核（専門医がすすめる最新処方128）．今日の治療 9号 臨時増刊 2002；9：82-84．
- 39) 倉根修二：インフルエンザの迅速診断．科学評論社 2002；2(3)：1-1．
- 40) 吾妻安良太：9-F．医原性肺疾患，2．放射線肺炎．呼吸器疾患の治療と看護（南江堂）2002；295-298．
- 41) 工藤翔二：工藤翔二先生に聞く 慢性気道感染症のキーポイント．INFECTION FILE 2002；6：1-2．
- 42) 細見幸生，弦間昭彦，工藤翔二：抗癌剤の副作用対策．呼吸器科 2002；1(4)：311-318．
- 43) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター呼吸器科)：多文化間における呼吸器疾患QOLの評価．呼吸と循環 2002；50(3)：235-240．
- 44) 小林国彦<sup>1)</sup>，酒井 洋<sup>1)</sup>，米田修一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター呼吸器科)：肺癌の外来化学療法．日本臨床 2002；60：707-711．
- 45) 村田 朗：呼吸器診療における聴診のポイント．呼吸器CURE & CARE 9 2002；1-2．

### (3) 研究報告書：

- 1) 木田厚瑞<sup>1)</sup>，桂 秀樹<sup>1)</sup>，村田 朗，山田浩一<sup>1)</sup>，茂木 孝<sup>1)</sup>，山本しづ子<sup>1)</sup>，若林律子<sup>1)</sup>，太田 隆<sup>1)</sup>，鈴木礼野<sup>1)</sup>，高崎雄司，野村浩一郎<sup>2)</sup>，岩崎郁美<sup>3)</sup>，島田 潔<sup>4)</sup>，水内友子<sup>4)</sup>，酒井志野<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人医療センター呼吸器科，<sup>2)</sup>国立東静病院呼吸器科，<sup>3)</sup>板橋区役所前診療所，<sup>4)</sup>帝人株式会社)：高齢者気管支ぜん息，慢性気管支炎，肺気腫の保健指導に関する研究．平成12年度大気汚染による健康影響に関する総合的研究成果集（公害健康被害予防協会）2001；pp115-145．

### (4) 投稿：

- 1) 倉根修二：一般病棟における結核病室の有用性と問題点．インフェクションコントロール 2001；10(7)：984-989．

### (5) 訳：

- 1) 吾妻安良太，海老名雅仁<sup>1)</sup>，三木 誠<sup>1)</sup>，貫和敏博<sup>1)</sup>，工藤翔二(<sup>1)</sup>東北大学医学部加齢医学)：特発性肺線維症：診断と治療（ATS/ERS Consensus Statement）．日本胸部臨床（克誠堂出版）2001；160：583-625．

### 著 書

- 1) Azuma A, Takahashi T, Kudoh S, Henmi S, Fukuda Y：〔共著〕The Value and Limitation of Transbronchial Lung Biopsy for the Diagnosis of Diffuse Interstitial Lung Diseases（Excerpta Medica, International Congress Series 1217）printed in Netherland．Bronchol Bronchoesophageology：State of the Art（Yoshimura H），2001；pp107-109，Elsevier Science（Netherlands）．



- 2) Kudoh S, Azuma A, Tamaoki J<sup>1)</sup>, Takizawa H<sup>2)</sup>, Goto H<sup>3)</sup>, Nakata K ( <sup>1)</sup> Tokyo Uemen's Med. Collage , <sup>2)</sup> Univ. Tokyo , <sup>3)</sup> Kyorin Univ. ): [ 共著 ] Chapter 12 : Novel Activity of Erythromycin and Its Derivatives . Macrolide Antibiotics ( Omura S ), 2002 ; pp533-569 , Academic Press ( Berllingham, WA ).
- 3) 村田 朗 : [ 共著 ] おもな用語の解説 . 呼吸器疾患の治療と看護 ( 工藤翔二 ), 2001 ; pp406-407 , 南江堂 .
- 4) 工藤翔二 : [ 分担 ] びまん性汎細気管支炎 . 今日の処方 改訂第2版 ( 高久史磨 , 水島 裕 ), 2001 ; pp159-161 , 南江堂 .
- 5) 臼杵二郎 : [ 分担 ] Langerhans細胞組織球症 . 呼吸器疾患最新の治療2001-2003 ( 工藤翔二 , 中田紘一郎 , 貴和敏博 ), 2001 ; pp291-293 , 南江堂 .
- 6) 小林国彦<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦 , 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科 ): [ 共著 ] 緩和ケア . 肺がん診療ハンドブック第2版 , 2001 ; 中外医学社 .
- 7) 小林国彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科 ): [ 共著 ] 肺癌とQOL . QOL評価法マニュアル , 2001 ; インターメディカ .
- 8) 岡野哲也 , 弦間昭彦 : [ 分担 ] 肺癌の遺伝子診断の臨床への応用 . 癌の臨床 , 2001 ; pp495-500 , 篠原出版新社 .
- 9) 海老名雅仁<sup>1)</sup>, 三木 誠<sup>1)</sup>, 吾妻安良太 ( <sup>1)</sup> 東北大学加齢医学研究所 ): [ 翻訳 ] 特発性肺線維症 : 診断と治療 -International Consensus Statement- 米国胸部疾患学会 . 日本胸部臨床 , 2001 ; pp583-625 .
- 10) 村田 朗 : [ 分担 ] 喘鳴 . 日常診療の手引き 呼吸器疾患 vol 32 ( 清水喜八郎 , 松島敏春 , 佐々木英忠 , 永井厚志 ), 2001 ; pp1-8 , 臨床医薬研究会 .
- 11) 吾妻安良太 , 海老名雅仁<sup>1)</sup>, 三木 誠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学加齢医学 ): [ 翻訳 ] 特発性肺線維症 : 診断と治療 ( ATS/ERS Consensus Statement ). 日本胸部臨床 ( 貴和敏博 , 工藤翔二 ), 2001 ; pp583-625 , 克誠堂出版 .
- 12) 村田 朗 , 工藤翔二 : [ 分担 ] 第3章慢性閉塞性肺疾患の診断 慢性閉塞性肺疾患の鑑別されるべき疾患 . 最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 慢性閉塞性肺疾患 : 慢性気管支炎・肺気腫 : 呼吸器1 ( 泉孝英 ), 2001 ; pp99-106 , 最新医学社 .
- 13) 村田 朗 : [ 分担 ] 8 . 鼻腔の清潔 . 呼吸療法マスタースクール ( 毛利昌史 , 町田和子 監修 ), 2001 ; pp91-94 , TECHNO COMMUNICATION .
- 14) 村田 朗 : [ 分担 ] 17 . 病院との連絡 . 呼吸療法マスタースクール ( 毛利昌史 , 町田和子監修 ), 2001 ; pp145-148 , TECHNO COMMUNICATION .
- 15) 村田 朗 : [ 分担 ] 16 . 喫煙 . 呼吸療法マスタースクール ( 毛利昌史 , 町田和子 ), 2001 ; pp137-144 , TECHNO COMMUNICATION .
- 16) 村田 朗 : [ 分担 ] 15 . 将来への影響 . 呼吸療法マスタースクール ( 毛利昌史 , 町田和子 ), 2001 ; pp133-136 , TECHNO COMMUNICATION .
- 17) 村田 朗 : [ 分担 ] 3 . 薬物療法の指導 . 呼吸療法マスタースクール ( 毛利昌史 , 町田和子 ), 2001 ; pp15-26 , TECHNO COMMUNICATION .
- 18) 村田 朗 : [ 分担 ] 1 . 疾患の説明 . 呼吸療法マスタースクール ( 毛利昌史 , 町田和子 ), 2001 ; pp1-8 , TECHNO COMMUNICATION .
- 19) 弦間昭彦 : [ 分担 ] 肺癌と癌抑制遺伝子 . Annual Review 呼吸器 , 2001 ; pp50-55 , 中外医学社 .
- 20) 工藤翔二 : [ 自著 ] 気道異常と全身疾患 , 症候群 . CLIENT21 , 2001 ; pp109-111 , 中山書店 .
- 21) 工藤翔二 : [ 自著 ] 特発性間質性肺炎の診断基準をめぐる歴史的考察 . Annual Review 呼吸器 2002 , 2002 ; pp155-160 , 中外医学社 .
- 22) 宮本晴子 , 吾妻安良太 , 工藤翔二 : [ 分担 ] びまん性汎細気管支炎 . 今日の処方 , 2002 ; pp189-190 , 南江堂 .
- 23) 吉村明修 : [ 分担 ] 疾患の病因と病態 9 . 肺癌発生母地としての特発性肺線維症 . Annual Review 呼吸器 2002 ( 工藤翔二 , 土屋了介 , 金沢 実 , 大田 健 ), 2002 ; pp112-117 , 中外医学社 .
- 24) 村田 朗 : [ 分担 ] 呼吸器系の症候9-1 喘鳴 . 日常診療の手引き 呼吸器疾患 ( 清水喜八郎 , 松島敏春 , 佐々

木英忠, 永井厚志), 2002 ; pp230-238, 臨床医薬研究会 .

- 25) 村田 朗 : [ 分担 ] 呼吸器疾患のおもな症状 . 呼吸器疾患の治療と看護 ( 工藤翔二 ), 2002 ; pp11-20, 南江堂 .
- 26) 村田 朗 : [ 分担 ] 呼吸器疾患のおもな症状 . 呼吸器疾患の治療と看護 ( 工藤翔二 ), 2002 ; pp11-20, 南江堂 .
- 27) 村田 朗 : [ 共著 ] おもな略語の一覧 . 呼吸器疾患の治療と看護 ( 工藤翔二 ), 2002 ; pp400-405, 南江堂 .
- 28) 村田 朗 : [ 共著 ] 包括的呼吸リハビリテーション . 3学会合同呼吸療法認定士「認定更新のための講習会」テキスト ( 3学会合同呼吸療法認定士認定委員会 監修 ), 2002 ; pp40-44, 3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局 .
- 29) 臼杵二郎 : [ 分担 ] ランゲルハンス細胞組織球症 . 呼吸器疾患の治療と看護 ( 工藤翔二 ), 2002 ; pp264-265, 南江堂 .
- 30) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科 ): [ 共著 ] 国内のQOL 調査票 . Technical term 緩和医療, 2002 ; 先端医学社 .
- 31) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科 ): [ 共著 ] 下痢・便秘 . がん化学療法の有害反应对策ハンドブック, 2002 ; 先端医学社 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 工藤翔二 : 慢性呼吸器疾患の急性期治療とその将来展望 . 第四回急性期医療研究会, 2001 . 5 .
- 2) 工藤翔二 : 特発性間質性肺炎の診断基準第4次改定案をめぐって . 第65回間質性肺疾患研究会, 2001 . 11 .

##### (2) 招待講演 :

- 1) 吾妻安良太 : びまん性肺疾患とマクロライド . 第4回札幌間質性肺疾患セミナー, 2001 . 6 .
- 2) 吾妻安良太 : マクロライド系抗生物質の使い方 : 専門医の意見 . 第20回薬物治療研究会, 2001 . 10 .
- 3) 吾妻安良太 : マクロライド療法をめぐる近年の動向 . 第3回 浜松呼吸器感染症セミナー, 2001 . 10 .

##### (3) シンポジウム :

- 1) Gemma A, Hosoya Y, Hosomi Y, Okano T, Kurimoto F, Seike M, Yoshimura A, Shibuya M, Kudoh S, Nishimura N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Genetic Lab, Co. ) : Expression profile analysis for order-made chemotherapy of lung cancer using small specimens . 6th World Congress on Advanced in Oncology and 4th International Symposium on Molecular Medicine, 2001 Creta ( Grrek ), 2001 . 10 .
- 2) 吾妻安良太 : 治療とマクロライド ( 慢性気道感染症の病態と治療の進歩 ) . 第45回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
- 3) 倉根修二 : 結核感染対策としての医学教育 . 第76回日本結核病学会総会, 2001 . 4 .
- 4) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科 ): QOL 研究を行う上でのポイント . 第13回日本アレルギー学会春期臨床大会, 2001 . 10 .

##### (4) パネルディスカッション :

- 1) 村田 朗 : 在宅呼吸ケアの現状と問題のパネルディスカッション . 東京「肺の日」記念フォーラム, 2001 . 11 .

##### (5) セミナー :

- 1) 村田 朗 : 包括的呼吸リハビリテーション . 世田谷区保健所主催「呼吸器教室」, 2001 . 5 .
- 2) 村田 朗 : 包括的呼吸リハビリテーション . 3学会合同呼吸療法士「認定更新のための講習会」, 2002 . 2 .
- 3) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科 ): 肺癌の外来化学療法 . 第42回日本呼吸器学会総会, 2002 . 4 .

##### (6) ワークショップ :

- 1) Azuma A, Henmi S<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Izawa A, Sone S, Kudoh S : Effects of Murine Interferon-beta on Experimental Bleomycin-Induced Lung Injury and Fibrosis in Mice . 5th World Congress on Inflammation ( Edinburgh ), 2001 . 9 .

- 2) Kobayashi K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Saitama cancer center): A cross-validation of the EORTC QLQ-C30 for Japanese . Pan-Pacific Conference of the International Society for Quality of Life Research ( ISOQOL ) TRAINING WORKSHOP , 2001 . 9 .
- 3) 小林国彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター呼吸器科): 告知後ケアマニュアル作成 . 第13回日本緩和医療学会 , 2001 . 10 .

(7) 一般講演 :

- 1) Gemma A, Takenaka K, Hosoya Y, Matsuda K, Seike M, Kurimoto F, Ono Y, Uematsu K, Hibino S, Takeda Y<sup>1)</sup>, Yoshimura A, Shibuya M, Kudoh S (<sup>1)</sup>National International Medical Center): Altered Expression of Many Genes Playing Specific Roles Accumulates in Highly Metastatic Subpopulations of a Human Pulmonary Adenocarcinoma Cell Line .92th annual meeting of American Association for Cancer Research( New Orleans ), 2001 . 4 .
- 2) Ito E, Mochizuki Y, Kaneko Y, Murata A, Takasaki Y : The characteristics of sleep disorder breathing in-japanese elderly . American Thoracic Society, 2001 International Conference ( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 3) Uchida K, Nakata K, Kitamura T, Tanaka N, Inoue Y, Kudoh S, Azuma A, Nukiwa T, Tsuchiya I, Matsushita M, Hashimoto M, Tanaka G, Keicho N : Epitope Mapping of Autoantibody Against GM-CSF Isolated after Sere of Patients with Idiopathic Pulmonary Proteinosis . Am Thoracic Society Meeting ( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 4) Usuki J, Matsuda K, Aoyama A, Azuma A, Kudoh S : Expression of Elastolytic Matrix Metalloproteinases ( MMPs ) in Bleomycin-Induced Pulmonary Fibrosis . American Thoracic Society 97th International Conference ( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 5) Ando M<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>2)</sup>, Hasegawa K<sup>1)</sup>, Seike M, Gemma A, Yoshimura A, Shibuya M, Kosaihiro S<sup>2)</sup>, Yoneda S<sup>2)</sup>, Kudoh S (<sup>1)</sup>Tsuboi Hospital , <sup>2)</sup>Saitama Cancer Center ): Weekly administration of irinotecan ( CPT-11 ) plus cisplatin ( CDDP ) for refractory or relapsed small cell lung cancer ( SCLC ) . 37th annual meeting of american society of clinical oncology ( ASCO )( San Fransisco ), 2001 . 5 .
- 6) Azuma A, L, Yingji, Takahashi Satoru <sup>1)</sup>, U, Jiro, A, Shinji, Matsuda Kuniko, Aoyama Akinori, Enomoto Tatsuji, Miyamoto Haruko, Kudoh S (<sup>1)</sup>Tsukuba Univ. ): FOURTEEN MEMBERED-RING MACRILIDES INHIBIT THE VCAM-1 mRNA INDUCTION PREVENTING NEUTROPHIL INDUCED LUNG INJURY AND FIBROSIS IN BLEOMYCIN CHALLENGED MICE . WASOG Meeting on Diffuse Lung Diseases ( Venice ), 2001 . 6 .
- 7) Murata A, Shibuya A<sup>1)</sup>, Ohta N<sup>1)</sup>, Ono H, Kudoh S (<sup>1)</sup>Japan Women's University ): Study on measuring method of cough sound features . The 26th Annual Cnference of International Lung Sounds association ( Berlin ), 2001 . 9 .
- 8) Ono H, Murata A, Kudoh S, Shibuya A<sup>1)</sup>, Muratake T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Japan Women's School , <sup>2)</sup>Kenz Medico Co.Ltd ): The evaluation on the efficacy of the phonopneumograph in the non-invasive diagnosis of interstitial pneumonia . The 26th Annual Cnference of International Lung Sounds association ( Berlin ), 2001 . 9 .
- 9) Kurane S, Kudoh S, Watari E<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Microbiology and Immunology ): A sensitive interferon assay capable of detecting nosocomial Mycobacterium tuberculosis infection . 34th Annual Meeting of Infectious Disease Society of America ( San Fransisco ), 2001 . 9 .
- 10) Sonya Eremenco L, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Kojiro S, David C (<sup>1)</sup>Saitama Cancer Center ): Comparison of Japanese Functional Assessment of Cancer Therapy - General Version ( FACT-G ) in Version 3 and Version 4 . Pan-Pacific Conference of the International Society for Quality of Life Research ( ISOQOL ), 2001 . 9 .
- 11) Yamaoka K, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Ogoshi K, Shigehisa T, Hayashi C (<sup>1)</sup>Saitama Cancer Center ): Health-related

- quality of life among lung cancer patients . Pan-Pacific Conference of the International Society for Quality of Life Research ( ISOQOL ), 2001 . 9 .
- 12) Gemma A, Ichinose Y, Nakai Y, Semba H, Shibuya M, Kudoh S : UFT plus cisplatin with concurrent radiotherapy for locally advanced non small-cell lung cancer : a multiinstitutional phase II trial . The European Cancer Conference 11 ( Lisbon ), 2001 . 10 .
  - 13) Ikegami T, Latham patrica, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Arimori K ( <sup>1)</sup>Saitama Cancer Center ): Bernard Bouscarel Effect of intestinal alkalization on irinotecan ( CPT-11 )-induced diarrhea in the golden syrian hamster model . gastroenterology , 2001 . 10 .
  - 14) 武村 明, 吉村明修, 工藤翔二, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>2)</sup>, 松本満臣<sup>3)</sup>, 宮本忠昭<sup>4)</sup>, 松本 徹<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学放射線医学, <sup>2)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>3)</sup>東京都立保健科学大学, <sup>4)</sup>放射線医学総合研究所 ): 荒川区がん予防センターにおけるらせんCTによる肺癌1次検診の追跡調査 . 第60回日本肺癌学会総会, 2001 . 10 .
  - 15) 岡野哲也, 栗本太嗣, 弦間昭彦, 竹中 圭, 清家正博, 清家曜子, 植松和嗣, 細見幸生, 工藤翔二 : IV 期肺癌における8番染色体単腕および3番染色体単腕のアレル欠失の検討 . 第41回呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 16) 村田 朗, 伊藤永喜, 金子泰之, 望月裕子, 高崎雄司 : 携帯型加速度計内臓歩数計による睡眠時無呼吸症候群患者の日常生活活動量の評価 . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 17) 村田 朗, 工藤翔二 : 咳嗽音の波形の特徴と識別法の研究 . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 18) 平松久弥子<sup>1)</sup>, 海老沢雅子<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 都築 関<sup>1)</sup>, 木村和義<sup>1)</sup>, 野村浩一郎<sup>1)</sup>, 渡海裕文<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>国立東静岡病院呼吸器科, <sup>2)</sup>国立東静岡病院麻酔科 ): 当科にて人工呼吸器管理を要した症例の検討-入院医療費を含めて . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 19) 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 安藤真弘<sup>1)</sup>, 吉岡央子<sup>1)</sup>, 堀江秀治<sup>1)</sup>, 渡辺秀一<sup>1)</sup>, 長谷川浩一<sup>1)</sup>, 羽生忠義<sup>1)</sup>, 坪井栄孝<sup>1)</sup>, 奈良道哉, 神尾孝一郎, 竹中 圭, 工藤翔二 ( <sup>1)</sup>慈山会医学研究所坪井病院 ): 切除不能非小細胞肺癌に対する Docetaxel ( DOC ) : Cisplatin ( CDDP ) 併用療法の検討 . 第41回 日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 20) 林原賢治<sup>1)</sup>, 松本亜紀<sup>1)</sup>, 今高晶子<sup>1)</sup>, 奈良道哉<sup>1)</sup>, 青木弘道<sup>1)</sup>, 橋本健一<sup>1)</sup>, 斉藤武文<sup>1)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup>, 柳内登<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科, <sup>2)</sup>国立療養所晴嵐荘病院外科 ): 当院における抗結核菌糖脂質抗原 ( TBGL 抗原 ) 抗体による結核診断の臨床的検討 . 第76回日本結核病学会, 2001 . 4 .
  - 21) 松本亜紀<sup>1)</sup>, 今高晶子<sup>1)</sup>, 奈良道哉<sup>1)</sup>, 青木弘道<sup>1)</sup>, 橋本健一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斉藤武文<sup>1)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup>, 柳内登<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科, <sup>2)</sup>国立療養所晴嵐荘病院外科 ): 結核定期検診の有用性の検討-自験例での分析から- . 第76回日本結核病学会, 2001 . 4 .
  - 22) 宮本晴子, 榎本達治, 新原礼子, 伊藤永喜, 清家正博, 阿部信二, 高橋卓夫, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 吉村明修, 工藤翔二 : 細胞診で検出されずPCRでカリニ肺炎と診断された . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 23) 倉根修二, 工藤翔二, 渡理英二<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>微生物学・免疫学 ): 末梢血ガンマイインターフェロン産生能を用いた結核感染対策の試み . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 24) 榎本達治, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 高橋卓夫, 宮本晴子, 阿部信二, 工藤翔二 : 慢性関節リウマチ患者における血清KL-6測定の有用性について . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 25) 榎原桂太郎<sup>1)</sup>, 打越 暁<sup>1)</sup>, 森本泰介<sup>1)</sup>, 山里将也<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>1)</sup>, 土田知史<sup>2)</sup>, 坂本和裕<sup>2)</sup>, 永野尚登<sup>3)</sup>, 武内浩一郎<sup>1)</sup>, 三上理一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜労災病院 呼吸器科, <sup>2)</sup>同呼吸器外科, <sup>3)</sup>同放射線科 ): 食道癌放射線治療後に発症した呼吸器疾患に関する臨床的検討 . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
  - 26) 武村 明, 吉村明修, 安藤真弘, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>2)</sup>, 松本満臣<sup>3)</sup>, 松本 徹<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学放射線医学, <sup>2)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>3)</sup>東京都立保健科学大学, <sup>4)</sup>放射線医学総合研究所 ): 肺癌らせんCT検診の有効性 ( 中間報告 ) . 第98回日本内科学会総会, 2001 . 4 .
  - 27) 鈴木淳子, 細見幸生, 武村 明, 栗本太嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二 : 骨髄線維症の経過中に発見され

- た溶接工肺に合併した肺扁平上皮癌の1例．第130回肺癌学会関東地方会，2001．5．
- 28) 木田厚瑞<sup>1)</sup>，桂 秀樹<sup>1)</sup>，山田浩一<sup>1)</sup>，茂木 孝<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>1)</sup>，野村浩一郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人医療センター呼吸器科，<sup>2)</sup>日本医科大学第4内科，<sup>3)</sup>国立東静岡病院呼吸器科)：高齢者の気管支ぜん息，慢性気管支炎，肺気腫の保健指導に関する研究．公害健康被害補償予防協会委託「大気汚染による健康影響に関する総合的研究」．第12回 研究懇話会，2001．5．
- 29) 奈良道哉<sup>1)</sup>，松本亜紀<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科)：胸部X-P上，明らかな活動性陰影を認めなかった肺結核の2例：胸部CT上 tree bud signの意義．第139回日本結核病学会関東支部会，2001．5．
- 30) 奈良道哉<sup>1)</sup>，松本亜紀<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>，森下由紀夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科，<sup>2)</sup>国立療養所晴嵐荘病院病理部)：切除により診断し得た非結節型肺結核の2例．第97回日本気管支学会関東支部会，2001．6．
- 31) 松本亜紀<sup>1)</sup>，奈良道哉<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科)：定期結核健診の有効性について：国立療養所晴嵐荘病院症例の検討から．第163回茨城県内科集団会，2001．6．
- 32) 松本亜紀<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，奈良道哉<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科)：定期結核健診の有効性について：自験例の検討から．第145回日本呼吸器学会関東地方会，2001．7．
- 33) 森山 岳，岡野哲也，日比野俊，吉村明修，渋谷昌彦，工藤翔二，逸見しのぶ<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)：腸腰筋転移を認めた扁平上皮肺癌の1例．第131回日本肺癌学会関東地方会，2001．7．
- 34) 渋谷惇夫<sup>1)</sup>，太田奈緒<sup>1)</sup>，村田 朗，工藤翔二(<sup>1)</sup>日本女子大学家政学会)：咳嗽音の特徴抽出の研究．日本機械学会，2001．8．
- 35) 山本雪貴美<sup>1)</sup>，吉田由紀子<sup>1)</sup>，五十嵐亜希<sup>1)</sup>，中村利枝<sup>1)</sup>，菅谷寿理<sup>1)</sup>，斉藤公一<sup>1)</sup>，本間 博<sup>1)</sup>，墨田 肇<sup>1)</sup>，山本和男，村田 朗，工藤翔二(<sup>1)</sup>生理機能センター)：呼気一酸化炭素(NO)濃度に環境NOが与える影響．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 36) 平松久弥子，榎本達治，逸見しのぶ<sup>1)</sup>，鈴木 学，谷内七三子，小野啓資，宮本晴子，臼杵二郎，吾妻安良太，倉根修二，吉村明修，福田 悠<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>2)</sup>，工藤翔二(<sup>1)</sup>病理第1，<sup>2)</sup>老人病研究所病理部門)：BOOPパターン肺病変を合併したHIV感染者の1例．第145回日本呼吸器学会関東地方会，2001．9．
- 37) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>，森下由紀夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科，<sup>2)</sup>同病理部)：自然経過中に，陰影が遊走した続発性肺クリプトコッカス症の1例．第146回日本呼吸器学会関東地方会，2001．9．
- 38) 鈴木淳子<sup>1)</sup>，野呂林太郎<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科，<sup>2)</sup>同病理部)：喀痰抗酸菌直接塗沫法陽性を示した非空洞性肺抗酸菌症例の検討．第146回日本呼吸器学会関東地方会，2001．9．
- 39) 弦間昭彦，植松和嗣，吉村明修，渋谷昌彦，工藤翔二：肺腺癌高転移株における関連遺伝子発現異常の蓄積．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 40) 加藤英治，山本和男，伊藤永喜，村田 朗，吉村明修，工藤翔二，逸見しのぶ<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1講座)：HTLV-1関連肺病変との鑑別が困難であったPM/DMに伴うBOOPの1例．第146回日本呼吸器学会関東地方会，2001．9．
- 41) 山本和男，村田 朗，小野啓資，伊藤永喜，工藤翔二：大気環境の生体に及ぼす影響に関する客観的評価法の検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 42) 榎原桂太郎，宮本晴子，平松久弥子，榎本達治，水谷英明，藤本雅美，鈴木淳子，谷内七三子，阿部信二，吾妻安良太，吉村明修，工藤翔二，逸見しのぶ<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)：慢性過敏性肺臓炎の

4症例に関する検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．

- 43) 高橋卓夫，吾妻安良太，宮本晴子，榎本達治，臼杵二郎，山口恵子<sup>1)</sup>，大原國俊<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>(1)</sup>眼科学): サルコイドーシスにおける血清sIL-2Rの検討．第21回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会，2001．10．
- 44) 榎原桂太郎，宮本晴子，榎本達治，臼杵二郎，吾妻安良太，工藤翔二：慢性過敏性肺炎の4症例に関する検討．第21回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会，2001．10．
- 45) 細見幸生，弦間昭彦，清家曜子，岡野哲也，渋谷昌彦，工藤翔二：原発性肺癌および肺癌細胞株におけるhMSH3，hMSH6，BAXおよびCaspase-5のフレームシフト変異の検討．第42回肺癌学会総会，2001．11．
- 46) 細見幸生，吉村明修，清家正博，安藤真弘<sup>1)</sup>，岡野哲也，日比野俊，弦間昭彦，渋谷昌彦，工藤翔二<sup>(1)</sup>坪井病院): 進展型小細胞肺癌および癌性胸膜炎合併限局型小細胞肺癌に対するCBDCA+ETOPと分割投薬によるCDDP+CPT-11交替化学療法．癌治療学会，2001．11．
- 47) 東佐登史，細見幸生，上田有香，古川大輔，日比野俊，弦間昭彦，吉村明修，渋谷昌彦，工藤翔二，逸見しのぶ<sup>1)</sup>，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第一): 下垂体転移に伴う低Na血症を契機に発見された肺癌の1例．肺癌学会地方会，2001．11．
- 48) 太田奈緒<sup>1)</sup>，渋谷惇夫<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>2)</sup>，小野啓資<sup>2)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本女子大学家政学科): 咳嗽モニタリングシステムの設計．第26回肺音（呼吸音）研究会，2001．11．
- 49) 村田 朗，小野啓資，工藤翔二，太田奈緒<sup>1)</sup>，渋谷惇夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本女子大学家政学科): 咳嗽モニタリングシステムを用いた臨床応用．第26回肺音（呼吸音）研究会，2001．11．
- 50) 小野啓資，村田 朗，工藤翔二，渋谷惇夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本女子大学家政学科): 肺音計による間質性肺炎の非侵襲的診断の可能性に関する研究．第26回肺音（呼吸音）研究会，2001．11．
- 51) 堀江秀治<sup>1)</sup>，安藤真弘<sup>1)</sup>，渡辺秀一<sup>1)</sup>，栗本太嗣<sup>1)</sup>，水谷英明<sup>1)</sup>，森山 岳<sup>1)</sup>，岩波 洋<sup>1)</sup>，日吉晴久<sup>1)</sup>，安孫子正美<sup>1)</sup>，和知栄子<sup>1)</sup>，赤沼弘勝<sup>1)</sup>，長谷川浩一<sup>1)</sup>，羽生忠義<sup>1)</sup>，坪井栄孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慈山会医学研究所 坪井病院): 当院における肺カルチノイド腫瘍12例の検討．第二回福島呼吸器フォーラム，2001．11．
- 52) 奈良道哉：原発性肺癌と診断され，加療中肺炎を併発して入院後40日の経過で死亡した25歳女性の症例．第25回臨床呼吸器カンファレンス，2001．11．
- 53) 鈴木淳子<sup>1)</sup>，野呂林太郎<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): 治療経過中に増悪したウェゲナー肉芽腫症．第147回日本呼吸器学会関東地方会，2001．11．
- 54) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>，井上宏司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科，<sup>2)</sup>東海大学呼吸器外科): 血球貪食症候群を契機に診断されたARDS合併粟粒結核の1例．第164回茨城県内科集団会，2001．11．
- 55) 鈴木淳子<sup>1)</sup>，野呂林太郎<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): Nasal CPAPが有効であった肥満低換気症候群の1例．第6回IRC（Ibaraki Respiration Conference），2002．1．
- 56) 森山 岳<sup>1)</sup>，安藤真弘<sup>1)</sup>，渡辺秀一<sup>1)</sup>，栗本太嗣<sup>1)</sup>，堀江秀治<sup>1)</sup>，水谷英明<sup>1)</sup>，岩波 洋<sup>1)</sup>，日吉晴久<sup>1)</sup>，安孫子正美<sup>1)</sup>，和知栄子<sup>1)</sup>，赤沼弘勝<sup>1)</sup>，坪井栄孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慈山会医学研究所坪井病院): 当院における肺カルチノイド12例の検討．第166回日本内科学会東北地方会，2002．2．
- 57) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): 血球貪食症候群を伴った粟粒結核の2例．第148回日本呼吸器学会関東地方会，2002．2．
- 58) 林原賢治<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，野呂林太郎<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): 慢性肺当院における抗結核菌糖脂質抗原（抗TBGL抗体）における結核血清診断の偽陽性，偽陰性の検討．第1回第四内科教室呼吸器研究会，2002．2．
- 59) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斉藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): プロスタサイクリン持続静注療法により状態改善し得た慢性型肺血栓症の1例．第27回茨城臨

床核医学研究会，2002．3．

(8) ポスター：

- 1) Okano Tetsuya, Gemma Akihiko, Takenaka Kiyoshi, Hosoya Yoko, Matuda Kuniko, Seike Masahiro, Kurimoto Futosi, Ono Yasushi, Uematsu Kazutsugu, Takeda Yuichiro<sup>1)</sup>, Hibino Suguru, Yoshimura Akinobu, Shibuya Masahiko, Kudoh Shoji ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonology, International Medical Center of Japan ): Altered expression of many genes playing specific roles accumulates in highly metastatic subpopulations of a human pulmonary adenocarcinoma cell line . American Thoracic Society ( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 2) Ando M<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>2)</sup>, Yoshioka H<sup>1)</sup>, Hasegawa K<sup>1)</sup>, Seike M, Gemma A, Yoshimura A, Shibuya M, Koisai Hira S<sup>2)</sup>, Yoneda S<sup>2)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup> Tuboi Cancer Center Hospital , <sup>2)</sup> Saitama Cancer Center ): Weekly Administration of Irinotecan ( CPT-11 ) Plus Cisplatin ( CDDP ) for Refractory or Relapsed Small Cell Lung Cancer . 37th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology ( ASCO )( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 3) 細見幸生, 清家正博, 弦間昭彦, 細谷曜子, 岡野哲也, 栗本太嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 原発性肺癌におけるM期チェックポイント関連遺伝子の異常解析 . 呼吸器学会, 2001 . 4 .
- 4) 奈良道哉<sup>1)</sup>, 松本亜紀<sup>1)</sup>, 今高晶子<sup>1)</sup>, 青木弘道<sup>1)</sup>, 橋本健一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斉藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 ): Ga シンチで骨シンチ様の所見を呈したびまん性肺疾患3症例 . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
- 5) 林原賢治<sup>1)</sup>, 松本亜紀<sup>1)</sup>, 今高晶子<sup>1)</sup>, 奈良道哉<sup>1)</sup>, 青木弘道<sup>1)</sup>, 橋本健一<sup>1)</sup>, 斉藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 ): 長期経過を追えたびまん性汎細気管支炎症例の検討 . 第41回日本呼吸器学会総会, 2001 . 4 .
- 6) 松本亜紀<sup>1)</sup>, 今高晶子<sup>1)</sup>, 奈良道哉<sup>1)</sup>, 青木弘道<sup>1)</sup>, 橋本健一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斉藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 ): 慢性間質性肺炎家族発生の2家系 . 第41回日本呼吸器学会, 2001 . 4 .
- 7) Hosomi Y, Seike M, Gemma A, Hosoya Y, Kudoh S : Mutation Analysis of Mitotic Checkpoint Genes In Lung Cancer . 日本医科大学学会総会, 2001 . 9 .
- 8) 鄒 大同, 篠田欣也, 日比野俊, 小野 靖, 松田久仁子, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 新規MMP阻害剤FK-2の人腫瘍細胞株に対する影響の検討 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 9) 岡野哲也, 吉村明修, 清家正博, 安藤真弘, 細見幸生, 日比野俊, 弦間昭彦, 渋谷昌彦, 工藤翔二: ED及び癌性胸膜炎合併限局型 ( LD-PE ) 小細胞肺癌に対するCBDCA+ETOPと分割投与によるCDDP+CPT-11交替化学療法 . 日本肺癌学会総会, 2001 . 11 .
- 10) 林原賢治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 ): 当院における抗結核菌糖脂質抗原 ( TBGL 抗原 ) 抗体による結核診断の臨床的検討 . 第56回国立病院療養所総合医学会, 2001 . 11 .
- 11) Hosomi Y, Seike M, Gemma A, Hosoya Y, Kudoh S : Mutation Analysis of Mitotic Checkpoint Genes In Lung Cancer . American Thoracic Society ( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 12) 岡野哲也, 弦間昭彦, 竹中 圭, 細谷曜子, 松田久仁子, 清家正博, 栗本太嗣, 小野 靖, 植松和嗣, 竹田雄一郎, 日比野俊, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: Altered expression of many genes playing specific roles accumulates in highly metastatic subpopulations of a human pulmonary adenocarcinoma cell line . がん分子標的治療研究会総会, 2001 . 6 .

(9) 要望演題：

- 1) 奈良道哉<sup>1)</sup>, 松本亜紀<sup>1)</sup>, 今高晶子<sup>1)</sup>, 青木弘道<sup>1)</sup>, 橋本健一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斉藤武文<sup>1)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup>, 柳内登<sup>2)</sup>, 森下由紀夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科, <sup>2)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院外科, <sup>3)</sup> 筑波大学病理部 ): 経過中, 中部食道に粘膜下腫瘤様病変を呈した肺結核の1例 . 第76回日本結核病学会総会, 2001 . 4 .

## 5. 精神医学講座

### [ 付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ]

#### 研究概要

教室の研究領域は、精神・神経生理学的研究を主体とし、コンサルテーション・リエゾン精神医学、催眠や心理療法、セネストパチーをはじめとした様々な臨床研究、精神薬理研究があり、研究対象もうつ病をはじめとして、老年期精神障害、アルコール依存、神経症性障害、摂食障害、セネストパチー、自殺、睡眠障害など多岐に亘る。

精神生理学的研究では、アルコール依存のハイリスク群、単極性うつ病、口腔内セネストパチー、薬物乱用者などの事象関連電位研究の成果が公表された。また、SPECTや3D-SSPによる脳画像研究が活発に行われ、老年期うつ病や口腔内セネストパチー症例で重要な知見が得られ公表されている。

うつ病では、脳卒中後のうつ病を含むvascular depression に対し脳画像、治療など様々な検討が行われたことは本年度特記すべきことであり、アイオワ大学のRobinnson教授の研究に参加したメンバーが新しい研究を展開し始めていることの現われである。睡眠・時間生物学的研究もアルツハイマー型痴呆の概日リズムに対する影響の観点から、高照度光療法やビタミンB12投与との併用療法などが活発に研究され成果をあげている。コンサルテーション・リエゾン精神医学の領域では重篤な身体疾患や中枢神経損傷にともなう自殺念慮が研究されいくつかの成果が公表された。慢性呼吸器疾患における不安や抑うつ症状の研究が開始され、また、国立がんセンター精神腫瘍学研究にも参加している。

催眠研究では、臨牀的・治療的視点からの業績が主であった。また、精神分析的視点から、催眠、家族、摂食障害についての研究成果が公表された。精神薬理学的研究では、新たに脳卒中後うつ病の治療としてSNRIの効果が検討された。また、トリアゾラムを中心に睡眠薬の持ち越し効果についての検討が行われた。その他、modified ECT 施行例の再発・再燃、安全性の問題の検討、救急医学、医療改革等に関する業績も挙げられている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kishi Y, Robinson RG<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Oregon Health Science University, Department of Psychiatry ): Putting Biological, Personal, and Social Factors into Perspective When Evaluating Patients Who Attempt Suicide . *Medicine and Psychiatry* 2001 ; 4 ( 1 ): 6-10 .
- 2) Yamadera H, Okawa M, Takahashi K : Open study of alprazolam on seasonal affective disorder . *Psychiatry and Clinical Neuroscience* 2001 ; 55 ( 1 ): 27-30 .
- 3) Kimura M, Mori T, Suzuki H, Kawano K<sup>1)</sup>, Endo S ( <sup>1)</sup> Center for Informatics and Science ): EEG changes in order effects after the stress of long monotonous work . *J Intl soc Life Info Sci* 2001 ; 19 ( 2 ): 271-278 .
- 4) Kimura M, Murata Y, Shimoda K, Robinson RG ( <sup>1)</sup> Dept. of Psychiatry, The University of Iowa college of Medicine ): Sexual dysfunction following stroke . *Compr Psychiatry* 2001 ; 42 ( 3 ): 217-222 .
- 5) Hada M, Porjesz B<sup>1)</sup>, Chorlian D<sup>1)</sup>, Begleiter H<sup>1)</sup>, Polich J<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Psychiatry, SUNY Health Science Center at Brooklyn, Brooklyn, New York , <sup>2)</sup> Dept. of Psychiatry, Cognitive Electrophysiology Laboratory, Dept. of Neuropharmacology, The Scripps Reseach Institute, La Jolla, Carifornia ): Auditory P3a Deficits in Male Subjects at High Risk for Alcoholism . *BIOL PSYCHIATRY* 2001 ; 49 ( 8 ): 726-738 .
- 6) Kishi Y, Robinson RG<sup>1)</sup>, Kosier JT<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Iowa, Department of Psychiatry ): Suicidal ideation



among patients with acute life-threatening physical illness : Patients with stroke, traumatic brain injury, myocardial infarction, and spinal cord injury . Psychosomatics 2001 ; 42 ( 5 ) : 382-390 .

- 7) Akechi T<sup>1)</sup>, Okamura H<sup>1)</sup>, Ueda S<sup>1)</sup>, Akizuki N<sup>1)</sup>, Nakanishi T<sup>1)</sup>, Yoshiikawa E, Matsuki H<sup>1)</sup>, Hirabayashi E<sup>1)</sup>, Uchitomi Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立がんセンター研究所支所精神腫瘍学研究部) : Psychiatric disorders in cancer patients descriptive analysis of 1721 psychiatric referrals at two Japanese cancer center hospitals . Japanese Journal of Clinical Oncology 2001 ; 31 ( 5 ) : 188-194 .
- 8) Ito T, Yamadera H, Ito R, Suzuki H, Asayama K, Endo S : Effects of vitaminB12 added on the bright light on cognitive and sleep-awake rhythm in Alzheimer-type dementia . Psychiatry and Clinical Neurosciences 2001 ; 55 ( 3 ) : 281-282 .
- 9) Kishi Y, Robinson RG<sup>1)</sup>, Kosier JT<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Iowa, Department of Psychiatry ) : Suicidal ideation among patients during the rehabilitation periods after life-threatening physical illness . J Nerv Ment Dis 2001 ; 189 ( 9 ) : 623-628 .
- 10) 遠藤幸彦 : 神経性無食欲症の1例におけるエディプス・コンプレックス . 精神分析研究 2001 ; 45 ( 1 ) : 44-53 .
- 11) 遠藤幸彦, 鈴木博子, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 催眠と心理療法, 精神分析の立場から . 催眠と科 2001 ; 16 ( 1 ) : 1-7 .
- 12) 遠藤幸彦 : 家族 . 「小児・思春期の精神障害治療ガイドライン」精神科治療学16巻増刊号 2001 ; 16 ( 増刊 ) : 131-137 .
- 13) 遠藤幸彦 : 神経性大食症 . 「小児・思春期の精神障害治療ガイドライン」精神科治療学16巻増刊号 2001 ; 16 ( 増刊 ) : 355-358 .
- 14) 館野 周, 木村真人, 下田健吾, 葉田道雄, 森 隆夫, 鈴木博子, 村田雄一, 遠藤俊吉, 水村 直<sup>1)</sup>, 佐藤田鶴子(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>日本歯科大学歯学部口腔外科学) : セネストパチーの123I-IMP SPECT 所見 : うつ病との比較 . 脳と精神の医学 2001 ; 12 ( 2 ) : 111-222 .
- 15) 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 鈴木博子, 木村真人, 藤屋哲夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>すずき病院) : 維持期電気痙攣療法に対する日帰り麻酔の安全性検討 . 日臨麻会誌 2001 ; 21 ( 10 ) : 495-501 .
- 16) 木村真人 : 脳卒中後うつ病-うつ病の最近の動向 . 医のあゆみ 2001 ; 197 ( 6 ) : 488-489 .
- 17) 山寺博史, 鈴木英朗, 朝山健太郎, 伊藤敬雄, 工藤吉尚, 遠藤俊吉 : トリアゾラムとプロチゾラムの睡眠および翌朝の眠気に関する研究 . 診断と治療 2001 ; 89 ( 4 ) : 703-709 .
- 18) 森 隆夫 : 21世紀の精神病床のあり方-地域に根ざした医療改革 . 日精病協誌 2001 ; 20 ( 5 ) : 31-35 .
- 19) 葉田道雄, 木村真人, 森 隆夫, 鈴木博子, 鬼頭 諭, 遠藤俊吉 : 単極性うつ病患者におけるP3分布の縦断的比較 . 臨床脳波 2001 ; 43 ( 6 ) : 374-379 .
- 20) 朝田 薫, 森 隆夫, 木村真人, 遠藤俊吉 : 摂食障害者における定量脳波分析 . 心身医 2001 ; 41 ( 5 ) : 352-358 .
- 21) 伊藤敬雄, 山寺博史, 伊藤理津子, 遠藤俊吉 : アルツハイマー型痴呆患者の睡眠・覚醒リズム, および認知機能に対する高照度光療法と methylcobalamin ( VB12 ) 経口投与療法の併用療法の影響 . 日薬物脳波会誌 2001 ; 3 ( 1 ) : 18-20 .
- 22) 伊藤敬雄, 山寺博史, 金子和磨, 工藤吉尚, 遠藤俊吉, 高橋 聡<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター) : 高度救命救急センターに収容されて事例化した精神分裂病初発例の3症例 : 精神科 consultation-liaison serviceの立場から . 臨精医 2001 ; 30 ( 11 ) : 1349-1356 .
- 23) Paula TT<sup>1)</sup>, 岸 泰宏, 保坂 隆<sup>2)</sup>, 吉川栄省, 中村優里<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Eli Lilly and Company, Indianapolis, Indiana, USA, <sup>2)</sup>東海大学医学部精神科) : 日本語版せん妄評価尺度98年度改訂版 . 精神医 2001 ; 516 ( 43 ) : 1365-1371 .

## (2) 綜説 :

- 1) 高石 昇 : 会長講演 : 臨床催眠の今日的意義と本学会の基本姿勢 . 臨床催眠学 2001 ; 2 : 10-13 .
- 2) Huyse FJ<sup>1)</sup>, 忽滑谷和孝<sup>2)</sup>, 高梨葉子<sup>2)</sup>, 館 直彦<sup>2)</sup>, 佐藤 武<sup>3)</sup>, 岸 泰宏, 保坂 隆<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Department of

- Psychiatry, Free University Medical Center, Netherlands, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学精神医学教室, <sup>3)</sup>佐賀大学健康管理センター, <sup>4)</sup>東海大学医学部精神学教室): コンサルテーション・リエゾン精神医学の現状: 将来の発展の為のモデル. 総合病院精神医学 2001; 13(1): 1-7.
- 3) 山寺博史: 5. 急に部屋のなかの酸素が足りないようで, 息苦しいと訴える女性が来たら: 一般医のための外来診療のヒント. 診断と治療(増刊号) 2001; 89(suppl): 467-472.
- 4) 山寺博史: 特集 急性中毒 的確な治療のために メラトニン. 救急医 2001; 25(2): 242-243.
- 5) 山寺博史: 睡眠障害のトピックス: 睡眠・覚醒リズム障害について. J Nippon Med Sch 2001; 68(4): 344-348.
- 6) 遠藤俊吉: 自我障害(離人, 作為体験)「症候から診断へ第4集」心理・精神機能. 日医師会誌 2001; 125(4): 40-44.
- 7) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 救命救急センターに収容された自殺企図症例ならびに自殺予防策. 日精病協誌 2001; 20(5): 17.
- 8) 桂川修一<sup>1)</sup>, 井原 裕<sup>2)</sup>, 岸 泰宏, 菅原道哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学医学部付属大橋病院, <sup>2)</sup>国立療養所南花巻病院, <sup>3)</sup>東邦大学医学部神経精神医学教室): 諸外国からみた措置入院. 精神科治療 2001; 16(7): 683-688.
- 9) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 自殺企図者の再企図予防. 救急医 2001; 25(8): 951-954.
- 10) 岸 泰宏: “うつ状態の患者へ看護のポイント” 自殺企図後, 希死念慮をもった患者への看護のポイント. 臨床看護 2001; 27(8): 1206-1209.
- 11) 森 隆夫, 木村真人, 遠藤俊吉: 新薬登場による臨床現場の変化-大学病院から. 精神科治療学 2001; 16(11): 1145-1150.
- 12) 岸 泰宏: 希死念慮のあるうつ病. 今月の治療 2001; 9(10): 1141-1144.
- 13) 木村真人: 痴呆症Q & A-家族・介護者からの質問にどう答えるか: 老年期のうつ病といわれましたが痴呆症の前兆ですか. CLINICIAN 2001; 48(506): 70-72.
- 14) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 精神疾患を有する患者の周術期管理. 別冊整形外科 2001; (40): 53-59.
- 15) 岸 泰宏: 救急隊員のためのストレスマネジメント“医療従事者のストレス対策: 医師の立場から”. 救急医療ジャーナル 2002; 53(1): 8-11.
- 16) 岸 泰宏: 自殺患者のケア. 救急医 2002; 26(1): 43-46.
- 17) 木村真人: 軽症うつ病の診療における病診連携. 成人病と生活習慣病 2002; 32(1): 49-51.
- 18) 高石 昇: 巻頭言: 臨床催眠と実験催眠. 臨床催眠学 2002; 3(2).
- 19) 高石 昇: 展望: 催眠療法とインフォームドコンセント. 臨床催眠学 2002; 3: 11-15.
- 20) 岸 泰宏: 自殺をほのめかしている患者, 自殺未遂者と思われる患者への対応・Followをどのようにしたら良いか教えてください. 治療 2002; 84(3): 994-998.
- (3) 研究報告書:
- 1) 下田健吾, 木村真人, 田村良敦, 村田雄一, 葉田道雄, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 水村 直<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 3D-SSPにおいて初期のアルツハイマー型老年期痴呆の所見がみられた老年期うつ病の3例について. 老年精神医学雑誌 2001; 12(5): pp557-558.
- 2) 工藤吉尚, 亀井雄一<sup>1)</sup>, 中嶋常夫<sup>1)</sup>, 中西かおる<sup>1)</sup>, 塚田和美<sup>1)</sup>, 樋口輝彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立精神・神経センター国府台病院精神科): 慢性腎不全に伴いspike-wave stuporを呈した1例. 精神科治療 2001; 16(10): pp1069-1075.
- (4) 学会印象記:
- 1) 木村真人: 「第6回日本神経精神医学会」印象記. 精神医学 2001; 43(10): 1154-1155.
- 2) 森 隆夫: 第6回日本神経精神医学会印象記. 臨床精神医学 2001; 30: 1266-1267.
- (5) 巻頭言:
- 1) 遠藤俊吉: 巻頭言. 精神科救急 2001; 4: 1-2.
- 2) 遠藤俊吉: 精神科卒後研修. 心と社会 2001; (104): 7-10.

(6) 書評：

- 1) 遠藤幸彦：「思春期を生きぬく」R. アンダーソン, A. ダーティントン編．精神分析研究 2001；45(2)：200-202．

(7) 症例報告：

- 1) 渡 路子, 葉田道雄, 木村真人, 下田健吾, 森 隆夫, 遠藤俊吉：多剤乱用者と単剤乱用者のERPおよび脳血流SPECT．臨床脳波 2002；44(3)：201-205．

著 書

- 1) 遠藤俊吉, 森 隆夫：〔共著〕精神科医が語るよくわかる子供のこころの病気, 2001；成美堂出版．
- 2) 田中朱美<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉<sup>(1)</sup>東京女子医科大学精神医学教室)：〔分担〕精神的疲労回復戦略・アロマテラピー．疲労の科学(井上正康, 倉垣弘彦, 渡邊恭良), 2001；pp207-211, 講談社．
- 3) 山寺博史, 木下俊彦, 千葉 茂：〔監訳〕薬物脳波学の進歩, 2001；星和書店．
- 4) 黒澤 尚, 長谷川朝穂：〔分担〕New 精神医学(上島国利・丹羽真一), 2001；pp137-143, 南江堂．
- 5) 遠藤俊吉：〔分担〕生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群．1. 概論2. 摂食障害および4. 性機能不全, 器質性の障害あるいは疾患によらないもの5. 産褥に関連した精神および行動の障害, 他に分類できないもの．New 精神医学(上島国利, 丹羽真一), 2001；pp237-249, 南江堂．
- 6) 遠藤俊吉：〔分担〕生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群．1. 概論2. 摂食障害および4. 性機能不全, 器質性の障害あるいは疾患によらないもの5. 産褥に関連した精神および行動の障害, 他に分類できないもの．New 精神医学(上島国利, 丹羽真一), 2001；pp254-256, 南江堂．
- 7) 山寺博史：〔分担〕不眠-睡眠薬の使い方．今日の治療指針2002(多賀須幸男, 尾形悦郎監修), 2002；pp624-625, 医学書院．
- 8) 遠藤俊吉：〔分担〕うつ病性障害．Today's Therapy 今日の治療指針(多賀須幸男, 尾形悦郎), 2002；pp616-616, 医学書院．
- 9) 森 隆夫：〔翻訳〕序章：問題の明確化．歴史的背景．情動における脳組織と脳の基礎．脳血管構造と脳卒中中の分類．脳卒中における臨床神経精神医学(Robert G Robinson(監訳 遠藤俊吉, 木村真人)), 2002；pp3-42, 星和書店．
- 10) 葉田道雄：〔翻訳〕生物学的マーカー．脳卒中後うつ病のメカニズム．脳卒中後うつ病の治療．脳卒中における臨床神経精神医学(Robert G Robinson(監訳 遠藤俊吉, 木村真人)), 2002；pp251-298, 星和書店．
- 11) 木村真人：〔翻訳〕脳卒中後不安障害．脳卒中における臨床神経精神医学(Robert G Robinson(監訳 遠藤俊吉, 木村真人)), 2002；pp345-394, 星和書店．
- 12) 遠藤俊吉, 木村真人：〔監訳〕脳卒中における臨床神経精神医学(Robert G Robinson著), 2002；星和書店．
- 13) 鈴木英朗：〔翻訳〕脳卒中後躁病．脳卒中における臨床神経精神医学(Robert G Robinson(監訳 遠藤俊吉, 木村真人)), 2002；pp299-344, 星和書店．
- 14) 下田健吾：〔翻訳〕脳卒中後うつ病：うつ病と病変部位との関連．脳卒中における臨床神経精神医学(Robert G Robinson(監訳 遠藤俊吉, 木村真人)), 2002；星和書店．

学会発表

〔2000年度追加分〕

一般講演：

- 1) 伊藤敬雄, 山寺博史, 鈴木英朗, 伊藤理津子, 遠藤俊吉：アルツハイマー型痴呆患者の睡眠・覚醒リズムに対する高照度光療法とmethylcobalamin(VB)経口投与療法の併用療法の影響．第3回日本薬物脳波学会, 2000．4．
- 2) 伊藤敬雄, 山寺博史, 伊藤理津子, 鈴木英朗, 朝山健太郎, 遠藤俊吉：アルツハイマー型痴呆患者の認知機能

と睡眠・覚醒リズムに対する高照度光療法と methylcobalamin (VB) 経口投与療法の併用療法の影響。日本睡眠学会第25回定期学術集会, 2000. 6.

- 3) 伊藤敬雄, 山寺博史, 鈴木英朗, 伊藤理津子, 朝山健太郎, 遠藤俊吉: 高照度光療法とVitB12経口投与併用療法がアルツハイマー型痴呆の生体リズムに与える影響。第15回老年精神医学会, 2000. 7.
- 4) 伊藤敬雄, 山寺博史, 松井康恵, 原田章子, 高橋 聡<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 金子和磨, 遠藤俊吉<sup>(1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター): 高度救命救急センターにおけるコンサルテーション・リエゾン・サービス。第8回日本精神科救急学会総会, 2000. 9.

(1) 特別講演:

- 1) 木村真人: Post-stroke Depression に対する SNRI-Milnacipran の治療効果。第16回日本老年精神医学会サテライトシンポジウム, 2001. 6.
- 2) 木村真人: 脳卒中後うつ病の病態と治療。第25回日本神経心理学会イブニングセミナー, 2001. 9.

(2) 教育講演:

- 1) 山寺博史: 薬物脳波学の流れ。第4回日本薬物脳波学会, 2001. 7.

(3) シンポジウム:

- 1) Ito T, Yamadera H, Suzuki H, Endo S: Therapeutic effects of bright light on circadian and cognitive disturbances in alzheimer-type dementia. The 3rd Asian Sleep Research Society Congress in the year 2000 in Thailand ( Bangkok, Thailand ), 2000. 11.
- 2) Kishi Y: Doing consultation-liaison psychiatry differentially: Lesson from the international perspective " The Japanese and Asian Experience ". Academy of Psychosomatic Medicine 48th Annual Meeting ( San Antonio, Texas ), 2001. 11.
- 3) 森 隆夫: 職場でのストレス現状と人間関係-暗示と思い込みを中心にして。日本催眠学会, 2001. 9.

(4) セミナー:

- 1) 高石 昇: 学術講演会「パニック障害」。大阪医療事業共同組合福島コミュニティーセンター, 2001. 8.
- 2) 高石 昇: 第4回ケースカンファランス。日本臨床催眠学会, 2001. 12.
- 3) 高石 昇: 行動療法(II) 臨床場面における技法の実際。関西カウンセリングセンター, 2002. 3.
- 4) 高石 昇: 第5回ケースカンファランス。日本臨床催眠学会, 2002. 3.

(5) ワークショップ:

- 1) 高石 昇: 不安・恐怖障害の行動療法。第97回日本精神神経学会総会, 2001. 5.
- 2) 鈴木博子, 木村真人, 竹澤健司, 池森紀夫, 森 隆夫, 黒澤 尚, 山本保博: 救急医療における精神科医の関与: 実状と問題点(救急医療における精神科医の関与)。日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 3) 高石 昇: 第7回研修会。日本臨床催眠学会, 2002. 11.

(6) 一般講演:

- 1) Kimura M, Shimoda K, Mori T, Sakamoto H, Tateno A, Endo S: Regional Blood Flow in Cenesthopathy: the comparison with major depression. 7th World Congress of Biological Psychiatry ( Berlin ), 2001. 7.
- 2) Shimoda K, Kimura M, Mori T, Hada M, Suzuki H, Tateno A, Endo S: Changes in regional blood flow on recovery from depression-comparison of vascular depression and non-vascular depression. 7th World Congress of Biological Psychiatry ( Berlin ), 2001. 7.
- 3) Kimura M, Kanetani K, Imai R<sup>1)</sup>, Suzuki H, Isayama K<sup>2)</sup>, Endo S<sup>(1)</sup> Imai Hospital, <sup>(2)</sup> Matsue Hospital): Therapeutic effects of milnacipran, a serotonin and noradrenaline reuptake inhibitor, on post-stroke depression. 2nd International Forum on Mood and Anxiety Disorders ( Monaco ), 2001. 11.
- 4) 鈴木博子, 木村真人, 竹澤健司, 葉田道雄, 鈴木英朗, 下田健吾, 森 隆夫, 坂本篤裕, 遠藤俊吉: 気分障害

- における modifiedECT 施行後の再燃再発について．日本総合病院精神医学会総会，2001．11．
- 5) Tateno A, Murata Y, Robinson RG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Iowa, Department of Psychiatry): Comparison of cognitive impairment associated with major depression following stroke versus traumatic brain injury．13rd American Neuropsychiatric Association meeting, 2002．3．
  - 6) Tateno A, Jorge R<sup>1)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Iowa, Department of Psychiatry): Clinical correlates significant aggressive behavior after traumatic brain injury．13rd American Neuropsychiatric Association meeting, 2002．3．
  - 7) 村田雄一, 木村真人, 下田健吾, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 大津光寛<sup>1)</sup>, 岡田智雄<sup>1)</sup>, 佐藤田鶴子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部口腔外科学): 口腔領域を中心としたセネストパチーの薬物療法．第42回日本心身医学会総会, 2001．5．
  - 8) 伊藤敬雄, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 神経性無食欲症に認められた精神症状について: 強迫現象を会した検討．第42回日本心身医学会総会, 2001．5．
  - 9) 岡田智雄<sup>1)</sup>, 大津光寛<sup>1)</sup>, 石井隆資<sup>1)</sup>, 長谷川功<sup>1)</sup>, 小川智久<sup>1)</sup>, 北原和樹<sup>1)</sup>, 佐藤田鶴子<sup>1)</sup>, 木村真人, 遠藤俊吉(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部口腔外科学): 当科を受診した顎関節症症状患者の臨床集計．第42回日本心身医学会総会, 2001．5．
  - 10) 中間房恵, 木村真人, 村田雄一, 下田健吾, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 大津光寛<sup>1)</sup>, 岡田智雄<sup>1)</sup>, 佐藤田鶴子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本歯科大学歯学部口腔外科学): ロールシャッハ・テストからみた口腔領域セネストパチーの特徴．第42回日本心身医学会総会, 2001．5．
  - 11) 村田雄一, 黒澤 尚, 木川暁子<sup>1)</sup>, 木川好章<sup>1)</sup>, 竹澤健司, 鈴木英朗, 遠藤俊吉, 中野博司<sup>2)</sup>, 大庭建三<sup>2)</sup>, 妻鳥昌平<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>飯能友好病院, <sup>2)</sup>日本医科大学老人科): 痴呆専門病院における入院時の行動と心理面の症状について．第16回日本老年精神医学会, 2001．6．
  - 12) 山寺博史, 鈴木英朗, 朝山健太郎, 工藤吉尚, 伊藤敬雄, 遠藤俊吉: Triazolam と brotizolam の PSG と翌朝の眠気に関する研究．日本睡眠学会第26回学術集会, 2001．6．
  - 13) 下田健吾, 木村真人, 森 隆夫, 葉田道雄, 鈴木博子, 館野 周, 遠藤俊吉: 血管性うつ病における 123IMP SPECT 所見-非血管性うつ病との縦断的比較．第6回日本神経精神医学会, 2001．6．
  - 14) 下田健吾, 木村真人, 田村良敦, 村田雄一, 葉田道雄, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 水村 直<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 3D-SSP において初期のアルツハイマー型痴呆の所見がみられた老年期うつ病の3例．第16回日本老年精神医学会, 2001．6．
  - 15) 鈴木英朗, 山寺博史, 朝山健太郎, 工藤吉尚, 伊藤敬雄, 田村良敦, 遠藤俊吉: triazolam と brotizolam の健康者に対する PSG と持ち越し効果の影響について．第4回日本薬物脳波学会, 2001．7．
  - 16) 木村真人: 脳卒中後うつ病の病態と治療．第3回 Post stroke depression 研究会, 2001．9．
  - 17) 木村真人: 脳卒中後うつ病における認知障害の治療．第69回日本医科大学医学総会, 2001．9．
  - 18) 中嶋泰憲, 王 旭梅, 木村真人, 森 隆夫, 坂本博子, 葉田道雄, 石塚龍夫<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉(<sup>1)</sup>ヒューマンクリニカ): 催眠深度における脳波パワーと事象関連電位の変化．第17回日本催眠学会, 2001．9．
  - 19) 高石 昇: 自我状態療法の経験(1) 分析中に性虐待を想起した症例をめぐって．日本臨床催眠学会 第3回学術大会, 2001．11．
  - 20) 吉川栄省, 田川一郎, 小泉幸子, 日野光紀<sup>1)</sup>, 黒澤 尚(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 慢性呼吸器疾患における不安, 抑うつ, 希死念慮とQOLの関係について．第14回日本総合病院精神医学会, 2001．11．
  - 21) 田村良敦, 木村真人, 葉田道雄, 下田健吾, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 口腔領域 Cenesthopathy の事象関連電位．第31回日本臨床神経生理学会学術大会, 2001．11．
  - 22) 渋谷孝之<sup>1)</sup>, 工藤吉尚, 亀井雄一<sup>1)</sup>, 早川達郎<sup>1)</sup>, 中嶋常夫<sup>1)</sup>, 塚田和美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立精神・神経センター国府台病院精神科): 精神疾患に合併した偶発的低体温症の4例．第14回日本総合病院精神医学会, 2001．11．
  - 23) 亀井雄一<sup>1)</sup>, 工藤吉尚, 細田欣也<sup>2)</sup>, 早川達郎<sup>1)</sup>, 内山 真<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立精神・神経センター国府台病院精神科,

2) 堀江病院精神科, 3) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部): 大うつ病における睡眠障害の特徴に関する検討. 第24回日本生物学的精神医学会, 2002. 3.

(7) シンポジウム関連演題:

1) 遠藤幸彦: 攻撃性の取り扱いについて. 精神分析学会第47回大会, 2001. 10.

## [ 付属病院東洋医学科 ]

### 研究概要

現代医学における東洋医学の有用性の探求と東洋医学の病態概念の科学的実証, これが当科の研究目標である. 本年度の科学的実証の研究は, 春季花粉症の病態像が, 東洋医学的観点から3つの病態に分類されることを実証した. また花粉症の東洋医学的病態像を文献学的に明確にした. さらに倒経の病態像, アトピー性皮膚炎・不眠の新たな治法, 二加竜骨牡蛎湯・六君子湯などの方剤の有用性を研究した.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 三浦於菟, 李彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 吉祥寺東方医院): アトピー性皮膚炎と血府逐瘀湯. 中医臨 2001; 22(2): 8-9.
- 2) 三浦於菟: 不眠の2例: 加味帰脾湯と竹筴温胆湯. 東静漢方研究室 2001; 24(3): 136-138.
- 3) 三浦於菟: 倒経の1例とその病態. 東静漢方研究室 2001; 24(3): 130-135.
- 4) 三浦於菟: 真寒假熱症の不眠: 二加竜骨牡蛎湯の症例. 東静漢方研究室 2001; 24(3): 125-129.
- 5) 三浦於菟: 春季花粉症の病態像: 有効方剤に基づく検討. 日本東洋医学会誌 2001; 52(2): 191-205.
- 6) 福島厚, 三浦於菟(<sup>1)</sup> 福島歯科医院): 六君子湯エキスの治験2例. 東静漢方研究室 2001; 24(7): 54-56.
- 7) 三浦於菟: 寒熱錯雑症を呈する春季花粉症の病態像: その文献学的考察. 漢方の臨 2001; 48(12): 1666-1675.

(2) 綜説:

- 1) Miura O: Study on the Mechanism of Disease and Method of Treatment in Oriental Medicine. Journal of International of LifeInformation Science 2001; 19(2): 426-431.
- 2) 三浦於菟: 実践漢薬学第10回: 理気薬. 漢方研 2001; (354): 272-276.
- 3) 三浦於菟: 陣中十九方. 東静漢方研究室 2001; 24(3): 217-220.
- 4) 三浦於菟: 東洋医学の発病機序と治療検束の検討. 国際生命情報科学会誌 2001; 19(2): 432-435.
- 5) 三浦於菟: 実践漢薬学第11回: 消食薬(付駆虫薬). 漢方研 2001; (357): 373-374.
- 6) 三浦於菟: 実践漢薬学第12回: 止血薬. 漢方研 2001; 358: 393-396.

#### 著書

- 1) 三浦於菟: [分担] 東洋医学の思考法. 東洋医学の本, 2001; pp24-35, 学習研究社.

#### 学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 三浦於菟: 東洋医学の発病機序と治療原則の検討. 第12回生命情報科学シンポジウム, 2001. 8.

(2) 一般講演:

- 1) 三浦於菟, 興津寛, 斉藤輝夫, 白石佳正, 渡邊裕, 武島英人: 百合地黄湯の2例. 第52回日本東洋医学会学術総会, 2001. 6.

- 2) 三浦於菟, 興津 寛, 斉藤輝夫, 白石佳正, 渡邊 裕, 武島英人: 竹筴温胆湯で盗汗・疼痛の改善をみた1例. 第58回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会, 2001. 10.
- 3) 興津 寛, 三浦於菟, 斉藤輝夫, 白石佳正, 渡邊 裕: 手の小陰心経の経筋に沿った症状を呈した1症例. 第58回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会, 2001. 10.

## 6. 小児科学講座

### [ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]

#### 研究概要

小児科学教室では付属4病院小児科の協力のもとにおいて下記の研究を行っており、業績は一括して報告する。

- 1) 小児悪性腫瘍の治療法の改善，予後因子の解析，晩期障害の検討．思春期貧血のマススクリーニングの実施に伴う諸条件の検討．
- 2) 不定愁訴をもつ学童生徒における自己抗体出現の機序と臨床的意義．自己抗体産出機序の検討．
- 3) 肥満児の病態解析．小人症の治療と随伴する微量元素の代謝．先天性代謝異常患者の遺伝子解析．
- 4) 各種評価法を用いた心筋虚血病変の検討．川崎病後の血管リモデリングに対する遺伝子および分子生物学的検討．心筋細胞の成長・発達に伴う変化に対する分子生理学・分子生物学を用いた検討．
- 5) けいれん性疾患脳波学的解析．各種神経疾患におけるSPECTによる脳血流の解析．筋変性疾患の病理組織学的検討と遺伝子解析．
- 6) 各種腎疾患の病理組織学的検討と免疫学的背景の臨床的検討．乳児期腎臓超音波マススクリーニング検査の臨床的意味付け．
- 7) アトピー性疾患病態に関する基礎的・臨床的検討．食餌性アレルギーをもつ乳児の腸管各種免疫グロブリンの解析と蛋白透過性の検討．
- 8) 小児の呼吸音の解析．小児呼吸器疾患の血清KL-6値の検討．各種疾患における気管支洗浄液の免疫学的，細胞学的検討．
- 9) 付属病院では，遺伝相談部門を開設し，生化学第二教室との協力のもと，遺伝子治療の臨床応用にむけての基礎的研究を行っている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Asakawa kazuko, Asano T, Yamamoto M, Sugisaki Y : Cytological analysis of ascitic fluid from an adolescent male with intraabdominal desmoplastic small cell tumor . J Jpn Soc Clin Cytol 2001 ; 40 ( 3 ) : 286-289 .
- 2) Asano T, Enokido H, Fujino O, Hashimoto K : Improved daily activity using a portable ventilator in a patient with spondyloepiphyseal dysplasia congenita . Pediatrics Int 2001 ; 43 ( 4 ) : 316-318 .
- 3) Manabe A<sup>1)</sup>, Tsuchida M<sup>1)</sup>, Hanada R<sup>1)</sup>, Ikuta K<sup>1)</sup>, Okimoto Y<sup>1)</sup>, Ishimoto K<sup>1)</sup>, Okawa H<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Sato T<sup>1)</sup>, Sugita K<sup>1)</sup>, Bessho F<sup>1)</sup>, Hoshi Y<sup>1)</sup>, Maeda M, Kinoshita A<sup>1)</sup>, Saito T, Tsunematsu Y, Nakazawa S ( <sup>1</sup> Tokyo Children's Cancer Study Group , 1 ) : Delay of the diagnostic lumbar puncture and intrathecal chemotherapy in children with acute lymphoblastic leukemia who undergo routine corticosteroid testing : Tokyo Children's Cancer Study Group study L89-12 . J Clin Oncol 2001 ; 19 ( 13 ) : 3182-3187 .
- 4) Matsuura N, Yokota Y, Kazuhara K, Sasaki N, Amemiya S, Ito Y, Fukushima N, Koike A, Igarashi Y, Hirano T, Sugihara S, Miki Y, Urakami T, Uchigata Y, Kanematsu S, Ohki Y, Takesue M, Hasegawa Y, Miyamoto S, Fujimoto M, Fujitsuka S, Mori T, Ogawa H, Uchiyama M, Onigata K, Tachibana K, Kanzaki S, Yokota I, Kida K, Okada T, Nishiyama S, Masuda H, Kinugasa A, Nukada O, The Japanese study group of insulin therapy for childhood and adolescent diabetes ( JSGTT ) : Initial aims and impact of the family history of type 1 diabetes



- mellitus in Japanese children . *Pediatric diabetes* 2001 ; ( 2 ): 160-169 .
- 5) Kuramochi Y, Ohkubo T, Takechi N, Ogawa S : Feasibility of Percutaneous Transluminal Coronary Angioplasty to Patients with Kawasaki Disease as an Early Management Strategy . *Pediatr Cardiol* 2001 ; 22 : 183-188 .
  - 6) Mochizuki H, Migita M, Shimada T, Hayakawa H, Mizuno Y ( <sup>1</sup> Dept of Neurology, Juntendo Univ ) : An AAV-derived Apaf-1 dominant negative inhibitor prevents MPTP toxicity as antiapoptotic gene therapy for Parkinson's disease . *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 2001 ; 98 : 10918-10923 .
  - 7) Nakano K, Migita M, Mochizuki H, Shimada T : Differentiation of transplanted bone marrow cells in the adult mouse brain . *Transplantation* 2001 ; 71 : 1735-1740 .
  - 8) Takechi N, Seki T, Ohkubo T, Ogawa S : Dobutamine stress surface mapping of myocardial ischemia in Kawasaki disease . *Pediatrics International* 2001 ; 43 : 218-225 .
  - 9) Shima Y, Takemura T, Akamatsu H, Kawakami T, Yoda H : Clinicopathological Analysis of Premature Infants Treated with Artificial Surfactant . *J. Nippon Med. School* 2001 ; 67 ( 5 ): 330-334 .
  - 10) Shima Y, Takechi N, Ogawa S, Fukazawa R, Fukumi D, Uchikaba Y, Kuramochi Y, Yamauch H : Clinical characteristics of congenital heart disease during neonatal period . *J. Nippon Med. School* 2001 ; 68 ( 5 ): 510-515 .
  - 11) Nishida N, Suzuki S, Hamamura Y, Igarashi K, Hayashi Z, Sawa R, Yoneyama Y, Asakura H, Kawabata K, Shima Y, Araki T : Massive Subchorionic Hematoma ( Breus' Mole ) Complicated by Intrauterine Growth Retardation . *J. Nippon Med. School* 2001 ; 68 ( 1 ): 54-57 .
  - 12) Yoshimitsu K, Yoshio S : Mesenchymal stem villous hyperplasia of the placenta and fetal growth restriction . *Obstet Gynecol* 2001 ; 98 : 940-943 .
  - 13) Kuramochi Y, Takechi N, Ohkubo T, Ogawa S : Longitudinal estimation of signal-averaged electrocardiograms in patients with Kawasaki disease . *Pediatrics International* 2002 ; 44 : 12-17 .
  - 14) Imai T, Takase M, Takeda S, Kougo T : Serum KL-6 levels in pediatric patients : Reference values for children and levels in pneumonia, asthma and measles patients . *Pediatr Pulmonol* 2002 ; 33 ( 2 ): 135-141 .
  - 15) 桑原健太郎, 高石康子, 藤野 修, 吉田陽一, 高木 亮 : 小児脳動静脈奇形の三次元CT血管造影法 . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 ( 2 ): 96-97 .
  - 16) 高瀬真人, 今井丈英, 松平登志子, 稲葉八興, 城田和彦 : 喘息児の肺音スペクトルの長期・短期変動と気道安定性の評価 . *薬理と臨床* 2001 ; 11 ( 4 ): 371-375 .
  - 17) 島 義雄<sup>1)</sup>, 武智信幸<sup>1)</sup>, 小川俊一, 深澤隆治, 福見大地, 内木場庸子, 倉持雪穂, 山内仁紫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup> 外科第二 ) : 新生時期の先天性心疾患の臨床的特徴 . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 ( 6 ): 510-515 .
  - 18) 川畑 勉, 浅野 健, 藤田敦士, 太田美紀, 植田高弘, 右田 真, 早川 潤, 松岡和彦, 福永慶隆 : 鼠頸リンパ節腫脹により診断されたホジキン病の一男児例 . *日小児血液会誌* 2001 ; 15 : 405-408 .
  - 19) 中島やよひ, 島 義雄, 与田仁志 : 生後4ヶ月より睡眠時口鼻マスクによる人工換気を行っている先天性中枢性肺胞低換気症候群の1例 . *日本新生児学会雑誌* 2001 ; 37 : 652-656 .
  - 20) 西巻 滋, 島 義雄, 佐藤美保 : 慢性肺疾患の尿中 2-microglobulin 値 ( 第1報 : 生後変化の検討 ) . *日本新生児学会雑誌* 2001 ; 37 : 675-679 .
  - 21) 高石康子, 藤野 修, 橋本 清 : 病理所見および hamartin, tuberin 発現の免疫組織化学的検索より結節性硬化症と診断した難治性てんかんの1例 . *脳と発達* 2002 ; 134 : 49-54 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 福永慶隆, 伊藤保彦 : 新生児ループス . *リウマチ科* 2001 ; 26 ( 1 ): 11-15 .
- 2) 伊藤保彦 : 膠原病における鼻病変 . *小児耳鼻咽喉科* 2001 ; 22 ( 2 ): 30-33 .

- 3) 小川俊一：私の処方2001：小児薬物治療の実際「心筋炎・心膜炎」．私の処方2001 2001；54：551-554．
- 4) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆：非ステロイド系抗炎症薬および抗リウマチ薬の使い方．Progress in Medicine 2001；21(4)：905-908．
- 5) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆：抗核抗体の対応抗原．小児内科 2001；33(6)：765-769．
- 6) 伊藤保彦：小児の症候群：慢性疲労症候群．小児科診療 2001；64(増刊)：368-368．
- 7) 伊藤保彦：小児の診断治療指針：血管炎症候群．小児内科 2001；33(増刊)：282-284．
- 8) 伊藤保彦，福永慶隆：小児ベーチェット病の病態と治療．リウマチ科 2001；26(6)：564-568．
- 9) 小川俊一：新生時期に治療が必要な先天性心疾患の早期発見．ペリネイタルケア 2001；20：392-396．
- 10) 村上睦美，土屋正己：腎疾患のプライマリケア 1．腎疾患の予後とプライマリケアの意義 2．学校検尿の意義と現状．日内会誌 2001；90(7)：1192-1198．
- 11) 高瀬真人：わが国の「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン」について．J Nippon Med Sch 2001；68(4)：364-364．
- 12) 村上睦美：学校検尿のあり方．日小児腎不全会誌 2001；21：27-29．
- 13) 落 雅美<sup>1)</sup>，山内仁紫<sup>1)</sup>，藤井正大<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>，小川俊一( <sup>1)</sup>外科第二)：川崎病冠動脈病変に対する冠動脈バイパス術の現況．小児科診療 2001；64：1199-1203．
- 14) 小川俊一：学校心臓検診で発見された不整脈の管理．小児科 2001；42：1741-1753．
- 15) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆：ウィルス感染と自己免疫疾患．小児科 2001；42(11)：1771-1778．
- 16) 村上睦美：成人に達した小児疾患患者のケア(その1)慢性腎炎．保健の科学 2001；43(11)：852-857．
- 17) 高瀬真人，今井丈英，今井大洋：肺疾患の血清診断：小児におけるKL-6，SP-A，SP-Dの動態．小児科 2001；42(11)：1801-1807．
- 18) 土屋正己，村上睦美：慢性増殖性糸球体腎炎．小児内科 2001；33：590-591．
- 19) 右田 真：ゴーシェ病に対する治療：遺伝子治療の可能性．細胞 2001；33：388-392．
- 20) 島 義雄：新生児仮死の評価．周産期医学 2001；31：1571-1575．
- 21) 村上睦美：糸球体腎炎とさまざまな機能蛋白との関係．小児科 2002；43(2)：141-147．
- 22) 前田美穂：小児白血病の晩期障害．小児科診療 2002；65(2)：309-314．
- 23) 村上睦美，土屋正己：特集1 検尿と検診：学校検尿の現状と成果，問題点．腎と透析 2002；52(2)：161-165．
- 24) 藤野 修<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院小児科，<sup>2)</sup>第二病院小児科)：てんかん類似疾患の鑑別について．小児科診療Q&A 2002；(34)：546-549．
- 25) 村上睦美，林田真理：家庭用医療器具・体外診断薬を診療にどう役立てるか：尿蛋白検査．日医師会誌 2002；127(5)：726-730．
- 26) 小川俊一：小児科の日常診療でどの様な時その薬を使うのか：感染性心内膜炎と予防内服．小児科(別冊) 2002；43：112-113．
- 27) 稲葉八興，千葉 隆：睡眠時無呼吸症候群．小児科診療 2002；65(増刊号)：332-333．
- 28) 伊藤保彦，今井大洋，福永慶隆：膠原病と呼吸器疾患．小児臨 2002；55(4)：703-707．
- 29) 藤野 修，桑原健太郎：てんかん診断と治療，集団生活での問題．千葉県小児科医会誌 2002；32：24-28．

### (3) 研究報告書：

- 1) Ajiro Youichi<sup>1)</sup>，Hagiwara Nobuhisa<sup>1)</sup>，Katsube Yasuhiro<sup>2)</sup>，Nicholas Sperelakis<sup>3)</sup>，Kawanuki Hiroshi<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所循環器内科，<sup>2)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科，<sup>3)</sup>Department of Molecular and Cellular Physiology, University of Cincinnati, USA)：Effects of levosimendan on L-type calcium currents in human and rabbit atrial cells．European Journal of Pharmacology 2002；435：pp27-33．
- 2) 勝部康弘<sup>1)</sup>，沈 菁<sup>2)</sup>，中西敏雄<sup>2)</sup>，門間和夫<sup>2)</sup>，小川俊一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科，<sup>2)</sup>東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所循環器小児科，<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院小児科)：動脈管に存在する酸

素感受性カリウムチャンネルに関する分子生物学的研究。(財)日本心臓血圧研究振興会(平成12年度研究業績集), pp1-5.

- 3) 伊藤保彦, 木谷照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>市立堺病院): 抗Ro/SSA抗体陽性の自己免疫性疲労症候群とsubclinical Sjögren症候群の関係についての検討. 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「疲労の実態調査と健康づくりのための疲労回復手法に関する研究」平成12年度研究業績報告書 2001; pp79-84.
- 4) 大木由加志, 岸 恵, 大川拓也, 折茂裕美: 全国アンケート調査からみた小児・思春期2型糖尿病児のQOLに関する問題点について. 平成13年度厚生労働科学・子ども家庭総合研究事業「小児・思春期2型糖尿病児のQOL改善のための研究」平成13年度厚生科学研究報告書 2001.

(4) Case report :

- 1) Chiba T, Hayakawa J, Usda T, Migita M, Maeda M, Imai T, Takase M, Hida M, Fukunaga Y : Usefulness of bronchoalveolar lavage for the diagnosis and treatment of refractory pneumonia in a patient with Kostmann syndrome, a severe congenital neutropenia . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 4 ): 340-343 .
- 2) Matsumoto T, Migita M, Kobayashi H<sup>1)</sup>, Hayashi Z<sup>2)</sup>, Yamataka A<sup>1)</sup>, Matsumoto T<sup>3)</sup>, Maeda M, Miyano T<sup>1)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1</sup>Det. of Pediatric Surgery, Juntendo University , <sup>2</sup>)Dept. of Obstetrics, Nippon Medical School , <sup>3</sup>)Dept. of Pathology, Juntendo University ): A case of neonatal immature retroperitoneal teratoma . Surgery in childhood international 2001 ; 9 ( 3 ): 157-159 .

(5) 症例報告 :

- 1) Matsumoto T, Migita M, Kawabata K, Maeda M, Fukunaga Y, Hayashi Z, Kobayashi H, Yamataka A, Miyano T ( <sup>1</sup>)Dept of Obstetrics, Nippon Medical School , <sup>2</sup>)Dept of Pediatric Surgery, Juntendo University ): A case of neonatal immature retroperitoneal teratoma . Surg Child Inter 2001 ; 3 : 157-159 .
- 2) Fujimura J, Murakami Y, Tsuda A, Chiba T, Migita M, Fukunaga Y : A neonate with Löffler syndrome . J. Perinatology 2001 ; 21 : 207-208 .
- 3) Migita M, Matsumoto T, Fujino O, Takaishi Y, Fukunaga Y, Yuki N ( <sup>1</sup>)Dokkyo Univ ): Two cases of influenza with impaired ocular movement . Eur J Paed Neurol 2001 ; 5 : 83-85 .

著 書

- 1) Sperelakis N, M S, M N, H Y, T S : [ 分担 ] Toxins that affect ion channels, pumps, and exchangers. In : . Cardiovascular Toxicology, 3rd edition, ( D. Acosta ), 2001 ; pp328-373 , Raven Press .
- 2) 高瀬真人 : [ 分担 ] 睡眠時無呼吸症候群 . 小児科診療増刊号「小児の症候群」( 小児科診療編集委員会 ), 2001 ; pp182-182, 診断と治療社 .
- 3) 伊藤保彦 : [ 共著 ] アレルギー性緊張疲労症候群 . 免疫学事典 ( 第2版 )( 大沢利昭, 小山次郎, 奥田研爾, 矢田純一 ), 2001 ; pp29-29, 東京化学同人 .
- 4) 松岡和彦<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院小児科) : [ 分担 ] 先天性食道閉鎖症・先天性気管食道瘻 . 小児科診療 Q&A 第33号, 2001 ; pp88-91, 六法出版 .
- 5) 伊藤保彦 : [ 共著 ] 慢性疲労症候群 . 免疫学事典 ( 第2版 )( 大沢利昭, 小山次郎, 奥田研爾, 矢田純一 ), 2001 ; pp586-587, 東京化学同人 .
- 6) 大木由加志 : [ 分担 ] 小児・思春期2型糖尿病の疫学と増加への対策 . 糖尿病学の進歩2001, 第35集 . 5小児・若年糖尿病 ( 日本糖尿病学会 ), 2001 ; pp255-259, 診断と治療社 .
- 7) 大木由加志, 折茂裕美 : [ 総説 ] 幼児1型糖尿病 ( 小児内分泌疾患の診断基準・治療のガイドラインUPDATE ). ホルモンと臨床, 2001 ; pp55-58, 医学の世界社 .
- 8) 高瀬真人 : [ 分担 ] 急性鼻咽頭炎・急性扁桃炎 . 小児疾患の診断治療基準 ( 『小児内科』『小児外科』編集委員会 ), 2001 ; pp440-441, 東京医学社 .

- 9) 小川俊一：〔分担〕小児疾患の診断治療基準「ショック」．『小児内科』『小児外科』増刊号（『小児内科』『小児外科』編集委員会共編），2001；pp16-19，東京医学社．
- 10) 千葉 隆：〔分担〕嚥下性肺炎．小児疾患の診断治療基準（『小児内科』『小児外科』編集委員会），2001；pp454-455，東京医学社．
- 11) 福永慶隆：〔分担〕小児の白血病．今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎），2002；pp862-864，医学書院．
- 12) 村上睦美：〔共著〕こどもの腎臓病と学校生活管理指導表．ヘルスケア53：児童・生徒の健康をまもるために，2002；pp24-32，予防医学事業中央会．
- 13) 上砂光裕，矢崎義雄，高本真一：〔分担〕拡張型心筋症の遺伝子異常．Annual Review（杉下靖郎，門間和夫），2002；pp92-97，中外医学社．
- 14) 村上睦美：〔共著〕学校における腎疾患学童・生徒の管理．2002 今日の治療指針（多賀須幸男，尾形悦郎），2002；pp879-882，医学書院．
- 15) 村上睦美：〔共著〕Goodpasture症候群．小児科診療Q & A第34号，2002；pp1328-1329，六法出版．
- 16) 大木由加志：肥満・2型糖尿病（小児の治療指針 9．内分泌・代謝）．小児科診療（増刊号），2002；pp417-419，診断と治療社．

#### 学会発表

##### （1）特別講演：

- 1) 村上睦美：腎臓病管理指導表の改訂について．第3回東海小児腎疾患研究会，2001．6．
- 2) 藤野 修：熱性けいれんとてんかん．1. 第159回日本小児科学会千葉地方会，2001．6．
- 3) 村上睦美：小児の尿検における意義と判定法．足立区小児科医会勉強会，2001．7．
- 4) 村上睦美：学校における腎臓検診．第49回群馬県学校医研究大会，2002．3．
- 5) 土屋正己：「先天性腎尿路奇形を早期発見するための腎エコースクリーニング」：1ヶ月健診児を対象として．静岡市医師会学校腎臓検診講演会，2002．3．

##### （2）招待講演：

- 1) 村上睦美：学校における腎疾患患児の管理：新しい学校生活管理指導表を中心に．台東区小児科医会学術講演会，2001．7．

##### （3）教育講演：

- 1) 村上睦美：腎臓病管理指導表の改訂について．第36回日本小児腎臓病学会，2001．6．
- 2) 土屋正己：先天性腎尿路異常の超音波スクリーニング．第3回東海小児腎疾患研究会，2001．6．
- 3) 大木由加志：小児の生活習慣病．川崎医師会内科校医研修会，2001．12．
- 4) 村上睦美：腎臓検診と腎疾患患児の管理指導表について：新学校生活管理指導表の改正点と見方を中心に．平成13年度心臓病・腎臓病管理指導表改訂に伴う学校医研修会，2002．3．

##### （4）シンポジウム：

- 1) Migita M：Therapeutic approaches for lysosomal storage diseases with neurological symptoms．The 4th Asia LSD symposium（Seoul, Korea），2001．
- 2) 村上睦美：21世紀に解決したい小児腎臓医療の諸問題 3．小児腎臓疾患のスクリーニング．第44回日本腎臓学会学術総会，2001．5．
- 3) 土屋正己：「先天性腎尿路異常の超音波スクリーニング研究会」よりの報告．第36回日本小児腎臓病学会，2001．6．
- 4) 村上睦美：先天性腎尿路疾患へのアプローチ．第36回日本小児腎臓病学会，2001．6．
- 5) 伊藤保彦：こどもはなぜつかれているか：疲労と自己免疫の関係について．第49回九州学校保健学会，2001．8．

- 6) 早川 潤, 右田 真, 植田高弘, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆 ( <sup>1)</sup> 生化第二 ): 骨髓細胞の多能性の解析に向けて ~ GFP陽性骨髓細胞のモデルマウスの作成 ~ A model of mouse transplanted with GFP positive bone marrow cells ~ towards analysis of multipotency of bone marrow cells . 第44回日本先天代謝異常学会, 2001 . 11 .
- 7) 村上睦美 : 内科・小児科の集団検尿のEBM : 小児科の立場から . 第4回学童腎臓病検診研究会, 2002 . 2 .

(5) パネルディスカッション :

- 1) Takahashi Masakazu, Suzuki Hiroshi, Hirai Kazuto, Kuwabara Kentaro, Iida Kazumi, Vadhanapong Siriluck, Pantapa Sutaporn, Israngkura Na A Pakinee, Suprasert Somboon, Uttawichai Kasem ( <sup>1)</sup> Holistic Health Medical Center , <sup>2)</sup> Institute of Gerontology, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Nippon Professional School of Medical Technology , <sup>5)</sup> Research Institute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious Diseases, Nippon Medical School , <sup>6)</sup> Dept. of Psychiatric Nursing, Fac. of Nursing, Chiang Mai University , <sup>7)</sup> Medical Education Section, Fac. of Medicine, Chiang Mai University , <sup>8)</sup> Dept. of Family Medicine, Fac. of Medicine, Chiang Mai University , <sup>9)</sup> Dept. of Family Medicine, Fac. of Medicine, Chiang Mai University , <sup>10)</sup> Dept. of Family Medicine, Fac. of Medicine, Chiang Mai University ): Comparison of blood data between inhabitants in Chiang Mai city ( Thailand ) and in Hayakawa town ( Japan ) . 25th Annual Scientific Meeting on Mahidol's day ( タイ国チェンマイ ), 2001 . 9 .
- 2) Kuwabara K, Chartapisak W, Israngkura Na A Pakinee, Pantapa S, Vadhanapong S, Suprasert S, Kuwabara N, Tsutsiya M, Murakami M : Urinary screening of municipal school children in Chiang Mai . 25th Annual Scientific Meeting on Mahidol's day ( タイ国チェンマイ ), 2001 . 9 .
- 3) Boonyaritichaij S, Kuwabara K, Matsuhisa T, Yamada N ( <sup>1)</sup> Dept. of Family Medicine, Fac. of Medicine, Chiangmai University , <sup>3)</sup> Dept. of Endoscopy, Nippon Medical School , <sup>4)</sup> Dept. of the second Pathology, Nippon Medical School ): Prevalence of Helicobacter pylori infection in Chiangmai Children . 25th Annual Scientific Meeting on Mahidol's day ( タイ国チェンマイ ), 2001 . 9 .
- 4) 桑原健太郎, 桑原奈津子, 土屋正己, 村上睦美, 日本医科大学東南アジア医学研究会, 同学生部, Chartapisak Wattana, Israngkura Na A Pakinee, Sutaporn Pantapa, Vadhanapong Siriluck, Suprasert Somboon : タイ国チェンマイ地方の公立学校における学校検尿の試み . 第104回日本小児科学会, 2001 . 5 .
- 5) 福井朋子, 星野陸夫, 大山牧子, 猪谷泰史 : 麻疹合併妊娠による双胎 : 児胎内死亡の1例 . 第104回日本小児科学会, 2001 . 5 .
- 6) 桑原健太郎, 藤野 修, 藤田武久, 高石康子, 川上康彦, 羽鳥誉之 : 突然死を来したてんかん児の3例 . 第43回日本小児神経学会総会, 2001 . 6 .
- 7) 桑原健太郎, 土屋正己, 藤野 修, 桑原奈津子, 村上睦美, 福永慶隆, 平井和人, 飯田和美, Chartapisak W, 東南アジア医学研究会 : タイ国小児における尿中 Helicobacter Pylori 抗体および尿異常所見について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .

(6) セミナー :

- 1) 村上睦美 : 学校における腎疾患児の管理 : 新しい学校生活管理指導表 ( 腎臓病 ) を中心に . 第212回学校保健セミナー, 2001 . 7 .
- 2) 村上睦美 : 検尿と検診 : 学校検尿の現状と成果, 問題点 . 第23回腎臓セミナー, 2001 . 8 .

(7) ワークショップ :

- 1) 伊藤保彦 : MCTD・ANCA関連血管炎症候群 . 第11回日本小児リウマチ研究会, 2001 . 10 .

(8) 一般講演 :

- 1) 内木場庸子, 深澤隆治, 勝部康弘, 関 隆志, 大久保隆志, 倉持雪穂, 福見大地, 池上 英, 小川俊一 : Estimation of late Anthracycline Cardiotoxicity by Dobutamine Stress QT Dispersion in Patients with Cancer . The Third World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 2001 . 5 .

- 2) Ohki Y, Kishi M, Ohkawa T, Orimo H, Irie M : Glucose tolerance and insulin resistance before and after GH replacement therapy for 3 years in children with growth hormone deficiency . The 31st International Symposium of GH and Growth Factors in Endocrinology and Metabolism ( Valleta, Malta ), 2001 . 9 .
- 3) Ohki Y, Kishi M, Owada M, Sasaki N, Matsuura N : Nationwide survey of type 2 diabetes among children and adolescents in Japan . The 27th Annual meeting of international Study Group of Diabetes in Children and Adolescents ( Siena, Italy ), 2001 . 9 .
- 4) Takase M, Shirota K, Imai T, Imai T : Normal breath sound analysis for the evaluation of small airway obstruction : Clinical experience with asthmatic children using steroid inhalation . 26th International Lung Sounds Conference ( Berlin, Germany ), 2001 . 9 .
- 5) Kamisago M, Dennis M McN, Barbara McD, Catherrine D, Steven R D, JG S, Christime E S ( <sup>1</sup> Univ of Pittsburgh, USA , <sup>2</sup> Harvad Medical School and HHMI, USA ): B-Cardiac Myosin Heavy Chain Mutation Causes Endocardial . American Heart Association ( California, USA ), 2001 . 11 .
- 6) Nakanishi T<sup>1</sup>), Shen J<sup>1</sup>), Wu Gui-R<sup>1</sup>), Katsube Y, Ogawa S ( <sup>1</sup> Department of Pediatric cardiology, Heart Institution of Totyو Women's Medical College ): Developmental Changes in the ATP-Sensitive Potassium Channels in Vascular Smooth Muscle Cells of Pulmonary Resistance Arteries . American Heart Association Scientific Sessions 2001 ( Anaheim, USA ), 2001 . 11 .
- 7) Ogawa Shunichi, Fukazawa R, Kuramochi Y, Kamisago M, Seki T, Uchikoba Y, Fukumi D, Ikegami E, Katsube Y : Haemodynamic Changes and Thrombus Formation in Coronary Aneurysms Having History with Kawasaki Disease . American Heart Association Scientific Sessions 2001 ( Anaheim, USA ), 2001 . 11 .
- 8) Itoh Y, Imai T, Fujino O, Fukunaga Y : Subclinical Sjögren's syndrome and anti-Ro/SSA positive children with chronic fatigue . American College of Rheumatology. 65th Annual Scientific Meeting ( San Francisco, CA. USA ), 2001 . 11 .
- 9) Fukazawa R, Sonobe T<sup>1</sup>), Hamaoka K<sup>2</sup>), hamamoto K<sup>3</sup>), Yohko U, Kuramochi Y, Ikegami E, Ogawa S ( <sup>1</sup> Japanese Red-Cross Medical Center , <sup>2</sup> Children's Reserch Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine , <sup>3</sup> School of Medicine, Fukuoka University ): ACE I/D and AT1 1166A/C Polymorphysm as a Risk Factor for Coronary Artery Stenosis in Kawasaki Disease . The Seventh International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone ), 2001 . 12 .
- 10) Fukazawa R : ACE I/D polymorphism and AT1 1166A/C polymorphism as a risk factor for coronary artery stenosis in Kawasaki Disease . International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone, Japan ), 2001 . 12 .
- 11) Nakano J<sup>1</sup>), Ochi M<sup>1</sup>), Yamauchi H<sup>1</sup>), Fujii M<sup>1</sup>), Ishii Y<sup>1</sup>), Imura H<sup>1</sup>), Bessho R<sup>1</sup>), Kuramochi Y, Ogawa S, Tanaka S<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup> Second Surgery ): Coronary Artery Bypass Grafting by Utilizing Only Arterial Grafts in Patients with Coronary Artery Aneurysm after Kawasaki Disease . The Seventh International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone ), 2001 . 12 .
- 12) Ikegami E, Ohkubo T, Fukazawa R, Kuramochi Y, Uchikoba Y, Fukumi D, Ogawa S : Criteria of Myocardial Fractional Flow Reserve and Coronary Flow Ratio for Detection of Myocardial Ischemia in Patients with Kawasaki Disease . The Seventh International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone ), 2001 . 12 .
- 13) Hayakawa jun, Migita makoto, Kuramochi yukio, Kawabata ken, Ueda takahiro, Shimada takashi, Fukunaga yoshitaka ( <sup>1</sup> Departments of Pediatrics, Nippon Medical School , <sup>2</sup> Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School ): Establishment of chimeric mice for studying differentiation of bone marrow derived cells . American Society of Hematology meeting ( orland, USA ), 2001 . 12 .
- 14) Fukazawa R : Leukocyte adhesion factor Mac-1 expression on granulocyte associated with vasculitis in Kawasaki Disease . International Kawasaki Disease Sympposeum ( Hakone, Japan ), 2001 . 12 .

- 15) Fukazawa R, Uchikoba Y, Kuramochi Y, Ikegami E, Kamisago M, Seki T, Katsube Y, Ogawa S : Leukocyte Adhesion Factor Mac-1 Expression on Granulocyte Associates with Vasculitis in Kawasaki Disease . The Seventh International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone ), 2001 . 12 .
- 16) Akagi T<sup>1)</sup>, Ogawa S, Echigo S<sup>2)</sup>, Hamaoka K<sup>3)</sup>, Terai M<sup>4)</sup>, Harada K<sup>5)</sup>, Kato H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Kurume University , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, National Cardiovascular Center , <sup>3)</sup> Department of Pediatrics, Children's Reserch Hospital, Kyoto Prefectural University , <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Chiba University , <sup>5)</sup> Department of Pediatrics, Nippon University ) : Long-term Outcome of Catheter Intervention in Kawasaki Disease : Multi Center Study . The 7th International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone ), 2001 . 12 .
- 17) Ayusawa M<sup>1)</sup>, Sonobe T<sup>2)</sup>, Uemura S<sup>3)</sup>, Ogawa Shunichi, Nakamura Y<sup>4)</sup>, Kiyosawa N<sup>5)</sup>, Ishii N<sup>6)</sup>, Harada K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon University , <sup>2)</sup> Deratment of Pediatrics, Japanese Red Cross Medical Center , <sup>3)</sup> Deratment of Pediatrics, Wakayama Medical University , <sup>4)</sup> Department of Public Health, Jichi Medical School , <sup>5)</sup> Department of Pediatrics, Kyoto Second Red Cross Hospital , <sup>6)</sup> Department of Pediatrics, Kurume University ) : Revision of Diagnostic Guideline of Kawasaki Disease . The 7th International Kawasaki Disease Symposium ( Hakone ), 2001 . 12 .
- 18) Ikuta K<sup>1)</sup>, Tsuchida M<sup>1)</sup>, Manabe A<sup>1)</sup>, Sato T<sup>1)</sup>, Kikuchi A<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Kamijo T<sup>1)</sup>, Kinoshita A<sup>1)</sup>, Toyoda Y<sup>1)</sup>, Hayashi Y<sup>1)</sup>, Yabe H<sup>1)</sup>, Morimoto T<sup>1)</sup>, Sotomatsu M<sup>1)</sup>, Sugita K<sup>1)</sup>, Maeda M, Kajiwara M<sup>1)</sup>, Ohara A<sup>1)</sup>, Okimoto Y<sup>1)</sup>, Sugita K<sup>1)</sup>, Fujita M<sup>1)</sup>, Isoyama K<sup>1)</sup>, Kumagai M<sup>1)</sup>, Hanada R<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1)</sup>, Nakazawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Children's Cancer Study Group ) : Role of stem cell transplantation for children with acute lymphoblastic leukemia with very high risk features in first remmision : A Tokyo Children 's Cancer Study Group study L95-14 . 44 th Amrican Society of Hematology ( Orlando, USA ), 2001 . 12 .
- 19) Tsuchida M<sup>1)</sup>, Ikuta K<sup>1)</sup>, Hanada R<sup>1)</sup>, Manabe A<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Toyoda Y<sup>1)</sup>, Kinoshita A<sup>1)</sup>, Sato T<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Okimoto Y<sup>1)</sup>, Kajiwara M<sup>1)</sup>, Hayashi Y<sup>1)</sup>, Kumagai M<sup>1)</sup>, Maeda M, Isoyama K<sup>1)</sup>, Fujita H<sup>1)</sup>, Sotomatsu M<sup>1)</sup>, Sugita K<sup>1)</sup>, Sugita K<sup>1)</sup>, Yabe H<sup>1)</sup>, Takayama J<sup>1)</sup>, Kikushi A<sup>1)</sup>, Ohara A<sup>1)</sup>, Hoshi Y<sup>1)</sup>, Hosoya R, <sup>1)</sup> Bessho F<sup>1)</sup>, Nakazawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyou Children's Cancer Study Group ) : The sex difference in prognosis disappeared in children with acute lymphoblastic leukemia : A Tokyo Children's Cancer Studt Group study . 44 th Amrican Society of Hematology ( Orlando, USA ), 2001 . 12 .
- 20) Takase M, Shiota K, Imai T, Imai T : Lung sound spectral changes during bronchodilator response in stable asthmatic children . 5th International Congress on Pediatric Pulmonology ( Nice, France ), 2002 . 2 .
- 21) Fukazawa R : Leukocyte adhesion factor Mac-1 and migration inhibitory factor-related protein ( MRP ) on granulocyte plays the essential role for causing vasculitis in Kawasaki Disease and gamma globulin therapy inhibit leukocyte-endothelial cell adhesion . American Collageof Cardiology ( Atlanta, USA ), 2002 . 3 .
- 22) 深澤隆治 : Gene expression analysis by cDNA micro-array after myocardial infarction in mice . 日本循環器学会 , 2001 . 3 .
- 23) 上砂光裕 , Sapna S , Steven R D , JG S , Christine E S ( <sup>1)</sup> Dep of Genetics, Harbard Medical School ) : Sarcomere Protein Mutions as a Cause of Dilated Cardiomyopathy . 第37回日本小児循環器学会 , 2001 . 7 .
- 24) 小林朋子 , 桑原健太郎 , 藤野 修 : 片側小脳炎の1例 . 第13回千葉県小児神経懇話会 , 2001 . 11 .
- 25) 濱田久光 , 前田美穂 , 右田 真 , 早川 潤 , 浅野 健 , 福永慶隆 : 溶血性貧血を伴ったLCHの1例 . 第14回LCH研究会 , 2002 . 2 .
- 26) 伊藤保彦 , 立麻典子 , 五十嵐徹 , 福永慶隆 : 抗Ro/SSA抗体陽性の自己免疫性疲労症候群とsubclinical Sj 諭 ren 症候群 . 第6回慢性疲労症候群 ( CFS ) 研究会 , 2001 . 2 .
- 27) 大木由加志 , 岸 恵 , 大川拓也 , 大和田操<sup>1)</sup> , 佐々木望<sup>2)</sup> , 松浦信夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学小児科 , <sup>2)</sup> 埼玉医大小児

- 科,<sup>3)</sup>北里大学小児科): 18最未滿発症の小児・思春期2型糖尿病に関する全国調査(第1報). 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 28) 馬場千晶<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 藤村樹里<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): インフルエンザAによる横紋筋融解症. 川崎市小児科医会症例検討会, 2001. 4.
- 29) 浅野 健, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂: ドキソルピシン耐性白血病細胞株に対するマイクロアレイ法による検討. 第63回日本血液学会, 2001. 4.
- 30) 前田美穂, 土田昌宏<sup>1)</sup>, 石本浩市<sup>1)</sup>, 杉田憲一<sup>1)</sup>, 恒松由記子<sup>1)</sup>, 細谷亮太<sup>1)</sup>, 別所文雄<sup>1)</sup>, 福永慶隆, 中澤真平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京小児がん研究グループ): 急性リンパ性白血病長期生存例における神経障害の検討. 第104回日本小児科学会学術集会, 2001. 4.
- 31) 藤田敦士<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 藤村樹里<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院): 血小板減少, 頭蓋内出血を合併した周産期サイトメガロウイルス感染症. 川崎市小児科医会症例検討会, 2001. 4.
- 32) 皆川孝子<sup>1)</sup>, 佐々木望<sup>1)</sup>, 大木由加志, 他, インスリン治療研究会(<sup>1)</sup>埼玉医大小児科): 小児・思春期の尿中アルブミン排泄量基準値の設定と1型糖尿病患者との比較. 第回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 33) 松浦信夫<sup>1)</sup>, 佐々木望<sup>2)</sup>, 雨宮 伸<sup>3)</sup>, 大木由加志, 他, インスリン治療研究会(<sup>1)</sup>北里大学小児科,<sup>2)</sup>埼玉医大小児科,<sup>3)</sup>山梨医大小児科): 小児インスリン治療研究会: 5年間の成果. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 34) 岡田泰助<sup>1)</sup>, 内湊安子<sup>2)</sup>, 岩本安彦<sup>2)</sup>, 大木由加志, 他, インスリン治療研究会(<sup>1)</sup>高知医大小児科,<sup>2)</sup>東京女子医大糖尿病センター): 小児期発症1型糖尿病におけるHbA1cの施設間格差に関する検討. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 35) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学: 成長ホルモン分泌不全性低身長児(GHD)のGH補充療法後3年間の耐糖能とインスリン抵抗性について. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 36) 望月美恵<sup>1)</sup>, 雨宮 伸<sup>1)</sup>, 小林浩司<sup>1)</sup>, 大木由加志, 他, インスリン治療研究会(<sup>1)</sup>山梨医大小児科): 前方視的多施設協同研究におけるHbA1c標準化: 今後の国際的標準化での追跡性の確保. 第44回日本糖尿病学会総会, 2001. 4.
- 37) 松永成太<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 藤村樹里<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院): 反復する臀部腫瘍で発見された筋肉内血管種. 川崎市小児科医会症例検討会, 2001. 4.
- 38) 中島やよひ, 島 義雄, 与田仁志, 川上 義: 睡眠時口鼻マスクによる在宅人工換気を行っている先天性中枢性肺胞低換気症候群の1例. 第493回日本小児科学会東京都地方会, 2001. 4.
- 39) 深澤隆治: cDNAマイクロアレイによるマウス心筋梗塞モデルの経時的遺伝子発現の検討. 日本小児科学会, 2001. 5.
- 40) 高瀬真人, 稲葉八興, 今井丈英, 今井登志子, 城田和彦: 気管支喘息児の吸気肺胞音スペクトル解析による気道安定性評価. 第104回日本小児科学会学術集会, 2001. 5.
- 41) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 抗Sa抗体陽性自己免疫性疲労症候群とアトピー性皮膚炎の関係について. 第45回日本リウマチ学会総会, 2001. 5.
- 42) 早川 潤<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第二): 骨髄細胞の多能性の解析に向けて~GFP陽性骨髄細胞のモデルマウスの作成~. 第104回日本小児科学会学術集会, 2001. 5.
- 43) 林田真理, 吉田順子, 柳原 剛, 大橋隆治, 立麻典子, 土屋正己, 宗像恵美子<sup>1)</sup>, 村上睦美, 芦田光則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大宮赤十字病院,<sup>2)</sup>勝楽堂病院): 小児の尿中アルブミン/クレアチニン比, 総蛋白/クレアチニン比の検討. 第44回日本腎臓学会学術総会, 2001. 5.
- 44) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学: 成長ホルモン分泌不全性低身長児(GHD)における



- GH療法前後のTh1, Th2, Th1/Th2の検討．第104回日本小児科学会学術集会, 2001．5．
- 45) 城田和彦, 高瀬真人, 今井丈英, 稲葉八興, Pasterkamp H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>マニトバ大学小児科): 肺炎患児における呼吸音の音響学的解析．第104回日本小児科学会学術集会, 2001．5．
- 46) 土屋正己, 林田真理, 柳原 剛, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 宗像恵美子<sup>1)</sup>, 芦田光則<sup>2)</sup>, 村上睦美, 福永慶隆(<sup>1)</sup>大宮赤十字病院, <sup>2)</sup>勝楽堂病院): 無症候性血尿の経過中に肉眼的血尿を呈した症例に関する臨床並びに病理組織学的検討．第104回日本小児科学会学術集会, 2001．5．
- 47) 馬場千晶<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院): インフルエンザA感染症による横紋筋融解症の1例．第251回日本小児科学会神奈川県地方会, 2001．6．
- 48) 松久威史, 松田 健, 桑原健太郎, 松倉則夫, 山田宣孝, Surasak B(<sup>1)</sup>日本医科大学付属多摩摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>同多摩永山病院消化器科, <sup>4)</sup>同付属病院第一外科, <sup>5)</sup>同病理学第二, <sup>6)</sup>チェンマイ大学医学部家庭医学科): タイ人小児における*Helicobacter pylori*感染: 日本人小児との比較．第7回日本ヘリコバクター学会, 2001．6．
- 49) 藤村樹里, 小林朋子, 桑原健太郎, 上砂光裕, 今井大洋, 土屋正己, 藤野 修: 夏型過敏性肺臓炎の1例．第159回日本小児科学会千葉地方会, 2001．6．
- 50) 高石康子<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>2)</sup>, 藤田武久<sup>3)</sup>, 川上康彦<sup>3)</sup>, 平山恒憲<sup>3)</sup>, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 藤松真理子<sup>3)</sup>, 羽鳥誉之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院小児科, <sup>2)</sup>千葉北総病院小児科, <sup>3)</sup>第二病院小児科): 原因不明の小児脳梗塞症例．第43回日本小児神経学会総会, 2001．6．
- 51) 藤枝幹也<sup>1)</sup>, 服部元史<sup>2)</sup>, 佐藤浩一<sup>3)</sup>, 平本龍吾<sup>4)</sup>, 杉原茂孝<sup>5)</sup>, 和田尚弘<sup>6)</sup>, 土屋正己, 鈴木和男<sup>7)</sup>, 脇口宏<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>高知医科大学小児科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学腎臓小児科, <sup>3)</sup>千葉県こども病院内分泌科, <sup>4)</sup>松戸市立病院小児科, <sup>5)</sup>東京女子医科大学第二病院小児科, <sup>6)</sup>静岡県立こども病院腎内科, <sup>7)</sup>国立感染症研究所): 抗甲状腺剤治療におけるMPO-ANCA発現とエピトープ解析(2)．第36回日本小児腎臓病学会, 2001．6．
- 52) 平山恒憲<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>2)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科, <sup>2)</sup>千葉北総病院小児科): 重症心身障害児(者)病棟における二段階ツベルクリン反応の検討．第43回日本小児神経学会総会, 2001．6．
- 53) 沼田朋子<sup>1)</sup>, 伊藤 正<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>2)</sup>, 藤野 修<sup>3)</sup>, 平山恒憲<sup>2)</sup>, 橋本 清<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>水方苑, <sup>2)</sup>第二病院小児科, <sup>3)</sup>千葉北総病院小児科): 重症心身障害児に対するインフルエンザワクチンの影響: てんかん発作と脳波所見について．第43回日本小児神経学会総会, 2001．6．
- 54) 宗像恵美子<sup>1)</sup>, 早川 潤, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 大久保隆志<sup>1)</sup>, 安田 正, 村上睦美(<sup>1)</sup>大宮赤十字病院): 新生児期における腎尿路超音波スクリーニング．第36回日本小児腎臓病学会, 2001．6．
- 55) 藤松真理子<sup>1,3)</sup>, 早川 潤<sup>2)</sup>, 大久保隆志<sup>2,3)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 宗像恵美子<sup>3)</sup>, 安田 正<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院小児科, <sup>2)</sup>同付属病院小児科, <sup>3)</sup>大宮赤十字病院小児科): 頭痛, 嘔気, 嘔吐, 複視で発症した動眼神経麻痺で診断に苦慮している1例．第43回日本小児神経学会総会, 2001．6．
- 56) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>2)</sup>, 高石康子<sup>3)</sup>, 川上康彦<sup>2)</sup>, 羽鳥誉之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院, <sup>2)</sup>第二病院, <sup>3)</sup>付属病院): 突然死を来したてんかん児の3例．第43回日本小児神経学会総会, 2001．6．
- 57) 勝部康弘<sup>1)</sup>, 沈 菁<sup>2)</sup>, 中西敏雄<sup>2)</sup>, 深澤隆治<sup>3)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 大久保隆志<sup>3)</sup>, 倉持雪穂<sup>3)</sup>, 内木場庸子<sup>3)</sup>, 福見大地<sup>3)</sup>, 小川俊一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所循環器小児科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院小児科): ATP感受性Kチャンネルの発達に伴う変化はスルフォニルウレア受容体の違いによるか?．第37回日本小児循環器学会, 2001．7．
- 58) 西村奈津子, 島 義雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院): IUGRで出生したPrader: Willi症候群の1症例．新生児学会, 2001．7．
- 59) 内木場庸子, 深澤隆治, 勝部康弘, 関 隆志, 大久保隆志, 武智信幸, 倉持雪穂, 福見大地, 池上 英, 小川俊一: ドブタミン負荷QT dispersion(QTd)による悪性腫瘍既往児におけるanthracycline(ATC)系薬剤の慢性心毒性の評価．第37回日本小児循環器学会, 2001．7．

- 60) 倉持雪穂, 深澤隆治, 福見大地, 内木場庸子, 小川俊一: 幹細胞移植による心筋梗塞治療の可能性: 骨髄移植マウスモデルを用いた検討. 第37回日本小児循環器学会, 2001. 7.
- 61) 松本多絵<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院): 左側頭葉に広範な梗塞巣をともなった全身性エリテマトーデスの1例. 第28回神奈川小児神経懇話会, 2001. 7.
- 62) 福見大地, 深澤隆治, 勝部康弘, 関 隆志, 大久保隆志, 倉持雪穂, 内木場庸子, 小川俊一, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 新生児乳児の心血管疾患における三次元CT(螺旋走査性CT)の有用性. 第37回日本小児循環器学会, 2001. 7.
- 63) 石井庸介<sup>1)</sup>, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 神部 将<sup>1)</sup>, 中野純子<sup>1)</sup>, 別所竜造<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 小川俊一(<sup>1)</sup>外科第二): 先天性心疾患術後不整脈に対する外科的治療の検討. 第37回日本小児循環器学会, 2001. 7.
- 64) 深澤隆治, 倉持雪穂, 内木場庸子, 福見大地, 関 隆志, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一: 川崎病罹患児の末梢白血球細胞におけるcDNAマイクロアレイを用いた遺伝子発現プロファイリングの検討. 第37回日本小児循環器学会, 2001. 7.
- 65) 沈 菁<sup>1)</sup>, 中西敏雄<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>2)</sup>, 小川俊一<sup>3)</sup>, 門間和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所循環器小児科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科, <sup>3)</sup>同付属病院小児科): 胎仔肺動脈と動脈管におけるATP感受性カリウムチャンネル. 第37回日本小児循環器学会, 2001. 7.
- 66) 西澤善樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院): 母乳育児に対する医療者の意識調査. 第37回日本新生児学会総会, 2001. 7.
- 67) 武智信幸, 島 義雄, 川畑 建, 松本多絵: 明確なpre-disposing factorを欠いたnear-term NECの1例. 第37回日本新生児学会, 2001. 7.
- 68) 林田真理, 島 義雄, 川畑 建, 武智信幸: 発達予後が良好である髄膜瘤の体内診断の1例. 第37回日本新生児学会, 2001. 7.
- 69) 西村奈津子, 島 義雄, 大川拓也, 川畑 建, 武智信幸: 高度IUGRを伴ったPrader-Willi症候群の1例. 第37回日本新生児学会, 2001. 7.
- 70) 桑原健太郎, 小林朋子, 川上康彦, 藤田武久, 高石康子, 藤野 修: Clobazamが発作抑制に有効であったEIEE(サブレスション・バーストを伴う早期乳児てんかん性脳症)の1症例. 第35回日本小児神経学会関東地方会, 2001. 9.
- 71) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 小林朋子<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>2)</sup>, 藤田武久<sup>2)</sup>, 高石康子<sup>3)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院, <sup>2)</sup>第二病院, <sup>3)</sup>付属病院): Clobazamが発作抑制に有効であったEIEE(サブレスションバーストを伴う早期乳児てんかん性脳症)の1例. 第35回日本小児神経学会関東地方会, 2001. 9.
- 72) 中野純子<sup>1)</sup>, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 別所竜造<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 川瀬康裕<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 小川俊一(<sup>1)</sup>外科第二): Ebstein 奇形に対するone and half repairの1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第181回学術集会, 2001. 9.
- 73) 五十嵐俊次<sup>1)</sup>, 生田孝一郎<sup>1)</sup>, 土田昌宏<sup>1)</sup>, 花田良二<sup>1)</sup>, 豊田恭徳<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 沖本由理<sup>1)</sup>, 磯山恵一<sup>1)</sup>, 金子 隆<sup>1)</sup>, 木下明俊<sup>1)</sup>, 佐藤武幸<sup>1)</sup>, 上條岳彦<sup>1)</sup>, 熊谷昌明<sup>1)</sup>, 外松 学<sup>1)</sup>, 前田美穂, 小原 明<sup>1)</sup>, 梶原道子<sup>1)</sup>, 菊地 陽<sup>1)</sup>, 矢部普正<sup>1)</sup>, 内山浩志<sup>1)</sup>, 森本 克<sup>1)</sup>, 杉田憲一<sup>1)</sup>, 林 泰秀<sup>1)</sup>, 小池健一<sup>1)</sup>, 藤岡憲一郎<sup>1)</sup>, 杉田完爾<sup>1)</sup>, 柳部安秀<sup>1)</sup>, 藤田宏夫<sup>1)</sup>, 気賀沢寿人<sup>1)</sup>, 齋藤友博<sup>1)</sup>, 中澤真平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京小児がん研究グループ): TCCSG ALL L95-14のPSL/DEX無作為割付の治療成績とその評価. 第43回日本小児血液学会, 2001. 9.
- 74) 杉田完爾<sup>1)</sup>, 生田孝一郎<sup>1)</sup>, 豊田恭徳<sup>1)</sup>, 佐藤武幸<sup>1)</sup>, 木下明俊<sup>1)</sup>, 磯山恵一<sup>1)</sup>, 金子 隆<sup>1)</sup>, 熊谷昌明<sup>1)</sup>, 小原明<sup>1)</sup>, 菊地 陽<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 前田美穂, 上條岳彦<sup>1)</sup>, 林 泰秀<sup>1)</sup>, 矢部普正<sup>1)</sup>, 森本 克<sup>1)</sup>, 杉田憲一<sup>1)</sup>, 土田昌宏<sup>1)</sup>, 中澤真平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京小児がん研究グループ): TCCSG L95-14登録症例におけるCD66陽性例の検討. 第43回日本小児血液学会, 2001. 9.
- 75) 羽鳥誉之, 桑原健太郎, 馬場千晶, 小林朋子, 上砂光裕, 今井大洋, 土屋正己, 藤野 修: インフルエンザ, 麻疹罹患時に部分発作重積をきたした若年性ミオクロニーてんかん女子. 第160回日本小児科学会千葉地方会,

2001 . 9 .

- 76) 浅野 健: エトポシド耐性MDA-VP細胞のトポイソメラーゼII遺伝子の発現低下は同遺伝子プロモーター領域のメチル化が関係しているらしい. 第60回日本癌学会, 2001 . 9 .
- 77) 浅野 健, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: ドキソルピシン耐性白血病細胞に対するマイクロアレイ法による耐性機序の解明. 第43回日本小児血液学会, 2001 . 9 .
- 78) 平山恒憲<sup>1,2)</sup>, 仁保幸次<sup>2)</sup>, 高橋昇治<sup>3)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科, <sup>2)</sup>国立療養所福島病院小児科, <sup>3)</sup>国立療養所福島病院指導室, <sup>4)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院小児科): 異所性甲状腺を有するクレチニズム2症例の約30年にわたる臨床経過. 第27回日本重症心身障害学会, 2001 . 9 .
- 79) 早川 潤, 右田 真, 植田高弘, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆(<sup>1)</sup>生化第二): 骨髄細胞の多能性の解析に向けて~ GFP陽性骨髄細胞のモデルマウスの作成~ A model of mouse transplanted with GFP positive bone marrow cells ~ towards analysis of multipotency of bone marrow cells. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 80) 早川 潤<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 植田高弘<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>生化学第2): 骨髄細胞の多能性の解明にむけたGFP陽性骨髄細胞モデルマウスの作成: 再生医学への応用. 小児血液学会, 2001 . 9 .
- 81) 福見大地, 深澤隆治, 倉持雪穂, 内木場庸子, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 三次元CT(螺旋走査型DT)による小児心血管疾患の評価. 第49回日本心臓病学会, 2001 . 9 .
- 82) 篁 倫子<sup>1)</sup>, 原 仁<sup>1)</sup>, 小原 明<sup>2)</sup>, 気賀沢寿人<sup>3)</sup>, 花田良二<sup>4)</sup>, 沖本由理<sup>5)</sup>, 衣川直子<sup>5)</sup>, 土田昌宏<sup>6)</sup>, 石本浩市<sup>7)</sup>, 前田美穂, 杉田記代子<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>国立特殊教育総合研究所, <sup>2)</sup>東邦大学, <sup>3)</sup>神奈川こども医療センター, <sup>4)</sup>埼玉県立小児医療センター, <sup>5)</sup>千葉県こども病院, <sup>6)</sup>茨城県立こども病院, <sup>7)</sup>順天堂大学小児科, <sup>8)</sup>東京歯科大学市川総合病院小児科): 治療後の急性白血病児の認知機能(第4報): WISC-II知能検査を用いた検討. 第43回日本小児血液学会, 2001 . 9 .
- 83) 内木場庸子, 深澤隆治, 勝部康弘, 上砂光裕, 関 隆志, 大久保隆志, 倉持雪穂, 福見大地, 池上 英, 小川俊一: 川崎病罹患児の急性期, 回復期におけるQT dispersion(QTd)の検討. 第21回日本川崎病研究会, 2001 . 9 .
- 84) 深澤隆治, 内木場庸子, 倉持雪穂, 池上 英, 福見大地, 関 隆志, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一: 川崎病罹患児の末梢白血球における細胞接着因子Mac-1の発現と血管炎との関係. 第21回日本川崎病研究会, 2001 . 9 .
- 85) 藤野 修<sup>1)</sup>, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>2)</sup>, 高石康子<sup>3)</sup>, 岡田一芳<sup>3)</sup>, 川上康彦<sup>2)</sup>, 羽鳥誉之<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院, <sup>2)</sup>第二病院, <sup>3)</sup>付属病院): 突然死をきたしたてんかん症例. 第35回日本てんかん学会, 2001 . 9 .
- 86) 小池幸子<sup>1)</sup>, 石丸さやか<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 右田 真(<sup>1)</sup>形成外科学): 難治性下腿潰瘍を繰り返したBruton型無ガンマグロブリン血症の1例. 第227回日本形成外科学会東京地方会, 2001 . 9 .
- 87) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 小松原清光<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 二分頭蓋の1例. 第252回日本小児科学会神奈川県地方会, 2001 . 9 .
- 88) 前田美穂, 山本圭子<sup>1)</sup>, 北島晴夫<sup>1)</sup>, 渋谷 温<sup>1)</sup>, 小野寺典夫<sup>1)</sup>, 立花直樹<sup>1)</sup>, 横山新吉<sup>1)</sup>, 宮崎澄雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本小児血液学会腫春期貧血委員会): 本邦における思春期貧血. 第43回日本小児血液学会, 2001 . 9 .
- 89) 折本瑞恵, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 浅野 健, 前田美穂, 福永慶隆: 免疫抑制療法が奏功した骨髄異形成症候群(MDS)の1例. 第43回日本小児血液学会, 2001 . 9 .
- 90) 浅野 健: 薬剤耐性白血病細胞におけるマイクロアレイ法を用いた耐性機序の解明. 第61回小児血液・腫瘍懇話会, 2001 . 9 .
- 91) 福永慶隆, 伊藤保彦, 立麻典子, 五十嵐徹: ステロイド治療中に発熱を伴いLDH高値が持続するSLEの1例. 第11回日本小児リウマチ研究会, 2001 . 10 .
- 92) 内木場庸子, 千葉 隆, 神部 将, 稲葉八興, 福島光浩<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 福永慶隆(<sup>1)</sup>外科第二): 右胸腔内に破裂した右成熟縦隔奇形腫の1例. 第34回日本小児呼吸器疾患学会, 2001 . 10 .
- 93) 川上康彦<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 小川耕一<sup>1)</sup>, 新藤史

- 子<sup>1)</sup>, 小泉慎也<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院小児科): 急性散在性脳脊髄炎(ADEM)の1例. 川崎市小児科医会症例検討会, 2001. 10.
- 94) 馬場千晶, 前田美穂, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 浅野 健, 城田和彦, 飛田正俊, 福永慶隆, 細根 勝<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>2)</sup>, 海老原康博<sup>2)</sup>, 石川久美子<sup>2)</sup>, 辻浩一郎<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学病理, <sup>2</sup>東京大学医科学研究所小児細胞移植科): 骨髄に骨髄系細胞の過形成を認めた T-cell lymphoblastic lymphoma. 第43回日本臨床血液学会, 2001. 10.
- 95) 伊藤保彦, 立麻典子, 五十嵐徹, 福永慶隆: 自己免疫性疲労症候群患者に対するステロイド少量療法の試み. 第11回日本小児リウマチ研究会, 2001. 10.
- 96) 稲葉八興, 千葉 隆, 今井丈英, 海津聖彦, 福見大地, 福永慶隆: 出生直後より胸部X線上びまん性陰影を呈した閉塞性細気管支炎と思われる1例. 日本呼吸器疾患学会, 2001. 10.
- 97) 稲葉八興, 千葉 隆, 今井丈英, 福永慶隆, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 福見大地<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>白十字総合病院小児科): 出生直後より胸部レ線上びまん性間質性陰影を認めた閉塞性細気管支炎と思われる1例. 第34回日本小児呼吸器疾患学会, 2001. 10.
- 98) 真部 淳<sup>1)</sup>, 広瀬偉美子<sup>1)</sup>, 麦島秀雄<sup>2)</sup>, 三井哲夫<sup>3)</sup>, 細谷亮太<sup>4)</sup>, 菊地 陽<sup>5)</sup>, 百名伸之<sup>6)</sup>, 設楽利二<sup>7)</sup>, 前田美穂, 中川原章<sup>8)</sup>, 辻浩一郎<sup>1)</sup>, 山下直秀<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東京大学医科学研究所先端医療研究センター, <sup>2</sup>日本大学医学部小児科, <sup>3</sup>山形大学医学部小児科, <sup>4</sup>聖路加国際病院小児科, <sup>5</sup>埼玉県立小児医療センター, <sup>6</sup>琉球大学医学部小児科, <sup>7</sup>群馬県立小児医療センター, <sup>8</sup>千葉がんセンター生化学): 神経芽腫細胞の初代培養: 腫瘍ワクチンを用いた免疫遺伝子治療の準備. 第17回日本小児がん学会, 2001. 10.
- 99) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美, 入江 学: 成長ホルモン分泌不全性低身長児におけるGH補充療法前後の Th1, Th2, Th1/Th2の検討. 第35回日本小児内分泌学会, 2001. 10.
- 100) 小川耕一<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 小泉慎也<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院小児科): 生後2ヶ月の小脳腫瘍の1例. 川崎市小児科医会症例検討会, 2001. 10.
- 101) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 小川耕一<sup>1)</sup>, 新藤史子<sup>1)</sup>, 小泉慎也<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第二病院小児科): 二分頭蓋の1例. 川崎市小児科医会症例検討会, 2001. 10.
- 102) 石川久美子<sup>1)</sup>, 田中竜平<sup>1)</sup>, 吉益 哲<sup>1)</sup>, 鶴田敏久<sup>1)</sup>, 海老原康博<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 井関 徹<sup>1)</sup>, 前田美穂, 浅野茂隆<sup>1)</sup>, 辻浩一郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東京大学医科学研究所): 肺炎を合併した白血化 Kostmann 症候群に対する非血縁間同種骨髄移植. 第43回日本臨床血液学会, 2001. 10.
- 103) 前田美穂, 福永慶隆, 浅野 健, 右田 真, 植田高弘, 早川 潤: 白血病維持療法中のインフルエンザに対する zanamivir の有用性. 第回日本小児感染症学会, 2001. 10.
- 104) 前田美穂, 福永慶隆, 浦 清<sup>1)</sup>, 山内邦昭<sup>1)</sup>, 北川照男<sup>1)</sup>, 今井久美子<sup>2)</sup>, 山下静江<sup>2)</sup>, 浅野 薫<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>東京都予防医学協会, <sup>2</sup>二葉栄養専門学校, <sup>3</sup>シスメックス株式会社中央研究所): 非侵襲ヘモグロビン測定装置の貧血けんしんにおける有用性の検討. 第回日本小児保健学会, 2001. 10.
- 105) 高瀬真人, 城田和彦, 今井丈英, 今井登志子: 非発作時喘息児における 刺激薬吸入後の肺胞音スペクトル変化. 第34回日本小児呼吸器疾患学会, 2001. 10.
- 106) 前田美穂, 濱田久光, 右田 真, 立麻典子, 植田高弘, 早川 潤, 浅野 健, 福永慶隆: 溶血性貧血を伴った Langerhans Cell Histiocytosis の1例. 日本臨床血液学会例会, 2001. 10.
- 107) 勝部康弘<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>2)</sup>, 上砂光裕<sup>3)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 大久保隆志<sup>2)</sup>, 倉持雪穂<sup>2)</sup>, 内木場庸子<sup>2)</sup>, 福見大地<sup>2)</sup>, 池上 英<sup>2)</sup>, 小川俊一<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>第二病院, <sup>2</sup>付属病院, <sup>3</sup>千葉北総病院): ラット心室筋における ATP 感受性 K チャンネルの発達に伴う変化. 第6回小児心電図学研究会, 2001. 11.
- 108) 平山恒憲<sup>1,2)</sup>, 仁保幸次<sup>2)</sup>, 石川秀雅<sup>3)</sup>, 小野重明<sup>3)</sup>, 伊藤 理<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学付属第二病院小児科, <sup>2</sup>国立療養所福島病院小児科, <sup>3</sup>国立療養所福島病院内科): 重症心身障害児(者)病棟における二段階ツベルクリン反応の検討. 第56回国立病院療養所総合医学会, 2001. 11.

- 109) 高瀬真人, 城田和彦, 今井丈英, 今井登志子: 小児喘息の長期管理における肺胞音スペクトル解析の有用性. 第26回肺音(呼吸音)研究会, 2001. 11.
- 110) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 妊娠中母体体重増加が児に及ぼす影響第1報: 出生体重との関連について. 第46回日本未熟児新生児学会, 2001. 11.
- 111) 松本多絵, 島 義雄, 川畑 建, 藤村樹里, 武智信幸: 原因不明の溶血性貧血を来した極低出生体重児の4例. 第46回日本未熟児新生児学会, 2001. 11.
- 112) 川畑 建, 島 義雄, 林田真理, 西村奈津子, 折本瑞恵, 武智信幸: 偶然発見された心臓腫瘍の1例. 第46回日本未熟児新生児学会, 2001. 11.
- 113) 武智信幸, 島 義雄, 松本多絵, 藤村樹里: 当院における多胎児の臨床. 第46回日本未熟児新生児学会, 2001. 11.
- 114) 内木場庸子, 千葉 隆, 神戸 将, 稲葉八興, 福島光浩, 小泉 潔, 福永慶隆: 右胸腔内に破裂した右成熟縦隔奇形種の1例. 小児呼吸器学会, 2001. 11.
- 115) 黒田奈緒, 稲葉八興, 前田美穂, 福永慶隆, 吉野浩之<sup>1)</sup>, 尾花和子<sup>1)</sup>, 横森欣司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日赤医療センター小児外科): 血清NSEが著名な高値を示したウイルス腫瘍の7歳女児例. 第17回日本小児がん学会, 2001. 12.
- 116) 浅野 健, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: 薬剤耐性癌腫に対する5-Aza-2'-deoxycytidineの有効性の検討. 第17回日本小児癌学会, 2001. 12.
- 117) 中山総一郎, 今井丈英, 飛田正俊, 向後俊昭, 土屋正己: 治療に難渋したBurkholderia cepacia敗血症の1例. 第449回日本小児科学会東京地方会講話会, 2002. 1.
- 118) 新藤史子<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院): ネフローゼ様症状で気づかれた大腸菌O-157感染症の1例. 第254回日本小児科学会神奈川県地方会, 2002. 2.
- 119) 折本瑞恵, 上砂光裕, 今井大洋, 小林朋子, 桑原健太郎, 馬場千晶, 土屋正己, 藤野 修: 偶然発見された縦隔腫瘍の1例. 第161回日本小児科学会千葉地方会, 2002. 2.
- 120) 伊藤恭子, 稲葉八興, 黒田奈緒, 前田美穂, 福永慶隆: 治療中にVODをきたしたウイルス腫瘍の1例. 2001年度関東甲信越地区小児がん登録研究会, 2002. 2.
- 121) 伊藤保彦: 自己免疫性疲労症候群患者に対する少量ステロイド療法の試み. 平成13年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」班会議, 2002. 2.
- 122) 伊藤保彦, 桑原奈津子, 福永慶隆: 小児の線維筋痛症と慢性疲労症候群の免疫学的特徴. 第7回慢性疲労症候群(CFS)研究会, 2002. 2.
- 123) 小川耕一<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 生後48日に診断された小脳奇形種の1例. 第29回神奈川小児神経懇話会, 2002. 2.
- 124) 内木場庸子, 深澤隆治, 勝部康弘, 上砂光裕, 関 隆志, 倉持雪穂, 福見大地, 池上 英, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 小川俊一(<sup>1)</sup>外科第二): 総肺静脈還流異常症(3型)術後の左肺静脈閉塞・肺高血圧による左肺血流減少に伴い体肺動脈吻合を形成し, 喀血を反復した1例. 第8回小児肺循環研究会, 2002. 2.
- 125) 小泉慎也, 早川 潤, 林田真理, 村上睦美, 福永慶隆: VT2産生腸管出血性大腸菌O-165による溶血性尿毒症症候群をきたした1例. 東京都地方会, 2002. 3.
- 126) 小泉慎也, 早川 潤, 林田真理, 村上睦美, 福永慶隆, 林 明総<sup>1)</sup>, 田中哲治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): ペロ毒素産生病大腸菌O-157により溶血性尿毒症症候群を来した1例. 第501回日本小児科学会東京地方会講話会, 2002. 3.
- 127) 白井潤二<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院): 特発性後腹膜血種の1例. 第255回日本小児科学会神奈川県地方会, 2002. 3.
- 128) 川上康彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup>, 小林朋子<sup>2)</sup>, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 高石康子<sup>3)</sup>, 藤野 修<sup>2)</sup>, 近藤雅雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科, <sup>2)</sup>同千葉北総病院小児科, <sup>3)</sup>同付属病院小児科, <sup>4)</sup>国立公衆衛生院栄養生化学部): 難治てんかんにプリン代謝異常を併発したと考えられた1例. 第36回日本小児神経学会関東地方会,

2002 . 3 .

129) 稲葉八興, 福永慶隆: 3歳児におけるBCG針痕数とアトピー性疾患有病率の関係. 第105回日本小児科学会, 2002 . 4 .

(9) ポスター:

1) 土屋正己, 林田真理, 柳原 剛, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 宗像恵美子<sup>1)</sup>, 芦田光則<sup>2)</sup>, 村上睦美, 福永慶隆 ( <sup>1)</sup>大宮赤十字病院, <sup>2)</sup>勝楽堂病院 ): 無症候性血尿で発見され肉眼的血尿を契機として腎炎と診断された症例に関する臨床ならびに病理組織学的検討. 第48回日本小児保健学会, 2001 . 11 .

(10) 展示:

1) 石丸さやか<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 右田 真 ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): 下腿潰瘍を繰り返した先天性無 - グロブリン血症の1例. 第69回日本医科大学医学会総会・講演会, 2001 . 9 .

## 7. 放射線医学講座

### [ 付属病院放射線科 ]

#### 研究概要

一般撮影部分では、CRによる下肢静脈造影，フラットパネルによる精度向上の検討が行われている。更にフラットパネルから得られたデジタルデータを用いた臨床診断方面工乳房撮影場を目的とする研究にも着手している。

CT部門では、多列検出器型CT導入に伴い、腫瘍性病変の血行動態解析，脳パーフュージョン，広範囲に及び高精度の3次元血管造影法，更には冠動脈の3次元CT画像法が開発され，研究が進んでいる。

MRI部門では高速撮像法を利用した流速の測定や胆道系の描出に進歩を認め，臨床的な検討に基づいた新しい知見を報告した。またdark blood法やsteady state法の改良を行い，心血管系の検討に着手している。

超音波部門では，静脈瘤，深部静脈血栓，動脈疾患，肝腫瘍に対する詳細な評価が可能となり臨床応用されている。

血管造影IVR部門では，大動脈ステントグラフト，肺塞栓症に対する血栓破砕吸引療法などの研究に加え，深部静脈血栓症に対するIVRCTガイド下生検ドレナージが成果をあげている。骨盤内悪性腫瘍に対する閉鎖循環による高濃度抗癌剤治療も臨床応用が進み，成果を挙げている。

核医学部門では，モバイル型ガンマカメラを用いた臨床研究が進められ，CCUベッドサイドにおける心機能解析あるいは手術室内RI腫瘍活性評価等の臨床応用が行われている。中枢神経領域では3次元統計画像解析を用いた機能異常検出の臨床研究が進められている。

放射線治療部門では，(1) 頭頸部腫瘍での画像診断と治療の最適化，(2) 乳癌と前立腺癌の形態・機能温存治療，(3) 食道癌の集学的治療がテーマとなっている。強度変調放射線治療IMRTと定位放射線療 radio-surgery も可能となり，頭頸部癌，前立腺癌，脳腫瘍，早期肺癌の治癒率向上を目指した dose escalation study を計画している。

#### 研究業績

##### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Kaneko M<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kumita S, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> First Dept of Surgery ): A new method of functional scintiphotosplenoportography using technetium-99m-DTPA-galactosylated human serum albumin . Gastroenterol 2000 ; 47 : 1636-1641 .
- 2) 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 内科第1 ): 血栓の色調からみた急性肺血栓塞栓症の臨床的特徴 . 脈管学 2001 ; 41 : 207-211 .

(1) 原著：

- 1) Miyashita T, Tateno A, Horiuchi J<sup>1)</sup>, Nakamizo M<sup>2)</sup>, Sugizaki K, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Hakuji-kai memorial hospital, <sup>2)</sup> Department of Otolaryngology ): Short-Time ultrasound of head and neck Squamous cell Carcinoma under Radiotherapy . Ultrasound in Medicine and Biology 2001 ; 27 ( 1 ): 13-19 .
- 2) Kumita S, Cho K<sup>1)</sup>, Nakajo H, Toba M<sup>2)</sup>, Kijima T<sup>1)</sup>, Mizumura S, Oshina T, Kumazaki T, Sano J<sup>3)</sup>, Sakurai K<sup>3)</sup>, Munakata K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> First Department of Internal Medicine ): Serial assessment of left ventricular function during dobutamine stress by means of electrocardiography-gated myocardial SPECT : Combination with dual-isotope myocardial perfusion SPECT for detection of ischemic heart disease . Journal of Nuclear Cardiol-

- ogy 2001 ; 8 ( 2 ) : 152-157 .
- 3 ) Hayashi H, Kawamata H<sup>1)</sup>, Ishio M, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital ): Multiple renal artery aneurysms diagnosed by three-dimensional CT angiography . Journal of Clinical Imaging 2001 ; 24 ( 4 ) : 221-223 .
  - 4 ) Tajima H, Kumazaki T, Kawamata H<sup>1)</sup>, Ichikawa K, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Chiba hokuso hospital , <sup>2)</sup> Department of First Internal Medicine ): Development of rotational digital angiography system - clinical value in acute pulmonary thromboembolism . Computer Methods and Programs in Biomedicine 2001 ; 66 ( 7 ) : 111-114 .
  - 5 ) Xu X<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Ishio M<sup>1)</sup>, Watari J<sup>1)</sup>, Miyashita T<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept of Radiology, and Center for Advanced Medical Technology , <sup>2)</sup> Dept of Anesthesiology ): Study on the Treatment of Tracheobronchial Stenosis using Expandable Metallic Stents . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 4 ) : 318-327 .
  - 6 ) Kumita S, Cho K<sup>1)</sup>, Nakajo H, Toba M<sup>2)</sup>, Uwamori M, Mizumura S, Kumazaki T, Sano J<sup>3)</sup>, Sakai S<sup>3)</sup>, Munakata K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>2)</sup> Dept of Radiology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> First Department of Internal Medicine ): Assessment of left ventricular diastolic function using electrocardiography-gated myocardial perfusion SPECT : Comparison with multigated equilibrium radionuclide angiography . Journal of Nuclear Cardiology 2001 ; 568-574 .
  - 7 ) Kojima T<sup>1)</sup>, Mizumura S, Kumita S, kumazaki T, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept of Neurosurgery ): Is technetium 99m-MIBI taken up by the normal pituitary gland? A comparison of normal pituitary glands and pituitary adenomas . Ann Nucl Med 2001 ; 15 : 321-327 .
  - 8 ) Amano Y, Nakajima M<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> GE Yokogawa Medical Systems ): Peak blood flow measurement of coronary sinus by cine phase contrast MR imaging : comparison between breath-hold and respiratory compensation techniques . Clinical Imaging 2001 ; 25 : 23-27 .
  - 9 ) Amano Y, Takagi R, Takahama K, Kumazaki T : Contrast-enhanced T1-weighted Black-blood fast spin-echo MR imaging of the brain. Technique for suppression of enhancing venous signal . Acta Radiol 2001 ; 42 : 27-32 .
  - 10 ) Amano Y, Tajika K<sup>1)</sup>, Mizuki M, Dan K<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Thiurd Internal Medicine ): All-trans retinoic acid syndrome : chest CT assessment . European Radiol 2001 ; 11 : 1516-1517 .
  - 11 ) Shimizu K<sup>1)</sup>, Kumita S, Kitamura Y<sup>1)</sup>, Nagahama M<sup>1)</sup>, Kitagawa W<sup>1)</sup>, Akasu H<sup>1)</sup>, Oshina T, Kumazaki T, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept of Second Surgery ): Trial of autotransplantation of cryopreserved thyroid tissue for postoperative hypothyroidism in patients with Graves' disease . J Am Coll Surg 2002 ; 194 : 14-22 .
  - 12 ) Amano Y, Takahashi M<sup>1)</sup>, Oishi T<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Hakujuikai Memorial Hospital ): Quantitative and qualitative assessment of reactive hematopoietic bone marrow in aplastic anemia using MR spectroscopy with variable echo times . Skeletal Radiology 2002 ; 31 : 19-24 .
  - 13 ) Miyashita T, Tateno A, kumazaki T, Furukawa K, Minobe K, Shimazu K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First and Second Dept of Surgery, Nippon Med Sch ): Breast-Conserving Therapy in the Management of Early-Stage Breast Cancer. Our Experience in 103 Cases . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ) : 24-30 .
  - 14 ) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤賢<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター , <sup>2)</sup> 内科第1 , <sup>3)</sup> 集中治療室 ): カテーテルの回転による急性塊状肺血栓の破砕治療 : 初期臨床経験 . 脈管学 2001 ; 41 ( 4 ) : 217-219 .
  - 15 ) 山本 鼎<sup>1)</sup>, 田島廣之, 渡 潤, 隈崎達夫, 田中 潤<sup>2)</sup>, 石井 宏<sup>2)</sup>, 長村好章<sup>2)</sup>, 進士雄二<sup>2)</sup>, 中本 讓<sup>2)</sup>, 阿部敏尚<sup>2)</sup>, 衛藤広治<sup>2)</sup>, 高尾昭一郎<sup>2)</sup>, 高原満男<sup>2)</sup>, 野田正剛<sup>2)</sup>, 平間石根<sup>2)</sup>, 深沢伯英<sup>2)</sup>, 八島 顕<sup>2)</sup>, 武藤敬<sup>2)</sup>, 木田勝美<sup>3)</sup>, 岩崎義信<sup>3)</sup>, 河野正実<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院放射線科 , <sup>2)</sup> 豊島区医師会 , <sup>3)</sup> 豊島健康診査セン



ター): 高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌1次検診の経験. 胸部CT検診 2001; 8(2): 92-97.

- 16) 福島善光, 汲田伸一郎, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 中條秀信, 水村 直, 秋山一義, 隈崎達夫<sup>(1)</sup>(多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): 心電図同期心筋SPECTにおけるアルゴリズムおよび核種の相違に基づく左室容量算出値の乖離に関する検討. 日本核医学 2001; 38(6): 715-720.
- 17) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 天野真紀<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科, ハイテクリサーチセンター): Single-detector-rowおよびmultidetector-row CTを用いた3次元CT血管造影法による骨盤・下肢血管病変の低侵襲的診断. 脈管学 2001; 11(41): 785-790.
- 18) 富口静二<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 橋本 順<sup>2)</sup>, 井上登美夫<sup>3)</sup>, 野村新之<sup>4)</sup>, 江本順一<sup>5)</sup>, 中嶋憲一<sup>6)</sup>, 西村恒彦<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大放射線科, <sup>2)</sup>慶応大放射線科, <sup>3)</sup>群馬大放射線科, <sup>4)</sup>三重大放射線科, <sup>5)</sup>半田病院放射線科, <sup>6)</sup>金沢大核医学科, <sup>7)</sup>京都府立大放射線科): 多施設共同研究による201TI心筋SPECTにおける吸収散乱補正の臨床的有用性の検討. 核医学 2001; 39: 37-46.

## (2) 綜説:

- 1) Takagi R, Hayashi H, Uchiyama N, Miyamoto Y, Kudo M<sup>1)</sup>, Kumazaki T (<sup>1)</sup>内科第4): Combination Diagnosis with CT Perfusion and CT Angiography for cerebral ischemic lesion. RSNA Education Exhibits 2001.
- 2) 隈崎達夫: MRI画像に基づいた簡便な胸部大動脈拘束条件推定方法と胸部大動脈瘤への適用. 脈管学 2001.
- 3) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>外科第1): 原発性肝癌: 破裂例に対する肝動脈塞栓術. 日腹部救急医学会誌 2001; 21(4): 649-652.
- 4) 林 宏光, 隈崎達夫: 多列検出器型CTによる3次元CT血管造影法: 腹部大動脈瘤. 今日の高血圧治療 2001; 5(1): 1-2.
- 5) 林 宏光, 隈崎達夫: 循環器の画像診断ガイド: 3次元画像診断. 総合臨牀 2001; 50: 1214-1222.
- 6) 内山菜智子, 隈崎達夫: FPDによる変革の近未来予測: 臨書に何をもちたらすか?. INNERVISION 2001; 16(5): 1-3.
- 7) 駒田康成<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 腸管虚血のIVR. 画像診断 2001; 21(6): 638-642.
- 8) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>外科第1): 原発性肝癌破裂例に対する肝動脈塞栓術. 日腹部救急医学会誌 2001; 21(4): 649-652.
- 9) 汲田伸一郎, 隈崎達夫: 心電図同期心筋SPECTの臨床応用と今後の展開. 日本放射線技術学会雑誌 2001; 57(6): 657-663.
- 10) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 尾科隆司<sup>3)</sup>, 上森真理子<sup>3)</sup>, 小菅 豊<sup>3)</sup>, 水村直, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>4)</sup>, 田中啓治<sup>5)</sup>, 岸田 浩<sup>4)</sup>, 高野照夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科技師, <sup>4)</sup>内科第1, <sup>5)</sup>集中治療室): 半導体検出器搭載モバイル型ガンマカメラ Digirad 2020tc Imager<sup>tm</sup>を用いた左室機能解析. 核医学 2001; 38(3): 249-254.
- 11) 林 宏光, 高木 亮, 天野康雄, 内山菜智子, 高濱克也, 中原 圓<sup>1)</sup>, 古川一博, 駒田康成, 清水康弘, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): 読影に役立つCT・MRIのサイン: 画像の成り立ちと有用性. 臨床画像 2001; 17(6): 34-44.
- 12) 高木 亮, 林 宏光, 内山菜智子, 天野康雄, 中原 圓<sup>1)</sup>, 工藤正幸<sup>2)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>GE横河メディカル): 脳におけるCTPとCTA: 急性期脳虚血病易変に対する新たな臨床応用. VIEWS RADIOLOGY 2001; 3(2): 13-13.
- 13) 林 宏光, 吉川公彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>奈良県立医科大学放射線科): 腹部大動脈瘤ステントグラフト留置術におけるCT-Soft ware "Advanced Vessel Analysis"の有用性. 映像情報 2001; 33(9): 1-4.

- 14) 内山菜智子, 高木 亮, 林 宏光, 隈崎達夫: MDCTの日常検査における有効活用. 映像情報メディカル 2001; 33(9): 12-17.
- 15) 隈崎達夫: 回転デジタル血管造影法. 総合臨 2001; 50(9): 2613-2616.
- 16) 高木 亮, 隈崎達夫: CT perfusionの臨床応用: CT angiography併用による急性期脳梗塞の診断. 映像情報 2001; 33: 971-976.
- 17) 高木 亮, 隈崎達夫: 頭部領域のMDCT(マルチスライスCT). 日本医放会誌 2001; 61(9): 2-6.
- 18) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 高濱克也, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫: CTA: 骨盤・下肢: SDCTによるCTAからMDCTによるCTAへ. 臨画像 2001; 17(9): 50-59.
- 19) 林 宏光, 隈崎達夫: Multidetector-row CTの開発と3次元CT血管造影法の進歩. Heart View 2001; 5(10): 37-45.
- 20) 保坂純郎, 隈崎達夫: 四肢静脈疾患の画像診断. 臨画像 2001; 17(10): 1176-1186.
- 21) 隈崎達夫: 回転デジタル血管造影法. 総合臨 2001; 50(10): 2846-2856.
- 22) 保坂純郎, 隈崎達夫: 下肢静脈超音波検査: 静脈弁の描出と機能評価. Vascular Diseases and Therapies Update 2001; 5: 1-3.
- 23) 林 宏光, 隈崎達夫: 大動脈解離の画像診断: 診断の要点と検査法の特徴を中心に. 日本医事新報 2001; 4042: 22-25.
- 24) 中原 圓<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): CT・MRIアトラス: 食道・気管. Medicina 2001; 38(11): 192-197.
- 25) 隈崎達夫, 伊藤勝陽<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>広島大学医学部放射線科): 最近の画像解析の進歩と新しい脈管疾患診療への展開: 序文とまとめ. 脈管学 2001; 41(11): 761-762.
- 26) 田島廣之<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): カテーテル, 塞栓物質, 放射線機器. 救急集中治療 2001; 13(11): 1135-1141.
- 27) 古川一博<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 腹部外傷: CT, 血管造影を中心として. 画像診断 2001; 21(11): 1180-1186.
- 28) 林 宏光, 隈崎達夫: 血管病変の低侵襲的診断: CT angiographyを中心にして. COMPLICATION 2001; 6(2): 36-42.
- 29) 内山菜智子, 田島廣之, 小林宏之<sup>1)</sup>, 町田 稔, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>付属病院放射線科技師): マンモグラフィー(臨床を中心に): Senographe 2000Dの臨床経験. Radiology Frontier 2001; 4(4): 21-25.
- 30) 林 宏光: MDCTが切り開く新しい医療. JAMA 2001; 13-15.
- 31) 林 宏光, 高木 亮: マルチスライスCTの臨床評価: 救急医療における有用性. Digital Medicine 2001; 2: 2-11.
- 32) 林 宏光, 隈崎達夫: 3次元画像の基礎と臨床: 3次元CTを中心に. 腎と透析 2001; 50: 438-443.
- 33) 林 宏光, 隈崎達夫, 田島廣之, 川俣博志<sup>1)</sup>, 市川和雄(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 21世紀における画像診断法の進歩: X線CTの新たな展開. 日血管内治療会誌 2001; 2: 24-27.
- 34) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 尾科隆司<sup>3)</sup>, 上森真里子<sup>3)</sup>, 小菅 豊<sup>3)</sup>, 水村直, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>4)</sup>, 田中啓治<sup>5)</sup>, 岸田 浩<sup>4)</sup>, 高野照夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科技師, <sup>4)</sup>内科第1, <sup>5)</sup>集中治療室): 半導体検出器搭載モバイル型ガンマカメラ Digirad 2020tc Imagerを用いた左室機能解析. 核医学 2001; 38(11): 249-254.
- 35) 林 宏光, 隈崎達夫: 大動脈解離における造影CTの意義. 日本医事新報 2001; 4024: 115-116.
- 36) 林 宏光, 天野康雄, 高木 亮, 内山菜智子, 高濱克也, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫: 大動脈疾患のMR angiography. INNERVISION 2001; 16: 55-60.

- 37) 小林宏之<sup>1)</sup>, 黒田大介<sup>1)</sup>, 高月秀雄<sup>1)</sup>, 鈴木智之<sup>1)</sup>, 谷越雅幸<sup>1)</sup>, 増山桂一<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 内山菜智子, 田島廣之, 町田 稔, 隈崎達夫<sup>(1)</sup> (付属病院放射線科技術師): 静止画像撮影における FPD システム: Senographe2000D (GEMS). INNERVISION 2001; 16(5): 21-24.
- 38) 林 宏光, 隈崎達夫: 画像診断で広がる病診連携: 骨盤・下肢: 閉塞性動脈硬化症を中心に. Medical Digest 2002; 51(376): 37-45.
- 39) 林 宏光: CT・MRI key words index. 胸腹部・骨盤部CT・MRI 診断のキーワード160 2002; 13(17): 26-34.
- 40) 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 血栓症の Interventional Radiology: 特集によせて. 血栓と循環 2002; 10(1): 9-9.
- 41) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 血栓症の Interventional Radiology: 肺血栓塞栓症. 血栓と循環 2002; 10(1): 28-32.
- 42) 川俣博志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 岡田 進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 血栓症の Interventional Radiology: 門脈血栓症. 血栓と循環 2002; 10(1): 42-47.
- (3) 研究報告書:
- 1) 田島廣之, 岡部哲夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高崎健康福祉大学健康福祉学部健康情報科): 合同シンポジウム報告: 第4回日本スカンジナビア放射線医学協会シンポジウム, 第7回日本ノルディック PACS シンポジウム. 映像情報 Medical 2001; pp92-95.

## 著 書

- 1) 田島廣之, 隈崎達夫: [分担] 腹部外傷における画像診断のポイント. Clinical Practice of Anesthesia, 2001; pp224-225, 1.
- 2) 汲田伸一郎, 佐野純子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): [分担] 心電図同期心筋SPECT 短時間収集データを用いた運動・薬剤負荷時の左室機能解析. 心電図同期SPECTの理論と実際 - 心疾患の診療における役割 (西村恒彦, Germano 編), 2001; pp97-103, 南江堂.
- 3) 林 宏光, 川俣博志<sup>1)</sup>, 高木 亮, 水村 直, 汲田伸一郎, 田島廣之, 隈崎達夫<sup>(1)</sup>千葉北総病院放射線科): [分担] 集中治療医学. 日本集中治療学会 (日本集中治療学会), 2001; pp108-113, 秀潤社.
- 4) 林 宏光, 隈崎達夫: [分担] 高速らせんCTおよび3次元CT血管造影法. 抹消動脈の診断と血管内治療, 2001; pp27-33, 金原出版.
- 5) 汲田伸一郎: [編集] 症例からはいれる心臓核医学マニュアル (山崎純一, 汲田伸一郎編集), 2001; メディカルレビュー社.
- 6) 中條秀信: [分担] 陳旧性心筋梗塞. 症例からはいれる心臓核医学マニュアル (山崎純一, 汲田伸一郎編集), 2001; pp34-39, メディカルレビュー社.
- 7) 中條秀信: [分担] 心エコー図とRI viewの対比・解剖図. 症例からはいれる心臓核医学マニュアル (山崎純一, 汲田伸一郎編), 2001; pp157-159, メディカルレビュー社.
- 8) 汲田伸一郎: [分担] 心筋シンチグラフィの読影. 症例からはいれる心臓核医学マニュアル (山崎純一, 汲田伸一郎編), 2001; pp162-165, メディカルレビュー社.
- 9) 隈崎達夫, 中村仁信<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大阪大学大学院医学研究科): [編集] 国際MDCTシンポジウム講演録. Excerpta Medica, 2001; Excerpta Medica.
- 10) 林 宏光: [分担] CT・MRI 診断のキーワード: 胸腹部・骨盤部. CT・MRI 診断のキーワード: 胸腹部・骨盤部, 2001; pp26-35, メディカルレビュー社.
- 11) 林 宏光: [分担] CT-MRI 診断のキーワード: 胸腹部・骨盤部. CT・MRI Key words index, 2002; pp26-34, メディカルレビュー社.

- 12) 宮下次廣：〔編集〕良性疾患の放射線治療．癌・放射線療法2002（大川智彦，田中良明，佐々木武仁編），2002；pp1026-1039，篠原出版新社．
- 13) 小林由子<sup>1)</sup>，隈崎達夫（<sup>1</sup>）多摩永山病院放射線科）：〔分担〕造影MRIはどのようなときに行うか．臨床産科婦人科検査法，2002；pp148-149，金原出版．
- 14) 内山菜智子，田島廣之：〔分担〕骨盤部婦人科腫瘍におけるCTの役割．臨床産科婦人科検査法，2002；pp146-147，金原出版．
- 15) 岡田 進<sup>1)</sup>，隈崎達夫（<sup>1</sup>）千葉北総病院放射線科）：〔分担〕MRIによる子宮癌の進行期診断．骨盤部婦人科腫瘍におけるCTの役割．臨床産科婦人科検査法，2002；pp150-151，金原出版．
- 16) 町田 稔，田島廣之：〔分担〕乳癌スクリーニングとしてのマンモグラフィー．臨床産科婦人科検査法，2002；pp210-211，金原出版．

#### 学会発表

〔2000年度追加分〕

##### 特別講演：

- 1) 隈崎達夫：最近の画像診断の進歩と新しい脈管疾患診療への展開．第15回山口県循環器画像診断研究会，2001．1．
- 2) 隈崎達夫：IVRの現状と夢：IVRセンター設立を経て思うこと．第10回福島県IVR研究会，2001．1．

##### 一般講演：

- 1) Taniguchi H<sup>1)</sup>，Goto Y<sup>1)</sup>，Hayashi H，Kumazaki T（<sup>1</sup>）Hitachi Medical Corp）：Development of curved planar reconstruction image using virtual endoscopy．Medical Imaging2001：Physics of medical Imaging（San Diego），2001．2．

##### （1）その他：

- 1) 依斯坎的尔 阿布力米堤，宮下次廣，館野 温，隈崎達夫：食道癌の発生状況．新疆と日本の比較検討．第12回外国人留学者研究会，2001．12．

##### （2）特別講演：

- 1) 隈崎達夫：急性血栓症（動脈瘤）に対する画像診断とIVR～最近の進歩．第11回甲信心臓血管外科カンファレンス，2001．7．
- 2) 汲田伸一郎：半導体検出器搭載モバイル型ガンマカメラ Digirad 2020tc Imager を用いた心臓核医学検査．第5回兵庫Gated SPECT研究会，2001．9．
- 3) 隈崎達夫：3次元血管造影の将来展望：IVRとのより良いかわり求めて．第1回3次元画像解析・レーザーフォーラム，2001．10．
- 4) 田島廣之：肺血栓塞栓症を知ろう：画像所見で見逃すな（見逃したら怖い身近な病気）．第18回盛岡循環器セミナー，2001．10．
- 5) 隈崎達夫：インターベンショナルラジオロジー 最近の進歩．第11回小石川消化器病フォーラム，2001．11．
- 6) 林 宏光：CT angiographyによる閉塞性動脈硬化症の低侵襲的診断：治療支援画像としての可能性を探る（ASO その診断と治療の進歩）．栃木血管病セミナー，2002．2．
- 7) 汲田伸一郎：Tc-99m-sestamibiを用いた心臓核医学．第7回山形心臓核医学懇話会，2002．3．
- 8) 林 宏光：マルチスライスCT：基礎からその特徴を活かした臨床応用まで．第1回マルチスライスCT研究会，2002．3．

##### （3）招待講演：

- 1) 汲田伸一郎：心臓核医学の臨床応用法を考える．第35回東海循環器核医学研究会，2001．6．

- 2) 林 宏光, 天野康雄, 隈崎達夫: 大血管・末梢血管のMR angiography MDCT angiography : State of the Art . 第9回日本MRA研究会, 2001 . 6 .
  - 3) 田島廣之: 肺血栓塞栓症の血管内治療 . 第161回東京通信病院学術講演会, 2001 . 9 .
  - 4) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 中條秀信, 福島善光, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): 半導体検出器 Digirad 2020tc Imager の心臓核医学への応用 . 第762回放射線診療研究会, 2001 . 9 .
  - 5) 汲田伸一郎: Gated SPECT の新しい展開 . 第41回日本核医学会総会, 2001 . 10 .
  - 6) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 清野精彦<sup>2)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>3)</sup>, 福島善光, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>多摩永山病院放射線科 ): 心不全ラットにおける Tc-99m MIBI 心筋保持能 . 第1回 Sestamibi 講演会, 2001 . 11 .
  - 7) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): 心臓SPECT データにおける定量性の向上 数値ファントムを用いた検討 . 第19回データ処理研究会, 2001 . 12 .
  - 8) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 福島善光, 隈崎達夫, 清野精彦<sup>3)</sup>, 福本祐子<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>, 四方田勇<sup>4)</sup>, 井上 実<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>内科第1, <sup>4)</sup>第1ラジオアイソトープ ): アドリアマイシン心不全ラットにおける Tc-99m MIBI 保持能 . 心臓核医学フォーラム, 2002 . 3 .
- (4) シンポジウム :
- 1) Hosaka J, Kumazaki T, Tajima H, Murata S, Nakazawa K : Venography : computed radiology v. s. film-screen system . 4th Symposium Japanese Scandinavian Radiological Society and 7th Nordic Japan PACS Symposium ( Oslo ), 2001 . 5 .
  - 2) Tajima H, Kumazaki T, Hosaka J, Murata S, Nakahara M, Nakazawa K : Acute massive pulmonary thromboembolism : A combined approach with mechanical fragmentation using a rotating pigtail catheter, local fibrinolysis, and clot aspiration . 4th Symposium Japanese Scandinavian Radiological Society and 7th Nordic Japan PACS Symposium ( Oslo ), 2001 . 5 .
  - 3) Murata S, Tajima H, Kumazaki T, Hosaka J, Nakahara M, Nakazawa K : Development and clinical Applications of a New System for Isolated Pelvic Perfusion in Advanced pelvic cancers . 4th Symposium Japanese Scandinavian Radiological Society and 7th Nordic Japan PACS Symposium ( Oslo ), 2001 . 5 .
  - 4) Nakahara M, Ericson K<sup>1)</sup>, Nordell B<sup>1)</sup>, Tajima H, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept. of Neuroradiology, Karolinska hospital ): Evaluation of severe brain injury with ADC map . 4th Symposium Japanese Scandinavian Radiological Society and 7th Nordic Japan PACS Symposium ( Oslo ), 2001 . 5 .
  - 5) Nakazawa K, Murata S, Tajima H, Komada Y, Niggemann P, Ichikawa K, Kumazaki T, Aida T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept of First Surgery ): Thrombolysis And thrombectomy of Portal Venous System Thrombosis After Total Colectomy for Ulcerative Colitis- Percutaneous transhepatic approach- . 4th Symposium Japanese Scandinavian Radiological Society and 7th Nordic Japan PACS Symposium ( Oslo ), 2001 . 5 .
  - 6) Hayashi H, Kumazaki T : Multidetector-row CT angiography of pelvis and lower extremities . International Symposium on Multidetector-row CT in the New Millennium ( Tokyo ), 2001 . 9 .
  - 7) 高木 亮: CT perfusion の臨床応用: 急性期脳虚血性病変の評価 . 第10回造影剤と放射線シンポジウム, 2001 . 5 .
  - 8) 林 宏光<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター ): 大動脈瘤のIVR. IVRに必要な画像診断 . 第7回日本血管内治療学会, 2001 . 6 .
  - 9) 林 宏光, 高木 亮, 古川一博, 清水康弘, 高濱克也, 隈崎達夫: 腹部大動脈瘤のステントグラフト治療に対するCTA : 定性的及び定量的評価法としての有用性 . 第2回 Multidetector Row CT Symposium, 2001 . 8 .
  - 10) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 高濱克也, 町田 稔, 古川一博, 隈崎達夫: MDCT とMRI : 大動脈・末

梢血管のMDCT．第30回断層映像研究会，2001．10．

11) 林 宏光：大動脈・末梢血管のMDCT．第30回断層映像研究会，2001．10．

12) 林 宏光<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター)：Multidetector-row CTによる血管疾患の低侵襲的診断：3次元CT AngiographyとVirtual CT Endoscopy．第15回日本心臓血管内視鏡学会，2001．11．

13) 林 宏光<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>1)</sup>，高濱克也<sup>1)</sup>，内山菜智子<sup>1)</sup>，町田 稔<sup>1)</sup>，古川一博<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター)：MDCT AngiographyとAdvanced Vessel Analysisを用いた新しい血管病変の画像と診断．第42回日本脈管学会総会，2001．11．

(5) パネルディスカッション：

1) 保坂純郎，隈崎達夫(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター)：下肢静脈瘤の診断-超音波検査と造影検査．第21回血管無侵襲診断法研究会，2001．6．

(6) セミナー：

1) 汲田伸一郎，趙 圭一<sup>1)</sup>，中條秀信，鳥羽正浩<sup>2)</sup>，尾科隆司<sup>3)</sup>，隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科，<sup>3)</sup>付属病院放射線科技師)：Digirad 2020tc Imagerの心臓における臨床応用：診療用放射性同位元素のCCU内投与を含めて．第41回日本核医学会総会，2001．10．

2) 林 宏光：Multidetector-rowCTによる血管疾患のCT Angiography．第21回日本画像医学会，2002．2．

(7) ワークショップ：

1) 岡島雄史<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター)：CTガイド下肺Biopsy．日本血管造影IVR学会，2001．5．

(8) 指名講演：

1) 汲田伸一郎，趙 圭一<sup>1)</sup>，中條秀信，鳥羽正浩<sup>2)</sup>，隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科)：Tc-99m-Tetrofosmin心電図同期心筋SPECTの薬剤負荷への応用．第3回心電図同期SPECT研究会，2001．5．

2) 汲田伸一郎：Gated SPECTの新しい展開．第41回日本核医学会総会，2001．10．

3) 汲田伸一郎：慢性心不全症例におけるTc-99m-sestamibi心筋washoutに関する検討．第1回Sestamibi講演会，2001．11．

(9) 一般講演：

1) Amano Y, Takagi R, Takahama K, Kumazaki T : Improved visualization of Meringeal enhancement by contrast-enhanced T1-weighted black-blood fast spin-echo imaging with short repetition, echo, and inversion times . 9th annual meeting of ISMRM ( U. K. ), 2001 . 4 .

2) Amano Y, Takahama K, Kumazaki T, Kabasawa H (<sup>1)</sup>GE yokogawa medical systems corp ) : Comparison of two types of fat-suppressed black-blood MR imaging for fat, myocardial and flow signals suppression and cardiac structure visualization : black-blood fast STIR and black-blood CHESS MR imaging . 9th annual meeting of ISMRM ( U. K. ), 2001 . 4 .

3) Hosaka J, Kumazaki T : Visualization of the Venous Valves and Analysis of the Venous Flow in the Whole Lower Extremities by Ultrasound . 14th world Congress of the Union Internationale de Phlebologie ( Roma ), 2001 . 9 .

4) Xul X<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>, Ishioh M<sup>2)</sup>, Watari J<sup>2)</sup>, Okajima Y<sup>2)</sup>, Kawamata H<sup>2)</sup>, Murata S<sup>2)</sup>, Miyashita T<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiotherapy, Third Hospital Harbin Medical University, China, <sup>2)</sup>Department of Anesthesiology, <sup>3)</sup>Department of Radiology and Center for Advanced Medical Technology) : Study on the Treatment of Tracheobronchial Stenosis using Expandable Metallic Stents . 10th International Stent Symposium & 19th Japan Metallic Stent graft annual meeting ( Osaka ), 2001 . 10 .

5) Uchiyama N, Tajima H, Machida M, Takahama K, Kumazaki T : Comparison of Full-field Digital Mammogra-

phy System with Screen-Film Mammography by Hard Copy Images . RSNA ( U. S. A ), 2001 . 11 .

- 6) Ogawa R<sup>1)</sup>, Mitsuhashi K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Wan C<sup>1)</sup>, Iwakiri I<sup>1)</sup>, Miyashita T, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>形成外科): Postoperative Election Beam Irradiation Therapy of Keloid and Hypertrophic Scar-About the cases followed up over 18 months in our department . 12th Japan-China jointMeeting on Plastic Surgery 2001 ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 7) Machida M, Kameyama K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Second pathology ): Spectroscopic Analysis Using Hematoporphyrin as a micro environmental probe for early atherosclerotic Change . European Congress of Radiology ( wien ), 2002 . 2 .
- 8) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 館野展之<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 徐 向英<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 下肢深部静脈血栓症に対するIVR . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 9) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 水村 直, 秋山一義, 福嶋善光, 館野展之, 高須 勝, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): 半導体検出器搭載モバイル型ガンマカメラ 2020tc Imager を用いた左室機能解析 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 10) 保坂純郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, ニゲマン パスカル<sup>1)</sup>, 館野展之<sup>1)</sup>, 宮本安盛<sup>1)</sup>, 上玉麻子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 超音波検査による下肢全域の静脈弁の描出と機能評価の試み . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 11) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 後藤良洋<sup>2)</sup>, 谷口 拓樹<sup>2)</sup>, 青木祐子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>日立メディコ技術開発研究所): 血管走行に沿う3次元曲断面の展開: 新しい血管病変の評価法 ( Part1 ). 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 12) 青木祐子<sup>1)</sup>, 西村須磨子<sup>1)</sup>, 谷口拓樹<sup>1)</sup>, 後藤良洋<sup>1)</sup>, 林 宏光, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>日立メディコ技術開発研究所 ): 血管走行に沿う3次元曲断面の展開: 血管病変の新評価法 . 第57回日本放射線技術学会総会, 2001 . 4 .
- 13) 西村須磨子<sup>1)</sup>, 青木祐子<sup>1)</sup>, 谷口拓樹<sup>1)</sup>, 後藤良洋<sup>1)</sup>, 林 宏光, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>日立メディコ技術開発研究所 ): 血管の3次元曲率演算: 血管病変の新評価法 ( その1 ). 第57回日本放射線技術学会総会, 2001 . 4 .
- 14) 村田 智<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, ニゲマンパスカル<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>3)</sup>, 木全亮二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>麻酔科学, <sup>3)</sup>泌尿器科学): 骨盤内臓器の進行癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の開発 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 15) 高木 亮, 宮本安盛, 林 宏光, 内山菜智子, 天野康雄, 古川一博, 高濱克也, 清水康弘, 町田 稔, 隈崎達夫: CT Perfusion の臨床応用: 急性期脳虚血性病変の診断 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 16) 天野康雄, 隈崎達夫, 高濱克也, 上玉麻子, 天野真紀: 骨髄MR Spectroscopy による再生不良性貧血での骨髄造血巣の評価 . 第60回日本医学放射線学会総会, 2001 . 4 .
- 17) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡田進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): 半導体検出器を用いた心プールシンチグラフィ: 拍動型心臓ファントムによるアンガー型カメラとの比較 . 第60回日本医学放射線学会総会, 2001 . 4 .
- 18) 水村 直, 汲田伸一郎, 小島豊之<sup>1)</sup>, 中條秀信, 秋山一義, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 高須 勝, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): SPM を用いた頭蓋内血管狭窄例における早期・超早期の2時相における脳血流SPECT評価 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 19) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>病理第2): 光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた動脈硬化巣微小環境変化の蛍光および吸光スペクトル解析 . 第60回日本医学放射線学会総会, 2001 . 4 .
- 20) 町田 稔<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): Pulse inversion harmonic imaging による肝腫瘍性病変のLevoist造影効果について . 第60回日

本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .

- 21) 内山菜智子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): Flat Panel Amorphous Silicon Detector を用いた Full Field Digital Mammography による病変描出に関する臨床評価 . 第60回日本医学放射線学会総会, 2001 . 4 .
- 22) 高濱克也, 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫, 後藤良洋<sup>1)</sup>, 谷口拓樹<sup>1)</sup>, 青木祐子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日立メディコ): 血管次元曲率演算: 新しい血管病変の評価法 (Part II) . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 23) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, ニゲマンパスカル<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>外科第2): 遠位弓部大動脈瘤に対するグラフト遠位部ステント固定術: 新たな留置器具と留置法の開発 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 24) 中條 秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 福嶋善光, 館野展之, 高須 勝, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 心電図同期心プールSPECT データを用いた心機能評価: Quantitative blood pool SPECT プログラムによる機能解析 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 25) 古川一博<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 瘤性病変の Levovist 造影後期相における検出能の検討: SPIO 造影 MRI との比較 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 26) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, ニゲマンパスカル<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>集中治療室): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血栓破砕溶解吸引療法 . 第60回日本医学放射線学会総会, 2001 . 4 .
- 27) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 秋山一義, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 拡張型心筋症における 123I-MIBG 心筋 SPECT を用いた心筋障害の重症度評価: 心尖部集積低下の臨床的意義に関する検討 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 28) 宮本安盛, 高木 亮, 林 宏光, 内山菜智子, 天野康雄, 古川一博, 高濱克也, 清水康弘, 町田 稔, 隈崎達夫: CT Perfusion の臨床応用: 脳血管攣縮の診断 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 29) ニゲマンパスカル<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>2)</sup>, 高崎秀明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>外科第1): 骨盤内臓器の進行癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流法の血行動態 . 第60回日本医学放射線医学会総会, 2001 . 4 .
- 30) 駒田康成<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, パスカルニゲマン<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 胸部動脈損傷に対する経カテーテルの動脈塞栓術 . 第15回日本外傷学会, 2001 . 5 .
- 31) 高木 亮: マルチスライスCTの最新撮像法: CT perfusion の臨床応用 . 第10回造影剤と放射線シンポジウム, 2001 . 5 .
- 32) 館野展之, 岡島雄史, 田島廣之, 石王道人, 渡 潤, 徐 向英, 市川和雄, 宮本安盛, 中澤 賢, 村田 智, 隈崎達夫: 骨病変に対する 18G 生検針を用いたCT下生検 . 第30回日本血管造影・IVR学会総会, 2001 . 5 .
- 33) 林 宏光, 高木 亮, 古川一博, 清水康弘, 高濱克也, 隈崎達夫: 腹部大動脈瘤のステントグラフト治療に対するCTA: 定性的及び定量的評価法としての有用性 . Multidetector-row CT Symposium II, 2001 . 5 .
- 34) 保坂純郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 超音波検査による下肢全域にわたる深部静脈弁の描出と静脈血流の評価 . 第21回日本静脈学会総会, 2001 . 6 .
- 35) 川俣博志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>2)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>3)</sup>高度救命救急センター): 上腸間膜動脈に対する一時的ステント留置術が有用であった腹腔動脈・上腸間膜動脈閉塞症の1例 . 第7回日本血管内治療学会,



2001 . 6 .

- 36) 駒田康成<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 石王道人<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 原田尚重<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 八木聰明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター, <sup>3)</sup>耳鼻科): 経皮的ドレナージ術が奏功した降下性壊死性縦隔炎の1例. 第419回日本医学放射線学会関東地方会, 2001 . 6 .
- 37) 福見大地<sup>1)</sup>, 深澤降治<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 大久保隆志<sup>1)</sup>, 倉持雪穂<sup>1)</sup>, 内木場庸子<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 林宏光, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>小児科): 総動脈幹症, 大動脈奇形の診断に3次元CTが有用であった1例. 第180回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001 . 6 .
- 38) 杠葉 良<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 高井美恵子<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 市川和雄, 田島廣之, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科第1): 拡大偽腔の圧排による左総腸骨動脈亜完全閉塞に対して自己拡張型ステント留置が奏効した逆行性III型急性大動脈解離の1例. 第180回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001 . 6 .
- 39) 水村 直, 汲田伸一郎, 隈崎達夫: 無症候性脳梗塞に対する3D-SSP. 3D-SSP検討会, 2001 . 7 .
- 40) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高井恵美子<sup>1)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫, 山初和也<sup>2)</sup>, 朽方規喜<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>外科第2): Popliteal venous aneurysmが原因と考えられた急性肺血栓栓症の1例. 第181回関東甲信越地方会, 2001 . 9 .
- 41) 武村 明<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 安藤真弘<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫, 矢野 侃<sup>2)</sup>, 松本満臣<sup>3)</sup>, 宮本忠明<sup>4)</sup>, 松本 徹<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科第4, <sup>2)</sup>荒川区がん予防センター, <sup>3)</sup>東京都立保健科学大学, <sup>4)</sup>放射線医学総合研究所): 荒川区がん予防センターにおけるらせんCTによる肺癌1次検診(CT検診)の追跡調査. 第42回日本肺癌学会総会, 2001 . 9 .
- 42) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 中條秀信, 福嶋善光, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 半導体検出器Digirad 2020tc Imagerの心臓核医学への応用. 第762回放射線診療研究会, 2001 . 9 .
- 43) 中澤 賢, 田島廣之, 村田 智, 駒田康成, 岡島雄史, 市川和雄, 阿部 豊, 渡 潤, 小野澤志郎, 隈崎達夫, 吉村明修<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4, <sup>2)</sup>外科第2): CTガイド下肺生検: 直径1cm以下の肺野病変に対する検討. 第2回肺生検研究会, 2001 . 9 .
- 44) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 高井恵美子<sup>1)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫, 山初和也<sup>3)</sup>, 朽方規喜<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>外科第2): Popliteal venous aneurysmが原因と考えられた急性肺血栓栓症の1例. 第181回日本循環器学会関東甲信越地方会学術大会, 2001 . 9 .
- 45) 保坂純郎, 隈崎達夫, 松田 亮: 超音波検査による下肢全域静脈弁機能評価. 第12回医用デジタル動画像研究会, 2001 . 10 .
- 46) 土橋一慶<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 佐野元春<sup>3)</sup>, 進士雄二<sup>3)</sup>, 中本 護<sup>3)</sup>, 川内翠裕<sup>3)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫, 菅谷 眞<sup>3)</sup>, 松村研二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千川産婦人科医院, <sup>2)</sup>豊島健康診査センター, <sup>3)</sup>豊島区医師会): 東京都豊島区におけるMMG併用乳癌検診についての検討. 第11回日本乳癌検診学会, 2001 . 10 .
- 47) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>3)</sup>, 草間芳樹<sup>3)</sup>, 田中啓治<sup>4)</sup>, 岸田 浩<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>内科第1, <sup>4)</sup>集中治療室): 高感度撮影. 日本心臓核医学会, 2001 . 10 .
- 48) 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 水村 直, 福嶋善光, 秋山一義, 隈崎達夫, 岡本法暁<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>デュボン): 慢性心不全症例におけるTc-99m-ses-tamibi心筋washoutに関する検討. 第41回日本核医学会総会, 2001 . 10 .

- 49) 水村 直, 汲田伸一郎, 尾科隆司<sup>1)</sup>, 水谷光樹<sup>1)</sup>, 谷越雅幸<sup>1)</sup>, 浅野恭司<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 松田博史<sup>2)</sup>, 相馬 努<sup>3)</sup>, 竹村直治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科技師, <sup>2)</sup> 国立精神病院神経科, 武蔵病院放射線科, <sup>3)</sup> 第1ラジオアイソトープ): 画像間差補正した共有対象群データベースの検討: 異なるSPECT機器収集画像間の統計解析の比較. 第41回日本核医学会総会, 2001. 10.
- 50) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 福嶋善光, 隈崎達夫, 四方田勇<sup>3)</sup>, 井上 実<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup> 第1ラジオアイソトープ): アドリアマイシン心不全ラットにおけるTc-99mMIBI保持能. 第41回日本核医学会総会, 2001. 10.
- 51) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 福嶋善光, 隈崎達夫, 四方田 勇<sup>3)</sup>, 井上 実<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup> 第1ラジオアイソトープ): アドリアマイシン軽症心不全ラットにおけるTc-99mMIBI後期集積とトロポニンT活性. 第41回日本核医学会総会, 2001. 10.
- 52) 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 水村 直, 中條秀信, 福嶋善光, 尾科隆司<sup>3)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup> 多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科技師): モバイル型ガンマカメラDigirad 2020tcによる坐位心電図同期心筋SPECTの臨床応用. 第41回日本核医学会総会, 2001. 10.
- 53) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 水村 直, 隈崎達夫(<sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院放射線科): 急性心筋梗塞における201TI/123I-BMIPP dual心筋SPECTの有用性: 心筋逸脱酵素との比較検討. 第41回日本核医学会総会, 2001. 10.
- 54) 齋藤晴美<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 櫻井 実<sup>1)</sup>, 中條秀信, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 石原眞木子<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科技師, <sup>2)</sup> 同放射線科): 心筋SPECT像における定量解析誤差: 数値ファントムによる検討. 第41回日本核医学会総会, 2001. 10.
- 55) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 齋藤晴美, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 中條秀信, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 石原眞木子<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科技師, <sup>2)</sup> 同放射線科): 心筋SPECTにおける点広がり関数の変化と心筋集積偽欠損の関係について. 第41回日本核医学会総会, 2001. 10.
- 56) 阿部 豊<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター): IVRにて治療しえた左胃動脈瘤破裂の1例. 第11回救急放射線研究会, 2001. 11.
- 57) 中條秀信, 汲田伸一郎, 隈崎達夫: 心電図同期心筋SPECT短時間収集法を用いたドプタミン負荷時左室機能解析にてbiphasic responseを把握しえた心筋梗塞の1例. 第37回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2001. 11.
- 58) 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 小山行秀<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 林 宏光, 隈崎達夫(<sup>1)</sup> 泌尿器科): CT perfusion法による腎腫瘍の画像診断. 第22回腎癌研究会, 2001. 11.
- 59) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター): 消化管出血に対し右胃動脈よりアプローチし止血し得た1例. 第15回日本心臓血管内視鏡学会, 2001. 11.
- 60) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 町田稔<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup> 集中治療室, <sup>3)</sup> 内科第1): 深部静脈血栓症に対するInterventional Radiology. 第42回日本脈管学会総会, 2001. 11.
- 61) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup> 病理第2): 動脈硬化病巣でのヘマトポルフィリン光応答性についての散乱分光と位相変化による解析. 第42回日本脈管学会総会, 2001. 11.
- 62) 亀山孝二<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>2)</sup>, 長谷場健<sup>1)</sup>, 王 若皎<sup>1)</sup>, 町田 幹<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤義哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 病理第2, <sup>2)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター): 冠動脈硬化病変の顕微散乱分光とフーリエ位相解析による検討. 第42回日本脈管学会総会, 2001. 11.
- 63) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 田中茂

- 夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup>外科第2): 遠位弓部大動脈瘤に対するグラフト遠位部ステント固定術: 新たな留置器具の開発. 第5回大動脈ステントグラフト症例検討会, 2001. 11.
- 64) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup>内科第1): 下肢虚血に対し自己拡張型ステント留置が有用であった急性大動脈解離の1例. 第420回日本医学放射線学会関東地方会, 2001. 12.
- 65) 水村 直: SPECT 画像間差の補正法を用いた対象群データベースの共有化. 脳核医学フォーラム, 2001. 12.
- 66) 山田丈士<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 梶原景子<sup>1)</sup>, 菊池真理<sup>1)</sup>, 林 敏彦<sup>1)</sup>, 山本博人<sup>1)</sup>, 山本 彰<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>第二病院放射線科): 胸部単純写真上著変を認めなかった結核接触者における胸部CTの有用性について. 第420回日本医学放射線学会関東地方会, 2001. 12.
- 67) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 福嶋善光, 秋山一義, 隈崎達夫, 清野精彦<sup>3)</sup>, 福本裕子<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科,<sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科,<sup>3)</sup>内科第1): アドリアマイシン心不全ラットにおける Tc-99m sestamibi の心筋保持能: トロポニン T 活性および病理像との比較. 第4回心世代核医学研究会, 2001. 12.
- 68) 依斯坎的尔 阿布力米堤, 宮下次廣, 館野 温, 栗林茂彦, 隈崎達夫: 新疆と日本の食道癌発生の比較. 第420回日本医学放射線学会関東地方会, 2001. 12.
- 69) 水村 直, 汲田伸一郎, 隈崎達夫: 画像間補佐正共有対照群データベースを用いた塩酸ドネペジルの脳血流変化の検討. アルツハイマー痴呆研究会・画像診断サブコミッティ, 2002. 1.
- 70) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup>病理第2): 動脈硬化モデルにおけるヘマトポルフィリンを用いた顕微散乱分光およびフーリエ位相解析. 第54回心臓血管放射線研究会, 2002. 1.
- 71) 日高史貴<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 治療法の選択に難渋した孤立性上腸間膜動脈解離の1例. 第11回東京血管外科画像診断治療懇話会, 2002. 2.
- 72) 阿部 豊<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): IVRにて治療しえた膵十二指腸動脈瘤の1例. 第11回東京血管外科画像診断懇話会, 2002. 2.
- 73) 山本 鼎<sup>1)</sup>, 田島廣之, 渡 潤, 隈崎達夫, 松村研二<sup>2)</sup>, 菅谷 眞<sup>2)</sup>, 佐野元春<sup>3)</sup>, 進士雄二<sup>2)</sup>, 中本 譲<sup>2)</sup>, 木田勝美<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科,<sup>2)</sup>豊島区医師会,<sup>3)</sup>豊島健康診査センター): 高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌1次検診の経験(第二報). 第9回胸部CT検診研究会, 2002. 2.
- 74) 高木 亮, 林 宏光, 日高史貴, 内山菜智子, 高濱克也, 隈崎達夫, 工藤正幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>GE横河メディカル): CT perfusion 2: 脳腫瘍病変の評価における初期臨床経験. 第7回三次元CT・MRI研究会, 2002. 3.
- 75) 日高史貴, 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 高濱克也, 古川一博, 隈崎達夫: CT perfusion法により腫瘍の組織型の鑑別は可能か?. 第7回三次元CT・MRI研究会, 2002. 3.
- 76) 高橋 健<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 高橋秀明<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 田島廣之(<sup>1)</sup>外科第1): 術後にSMV, PV血栓症をきたした潰瘍性大腸炎の1例. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- 77) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup>内科第1,<sup>3)</sup>集中治療室): 右胃動脈経路による胃角部活動性出血に対するTAE. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.

## [ 第二病院放射線科 ]

### 研究概要

#### 放射線診断学：

1) 呼吸器疾患に対し、気管支鏡を用いたBAL、肺生検を施行し、画像診断の向上に力を注いでいる。肺切除病理標本とCT画像の比較検討から、詳細な画像所見の分析を試みている。2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし、結核、癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている。肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している。3) 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において潰瘍形成の背景となる攻撃因子（胃分泌機能）および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する。いわゆる Functional radiology に目標をおき、また *H. Pylori* の胃の胃粘膜変化についても研究中である。4) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し、より効率の良い、より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である。5) MRI による乳腺疾患の質的診断における dynamic study の応用、乳腺の浸潤判定における高分解能 MRI の撮像最適化に取り組んでいる。また、高分解能 MRI による膵の微小病変の描出、2次膵管描出の研究、dynamic MRI による結節性肺病変の質的診断について研究中である。

#### Interventional radiology：

1) 悪性胆道閉塞患者に対し、減黄およびQOL向上を目的とし、ステント挿入および放射線治療を施行している。さらにこの分野での研究に取り組んでいる。2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術、経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる。

#### 放射線治療学：

1) 肺癌に対して、放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。

#### 核医学：

1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 綜説：

- 1) 林 敏彦, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 片山信仁<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 帝京大学医学部付属溝口病院放射線科): 造影 MR mammography の有用性 (特集 高磁場・超高磁場 MRI の臨床評価). Digital Medicine 2001 ; 2 ( 4 ): 36-38 .
- 2) 佐藤雅史: 肺・気道疾患 I : 喀血を来す疾患を中心に (特集 明日まで待てない画像診断: 2. 胸部〔肺, 心大血管〕). 画像診断 2001 ; 21 ( 10 ): 1107-1113 .
- 3) 佐藤雅史: 肺孤立性小結節陰影 (特集: 胸部 X 線診断: その効用と限界, 未来). 臨画像 2002 ; 18 ( 1 ): 56-66 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 佐藤雅史: 胸部単純写真の読み方. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001. 11.
- 2) 佐藤雅史: 胸部画像診断の実際: ひとの失敗例から学ぶ. 埼玉県放射線科医会総会, 2001. 11.

##### (2) 教育講演：

- 1) 佐藤雅史: 肺炎 肺結核. 第8回埼玉画像フォーラム, 2001. 6.

##### (3) 一般講演：

- 1) 林 敏彦, 菊竹晴子, 菊池真理, 南部春江, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰, 佐藤雅史: MR mammography

- における造影剤2回分注法の検討．第60回日本医学放射線学会総会，2001．4．
- 2) 山本 彰，佐藤雅史，高橋政之，山本博人，林 敏彦，菊池真理，南部春江，梶原景子，菊竹晴子：当科外来における肺結核の現状．第60回日本医学放射線学会総会，2001．4．
  - 3) 岡田 進<sup>1)</sup>，内山史生<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>，河村 堯<sup>3)</sup>，林 敏彦，加藤友康<sup>4)</sup>，隈崎達夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>同病理，<sup>3)</sup>同産婦人科，<sup>4)</sup>癌研究会付属病院婦人科，<sup>5)</sup>付属病院放射線科)：粘性性卵巣腫瘍のCT(石灰化の検出に注目して)．第60回日本医学放射線学会総会，2001．4．
  - 4) 林 敏彦，菊竹晴子，梶原景子，菊池真理，山本博人，高橋政之，山本 彰，佐藤雅史，塩谷 猛<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター，<sup>2)</sup>同病理)：シェーグレン症候群に合併した肝原発悪性リンパ腫の1例．第15回腹部放射線研究会，2001．6．
  - 5) 梶原景子，佐藤雅史，川並汪一<sup>1)</sup>，菊池真理，林 敏彦，山本博人，山本 彰(<sup>1)</sup>老人病研究所病理)：健診で発見されたLIPの2症例．第25回胸部放射線研究会東京部会，2001．6．
  - 6) 林 敏彦，菊竹晴子，梶原景子，菊池真理，山本博人，山本 彰，佐藤雅史，山下浩二<sup>1)</sup>，山本泰一<sup>2)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科，<sup>2)</sup>同病理)：肥厚した壁を有する巨大血性嚢胞を形成した乳管拡張症の1例．第419回日本医学放射線学会関東地方会，2001．6．
  - 7) 山本 彰，山本博人，林 敏彦，菊池真理，梶原景子，山田丈士，金城忠志，佐藤雅史，宗像一雄<sup>1)</sup>，櫛方美文<sup>1)</sup>，内田高裕<sup>1)</sup>，高橋直人<sup>1)</sup>，山口朋禎<sup>1)</sup>，網谷賢一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科)：p-FASTの自動輪郭抽出における問題点の基礎的検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 8) 金城忠志，佐藤雅史，山田丈士，梶原景子，菊池真理，林 敏彦，山本博人，山本 彰，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：興味ある画像を呈した肺血栓塞栓症の2例．神奈川県放射線医学会第42回例会，2001．9．
  - 9) 山本博人，山本 彰，金城忠志，山田丈士，梶原景子，菊池真理，林 敏彦，佐藤雅史，山田雄介<sup>1)</sup>，南部弘太郎<sup>1)</sup>，岩村太郎<sup>1)</sup>，渋谷哲雄<sup>1)</sup>，森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)：エコーガイド下の塩酸ミノサイクリンと炭酸ガス一回注入療法が有効であった肝嚢胞の1例．日本医科大学医学会第105回例会，2001．11．
  - 10) 大石卓爾<sup>1)</sup>，堀内淳一<sup>1)</sup>，岡田憲明<sup>2)</sup>，林 敏彦，山本博人，村田 智<sup>3)</sup>，天野康雄<sup>3)</sup>，隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院放射線科，<sup>2)</sup>同内科，<sup>3)</sup>付属病院放射線科)：肝硬変に合併した腸腰筋血腫の1例．第37回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2001．11．
  - 11) 山田丈士，金城忠志，梶原景子，菊池真理，林 敏彦，山本博人，山本 彰，佐藤雅史，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：胸部単純写真上著変を認めなかった結核接触者における胸部CTの有用性について．第420回日本医学放射線学会関東地方会，2001．12．
  - 12) 金城忠志，佐藤雅史，山田丈士，梶原景子，菊池真理，林 敏彦，山本博人，山本 彰，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：肺膿瘍後ニューマトセルに合併したアスペルギローシスの1例．第26回胸部放射線研究会東京部会，2001．12．
  - 13) 高橋直人<sup>1)</sup>，竹永清人<sup>1)</sup>，網谷賢一<sup>1)</sup>，山口朋禎<sup>1)</sup>，小野卓哉<sup>1)</sup>，内田高浩<sup>1)</sup>，櫛方美文<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>，山本 彰，佐藤雅史(<sup>1)</sup>第二病院内科)：p-FASTにおけるpolar mapの読み方：p-FAST wallmotion，regional EFとechoの比較．第20回心臓核医学談話会，2002．1．
  - 14) 山本 彰：p-FASTを使うには：輪郭抽出の影響を中心に．心臓核医学フォーラム，2002．3．

## [ 多摩永山病院放射線科 ]

### 研究概要

1. 当院, 救命救急センターと共同で頭部外傷, 胸, 腹部臓器損傷におけるMRI診断の有用性について研究を続けている.
2. 非イオン性造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討を継続している.
3. コンピュータを活用した医療画像処理の研究を続けている.
4. 悪性腫瘍に対するIVRによる集学的治療, 救急患者のカテーテル治療について研究を行っている.
5. 婦人科, 整形外科領域におけるMRI診断についての研究, 検討が行われている.
6. CT, MRIを用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている.
7. CTにおける経静脈造影の至適タイミング, 方法について研究を行っている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kobayashi Y, Murakami R<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Yamamoto K, Ichikawa T, Mase Y<sup>2)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept of Radiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup>Dept of Orthopaedic Surgery, Tama-Nagayama Hospital Nippon Medical School ): Direct MR Arthrography of Plica Synovialis Mediopatellaris . Acta Radiol 2001 ; 42 ( 3 ): 286-290 .
- 2) Nakahara M, Eicson K<sup>1)</sup>, Bellander B<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept of Neuroradiology Karolinska Hospital , <sup>2)</sup>Dept of Neurosurgery of Karolinska Hospital ): Diffusion weighted MR and apparent diffusion coefficient in the evaluation of severe brain injury . Acta Radiolo 2001 ; 42 ( 4 ): 365-369 .
- 3) Kobayashi Y, Murakami R<sup>1)</sup>, Ogura J, Yamamoto K, Ichikawa T, Nagasawa K<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept of Radiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup>Dept of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Dept of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School ): Primary Pericardial Mesothelioma : A case Report . European Radiology 2001 ; 11 ( 11 ): 2258-2261 .
- 4) Kobayashi Y, Murakami R<sup>1)</sup>, Toba M, Ichikawa T, Kanazawa R<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Sawada N<sup>3)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept of Radiology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup>Dept of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Dept of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon medical School ): Chondroblastoma of the temporal bone . Skeletal Radiology 2001 ; 30 ( 12 ): 714-718 .
- 5) 中原 圓 : 拡張強調画像の最適条件と頭部外傷への応用 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 2 ): 214-215 .
- 6) 山本 鼎, 田島廣之<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中 順<sup>2)</sup>, 石井 宏<sup>2)</sup>, 長村好章<sup>2)</sup>, 進士雄二<sup>2)</sup>, 中本 譲<sup>2)</sup>, 阿部敏尚<sup>2)</sup>, 衛藤公治<sup>2)</sup>, 高尾昭一郎<sup>2)</sup>, 高原満男<sup>2)</sup>, 野田正剛<sup>2)</sup>, 平間石根<sup>2)</sup>, 深沢泊英<sup>2)</sup>, 八島 颯<sup>2)</sup>, 武藤 敬<sup>2)</sup>, 木田勝美<sup>3)</sup>, 岩崎義信<sup>3)</sup>, 河野正実<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 豊島区医師会, <sup>3)</sup> 豊島健康審査センター ): 高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌一次検診の経験 . 胸部CT検診 2001 ; 8 ( 2 ): 92-97 .
- 7) 玉井 仁 : 医療用3次元表示フリーウェアの開発 . 新医療 2001 ; 28 ( 9 ): 111-113 .
- 8) 小林由子, 村上隆介<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 吉田太郎<sup>1)</sup>, 玉井 仁, 市川太郎, 中村慶春<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 同病理部 ): Solid cystic tumor を合併した腓体尾部低形成症の1例 . 腹部画像診断アトラス [ VI ] 2001 ; 143-144 .
- 9) 土橋一慶<sup>1)</sup>, 佐野元春<sup>1)</sup>, 進士雄二<sup>1)</sup>, 中本 譲<sup>1)</sup>, 川内章裕<sup>1)</sup>, 菅谷 眞<sup>1)</sup>, 松村研二<sup>1)</sup>, 山本 鼎, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 豊島区医師会, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科 ): 東京都豊島区におけるMMG併用乳癌検診についての検討 . 日乳癌検診会誌 2002 ; 11 ( 1 ): 27-33 .

(2) 綜説：

- 1) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 中原 圓, 古川一博<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 読影に役立つCT・MRIのサイン: 心臓・大血管・臨床画像 2001 ; 17 (6): 658-668 .
- 2) 中原 圓, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学放射線医学教室/ハイテクリサーチセンター): CT・MRI アトラス; 食道・気管・Medicina 2001 ; 38 (11): 192-197 .

著 書

- 1) 鳥羽正浩: [分担] 第1部第1章・急性心筋梗塞・症例から入る心臓核医学マニュアル, 2001 ; pp10-15, メディカルビュー社 .
- 2) 鳥羽正浩: [分担] 第1部第3章・労作性狭心症・症例から入る心臓核医学マニュアル, 2001 ; pp22-27, メディカルビュー社 .
- 3) 小林由子, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] 造影MRIはどのようなときに行うか・図解臨床産科婦人科検査法, 2002 ; pp148-149, 金原出版 .

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 同第一内科): 非梗塞例の予後評価におけるI-123 BMIPP SPECT の有用性: 負荷心筋血流SPECTとの比較・第27回ニュータウンカンファレンス, 2002 . 2 .

(2) シンポジウム：

- 1) 山本 鼎, 田島廣之<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 松村研二<sup>2)</sup>, 菅谷 眞<sup>2)</sup>, 佐野元春<sup>2)</sup>, 進士雄二<sup>2)</sup>, 中本讓<sup>2)</sup>, 木田勝美<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 豊島区医師会, <sup>3)</sup> 豊島健康審査センター): 高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌一次検診の経験(第2報)・第9回胸部CT検診研究会大会, 2002 . 2 .

(3) 一般講演：

- 1) Nakahara M, Ericson K<sup>1)</sup>, Nordell B<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept of Neuroradiology karolinska Hospital, <sup>2)</sup> Dept of Radiology, Nippon Medical School Hospital): Evaluation of severe brain injury with ADC map . 4th Symposium Japanese-Scandinavian Radiological Society (Oslo), 2001 . 5 .
- 2) 玉井 仁, 鳥羽正浩, 小林由子, 村上隆介<sup>1)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 医療用三次元データ観察フリーウェアの作成・第60回日本医学放射線学会総会, 2001 . 4 .
- 3) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 高須 勝<sup>1)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 半導体検出器装着型ガンマカメラDigirad 2020tcによる坐位心電図同期心筋血流SPECTの臨床応用・第60回日本医学放射線学会総会, 2001 . 4 .
- 4) 玉井 仁: パソコン上でのCT・MRI三次元処理の開発とインターネットで公表-第二報-・第20回日本医用画像工学会大会, 2001 . 7 .
- 5) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 尾科隆司<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 同放射線科技師室): モバイル型ガンマカメラDigirad 2020tcによる坐位心電図同期心筋血流SPECTの臨床応用・第41回日本核医学学会総会, 2001 . 10 .
- 6) 土橋一慶<sup>1)</sup>, 山本 鼎, 佐野元春<sup>1)</sup>, 進士雄二<sup>1)</sup>, 中本 讓<sup>1)</sup>, 川内章裕<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 豊島区医師会, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科): 東京都豊島区におけるMMG併用乳癌検診についての検討・第11回日本乳癌検診学会総会, 2001 . 11 .

## [ 千葉北総病院放射線科 ]

### 研究概要

研究分野として、脳機能解析、婦人科系画像診断、造影剤、インターベンショナル・ラジオロジー（IVR）に関するものなどがある。

婦人科系の腫瘍に関する研究：特に卵巣腫瘍の画像診断と病理診断の対比研究を行った。ムチン性腫瘍に合併する石灰化につき、卵巣腫瘍の画像診断に重要な所見を見出し、報告した。昨年発表した、ムチン性腫瘍と奇形種の合併例については、さらに症例を重ねて検討した。腫瘍マーカーと画像所見の対比についても検討しており、特にAFPにつき報告した。

透析患者におけるガドリニウム造影剤の使用についての研究：今回、基礎的な検討及び比較の多くの臨床検討により、安全に使用できることが判明したので、臨床的に有用な情報として発表した。

血管造影IVRに関する研究：大動脈ステントを含むあらゆるIVR手技の臨床応用可能な体制がほぼ整い、特に、従来からのTIPSや閉塞性動脈硬化症における腸骨動脈領域のステント治療に加え、その他の領域のステント治療として、上腸間膜動脈病変、深部静脈血栓症における腸骨静脈病変に対するステント治療の研究に取り組んでいる。また、ドクター・ヘリの稼働に伴い、外傷例に対する緊急IVRの施行件数が飛躍的に増加した。臓器損傷におけるCT診断と動脈塞栓術に関する検討を行っている。

脳機能の研究に関する研究：partial volume effectのために正確な脳血流評価の難しい委縮を伴う疾患について、MRIをもちいた脳血流値の補正を試みた。これにより、機能的脳血流低下の評価には容積補正が重要とと考えられた。また一般に脳血流評価において灰白質と白質など解剖学的位置の異なる組織の血流比も一定とならない。MRIから作成した数値ファントムで検討した。特にfiltered back projectionの影響により灰白質血流の過小評価の可能性が示唆され、注意を要すると考えられた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Okada S, Katagiri K, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Urology, Ishinkai Clinic ): Safety of gadolinium contrast medium in hemodialysis patients. Acta Radiologica 2001 ; 42 ( 2 ): 339-341 .
- 2) Okada S, Uchiyama F, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>2)</sup>, Kawamura T<sup>2)</sup>, and Kumazaki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital, <sup>3)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School ): MRI Findings of a Case of Uterine Tumor Resembling Ovarian Sex-corde Tumors Coexisting with Endometrial Adenocarcinoma. Radiation Medicine 2001 ; 19 ( 3 ): 151-153 .

##### (2) 綜説：

- 1) 川俣博志, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 岡田 進 ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): 血栓症の Interventional Radiology : 門脈血栓症. 血栓と循環 2002 ; 10 ( 1 ): 42-47 .

#### 著書

- 1) 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): [ 共著 ] MRIによる子宮癌の進行期診断. 図解臨床産婦人科検査法 ( 荒木 勤 ), 2001 ; pp150-151, 金原出版 .



## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 石原真木子, 趙 圭一, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁, 矢野 潔, 内山史生, 川俣博志, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 脊髄小脳変性症の脳血流 SPECT を用いた小脳血流評価-MRI による容積補正. 第 60 回日本医学放射線学会総会, 2001. 4.
- 2) 岡田 進, 内山史生, 大秋美治<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 林 敏彦<sup>3)</sup>, 加藤友康<sup>4)</sup>, 隈崎達夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理診断部, <sup>2)</sup> 同産婦人科, <sup>3)</sup> 同第二病院放射線科, <sup>4)</sup> 癌研究所付属病院女性診療科・産科, <sup>5)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科): 粘液性卵巣腫瘍の CT (石灰化の検出に注目して). 第 60 回日本医学放射線学会学術発表会, 2001. 4.
- 3) 川俣博志, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 木島鉄仁, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup> 同高度救急救命センター): 上腸間膜動脈に対する一期的ステント留置術が有用であった腹腔動脈・上腸間膜動脈閉塞症の 1 例. 第 7 回日本血管内治療学会, 2001. 6.
- 4) 岡田 進, 内山史生, 木島鉄仁, 大秋美治<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>3)</sup>, 木村 剛<sup>3)</sup>, 堀内和孝<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理診断部, <sup>2)</sup> 同女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 同泌尿器科, <sup>4)</sup> 付属病院放射線科): AFP が高値を示した骨盤内腫瘍の検討. 第 29 回日本磁気共鳴医学会大会, 2001. 9.
- 5) 石原真木子, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁, 櫻井 実, 齋藤晴美, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 脳血流 SPECT 像の再構成過程における統計学的誤差: 脳数値ファントムによる検討. 第 41 回日本核医学会総会, 2001. 10.

## 8. 皮膚科学講座

### [ 付属病院皮膚科 ]

#### 研究概要

- 1) 薬疹, 接触皮膚炎: 貼布搔破試験, 皮内反応, challenge test などによる原因の確認とアレルギーカードの発行.
- 2) 尋常性天疱瘡, 類天疱瘡の診断, 治療および臨床統計.
- 3) 疥癬の診断, 治療および臨床統計.
- 4) 皮膚結核の診断, 治療および臨床統計.
- 5) 梅毒の診断, 治療および統計に関する研究: 分画 TPHA を指標とする治療効果の判定.
- 6) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学研究: 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究.
- 7) 尋常性乾癬, アトピー性皮膚炎に対する PUVA 療法.

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kawase Y<sup>1)</sup>, Hata M<sup>1)</sup>, Numano K<sup>1)</sup>, Sakakibara T<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School Second Hospital ): Disseminated erythematous papular drug eruption caused by ciprofloxacin hydrochloride . Jan J Dermatol allergol 2001 ; 9 ( 3 ): 86-90 .
- 2) Aramaki J, Löffler C<sup>1)</sup>, Kawana S, Effendy I<sup>1)</sup>, Happle R<sup>1)</sup>, Löffler H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, University of Maburg, Germany ): Irritant patch testing with sodium lauryl sulphate : interrelation between concentration and exposure time . Br. J Dermatol 2001 ; 145 : 704-708 .
- 3) Fujimoto K<sup>1)</sup>, Kawarada H<sup>1)</sup>, Takada K, Aoki M, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital ): Two cases of fruit allergy with negativ serum specific IgE to Betulaceae pollen . Environ Dermatol 2001 ; 8 ( 4 ): 182-186 .
- 4) Higashi N, Kaida Wu<sup>1)</sup>, Larsen CG<sup>1)</sup>, Deleuran M<sup>1)</sup>, Kawana S, Yamamoto K<sup>2)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Marselisborg Hospital , Uniersity of Aarhus , Denmark , <sup>2)</sup> Aiiku Hospital ): Expression and Function of CD43 and CDw60 on T cells from patients with atopic dermatitis . Acta Derm Venerelol 2001 ; 81 : 263-267 .
- 5) Fujimoto K<sup>1)</sup>, Kawarada H<sup>1)</sup>, Kosaka S<sup>1)</sup>, Yasuhara N<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital ): Occupational contact dermatitis from disulfiram in a pharmacist . Jpn J Dermatol allergol 2001 ; 9 ( 4 ): 116-119 .
- 6) Aoki M, Nimi Y, Takezaki S, Azuma A<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Fourth department of internal medicine ): CD30+lymphoproliferative disorder : primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma followed by lymphomatoid papulosis . Br J Dermatol 2001 ; 145 : 123-126 .
- 7) Aramaki J, Effendy I<sup>1)</sup>, Happle R<sup>1)</sup>, Kawana S, Löffler C<sup>1)</sup>, Löffler H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, University of Maburg, Germany ): Which bioengineering assay is appropriate for irritant patch testing with sodium lauryl sulfate . Contact Dermatitis 2001 ; 45 : 286-290 .
- 8) Löffler H<sup>1)</sup>, Pirker C<sup>1)</sup>, Aramaki J, Frosch P<sup>1)</sup>, Hopple R<sup>1)</sup>, Effendy I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, University of Maburg, Germany ): Evaluation of skin susceptibility to irritancy by routine poutine testing with sodium lauryl sulfate . Eur J Dermatol 2001 ; 5 ( 11 ): 416-419 .

- 9) Löffler H<sup>1)</sup>, Aramaki J, Effendy I<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Dermatology, University of Maburg, Germany ): Response to Thermal Stimuli in Skin Pretreated with Sodium Lauryl Sulfate . Acta Derm Venereol 2001 ; 81 : 395-397 .
- 10) Sakai N, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): Selective transduction into HIV infected cells by the combination of HIV and MLV vectors . Int J Hematol 2001 ; 73 ( 4 ): 476-482 .
- 11) Higashi N, Gesser B<sup>1)</sup>, Kawana S, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Dermatology, Marselisborg Hospital, University of Aarhus, Denmark ): Expression of IL-18 mRNA and secretion of IL-18 are reduced in monocytes from patients with atopic dermatitis . J Allergy Clin Immunol 2001 ; 108 : 607-614 .
- 12) Kono M, Nagata H<sup>1)</sup>, Umemura S<sup>1)</sup>, Kawana S, Osamura Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): In situ expression of corticotropin-releasing hormone ( CRH ) and proopiomelanocortin ( POMC ) genes in human skin. FASEB J 2001 ; 15 : 2297-2299 .
- 13) 片山美玲, 木村陽一, 菊地伊豆美, 川名誠司: 明らかな水痘の既往のない小児汎発性帯状疱疹の1例 . 日本小児皮膚科学会雑誌 2001 ; 20 ( 1 ): 45-47 .
- 14) 川瀬容子, 新見やよい, 川名誠司: 細菌性髄膜炎に伴う敗血症の1例 . 皮膚臨床 2001 ; 43 ( 6 ): 745-747 .
- 15) 片山美玲, 新見やよい, 楠 俊雄<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> くすのき皮膚科 ): Linear IgA Bullous Dermatitis の1例 : 過去10年間の報告例の治療法の検討 . 皮膚臨床 2001 ; 43 ( 6 ): 790-791 .
- 16) 弓削真由美, 高田香織, 五十嵐司, 青木見佳子, 川名誠司: 急性発症したベーチェット病の1例 . 西日本皮膚 2001 ; 63 ( 4 ): 371-374 .
- 17) 尾見徳彌, 川名誠司, 本田光芳, 畑三恵子, 竹崎伸一郎: Long pulse dye laser ( N-Lite<sup>®</sup> ) による非侵襲的な皮膚の再構築 . 日本美容皮膚科学会誌 2001 ; 10 : 71-74 .
- 18) 尾見徳彌, 本田光芳, 川名誠司, 加藤篤衛, 平井 隆<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科学, <sup>2)</sup> 同病理学 ): 病理組織学的観点からみたルビーレーザーとアレキサンドライトレーザーのレーザー脱毛における効果の相違 . 日本美容皮膚科学会誌 2001 ; 10 : 65-69 .
- 19) 畑三恵子<sup>1)</sup>, 榊原貴子, 菊地伊豆美, 川瀬容子, 沼野香世子<sup>2)</sup>, 秋本眞喜雄<sup>3)</sup>, 尾見徳彌<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 高野クリニック, <sup>2)</sup> 第二病院皮膚科, <sup>3)</sup> 関東学院大学工学研究所, <sup>4)</sup> クインーズスクエアアレルギー皮膚科クリニック ): イオントフォレーシスの皮膚に対する効果 . 日本美容皮膚科学会誌 2001 ; 50 ( 3 ): 91-99 .
- 20) 榊原貴子, 川瀬容子, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 土佐眞美子<sup>2)</sup>, 平井 隆<sup>2)</sup>, 詫間由一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属第二病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同形成外科, <sup>3)</sup> 都立清瀬小児病院神経科 ): 脂腺母斑症候群 . 日本小児皮膚科学会雑誌 2001 ; 20 ( 1 ): 63-66 .
- 21) 榊原貴子, 中川絵里<sup>1)</sup>, 川瀬容子<sup>2)</sup>, 沼野香世子<sup>2)</sup>, 畑三恵子<sup>2)</sup>, 川名誠司, 詫間由一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup> 付属第二病院皮膚科, <sup>3)</sup> 都立清瀬小児病院神経科 ): 基底細胞母斑症候群の1例 . 日本小児皮膚科学会雑誌 2001 ; 20 ( 1 ): 67-70 .
- 22) 渡辺晋一<sup>1)</sup>, 西本勝太郎<sup>2)</sup>, 浅沼廣幸<sup>3)</sup>, 楠 俊雄<sup>4)</sup>, 東 禹彦<sup>5)</sup>, 古賀哲也<sup>6)</sup>, 原田昭太郎<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup> 帝京大学医学部皮膚科, <sup>2)</sup> 長崎市立市民病院皮膚科, <sup>3)</sup> 浅沼皮膚科医院, <sup>4)</sup> くすのき皮膚科, <sup>5)</sup> 市立堺病院皮膚科, <sup>6)</sup> 九州大学医学部皮膚科, <sup>7)</sup> NTT 東日本関東病院皮膚科 ): 本邦における足・爪白癬の疫学調査成績 . 日皮会誌 2001 ; 111 ( 14 ): 2101-2112 .
- 23) 川瀬容子, 新見やよい, 弓削真由美, 川名誠司: 小児汎発性膿疱性乾癬に対するシクロスポリン療法の有効性 . 日皮会雑誌 2001 ; 111 : 1495-1499 .
- 24) 木村陽一, 青木見佳子, 川名誠司: セファクロルと塩化リゾチームの Drug Combination によるアナフィラキシー型薬疹の1例 . 日本皮膚アレルギー学会雑誌 2001 ; 19 ( 4 ): 106-109 .
- 25) 久保容二郎<sup>1)</sup>, 川名誠司, 藤沢有紀<sup>2)</sup>, 栗原誠一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 久保皮膚科医院, <sup>2)</sup> 藤田保健衛生大学, <sup>3)</sup> 湘南皮膚科 ): 外来診療でのケミカルピーリング . 皮膚病診療 2002 ; 24 ( 4 ): 445-456 .

- 26) 鈴木かやの, 川名誠司, 池谷精司: 抗生剤長期投与中の尋常性 瘡患者に対する低濃度グリコール酸を用いた Chemical Peelingの有効性について. 日皮会 2001 ; 111 ( 8 ): 1243-1249 .
- (2) 綜説 :
- 1) 川名誠司: 多形紅斑. 小児科 2001 ; 42 ( 4 ): 687-690 .
  - 2) 川名誠司: 老人性紫斑から Churg-Strauss 症候群まで. 内科医のための発疹の診かた 2001 ; 37 ( 4 ): 518-521 .
  - 3) 青木見佳子, 川名誠司: パーチャー病と閉塞性動脈硬化症. デルマ 2002 ; 59 : 8-15 .
  - 4) 尾見徳彌: ウイルス感染症: 風疹, 麻疹, 水痘の鑑別など. 治療 2002 ; 84 : 410-411 .
  - 5) 鈴木かやの, 川名誠司: 最近のトピックス-Clinical dermatology 2001 最近話題の皮膚疾患-ヒトアジュバント病. 臨床皮膚 2001 ; 55 ( 5 ): 17-20 .
- (3) proceeding :
- 1) Kono M, Nagata H<sup>1)</sup>, Kawana S, Osamura Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Production of corticotropin Releasing hormone ( CRH ) and Proopio melanocortin ( POMC ). in Inflammatory skin 2001 ; 12 : 470-473 .
  - 2) Futagami A, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Kawana S, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Pathology ): Large induction of cyclooxygenase-2 expression in rat skin during wound healing . The 12th Japan-Korea Joint Meeting of Dermatology 2001 ; 12 : 474-477 .
  - 3) Higashi N, Wu K<sup>1)</sup>, Larsen CG<sup>1)</sup>, Deleuran M<sup>1)</sup>, Kawana S, Yamamoto K<sup>2)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Marselisborg hospital, University of Aarhus , Denmark, <sup>2)</sup> Aiiiku Hospital ): Expression and function of CD43 and CDw60 on T Cells from patients with atopic dermatitis . The 12th Japan-Korea Joint Meeting of Dermatology 2001 ; 12 : 522-525 .
- (4) カラーアトラス :
- 1) 青木見佳子, 川名誠司: Penile Mondor's phlebitis : Superficial dorsal penile vein thrombosis . 臨床皮膚 2001 ; 55 ( 3 ): 198-199 .
- (5) 症例報告 :
- 1) Aramaki j, Happle R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Deptatment of Dermatology, Uniersity of Maburg, Germany ): Prurigo Pigmentosa . Hautarzt 2001 ; 52 : 111-115 .
  - 2) Mitsuishi T, Kawashima M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology , Tokyo Women's Medical University ): Human papillomavirus associated Bowen's disease of the foot : unique clinical features mimicking a common wart . Eur J Dermatol 2001 ; 5 : 463-465 .
  - 3) Suzuki K, Kimura Y, Aoki M, Takezaki S, Tsuchida T, Takano T, Kawana S : Persistent Plaque and Linear Pigmentation in Adult-onset Still's Disease . Dermatology 2001 ; 202 : 333-335 .
  - 4) Watanabe A, Kawabata Y, Okada O, Tanabe N, Kimura H, Hatamochi A, Sakai N, Shimada T, Hiroshima K, Kuriyama T : Ehlers-Danlos syndrome type IV with few extrathoracic findings : a newly recognized point mutation in the COL3A1 gene . Eur Respir J 2002 ; 19 ( 1 ): 195-198 .
  - 5) Aoki M, Kawana S : Lichen aureus . Cutis 2002 ; 69 ( 2 ): 145-148 .
  - 6) Niimi Y, Kawana S : Desmoplastic trichoepithelioma : The association with compound nevus and ossification . Euro J Dermatol 2002 ; 12 ( 1 ): 90-92 .
  - 7) 吉野 恵, 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司: 痛風の2例. 皮膚科の臨床 2001 ; 43 ( 6 ): 733-736 .
  - 8) 榊原貴子, 片山美玲, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 岩崎 隆<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属第二病院皮膚科, <sup>2)</sup> 岩崎皮膚科医院 ): 塩酸タロフェダノール ( コルドリン<sup>®</sup> ) による Stevens-Johnson 症候群. 日本皮膚アレルギー学会雑誌 2001 ; 9 ( 3 ): 66-70 .
  - 9) 森本健介<sup>1)</sup>, 新見やよい, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 付属千葉北総病院皮膚科 ): Mycobacterium marinum による皮膚非定

- 型抗酸菌症の1例．皮膚科の臨床 2001；43(9)：1119-1122．
- 10) 森本健介<sup>1)</sup>，中村健一<sup>2)</sup>，楠 俊雄<sup>3)</sup>，川名誠司<sup>(1)</sup>付属千葉北総病院皮膚科，<sup>2)</sup>おゆみの皮膚科，<sup>3)</sup>くすのき皮膚科)：Trichophyton violaceum による成人ケルスス禿瘡の1例．皮膚科の臨床 2001；43(9)：1123-1126．
  - 11) 栗原和久，藤本和久，川名誠司：フッ化水素酸による化学熱傷の1例．臨皮 2001；55(12)：929-931．
  - 12) 小坂祥子，鈴木かやの，五十嵐司，川名誠司，楠 俊雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>くすのき皮膚科)：ステロイド局注が著効した膿瘍性穿掘性頭部毛包周囲炎の1例．皮膚臨床 2001；43(5)：661-663．
  - 13) 弓削真由美，新見やよい，川名誠司：胡椒の増量剤として含まれていたソバ粉によりアナフィラキシー症状を呈した1例．アレルギー 2001；50：555-557．
  - 14) 落合廣武，新見やよい，青木見佳子，川名誠司：潰瘍を伴ったリウマトイド血管炎の1例．皮膚臨床 2001；43：1069-1071．
  - 15) 矢部朋子，加藤陽子，青木恵理，川名誠司：糖尿病と自己免疫性肝炎を合併した限局型環状肉芽腫の1例．皮膚臨床 2001；43(3)：1169-1171．
  - 16) 五十嵐司，菊地伊豆実，榊原貴子，木村陽一，青木恵理，立原利江子，川名誠司：Monoclonal gammopathy (IgG-K型)を合併した壊疽性膿皮症の1例．臨床皮膚 2001；55(11)：887-889．
  - 17) 五十嵐司，川名誠司，青木 律<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科)：鼻翼の基底細胞癌の1手術例．Skin Cancer 2001；16(2)：201-204．
  - 18) 木村陽一，青木見佳子，竹内瑞恵<sup>1)</sup>，川口博史<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>(1)</sup>横浜市立大学医学部皮膚科)：遺伝性血管神経性浮腫(HANE)C1-INH遺伝子の解析結果を合わせて．皮膚病診療 2001；23(10)：995-998．
  - 19) 鈴木かやの，川名誠司，吉野 恵，木村陽一，青木恵理：高度の好酸球血症を伴った結節性動脈炎の1例．日皮会誌 2001；111(7)：1111-1116．
  - 20) 新見やよい，川名誠司：前頸部に生じた皮膚腺病．西日本皮膚 2002；64：48-50．
  - 21) 矢部朋子，青木見佳子，川名誠司：爪に限局した扁平苔癬の3例．皮膚臨床 2002；44(3)：293-295．
  - 22) 安本美奈子，木村陽一，青木恵理，川名誠司：塩酸シプロフロキサシン(CPFX)によるアナフィラキシーショックの1例．皮膚臨床 2002；44：376-377．

## 著 書

- 1) 菊地伊豆実：〔分担〕Bloch-Sulzburger 症候群．カラーアトラス皮膚科症候群(日本臨床皮膚科医学会 東京皮膚科医会)，2001；pp12-13，南江堂．
- 2) 森本健介<sup>1)</sup>，中川絵里<sup>1)</sup>，栗原和久<sup>1)</sup>，服部怜美<sup>1)</sup>，菊地伊豆実，楠 俊雄<sup>2)</sup>，川名誠司，田沼弘之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属千葉北総病院皮膚科，<sup>2)</sup>くすのき皮膚科，<sup>3)</sup>田沼皮膚科)：〔共著〕イトラコナゾールの角層への移行性の検討：角質増殖型白癬における短期療法の有用性．Dermatological Mycology Club例会，2001；pp94-101，メディカルトリビューン．
- 3) 青木見佳子，川名誠司：〔分担〕Birt-Hogg-dube'症候群．カラーアトラス皮膚科症候群(日本臨床皮膚科医学会 東京皮膚科医会)，2001；pp10-11，南江堂．
- 4) 川名誠司：〔自著〕夏の皮膚トラブル．Pharmacy News，2001；pp2-14，ファイザー製薬株式会社．
- 5) 尾見徳彌：〔共著〕皮膚と毛髪構造と生理衛生．美容脱毛レーザーライト安全講習会(非営利特定法人)，2001；pp30-41，美容機器普及会．
- 6) 三石 剛，川島 眞<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学皮膚科)：〔自著〕EBウイルスは乳癌の発症に関与する．Medical Briets in Viras lutection(新村真人)，2001；pp10-11，マッキャン・ヘルスケア．
- 7) 川名誠司：〔自著〕アナフィラクトイド紫斑．EBM皮膚科(真鍋求 宮地良樹)，2001；pp63-70，文光堂．
- 8) 川名誠司：〔自著〕診察室ですぐに役立つ卓上リファレンス．皮膚疾患診療実践ガイド(宮地良樹・古川 福

実), 2001 ; pp306-311, 文光堂 .

- 9) 三石 剛, 川島 眞<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学皮膚科): [自著] カボジ肉腫と治療 . Medical Briets Viras lutection (新村真人), 2002 ; pp10-11, マックヤン・ヘルスケア .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 川名誠司 : 「蕁麻疹 UP-DATE」. 日本乾癬学会, 2001 . 11 .
- 2) 川名誠司 : 「膠原病のサインとしての皮膚症状」. 第14回東北膠原病研究会, 2001 . 11 .
- 3) 川名誠司 : 「ストレスにより増悪する慢性接触皮膚炎の皮膚神経免疫学的解析」. 日本医科大学感染・免疫・アレルギー学会, 2001 . 12 .

##### (2) シンポジウム :

- 1) 川名誠司 : 皮膚科領域における原因不明の肉芽腫性疾患 . 日本サルコイドーシス / 肉芽腫性疾患学会, 2001 . 10 .
- 2) 片山美玲, 山西貴仁, 川名誠司, 藤本和人<sup>1)</sup>, 登坂直規<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院高度救命救急センター): カルバマゼピンによる TEN 型薬疹の 1 例 . 日皮会第 65 回東京支部学術大会, 2002 . 2 .
- 3) 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司 : 当科における薬疹症例のパッチテストについて . 第 65 回日皮会東京支部学術大会, 2002 . 2 .

##### (3) セミナー :

- 1) 河野美乃里, 永田英孝<sup>1)</sup>, 川名誠司, 長村義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): Laser Capture Microdissection (LCM) を用いた皮膚 neuroendocrine system の解析 - ヒト皮膚における Corticotropin Releasing hormone (CRH) と Proopiomelanocortin (POMC) 産生の証明 . 日本電子顕微鏡学会ニューマイクروسコープ研究分科会, 2001 . 12 .

##### (4) 一般講演 :

- 1) Omi T, Kawana S, Shigeru S<sup>1)</sup>, Mitsuyosi H, Honda M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School): Acute changes with the non-ablative wrinkle reduction laser-An ultrastructural study . 16th International congress of Laser Medicine (Florence), 2001 . 11 .
- 2) Kato Y, Pawakar R<sup>1)</sup>, Kimura Y, Kawana S (<sup>1)</sup>Department of Otolaryngology): Increased expression of RANTES, CCR3, and CCR5 in the lesional skin of atopic dermatitis and its relation to tissue eosinophilia and severity of disease . American academy of allergy, asthma and immunology 58th annual meeting (New York), 2002 . 2 .
- 3) 義澤雄介, 伊崎誠一<sup>1)</sup>, 北村啓次郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医科大学総合医療センター皮膚科): Topical dinitrochlorobenzene (DNCB): systemic immune-regulating agent in the treatment of alopecia areata . 第 100 回日皮会総会, 2001 . 4 .
- 4) 吉野公二, 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司 : 当科におけるベーチェット病の統計 . 第 100 回日皮会総会, 2001 . 4 .
- 5) 小坂祥子, 川原田晴通, 安原尚昭, 藤本和久, 川名誠司 : 多発性脂肪腫の 2 例 . 第 100 回日皮会総会, 2001 . 4 .
- 6) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 井上尚子<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科学): 頭部アポクリン腺癌の 1 例 . 第 44 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
- 7) 加藤陽子, 東 直行, 川名誠司 : 当科で経験した成人の麻疹 13 例について . 日皮会第 763 回東京地方会, 2001 . 5 .
- 8) 片山美玲, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>2)</sup>, 山本泰一<sup>3)</sup>, 吉田秀也<sup>4)</sup>, 川名誠司 (<sup>1)</sup>付属第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科, <sup>3)</sup>同病理部, <sup>4)</sup>吉田皮膚科): 臍部子宮内膜症の 1 例 . 日皮会第 763 回東京地方会, 2001 . 5 .

- 9) 小坂祥子, 新見やよい, 川名誠司, 浅倉廣行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都): 好酸球浸潤を伴う毛廔性ムチン沈着症の1例: 好酸球性膿包性毛廔炎との異同について. 日皮会第763回東京地方会, 2001. 5.
- 10) 榊原貴子, 義澤雄介, 川名誠司, 清水 淳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 術後脱毛症の3例. 日皮会第763回東京地方会, 2001. 5.
- 11) 五十嵐司, 加藤陽子, 川名誠司: Multiple eccrine spiradenomaの1例. 日皮会第764回東京地方会, 2001. 6.
- 12) 堺 則康, 國本健太<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同放射線科): イオメプロール(イオメロン<sup>R</sup>)による薬疹の1例. 日皮会第319回東北地方会, 2001. 6.
- 13) 堺 則康, 長澤重直<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科): メチル酸ガベキサート(FOY<sup>R</sup>)による静脈炎の1例. 第363回山形県皮膚科勉強会, 2001. 6.
- 14) 吉野公二: クラミジア尿道炎を合併した陰部モンドール病の1例. 日皮会第765回東京地方会, 2001. 6.
- 15) 東 直行, 川名誠司, Gesser B<sup>1)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Aarhus 大学皮膚科 Marselisbog病院): アトピー性皮膚炎由来単球によるIL-18産生の検討. 第31回日本皮膚アレルギー学会, 2001. 7.
- 16) 尾見 徳彌, 本田光芳, 川名誠司, 山本一哉<sup>1)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>愛育病院皮膚科, <sup>2)</sup>Aarhus大学 皮膚科 Marselisbog病院): 皮膚固有Tリンパ球の培養とIL-2, IL-4 mRNAの発現. 第31回日本皮膚アレルギー学会総会, 2001. 7.
- 17) 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司: 頭部に限局したDarier病の1例. 日皮会第765回合同臨床地方会, 2001. 7.
- 18) 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: ミオナル EBによる蕁麻疹型薬疹の1例. 第31回日本皮膚アレルギー学会, 2001. 7.
- 19) 尾見徳彌, 川名誠司, 本田光芳: 家庭用高周波脱毛器による脱毛の効果. 第19回日本美容皮膚科学会総会, 2001. 8.
- 20) 尾見徳彌, 川名誠司: セラシオンTM内服による理学的変化とその効果. 第19回日本美容皮膚科学会総会, 2001. 8.
- 21) 矢部朋子, 橋本綱子, 加藤陽子, 川名誠司: 難治性疣贅を契機に発見された成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATL)の1例. 日皮会第766回東京地方会, 2001. 9.
- 22) 榊原貴子, 三石 剛, 橋本綱子, 吉野公二, 青木見佳子, 川名誠司: 手掌に生じた直腸癌の皮膚転移. 日皮会第766回東京地方会, 2001. 9.
- 23) 堺 則康, 新見やよい, 川名誠司: Eccrine Angiomatous Hamartomaの1例. 日皮会第766回東京地方会, 2001. 9.
- 24) 鈴木かやの, 金森幸男<sup>1)</sup>, 高田香織, 川名誠司(<sup>1)</sup>くすのき台クリニック): 紫外線照射により接触過敏反応の感作相は抑制されない. 第26回日本研究皮膚科学会, 2001. 9.
- 25) 安原尚昭, 川原田晴通, 藤本和久, 小坂祥子, 川名誠司: 陰茎根部縫線上に生じた基底細胞上皮腫の1例. 日皮会第766回東京地方会, 2001. 9.
- 26) 木下順平, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司, 齋藤明彦: イオヘキソールによるStevens-Johnson Syndromeの1例. 第65回日皮会東部支部学術大会, 2001. 9.
- 27) 荒牧 純, 東 直行, 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司: 当科で経験した開口部プラズマ細胞症の4例. 日皮会第767回東京地方会, 2001. 10.
- 28) 吉野公二, 三石 剛, 橋本綱子, 山西貴仁, 東 直行, 五十嵐司, 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司, 青木孝文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院整形外科): 肢端黒子型黒色腫3例の治療経験. 第16回日本皮膚外科学会, 2001. 10.
- 29) 山形健治, 三石 剛, 川名誠司: 耳に生じたFolliculosebaceous cystic hamartomaの1例. 日皮会第767回東京地方会, 2001. 10.
- 30) 鈴木かやの, 金森幸男<sup>1)</sup>, 高田香織, 川名誠司(<sup>1)</sup>くすのき台クリニック): 紫外線照射により接触過敏反応の感作相は抑制されない. 第51回日本アレルギー学会総会, 2001. 10.

- 31) 天野彰人, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: 松茸によるアナフィラキシーの1例. 日皮会第767回東京地方会, 2001. 10.
- 32) 橋本網子, 新見やよい, 立原利江子, 川名誠司: 皮膚結核疑診例. 第52回日皮会中部支部学術大会, 2001. 11.
- 33) 菊地伊豆実, 森本健介, 木下順平, 田沼弘之<sup>1)</sup>, 楠 俊雄<sup>2)</sup>, 川名誠司 (<sup>1)</sup>田沼皮膚科, <sup>2)</sup>くすのき皮膚科): スポロトリコーシスの3例: イトラコナゾール(ITCZ)の有効性の検討. 第52回日皮会中部支部総会学術大会, 2001. 11.
- 34) 片山美玲, 大橋網子, 青木見佳子, 義澤雄介, 川名誠司: 下腿に生じた基底細胞癌の1例. 日皮会第768回東京地方会, 2001. 11.
- 35) Yoshizawa Y, Izaki S<sup>1)</sup>, Kitamura K<sup>1)</sup>, Kawana S (<sup>1)</sup>埼玉医科大学総合医療センター皮膚科): Systemic immunotherapy with DNCB to treat alopecia areata. The 6 th Asian Dermatological Congress, 2001. 11.
- 36) 中田朋子, 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司: G6PD欠損症に生じた皮膚潰瘍の1例. 日皮会第768回東京地方会, 2001. 11.
- 37) 小坂祥子, 義澤雄介, 川名誠司: 顔面播種状粟粒性狼瘡(LMDF)の13例. 日皮会第768回東京地方会, 2001. 11.
- 38) 堺 則康, 栗原和久, 川名誠司: 有茎性BCCの1例. 日皮会第768回東京地方会, 2001. 11.
- 39) 五十嵐 司, 川名誠司, 田沼弘之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>田沼皮膚科): 結節性紅斑様皮疹を呈したサルコイドーシスの1例. 第52回日皮会中部支部総会学術大会, 2001. 11.
- 40) 森本健介<sup>1)</sup>, 中川絵里<sup>1)</sup>, 栗原和久<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 菊地伊豆実, 楠 俊雄<sup>2)</sup>, 川名誠司, 田沼弘之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>くすのき皮膚科, <sup>3)</sup>田沼皮膚科): 角質増殖型足白癬に対するイトラコナゾール短期療法の有用性および角層への移行性の検討. 第52回日皮会中部支部総会学術大会, 2001. 11.
- 41) 荒牧 純, 川名誠司, Löeffler H<sup>1)</sup>, Happle R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Marburg大学皮膚科): ラウリル硫酸ナトリウムによる角質層の障害: 濃度と貼付時間との関係. 日皮会第769回東京地方会, 2001. 12.
- 42) 山西貴仁, 菊地伊豆実, 藤本和久, 川名誠司: アレルギークリーム®による接触皮膚炎の1例. 第26回日本接触皮膚炎学会, 2001. 12.
- 43) 安本美奈子, 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司: 成人型多発性黄色肉芽腫(spindle cell type)の1例. 日皮会第770回東京地方会, 2002. 1.
- 44) 木村陽一, 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司: 抗リン脂質抗体陽性の分枝状皮斑の2例. 皮膚脈管・膠原病, 2002. 1.
- 45) 天野彰人, 三石 剛, 川名誠司: 前頸部に生じた軟骨母班. 日皮会第770回東京地方会, 2002. 2.
- 46) 三浦祐理子, 小坂祥子, 川名誠司, 副島なをみ<sup>1)</sup>, 江石義信<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学医学部病理学): 定量的PCR(Taq Man)を用いた皮膚常在菌の測定. 日皮会第771回東京地方会(研究地方会), 2002. 3.
- 47) 青木見佳子, Pawakar R<sup>1)</sup>, 新見やよい, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科): 皮膚基底細胞癌におけるマスト細胞の動態. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002. 3.
- 48) 新見やよい, Pawakar R<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科): 水疱性類天疱瘡病変皮膚におけるMMP-2, MMP-9, MMP-13の発現の検討. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002. 3.
- 49) 加藤陽子, Pawakar R<sup>1)</sup>, 木村陽一, 川名誠司(<sup>1)</sup>日本医科大学耳鼻咽喉科): アトピー性皮膚炎における好酸球, RANTES, CCR3, CCR5の検討. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002. 3.
- 50) 東 直行, 川名誠司, Gesser B<sup>1)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Aarhus大学皮膚科 Marselisbog病院): アトピー性皮膚炎由来単球によるIL-18産生の検討. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002. 3.
- 51) 義澤雄介, 川名誠司, 野間口博子<sup>1)</sup>, 伊崎誠一<sup>2)</sup>, 北村啓次郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症ハンセン病研究所, <sup>2)</sup>埼玉医科大学総合医療センター皮膚科): アトピー性皮膚炎の血清サイトカインレベル. 日皮会第771回東京地方会, 2002. 3.
- 52) 義澤雄介, 川名誠司, 北村啓次郎<sup>1)</sup>, Howard I<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医大総合医療センター皮膚科, <sup>2)</sup>University of Cali-



fornia): 海水療法の科学的検証。日皮会第771回東京地方会, 2002. 3.

- 53) 義澤雄介, 川名誠司, 野間口博子<sup>1)</sup>, 伊崎誠一<sup>2)</sup>, 北村啓次郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症ハンセン病研究所,<sup>2)</sup>埼玉医科大学総合医療センター皮膚科): アトピー性皮膚炎の血清サイトカインレベル。第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002. 3.

(5) コンセンサス討論会:

- 1) 川名誠司: 皮膚科。第65回日皮会東京支部学術大会, 2002. 2.

(6) ポスター:

- 1) Higashi N, Gesser B<sup>1)</sup>, Kawana S, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Marselisborg Hospital University of Aarhus): mRNA expression and secretion of IL-18 are reduced in monocytes from patients with atopic dermatitis. International Symposium on Atopic Dermatitis. Portland (USA), 2001. 9.
- 2) Higashi N, Wu K<sup>1)</sup>, Larsen CG<sup>1)</sup>, Deleuon M<sup>1)</sup>, Kawana S, Yamamoto K<sup>2)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Aarhus 大学 皮膚科 Marselisbog 病院, <sup>2)</sup>Aiiku Hospital): Expression and Function of CD43 and CDw60 on T cells from patients with atopic dermatitis. 第12回日韓合同皮膚科学会(東京), 2001. 11.
- 3) Kono M, Nagata H<sup>1)</sup>, Kawana S, Osamura Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): Production of Corticotropin Releasing hormone (CRH) and Proopiomelanocortin (POMC) in Inflammatory skin. 第12回日韓合同皮膚科学会, 2001. 11.
- 4) Futagami A, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Kawana S, Yamanaka N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第一): Large induction of cyclooxygenase-2 expression in rat skin during wound healing. 第12回日韓合同皮膚科学会, 2001. 11.
- 5) Niimi Y, Pawakar R<sup>1)</sup>, Kawana S(<sup>1)</sup>Department of Otolaryngology): Expression of matrix metalloproteinase (MMP)-2, MMP-9, MMP-13 in Lesional Skin of Bullous Pemphigoid. 58th Annual Meeting American Academy of Allergy, Asthma and Immunology (New York, USA), 2002. 3.
- 6) 菊地伊豆実, 五十嵐司, 川名誠司: 日本医科大学付属病院における梅毒の検討。第100回日皮会総会学術大会, 2001. 4.
- 7) 木村陽一, 青木見佳子, 菊地伊豆実, 川名誠司, 竹内瑞恵<sup>1)</sup>, 川口博史<sup>1)</sup>, 石井則久<sup>1)</sup>, 池沢義郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市立大学): 遺伝性血管神経性浮腫(HANE)の1例。第100回日皮会総会, 2001. 4.
- 8) 東 直行, Wu K<sup>1)</sup>, Larsen CG<sup>1)</sup>, Deleuon M<sup>1)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>, 川名誠司, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Aarhus 大学皮膚科 Marselisbog 病院): アトピー性皮膚炎由来 T リンパ球における CD43 と CD60 の発現と機能。第26回日本研究皮膚科学会, 2001. 9.
- 9) 木村陽一, Pawakar R<sup>1)</sup>, 青木見佳子, 新見やよい, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科): 木村病変部浸潤細胞の IL-4, IL-5 および RANTES, Eotaxin の発現。第26回日本研究皮膚科学会, 2001. 9.
- 10) 二神綾子, 石崎正通<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 川名誠司, 山中宣昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第一): Large induction of cyclooxygenase-2 expression in rat skin during wound healing. 第26回日本研究皮膚科学会, 2001. 9.
- 11) 青木見佳子, 川名誠司: 両下眼瞼に生じた霰粒腫。第53回日皮会西部支部学術大会, 2001. 10.
- 12) 新見やよい, 川名誠司: Acquired perforating dermatosis を合併した水疱性類天疱瘡。第53回日皮会西部支部学術大会, 2001. 10.

## [ 第二病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 皮膚腫瘍の臨床診断, 病理組織の検索, 電顕, 酵素抗体法, 形成外科の治療。
2. ポリ・モノクローナル抗体を用いた梅毒疹の特異的診断. HIV 感染と梅毒の併発による梅毒の進行や抗体価の異常等の検索. T . Pallidum の cross reactivity の検討.

3. GUPのPCRを用いた早期診断.
4. 接触皮膚炎. 薬疹では国際的な方法で原因物質の検索をする.
5. アトピー性皮膚炎の増悪因子としてのブドウ球菌やM. furfurの果たす役割を特に成人型について検討する.

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) 久保田智樹, 竹崎伸一郎, 山本泰一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 岩崎 隆<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院病理部, <sup>2)</sup>同付属病院皮膚科, <sup>3)</sup>神奈川): 右上腹部に生じた乳房外 paget 病の1例. 日本皮膚科学会第767回東京地方会, 2001. 10.

## [ 多摩永山病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 薬疹, 接触皮膚炎: パッチテスト, ブリックテスト, チャレンジテスト, 光パッチテストによる原因物質の確認と交叉感作, 抗原決定基の検索, アレルギーカードの発行.
2. 動物性皮膚疾患: 疥癬, Creeping disease等に対する新しい内服療法の研究.
3. 褥瘡, 難治性潰瘍: 新しい素材, 薬剤を用いた保存的, 外科的治療法の研究.
4. 接触皮膚炎の感作能: 全身感作が成立した後の皮膚炎の成立を阻止する条件の解明.
5. 白癬菌の電顕学的研究: 白癬菌の寄生形態に関する新規マイクロウェーブ法による電顕学的研究.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Fujimoto K, Kawarada H, Takada K, Aoki M, Kawana S : Two cases of fruit allergy with negative serum specific IgE to Betulaceae pollen . Environ Dermatol 2001 ; 8 ( 4 ): 182-186 .
- 2) Fujimoto K, Kawarada H, Kosaka S, Yasuhara N, Kawana S : Occupational contact dermatitis from disulfiram in a pharmacist . Jpn J Dermatoallergol 2001 ; 9 ( 4 ): 116-119 .
- 3) 栗原和久<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): フッ化水素酸による化学熱傷の1例. 臨皮 2001 ; 55 ( 12 ): 929-931 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 片山美玲<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>, 登坂直規<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>同救命救急センター): カルバマゼピンによるTEN型薬疹の1例. 第65回日本皮膚科学会東京支部学術学会, 2001. 2.
- 2) 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 当科における薬疹症例のパッチテストについて. 第65回日本皮膚科学会東京支部学術学会, 2002. 2.

#### (2) 一般講演:

- 1) 小坂祥子<sup>1)</sup>, 川原田晴通, 安原尚昭, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 多発性脂肪腫の2例. 第100回日本皮膚科学会総会, 2001. 4.
- 2) 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): ミオナールÉBによる蕁麻疹型薬疹の1例. 第31回日本皮膚アレルギー学会, 2001. 7.

- 3) 安原尚昭, 川原田晴通, 藤本和久, 小坂祥子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 陰茎根部縫線上に生じた基底細胞上皮腫の1例. 日本皮膚科学会第766回東京地方会, 2001. 9.
- 4) 木下順平<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>, 齋藤明彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 同耳鼻咽喉科): イオヘキゾールによる Stevens-Johnson Syndrome の1例. 第65回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2001. 9.
- 5) 天野彰人<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): 松茸によるアナフィラキシーの1例. 日本皮膚科学会第767回東京地方会, 2001. 10.
- 6) 山西貴仁<sup>1)</sup>, 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科): アレルギークリーム EB による接触皮膚炎の1例. 第26回日本接触皮膚炎学会, 2001. 12.

## [ 千葉北総病院皮膚科 ]

### 研究概要

- 1) 薬疹, 接触性皮膚炎: patch scratch test, challenge test による原因物質の確認と, アレルギーカードの発行
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学的研究: 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究
- 3) アトピー性皮膚炎について
- 4) 皮膚の肉芽腫性疾患, 特にサルコイドーシスについて

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 森本健介, 中川絵里, 栗原和久, 服部怜美, 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 楠 俊雄<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 田沼弘之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 川口市): 角質増殖型足白癬に対するイトラコナゾール短期療法の有用性および角層への移行性の検討. 第52回日本皮膚科学会中部支部総会, 2001. 11.
- 2) 五十嵐司, 川名誠司<sup>1)</sup>, 田沼弘之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 川口市): 結節性紅斑様皮疹を呈したサルコイドーシスの1例. 第52回日本皮膚科学会中部支部総会, 2001. 11.

## 9. 外科学第一講座

### [ 付属病院第 1外科 ]

#### 研究概要

教室では消化器外科学，一般外科学，さらにその関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めており，その成果を積極的に学会ならびに学会誌および専門誌に発表し，着実な評価を得ている．

1. 創傷治癒，外科侵襲，外科感染症の基礎的研究を基に積極的に臨床応用を図っている．
  2. 急性腹症の病態の解析，イレウスの新しい診断と治療の開発は，臨床上の有用性に対して内外で高い評価を得ている．
  3. 腹腔鏡下手術は，その適応範囲を拡げ，胆嚢摘出術はもとより，胃・十二指腸潰瘍の穿孔性腹膜炎，早期胃癌，早期大腸癌，癒着性イレウス，門脈圧亢進症さらに肝切除にも応用され，良好な成績を得ており，患者に対して侵襲の少ない手術として評価を得ている．
  4. 進行食道癌，胃癌，大腸癌および肝胆膵癌に対する手術と化学療法の組み合わせにより，患者の延命とQOLの向上を図っている．
  5. 肝硬変症，門脈圧亢進症に起因する食道胃静脈瘤に対する集学的治療により，病態に応じた治療法の選択が可能となり，良好な成績をあげている．
  6. 内視鏡下手術の進歩により，早期胃癌，早期大腸癌に対するEMR，また，総胆管結石，膵石に対する内視鏡的摘出術，閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等，種々の内視鏡下手術および処置に取り組んでいる．
  7. ヘリコバクター・ピロリと胃炎，胃潰瘍，胃癌との関係について臨床的および基礎的な研究が進められている．
  8. 遺伝子治療の研究にも取り組んでおり，胃癌における遺伝子治療もその基礎的研究が進行している．
  9. 食道癌，肝臓癌，膵臓癌に対する基礎的および臨床的研究が進められ，手術法の進歩とあいまって手術成績の向上が得られつつある．
  10. 生体部分肝移植は小児と成人に行っている．成人レシピエントでは過小グラフトが問題となるが，この対策として基礎的研究を行い，今後増加する成人生体部分肝移植に備えている．
  11. 乳癌手術に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績をあげている．さらに進行乳癌に対する動注化学療法，化学内分泌療法を組み合わせた治療法を採用し，患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている．
- 教授，助教授，講師の指導の下に，これらの各テーマに若手医局員が配属され，日夜熱心に研究が行われており，下記のごとく内外の学会誌，専門誌に発表された．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takubo K, Nakamura K, Izumiyama N, Sawada M, Arai T, Esaki T, Tanaka Y, Mafune K-I, Fujiwara M, Kam-mori M, Sasajima K : Teromere shortening with aging in human esophageal mucosa . Age 1999 ; 22 : 95-99 .
- 2) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Tani ai N : Hypersplenism Induced by He-patectomy . Hepato-Gastroenterology 2001 ; 48 : 1170-1175 .
- 3) Kato S, Onda M, Yamada S, Matsuda N, Tokunaga A, Matsukura N : The association of the interleukin-1 genetic polymorphism and gastric cancer risk in Japanese . Journal of Gastroenterology 2001 ; 36 ( 10 ) : 696-699 .
- 4) Okino T, Onda M, Matsukura N, Inada K<sup>1)</sup>, Tatematsu M<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Div.

- Oncol. Pathol. , Aichi Cancer Center, <sup>2)</sup>Dept. Biochem. Molecular Biol. Nippon Med. School ): Sequential histopathological changes in vivo after suicide gene therapy of gastric cancer induced by N-methyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine in rats . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 : 673-679 .
- 5) Suzuki H, Ikezaki H, Chandiwala R, Hong D, Rubinstein I : Effects of Pseudomonas aeruginosa endotoxin on vasodilation in the intact spinotrapezius muscle . Am. J. Physiol 2001 ; 91 : 351-356 .
  - 6) Tanaka M, Onda M, Kato S : Variations in 5-Fluorouracil concentrations of colorectal tissues as compared with Dehydropyrimidine Dehydrogenase ( DPD ) enzyme activities and DPD mRNA levels . Clinical Cancer Research 2001 ; 7 : 2783-2787 .
  - 7) Terada Y, Imoto <sup>1)</sup>, Nagai <sup>H<sup>2)</sup></sup>, Suwa <sup>K<sup>3)</sup></sup>, Momoi T, Tajiri T, Onda M, Inazawa J, and Emi M ( <sup>1)</sup> 東京医科歯科大学, <sup>2)</sup> 老研, <sup>3)</sup> 自治医科大学小児科 ): An 8-cM Interstitial Deletion on 4q21-q22 in DNA From an Infant With Hepatoblastoma Overlaps With a Commonly Deleted Region Adult Liver Cancers . Am. J. Medical Genetics 2001 ; 103 : 176-180 .
  - 8) Tippner C, Nashan B, Hoshino K, Schmidt-Sandte E, Akimaru K, Boker KHW, Schlitt HJ : Clinical and sub-clinical acute rejection early after liver transplantation . Transplantation 2001 ; 72 : 1122-1128 .
  - 9) Yamada <sup>S<sup>1)</sup></sup>, Onda M, Kato S, Matsuda N, Matsuhisa <sup>T<sup>2)</sup></sup>, Yamada <sup>N<sup>3)</sup></sup>, Miki M, Matsukura N ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. Faculty of Med. , Chaing Mai Univ. , <sup>2)</sup> Dept. Gastroentrol. Endosc. , Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Dept. Pathol. , Nippon Med. School ): Genetic differences in CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among four Asian populations . J. Gastroenterol 2001 ; 36 : 669-672 .
  - 10) Yoshioka M, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Mineta S, Hirakata A, Takubo K : Reconstruction of the portal vein using a peritoneal patch-graft . Am J Sug 2001 ; 181 : 247-250 .
  - 11) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生, 横室茂樹, 内田英二 : 消化器外科領域における内視鏡下手術の現況 : 胆道疾患を中心に . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 6 ): 530-533 .
  - 12) 古川清憲, 恩田昌彦, 吉村和泰, 野村 務, 清水哲也 : 汎発性腹膜炎に対する open drainage 法の工夫 . 手術 2001 ; 6 : 843-846 .
  - 13) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史 : 肝細胞癌治療切除例における術前肝動脈塞栓術の評価 . 日臨外会誌 2001 ; 62 ( 11 ): 2617-2620 .
- (2) 総説 :
- 1) Yamada <sup>S<sup>1)</sup></sup>, Onda M, Matsukura N, Kato S, Matsuda N, Matsuhisa <sup>T<sup>2)</sup></sup>, Yamada <sup>N<sup>3)</sup></sup>, Miki M, ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. Faculty of Med. , Chaing Mai Univ. , <sup>2)</sup> Dept. Gastroentrol. Endosc. , Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Dept. Pathol. , Nippon Med. School ): Genetic differences in CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among Asian populations : Prediction for H. pylori eradication by PPI-based triple therapy . J. New Rem. Clin 2001 ; 50 : 801-804 .
  - 2) 田久保海誉, 真船健一, 田中 洋, 笹島耕二 : 噴門部の病理 . Jpn J Surg Assoc 1998 ; 99 : 547-551 .
  - 3) 高崎秀明, 恩田昌彦, 古川清憲, 会田邦晴 : 特集 イレウス 理学的所見とモニタリング ; 基本的な徴候と見落としてはならない所見 . 救急医 2000 ; 24 : 753-760 .
  - 4) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃 : 重症急性膵炎の合併症と対策 . 肝胆膵 2001 ; 42 ( 6 ): 755-761 .
  - 5) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 相本隆幸, 松下 晃, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 集中治療室 ): 血液浄化療法 ( 特集・重症急性膵炎 治療 . 消化器の臨床 2001 ; 4 ( 4 ): 467-470 .
  - 6) 高崎秀明, 恩田昌彦 : 特集 : 患者さんへの情報提供とインフォームドコンセント . イレウス . 治療 2001 ; 83 : 925-928 .
  - 7) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生 : 胆嚢ポリープ ( EBM に基く臨床データブック ). 臨床医 2001 ; 27 : 1348-

1351 .

- 8) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏: 消化器外科における耐性菌感染症の対策. 外科治療 2001 ; 84 : 317-322 .
  - 9) 古川清憲, 恩田昌彦: 深在性真菌症の早期診断と治療. Surgery Frontier 2001 ; 8 (3): 19-23 .
  - 10) 古川清憲: 精神疾患を持つ患者の周術期の医学的管理. 合併疾患患者の術前術後ケア. 消化器外科NURSING 2001 ; 65 : 211-217 .
  - 11) 木村美保, 古川清憲: 精神疾患についての理解. 合併疾患患者の術前術後ケア. 消化器外科NURSING 2001 ; 65 : 200-210 .
  - 12) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏: 真菌-消化器外科における深在性真菌症. 化学療法の領域 2001 ; 17 (11): 79-85 .
  - 13) 松倉則夫, 恩田昌彦, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化第二): 胃癌に対する遺伝子治療の可能性と今後の課題. 日外会誌 2001 ; 102 : 778-782 .
  - 14) 松倉則夫, 恩田昌彦, 横室茂樹: Helicobacter bilisと胆道疾患・炎症性腸疾患. Helicobacter Res 2001 ; 5 : 106-109 .
  - 15) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 秋丸琥甫, 山下精彦, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 原発性肝癌破裂例に対する肝動脈塞栓術 (特集: 救急止血を要する腹部救急傷病の初療の工夫 (消化管出血を除く)). 日腹部救急医学会誌 2001 ; 21 (4): 649-652 .
  - 16) 吉田 寛, 田尻 孝: PSE. 日門亢会誌 2001 ; 7 : 251-253 .
- (3) 症例報告:
- 1) Katsuno A, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Mamada Y, Taniyai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Saitoh T, Akimaru K, Ochi M, Kumazaki T : Celiac Artery Aneurysm : A Case Evaluated Preoperatively with Three-dimensional Computed Tomographic Angiography . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (5): 444-446 .
  - 2) Mamada Y, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Taniyai N, Mineta S, Hirakata A, Hirose Y : Liver Cell Adenoma in a 26-year-old Man . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (6): 516-519 .
  - 3) Matsutani T, Onda M, Miyashita M, Hagiwara N, Akiya Y, Yamashita K, Takubo K, Sasajima K : Primary malignant melanoma of the esophagus . Dis Esophagus 2001 ; 14 : 241-244 .
  - 4) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniyai N, Mizuguchi Y, Uchida E, Arima Y, Akimaru K : Acute Cholecystitis Caused by a Cholesterol Polyp . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (3): 259-261 .
  - 5) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Umehara M, Yoshida H, Nomura T, Masuda G, Uchiyama K, Simizu K, Ochi M : Resection of the liver, inferior vena cava, and right kidney for recurrences over 10 years after right adrenalectomy for carcinoma . Eur J Surg 2002 ; 168 : 130-133 .
  - 6) Akimaru K, Onda M, Shimanuki K, Iwama H, Furukawa K, Sugiyama Y : Colonic adenocarcinoma metastatic to the thyroid- Report of a case . Surg Today 2002 ; 32 : 151-154 .
  - 7) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniyai N, Yoshioka M, Mineta S : Middle hepatic vein reconstruction using a peritoneal patch : Report of a case . Surg Today 2002 ; 32 : 75-77 .
  - 8) 秋丸琥甫, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 山田シリカン, 吉村和泰, 北 嘉昭, 河原崎秀雄, 幕内雅敏: 外国人人体肝移植の経験. 小児外科 2001 ; 33 (4): 416-420 .
  - 9) 野村 務, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 内田英二, 吉田 寛: 石灰乳胆汁の1例. 日臨外会誌 2001 ; 62 (10): 2506-2509 .
  - 10) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 秋丸琥甫: 外科的

治療により改善した稀な肝内門脈大循環短絡路の1例．肝臓 2001；42（7）：368-372．

## 著書

- 1) 笹島耕二：〔分担〕バイオクリーンシステム．南光堂出版，1999；pp48-49．

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 松倉則夫，山田宣孝<sup>1)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>病理第二，<sup>2)</sup>多摩永山病院内視鏡科）：アジア各国での *H. pylori* 感染と胃粘膜萎縮/腸上皮化生の違いと interleukin-1 polymorphisms．第87回日本消化器病学会総会，2001．4．
- 2) 峯田 章，恩田昌彦，田尻 孝，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，水口義昭，山下精彦，秋丸琥甫：食道静脈瘤を有する門脈圧亢進症における左胃動静脈の血行動態（門脈圧亢進症における胃静脈の血行動態）．第3回食道胃静脈瘤治療のための内視鏡的病態生理研究会，2001．5．
- 3) 野村 務，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，牧野浩司，丸山 弘，二見良平，山下精彦：肝硬変患者における Argon plasma coagulation（APC）を用いた食道表在癌治療の検討．第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．6．
- 4) 松田範子，恩田昌彦，秋丸琥甫，平方敦史，森山雄吉，田尻 孝，徳永 昭，松倉則夫，吉村成子，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，内藤善哉：高ビリルビン血症に対する高圧酸素療法の基礎的および臨床的研究．第36回日本高気圧環境医学会総会，2001．10．
- 5) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，小野寺浩之，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，笹島耕二，田尻 孝，徳永 昭：使用経験からみた腸管減圧法としてのPTEGの適応とその応用．第1回PTEG研究会，2002．2．

### (2) パネルディスカッション：

- 1) 内田英二，恩田昌彦，田尻 孝，相本隆幸，松下 晃，柳 健，福原宗久，廣井 信，山村 進，中村慶春，江上 格，会田邦晴，峯田 章，平方敦史：重症急性膵炎における腓局所療法としての動注療法．日本肝胆膵外科関連会議・仙台，2001．6．
- 2) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭，秋丸琥甫，山下精彦：胃静脈瘤の自然経過と破裂時の特徴と治療成績の検討．第8回日本門脈圧亢進症学会総会，2001．9．
- 3) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，真々田裕宏，谷合信彦，平方敦史，川野陽一，水口義昭，山下精彦：食道静脈瘤に対する内視鏡的治療成績．第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．12．

### (3) ワークショップ：

- 1) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，水口義昭，清水哲也：生体肝移植周術期における抗凝固療法の工夫．第38回腹部救急医学会総会，2001．3．
- 2) 横室茂樹，恩田昌彦，松倉則夫：胆汁中 *Helicobacter bilis* のPCRによる同定と胆道系悪性腫瘍．第87回日本消化器病学会総会，2001．4．
- 3) 加藤俊二，恩田昌彦，松田範子，平方敦史，峯田 章，吉岡正人，谷合信彦，真々田裕宏，吉田 寛，松倉則夫，徳永 昭，田尻 孝，内藤善哉，淺野伍朗：アルコール代謝に關与する cytochrome p450 2E1（CYP2E1）酵素の肝における局在と mRNA レベルおよびその遺伝子多型性との関連．第37回日本肝臓学会総会，2001．5．
- 4) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝：当科における胃静脈瘤に対する内視鏡的治療の位置づけ（胃静脈瘤に対する内視鏡治療の現状）．第61回日本消化器内視鏡学会総会，2001．5．
- 5) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，小野寺浩之，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，徳永 昭：胃癌のネオアジュバント療法（5FU+CDDP，UFT + CDDP，TS-1）の効果と薬物代謝酵素チトクローム p450 2E1

酵素の遺伝子多型性との関連．第26回日本外科系連合学会学術集会，2001．6．

- 6) 松倉則夫，恩田昌彦，横室茂樹，山田シリカン，神谷 茂<sup>1)</sup>，波多間徹<sup>2)</sup>，JG F<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>杏林大，感染症，<sup>2)</sup>大塚アッセイ研，<sup>3)</sup>MIT, USA)：日本人，タイ人における胆道系良・悪性疾患と胆汁中*Helicobacter bilis*．第7回日本ヘリコバクター学会，2001．6．
  - 7) 二見良平，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，杉浦敏昭，宮下次廣，山下精彦：再発，高度進行食道癌に対するネダプラチンの臨床効果に関する検討．第10回癌病態治療研究会，2001．6．
  - 8) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，松田範子，徳永 昭，田尻 孝，内藤善哉：肝発癌機序におけるアルコール代謝酵素の役割：Cytochrome p450 2E1 (CYP2E1)のmRNA，蛋白発現およびアルコール代謝関連遺伝子の多型性の関与．第12回日本消化器癌発生学会総会，2001．9．
  - 9) 松倉則夫，恩田昌彦，加藤俊二，山田シリカン，富樫晃祥，徳永 昭，山田宣孝<sup>1)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理第二，<sup>2)</sup>多摩永山病院内視鏡科)：アジア各国での*H. pylori*感染と胃癌との関係のparadoxとinterleukin-1 SNPs．第12回日本消化器癌発生学会総会，2001．9．
  - 10) 横室茂樹，恩田昌彦，田尻 孝：閉塞性黄疸におけるInterleukin-6の動態(胆道疾患と分子生物学)．第37回日本胆道学会総会，2001．10．
  - 11) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭，秋丸琥甫，山下精彦：当科における食道静脈瘤に対する治療戦略(食道胃静脈瘤に対する治療戦略)．第63回日本臨床外科学会総会，2001．10．
  - 12) 丸山 弘，恩田昌彦，古川清憲，鈴木英之：大腸手術における術前腸管処置の検討．第14回日本外科感染症研究会，2001．11．
  - 13) 野村 務，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，牧野浩司，丸山 弘，二見良平，山下精彦：Argon plasma coagulation (APC)を用いた食道表在癌治療の検討．第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．12．
  - 14) 加藤俊二，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，松倉則夫，山下精彦：胃癌手術後の在院死症例の検討による手術のmorbidity, mortalityの改善．第74回胃癌学会，2002．2．
- (4) プレナリーセッション：
- 1) 峯田 章，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，水口義昭，水村 直<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，幕内雅敏<sup>2)</sup>，河原崎秀雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学 <sup>2)</sup>東京大学医学部肝胆膵外科移植外科 <sup>3)</sup>東京大学医学部小児外科)：小児肝移植症例における99mTc-GSA-SSPを用いた門脈血行動態および肝機能の術前評価．日本肝胆膵外科関連会議・仙台，2001．6．
  - 2) 内田英二，恩田昌彦，田尻 孝，松下 晃，相本隆幸，柳 健，福原宗久，廣井 信，山村 進，中村慶春，江上 格：重症度スコアの推移からみた急性膵炎初療の重要性．第37回日本腹部救急医学会総会，2001．9．
  - 3) 加藤俊二，恩田昌彦，谷合信彦，真々田裕宏，吉田 寛，松倉則夫，秋丸琥甫，徳永 昭，田尻 孝，内藤善哉，浅野伍朗：胃酸分泌を制御するIL-1 遺伝子多型性と胃粘膜萎縮，胃癌の発生および残胃の発癌におよぼすcytochrome p450 2E1遺伝子多型の関与．第43回日本消化器病学会大会，2001．10．
- (5) 一般講演：
- 1) Miyashita M, Yanagi K, Shimizu T, Makino H, Maruyama H, Nomura T, Sasajima K, Tokunaga A, Onda M : Serum levels of angiogenic factors and endostatin in human metastatic liver tumors . 3rd International symposium on anti-angiogenic agents ( Irving Texas ), 2001 . 1 .
  - 2) Makino H, Anbazhagan R, Johnston J, Sasajima K, Miyashita M, Onda M, Gabrielson E : Differential expression between esophageal carcinoma and normal mucosa microarray . 92th American Association for Cancer



Reserch , 2001 . 3 .

- 3) Matsukura N, Onda M, Yokomuro S, Tajiri T, Yamada S<sup>1)</sup>, Wuthikan S<sup>1)</sup>, Fox JG<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. Faculty of Med. , Chaing Mai Univ. , <sup>2)</sup> MIT, USA ): Helicobacter bilis in bile from Japanese and Thai patients with benign and malignant diseases in the biliary tract and gallbladder . 92nd Annual Meeting of American Association for Cancer Research , 2001 . 3 .
- 4) Kato S, Onda M, Matsukura N, Yamada S, Tanaka M, Matsuda N, Onodera H, Mizutani T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Hasegawa H, Tokunaga A : the associations of the interleukin-1 genetic polymorphisms and gastric mucosal atrophy, gastric cancer and the mRNA expression of IL-1 in stomach . 4th Internal Gastric Cancer Congress , 2001 . 4 .
- 5) Matsukura N, Onda M, Kato S, Yamada S, Hasegawa H, Tokunaga A, Yamahatsu J, Yamada N<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Pathol. , <sup>2)</sup> Dept. Gastroentrol. Endosc. , Tama-Nagayama Hospital ): Differences of H. pylori infection rates, incidence of mucosal atrophy/intestinal metaplasia and interleukin-1 polymorphism of the stomach in four Asian races . 4th International Gastric Cancer Congress , 2001 . 4 .
- 6) 山田シリカン, 恩田昌彦, 加藤俊二, 松田範子, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 徳永 昭, Wuthikarn Supot<sup>3)</sup>, 松倉則夫 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup> 病理第二, <sup>3)</sup> Dept. Surg. Faculty of Med. , Chaing Mai Univ. ): Genetic difference of CYP2C19 single nucleotide polymorphisms in four Asian countries . 第87回日本消化器病学会総会 , 2001 . 4 .
- 7) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Matsukura N, Yamada N<sup>2)</sup>, Dong EY<sup>3)</sup>, Tomitotchong P<sup>4)</sup>, Sang LK<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Gastroentrol. Endosc. , Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Dept. Pathol. , Nippon Med. School, <sup>3)</sup> Dept. Gastroenterol. , China-Japan Friendship Hosp. , Chaina, <sup>4)</sup> Dept. of Clin. Science, Thammasat Univ. , Thailand, <sup>5)</sup> Dept. of Gastroenterol. , Trung Vuong Emergency Hosp. , Viet Nam ): An Observation of glandular atrophy and intestinal metaplasia in accordance with Helicobacter pylori infection in Japanese in comparison to other Asian people . 102nd Annual Meeting of the American Gastroenterological Association , 2001 . 5 .
- 8) Hirakata A, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Yokomuro S, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y : Prolonged hyperbilirubinemia after living-related liver transplantation : A child case report . International Conference on Transplantation , 2001 . 7 .
- 9) Kawano Y, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Yoshimura Y, Chansai C : Improved Portal Flow of a Transplant Liver Graft by Ligation of the Splenic vein With Spleno-Renal Shunt . International Conference on Transplantation , 2001 . 7 .
- 10) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Yokomuro S, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y : Reversal of hypoxemia by inhaled nitric oxide in a child with hepatopulmonary syndrome after living-related liver transplantation . The 6th Congress of the International Society for Organ Sharing , 2001 . 7 .
- 11) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Yokomuro S, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y : Anticoagulant therapy in living-related liver transplantation . The 6th Congress of the International Society for Organ Sharing , 2001 . 7 .
- 12) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Kaneko M, Yoshioka M, Mineta S, Hirakata A : Reconstruction of large veins using the peritoneum : from experiments to clinical application . 39th World congress of surgery centennial congress ISS/SIC , 2001 . 8 .
- 13) Kaneko M, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Kumita S, Kumazaki T : A new method of functional scintiphotosplenoportography using technetium-99m-DTPA-galactosylated human serum albumin . 39th World congress of surgery centennial congress ISS/SIC , 2001 . 8 .

- 14) Tajiri T, Onda M, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A : Combined endoscopic and radiologic intervention to treat esophageal varices . 39th World congress of surgery centennial congress ISS/SIC , 2001 . 8 .
- 15) Miyashita M, Sasajima K, Makino H, Maruyama H, Nomura T, Futami R, Takahashi K, Matsutani T, Katsuta M, Takubo K, Yamashita K, Onda M : The response of preoperative chemotherapy may affect long term survival in esophageal cancer . 8th Int. Society for Diseases of the Esophagus , 2001 .
- 16) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭: マイクロターゼを使用した肝腫瘍核出術の有用性の検討 . 第42回日本消化器病学会大会, 2000 . 9 .
- 17) 徳永 昭, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 牧野浩司, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 峯田 章, 吉田 寛: 教室における肝硬変合併胃癌患者治療の現況 . 第73回日本胃癌学会総会, 2001 . 3 .
- 18) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 小林 匡, 会田邦晴, 有馬保生, 田尻 孝: 高度局所浸潤型切除不能膀胱癌における5-FU持続動注療法の意義 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 19) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 徳永 昭: 胃切除後の骨代謝障害の評価と Vitamin D receptor 遺伝子の Single Nucleotide Polymorphism からみた遺伝的個体差との関連 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 20) 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 大川敬一, 松谷 毅, 長澤重直, 萩原信敏, 土屋喜一, 二見良平, 山下精彦: 食道癌における sentinel lymph nodes の分布に関して . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 21) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 門脈大循環短絡路塞栓術, 部分脾動脈塞栓術 (PSE) 同時施行例の検討 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 22) 廣井 信, 恩田昌彦, 内田英二, 相本隆幸, 横山 正, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 柳 健, 福原宗久, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 江上 格(<sup>1)</sup>病理学第2): 膀胱癌における神経細胞接着分子 (NCAM) および p-53 蛋白の発現と神経浸潤の関連性 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 23) 牧野浩司, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘, 長澤重直, 二見良平, 山下精彦, Gabrielson E, Johnston J : Microarray による食道癌の発癌関連遺伝子の検索 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 24) 松倉則夫, 恩田昌彦, 横室茂樹, Sirikan Y, 田尻 孝, James G Fox<sup>1)</sup>, 波多間徹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>MIT, USA, <sup>2)</sup>大塚アッセイ): 新しい Helicobacter 属 H. bilis の胆汁 PCR による検出と胆道系悪性腫瘍 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 25) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 寺田淑恵, 川野陽一, 水口義昭: 肝癌治療切除例での予後因子 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 26) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 胃癌患者の術前評価: 血液検査による心疾患のスクリーニング . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 27) 峯田 章, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 山本一仁, 金子昌裕, 吉岡正人, 平方敦史, 山下精彦, 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 小児生体肝移植術前症例に対する 99mTc-GSA-SSP の試み . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 28) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 福原宗久, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 膀胱癌肝転移および腹膜播種に対するサリドマイドの血管新生抑制効果の実験的検討 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 29) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義

- 昭, 秋丸琥甫, 山下精彦: 食道離断術後再発例における内視鏡的静脈瘻造影像からみた治療成績の検討. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 30) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 源河敦史, 高橋由至, 杉浦 篤, 田中元子, 小泉岐博: 切除大腸癌腫瘍内PyNPase活性, DPD活性と予後の解析. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 31) 川野陽一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 水口義昭, 吉村和泰, Chaiya C, 河原崎秀雄, 幕内雅敏: 術中脾静脈結紮にて良好なグラフト門脈血流を得た生体肝移植の1例. 第19回日本肝移植研究会, 2001. 5.
- 32) 川野陽一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 水口義昭, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線医学): 反復する肝性脳症に対し2度の巨大門脈大循環短絡路塞栓術を施行した1例(特殊な門脈側副血行路の病態生理と治療). 第3回食道胃静脈瘻治療のための内視鏡的病態生理研究会, 2001. 5.
- 33) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>放射線医学): 特殊な門脈側副血行路に対する治療と臨床経過(特殊な門脈側副血行路の病態生理と治療). 第3回食道胃静脈瘻治療のための内視鏡的病態生理研究会, 2001. 5.
- 34) 古川清憲, 恩田昌彦, 源河敦史, 美濃部かおり, 古川恵子: 教室における炎症性乳癌の治療成績. 第9回日本乳癌学会, 2001. 5.
- 35) 鷺尾祐子, 坂元優美<sup>1)</sup>, 佐々木由美子<sup>1)</sup>, 本橋昌美<sup>1)</sup>, 北村秀美<sup>1)</sup>, 田中奈々絵<sup>1)</sup>, 丸田明子<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>2)</sup>, 田尻 孝(<sup>1</sup>内視鏡センター, <sup>2</sup>内科学第3): 上部消化管内視鏡検査後の角砂糖の服用による考察. 日本消化器内視鏡技師研究会, 2001. 5.
- 36) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭: 生体部分肝移植における抗凝固療法の工夫. 第37回日本肝臓学会総会, 2001. 5.
- 37) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 井上松応, 横山 正, 小林 匡, 山中洋一郎, 有馬保生, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 大腿骨原発骨軟骨肉腫の術後3年目に発生した脾転移の1切除例. 日本肝胆膵外科関連会議・仙台, 2001. 6.
- 38) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 再発胃癌患者の姑息手術の意義について. 第10回日本癌病態治療研究会, 2001. 6.
- 39) 川野陽一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 内田英二, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 相本隆幸, 峯田 章, 平方敦史, 水口義昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2): ファーター乳頭部異型カルチノイド腫瘍の1例. 日本肝胆膵外科関連会議・仙台, 2001. 6.
- 40) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 松田明久, 田中宣威: 大腸憩室の臨床的検討. 第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- 41) 田中由理子<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 末岡伸夫<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 檜原義之<sup>1)</sup>, 名知志子<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup>, 横室茂樹, 内田英二, 田尻 孝, 恩田昌彦(<sup>1</sup>内科学第3): 十二指腸楔状切除を行った陥凹型早期十二指腸癌の1例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 42) 鶴田宏之, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 二見良平, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 横山滋彦<sup>1)</sup>, 羽尾邦彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>国立横須賀病院外科): 胃癌診断より7ヶ月以上経過した3症例. 第26回日本外科系連合学会, 2001. 6.
- 43) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田章, 川野陽一, 水口義昭, 加藤俊二: 胃癌肝転移に対する tumor dormancy therapy としての reservoir 肝動注化学療法. 日本肝胆膵外科関連会議・仙台, 2001. 6.
- 44) 藤田逸郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 小野寺浩之, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 高崎秀明, 松倉則夫, 古川清憲, 田尻 孝: 消化管縫合不全・瘻孔に対する血液凝固第X・因子製剤(フィプロガミ

- ンP)の効果。第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- 45) 古川清憲, 恩田昌彦, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 丸山 弘, 鈴木英之, 会田邦晴: 大腸手術に術前化学的腸管前処置は必要か。第4回日本臨床腸内微生物学会, 2001. 6.
- 46) 松田範子, 恩田昌彦, 平方敦史, 秋丸琥甫, 森山雄吉, 田尻 孝, 徳永 昭, 松倉則夫, 加藤俊二, 木山輝郎, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉村成子<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>吉村せいこクリニック <sup>2)</sup>日本医科大学病理学第2): 障害肝ラット肝切後の残肝再生に及ぼす高圧酸素療法の効果。第4回関東地区高気圧環境医学懇話会総会, 2001. 6.
- 47) 丸山 弘, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 土屋喜一, 長澤重直, 松谷 毅, 山下精彦: 教室における内視鏡的食道ステント留置術の成績。第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 48) 丸山 弘, 工藤秀徳, 川又 忠: 下痢原性大腸菌o-18腸炎を合併した多発大腸潰瘍の1例。第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 49) 水口義昭, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田章, 平方敦史, 川野陽一, 山下精彦: HCCに対する肝切除術前に指摘し得た左側胆嚢と肝内血行走行異常。日本肝胆膵外科関連会議・仙台, 2001. 6.
- 50) 水谷 崇, 吉行俊郎, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫, 恩田昌彦: 胃癌患者の血液検査による心疾患のスクリーニング。第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- 51) 横室茂樹, 恩田昌彦, Chansai C, 有馬保生, 田尻 孝: 悪性胆道狭窄に対する Expandable Metallic Stent (EMS) の問題点。第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- 52) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 有馬保生, 秋丸琥甫: 感染性肝嚢胞の1例。日本肝胆膵外科関連会議・仙台, 2001. 6.
- 53) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭: 肝細胞癌に対するCUSA Excel CEM Deviceによる肝切除術の有用性。日本肝胆膵外科関連会議・仙台, 2001. 6.
- 54) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 福原宗久, 田原一郎, 吉田 寛, 有馬保生, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 十二指腸球後性輪状狭窄型膵癌の4例。第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 55) 内田英二, 恩田昌彦, 相本隆幸, 田尻 孝, 高橋 健, 福原宗久, 廣井 信, 松下 晃: 慢性膵炎に対するFrey手術における工夫。第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 56) 内田英二, 恩田昌彦, 相本隆幸, 福原宗久, 廣井 信, 峯田 章, 会田邦晴, 柳 健, 松下 晃, 田尻 孝, 江上 格: 膵癌治療とclinical benefit。第32回日本膵臓学会大会, 2001. 7.
- 57) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>(多摩永山病院外科<sup>1)</sup>, 千葉北総病院外科<sup>2)</sup>): Indigocarmineを用いた早期胃癌センチネルリンパ節の同定。第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 58) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 小野寺浩之, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 徳永 昭: Futraful 5FU変換に関与するチトクロームp450 2E1 酵素の遺伝子多様性が胃癌生存曲線におよぼす影響。第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 59) 川野陽一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 水口義昭, 山下精彦: 5 FU持続静注が著効した肝細胞癌残肝再発の1例。第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 60) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 田中宣威: 腹腔鏡下大腸手術の術後経過と腹腔汚染に関する検討。第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 61) 鶴田宏之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 吉行俊郎, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部か

- おり，柏原 元，高橋 健，徳永 昭，内藤善哉：結腸放線菌症の1例．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 62) 徳永 昭，恩田昌彦，田尻 孝，小野寺浩之，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，松倉則夫，峯田 章，真々田裕宏，吉田 寛：肝硬変合併胃癌治療；食道静脈瘤治療先行胃癌治療の評価．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 63) 野村 務，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，牧野浩司，丸山 弘，大川敬一，松谷 毅，長澤重直，萩原信敏，土屋喜一，山下精彦：食道癌術後管理における早期経腸栄養の有用性．第38回日本外科代謝栄養学会総会，2001．7．
- 64) 野村 務，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，牧野浩司，丸山 弘，二見良平，山下精彦：胸骨縦切によるリンパ節郭清を加えた縦隔鏡補助下 Transhiatal esophagectomy の検討．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 65) 平方敦史，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，川野陽一，水口義昭，加藤俊二，徳永 昭，山下精彦：肝悪性腫瘍に対する reservoir 肝動注化学療法の効果 (long NC の観点から)．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 66) 廣井 信，恩田昌彦，内田英二，相本隆幸，横山 正，中村慶春，山村 進，松下 晃，柳 健，福原宗久，内藤善哉<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>，田尻 孝，江上 格<sup>(1)</sup>病理学第2)：膵癌における神経細胞接着分子 (NCAM) および p-53 蛋白の発現の意義．第32回日本膵臓学会大会，2001．7．
- 67) 牧野浩司，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，丸山 弘，長澤重直，二見良平，山下精彦，Gabrielson E，Anbazhagan R，Johnston J：食道癌の化学療法感受性に関する遺伝子の Microarray による検索．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 68) 松倉則夫，恩田昌彦，横室茂樹，山田シリカン，内田英二，田尻 孝，神谷 茂<sup>1)</sup>，Fox J<sup>2)</sup><sup>(1)</sup> 杏林大学感染症学，<sup>2)</sup> マサチューセッツ工科大学 (MIT))：日本人，タイ人における胆道系良・悪性疾患と胆汁中 *Helicobacter bilis* の関与．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 69) 真々田裕宏，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，谷合信彦，吉岡正人，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭：肝細胞癌治療切除例の術後残肝再発に関する検討．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 70) 水口義昭，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，平方敦史，川野陽一，山下精彦：IPH患者における DSRS と transection の治療成績の比較検討．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 71) 水谷 崇，吉行俊郎，徳永 昭，小野寺浩之，藤田逸郎，奥田武志，木山輝郎，加藤俊二，長谷川博一，松倉則夫，恩田昌彦：消化器癌手術患者の術前心疾患スクリーニング：ANP, BNP およびカテコールアミン3分画測定の意味．第38回日本外科代謝栄養学会，2001．7．
- 72) 水谷 崇，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，藤田逸郎，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，加藤俊二，宮下正夫，松倉則夫，笹島耕二，山下精彦：胃噴門部癌手術症例の臨床病理学的検討．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 73) 宮下正夫，恩田昌彦，柳 健，清水哲也，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，真々田裕宏，二見良平，徳永 昭，笹島耕二：手術侵襲における血管新生と術後転移の進展．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 74) 山崎貴明，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，内田英二，有馬保生，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，峯田章，川野陽一，水口義昭，藤田逸郎，山下精彦：悪性後腹膜組織球腫の1切除例．第265回日本消化器病学会関東支部例会，2001．7．
- 75) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭，田原一郎，山下精彦：動静脈，肝静脈クランプ下での CUSA Excel による左葉形成不全肝門部胆管癌に対する尾状葉合併左3区域切除術．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 76) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，平方敦史，川野陽一，水口義昭：肝細胞癌

- に対する肝切除の工夫と成果-CUSA Excel CEM Deviceを使用して- . 第56回日本消化器外科学会総会, 2001 . 7 .
- 77) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 真々田裕宏, 高崎秀明, 田尻 孝, 田中宣威, 山下精彦, 徳永 昭: 難治性食道, 胃十二指腸多発潰瘍で発症, 胃全摘後, 大腸癌およびその肝転移を手術した高ガストリン血症の長期観察例 . 第10回潰瘍病態研究会, 2001 . 8 .
- 78) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 福原宗久, 廣井 信, 柳 健, 松下 晃, 相本隆幸, 山村 進, 会田邦晴, 田尻 孝, 山口敏和<sup>1)</sup>, ユン暁青<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>BML研究所): 臍頭領域腫瘍における術後K-ras癌遺伝子点突然変異の意義 . 第60回日本癌学会総会, 2001 . 9 .
- 79) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 緊急処置を要した再発胃癌患者の検討 . 第37回日本腹部救急学会総会, 2001 . 9 .
- 80) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 松田範子, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 徳永 昭: 胃酸分泌を制御するIL-1 遺伝子多型性と胃粘膜萎縮, 腸上皮化生, 胃癌の発生 . 第60回日本癌学会総会, 2001 . 9 .
- 81) 加藤俊二, 恩田昌彦, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 秋丸琥甫, 徳永 昭, 田尻 孝, 内藤善哉, 浅野伍朗: HCV感染の有無およびCytochrome p450 2E1 (CYP2E1)の肝における局在, そのmRNAレベル, 遺伝子多型性との関連 . 第60回日本癌学会総会, 2001 . 9 .
- 82) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 田中宣威: 腹腔鏡下大腸手術の術後経過と腹腔汚染に関する検討 . 第14回日本内視鏡外科学会総会, 2001 . 9 .
- 83) 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 山下精彦: 胸骨縦切によるリンパ節郭清を加えた縦隔鏡補助下Transhiatal esophagectomyの検討 . 第14回日本内視鏡外科学会総会, 2001 . 9 .
- 84) 廣井 信, 恩田昌彦, 内田英二, 相本隆幸, 会田邦晴, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 江上 格(<sup>1)</sup>病理学第2): ハムスター肝癌腹膜播種モデルにおけるTranilastの血管新生抑制効果 . 第60回日本癌学会総会, 2001 . 9 .
- 85) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 山田シリカン, 徳永 昭, 富樫晃祥, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理第二): アジア各国での胃粘膜萎縮・腸上皮化生頻度の違いとIL-1 遺伝子多型・H. pyloriと胃癌との関係のAsian paradox . 第60回日本胃癌学会総会, 2001 . 9 .
- 86) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 秋丸琥甫, 徳永 昭, 田尻 孝, 内藤善哉, 浅野伍朗: HCV感染の有無およびCytochrome p450 2E1 (CYP2E1)の肝における局在, そのmRNAレベル, 遺伝子多型性との関連 . 第60回日本癌学会総会, 2001 . 9 .
- 87) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 早期胃癌に対するSentinel lymph node navigation surgeryの可能性の検討 . 第63回日本臨床外科学会総会, 2001 . 10 .
- 88) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎: 術中内視鏡を用いた早期胃癌センチネルリンパ節の同定と有用性 . 第62回日本消化器内視鏡学会総会, 2001 . 10 .
- 89) 加藤俊二, 平方敦史, 峯田 章, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 徳永 昭, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田尻 孝: Cytochrome p450 2E1の正常肝, 肝硬変, 肝細胞癌における発現の特徴とmRNAレベルおよびその遺伝子多型性との関連 . 第5回日本肝臓学会大会, 2001 . 10 .
- 90) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松田範子, 平方敦史, 峯田 章, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 秋丸琥甫, 徳永 昭, 内藤善哉, 田尻 孝: 肝硬変から肝癌への進行におよぼすアルコール代謝酵素の役割: Cytochrome p450 2E1のmRNA, 蛋白発現およびアルコール代謝関連遺伝子の多型性の関与 . 第5回日本肝臓学会大会, 2001 . 10 .
- 91) 川野陽一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 平方敦史, 水口義昭, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 反復性肝性脳症に対し2度の巨大門脈大循環短絡路塞栓術を施行した1例 . 第3回肝不全治療研究会, 2001 . 10 .

- 92) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり, 松田明久: QOLとコンプライアンスからみた外来通院による大腸癌化学療法. 第56回日本大腸肛門病学会総会, 2001. 10.
- 93) 徳永 昭, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小野寺浩之, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 牧野浩司, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 峯田 章, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛: 教室における肝硬変合併胃癌治療. 第43回日本消化器病学会大会, 2001. 10.
- 94) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 水口義昭, 山下精彦, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): Reservoir再留置における先端taperingカテーテルの使用経験. 第63回日本臨床外科学会総会, 2001. 10.
- 95) 藤田逸郎, 恩田昌彦, 田尻 孝, 内田英二, 勝野 暁, 福原宗久, 廣井 信, 相本隆幸, 横室茂樹, 有馬保生, 徳永 昭, 山下精彦: 十二指腸乳頭部癌, 胃癌の同時性多重癌の1例. 第63回日本臨床外科学会総会, 2001. 10.
- 96) 古川清憲, 恩田昌彦, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり: 内痔核に対するPPHの使用経験と工夫. 第56回日本大腸肛門病学会総会, 2001. 10.
- 97) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 横室茂樹: 肝細胞癌治療切除後の残肝再発に関する検討. 第43回日本消化器病学会大会, 2001. 10.
- 98) 丸山 弘, 工藤秀徳, 牧野浩司, 宮下正夫: 左上肢の麻痺にて発症した甲状腺濾胞線種の1例. 第63回日本臨床外科学会, 2001. 10.
- 99) 水口義昭, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 平方敦史, 川野陽一, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 種々の門脈側副血行路に対する治療と臨床経過. 第3回肝不全治療研究会, 2001. 10.
- 100) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦: 脳梗塞合併消化器手術の検討. 第63回日本臨床外科学会総会, 2001. 10.
- 101) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦: 2回のEMR後に開腹胃全摘術を施行した間質性肺炎合併胃癌の1例. 第62回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 10.
- 102) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 山本一仁, 秋丸琥甫, 山下精彦: 血管造影と内視鏡的静脈瘤造影からみた内視鏡治療困難な食道静脈瘤の検討. 第5回日本肝臓学会大会, 2001. 10.
- 103) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 平方敦史, 峯田 章, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 徳永昭, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田尻 孝: Cytochrome p450 2E1の正常肝, 肝硬変, 肝細胞癌における発現の特徴とmRNAレベルおよびその遺伝子多型性との関連. 第5回日本肝臓学会大会, 2001. 10.
- 104) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 山下精彦, 隈崎達夫: 食道胃静脈瘤に対する緊急症例に対するIVRの位置づけ. 第62回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 10.
- 105) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 小野寺浩之, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 笹島耕二, 田尻 孝, 徳永昭: フリーラジカル産生やアルコール代謝に関与するチトクロームp450 2E1 (CYP2E1) 酵素のmRNA発現とその遺伝子多型性および胃癌生存曲線におよぼす影響. 第39回日本癌治療学会総会, 2001. 11.
- 106) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 丸山 弘: 微小循環に注目したエンドトキシン血症治療の可能性. 第7回日本エンドトキシン研究会, 2001. 11.
- 107) 鶴田宏之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 吉行俊郎, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり, 柏原 元, 高橋 健, 徳永 昭, 内藤善哉: 結腸放線菌症の1例. 第14回日本外科感染症研究会, 2001. 11.
- 108) 松倉則夫, 恩田昌彦, 横室茂樹, 山田シリカン, 田尻 孝, 神谷 茂<sup>1)</sup>, 波多間徹<sup>2)</sup>, JG F<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>杏林大, 感

- 染症, <sup>2)</sup>大塚アッセイ研, <sup>3)</sup>MIT, USA ): 日本人, タイ人における胆道系良・悪性疾患と胆汁中 *Helicobacter bilis*. 第39回日本癌治療学会総会, 2001. 11.
- 109) 赤城一郎, 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 山下精彦: 縦隔鏡補助下 Transhiatal esophagectomy を行った食道原発悪性黒色腫の1例. 第783回外科集談会, 2001. 12.
- 110) 新井政男, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 広瀬洋一郎, 藤野鉄平<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): Von Recklinghausen 病に合併した小腸 gastrointestinal stromal tumor (GIST) の1例. 第267回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 111) 鷹野さやか, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 横室茂樹, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 川野陽一, 山下精彦, 小林正文<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 名知志子<sup>1)</sup>, 石崎 晃<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3): 進行胆嚢癌と術前診断された黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第267回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 112) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 松田範子, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 奥田武志, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 森山雄吉: 難治性潰瘍に対する高気圧酸素療法の効果. 第36回日本高気圧環境医学会総会, 2001. 12.
- 113) 徳永 昭, 恩田昌彦, 小野寺浩之, 増田剛太郎, 二見良平, 水口義昭, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 松田範子, 森山雄吉: 高気圧酸素療法と創傷治癒. 第36回日本高気圧環境医学会総会, 2001. 12.
- 114) 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 山下精彦: 食道癌に対する縦隔鏡補助下 Transhiatal esophagectomy の検討. 第5回日本医科大学内視鏡外科懇話会, 2001. 12.
- 115) 二見良平, 恩田昌彦, 宮下正夫, 水口義昭, 清水哲也, 柳 健, 真々田裕宏, 徳永 昭, 笹島耕二: 術後の VEGF の変動と癌転移の進展. 第8回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2001. 12.
- 116) 古川清憲, 恩田昌彦, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 鶴田宏之, 美濃部かおり, 菅 隼人: 大腸癌手術における術前 PSK 投与の影響. 第14回日本バイオセラピー, 2001. 12.
- 117) 古川清憲, 恩田昌彦, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 鶴田宏之, 美濃部かおり, 菅 隼人: 大腸癌手術における術前免疫賦活投与の効果. 第8回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2001. 12.
- 118) 丸山 弘, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 林 良紀, 小林正文, 山下精彦: 食道壁肥厚を示した非特異的食道運動機能異常症の1例. 第267回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 119) 水口義昭, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 幕内雅敏<sup>1)</sup>, 河原崎秀雄<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>東大肝移植チーム, <sup>2)</sup>自治医大外科): 術後血栓性血小板減少性紫斑病にて死亡した小児生体部分肝移植の1例. 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.
- 120) 横室茂樹, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, AJ Demetris<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Pittsburgh): 閉塞性黄疸における Interleukin-6 の起源と作用. 第8回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2001. 12.
- 121) 二見良平, 恩田昌彦, 宮下正夫, 水口義昭, 清水哲也, 柳 健, 真々田裕宏, 徳永 昭, 笹島耕二: 術後の VEGF の変動と癌転移の進展. 第8回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2001. 12.
- 122) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院外科): 早期胃癌縮小手術を目的とした術中内視鏡によるセンチネルリンパ節の同定と微少転移の検討. 第74回日本胃癌学会総会, 2002. 2.
- (6) ビデオ:
- 1) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 吉田 寛, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 山下精彦: 自動縫合器のみを用いた腹腔鏡下肝切除の経験. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.
  - 2) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 水口義昭, 川野陽一, 内田英二, 横室茂樹: 自動縫合器による腹腔鏡下肝切除術の経験. 日本肝胆膵外科関連会議・仙台, 2001. 6.
  - 3) 内田英二, 恩田昌彦, 相本隆幸, 田尻 孝, 高橋 健, 福原宗久, 廣井 信, 松下 晃: 慢性膵炎に対する



Frey手術．第63回日本臨床外科学会総会，2001．10．

(7) ビデオシンポ：

- 1) 真々田裕宏，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，有馬保生，吉田 寛，谷合信彦，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭：腹腔鏡下肝切除術の有用性：開腹手術との比較．第26回日本外科系連合学会学術集会，2001．6．
- 2) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，平方敦史，川野陽一，水口義昭：CUSA Excel CEM Deviceとマイクロターゼを利用した肝切除術の有用性．第63回日本臨床外科学会総会，2001．10．

(8) ポスターシンポジウム：

- 1) 真々田裕宏，恩田昌彦，田尻 孝，吉田 寛，谷合信彦，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭，秋丸琥甫，有馬保生：自動縫合器単独使用による腹腔鏡下肝切除術（消化器外科領域における紹介したい手術器械）．第63回日本臨床外科学会総会，2001．10．

(9) ポスターディスカッション：

- 1) 二見良平，恩田昌彦，宮下正夫，笹島耕二，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，杉浦敏昭，宮下次廣，山下精彦：高度進行食道癌に対するネダプラチンの効果．第39回癌治療学会総会，2001．11．

(10) ラウンドテーブル：

- 1) 奥田武志，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，藤田逸郎，水谷 崇，木山輝郎：術中内視鏡を用いた早期胃癌センチネルリンパ節の同定と有用性．第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．6．

(11) 要望演題：

- 1) 山本一仁，恩田昌彦，山下精彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，寺田淑恵，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学)：食道静脈瘤における血管造影所見と内視鏡的治療後再発との関連性についての検討。「食道胃静脈瘤における門脈血行動態からみた治療困難例」．第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．6．
- 2) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，吉田 寛，真々田裕宏，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭，秋丸琥甫，山下精彦，隈崎達夫：食道静脈瘤における門脈血行動態からみた治療難治例-IVRの適応と限界．第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．6．

## [ 多摩永山病院外科 ]

### 研究概要

(1) 臨床における問題点を研究課題として，研究結果を臨床ヘフィード・バックすることにより治療成績の向上をめざしている．研究成果を学会発表し論評をうけ，さらにこれを学術雑誌に論文掲載することにより知識の整理，問題解決の探究心を培う．

- 1) 中心的研究対象は肝・胆・膵疾患であるが消化管，乳腺疾患，侵襲による生体反応である．
- 2) 基礎的研究は病理学的，分子生物学的手法を用い病理部との共同研究により消化器疾患を対象として行っている．
- 3) 内視鏡下手術は胆石症をはじめ大腸の腫瘍，胃疾患，肝腫瘍，食道疾患などほとんどすべての外科領域に行っている．

(2) 胸部外科は平成9年に外科に併設され，胸部疾患ならび血管病変（大動脈，末梢動脈，静脈疾患）に対する外科治療を中心とした臨床的研究を行っている．胸部疾患は肺癌，肺良性腫瘍，縦隔腫瘍（胸腺腫など），肺気腫，自然気胸など年々増加の傾向を示し，各疾患に対する鏡視下手術も積極的に取り入れ治療成績の向上を目指している．血管病変は大動脈瘤をはじめ，閉塞性動脈硬化症，Buerger病，深部静脈血栓症，下肢静脈瘤など血管外科領域に対する治療および臨床的研究を行い治療成績の向上に努めている．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Matsushima S, Yamamoto H, Egami K, Suzuki S, Tanaka S : Evaluation of the prognostic factors after thymoma resection . Internat Surg 2001 ; 86 : 531-538 .
- 2) Matsushima S, Yamamoto H, Egami K, Suzuki S, Maeda S, Tanaka S : Dermatomyositis/ Polymyositis and Lung Cancer . Jpn J Lung Cancer 2001 ; 41 : 347-351 .
- 3) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): 幼児急性虫垂炎の手術のタイミング . 日腹部救急医学会誌 2001 ; 21 (7): 1203-1208 .
- 4) 宮本昌之, 江上 格, 吉岡正智, 加藤圭介, 渡邊秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第一): 総胆管結石症に対する腹腔鏡下総胆管切開・Tチューブ法の基本術式としての意義 . 日外科系連会誌 2001 ; 26 : 1104-1108 .
- 5) 吉岡正智, 江上 格 : 膵Solid-Pseudopapillary Tumorの臨床病理学的特徴と外科的治療 : 本邦報告302例と自験例6例について . 胆と膵 2001 ; 22 : 45-52 .

#### (2) 綜説：

- 1) 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>, 黒川 顕<sup>4)</sup>, 山本保博<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>外科学第1, <sup>4)</sup>救急医学): (特集: 小児外傷の治療戦略) 小児肝外傷の重症度と予後 . 小児外科 2001 ; 33 (6): 641-646 .

#### (3) 症例報告：

- 1) Hasegawa H, Onda M, Matsukura N, Naito N, Maruyama H, Tokunaga A : Hemorrhagic Gastric Carcinoma in an Acromegalic Patient . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 : 266-270 .
- 2) Matsushima S, Yamamoto H, Egami K, Yoshioka M, Tanaka S : Acute complete thrombosis of abdominal aortic aneurysm : a case report . Jpn J vasc Surg 2001 ; 10 : 627-629 .
- 3) Nakamura Y, Egami K, Maeda S, Hosone M, Onda M : Solid and papillary tumor of the pancreas complicating agenesis of the dorsal pancreas . J. Hepato-Biliary Pancreatic Surg 2001 ; 8 : 485-489 .
- 4) 秋谷行宏, 江上 格, 和田雅世, 飯田信也, 中村慶春, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 非閉塞性腸管虚血症 (NOMI) の1例 . 日腹部救急医学会誌 2001 ; 21 : 737-742 .
- 5) 高島良樹<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 江上 格, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1): 緊急動脈塞栓術が奏功した盲腸憩室出血の1例 . Progress of Digestive Endoscopy 2001 ; 59 .
- 6) 寺本 忠, 江上 格, 萩原信敏, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 中村 孝, 鈴木成治, 横山正, 中村慶春, 下村隆保, 大川敬一, 高島良樹, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 小腸狭窄に対して大腸内視鏡的パルーン拡張術が有効であったクローン病の1例 . Progress of Digestive Endoscopy 2001 ; 59 : 114-115 .
- 7) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 和田雅世, 山村 進, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 内田英二, 田尻 孝, 恩田昌彦 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 膵・胆管合流異常に合併した胆囊adenomyomatosisの3例 . 日消外会誌 2001 ; 34 (3): 229-233 .
- 8) 山田岳史, 江上 格, 飯田信也, 中村慶春, 寺本 忠, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸癌副腎転移の1切除例 . 手術 2001 ; 55 : 1421-1425 .

## 学会発表

### (1) サージカルフォーラム：

- 1) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 沖野哲也, 小野寺浩之, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 徳永昭, 山下精彦: *Helicobacter pylori* 除菌は穿孔性十二指腸潰瘍の再発・再穿孔予防に有用か. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.

### (2) 一般講演：

- 1) Iida S, Onda M, Tokunaga A, Kiyama T, Egami K, Maeda S: Analysis of the role of basic fibroblast growth factor during duodenal ulcer healing. 11th Annual Educational Symposium of the Wound Healing Society (Albuquerque NM), 2001. 5.
- 2) Suzuki S, Egami K, Watanabe H, Miyamoto M, Iida S, Fujita I, Nakamura Y, Teramoto T, Tanaka S, Onda M: Relationship between c-myc copy number gain, p53 gene deletion by dual color FISH and genetic instability of the gastric cancer tissue. 4th International Gastric Cancer (New York), 2001. 5.
- 3) Watanabe H, Egami K, Miyamoto M, Iida S, Fujita I, Nakamura Y, Teramoto T, Suzuki S, Yoshioka M, Onda M: Assessment and countermeasure in gastric cancer patient relapsed and died after curative operation. 4th International Gastric Cancer (New York), 2001. 5.
- 4) Iida S: Our strategy for breast-conserving surgery. Cancer Conference (Chiang Mai, Thailand), 2001. 7.
- 5) Egami K, Nakamura Y, Wada M, Watanabe H, Iida S, Miyamoto M, Teramoto T, Yamamura S, Yoshioka M, Onda M: Laparoscopic radiofrequency ablation (RFA) for the treatment of hepatic cancer. International Surgical Week 2001 (Brussels, Belgium), 2001. 8.
- 6) 鈴木成治, 江上 格, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 寺本 忠, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>外科学第1): Dual color FISH法を用いたp53欠失・c-Myc増幅からみた胃癌組織のgenetic instabilityの検討. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 7) 渡邊秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>外科学第1): 再発死亡症例からみた胃癌治療切除例の治療戦略の検討. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 8) 寺本 忠, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 宮本昌之, 飯田信也, 中村孝, 鈴木成治, 下村隆保, 中村慶春, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 河原理子, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 当科における腹腔鏡補助下大腸切除術の検討 術式別にみた開腹術との比較. 第26回外科系連合会学術集会, 2001. 6.
- 9) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 中村 孝, 鈴木成治, 寺本忠, 下村隆保, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 河原理子, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 選択的腓流入動脈内カルシウム注入法および術中IRI測定が有用であったインスリノーマの1例. 第13回日本肝胆膵外科学会, 2001. 6.
- 10) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 石塚朋樹, 山村 進, 松島申治, 飯田信也, 宮本昌之, 中村 孝, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 萩原信敏, 河原理子, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝癌に対する腹腔鏡下凝固療法. 第26回外科系連合会学術集会, 2001. 6.
- 11) 萩原信敏, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 中村 孝, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 石塚朋樹, 山村 進, 吉岡正智: クロウン病小腸狭窄に対する大腸内視鏡的拡張術の1治験例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 12) 長谷川博一, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 小野寺浩之, 木山輝郎, 水谷 崇, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻孝, 江上 格: 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における腹腔内free spaceと周術期因子の検討. 第26回外科系連合会学術集会, 2001. 6.

- 13) 宮本昌之, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 下村隆保, 山村 進, 石塚朋樹, 萩原信敏, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 大腸癌肝尾状葉転移の1切除例. 第13回日本肝胆膵外科学会, 2001. 6.
- 14) 渡邊秀裕, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 下村隆保, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 若年者胃癌症例の検討. 第26回外科系連合会学術集会, 2001. 6.
- 15) 鈴木成治, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村慶春, 寺本 忠, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): p53発現・MIB-1 index からみた胃原発非Pure MALT型B cell lymphoma 6例の検討. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 16) 寺本 忠, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 中村慶春, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 術式別にみた腹腔鏡補助下大腸切除術の検討 開腹術との比較. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 17) 中村慶春, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 寺本 忠(<sup>1)</sup>外科学第1): 肝腫瘍に対するラジオ波, マイクロ波凝固壊死療法の経験. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 18) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山下精彦: 食道癌術後の栄養状態・免疫能の変化. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 19) 渡邊秀裕, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 萩原信敏, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 下村隆保, 石塚朋樹, 山村 進, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 初発疾患でみた残胃癌: U領域単発癌と比較して. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 20) 大川敬一, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 中村 孝, 横山正, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 萩原信敏, 高島良樹, 河原理子, 吉岡正智, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 松久威久<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同内視鏡科, <sup>3)</sup>外科学第1): 当科における食道癌の治療成績: 縦隔鏡補助下食道拔去術の有用性について. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 21) 河原理子, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 山本英希, 飯田信也, 中村 孝, 横山正, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 吉岡正智: 腎細胞癌の脾転移に対する脾全摘の1例. 第63回城西外科研究会, 2001. 9.
- 22) 下村隆保, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 中村 孝, 横山正, 鈴木成治, 寺本 忠, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 河原理子, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 全身衰弱および呼吸不全を来した巨大乳房葉状腫瘍の切除救命例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 23) 鈴木成治, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 寺本 忠, 中村慶春, 石塚朋樹, 山村 進, 細根勝, 前田昭太郎, 恩田昌彦: bcl-2・p53発現, MIB-1 index を用いた胃原発性Diffuse large B cell lymphomaの病理組織学的検討. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 24) 中村 孝, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 寺本 忠, 中村慶春, 下村隆保, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 前田昭太郎, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 術前胃癌患者に合併した門脈右前区域枝血栓症の診断にカラードップラーエコーが有用だった1例. 第37回日本腹部救急医学会総会, 2001. 9.
- 25) 長谷川博一, 江上 格, 渡邊秀裕, 萩原信敏, 石塚朋樹, 山村 進, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 中村慶春, 中村 孝, 飯田信也, 宮本昌之, 吉岡正智, 恩田昌彦: 早期胃癌リンパ節転移陽性率よりみた腹腔鏡下胃手術の問題点. 第14回日本内視鏡外科学会総会, 2001. 9.
- 26) 宮本昌之, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 横山正, 中村慶春, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 吉岡正智, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>外科学第1): 当院における肝臓癌RFA, MCT凝固治療の検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 27) 宮本昌之, 江上 格, 中村慶春, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 重症急性膵炎にて初発した高齢者膵管・胆管合流異常の1例. 第24回日本膵胆管合流異常研究会, 2001. 9.
- 28) 横山 正, 江上 格, 吉岡正智, 中村慶春, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 山村 進, 萩原信敏, 内田英二, 田尻 孝, 恩田昌彦, 細根 勝, 前田昭太郎: 胆嚢adenomyomatosisは前癌病変か?. 第24回日本膵胆管合流異常研究会, 2001. 9.
- 29) 寺本 忠, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 中村慶春, 下村隆保, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 腹腔鏡補助下大腸切除術の検討: 術式別にみた開腹術との比較. 第63回日本臨床外科学会総会, 2001. 10.
- 30) 横山 正, 江上 格, 宮本昌之, 中村慶春, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 寺本忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 吉岡正智, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 当院における肝臓癌RFA, MCT凝固治療の検討. 第20回Microwave surgery研究会, 2001. 10.
- 31) 横山 正, 江上 格, 宮本昌之, 中村慶春, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 寺本忠, 下村隆保, 山村 進, 萩原信敏, 吉岡正智, 田尻 孝, 恩田昌彦: 肝臓癌RFA, MCT凝固治療におけるアプローチ法の検討. 第20回Microwave Surgery研究会, 2001. 10.
- 32) 鈴木成治, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 中村慶春, 寺本 忠, 細根勝, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 大細胞成分からみた胃原発MALT型B cellリンパ腫の診断・治療に関する検討. 第39回日本癌治療学会総会, 2001. 11.
- 33) 寺本 忠, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 山本英希, 飯田信也, 中村 孝, 横山正, 鈴木成治, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 河原理子, 吉岡正智: 当科における大腸癌肝転移治療. 第14回多摩大腸疾患懇話会, 2001. 11.
- 34) 山本英希, 松島申治, 江上 格, 渋谷哲男, 田中茂夫: 一期的手術を行った同時性肺・食道重複癌の2例. 第42回日本肺癌学会総会, 2001. 11.
- 35) 山本英希, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 横山 正, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 河原理子, 吉岡正智: 大腸癌肺転移切除症例の検討. 第14回多摩大腸疾患懇話会, 2001. 11.
- 36) 渡邊秀裕, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 下村隆保, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 手術結果および予後からみた高齢者胃癌. 第39回日本癌治療学会総会, 2001. 11.
- 37) 宮本昌之, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 中村 孝, 横山 正, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 腹腔鏡下総胆管切石術C-tubeドレナージ法の術後胆汁漏出に対する処置. 第5回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001. 12.
- 38) 飯田信也, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 中村 孝, 鈴木成治, 横山 正, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 吉岡正智, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>付属多摩永山病院消化器科, <sup>2</sup>外科学第1): 大腸癌イレウスに対する経肛門的イレウス管減圧術の有用性の検討. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- 39) 下村隆保, 江上 格, 宮本昌之, 萩原信敏, 河原理子: 膵頭十二指腸切除術後に二度の開腹止血術を行い救命した1例. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- 40) 宮本昌之, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 中村 孝, 横山 正, 鈴木成治, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 腹腔鏡下総胆管切石術C-tubeドレナージ法の術後胆汁漏出に対する処置. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.

- 41) 山本秀希, 松島申治, 江上 格, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>外科学第2): 一期的手術を行った同時性肺・食道重複癌の2例. 第42回日本肺癌学会総会, 2001. 11.
- 42) 鈴木成治, 松島申治, 山本秀希, 宮本昌之, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 江上 格, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2): Amelanotic malignant melanoma (AMM) 肺転移の一手術例. 第121回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 2.
- 43) 飯田信也, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 長谷川博一, 山本秀希, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 寺本忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 福原宗久, 小川 令, 吉岡正智: 当院での噴門側胃切除について. 第2回多摩消化器手術手技研究会, 2002. 2.

## [ 多摩永山病院消化器科 ]

### 研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし, それらに関する研究と, 幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している. 現在, 地域中核病院の診療科として, 消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている.

- 1) 患者数の増加に伴って上部および下部消化管の内視鏡検査件数も増え続けているが, それらの検査診断技術の向上に努めている.
- 2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている. 早期癌の内視鏡的治療, 総胆管結石・肝内結石・胆道狭窄の内視鏡的処置などにつき研究および治療成績の向上に努力している.
- 3) 炎症性腸疾患の診断と治療について, とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法 (5-ASA 注腸療法など) を中心とした臨床研究を続けている. また, 潰瘍性大腸炎に対する白血球 (顆粒球) 吸着療法やステロイド動注療法の症例を蓄積している.
- 4) イレウス, 腹膜炎など, 急性腹症の病態と治療について, 研究を継続中である.
- 5) 肝硬変症, 門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療と病態に応じた治療法の選択により, 放射線科・外科との共同で良好な治療成績を得ている.
- 6) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法, 肝細胞癌に対する治療についても, 症例を蓄積中である.
- 7) GERD (Gastro-esophageal Reflux Disease) についての臨床研究を継続している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Matsuda T, Matsutani T, Tsuchiya Y, Okihama Y, Egami K<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Onda M<sup>3)</sup> (Departments of <sup>1)</sup>Surgery and <sup>2)</sup>Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Department of Surgery I, Nippon Medical School): A clinical evaluation of lymphangioma of the large intestine: A case presentation of lymphangioma of the descending colon and a review of 279 Japanese cases. J. Nippon Med Sch 2001; 68 (3): 262-265.
- 2) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松田 健, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 幼児急性虫垂炎の手術のタイミング. 日本腹部救急医学会雑誌 2001; 21 (7): 1203-1208.
- 3) 松田 健, 沖浜裕司, 永嶋裕司, 高島良樹, 柳 健, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃内視鏡的粘膜切除術の検討. 多摩消化器シンポジウム誌 2002; 16 (1): 40-45.

##### (2) 綜説:

- 1) 吉岡正智<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 松田 健, 内田英二<sup>3)</sup>, 秋丸琥甫<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>, 田中宣

威<sup>3)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>外科学第1): 膵 Solid-Pseudopapillary Tumor の臨床病理学的特徴と外科的治療: 本邦報告302例と自験6例について. 胆と膵 2001; 22(1): 45-52.

2) 江上 格<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松田 健, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>3)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>救急医学): 小児肝外傷の重症度と予後 (特集: 小児外傷の治療戦略). 小児外科 2001; 33(6): 641-646.

### (3) 症例報告:

1) Matsuda T, Okihama Y, Egami K<sup>1)</sup>, Wada M<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Onda M<sup>3)</sup>( Departments of <sup>1)</sup>Surgery, and <sup>2)</sup>Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School): Complete cure of malignant lymphoma of the stomach with a huge adrenal lesion achieved by preoperative chemotherapy and surgery. Surgery Today 2001; 31(1): 62-67.

2) Matsuda T, Nagashima Y, Hiramoto Y, Takashima Y, Okihama Y, Egami K<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School): A case study of ulcerative colitis effectively treated with 5-aminosalicylic acid enema. Prog. Dig. Endosc 2001; 57(2): 102-103.

3) Matsutani T, Miyashita M<sup>1)</sup>, Hao K<sup>2)</sup>, Yokoyama S<sup>2)</sup>, Matsuda T, Yamashita K<sup>1)</sup>, Takubo K<sup>3)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery I, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Surgery, Yokosuka National Hospital, <sup>3)</sup>Division of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): Liver abscesses associated with stromal tumour of the stomach in a young woman. Eur. J. Gastroenterol. Hepatol 2001; 13(12): 1485-1489.

4) Takashima Y, Matsuda T, Okihama Y, Nagashima Y, Hiramoto Y, Egami K<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School): A case study of massive hemorrhage from colonic diverticula successfully treated by transcatheter arterial embolization. Prog. Dig. Endosc 2001; 57(2): 100-101.

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

1) 中村慶春<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 福原宗久<sup>2)</sup>, 廣井 信<sup>2)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 有馬保生<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松田 健, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 十二指腸洗浄液中K-ras変異解析およびCEA濃度測定: 膵癌診断における有用性. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.

2) 高島良樹, 沖浜裕司, 松田 健, 永嶋裕司, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 盲腸憩室出血に対して緊急動脈塞栓術が奏功した1例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.

3) 松田 健, 沖浜裕司, 永嶋裕司, 高島良樹<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 5アミノサリチル酸注腸療法が奏功した潰瘍性大腸炎の1例: 内視鏡所見を中心として. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.

4) 松久威史<sup>1)</sup>, 松田 健, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>3)</sup>, 山田宣孝<sup>4)</sup>, Surasak B<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>千葉北総病院小児科, <sup>3)</sup>外科学第1, <sup>4)</sup>病理学第2, <sup>5)</sup>チェンマイ大学家庭医学): タイ小児における *Helicobacter pylori* 感染: 日本人小児との比較. 第7回日本ヘリコバクター学会, 2001. 6.

5) 沖浜裕司, 平本義浩, 永嶋裕司, 松田 健<sup>2)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 汎用パソコン

- で内視鏡用画像ファイリングシステムを構築した開発経験と実用性．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 6) 高島良樹，沖浜裕司，松田 健，永嶋裕司，平本義浩，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 盲腸憩室からの大量出血に対して緊急動脈塞栓術が奏功した1治験例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 7) 高島良樹，沖浜裕司，松田 健，永嶋裕司，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 緊急動脈塞栓術が奏功した盲腸憩室出血の1治験例．第37回日本腹部救急医学会総会，2001．9．
  - 8) 永嶋裕司，沖浜裕司，松田 健，平本義浩，江上 格<sup>1)</sup>，松島申治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，中村 孝<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，寺本 忠<sup>1)</sup>，下村隆保<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，河原理子<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 当院における消化性潰瘍手術例の検討：最近20年間における手術症例の推移．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 9) 平本義浩，沖浜裕司，松田 健，永嶋裕司，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 胃腫瘍性病変に対する内視鏡的粘膜切除術の検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 10) 松田 健，沖浜裕司，永嶋裕司，平本義浩，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 胃食道逆流症診断における自記式質問表の有用性(第2報)．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 11) 松田 健，沖浜裕司，永嶋裕司，高島良樹，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 潰瘍性大腸炎に対する5-aminosalicylic acid(5-ASA)注腸療法の検討．第43回日本消化器病学会大会，2001．10．
  - 12) 松田 健，沖浜裕司，永嶋裕司，高島良樹，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 5-aminosalicylic acid(5-ASA)注腸療法が奏効した潰瘍性大腸炎の2例．第56回日本大腸肛門病学会総会，2001．10．
  - 13) 永嶋裕司，沖浜裕司，松田 健，平本義浩，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 孤立性潰瘍発症後に隆起性病変を併発した直腸粘膜脱症候群の1例．第267回日本消化器病学会関東支部会，2001．12．
  - 14) 永嶋裕司，沖浜裕司，松田 健，平本義浩，前田昭太郎<sup>1)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>，吉岡正智<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>外科学第1): 大腸内視鏡検査(strip biopsy)にて2型直腸癌と鑑別しえた孤立性直腸潰瘍症候群の1例．第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．12．
  - 15) 平本義浩，沖浜裕司，松田 健，永嶋裕司，江上 格<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 潰瘍性大腸炎に対する5-aminosalicylic acid注腸療法の有効性．第267回日本消化器病学会関東支部会，2001．12．
  - 16) 松田 健，沖浜裕司，平本義浩，永嶋裕司，村田和也<sup>1)</sup>，畝本賜男<sup>1)</sup>，高田雅史<sup>1)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>，吉岡正智<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科，<sup>2)</sup>同外科，<sup>3)</sup>外科学第1): 潰瘍性大腸炎に対する薬物療法：とくに5アミノサリチル酸注腸療法の検討．日本医科大学医学会第106回例会，2002．2．
  - 17) 松田 健，江上 格<sup>1)</sup>，沖浜裕司，松島申治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，中村 孝<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 消化性潰瘍に対する緊急手術例の検討：当院での最近20年間における手術症例の推移．第38回日本腹部救急医学会総会，2002．3．
  - 18) 飯田信也<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，中村 孝<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，寺本忠<sup>1)</sup>，下村隆保<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，沖浜裕司，松田 健，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>外科学第1): 大腸癌イレウスに対する経肛門のイレウス管減圧術の有用性の検討．第38回日本腹部救急医学会総会，2002．3．



## (2) シンポジウム :

- 1) 平本義浩, 沖浜裕司, 松田 健, 永嶋裕司, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1): 潰瘍性大腸炎に対する5アミノサリチル酸注腸療法. 第21回多摩消化器シンポジウム, 2002. 1.

## [ 千葉北総病院外科 ]

### 研究概要

消化器外科ならびに一般外科疾患を対象として臨床的研究を行い, 治療成績を中心としてその成果を学会および学会誌で報告している. 開院後8年目であるが, 外来・入院患者とも徐々に増加し, それに伴い本年度年間手術件数は約700例であり地域における基幹病院として, また千葉北部地区の学会・研究会にも積極的に参加し, その重責を担っていると自負している.

1) 胃癌, 大腸癌さらに肝胆膵の癌を中心とした消化器癌に乳癌, 甲状腺癌を加えた悪性疾患が主たる対象疾患で, 特に食道, 胃, 大腸癌が多く, これらに対し手術, 化学療法を組み合わせた集学的治療を行っている. また胃, 大腸の早期癌に対しては従来よりEMRを行っているが, 腹腔鏡下胆摘手術をさらに発展させ胃, 大腸癌にも腹腔鏡下外科的切除を積極的に取り入れている.

2) 良性疾患には従来の手技, 手法を基本に, 新しい手技を取り入れている.

3) 院内において内科と合同 conference を定期的に行っており, 個々の症例について臨床的検討をより深めている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Harada H, Nagai H, Mine N, Terada Y, Fujiwara H, Mikami I, Tsuneizumi M, Yabe A, Miyazaki K, Yokota T, Imoto I, Inazawa J<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): Molecular cloning, tissue expression, and chromosomal assignment of a novel gene encoding human signal-recognition particle . J. Hum. Genet 2001 ; 46 : 70-75 .
- 2) Hirano A, Nagai H, Harada H, Terada Y, Haga S<sup>1)</sup>, Kajiwara T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Med. Univ. ): Nine novel single-nucleotide polymorphisms of the Intergrin beta4 gene in the Japanese population . J. Hum. Genet 2001 ; 46 : 35-37 .
- 3) Zhang J, Kumar A, Staiker HJ, Viridi G, Ferrans VJ, Horiba K, Fricker FJ, Wallace MR ( Pathology Section, National Heart, Lung and Blood Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD ): Clinical and molecular studies of a large family with desmin associated restrictive cardiomyopathy . Clin Genet 2001 ; 59 ( 4 ): 248-256 .
- 4) 寺田淑恵, 永井尚生, 江見 充 : 癌のDNA診断 . PRACTICAL ONCOLOGY 2001 ; 14 ( 4 ): 17-19 .

##### (2) 綜説 :

- 1) 永井尚生, 寺田淑恵, 江見 充 : 肝癌の診断と臨床への応用 : 癌遺伝子診断の臨床への応用 . 『癌の臨床』特集 2001 ; 47 : 481-488 .

##### (3) 症例報告 :

- 1) Yokoi K<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kyouno S<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Yamashita N<sup>3)</sup>, Onda M<sup>3)</sup> ( Department of <sup>1)</sup> Surgery and <sup>2)</sup> Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> First Department of Surgery, Nippon Medical School ): Gastrointestinal Stromal Tumor of the Stomach Diagnosed Preoperatively . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 : 435-441 .
- 2) 堀場光二, 山下精彦, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 樋口勝美, 石川紀行, 瀬谷知子, 松本智司, 瀧田雅仁,

高橋由至, 小泉岐博, 李 榮浩, 勝田美和子, 清水哲也: 胃横軸捻転を伴い食道裂孔内に陥入した進行胃癌の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2001; 59 (2): 48-51.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム:

- 1) 進士誠一, 田中宣威, 瀬谷知子, 横井公良, 高橋由至, 小泉岐博, 松田明久, 山下精彦, 恩田昌彦: 高齢者(75歳以上)腹部救急手術症例の検討. 第38回日本腹部救急学会総会, 2002. 3.

##### (2) 一般講演:

- 1) Seya T, Tanaka N, Ishikawa N, Yokoi K, Kyono S, Yamashita K, Takahashi Y, Koizumi M, Onda M, Naitoh Z, Horiba K: Expression of matrix metalloproteinase-2, -3, -7, and 9 and type IV collagen in colorectal cancer. 9th United European Gastroenterology Week, 2001. 10.
- 2) Tanaka N, Seya T, Ishikawa N, Yokoi K, Takahashi Y, Koizumi M, Yamashita K, Onda M, Naitoh Z, Kyono S, Takasaki H: Is the extended lateral lymphadenectomy combined to autonomic nerve preservation for advanced rectal cancer the standard operation?. 9th United European Gastroenterology Week, 2001. 10.
- 3) 坂東功一<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 長澤重直<sup>2)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 倉持晋久<sup>2)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>(北村山公立病院外科<sup>1)</sup>, 同消化器科<sup>2)</sup>, 日本医科大学第1外科<sup>3)</sup>): 大腸癌肝転移に対するWeekly High Dose 5-Fluorouracil 肝動注療法の有用性と問題点. 第169回日本消化器病学会東北支部例会, 2001. 2.
- 4) 寺田淑恵, 永井尚生, 井本逸勢<sup>2)</sup>, 稲澤譲治<sup>2)</sup>, 桃井真里子<sup>3)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江見充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第一, <sup>2)</sup> 東京医歯大・難治研, <sup>3)</sup> 自治医大・小児科): 肝芽腫における遺伝子異常の検討. 日本医科大学医学会第104回例会, 2001. 5.
- 5) 堀場光二, 山下精彦, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 樋口勝美, 石川紀行, 瀬谷知子, 松本智司, 瀧田雅仁, 高橋由至, 小泉岐博, 李榮浩, 勝田美和子, 清水哲也: リウマチ性多発筋痛症治療中に発見された食道裂孔ヘルニアに胃癌を合併した1症例. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 6) 松田明久, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり: 5度の切除術にて長期生存をえた小腸悪性神経鞘腫の1例. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 7) 進士誠一, 田中宣威, 瀬谷知子, 石川紀行, 横井公良, 京野昭二, 山下精彦, 堀場光二, 瀧田雅仁, 高橋由至, 小泉岐博, 清水哲也, 大秋美治, 恩田昌彦: アメーバ肝膿瘍の1例. 第37回日本腹部救急医学会, 2001. 9.
- 8) 瀬谷知子, 田中宣威, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 松本智司, 堀場光二, 瀧田雅仁, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 清水哲也, 大秋美治, 恩田昌彦: 教室における大腸癌イレウス症例の検討. 第37回日本腹部救急医学会, 2001. 9.
- 9) 瀬谷知子, 田中宣威, 山下精彦, 横井公良, 石川紀行, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 高崎秀明, 恩田昌彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: 進行直腸癌における自律神経温存, 拡大側方郭清術. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 10) 田中宣威, 瀬谷知子, 山下精彦, 横井公良, 石川紀行, 松本智司, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 高崎秀明, 恩田昌彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: 大腸癌におけるMMP-2, 3, 7, 9およびIV型collagenの発現. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 11) 津曲幸二<sup>1)</sup>, 長幡武光<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>2)</sup>, 常泉道子<sup>1)</sup>, 横山史郎<sup>3)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老研, <sup>2)</sup>外科第1, <sup>3)</sup>長野日赤病院外科): 乳癌の臨床病理学的因子と体系的遺伝子発現解析. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 12) 寺田淑恵, 永井尚生, 藤元治朗<sup>2)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>兵庫医大): cDNA マイクロアレイを用いた肝発癌の段階的遺伝子発現様式の検討. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 13) 寺田淑恵, 平方敦史, 田尻 孝, 恩田昌彦, 永井尚生<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 藤元治朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老研分子生物, <sup>2)</sup>兵庫医大1外): cDNA マイクロアレイを用いた肝発癌の段階的遺伝子発現様式の検討. 第69回日本医科大学医学会

総会，2001．9．

- 14) 永井尚生，寺田淑恵，馬場 優<sup>1)</sup>，矢部 彩，長幡武光，岩崎公典，江見 充<sup>(1)</sup>三重県総合医療セ): 肝硬変再生結節における遺伝子及びゲノムDNA変化の解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 15) 八田充子<sup>1)</sup>，長幡武光<sup>1)</sup>，寺田淑恵<sup>2)</sup>，常泉道子<sup>1)</sup>，横山史郎<sup>3)</sup>，永井尚生<sup>1)</sup>，荒木 勤<sup>4)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老研，<sup>2)</sup>外科第1，<sup>3)</sup>長野日赤病院外科，<sup>4)</sup>産婦人科学): エストロゲンレセプター陽性乳癌の体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 16) 平田知己<sup>3)</sup>，長幡武光<sup>3)</sup>，寺田淑恵<sup>1)</sup>，常泉道子<sup>3)</sup>，横山史郎<sup>2)</sup>，永井尚生<sup>3)</sup>，江見 充<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1，<sup>2)</sup>長野日赤病院外科，<sup>3)</sup>老研): 腫瘍径別にみた乳癌の体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 17) 藤本崇司<sup>1)</sup>，長幡武光<sup>1)</sup>，寺田淑恵<sup>2)</sup>，常泉道子<sup>1)</sup>，横山史郎<sup>3)</sup>，永井尚生<sup>1)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老研，<sup>2)</sup>外科第1，<sup>3)</sup>長野日赤病院外科): 腋窩リンパ節転移陽性乳癌の体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 18) 寺田淑恵<sup>1)</sup>，永井尚生，井本逸勢<sup>2)</sup>，稲澤譲治<sup>2)</sup>，桃井真里子<sup>3)</sup>，小林泰文<sup>4)</sup>，坂東功一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1)</sup>日医大・1外，<sup>2)</sup>東京医歯大・難治研，<sup>3)</sup>自治医大・小児科，<sup>4)</sup>埼玉県立がんセンター・血液科): 肝芽腫における高密度染色体欠領域図の作成．第5回日本肝臓学会大会，2001．10．
- 19) 松田明久，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，会田邦晴，源河敦史，美濃部かおり: 初回手術後，短期間に再発しIVH完全閉塞をきたしたMFHの1例．第63回日本臨床外科学会総会，2001．10．
- 20) 松田明久，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，会田邦晴，源河敦史，美濃部かおり，田原一郎: 大腸同時性多発癌(3病変)に対しTEMを併用しQOLを損わず根治手術しえた1例．第56回日本大腸肛門病学会総会，2001．10．
- 21) 京野昭二，山下精彦，田中宣威，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，堀場光二，松本智司，瀧田雅仁，白川 毅，坂東功一，高橋由至，小泉岐博，峯田 章，進士誠一，高橋 翼: 特発性血小板減少症(ITP)を合併し内視鏡的胃粘膜切除(EMR)後胃切所を行った早期胃癌の1例．第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2001．12．
- 22) 進士誠一，田中宣威，瀬谷知子，石川紀行，山下精彦，京野昭二，横井公良，堀場光二，瀧田雅仁，高橋由至，小泉岐博，清水哲也，大秋美治，恩田昌彦: 膵管内乳頭腫瘍と早期胃癌の1例．第253回日本消化器病学会関東支部例会，2001．12．

## 10．外科学第二講座

### [ 付属病院第 2外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]

#### 研究概要

外科学第二講座は付属病院第二外科，付属第二病院外科，付属第二病院消化器病センター，付属千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，付属多摩永山病院胸部外科，多摩永山病院内視鏡科の各施設において教育，研究，診療を担っている．付属病院第二外科では以下の項目を重点的に研究している．

1) 心臓血管外科では年間約250例の開心術を行い，虚血性心疾患が最も多く，続いて先天性心疾患，心臓弁膜疾患，胸部大動脈瘤がこれに次ぐ．従って，心筋保護領域の研究が多い．また，不整脈外科の研究は教室では特に力を注いでおり，新しい研究発表も多い．胸部大動脈瘤の手術症例数も多く，脳保護，脊髄神経保護の研究も多い．

2) 呼吸器外科領域では，悪性腫瘍の手術症例が多い．近年，QOLの改善を目的とした低侵襲手術に注目し，Video assisted thoracoscopic surgery (VATS) による手術成績の評価は，外部からも注目されている．臨床例における randomized study も計画している．腫瘍学の領域では従来からの FISH 法による研究も継続しており，研究発表も多数行っている．

3) 内分泌外科領域では年間約150例の手術を行っている．特に内視鏡下手術として，甲状腺腫瘍摘出術に Video assisted neck surgery (VANS) を国内では最も早く取り組み，全国各地からの紹介患者も多い．また，海外からの問い合わせも多く，世界各地での学会発表も頻回に行っている．その他，6名の海外留学者がそれぞれ異なった分野で研究活動を継続している．研究分野は，心筋保護，不整脈の発生，停止のメカニズム，臓器移植の基礎的研究などである．いずれの領域も世界的にも最先端に行く施設での研究であり，将来的には帰国後の成果は十分に期待しうるものと思われる．国内では国立循環器病センターでのレジデント，基礎医学，臨床医学の分野での大学院生は10名を数え，種々の研究に取り組んでいる．

#### 研究業績

##### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Hatori N, Segawa D<sup>1)</sup>, Hinokiyama K, Kimura T<sup>2)</sup>, Iizuka Y<sup>3)</sup>, Ochi M, Tanaka S : Effects of ischemic preconditioning and synchronized coronary venous retroperfusion in an off pump coronary artery bypass grafting model . Artificial Organs 2001 ; 47-52 .

(1) 原著：

- 1) Mikami I, Harada H<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Tsuneizumi M<sup>1)</sup>, Nobe Y<sup>1)</sup>, Koizumi K, Sugano S<sup>2)</sup>, Tanaka S, Emi M<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Virology, Institute of Medical Science, University of Tokyo): Down-regulation in Multiple Human Cancers of a Novel Gene, DMHC, from 17q25. 1 That Encodes an Integral Membrane Protein . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 : 417-422 .
- 2) Yano M<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Shiraki Y<sup>3)</sup>, Inokuchi M<sup>4)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup> Mejiro hospital, <sup>2)</sup> Department of pathology II, <sup>3)</sup> Mejiro hospital, <sup>4)</sup> Mejiro hospital,): Expression of cathepsin B and cystatin C in human breast cancer . Surg Today 2001 ; 31 : 385-389 .
- 3) Tenjin T, Yoshino N, Kubokura H, Tanaka S : Reliability for analysis of chromosome aberration by one-color fluorescence in situ hybridization method . Jpn J Cancer chemother 2001 ; 28 ( 13 ): 2055-2059 .

- 4) Ochi M, Hatori N, Fujii M, Saji Y, Tanaka S, Honma H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第一内科): Limited flow capacity of the right gastroepiploic artery graft : Postoperative echocardiographic evaluation . Ann Thorac Surg 2001 ; 1210-1214 .
- 5) Ochi M, Bessho R, Saji Y, Fujii M, Hatori N, Tanaka S : Sequential grafting of the right gastroepiploic artery in coronary artery bypass surgery . Ann Thorac Surg 2001 ; 1205-1209 .
- 6) Ochi M, Hatori N, Bessho R, Fujii M, Saji Y, Tanaka S : Adequacy of flow capacity of bilateral internal thoracic artery T graft . Ann Thorac Surg ( Ann Thorac Surg ) 2001 ; 2008-2012 .
- 7) Yamada S<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsuda N<sup>2)</sup>, T M<sup>3)</sup>, N Y<sup>4)</sup>, M M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> チェンマイ大学外科, タイ王国, チェンマイ, <sup>2)</sup> 付属病院第一外科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>4)</sup> 病理学第二): Genetic difference of CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among Asian populations : Prediction for H. pylori eradication by PPI-based triple therapy . 新薬と臨床 2001 ; 50 ( 8 ): 801-804 .
- 8) Kubokura H, Tenjin T, Akiyama H<sup>1)</sup>, Koizumi K, Nishimura H<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup> Saitama Cancer Center, Dept. of Thoracic Surgery. ): Relations of the c-myc gene and chromosome 8 in non-small cell lung cancer . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2001 ; 7 ( 4 ): 197-203 .
- 9) Yamada S<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsuda N<sup>2)</sup>, Matsuhisa T<sup>3)</sup>, Yamada N<sup>4)</sup>, Miki M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> チェンマイ大学外科, タイ王国, チェンマイ, <sup>2)</sup> 付属病院第一外科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>4)</sup> 病理学第二): Genetic difference in CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among four Asian populations . Journal of Gastroenterology 2001 ; 36 ( 10 ): 669-672 .
- 10) Bessho R, David J C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research/cardi thoracic Surgery, the Rayne Institute, ST Thomas' Hospital ): Myocardial protection : the efficacy of an ultra-short-acting  $\beta$ -blocker, esmolol, as a cardioplegic agent . J Thorac Cardiovasc Surg 2001 ; 122 ( 5 ): 993-1003 .
- 11) Ichikawa K<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Ochi M (<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): Assessment of abdominal aortic aneurysms using a cone-beam CT system : An experimental phantom study and an initial clinical evaluation before and after stent graft treatment in patients with an abdominal aortic aneurysm . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 6 ): 498-509 .
- 12) Clyne N<sup>1)</sup>, Hofman- Bang C<sup>1)</sup>, Haga Y<sup>1)</sup>, Hatori N, Marklund SL<sup>1)</sup>, Pehrsson SK<sup>1)</sup>, Wibom R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Nephrology, Karolinska Hospital, Stockholm, Sweden. ): Chronic cobalt exposure affects antioxidants and ATP production in rat myocardium . Scand J Clin Lab Invest 2001 ; 61 ( 8 ): 609-614 .
- 13) Kitamura Y, Shimizu K, Ito K<sup>2)</sup>, Tanaka S, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 伊藤病院): Allelotyping of Follicular Thyroid Carcinoma : Frequent Allelic Losses in Chromosome Arms 7q, 11p, and 22q . J Clin Endocrinol Metab 2001 ; 86 : 4268-4272 .
- 14) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S : Endoscopic Hemithyroidectomy and Prophylactic Lymph Node Dissection for Micropapillary Carcinoma of the Thyroid by Using a Totally . J Surg Oncol 2001 ; 77 : 217-220 .
- 15) Shimizu K : Minimally invasive thyroid surgery . Baillieres Best Pract Res Clin Endocrinol Metab 2001 ; 15 : 123-137 .
- 16) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Saffitz Jeffrey E<sup>2)</sup>, Yamada Kathryn A<sup>2)</sup>, Kanno S, Kohya T<sup>1)</sup>, Kitabatake A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Hokkaido University, <sup>2)</sup> Washington University ): Cardiac connexin43 and connexin45 in labor . Cardiovascular Drugs and Therapy 2001 ; 15 ( 1 ): 106-106 .
- 17) Matsushima S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): Evaluation of the prognostic factors after thymoma resection . Inter. Surgery 2002 ; 86 ( 1 ): 103-106 .
- 18) Shimizu K, Kumita S<sup>1)</sup>, Kitamura Y, Nagahama M<sup>2)</sup>, Kitagawa W, Akasu H, Oshina T<sup>1)</sup>, Kumasaki T<sup>1)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 伊藤病院): Trial of Autotransplantation of Cryopreserved Thyroid Tissue for

- Postoperative Hypothyroidism in Patients with Graves'Disease . J Am Coll Surg 2002 ; 194 ( 1 ): 14-22 .
- 19) Miyashita T<sup>1)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>2)</sup>, Minobe K<sup>2)</sup>, Shimizu K ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 同第一外科 ): Breast-Conserving therapy in the Management of Early-Stage Breast Cancer : Our Experience in 103 Cases . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ): 24-30 .
- 20) Obara K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Arai R<sup>2)</sup>, Tenjin T<sup>3)</sup>, Suzuki S<sup>3)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for digestive disease, Nippon Medical School Second hsp. , <sup>2)</sup> Dept. Molecular pathology. Institute of Gerontology. NMS, <sup>3)</sup> Second Dept. surg. NMS ): Comparative genomic hybridization study of genetic changes associated with vindesine resistance in esophageal carcinoma . Int. J. Oncol 2002 ; 20 : 255-260 .
- 21) Koizumi K, Haraguchi S, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Akiyama H, Tanaka S : Video-Assisted Lobectomy in Elderly Lung Cancer Patients . Jap J Thorac Cardiovasc Sura 2002 ; 50 ( 1 ): 15-22 .
- 22) 清水一雄, 北川 亘 : 内分泌外科における鏡視下手術 : 前頸部皮膚吊り上げ法による内視鏡下甲状腺手術 . 手術 2001 ; 55 ( 5 ): 605-609 .
- 23) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 内科第3 ): 原発性副甲状腺機能亢進症に対するRadio-guided parathyroidectomy : 新しい治療戦略 . 日内分泌会誌 2001 ; 77 ( Suppl. ): 76-79 .
- 24) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫 : 内視鏡手術 - 難渋例よりみた限界 : 内視鏡下頸部手術 ( VANS法 ) の限界についての検討 . 内分泌外科 2001 ; 18 ( 3 ): 175-180 .
- 25) 落 雅美, 山内仁紫, 藤井正大, 田中茂夫, 小川俊一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院小児科 ): 川崎病冠動脈病変に対する冠動脈バイパス術の現況 . 小児科診療 2001 ; 1199-1203 .
- 26) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): 高齢者胃癌手術症例の特徴と問題点 . 日本高齢消化器医学会議誌 2001 ; 3 ( 2 ): 43-48 .
- 27) 清水一雄 : 甲状腺腫瘍に対する美容上観点を重要視した新しい治療法-吊り上げ法を応用した内視鏡補助下甲状腺腫瘍摘出術 . 東京都医師会雑誌 2001 ; 54 ( 10 ): 1810-1819 .
- 28) 宮内靖史<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 相澤瑞穂<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 新田 隆, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 付属病院第一内科 ): Radial Incision術後に出現した心房頻拍に対してカテーテルアブレーションを施行した2例 . 臨心臓電気生理 2001 ; 24 : 195-204 .
- 29) 新田 隆 : 僧帽弁疾患に合併した慢性心房細動の電気生理学的特徴 : Wavelengthと伝導速度の空間的ばらつき の検討 . 循環制御 2001 ; 22 ( 2 ): 80-85 .
- 30) 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 田中茂夫 : 肺癌における胸腔鏡補助下縦隔リンパ節郭清 . 日内視鏡外会誌 2001 ; 6 ( 2 ): 152-157 .
- 31) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫 : 頸部皮膚吊り上げ法 ( VANS法 ) による甲状腺微小乳癌に対する内視鏡下甲状腺片切除術とリンパ節 ( D1 ) 郭清術 . 日内視鏡外科会誌 2002 ; 7 ( 2 ): 155-159 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S : Video-assisted Endoscopic Endocrine Neck Surgery with a Benefit of Cosmesis : A New Technique Using a Totally Gasless Anterior Neck Skin Lifting Method . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 2-3 .
- 2) 小泉 潔 : 低肺機能肺癌に対する治療戦略 . 第53回 日本胸部外科学会学後セミナーテキスト 2001 ; 15-24 .
- 3) 別所竜蔵, 田中茂夫 : 植込み型除細動器の進歩と歴史 . 循環制御 2001 ; 22 ( 4 ): 336-343 .
- 4) 田中茂夫, 坂本俊樹<sup>1)</sup>, 松井 聡<sup>1)</sup>, 小平祐造<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波記念病院外科 ): 肝臓移植後の免疫寛容に關与する移植肝の滞在能力 . 日外科学連会誌 2001 ; 26 ( 6 ): 1373-1380 .
- 5) 清水一雄 : 内分泌外科におけるインフォームドコンセント ( IC ) のための説明文書「甲状腺分化癌」 . 内分泌外科 2001 ; 18 ( 4 ): 242-244 .

- 6) 石井庸介, 新田 隆, 田中茂夫: 心房細動の外科治療. 循環器科 2001 ; 50 : 148-155 .
- 7) 新田 隆, 田中茂夫: ICDはどこまで進化するか: その現状と将来. Progress in Medicine 2001 ; 21 (6): 1407-1411 .
- 8) 新田 隆: 医療機器の安全な使用法のキーポイント. : ペースメーカー・除細動器. ME 技術講習 2001 ; 22-28 .
- 9) 北村 裕, 清水一雄: 癌遺伝子診断の臨床への応用 甲状腺癌. 癌の臨床 2001 ; 47 : 489-494 .
- (3) Case report :
- 1) Yamauchi H, Yamaki S<sup>1)</sup>, Fujii M, Iwaki H, Tanaka S ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Katta General Hospital): Reduction in recalcitrant pulmonary hypertension after operation for atrial septal defect . Ann Thorac Surg 2001 ; 72 (3): 905-907 .
- (4) Case study :
- 1) Kitagawa W, Shimizu K, Akasu H, Yamada T<sup>1)</sup>, Asayama I<sup>1)</sup>, Tanaka S ( <sup>1)</sup> Kanaji Hospital): Radioguided parathyroidectomy for reexploration of primary hyperparathyroidism : a case report . Medical Science Monitor 2002 ; 8 (3): CS21-25 .
- (5) Paper :
- 1) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Tanaka S : Comparison of Changes in Hemodynamics between Unilateral and Bilateral lung Volume Reduction for Pulmonary Emphysema . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2001 ; 7 (5): 266-272 .
- (6) レポート :
- 1) Miyagi Y, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Suzuki S, Kitagawa A, Masaki Y<sup>1)</sup>, Gomibuchi M<sup>1)</sup>, Tanaka S ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科): Investigation of Coronary Artery Bypass Grafting for a Patient with Myelodysplastic Syndrome . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2001 ; 7 (4): 250-253 .
- (7) 英文 Letter :
- 1) Nitta T : Leaving a corridor after the maze procedure . Ann Thorac Surg 2001 ; 72 : 1793-1793 .
- (8) 英文症例報告 :
- 1) 新田 隆, 丸山雄二, 坂本俊一郎, 石井庸介, 大久保直子, 山内仁紫, 田中茂夫: 心房中隔1次孔欠損, 僧帽弁逆流に合併した心房細動に対する結節間伝導路を温存した心房細動手術. 心臓 2001 ; 33 (Suppl. 4): 5-6 .
- 2) Nitta T, Yamauchi H, Ohkubo N, Ishii Y, Tanaka S, Hayashi M<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 1st department of Medicine): Modification of the radial procedure in a patient with partial atrioventricular septal defect . Ann Thorac Surg 2002 ; 73 (2): 661-663 .
- (9) 研究班報告 :
- 1) 新田 隆: 日本循環器学会不整脈の非薬物治療ガイドライン: 外科治療. Jpn Circ J 2001 ; 65 (Suppl. 5): 1127-1175 .
- (10) 手術手技 :
- 1) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 放射線医学): ラジオナビゲーションによる上皮小体摘出術. 臨床外科 2001 ; 56 (6): 813-816 .
- (11) 症例 :
- 1) Matsushima S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): Dermatomyositis /Polymyositis and lung Cancer : report of three cases . Jpn J Lung Cancer 2001 ; 41 (4): 347-351 .
- 2) Matsushima S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): A case of acute complete thrombosis of abdominal aortic aneurysm . Jpn J Vasc Surg 2001 ; 10 (6): 627-629 .
- 3) Okada D, Koizumi K, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup>, Mikami I, Tanaka S ( <sup>1)</sup> 第二病院外科, <sup>2)</sup> 病理第一):

Pneumothorax Manifesting Primary Lung Cancer . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2002 ; 50 ( 3 ) : 133-136 .

- 4) 岡田大輔, 笹井 巧<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>海老名総合病院胸部外科 ): 自然気胸を契機に発見された小型肺癌の2症例 . 日呼吸会誌 2002 ; 16 ( 1 ) : 26-30 .

( 12 ) 症例報告 :

- 1) Matsumoto K<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Asano G<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Divisions of Pathology and Surgery, Second Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Intravenous leiomyomatosis of the uterus with multiple pulmonary metastases associated with large bullae-like cyst formation . Pathology International 2001 ; 51 : 396-401 .
- 2) Okada D, Koizumi K, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>2)</sup>, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Kawamoto M<sup>3)</sup>, Tanaka S ( <sup>1)</sup> 第二病院外科 , <sup>2)</sup> 老人病研究所 , <sup>3)</sup> 病理第一 ): A Case of Dumbbell Tumor of the Superior Mediastinum Removed by Combined Thoracoscopic Surgery . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ) : 58-61 .
- 3) Ochi M, Tabata M, Sakamoto S, Ishii Y, Tanaka S, Ichikawa K<sup>1)</sup>, Kumasaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科 ): Surgical endovascular stent grafting for a ruptured penetrating atherosclerotic ulcer of the aortic arch . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ) : 47-50 .
- 4) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 放射線医学 ): Radio-guide 下に上皮小体腫瘍摘出術を施行した原発性上皮小体機能亢進症の1例 : 前頸部皮膚吊り上げ法 ( VANS 法 ) による内視鏡補助下手術を用いて . 手術 2001 ; 55 ( 6 ) : 887-890 .

著 書

- 1) Watanabe H<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 , <sup>2)</sup> 付属病院第一外科 ): [ 分担 ] Assessment and Countermeasure in Gastric Cancer Patient Relapsed and Died after Curative Operation . 4th International Gastric Cancer Congress ( Murray F. Brennan, Martin S. Karpeh, Jr ), 2001 ; pp379-383, Monduzzi Editore S. P. A .
- 2) 清水一雄, 田中茂夫 : [ 分担 ] 9. クッシング症候群 . 経静脈治療オーダーマニュアル VII ・内分泌疾患 ( 和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦 ), 2001 ; pp298-302, メディカルレビュー社 .
- 3) 別所竜蔵, 田中茂夫 : [ 分担 ] ペースメーカー . 先端医療シリーズ12, 心臓病, 心臓病の最新医療 ( 永井良三, 小川 聡, 堀正二, 由谷親夫, 安井久喬 ), 2001 ; pp364-373, 先端医療技術研究所 .
- 4) 田中茂夫, 矢島俊巳 : [ 分担 ] 人工ペースメーカー異常 . 目で見える循環器病シリーズ16 : 循環器病の救急処置 ( 高野照夫 ), 2001 ; pp40-47, ( 株 ) 廣濟社 .
- 5) 落 雅美 : [ 共著 ] 急性下肢虚血 : 5 - 急性下肢虚血に対するインターベンション 6 - 基礎疾患の治療法の選択 . 下肢閉塞性動脈硬化症 Q & A ( 重松 宏 ), 2001 ; pp39-52, パイオメディスインターナショナル .
- 6) 清水一雄 : [ 分担 ] 一般 / 臨床篇 . 第95回 再現 医師国家試験問題解説書 ( 再現医師国家試験解説書編集委員会 ), 2001 ; 医学評論社 .
- 7) 久吉隆郎 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科 ): [ 分担 ] 形成外科領域, 金属メッシュとマーレックスメッシュによる胸壁再建 . 新 OS NOW 新世代の整形外科手術第12巻境界領域の最新技術 ( 落合直之 ), 2001 ; pp117-122, メジカルビュー社 .
- 8) 別所竜蔵, 田中茂夫 : [ 分担 ] 救急心血管治療における中毒学 . AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のための国際ガイドライン 2000 ( 岡田和夫, 美濃部嶮 ), 2001 ; pp257-263, BIOMEDIS .
- 9) 羽鳥信郎, 田中茂夫 : [ 分担 ] 生命を脅かす電解質異常 . AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のための国際ガイドライン 2000 ( 岡田和夫, 美濃部嶮 ), 2001 ; pp249-256, BIOMEDIS .
- 10) 別所竜蔵, 田中茂夫 : [ 分担 ] ICD による治療成績 . Annual Review 2002 循環器 ( 杉下靖郎, 門間和夫, 矢崎義雄, 高本真一 ), 2002 ; pp196-202, 中外医学社 .
- 11) 別所竜蔵, 田中茂夫 : [ 分担 ] 植込み型除細動器 . 循環器疾患最新の治療 ( 篠山重威, 矢崎義雄 ), 2002 ;



## 学会発表

### (1) その他:

- 1) 佐地嘉章<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 田畑美弥子, 清水佳世, 真崎義隆<sup>1)</sup>, 五味測誠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 2. 胸部大動脈瘤に肺腫瘍を合併した1症例. 第16回東葛心臓血管外科研究会プログラム, 2001. 6.
- 2) 佐々木孝<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 佐地嘉章<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 内科的コントロール困難であったUAP+MRの1手術例. 第17回東葛心臓血管外科研究会プログラム, 2001. 11.

### (2) 特別講演:

- 1) 田中茂夫: ICD治療の現況と将来への展望. 第1回ICD公開研究会プログラム, 2001. 12.

### (3) 招待講演:

- 1) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Takatsu K, Ishii R, Yamada K, Nakajima Y, Tanaka S: Endoscopic thyroidectomy with a scarless surgery on the neck-An experience of more than 120 cases. 6th Congress of Endocrinologists in Ukraine (Kiev, Ukraine), 2001. 5.
- 2) 新田 隆: 心房細動の外科的治療. 第22回 信州循環器セミナー, 2001. 10.
- 3) 新田 隆: 心房細動手術の現況と将来の展望. 第11回 循環器セラピューティック・フォーラムシンポジウム, 2001. 10.
- 4) 新田 隆: 弁膜疾患に合併する慢性心房細動の機序. 新横浜不整脈シンポジウム, 2001. 11.
- 5) 落 雅美: Off pump CABGの可能性を追求して. 千葉循環器談話会, 2002. 1.
- 6) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 千葉県循環器病センター学術講演, 2002. 3.

### (4) 教育講演:

- 1) 新田 隆: 合併症とその対策. 第7回 植込み型除細動器(ICD)研修セミナー, 2001. 5.
- 2) 田中茂夫: 植え込み型除細動器(ICD)の適応と問題点. 第31回札幌心電図懇話会, 2001. 6.
- 3) 新田 隆: 医療機器の安全な使用法のキーポイント. : ペースメーカー・除細動器. 第23回 ME技術講習会, 2001. 6.
- 4) 新田 隆: 心房細動手術の現況と将来の展望. 第2回 日本医師会生涯教育講座, 2001. 7.
- 5) 新田 隆: ワークショップ: ペースメーカー植込み手術のコツ. EPサマーセミナー, 2001. 7.
- 6) 新田 隆: ミニコースII-3 「他人に教えたくないコツ」: ペースメーカー・ICDの手術. EPサマーセミナー, 2001. 7.
- 7) 新田 隆: Meet the experts: 不整脈外科における新しい展望. 第32回日本心臓血管外科学会総会, 2002. 2.

### (5) シンポジウム:

- 1) Kitagawa W, Shimizu K, Akasu H, Ishii R, Tanaka S: Radio-guided parathyroidectomy for primary hyperparathyroidism (Recent Advances in Endocrine Surgery). 第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- 2) 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一外科, <sup>2)</sup>病理学第二, <sup>3)</sup>多摩永山病院内視鏡科): アジア各国での *H. pylori* 感染と胃粘膜萎縮/腸上皮化生の違いと interleukin-1 polymorphisms (ヘリコバクター感染と胃悪性腫瘍の関連). 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 3) 新田 隆, 坂本俊一郎, 石井庸介, 大久保直子, 矢島俊巳, 山内茂生<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 術中マッピング所見と心房細動手術の将来の展望 (心房細動の根治をめざして). 第16回日本心臓ペーシング電気生理学学会学術大会, 2001. 5.
- 4) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 谷山松雄<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>昭和大学第3内科): 原発性上皮小体機能亢進症に対するラジオガイド下手術: 頸部皮膚吊り上げ法(VANS法)併用の経験(画像による手術支援). 第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.

- 5) 落 雅美, 坂本俊一郎, 佐地嘉章, 小笠原英継, 別所竜蔵, 井村 肇, 羽鳥信郎, 石井庸介, 田中茂夫: Off pump CABG に対する工夫と成績: Genzyme Elite stabilizer system による OPCAG での様々な工夫. 第6回日本冠動脈外科学会, 2001. 7.
- 6) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 田中茂夫: 頸部皮膚吊り上げ法 (VANS法) による内視鏡下頸部手術の適応と問題点 (内視鏡下甲状腺・副甲状腺: 適応と問題点). 第63回日本臨床外科学会総会, 2001. 10.
- 7) 落 雅美, 別所竜蔵, 石井庸介, 佐地嘉章, 坂本俊一郎, 羽鳥信郎, 田中茂夫: Off pump CABG の功罪: これまでに解ったこと. 第63回日本臨床外科医学会総会, 2001. 10.
- 8) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 山田規予美, 田中茂夫: 甲状腺微小癌の治療: 頸部皮膚吊り上げ法 (VANS法) による内視鏡補助下片葉切除とリンパ節郭清術 (微小癌). 第44回日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 9) 新田 隆, 井村 肇, 山内茂生<sup>1)</sup>, 石井庸介, 別所竜蔵, 矢島俊巳, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 房室弁輪部への冷凍凝固の冠動脈に及ぼす影響. 第28回 日本低温医学会総会, 2001. 11.
- 10) 落 雅美, 石井庸介, 佐地嘉章, 小笠原英継, 坂本俊一郎, 別所竜蔵, 井村 肇, 羽鳥信郎, 田中茂夫: Off pump CABG の視野展開の工夫と new device: Off pump CABG における工夫: Genzyme Elite stabilizer による OPCAG. 第15回日本冠疾患学会総会, 2001. 12.
- 11) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 予後からみた高齢者胃癌手術症例の検討. 第4回日本高齢消化器医学会議, 2002. 1.
- (6) パネルディスカッション:
- 1) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: 前頸部皮膚吊り上げ法を応用した良性甲状腺, 上皮小体腫瘍に対するビデオ補助下鏡視下手術 (内視鏡外科医がめざすもの). 第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- (7) ワークショップ:
- 1) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 山田規予美, 高津圭介, 田中茂夫: 内視鏡下頸部手術 (VANS法) の限界についての検討 (内視鏡手術: 難渋例よりみた限界). 第13回日本内分泌外科学会総会, 2001. 5.
- 2) 榎本 豊, 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 岡田大輔, 岡本淳一, 天神敏博, 田中茂夫: 末梢小型肺癌 (10mm 以下) 切除例の臨床的検討. 第18回日本呼吸器外科学会総会, 2001. 5.
- 3) 落 雅美, 羽鳥信郎, 別所竜蔵, 菅野重人, 井村 肇, 石井庸介, 佐地嘉章, 小笠原英継, 坂本俊一郎, 田中茂夫: 21世紀における冠疾患の治療戦略: 多枝・LMT 病変例を含む重症例に対する OPCAB の役割. 第15回日本冠疾患学会総会, 2001. 12.
- (8) 一般講演:
- 1) Suzuki S<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Onda M<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Dept of Surg. Tama-Nagayama hosp-NMS, <sup>2)</sup> Second Dept of Surg. NMS, <sup>3)</sup> First Dept of Surg. NMS): Relationship between c-myc copy number gains, p53 gene deletion by dual color FISH and genetic instability of the gastric cancer tissue. 4th International Gastric Cancer Congress (New York, USA), 2001. 4.
- 2) Ishii Y, Nitta T, Sakamoto S, Bessho R, Yamauchi H, Yajima T, Hatori N, Ochi M, Tanaka S, Iida T<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Pathology): Incisional atrial reentry Tachycardia: Experimental study of the conduction property through the isthmus. 22nd North American Society of Pacing and Electrophysiology (USA), 2001. 5.
- 3) Yamada Kathryn A<sup>1)</sup>, Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Kanno S, Weinheimer C<sup>1)</sup>, Saffitz Jeffrey E<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Washington University): Mice exhibit basal ventricular ectopy that is markedly enhanced after myocardial infarction. NASPE (USA), 2001. 5.

- 4) Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Yamashita K, Hioki M<sup>1)</sup>, Koizumi K, Tanaka S, OR Rodrigues<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Second Department of Surgery, <sup>2)</sup> Department of thoracic Surgery, University of Mogi das Cruzes): Chest wall reconstruction for malignant tumors: a method using metallic mesh sandwiched with marlex mesh Thoracic Surgery. -Chest wall diseases. 11th World Congress The World society of cardio-thoracic surgeons (Sao Paulo), 2001. 8.
- 5) Koizumi K, Haraguchi S, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Okada D, Tanaka S, Akiyama H: EFFICACY OF VIDEO-ASSISTED THORACIC SURGERY LOBECTOMY IN COMPARISON OF LOBECTOMY BY STANDARD-AND MUSCLE-SPARING THORACOTOMY IN LUNG CANCER PATIENTS. 11th World Conference of Cardiothoracic Surgeons (SaoPaulo, BRAZIL), 2001. 8.
- 6) Ochi M, Bessho R, Saji Y, Ishii Y, Fujii M, Sakamoto S, Hatori N, Tanaka S: Postoperative echocardiographic and angiographic evaluation of flow reserve of a T graft using bilateral internal thoracic arteries. The International society for Cardiovascular Surgery (USA), 2001. 9.
- 7) Nakano J, Yamauchi H, Ochi M, Tanaka S, Ogawa S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pediatrics): Coronary artery bypass grafting by utilizing only arterial grafts in patients with coronary artery aneurysm after Kawasaki disease. The Seventh International Kawasaki Disease Symposium, 2001. 11.
- 8) Yamada Kathryn A<sup>1)</sup>, Kanno S, Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Lerner Deborah L<sup>1)</sup>, Schuessler Richard B<sup>1)</sup>, Saffitz Jeffrey E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Washington University): Differential influence of diminished connexin43 expression on arrhythmias during myocardial ischemia versus infarction in mice. AHA Scientific Conference on Molecular, Investigative, and Clinical Approaches to Myocardial Ischemia (Seattle, WA, USA), 2001. 11.
- 9) Kanno shigeto, Lerner Deborah L<sup>1)</sup>, Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Yamada Kathryn A<sup>1)</sup>, Saffitz Jeffrey E<sup>1)</sup>, Kovacs A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Washington University): Echocardiographic evaluation of left ventricular remodeling in a mouse model of myocardial infarction. AHA Scientific Sessions (USA), 2001. 11.
- 10) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Kanno S, Saffitz Jeffrey E<sup>1)</sup>, Yamada Kathryn A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Washington University): Spontaneous ventricular tachycardia in mice following myocardial infarction. AHA Scientific Sessions, 2001. 11.
- 11) Yamada N<sup>1)</sup>, Matsuhisa T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 病理学第二, <sup>2)</sup> 多摩永山病院内視鏡科): Geographic pathology of Helicobacter pylori infection-Comparative study in 9 regions among Asian 4 races. The second Sino-Japan Digestive Tumor Congress (中華人民共和国, 广州市), 2001. 12.
- 12) Nitta T, Yamauchi H, Ohkubo N, Ishii Y, Tanaka S: Surgical Motion Picture: A Pitfall of Surgery for Atrial Fibrillation: Partial Atrioventricular Septal Defect. 38th Society of Thoracic Surgeons (Fort Lauderdale, FL USA), 2002. 1.
- 13) Nakano J, Kitagawa W, Shimizu K, Akasu H, Kumita S, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Tanaka S(<sup>1)</sup> Department of Radiology): Minimally invasive radio-guided parathyroidectomy for hyperparathyroidism: experience of 10 cases. 14th ASIA pacific endocrine conference (ネパール), 2002. 2.
- 14) Imura H, Nitta T, Suzuki S, Okada D, Yamada K, Yamauchi S, Tanaka S: Cryoablation at the Anatomically Determined Annular Site Prevents Myocardial Ischemia in Surgery for Atrial Fibrillation. 51th American College of Cardiology (Atlanta, GA USA), 2002. 3.
- 15) Yamada S<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 松田範子<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>3)</sup>, 山田宣孝<sup>4)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, Wuthikarn S, 松倉則夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> チェンマイ大学外科, タイ王国, チェンマイ, <sup>2)</sup> 付属病院第一外科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院内視鏡科, <sup>4)</sup> 病理学第二): Genetic difference of CYP2C19 single nucleotide polymorphisms in four Asian countries. 第87回日本消化器病学会総会, 2001. 4.
- 16) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Saffitz Jeffrey E<sup>2)</sup>, Yamada Kathryn A<sup>2)</sup>, Kanno S, Kohya T<sup>1)</sup>, Kitabatake A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Hokkaido University, <sup>2)</sup> Washington University): Spontaneous ventricular tachycardia in mice following myocardial infarction. 第66回日本循環器学会総会, 2001. 4.

- 17) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Shigeto K, Yamada Kathryn A<sup>2)</sup>, Kohya T<sup>1)</sup>, Kitabatake A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido University , <sup>2)</sup> Washington University ): Arrhythmia in mice with both Cx43 and Kv4. 2W362F mutation . 第66回日本循環器学会総会 , 2001 . 4 .
- 18) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Kohya T<sup>1)</sup>, Tomita F<sup>1)</sup>, Kitabatake A<sup>1)</sup>, Kanno S, Kovacs A<sup>2)</sup>, Saffitz Jeffrey E<sup>2)</sup>, Yamada Kathryn A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido University , <sup>2)</sup> Washington University ): Cardiac structure and function in young and senescent mice heterozygous for a connexin43 null mutation . 第66回日本循環器学会総会 , 2001 . 4 .
- 19) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Takatsu K, Yamada K, Tanaka S : Totally gasless video-assisted endocrine neck surgery with a very minimal neck wound . 第26回日本外科系連合学会学術集会 , 2001 . 6 .
- 20) Yamada K, Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S : The mass screening for thyroid cancer in belarus subsequent to the chernobyl reactor disaster . 第26回日本外科系連合学会学術集会 , 2001 . 6 .
- 21) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫 : Video-Assisted-Neck-Surgery ( VANS法 ) による長径70mmの結節性甲状腺腫摘除の経験 . 第10回クリニカル・ビデオ・フォーラム , 2002 . 2 .
- 22) 佐地嘉章, 落 雅美, 新田 隆, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 石井庸介, 田中茂夫 : 当院における Radial artery グラフトの採取法 . 日本心臓血管外科学会 ウィンターセミナー , 2001 . 1 .
- 23) 別所竜蔵, David JC<sup>1)</sup>, 落 雅美, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute, ST Thomas' Hospital, London, UK ): Myocardial protection : the efficacy of esmolol, as a cardioplegic agent . 第101回日本外科学会総会 , 2001 . 4 .
- 24) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 和田雅国<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 田中茂夫, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山外科, <sup>2)</sup> 付属病院第一外科 ): Dual color FISH 法を用いた p53欠失・c - Myc増幅から見た胃癌組織の genetic instability の検討 . 第101回日本外科学会総会 , 2001 . 4 .
- 25) 天神敏博, 吉野直之, 窪倉浩俊, 三上 巖, 平井恭二, 平田知己, 大久保直子, 佐治喜章, 赤須東樹, 朽方規喜, 北川 亘, 原口秀司, 山内仁紫, 新田 隆, 矢島俊巳, 小泉潔, 落雅美, 清水一雄, 田中茂夫 : 細胞遺伝学による乳癌と cyclin d1 gene の関係 . 第101回日本外科学会総会 , 2001 . 4 .
- 26) 新田 隆, 丸山雄二, 坂本俊一郎, 石井庸介, 大久保直子, 山内仁紫, 山内茂生<sup>1)</sup>, 落 雅美, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科 ): 先天性心疾患に合併した心房細動に対する手術における pitfall . 第101回日本外科学会総会 , 2001 . 4 .
- 27) 天神敏博, 吉野直之<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊, 三上 巖, 平井恭二, 平田知己<sup>2)</sup>, 大久保直子, 佐地嘉章, 赤須東樹, 朽方規喜, 別所竜蔵, 北川 亘, 原口秀司<sup>3)</sup>, 山内仁紫, 新田 隆, 矢島俊巳, 羽鳥信郎, 小泉 潔, 落 雅美, 清水一雄, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup> 老人病研究所, <sup>3)</sup> 第二病院外科 ): 細胞遺伝学による乳癌と cyclin D1 gene の関係 . 第101回日本外科学会総会 , 2001 . 4 .
- 28) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 田中茂夫 : 内視鏡下甲状腺切除術 : VANS法の改良と工夫 . 第101回日本外科学会総会 , 2001 . 4 .
- 29) 平井恭二, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 天神敏博, 田中茂夫 : ヒト非小細胞肺癌における ALCAM/CD166発現の意義について . 第101回日本外科学会総会 , 2001 . 4 .
- 30) 坂本俊一郎, 石井庸介, 別所竜蔵, 井村 肇, 矢嶋俊巳, 落 雅美, 田中茂夫 : Off. Pump CABGにおける周術期心筋梗塞2症例の検討 . 第29回日本血管外科学会学術総会 , 2001 . 5 .
- 31) 田畑美弥子, 山内茂生<sup>1)</sup>, 佐地嘉章<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 真崎義隆<sup>1)</sup>, 五味澗誠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科 ): 心臓手術と術後の心房性不整脈 . 第16回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会 , 2001 . 5 .
- 32) 新田 隆, 坂本俊一郎, 石井庸介, 大久保直子, 矢島俊巳, 山内茂生<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科 ): 術中マッピング所見と心房細動手術の将来の展望 . 第16回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会 , 2001 . 5 .
- 33) 真崎義隆<sup>1)</sup>, 五味澗誠<sup>1)</sup>, 田畑美弥子, 鈴木世考, 山内茂生<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科 ): 胸部

- CT, 断層撮影の検査特性と医療費当たりの有用性: 自然気胸でのブラおよび策状性癒着を対象に. 第18回日本呼吸器外科学会総会, 2001. 5.
- 34) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 神戸 将, 中野純子, 大久保直子, 井村 肇, 別所竜蔵, 羽鳥信郎, 田中茂夫, 飯田竹美<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 小児開心術後 incisional atrial reentry tachycardia: 心房切開線峡部の伝導特性の検討. 第16回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 2001. 5.
- 35) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 山田規予美, 高津圭介, 田中茂夫: 甲状腺微小乳頭癌に対する頸部皮膚吊り上げ法(VANS法)による内視鏡下片葉切除とD1リンパ節郭清術. 第13回日本内分泌外科学会総会, 2001. 5.
- 36) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 山田規予美, 石井律子, 田中茂夫: 原発性上皮小体機能亢進症に対するラジオガイド下上皮小体腫瘍摘出術. 第13回日本内分泌外科学会総会, 2001. 5.
- 37) 田畑美弥子, 山内茂生<sup>1)</sup>, 佐地嘉章<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 真崎義隆<sup>1)</sup>, 五味測誠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 心臓手術と術後心房性不整脈. 第16回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 2001. 5.
- 38) 田畑美弥子, 朽方規喜, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 下肢静脈瘤に対する小鉤フックを利用した表在静脈瘤切除術. 第29回日本血管外科学会学術総会, 2001. 5.
- 39) 山田規予美, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 田中茂夫: 腎性上皮小体機能亢進症に対するラジオガイド下上皮小体摘出術. 第13回 内分泌外科学会総会, 2001. 5.
- 40) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 山田規予美, 田中茂夫: パセドウ病術後低下症に施行した凍結保存甲状腺自家移植4症例の長期術後経過. 第13回 内分泌外科学会総会, 2001. 5.
- 41) 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄, 田中茂夫, 原田晴仁<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所): 甲状腺癌の予後と遺伝子異常. 日本医科大学医学会第104回例会, 2001. 5.
- 42) 朽方規喜, 落 雅美, 山内仁紫, 新田 隆, 矢島俊巳, 羽鳥信郎, 田中茂夫, Schwilden Erich-D<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>エスリンゲン市立病院血管外科 (ドイツ連邦共和国) 深大腿動脈形成術を併用した閉塞性動脈疾患に対する外科治療. 第29回日本血管外科学会学術総会, 2001. 5.
- 43) 落 雅美, 羽鳥信郎, 朽方規喜, 別所竜蔵, 石井庸介, 小笠原英継, 坂本俊一郎, 田中茂夫: 鎖骨下動脈閉塞病変に対する治療戦略と長期成績: 冠動脈バイパス術症例に合併する場合を中心に. 第29回日本血管外科学会学術総会, 2001. 5.
- 44) 坂本俊一郎, 落 雅美, 別所竜蔵, 大久保直子, 石井庸介, 小笠原英継, 羽鳥信郎, 田中茂夫: 入院中に急性解離を繰り返り繰り返し発症した Marfan 症候群の1例. 第29回日本血管外科学会学術総会, 2001. 5.
- 45) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 石井律子, 田中茂夫: Video-Assisted-Neck-Surgery (VANS法)における用指操作. 第13回内分泌外科学会, 2001. 5.
- 46) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 山田規予美, 田中茂夫: パセドウ病術後低下症に施行した凍結保存甲状腺自家移植4症例の長期術後経過. 第13回内分泌外科学会, 2001. 5.
- 47) 岡田大輔, 小泉 潔, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平井恭二, 福島光浩, 川本雅司<sup>2)</sup>, 天神敏博, 田中茂夫(<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>病理第一): 気胸発症時に播種が疑われたブラ合併肺癌の1治験例. 第118回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 6.
- 48) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫: 頸部皮膚吊り上げ法による内視鏡下甲状腺手術(VANS法)困難症例についての検討. 第11回吊り上げ法手術研究会, 2001. 6.
- 49) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫: ラジオガイド下手術を併用した原発性上皮小体機能亢進症に対する頸部皮膚吊り上げ法(VANS法)の経験. 第11回吊り上げ法手術研究会, 2001. 6.
- 50) 佐地嘉章, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 田畑美弥子, 清水佳世, 真崎義隆<sup>1)</sup>, 五味測誠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 胸部大動脈瘤に合併した肺癌の1手術例. 東葛心臓血管外科研究会, 2001. 6.
- 51) 阿部純子<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 谷口宏史<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 新田 隆, 田中茂夫(<sup>1)</sup>付属病院第一内科): 多型性心室頻拍を伴う心筋梗塞に対する Dor

- 手術後に左室後中隔起源の心室頻拍および脚間リエントリー性心室頻拍を認めアブレーションに成功した1例．第23回 湯島不整脈カンファランス，2001．6．
- 52) 天神敏博，平田知己，赤須東樹，北川 亘，清水一雄，田中茂夫：Dual color FISH法を用いた細胞遺伝学による乳癌とcyclin D1 gene amplificationの関係．第9回日本乳癌学会，2001．6．
- 53) 天神敏博，吉野直之，窪倉浩俊，三上 巖，小泉 潔，田中茂夫：Dual color FISH法を用いたcyclin D1 geneと乳癌の関係．第11回日本サイトメトリー学会第19回癌DNA研究会，2001．6．
- 54) 清水一雄，北川 亘，赤須東樹，高津圭介，石井律子，山田規予美，中島由貴，田中茂夫：吊り上げ法（VANS法）による内視鏡補助下内分泌頸部外科手術125例の検討と今後の展望．第11回 吊り上げ法手術研究会，2001．6．
- 55) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，田中茂夫：VANS法（Video-Assisted-Neck-Surgery）s施行中に生じた気管損傷の経験．第11回吊り上げ法手術研究会，2001．6．
- 56) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，石井律子，田中茂夫：Video-Assisted-Neck-Surgery（VANS法）の特徴 用指操作のもたらす利点について．第26回日本外科系連合学会学術会議，2001．6．
- 57) 坂本俊一郎，石井庸介，別所竜蔵，井村 肇<sup>1)</sup>，矢嶋俊巳，落 雅美，田中茂夫（<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科）：Off Pump CABGにおける周術期心筋梗塞2症例の検討．第6回日本冠動脈外科学会学術大会，2001．7．
- 58) 石井庸介，山内仁紫，新田 隆，神戸 将，中野純子，別所竜蔵，井村 肇，田中茂夫，小川俊一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院小児科）：先天性心疾患術後不整脈に対する外科的治療の検討．第37回日本小児循環器学会総会，2001．7．
- 59) 鈴木成治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，寺本 忠<sup>1)</sup>，細根勝<sup>2)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>3)</sup>付属病院第一外科）：p53発現・MIB-1 indexからみた胃原発非Pure MALT型 B cell lymphoma 6例の検討．第56回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 60) 落 雅美，石井庸介，別所竜蔵，井村 肇，矢嶋俊巳，田中茂夫：Off pump CABGにおける周術期心筋梗塞2症例の検討．第16回日本冠動脈外科学会学術大会，2001．7．
- 61) 川瀬康裕，石井庸介，矢嶋俊巳，別所竜蔵，井村 肇<sup>1)</sup>，中島由貴，中山景介，田中茂夫（<sup>1)</sup>千葉北総胸部外科）：PCPS補助下に血栓吸引術を施行した術後急性肺塞栓症の1救命例．第119回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2001．9．
- 62) 河本陽子<sup>1)</sup>，川原清子<sup>1)</sup>，須田浩光<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>2)</sup>，小林 匡<sup>2)</sup>，富樫晃祥<sup>2)</sup>，三樹勝<sup>2)</sup>，松久威史<sup>3)</sup>，三宅一昌<sup>4)</sup>，坂元優美<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>病理学第二，<sup>2)</sup>付属病院第一外科，<sup>3)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>4)</sup>付属病院第三内科）：H. pylori感染の検討：鏡検法感染率と抗体陽性率の比較．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 63) 大川敬一<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，松島申治<sup>1)</sup>，渡邊秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，中村孝<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，寺本 忠<sup>1)</sup>，下村隆保<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，高嶋良樹<sup>1)</sup>，河原理子<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，沖浜祐司<sup>2)</sup>，松田健<sup>2)</sup>，松久威史<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科，<sup>3)</sup>同内視鏡科）：当科における食道癌の治療成績：縦隔鏡補助下食道抜去術の有用性について．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 64) 岡本淳一，真崎義隆<sup>1)</sup>，清水佳世，佐地嘉章<sup>1)</sup>，小笠原英継<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>1)</sup>，五味淵誠<sup>1)</sup>，田中茂夫（<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科）：O-2-H-4-9胸腔鏡手術から開胸術に移行した気胸手術の検討．第14回日本内視鏡外科学会総会，2001．9．
- 65) 細谷賢一<sup>2)</sup>，山口朋禎<sup>2)</sup>，寺田秀人<sup>2)</sup>，宗像一雄<sup>2)</sup>，久吉隆郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科，<sup>2)</sup>第二病院内科）：斑状陰影にて発症した肺アミロイドーミスの1例．第493回日本内科学会関東地方会例会，2001．9．
- 66) 北川 亘，清水一雄，赤須東樹，高津圭介，田中茂夫：頸部皮膚吊り上げ法（VANS法）を併用した原発性上皮小体機能亢進症に対するラジオナビゲーション手術．第14回日本内視鏡外科学会総会，2001．9．
- 67) 鈴木成治<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，寺本 忠<sup>1)</sup>，石塚朋樹<sup>1)</sup>，山村

- 進<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院第一外科 ): bcl-2, p53発現・MIB-1 index を用いた胃原発性Diffuse large B cell lymphomaの病理組織学的検討. 第60回 日本癌学会総会, 2001. 9.
- 68) 中山景介, 石井庸介, 新田 隆, 小泉 潔, 田中茂夫: 胸腔鏡補助下に両心室ペースメーカー植込み術を行った重症拡張型心筋症 (DCM) の1例. 第119回 日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 69) 山初和也<sup>1)</sup>, 新田 隆, 別所竜蔵, 坂本俊一郎, 清水佳世, 神谷仁孝<sup>2)</sup>, 青木 聡<sup>2)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>付属病院第一外科, <sup>2)</sup>同第一内科 ): 僧帽弁形成術の際, 左室心外膜電極を追加し両心室ペースングに移行した1例. 第181回 日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 70) 福島光浩, 小泉 潔, 中島由貴, 岡田大輔, 川島徹生, 平井恭二, 原口秀司, 内木場庸子<sup>1)</sup>, 千葉 隆<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>病理学 ): 診断に苦慮した右胸腔内成熟奇形腫の1例. 第119回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 71) 福島光浩, 小泉 潔, 岡田大輔, 川島徹生, 平井恭二, 原口秀司, 天神敏博, 田中茂夫: 転移性肺腫瘍に対する胸腔鏡補助下手術症例の検討. 第14回日本内視鏡外科学会総会, 2001. 9.
- 72) 江見 充, 原田晴仁<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>老人病研究所 ): 甲状腺癌の予後とDNA診断. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 73) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: Video-assisted-Neck-Surgery (VANS法) - その特徴と工夫. 第14回内視鏡外科学会, 2001. 9.
- 74) 中山景介, 石井庸介, 新田 隆, 小泉 潔, 田中茂夫: 胸腔鏡補助下に両心室ペースメーカー植え込み術を行った重症拡張型心筋症 (DCM) の1例. 第119回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 75) 菅野重人: Effects of diminished connexin43 expression on infarct size and arrhythmias. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 76) 榎本 豊, 秋山博彦, 西村仁志: 肺癌手術時に発見された部分は肺静脈還流異常症の1例. 第119回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 77) 平井恭二, 小泉 潔, 岡田大輔, 福島光浩, 三上 徹, 平田知己, 原口秀司, 天神敏博, 田中茂夫: 当科における縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術症例の検討. 第14回日本内視鏡外科学会総会, 2001. 9.
- 78) 井村 肇<sup>1)</sup>, John H<sup>2)</sup>, Anthony C<sup>3)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総胸部外科, <sup>2)</sup>Bristol children's hospital, <sup>3)</sup>Bristol University ): 小児体外循環症例における気道内mucinの変化-呼吸器合併症へのインパクト. 第54回日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 79) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 飯田竹美<sup>1)</sup>, 田中茂夫, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理 ): 先天性心疾患術後Incisional Atrial Reentry Tachycardiaは予防できるか: 心房切開線峡部の伝導特性の解明から. 第54回日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 80) 石井庸介, 山内仁紫, 新田 隆, 井村 肇, 別所竜蔵, 矢島俊巳, 山内茂生<sup>1)</sup>, 落 雅美, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): 先天性心疾患に合併した上室性不整脈に対する外科治療の検討. 第54回日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 81) 別所竜蔵, David JC<sup>1)</sup>, 落 雅美, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>Cardiac Surgical Restarch/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute, ST Thomas' Hospital, London, UK ): Myocardial protection with esmolol cardioplegia: constant flow or constant pressure infusion influenced protection?. 第54回日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 82) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 田中茂夫: 原発性上皮小体機能亢進症に対するラジオナビゲーション手術. 第63回日本臨床外科学会総会, 2001. 10.
- 83) 中野純子, 山内仁紫, 落 雅美, 新田 隆, 別所竜蔵, 井村 肇, 石井庸介, 川瀬康裕, 田中茂夫, 小川俊一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院小児科 ): Ebstein奇形に対する one and a half repairの1例. 第101回日本循環器学会東海地方会, 2001. 10.

- 84) 新田 隆, 別所竜蔵, 田畑美弥子, 川瀬康裕, 石井庸介, 田中茂夫: ビデオセッション: 心室中隔穿孔と心室頻拍, 細動を合併した虚血性心不全に対する Dor 手術. 第54回 日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 85) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>(1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 第二病院消化器病センター): 一期的手術を行った同時性肺, 食道重複癌の2例. 第42回日本肺癌学会総会, 2001. 11.
- 86) 山本英希<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 横山正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): 大腸癌肺転移切除症例の検討. 第14回多摩大腸疾患懇話会, 2001. 11.
- 87) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 付属病院第一外科): 手術結果および予後からみた高齢者胃癌. 第39回日本癌治療学会総会, 2001. 11.
- 88) 岡田大輔, 逸見しのぶ<sup>1)</sup>, 中山智子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>2)</sup>, 小泉 潔, 田中茂夫, 白杵二郎<sup>3)</sup>, 榎本達治<sup>3)</sup>, 吾妻安良太<sup>3)</sup>, 吉村明修<sup>3)</sup>, 弦間昭彦<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 病理第一, <sup>2)</sup> 第二病院外科, <sup>3)</sup> 付属病院第4内科): 間質性肺震合併肺癌手術症例の検討. 第65回間質性肺疾患研究会, 2001. 11.
- 89) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 付属病院第一外科): 大細胞成分からみた胃原発性非MALT型B cellリンパ腫の診断・治療に関する検討. 第39回日本癌治療学会総会, 2001. 11.
- 90) 阿部純子<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 谷口宏史<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 新田 隆, 田中茂夫 (<sup>1)</sup> 付属病院第一内科): Dor 手術後に左室後中隔起源の心室頻拍および脚間リエントリー性心室頻拍を認めた広範囲前壁梗塞の1例. 第13回 カテーテルアブレーション委員会公開研究会, 2001. 11.
- 91) 福島光浩, 小泉 潔, 岡田大輔, 川島徹生, 平井恭二, 原口秀司, 天神敏博, 田中茂夫: 転移性肺腫瘍に対する胸腔鏡補助下手術症例の検討. 第42回日本肺癌学会総会, 2001. 11.
- 92) 中島由貴, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 山田規予美, 田中茂夫: 橋本病の外科的治療に関する臨床的検討. 第44回 日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 93) 石井律子, 清水一雄, 赤須東樹, 北川 亘, 高津圭介, 山田規予美, 中島由貴, 田中茂夫: 甲状腺腫瘍切除術における新しい皮切の経験と検討. 第44回 日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 94) 山田規予美, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: 頸部皮膚吊り上げ法 (VANS法) による内視鏡補助下甲状腺手術の限界についての検討. 第44回 日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 95) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 山田規予美, 中島由貴, 田中茂夫: 甲状腺腫瘍に対する美容上利点のある新しい治療法の確立: 吊り上げ法による内視鏡下手術 (VANS法) 130例の臨床経験. 第44回 日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 96) 高津圭介, 平田知己<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 長浜充二<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 清水一雄, 田中茂夫, 江見 充<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌のcDNAマイクロアレイによる体系的遺伝子発現解析. 第44回 日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 97) 江本直也<sup>1)</sup>, 城所 葉<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup>, 清水一雄 (<sup>1)</sup> 付属病院第三内科): 甲状腺乳頭癌におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸鎖の変化. 第44回 日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 98) 城所 葉<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 清水一雄, 及川眞一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院第三内科): ヒト甲状腺サイログロブリンのヘパリン結合能及びFGF結合能の検討. 第44回 日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 99) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 山田規予美, 田中茂夫: パセドウ病術後機能低下症に対するユニークな治療法: 凍結保存甲状腺の自家移植. 第44回甲状腺学会, 2001. 11.
- 100) 中島由貴, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫: 橋本病の外科治療. 第44回日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 101) 重原健吾<sup>1)</sup>, 石井庸介, 新田 隆, 中山景介, 井村 肇, 別所竜蔵, 田中茂夫 (<sup>1)</sup> 付属病院第一外科): 僧帽弁



- 輪形成術後に左室流出路狭窄を来した1症例．第120回 日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2001．12．
- 102) 田中久美，落 雅美，朽方規喜，田中茂夫，市川和雄<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，川東 豊<sup>3)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，木田恵子<sup>2)</sup>，榊原圭太郎<sup>2)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科，<sup>2)</sup>同第四内科，<sup>3)</sup>同第一外科): 右鎖骨下動脈起始部の破裂性動脈瘤に対しsubclavian carotid bypass とステント留置術を施行した1治験例．第9回日本血管外科学会関東甲信越地方会，2001．12．
- 103) 中島由貴，平井恭二，岡田大輔，福島光浩，小泉 潔，田中茂夫: 胸壁原発PNET術後，5年を経て孤立性肺内再発を来した1例．第120回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2001．12．
- 104) 榎本 豊，秋山博彦，西村仁志: 迷走神経より発生した神経鞘腫2例の経験．第120回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2001．12．
- 105) 鈴木成治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山外科): Amelanotic malignant melanoma 肺転移の1手術例．第121回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2002．2．
- 106) 鈴木成治<sup>1)</sup>，松島申治<sup>1)</sup>，山本英希<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，田中茂夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同病理部): Amelanotic malignant melanoma (AMM) 肺転移の1手術例．第121回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2002．2．
- 107) 宮城泰雄，新田 隆，石井庸介，坂本俊一郎，山田規予美，田中茂夫，山田宣孝<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第二): 高周波ablation catheterを用いた心拍動下心房線状焼灼の実験的検討．第32回日本心臓血管外科学会総会，2002．2．
- 108) 大森裕也，新田 隆，石井庸介，坂本俊一郎，宮城泰雄，田中茂夫: 僧帽弁逆流に合併した発作性心房細動の心表面マッピング所見．16回不整脈外科研究会，2002．2．
- 109) 落 雅美，羽鳥信郎，別所竜蔵，石井庸介，坂本俊一郎，矢島俊巳，田中茂夫: 鎖骨下動脈閉塞性病変合併冠動脈バイパス術症例に対する治療戦略と成績．第32回日本心臓血管外科学会総会，2002．2．
- 110) 加藤晴一<sup>1)</sup>，今野武津子<sup>2)</sup>，米沢俊一<sup>3)</sup>，虹川大樹<sup>4)</sup>，中里 豊<sup>5)</sup>，鍵本聖一<sup>6)</sup>，清水俊明<sup>7)</sup>，松久威史<sup>8)</sup>，豊田茂<sup>9)</sup>，田尻 仁<sup>10)</sup>，位田 忍<sup>10)</sup>，芳村文一<sup>11)</sup>，奥田真珠美<sup>12)</sup>，藤沢卓弥<sup>13)</sup>，(<sup>1)</sup>東北大学小児科，<sup>2)</sup>札幌厚生病院小児科，<sup>3)</sup>もりおかこども病院，<sup>4)</sup>岩手県立中央病院小児科，<sup>5)</sup>社会保険大宮総合病院小児科，<sup>6)</sup>埼玉県立小児医療センター，<sup>7)</sup>順天堂大学小児科，<sup>8)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>9)</sup>神奈川県衛生看護専門学校付属病院小児科，<sup>10)</sup>大阪大学小児発育医学，<sup>11)</sup>大阪府立母子保健総合医療センター，<sup>12)</sup>和歌山労災病院小児科，<sup>13)</sup>藤沢こどもクリニック): 小児における13C尿素呼吸試験(UBT)のcut off値と妥当性の検討: 多施設共同研究．第6回日本小児*Helicobacter pylori*研究会，2002．3．
- 111) 山田宣孝<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>，松久威史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二，<sup>2)</sup>多摩永山病院内視鏡科): ピロリ菌感染と粘膜萎縮，腸上皮化生の関係の組織学的検討: 地域差，民族差による解析(第4報)．第91回日本病理学会総会，2002．3．
- 112) 中野純子: ICD植込み症例における心室内伝導障害の予後に及ぼす影響．第5回 循環器リサーチカンファランス，2002．3．
- 113) 加藤晴一<sup>1)</sup>，今野武津子<sup>2)</sup>，米沢俊一<sup>3)</sup>，虹川大樹<sup>4)</sup>，中里 豊<sup>5)</sup>，鍵本聖一<sup>6)</sup>，清水俊明<sup>7)</sup>，松久威史<sup>8)</sup>，豊田茂<sup>9)</sup>，太田浩良<sup>10)</sup>，熊谷俊子<sup>10)</sup>，田尻 仁<sup>11)</sup>，位田 忍<sup>11)</sup>，芳村文一<sup>12)</sup>，奥田真珠美<sup>13)</sup>，藤沢卓弥<sup>14)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学小児科，<sup>2)</sup>札幌厚生病院小児科，<sup>3)</sup>もりおかこども病院，<sup>4)</sup>岩手県立中央病院小児科，<sup>5)</sup>社会保険大宮総合病院小児科，<sup>6)</sup>埼玉県立小児医療センター，<sup>7)</sup>順天堂大学小児科，<sup>8)</sup>多摩永山病院内視鏡科，<sup>9)</sup>神奈川県衛生看護専門学校付属病院小児科，<sup>10)</sup>信州大学中央検査部，<sup>11)</sup>大阪大学小児発育医学，<sup>12)</sup>大阪府立母子保健総合医療センター，<sup>13)</sup>和歌山労災病院小児科，<sup>14)</sup>藤沢こどもクリニック): 小児における便中抗原検査(HpSA)の有用性の検討・多施設共同研究．第6回 日本小児*Helicobacter pylori*研究会，2002．3．
- 114) 大久保直子，羽鳥信郎，落 雅美，新田 隆，矢島俊巳，山内仁紫，別所竜蔵，井村 肇，石井庸介，坂本俊一郎，清水佳世，川瀬康裕，中野純子，田中茂夫: On-pump 及びOff-pump CABGにおける炎症性サイトカインm-RNA発現の相違について．第102回日本外科学会学術集会，2002．4．

115) 小泉 潔：肺癌に対する胸腔鏡補助下 (VATS) 肺葉切除術。第14回 栃木県内視鏡外科研究会, 2002 . 9 .

(9) ビデオセッション:

- 1) 朽方規喜, 落 雅美, 山内仁紫, 田中茂夫, Schwilden Erich-D<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> エスリンゲン市立病院血管外科ドイツ連邦共和国): 深部静脈血栓症に対する外科治療。第29回日本血管外科学会学術総会, 2001 . 5 .

(10) ポスター:

- 1) Watanabe H<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 付属病院第一外科): Assessment and Countermeasure in Gastric Cancer Patient Relapsed and Died after Curative Operation . The 4th International Gastric Cancer Congress ( USA ), 2001 . 4 .
- 2) Sakamoto S, Nitta T, Tanaka K, Ishii Y, Fugii M, Kawase Y, Bessho R, Yamauchi H, Yajima T, Hatori N, Ochi M, Tanaka S : Concordant and rapid Atrial Activation after the Radial Procedure Prevents Thromboembolism . 22nd Annual scientific sessions North American Society of Pacing and Electrophysiology ( Boston ), 2001 . 5 .
- 3) Ishii Y : Incisional Atrial Reentry Tachycardia : Is It Preventable? . American Heart Association ( USA ), 2001 . 11 .
- 4) 井村 肇<sup>1)</sup>, 新田 隆, 鈴木世考, 岡田大輔, 山田規予美, 山内茂生<sup>1)</sup>, 田中茂夫 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科): Cryoablation at the Anatomically Determined Annular site Prevents Myocardial Ischemia in Surgery for Atrial Fibrillation . American college of Cardiology ( アトランタ ), 2002 . 3 .
- 5) Matsushima S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科): Collagen disease and lung cancer . 9th World conference on lung cancer , 2000 . 9 .
- 6) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 付属病院第一外科): 再発死亡例からみた胃癌治癒切除例の治療戦略の検討。第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 7) 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 原口秀司<sup>2)</sup>, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 福島光浩, 岡田大輔, 天神敏博, 羽鳥信郎, 田中茂夫 (<sup>1)</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 第二病院外科): 非小細胞肺癌の根治手術における外科侵襲の検討。第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 8) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 神戸 将, 中野純子, 川瀬康裕, 山下裕正, 別所竜蔵, 田中茂夫, 飯田竹美<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 病理): 小児開心術後 incisional atrial reentry tachycardia : 心房切開線峡部の伝導特性の検討。第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 9) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫: 原発性上皮小体機能亢進症に対する radio-guided parathyroidectomy . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 10) 平田知己<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>2)</sup>, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 福島光浩, 岡田大輔, 天神敏博, 羽鳥信郎, 小泉 潔, 田中茂夫, 榎本 豊, 岡本淳一 (<sup>1)</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 第二病院外科): 原発性肺癌に対する拡大郭清の心機能からみた手術侵襲の評価。第18回日本呼吸器外科学会総会, 2001 . 5 .
- 11) 佐々木孝<sup>1)</sup>, 笹井 巧<sup>2)</sup>, 榎本 豊, 仁科 大, 岡田大輔, 真崎義隆<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 田中茂夫 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup> 海老名総合病院呼吸器外科): 自然気胸患者の身体的特徴に関する分析。第18回日本呼吸器外科学会総会, 2001 . 5 .
- 12) 平井恭二, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 三上 巖, 岡田大輔, 榎本 豊, 岡本淳一, 天神敏博, 田中茂夫: 当科における浸潤型胸腺腫手術症例の検討。第18回日本呼吸器外科学会総会, 2001 . 5 .
- 13) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院外科,

- 2) 付属病院第一外科): 若年者胃癌症例の検討. 第26回日本外科系連合学会議, 2001. 6.
- 14) 佐々木孝<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>2)</sup>, 名取穰治<sup>2)</sup>, 駒崎敏昭<sup>2)</sup>, 廣田 淳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup>海老名総合病院外科): 虫垂粘液震胞腺腫の3例. 第26回日本外科系連合学会議, 2001. 6.
- 15) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>付属病院第一外科): 初発病巣別にみた噴門側残胃癌: U領域単発癌との比較を通して. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 16) 坂本俊一郎, 田中久美, 石井庸介, 山田規予美, 岡本淳一, 川瀬康裕, 神戸 将, 中野純子, 新田 隆, 田中茂夫: Maze手術とRadial手術における術後心房興奮様式と興奮時間の検討. 第54回日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 17) 小泉 潔, 原口秀司, 山下浩二, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 吉野直之, 榎本 豊, 田中茂夫: 肺癌に対する肺葉切除: 胸腔鏡補助下手術, 胸筋温存側方開胸, 定型的後側方開胸の比較. 第54回 日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 18) 平井恭二, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 天神敏博, 田中茂夫: ヒト非小細胞肺癌におけるALCAM/CD166の発現意義の検討. 第42回日本肺癌学会総会, 2001. 11.
- 19) 坂本俊一郎, 落 雅美, 石井庸介, 中山景介, 別所竜蔵, 井村 肇<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 近位腋窩動脈をinflow sourceとしてRadial arteryと利用したOff. Pump再冠動脈バイパスの1例. 第15回日本冠疾患学会, 2001. 12.
- 20) 山内仁紫, 八巻重雄<sup>1)</sup>, 石井庸介, 井村 肇, 別所竜蔵, 矢島俊巳, 新田 隆, 落 雅美, 田中茂夫(<sup>1)</sup>刈田総合病院循環器科): 高度肺高血圧症を伴った先天性心疾患の肺生検による手術適応決定と遠隔期予後. 第32回日本心臓血管外科学会, 2002. 2.
- (11) ポスターディスカッション:
- 1) 岡田大輔, 川本雅司<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 原口秀司<sup>2)</sup>, 平田知己<sup>3)</sup>, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 天神敏博, 福田悠<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>病理第一, <sup>2)</sup>第二病院外科, <sup>3)</sup>老人病研究所): 当教室での肺大細胞神経内分泌癌(LCNEC)における薬剤耐性震白の免疫組織学的検討. 第42回日本肺癌学会総会, 2001. 11.
- (12) 依頼講演:
- 1) 小泉 潔: Endostapler を語ろう. 第14回 日本内視鏡外科学会総会, 2001. 9.
- 2) 小泉 潔: 低肺機能肺癌に対する治療戦略. 第53回 日本胸部外科学会総会卒後セミナー, 2001. 10.
- (13) 一般講演(会長要望演題):
- 1) 石井庸介, 落 雅美, 坂本俊一郎, 大久保直子, 別所竜蔵, 山内仁紫, 矢島俊巳, 新田 隆, 羽鳥信郎, 田中茂夫, 市川和雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 遠位弓部大動脈瘤に対するグラフト遠位部ステント固定を確実にする工夫. 第29回日本血管外科学会学会総会, 2001. 5.
- (14) 公開レクチャ - :
- 1) 北川 亘: NAVIGATION SURGERY: Minimally Invasive Radioguided Parathyroidectomy. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.

## [ 第二病院外科 ]

### 研究概要

心臓血管外科領域, 呼吸器外科, 乳腺・甲状腺内分泌外科領域の臨床研究を中心としている.

1) 心臓血管外科領域: 開心術周術期における各種薬剤の薬理効果, 及び有効な心筋保護法の確立について研究である. OPCABを中心とした低侵襲心臓手術法などの手術手技や大動脈外科手術時における補助循環法の研究を行

っている。また、高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の評価・管理・治療法について検討し、成績の向上を計っている。末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中である。

2) 呼吸器外科領域：胸腺腫を除く縦隔腫瘍，転移性肺腫瘍，自然気胸に対してはほぼ全例に胸腔鏡下に摘出を試み，肺癌に対しても症例を選んで行っている。特に肺癌症例での胸腔鏡のメリット，デメリットを評価している。また，再発肺癌や二次肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいる。集学的治療にも積極的に取り組んでいる。基礎的研究は肺ブラ・ブレブの病理学的検討を継続的に行っている。

3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域：診断では，MRIを中心にした微細画像診断により，癌の進展形態を評価し，手術方針の決定に役立てている。手術では，鏡視下乳房温存手術を中心に，非定型的乳房切断術，乳頭・皮膚温存・乳腺全摘術を行い，さらにセンチネルリンパ節生検を行うよう準備を進めている。化学療法は，外来通院投与を中心に積極的に行い，QOLを高めるよう努力している。また，タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンの抗体療法について，その有効性をアポトーシス・サイトカインのレベルで検討する。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Matsumoto K<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Hisayoshi T, Asano G<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Pathology, Second Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Intravenous leiomyomatosis of the uterus with multiple pulmonary metastases associated with large bullae-like cyst formation . Pathology International 2001 2001 ; 51 : 396-401 .
- 2) Haraguchi S, Koizumi K<sup>1)</sup>, Hatori N<sup>1)</sup>, Akiyama H<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery ( II ) ): Prediction of postoperative pulmonary function and complication rate in elderly patients ; Postoperative complications in the elderly . Surgery Today, 2001 ; 31 : 860-865 .
- 3) 日置正文, 家所良夫, 宅島美奈, 村野光和, 川村 純, 吉野直之, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科第二 ): 日本医科大学付属第二病院における心臓大血管手術連続226例の検討 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 6 ): 520-523 .
- 4) 織井恒安, 日置正文, 家所良夫, 増田 栄, 久吉隆郎, 山下浩二, 山下康夫, 吉野直之, 川村 純, 宅島美奈, 村野光和, 松本光司<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部, <sup>2)</sup> 外科第二 ): 開心術後の腸管壊死症例の検討 . 日外科系連会誌 2001 ; 26 ( 5 ): 1323-1328 .
- 5) 山下浩二, 日置正文 : 最近の乳癌治療 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ): 82 .

### 著書

- 1) 久吉隆郎：〔分担〕形成外科領域 金属メッシュとマーレックスメッシュによる胸壁再建．新OsNow 新世代の整形外科手術 第12巻境界領域の最新技術（落合直之），2001；pp117-122，メジカルビュー社．

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Hisayoshi T, Yamashita K, Hioki M, Koizumi K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Olavo R R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery ( II ), <sup>2)</sup> Department of thoracic Surgery, University of Mogi das Cruzes ): Chest wall reconstruction for malignant tumors : a method using metallic mesh sandwiched with marlex mesh . 11th World Congress, The World Society of Cardio-Thoracic Surgeons ( サンパウロ ), 2001 . 8 .
- 2) 原口秀司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科第二 ): 肺ブラ・ブレブの線維化巣と弾性線維症の形成機序について . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 3) 原口秀司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田 知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外

- 科第二): 高齢者肺癌胸腔鏡下手術の予後と死因について. 第18回日本呼吸器外科学会総会, 2001. 5.
- 4) 山下浩二, 久吉隆郎, 家所良夫, 増田 栄, 山下康夫, 織井恒安, 吉野直之, 川村 純, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>外科第二): 原発性肺粘液癌の1例. 第18回日本呼吸器外科学会総会, 2001. 5.
- 5) 山下康夫, 村野光和, 宅島美奈, 川村 純, 吉野直之, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 久吉隆郎, 家所良夫,  
日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>2)</sup>, 田島紘之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二, <sup>2)</sup>放射線科): ハイリスク腹部大  
動脈瘤に対しステントグラフト内挿術を施行し, 術後管理に難渋した1例. 第29回日本血管外科学会総会,  
2001. 5.
- 6) 山下浩二, 久吉隆郎, 川村 純, 吉野直之, 織井恒安, 山下康夫, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>外科第二): 乳頭近傍に発生した非Paget性悪性腫瘍の検討. 第9回日本乳癌学会総会, 2001. 6.
- 7) 織井恒安, 宅島美奈, 村野光和, 川村 純, 吉野直之, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 家所良夫, 日置正文,  
田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二): 冠動脈バイパス手術における心筋保護液としてのGIKとSt. Thomas液の比較検討.  
第6回日本冠動脈外科学会学術大会, 2001. 7.
- 8) 原口秀司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二): 肺癌胸  
腔鏡下手術の予後について. 第14回日本内視鏡外科学会総会, 2001. 9.
- 9) 網谷賢一<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 寺田秀人<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 久吉隆郎(<sup>1)</sup>第二病院内科): 斑状陰影にて発症した肺ア  
ミロイドーシスの1例. 第493回日本内科学会関東地方会, 2001. 9.
- 10) 原口秀司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 天神敏  
博<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二): 気腫性肺嚢胞のelastofibrosisの形成機序について. 第54回日本胸部外科学会  
総会, 2001. 10.
- 11) 原口秀司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 榎本 豊<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 天神敏  
博<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二): 肺癌手術における予測術後1秒量の過大評価例の検討. 第42回日本肺癌学会  
総会, 2001. 11.
- 12) 増田 栄, 日置正文, 宅島美奈, 村野光和, 川村 純, 織井恒安, 山下康夫, 家所良夫, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科  
第二): 大動脈弁閉鎖不全, 虚血性心疾患, 腎機能障害, 低肺機能を合併した弓部大動脈瘤の一手術症例. 日本  
医科大学医学会第105回例会, 2001. 11.
- 13) 増田 栄, 日置正文, 村野光和, 宅島美奈, 山下康夫, 織井恒安, 家所良夫, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二): 腹部  
大動脈瘤破裂症例の検討. 第9回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2001. 12.
- 14) 宅島美奈, 村野光和, 川村 純, 吉野直之, 織井恒安, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 家所良夫, 日置正文,  
田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第二): 内腸骨動脈領域における動静脈ろうの2例. 第9回日本血管外科学会関東甲信越地  
方会, 2001. 12.
- 15) 織井恒安, 村野光和, 宅島美奈, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>外科第二): 高齢者不完全型ECDの一治療例. 第120回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 12.
- 16) 宅島美奈, 吉野直之, 織井恒安, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 佐藤雅史<sup>1)</sup>,  
田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>外科第二): 肺膿瘍治療後残存した空洞内に定着したアスペルギルス症の  
1例. 第120回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 12.
- 17) 村野光和, 増田 栄, 日置正文, 宅島美奈, 織井恒安, 山下康夫, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 田中茂夫<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>外科第二): 僧帽弁修復術後に溶血を生じ再手術を要した1例. 第121回日本胸部外科学会関東甲信越地方  
会, 2002. 2.

## [ 多摩永山病院内視鏡科 ]

### 研究概要

消化管疾患に関する研究発表，症例報告を行った．

1) 東南アジア諸国（ベトナム社会主義共和国，タイ王国，中華人民共和国）の民族の上部消化管内視鏡検査および *Helicobacter pylori* (*Hp*) 感染診断は本年度も継続して行った．更に小児の *Hp* 感染調査（ベトナム社会主義共和国，タイ王国）も実施した．それらの成績をもとに日本人とアジア人の *Hp* 感染率の相違，その他の特徴を多数の国際，国内学会においてシンポジウム講演，一般講演を行い論文発表も行った．

2) *Hp* の関連した疾患を中心に他科との共同研究も実施した．

3) 保険診療で認められた *Hp* 除菌処方では除菌不能な症例に対する有用性の高い新しい治療法（PPI + AMPC + MNZ）について報告した．

4) <sup>13</sup>C-酢酸呼気試験，アセトアミノフェン法により慢性胃炎，消化性潰瘍患者の胃運動能を測定し，*Hp* 除菌前後の運動能についても発表した．

5) 内視鏡検査受診者の感染症（梅毒，B型肝炎，C型肝炎，HIV）の成績を調査，報告し内視鏡検査前の感染症検査の重要性を促した．

6) 当科で行った緊急内視鏡検査症例のうち，出血性病変に対する内視鏡の止血法とその術後経過を報告した．

7) 心理テストに基づき，嗜好品が胃炎に及ぼす影響についての研究論文を発表した．

8) 上部消化管病変についての症例報告を行った．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) Yamada S<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsuda N<sup>2)</sup>, Matsuhisa T, Yamada N<sup>3)</sup>, Miki M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> チェンマイ大学外科，タイ王国，チェンマイ，<sup>2)</sup> 付属病院第一外科，<sup>3)</sup> 病理学第二 ): Genetic difference in CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among four Asian populations . Journal of Gastroenterology 2001 ; 36 ( 10 ): 669-672 .

2) 井上泰夫，羽山享宏，松久威史：心理テスト，嗜好品からみた胃炎の検討：表層性胃炎を中心に．消化器心身医学 2001 ; 8 : 38-43 .

3) 松久威史，日下部史郎，前田昭太郎<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup> 病理学第二 ): *Helicobacter pylori* 除菌後にみられる食道，胃，十二指腸病変の観察 . Therapeutic research 2001 ; 22 ( 8 ): 1872-1874 .

4) 松久威史，松倉則夫<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>2)</sup>，Le Kim Sang<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科，<sup>2)</sup> 病理学第二，<sup>3)</sup> チュンブン救急センター消化器科，ベトナム社会主義共和国，ホー・チ・ミン ): 日本とベトナムにおける老年者胃十二指腸疾患，*Helicobacter pylori* 感染の観察 . 日本高齢消化器医学会誌 2001 ; 3 ( 2 ): 103-109 .

5) 松久威史，松倉則夫<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科，<sup>2)</sup> 病理学第二 ): ベトナム人と日本人における *Helicobacter pylori* 感染，背景胃粘膜の検討 . 消化器内視鏡の進歩 2001 ; 59 ( 2 ): 27-31 .

6) 松久威史，中村 洋<sup>1)</sup>，吉野槇一<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院リウマチ科，<sup>2)</sup> 病理学第二 ): NSAIDs を長期投与されている慢性関節リウマチ患者の *Helicobacter pylori* 感染に関する case control study . 消化器科 2002 ; 34 ( 2 ): 106-112 .

##### (2) 綜説：

1) Yamada S<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsuda N<sup>2)</sup>, Matsuhisa T<sup>3)</sup>, Yamada N<sup>4)</sup>, Miki M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> チェンマイ大学外科，タイ王国，チェンマイ，<sup>2)</sup> 付属病院第一外科，<sup>3)</sup> 病理学第二 ): Genetic difference of CYP2C19 single nucleotide polymorphisms among Asian populations : Prediction for *H. pylori* eradication by

PPI-basad triple therapy . 新薬と臨牀 2001 ; 50 ( 8 ) : 801-804 .

(3) ワンポイントアドバイス :

- 1) 松久威史 : 消化器内視鏡機器の洗浄 , 消毒の実際 . Medical Practice 2001 ; 18 ( 10 ) : 1727 .
- 2) 松久威史 , 芳村昇治 : 上部消化管緊急内視鏡検査の実際 . Medical Practice 2002 ; 19 ( 2 ) : 325 .
- 3) 松久威史 , 芳村昇治 : 消化管内視鏡検査受診者における感染症の頻度 . Medical Practice 2002 ; 19 ( 3 ) : 506 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 松久威史 ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科 , <sup>2)</sup> 病理学第二 ) : アジア各国での *H. pylori* 感染と胃粘膜萎縮 / 腸上皮化生の違いと interleukin-1 polymorphisms ( ヘリコバクター感染と胃悪性腫瘍の関連 ) . 第 87 回日本消化器病学会総会 , 2001 . 4 .
- 2) 松久威史 : *Helicobacter pylori* と背景胃粘膜 ( ヘリコバクター ・ ピロリ ) . 第 19 回多摩臨床シンポジウム , 2001 . 7 .

(2) ワークショップ :

- 1) 松久威史 , 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第二 ) : NSAIDs 長期服用者における *Helicobacter pylori* 感染と背景胃粘膜の臨床的観察 ( NSAIDs と *H. pylori* の接点 ) . 第 87 回日本消化器病学会総会 , 2001 . 4 .

(3) 一般講演 :

- 1) Yamada S<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 松田範子<sup>2)</sup>, 松久威史 , 山田宣孝<sup>3)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, Wuthikarn S<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> チェンマイ大学外科 , タイ王国 , チェンマイ , <sup>2)</sup> 付属病院第一外科 , <sup>3)</sup> 病理学第二 ) : Genetic difference of CYP2C19 single nucleotide polymorphisms in four Asian countries . 第 87 回日本消化器病学会総会 , 2001 . 4 .
- 2) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Dong E Y<sup>3)</sup>, Le K S<sup>4)</sup>, Tomtitchong P<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科 , <sup>2)</sup> 病理学第二 , <sup>3)</sup> 中日友好医院消化器内科 , 中華人民共和国 , 北京 , <sup>4)</sup> チュンブン救急センター消化器科 , ベトナム社会主義共和国 , ホー ・ チ ・ ミン , <sup>5)</sup> タマサト大学外科 , タイ王国 , バンコク : An observation of glandular atrophy and intestinal metaplasia in accordance with *Helicobacter pylori* infection in Japanese compared to other Asian people . Digestive Disease Week in USA ( USA, Atlanta ), 2001 . 5 .
- 3) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Dong E Y<sup>3)</sup>, Lin Y K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科 , <sup>2)</sup> 病理学第二 , <sup>3)</sup> 中日友好医院消化器内科 , 中華人民共和国 , 北京 , <sup>4)</sup> 福州医科大学外科 , 中華人民共和国 , 福州 ) : Gastric atrophy and corpus gastritis/antrum gastritis ratio in relation to *Helicobacter pylori* infection in Chinese ( Beijing and Fuzhou ) : Age, gender and endoscopic diagnosis matched study with Japanese . The second Sino-Japan Digestive Tumor Congress ( 中華人民共和国 , 広州 ) , 2001 . 12 .
- 4) Yamada N<sup>1)</sup>, Matsuhisa T ( <sup>1)</sup> 病理学第二 ) : Geographic pathology of *Helicobacter pylori* infection-Comparative study in 9 regions among Asian 4 races- . The second Sino-Japan Digestive Tumor Congress ( 中華人民共和国 , 広州 ) , 2001 . 12 .
- 5) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Kuwabara K<sup>2)</sup>, Yamada N<sup>3)</sup>, Tomtitchong P<sup>4)</sup>, Yamada S<sup>5)</sup>, Boonyaritchaikij S<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院小児科 , <sup>3)</sup> 病理学第二 , <sup>4)</sup> タマサト大学外科 , タイ王国 , バンコク , <sup>5)</sup> チェンマイ大学外科 , タイ王国 , チェンマイ , <sup>6)</sup> チェンマイ大学家庭医学 , タイ王国 , チェンマイ ) : Study of *Helicobacter pylori* infection in Thai adult and children comparing with Japanese . 世界消化器病学会 ( タイ王国 , バンコク ) , 2002 . 2 .
- 6) Yoshimura J, Matsukura T : Study of infective disease ( lues, hepatitis B and hepatitis C ) in patients with endoscopic examination . 世界消化器病学会 ( タイ王国 , バンコク ) , 2002 . 2 .
- 7) 松久威史 , 芳村昇治 , 日下部史郎 , 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 , <sup>2)</sup> 病理学第二 ) : *Helicobacter pylori* 除菌後の長期予後 食道 , 胃 , 十二指腸病変の観察 . 第 61 回日本消化器内視鏡学会総会 ,

2001 . 5 .

- 8) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎:  $^{13}\text{C}$  - 酢酸呼吸試験による胃運動能の評価 . 第20回東京 *Helicobacter pylori* 研究会, 2001 . 6 .
- 9) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科, <sup>2)</sup> 病理学第二 ): ベトナム人と日本人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の比較観察 . 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001 . 6 .
- 10) 芳村昇治, 松久威史: 内視鏡検査時に行った感染症検査成績についての検討 . 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001 . 6 .
- 11) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎, 井上泰夫, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第二 ): *Helicobacter pylori* 除菌後に発生した食道, 胃, 十二指腸病変の内視鏡的観察 . 第7回日本ヘリコバクター学会, 2001 . 6 .
- 12) 松久威史, 松田 健<sup>1)</sup>, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>3)</sup>, 山田宣孝<sup>4)</sup>, Boonyaritchaikij S<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院小児科, <sup>3)</sup> 付属病院第一外科, <sup>4)</sup> 病理学第二, <sup>5)</sup> チェンマイ大学家庭医学, タイ王国, チェンマイ ): タイ人小児における *Helicobacter pylori* 感染 日本人小児との比較 . 第7回日本ヘリコバクター学会, 2001 . 6 .
- 13) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第二 ): NSAIDs長期服用慢性関節リウマチ患者における消化性潰瘍の臨床的観察 胃炎を含めて . 潰瘍病態研究会第10回フォーラム, 2001 . 8 .
- 14) 日下部史郎, 松久威史: *Helicobacter pylori* 陽性びらん ( 症状 ) 性胃炎における除菌療法の効果 非除菌例との比較を含めて . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 15) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第二 ): *Helicobacter pylori* 感染率の地域差に関する検討 付属第一病院 ( 千代田区 ) と付属多摩永山病院 ( 多摩市 ) の比較 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 16) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎:  $^{13}\text{C}$  - 酢酸呼吸試験, アセトアミノフェン法からみた消化性潰瘍患者の胃運動能 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 17) 芳村昇治, 日下部史郎, 松久威史: 当内視鏡科における上部消化管緊急内視鏡検査症例の検討 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 18) 河本陽子<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 須田浩光<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 林 匡<sup>2)</sup>, 富樫晃祥<sup>2)</sup>, 三樹勝<sup>2)</sup>, 松久威史, 三宅一昌<sup>3)</sup>, 坂元優美<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第二, <sup>2)</sup> 第一外科, <sup>3)</sup> 第三内科 ): *H. pylori* 感染の検討: 鏡検法感染率と抗体陽性率の比較 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 19) 大川敬一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>2)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之, 中村孝<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高嶋良樹<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 沖浜祐司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 松久威史 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院消化器科 ): 当科における食道癌の治療成績 縦隔鏡補助下食道抜去術の有用性について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 20) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第二 ): *Helicobacter pylori* 除菌療法に伴う上部消化管病変の内視鏡的検討 . 第15回日本臨床内科医学会, 2001 . 10 .
- 21) 芳村昇治, 松久威史: 内視鏡検査受診者における感染症 ( 梅毒, B型, C型肝炎 ) 検査成績の検討 . 第15回日本臨床内科医学会, 2001 . 10 .
- 22) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科, <sup>2)</sup> 病理学第二 ): 中国 ( 北京, 福州 ) と日本における胃十二指腸潰瘍疾患, *Helicobacter pylori* 感染の観察 . 第43回日本消化器病学会大会, 2001 . 10 .
- 23) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第一外科, <sup>2)</sup> 病理学第二 ): ペプシノゲン値からみたアジア人の胃粘膜 *Helicobacter pylori* 感染別観察 . 第62回日本消化器内視鏡学会総会, 2001 . 10 .
- 24) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第二 ): *Helicobacter pylori* 感染率の地域差に関する検討 東京都千代田区と多摩市の比較 . 第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001 . 12 .



- 25) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第一外科, <sup>2)</sup> 病理学第二): *Helicobacter pylori* 陽性アジア人高齢者における組織学的胃炎の胃内分布 日本人高齢者と比較観察 . 第4回日本高齢消化器医学会議, 2002 . 1 .
- 26) 日下部史郎, 芳村昇治, 松久威史, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部): *Helicobacter pylori* 除菌療法により治癒期間が短縮した活動期胃潰瘍の1例 . 日本医科大学医学会第106回例会, 2002 . 2 .
- 27) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第二): これからの *Helicobacter pylori* 除菌 regimen の検討 . 日本医科大学医学会第106回例会, 2002 . 2 .
- 28) 芳村昇治, 日下部史郎, 松久威史: 上部消化管緊急内視鏡検査例の観察 消化性潰瘍を中心に . 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002 . 2 .
- 29) 加藤晴一<sup>1)</sup>, 今野武津子<sup>2)</sup>, 米沢俊一<sup>3)</sup>, 虹川大樹<sup>4)</sup>, 中里 豊<sup>5)</sup>, 鍵本聖一<sup>6)</sup>, 清水俊明<sup>7)</sup>, 松久威史<sup>8)</sup>, 豊田茂<sup>9)</sup>, 田尻 仁, 位田 忍<sup>10)</sup>, 芳村文一<sup>11)</sup>, 奥田真珠美<sup>12)</sup>, 藤沢卓爾<sup>13)</sup>(<sup>1)</sup> 東北大学小児科, <sup>2)</sup> 札幌厚生病院, <sup>3)</sup> もりおかこども病院, <sup>4)</sup> 岩手県立中央病院, <sup>5)</sup> 社会保険大宮総合病院, <sup>6)</sup> 埼玉県立小児医療センター, <sup>7)</sup> 順天堂大学小児科, <sup>8)</sup> 神奈川県衛生看護専門学校付属病院小児科, <sup>9)</sup> 大阪大学小児発育医学, <sup>10)</sup> 大阪府立母子保健総合医療センター, <sup>11)</sup> 和歌山労災病院小児科, <sup>12)</sup> 藤沢こどもクリニック): 小児における<sup>13</sup>C尿素呼吸試験(UBT)のcutoff値と妥当性の検討: 多施設共同研究 . 第6回日本小児 *Helicobacter pylori* 研究会, 2002 . 3 .
- 30) 加藤晴一<sup>1)</sup>, 今野武津子<sup>2)</sup>, 米沢俊一<sup>3)</sup>, 虹川大樹<sup>4)</sup>, 中里 豊<sup>5)</sup>, 鍵本聖一<sup>6)</sup>, 清水俊明<sup>7)</sup>, 松久威史<sup>8)</sup>, 豊田茂<sup>8)</sup>, 太田浩良<sup>9)</sup>, 熊谷俊子<sup>9)</sup>, 田尻 仁<sup>10)</sup>, 位田 忍<sup>10)</sup>, 芳村文一<sup>11)</sup>, 奥田真珠美<sup>12)</sup>, 藤沢卓爾<sup>13)</sup>(東北大学小児科<sup>1)</sup>, 札幌厚生病院<sup>2)</sup>, もりおかこども病院<sup>3)</sup>, 岩手県立中央病院<sup>4)</sup>, 社会保険大宮総合病院<sup>5)</sup>, 埼玉県立小児医療センター<sup>6)</sup>, 順天堂大学小児科<sup>7)</sup>, 神奈川県衛生看護専門学校付属病院小児科<sup>8)</sup>, 信州大学中央検査部<sup>9)</sup>, 大阪大学小児発育医学<sup>10)</sup>, 大阪府立母子保健総合医療センター<sup>11)</sup>, 和歌山労災病院小児科<sup>12)</sup>, 藤沢こどもクリニック<sup>13)</sup>): 小児における便中抗原検査 (HpSA) の有用性の検討: 多施設共同研究 . 第6回日本小児 *Helicobacter pylori* 研究会, 2002 . 3 .
- 31) 松久威史, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, Le Kim S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院小児科, <sup>2)</sup> 病理学第二, <sup>3)</sup> チュンブン救急センター消化器科, ベトナム社会主義共和国, ホー・チ・ミン): ベトナム人小児における *Helicobacter pylori* 感染の観察 . 第6回日本小児 *Helicobacter pylori* 研究会, 2002 . 3 .
- 32) 山田宣孝<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 松久威史 (病理学第二<sup>1)</sup>): ピロリ菌感染と粘膜萎縮, 腸上皮化生の関係の組織学的検討 地域差, 民族差による解析 (第4報) . 第91回日本病理学会総会, 2002 . 3 .

## 11. 脳神経外科学講座

### [ 付属病院脳神経外科 ]

#### 研究概要

平成13年度当教室における論文業績は、英文25編、和文34編の計59編であった。英文論文の内訳は、下垂体腫瘍13編、他の脳腫瘍9編、神経外傷2編、脳血管障害1編であり、基礎的研究17編、臨床的研究8編であった。一方、和文論文は下垂体腫瘍13編、他の脳腫瘍6編、脳血管障害6編、その他9編であり、基礎的研究8編、臨床的研究26編であった。これに、分担著書として、英文1編（下垂体腫瘍1編）と和文23編が加わる。編集は寺本教授による英文1巻（J Neuro-Oncol）、和文3巻であった。学会発表は計228回あり、内国際学会27回、国内学会201回であった。

当教室の研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれており、脊髄グループができてつある。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者数も多く基礎の教室や老人病研究所、更には他大学との関連が深く、従って業績も最も多い。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的及び臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告が多くみられた。一方、脳血管障害や神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績、特に英文論文業績が不十分であるといわざるを得ない。特にこれらの分野での基礎的研究の核になるスタッフの不足が論文業績に反映している。しかし、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もおり、今後症例報告を含めて臨床的研究を進めていく予定である。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助手以上には科研費応募を義務としている。勿論個人間の偏りはあるが、現教室員数からみるとこれらの条件は十分に満たしているものと思われる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yoshida S<sup>1)</sup>, Fukino K, Harada H<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Imoto I<sup>2)</sup>, Inazawa J<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Teramoto A, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): The c-Jun NH<sub>2</sub>-terminal kinase3 ( JNK3 ) gene : genomic structure, chromosomal assignment, and loss of expression in brain tumors . J Hum Genet 2001 ; 46 ( 4 ) : 182-187 .
- 2) Kim K<sup>1)</sup>, Arai K<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A, Shibasaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Physiology ): The expression of thyrotrophin-releasing hormone receptor 1 messenger ribonucleic acid in human pituitary adenomas . Clin Endocrinol 2001 ; 54 ( 3 ) : 309-316 .
- 3) Yamada SM, Hayashi Y, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A, Matsumoto K, Yamada S ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Histological and genetic diagnosis of gliomatosis cerebri : case report . J Neuro-Oncol 2001 ; 52 ( 3 ) : 237-240 .
- 4) Fukino K, Umeoka K, Kitamura T, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Cortical dysplasia with subcutaneous angioma and dilated dural venous sinuses . J Neuroradiol 2001 2001 ; 28 ( 2 ) : 127-129 .
- 5) Kim K<sup>1)</sup>, Arai K<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>3)</sup>, Teramoto A, Shibasaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery,

- Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Physiology , <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Ghrelin and growth hormone ( GH ) secretagogue receptor ( GHSR ) mRNA expression in human pituitary adenomas . Clin Endocrinol 2001 ; 54 ( 6 ) : 759-768 .
- 6 ) Arai K<sup>1)</sup>, Kim K<sup>2)</sup>, Kaneko K<sup>1)</sup>, Iketani M<sup>1)</sup>, Otagiri A<sup>1)</sup>, Yamauchi N<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Physiology , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Nicotine infusion alters leptin and uncoupling protein 1 mRNA expression in adipose tissues of rats . Am J Physiol Endocrinol Metab 2001 ; 280 ( 6 ) : E867-E876 .
- 7 ) Murai Y, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusou Hospital Nippon Medical School ): Spontaneous regression of a germinoma in the pineal body after placement of a ventriculoperitoneal shunt . J Neurosurg 2001 ; 94 ( 6 ) : 1022-1023 .
- 8 ) Kojima T, Mizumura S<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Is technetium-99m-MIBI taken up by the normal pituitary gland? A comparison of normal pituitary glands and pituitary adenomas . Ann Nucl Med 2001 ; 15 ( 4 ) : 321-327 .
- 9 ) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M, Watanabe K, Takahashi H<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Induction of apoptosis by estramustine phosphate mediated by phosphorylation of bcl-2 . J Neuro-Oncol 2001 ; 54 ( 1 ) : 23-29 .
- 10 ) Kurotani R<sup>1)</sup>, Yasuda M<sup>1)</sup>, Oyama K, Egashira N<sup>1)</sup>, Sugaya M<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Expression of interleukin-6, interleukin-6 receptor ( gp80 ), and the receptor's signal-transducing subunit ( gp130 ) in human normal pituitary glands and pituitary adenomas . Mod Pathol 2001 ; 14 ( 8 ) : 791-797 .
- 11 ) Oyama K, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Expression of Neuro D1 in human normal pituitaries and pituitary adenomas . Mod Pathol 2001 ; 14 ( 9 ) : 892-899 .
- 12 ) Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Thyrotropin-secreting pituitary adenomas. Clinical and biological heterogeneity and current treatment . J Neuro-Oncol 2001 ; 54 ( 2 ) : 179-186 .
- 13 ) Kim K<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Mizunari T<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusou Hospital Nippon Medical School ): Aneurysm of the distal posteroinferior cerebellar artery of extracranial origin : case report . Neurosurg 2001 ; 49 ( 4 ) : 996-999 .
- 14 ) Sasaki M, Dunn L : A model of acute subdural hematoma in the mouse . J Neurotrauma 2001 ; 18 ( 11 ) : 1241-1246 .
- 15 ) Laurer HL, Bareyre FM, Lee VM, Trojanowski JQ, Longhi L, Hoover R, Saatman KE, Raghupathi R, Hoshino S, Grady MS, McIntosh TK : Mild head injury increasing the brain's vulnerability to a second concussive impact . J Neurosurg 2001 ; 95 ( 5 ) : 859-870 .
- 16 ) Umeoka K, Sanno N<sup>1)</sup>, Oyama K, Tahara S, Kurotani R<sup>2)</sup>, Ikuyama S<sup>3)</sup>, Nakashima M<sup>4)</sup>, Watanabe T<sup>4)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Clinical Immunology, Medical Institute of Bioregulation, Kyushu University , <sup>4)</sup> Department of Molecular Immunology, Medical Institute of Bioregulation, Kyushu University ): Immunohistochemical analysis of RCAS1 in human pituitary adenomas . Mod Pathol 2001 ; 14 ( 12 ) : 1232-1236 .

- 17) Sanno N<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): A case of solitary fibrous tumor of the meninges . Brain Tumor Pathol 2001 ; 18 ( 1 ): 43-47 .
- 18) Komatsubara K, Tahara S, Umeoka K, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Immunohistochemical analysis of p27 ( Kip1 ) in human pituitary glands and in various types of pituitary adenomas . Endocr Pathol 2001 ; 12 ( 2 ): 181-188 .
- 19) Sanno N<sup>1)</sup>, Tahara S, Kurotani R<sup>2)</sup>, Matsuno A<sup>3)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital ): Cytochemical and molecular biological aspects of the pituitary and pituitary adenomas-cell differentiation and transcription factors . Prog Histochem Cytochem 2001 ; 36 ( 4 ): 263-299 .
- 20) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M, Watanabe K, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Novel approach to analysis of in vitro angiogenesis with a variable-pressure scanning electron microscope : suppression by matrix metalloproteinase inhibitor SI-27 . Brain Tumor Pathol 2001 ; 18 ( 2 ): 89-100 .
- 21) Tanaka T, Hanew K, Nishi Y, Teramoto A : Final height of growth hormone ( GH ) -treated short children registered at the foundation for growth science in Japan : Comparison between the pituitary human GH era and the recombinant human GH era . Clin Pediatr Endocrinol 2001 ; 10 : 53-62 .
- 22) Maesaka A, Nagaishi J, Itoh M, Teramoto A : A ten-year old male with bromocriptine resistant PRL and GH-producing huge pituitary adenoma . Clin Pediatr Endocrinol 2001 ; 10 ( suppl 15 ): 51-54 .
- 23) Shimura T<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Fukino K, Node Y, Teramoto A, Kawamoto M<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Detection of Epstein-Barr virus DNA and expression of CD30 antigen in primary anaplastic diffuse large B-cell lymphoma of the brain . Brain Tumor Pathol 2001 ; 18 : 161-165 .
- 24) Umeoka K, Sanno N<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Expression of GATA-2 in human pituitary adenomas . Mod Pathol 2002 ; 15 ( 1 ): 11-17 .
- 25) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M, Watanabe K, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): SI-27, a novel inhibitor of matrix metalloproteinases with antiangiogenic activity : detection with a variable-pressure scanning electron microscope . Neurosurgery 2002 ; 50 ( 3 ): 578-587 .
- 26) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 高石康子<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 吉田陽一, 高木 亮<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>小児科学, <sup>2)</sup>放射線医学 ): 小児脳動静脈奇形の三次元CT血管造影法 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 2 ): 96-97 .
- 27) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>第二病院脳神経外科 ): 脳神経外科領域におけるMRSA肺炎に対する補中益気湯の効果 . 漢方医 2001 ; 25 ( 2 ): 76-77 .
- 28) 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 非機能性下垂体腺腫の病態と治療 . 内分泌糖尿病科 2001 ; 12 ( 3 ): 293-299 .
- 29) 寺本 明 : 脳神経外科と保険医療 . 脳神経外科 2001 ; 29 ( 5 ): 382-383 .
- 30) 梅岡克哉, 長村義之<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 分子病理学的手法による下垂体腺腫の機能分化の解析と分類 . 脳と神経 2001 ; 53 ( 7 ): 617-622 .
- 31) 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 大山健一, 梅岡克哉, 黒谷玲子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外

- 科,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 同一腺腫にACTHとGHの発現が認められたCushing病の1例。ホルモンと臨床 内分泌病理学最近の進歩2001 2001; 49(夏季増刊号): 71-77.
- 32) 大山健一, 周東祐仁<sup>1)</sup>, 田原重志, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 寺本 明, 若林一二<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第三,<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における成長ホルモン分泌惹起物質受容体GHS-Rの発現に関する免疫組織化学的検討。ホルモンと臨床 内分泌病理学最近の進歩2001 2001; 49(夏季増刊号): 43-47.
- 33) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 下垂体腺腫。ブレインナーシング 2001; (夏季増刊号): 125-131.
- 34) 梅岡克哉, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 大山健一, 田原重志, 黒谷玲子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 渡辺 武<sup>3)</sup>, 中島 学<sup>3)</sup>, 生山祥一郎<sup>4)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学,<sup>3)</sup>九州大学生体防御医学研究所感染防御学部門,<sup>4)</sup>九州大学生体防御医学研究所臨床免疫学部門): 下垂体腺腫におけるRCAS1の発現。日内分泌会誌 2001; 77(Suppl): 29-30.
- 35) 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 老年脳神経外科の最前線: 脳腫瘍(下垂体腺腫)。Clin Neurosci 2001; 19(9): 81-84.
- 36) 酒井直之<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター,<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 橈骨動脈グラフトが奏効した医原性内頸動脈解離の1例。脳神経外科 2001; 29(9): 837-841.
- 37) 田原重志, 寺本 明: 視床下部-下垂体疾患の診断基準・治療のガイドラインUPDATE: 下垂体・海綿静脈洞サンプリング。ホルモンと臨 2001; 49(11): 103-107.
- 38) 山下陽一, 林 伸吉, 齋藤寛浩, 寺本 明: 小脳出血性梗塞にて発症した後下小脳動脈解離性動脈瘤の1例: 経済的脳血管撮影による変化について。脳神経外科 2001; 29(11): 1057-1062.
- 39) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治, 中林基明<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター,<sup>2)</sup>昭和大学医学部脳神経外科): クモ膜下出血患者における脳脊髄液および血清中S-100 蛋白の測定: 機能予測の予後。救急集中治療 2001; 13(1): 147-148.
- 40) Yamada S, 山田昌興: tethered cord syndrome 手術適応と手術法。新世代の整形外科手術 2001; 12: 33-40.
- 41) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 足立好司, 山口文雄, 林 靖人, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 当科における悪性グリオーマ治療の再検討。J Neuro-Oncol 2001; 11(1): 41-44.
- 42) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 山田昌興, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 高血圧を有する脳梗塞後遺症に対する塩酸ニホジピンの効果。老年医学 2001; 39(10): 1669-1674.
- 43) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍と性差。性差医学 2001; 7: 15-19.
- 44) 寺本 明: Cushing病の診断と治療。脳神経外科ジャーナル 2001; 10(2): 86-91.
- 45) 田中敏章<sup>1)</sup>, 藤枝憲二<sup>2)</sup>, 羽二生邦彦<sup>2)</sup>, 西 美和<sup>2)</sup>, 立花克彦<sup>2)</sup>, 横谷 進<sup>2)</sup>, 五十嵐裕<sup>2)</sup>, 平野岳毅<sup>2)</sup>, 藤田敬之助<sup>2)</sup>, 寺本 明, 肥塚直美<sup>2)</sup>, 島津 章<sup>2)</sup>, 田中弘之<sup>2)</sup>, 谷澤隆邦<sup>2)</sup>, 長谷川行洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>羽二生クリニック,<sup>2)</sup>成長科学協会成長ホルモン治療研究専門委員会): 成長ホルモン分泌不全性低身長症における遺伝子組換え成長ホルモン治療による最終身長正常化の割合。日小児会誌 2001; 105(5): 546-551.
- 46) 星野 茂, 池田幸弥<sup>1)</sup>, 朝倉隆之, 古川哲也, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>中外製薬富士御殿場研究所,<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター): アルツハイマー病型プレセニン1遺伝子変異マウスに対する脳外傷の影響。老人病研究所紀要 2001; 10: 20-25.
- 47) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳卒中後の難知性麻痺性イレウスに対する大建中湯の効果。漢方医 2002; 25(6): 273-275.
- 48) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): in situ PCR法。医学のあゆみ知っておきたい200words 2002; 200(13): 1027-1028.

- 49) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 松野 彰<sup>2)</sup>, 寺本 明, 長村義之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>帝京大学医学部市原病院脳神経外科, <sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): [特集]内分泌腫瘍病理の最近の展開I, 下垂体 3. 視床下部ホルモン産生下垂体腺腫. 病理と臨 2002 ; 20 (3): 251-255 .
- 50) 横堀将司<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 益子士郎<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 重症多発外傷に合併した内頸動脈損傷に対し脱着式バルーン塞栓術が有効であった1例. 日救医会 2002 ; 13 (4): 209-214 .
- 51) 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 野手洋治, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 松園幸雅<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>付属病院高度救命救急センター): 臓器提供施設からみた臓器提供手順の問題点. 日救医会 2002 ; 13 (2): 73-77 .

(2) 綜説 :

- 1) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 未分化な脳腫瘍細胞と神経幹細胞とは関連があるか. Clin Neurosci 2001 ; 19 (7): 123 .
- 2) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳幹グリオーマの手術. Clin Neurosci 2001 ; 19 (11): 102-103 .
- 3) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 症状と病気シリーズ26 脳にできる治る腫瘍 大人と子供の違いから. BRAIN 2002 ; 66 : 6-8 .
- 4) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 小児神経外科の主な疾患と最新の治療 ; 脳腫瘍-テント下腫瘍. Clin Neurosci 2002 ; 20 (3): 323-328 .
- 5) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): Journal and book review ; Intracystic chemotherapy with bleomycin in the treatment of craniopharyngioma . 小児の脳神経 2002 ; 27 (1): 60-61 .
- 6) 喜多村孝幸: 頭痛の臨床 ; 脳神経外科の立場から . 不定愁訴 2002 ; 50 : 20-32 .
- 7) 喜多村孝幸: 顔貌でわかる脳疾患 . プレーンナーシング 2002 ; 18 : 27-31 .
- 8) 喜多村孝幸: 片頭痛治療薬コハク酸スマトリプタン . カレントセラピー 2002 ; 20 : 194-196 .

著 書

- 1) Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamagayama Hospital, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Tokai University of Medicine): [分担] Tyramide amplification in immunohistochemistry . Morphology Methods : Cell and Molecular Biology Techniques ( R. V. Lloyd ), 2001 ; pp267-276 , Human Press .
- 2) Teramoto A : [編集] Special issue 'Pituitary adenomas : their pathogenesis and recent management' . J Neuro-Oncol, 2001 ; Kluwer Academic Publishers ( Boston ) .
- 3) 山口文雄, 寺本 明 : [分担] 術中大脳皮質電気刺激法 . Clin Neurosci, 2001 ; pp480-481 , 中外医学社 .
- 4) 星野 茂 : [分担] Neuroimaging Quiz : 急性散在性脳脊髄炎 . Clin Neurosci, 2001 ; pp483-484 , 中外医学社 .
- 5) 山口文雄 : [分担] Neuroimaging Quiz : dural AVF を合併した横静脈洞血栓症 . Clin Neurosci, 2001 ; pp589-590 , 中外医学社 .
- 6) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz : 部分血栓化内頸動脈巨大動脈瘤の1例 . Clin Neurosci, 2001 ; pp711-712 , 中外医学社 .
- 7) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz : 脳梗塞 . Clin Neurosci, 2001 ; pp842-843 , 中外医学社 .
- 8) 喜多村孝幸, 間中信也 : [共著] もう頭痛で悩まない, 2001 ; pp1-213 , 主婦と生活社 .
- 9) 山王なほ子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz : 側頭骨のchondroblastoma (軟骨芽細胞腫) . Clin Neurosci, 2001 ; pp943-944 , 中外医学社 .
- 10) 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): [分担] 頸動脈内膜剥離術の適応と実際 . 脳卒中八

- ンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp166-171, ヴァンメディカル .
- 11) 水成隆之<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): [ 分担 ] 頭蓋骨・内バイパス術の適応と実際 . 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp172-176, ヴァンメディカル .
  - 12) 小南修史<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): [ 分担 ] 脳外科手術の進歩 . 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp191-195, ヴァンメディカル .
  - 13) 野手洋治, 寺本 明: [ 分担 ] 臨床病型の病態と治療: 脳動静脈奇形 . 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp114-116, ヴァンメディカル .
  - 14) 野手洋治, 寺本 明: [ 分担 ] 臨床病型の病態と治療: もやもや病 . 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp117-119, ヴァンメディカル .
  - 15) 野手洋治, 寺本 明: [ 分担 ] 臨床病型の病態と治療: 脳内海綿状血管腫 . 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp120-121, ヴァンメディカル .
  - 16) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : Megacisterna magna に合併した後頭蓋窩 arachnoid cyst . Clin Neurosci, 2001 ; pp1065-1066, 中外医学社 .
  - 17) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : Hemangiopericytoma . Clin Neurosci, 2001 ; pp1187-1188, 中外医学社 .
  - 18) 寺本 明: [ 編集 ] コンピュータ支援手術 . 脳神経外科 Advanced Practice4, 2001 ; メジカルビュー社 .
  - 19) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : Galen 大静脈瘤 . Clin Neurosci, 2001 ; pp1305-1306, 中外医学社 .
  - 20) 足立好司: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 類上皮腫 . Clin Neurosci, 2001 ; pp1423-1424, 中外医学社 .
  - 21) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): [ 分担 ] 下垂体腺腫 . プレインナーシング 夏季増刊号, 2001 ; pp125-131, メディカ出版 .
  - 22) 星野 茂, 寺本 明: [ 分担 ] こんなときどうする? 緊急対応シミュレーション1 頭部・脊髄外傷 . プレインナーシング, 2001 ; pp116-122, メディカ出版 .
  - 23) 寺本 明: [ 編集 ] 第11回臨床内分泌代謝 Update : 抄録集 . 日本内分泌学会雑誌 76 suppl, 2001 ; 1 .
  - 24) 寺本 明: [ 編集 ] 第11回臨床内分泌代謝 Update : Proceeding . 日本内分泌学会雑誌 77 suppl, 2001 ; 1 .
  - 25) 野手洋治: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 頭蓋骨 osteoblastoma . Clin Neurosci, 2002 ; pp107-108, 中外医学社 .
  - 26) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : Rt. lacrimal grand tumor (mixed type adenoma) . Clin Neurosci, 2002 ; pp227-228, 中外医学社 .
  - 27) 星野 茂: [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 原発性悪性リンパ腫 髄腔内播種 . Clin Neurosci, 2002 ; pp350-351, 中外医学社 .
  - 28) 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明, 長嶋和郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>北海道大学医学部分子細胞病理学): [ 分担 ] VII. 脳腫瘍 2. PNET (primitive neuroectodermal tumor) . Annual Review 神経, 2002 ; pp172-177, 中外医学社 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) Teramoto A : Recent manegment of pituitary adenomas . 2001 Annual Meeting of Korean Brain Tumor Society ( Seoul, Korea ), 2001 . 6 .
- 2) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍の診断と治療 . 第3回高知県脳神経外科セミナー, 2001 . 6 .
- 3) 足立好司: 本学における悪性リンパ腫症例の治療成績 . 千駄木ニューロカンファレンス, 2001 . 7 .
- 4) 喜多村孝幸: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性 . 千駄木ニューロカンファレンス, 2001 . 7 .

- 5) 喜多村孝幸：片頭痛治療の新たなる展開．墨田区3医師会合同学術講演会，2001．7．
  - 6) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術の合併症とその対策：1, 300例の経験から．第2回東北海道脳神経外科研究会，2001．7．
  - 7) 寺本 明：Cushing病の診断と治療：最近の動向．第2回大阪ニューロサイエンス，2001．7．
  - 8) 寺本 明：脳腫瘍の治療と看護の要点．第9回脳神経外科看護教育研修会，2001．7．
  - 9) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：脳腫瘍，脊髄腫瘍に対するEMSシステムの使用経験．釧路脳神経外科学会研究会，2001．7．
  - 10) 喜多村孝幸：片頭痛の治療：片頭痛治療の最前線．ADITUS Japan 東京ミ - ティング，2001．8．
  - 11) 寺本 明：経蝶形骨手術1, 262例における合併症．第2回舞連カンファランス，2001．8．
  - 12) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科)：ボケ症状を呈する脳外科の病気．稲城ロータリークラブ特別講演会，2001．9．
  - 13) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：脳梗塞急性期の治療；最新の課題．平成13年度千葉県病院薬剤師会北部支部研修会，2001．10．
  - 14) 山王なほ子<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科)：下垂体卒中．第22回多摩地区脳卒中研究会，2001．11．
  - 15) 喜多村孝幸：片頭痛治療の最前線．ADITUS Japan 新潟ミーティング，2001．11．
  - 16) 喜多村孝幸：脳神経外科における頭痛治療．千代田区医師会・神田医師会合同学術講演会，2001．11．
  - 17) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：虚血性脳血管障害の外科的治療．第2回千葉県北総地区脳卒中フォーラム，2001．11．
  - 18) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：Anterior temporal approach の有用性について．木曜会特別講演会，2001．11．
  - 19) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：NBCAを用いた脳動脈奇形の血管内治療．木曜会特別講演会，2001．11．
  - 20) 喜多村孝幸：最新の頭痛治療．広島県内科医会学術講演会，2001．12．
  - 21) 寺本 明：下垂体腫瘍の診断と治療．山形大学大学院特別講義，2001．12．
  - 22) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科)：小児頭部外傷の臨床：Battered Child Syndrome (被虐待児症候群)の経験から成人頭部外傷との比較を中心に．多摩市医師会学術講演会，2002．1．
  - 23) 喜多村孝幸：脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性．釧路脳神経外科懇話会，2002．1．
  - 24) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と展望．名古屋頭痛研究会，2002．1．
  - 25) 山口文雄：脳腫瘍手術におけるBISの有用性．木曜会特別講演会，2002．2．
  - 26) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，中村俊孝<sup>1)</sup>，松本亮司<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>釧路労災病院脳神経外科)：腰椎脊柱管狭窄症の画像診断．第72回東北海道脳神経外科集団会，2002．2．
  - 27) 喜多村孝幸：頭痛とは？．「頭痛の日」記念講演会，2002．2．
  - 28) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．名古屋頭痛治療学会，2002．2．
- (2) 教育講演：
- 1) Teramoto A：Surgical indication of prolactinomas．12th World Congress of Neurosurgery (Sydney, Australia), 2001．9．
  - 2) Teramoto A：Complications of transsphenoidal surgery in 1, 262 patients with pituitary tumour．12th World Congress of Neurosurgery (Sydney, Australia), 2001．9．
  - 3) 野手洋治：頭蓋形成術の最先端．第21回日本脳神経外科コンgres総会，2001．5．
  - 4) 野手洋治，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，中林基明<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>高度救命救急センター)：重症くも膜下出血の治療方針．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．
  - 5) 喜多村孝幸：脳神経外科における頭痛治療．ファイザー教育セミナー，2001．11．



### (3) シンポジウム：

- 1) 寺本 明：脳神経外科における保険医療上の問題点．第21回日本脳神経外科コンgres総会，2001．5．
- 2) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：地域に根ざした民間病院間の連携．第43回全日本病院学会，2001．10．
- 3) 草薨博昭<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科)：漢方製剤と感染症：どのような症例に使用すべきか．第10回日本脳神経外科漢方医学会学術集会，2001．11．
- 4) 喜多村孝幸，田原重志，寺本 明：脳室内腫瘍30例における神経内視鏡手術の有用性．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．11．
- 5) 野手洋治，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>高度救命救急センター)：卒前救急医学教育の現状と理想像．第29回日本救急医学会総会・学術集会，2001．11．
- 6) 高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>第二病院脳神経外科)：悪性脳腫瘍に対する漢方療法：動物実験と臨床例からみた検討．第10回日本脳神経外科漢方医学会学術集会，2001．11．
- 7) 足立好司，横田 隆<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2</sup>第二病院脳神経外科)：cDNA マイクロアレイによるヒトグリオーマ細胞の遺伝子発現解析．第10回日本脳腫瘍カンファレンス，2001．12．
- 8) 喜多村孝幸，田原重志，李 鋭，寺本 明：第三脳室開窓術における再手術例の検討．第8回日本神経内視鏡研究会，2001．12．
- 9) 喜多村孝幸，田原重志，李 鋭，寺本 明：脳室内病変に対するファイバースコープの有用性．第8回日本神経内視鏡研究会，2001．12．
- 10) 渥美生弘<sup>1)</sup>，星野 茂，古川哲也，朝倉隆之，小林士郎<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>高度救命救急センター，<sup>2</sup>千葉北総病院脳神経センター)：ラット実験頭部外傷に対するラジカットの効果について．第13回神経損傷の基礎シンポジウム，2001．12．
- 11) 古川哲也，星野 茂，朝倉隆之，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：実験的頭部外傷に対するAMPA受容体拮抗薬YM872の効果．第13回神経損傷の基礎シンポジウム，2001．12．

### (4) パネルディスカッション：

- 1) 野手洋治，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，中林基明<sup>1)</sup>，荒木 尚<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>高度救命救急センター)：重症くも膜下出血に対する治療成績におけるEBM．第4回日本臨床救急医学会総会，2001．4．

### (5) セミナー：

- 1) 喜多村孝幸，寺本 明，Gaab MR：脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の基本的な手技とその要点・注意点．第21回日本脳神経外科コンgres総会，2001．5．
- 2) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：Meningiomaに対する液体塞栓．第2回脳神経血管内治療琉球セミナー，2001．6．
- 3) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：治療のリスクが高いと予想されるcervical spinal AVM．第29回関東脳神経血管内手術セミナー，2001．12．
- 4) 喜多村孝幸：保険適応後の神経内視鏡手術．第22回日本脳神経外科コンgres総会，2002．3．

### (6) ワークショップ：

- 1) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院脳神経センター)：Orbitocranial approach for Acom aneurysm．第20回The Mt. Fuji Workshop on CVD，2001．8．

### (7) 一般講演：

- 1) Suzuki N<sup>1)</sup>，Kobayashi S<sup>1)</sup>，Terao T<sup>1)</sup>，Murai Y<sup>1)</sup>，Mizunari T<sup>1)</sup>，Okada S<sup>2)</sup>，Teramoto A (<sup>1</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>2</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital)：Clinical importance of T2\* weighted Magnetic Resonance Image in the di-

- agnosis of closed head injury . 69th AANS Annual Meeting ( Toronto, USA ), 2001 . 4 .
- 2) Sanno N<sup>1)</sup>, Tahara S, Oyama K, Osamura RY<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagatama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Clinicopathological features of sixteen cases with thyrotropin secreting pituitary adenoma . The Endocrine Society's 83rd Annual Meeting ( Denver, USA ), 2001 . 6 .
  - 3) Kojima T, Mizumura S<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>1)</sup>, Kitamura T, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Effects of unruptured aneurysms upon cerebrovascular circulation . Brain '01 XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Taipei, Taiwan ), 2001 . 6 .
  - 4) Umeoka K, Kurotani R<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Osamura RY<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Expression of GATA-2 in human pituitary adenomas . The Endocrine Society's 83rd Annual Meeting ( Denver, USA ), 2001 . 6 .
  - 5) Mishina M<sup>1)</sup>, Oyama M, Ishii K<sup>1)</sup>, Komaba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Kitamura S<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Senda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusou Hospital Nippon Medical School , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine ): Statistical parametric map for cerebral metabolism of glucose in progressive supranuclear palsy . Brain '01 XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism ( Taipei, Taiwan ), 2001 . 6 .
  - 6) Araki T<sup>1)</sup>, Sato H<sup>1)</sup>, Nakabayashi M<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Node Y, Takahashi T<sup>2)</sup>, Teramoto A, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Retrospective evaluation of mild hypothermia therapy for severe head injury in children . 19th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery , 2001 . 6 .
  - 7) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A, Node Y ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Benefits of percutaneous endoscopic button gastrostomy during neurological rehabilitation . The 1st World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine ( ISPRM I )( Amsterdam, The Netherlands ), 2001 . 7 .
  - 8) Sanno N<sup>1)</sup>, Ishii Y, Tahara S, Osamura RY<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagatama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Prognostic indicators of pituitary tumors . International Society of Pituitary Surgeons Meeting ( Lillianfels, Blue Mountains, Australia ), 2001 . 9 .
  - 9) Gunel M, DiLuna ML, ViVes KP, Noha M, Shin DH : Notch 1 Signaling Represents a Novel Pathway in Manipulation of Brain Tumors . Congress of Neurological Surgeons 51st Annual Meeting ( San Diego, California ( USA ) ), 2001 . 9 .
  - 10) Yamaguchi F, Morrison RS<sup>1)</sup>, Gonatas NK<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>4)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurological Surgery, University of Washington , <sup>2)</sup> Department of Pathology, University of Pennsylvania School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pathology ): MG160 can predict the prognosis of astrocytoma patients . Congress of Neurological Surgeons 51st Annual Meeting ( San Diego, California ( USA ) ), 2001 . 9 .
  - 11) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Drug-induced apoptosis by BE16627B, novel matrix metalloproteinase inhibitor, on human glioma cell lines . Congress of Neurological Surgeons 51st Annual Meeting ( San Diego, California ( USA ) ), 2001 . 9 .

- 12) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M, Watanabe K, Kanazawa R<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Suppression of vascular endothelial growth factor-mediated tumor angiogenesis by matrix metalloproteinase inhibitor, SI-27 . Congress of Neurological Surgeons 51st Annual Meeting ( San Diego, California ( USA ) ), 2001 . 9 .
- 13) Watanabe K, Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Apoptotic induction by matrix metalloproteinase inhibitor, BE16627B on human malignant glioma cell lines . Congress of Neurological Surgeons 51st Annual Meeting ( San Diego, California ( USA ) ), 2001 . 9 .
- 14) Adachi K, Asakura T, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Anti-glioma activity of interleukin 18 . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 15) Kominami S<sup>1)</sup>, Yoshida Y, Kanazawa R, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusou Hospital ): Presurgical embolization for meningiomas with NBCA . WFITN ( World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ) ( Seoul, Korea ), 2001 . 9 .
- 16) Kominami S<sup>1)</sup>, Yoshida Y, Kanazawa R, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusou Hospital ): VERTEBRAL DISSECTING ANEURYSMS : Proximal occlusion failed to prevent from rebleeding . WFITN ( World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology ) ( Seoul, Korea ), 2001 . 9 .
- 17) Node Y, Sato H<sup>1)</sup>, Nakabayashi M<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Shimura T<sup>3)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusou Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagatama Hospital ): Clinical examination of the patients with cerebellar hemorrhage following supratentorial aneurysmal surgery . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 18) Node Y, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine ): Clinical significance of external ventricle drainage in the patients with poor grade subarachnoid hemorrhage . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 19) Node Y, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine ): Hydroxyapatite ceramics in the reconstruction of the surgical skull defects following a frontotemporal skull base surgery . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 20) Node Y, Sato H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine ): Surgical indications of ruptured cerebral aneurysms in elderly patients . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 21) Node Y, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine ): Clinical features in the patients with "Platform accident" . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 22) Sato H<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Node Y, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Ikeda Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Showa University ): Measurement of S-100 protein in the cerebrospinal fluid after aneurysmal subarachnoid hemorrhage . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 23) Yokota H<sup>1)</sup>, Naoe Y<sup>1)</sup>, Ikakura K<sup>1)</sup>, Kurokawa A<sup>1)</sup>, Sato H<sup>1)</sup>, Node Y, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Advanced Emergency Critical Care Medicine ): Cerebral endothelial injury in severe head injury . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .
- 24) Yoshida Y<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamana-

- gayama Hospital): Multiple Pituitary Hormone Gradients from Cavernous Sinus Sampling in Patients with Cushing's Disease. WFITN (World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology) (Seoul, Korea), 2001. 9.
- 25) Sanno N<sup>1)</sup>, Ishii Y, Tahara S, Osamura RY<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagatama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Dopamine resistant prolactinomas - case report. The 8th International Pituitary Pathologist's Club Meeting (Delphi and Athens, Itaria), 2001. 10.
- 26) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Benefits of Percutaneous Endoscopic Button Gastrostomy during Neurological Rehabilitation therapy for Severely Dysphagic Stroke Patients. 27th International Stroke Conference (San Antonio, Texas (USA)), 2002. 2.
- 27) Umeoka K, Ishii Y, Kurotai R<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Kumaki N<sup>1)</sup>, Teramoto A, Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Transcriptional Interaction between GATA2 and Pit-1 in the Human Pituitary Adenomas. United States and Canadian Academy of Pathology, 2002. 2.
- 28) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 田原重志, 大山健一, 金 景成<sup>1)</sup>, 梅岡克哉, 石井雄道, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学医学部病態診断系病理学 ): 下垂体前葉機能検査における TRH 少量投与法の提唱. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 29) Wang N<sup>1)</sup>, Renzhu Y<sup>1)</sup>, Teramoto A, Changbao S<sup>1)</sup>, Renzhi W<sup>1)</sup>, Yi Y<sup>1)</sup>, Wenbin M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Beijing Union Medical College, China ): The changes of pituitary functions for transsphenoidal surgery of Cushing's disease. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 30) 木暮一成, 寺本 明: アルミナセラミックスと最新のコンピューター技術を用いた骨形成システムの開発. 第10回脳神経外科手術と機器学会, 2001. 4.
- 31) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): CD30陽性脳原発性 diffuse large B リンパ腫の1例. 第23回多摩脳神経外科懇話会, 2001. 4.
- 32) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 足立好司, 山口文雄, 林 靖人, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明, 山田昌興<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 帝京大学溝口病院脳神経外科 ): 当科における悪性グリオーマ治療の再検討. 第21回ニューロ・オンコロジーの会, 2001. 4.
- 33) 梅岡克哉, 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 黒谷玲子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>, 渡辺 武<sup>2)</sup>, 中島 学<sup>2)</sup>, 生山祥一郎<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup> 九州大学生体防御医学研究所感染防御学部門, <sup>3)</sup> 九州大学生体防御医学研究所臨床免疫学部門 ): ヒト下垂体腺腫における RCAS1 の発現. 第90回日本病理学会総会, 2001. 4.
- 34) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同病理部 ): 転移性小脳腫瘍で発症した Large-Cell Neuroendocrine Carcinoma の1例. 第42回日本神経病理学会総会学術研究会, 2001. 5.
- 35) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 八木聡明<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同病理部, <sup>3)</sup> 耳鼻咽喉科学 ): 頭実質内および副鼻腔に発生した悪性黒色腫の二例: 電顕所見についての検討. 第19回日本脳腫瘍病理学会, 2001. 5.
- 36) 寺本 明: 脳神経外科における医療制度上の問題点. 第21回日本脳神経外科コンgres, 2001. 5.
- 37) 山王なほ子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): プロラクチノーマの治療方針: 特に bromocriptine 抵抗性プロラクチノーマについて. 第21回日本脳神経外科コンgres, 2001. 5.
- 38) 野手洋治: 頭蓋形成術の最先端. 第21回日本脳神経外科コンgres, 2001. 5.

- 39) 大山健一, 周東祐仁<sup>1)</sup>, 田原重志, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 寺本 明, 若林一二<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第三, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における成長ホルモン分泌惹起物質受容体GHS-Rの発現に関する免疫組織化学的検討. 第19回日本脳腫瘍病理学会, 2001. 5.
- 40) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 饒波正博, 渡辺国博, 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 杉崎佑一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>生理第二): 抗 matrix metalloproteinase 剤SI-27を用いた vascular endothelial growth factor 誘発性 tumor angiogenesis の抑制効果. 第19回日本脳腫瘍病理学会, 2001. 5.
- 41) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 大山雅史<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 三谷和子<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 千田道雄<sup>2)</sup>, 小林士郎(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>内科第二): SPM99を用いた進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝の検討. 第42回日本神経学会総会, 2001. 5.
- 42) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 田中紀子<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 三品雅之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 星野 茂, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): Basalganglia germinomaの例. 第22回千葉北総神経放射線研究会, 2001. 5.
- 43) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): CT, MRIにて診断が困難であった海綿状血管腫の画像診断と病理学的検討. 第82回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 6.
- 44) 木暮一成, 寺本 明: 非典型的臨床経過であった脊髄急性硬膜外血腫の1例. 第16回日本脊髄外科学会, 2001. 6.
- 45) 木暮一成, 寺本 明: 骨傷を伴わない脊髄, 神経根外傷患者の精査の必要性と治療方針についての検討. 第16回日本脊髄外科学会, 2001. 6.
- 46) 石井雄道<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 転移性小脳腫瘍で発症した Large Cell Neuroendocrine Carcinoma の1例. 第82回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 6.
- 47) 金 景成<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 田原重志, 新井桂子<sup>2)</sup>, 寺本 明, 芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二生理): 各種下垂体腺腫における ghrelin 遺伝子発現の検討. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001. 6.
- 48) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 頭蓋骨腫瘍にて発症し, 下垂体茎部腫瘍も合併した Langerhans cell histiocytosis の1例. 第82回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 6.
- 49) 大山健一, 周東祐仁<sup>1)</sup>, 田原重志, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 寺本 明, 若林一二<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第三, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における成長ホルモン分泌惹起物質受容体GHS-Rの発現に関する免疫組織化学的検討. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001. 6.
- 50) 梅岡克哉, 黒谷玲子<sup>1)</sup>, 大山健一, 田原重志, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): ヒト下垂体腺腫における GATA-2 の発現. 第74回日本内分泌学会学術総会, 2001. 6.
- 51) 前川正義<sup>1)</sup>, 福田清輔<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>目白病院脳神経外科): 治療の標準化と許容される治療水準の明確化の必要性. 第82回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 6.
- 52) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎前方除圧術が有効であった若年者の脊髄神経根損傷の2症例. 道東脊髄疾患研究会, 2001. 7.
- 53) 直江康孝<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>救急医学): 重症頭蓋内疾患患者患者の rSO<sub>2</sub>測定を試み. 第7回日本脳代謝モニタリング研究会, 2001. 7.
- 54) 益田律子<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 竹井麻生<sup>2)</sup>, 山口真人<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>同脳神経センター): 特発性低頭蓋内圧症候群の臨床的検討: ペインクリニックの立場から. 日本ペインクリニック学会第35回大会, 2001. 7.
- 55) 水越元気<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 星野 茂, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 脳腫瘍と鑑別困難であった脳

- 幹脳炎の1例．第23回千葉北総神経放射線研究会，2001．7．
- 56) 渡邊 玲<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>1)</sup>，鈴木雅規<sup>1)</sup>，水越元気<sup>1)</sup>，原島克之<sup>1)</sup>，鈴木紀成<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，駒場祐一<sup>1)</sup>，星野 茂，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 右基底核部，下垂体茎部胚細胞脳腫瘍．第23回千葉北総神経放射線研究会，2001．7．
- 57) 前川正義<sup>1)</sup>，福田清輔<sup>1)</sup>，粟屋 栄<sup>1)</sup>，長谷川雄二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>目白病院脳神経外科): 手術適応とinformed consent．第4回日本病院脳神経外科学会，2001．7．
- 58) 伊藤江梨子<sup>1)</sup>，岡部慶子<sup>1)</sup>，前田かんな<sup>1)</sup>，井上恭子<sup>1)</sup>，小林亜紀<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 効果的な冷電法の検討．第10回意識障害治療学会，2001．7．
- 59) 川口祥子<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，竹内孝仁<sup>1)</sup>，井上聖啓<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院リハビリテーションセンター，<sup>2)</sup>同脳神経外科，<sup>3)</sup>東京慈恵医科大学脳神経外科): 閉じ込め症候群にある患者の意志疎通手段：電気生理学的検査の有用性について．第10回意識障害治療学会，2001．7．
- 60) 金 景成<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，新井桂子<sup>2)</sup>，寺本 明，芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>生理第二): GH産生腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討．第2回日本分子脳神経外科学会，2001．9．
- 61) 山王直子<sup>1)</sup>，吉田陽一<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，寺尾 健<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): Combined occipital-transtentorial and suboccipital approachにて摘出した転移性脳腫瘍の1例．第6回日本脳腫瘍の外科学会，2001．9．
- 62) 寺尾 健<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，吉田陽一<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): gliomaとの鑑別が困難であったpineocytomaの1例．第83回日本脳神経外科学会関東地方会，2001．9．
- 63) 志村俊郎<sup>1)</sup>，喜多村孝幸，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明，安達彰子<sup>2)</sup>，劉 愛民<sup>2)</sup>，佐藤 茂<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>3)</sup>，森修<sup>4)</sup>，大秋美治<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>中央電子顕微鏡施設，<sup>3)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>4)</sup>千葉北総病院病理部): 中枢性神経細胞腫の超微形態．第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2001．9．
- 64) 萩原 純<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，志村俊郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>医学部第3学年，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>3)</sup>同脳神経外科): 脳腫瘍術中迅速診断における臨床・病理カンファレンスの重要性．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 65) 森本大二郎，林 靖人，玉置智規，山口文雄，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): Anterior tempoal approachにてclippingし得た左後大脳動脈P<sub>1</sub>P<sub>2</sub>脳動脈瘤の1例．第83回日本脳神経外科学会関東地方会，2001．9．
- 66) 小島豊之，草薷博昭<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳腫瘍に対して施行したRadio-guided tumorectomyの経験．第6回日本脳腫瘍の外科学会，2001．9．
- 67) 中村利枝<sup>1)</sup>，青木 亘<sup>1)</sup>，五十嵐亜希<sup>1)</sup>，宗方祐美子<sup>1)</sup>，山本雪貴美<sup>1)</sup>，吉田由紀子<sup>1)</sup>，輿那嶺弘子<sup>1)</sup>，平野美子<sup>1)</sup>，瀬川純子<sup>1)</sup>，菅谷寿理<sup>1)</sup>，斎藤公一<sup>1)</sup>，本間 博<sup>1)</sup>，黒田 肇<sup>1)</sup>，山口文雄，足立好司，喜多村孝幸，寺本 明(<sup>1)</sup>生理機能センター): 検査室外での脳波検査 検査環境調査とその対策．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 68) 青木 亘<sup>1)</sup>，中村利枝<sup>1)</sup>，五十嵐亜希<sup>1)</sup>，宗方祐美子<sup>1)</sup>，山本雪貴美<sup>1)</sup>，吉田由紀子<sup>1)</sup>，輿那嶺弘子<sup>1)</sup>，平野美子<sup>1)</sup>，瀬川純子<sup>1)</sup>，菅谷寿理<sup>1)</sup>，斎藤公一<sup>1)</sup>，本間 博<sup>1)</sup>，黒田 肇<sup>1)</sup>，山口文雄，足立好司，喜多村孝幸，寺本 明(<sup>1)</sup>生理機能センター): 検査室外での脳波検査 シールド電極の有用性について．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 69) 大山健一，勝野 亮，玉置智規，星野 茂，足立好司，喜多村孝幸，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): ガドリニウムにて増強効果の認められた鞍上部dermoid cystの1例．第29回日本小児神経外科学会，2001．9．
- 70) 大山健一，和田誠基<sup>1)</sup>，佐藤 俊，渡辺国博，玉置智規，山王なほ子<sup>2)</sup>，片山茂裕<sup>1)</sup>，長村義之<sup>3)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>埼玉医科大学第4内科，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 出産後尿崩症

- を呈し顕在化した成長ホルモン産生下垂体腺腫の1例．第5回日本内分泌病理学会総会，2001．9．
- 71) 吉田大蔵<sup>1)</sup>，饒波正博，渡辺国博，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 抗 Matrix metalloproteinase 剤SI-27の作用機序の分子レベルでの検討．第2回日本分子脳神経外科学会，2001．9．
- 72) 足立好司，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 悪性グリオーマに対するIL-12とIL-18抗腫瘍効果．第2回日本分子脳神経外科学会，2001．9．
- 73) 喜多村孝幸，田原重志，寺本 明: Midline Tumor に対する神経内視鏡手術の有用性．第6回日本脳腫瘍の外科学会，2001．9．
- 74) 駒場祐一<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター，<sup>2)</sup>内科第二): PET activationにて両側言語野をみとめた脳梁無形成の1例．第34回千葉核医学研究会，2001．9．
- 75) 渡邊 玲<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>1)</sup>，鈴木雅規<sup>1)</sup>，水越元気<sup>1)</sup>，原島克之<sup>1)</sup>，鈴木紀成<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，駒場祐一<sup>1)</sup>，星野 茂，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 後頭動脈の異常拍動にて発症したdural AVFの1例．第24回千葉北総神経放射線研究会，2001．9．
- 76) 佐野壽昭<sup>1)</sup>，山田正三<sup>2)</sup>，山王なほ子<sup>3)</sup>，Asa SL<sup>4)</sup>，Kovacs K<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>徳島大学第一病理，<sup>2)</sup>虎の門病院脳神経外科，<sup>3)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>4)</sup>トロント大学病理): 初回臨床的に非機能性で再発時にCushing病徴候を呈した下垂体腺腫．第5回日本内分泌病理学会総会，2001．9．
- 77) 太田貴裕<sup>1)</sup>，山田正三<sup>1)</sup>，吹野晃一，高田浩次<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>，井上秀喜<sup>2)</sup>，松倉 茂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科，<sup>2)</sup>宮崎医科大学第三内科): Intrasellar epidermoid cystの1例．第5回日本内分泌病理学会総会，2001．9．
- 78) 関根 威<sup>1)</sup>，太田貴裕<sup>1)</sup>，吹野晃一，高田浩二<sup>1)</sup>，山田正三<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>，関 邦彦<sup>2)</sup>，松下 央<sup>2)</sup>，西原哲浩<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科，<sup>2)</sup>同病理学科，<sup>3)</sup>東京大学脳神経外科): 脳室鏡で診断に至った下垂体 Langerhans Cell Histiocytosisの1例．第83回日本脳神経外科学会関東地方会，2001．9．
- 79) 土屋雅人<sup>1)</sup>，植松正樹<sup>1)</sup>，小松原清光<sup>1)</sup>，佐々木光由<sup>1)</sup>，吉田大蔵<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳梗塞との鑑別に苦慮した悪性グリオーマの1例．第83回日本脳神経外科学会関東地方会，2001．9．
- 80) 青木見佳子<sup>1)</sup>，木村陽一<sup>1)</sup>，新見やよい<sup>1)</sup>，楠 俊雄<sup>1)</sup>，川名 誠<sup>1)</sup>，田原重志<sup>(1)</sup>皮膚科学): 後頭動脈の病的拡張を伴ったangiolymphoid hyperplasia with eosinophilia．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 81) 横田 隆<sup>1)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>，吹野晃一，足立好司，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>老人研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 神経膠腫の発生機序における遺伝子変化の解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 82) 高尾英龍<sup>1)</sup>，宗像 亮<sup>2)</sup>，佐藤直樹<sup>2)</sup>，福間長知<sup>2)</sup>，小林義典<sup>2)</sup>，高山守正<sup>2)</sup>，清野精彦<sup>2)</sup>，岸田 浩<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>医学部第6学年，<sup>2)</sup>内科第一): 意識障害のため入院し汎下垂体機能低下を伴う下垂体ラトケ嚢胞と診断された1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 83) 佐藤英尊，戸田茂樹，喜多村孝幸，寺本 明: 内視鏡的第3脳室底開窓術が奏功した第4脳室内腫瘍による閉塞性水頭症の1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 84) 山田晶興，中山比登志，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 髄液播種を呈した胚細胞腫例に対するフォローアップの検討．第2回神奈川県脳腫瘍フォーラム，2001．9．
- 85) 酒井直之，金 景成<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，寺本 明，芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>生理第二): GH産生腺腫におけるGHRHR 遺伝子発現及び調節に関する検討．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．
- 86) 吹野晃一，吉田祥子<sup>1)</sup>，原田晴仁<sup>1)</sup>，永井尚生<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>老人病研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): c-Jun NH2-terminal kinase 3 (JNK3) 遺伝子: ゲノム構造，染色体部位，及び脳腫瘍における発現消失．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．
- 87) 金 景成<sup>1)</sup>，新井桂子<sup>2)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，寺本 明，芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>生理第二): 各種下垂体腺腫におけるghrelin及びGHSR遺伝子発現に関する検討．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．
- 88) 吉田陽一<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 海綿静脈洞サンプリングによるクッシング病患者ACTH pulsatile effectの検討 Pulsatile effect of ACTH gradients from cavernous sinus sampling in

- patients with cushing's disease . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 89) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 嶋島雄大<sup>1)</sup>, 関 俊隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎椎間板障害における外側病変の画像診断 ~ MRI と CT myelography (CTM) の再検討 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 90) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 青木見佳子<sup>4)</sup>, 八木聰明<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>皮膚科学, <sup>5)</sup>耳鼻咽喉科学): 頭蓋内黒色腫の臨床神経病理学的研究 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 91) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 田原重志, 金 景成<sup>1)</sup>, 大山健一, 梅岡克哉, 石井雄道, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 下垂体前葉機能検査における薬剤適正量の検討 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 92) 水谷暢秀, 竹井麻生, 大山健一, 山崎道生, 寺本 明: 脳内出血における手術治療の検討 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 93) 草薨博昭, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳神経外科領域における MRSA 肺炎に対する補中益気湯の効果 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 94) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): くも膜下出血後の血液凝固線溶系の検討 . 第20回足立区合同医学集談会, 2001 . 10 .
- 95) 山口文雄, 大井良之<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>2)</sup>, 中村利枝<sup>2)</sup>, 五十嵐亜希<sup>3)</sup>, 久保田稔<sup>3)</sup>, 山王なほ子<sup>4)</sup>, 高橋 弘, 志村俊郎, 寺本 明(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>付属病院生理機能センター, <sup>3)</sup>多摩永山病院生理機能センター, <sup>4)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおける BIS (Bispectral Index) モニタリングの有用性 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 96) 戸田茂樹, 寺本 明: Free radical scavenger である Cimetidine のラット脳虚血再灌流障害に対する効果 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 97) 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>同放射線科): 頭部外傷患者における MRI T2\* 強調画像 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 98) 大山健一, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 梅岡克哉, 金 景成<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): ラトケ嚢胞の神経放射線学的検討-MRI 所見を中心として . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 99) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 小島豊之, 小松原清光, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 加熱重合アクリル樹脂を用いた骨形成術 . 第20回足立区合同医学集談会, 2001 . 10 .
- 100) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳神経外科領域における MRSA 肺炎に対する補中益気湯の効果 . 第20回足立区合同医学集談会, 2001 . 10 .
- 101) 古川哲也, 星野 茂, 朝倉隆之, 小林士郎<sup>1)</sup>, 高橋正泰<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>山之内製薬株式会社): 実験頭部外傷に対する AMPA 受容体拮抗薬 YM872 の効果 (第2報), 脳挫傷面積の縮小効果について . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 102) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 饒波正博, 渡辺国博, 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): Matrix metalloproteinase をターゲットとした薬剤の悪性 glioma に対する効果についての基礎的研究 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 103) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 寺本 明, 野手洋治, 山本保博<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院脳神経外科, <sup>2)</sup>高度救命救急センター, <sup>3)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 家庭内暴力の特殊例 elder abuse 5 例の検討 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .
- 104) 梅岡克哉, 黒谷玲子<sup>1)</sup>, 大山健一, 田原重志, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 下垂体腺腫における GATA-2 の分子病理学的検討 . 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001 . 10 .



- 105) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): インターロイキン12とインターロイキン18併用による抗グリオーマ活性の相乗効果. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 106) 喜多村孝幸, 小菊 実, 田原重志, 寺本 明: 第三脳室開窓術における再手術例の検討. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 107) 星野 茂, 池田幸弥<sup>1)</sup>, 朝倉隆之, 古川士郎<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 渥美生弘<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>中外製薬富士御殿場研究所, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>3)</sup>高度救命救急センター): アルツハイマー病型プレセニリン1遺伝子変異マウスに対する脳外傷の影響. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 108) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): 治療に難渋した Basilar bifurcation large-giant aneurysm. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 109) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 大山雅史<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 千田道雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>内科第二): 上性麻痺の「F-18」FDG PET-SPMを用いたJackknife検定を含めて. 第41回日本核医学学会総会, 2001. 10.
- 110) 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 村井保夫, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): Meningiomaに対するNBCAを用いた術前塞栓. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 111) 村井保夫<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 脳血管攣縮に対するballoon angioplasty後の脳循環. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 112) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 術後合併症の来した未破裂動脈瘤の2症例. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 113) 横田裕行<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>2)</sup>, 中林基明<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 野手洋治, 山本保博<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター, <sup>3)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 重症頭部外傷急性期における全身管理の問題点: 全身代謝と呼吸および栄養管理の検討から. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 114) 林 伸吉, 野手洋治, 山本保博<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>高度救命救急センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 老人頭部外傷の問題点-Elder abuse6例の検討. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 115) 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 中川原譲二<sup>2)</sup>, 大里俊明<sup>2)</sup>, 臼居礼子<sup>2)</sup>, 武田利兵衛<sup>2)</sup>, 中村博彦<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>中村記念病院脳神経外科): 小児モヤモヤ病患者の定量および半定量脳血流SPECTによる脳循環動態の重症度評価. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 116) 小島豊之, 木村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 高木 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>放射線医学): 未破裂脳動脈瘤が末梢脳循環におよぼす影響について. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 117) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中間哲朗<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>救急医学): 高齢者重症くも膜下出血の救急センターにおける適応と管理. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 118) 渡邊国博, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 饒波正博, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): MMP阻害剤, BE16627B, によるヒトglioma細胞株に対するアポトーシスの発現. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 119) 林 靖人, 山口文雄, 山田昌興<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>帝京大学溝口病院脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部): 星細胞腫におけるFGFR1~4の局在. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 120) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 小松原清光<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 術前グリオーマ診断のpitfall. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 121) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 外傷性頸動脈狭窄に対しステントを用いた有効であった1例. 第17回日本脳神経血管内治療学会,

- 2001 . 11 .
- 122) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 小脳出血で発症しCT, MRIにて診断が困難であった前立腺癌の脳転移の1例. 第84回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001 . 11 .
- 123) 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 後下小脳動脈末梢部動脈瘤の検討. 第29回日本救急医学会総会, 2001 . 11 .
- 124) 金 景成<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 田原重志, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 神経内視鏡について. 第24回在日本朝鮮人医学協会学術報告会, 2001 . 11 .
- 125) 吉田陽一, 小南修史<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 頭蓋内内頸動脈損傷により外傷性頸動脈海綿静脈瘻をきたした1例 Traumatic extracavernous arteriovenous fistula a case report and review of the literature. 第17回日本脳神経血管内治療学会, 2001 . 11 .
- 126) 木暮一成, 寺本 明: 骨傷を伴わない脊髄, 神経根外傷患者の精査の必要性と治療方針についての検討. 第36回日本パラプレジア医学会, 2001 . 11 .
- 127) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 鴨島雄大<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎外傷によって生じた脊髄, 神経根症状に対する治療方針: 特に労働災害と交通事故に着目して. 第49回日本職業災害医学会, 2001 . 11 .
- 128) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳卒中後の難治性の麻痺性イレウスに対する大建中湯の効果. 第10回日本脳神経外科漢方医学会学術集会, 2001 . 11 .
- 129) 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 髄膜腫に対するNBCAを用いた術前塞栓. 第17回日本脳神経血管内治療学会, 2001 . 11 .
- 130) 小菊 実<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): Electromagnetic Field Systemの使用が効果的であった左側脳室三角部髄膜腫の1症例. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001 . 11 .
- 131) 小菊 実<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 左側側室三角部髄膜腫に対しEMF systemの使用が効果的であった1症例. 第47回東葛地区脳神経外科研究会, 2001 . 11 .
- 132) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): Marfan症候群に合併した巨大内頸動脈瘤に対しradial artery graftを施行した1例. 第84回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001 . 11 .
- 133) 原島克之<sup>1)</sup>, 小菊 実<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 水越元気<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 診断困難であった悪性リンパ腫の再発例. 第25回千葉北総神経放射線研究会, 2001 . 11 .
- 134) 前川正義<sup>1)</sup>, 福田清輔<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>目白病院脳神経外科): クリッピングとコイル塞栓術の共存時代における, くも膜下出血に対する治療方針. 第17回日本脳神経血管内治療学会, 2001 . 11 .
- 135) 前川正義<sup>1)</sup>, 福田清輔<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>目白病院脳神経外科): 慢性硬膜下血腫発生契機時の頭部CT所見. 第84回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001 . 11 .
- 136) 小川耕一<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 生後一ヶ月に診断された小脳奇形腫の一女児例. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001 . 11 .
- 137) 坂本真幸<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>1)</sup>, 泉 雅文<sup>1)</sup>, 楚良繁雄<sup>1)</sup>, 玉置智規(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科): AtypicalなMRI所見を呈したCP angle facial nerve neuromaの1例. 第84回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001 . 11 .
- 138) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>高度救命救急センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳

- 神経センター,<sup>3)</sup>第二病院脳神経外科): SAH of unknown etiology と思われた再発SAH, spinal AVMの1例. 第84回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 11.
- 139) 李 鋭, 喜多村孝幸, 寺本 明: 閉塞性水頭症に対する最新の治療法: 神経内視鏡手術の有用性について. 第12回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 2001. 11.
- 140) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 山口文雄, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 長期生存が得られた小児脈絡叢癌の1例. 第19回日本こども病院脳神経外科医会, 2001. 11.
- 141) 山田昌興, 中山比登志, 林 靖人, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 遺伝子学的分析により glioblastoma 様の FGFR 発現を認めた gliomatosis cerebri の1例. 第10回日本脳腫瘍カンファレンス, 2001. 12.
- 142) 田原重志, 喜多村孝幸, 金 景成<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): Flexible scope が治療に有効であった第3脳室コロイド嚢胞の1例. 第8回日本神経内視鏡学会, 2001. 12.
- 143) 戸田茂樹, 寺本 明: 降圧剤である Carvedilol のラット脳虚血再灌流障害に対する効果. 第16回生体フリーラジカル研究会, 2001. 12.
- 144) 喜多村孝幸, 田原重志, 金 景成<sup>1)</sup>, 李 鋭, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 神経内視鏡手術: 21世紀の標準術式として. 第5回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001. 12.
- 145) 田原重志, 大久保公裕<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明, 八木聡明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 複数科による内視鏡手術の展望: 経鼻蝶形骨内視鏡下垂体手術の1例. 第5回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001. 12.
- 146) 足立好司, 横田 隆<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門,<sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): cDNA マイクロアレイによるグリオーマ細胞の遺伝子発現. 第10回日本脳腫瘍カンファレンス, 2001. 12.
- 147) 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 横堀将司<sup>3)</sup>, 増子邦洋<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科,<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター,<sup>3)</sup>同救命救急センター): 外傷性頸動脈狭窄に対しステントを用い有効であった1例. 第7回日本脳神経外科救急学会, 2002. 1.
- 148) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>2)</sup>, 小菊 実<sup>2)</sup>, 原島克之<sup>2)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター): ラクロスにて受傷しTIAにて発症した外傷性頸動脈損傷の1例. 第7回日本脳神経外科救急学会, 2002. 1.
- 149) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 正中構造異常を伴わない成人腰部Subpial lipomaの1例. 道東脳神経外科懇話会, 2002. 1.
- 150) 酒井直之<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター,<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): RA Graftが奏効した外傷性内頸動脈解離の1例. 第1回日本頸部脳血管治療学会, 2002. 1.
- 151) 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 頸髄内腫瘍性病変の1例. 第26回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 1.
- 152) 小川耕一<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科,<sup>2)</sup>同脳神経外科): 生後48日に診断された小脳奇形種の1例. 第29回神奈川小児神経懇話会, 2002. 1.
- 153) 山田 明, 石井雄道, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): Cushing病における下垂体double adenomaの1例. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 154) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 田原重志, 小菊 実<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター,<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 下垂体卒中を契機に軽快したAcromegalyの1例. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 155) 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 大山健一, 梅岡克哉, 石井雄道, 山田 明, 小松原清光, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 急性発症群の下垂体卒中の臨床病理学的検討. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.

- 156) 山田正三<sup>1)</sup>, 太田貴裕<sup>1)</sup>, 吹野晃一, 高田浩次<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科): プロラクチノーマにおける外科治療の適応と意義. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 157) 関根 威<sup>1)</sup>, 太田貴裕<sup>1)</sup>, 吹野晃一, 高田浩次<sup>1)</sup>, 山田正三<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 関 邦彦<sup>2)</sup>, 松下 央<sup>2)</sup>, 西原哲浩<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>東京大学脳神経外科): 脳室鏡を用いて診断に至った下垂体柄 Langerhans Cell Histiocytosis の1例. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 158) 太田貴裕<sup>1)</sup>, 山田正三<sup>1)</sup>, 吹野晃一, 高田浩次<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科): Delayed hyponatremia after transsphenoidal surgery for pituitary adenomas. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 159) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎椎間板障害における外側病変の画像診断 ~ MRI と CT myelography (CTM) の再検討. 第25回日本脳神経学会総会, 2002. 2.
- 160) 大山健一, 佐藤 俊, 渡邊国博, 玉置智規, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 出産後尿崩症を呈し顕在化した成長ホルモン産生下垂体腺腫の1例. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 161) 石井雄道, 山王直子<sup>1)</sup>, 黒谷玲子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 非機能性下垂体腺腫197例の免疫組織化学的検討. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 162) 高野順子<sup>1)</sup>, 盛田幸司<sup>1)</sup>, 高野幸路<sup>1)</sup>, 寺本 明, 藤田敏郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部腎臓・内分泌内科): Carney Complex 症候群におけるGH産生下垂体腺腫のGHRHシグナル伝達系の異常について. 第12回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2002. 2.
- 163) 田原重志, 寺本 明, 山王直子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 下垂体腺腫の薬物療法とその問題点. 日本医科大学医学会第106回例会, 2002. 2.
- 164) 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 動眼神経麻痺で発症した海綿静脈洞瘻の1例. 第48回東葛地区脳神経外科研究会, 2002. 2.
- 165) 古川哲也, 星野 茂, 朝倉隆之, 小林士郎<sup>1)</sup>, 高橋正泰<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>山之内製薬株式会社): 実験頭部外傷に対するAMPA受容体YM872の効果(第2報), 脳挫傷面積の縮小効果について. 第25回日本神経外傷学会, 2002. 3.
- 166) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 後頭骨に発生したosteosarcomaの1例. 第85回日本脳神経外科関東地方会, 2002. 3.
- 167) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小菊 実<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>同形成外科): 遊離広背筋皮弁を用いた頭蓋底形成術が効果した緊張性気脳症の1例. 第25回日本神経外傷学会, 2002. 3.
- 168) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): -knife施行後に腫瘍内出血をきたしたChordomaの1例. 第85回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 3.
- 169) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部憲憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 小児で発症した多発性海綿状血管腫の1例. 第85回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 3.
- 170) 山田 明, 長村義之<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): Cushing病における下垂体double adenoma. 第13回CRH. ACTH研究会, 2002. 3.
- 171) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 正中構造異常を伴わない成人腰部Subpial lipomaの1例. 第48回日本脳神経外科学会北海道地方会, 2002. 3.
- 172) 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 後頭部痛にて発症し髄液所見にて著名な蛋白細胞解離を呈した1例. 第27回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 3.

- 173) 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター): CEA 術後に遅発性に hyperperfusion を再発した症例. 第85回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 3.
- 174) 小南修史<sup>1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター): Borden III Dural AV fistula に対する NBCA を用いた経動脈的塞栓術の1例. 房総脳神経血管内治療カンファレンス, 2002. 3.
- 175) 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>同放射線科): 脳振盪症例における MRIT2\* 強調画像. 第25回日本神経外傷学会, 2002. 3.
- 176) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター): 高齢者破裂脳動脈瘤の特徴と治療に関する検討. 第15回日本老年脳神経外科学会, 2002. 3.
- 177) 石井雄道, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 非機能性下垂体腺腫 197 例の免疫組織化学的検討. 第12回臨床内分泌代謝 Update, 2002. 3.
- 178) 石井雄道, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 非機能性下垂体腺腫 197 例の免疫組織化学的検討. 第91回日本病理学会総会, 2002. 3.

## [ 第二病院脳神経外科 ]

### 研究概要

第二病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら、脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的疾患（顔面痙攣、三叉神経痛など）とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を対象としているが、臨床的、基礎的研究も盛んで、毎年確実に国内外に論文を発表している。特に、悪性脳腫瘍に関しては、多くの基礎的研究に基づいて、腫瘍抗原に対するモノクローナル抗体を用いた特異的免疫療法と各種のBRM製剤を用いた非特異的免疫療法を臨床的に応用し、確実に効果をあげてきている。また、分子生物学的基礎研究も盛んで、一部文部省科学研究費補助金の援助を受けながら、脳腫瘍の悪性度にしたがって発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究、腫瘍血管新生抑制に関する基礎研究、癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎研究、さらには遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている。

一方、臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し、悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい免疫化学療法を行い、良好な結果をおさめてきている。脳血管障害や頭部外傷に関しては、超音波ドップラーや脳血流測定法を用いて脳循環を詳細に測定することにより、非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである。小児疾患に関しても、腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが、中枢神経系奇形に関しても、形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Watanabe K<sup>1)</sup>, Yoshida D, Noha M, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital ): Suppression of matrix metalloproteinase-2 and -9 mediated cell invasiveness by a novel matrix metalloproteinase inhibitor, BE-16627B on human malignant glioma cell lines : In vitro study . J. Neurooncol. 2001 ; 52 ( 1 ): 1-9 .
- 2) Yoshida D, Noha M, Watanabe K<sup>1)</sup>, Bergenheim T<sup>2)</sup>, Henriksson R<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Umea University ): The bleb formation of the extracellular pseudopodia : early evidence of microtubule depolymerization by estramustine phosphate in glioma cells : in vitro study . J. Neurooncol. 2001 ; 52 ( 1 ): 37-47 .
- 3) Yoshida D, Noha M, Watanabe K<sup>1)</sup>, Takahashi T, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Nippon Medical School Hos-

pital): Induction of apoptosis by estramustine phosphate mediated by phosphorylation of bcl-2 . J. Neurooncol. 2001 ; 54 ( 1 ): 23-29 .

- 4) Fukino K, Umeoka K<sup>1)</sup>, Kitamura T<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Cortical dysplasia with subcutaneous angioma and dilated dural venous sinuses . J. Neurooncol. 2001 ; 28 ( 2 ): 127-129 .
- 5) Yoshida D, Noha M, Watanabe K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Novel approach to analysis of in vitro angiogenesis with a variable-pressure scanning electron microscope : suppression by matrix metalloproteinase inhibitor SI-27 . Brain Tumor Patho. 2001 ; 18 ( 2 ): 89-100 .
- 6) Yamada SM, Hayashi Y, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Yamada S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Loma Linda University): Histological and genetic diagnosis of gliomatosis cerebri : case report . J. Neurooncol. 2001 ; 52 ( 3 ): 237-240 .
- 7) Yoshida S<sup>1)</sup>, Fukino K, Harada H<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Imoto I<sup>2)</sup>, Inazawa J<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>2)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Nippon Medical Hospital): The c-Jun NH2-terminal kinase 3 ( JNK3 ) gene : genomic structure chromosomal assignment, and loss of expression in brain tumors . J. Hum. Genet. 2001 ; 46 ( 4 ): 182-187 .
- 8) 高橋 弘, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>2)</sup>, 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>立正佼成病院): 当科における悪性グリオーマ治療の再検討 . J. Neuro - Oncol. 2001 ; 11 ( 1 ): 41-44 .
- 9) 高梨 弘 : Neuroimaging Quiz : 血腫を伴う転移性脳腫瘍の1例 . Clinical Neurosci 2001 ; 20 ( 4 ): 475-476 .
- 10) 高橋 弘 : Neuroimaging Quiz : 部分血栓化内頸動脈巨大動脈瘤の1例 . Clin. Neurosci. 2001 ; 19 ( 6 ): 101-102 .
- 11) 高橋 弘, 山田昌興, 吉田大蔵, 寺本 明 : 高血圧を有する脳梗塞後遺症に対する塩酸ニロピジンの効果 . Geriat. Med 2001 ; 39 ( 10 ): 1669-1674 .

## (2) 総説 :

- 1) 高橋 弘 : 未分化な脳腫瘍細胞と神経幹細胞とは関連があるか . Clin. Neurosci. 2001 ; 19 ( 7 ): 123-123 .
- 2) 高橋 弘 : 脳幹グリオーマの手術 . Clin. Neurosci. 2001 ; 19 ( 11 ): 102-103 .
- 3) 高橋 弘 : Journal and book review : Intracystic chemotherapy with bleomycin in the treatment of cranio-pharyngioma . 小児神経 2002 ; 27 ( 1 ): 60-61 .
- 4) 高橋 弘 : 小児脳神経外科の主な疾患と最新治療 : 脳腫瘍 : テント下腫瘍 . Clin. Neurosci. 2002 ; 20 ( 3 ): 323-328 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 悪性脳腫瘍に対する漢方療法 : 動物実験と臨床例からみた検討 . 第10回日本脳神経外科漢方医学会, 2001 . 11 .
- 2) 草薨博昭, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 漢方製剤と感染症 : どのような症例に使用すべきか . 第10回日本脳神経外科漢方医学会, 2001 . 11 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Araki T, Sato H, Nakabayashi M, Koike K, Node Y, Takahashi H, Teramoto A, Yamamoto Y : Retrospective evaluation of mild hypothermia therapy for severe head injury in children . 19th Annual Meeting of International Society for Pediatric Neurosurgery ( Aarburg, Denmark ), 2001 . 6 .
- 2) Adachi K<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Anti - glioma activity of interleukin 18 . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney, Australia ), 2001 . 9 .

- 3) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Morrison RS, Gonatas NK, Takahashi H, Sugisaki Y, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): MG160 can predict the prognosis of astrocytoma patients. The 51st Annual Meeting of American Congress of Neurological Surgeons ( San Diego, USA ), 2001. 10.
- 4) 川口祥子<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 竹内孝仁, 井上聖啓<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学神経内科): 閉じ込め症候群にある患者の意志疎通手段: 電気生理学的検査の有用性について. 第10回意識障害治療学会, 2001. 7.
- 5) 土屋雅人, 植松正樹, 小松原清光, 佐々木光由, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 脳梗塞との鑑別に苦慮した悪性グリオーマの1例. 第83回日本脳神経外科関東地方会, 2001. 9.
- 6) 大山健一<sup>1)</sup>, 勝野 亮, 玉置智規, 星野 茂, 足立好司, 喜多村孝幸, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): ガドリニウムにて増強効果の認められた鞍上部dermoid cystの1例. 第29回小児脳神経外科学会, 2001. 9.
- 7) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 悪性グリオーマに対するIL-18とIL-12の抗腫瘍相乗効果. 第2回神奈川脳腫瘍フォーラム, 2001. 9.
- 8) 横田 隆<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 吹野晃一, 足立好司<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 神経膠腫の発生機序における遺伝子変化の解析. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 9) 山田昌興<sup>1)</sup>, 中山比登志<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学溝の口病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 髄液播種を呈した胚細胞腫例に対するフォローアップの検討. 第2回神奈川脳腫瘍フォーラム, 2001. 9.
- 10) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤村樹里<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 小松原清光, 高橋 弘(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 二分頭蓋の1例. 第252回日本小児科学会神奈川地方会, 2001. 9.
- 11) 高橋 弘, 森本大二郎, 吉田大蔵, 小松原清光, 饒波正博, 山田 明, 佐々木光由, 寺本 明: 術前グリオーマ診断のPitfall. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 12) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): インターロイキン12とインターロイキン18併用による抗グリオーマ活性の相乗効果. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 13) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大井良文<sup>2)</sup>, 青木 亘<sup>3)</sup>, 中林利枝<sup>3)</sup>, 五十嵐垂希<sup>3)</sup>, 久保田稔<sup>3)</sup>, 山王直子<sup>4)</sup>, 高橋 弘, 志村俊郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同麻酔科, <sup>3)</sup>同生理機能センター, <sup>4)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおけるBIS ( Bispectral Index ) モニタリングの有用性. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 14) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 頭蓋内黒色腫の臨床神経病理学的研究. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 15) 草薷博昭, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 脳神経外科領域におけるMRSA肺炎に対する補中益気湯の効果. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 16) 吹野晃一, 吉田祥子<sup>1)</sup>, 原田晴仁<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 江見 充<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): c-Jun NH-2-terminal kinase 3 ( JNK3 ) 遺伝子: ゲノム構造, 染色体部位, 及び脳腫瘍における発現消失. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 17) 高橋 弘, 山口文雄<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 長期生存が得られた小児脈絡叢癌の1例. 第19回日本こども病院神経外科医会, 2001. 11.
- 18) 草薷博昭, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 脳卒中後の難治性の痲痺性イレウスに対する大建中湯の効果. 第10回日本脳神経外科漢方医学会, 2001. 11.
- 19) 小川耕一<sup>1)</sup>, 松永茂太<sup>1)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 関 隆志<sup>1)</sup>, 西澤善樹<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 土屋雅人, 高橋 弘(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 生後一ヶ月に診断された小脳奇形種の1女兒例. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001. 11.
- 20) 草薷博昭, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 脳卒中後の難治性の痲痺性イレウスに対する大建

中湯の効果．第10回日本脳神経外科漢方医学会学術集会，2001．11．

- 21) 足立好司，横田 隆<sup>1)</sup>，高橋 弘，寺本 明，江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): cDNA マイクロアレイによるグリオーマ細胞の遺伝子発現．第10回日本脳腫瘍カンファレンス，2001．12．
- 22) 小川耕一<sup>1)</sup>，川上康彦<sup>1)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup>，松岡和彦<sup>1)</sup>，橋本 清<sup>1)</sup>，土屋雅人，高橋 弘(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 生後48日に診断された小脳奇形種の1例．第29回神奈川小児神経懇話会，2002．2．

## [ 多摩永山病院脳神経外科 ]

### 研究概要

多摩永山病院脳神経外科は，日本脳神経外科学会専門医訓練施設として，診療，教育，研究を付属病院脳神経外科学教室の指導の下に行っている．我々は以下の研究を，分子神経病理学，神経生理学等の幅広いニューロサイエンスの手法を用いて行っている．

当科の第1の研究テーマは，主として急性期脳血管障害と外傷性びまん性脳損傷の症例において，持続頭蓋内圧測定(光センサー硬膜下法)，脳血流測定(超音波ドプラー法)，SPECT，およびトレンドグラフを用いた電気生理学的検査(聴性脳幹反応，体性感覚誘発電位)，MRI・MRA等の多くの諸検査により経時的な測定をすることでその脳虚血および軸索損傷の病態解明を行っている．

第2のテーマは脳梗塞急性期患者において抗トロンピン薬投与によるSPECTと経頭蓋ドプラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を検討している．

第3のテーマは悪性脳腫瘍の補助療法におけるタリウムSPECTによる核医学的研究および再手術標本よりの病理形態学的研究を行っている．

第4のテーマは脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている．

第5のテーマは付属病院中央電子顕微鏡施設に設置された共同利用H-7500電子顕微鏡を用いてびまん性軸索損傷の機序の解明および脳下垂体腫瘍の免疫電顕を行う．

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著：

- 1) Sanno N, Shimura T, Maeda S, Teramoto A : A case of solitary fibrous tumor of the meninges . Brain Tumor Pathol 2001 ; 18 ( 1 ): 43-47 .
- 2) Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Thyrotropin-secreting pituitary adenomas. Clinical and biological heterogeneity and current treatment . J Neuro-Oncol 2001 ; 54 : 179-186 .
- 3) Kim K, Arai K, Sanno N, Teramoto A, Shibasaki T : The expression of thyrotropin-releasing hormone receptor 1 messenger ribonucleic acid in human pituitary adenomas . Clin Endocrinol 2001 ; 51 : 309-316 .
- 4) Kim K, Arai K, Sanno N, Osamura RY, Teramoto A, Shibasaki T : Ghrelin and growth hormone ( GH ) secretagogue receptor ( GHSR ) mRNA expression in human pituitary adenomas . Clin Endocrinol 2001 ; 54 : 759-768 .
- 5) Arai K, Kim K, Kaneko K, Iketani M, Otagiri A, Yamaguchi N, Shibasaki T : Nicotine infusion alters leptin and uncoupling protein 1 mRNA expression in adipose tissues of rats . American Journal of Physiology - Endocrinology & Metabolism 2001 ; 280 : E867-E876 .
- 6) Kim K, Kobayashi S, Mizunari T, Teramoto A : Aneurysm of the distal posteroinferior cerebellar artery of extracranial origin : case report . Neurosurgery 2001 ; 49 ( 4 ): 996-999 .



- 7) Oyama K<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University of Medicine ): Expression of Neuro D1 in human normal pituitaries and pituitary adenomas . Mod Pathol 2001 ; 14 ( 9 ): 892-899 .
- 8) Komatsubara K, Tahara S, Umeoka K, Sanno N, Teramoto A, Osamura RY : Immunohistochemical analysis of p27 ( Kip1 ) in human pituitary glands and in various types of pituitary adenomas . Endocrine Pathol 2001 ; 12 : 181-188 .
- 9) Shimura T<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Fukino K<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): Detection of Epstein-Barr virus DNA and expression of CD30 antigen in primary anaplastic diffuse large B-cell lymphoma of the brain . Brain Tumor Pathol 2001 ; 18 : 161-165 .
- 10) 梅岡克哉, 長村義之, 山王直子, 寺本 明 : 分子病理学的手法による下垂体腺腫の機能分化の解析と分類 . 脳神経 2001 ; 53 ( 7 ): 617-622 .
- 11) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 松野 彰<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 帝京大学医学部市原病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東海大学医学部病理学 ): [ 特集 ] 内分泌腫瘍病理の最近の展開 I, 下垂体 3. 視床下部ホルモン産生下垂体腺腫 . 病理と臨床 2002 ; 20 ( 3 ): 251-255 .
- 12) 山王直子 : in situ PCR 法 . 医学のあゆみ 知っておきたい200words 2002 ; 200 ( 13 ): 1027-1028 .

(2) 綜説 :

- 1) 志村俊郎 : 症状と病気シリーズ26 脳にできる治る腫瘍 大人と子供の違いから . BRAIN 2002 ; 66 : 6-8 .

著 書

- 1) Sanno N, Teramoto A, Osamura RY : [ 分担 ] Tyramide Amplification in Immunohistochemistry ; Morphology Methods . Cell and Molecular Biology Techniques ( R. V. Lloyd ), 2001 ; pp267-276 , Humana Press, Totowa, NJ .
- 2) 山王なほ子 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 側頭骨の chondroblastoma ( 軟骨芽細胞腫 ) . Clin Neurosci , 2001 ; pp943-944 , 中外医学社 .
- 3) 山王なほ子, 寺本 明 : [ 分担 ] 下垂体腺腫 . ブレインナーシング 夏季増刊号, 2001 ; pp125-131 , メディカ出版 .
- 4) 志村俊郎 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : hemangiopericytoma . Clin Neurosci , 2001 ; pp1187-1188 , 中外医学社 .
- 5) 山王直子, 寺本 明, 長嶋和郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 北海道大学医学部分子細胞病理学 ): [ 分担 ] VII. 脳腫瘍2. PNET ( primitive neuroectodermal tumor ) . Annual Review 神経2002 , 2002 ; pp172-177 , 中外医学社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 志村俊郎 : ボケ症状を呈する脳外科の病気 . 稲城ロータリークラブ特別講演会 , 2001 . 9 .
- 2) 山王直子 : 下垂体卒中 . 第22回多摩地区脳卒中研究会 , 2001 . 11 .
- 3) 志村俊郎 : 小児頭部外傷の臨床 : Battered Child Syndrome ( 被虐待児症候群 ) の経験から成人頭部外傷との比較を中心に . 多摩市医師会学術講演会 , 2002 . 1 .

(2) 一般講演 :

- 1) Sanno N, Tahara S, Oyama K, Osamura RY, Teramoto A : Clinicopathological features of sixteen cases with thyrotropin secreting pituitary adenoma . The Endocrine Society's 83nd Annual Meeting ( Denver, USA ), 2001 . 6 .

- 2) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>, Node Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Emergency&Critical Care Medicine, Nippon Medical School): Benefits of Percutaneous Endoscopic Button Gastrostomy During Neurological Rehabilitation. The 1st World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM I)(Amsterdam (The Netherlands)), 2001. 7.
- 3) Sanno N, Ishii Y, Tahara S, Osamura RY, Teramoto A: Prognostic indicators of pituitary tumors. International Society of Pituitary Surgeons Meeting (Lilianfels, Blue Mountains, Australia), 2001. 9.
- 4) Gunel M, DiLuna ML, ViVes KP, Noha M, Shin DH: Notch 1 Signaling Represents a Novel Pathway in Manipulation of Brain Tumors. Congress of Neurological Surgeons 51st Annual Meeting (San Diego, California (USA)), 2001. 9.
- 5) Sanno N, Ishii Y, Tahara S, Osamura RY, Teramoto A: Dopamine resistant prolactinomas - case report. The 8th International Pituitary Pathologist's club Meeting (Delphi and Athens), 2001. 10.
- 6) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Kasugai Rehabilitation Hospital, Yamanashi, Japan, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Benefits of Percutaneous Endoscopic Button Gastrostomy during Neurological Rehabilitation therapy for Severely Dysphagic Stroke Patients. 27th International Stroke Conference (San Antonio, Texas (USA)), 2002. 2.
- 7) 志村俊郎, 山王直子, 寺本 明: CD30陽性脳原発性diffuse large Bリンパ腫の1例. 第23回多摩脳神経外科懇話会, 2001. 4.
- 8) 志村俊郎, 山王直子, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 八木聰明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学, <sup>2)</sup>耳鼻咽喉科): 頭実質内および副鼻腔に発生した悪性黒色腫の二例: 電顕所見についての検討. 第19回日本脳腫瘍病理学会, 2001. 5.
- 9) 山王直子, 石井雄道, 戸田茂樹, 志村俊郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>脳神経外科): 転移性小脳腫瘍で発症したLarge-Cell Neuroendocrine Carcinomaの1例. 第42回日本神経病理学会総会学術研究会, 2001. 5.
- 10) 石井雄道, 山王直子, 戸田茂樹, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 転移性小脳腫瘍で発症したLarge-Cell Neuroendocrine Carcinomaの1例. 第82回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 6.
- 11) 金 景成, 山王なほ子, 田原重志, 新井桂子, 寺本 明, 芝崎 保: 各種下垂体腺腫におけるghrelin遺伝子発現の検討. 第74回日本内分泌学会総会, 2001. 6.
- 12) 山王直子, 吉田陽一, 金 景成, 寺尾 健, 志村俊郎, 寺本 明: Combined occipital-transtentorial and sub-occipital approachにて摘出した転移性脳腫瘍の1例. 第6回日本脳腫瘍の外科学会, 2001. 9.
- 13) 金 景成<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 新井桂子<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>生理学第二): GH産生腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討. 第2回日本分子脳神経外科学会, 2001. 9.
- 14) 寺尾 健, 金 景成, 吉田陽一, 山王直子, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): gliomaとの鑑別が困難であったpineocytomaの1例. 第83回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 9.
- 15) 萩原 純<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 志村俊郎(<sup>1)</sup>医学部第3学年, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 脳腫瘍術中迅速診断における臨床・病理カンファレンスの重要性. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 16) 志村俊郎, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 山王直子, 寺本 明<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 森修<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡施設, <sup>3)</sup>付属病院病理部, <sup>4)</sup>千葉北総病院病理部): 中枢性神経細胞腫の超微形態. 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001. 9.
- 17) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 青木見佳子<sup>3)</sup>, 八木聰明<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>病理, <sup>3)</sup>皮膚科学, <sup>4)</sup>耳鼻咽喉科学): 頭蓋内黒色腫の臨床神経病理学的研究. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.

- 18) 山王直子, 田原重志<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 大山健一<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 下垂体前葉機能検査における薬剤適正量の検討. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 19) 金 景成<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 新井桂子<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>生理学第二): 各種下垂体腺腫における ghrelin および GHSR 遺伝子発現に関する検討. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 20) 草薙博昭, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 脳神経外科領域における MRSA 肺炎に対する補中益気湯の効果. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 21) 草薙博昭, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): くも膜下出血後の血液凝固線溶系の検討. 第20回足立区合同医学集談会, 2001. 10.
- 22) 金 景成, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 後下小脳動脈末梢部動脈瘤の検討. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 23) 金 景成, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 神経内視鏡について. 第24回在日本朝鮮人医学協会学術報告会, 2001. 11.
- 24) 田原重志, 寺本 明<sup>1)</sup>, 山王直子, 志村俊郎(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 下垂体腺腫の薬物療法とその問題点. 日本医科大学医学会第106回例会, 2002. 2.
- 25) 立山幸次郎, 金 景成, 山王直子, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): -knife 施行後に腫瘍内出血を来した Chordoma の1症例. 第85回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 3.

## [ 千葉北総病院脳神経外科 ]

### 研究概要

開設後8年が経過した千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら, 脳血管障害・頭部外傷・脳腫瘍を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った. 平成12年開設の Stroke care unit (SCU) および, 脳卒中ホットラインも順調に稼動中. 平成13年10月よりドクターヘリを用いての急性期患者の搬送を開始した.

1) 脳血管障害: 血行再建術においては radical artery graft を用いる high flow bypass の症例を重ねた. 頸部内頸動脈狭窄症に対する CEA を積極的に行った. 末梢性後下小脳動脈瘤及び解離性脳動脈瘤の臨床研究を行った. posterior circulation aneurysm に対して Anterior temporal approach の検討を行った. 未破裂動脈瘤の術後合併症の検討を行った.

2) 頭部外傷: 実験頭部外傷に対する AMPA 受容体拮抗薬の効果の中, 脳挫傷面積の縮小効果について検討した. 又, アルツハイマー病型プレセニリン1遺伝子マウスに対する脳外傷の影響を調べた. 臨床研究では頭部外傷患者における MRI T2\*強調画像及び老人頭部外傷における Elder abuse の検討を行った.

3) 脳腫瘍: 種々の出血性脳腫瘍例に対する術前の人工塞栓術において, 髄膜腫に対する液体塞栓の有要性を報告した. 新たに導入した骨メスを使用する頭蓋底外科のうち, lower lateral suboccipital approach 及び trans condylar approach の検討を行った.

4) 脳代謝: SPM99 を用いた進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝の検討を行った. 脳梁無形成症における両側言語野に対し PET activation を行った. 小児モヤモヤ病患者に対して定量および半定量脳血流 SPECT による脳循環動態の重症度評価を行った.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Kim K, Kobayashi S, Mizunari T, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Aneurysm of the distal posteroinferior cerebellar artery of extracranial origin; Case report. Neurosurgery

2001 ; 49 : 996-999 .

- 2) 酒井直之, 村井保夫, 鈴木紀成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院 脳神経外科): 撓骨動脈グラフトが奏功した医原性内頸動脈解離の1例. 脳神経外科 2001 ; 29 : 837-841 .

## 著 書

- 1) 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): [分担] 頸動脈内膜剥離術の適応と実際. 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp166-171, ヴァンメディカル .
- 2) 水成隆之, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科): [分担] 頭蓋骨/内バイパス術の適応と実際. 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp172-176, ヴァンメディカル .
- 3) 小南修史, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): [分担] 脳外科手術の進歩. 脳卒中ハンドブック (片山泰朗), 2001 ; pp191-195, ヴァンメディカル .
- 4) 小林士郎: [分担] Neuroimaging Quiz ; 外傷性末梢性前大脳動脈瘤. Clinical Neuroscience, 2001 ; pp239-240, 中外医学社 .
- 5) 小南修史: [分担] Neuroimaging Quiz ; Galen 大静脈瘤. Clinical Neuroscience, 2001 ; pp99-100, 中外医学社 .
- 6) 水成隆之: [分担] Rt. lacrimal grand tumor ( mixed type adenoma ). Clinical Neuroscience, 2002 ; VOL20 . pp227-228, 中外医学社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 小林士郎: 脳腫瘍, 脊髄腫瘍に対するEMSシステムの使用経験. 釧路脳神経外科学会研究会, 2001 . 7 .
- 2) 小林士郎: 脳梗塞急性期の治療; 最新の課題. 平成13年度千葉県病院薬剤師会北部支部研修会, 2001 . 10 .
- 3) 水成隆之: 虚血性脳血管障害の外科的治療. 第2回脳卒中フォーラム, 2001 . 11 .
- 4) 水成隆之: Anterior temporal approach の有要性. 木曜会特別講演会, 2001 . 11 .
- 5) 小林士郎: 脳卒中治療室 (SCU) よりみた脳血管障害の病態と治療. 八千代市医師会学術講演会, 2002 . 1 .
- 6) 小南修史: NBCA を用いた脳動静脈奇形の血管内治療 ( Targeted Partial Embolization ). 防衛医科大学脳神経外科特別講演, 2002 . 2 .
- 7) 小南修史: 私が陥った前交通動脈瘤の血管内治療の意外な落とし穴. 埼玉脳神経血管内治療カンファレンス, 2002 . 2 .
- 8) 小林士郎: 脳卒中治療室より見た病診連携: 再発予防を中心に. 第50回東葉臨床医学セミナー, 2002 . 3 .
- 9) 小林士郎: 脳卒中治療室を中心とした患者の管理: 外来診療における留意点. 佐原市香取郡医師会学術講演会, 2002 . 3 .

### (2) シンポジウム:

- 1) 小林士郎: 地域に根ざした民間病院間の連携. 第43回全日本病院学会, 2001 . 10 .

### (3) 一般講演:

- 1) 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 髄膜腫に対するNBCAを用いた術前塞栓. 第17回日本脳神経血管内治療学会, 2001 . 11 .
- 2) Suzuki N, Kobayashi S, Terao T, Murai Y, Mizunari T, Okada S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Clinical importance of T2\* weighted Magnetic Resonance Image in the diagnosis of closed head injury . 69th AANS Annual Meeting ( Canada ), 2001 . 4 .

- 3) Mishina M, Ohyama M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Komaba Y, Kobayashi S, Kitamura S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Senda M<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> The Second Department of Internal Medicine Nippon Medical School): Statistical parametric map for cerebral metabolism of glucose in progressive supranuclear palsy. XXth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (Taipei, Taiwan), 2001. 6.
- 4) Kominami S, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Kanazawa R<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Presurgical embolization for meningiomas with NBCA. WFITN (World Federation of Intervention and Therapeutic Neuroradiology) (Soul, Korea), 2001. 11.
- 5) Kominami S, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Kanazawa R<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Vertebral dissecting aneurysms; Proximal occlusion failed to prevent from rebleeding. WFITN (World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology) (Soul, Korea), 2001. 11.
- 6) 三品雅洋, 大山雅史<sup>1)</sup>, 駒場祐一, 北村 伸<sup>1)</sup>, 三谷和子<sup>1)</sup>, 千田道雄<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 片山泰明<sup>1)</sup>, 小林士郎(<sup>1)</sup>内科第二): SPM99を用いた進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝の検討. 第42回神経学会総会, 2001. 5.
- 7) 立山幸次郎, 鈴木雅規, 田中紀子, 原島克之, 渡辺 玲, 鈴木紀成, 三品雅洋, 小南修史, 駒場祐一, 星野茂, 水成隆之, 小林士郎: Basal ganglia germinomaの例. 第22回千葉北総神経放射線研究会, 2001. 5.
- 8) 小南修史: Meningioma に対する液体塞栓. 第2回脳神経血管内治療琉球セミナー, 2001. 6.
- 9) 立山幸次郎, 鈴木雅規, 原島克之, 渡辺 玲, 鈴木紀成, 小南修史, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 頭蓋骨腫瘍にて発症し, 下垂体茎部腫瘍も合併した Langerhans cell histiocytosisの1例. 第82回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 6.
- 10) 益田律子<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 竹井麻生, 山口真人<sup>1)</sup>, 小林士郎(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科): 特発性低頭蓋内圧症候群の臨床的検討: ペインクリニックの立場から. 日本ペインクリニック学会第35回大会, 2001. 7.
- 11) 水越元気, 立山幸次郎, 鈴木雅規, 原島克之, 渡辺 玲, 鈴木紀成, 三品雅洋, 小南修史, 駒場祐一, 星野茂, 水成隆之, 小林士郎: 脳腫瘍と鑑別困難であった脳幹脳炎の1例. 第23回千葉北総神経放射線研究会, 2001. 7.
- 12) 渡辺 玲, 立山幸次郎, 鈴木雅規, 水越元気, 原島克之, 鈴木紀成, 三品雅洋, 小南修史, 駒場祐一, 星野茂, 水成隆之, 小林士郎: 右基底核部, 下垂体茎部胚細胞脳腫瘍. 第23回千葉北総神経放射線研究会, 2001. 7.
- 13) 水成隆之: Orbitocranial approach for Acom. aneurysm. 第20回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2001. 8.
- 14) 森本大二郎, 林 靖人<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): Anterior temporal approach にて clippingし得た左後大脳動脈P1P2脳動脈瘤の1例. 第83回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 9.
- 15) 渡辺 玲, 立山幸次郎, 鈴木雅規, 水越元気, 原島克之, 鈴木紀成, 三品雅洋, 小南修史, 駒場祐一, 星野茂, 水成隆之, 小林士郎: 後頭動脈の異常拍動にて発症した dural AVFの1例. 第24回千葉北総神経放射線研究会, 2001. 9.
- 16) 駒場祐一, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第二, <sup>2)</sup>脳神経外科学): PET activationにて両側言語野をみとめた脳梁無形成の1例. 第34回千葉核医学研究会, 2001. 9.
- 17) 三品雅洋, 駒場祐一, 大山雅史<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 千田道雄<sup>1)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第二): 上性麻痺の「F - 18」 FDG PET - SPMを用いた Jackknife 検定を含めて. 第41回日本核医学学会総会, 2001. 10.
- 18) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院 脳神経外科): 治療に難渋した Basilar bifurcation large - giant aneurysm. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 19) 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 鈴木紀成, 村井保夫, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): Meningioma に対するNBCAを用いた術前塞栓. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.

- 20) 村井保夫, 小南修史, 水成隆之, 鈴木紀成, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 脳血管攣縮に対する balloon angioplasty 後の脳循環. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 21) 竹井麻生, 村井保夫, 鈴木紀成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 術後合併症の来した未破裂動脈瘤の2症例. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 22) 横田裕行<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>2)</sup>, 中林基明<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>脳神経外科学): 重症頭部外傷急性期における全身管理の問題点: 全身代謝と呼吸および栄養管理の検討から. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 23) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学救急医学, <sup>3)</sup>同脳神経外科学): 老人頭部外傷の問題点: Elder abuse6例の検討. 第60回脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 24) 古川哲也<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎, 高橋正泰<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup>山之内製薬株式会社): 実験頭部外傷に対する AMPA 受容体拮抗薬 YM872 の効果 (第二報), 脳挫傷面積の縮小効果について. 第60回脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 25) 星野 茂<sup>1)</sup>, 池田幸弥<sup>2)</sup>, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 古川哲也, 小林士郎, 渥美生弘<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>中外製薬富士御殿場研究所, <sup>3)</sup>日本医科大学高度救命救急センター): アルツハイマー病型プレセニリン1遺伝子変異マウスに対する脳外傷の影響. 第60回脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 26) 斉藤寛浩, 中川原譲一<sup>1)</sup>, 大里俊明<sup>1)</sup>, 臼居礼子<sup>1)</sup>, 武田利兵衛<sup>1)</sup>, 中村博彦<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中村記念病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 小児モヤモヤ病患者の定量および半定量脳血流 SPECT による脳循環動態の重症度評価. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 27) 鈴木紀成, 渡辺 玲, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 岡田 進<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 頭部外傷患者における MRIT2\* 強調画像. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 28) 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 後下小脳動脈末梢部動脈瘤の検討. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 29) 小菊 実, 鈴木紀成, 小南修史, 渡辺 玲, 原島克之, 斉藤寛浩, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): Electromagnetic Field System の使用が効果的であった左側脳室三角部髄膜腫の1症例. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001. 11.
- 30) 小菊 実, 勝野 亮, 梅岡克哉, 斉藤寛浩, 原島克之, 渡辺 玲, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 左側室三角部髄膜腫に対しEMF SYSTEM の使用が効果的であった1症例. 第47回東葛地区脳神経外科研究会, 2001. 11.
- 31) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 外傷性頸動脈狭窄に対しステントを用い有効であった1例. 第17回日本脳神経血管内治療学会, 2001. 11.
- 32) 渡辺 玲, 水成隆之, 小林士郎, 上山博康<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>旭川赤十字病院 脳神経外科学, <sup>2)</sup>脳神経外科学): Marfan 症候群に合併した巨大内頸動脈瘤に対し radial artery graft を施行した1例. 第84回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 11.
- 33) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 古川哲也<sup>1)</sup>, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): ラット実験頭部外傷に対するラジカットの効果について. 第13回神経損傷の基礎シンポジウム, 2001. 12.
- 34) 古川哲也<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 実験的頭部外傷に対する AMPA 受容体拮抗薬 YM872 の効果. 第13回神経損傷の基礎シンポジウム, 2001. 12.
- 35) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 渡辺 玲, 小菊 実, 原島克之, 鈴木紀成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): ラクロスにて受傷し, TIA にて発症した外傷性頸動脈損傷の1例. 第7回日本脳神経外科救急学会, 2002. 1.
- 36) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 両

- 側外傷性頸動脈損傷に対し血管内治療を行った1例．第7回日本脳神経外科救急学会，2002．1．
- 37) 佐藤英尊，勝野 亮，梅岡克哉，斉藤寛浩，原島克之，渡辺 玲，小南修史，水成隆之，小林士郎：頸髄内腫瘍性病変の1例．第26回千葉北総神経放射線研究会，2002．1．
- 38) 佐藤英尊，勝野 亮，梅岡克哉，斉藤寛浩，原島克之，渡辺 玲，小南修史，水成隆之，小林士郎：動眼神経麻痺で発症した海綿静脈洞瘻の1例．第48回東葛地区脳神経外科研究会，2002．2．
- 39) 酒井直之，村井保夫，鈴木紀成，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学，<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科)：RA Graftが奏功した外傷性内頸動脈動脈解離の1例．第1回日本頸部脳血管治療学会，2002．3．
- 40) 斉藤寛浩，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学)：CEA術後に遅発性にhyperperfusionを再発した症例．第85回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．3．
- 41) 小南修史：Borden III Dural AV fistulaに対するNBCAを用いた経動脈塞栓術の1例．房総脳神経血管内治療カンファレンス，2002．3．
- 42) 古川哲也<sup>1)</sup>，星野 茂<sup>1)</sup>，小林士郎，渥美生弘<sup>1)</sup>，朝倉隆之<sup>1)</sup>，高橋正泰<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学，<sup>2)</sup>山之内製薬株式会社)：実験頭部外傷に対するAMPA受容体拮抗薬YM872の効果(第2報) 脳浮腫の軽減効果について．第25回日本神経外傷学会，2002．3．
- 43) 立山幸次郎，渡辺 玲，小菊 実，原島克之，鈴木紀成，小南修史，水成隆之，小林士郎，秋元正宇<sup>1)</sup>，寺本明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>脳神経外科学)：遊離広背筋皮弁を用いた頭蓋底形成術が効奏した緊張性気脳症の1例．第25回日本神経外傷学会，2002．3．
- 44) 鈴木紀成，小林士郎，渡辺 玲，小南修史，水成隆之，岡田 進<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>脳神経外科学)：脳振盪症例におけるMRIT2\*強調画像．第25回日本神経外傷学会，2002．3．
- 45) 佐藤英尊，勝野 亮，梅岡克哉，斉藤寛浩，原島克之，渡辺 玲，三品雅洋，小南修史，駒場祐一，水成隆之，小林士郎：後頭部痛にて発症し髄液所見にて著名な蛋白細胞解離を呈した1例．第27回千葉北総神経放射線研究会，2002．3．
- 46) 渡辺 玲，佐藤英尊，勝野 亮，梅岡克哉，斉藤寛浩，原島克之，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学)：高齢者破裂脳動脈瘤の特徴と治療に関する検討．第15回日本老年脳神経外科学会，2002．3．
- 47) 小南修史：X線透視の視野外で起こった前交通動脈瘤塞栓術中の中大脳動脈塞栓症の1例．第10回脳神経血管内治療蔵王セミナー，2002．3．

## 12. 整形外科学講座

[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科 ]

### 研究概要

整形外科学の研究範囲は膨大な範囲に涉っており，その全てを網羅することは到底不可能であるが，臨床的にも出来るだけ広範囲にしかも深く研究するのが教室の使命であると考えている．

- 1) 骨・軟骨再生における基礎的・遺伝子学的研究
- 2) 骨・軟骨形成に対する基礎的・臨床的研究
- 3) 靭帯・腱・神経再建に対する基礎的・臨床的研究
- 4) Biomechanics 的研究
- 5) 電気生理学的研究
- 6) 臨床的研究 ( 脊椎・脊髄, 肩・肘・手・股・膝・足関節, 手・足の外科, スポーツ外傷・障害, 骨・軟部腫瘍, 骨粗鬆症, 末梢神経, 外傷など )

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Ito H, Shirai Y : The efficacy of treatment for ununited tibial fractures using pulsing electromagnetic fields - Relation to biological activity on the nonunion bone ends- . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 : 149-153 .
- 2) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Mori A, Kobayashi K : The accuracy of MRI in assessing graft integrity after ACL reconstruction . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 : 45-49 .
- 3) Sawaizumi T, Shirai Y, Nanno M, Nanbu A, Rokugo T : Application of Arthroscopy for Reduction of Intra-articular Fracture of the Distal End of the Radius . Journal of Japanese Society for Surgery of the Hand 2001 ; 17 : 585-589 .
- 4) Sawaizumi T, Nakayama Y, Shirai Y, Gembun Y, Hashiguchi H, Rokugo T : A Suspension Procedure Using the Extensor Carpi Ulnaris Tendon for Distal Radioulnar Joint Disorders . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 : 233-237 .
- 5) Nanno M, Shirai Y, Ito H, Sawaizumi T, Hashiguchi H : Percutaneous pinning for radial neck fractures . J Jpn Elbow Soc 2001 ; 8 ( 1 ) : 109-110 .
- 6) Ota N, Nakajima T<sup>1)</sup>, Nakazawa I<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Inoue S<sup>2)</sup>, Shirai Y, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Molecular Biology , <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. Hosp. , <sup>3)</sup> Tokyo Univ. ) : A nucleotide variant in the promoter region of the interleukin-6 gene associated with decreased bone mineral density . J Hum Genet 2001 ; 46 : 267-272 .
- 7) Hashiguchi H, Shirai Y, Sawaizumi T, Nanno M, Rokugo T : Clinical outcomes of cubital tunnel syndrome treated with stabilized subcutaneous transposition . Journal of Japanese Elbow Society 2001 ; 8 : 7-8 .
- 8) Kaneda K, Shirai Y, Miyamoto M : An epidemiological study on occupational low back pain among people who work in construction . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 : 310-317 .
- 9) Shinohara Y<sup>1)</sup>, Ezura Y<sup>1)</sup>, Iwasaki H<sup>1)</sup>, Nakazawa I<sup>1)</sup>, Ishida R, Kodaira M<sup>1)</sup>, Kajita M<sup>1)</sup>, Shiba T<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ) : Linkage disequilibrium and haplotype analy-



- sis among ten single- nucleotide polymorphisms of interleukin 11 identified by sequencing of the gene . J Hum Genet 2001 ; 46 : 494-497 .
- 10) Iwasaki H<sup>1)</sup>, Shinohara Y<sup>1)</sup>, Ezura Y<sup>1)</sup>, Ishida R, Kodaira M<sup>1)</sup>, Kajita M<sup>1)</sup>, Nakajima T<sup>1)</sup>, Shiba T<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Thirteen single- nucleotide polymorphisms in the human osteopontin gene identified by sequencing of the entire gene in Japanese individuals . J Hum Genet 2001 ; 46 : 544-546 .
- 11) Banzai Y, Aoki T : Muscle Sympathetic Nerve Activity in Patients with Lumbar Spinal Canal Stenosis . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ) : 376-383 .
- 12) Ishida R, Ezura Y<sup>1)</sup>, Iwasaki H<sup>1)</sup>, Nakazawa I<sup>1)</sup>, Kajita M<sup>1)</sup>, Kodaira M<sup>1)</sup>, Ito H, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ): Linkage disequilibrium and haplotype analysis among four novel single- nucleotide polymorphisms in the human leukemia inhibitory factor ( LIF ) gene . J Hum Genet 2001 ; 46 : 557-559 .
- 13) Nanno M, Ito H, Sawaizumi T, Aoki T, Egawa Y : Evaluation of Orthodromic Sensory Nerve Conduction Test By Inching Method for Carpal Tunnel Syndrome . J Jpn Soc Surg Hand 2001 ; 18 ( 4 ) : 390-395 .
- 14) Gembun Y, Nakayama Y, Miyamoto M, Sawaizumi T, Kitamura S, Shirai Y : A case report of spondyloepiphyseal dysplasia congenita . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 : 186-189 .
- 15) Uesaka S, Nakayama Y, Yoshihara K, Ito H : Significance of chondroitin sulfate isomers in the synovial fluid of osteoarthritis patients . J Orthop Sci 2002 ; 7 ( 2 ) : 231-238 .
- 16) 南野光彦, 白井康正, 澤泉卓哉, 橋口 宏, 今野俊介: 橈骨頭骨折の治療経験 . 骨折 ( 日本骨折治療学会誌 ) 2001 ; 23 ( 1 ) : 236-239 .
- 17) 橋口 宏, 白井康正, 南野光彦, 萬歳祐子: 人工骨を用いた上腕骨近位部骨折の治療成績 . 骨折 2001 ; 23 : 153-155 .
- 18) 河路秀巳, 白井康正, 青木孝文, 橋口 宏: 距骨頸部骨折に対する吸収性骨接合材の使用経験 . 骨折 2001 ; 23 : 697-700 .
- 19) 中嶋隆夫, 南 和文, 小林俊之, 吉原 潔, 村田修二, 斉藤 善, 白井康正, 玉井健介: 不安定型大腿骨転子部骨折に対するつば付き compression hipscrew の使用経験: 脱着式, 非脱着式プレートの比較検討 . 骨折 2001 ; 23 ( 2 ) : 419-426 .
- 20) 村田修二, 白井康正, 南 和文, 中嶋隆夫, 小林俊之, 吉原 潔, 斉藤 善: チタン製肩鎖関節プレートによる鎖骨遠位端骨折の治療経験 . 骨折 2001 ; 23 ( 1 ) : 112-115 .
- 21) 服部幹彦, 伊藤博元, 白井康正, 成田哲也, 青木孝文, 森 淳: 半月板損傷を伴った脛骨粗面裂離骨折の2例 . 骨・関節・靭帯 2001 ; 14 ( 6 ) : 545-549 .
- 22) 成田哲也, 増島 篤<sup>1)</sup>, 内山英司<sup>2)</sup>, 三木英之<sup>3)</sup>, 森 淳, 小林 薫, 武田知通, 伊藤博元 ( <sup>1)</sup> 東芝病院スポーツ整形外科, <sup>2)</sup> 関東労災病院スポーツ整形外科, <sup>3)</sup> 横浜市スポーツ医科学センター整形外科 ): バスケットボールにおける整形外科的メディカルチェックと予防へのコツ . 臨床スポーツ医学 2001 ; 18 : 1009-1014 .
- 23) 橋口 宏, 伊藤博元, 高山景範, 萬歳祐子: Floating shoulder 症例に対する鎖骨単独骨接合術の治療経験 . 肩関節 2001 ; 25 : 503-506 .
- 24) 玉井健介, 白井康正, 中嶋隆夫, 小林俊之, 掛川裕治: 股関節の関節裂隙狭小化を伴わない骨棘について . Hip Joint 2001 ; 27 : 223-226 .
- 25) 伊藤博元: 肩関節の周術期管理 . 別冊整形外科 2001 ; 40 : 132-136 .
- 26) 伊藤博元, 白井康正: 骨盤骨折の分類法 . 整形, 災害外科 2001 ; 44 ( 11 ) : 1255-1260 .
- 27) 小林 薫, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 森 淳, 武田知通: 膝前十字靭帯再建術におけるスティック型アイソメーター ( ISOSTICK ) を用いたアイソメトリー計測法 . 膝 2001 ; 26 : 73-75 .

- 28) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 小林 薫, 武田知通, 萬歳祐子, 梅ヶ枝健一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>梅ヶ枝整形外科): バスケットボール競技特性と膝前十字靭帯損傷: 日本リーグにおける障害調査. 臨床スポーツ医学 2002; 19: 75-79.
- 29) 青木孝文, 白井康正, 伊藤博元: 運動性誘発電位 (MEP) を両側同時記録した頸椎症性脊髄症の症例. 臨脳波 2002; 44(1): 52-54.
- 30) 江川慶長, 白井康正, 青木孝文, 伊藤博元: 健常者における C 反応の出現様式に関する研究. J Nippon Med Sch 2002; 69(1): 43-48.
- 31) 田口 和宏: 回外筋筋肉内脂肪腫による後骨間神経麻痺の1例. 関東整形災害外科会誌 2002; 33: 50.
- 32) 江川慶長, 澤泉卓哉, 橋口 宏, 服部幹彦, 堀口 元, 伊藤博元: Galeazzi equivalent lesion の2症例. 東日整災外会誌 2002; 14: 90-94.
- 33) 橋口 宏, 伊藤博元, 青木孝文, 萬歳祐子, 北村繁行: 鎖骨骨折に対する吸収性材料を用いた経皮的ピン固定法の治療経験. 東日整災外会誌 2002; 14: 23-26.

(2) 綜説:

- 1) 江面陽一<sup>1)</sup>, 岩崎公典<sup>1)</sup>, 石田良太, 白木正孝<sup>2)</sup>, 井上 聡<sup>3)</sup>, 細井孝之<sup>4)</sup>, 吉田英世<sup>5)</sup>, 鈴木隆雄<sup>5)</sup>, 折茂肇<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>成人病診療研究所, <sup>3)</sup>東京大学医学部老年病科, <sup>4)</sup>東京都老人医療センター内科, <sup>5)</sup>東京都老人総合研究所疫学部門): 骨粗鬆症の SNP 解析: 関連遺伝子群の同定. J Nippon Med Sch 2001; 68: 426-429.
- 2) 南 和文: 部位別スポーツ外傷(7)腰部, 骨盤. 救急医 2001; 25(6): 674-678.
- 3) 白井康正, 青木孝文, 服部幹彦: 短潜時体性感覚誘発電位の変化からみた間欠的頸椎牽引療法の効果発現機序. 臨脳波 2001; 43(7): 443-447.
- 4) 中山義人, 上坂真司: 変形性関節症におけるコンドロイチン硫酸濃度測定の設定. リウマチ科 2001; 177-183.
- 5) 白井康正, 森 淳: わが国における整形外科関連学会の歩み; 日本整形外科スポーツ医学会. 整形外科 2001; 52: 1349-1353.
- 6) 太田信孝, 中島敏晶<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 骨粗鬆症予防のための遺伝子マーカーの開発. 日老医会誌 2001; 38: 498-500.
- 7) 伊藤博元: 肩こりの原因と予防・治療. 整外看 2001; 6(10): 25-28.
- 8) 江面陽一<sup>1)</sup>, 岩崎公典<sup>1)</sup>, 石田良太, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 骨粗鬆症の SNP 解析. 医のあゆみ 2001; 198: 665-670.
- 9) 南 和文: 相撲・高齢者の指導. 武道 2001; 10: 80-89.
- 10) 宮本雅史: 腰痛の運動療法指導のコツ. 治療 2001; 83: 2986-2988.
- 11) 江面陽一<sup>1)</sup>, 岩崎公典<sup>1)</sup>, 石田良太, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): SNP の解析 解析法の技術的進歩と疾患遺伝子の解析. ゲノム医学 2001; 1: 311-315.
- 12) 玉井健介, 伊藤博元: 大腿骨頸部骨折の手術適応と方法. 骨・関節・靭帯 2002; 15(2): 121-129.
- 13) 高山景範, 伊藤博元: 肩関節の画像診断. ペインクリニック 2002; 23: 315-328.
- 14) 青木孝文, 南野光彦, 服部幹彦, 伊藤博元: 絞扼性神経障害の診断における知覚性インテグレーション法. 整形・災害外科 2002; 45(3): 171-176.

(3) 研究報告書:

- 1) 尾崎大也, 白井康正, 武内俊次, 井出勝彦, 中瀬 猛: 重量挙げによる両側第1肋骨骨折の1例. 日整外スポーツ医会誌 2001; 21: pp11-16.
- 2) 上坂真司, 中山義人, 橋口 宏, 小林 薫, 中原義人, 田中功一, 村重良一: 胸部単純X線像で発見された無症候性上位胸椎部砂時計型. 神奈川整災外会誌 2001; 14(2): pp45-49.
- 3) 中原義人, 中山義人, 橋口 宏, 小林 薫, 上坂真司, 田中功一, 村重良一: 骨の陥凹変化を伴った手指の血

管平滑筋腫の1例．神奈川整災外会誌 2001；14(2)：pp61-65．

4) 齊藤 善：脊髄硬膜外悪性リンパ腫の1例．関東整災外会誌 2001；32(6)：pp393-397．

## 著 書

1) 藤井信人：〔分担〕代謝・内分泌疾患．整形外科学テキスト，2001；pp257-264，南江堂．

2) 武内俊次：〔分担〕側彎症・その他の変形．整形外科学テキスト，2001；pp206-209，南江堂．

3) 武内俊次：〔分担〕骨盤部．整形外科学テキスト，2001；pp210-213，南江堂．

4) 澤泉卓哉：〔分担〕小児上腕骨顆上骨折の治療法．Monthly Book Orthopaedics，2001；pp1-8，全日本病院出版会．

5) 吉原 潔，中嶋隆夫，南 和文，伊藤博元：〔共著〕リン酸カルシウム骨セメント注入補填法の工夫：効果的に使用するために．臨床雑誌「整形外科」，2001；pp1197-1201，南江堂．

6) 澤泉卓哉，伊藤博元，黒川高秀：〔分担〕1cm 以下の極短小指節骨の骨延長法．関節外科 最近の創外固定の展開，2001；pp124-129，メディカルビュー．

7) 伊藤博元：〔分担〕肩関節の画像診断：X線撮影法および関節造影法．肩の外科，ニュームック整形外科，2001；pp14-26，南江堂．

8) 伊藤博元，澤泉卓哉，白井康正：〔分担〕Pennig model による橈骨遠位端骨折の創外固定．整形・災害外科増刊号 創外固定法の基礎と臨床，2002；pp321-328，金原出版．

9) 澤泉卓哉：〔分担〕イリザロフ法による手指末節骨の仮骨延長法．整形・災害外科増刊号 創外固定法の基礎と臨床，2002；pp419-424，金原出版．

10) 南 和文：〔共著〕国立生育医療センター．世田谷100の素顔（蓑茂寿太郎），2002；p60，東京農大出版会．

11) 南 和文：〔共著〕福祉の町づくり．世田谷100の素顔（蓑茂寿太郎），2002；p108，東京農大出版．

12) 南 和文：〔共著〕高齢者向け住宅シルバーピア．東京農大出版会（蓑茂寿太郎），2002；p109，東京農大出版会．

13) 南 和文：〔共著〕デイホーム．世田谷100の素顔（蓑茂寿太郎），2002；p110，東京農大出版会．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

1) 伊藤博元：外傷性偽関節治療における電磁場刺激法の有効性．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．

### (2) 教育講演：

1) 成田哲也：運動のためのメディカルチェック 整形外科系．第28回日本整形外科学会スポーツ医学研修会，2001．8．

2) 成田哲也：スポーツ選手の足関節捻挫．第31回千葉スポーツ医学研究会，2002．1．

### (3) シンポジウム：

1) Sawaizumi T, Shirai Y, Kurokawa T：Lengthening of amputation stumps of the Distal Phalanx by the use of Ilizarov Mini Fixator．The 11th Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium, (Taiwan), 2001．4．

2) Aoki T：Tibio-fibular syndesmosis injury associated with malleolar fractures of the ankle．The 11th Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium (Kaosyung, ROC), 2001．5．

### (4) パネルディスカッション：

1) 杉山 修，白井康正，伊藤博元，折茂英生<sup>1)</sup>，鈴木 聡<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第二)：初代培養の骨髄ストローマ細胞を用いた遺伝子治療による骨形成．第16回日本整形外科学会基礎学術集会，2001．10．

2) 宮本雅史：腰痛のEBM “職業性腰痛について”．第9回日本腰痛学会，2001．11．

(5) 一般講演 :

- 1) Sawaizumi T, Shirai Y, Miyamoto M, Hashiguchi H, Kurokawa T : Lengthening of amputation stumps of the Distal Phalanx by the use of Ilizarov Mini Fixator . The 2nd International Meeting of the A. S. A. M. I ( Rome ), 2001 . 5 .
- 2) Sawaizumi T, Aoki T, Nanno M, Rokugo T, Egawa Y : Application of Arthroscopy for Reduction of Intra-articular Fracture of the Distal End of the Radius . The 8th congress of the international federation of societies for surgery of the hand ( Istanbul ), 2001 . 6 .
- 3) Ota N, Nakajima T<sup>1)</sup>, Nakazawa I<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Inoue S<sup>3)</sup>, Shirai Y, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Molecular Biology , <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. Hosp. , <sup>3)</sup> Tokyo Univ. ) : A nucleotide variant in the promoter region of the interleukin - 6 gene associated with decreased bone mineral density . International Society of Bone and Mineral Research and European calcified tissue society joint 1st Annual Meeting ( Madrid Spain ), 2001 . 6 .
- 4) Hashiguchi H, Shirai Y, Aoki T, Banzai Y : Study of Complications of the Intramedullary Hip Screw Systems in Cases with Peritrochanteric Fracture of the Femur . SICOT/SIROT Annual International Conference 2001 ( Paris ), 2001 . 8 .
- 5) Feng D<sup>1)</sup>, Koshihara Y<sup>1)</sup>, Ishibashi H<sup>1)</sup>, Yamamoto S<sup>2)</sup>, Ota N, Emi M<sup>3)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Inst. , Dept. Molecular Biology , <sup>2)</sup> Geriatric. Hosp. , <sup>3)</sup> Dept. Molecular Biology ) : Association between IL- 6 production in bone marrow cultures and IL- 6 polymorphism in elderly women with fracture . ASBMR 23rd Annual Meeting ( Phenix, Arizona, USA ), 2001 . 10 .
- 6) Sawaizumi T, Aoki T, Shindo H, Kim R, Yamada T, Ito H : Lengthening of the amputation stumps of the Distal Phalanx by Ilizarov method . The 4th Asian-Pacific Federation of Society for Surgery of the Hand ( Seoul ), 2002 . 3 .
- 7) 中原義人, 澤泉卓哉, 今野俊介, 南野光彦, 南部昭彦, 江川慶長, 伊藤博元 : 著明な母指内転拘縮に対し創外固定を用いて対立位再建を試みた1例 . 第16回東日本手の外科研究会, 2001 . 2 .
- 8) 石田良太, 江面陽一<sup>1)</sup>, 岩崎公典<sup>1)</sup>, 横田 隆<sup>1)</sup>, 梶田満子<sup>1)</sup>, 小平美奈<sup>1)</sup>, 伊藤博元, 江見 充<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門 ) : 非自動化 SNP タイピング法の比較 . 第46回日本人類遺伝学会, 2001 . 3 .
- 9) 橋口 宏, 白井康正, 掛川裕治, 萬歳祐子, 山田哲士 : 肩鎖関節脱臼に対する吸収性 screw を用いた Weaver 変法の治療成績 . 第74回日本整形外科学会学術集会, 2001 . 4 .
- 10) 玉井健介, 白井康正, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 掛川裕治 : 加齢に伴う股関節の骨棘形成について . 第74回日本整形外科学会学術集会, 2001 . 4 .
- 11) 青木孝文, 伊藤博元, 白井康正, 南野光彦, 高松 真, 掛川裕治, 山田哲士 : 足関節捻挫後の脛腓間結合損傷の診断と治療 . 第74回日本整形外科学会学術集会, 2001 . 4 .
- 12) 橋口 宏, 白井康正, 澤泉卓哉, 南野光彦, 六郷知行 : 尺骨神経移行術としての Stabilized subcutaneous transposition 法の有用性 . 第44回日本手の外科学会学術集会, 2001 . 5 .
- 13) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 青木孝文 : 手根管症候群における順行性感覚神経 inching 法の検討 . 第44回日本手の外科学会, 2001 . 5 .
- 14) 小寺訓江, 白井康正, 澤泉卓哉, 南野光彦, 河路秀巳, 橋口 宏 : 遠位橈尺関節の反復性掌側脱臼の1例 . 第41回関東整形災害外科学会, 2001 . 5 .
- 15) 澤泉卓哉, 白井康正, 南野光彦, 橋口 宏, 六郷知行 : 舟状骨偽関節に対して掌側に用いた血管柄付き第2中手骨基部骨移植術 . 第44回日本手の外科学会, 2001 . 5 .
- 16) 田口和宏 : 回外筋筋肉内脂肪腫による後骨間神経麻痺の1例 . 第608回整形外科集談会東京地方会, 2001 . 6 .
- 17) 服部幹彦, 青木孝文, 河路秀巳, 掛川裕治, 江川慶長 : 足根管症候群におけるインチング法の有効性 . 第26回

- 日本足の外科学会，2001．6．
- 18) 河路秀巳，白井康正，青木孝文，北川泰之，掛川裕治：陥没型踵骨々折に対する吸収性骨接合剤の臨床応用．第26回日本足の外科学会，2001．6．
  - 19) 青木孝文，河路秀巳，掛川裕治，服部幹彦，江川慶長：当科における先天性内反足の治療について．第26回日本足の外科学会，2001．6．
  - 20) 橋口 宏，青木孝文，萬歳祐子，植松直子，北村繁行，小寺訓江：鎖骨遠位端骨折に対する肩鎖関節 plate の有用性とその問題点．第27回日本骨折治療学会，2001．7．
  - 21) 北川泰之，白井康正，伊藤博元，角田 隆，丸山晴久，淺野伍朗<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，横山宗伯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第二，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部)：低悪性度軟骨肉腫の治療と問題点．第34回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会，2001．7．
  - 22) 南野光彦，澤泉卓哉：橈骨遠位端骨折後の手根管配列異常．第27回日本骨折治療学会，2001．7．
  - 23) 武田知通，伊藤博元，成田哲也，森 淳，林 英俊，萬歳祐子，中山義人：スポーツ選手における床反力計を用いた繰り返し動作の解析．第17回ライフサポート学会大会，2001．7．
  - 24) 家田俊也，伊藤博元，澤泉卓哉，白井康正，南 和文，中嶋隆夫：骨折治療における Ilizarov Minifixator 創外固定の使用経験．第27回日本骨折治療学会，2001．7．
  - 25) 澤泉卓哉，白井康正，南野光彦，六郷知行，高比良薫：Bennett 脱臼骨折に対して我々がおこなっている経皮的整復法．第27回日本骨折治療学会，2001．7．
  - 26) 青木孝文，中嶋隆夫，服部幹彦，江川慶長，小寺訓江：リスフラン関節脱臼および脱臼骨折の治療成績．第27回日本骨折治療学会，2001．7．
  - 27) 中山義人，伊藤博元，成田哲也，森 淳，小林 薫，上坂真司：各年代における正常関節液中のコンドロイチン硫酸濃度．第30回リウマチの外科研究会，2001．8．
  - 28) 橋口 宏，伊藤博元，高山景範，萬歳祐子：上腕骨近位部粉碎骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績．第28回日本肩関節学会，2001．9．
  - 29) 中嶋祐作，玉井健介，宮本雅史，北川泰之，江川慶長，伊藤博元：骨盤に発生した巨大軟骨肉腫の1例．第609回整形外科集談会東京地方会，2001．9．
  - 30) 村重良一：人工骨頭置換術後に間質性肺炎をおこした1例．神奈川関節外科学会，2001．9．
  - 31) 家田俊也：上腕骨骨折に対しイリザロフ創外固定器を使用した2症例．第7回日本イリザロフ法，2001．9．
  - 32) 吉原 潔，南 和文，中嶋隆夫，深井靖雄，小林俊之，村田修二：リン酸カルシウム骨セメント ( Biopex ) の注入補填法の工夫．第2回千葉骨ペースト研究会，2001．9．
  - 33) 澤泉卓哉，今野俊介，江川慶長，太田信孝，伊藤博元：母指の内転拘縮に対してイリザロフ創外固定器を用いて対立位の獲得を試みた1例．第7回日本イリザロフ法研究会，2001．9．
  - 34) 吉原 潔，南 和文，中嶋隆夫，村田修二，伊藤博元：膝前十字靭帯部分断裂に対する Thermal Shrinkage 法の試み．第27回日本関節鏡学会，2001．9．
  - 35) 橋口 宏，伊藤博元，青木孝文，萬歳祐子，北村繁行：鎖骨骨幹部骨折に対する吸収性材料を用いた経皮的 pinning 法の治療経験．第50回東日本整形災害外科学会，2001．10．
  - 36) 尾崎大也，麻生定光<sup>1)</sup>，武内俊次，中山義人，白井康正，太田成男<sup>1)</sup>，伊藤博元 (<sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門)：スーパーアポトーシス抑制因子 Bcl - x FNK 蛋白導入による軟骨細胞の維持．第16回日本整形外科基礎学術集会，2001．10．
  - 37) 江川慶長，澤泉卓哉，橋口 宏，服部幹彦，堀口 元，伊藤博元：Galeazzi equivalent lesion の2症例．第50回東日本整形災害外科学会，2001．10．
  - 38) 江川慶長，白井康正，青木孝文，服部幹彦，六郷知行，伊藤博元：健常者におけるC反応の出現様式に関する研究．第16回日本整形外科基礎学術集会，2001．10．

- 39) 北川泰之, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 澤泉卓哉, 伊藤博元 ( <sup>1)</sup>病理第二, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): MIB-1 抗体を用いた腱鞘巨細胞腫の腫瘍増殖能の検討. 第50回東日本整形災害外科学会, 2001. 10.
- 40) 元文芳和, 宮本雅史, 中嶋隆夫, 進藤久夫, 山田哲士, 伊藤博元: 環納式腰椎椎弓形成術の経験. 第50回東日本整形災害外科学会, 2001. 10.
- 41) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 金田和容, 山田哲士, 伊藤博元: 頸椎性脊髄症における棘突起縦割式椎弓形成術の治療成績. 第50回東日本整形災害外科学会, 2001. 10.
- 42) 萬歳祐子, 伊藤博元, 橋口 宏, 植松直子: 肩峰偽関節の1症例. 第50回東日本整形災害外科学会, 2001. 10.
- 43) 六郷知行, 白井康正, 伊藤博元, 武内俊次, 大野達朗: 経皮的末梢神経電気刺激 ( TENS ) におけるラット脊髄後根神経節および脊髄内サブスタンスPの変化. 第16回日本整形外科学会基礎学術集会, 2001. 10.
- 44) 太田信孝, 中島敏晶<sup>1)</sup>, 鈴木隆雄<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 折茂 肇<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>5)</sup>, 伊藤博元 ( <sup>1)</sup>東大医科研・ゲノム情報応用診断, <sup>2)</sup>都老人研・疫学, <sup>3)</sup>都老人医療センター・内分泌内科, <sup>4)</sup>都老人研, <sup>5)</sup>老研・分子生物 ): 同胞対解析による骨粗鬆症と TNFA 座の連鎖. 第16回日本整形外科学会基礎学術大会, 2001. 10.
- 45) 南 和文, 中嶋隆夫, 小林俊之, 深井靖雄, 吉原 潔, 村田修二: 骨補填材を使用した股関節臼蓋形成術. 第2回千葉股関節研究会, 2001. 10.
- 46) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 高齢者の橈骨遠位端骨折に対するリン酸カルシウムペーストの使用経験. 第7回神奈川手・肘の外科研究会, 2001. 10.
- 47) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 金田和容, 山田哲士, 伊藤博元: 腰部脊柱管狭窄症の手術成績. 第9回日本腰痛学会, 2001. 11.
- 48) 中嶋隆夫, 南 和文, 深井靖雄, 小林俊之, 吉原 潔, 村田修二, 伊藤博元, 玉井健介: 不安定型大腿骨転子部骨折に対するリン酸カルシウム骨ペースト補填法の経験. 第28回日本股関節学会学術集会, 2001. 11.
- 49) 吉原 潔, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 小林俊之, 村田修二, 玉井健介, 伊藤博元: 日常生活動作と大腿骨頸部骨折受傷側との関連. 第28回日本股関節学会学術集会, 2001. 11.
- 50) 玉井健介, 河路秀巳, 中嶋祐作, 田口和宏, 伊藤博元: CE 角の intra, interobserver variation について. 第28回日本股関節学会学術集会, 2001. 11.
- 51) 青木孝文, 今野俊介, 金 竜, 萬歳祐子, 南部昭彦, 服部幹彦, 江川慶長, 伊藤博元: 周波数解析による筋疲労の筋電図学的評価. 第31回日本臨床神経生理学学会, 2001. 11.
- 52) 麻生定光<sup>1)</sup>, 北沢梨々<sup>1)</sup>, 木村 恵<sup>1)</sup>, 山縣久美<sup>1)</sup>, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 森 隆<sup>2)</sup>, 桂研一郎<sup>3)</sup>, 平出智晴<sup>3)</sup>, 尾崎大也, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門, <sup>2)</sup>埼玉医大医療セ, <sup>3)</sup>内科第二 ): ミトコンドリアヘターゲットするスーパーアポトーシス抑制因子による蛋白質治療. 第1回ミトコンドリア研究会, 2002. 1.
- 53) 上坂真司, 中山義人, 橋口 宏, 中原義人, 田中功一, 村重良一: 化膿性膝関節炎後の高度内反変形膝に対し人工膝関節置換術を施行した1例. 第34回神奈川関節外科研究会, 2002. 2.
- 54) 橋口 宏, 伊藤博元, 南野光彦, 中原義人, 大場俊二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>大場整形外科クリニック ): スポーツにより発症した肘頭疲労骨折の治療経験. 第14回日本肘関節研究会, 2002. 2.
- 55) 中嶋祐作, 青木孝文, 江川慶長, 友利裕二, 伊藤博元: イリザロフ創外固定器で治療した熱傷後内反尖足の1例. 第612回整形外科集談会東京地方会, 2002. 2.
- 56) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 中原義人: Galeazzi 骨折の治療経験. 第16回東日本手の外科研究会, 2002. 2.
- 57) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 橋口 宏, 今野俊介: 尺骨急性骨塑性変形を伴った小児モンテジア脱臼骨折の3症例. 第14回日本肘関節研究会, 2002. 2.
- 58) 六郷知行, 澤泉卓哉, 橋口 宏, 服部幹彦, 小寺訓江: 肘関節周辺外傷における SP プログライドの使用経験. 第14回日本肘関節研究会, 2002. 2.
- 59) 澤泉卓哉, 南野光彦, 服部幹彦, 飯澤典茂, 中原義人, 六郷知行, 小寺訓江, 青木孝文, 江川慶長, 伊藤博元: Sauve- Kapandji 法術後の尺骨近位断端部痛に対する静的因子の検討. 第15回東日本手の外科研究会,

2002 . 2 .

- 60) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 陳旧性骨性マレット指の治療経験 . 第16回東日本手の外科研究会, 2002 . 2 .
- 61) 中原義人, 橋口 宏, 上坂真司, 村重良一, 中山義人: 後方の骨端損傷を含んだ脛骨近位骨端線離開の1例 . 第114回神奈川整形災害外科医会, 2002 . 3 .
- 62) 山田哲士, 宮本雅史, 元文芳和, 北川泰之, 斉藤 善, 伊藤博元: 脊髄症状を呈した硬膜外悪性リンパ腫の2例 . 第42回関東整形災害外科学会, 2002 . 3 .
- 63) 橋口 宏, 上坂真司, 中原義人, 村重良一, 伊藤博元: スポーツによる肩インピンジメント症候群に対する鏡視下肩峰下除圧術の治療経験 . 第10回よこはまスポーツ整形外科フォーラム, 2002 . 3 .
- 64) 尾崎大也, 麻生定光<sup>1)</sup>, 中山義人, 太田成男<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>(<sup>1)</sup> 老人病研究所生化学部門)</sup>: 改良型アポトーシス抑制因子 FNK 蛋白導入による変形性関節症軟骨細胞の維持 . 第15回日本軟骨代謝学会, 2002 . 3 .
- 65) 澁川正人, 伊藤博元: 末梢神経伸張における経時的電気生理学的変化の基礎的研究 . 第15回日本創外固定・骨延長学会, 2002 . 3 .
- 66) 金 竜, 成田哲也, 森 淳, 金田和容, 伊藤博元: サッカー選手に生じた膝関節内ガングリオンの1例 . 第42回関東整形災害外科学会, 2002 . 3 .
- 67) 武田知通, 成田哲也, 森 淳, 服部幹彦, 福田慶一, 伊藤博元, 中山義人, 小林 薫: 一流バスケットボール選手に生じた両側膝蓋骨疲労骨折の1例 . 第28回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2002 . 3 .
- 68) 服部幹彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 鈴木康之, 須藤悦宏: Rolando 骨折における創外固定の効果 . 第15回日本創外固定・骨延長学会, 2002 . 3 .
- 69) 澤泉卓哉, 南野光彦, 太田信孝, 服部幹彦, 伊藤博元: Ilizarov mini fixator による手指骨延長術の治療成績 . 第15回日本創外固定・骨延長学会, 2002 . 3 .

(6) ポスター :

- 1) Yoshihara K, Minami K, Kobayashi T, Ito H : Thermal Shrinkage of Symptomatic Partial Tears of The Anterior Cruciate Ligament . The Second Congress of Asia - Pacific Knee Society ( Taiwan ), 2001 . 3 .
- 2) Nanno M, Ito H, Sawaizumi T, Aoki T, Egawa Y : An orthodromic Sensory Nerve Action Potential By Inching Method for Carpal Tunnel Syndrome . 第4回 Combined Meeting of the Orthopaedic Research Societies of the U. S. A., Canada, Europe, and Japan ( Rhodes, Greece ), 2001 . 6 .
- 3) Nanno M, Ito H, Sawaizumi T, Aoki T, Egawa Y : Correlation Between Displacement and Clinical Results with Conservative Treatment for Distal Radius Fractures - A Comparative Study of Radiological Parameters of the Injured and the Uninjured Side- . 第8回 Congress of The International Federation of Societies for Surgery of The Hand ( Istanbul, Turkey ), 2001 . 6 .
- 4) Sugiyama O, Orimo H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology )</sup>: Gene Therapy of Bone Defects Using Genetically Modified Primary Bone Marrow Stromal Cells . 第4回 American Society of Gene Therapy ( Seattle ), 2001 . 6 .
- 5) Sugiyama O, Orimo H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology )</sup>: Gene Therapy of Bone Formation Using Genetically Modified Primary Bone Marrow Stromal Cells . 第7回日本遺伝子治療学会, 2001 . 7 .
- 6) 萬歳祐子, 青木孝文, 金 竜, 南部昭彦, 伊藤博元: 腰部脊柱管狭窄症患者における筋交感神経活動に関する検討 . 第31回日本臨床神経生理学学会学術大会, 2001 . 11 .
- 7) 植松直子, 林 英俊, 南 和文, 伊藤博元, 大場俊二: 成長期腰椎分離症のスポーツ選手における椎間板変性 . 日本臨床スポーツ医学会, 2001 . 11 .
- 8) 尾崎大也, 山縣久美<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 中山義人, 伊藤博元, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup> 老人病研究所生化学部門)</sup>: 改良型アポトーシス抑制因子 Bcl- x FNK 蛋白導入による軟骨組織培養の細胞死抑制 . 第24回日本分子生物学会,

2001 . 12 .

- 9) 麻生定光<sup>1)</sup>, 山縣久美<sup>1)</sup>, 尾崎大也, 北澤梨々<sup>1)</sup>, 平出智晴<sup>2)</sup>, 桂研一郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門, <sup>2)</sup>第二内科): スーパー抗アポトーシス抑制因子 Bcl- x FNK 蛋白投与による虚血脳神経細胞死抑制 . 第24回日本分子生物学会, 2001 . 12 .
- 10) 佐藤佑一朗<sup>1)</sup>, 山縣久美<sup>1)</sup>, 尾崎大也, 麻生定光<sup>1)</sup>, 太田成男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学部門): アポトーシス抑制因子 Bcl- x L のC末端疎水領域が関与したアポトーシス抑制 . 第24回日本分子生物学会, 2001 . 12 .

(7) 研修講演 :

- 1) 伊藤博元 : 長管骨骨折治療における電磁場刺激の有効性 . 第26回独整会学術講演会, 2001 . 9 .
- 2) 伊藤博元 : 一般外来における肩関節のスポーツ外傷 . 第43回横浜市整形外科医会, 2001 . 9 .
- 3) 伊藤博元 : 外傷性偽関節に対する電磁場刺激療法の有用性 . 第34回秋田県整形外科医会, 2001 . 10 .
- 4) 伊藤博元 : 肩関節のスポーツ外傷と障害 . 茨城県整形外科医会, 2001 . 10 .
- 5) 伊藤博元 : 外来診療における肩関節外傷と障害 . 磐城市学術講演会, 2001 . 12 .
- 6) 伊藤博元 : 外来診療における肩関節スポーツ外傷と障害 . 東京整形外科セミナー, 2002 . 1 .
- 7) 伊藤博元 : 外来診療における肩関節スポーツ外傷と障害 . 高崎医師会講演会, 2002 . 3 .



## 13．産婦人科学講座

### [ 付属病院女性診療科・産科 ]

#### 研究概要

研究は周産期，婦人科腫瘍，生殖の3つの柱と手術を中心に本年度も活発に行われた．

周産期領域では，正常妊娠および妊娠中毒症などの病態における adenosine の役割に 関する研究が継続され，免疫機能との関連性に関する研究が国際的に高い評価を受けた．

また，臨床研究では双胎妊娠の胎児予後や，妊婦の血液凝固性に関する研究などが外国雑誌に掲載された．

腫瘍学では術後血栓症発症因子に関する研究をまとめた．さらに，子宮頸部腺癌に対する術前化学療法をまとめて発表した．論文では，子宮筋腫と卵巣癌発生に関する遺伝子レベルの解析が外国雑誌に掲載された．

不妊症関連では反復流産とNK活性の関連性が発表され，手術学では，gassless laparoscopy の安全性と有用性を海外で発表した．

#### 研究業績

##### 論文

[ 1992 年度追加分 ]

原著：

- 1) Asakura H, Nakai A, Yamaguchi M, Takeshita T, Yokota A, Koshino T, Araki T : Effect of indomethacine on fetal urine production and amniotic fluid index in polyhydramnios . Feta Diag and Theraphy 1993 ; 18 (2): 79-80 .

[ 1994 年度追加分 ]

原著：

- 1) Asakura H, Oda T, Hayashi Y, Ohya A, Koshino T, Araki T, Mizukami K : Significance of brown adipose tissue during thermal adaptation after birht . J Perinatal Med 1994 ; 12 : 184-184 .
- 2) Oda T, Asakura H, Koshino T, Araki T, Mizukami K, Ogawa T, Nishijima J : The difference in temperature distribution between preterm and term neonates . J Perinatal Med 1994 ; 12 : 262-262 .
- 3) Nishijima S, Nakai A, Asakura H, Matsmoto J, Sasaki T, Ishihara K, Koshino T, Araki T : Trans vaginal ultrasound measurement of cervical length to predict cervical incompetence and preterm delivery . J Perinatal Med 1994 ; 12 : 247-247 .
- 4) Asakura H, Yoneyama Y, Sawa R, Koshino T, Araki T : Physiological role of adenosine in placenta . Placenta 1994 ; 15 : 78-78 .

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Kurose K, Mine N, Iida A, Nagai H, Harada H, Araki T, Emi M : Three aberrant splicing variants of the HMGIC gene transcribed in uterine leiomyomas . Genes Chromosomes Cancer 2001 ; 30 : 212-217 .
- 2) Mine N, Kurose K, Konishi H, Araki T, Nagai H, Emi M : Fusion of a Sequence from HEI10 (14q11) to the HMGIC Gene at 12q15 in a Uterine Leiomyoma . Jpn J Cancer Res 2001 ; 92 : 135-139 .

(1) 原著：

- 1) Sawa R, Hayashi Z, Tanaka T, Hoshi K, Taketani Y, Kubo T, Aono T, Okamura H, Sapeta MJ, Estabrooks LL,

- : Rapid detection of chromosome aneuploidies by prenatal interphase FISH ( Fluorescence in situ Hybridization ) and its clinical utility in Japan . *J. Obstet. Gynecol. Res* 2001 ; 27 ( 1 ): 41-47 .
- 2 ) Suzuki S : Etiology of third-trimester maternal hyperuricemia in nonpreeclamptic twin gestations . *Obstet Gynecol* 2001 ; 97 ( 4 ): 641-642 .
  - 3 ) Suzuki S, Kaneko K, Shin S, Araki T : Incidence of intrauterine complications in monoamniotic twin gestation . *Arch Gynecol Obstet* 2001 ; 265 ( 2 ): 57-59 .
  - 4 ) Yoneyama Y, Sawa R, Kiyokawa Y, Power GG, Araki T : Plasma adenosine levels and P-selectin expression on platelets in preeclampsia . *Obstet Gynecol* 2001 ; 97 : 366-370 .
  - 5 ) Kuwabara Y, Schima Y, Araki T, Shin S : Mesenchymal Stem Villous Hyperplasia of the Placenta and Fetal Growth Restriction . *Obstetrics & Gynecology* 2001 ; 98 ( 5 ): 940-943 .
  - 6 ) Suzuki S : Megacolon in a fetus during the first trimester . *Prenat Diagn* 2001 ; 21 ( 5 ): 422-423 .
  - 7 ) Kurose K, Zhou XP, Araki T, Cannistra SA, Maher ER, Eng C : Frequent loss of PTEN expression is linked to elevated phosphorylated Akt levels, but not associated with p27 and cyclin D1 expression, in primary epithelial ovarian carcinomas . *Am J Pathol* 2001 ; 158 : 2097-2106 .
  - 8 ) Kuwajima T, Suzuki S, Sawa R, Yoneyama Y, Takeshita T, Araki T : Changes in maternal peripheral T helper 1-type and T helper 2-type immunity during labor . *Tohoku J Exp Med* 2001 ; 194 ( 2 ): 137-140 .
  - 9 ) Smith WM, Zhou XP, Kurose K, Gao X, Latif F, Kroll T, Sugano K, Cannistra SA, Clinton SK, Maher ER, Prior TW, Eng C : Opposite association of two PPARG variants with cancer : overrepresentation of H449H in endometrial carcinoma cases and underrepresentation of P12A in renal cell carcinoma cases . *Hum Genet* 2001 ; 109 : 146-151 .
  - 10 ) Kurose K, Hoshaw-Woodard S, Adeyinka A, Lemeshow S, Watson P, Eng C : Genetic model of multi-step breast carcinogenesis involving the epithelium and stroma : clues to tumour-microenvironment interactions . *Hum Mol Genet* 2001 ; 10 : 1907-1913 .
  - 11 ) Zhou XP, Woodford-Richens K, Lehtonen R, Kurose K, Aldred M, Hampel H, Launonen V, Virta S, Pilarski R, Salovaara R, Bodmer WF, Conrad BA, Dunlop MSV, Hodgson SV, Iwama T, Jarvinen H, Kellokumpu I, Kim JC, Leggett B, Markie D, Mecklin JP, Neale K, Phillips R, Piris J, Rozen P, Houlston RS, Aaltonen LA, Tomlinson IP, Eng C : Germline mutations in *bmpr1a/alk3* cause a subset of cases of juvenile polyposis syndrome and of cowden and bannayan-riley-ruvalcaba syndromes . *Am J Hum Genet* 2001 ; 61 : 704-711 .
  - 12 ) Miyake H, Nakai A, Koshino T, Araki T : Doppler Velocimetry of Maternal Renal Circulation in Pregnancy Induced Hypertension . *Journal of Clinical Ultrasound* 2001 ; 29 ( 8 ): 449-455 .
  - 13 ) Arai M, Suzuki S, Ishino H, Igarashi K, Araki T, : Penile agenesis complicated by Potter sequence . *Arch Gynecol Obstet* 2001 ; 254 ( 4 ): 219-220 .
  - 14 ) Nakai A, Taniuchi Y, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T : Developmental changes in tolerance to transient intrauterine ischemia in rat cerebral mitochondria . *Am J Obstet Gynecol* 2001 ; 184 : 731-735 .
  - 15 ) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Tekeuchi T, Kuwajima S, Murata T, Araki T : T-helper 1 type and T-helper 2 type immunity in women with twin pregnancy . *Am J Reprod Immunol* 2001 ; 45 : 370-370 .
  - 16 ) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Hayashi Z, Murata T, Kuwajima S, Tateoka S, Kiyokawa Y, Araki T : Effects of adenosine on T-helper 1/T-helper 2 imbalance in peripheral T helper cells in preeclampsia . *Am J Reprod Immunol* 2001 ; 45 : 369-369 .
  - 17 ) Nakai A, Shibazaki Y, Taniuchi Y, Oya A, Asakura H, Kuroda S, Koshino T, Araki T : Influence of mild hypothermia on delayed mitochondrial dysfunction after transient intrauterine ischemia in the immature rat

brain . Dev Brain Research 2001 ; 128 : 1-7 .

- 18 ) Nakai A, Shibazaki Y, Taniuchi Y, Yya A, Asakura H, Kuroda S, Koshino T, Araki T : Influence of mild hyperemia on delayed transient intrauterine ischemia in the immature rat brain . Development Brain Research 2001 ; 128 : 1-7 .
- 19 ) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Otsubo Y, Takeuchi T, Araki T : Relation between serum uric acid and plasma adenosine levels in women with preeclampsia . Gynecol Obstet Invest 2001 ; 51 ( 3 ): 169-172 .
- 20 ) Suzuki S, Tateoka S, Yagi S, Ishikawa G, Ohshita T, Sawa R, Yoneyama Y, Asakura H, Araki T : Fetal circulatory responses to maternal blood loss . Gynecol Obstet Invest 2001 ; 51 ( 3 ): 157-159 .
- 21 ) Kuwajima T, Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Asakura H, Araki T : Relation between plasma endothelin 1 levels and T helper 1 : T helper 2 cell immunity in women with preeclampsia . Gynecol Obstet Invest 2001 ; 52 ( 4 ): 260-263 .
- 22 ) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Otsubo Y, Takeuchi Y, Araki T : Relationship between serum uric acid and plasma adenosine levels in women with preeclampsia . Gynecol Obstet Invest 2001 ; 51 : 169-172 .
- 23 ) Kuwajima T, Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Asakura H, Araki T : Relation between plasma endothelin 1 levels and Helper 2 cell immunity in women with preeclampsia . Gynecol Obstet Invest 2001 ; 52 : 260-263 .
- 24 ) Suzuki S, Tateoka S, Yagi S, Ishikawa G, Ohshita T, Sawa R, Yoneyama Y, Asakura H, Araki T : Fetal circulatory responses to maternal blood loss . Gynecologic Obstet Invest 2001 ; 51 : 157-159 .
- 25 ) Asakura H, Ohshita T, Suzuki S, Araki T : Correlation between grade III placenta and plasma antithrombin III activity in full term pregnancy . Gynecologic Obstetric Investigation 2001 ; 52 ( 1 ): 47-50 .
- 26 ) Asakura H, Ohshita T, Suzuki S, Araki T : Correlation between grade III placenta and plasma antithrombin III activity in full term pregnancy . Gynecologic Obstetric Investigation 2001 ; 52 ( 1 ): 47-50 .
- 27 ) Kamoi S, Ohaki Y, Okada S, Matsushita N, Kawamura T, Araki T : Mitotic Index and Ki-67 Nuclear Antigen Labeling Index as Predictors of Chemotherapy Response in Uterine Cervical Carcinoma . Gynecology Oncology 2001 ; 83 : 555-559 .
- 28 ) Kaseki H, Araki T, Rafael F V : Laser Hysteroscopic Myomectomy Guided by Laparoscopically Assisted Intra-Abdominal Sonohysterography ( LHMV-GLAIS ): A preliminary Report . J Gynecol Surg 2001 ; 17 ( 79 ) .
- 29 ) Mine N, Kurose K, Nagai H, Doi D, Ota Y, Yoneyama Y, Konishi H, Araki T, Emi M : Gene fusion involving HMGIC is a frequent aberration in uterine leiomyomas . J Hum Genet 2001 ; 46 : 408-412 .
- 30 ) Watanabe S, Otsubo Y, Shinagawa T, Araki T : Small bowel obstruction in early pregnancy treated by jejunotomy and total parenteral nutrition . Obstet Gynecol 2001 ; 96 : 812-813 .
- 31 ) Asakura H, Hayashi Z, Seto M, Araki T : Spontaneous intracranial hypotension during pregnancy . Obstet Gynecol 2001 ; 97 : 804-805 .
- 32 ) Asakura H, Hayashi Z, Seto M, Araki T : Spontaneous intracranial hypotension during pregnancy . Obstet Gynecol 2001 ; 97 : 804-805 .
- 33 ) Yoneyama Y : Plasma adenosine levels and the expression of P-selectin on platelets in preeclampsia . Obstet Gynecol 2001 ; 98 : 354-356 .
- 34 ) Yoneyama Y, Sawa R, Suzuki S, Ishino H, Miura A, Kuwabara Y, Kuwajima T, Ito N, Kiyokawa Y, Otsubo Y, Araki T : Regulation of plasma adenosine levels in normal pregnancy . Gynecol Obstet Invest 2002 ; 53 ( 2 ): 71-74 .
- 35 ) Takeuchi T, Suzuki S, Hayashi Z, Shinagawa T, Araki T : Primary ovarian tumor undergoing surgical management during pregnancy . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ): 39-42 .
- 36 ) Nakai A, Shinagawa T, Taniuchi Y, Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T : Effects of dexamethasone on mi-

- tochondrial maturation in the fetal rat brain . Am J Reprod Immunol 2002 ; 186 : 574-578 .
- 37) Nakai A, Sekiya I, Oya A, Koshino T, Araki T : Assessment of the hepatic arterial and portal venous blood flows during pregnancy with doppler ultrasonography . Arch Gynecol Obstet 2002 ; 266 : 25-29 .
- 38) Tsuyuki Y, Nakai A, Koshino T, Araki T : Effect of maternal diet rich in docosahexaenoic acid on intrauterine fetal growth retardation in spontaneously hypertensive rats . Nutrition Research 2002 ; 355-364 .
- 39) 渡辺昇一, 大坪保雄, 山田 隆, 澤倫太郎, 米山芳雄, 荒木 勤 : 妊娠初期の絞扼イレウス . 日本産科婦人科栄養・代謝研究会誌 2001 ; 7 (1) : 82-83 .
- 40) 桑島豊彦, 館岡佐知, 鈴木俊治, 林 端成, 五十嵐健治, 新井麻紀, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 下血を主訴とした重症貧血合併妊娠の経験 . 日産婦東京会誌 2001 ; 50 (1) : 31-33 .
- 41) 浜村幸恵, 林 端成, 石川 源, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : Von willebrand 合併妊娠の1例 . 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2001 ; 11 (1) : 32-33 .
- 42) 米山剛一, 沖野恵子, 浜村幸恵, 土居大祐, 太田雄治郎, 荒木 勤 : 婦人科腫瘍術後の血栓塞栓症に関する臨床的検討 . 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2001 ; 11 (1) : 62-63 .
- 43) 峯 克也, 進 純郎 : STDと母子感染 . 産婦人科治療 2001 ; 82 (4) : 451-455 .
- 44) 桑島豊彦, 鈴木俊治, 村田知昭, 武内 務, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 河村 堯, Power GG, 荒木 勤 : 胎児へのグルコース投与が低酸素ストレスにあたえる影響 . 日産婦関東連会報 2001 ; 38 (4) : 329-332 .
- 45) 桑島豊彦, 鈴木俊治, 村田知昭, 荏原弘光, 峯 克也, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 胎児へのグルコース負荷が低酸素ストレスにあたえる影響 . 日本産科婦人科学会関東連合地方部会雑誌 2001 ; 38 (4) : 329-332 .
- 46) 林 瑞成, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 胎盤遺残 . 臨床婦人科産科 2001 ; 55 (6) : 726-729 .
- 47) 五十嵐健治, 明楽重夫, 里見操緒, 五十嵐俊夫, 石川 源, 竹下俊行, 荒木 勤 : 後腹膜に発生した深在性子宮内膜症性嚢胞の2症例 . エンドメトリオーシス研究会誌 2001 ; 22 : 138-140 .
- 48) 鈴木俊治, 米山芳雄, 澤倫太郎, 窪谷 潔, 村田知昭, Power GG, 荒木 勤 : アデノシン輸送阻害作用を有するプロベントフィリンがヒツジ胎仔臍帯圧迫モデルにおける脳温変化に及ぼす影響 . 日産婦誌 2001 ; 53 (7) : 1071-1078 .
- 49) 鈴木俊治, 米山芳雄, 澤倫太郎, 窪谷 潔, 荒木 勤 : アデノシン輸送阻害作用を有するプロベントフィリン前投与がヒツジ胎仔臍帯圧迫モデルにおける脳温変化に及ぼす影響 . 日本産科婦人科学会雑誌 2001 ; 53 (7) : 1071-1078 .
- 50) 朝倉啓文 : 帝王切開後血漿 endothelin-1 の推移 - 産褥 HELLP 発症との関連性 . 日本妊娠中毒症学会誌 2001 ; 8 : 67-70 .
- 51) 米山芳雄, 桑島豊彦, 鈴木俊治, 林 端成, 浜村幸恵, 平泉良枝, 澤倫太郎, 荒木 勤 : 妊娠中毒症におけるアデノシンの Th1/Th2 バランス調節機構 . 日本妊娠中毒症会雑誌 2001 ; 9 : 173-174 .
- 52) 山田 隆, 渡辺昇一, 大坪保雄, 小西英喜, 荒木 勤 : 当院における day-stay chemotherapy の試み . 日産婦埼玉地方部会誌 2001 ; 31 : 9-11 .
- 53) 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 清川寧子, 林 瑞成, 石川温子, 館岡佐知, 荒木 勤 : 妊娠中毒症における血しょうアデノシン上昇が血小板活性化におよぼす影響 . 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2001 ; 11 : 35-36 .
- 54) 米山剛一, 沖野恵子, 浜村幸恵, 土居大祐, 太田雄治郎, 荒木 勤 : 婦人科腫瘍術後の血栓塞栓症に関する臨床的検討 . 日産婦新生児血液会誌 2001 ; 11 : 62-63 .
- 55) 浜村幸恵, 林 瑞成, 石川 源, 澤倫太郎, 米山芳雄, 米山剛一, 朝倉啓文, 荒木 勤 : von Willbrand 病合併妊娠の1例 . 日産婦新生児血液会誌 2001 ; 11 : 32-33 .
- 56) 朝倉啓文, 中林正雄<sup>1)</sup>, 市川 尚<sup>2)</sup>, 坂元正一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>愛育病院, (<sup>2)</sup>赤心堂病院) : 正期産新生児仮死と脳性麻痺 . 周産期医学 2001 ; 31 (12) : 101-105 .

- 57) 市川雅男, 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 金 栄淳, 里見操緒, 高橋秀実<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup>微生物・免疫 ): 母乳由来マクロファージの特徴と樹状細胞への分化. 日本免疫学会総会・学術集会記録 2001 ; 31 : 264-264 .
- 58) 梶島豊彦, 鈴木俊治, 村田知昭, 荻原弘光, 武内 務, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 河村 堯, Gordon G P, 荒木 勤 : 胎児へのグルコース負荷が低酸素ストレスにあたえる影響. 関東連合地方部会誌 2001 ; 38 : 329-332 .
- 59) 鴨井青龍, 土居大祐, 荒木 勤 , : 頸癌の術前動注化学療法, 病理組織標本による効果予知. 産婦治療 2001 ; 82 : 200-203 .
- 60) 三浦 敦, 土居大祐, 館岡佐知, 貝原賢二, 太田雄治郎, 米山剛一, 明楽重夫, 荒木 勤 : 閉経後に増大傾向を示した卵巣平滑筋腫. 日産婦東京会誌 2001 ; 50 : 245-248 .
- 61) 沖野恵子, 米山剛一, 武内 務, 浜村幸恵, 太田雄治郎, 土居大祐, 荒木 勤, 大磯義一郎 : 腸管部分切除術を施行した異所性子宮内膜症F. 日産婦東京会誌 2001 ; 50 : 302-304 .
- 62) 林 隆, 米山剛一, 馬場直美, 松村好克, 沖野恵子, 土居大祐, 荒木 勤, 太田雄治郎 : 後腹膜腫瘤として確認された再発卵巣顆粒膜細胞種. 日産婦東京会誌 2001 ; 50 : 396-400 .
- 63) 林 隆, 太田雄治郎, 館岡佐知, 三浦 敦, 土居大祐, 米山剛一, 荒木 勤 : 乳癌術後, タモキシフェン投与中に診断された, 両側卵巣切除既往の子宮内膜癌症例. 日産婦東京会誌 2001 ; 50 ( 2 ) : 245-248 .
- 64) 関谷伊久乃, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤 : 妊娠中毒症における母体肝循環変化について - 肝動脈門脈の血流代償作用. 日本中毒症学会誌 2001 ; 19 : 179-180 .
- 65) 鴨井青龍, 大秋美治, 松下径広, 河村 堯, 武内 務, 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 荒木 勤 : 卵巣硬化性腫瘍の1例. 日婦腫瘍会誌 2001 ; 20 : 137-141 .
- 66) 米山剛一, 荒木 勤 : 膀胱瘤の手術. 臨床泌尿器科 2001 ; 55 : 1003-1010 .
- 67) 西 弥生, 加藤真紀子, 里見操緒, 阿部 崇, 林 瑞成, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 妊娠中子宮筋腫核出術を施行した12例の検討. 東京地方部会誌 2002 ; 51 ( 1 ) : 22-25 .
- 68) 山中美智子<sup>1)</sup>, 平原史樹<sup>1)</sup>, 住吉好雄<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 坂元正一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜市大, <sup>2)</sup>日本産婦人科医会 ): 先天異常のモニタリング: 日本産婦人科医会外表奇形等調査から. 日本未熟児新生児学会雑誌 2002 ; 14 ( 1 ) : 17-21 .
- 69) 柴田浩之, 渡辺美千明, 古野元子 : 子宮全摘後に発症した巨大卵巣腫瘍 ( 硬化性間質性腫瘍 ) の1例. 栃木県産婦人科医報 2002 ; 29 ( 1 ) .
- 70) 西 弥生, 加藤真紀子, 里見操緒, 阿部 崇, 林 瑞成, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 妊娠中子宮筋腫核出術を施行した12例の検討. 日産東京会誌 2002 ; 51 ( 1 ) : 22-25 .
- 71) 沖野恵子, 米山剛一, 武内 務, 平泉良枝, 三浦 敦, 土居大祐, 太田雄治郎, 明楽重夫, 荒木 勤 : 子宮筋腫術後に顕症化した結核性腹膜炎. 日産婦関東連合会報 2002 ; 39 : 25-29 .
- 72) 清川寧子, 村田知昭, 河合尚基, 岡野匡雄 : 重症貧血を合併した若年性子宮体癌の1例. 日産婦東京会誌 2002 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 澤倫太郎, 荒木 勤 : 生殖補助医療の実施設の設備条件と実施医師の要件について. 産婦実際 2001 ; 50 : 1289-1294 .
- 2) 竹下俊行, 里見操緒, 市川雅男, 石川 源, 荒木 勤 : 不育症の新しいトレンド 臨床にどう生かしていくか 末梢血NK細胞と不育症. 産婦治療 2001 ; 82 ( 5 ) : 526-531 .
- 3) 黒瀬圭輔, 荒木 勤, 江見 充 : 癌遺伝子診断の臨床への応用 : 卵巣癌. 癌の臨床 2001 ; 47 ( 6 ) : 509-512 .
- 4) 峯 伸也, 荒木 勤, 永井尚生, 江見 充 : 癌遺伝子の臨床への応用 : 子宮癌. 癌の臨床 2001 ; 47 ( 6 ) : 513-516 .
- 5) 江口成美, 澤倫太郎 : 医療サービス指標の基礎研究 : 帝王切開率. 日本医師会総合政策研究機構報告書 2001 ; 32 .

- 6) 鈴木俊治, 三浦 敦, 荒木 勤: 羊水穿刺術. 産婦の実際 2001 ; 50 ( 11 ): 1481-1489 .
- 7) 米山芳雄, 荒木 勤: IUGR と胎児ジストレス. 周産期医 2001 ; 31 ( 11 ): 1504-1508 .
- 8) 澤倫太郎, 荒木 勤: 生殖・遺伝カウンセリング制度. メディカルテクノロジー 2001 ; 29 : 1272-1272 .
- 9) 鈴木俊治, 澤倫太郎, 荒木 勤: 会陰裂傷. 周産期医 2001 ; 31 : 241-242 .
- 10) 鈴木俊治, 澤倫太郎, 荒木 勤: 弛緩出血. 周産期医 2001 ; 31 : 243-244 .
- 11) 鈴木俊治, 朝倉啓文, 荒木 勤, 進 純郎: 骨盤計測. 産と婦 2002 ; 69 : 172-175 .
- 12) 澤倫太郎: 簡易保険契約の医的査定基準について. 日本医師会総合政策研究機構リサーチエッセイ 2002 .
- 13) 澤倫太郎: ヒト・胚臨床研究のあり方に関する研究. 日本医師会総合政策研究機構報告書 2002 ; 37 .
- 14) 荒木 勤: 生殖補助医療における倫理 - 日本産科婦人科学会の見解 - . 産婦の世界 2002 ; 54 : 21-27 .

(3) 研究報告書:

- 1) Arai M, Suzuki S, Ishino H, Igarashi K, Araki T : Penile agenesis complicated by potter sequence . Anch Gynecol Obstet 2001 ; 265 : pp219-220 .
- 2) Kamoi S, Ohki Y, Mori O, Yokoyama M, Kawamoto Y, Kawamura T, Araki T : Epithelioid trophoblastic tumor of the uterus : Cytological and immuno- histochemical observation of a case . Pathology Internatinal 2002 ; 52 : pp75-81 .

著 書

- 1) Nagano R, Nakai A, Taniuchi Y, Shibazaki Y, Asakura H, Oya A, Yokoto A, Koshino T, Araki T : [ 分担 ] Developmental changes in tolerance to transient intrauterine ischemia on cerebral mitochondria in the fetal rat . in Perinatology2001 , 2001 ; pp341-346 , Medimond Inc .
- 2) Kurose K, Araki T, Emi M : [ 分担 ] Uterine leiomyoma, clinical oncology . Cancer Res , 2001 ; pp948-952 , Encyclop .
- 3) NaganoR, Nakai A, Tniuchi Y, Shibazaki Y, Asakura H, Oya A, Yokoto A, Koshino T, Araki T : [ 分担 ] Developmental changes in mitochondrial activity and energy metabolism in the immature rat brain . in Perinatology2001 , 2002 ; pp269-274 , Monduzzi Editore .
- 4) Nakai A, Shibazaki Y, Taniuchi Y, Asakura H, Oya A, Nagano R, Yokota A, Koshino T, Araki T : [ 分担 ] Effet of dexamethasone on cerebral mitochondrial maturation in the fetal rat . in Perinatology2001 , 2002 ; pp317-322 , Monduzzi Editore .
- 5) Taniuchi Y, Nakai A, Nagano R, Shiazaki Y, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T : [ 分担 ] Developmental changes in tolerance to transient intrauterine ischemia on cerebral mitochondria in the fetal rat . in Perinatology2001 , 2002 ; pp341-345 , Monduzzi Editore .
- 6) 朝倉啓文, 陳 衛, 荒木 勤: [ 分担 ] 多胎妊娠. 臨床医のための周産期検査マニュアル ( データの読み方から評価まで )( 岡井 崇 ), 2001 ; pp133-136 , 医学書院 .
- 7) 朝倉啓文, 荒木 勤: [ 分担 ] IUGR . 臨床医のための周産期検査マニュアル ( データの読み方から評価まで )( 岡井 崇 ), 2001 ; pp137-142 , 医学書院 .
- 8) 朝倉啓文, 陳 衛, 荒木 勤: [ 分担 ] 血液型不適合妊娠. 臨床医のための周産期検査マニュアル ( データの読み方から評価まで )( 岡井 崇 ), 2001 ; pp143-147 , 医学書院 .
- 9) 里見操緒, 米山芳雄, 荒木 勤: [ 分担 ] 過多月経と過少月経の診断と治療. 知っておきたい月経異常の診断と治療 ( 田中忠夫 ), 2001 ; pp57-60 , 真興出版 .
- 10) 里見操緒, 米山芳雄, 荒木 勤: [ 分担 ] 過多月経と過少月経の診断と治療. 知っておきたい月経異常の診断と治療 ( 田中忠夫 ), 2001 ; pp57-64 , 医書出版 .
- 11) 荒木 勤, 鈴木俊治: [ 分担 ] II. 妊娠中の診断・検査 A. 妊娠の診断. 新女性医学大系 22 , 正常妊娠 ( 武谷雄

- 二総編集, 神保利春編), 2001 ; pp187-195, 中山書店 .
- 12) 奥平さやか, 進 純郎: [ 自著 ] 帝王切開実施にあたってのインフォームド・コンセント . 産婦人科の実際, 2001 ; pp1319-1323, 金原出版 .
  - 13) 朝倉啓文: [ 分担 ] 羊水過多, 羊水過少の検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行編集 ), 2001 ; pp94-95, 金原出版 .
  - 14) 朝倉啓文: [ 分担 ] 妊娠中毒症ターミネーション決定のための検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行編集 ), 2001 ; pp102-102, 金原出版 .
  - 15) 朝倉啓文: [ 分担 ] 胎児発育異常の検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行編集 ), 2001 ; pp112-113, 金原出版 .
  - 16) 荒木 勤, 米山剛一: [ 分担 ] 広汎性子宮全摘出術 . 基靭帯処理時の出血を少なくする手技 . 産婦人科手術のコツその創意と工夫を伝承する ( 日本産婦人科手術学会編 ), 2001 ; pp140-141, メジカルビュー社 .
  - 17) 佐藤和雄, 野澤志郎, 荒木 勤, 堤 治: [ 編集, 分担 ] 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ . MEDICAL VIEW ( 可世木久幸, 久布白兼行 ), 2002 ; メディカルビュー社 .
  - 18) 澤倫太郎: [ 共著 ] 産科DICにおける検査 . 図解臨床産科婦人科検査法, 2002 ; pp104-105, 金原出版 .
  - 19) 米山芳雄, 荒木 勤: [ 分担 ] 妊産婦の消化・吸収, 消化・吸収 . 妊産婦の消化・吸収, 消化・吸収 ( 武藤泰敏 ), 2002 ; pp386-390, 第一出版 .
  - 20) 米山芳雄: [ 分担 ] 妊娠初期の血液検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; pp18-19, 金原出版 .
  - 21) 米山芳雄: [ 分担 ] 妊娠中の膣分泌物検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; pp28-29, 金原出版 .
  - 22) 米山芳雄: [ 分担 ] 胎盤機能から何がわかるか . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; pp64-65, 金原出版 .
  - 23) 米山芳雄: [ 分担 ] 早産マーカーの使いわけ . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; pp98-99, 金原出版 .
  - 24) 米山米山: [ 分担 ] 破水を疑った場合の検査法 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; pp100-101, 金原出版 .
  - 25) 米山芳雄: [ 分担 ] 更年期障害: 何を検査すべきか . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; pp202-203, 金原出版 .
  - 26) 米山芳雄: [ 分担 ] HRT 施行前の検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; pp100-101, 金原出版 .
  - 27) 竹下俊行: [ 分担 ] 免疫学的流産を疑った場合の検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; 金原出版 .
  - 28) 竹下俊行: [ 分担 ] 妊婦の風疹抗体価をどう読むか . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; 金原出版 .
  - 29) 竹下俊行: [ 分担 ] 妊婦のトキソプラズマ抗体価をどう読むか . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; 金原出版 .
  - 30) 竹下俊行: [ 分担 ] 反復流産後の検査?次回妊娠のために . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; 金原出版 .
  - 31) 竹下俊行: [ 分担 ] 妊婦の不規則抗体検査の意義とスクリーニング . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; 金原出版 .
  - 32) 竹下俊行: [ 分担 ] 排卵時期推定のための検査 . 図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤, 竹下俊行 ), 2002 ; 金原出版 .

- 33) 竹下俊行：〔分担〕ホルモン負荷テストをどう評価するか．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 34) 竹下俊行：〔分担〕多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）の検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 35) 竹下俊行：〔分担〕外来で行う卵管疎通性の検査-卵管通水検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 36) 竹下俊行：〔分担〕精液検査-精子機能をどう見るか．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 37) 竹下俊行：〔分担〕免疫性不妊の検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 38) 竹下俊行：〔分担〕膣炎の検査・診断．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 39) 竹下俊行：〔分担〕体外受精・胚移植前の検査：高い妊娠率と副作用防止のために．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 40) 米山剛一：〔分担〕羊水塞栓症の病態生理と診断に必要な検査．図解産婦人科臨床検査法（荒木 勤），2002；金原出版．
- 41) 米山剛一：〔分担〕産婦人科領域の血栓症の診断．図解産婦人科臨床検査法（荒木 勤），2002；金原出版．
- 42) 米山剛一：〔分担〕子宮肉腫の術前診断．図解産婦人科臨床検査法（荒木 勤），2002；金原出版．
- 43) 明楽重夫：〔分担〕腹腔鏡検査の検査機器と麻酔．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp180-181，金原出版．
- 44) 明楽重夫：〔分担〕細径腹腔鏡による検査・手術．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp182-183，金原出版．
- 45) 明楽重夫：〔分担〕腹壁吊り上げ法による検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp184-187，金原出版．
- 46) 明楽重夫：〔分担〕子宮外妊娠の検査法：より迅速・正確な診断をめざして．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp88-89，金原出版．
- 47) 太田雄治郎：〔分担〕HPV DNA typing の実際．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp138-139，金原出版．
- 48) 太田雄治郎：〔分担〕化学療法を行うにあたっての検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp160-161，金原出版．
- 49) 米山剛一：〔分担〕羊水塞栓症の病態生理と診断に必要な検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp106-109，金原出版．
- 50) 米山剛一：〔分担〕産婦人科領域の血栓症の診断．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp162-163，金原出版．
- 51) 米山剛一：〔分担〕子宮肉腫の術前診断．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp156-157，金原出版．
- 52) 米山剛一：〔分担〕腫瘍マーカーによる卵巣腫瘍の診断．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp132-133，金原出版．
- 53) 澤倫太郎，林 瑞成：〔共著〕遺伝学的診断のインフォームド・コンセント．図解臨床産科婦人科検査法，2002；pp9-11，金原出版．



## 学会発表

〔2000年度追加分〕

### 一般講演：

- 1) 五十嵐健治, 明楽重夫, 新井麻紀, 五十嵐俊夫, 竹下俊行, 荒木 勤：後腹膜子宮内膜症性嚢胞の2例．第22回エンドメトリオーシス研究会, 2001．1．
- 2) 三浦 敦, 土居大祐, 館岡佐知, 貝原賢二, 太田雄治郎, 米山剛一, 明楽重夫, 荒木 勤：閉経後に増大傾向を示した卵巣平滑筋腫．第317回日産婦東京地方部会例会, 2001．3．

### (1) 特別講演：

- 1) Kurose K, Hoshaw-Woodard S, Adeyinka A, Lemeshow S, Watson P, Eng C：Genetic model of multi-step breast carcinogenesis involving the epithelium and stroma：clues to tumour-microenvironment interactions．Am. Soc. Hum. Genet. Ann. mtg ( San Diego ), 2001．
- 2) 荒木 勤：生殖補助医療に関する倫理：産婦人科の立場から．第16回日母沿岸ブロック産婦人科医会研修会, 2001．6．
- 3) 荒木 勤：最近の生殖補助医療：やっぴいこと, いけなひこと．第60回神奈川県産婦人科研究会, 第59回横須賀・三浦産婦人科医会, 2001．12．
- 4) 朝倉啓文：出生時asphyxiaとCPの関係について．江戸川区産婦人科医会集談会, 2002．2．

### (2) 招待講演：

- 1) 竹下俊行：外来における不妊症診療の基礎．江戸川医師会江東千葉西ブロック産婦人科医会合同卒後研修会, 2001．9．
- 2) 竹下俊行：不育症の取り扱ひ．相模原産婦人科医会研修会, 2002．2．

### (3) 教育講演：

- 1) 荒木 勤：妊娠中毒症における胎盤の虚血適応機構：生化学的診断から分子生物学的診断へ．第9回日本胎盤学会学術集会, 2001．10．

### (4) シンポジウム：

- 1) 荒木 勤：わが国の生殖医療の現状を考える：Ethical Aspects of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology on ART．第19回日本受精着床学会 サテライト国際シンポジウム, 2001．7．
- 2) 朝倉啓文：「未来の明るい家族のために、今、何が出来るのか」 テーマI「妊娠、出産のアメニティーと安全性 母親達の求めるもの」 「妊娠、出産の安全性を求めて 快適さをサポートするために」．平成13年度厚生科学研究、子ども家庭総合研究公開シンポジウム, 2002．3．

### (5) 一般講演：

- 1) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, hatori N, Hirai K, Takatsu K, Ishii R, Yamada K, Tajiri T, Akira S, Takeshita T, Araki T, Onda M, Tanaka S：Endoscopic endocrine neck surgery using totally gasless anterior neck skin lifting method with a benefit of cosmesis an experience of 114 cases．International Surgical Week ISW 2001 ( Switzerland ), 2001．4．
- 2) Akira S, Asakura H, Araki T：Efficacy and safety of gasless laparoscopic Ovarian Cystectomy during Pregnancy．The 7th Korean-Japanese Joint Conference of Obstetrics and Gynecology ( Korea ), 2001．4．
- 3) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Araki T：Maternal peripheral T-helper 1-type and T-helper 2-type immunity in twin pregnancies．22nd Annunal American Society for Reproductive Immunology Meeting ( Chicago ), 2001．6．
- 4) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Hayashi Z, Murata T, Kuwajima S, Tateoka S, Kiyokawa Y, Araki T：Effects of adenosine on T-helper 1/T-helper 2 imbalance in peripheral T helper cells in preeclampsia．The 21 th An-

- nual Meeting of American Society for reproductive immunology ( Chicago ), 2001 . 6 .
- 5) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Takeuchi T, Kuwajima S, Murata T, Araki T : T-helper 1 type and T-helper 2 type immunity in women with twin pregnancy . The 21 th Annual Meeting of American Society for reproductive immunology ( Chicago ), 2001 . 6 .
  - 6) Nagano R, Nakai A, Tniuchi Y, Shibazaki Y, Asakura H, Oya A, Yokoto A, Koshino T, Araki T : Developmental changes in mitochondrial activity and energy metabolism in the immature rat brain . 5th World congress of Perinatal medicine ( Spain , Balcelona ), 2001 . 10 .
  - 7) Nakai A, Shibazaki Y, Taniuchi Y, Asakura H, Oya A, Nagano R, Yokota A, Koshino T, Araki T : Effect of dexamethasone on cerebral mitochondrial maturation in the fetal rat . 5th World congress of Perinatal medicine ( Spain , Balcelona ), 2001 . 10 .
  - 8) Kurose K, Zhou XP, Araki T, Cannistra SA, Maher ER, Eng C, Proc Am A : Frequent loss of PTEN expression is linked to elevated levels of phosphorylated AKT levels but not associated with p27 and cyclin D1 expression in primary epithelial ovarian carcinomas . Cancer Res 2001 ( New Orleans ), 2001 .
  - 9) Chihara H : Effect of cooling and hypoxia on heat production of the fetal sheep Brain : Evidence of adaptive hypometabolism . Society for gynecologic investigation ( Los Angeles ), 2002 . 3 .
  - 10) Chihara H : Determination of cerebral metabolic rate by measurement of brain heat production in the fetal sheep . Society for gynecologic investigation ( Los Angeles ), 2002 . 3 .
  - 11) Chihara H, Otsubo Y, Yoneyama Y, Sawa R, Suzuki S, Power GG, Araki T : Minute ventilation and oxygen consumption in hyperemesis gravidarum patients : Comparison to normals and responses to treatment . The 49 th Annual Scientific Meeting of the Society for Gynecologic Investigation ( Los Angeles ), 2002 . 3 .
  - 12) Nishida N, Suzuki S, Sawa R, Yoneyama Y, Murata T, Araki T, Power GG : Questions of Oxygen Therapy . The 53 th Annual Meeting of Japan Society of Obstetrics and Gynecology ( Sapporo ), 2001 . 4 .
  - 13) 谷内良成, 中井章人, 永野玲子, 大屋敦子, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤 : 脳性麻痺発生機序に関する検討 ( ラット実験モデルにおけるエネルギー代謝不全と活性酸素の関係 ) . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 5 .
  - 14) 浜村幸恵, 林 瑞成, 石川 源, 里見操緒, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 産褥1ヶ月後に再出血をきたした von Willbrand病合併妊娠 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 5 .
  - 15) 平泉良枝, 鈴木俊二, 村田知昭, 桑島豊彦, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 18トリソミー症候群8例の検討 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 5 .
  - 16) 八木修立郎, 村田知昭, 河合尚基 : 卵巣癌との鑑別に苦慮した他臓器疾患4例の検討 . 第318回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2001 . 5 .
  - 17) 沖野恵子, 米山剛一, 武内 務, 太田雄治郎, 浜村幸恵, 土居大祐, 荒木 勤 : 腸管部分切除を施行した異所性子宮内膜症 . 第318回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2001 . 5 .
  - 18) 谷内良成, 中井章人, 朝倉啓文, 永野玲子, 大屋敦子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤 : 子宮内一過性虚血がラット新生仔脳のミトコンドリア機能に与える影響 : 傷害時期との関連 . 第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 2001 . 5 .
  - 19) 関谷伊久乃, 中井章人, 朝倉啓文, 林 康子, 三宅秀彦, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤 : 妊娠中毒症における母体肝動脈と門脈の血液代償作用に関する検討 . 第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 2001 . 5 .
  - 20) 河合尚基 : コンプライアンスの向上をめざした再発卵巣癌に対する Paclitaxel, Carboplatin 併用 Biweekly 投与方法の検討 . 第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 2001 . 5 .
  - 21) 米山剛一, 沖野恵子, 鈴木俊治, 武内 務, 土居大祐, 太田雄治郎, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行, 荒木

- 勤：卵巢成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の腫瘍マーカーによる術前評価．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 22) 林 康子，松島 隆，可世木久幸，関谷隆夫，石原楷輔，荒木 勤，：3次元超音波，3次元子宮卵管造影および子宮鏡を用いた子宮腔内病変の多角的診断．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 23) 谷内良成，中井章人，朝倉啓文，永野玲子，大屋敦子，横田明重，越野立夫，荒木 勤：子宮内一過性虚血がラット新生仔脳のミトコンドリア機能に与える影響」：傷害時期との関連．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 24) 林 瑞成，平泉良枝，石川 源，明楽重夫，荒木 勤：異染性脳白質変性症の出生前診断法の開発．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 25) 里見操緒，竹下俊行，石川 源，五十嵐健治，市川雅男，石原珠紀，金 栄淳，明楽重夫，荒木 勤：反復流産症例における臨床的背景とNK細胞活性に関する検討．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 26) 塚田克也，松島 隆，菊谷真理子，小田部徹，小西英喜，関谷隆夫，石原楷輔，荒木 勤：卵巢癌におけるPaclitaxelの血管新生抑制についての検討．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 27) 関谷伊久乃，中井章人，朝倉啓文，林 康子，三宅秀彦，横田明重，越野立夫，荒木 勤：妊娠中毒症における母体肝動脈と門脈の血流代償作用発現に関する検討．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 28) 土居大祐，館岡佐知，三浦 敦，鴨井青龍，武内 務，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，荒木 勤：子宮頸部腺癌Ib2期およびII期における術前動注化学療法の有効性の評価．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 29) 鴨井青龍，弘末卓也，阿部俊行，大下知子，松下径広，五十嵐俊夫，若月雅美，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，河村 堯，荒木 勤：子宮頸癌における術前化学療法の効果予知因子としての核分裂指数．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 30) 小西英喜，大坪保雄，松島 隆，太田雄治郎，土居大祐，米山剛一，河尚尚基，石原楷輔，荒木 勤，畑 俊夫，中山裕樹，小川秀臣：コンプライアンスの向上をめざした再発卵巢癌に対するPacitaxel，Carboplatin 併用．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 31) 石原珠紀，折笠千登世，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤，佐久間康夫：ラット視索前野における一酸化窒素合成酵素mRNAの発現．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 32) 松島 隆，三並伸二，塚田克也，関谷隆夫，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：選択的卵管通水液細胞診による卵管病変の把握．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 33) 斎藤糧三，菊谷真理子，佐藤浩一，深見武彦，小田部徹，塚田克也，関谷隆夫，石原楷輔，荒木 勤：超音波画像から見た低置胎盤の評価．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 34) 里見操緒，竹下俊行，石川 源，五十嵐健治，市川雅男，石原珠紀，金 栄淳，明楽重夫，荒木 勤：反復流産症例における臨床的背景とNK細胞活性に関する検討．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 35) 土居大祐，館岡佐知，三浦 敦，鴨井青龍，武内 務，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，荒木 勤：子宮頸部腺癌Ib2期およびII期における術前動注化学療法の有効性の検討．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 36) 鴨井青龍，弘末卓也，阿部俊行，大下知子，松下径広，五十嵐俊夫，若月雅美，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，河村 堯，荒木 勤：子宮頸癌における術前化学療法の効果予知因子としての核分裂指数．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 37) 峯 伸也，黒瀬圭輔，小西英喜，荒木 勤：子宮平滑筋腫の遺伝子診断．日本医科大学医学会第104回例会，2001．5．
- 38) 林 隆，太田雄治郎，館岡佐知，三浦 敦，土居大祐，米山剛一，荒木 勤：乳癌術後，タモキシフェン投与中に診断された，両側卵巢切除既往の子宮内膜癌症例．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，

- 2001 . 6 .
- 39) 鴨井青龍, 瀬戸真理子, 弘末卓也, 阿部俊之, 峯 伸也, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤, : 卵黄囊腫瘍を合併した高齢者卵巣類内膜癌の1例 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 40) 三浦 敦, 土居大祐, 西田直子, 沖野恵子, 林 隆, 太田雄治郎, 米山剛一, 荒木 勤: パクリタキセル・カルボプラチン療法が著効した卵巣癌 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 41) 永野玲子, 横田明重, 谷内良成, 高橋 肇, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 多彩な治療で管理した腹膜偽粘液腫の1例 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 42) 松島 隆, 三並伸二, 林 康子, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮内膜症卵管内マクロファージ活性 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 43) 三宅秀彦, 國重隆生, 奥田直貴, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 子宮温存が可能であった流産後の癒着胎盤の1例 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 44) 谷内良成, 中井章人, 永野玲子, 大屋敦子, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤, : 脳性麻痺発生機序に関する検討 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 45) 三並伸二, 佐藤浩一, 松島 隆, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 腹膜発症のlymphangiomaの1症例 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 46) 山田浩子, 谷内良成, 横田明重, 三田俊二, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠中に偶然発見された悪性腹膜中皮腫の1例 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 47) 菊谷真理子, 斎藤糧三, 深見武彦, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 超音波診断が有効であった常位胎盤早期剥離の7例 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 48) 平泉良枝, 鈴木俊治, 村田知昭, 桑島豊彦, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: トリソミー症候群8例の検討 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 49) 石原珠紀, 平泉良枝, 里見操緒, 三浦 敦, 林 隆, 五十嵐健治, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤: 先天性膽欠損症に対する腹腔鏡補助下S状結腸利用造瘻術 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 50) 沖野恵子, 武内 務, 平泉良枝, 三浦 敦, 米山剛一, 土居大祐, 太田雄治郎, 明楽重夫, 荒木 勤: 子宮筋腫術後の顕症化した結核腹膜炎 . 第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001 . 6 .
- 51) 米山剛一, 沖野恵子, 浜村幸恵, 土居大祐, 太田雄治郎, 荒木 勤: 婦人科腫瘍術後の血栓塞栓症に関する臨床的検討 . 第11回日本産科婦人科学会・新生児血液学会, 2001 . 6 .
- 52) 浜村幸恵, 林 瑞成, 石川 源, 澤倫太郎, 米山芳雄, 米山剛一, 朝倉啓文, 荒木 勤: Von Willebrand病合併妊娠の1例 . 第11回日本産科婦人科学会・新生児血液学会, 2001 . 6 .
- 53) 中山裕樹, 田中 躍, 杉浦 賢, 加藤久盛, 八田充子, 松下径広, 土居大祐, 宮城悦子, 小野瀬亮, 仲沢経夫: 筋層浸潤のない子宮体癌における腹腔細胞診 . 第42回日本臨床細胞学会総会, 2001 . 6 .
- 54) 加藤久盛, 田中 躍, 八田充子, 杉浦 賢, 中山裕樹, 松下径広, 土居大祐, 宮城悦子, 小野瀬亮, 仲沢経夫: 子宮頸癌Ia2期の細胞診断学的検討 . 第42回日本臨床細胞学会総会, 2001 . 6 .
- 55) 奥田直樹, 中井章人, 神戸 仁, 朝倉啓文, 越野立夫: 分娩による活性酸素, 抗酸化物質産生に及ぼす母体運動の影響 . 第15回女性スポーツ研究会, 2001 . 7 .
- 56) 瀬戸真理子, 林 瑞成, 石原珠紀, 澤倫太郎, 明楽重夫, 荒木 勤, : 初期流産胎児絨毛の染色体分析における核型異常に関する検討 . 第19回日本受精着床学会, 2001 . 7 .
- 57) 石原珠紀, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤, 折笠千登世<sup>1)</sup>, 佐久間康夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大生理学第一): LHサージにおける視床下部視索前野の一酸化窒素合成酵素 mRNAの変化 . 第19回日本受精着床学会, 2001 . 7 .
- 58) 三浦 敦, 鈴木俊治, 米山芳雄, 瀬戸真理子, 林 瑞成, 伊藤尚子, 浜村幸恵, 平泉良枝, 澤倫太郎, 荒木

- 勤：双胎妊娠における血清尿酸値と血漿アデノシン値の関連．第25回日本産科婦人科栄養・代謝研究会，2001．7．
- 59) 三浦 敦，米山芳雄，鈴木俊治，瀬戸真理子，林 端成，伊藤尚子，浜村幸恵，平泉良枝，澤倫太郎，荒木 勤：妊娠中毒症における血漿アデノシン調節機構．第25回日本産科婦人科栄養・代謝研究会，2001．7．
- 60) 武内 務，八田充子，田中 躍，杉浦 賢，小野瀬亮，加藤久盛，中山裕樹：子宮体癌拡大手術による術後の血清CA125値の変動．第30回日本婦人科腫瘍学会，2001．7．
- 61) 鴨井青龍，瀬戸真理子，里見操緒，松下径広，河村 堯，荒木 勤，大秋美治：卵黄嚢腫瘍を合併した卵巣類内膜癌の1例．第30回日本婦人科腫瘍学会，2001．7．
- 62) 米山剛一，沖野恵子，武内 務，土居大祐，太田雄治郎，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤：婦人科腫瘍症例の血栓症発症因子に関する臨床的検討．第30回日本婦人科腫瘍学会，2001．7．
- 63) 鴨井青龍，武内 務，太田雄治郎，土居大祐，米山剛一，河村 堯，荒木 勤，大秋美治：12歳の若年女性に急性腹症として発症した卵巣間質性腫瘍の1例．第30回日本婦人科腫瘍学会，2001．7．
- 64) 村田知昭，鈴木俊治，米山芳雄，澤倫太郎，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：低体温が低酸素負荷における胎児脳血流の変化におよぼす影響．第37回日本新生児学会，2001．7．
- 65) 住吉好雄，山中美智子，平原史樹，鈴木恵子，松本博子，朝倉啓文，田中政信，大村 浩，清川 尚，前原大作，坂元正一：母体年齢と先天異常児出産頻度との関係．第41回日本先天異常学会，2001．7．
- 66) 山中美智子<sup>2)</sup>，平原史樹<sup>2)</sup>，住吉好雄<sup>2)</sup>，鈴木恵子<sup>2)</sup>，松本博子<sup>2)</sup>，木暮美智子<sup>2)</sup>，朝倉啓文，田中政信<sup>1)</sup>，大村 浩<sup>1)</sup>，清川 尚<sup>1)</sup>，前原大作<sup>1)</sup>，坂元正一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本産科婦人科学会医会，<sup>2)</sup>横浜市立医大)：日本母性保護産婦人科医会先天異常モニタリング調査から：本邦における先天性心疾患異常発生の現況 第2報．第41回日本先天異常学会，2001．7．
- 67) 竹下俊行，新井麻紀，小林 肇，五十嵐健治，石川 源，土居大祐，米山剛一，明楽重夫，荒木 勤：子宮内病変に対するバイポーラ電極 (Versapoint) を用いた子宮鏡下手術の有用性．第40回日本産科婦人科内視鏡学会，2001．8．
- 68) 松下 隆，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：リガシユアーを用いた子宮内膜症性嚢胞蒸散術．第41回日本産科婦人科内視鏡学会，2001．8．
- 69) 五十嵐建治，明楽重夫，石原珠紀，土居大祐，米山剛一，竹下俊行，荒木 勤：腹腔内組立て式吊り上げ鉤による腹腔鏡手術350例の経験．第41回日本産科婦人科内視鏡学会，2001．8．
- 70) 武内 務，中山裕樹，加藤久盛，杉浦 賢，田中 躍，：Degos 病による腸穿孔の症例報告および当院における放射線療法後腸穿孔の統計．神奈川腫瘍学会，2001．9．
- 71) 林 隆，馬場直美，松村好克，沖野恵子，土居大祐，太田雄治郎，米山剛一，荒木 勤：後腹膜腫瘍として確認された再発卵巣顆粒膜細胞腫の1例．第319回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2001．9．
- 72) 柴田浩之，渡辺美千明，古野元子：子宮全摘後に発生した巨大卵巣腫瘍の1例．第54回日産婦栃木地方部会，2001．9．
- 73) 柴田浩之，渡辺美千明，古野元子：高齢者の腹腔鏡下卵巣嚢腫手術 (付属器切除)：1穴法を中心に．第5回栃木県内視鏡外科学研究会，2001．9．
- 74) 五十嵐美和，林 端成，平泉良枝，浜村幸恵，澤倫太郎，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：中隔子宮術後にイレウスを合併した興味ある妊娠例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 75) 阿部 崇，石原珠紀，三浦 敦，土居大祐，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：腹腔鏡下手術で治療しえた卵巣妊娠．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 76) 山田 隆，陳 貴史，沖野恵子，五十嵐健治，土居大祐，米山剛一，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：診断に苦慮した子宮脂肪平滑筋腫．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 77) 稲川智子，三浦 敦，鈴木俊治，荒木 勤，大森見布江，東 永子，大原國俊：Vogt-小柳-原田病を合併した妊娠9週の1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．

- 78) 馬場直美, 林 隆, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 荒木 勤, 萩原護久, 池上 英, 福永慶隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学): 急性腹痛で発症した卵巢卵黄嚢腫瘍. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 79) 松村好克, 沖野恵子, 米山剛一, 馬場直美, 五十嵐建治, 土居大祐, 荒木 勤: 卵巢原発と考えられた leiomyosarcoma. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 80) 武内 務, 田中 躍, 杉浦 賢, 加藤久盛, 中山裕樹: Peutz-Jeghers Syndrome 合併子宮頸部高分化型腺癌の1例. 日本臨床細胞学会神奈川県支部学術集会, 2001. 9.
- 81) 五十嵐美和, 林 瑞成, 平泉良枝, 浜村幸恵, 澤倫太郎, 竹下俊行, 朝倉啓文, 荒木 勤: 管理に苦慮した中隔子宮術後の妊娠例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 82) 村田知昭, 八木修立郎, 河合尚基: 大量性器出血で発症した子宮腔部子宮内膜症の1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 83) 稲川智子, 三浦 敦, 五十嵐美和, 瀬戸真理子, 林 端成, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 荒木 勤: 妊娠9週に Vogt-小柳-原田病を発症した1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 84) 阿部 崇, 石原珠紀, 三浦 敦, 沖野恵子, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤: 腹腔鏡下で診断, 治療しえた卵巢妊娠の1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 85) 石原珠紀, 平泉良枝, 里見操緒, 三浦 敦, 林 隆, 五十嵐健治, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤: 先天性膽欠損症に対する腹腔鏡補助下S状結腸利用造瘻術. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 86) 深見武彦, 吉松和彦, 斎藤量三, 塚田克也, 石原楷輔, 荒木 勤: 流産手術後性器出血が持続した帝王切開癒痕部妊娠の1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 87) 阿部俊行, 西田直子, 小木三郎, 峯 伸也, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤: 不妊治療後に発症したSLE 合併妊娠に1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 88) 稲川智子, 三浦 敦, 五十嵐美和, 瀬戸真理子, 林 瑞成, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 荒木 勤: 妊娠9週に Vogt - 小柳 - 原田病を発症した1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 89) 永野玲子, 国重隆生, 大屋敦子, 三田俊二, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠中に脳内出血を発症し, その後てんかん発作を併発した2症例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 90) 三宅秀彦, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 過去5年間における妊婦健康診査未受診分娩例の検討. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 91) 峯 克也, 島 義雄, 奥平さやか, 石川 源, 竹内正人, 粟田口康一<sup>1)</sup>, 進 純郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院): IUGRを合併したPrader-Willi症候群の1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 92) 馬場直美, 林 隆, 土居大祐, 米山剛一, 明楽重夫, 荒木 勤: 7歳女児に発症した卵巢卵黄嚢腫瘍. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 93) 松村好克, 沖野恵子, 米山剛一, 馬場直美, 伊藤尚子, 土居大祐, 荒木 勤: 卵巢に発症した leiomyosarcoma. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 94) 品川志野, 吉松和彦, 松島 隆, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 巨大子宮筋腫を強く疑われた腹部腫瘍の1例. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 95) 菊谷真理子, 佐藤浩一, 吉松和彦, 林 康子, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 常位胎盤早期剥離における超音波検査の有用性. 第102回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 2001. 10.
- 96) 関谷伊久乃, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠中毒症における母体肝循環変化について: 肝動脈, 門脈血流代謝代償作用. 第22回日本妊娠中毒症学会, 2001. 10.
- 97) 米山芳雄, 桑島豊彦, 鈴木俊治, 三浦 敦, 山田 隆, 林 端成, 浜村幸恵, 平泉良枝, 澤倫太郎, 荒木 勤: 妊娠中毒症におけるアデノシンのTh1/Th2バランス調節機構. 第22回日本妊娠中毒症学会, 2001. 10.
- 98) 丸山智美, 戸谷誠之, 鈴江緑衣郎, 三並伸二, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 卵巢機能不全女性のレプチ

- ン濃度と栄養素摂取量．第23回日本臨床栄養学会，2001．11．
- 99) 小西英喜，太田雄治郎，松島 隆，土居大祐，吉松和彦，米山剛一，米山芳雄，石原楷輔，荒木 勤，富岡康弘，畑 俊夫，加藤久盛，中山裕樹，大坪保雄，渡辺昇一，山田 隆，高橋英彦，河合尚基，小川秀臣，磯崎太一：卵巣癌に対するT-J Biweekly療法：患者の社会性との共存を求めて．第39回日本癌治療学会総会，2001．11．
- 100) 武内 務，田中 躍，杉浦 賢，加藤久盛，中山裕樹：当科における婦人科悪性腫瘍脳転移の予後．第39回日本癌治療学会総会，2001．11．
- 101) 太田雄治郎，荒木 勤：再発卵巣癌に対するDocetaxel+ Carboplatin 併用療法の至適投与量．第39回日本癌治療学会総会，2001．11．
- 102) 中野恵子，米山剛一，松村好克，土居大祐，八田充子，小西英喜，鴨井青龍，太田雄治郎，荒木 勤：婦人科腫瘍症例の血栓症に関する臨床的検討．第39回日本癌治療学会総会，2001．11．
- 103) 太田雄治郎，小西英喜，松島 隆，吉松和彦，土居大祐，米山剛一，米山芳雄，石原楷輔，荒木 勤，大坪保雄，渡辺昇一，山田 隆，河合尚基：再発卵巣癌に対するDocetaxel + Carboplatin 併用療法の至適投与量の検討．第39回日本癌治療学会総会，2001．11．
- 104) 中山裕樹，田中 躍，武内 務，杉浦 賢，加藤久盛，八田充子，松下径広，土居大祐，宮城悦子，小野瀬亮：どの病態を悪性腺腫と呼ぶべきか．第40回日本臨床細胞学会秋期大会，2001．11．
- 105) 中野恵子，米山剛一，土居大祐，川本雅司，松原美幸，釜口晴美，浅川一枝，渡会泰彦，杉崎祐一：卵巣原発平滑筋肉腫．第40回日本臨床細胞学会秋期大会，2001．11．
- 106) 三並伸二，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：無月経/無排卵と血清Leptinの関連について．第46回日本不妊学会総会，2001．11．
- 107) 峯 克也，竹内正人，西田直子，川瀬里衣子，石川 源，粟田口康一<sup>1)</sup>，進 純郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院)：Biophysical profile scoringにて管理したRH不適合妊娠．江東・千葉西ブロック産婦人科医合同卒後研修会，2001．12．
- 108) 市川雅男，高橋めぐみ<sup>1)</sup>，金 栄淳，里見操緒，竹下俊行，荒木 勤，高橋秀実<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>微生物・免疫)：ヒト母乳由来マクロファージの特徴と樹状細胞への分化．第16回日本生殖免疫学会総会，2001．12．
- 109) 山田 隆，明楽重夫，五十嵐健治，中野恵子，三浦 敦，土居大祐，米山剛一，竹下俊行，荒木 勤：腹壁吊り上げ法による腹腔鏡補助下手術：ラッププロテクターミニを用いて．第24回日本産婦人科手術学会，2001．12．
- 110) 清川寧子，村田知昭，河合尚基，岡野匡雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東部地域病院婦人科検査科)：重症貧血を合併した若年性子宮体癌の1例．第320回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2001．12．
- 111) 西 弥生，加藤真紀子，里見操緒，阿部 崇，林 瑞成，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠中子宮筋腫核出術を施行した12例の検討．第320回日本産婦人科学会東京地方部会例会，2001．12．
- 112) 清川寧子，村田知昭，岡野匡雄，河合尚基：大量性器出血を来した若年性子宮体癌の1例．第320回日本産婦人科学会東京地方部会例会，2001．12．
- 113) 市川雅男，高橋めぐみ<sup>1)</sup>，金 栄淳，里見操緒，高橋秀実<sup>1)</sup>，竹下俊行(<sup>1)</sup>微生物・免疫)：母乳由来マクロファージの特徴と樹状細胞への分化．日本免疫学会総会・学術集会，2001．12．
- 114) 峯 伸也，黒瀬圭輔，土居大祐，太田雄治郎，小西英喜，明楽重夫，荒木 勤，江見 充，永井尚生：子宮平滑筋腫におけるHMG1-C遺伝子との再構成・融合異常．第30回日本婦人科腫瘍学会，2001．
- 115) 鴨井青龍，松下径弘，河村 堯，武内 務，土居大祐，太田雄治郎，米山剛一，荒木 勤：卵巣硬化間質性腫瘍の1例．第30回日本婦人科腫瘍学会，2001．
- 116) 西 弥生，加藤真紀子，里見操緒，阿部 崇，林 瑞成，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠中筋腫核出術を施行した12例の検討．第320回日本産婦人科学会東京地方部会例会，2001．
- 117) 渡辺美千明：更年期障害と女性の健康について．JAはが野・女性のつどい・健康講話，2002．1．
- 118) 五十嵐建治，明楽重夫，五十嵐美和，西 弥生，竹下俊行，荒木 勤：腹腔鏡補助下手術が有用だった子宮筋

- 層内子宮内膜症性嚢胞の1例．第23回エンドメトリオーシス研究会，2002．1．
- 119) 柴田浩之，渡辺美千明，古野元子：病的肥満を合併する婦人科疾患の2症例．日本産婦人科医会・下都賀郡市支部婦人科部会，2002．2．
- 120) 清川寧子，村田知昭，岡野匡雄，河合尚基：脳転移を来した進行卵巣癌の1例．第15回東京産婦人科医会・日本産婦人科学会東京地方部会合同研修会，2002．3．
- 121) 清川寧子，村田知昭，河合尚基：脳転移を来した進行卵巣癌の1例．第320回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2002．3．
- 122) 奥平さやか，米山剛一，馬場直美，五十嵐健治，沖野恵子，土居大祐，朝倉啓文，荒木 勤，：子宮体癌術後に発症した血栓塞栓症．第321回日本産科婦人科学会 東京地方部会，2002．3．
- 123) 稲川智子，竹下俊行，三浦 敦，米山剛一，明楽重夫，荒木 勤：卵巣チョコレート嚢胞と明細胞癌?子宮内膜症・不妊治療中に発見された卵巣明細胞癌の1症例を中心に．第3回GnRH臨床セミナー，2002．3．
- (6) 講演：
- 1) 荒木 勤：生殖補助医療について．自由民主党政務調査会 厚生労働部会・脳死・生命倫理及び臓器移植調査会合同会議，2001．11．

## [ 第二病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

1. 超音波診断学 妊娠初期胎児および周産期における，胎児超音波診断に加え，
- 1) 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究
  - 2) 超音波画像からみた前置胎盤の出血量の予測
  - 3) 子宮頸管無力症における超音波画像の変化
  - 4) 妊娠初期胎嚢像の三次元超音波断層像等の研究を行っている．婦人科領域では，日常的に腫瘍内血管血流を測定しており，卵巣腫瘍では，超音波画像による組織型診断の試みも行われている．
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や，内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連の研究等が行われている．
3. 婦人科腫瘍学 抗がん剤タキソールの臨床研究施設であり，副作用等の解析，研究発表を行っている．子宮頸癌におけるHPV typingによる追跡調査を継続している．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kashiwagi M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Tsukamoto H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Kaseki H : Transdermal estrogen replacement-therapy and vascular response . Japanese Heart Journal 2001 ; 42 ( 3 ) : 307-315 .
- 2) Maruyama S<sup>1)</sup>, Minami S, Kaseki H, Ishihara K, Araki T, Suzue R<sup>1)</sup> : A comparison of serum leptin concentrations in obese and normal weight japanese woman with regular menstrual cycle . Journal of Nutritional Science and Vitaminology 2001 ; 47 ( 1 ) : 87-89 .
- 3) Kaseki H, Araki T, Valle RF : Laser hysteroscopic myomectomy guided by laparoscopically assisted intraabdominal sonohysterography ( LHMV-GRAIS ) -A preliminary report - . Journal of Gynecologic Surgery, 2001 ; 17 ( 3 ) : 79-86 .
- 4) 可世木久幸：レーザーヒステロファイバースコピー．日産婦神奈川会誌 1998；34(2)．
- 5) 林 康子，松島 隆，塚田克也，関谷 隆，可世木久幸，石原楷輔：胎児頻脈を初発症状とし超音波診断が困



難であった胎盤早期剥離の1例．日産婦神奈川会誌 1999；35：113-116．

- 6) 可世木久幸, 松島 隆, 三並伸二, 石原楷輔, 荒木 勤: 不妊診療における子宮鏡の適応と実際．産婦の世界 2001；53：127-133．
- 7) 可世木久幸: 子宮内膜症．臨婦産 2001；55：245-249．
- 8) 丸山智美<sup>1)</sup>, 三並伸二, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 鈴江緑衣郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>昭和女子大学大学院生活機構研究家): 正常排卵性月経周期を有する女性のレプチン濃度と栄養摂取量．日臨栄会誌 2001；22(4): 42-46．
- 9) 可世木久幸: 子宮鏡下子宮筋腫核出術 TCRとLHMY-GLAIS．日内会誌 2001；4：341-350．
- 10) 可世木久幸, 深見武彦, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮腔癒着症に対する子宮鏡下手術．産婦の世界 2001；53：1035-1041．
- 11) 小西英喜, 三並伸二, 齋藤耀三, 菊谷真理子, 林 康子, 深見武彦, 吉松和彦, 松島 隆, 塚田克也, 石原楷輔: パクリタキセル+カルボプラチン併用Biweekly投与方法における副作用の検討: One stay chemotherapyを目指して．日産婦神奈川会誌 2002；38(2): 50-54．

(2) 綜説:

- 1) 可世木久幸: ビタミンE．医薬ジャーナル 1999；35(12): 108-112．
- 2) 松島 隆: わが教室における産科画像診断．産婦治療 2001；81(2): 214-222．
- 3) 小西英喜: 腎疾患合併癌患者の化学療法．婦人科がん化学療法共同研究会化療ニュース 2001；10(3): 0-3．

著 書

- 1) 可世木久幸: [分担] 癒着胎盤．今日の産婦人科治療指針(武田佳彦, 武谷雄二), 1999；pp287-287, 医学書院．
- 2) 可世木久幸: [共著] 産婦人科関連用語．内視鏡外科学会用語集(日本内視鏡外科学会用語委員会), 1999；医学書院．
- 3) 可世木久幸: [分担] 子宮外妊娠手術．新女性学大系33(千葉喜英), 2000；pp35-45, 中山書店．
- 4) 可世木久幸: [分担] アイリスアクセスポートを利用する腹腔鏡手術．産婦人科手術のコツ(日本産婦人科手術学会), 2000；pp212-213, メジカルビュー．
- 5) 石原楷輔: [自著] 経膈超音波の基本操作．産婦人科超音波診断エッセンス, 2001；メジカルビュー社, インプレス．
- 6) 可世木久幸: [分担] 子宮鏡による子宮腔内病変の診断．図解臨床産科婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行), 2001；pp140-141, 金原出版．
- 7) 可世木久幸: [分担] 子宮卵管造影法のコツ．図解臨床産科婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行), 2001；pp172-173, 金原出版．
- 8) 可世木久幸: [分担] 3D 子宮卵管造影で何がわかるか．図解臨床産科婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行), 2001；pp174-175, 金原出版．
- 9) 可世木久幸: [分担] 不妊外来における子宮鏡検査．図解臨床産科婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行), 2001；pp176-177, 金原出版．
- 10) 可世木久幸: [分担] 子宮鏡の洗浄法手入れ．図解臨床産科婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行), 2001；pp178-179, 金原出版．
- 11) 可世木久幸: [共著] 内視鏡検査および手術．研修ノート67: 不妊症のケア(日本産婦人科医会研修委員会), 2001；pp95-110, 社団法人日本産婦人科医会．
- 12) 石原楷輔: [自著] 前置胎盤, 前置血管, 癒着胎盤．周産期医学必修知識, 2001；pp203-204, 東京医学社．
- 13) 石原楷輔: [自著] 前置胎盤．今日の治療と看護, 2002；南光堂, インプレス．
- 14) 可世木久幸: [編集と分担] 1部腹腔鏡下手術 1腹腔鏡下手術に用いる機器 手術用エネルギー供給機器．産

- 婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp15-20, メジカルビュー .
- 15) 可世木久幸:〔編集と分担〕1部 腹腔鏡下手術 1腹腔鏡下手術に用いる機器 最近新たに発売された器具. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp26-29, メジカルビュー .
- 16) 可世木久幸:〔編集と分担〕1部 腹腔鏡下手術 3腹腔鏡の実施法 気腹法による腹腔鏡下手術 2) オープン法. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp37-40, メジカルビュー .
- 17) 可世木久幸:〔編集と分担〕1部 腹腔鏡下手術 4腹腔鏡下手術における合併症の防止と対策 手術操作による合併症 4) 電気メス・超音波メスによる熱損傷. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp56-57, メジカルビュー .
- 18) 可世木久幸:〔編集と分担〕2部 子宮鏡下手術 1子宮鏡の目的. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp126-126, メジカルビュー .
- 19) 可世木久幸:〔編集と分担〕2部 子宮鏡下手術 2使用機器. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp126-127, メジカルビュー .
- 20) 可世木久幸:〔編集と分担〕2部 子宮鏡下手術 3診断的子宫鏡. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp128-133, メジカルビュー .
- 21) 可世木久幸:〔編集と分担〕2部 子宮鏡下手術 4手術的子宫鏡の基本事項. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp134-136, メジカルビュー .
- 22) 可世木久幸:〔編集と分担〕2部 子宮鏡下手術 6レーザーヒステロファイアースコープによる手術の実際. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ(佐藤和雄,野澤志朗,荒木 勤,堤 治,可世木久幸,久布白兼行), 2002; pp142-144, メジカルビュー .
- 23) 小西英喜:〔分担〕腫瘍マーカーの特性と有効な使い分け. 図解臨床産科婦人科検査法(荒木 勤,竹下俊行), 2002; pp128-131, 金原出版 .
- 24) 小西英喜:〔分担〕婦人科手術の術前検査. 図解臨床産科婦人科検査法(荒木 勤,竹下俊行), 2002; pp158-159, 金原出版 .

#### 学会発表

〔2000年度追加〕

##### 特別講演:

- 1) 可世木久幸:子宮鏡口ポテックサージャリー器具の開発. 第40回先端医療技術開発研究会・公開定例会, 2001. 2.

##### 教育講演:

- 1) 可世木久幸:機会器具の取り扱い, 術前術後のケア. 第8回日本産科婦人科内視鏡学会実技研修会, 2000. 5.  
2) 可世木久幸:内視鏡手術器具取り扱いの基本. 第9回日本産科婦人科内視鏡学会実技研修会, 2000. 11.

##### シンポジウム:

- 1) 可世木久幸:子宮鏡による子宮病変のレーザー療法. 第21回日本レーザー医学会総会, 2000. 11.

##### (1) 特別講演:

- 1) 可世木久幸:産婦人科領域におけるレーザー. 第41回先端医療技術開発研究会・公開定例会, 2001. 5.  
2) 可世木久幸:奔放の産婦人科内視鏡手術の動向. 第1回日本内視鏡外科学会長野地方部会・長野県産婦人科内視鏡懇話会合同研修会, 2001. 6.

##### (2) 教育講演:

- 1) 石原楷輔:経膈超音波検査の基礎. 日産婦ME学会, イアンドナルド超音波講座, 2001. 4.

- 2) 可世木久幸：内視鏡手術器具のメカニズム．第10回日本産科婦人科内視鏡学会実技研修会，2001．6．
- 3) 石原楷輔：経膈超音波診断．第102回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，学術集会，2001．10．
- 4) 可世木久幸：内視鏡手術器具の基本的メカニズム．第11回日本産科婦人科内視鏡学会実技研修会，2001．11．

(3) シンポジウム：

- 1) Kaseki H：Educational Training Program for Endoscopic Surgery in Japan．10th International society of Gynecological Endoscopy ( Chicago, U. S. A. ), 2001．3．
- 2) 可世木久幸：子宮腔癒着症：手術のコツ．第24回日本生殖外科学会，2001．8．
- 3) 石原楷輔：超音波画像から見た早産の予測．第28回日本産科婦人科大会，2001．10．

(4) 一般講演：

- 1) Kaseki H, Tukada K, Kaisuke K, Araki T：Evaluation of oviduct function by pattern analysis of intr oviduct injection．Endoscopists and Laparoscopists Society of Asia ( ELSA )( Manila, Philipine ), 2001．2．
- 2) Matsushima T, Kaseki H, Ishihara K, Araki T：Transferrin Receptor ( CD71 ) Expression in Tubal Macrophages．Global Congress of Gynecologic Endoscopy 30th Annual Meeting of the American Association of Gynecologic Laparoscopists ( SanFrancisco, California ), 2001．11．
- 3) Kaseki H, Hayashi Y, Matsushima T, Yamasaki T<sup>1)</sup>, Ishihara K, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and gynecology, Iida Municipal Hospital ): New method of laser hysteroscopic metroplasty．Global Congress of Gynecologic Endoscopy 30th Annual Meeting of the American Association of Gynecologic Laparoscopists ( San Francisco, CA, U. S. A. ), 2001．11．
- 4) Kaseki H, Matsumoto T<sup>1)</sup>, Fukui K<sup>2)</sup>, Araki T, Satoh K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Ehime prefectural Central Hospital , <sup>2)</sup> Fukui Clinic , <sup>3)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nihon University ): laparoscopic training program using octopus tissue with video laparo-trainer．Global Congress of Gynecologic Endoscopy 30th Annual meeting of the American Association of the Gynecologic Laparoscopists ( San Francisco, CA, U. S. A. ), 2001．11．
- 5) Matsushima T, Kaseki H, Ishihara K, Araki T：Activities of Tubal and Peritoneal Macrophages from Endometriosis associated infertile Women Using or Not Using GnRH Analogue．8th World Congress on Endometriosis ( San Diego, California ), 2002．2．
- 6) Ghazizadeh M, 清水 一, 小西英喜, 枝川聖子, 荒木 勤, 川並汪一：Differential Gene Expression of Ovarian Carcinoma Cells in Relation to Cisplatin-Resistance．第39回日本癌治療学会総会，2001．10．
- 7) 石原楷輔：最新の超音波診断．姫路市産婦人科医師会，2001．4．
- 8) 松島 隆, 三並伸二, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤：選択的卵管通水液細胞診による卵管病変の把握．第53回日本産科婦人科総会学術講演会，2001．5．
- 9) 佐藤浩一, 吉松和彦, 林 康子, 深見武彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤：常位胎盤早期剥離に超音波検査は有用か．第74回日本超音波医学会学術集会，2001．5．
- 10) 小西英喜, 大坪保雄<sup>2)</sup>, 松島 隆, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 河合尚基<sup>3)</sup>, 石原楷輔, 荒木 勤, 畑 俊夫<sup>4)</sup>, 中山裕樹<sup>5)</sup>, 小川秀臣<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 大宮中央病院産婦人科, <sup>3)</sup> 東部地域病院産婦人科, <sup>4)</sup> 埼玉医科大学病院産婦人科, <sup>5)</sup> 神奈川県立がんセンター, <sup>6)</sup> 国立横須賀病院産婦人科 ): コンプライアンスの向上を目指した再発卵巣癌に対するPaclitaxel, Carboplatin 併用 Biweekly 投与方法 ( T-J Biweekly ) の検討．第53回日本産科婦人科学会総会，2001．5．
- 11) 塚田克也, 松島 隆, 菊谷真理子, 小田部徹, 小西英喜, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤：卵巣癌におけるPaclitaxelの血管新生抑制についての検討．第53回日本産科婦人科学会総会，2001．5．
- 12) 米山剛一<sup>1)</sup>, 河野恵子<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup>, 竹内 務<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 小西英喜, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 荒木 勤 ( <sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科 ): 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の腫瘍マーカーによる術

- 前評価．第53回日本産科婦人科総会，2001．5．
- 13) 齋藤糧三，菊谷真理子，深見武彦，小田部徹，塚田克也，関谷隆夫，石原楷輔，荒木 勤：超音波画像からみた低置胎盤の評価．第53回日本産科婦人科学会総会，2001．5．
  - 14) 三並伸二，佐藤浩一，松島 隆，塚田克也，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤：腹膜発症のlymphangiomaの1症例．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．6．
  - 15) 菊谷真理子，齋藤糧三，深見武彦，松島 隆，石原楷輔，荒木 勤：超音波診断が有効であった常位胎盤早期剥離の7例．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2001．6．
  - 16) 菊谷真理子：切迫早産と診断した常位胎盤早期剥離の症例．第2回同窓会臨床研究会，2001．6．
  - 17) 深見武彦，佐藤浩一，品川志野，松島 隆，塚田克也，石原楷輔：流産手術後難治性の出血が持続した帝王切開癒痕部妊娠の1例．第357回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2001．7．
  - 18) 石原楷輔：超音波診断 最近の臨床知見．三多摩産婦人科医会，2001．7．
  - 19) 深見武彦，可世木久幸，松島 隆，吉松和彦，石原楷輔，荒木 勤：LHME-GLAISが有効であった子宮腔癒着症の1例．第41回日本産科婦人科内視鏡学会，2001．8．
  - 20) 松島 隆，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：リガシユアー（パイポーラ）を用いた子宮内膜症性嚢胞蒸散術．第41回日本産科婦人科内視鏡学会，2001．8．
  - 21) 石原楷輔：経膈超音波診断．小田原市産婦人科医会，2001．8．
  - 22) 可世木久幸，林 康子，松島 隆，三並伸二，荒木 勤：多種類の画像検査組み合わせによる子宮鏡手術の評価．第14回日本内視鏡外科学会，2001．9．
  - 23) 菊谷真理子，佐藤浩一，吉松和彦，林 康子，松島 隆，石原楷輔，荒木 勤：常位胎盤早期剥離における超音波検査の有用性．第102回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2001．10．
  - 24) 深見武彦，吉松和彦，齋藤糧三，塚田克也，石原楷輔，荒木 勤：流産手術後性器出血が持続した帝王切開癒痕部妊娠の1例．第102回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2001．10．
  - 25) 深見武彦，石原楷輔，荒木 勤：超音波診断の基礎とピットフォール．第339回四水会，2001．10．
  - 26) 石原楷輔：超音波診断：最新の臨床知見．山形産婦人科医会，2001．10．
  - 27) 品川志野，吉松和彦，松島 隆，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤：巨大子宮筋腫を強く疑われた腹部腫瘍の1例．第102回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．10．
  - 28) 小西英喜，太田雄治郎<sup>1)</sup>，松島 隆，土居大祐<sup>1)</sup>，吉松和彦，米山剛一<sup>1)</sup>，米山芳雄<sup>1)</sup>，石原楷輔，荒木 勤，富岡康弘<sup>2)</sup>，畑 俊夫<sup>2)</sup>，加藤久盛<sup>3)</sup>，中山裕樹<sup>3)</sup>，大坪保雄<sup>4)</sup>，渡邊昇一，山田隆<sup>4)</sup>，高橋英彦<sup>5)</sup>，河合尚基<sup>6)</sup>，小川秀臣<sup>7)</sup>，磯崎太一<sup>8)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup>埼玉医科大学病院産婦人科，<sup>3)</sup>神奈川県立がんセンター3，<sup>4)</sup>大宮中央病院産婦人科，<sup>5)</sup>南部地域病院産婦人科，<sup>6)</sup>東部地域病院産婦人科，<sup>7)</sup>国立横須賀病院産婦人科，<sup>8)</sup>海老名総合病院産婦人科）：卵巣癌に対するT-J Biweekly療法：患者の社会との共存をもとめて．第39回日本癌治療学会総会，2001．10．
  - 29) 松島 隆，可世木久幸，齋藤良明<sup>1)</sup>，長澤由英<sup>1)</sup>，太田吉男<sup>1)</sup>，松本光司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>第二病院病理部）：子宮内膜症における卵管内マクロファージのCD71発現．第40回日本臨床細胞学会総会，2001．11．
  - 30) 佐藤浩一，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤，井上 保<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>北里サブライ株式会社）：新型ベッサリーの開発（その4）．第16回更年期医学会，2001．11．
  - 31) 佐藤浩一，品川志野，可世木久幸，石原楷輔：子宮脱，膀胱脱治療器具（新型ベッサリー）の開発（臨床予備試験）．第359回日本産科婦人科神奈川地方部会，2001．11．
  - 32) 石原楷輔：超音波診断 最近の知見．町田市産婦人科医会，2001．11．
  - 33) 可世木久幸，三並伸二，丸山智美<sup>1)</sup>，石原楷輔，荒木 勤（<sup>1)</sup>昭和女子大学大学院）：無月経・無排卵と血清レプチン．第46回日本不妊学会学術講演会，2001．11．
  - 34) 石原楷輔：経膈超音波診断：最近の知見を巡って．城北産婦人科医会，2001．12．

35) 石原楷輔：超音波診断の最新の知見．三多摩産婦人科研究会，2002．2．

36) 深見武彦，小西英喜，齋藤糧三，齋藤 恵，品川志野，吉松和彦，可世木久幸，石原楷輔：術前精査中に動脈血栓を突然発症した子宮体癌の1例．第361回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2002．3．

## [ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである．

#### (1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について，身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている．身体面では，超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化，心機能変化の評価をはじめ，スポーツが妊娠，分娩に与える影響予後を広範囲に調査している．また，産褥期の子宮復古，母乳栄養の確立に関しても，興味深い成績をあげつつある．

#### (2) 出生前診断

従来より行っている羊水・絨毛染色体検査に加え，非侵襲的な母体尿中hCG -core fragment による出生前診断の可能性を検討している．

#### (3) 周産期領域

臨床面では妊娠中毒症，子宮内胎児発育遅延に対し，超音波断層装置，生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている．超音波断層装置による母体腎，肝臓の観察では，新たな視点から，妊娠中毒症発症に関する有益なデータが集積しつつある．また，胎児，新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い，脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血再灌流傷害の関係を検討している．

### 研究業績

#### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) 堀川佳津美<sup>1)</sup>，村田和也<sup>1)</sup>，佐々木茂，越野立夫，鈴木 健<sup>2)</sup>，長澤紘一<sup>2)</sup>，平田清貴<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科，<sup>2)</sup>同内科，<sup>3)</sup>付属病院薬剤部)：更年期障害におけるベンゾジアゼピン系薬剤の適正使用．日病薬誌 2001；37(1)：55-58．

(1) 原著：

- 1) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Oya A, Asakura H, Kuroda S<sup>2)</sup>, Koshino T, Araki T (<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Hokkaido University School of Medicine): Influence of mild hypothermia on delayed mitochondrial dysfunction after transient intrauterine ischemia in the immature rat brain. Brain Res Dev Brain Res 2001; 128: 1-7.
- 2) Miyake H, Nakai A, Koshino T, Araki T: Doppler velocimetry of maternal renal circulation is altered in pregnancy-induced hypertension. J Clin Ultrasound 2001; 29(8): 449-455.
- 3) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Koshino T, Yokoyama K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School): Maternal treatment with NMDA receptor antagonist (MK-801) attenuates secondary mitochondrial dysfunction after transient intrauterine ischemia in neonatal rat brain. J Anesthesia 2001; 15: 217-222.
- 4) Nakai A, Sekiya I, Oya A, Koshino T, Araki T: Assessment of the hepatic arterial and portal venous blood

flows during pregnancy with Doppler ultrasonography . Arch Gynecol Obstet 2002 ; 266 : 25-29 .

- 5) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Effect of dexamethasone on mitochondrial maturation in the fetal rat brain . Am J Obstet Gynecol 2002 ; 186 ( 3 ): 574-578 .
- 6) Tsuyuki Y, Nakai A, Koshino T, Araki T : Effect of maternal diet rich in docosahexaenoic acid on intrauterine fetal growth retardation in spontaneously hypertensive rats . Nutrition Res 2002 ; 22 : 355-364 .
- 7) 越野立夫, 佐々木茂, 中井章人, 横田明重, 三田俊二, 大屋敦子, 神戸 仁, 三宅秀彦, 高橋 肇, 谷内良成, 関谷伊久乃, 國重隆生, 永野玲子, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 子宮内膜細胞診が陽性であったnormal sized ovarian carcinoma症例 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 2 ): 198-201 .
- 8) 高橋 肇, 神戸 仁, 大屋敦子, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫: 壊死性リンパ節炎合併妊娠の1例 . 日産婦東京会誌 2001 ; 50 ( 2 ): 209-212 .
- 9) 三田俊二, 奥田直貴, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 寺師義典<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 寺師医院 ): ゴムラッテクスアレルギー患者に対する帝王切開術の経験 . 日産婦東京会誌 2001 ; 50 ( 3 ): 288-291 .
- 10) 関谷伊久乃, 中井章人, 三宅秀彦, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 若麻績佳樹<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 都立母子保健院産婦人科 ): 超音波パルスドプラによる妊娠中の母体肝循環評価 . 日産婦東京会誌 2001 ; 50 ( 4 ): 502-506 .
- 11) 関谷伊久乃, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤 : 妊娠中毒症における母体肝循環変化について : 肝動脈門脈の血流代償作用 . 妊中誌 2001 ; 9 : 179-180 .
- 12) 三宅秀彦, 奥田直貴, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫: 妊娠後期に低栄養による肝機能障害, 低カリウム血症をきたした1例 . 日産婦東京会誌 2002 ; 51 ( 1 ): 68-72 .

## (2) 綜説 :

- 1) 越野立夫, 中井章人: 産婦人科手術のコツ: その創意と工夫を伝承する: Alexander-Adams手術: 子宮内膜症保存手術の併用療法として . 産婦人科手術 2001 ; 234-235 .
- 2) 越野立夫, 中井章人: 特集: 母と子のスイミング: マタニティスイミング . チャイルドヘルス 2001 ; 4 ( 7 ): 470-473 .
- 3) 佐々木茂, 磯崎太一<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 海老名総合病院産婦人科 ): 今月の臨床: 遺伝子医療: 現況と将来: 悪性腫瘍の遺伝子診断, 遺伝子治療: 絨毛癌の遺伝子治療 . 臨産婦 2001 ; 55 ( 8 ): 928-932 .
- 4) 越野立夫: 特集: 研修医のための図解産婦人科手術手技: 奇形・位置異常・損傷に対する形成・修復手術: 膀胱損傷修復手術 . 産婦の実際 2001 ; 50 ( 11 ): 1691-1695 .
- 5) 佐々木茂, 藤井俊彦, 三田俊二: 破水の診断法 . 周産期医学 2001 ; 31 ( 増刊号 ): 65-67 .

## 著 書

- 1) Nagano R, Nakai A, Taniuchi Y, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): [ 分担 ] Developmental changes in mitochondrial activity and energy metabolism in the immature rat brain . Perinatology 2001 ( Luis Cabero, Jose'Ma. Carrera ), 2001 ; pp269-274 , Monduzzi Editore .
- 2) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Asakura H, Oya A, Nagano R, Yokota A, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): [ 分担 ] Effect of dexamethasone on cerebral mitochondrial maturation in the fetal rat . Perinatology 2001 ( Luis Cabero, Jose'Ma. Carrera ), 2001 ; pp317-322 , Monduzzi Editore .
- 3) Taniuchi Y, Nakai A, Nagano R, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): [ 分担 ] Developmental changes in tolerance to transient intrauterine ischemia on cerebral mitochondria in the fetal rat . Perinatology 2001 ( Luis Cabero, Jose'-

Ma. Carrera), 2001 ; pp341-346, Monduzzi Editore .

- 4) 越野立夫：〔分担〕一般診察法：問診・全身所見の取り方．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編集），2002；pp2-3，金原出版．
- 5) 越野立夫：〔分担〕一般診察法：婦人科診察法の特異性と診察手順．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編集），2002；pp4-5，金原出版．
- 6) 中井章人：〔分担〕産科臨床検査：血流速度波形から何がわかるか．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編集），2002；pp44-45，金原出版．
- 7) 中井章人：〔分担〕産科臨床検査：切迫流産予後判定のための経膈超音波検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編集），2002；pp80-81，金原出版．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 佐々木茂：分娩介助のスキルアップ．第17回東京母性衛生学会学術セミナー，2002．2．

##### (2) シンポジウム：

- 1) 中井章人：妊婦スポーツの継続による母児への影響（妊婦とスポーツ - 母児の安全のために）．2002年日本臨床スポーツ医学会学術委員会公開シンポジウム，2002．2．

##### (3) 一般講演：

- 1) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Asakura H, Oya A, Nagano R, Yokota A, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Effect of dexamethasone on cerebral mitochondrial maturation in the fetal rat . 5th World Congress of Perinatal Medicine ( Barcelona, Spain ), 2001 . 9 .
- 2) Taniuchi Y, Nakai A, Nagano R, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Developmental changes in tolerance to transient intrauterine ischemia on cerebral mitochondria in the fetal rat . 5th World Congress of Perinatal Medicine ( Barcelona, Spain ), 2001 . 9 .
- 3) Nagano R, Nakai A, Taniuchi Y, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Developmental changes in mitochondrial activity and energy metabolism in the immature rat brain . 5th World Congress of Perinatal Medicine ( Barcelona, Spain ), 2001 . 9 .
- 4) Sasaki S, Isozaki T, Matsui H, Sekiya S, Watanabe M, Ono G, Ishii T : A comparison between two methods of measurement of serum hCG, hCG CTP EIA kit and DPC immulite hCG kit . XIth World Congress of Gestational Trophoblastic Diseases ( Santa Fe, New Mexico, U. S. A. ), 2001 . 10 .
- 5) Matsui H, Iitsuka Y, Sasaki S, Isozaki T, Sekiya S : Serum hCG titers in postmolar patients using hCG CTP kit-comparison between hCG CTP kit and DPC immulite hCG kit . XIth World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases ( Santa Fe, New Mexico, U. S. A. ), 2001 . 10 .
- 6) Sasaki S, Isozaki T, Koshino T, Araki T : Is there any possibility of gene therapy for choriocarcinoma? . XIth World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases ( Santa Fe, New Mexico, U. S. A. ), 2001 . 10 .
- 7) 柴崎敬乃<sup>1)</sup>, 中井章人, 横山和子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院麻酔科): 免疫抑制剤FK506が一過性子宮内虚血による新生仔脳の遅発性エネルギー代謝不全に及ぼす影響について．日本麻酔学会第48回大会，2001．4．
- 8) 谷内良成, 中井章人, 朝倉啓文, 永野玲子, 大屋敦子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 子宮内一過性虚血がラット新生仔脳のミトコンドリア機能に与える影響：傷害時期との関連．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 9) 関谷伊久乃, 中井章人, 朝倉啓文, 林 康子, 三宅秀彦, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠中毒症におけ

- る母体肝動脈と門脈の血流代償作用発現に関する検討．第53回日本産科婦人科学会学術講演会，2001．5．
- 10) 三田俊二，奥田直貴，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：ゴムラテックスアレルギー患者に対する帝王切開術の経験．第318回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2001．5．
  - 11) 永野玲子，横田明重，谷内良成，高橋 肇，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：多彩な治療で管理した腹膜偽粘液腫の1例．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．6．
  - 12) 山田浩子，谷内良成，横田明重，三田俊二，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：妊娠中に偶然発見された悪性腹膜中皮腫の1例．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．6．
  - 13) 三宅秀彦，國重隆生，奥田直貴，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：子宮温存が可能であった流産後の癒着胎盤の1例．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．6．
  - 14) 谷内良成，中井章人，永野玲子，大屋敦子，朝倉啓文，越野立夫，荒木 勤：脳性麻痺発生機序に関する検討：ラット実験モデルにおけるエネルギー代謝不全と活性酸素の関連．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．6．
  - 15) 関谷伊久乃，中井章人，三宅秀彦，横田明重，佐々木茂，越野立夫，若麻績佳樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立母子保健院産婦人科)：超音波パルスドブラによる妊娠中の母体肝循環評価．第319回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2001．9．
  - 16) 谷内良成，中井章人，永野玲子，関口敦子，越野立夫：ラット実験モデルにおける胎仔脳の遅発性エネルギー代謝不全と活性酸素の関連．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 17) 三宅秀彦，國重隆生，奥田直貴，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：妊娠17週流産後の癒着胎盤の1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 18) 永野玲子，横田明重，谷内良成，高橋 肇，中井章人，佐々木茂，越野立夫：種々の治療を試み良好な経過を得た腹膜偽粘液腫の1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 19) 山田浩子，谷内良成，横田明重，三田俊二，中井章人，佐々木茂，越野立夫：妊娠中に合併した悪性腹膜中皮腫の1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 20) 東 敬子<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，劉 愛民<sup>2)</sup>，山田浩子，横田明重，越野立夫，杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設，<sup>3)</sup>病理第2)：Deciduoid mesotheliomaと考える腹膜腫瘍の1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
  - 21) 永野玲子，中井章人，神戸 仁，大屋敦子，横田明重，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：妊婦水泳と母乳栄養確立に関する研究．第42回日本母性衛生学会総会，2001．9．
  - 22) 関谷伊久乃，中井章人，朝倉啓文，越野立夫，荒木 勤：妊娠中毒症における母体肝循環変化について：肝動脈，門脈血流代償作用．第22回日本妊娠中毒症学会，2001．10．
  - 23) 三宅秀彦，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：過去5年間における妊婦健康診査未受診分娩例の検討．第102回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．10．
  - 24) 永野玲子，國重隆生，大屋敦子，三田俊二，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：妊娠中に脳内出血を発症し，その後てんかん発作を併発した2症例．第102回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2001．10．
  - 25) 鈴鹿清美<sup>1)</sup>，飯塚美徳<sup>1)</sup>，松井英雄<sup>1)</sup>，佐々木茂，磯崎太一，関谷宗英<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉大学医学部産婦人科)：絨毛性疾患管理におけるhuman chorionic gonadotropin (hCG)の再評価．第19回日本絨毛性疾患研究会，2001．10．
  - 26) 柴崎敬乃<sup>1)</sup>，中井章人，横山和子(<sup>1)</sup>多摩永山病院麻酔科)：母体体温変化が一過性子宮内虚血再灌流による新生仔脳障害に及ぼす影響について．日本臨床麻酔学会第21回大会，2001．10．
  - 27) 奥田直貴，中井章人，神戸 仁，越野立夫：分娩による活性酸素，抗酸化物質産生に及ぼす母体運動の影響．第15回女性スポーツ医学研究会学術集会，2001．12．
  - 28) 三宅秀彦，奥田直貴，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：妊娠後期に低栄養による肝機能障害，低力



リウム血症をきたした1例．第320回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2001．12．

- 29) 國重隆生，谷内良成，三宅秀彦，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，安本美奈子<sup>1)</sup>，藤本和久<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): 中毒性表皮壊死症 (TEN) 型薬疹を伴った帝王切開後 MRSA 感染症の1例．第15回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第321回日産婦東京地方部会例会，2002．3．

## [ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

現在のところ，臨床研究を主体としている．即ち，周産期の分野では超音波など画像診断を中心に臨床研究を，また生殖内分泌の分野では，不妊症の臨床研究やアンケートによる統計学的研究を，さらに腫瘍学の分野では，悪性腫瘍における抗癌剤やホルモン剤の効果を病理組織学的手法をもって解析を進めている．また，最近では，深部静脈血栓症の患者が，産科，婦人科を問わず増加し，その治療法についても検討を行なっている．千葉北総病院女性診療科・産科は，臨床的には癌患者の終末医療にも力を入れており，精神的側面を含めて合併症の解析を行ないつつある．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Okada S<sup>1)</sup>, Uchiyama F<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Kamoi S, Kawamura T, Kawamura T, Kumazaki T, T, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School ): MRI findings of a case of uterine tumor resembling ovarian sex-cord tumors coexisting with endometrial . Radiation Medicine 2001 ; 19 ( 3 ): 151-153 .
- 2) Kamoi S, Ohaki Y, Okada S, Matsushita N, Kawamura T, Araki T ( <sup>1)</sup>Department of Pathology ): Mitotic index and Ki-67 nuclear antigen labeling index as predictors of chemotherapy response in uterine cervical carcinoma . Gynecologic Oncology 2001 ; 83 ( 3 ): 555-559 .
- 3) Kamoi S, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Mori O<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Kawamoto Y<sup>1)</sup>, Kawamura T, Araki T ( <sup>1)</sup>Department of Pathology ): Epithelioid trophoblastic tumor of the uterus : cytological and immunohistochemical observation of . Pathology International 2002 ; 52 ( 1 ): 75-81 .
- 4) 鴨井青龍，大秋美治<sup>1)</sup>，松下径広，河村 堯，武内 務<sup>2)</sup>，土居大祐<sup>2)</sup>，太田雄治郎<sup>2)</sup>，米山剛一<sup>2)</sup>，荒木 勤<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>産婦人科学 ): 卵巣硬化性間質性腫瘍の1例．日婦腫瘍会誌 2002 ; 20 ( 1 ): 137-141 .

#### 著書

- 1) 河村 堯：〔分担〕産婦人科検査とインフォームド・コンセント．図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤 / 竹下俊行 ), 2002 ; pp6-7, 金原出版 .
- 2) 鴨井青龍：〔分担〕子宮筋腫における GnRHA 療法中の効果判定のための検査法．図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤 / 竹下俊行 ), 2001 ; pp154-155, 金原出版 .
- 3) 鴨井青龍：〔分担〕ピル服用前の検査．図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤 / 竹下俊行 ), 2002 ; pp200-201, 金原出版 .
- 4) 鴨井青龍：〔分担〕子宮内容清掃術の術前・術中検査．図解臨床産科婦人科検査法 ( 荒木 勤 / 竹下俊行 ), 2002 ; pp208-209, 金原出版 .

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 瀬戸真理子, 阿部俊之, 峯 伸也, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 明楽重夫, 鴨井青龍, 竹下俊行, 河村 堯：潜在性高プロラクチン血症のTRH負荷テストの15分値の有用性．第11回千葉県内分泌懇話会, 2001．4．
- 2) 鴨井青龍, 弘末卓也, 阿部俊之, 大下知子, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 河村 堯, 荒木 勤：子宮頸癌における術前化学療法の効果予知因子としての核分裂指数．第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 2001．5．
- 3) 土居大祐：子宮頸部腺癌Ib2期およびII期における術前動注化学療法の有効．第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 2001．5．
- 4) 小木三郎, 西田直子, 阿部俊之, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯：前置胎盤入院管理中に子宮内胎児死亡となった妊娠敗血症の1例．日本医科大学医学会第104回例会, 2001．5．
- 5) 山口 暁<sup>1)</sup>, 山口 稔<sup>1)</sup>, 森田訓子<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>(1)</sup>山口病院産婦人科,<sup>2)</sup>小張総合病院耳鼻咽喉科): 自動聴性脳幹反応を用いた聴力スクリーニングの信頼性の検討．第53回日本産科婦人科学会学術講演会, 2001．5．
- 6) 鴨井青龍, 瀬戸真理子, 弘末卓也, 阿部俊之, 峯 伸也, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤：卵黄嚢腫瘍を合併した高齢者卵巣類内膜癌の1例．第101回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会学術講演会, 2001．6．
- 7) 鴨井青龍, 大秋美治<sup>1)</sup>, 瀬戸真理子, 里見操緒, 松下径広, 河村 堯, 荒木 勤<sup>(1)</sup>千葉北総病院病理部): 卵黄嚢腫瘍を合併した卵巣類内膜癌の1例．第30回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2001．7．
- 8) 鴨井青龍, 大秋美治<sup>1)</sup>, 武内 務, 太田雄治郎<sup>2)</sup>, 土居大祐, 米山剛一, 河村 堯, 荒木 勤<sup>(1)</sup>千葉北総病院病理部): 12歳の若年女性に急性腹症として発症した卵巣間質性腫瘍の1例．第30回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2001．7．
- 9) 岡田 進<sup>1)</sup>, 内山史生<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 河村 堯, 鴨井青龍, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学,<sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): AFPが高値を示した骨盤内腫瘍の検討．第29回日本磁気共鳴医学会大会, 2001．9．
- 10) 阿部俊之, 西田直子, 小木三郎, 峯 伸也, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤：不妊治療後に発症したSLE合併妊娠の1例．第102回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2001．10．
- 11) 桑島豊彦：広汎子宮全摘術後の浮腫に対する新しい試み．第3回千葉県婦人科臨床研究会, 2001．11．
- 12) 峯 伸也, 小木三郎, 阿部俊之, 桑島豊彦, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯：子宮摘出を行ない救命しえた癒着胎盤の2例．日本産科婦人科学会千葉地方部会平成13年度冬期学術講演会, 2002．2．

## 14. 耳鼻咽喉科学講座

### [ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ]

#### 研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。また、その研究手法としては、生理学的、形態学的、分子生物学的方法等が駆使されている。

平成13年度は、厚生労働省特定疾患研究事業「前庭機能異常に関する調査研究」を八木が研究代表者（班長）として行った最終年度にあたり、メニエール病と遅発性内リンパ水腫の病態と治療に関する研究が推進された。その結果、この研究事業（研究班）は、さらなる継続に値するとの評価を受けた。また、その結果の一部が、英文論文としても発表されている。めまい平衡医学に関しては、臨床的にも基礎的にも研究が進展した。眼球運動の三次元解析については、高速度撮影等の研究が、新技術開発計画（私立大学等経常費補助金特別補助）や科研費を得て、新たな局面に入った。また、内耳の構成蛋白とその遺伝子解析研究が軌道に乗りつつあり、その一部が英文として発表された。また、抗ガン剤や感染等による内耳障害の解明につながる活性酸素の発現に関する基礎的研究も積極的に行われた。

免疫・アレルギー学でも、呼吸上皮に関する検討、内耳の免疫応答、アレルギー性鼻炎の基礎的・臨床的研究、などが細胞レベルから臓器に至るまで、広い範囲で進められており、これらに関する科学研究費や厚生科学研究費も取得されている。また、国際会議を含めた外部への発表等も積極的に行われている。一方、人のQOLに直接関係する咀嚼や嚥下に関する基礎的な研究も進み、頸部悪性腫瘍や変性疾患等における咀嚼障害や嚥下障害への臨床的なフィードバックが行われるようになっている。

教室全体の研究に対する姿勢がより明確になり、それが外部からも評価されている。その結果は、競争的研究費（科研費や厚生科学研究費等）の獲得として現れてきているが、明年度も教室員全員で一層の努力をすることとしている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kamura E, Yagi T : Three-dimensional analysis of eye movements during off vertical axis rotation in patients with unilateral labyrinthine loss . *Acta Otolaryngol* 2001 ; 121 ( 2 ) : 225-228 .
- 2) Watanabe Ken-I, Jinnouchi K, Pawankar R, Yagi T : Expression myeloperoxidase and cochlear dysfunction in the lipopolysaccharide-treated guinea pig . *Eur Arch Otorhinolaryngol* 2001 ; 258 ( 3 ) : 164-167 .
- 3) Nonaka R, Nonaka M, Takanashi S<sup>1)</sup>, Manel J<sup>2)</sup>, Dolovich J<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 弘前大学第2内科, <sup>2)</sup> マックマスター大学病理, <sup>3)</sup> マックマスター大学小児科 ): Eosinophil Activation in the Tissue : Synthetic Steroid, Budesonide, Effectively Inhibits the Survival of Eosinophils Isolated from Peripheral Blood but not Nasal Polyp Tissues . *Journal of Clinical Laboratory Immunology* 2001 ; ( 51 ) : 39-53 .
- 4) Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Saito H<sup>1)</sup>, Iikura Y<sup>2)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup> Div. of Allergy, National Children's Hospital Medical Research Centre, Tokyo , <sup>2)</sup> Dep. of Pediatrics, Showa University School of Medicine, Tokyo ): Novel Roles of Mast Cells in Modulating IgE-Mediated allergic Inflammation . *Int Arch Allergy Immunol* 2001 ; 124 : 166-168 .
- 5) Saigusa H, Niimi Seiji <sup>1)</sup>, Ymashita K<sup>2)</sup>, Gotou T<sup>2)</sup>, Masanobu K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Speech Physiology, Faculty of Medicine, University of Tokyo , <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> First depart-

- ment of Physiology, National Defence Medical Collage ): Morphological and histochemical studies of the genioglossus muscle . *Annals Otolaryngology, Rhinology and Laryngology* 2001 ; 110 ( 8 ): 779-784 .
- 6 ) Watanabe Ken-I, Jinnouchi K, Hess A, Michel O, Yagi T : Detection of apoptotic changes in the lipopolysaccharide ( LPS ) -treated cochlea of guinea pigs . *Hearing Res* 2001 ; 158 ( 1-2 ): 116-122 .
  - 7 ) Watanabe Ken-I, Tomiyama S, Jinnouchi K, Yagi T : Apoptosis in the hydrops cochlea of guinea pigs following immune reaction of the endolymphatic sac : immunohistochemical analysis . *Eur Arch Otorhinolaryngol* 2001 ; 258 ( 6 ): 296-299 .
  - 8 ) Watanabe Ken-I, Tomiyama S, Jinnouchi K, Hess A, Michel O, Yagi T : Expression of inducible nitric oxide synthase ( iNOS/NOS II ) in the hydropic vestibule after injection of keyhole limpet hemocyanin into the endolymphatic sac of guinea pigs . *J Vest Res* 2001 ; 11 ( 2 ): 67-71 .
  - 9 ) Morisita M, Yagi T : The stability of human eye orientation during visual fixation and imagined fixation in three dimensions . *Auris Nasus Larynx* 2001 ; 28 ( 4 ): 301-304 .
  - 10 ) Yagi T, Morisita M, Koizumi Y, Kokawa M, Kamura E, Baba S : Is the pathology of horizontal canal benign paroxysmal positional vertigo really in the horizontal semicircular canal? . *Acta Otolaryngol* 2001 ; 121 ( 8 ): 930-934 .
  - 11 ) Watanabe Ken-I, Tomiyama S, Pawankar R, Jinnouchi K, Yagi T : Expression inducible nitric oxide synthase in the cochlear following immune response in the endolymphatic sac of guinea pig . *ORL* 2001 ; 73 : 164-167 .
  - 12 ) Watanabe Ken-I, Jinnouchi K, Baba S, Yagi T : Induction of apoptotic pathway in the vestibule of Cisplatin ( CDDP ) -treated guinea pigs . *Anticancer Res* 2001 ; 21 : 3929-3932 .
  - 13 ) Fukumoto A<sup>1)</sup>, Nonaka M, Kamio T<sup>1)</sup>, Kamura E<sup>1)</sup>, Ozu C<sup>1)</sup>, Baba S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>同病理部 ): A Case of Ectopic Parathyroid Gland Hyperplasia in the Pyriform Sinus . *Arch Otolaryngol Head Neck Surg* 2002 ; 128 : 71-74 .
  - 14 ) Watanabe Ken-I, Nakajima H, Tomiyama S, Yagi T, Jinnouchi K : Local injection of OK-432 in the treatment of ranula : A case report . *ENT Journal* 2002 ; 81 ( 2 ): 97-98 .
  - 15 ) Pawankar R : Quality of life based assessment of severity of disease in allergic rhinitis . *Ind. J Rhinology* 2002 ; 2 ( 1 ): 5-18 .
  - 16 ) Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Ozu C, Hirai K<sup>1)</sup>, Saito H<sup>2)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup>Dept. of Bioregulation, Tokyo University, <sup>2)</sup>Div of Allergy, National Childrens Hospital Medical Research Centre ): Mast cells in the late phase allergic reaction . *耳鼻免疫アレルギー* 2002 ; 19 ( 2 ): 86-87 .
  - 17 ) 八木聰明 : 赤外線 CCD カメラ . *耳喉頭頸* 2001 ; 73 ( 5 ): 149-154 .
  - 18 ) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 八木聰明 : 気道線維芽細胞の TGF- に対する反応性について ( 第2報 ) . *耳鼻免疫アレルギー* 2001 ; 19 ( 2 ): 88-89 .
  - 19 ) 滝沢竜太, Pawankar R, 山岸茂夫, 八木聰明, 竹中 洋 ( <sup>1)</sup>大阪医大耳鼻咽喉科 ): 鼻粘膜上皮細胞の HLA-DR, CD86 発現に関する DEP の影響 . *耳鼻免疫アレルギー* 2001 ; 19 ( 2 ): 90-91 .
  - 20 ) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聰明 : 突発性難聴新鮮例における耳閉塞感の visual analogue scale ( VAS ) による評価 . *耳喉頭頸* 2001 ; 73 ( 7 ): 429-432 .
  - 21 ) 三枝英人, 小西知子<sup>1)</sup>, 岩本容武<sup>1)</sup>, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室 ): 甲状軟骨形成術が有用であった甲状軟骨形成異常の1例 . *音声言語医学* 2001 ; 42 ( 3 ): 227-234 .
  - 22 ) 大久保公裕 : 高齢者のアレルギー性鼻炎 . *MB ENT* 2001 ; 7 ( 7 ): 24-30 .
  - 23 ) 八木聰明 : 耳鳴・耳閉塞感 . *耳鼻* 2001 ; 47 ( 4 ): 299-302 .
  - 24 ) 三枝英人 : 嚥下障害のリハビリテーション . *耳喉頭頸* 2001 ; 73 ( 10 ): 674-680 .
  - 25 ) 三枝英人, 新美成二<sup>1)</sup>, 三枝歌子<sup>2)</sup>, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学

- 耳鼻咽喉科): 小児の胃食道逆流症 (GERD) に伴う喉頭病変について: 小児におけるプロトンポンプ阻害剤 (PPI) による診断的治療の有用性. 日耳鼻会報 2001; 104: 1025-1033.
- 26) 小坂和己<sup>1)</sup>, 野中 学, 渡辺健一<sup>2)</sup>, 嘉村恵理子<sup>3)</sup>, 青木秀治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>こさか耳鼻咽喉科医院, <sup>2)</sup>第二病院耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科): 経蝶形骨洞型髄膜脳瘤の1例. 耳鼻 2001; 47(6): 461-464.
- 27) 青木秀治, 八木聡明: めまいを伴った突発性難聴患者の頭位眼振所見からみた前庭障害の予後. Equilibrium Res 2001; 60(6): 470-475.
- 28) 藤倉輝道, 秋元利香, 佐地富砂子: 小児スギ花粉症における抗ヒスタミン剤エバスタチンの治療効果. 臨牀と研究 2001; 78: 2275-2278.
- 29) 大久保公裕, 後藤 稔, 八木聡明, 奥田 稔: 花粉症患者に対する電話調査. 耳喉頭頸 2001; 73(12): 856-862.
- 30) 池園哲郎: めまい・難聴遺伝子COCHのプロテオーム解析. Equilibrium Res 2002; 61(1): 47-53.
- 31) 大久保公裕, 後藤 稔, 奥田 稔: スギ花粉防御器具に関するEBM. アレルギー科 2002; 13(2): 126-130.
- 32) 大久保公裕, 後藤 稔, 島田健一, 奥田 稔, 八木聡明, 大力一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>明治乳業ヘルスサイエンス研究所): スギ花粉症に対する舌下抗原特異的免疫療法: パイロットスタディー. 日鼻誌 2002; 41(1): 30-35.
- 33) 藤倉輝道, 秋元利香, 福元明子, 佐地富砂子: 気管支喘息を合併した小児通年性鼻アレルギー患者におけるブランルカストドライシロップの使用経験. 新薬と臨牀 2002; 51: 243-245.
- 34) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 中嶋博史, 矢嶋裕徳: 頭頸部癌患者の死の臨床. 頭頸部腫瘍 2002; 28(1): 160-163.
- 35) 大久保公裕: 副鼻腔嚢胞 (術後性頬部嚢胞) 手術の合併症: その実際と対処法. 耳喉頭頸 2002; 74(5): 87-90.
- 36) 大久保公裕, 後藤治典<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>後藤耳鼻咽喉科医院): 費用便益からみた抗原特異的免疫療法. 現代医療 2002; 34(3): 1233-1239.
- 37) 大久保公裕: 免疫療法の適応と効果. Prog Med 2002; 22(3): 389-393.
- (2) 綜説:
- 1) Pawankar R: Anti-IgE Treatment in Allergic Disease. ACI International 2001; 13(1): 4-10.
- 2) Pawankar R, Wytske F<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Otolaryngology, Erasmus University, Rotterdam): Evidence-based Treatment of Allergic Rhinitis. Current Allergy and Asthma Reports 2001; 1: 218-226.
- 3) Pawankar R: Immunoregulation by epithelial cells in allergic airway disease. Ind J Chest 2001; 44(4): 28-39.
- 4) Bousquet J<sup>1)</sup>, Van Cauwenberge P<sup>2)</sup>, Khaltaev N<sup>3)</sup>, Kemp J<sup>4)</sup>, Baena C<sup>5)</sup>, Pawankar R, Lockey R<sup>6)</sup>, Ait Khalid N<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>INSERM, Montpellier, France, <sup>2)</sup>University of Ghent, Belgium, <sup>3)</sup>World Health Organization, Switzerland, <sup>4)</sup>University of San Diego, USA, <sup>5)</sup>Infantile Hospital, Argentina, <sup>6)</sup>University of Florida, USA, <sup>7)</sup>INSERM, Montpellier, France): Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma (Guideline). J Allergy Clinical Immunol 2001; 108(5): 147-334.
- 5) Pawankar R: Epithelial cells as immunoregulators in allergic airway diseases. Current Opinion in Allergy and Clinical Immunology 2002; 2: 1-5.
- 6) Pawankar R: Understanding the link between rhinitis and asthma: from epidemiology to treatment strategies. Ind J Chest 2002; 45(1): 112-124.
- 7) 大久保公裕: 手術器械 1) マイクロデブリッターとハーモニクスカルペル. 耳喉頭頸 2001; 73(5増刊): 99-106.
- 8) 大久保公裕: スギ花粉症. Medicina 2001; 38(6): 1021-1023.
- 9) 大久保公裕, 後藤 稔: 鼻誘発テスト. 鼻アレルギーフロンティア 2001; 1(3): 36-41.

- 10) Fujikura T : New therapeutic approaches to the treatment of nasal allergy : Antinflammatory effects of H1 receptor antagonists . *Drugs Today* 2001 ; 37 : 455-461 .
- 11) 八木聰明 : 前庭機能異常調査研究班 : メニエール・遅発性内リンパ水腫 : . *医療* 2001 ; 55 ( 8 ) : 396-398 .
- 12) 後藤 穰 : 血管運動性鼻炎 . *鼻アレルギーフロンティア* 2001 ; 1 ( 4 ) : 47-48 .
- 13) 八木聰明 : メニエール病 . *日本臨床* 2002 ; 60 ( 増1 ) : 670-677 .
- 14) 野中 学 : 副鼻腔真菌症 . *鼻アレルギーフロンティア* 2002 ; 1 ( 2 ) : 47-49 .
- 15) 大久保公裕 : 花粉症の免疫療法 . *JOHNS* 2002 ; 18 ( 1 ) : 95-98 .
- 16) 後藤 穰 : スギ花粉症のステロイド治療 . *Modern Physician* 2002 ; 22 ( 2 ) : 201-205 .
- 17) 後藤 穰 , 奥田 稔 : 各種環境下の浮遊花粉と落下花粉 . *医のあゆみ* 2002 ; 200 ( 5 ) : 375-378 .
- 18) 後藤 穰 , 大久保公裕 , 奥田 稔 : 花粉症治療の問題点「花粉防御 ( 浮遊花粉と鼻内花粉 )」 . *MEDICO* 2002 ; 33 ( 2 ) : 49-51 .
- 19) Pawankar R : 欧米のガイドラインからみたアレルギー性鼻炎の治療 . *Pharma Medica* 2002 ; 20 ( 1 ) : 31-44 .
- 20) 大久保公裕 : スギ花粉症の治療 総論 . *Modern Physician* 2002 ; 22 ( 2 ) : 197-200 .
- 21) 大久保公裕 , 後藤 穰 : 抗原特異的免疫療法 ( 減感作療法 ) : 最新の方法 . *今月の治療* 2002 ; 10 ( 2 ) : 166-172 .
- 22) 後藤 穰 , 大久保公裕 : 季節性アレルギー性鼻炎とその治療 . *アレルギーの臨床* 2002 ; 22 ( 3 ) : 178-183 .
- 23) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎におけるインフォームドコンセントの実際 . *現代医療* 2002 ; 34 ( 増II ) : 21-26 .
- 24) 大久保公裕 : 春以外にもある花粉症 : Pollinosis . *Mebio* 2002 ; 19 ( 4 ) : 110-115 .
- 25) 大久保公裕 : 免疫療法 . *Modern Physician* 2002 ; 22 ( 4 ) : 443-446 .
- 26) 大久保公裕 : スギ花粉症の免疫療法 : 抗原特異的免疫療法の効果と副作用 . *医のあゆみ* 2002 ; 200 ( 5 ) : 437-441 .
- 27) 後藤 穰 , 大久保公裕 , 中村 伸<sup>1)</sup> , 山地健人<sup>1)</sup> , 常松雅子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 京都大学霊長類研究所 ) : ペプチド療法の現状 . *日鼻誌* 2002 ; 41 ( 1 ) : 94-96 .

### (3) 研究報告書 :

- 1) 八木聰明 , 池園哲郎 , 新藤 晋 , 李 麗淑 , 斉藤明彦 , Pawankar Ruby , 大久保公裕 , 大森 彬<sup>1)</sup> , 渡辺 淳<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学生命科学研究所 , <sup>2)</sup> 日本医科大学学生化第2 ) : 内耳プロテオーム解析 : 今後の展望 . *厚生労働省特定疾患対策研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成13年度報告書* 2002 ; pp39-42 .
- 2) 八木聰明 , 池園哲郎 , 新藤 晋 , 李 麗淑 , Pawankar Ruby , 石崎正通<sup>1)</sup> , 渡辺 淳<sup>2)</sup> , 水田邦博<sup>3)</sup> , 小林俊光<sup>4)</sup> , ラスクアンダーセンヘルゲ<sup>5)</sup> , 工田昌也<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理第1 , <sup>2)</sup> 同生化第2 , <sup>3)</sup> 浜松医科大学耳鼻科 , <sup>4)</sup> 東北大学耳鼻咽喉科 , <sup>5)</sup> ウプサラ大学 ( スウェーデン ) , <sup>6)</sup> 広島大学耳鼻科 ) : COCH遺伝子発現の異質性とプロモーター解析の有用性 . *厚生労働省特定疾患対策研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成13年度報告書* 2002 ; pp43-49 .

### 著 書

- 1) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Yagi T : [ 分担 ] Mast Cells in Rhinitis . *Histamine Research in the New Millennium* ( T. Watanabe , H. Timmerman & K. Yanai ) , 2001 ; pp369-374 , Elsevier Science .
- 2) Pawankar R : [ 分担 ] Allergic rhinitis and its link to asthma . *An Update on Allergy Airway diseases* ( Shah A & Vijayan D ) , 2002 ; pp112-124 , Mrittika International .
- 3) Pawankar R : [ 分担 ] Inflammatory cells in allergic airway disease . *An Update on Airway diseases : fundamentals to clinical aspects* ( Singh AB & Shah A ) , 2002 ; pp64-72 , Vashist Publications .
- 4) Pawankar R : [ 分担 ] Patient education in allergic rhinitis and asthma . *Allergic diseases : A tropical View* ( Sheikh W ) , 2002 ; pp24-32 , International Medical Press .
- 5) Pawankar R : [ 分担 ] Assessment of Quality of life ( QOL ) an important parameter for allergic rhinitis and

- asthma . Allergic diseases : A tropical View ( Sheikh W ), 2002 ; pp106-118 , International Medical Press .
- 6) Pawankar R : [ 分担 ] Allergic rhinitis : From epidemiology to the ARIA-WHO Initiative . Weekend of the Nose ( P. Karnik & P. Anand ), 2002 ; pp81-98 , Mrittika International .
- 7) Pawankar R : [ 分担 ] Anatomy and physiology of the nose and paranasal sinuses : Its clinical implications . Weekend of the Nose ( P. Karnik & P. Anand ), 2002 ; pp5-24 , Mrittika International .
- 8) Pawankar R : [ 分担 ] Future directions for treatment of allergic rhinitis . Weekend of the Nose ( P. Karnik & P. Anand ), 2002 ; pp112-124 , Mrittika International .
- 9) 八木聰明 : [ 分担 ] メニエール病 , 遅発性内リンパ水腫 . 難病の診断と治療方針 ( 疾病対策研究会 ), 2001 ; pp356-370 , 六法出版社 .
- 10) 池園哲郎 , 八木聰明 : [ 分担 ] 抗めまい薬 . 21世紀耳鼻咽喉科 20巻 薬物療法 ( 中井義明 ), 2001 ; pp118-122 , 中山書店 .
- 11) Pawankar R : [ 分担 ] FcepsilonR . アトピー疾患用語ハンドブック ( 宮地良樹 , 岡本美孝 , 高村悦子 ), 2001 ; p179 , メディカルレビュー社 .
- 12) 八木聰明 : [ 共著 ] 基礎 . めまいQ & A ( 八木聰明 ), 2001 ; pp10-21 , 医薬ジャーナル .
- 13) 八木聰明 : [ 分担 ] メニエール病は自己免疫疾患か . 耳鼻咽喉科 / 頭頸部外科クリニカルトレンド ( 野村恭也 , 本庄巖 , 平出文久 ), 2001 ; pp138-139 , 中山書店 .
- 14) 池園哲郎 : [ 共著 ] メニエール病は自己免疫疾患か . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 クリニカルトレンド , 2001 ; pp138-139 , 中山書店 .
- 15) 後藤 穰 , 大久保公裕 : [ 分担 ] アレルギー疾患 アレルギー性鼻炎 . 病気と薬の説明ガイド 2002 ( 内山充 ), 2002 ; pp331-338 , 南山堂 .
- 16) 大久保公裕 : [ 分担 ] Q36 血管収縮薬はどう使うのですか . アレルギー診療のちょっとしたコツ ( 中川武正 ), 2002 ; pp100-102 , 日本医学出版 .
- 17) 大久保公裕 : [ 分担 ] Q37 減感作 ( 免疫 ) 療法の位置づけについて教えてください . アレルギー診療のちょっとしたコツ ( 中川武正 ), 2002 ; pp103-105 , 日本医学出版 .
- 18) 大久保公裕 : [ 分担 ] Q38 手術はどのときに考えるのですか . アレルギー診療のちょっとしたコツ ( 中川武正 ), 2002 ; pp106-108 , 日本医学出版 .
- 19) 八木聰明 : [ 分担 ] 薬物による内耳障害 , メニエール病 , 良性発作性頭位めまい症 , 前庭神経炎 , 内耳奇形 . 看護のための最新医学講座 耳鼻咽喉科疾患 ( 喜多村健 ), 2002 ; pp118-129 , 中山書店 .
- 20) 大久保公裕 : [ 分担 ] I. アレルギー性鼻炎 4. 検査 , 診断法 . アレルギー性鼻炎 , アレルギー性結膜疾患の診断とマネジメント ( 馬場廣太郎 ), 2002 ; pp32-40 , 医薬ジャーナル .
- 21) 大久保公裕 : [ 分担 ] 花粉症 . 2002年今日の治療指針 ( 多賀須幸男 ), 2002 ; pp503-504 , 医学書院 .
- 22) 大久保公裕 : [ 分担 ] 3. 抗アレルギー薬 a. 花粉症 . これだけは知っておきたい抗アレルギー薬の知識 ( 中川武正 ), 2002 ; pp19-22 , 医薬ジャーナル .
- 23) 大久保公裕 : [ 分担 ] アレルギー性鼻炎 . 小児耳鼻咽喉科疾患 ( 耳鼻咽喉科 , 頭頸部外科 : 処置手術シリーズ No2 ) ( 高橋 姿 ), 2002 ; pp90-94 , メディカルレビュー .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) Pawankar R : Allergic rhinitis : From epidemiology to the new evidence based treatment strategy ARIA . Xth Annual Congress of Thai Society of Allergy & Immunology ( Bangkok, Thailand ), 2001 . 5 .
- 2) Pawankar R : Nasal polyps : An update . Chiangmai University Medical School Special Lecture ( Chiangmai, Thailand ), 2001 . 5 .

- 3 ) Pawankar R : Evidence based treatment of allergic rhinitis . Chiangmai University Medical School Special Lecture ( Chiangmai, Thailand ), 2001 . 5 .
- 4 ) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma : The WHO Initiative on Rhinitis . Xth Annual Congress of the Turkish Rhinology Society ( Ankara, Turkey ), 2001 . 5 .
- 5 ) Pawankar R : Novel concepts on the pathogenesis of nasal polyps . Xth Annual Congress of the Turkish Rhinology Society ( Ankara, Turkey ), 2001 . 5 .
- 6 ) Pawankar R : The link between rhinitis and asthma : epidemiology to treatment outcomes . 5th International Symposium on Allergy ( Cordoba, Argentina ), 2001 . 8 .
- 7 ) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis : asthma, sinusitis to otitis media . 5th International Symposium on Allergy ( Cordoba, Argentina ), 2001 . 8 .
- 8 ) Pawankar R : Novel Roles of antihistamines in allergic rhinitis . Special Lecture Brazilian Society of Allergy, Asthma and Immunology Sao Paulo Chapter ( San Paulo ), 2001 . 8 .
- 9 ) Pawankar R : WHO Initiative -Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma : An evidence based therapeutic strategy . 2nd RESPINA International ( Jakarta, Indonesia ), 2001 . 9 .
- 10 ) Pawankar R : Future therapies for allergic diseases : Anti-IgE to DNA vaccines . 2nd RESPINA International , 2001 . 9 .
- 11 ) Pawankar R : The link between rhinitis and asthma : The ARIA guidelines . 13th International Congress of the Pediatrics ( Beijing, China ), 2001 . 9 .
- 12 ) Pawankar R : Global Recommendations in Allergy ( GLORIA ) . Annual Congress of the Allergy Society of South Africa ( Durban, South Africa ), 2001 . 10 .
- 13 ) Pawankar R : ARIA : WHO Initiative on Rhinitis . Annual Congress of the Allergy Society of South Africa ( Durban, South Africa ), 2001 . 10 .
- 14 ) Pawankar R : Global Recommendations in Allergy ( GLORIA ) . Satellite Symposium of the Allergy Society of South Africa ( Capetown, South Africa ), 2001 . 10 .
- 15 ) Pawankar R : ARIA : WHO Initiative on Rhinitis . 52nd Annual Congress of the Indian College of Allergy & Immunology ( Trivandrum, India ), 2001 . 10 .
- 16 ) Pawankar R : Global recommendations in Allergy . 52nd Annual Congress of the Indian College of Allergy & Immunology ( Trivandrum, India ), 2001 . 10 .
- 17 ) Pawankar R : Update on Allergic Rhinitis . Special Lecture Trivandrum University Lecture Series ( Trivandrum, India ), 2001 . 10 .
- 18 ) Pawankar R : ARIA-WHO Initiative . Joint Seminar of the Ministry of Health & Welfare and the Chest Society of Bangladesh ( Dhaka, Bangladesh ), 2001 . 10 .
- 19 ) Pawankar R : Allergic rhinitis and its link to Asthma : what do we know today and its therapeutic implications . Seminar of Chittagong University ( Chittagong, Bangladesh ), 2001 . 10 .
- 20 ) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma . Annual Congress of the Taiwan Society of Otolaryngologists ( Taipei, Taiwan ), 2001 . 11 .
- 21 ) Pawankar R : Novel concepts on pathogenesis of nasal Polyps . Annual Congress of the Taiwan Society of Otolaryngologists ( Taipei, Taiwan ), 2001 . 11 .
- 22 ) Pawankar R : Present and future therapies for allergic rhinitis . 2nd International Rhinology Workshop ( Bangkok, Thailand ), 2001 . 11 .
- 23 ) Pawankar R : Novel concepts on the pathogenesis of allergic rhinitis and its link to asthma . 2nd International Rhinology Workshop ( Bangkok, Thailand ), 2001 . 11 .



- 24) Pawankar R : Present and future therapies for allergic rhinitis . 3rd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2002 . 1 .
  - 25) Pawankar R : Emerging therapeutic strategies : Can treatment of allergic rhinitis prevent asthma . 3rd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2002 . 1 .
  - 26) Pawankar R : ARIA-WHO Initiative : Evidence based guidelines for allergic rhinitis . 54th Annual Congress of Association of Otolaryngologists of India ( Bangalore, India ), 2002 . 1 .
  - 27) Pawankar R : Future therapies for allergic disease . 54th Annual Congress of Association of Otolaryngologists of India ( Bangalore, India ), 2002 . 1 .
  - 28) Pawankar R : The link between rhinitis and asthma to the ARIA WHO Guidelines on Rhinitis . Joint Seminar of the Indian College of Allergy & Immunology & Indian Academy of Allergy ( Bangalore, India ), 2002 . 1 .
  - 29) Pawankar R : The ARIA WHO Guidelines on Rhinitis . Joint Seminar of the Rhinology Society & Indian College of Allergy & Immunology ( New Delhi, India ), 2002 . 1 .
  - 30) Pawankar R : Can treating rhinitis prevent asthma : therapeutic strategies that target both . Indian Academy of Allergy & Maharashtra chapter of Chest Physicians ( Bombay, India ), 2002 . 1 .
  - 31) Pawankar R : Allergic rhinitis and its impact on asthma . Annual Seminar Association of Chest Physicians of Karnataka ( Hyderabad, India ), 2002 . 1 .
  - 32) Pawankar R : Pathophysiology & management of allergic rhinitis and its co-morbidities . Association of ENT Surgeons of Gujarat ( Baroda, India ), 2002 . 1 .
  - 33) Pawankar R : The new ARIA concept on the classification and management of allergic rhinitis . Satellite Symposium of Annual Congress of the Association of Physicians of India ( Chennai, India ), 2002 . 1 .
  - 34) Pawankar R : ARIA-WHO Initiative on Rhinitis . 7th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bali, Indonesia ), 2002 . 2 .
  - 35) Pawankar R : Gamma delta T cells in Allergic Airway disease . 20th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose ( Yaroslavl, Russia ), 2001 . 6 .
  - 36) Pawankar R : ARIA-WHO Initiative on Allergic Rhinitis . 3rd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2002 . 1 .
  - 37) Pawankar R : Revisiting mast cells in allergic rhinitis . National Children's Hospital Special Lecture , 2001 . 4 .
  - 38) 八木聰明 : めまいと眼球運動 . 日本耳鼻咽喉科学会大分県地方部会 , 2001 . 7 .
  - 39) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma . 第5回 ARIS ( Allergy and Recurrent Infection Symposium ) 研究会 , 2001 . 8 .
  - 40) 大久保公裕 : アレルギー免疫療法の歴史と展望 . 第47回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会 , 2001 . 9 .
  - 41) 八木聰明 : 日常診療におけるめまいの取り扱い . 第53回奈良県耳鼻咽喉科研修会 , 2001 . 10 .
  - 42) 八木聰明 : めまいと眼振解析 . 平成13年度菊友会 , 2001 . 11 .
  - 43) 八木聰明 : めまいと眼球運動解析 . 宮城県耳鼻咽喉科医会 , 2001 . 12 .
  - 44) 八木聰明 : 耳鼻咽喉科日常診療におけるめまい . 日本耳鼻咽喉科学会岩手県地方部会第117回例会 , 2002 . 1 .
- (2) 招待講演 :
- 1) 三枝英人 : 喉頭挙上に左右差があることに起因する嚥下障害とその対応 . 第12回日本気管食道科学会認定医大会 , 2002 . 2 .
  - 2) 池園哲郎 : めまいの病態と治療 . 清晴会学術講演会 , 2001 . 2 .
  - 3) 大久保公裕 : 鼻アレルギーとタキキニン . 鼻アレルギーフォーラム , 2001 . 7 .
  - 4) 大久保公裕 : 鼻アレルギーの治療 ( 減感作療法を中心に ) . 鹿児島耳鼻咽喉科学術講演会 , 2001 . 8 .
  - 5) 三枝英人 : 嚥下障害のリハビリテーション . 下谷医師会 , 2001 . 10 .

- 6) 池園哲郎：補聴器と人工内耳．台東区耳鼻咽喉科学術講演会，2001．10．
  - 7) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎治療（減感作治療を中心に）．日耳鼻山梨県地方部会研修会，2001．10．
  - 8) 野中 学：慢性副鼻腔炎における線維芽細胞の役割．東京都中央区医師会，2001．11．
  - 9) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のQOLについて．静岡県耳鼻咽喉科医会講演会，2001．11．
  - 10) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の診断と治療．大阪府耳鼻咽喉科医会講演会，2001．12．
  - 11) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のQOLについて．横浜耳鼻咽喉科アレルギーカンファレンス，2002．1．
  - 12) 大久保公裕：花粉症治療の患者満足度．東京都耳鼻咽喉科医会講演会，2002．1．
  - 13) 後藤 穰：花粉症の対策と治療．落合医師会，2002．2．
  - 14) 後藤 穰：スギ花粉症の対策と治療．文京区耳鼻咽喉科医会，2002．2．
  - 15) 藤倉輝道：鼻アレルギーにおける抗ヒスタミン剤の使用意義．第18回千葉県耳鼻咽喉科免疫アレルギー研究会，2002．2．
  - 16) 藤倉輝道：スギ花粉症の治療．鎌ヶ谷市医師会学術講演会，2002．2．
  - 17) 池園哲郎：良性発作性頭めまい症の病態．台東区耳鼻咽喉科学術講演会，2002．2．
  - 18) 大久保公裕：ここまできた経口減感作療法．宮城県耳鼻咽喉科花粉症研究会，2002．2．
  - 19) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の診断と治療．日耳鼻熊本県地方部会学術講演会，2002．2．
  - 20) 大久保公裕：スギ花粉症の治療（特に減感作療法を中心に）．第9回武蔵野鼻アレルギー懇話会，2002．2．
  - 21) 大久保公裕：スギ花粉症の治療．日耳鼻広島県地方部会研修会，2002．2．
  - 22) 藤倉輝道：スギ花粉症治療の実際．習志野市医師会学術講演会，2002．3．
  - 23) 池園哲郎：良性発作性頭めまい症の治療法．北多摩耳鼻咽喉科学術講演会，2002．3．
  - 24) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎とその治療．佐賀県耳鼻咽喉科免疫アレルギー講演会，2002．3．
  - 25) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の治療について．第12回城東アレルギー呼吸器疾患懇話会，2002．3．
- (3) 教育講演：
- 1) Pawankar R, Yamagishi S, Nonaka M, Ozu C, Yagi T : Recurrent nasal polyps : Factors that may predict . 54th Annual Congress of Association of Otolaryngologists of India ( Bangalore, India ), 2002 . 1 .
  - 2) 大久保公裕：花粉症診療の実際．日本アレルギー協会2001アレルギー研修会，2001．4．
  - 3) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎は喘息の危険因子となりうるか：耳鼻咽喉科の立場から．第13回日本アレルギー学会春季臨床大会，2001．5．
  - 4) 大久保公裕：スギ花粉症の減感作療法．平成13年度長崎県アレルギー講習会，2002．2．
- (4) シンポジウム：
- 1) Pawankar R : Update on Allergic Rhinitis : From epidemiology, pathogenesis to treatment strategies . 9th ASEAN ORL ( Singapore ), 2001 . 4 .
  - 2) Pawankar R : Role of Gamma Delta T cells in Allergic Rhinitis . XXth Congress of European Academy of Allergy and Clinical Immunology ( Berlin, Germany ), 2001 . 5 .
  - 3) Pawankar R : WHO Guidelines : Allergic Rhinitis and its Impact on asthma ( ARIA ) . 20th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose ( Yaroslavl, Russia ), 2001 . 6 .
  - 4) Pawankar R : Update on the pathogenesis of allergic rhinitis, its link to asthma : Similarities and differences . 20th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose ( Yaroslavl, Russia ), 2001 . 6 .
  - 5) Pawankar R : Novel concepts on the pathogenesis of nasal polyps . 20th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose ( Yaroslavl, Russia ), 2001 . 6 .
  - 6) Pawankar R : Epithelial cells as immunomodulators in allergic airway disease . 18th Annual Congress of the Argentinian Society of Allergy Asthma & Immunology ( Buenos Aires, Argentina ), 2001 . 8 .
  - 7) Pawankar R : Novel roles of antihistamines in allergic rhinitis . 18th Annual Congress of the Argentinian So-

- ciety of Allergy Asthma & Immunology ( Buenos Aires, Argentina ), 2001 . 8 .
- 8 ) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis . 18th Annual Congress of the Argentinian Society of Allergy Asthma & Immunology ( Buenos Aires, Argentina ), 2001 . 8 .
  - 9 ) Pawankar R : Mast cell-epithelial cell interactions in allergic airway disease . 18th Annual Congress of the Argentinian Society of Allergy Asthma & Immunology ( Buenos Aires, Argentina ), 2001 . 8 .
  - 10 ) Pawankar R : Evaluation of nasal inflammatory response in allergic rhinitis . 18th Annual Congress of the Argentinian Society of Allergy Asthma & Immunology ( Buenos Aires, Argentina ), 2001 . 8 .
  - 11 ) Pawankar R : Epidemiology of allergic rhinitis in Asia . 2nd RESPINA International ( Jakarta, Indonesia ), 2001 . 9 .
  - 12 ) Pawankar R, Yamagishi S, Nonaka M, Yagi T : Recurrent Nasal polyps : pathogenesis to medical management . International Symposium on Long Term Low Dose Macrolide Therapy in Chronic Sinusitis , 2001 . 11 .
  - 13 ) Pawankar R, Yamagishi S, Ozu C, Nonaka M, Watanabe S, Yagi T : Measurement of nasal inflammatory response . International Rhinology Workshop ( Seoul, Korea ), 2001 . 11 .
  - 14 ) Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Ozu C, Nonaka M, Yagi T : Inflammatory mediators in allergic airway disease . 3rd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2002 . 1 .
  - 15 ) Pawankar R, Yamagishi S, Nonaka M, Ozu C, Yagi T : Nasal polyps : novel concepts . 3rd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2002 . 1 .
  - 16 ) Pawankar R, Yamagishi S, Nonaka M, Yagi T : Nasal polyps : Pathogenesis to Medical management . 7th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bali, Indonesia ), 2002 . 2 .
  - 17 ) Pawankar R : Anti-IgE therapy in allergic airway disease . 7th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bali, Indonesia ), 2002 . 2 .
  - 18 ) Pawankar R : Inflammatory cells in allergic rhinitis . 7th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bali, Indonesia ), 2002 . 2 .
  - 19 ) Pawankar R : New classification of Allergic Rhinitis . 7th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bali, Indonesia ), 2002 . 2 .
  - 20 ) Pawankar R : Evaluation of nasal inflammatory response . Satellite symposium of the 7th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bali, Indonesia ), 2002 . 2 .
  - 21 ) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma . Satellite symposium of the 7th Asian Research Symposium in Rhinology ( Bali, Indonesia ), 2002 . 2 .
  - 22 ) Pawankar R : Mast cell migration in allergic rhinitis . 58th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma & Immunology ( AAAAI )( New York, USA ), 2002 . 3 .
  - 23 ) Pawankar R, Yamagishi S, Nonaka M, Ozu C, Watanabe S, Yagi T : Allergic Rhinitis : An Overview of present to novel therapies . 第20回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2002 . 3 .
  - 24 ) Pawankar R : Mechanisms of mast cell migration into the allergic nasal epithelium . 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2001 . 3 .
  - 25 ) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its impact on Asthma : the ARIA ( An international guideline for allergic rhinitis, in collaboration with WHO ). 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2001 . 3 .
  - 26 ) 大久保公裕 : スギ花粉症の減感作療法 ( 花粉症治療の現状と展望 ). 第13回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2001 . 5 .
  - 27 ) 三枝英人 : 嚥下障害と耳鼻咽喉科 : 嚥下障害のリハビリテーションと実際 . 第144回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 2001 . 6 .

- 28) 後藤 穰: 鼻アレルギーに対する免疫療法の将来 「ペプチド免疫療法の現状」. 第40回日本鼻科学会, 2001 . 9 .
- 29) 大久保公裕: 鼻アレルギーに対する舌下抗原特異的免疫療法 (鼻アレルギーに対する免疫療法の将来展望). 第40回日本鼻科学会, 2001 . 9 .
- 30) Pawankar R, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Takizawa R, Nonaka M, Ozu C<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 谷津保健病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院耳鼻咽喉科 ): Mast cells in allergic rhinitis : From fundamental aspects to clinical relevance . 第51回日本アレルギー学会総会, 2001 . 10 .
- 31) 池園哲郎: 「めまい・難聴遺伝子COCH」のプロテオーム解析 (めまい平衡医学と分子生物学). 第59回日本平衡神経科学会総会, 2001 . 11 .
- 32) 後藤 穰, 大久保公裕, 奥田 稔: ハウスダストダニ通年性鼻アレルギーにおける連続誘発試験 . 第14回気道病態シンポジウム, 2002 . 2 .
- 33) 後藤 穰: アレルギー性鼻炎, 花粉症の病態と治療 最近の進歩 「免疫療法: 病態と治療」. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002 . 3 .
- 34) 足立 満, Pawankar R ( <sup>1)</sup> 昭和大学第一内科 ): 上気道と下気道の関連性 - One Airway One Disease . 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002 . 3 .
- 35) 大久保公裕, 奥田 稔, 今野昭義<sup>1)</sup>, 馬場廣太郎<sup>2)</sup>, 岡本美孝<sup>3)</sup>, 荻野 敏<sup>4)</sup>, 石川 喙<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉大耳鼻科, <sup>2)</sup> 獨協医大耳鼻科, <sup>3)</sup> 山梨医大耳鼻科, <sup>4)</sup> 大阪大保健学科, <sup>5)</sup> 熊本大 ): アレルギー性鼻炎のQOL (アレルギー疾患のQOL). 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002 . 3 .
- (5) パネルディスカッション:
- 1) Pawankar R : Persistent versus Intermittant Rhinitis : New classification of Allergic Rhinitis . 9th ASEAN ORL ( Singapore ), 2001 . 4 .
- 2) 後藤 穰, 大久保公裕: 花粉症の基礎と臨床の最前線 「花粉症の免疫療法」. 耳鼻咽喉科学会東京都地方部会教育パネルシリーズ17, 2002 . 2 .
- (6) セミナー:
- 1) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎, 花粉症 . 福島県保険福祉部医療相談員研修会, 2002 . 2 .
- (7) ワークショップ:
- 1) Pawankar R : Immunology of allergic airway disease . 3rd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology ( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2002 . 1 .
- 2) Pawankar R : Nasal Challenge with allergens, mediators and irritants . 58th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma & Immunology ( AAAAI )( New York, USA ), 2002 . 3 .
- 3) 井出 武<sup>1)</sup>, 大久保公裕, 榎本雅夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 奈良医大化学, <sup>2)</sup> 和歌山日赤耳鼻科 ): スギ花粉症のマスクの有効性 (アレルギー疾患における抗原回避, 除去の対策と有効性の検証) . 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002 . 3 .
- 4) 後藤 穰, 大久保公裕, 奥田 稔: 減感作療法: 効果と作用機序と将来展望 「スギ花粉症の減感作療法の問題点」. 第13回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2002 . 5 .
- (8) 一般講演:
- 1) Nonaka M, Pawankar R, Fukumoto A, Yagi T : TGF- Heterogeneously Induced Synthesis of Procollagen Type I in Human Lung, but not Nasal Fibroblasts . 20th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose ( Yaroslavl, Russia ), 2001 . 6 .
- 2) Ikezono T, Omori A<sup>1)</sup>, Ichinose S<sup>1)</sup>, Shindo S, Pawankar R, Watanabe A<sup>2)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Kasei Inst. of Life Sciences, <sup>2)</sup> Dept. of Molecular Biology, Nippon Medical School ): Proteomic analysis of the inner ear identified the COCH protein as the major component of inner ear protein . Molecular Biology of Hearing and Deafness ( Bethesda MD USA ), 2001 . 10 .

- 3) Nonaka M, Pawankar R, Fukumoto A, Yagi T : Interleukin-4 and Lipopolysaccharide Synergize to Induce Eotaxin in Human Fibroblasts . 58th American Academy of Allergy, Asthma and Immunology ( New York, USA ), 2002 . 3 .
- 4) Niimi Y<sup>1)</sup>, Pawankar R, Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科): Expression of Matrix Metalloproteinase ( MMP ) -2, MMP-9 and MMP-13 in Lesional Skin of Bullous Pemphigoid . 58th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma & Immunology ( AAAAI )( New York, USA ), 2002 . 3 .
- 5) Kato Y, Pawankar R, Kimura Y, Kawana S : Increased expression of RANTES, CCR3 and CCR5 in the lesional skin of atopic dermatitis and its relation to tissue eosinophilia and severity of disease . 58th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma & Immunology ( AAAAI )( New York, USA ), 2002 . 3 .
- 6) 中溝宗永, Pawankar R, 横島一彦, 八木聡明: 唾液腺腫瘍におけるトリプターゼと VEGF の発現 . 第 102 回日本耳鼻咽喉科学会, 2001 . 5 .
- 7) 三枝英人, 八木聡明, 新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 延髄病変に起因する嚥下障害に対する呼吸位相設定による嚥下のリハビリテーション . 第 10 回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 2001 . 4 .
- 8) 大久保公裕, 後藤 穰, 島田健一, 奥田 稔, 八木聡明: 標準化スギ抗原での抗原特異的免疫療法の効果 . 第 102 回日本耳鼻咽喉科学会, 2001 . 4 .
- 9) 三枝英人, 山下和雄<sup>1)</sup>, 後藤 忠<sup>1)</sup>, 新美成二<sup>2)</sup>, 八木聡明 (<sup>1)</sup>日本医科大学解剖第一, <sup>2)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): ヒト内舌筋の組織解剖学的研究 . 第 102 回日本耳鼻咽喉科学会, 2001 . 5 .
- 10) 池園哲郎, 大森 彬<sup>1)</sup>, 新藤 晋, 石崎正通<sup>2)</sup>, Pawankar R, 八木聡明: 遺伝性難聴 DFNA9 病因遺伝子 COCH の heterogeniety . 第 102 回 日本耳鼻咽喉科学会総会, 2001 . 5 .
- 11) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 中嶋博史, 矢嶋裕徳, 八木聡明: 頭頸部癌手術後のせん妄が遷延した症例の検討 . 第 102 回日本耳鼻咽喉科学会, 2001 . 5 .
- 12) 常松雅子<sup>1)</sup>, 大久保公裕, 後藤 穰, 中村 伸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都大学霊長類研究所): サルのスギ花粉症モデルにおけるヒト T 細胞多重エピトープペプチドの作用 . 第 13 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2001 . 5 .
- 13) 大久保公裕, 後藤 穰, 滝沢竜太, 野中 学, 八木聡明, 奥田 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>臨床アレルギー - 研究所): 標準アレルギーエキスによるスギ花粉症治療の抗原特異的免疫療法 . 第 47 回臨床アレルギー - 研究会, 2001 . 6 .
- 14) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 中嶋博史, 矢嶋裕徳: 頭頸部癌患者の死の臨床 . 第 25 回日本頭頸部腫瘍学会, 2001 . 6 .
- 15) 大久保公裕, 後藤 穰, 滝沢竜太, 野中 学, 八木聡明, 奥田 稔: 標準化スギ花粉抗原エキスによるスギ花粉症の抗原特異的免疫療法 . 第 47 回臨床アレルギー研究会, 2001 . 6 .
- 16) 愛野威一郎, 三枝英人, 中村 毅, 八木聡明: 一側反回神経麻痺術後に乾性咳嗽を発症した症例とその検討 . 第 3 回咳嗽研究会, 2001 . 9 .
- 17) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃<sup>1)</sup>, 八木聡明 (<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科): 鼻茸由来線維芽細胞からの eotaxin 産生 - LPS と IL-4 の相乗効果について - . 第 40 回日本鼻科学会総会, 2001 . 9 .
- 18) 木村陽一<sup>1)</sup>, Pawankar R, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): 木村病変部浸潤細胞の IL-4, IL-5 および RANTES, Eotaxin の発現 . 第 26 回年次学術大会・総会, 2001 . 9 .
- 19) 中溝宗永, 横島一彦: 頭頸部再建における遊離皮弁移植の成績 . 第 59 回日本医科大学付属四病院耳鼻咽喉科集談会, 2001 . 9 .
- 20) 後藤 穰, 大久保公裕, 奥田 稔: 花粉防御メガネやマスクによる花粉回避の有用性 . 第 51 回日本アレルギー学会, 2001 . 10 .
- 21) 野中 学, 福元 晃<sup>1)</sup>, 小津千佳<sup>1)</sup>, 嘉村恵理子<sup>1)</sup>, 神尾友信<sup>1)</sup>, 馬場俊吉<sup>1)</sup>, 八木聡明 (<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科): 好酸球性中耳炎における好酸球浸潤の機序についての検討 . 第 11 回日本耳科学会総会, 2001 . 10 .
- 22) 井出 武<sup>1)</sup>, 芦田恒夫<sup>2)</sup>, 吉村史郎<sup>2)</sup>, 大久保公裕 (<sup>1)</sup>奈良医大化学, <sup>2)</sup>芦田耳鼻咽喉科): 市販マスクの花

- 防除効果について．第51回日本アレルギー学会総会，2001．10．
- 23) 三枝英人，粉川隆行，愛野威一郎，中溝宗永，八木聰明，新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 神経因性嚥下障害に対する“頬杖位”の有用性．第53回日本気管食道科学会，2001．11．
- 24) 酒主敦子，三枝英人，中溝宗永，八木聰明，牛島申太郎<sup>1)</sup>，古川奎一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小林耳鼻咽喉科医院，<sup>2)</sup>古川商店): 側臥位を保持するための枕等寝具についての研究．第53回日本気管食道科学会，2001．11．
- 25) 三枝英人，八木聰明，山下和雄<sup>1)</sup>，田沼久美子<sup>2)</sup>，新美成二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖第一，<sup>2)</sup>同解剖第二，<sup>3)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): ヒト成人における上縦舌筋，下縦舌筋の組織解剖学的研究．第46回日本音声言語医学会，2001．11．
- 26) 新藤 晋，池園哲郎，石崎正道<sup>1)</sup>，李 麗淑，八木聰明(<sup>1)</sup>病理第一): 発生過程におけるCOCH遺伝子発現の検討．第60回日本めまい平衡医学会総会，2001．11．
- 27) 小泉康雄，木村まき，空野恵理子，八木聰明: 振子様OVARと振子様EVARの眼球運動三次元解析．第60回日本めまい平衡医学会，2001．12．
- 28) 池園哲郎，新藤 晋，大森 彬<sup>1)</sup>，石崎正通<sup>2)</sup>，渡辺 淳<sup>3)</sup>，李 麗淑，八木聰明(<sup>1)</sup>三菱化学生命科学研究所，<sup>2)</sup>日本医科大学病理第1，<sup>3)</sup>同生化第2): 内耳蛋白のプロテオーム解析: 遺伝性難聴DFNA9病因遺伝子COCHのheterogeniety．第24回日本分子生物学会年会，2001．12．
- 29) 増野 聡，小泉康雄，池園哲郎，野中 学，八木聰明: 先天性中耳奇形の認められた三姉妹．第148回東京都地方部会，2002．1．
- 30) 横島一彦，中溝宗永，粉川隆行，矢嶋裕徳，中嶋博史，粉川美生: 頭頸部癌手術後せん妄の発症要因．第12回日本頭頸部外科学会，2002．1．
- 31) 福元明子，藤倉輝道，山岸茂夫，馬場俊吉，山岸文雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所千葉東): 原発性鼻腔結核の1症例．第60回日耳鼻千葉県地方部会，2002．2．
- 32) 中村 毅，三枝英人，粉川隆行，愛野威一郎，八木聰明: ビデオX線透視による披裂軟骨脱臼の診断．第14回日本喉頭科学会，2002．3．
- 33) 愛野威一郎，三枝英人，粉川隆行，中村 毅，八木聰明: 一側反回神経麻痺に対する機能改善術後に生じた高度な乾性咳嗽．第14回日本喉頭科学会，2002．3．
- 34) 三枝英人，粉川隆行，愛野威一郎，中村 毅，八木聰明，新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 芍薬甘草湯が極めて有効であった内転型痙攣性発声障害の2例．第14回日本喉頭科学会，2002．3．
- 35) 野中 学，Pawankar R，福元 晃，八木聰明: 鼻茸線維芽細胞からのeotaxin産生(第2報) - LPSとIL-4の相乗効果について - ．第20回耳鼻免疫アレルギー学会，2002．3．
- 36) 青木見佳子<sup>1)</sup>，Pawankar R，新見やよい<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): 皮膚基底細胞癌におけるマスト細胞の動態．第14回日本アレルギー学会春季臨床大会，2002．3．
- 37) 新見やよい<sup>1)</sup>，Pawankar R，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): 水疱性類天疱瘡病変皮膚におけるMMP - 2 MMP - 9 MM - 13の発現の検討．第14回日本アレルギー学会春季臨床大会，2002．3．
- 38) 加藤陽子<sup>1)</sup>，Pawankar R，木村陽一<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): アトピー性皮膚炎における好酸球，RANTES，CCR3，CCR5の検討．第14回日本アレルギー学会春季臨床大会，2002．3．
- 39) 山岸茂夫，Pawankar R，滝沢竜太，八木聰明: 鼻粘膜上皮細胞におけるFcepsilon RI．第14回日本アレルギー学会春季臨床大会，2002．3．
- 40) 大久保公裕，後藤 穰，奥田 稔，八木聰明: ハウスダスト通年性鼻アレルギー患者における連続抗原誘発試験．第20回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2002．3．
- 41) 粉川隆行，三枝英人，愛野威一郎，新美成二<sup>1)</sup>，八木聰明(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 母音発声時の舌後方運動と咽頭壁の運動との関与．第46回日本音声言語医学会，2002．11．

(9) ミニシンポジウム :

- 1) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 陣内 賢, 矢嶋裕徳, 中嶋博史, 稲井俊太, 八木聰明: 治療時期が重なる同時重複癌の検討. 第25回日本頭頸部腫瘍学会, 2001. 6.

## [ 第二病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学は耳科から頭頸部外科と担当領域が多岐に渡る. 当科では臨床と基礎研究の双方から様々な病態の理解を進めている.

臨床面では平衡障害の治療, 突発性難聴の聴力障害の評価に関する研究が行われ, 症例報告もなされた.

基礎面では眼球運動の三次元解析による平衡機能障害の解明が行われた. また, 内リンパ水腫, 耳毒性物質による内耳障害モデルでフリーラジカルが関与し, その結果としてアポトーシスが惹起されている事を示した.

今年度は英語原著が日本語論文数を上回っており, これらの地道な研究成果が反映されたものとする. 今後も臨床へのフィードバックを念頭に置き, 研究を進める予定である.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Watanabe Ken-ichi, Jinnouchi K, Pawankar R, Yagi T : Expression of myeloperoxidase ( MPO ) and cochlear dysfunction in the Lipopolysaccharide treated guinea pigs . European Archives of Otorhinolaryngology 2001 ; 258 : 164-167 .
- 2) Watanabe Ken-ichi, Tomiyama Shun-ichi, Jinnouchi K, Pawankar R, Yagi T : Expression of inducible nitric oxide synthase ( iNOS/NOS II ) in the cochlea following immune response in the endolymphatic sac of guinea pigs . ORL 2001 ; 63 : 155-159 .
- 3) Watanabe Ken-ichi, Tomiyama Shun-ichi, Jinnouchi K, Hess A<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne ) : Expression of inducible nitric oxide synthase ( iNOS/NOS II ) in the hydropic vestibule after the direct injection of antigen into the endolymphatic sac of guinea pigs . Journal of vestibular research 2001 ; 11 : 67-71 .
- 4) Watanabe Ken-ichi, Jinnouchi K, Yagi T : Detection of single-stranded DNA ( ssDNA ) in the vestibule of guinea pigs after the application of cisplatin ( CDDP ) . Journal of anticancer research 2001 ; 21 : 1135-11138 .
- 5) Watanabe Ken-ichi, Jinnouchi K, Hess A<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne ) : Detection of single stranded DNA ( ssDNA ) in the lipopolysacchride ( LPS ) treated cochlea of guinea pigs . Hearing Research 2001 ; 158 : 116-122 .
- 6) Watanabe Ken-ichi, Tomiyama Shun-ichi, Jinnouchi K, Yagi T : Apoptosis in the hydropic cochlea of guinea pigs : Immunohistochemical analysis . European Archives of Otorhinolaryngology 2001 ; 29 : 164-167 .
- 7) Watanabe Ken-ichi, Jinnouchi K, Baba S, Yagi T : Induction of apoptotic pathway in the cisplatin ( CDDP ) treated vestibule of guinea pigs . Anticancer Research 2001 ; 21 : 3929-3932 .
- 8) Morishita M, Yagi T : The stability of human eye orientation during visual fixation and imagined fixation in three dimensions . Auris Nasus Larynx 2001 ; 28 : 301-304 .
- 9) Watanabe Ken-ichi, Jinnouchi K, Nakajima H, Tomiyama Shun-ichi, Yagi T : Local injection of OK-432 for ranula : a case report . Ear, Nose, Throat Journal 2002 ; 81 : 97-98 .

- 10) 渡邊健一, 後藤 穰, 陣内 賢, 大久保公裕, 八木聰明: シスプラチンによる蝸牛障害とアポトーシス-single-stranded DNA による検討. 頭頸部自律神経研究会 2001; 15: 15-18.
- 11) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聰明: 突発性難聴新鮮症例における耳閉塞感の visual analogue scale (VAS) による評価. 耳鼻咽喉頭頸外科 2001; 73: 429-432.
- 12) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 八木聰明: エンドトキシン中耳腔内注入による蝸牛障害とアポトーシス. Audiology Japan 2001; 44 (5): 361-362.
- 13) 小坂和己<sup>1)</sup>, 野中 学, 渡邊健一, 嘉村恵理子, 青木秀治 ( <sup>1)</sup>こさか耳鼻咽喉科 ): 経蝶形骨洞型髄膜脳瘤の1例. 耳鼻と臨 2001; 47 (6): 461-464.
- 14) 青木秀治, 八木聰明: めまいを伴った突発性難聴患者の頭位眼振所見からみた前庭障害の予後. Equilibrium Res 2001; 60 (6): 470-475.
- 15) 小山 守, 山内陽子, 大塚博邦<sup>1)</sup>, 楠見妙子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>大塚耳鼻咽喉科医院, <sup>2)</sup>南生協病院耳鼻咽喉科 ): 培養鼻粘膜上皮細胞からの幹細胞増殖因子 (stem cell factor) 産生と薬剤による抑制効果. 日耳鼻会報 2002; 105 (2): 166-173.

(2) 綜説:

- 1) 青木秀治: 平衡訓練の対象疾患: メニエール病 (特集: めまい治療と平衡訓練). JOHNS 2001; 17 (6): 891-894.

著 書

- 1) 青木秀治: [ 分担 ] 4. 温度刺激検査, VI. 平衡機能検査で何がわかるか. 耳鼻咽喉科診療プラクティス, 6. EBMに基づくめまいの診断と治療 (武田憲昭), 2001; pp192-195, 文光堂.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 青木秀治: “ 良性発作性頭位めまい症 ” の診断と理学療法について. 葛飾区耳鼻咽喉科医会勉強会, 2001. 11.

(2) 一般講演:

- 1) Watanabe Ken-ichi, Jinnouchi K, Hess A<sup>1)</sup>, Michel O<sup>1)</sup>, Yagi T ( <sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne ): Induction of apoptotic pathway in the lipopolysaccharide (LPS)-treated vestibule of guinea pigs. Inner Ear Biology (Rome), 2001. 9.
- 2) Teranishi M<sup>1)</sup>, Labbe D<sup>1)</sup>, Bloch W<sup>2)</sup>, Watanabe Ken-ichi, Michel O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne, <sup>2)</sup>Dept. of anatomy, University of Cologne ): Role of iNOS in cisplatin ototoxicity. Inner Ear Biology (Rome), 2001. 9.
- 3) 長谷川純, 國友万由美, 日賀一成, 山内陽子, 黒崎貞行, 青木秀治: 異物による難治性上顎洞炎. 東京都地方部会, 2001. 1.
- 4) 山内陽子, 藤倉輝道<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科 ): 鼻粘膜上皮からの MCP - 1 産生に対するヒスタミン刺激の影響とカレバスチンによる抑制. 第13回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2001. 5.
- 5) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聰明: バンドノイズマスキングによる耳鳴抑制と耳音響放射の変化. 耳鳴りと難聴の研究会, 2001. 7.
- 6) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 後藤 穰, 大久保公裕, 八木聰明: シスプラチンとカルボプラチンによる前庭障害の違い-DNA の断片化による検討. 第19回頭頸部自律神経研究会, 2001. 8.
- 7) 山内陽子, 藤倉輝道<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科 ): 鼻粘膜上皮から産生されるCCケモカインに対するヒスタミンの影響とカレバスチンの抑制効果. 第40回日本鼻科学会, 2001. 9.
- 8) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 八木聰明: エンドトキシン中耳腔内注入による蝸牛障害とアポトーシス. 第



46回日本聴覚医学会，2001．10．

- 9) 渡邊健一，陣内 賢，稲井俊太，八木聰明：エンドトキシン鼓室内注入による前庭障害とアポトーシス．第11回日本耳科学会，2001．10．
- 10) 稲井俊太，渡邊健一，八木聰明：一側性感音難聴を呈したサルコイドーシスの1症例．第148回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，2002．1．
- 11) 増野 聡，小泉康雄<sup>1)</sup>，池園哲郎<sup>1)</sup>，野中 学<sup>1)</sup>，八木聰明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科学)：先天性中耳奇形の認められた三姉妹．日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，2002．1．

## [ 多摩永山病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

耳鼻咽喉科領域における免疫疾患の臨床と基礎の研究に取り組んでいる．

その研究テーマの中心は内耳自己免疫疾患と鼻アレルギーである．内耳自己免疫疾患研究にはメニエール病，両側性急速進行性感音難聴，遅発性内リンパ水腫，交感性迷路炎，ステロイド依存性感音難聴などが対象となる．臨床研究は，難聴めまい症例の血清内耳自己抗体のスクリーニングと治療経過観察記録，基礎研究は内耳自己免疫病の実験的自己免疫性迷路炎動物モデルの確立と内耳自己抗原の特定である．さらに内耳免疫傷害の発症機序におけるアポトーシス，一酸化窒素，炎症性サイトカインの関与解明にも取り組んでいる．鼻アレルギーの臨床では減感作療法の治療効果の研究，薬剤開発研究を行い，基礎研究では経口の舌下減感作療法の安全性と有効性の研究，心房性ナトリウム利尿ペプチドと鼻汁分泌との関連，鼻線維芽細胞の筋線維芽細胞への移行の有無，好酸球，サイトカインと鼻アレルギー発症との関連解明に取り組んでいる．

### 研究業績

#### 論 文

##### (1) 原著：

- 1) Watanabe K, Tomiyama S, Jinnouchi K, Hess A, Michel O, Yagi T : Expression of inducible nitric oxide synthase ( iNOS/NOS II ) in the hydropic vestibule after injection of keyhole limpet hemocyanin into the endolymphatic sac of guinea pigs . J Vestibul Res-Equil 2001 ; 11 ( 2 ) : 67-71 .
- 2) Watanabe K, Tomiyama S, Jinnouchi K, Pawankar R, Yagi T : Expression of inducible nitric oxide synthase in the cochlea following immune response in the endolymphatic sac of guinea pigs . ORL 2001 ; 63 ( 3 ) : 155-159 .
- 3) Watanabe K, Tomiyama S, Jinnouchi K, Yagi T : Apoptosis in the hydropic cochlea of guinea pigs following immune reaction of the endolymphatic sac : immunohistochemical analysis . Eur Arch Otorhinolaryngol 2001 ; 258 ( 6 ) : 296-299 .
- 4) Tomiyama S : Th1 : Mediator lymphocytes in experimental autoimmune labyrinthitis . Acta Otolaryngol 2001 ; 121 ( 6 ) : 673-678 .
- 5) Watanabe K, Tomiyama S, Jinnouchi K, Nakajima H, Yagi T : Local Injection of OK-432 in the treatment of ranula : a case report . Ear Nose Throat J 2002 ; 81 ( 2 ) : 97-98 .
- 6) 大久保公裕，後藤 稔，島田健一，奥田 稔，八木聰明，大川一雄：スギ花粉症に対する舌下抗原特異的免疫療：パイロットスタディ．日本鼻科学会誌 2002；41(1)：30-35．

##### (2) 研究報告書：

- 1) 富山俊一：実験的自己免疫性迷路炎-ゲル分離内耳蛋白の自己抗原性の検索．厚生科学研究研究費補助金特定疾患対策事業 前庭機能異常に関する調査研究 13年度 総括・分担研究報告書 2002；1(1)：pp127-129．

## 著 書

- 1) 富山俊一：〔分担〕実験的内耳免疫傷害モデル動物に対する半夏白朮天麻湯の抗免疫傷害効果．耳鳴，眩暈の病態と治療（千葉東洋医学シンポジウム幹事会），2001；pp40-45，九段舎．

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Tomiyama S：Assessment of organ specific autoantigens in experimental autoimmune labyrinthitis by Mini Whole Gel Euter．38th Workshop on Inner ear biology (Roma)，2001．9．
- 2) 立 雅容，富山俊一，豊田雅基，島田健一，島田早苗：最近経験した小児難聴の2症例．第28回多摩耳鼻咽喉科離床研究会，2001．9．
- 3) 富山俊一：ミニホールゲルエリユターによる膜迷路組織分画における内耳特異的抗原性の検索．第11回 日本耳科学会，2001．10．
- 4) 酒主敦子，三枝英人，古川 奎，牛島申太郎，中溝宗永，八木聰明：側臥位を保持するための枕についての検討．第53回日本気管食堂科学会，2001．11．
- 5) 島田健一，富山俊一，豊田雅樹，立 雅容，島田早苗：最近経験した魚骨異物2症例．第148回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，2002．1．
- 6) 富山俊一：実験的自己免疫性迷路炎モデルの開発-分離内耳性蛋白の自己抗原．第20回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2002．3．

## [ 千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]

## 研究概要

耳科学，聴覚学，平衡神経学，アレルギー学，頭頸部腫瘍を中心に臨床にそくした研究が行われている．聴覚学では突発性難聴の臨床経過，鼓室形成術後の聴力成績，活性酸素が内耳に及ぼす影響などの研究が進んでいる．平衡神経学では重心動揺計を用いた平衡機能検査など臨床を中心にした研究と基礎的研究として眼球運動の三次元解析を付属病院と共同で行っている．アレルギー学では線維芽細胞の影響など組織培養を中心に基礎的研究を行っている．腫瘍学では，術前術後患者の心理面での臨床的研究を行っている．また，文部省科学研究費の基礎研究を得てアレルギーの研究を行っている．

## 研究業績

### 論 文

#### (1) 原著：

- 1) Watanabe ken-ichi<sup>1)</sup>，Jinnouchi K<sup>2)</sup>，Baba S，Yagi T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院，<sup>2)</sup> 陣内医院，<sup>3)</sup> 付属病院 )：Induction of apoptotic pathway in the vestibule of cisplatin (CCDP) -treated guinea pigs．Anticancer Research 2001；21：3924-3932．
- 2) Yagi T，Morisita M，Koizumi Y，Kokawa Y，Kamura E，Baba S：Is the pathology of horizontal canal benign paroxysmal positional vertigo really localized in the horizontal semicircular canal?．Acta Otolaryngol 2001；121：930-934．
- 3) Fukumoto A，Nonaka M，Kamio T，Kamura E，Ozu C，Baba S，Ohaki Y：A case of ectopic parathyroid gland hyperplasia in the pyriform sinus．Arch Otolaryngol Head Neck Surg 2002；128：71-74．
- 4) 渡邊健一<sup>1)</sup>，神尾友信<sup>2)</sup>，馬場俊吉，八木聰明<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院，<sup>2)</sup> 神尾記念病院，<sup>3)</sup> 付属病院 )：突発性難聴新鮮例における時間塞感の visual analogue scale (VAS) による評価．耳喉頭頸 2001；73：429-432．

5) 横島一彦, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 中嶋博史<sup>1)</sup>, 矢嶋裕徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 頭頸部癌患者の死の臨床. 頭頸部腫瘍 2002 ; 28 (1): 160-163 .

(2) 綜説:

1) 馬場俊吉: レクルトメント現象. 耳鼻咽喉科診療 Q & A 2001 ; 33 : 258-259 .

著 書

1) 馬場俊吉: [ 分担 ] 第95回医師国家試験問耳鼻咽喉科問題題解説書. 第95回医師国家試験問題解説書, 2001 ; 医学評論社 .

2) 馬場俊吉: [ 自著 ] Approach series 2002 耳鼻咽喉科. Approach series 2002 耳鼻咽喉科, 2002 ; 医学評論社 .

3) 馬場俊吉: [ 分担 ] 外リンパ腫. 今日の治療指針, 2002 ; pp935-936, 医学書院 .

学会発表

(1) 教育講演:

1) 馬場俊吉: めまいの診療と治療. 第133回北信耳鼻咽喉科学術集会, 2002 . 1 .

(2) 一般講演:

1) 横島一彦, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 中嶋博史<sup>1)</sup>, 矢嶋裕徳<sup>1)</sup>, 八木聰明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 頭頸部癌手術後のせん妄が遷延した症例の検討. 第102回日本耳鼻咽喉科学会, 2001 . 5 .

2) 中溝宗永<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup>, 横島一彦, 八木聰明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 唾液腺腫瘍におけるトリプターゼと VEGF の発現. 第102回日本耳鼻咽喉科学会, 2001 . 5 .

3) 中溝宗永<sup>1)</sup>, 横島一彦, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 陣内 賢<sup>1)</sup>, 矢嶋裕徳<sup>1)</sup>, 中嶋博史<sup>1)</sup>, 稲井俊太, 八木聰明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 治療時期が重なる同時重複癌の検討. 第25回日本頭頸部腫瘍学会, 2001 . 6 .

4) 横島一彦, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 中嶋博史<sup>1)</sup>, 矢嶋裕徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 頭頸部癌患者の死の臨床. 第25回日本頭頸部腫瘍学会, 2001 . 6 .

5) 小泉康雄<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 横島一彦, 八木聰明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 頸縦隔型脂肪肉腫の1例. 第63回日本耳鼻咽喉科臨床学会, 2001 . 6 .

6) 嘉村恵理子, 神尾友信, 小津千佳, 福元 晃, 横島一彦, 馬場俊吉: 当科外来における PRSP 感染症について. 第58回日本耳鼻咽喉科学会千葉地方部会, 2001 . 6 .

7) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 八木聰明: エンドトキシン中耳腔内注入による蝸牛障害とアポトーシス. 第46回日本聴覚医学会, 2001 . 10 .

8) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 八木聰明: エンドトキシン鼓室内注入による前庭障害とアポトーシス. 第11回日本耳科学会, 2001 . 10 .

9) 横島一彦, 嘉村恵理子, 小津千佳, 福元 晃, 稲井俊太, 馬場俊吉: 神経機能温存を計った頸部神経鞘腫の2症例. 第59回日本耳鼻咽喉科学会千葉地方部会, 2001 . 11 .

10) 横島一彦, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 矢嶋裕徳<sup>1)</sup>, 中嶋博史<sup>1)</sup>, 粉川美生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 頭頸部癌手術後せん妄の発症要因. 第12回日本頭頸部外科学会, 2002 . 1 .

11) 稲井俊太, 渡邊健一, 八木聰明: 一側性感音難聴を呈したサルコイドーシスの1症例. 第148回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 2002 . 1 .

12) 福元 晃, 馬場俊吉, 空野恵理子, 小津千佳, 稲井俊太, 横島一彦: 当科における鼓室形成術の検討. 第60回日本耳鼻咽喉科学会千葉地方部会, 2002 . 2 .

## 15．泌尿器科学講座

### [ 付属病院泌尿器科 ]

#### 研究概要

【臨床研究】1) 経尿道的内視鏡手術及びESWL：前立腺肥大症や膀胱癌に対する経尿道的手術はもとより，尿路結石に対する種々の治療の臨床的研究は古くから定評がある．2) 腹腔鏡下手術：当科においては，従来開腹で行っていた全ての手術は，腹腔鏡下手術が可能である．特に，腹腔鏡下前立腺癌全摘除術は，本邦で先端をいっており，開腹術との比較検討を行っている．3) 超音波パワードブラ法（PDU）による前立腺癌診断：PDU技術は本邦で最先端をいっており，PDU下標的生検のみによる非侵襲的診断が可能か検討している．また，世界に先駆け，前立腺の血管構築を含む三次元構築解析を行い，前立腺癌の画像診断に高い正診率を得ている．4) 前立腺癌診断におけるPSA molecular formの有用性を検討し，生検の適応症例の絞り込みに努力している．5) オリンパスと共同研究で世界初の超音波膀胱鏡の開発し，臨床応用している．6) 放射線医学講座隅崎教授との共同研究として，一時的に下大静脈，腹部大動脈，両大腿血管との血流を遮断して，骨盤腔にのみ高用量の抗癌剤を投与する「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」があるが，浸潤性膀胱癌の治療に応用している．

【基礎研究】ヌードマウスを用いた泌尿生殖器腫瘍に対する基礎的臨床的研究20年余行っている．さらに，1) 癌の「低酸素応答」について，泌尿器科領域での先駆者的研究，2) 生体内微量金属メタロチオネインと抗癌剤耐性および腎機能保護の研究，4) 老人病研究所分子生物学部門江見教授のご指導のもと，「膀胱癌における染色体・遺伝子異常の解明」，「遺伝性前立腺癌遺伝子の研究」，5) 生化学第二講座島田教授のご指導のもと，腎細胞癌，膀胱癌を対象とした遺伝子治療，6) 生理学第一講座佐久間教授のご指導のもと，「雄ラット性行動中におけるペニス活動のモニタリングとその調節機構」等の研究を行っている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hattori T<sup>1)</sup>, Kimura G, Kondo Y, Horiuchi K, Tsuboi N, Yoshida K, Akimoto M ( <sup>1)</sup> Ebina General Hospital ): Urothelial mucosal concentration of levofloxacin administered before transurethral resection : Is the mucosal concentration predictable? . Int. J. Urol 2001 ; 8 : 171-176 .
- 2) Nishimura T, Kondo Y, Kimura G, Horiuchi K, Abe H, Yoshida K, Tomita M : Three-year follow-up of transurethral vaporization of the prostate with original roller-type electrode . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 14 ( 1 ): 111-114 .
- 3) Nishimura T, Yoshida K, Kondo Y, Kimura G, Horiuchi K, Tsuboi N, Tomita M : Cordless flexible cystourethroscope with battery . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 14 ( 1 ): 169-172 .
- 4) Nishimura T, Uchikoba T, Kondo Y, Kimura G, Horiuchi K, Abe H, Miura T : A new nephrostomy balloon catheter stiffened with a stylet . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 14 ( 1 ): 173-175 .
- 5) Akasaka S<sup>1,2)</sup>, Suzuki S<sup>2,3)</sup>, Shimizu H<sup>1,2)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Akimoto M<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2,3)</sup> ( <sup>1)</sup> Urology , <sup>2)</sup> Biochemistry and Molecular Biology , <sup>3)</sup> Center for Advanced Medical Technology ): Suicide gene therapy for chemically induced rat bladder tumor entailing instillation of adenoviral vectors . Jpn J Cancer Res 2001 ; 92 : 568-575 .
- 6) Fujiwara H, Emi M<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Ohgaki K, Imoto I<sup>2)</sup>, Inazawa J<sup>2)</sup>, Akimoto M, Ogawa O<sup>3)</sup>, Habuchi T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Molec Biol , <sup>2)</sup> Tokyo Med Dent Univ , <sup>3)</sup> Kyoto Univ , <sup>4)</sup> Akita Univ ): Definition of a 1-Mb homozy-

- gous deletion at 9q32-q33 in a human bladder-cancer cell line . J Hum Genet 2001 ; 46 ( 7 ) : 372-377 .
- 7) Hara S<sup>1)</sup>, Hamada J<sup>1)</sup>, Kobayashi C<sup>1)</sup>, Kondo Y, Imura N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of public health, Kitasato University): Expression and characterization of hypoxia-inducible factor ( HIF ) -3alpha in human kidney : Suppression of HIF-mediated gene expression by HIF-3alpha . Biochem. Biophys. Res. Commun 2001 ; 287 : 808-813 .
- 8) Yamabe Y<sup>1)</sup>, Kondo Y, Endo W<sup>1)</sup>, Sasaya K<sup>1)</sup>, Imura N<sup>1)</sup>, Hasegawa T<sup>1)</sup>, Seko Y<sup>1)</sup>, Himeno S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of public health, Kitasato University ): Characterization of cis-diamminedichloroplatinum ( II ) -resistant murine cell lines derived from metallothionein null cells . J. Health Science 2001 ; 47 : 378-384 .
- 9) Murakami M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Matsuzawa I, Kondo Y, Akimoto M (<sup>1)</sup>Dept. of Plastic Surgery ): Scrotal reconstruction with a thinned flap based on both inferior epigastric arteries . Scand J Plast Reconstr Hand Surg 2001 ; 35 : 99-101 .
- 10) Matsuzawa I, Kondo Y, Kimura G, Hashimoto Y, Horie S<sup>1)</sup>, Imura N<sup>2)</sup>, Akimoto M, Hara S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Urology, Tokyo University , <sup>2)</sup>Dept. of public health, Kitasato University ): Cyclooxygenase-2 Expression and Relationship to Malignant Potential in Human Bladder Cancer . J. Health Science 2002 ; 48 ( 1 ) : 42-47 .
- 11) Himeno S<sup>1)</sup>, Yanagiya T<sup>1)</sup>, Enomoto S<sup>1)</sup>, Kondo Y, Imura N<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of public health, Kitasato University ): Cellular cadmium uptake mediated by the transport system for manganese . Tohoku J. Exp. Med 2002 ; 196 : 43-50 .
- 12) Hamasaki T<sup>1)</sup>, Hashimoto Y<sup>1)</sup>, Nishimura T (<sup>1)</sup>Kitamurayama Public Hospital ): Adjusting the position of shape-memory nickel-titanium alloy stents using a ureteric balloon catheter . BJU International 2002 ; 89 ( 4 ) : 66-66 .
- 13) 橋本義孝, 木村 剛, 坪井成美, 秋元成太, 濱崎 務: 超音波パワーワードブラ法が有用であった単純性腎嚢胞壁に発生した腎細胞癌の1例 . 泌紀 2001 ; 47 ( 5 ) : 325-327 .
- 14) 木村 剛, 木全亮二, 根本 勺, 橋本義孝, 大澤秀一, 坪井成美, 秋元成太: 腎癌の新しい組織分類とそのCTの特徴 . 腎癌研究会会報 2001 ; 21 : 21-22 .
- 15) 池田真人<sup>1)</sup>, 平澤泰宏<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 佐伯和則<sup>1)</sup>, 金村應文<sup>1)</sup>, 橋本義孝<sup>2)</sup>, 濱崎 務<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院 内科, <sup>2)</sup>同泌尿器科 ): 副腎腫瘍を伴う原発性アルドステロン症の2例 . 北村山医学誌 2001 ; 6 : 40-42 .
- 16) 木全亮二, 西村泰司: 腎癌の診療における病診連携 . 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 ( 1 ) .
- 17) 木村 剛, 木全亮二, 塩路 豪, 小山行秀, 坪井成美, 西村泰司, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学 ): CT perfusion法による腎腫瘍の画像診断 . 腎癌研究会会報 2002 ; 22 : 49-50 .
- 18) 木全亮二, 木村 剛, 根本 勺, 橋本義孝, 大澤秀一, 坪井成美, 西村泰司: Papillary Renal Cell Carcinoma の dynamic CT の特徴 . 腎癌研究会会報 2002 ; 22 : 16-17 .
- 19) 近藤幸尋: 21世紀の膀胱癌に対する化学療法の展望 . 泌外 2002 ; 15 : 449-450 .

## 著 書

- 1) Nishimura T : [ 分担 ] Complication of urolithiasis treatment ( PNL ). Treatment of urolithiasis ( Akimoto M, Higashihara E, Kumon H, Masaki Z, Orikasa S. ), 2001 ; pp167-182 , Springer .
- 2) 川井ひろみ<sup>1)</sup>, 松田玲子<sup>1)</sup>, 濱崎 務 (<sup>1)</sup>北村山公立病院 ): [ 共著 ] 北村山公立病院におけるリスクマネジメント . 透析ケア 夏期増刊 ( 甲南病院 院長 内藤秀宗 ), 2001 ; pp194-203 , メディカ出版 .

## 学会発表

### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) 吉田和弘 : 前立腺とその研究経緯 . 日本医科大学医学会第 104 回例会 , 2001 . 5 .
- 2) 近藤幸尋 : 前立腺癌に対する外科的治療の現状と治療成績 . 第 75 回千葉泌尿器科集団会 , 第 27 回千葉県医師会

泌尿器科医会学術集会，2001．6．

3) 西村泰司：TURにおける私のこだわり．第76回千葉泌尿器科集談会，2001．12．

(2) 教育講演：

1) 木村 剛：前立腺癌の腫瘍マーカー：前立腺特異抗原PSA値の取り扱いについて．産業医研修会，2001．12．

2) 松沢一郎：-ED（勃起障害）の予防とその対策-（中高年の健康管理・後期・専門）．日本医科大学医師会産業医研修会，2001．12．

3) 松沢一郎：性感症の今：その動向と対策．三区合同産婦人科研修会（中野区医師会），2002．2．

(3) シンポジウム：

1) 木村 剛，木全亮二，根本 勺，橋本義孝，大澤秀一，坪井成美，秋元成太：腎癌の新しい組織分類とそのCTの特徴．第21回腎癌研究会，2001．4．

2) 松沢一郎，藤岡良彰<sup>1)</sup>，赤坂修治<sup>1)</sup>，近藤幸尋，木村 剛，阿部裕行，清水宏之，斉藤友香，坪井成美，西村泰司（<sup>1)</sup>河北総合病院）：前立腺癌にたいする腹腔鏡下手術（腹腔鏡下手術の現状と今後の展望）．第39回日本癌治療学会，2001．10．

3) 木村 剛，木全亮二，塩路 豪，小山行秀，坪井成美，西村泰司，林 宏光<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>付属病院放射線科）：CT perfusion法による腎腫瘍の画像診断．第22回腎癌研究会，2001．11．

(4) セミナー：

1) 近藤幸尋：21世紀の膀胱癌に対する化学療法の見通し．第66回日本泌尿器科学会東部総会，2001．10．

(5) 一般講演：

1) Kimura Go, Kimata Ryoji, Saito Yuka, Akimoto Masao：ULTRASOUND FUSION THREE-DIMENSIONAL IMAGING IN THE DIAGNOSIS OF BENIGN PROSTATIC DISEASE AND PROSTATE CANCER．96th American Urological Association annual meeting（Anaheim），2001．6．

2) Matsuzawa I, Fujioka Y<sup>1)</sup>, Akasaka S<sup>1)</sup>, Kondo Y, Kimura G, Nishimura T（<sup>1)</sup>Kawakita General Hospital）：TESTOSTERON LEVEL BEFORE AND AFTER SILDENAFIL TREATMENT．8th Asia-Pacific Society for Impotence Reserch（Phuket），2001．10．

3) Matsuzawa I, Akasaka S, Fujioka Y, Kondo Y, Kimura G, Nishimura T：EXPERIENCE OF LAPAROSCOPIC RADICAL PROSTATECTOMY．8TH WORLD CONGRESS OF ENDOSCOPIC SURGERY（New York），2002．3．

4) 木村 剛，木全亮二，齋藤友香，松沢一郎，清水宏之，小山行秀，秋元成太：前立腺癌及び前立腺良性疾患における前立腺内部3次元血管構築パターンの解析．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

5) 松沢一郎，近藤幸尋，木村 剛，清水宏之，木全亮二，坪井成美，秋元成太：腹腔鏡下前立腺全摘術．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

6) 桐山 功，大垣憲司，大場修司，木全亮二，西村泰司：生検的側面からみた経尿道的前立腺切除術の検討．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

7) 鈴木康友，近藤幸尋，根本 勺，秋元成太：ホルモン依存性前立腺癌細胞の低酸素下におけるアンドロゲン応答．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

8) 近藤幸尋，松沢一郎，鈴木康友，木村 剛，秋元成太：膀胱癌細胞における低酸素応答転写因子HIFの役割．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

9) 斉藤友香，木村 剛，木全亮二，近藤幸尋，佐藤三洋，坪井成美，秋元成太：前立腺体積が前立腺癌の特性に与える影響について．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

10) 清水宏之，堀内和孝，松沢一郎，斉藤友香，木村 剛，坪井成美，吉田和弘，秋元成太：表在性膀胱腫瘍の深達度診断に対するHigh frequency endoluminal ultrasonography（ELUS）の有用性．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

- 11) 桐山 功, 大垣憲司<sup>1)</sup>, 大場修司<sup>1)</sup>, 江川勝士<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立東静岡病院, <sup>2)</sup>国立駿河療養所): ハンセン病における前立腺癌. 静岡県泌尿器科医学会, 2001. 5.
- 12) 木全亮二, 木村 剛, 斉藤友香, 松沢一郎, 清水宏之, 大澤秀一, 近藤幸尋, 堀内和孝, 坪井成美, 秋元成太: 当科における経直腸的系統的6力所生検の術式の安全性の検討. 第14回老人泌尿器科研究会, 2001. 5.
- 13) 藤原博道, 永井尚生<sup>1)</sup>, Tavgigian S<sup>2)</sup>, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah): 遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常. 日本医科大学医学会第104回例会, 2001. 5.
- 14) 桐山 功, 大垣憲司<sup>1)</sup>, 大場修司<sup>1)</sup>, 江川勝士<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立東静岡病院, <sup>2)</sup>国立駿河療養所): ハンセン病と前立腺疾患. 沼津医師会学会, 2001. 6.
- 15) 齋藤祥樹<sup>1)</sup>, 高橋令子<sup>1)</sup>, 佐藤正広<sup>1)</sup>, 橋本義孝<sup>2)</sup>, 濱崎 務<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院臨床工学室, <sup>2)</sup>北村山公立病院泌尿器科): 血流量における透析効率の検討. 第46回 日本透析医学会, 2001. 6.
- 16) 濱崎 務<sup>1)</sup>, 橋本義孝<sup>1)</sup>, 赤坂修治<sup>2)</sup>, 藤岡良彰<sup>2)</sup>, 岡井隆広<sup>3)</sup>, 土屋まり<sup>4)</sup>, 秋元成太(<sup>1)</sup>北村山公立病院泌尿器科, <sup>2)</sup>河北総合病院泌尿器科, <sup>3)</sup>河北総合病院内科, <sup>4)</sup>小金井太陽病院): 左腎尿管膀胱全摘術を施行したHD患者の1例. 第46回 日本透析医学会, 2001. 6.
- 17) 松沢一郎, 清水宏之, 斉藤友香, 吉田和宏, 柏木哲也<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 菊池 修<sup>2)</sup>, 吉野慎一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第二, <sup>2)</sup>リウマチ外科): DFPPが奏功した悪性関節リウマチの1例. 第47回日本透析医学会学術集会・総会, 2001. 6.
- 18) 斉藤友香, 佐藤三洋, 堀内和孝, 木村 剛, 近藤幸尋, 坪井成美, 西村泰司: 膀胱 mesonephric adenocarcinomaの1例. 第548回日本泌尿器科学会東京地方会, 2001. 7.
- 19) 藤原博道, 永井尚生<sup>1)</sup>, 羽淵友則<sup>2)</sup>, 小西 登<sup>3)</sup>, 執印太郎<sup>4)</sup>, 窪田吉信<sup>5)</sup>, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>秋田大, <sup>3)</sup>奈良医大, <sup>4)</sup>高知医大, <sup>5)</sup>横浜市立大): 日本・米国間の遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の変異スペクトラムの比較検討. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 20) 藤原博道, 永井尚生<sup>1)</sup>, Tavgigian S<sup>2)</sup>, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah): 白人および日本人における遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 21) 木全亮二, 坪井成美, 近藤幸尋, 松沢一郎, 塩路 豪, 木村 剛, 大澤秀一, 西村泰司: Microwave tissue coagulator使用による腎部分切除術の経験. 第20回 Microwave Surgery 研究会, 2001. 10.
- 22) 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二, 斉藤友香, 内木場拓史<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 西村泰司(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科): 生検で発見される前立腺移行領域癌の臨床病理学的特性. 第66回日本泌尿器科学会東部総会, 2001. 10.
- 23) 木全亮二, 近藤幸尋, 塩路 豪, 木村 剛, 堀内和孝, 坪井成美, 西村泰司, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 浸潤性膀胱癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システムの開発. 第66回日本泌尿器科学会東部総会, 2001. 10.
- 24) 藤原博道, 永井尚生<sup>1)</sup>, Tavgigian S<sup>2)</sup>, 西村泰司, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah): 白人および日本人における遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常. 日本人類遺伝学会第46回大会, 2001. 10.
- 25) 木全亮二, 坪井成美, 斉藤友香, 西村泰司, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 泌尿器科領域における3次元血管造影の有用性. 第1回3次元画像解析・レーザーフォーラム, 2001. 11.
- 26) 松沢一郎, 近藤幸尋, 木村 剛, 赤坂修治<sup>1)</sup>, 藤岡良彰<sup>1)</sup>, 阿部裕行, 斉藤友香, 西村泰司, 沖 守<sup>2)</sup>, 長谷川潤<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>河北総合病院, <sup>2)</sup>はせがわ病院): 日本医科大学泌尿器科における十年間の腹腔鏡下手術. 第15回日本Endourology・ESWL学会総会, 2001. 11.
- 27) 近藤幸尋, 松沢一郎, 木全亮二, 清水宏之, 木村 剛, 堀内和孝, 阿部裕行, 坪井成美, 吉田和弘, 西村泰司: 腎腫瘍に対するハンドアシスト法による腹腔鏡下腎部分切除術の経験. 第15回日本Endourology・ESWL学会総会, 2001. 11.
- 28) 木全亮二, 木村 剛, 根本 勺, 橋本義孝<sup>1)</sup>, 大澤秀一, 坪井成美, 西村泰司(<sup>1)</sup>北村山公立病院泌尿器科):

Papillary Renal Cell Carcinoma のCT の特徴．第22回腎癌研究会，2001．11．

29) 近藤幸尋，松沢一郎，堀内和孝，木村 剛，三浦剛史，内木場拓史，濱崎 務，坪井成美，西村泰司：腹腔鏡下副腎摘出術-21世紀の標準術式として-．第5回日本医大内視鏡手術懇話会2002/12/5，2001．12．

30) 松沢一郎，近藤幸尋，木村 剛，濱崎 務，坪井成美，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘術における pitfall：その合併症と有用性．第五回日本医科大学内視鏡手術懇話会，2001．12．

(6) ポスター：

1) 木全亮二，木村 剛，斉藤友香，野村可之，堀内和孝，吉田和宏，秋元成太：前立腺体積の前立腺癌診断パラメーターに与える影響について．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．

(7) ラウンドテーブルディスカッション：

1) 木全亮二，近藤幸尋，塩路 豪，木村 剛，堀内和孝，坪井成美，西村泰司，村田 智<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：浸潤性膀胱癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流療法．第39回日本癌治療学会総会，2001．11．

(8) 奨学賞受賞記念講演：

1) 大垣憲司：膀胱癌における染色体・遺伝子異常の解明．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．

## [ 第二病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科では腎癌，尿路上皮腫瘍，前立腺癌，精巣腫瘍などの尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ，尿路結石，排尿障害を中心に診療ならびに研究を行っている．

1) 腎癌に対して腹腔鏡下腎摘除術ならびに腎温存手術を積極的に行い，進行性腎癌に対しては，免疫化学療法を行い，治療成績について検討している．

2) 尿路上皮内癌の治療および表在性膀胱腫瘍の再発予防に対するBCG注入療法の治療効果について検討している．

3) 浸潤性膀胱癌に対しては，根治的経尿道的腫瘍切除術と動脈内注入療法を行い，膀胱温存の可能性について検討している．浸潤性上部尿路腫瘍に対しては，手術療法と化学療法を組み合わせた集学的治療を行い治療成績について検討している．

4) 基礎的には膀胱癌・前立腺癌の発症に係わる遺伝子の検索及び同定を行っている．

5) 腎結石ならびに尿管結石に対して，体外衝撃波結石破碎術あるいは内視鏡手術による臨床的検討を行っている．

6) ホルミウムYAGレーザーを用いた内視鏡手術，各疾患に対する腹腔鏡下手術の有用性について検討している．

7) プタを用いた基礎実験を行い，細径プローブ超音波による膀胱の正常層構造を同定し，今までの画像診断では困難であった正確な膀胱癌の深達度診断に応用している．さらに，細径プローブ超音波と内視鏡が一体となった超音波膀胱鏡を開発し，臨床応用している．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

1) Horiuchi K, Tsuboi N, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Akimoto M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital): The short-term effects of terazosin in Japanese men with benign prostatic hyperplasia . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (2): 181-185 .

2) Horiuchi K, Tsuboi N, Shimizu H<sup>1)</sup>, Matsuzawa I<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Akimoto M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital): High-frequency (20 MHz) endoluminal ultrasonography for assessing the depth of bladder tumor invasion . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 14 (1): 102-105 .



- 3) Hattori T<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>2)</sup>, Kondo Y<sup>2)</sup>, Horiuchi K, Tsuboi N, Yoshida K<sup>2)</sup>, Akimoto M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Urology, Ebina General Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital): Urothelial mucosal concentration of levofloxacin administered before transurethral resection: Is the mucosal concentration predictable?. Int J Urol 2001; 8(2): 171-176.
- 4) Nishimura T<sup>1)</sup>, Uchikoba T<sup>2)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Horiuchi K, Abe H<sup>3)</sup>, Miura T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital, <sup>3)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital): A new nephrostomy balloon catheter stiffened with a stylet. Jpn J Endourol ESWL 2001; 14(1): 173-175.
- 5) Nishimura T<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Horiuchi K, Tsuboi N, Tomita M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital): Cordless flexible cystourethroscope with battery. Jpn J Endourol ESWL 2001; 14(1): 169-172.
- 6) Nishimura T<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Horiuchi K, Abe H<sup>2)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Tomita M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital): Three-year follow-up of transurethral vaporization of the prostate with original roller-type electrode. Jpn J Endourol ESWL 2001; 14(1): 111-114.
- 7) Fujiwara H, Emi M<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Ohgaki K<sup>2)</sup>, Imoto I<sup>3)</sup>, Inazawa J<sup>3)</sup>, Akimoto M<sup>2)</sup>, Ogawa O<sup>4)</sup>, Habuchi T<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital, <sup>3)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ, <sup>4)</sup> Kyoto Univ, <sup>5)</sup> Akita Univ): Definition of a 1-Mb homozygous deletion at 9q32-q33 in a human bladder-cancer cell line. J. Hum. Genet 2001; 46(7): 372-377.
- 8) 橋本義孝<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 坪井成美, 秋元成太<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科): 超音波パワードブラ法が有用であった単純性腎嚢胞壁に発生した腎細胞癌の1例. 泌紀 2001; 47(5): 325-327.
- 9) 堀内和孝, 清水宏之<sup>1)</sup>, 坪井成美, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科): 上部尿路腫瘍に対するHo: YAGレーザーを用いた腎温存内視鏡手術を施行した3例. J Nippon Med Sch 2001; 68(3): 275-278.
- 10) 木全亮二<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 根本 勺<sup>1)</sup>, 橋本義孝<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科): Papillary Renal Cell Carcinoma の dynamic CT の特徴. 腎癌研究会会報 2002; 22: 16-17.

## (2) 総説:

- 1) 堀内和孝: 臨床ナースのための症状からみた緊急検査値の意味, VII. 腎・泌尿器系の症状, I. 頻尿. 臨看 2001; 27(6): 911-914.
- 2) 堀内和孝: 特集, 内科医のための前立腺疾患の臨床「2001」: 前立腺症状スコアとQOL指数(前立腺炎・肥大症を含む). モダンフィジシャン 2001; 21(9): 1205-1207.
- 3) 坪井成美: マイクロ波手術器の使い方: 特集. 最新の手術器械を使いこなす. 臨泌 2001; 55(10): 851-856.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 堀内和孝: 前立腺肥大症の診断と治療. 佐原市香取郡医師会学術講演会, 2002. 1.

### (2) シンポジウム:

- 1) 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 根本 勺<sup>1)</sup>, 橋本義孝<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 坪井成美, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科): 腎癌の新しい組織分類とそのCTの特徴. 第21回腎癌研究会, 2001. 4.
- 2) 堀内和孝, 清水宏之<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科): 細径プローブでの膀胱の層構造と腫瘍浸潤度診断(膀胱およびその周辺での超音波診断の新しい展開). 日本超音波医学会学術集会, 2001. 5.
- 3) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 藤岡良彰<sup>2)</sup>, 赤坂修治<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 阿部裕行<sup>3)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 齋藤友香<sup>1)</sup>, 坪井成

美, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>河北総合病院, <sup>3)</sup>付属多摩永山病院泌尿器科): 前立腺癌にたいする腹腔鏡下手術(腹腔鏡下手術の現状と今後の展望). 第39回日本癌治療学会, 2001. 10.

4) 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 小山行秀<sup>1)</sup>, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同放射線科): CT perfusion 法による腎腫瘍の画像診断. 第22回腎癌研究会, 2001. 11.

(3) 一般講演:

1) 堀内和孝, 野村可之, 小山行秀, 坪井成美, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): 超音波膀胱鏡の使用経験. 第89回日本泌尿器科学会総会, 2001. 4.

2) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 坪井成美, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科): 前立腺体積が前立腺癌の特性に与える影響について. 第89回日本泌尿器科学会総会, 2001. 4.

3) 清水宏之<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 齋藤友香<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 坪井成美, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): 表在性膀胱腫瘍の深達度診断に対する High frequency endoluminal ultrasonography (ELUS) の有用性. 第89回日本泌尿器科学会総会, 2001. 4.

4) 坪井成美, 清水宏之<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): 尿路結石に対する電磁式結石破碎装置(リソスペック)の使用経験. 第89回日本泌尿器科学会総会, 2001. 4.

5) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 坪井成美, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): 腹腔鏡下前立腺全摘術. 第89回日本泌尿器科学会総会, 2001. 4.

6) 藤原博通, 永井尚生<sup>1)</sup>, Vavtigan Sean V<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah, USA, <sup>3)</sup>付属病院泌尿器科): 遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常. 日本医科大学医学会第104回例会, 2001. 5.

7) 木全亮二<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 齋藤友香<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 坪井成美, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): 当科における経直腸の系統的6力所生検の術式の安全性の検討. 第14回老人泌尿器科研究会, 2001. 5.

8) 小山行秀<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 坪井成美, 木村 剛<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科): 前立腺粘液癌の1例. 第547回日本泌尿器科学会東京地方会, 2001. 6.

9) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 堀内和孝, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科): 膀胱 mesonephric adenocarcinoma の1例. 第548回日本泌尿器科学会東京地方会, 2001. 7.

10) 藤原博通, 永井尚生<sup>1)</sup>, Vavtigan Sean V<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah, USA, <sup>3)</sup>付属病院泌尿器科): 白人および日本人における遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.

11) 藤原博通, 永井尚生<sup>1)</sup>, 羽瀨友則<sup>2)</sup>, 小西 登<sup>3)</sup>, 執印太郎<sup>4)</sup>, 窪田吉信<sup>5)</sup>, 西村泰司<sup>6)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>秋田大, <sup>3)</sup>奈良医大, <sup>4)</sup>高知医大, <sup>5)</sup>横浜市立大, <sup>6)</sup>付属病院泌尿器科): 日本・米国間の遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の変異スペクトラムの比較検討. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.

12) 藤原博通, 永井尚生<sup>1)</sup>, Vavtigan Sean V<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah, USA, <sup>3)</sup>付属病院泌尿器科): 白人および日本人における遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常. 日本人類遺伝学会第46回大会, 2001. 10.

13) 内木場拓史<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 木村 剛<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 阿部裕行<sup>3)</sup>, 西村泰司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>3)</sup>多摩永山病院泌尿器科): 尿路原発 hepatoid adenocarcinoma. 第66回日本泌尿器科学会東部総会, 2001. 10.

14) 木全亮二<sup>1)</sup>, 坪井成美, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): Microwave tissue coagulator 使用による腎部分切除術の経験. 第20回 Microwave Surgery

研究会，2001．10．

- 15) 木村 剛<sup>1)</sup>，木全亮二<sup>1)</sup>，齋藤友香<sup>1)</sup>，内木場拓史<sup>2)</sup>，三浦剛史<sup>2)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup>，堀内和孝，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科，<sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科)：生検で発見される前立腺移行領域癌の臨床病理学的特性．第66回日本泌尿器科学会東部総会，2001．10．
  - 16) 木全亮二<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup>，塩路 豪<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，堀内和孝，坪井成美，西村泰司<sup>1)</sup>，村田 智<sup>2)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科，<sup>2)</sup> 同放射線科)：浸潤性膀胱癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システムの開発．第66回日本泌尿器科学会東部総会，2001．10．
  - 17) 近藤幸尋<sup>1)</sup>，松沢一郎<sup>1)</sup>，木全亮二<sup>1)</sup>，清水宏之<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，堀内和孝，阿部裕行<sup>1)</sup>，坪井成美，吉田和弘<sup>1)</sup>，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科)：腎腫瘍に対するハンドアシスト法による腹腔鏡下腎部分切除術の経験．第15回日本Endourology・ESWL学会総会，2001．11．
  - 18) 木全亮二<sup>1)</sup>，坪井成美，齋藤友香<sup>1)</sup>，西村泰司<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科，<sup>2)</sup> 同放射線科)：泌尿器科領域における3次元血管造影の有用性．3次元画像解析・レーザーフォーラム，2001．11．
  - 19) 木全亮二<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，根本 勺<sup>1)</sup>，橋本義孝<sup>1)</sup>，大澤秀一<sup>1)</sup>，坪井成美，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科)：Papillary Renal Cell Carcinoma のCTの特徴．第22回腎癌研究会，2001．11．
  - 20) 松沢一郎<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，濱崎 務<sup>1)</sup>，坪井成美，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘術におけるpitfall：その合併症と有用性．第5回日本医科大学内視鏡手術懇話会，2001．12．
  - 21) 近藤幸尋<sup>1)</sup>，松沢一郎<sup>1)</sup>，堀内和孝，木村 剛<sup>1)</sup>，三浦剛史<sup>2)</sup>，内木場拓史<sup>2)</sup>，濱崎 務<sup>1)</sup>，坪井成美，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科，<sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科)：腹腔鏡下副腎摘出術：21世紀の標準術式として．第5回日本医科大学内視鏡手術懇話会，2001．12．
- (4) ポスター：
- 1) 木全亮二<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，齋藤友香<sup>1)</sup>，野村可之<sup>1)</sup>，堀内和孝，吉田和弘<sup>1)</sup>，秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科)：前立腺体積の前立腺癌診断パラメーターに与える影響について．第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．
  - 2) 坪井成美，清水宏之<sup>1)</sup>，木全亮二<sup>1)</sup>，佐藤三洋<sup>2)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup>，塩路 豪<sup>1)</sup>，大澤秀一<sup>2)</sup>，阿部裕行<sup>3)</sup>，吉田和弘<sup>1)</sup>，西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科，<sup>2)</sup> 三ノ輪病院，<sup>3)</sup> 多摩永山病院泌尿器科)：尿路結石に対する電磁式結石破碎装置(リソスベック)の治療成績．第15回日本Endourology・ESWL学会総会，2001．11．
- (5) ラウンドテーブルディスカッション：
- 1) 木全亮二<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup>，塩路 豪<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，堀内和孝，坪井成美，西村泰司<sup>1)</sup>，村田 智<sup>2)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科，<sup>2)</sup> 同放射線科)：浸潤性膀胱癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流両方．第39回日本癌学会総会，2001．11．

## [ 多摩永山病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科は開設して13年になるが研究業績の主なもの次のようなものである．

前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来2000例を超えている．本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である．

前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術(剥離TURP)は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある．この特徴を生かして，内腺を完全切除したあと，外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した．これにより，前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり，外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている．最近では早期前立腺癌に対して，輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘除術と最近では腹腔鏡下前立腺全摘除術や鏡視下小切開(2～3横指)前立腺全摘除術を施行している．限局性進行前立腺癌に対するネオアジュバント療法として，ホルモンと放射線療法の併用を行っている．

膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCCDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3～6ヶ月後に腫瘍核出術、腎部分切除術が腎摘出術を行っている。今までの研究では、9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

副腎・腎腫瘍：副腎、腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 研究報告書：

- 1) 村橋 勲<sup>1)</sup>, 清水有二<sup>(1)</sup> (神谷病院): ラット膀胱・腎・肝(三重)腫瘍の発生と遺伝。医のあゆみ 2001; 199(11・12): pp809-810.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 平岡保紀：会陰式前立腺全摘除術。第2回前立腺癌臨床課題研究会，2001．9．

#### (2) 一般講演：

- 1) 平岡保紀，岩本和矢，高橋洋文，清水有二，鈴木康友，沼沢和夫，服部智任，伊藤 博，千賀康弘，藤田和明，左 維：前立腺摘除術時のTURP法による止血法と残存腺腫に対するTURPの必要性。第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．
- 2) 左 維，平岡保紀，岩本和矢，清水有二，高橋洋文，鈴木康友，沼沢和夫，服部智任，伊藤 博，千賀康弘，藤田和明：剥離TURPを施行した前立腺肥大症における各種PSA関連パラメータの有用性の検討。第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．
- 3) 平岡保紀，岩本和矢，高橋洋文，清水有二，鈴木康友，沼沢和夫，伊藤 博，服部智任，千賀康弘，左 維，藤田和明：TURP時のadenomaと外腺との区別は易しいか，難しいかの検証。第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．
- 4) 鈴木康友，平岡保紀，岩本和矢，高橋洋文，清水有二，沼沢和夫，伊藤 博，服部智任，千賀康弘，左 維，藤田和明：腎盂腫瘍に対するハンドアシストを用いた後腹膜腔鏡下腎摘出術と経尿道的尿管引き抜き術の経験。第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．
- 5) 清水有二，平岡保紀，村橋 勲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>元警察病院泌尿器科): ラットの実験的膀胱および腎実質腫瘍(二重腫瘍)の発生と遺伝について。第89回日本泌尿器科学会総会，2001．4．
- 6) 平岡保紀：会陰式前立腺全摘除術。第56回多摩泌尿器科医会，2001．9．
- 7) 平岡保紀，高橋洋文，清水有二，鈴木康友，岩本和矢，沼沢和夫，伊藤 博，服部智任，左 維，藤田和明：神経温存会陰式前立腺全摘除術。第66回日本泌尿器科学会東部総会，2001．10．
- 8) 平岡保紀：TURP時のadenomaと外腺との区別は易しいか，難しいかの検証。第57回多摩泌尿器科医会，2001．12．

## [ 千葉北総病院泌尿器科 ]

### 研究概要

#### 1. 尿路内視鏡学

経尿道的内視鏡手術に使用する電極の効率や安全性の研究を続けている。

内視鏡手術中や後の膀胱洗浄は手際よさと出血防止に対する安全さが必須の条件とされるが、これらを満足させる逆流防止弁のついた膀胱洗浄器の有用性を証明した。また病室への往診用としても使えるコードのない（電池付）内視鏡の実用度を調べた。

#### 2. 泌尿器腫瘍学

水腎症（特に末期癌）への経皮的腎瘻術を施行する際、スタイレットを内蔵した太いバルーンカテーテルを一期的に留置する方法を開発した。尿路の上皮内癌の肉眼的診断で困難を極めることもあるが、薬物の膀胱内注入法により良い結果を得ている。泌尿器科以外に一般化しつつある前立腺癌の腫瘍マーカー（PSA、前立腺特異抗原）について多数例の data を集積中で詳細な分析も行っており原疾患の進行度把握へ追加研究している。

#### 3. アンドロジー

雄ラットの性行動中の筋電図からその周波数特性により得た新知見について薬物使用の可能性を検討している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nishimura T<sup>1)</sup>, Uchikoba T, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Horiuchi K<sup>2)</sup>, Abe H<sup>3)</sup>, Miura T ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School 2nd Hospital , <sup>3)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital ): A new nephrostomy balloon catheter stiffened with a stylet . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 14 ( 1 ): 173-175 .
- 2) Nishimura T<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Horiuchi K<sup>2)</sup>, Tsuboi N<sup>2)</sup>, Tomita M ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School 2nd Hospital ): Cordless flexible cystourethroscope with battery . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 14 ( 1 ): 169-172 .
- 3) Nishimura T<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Horiuchi K<sup>3)</sup>, Abe H<sup>2)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Tomita M ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School 2nd Hospital ): Three-year follow-up of transurethral vaporization of the prostate with original roller-type electrode . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 14 ( 1 ): 111-114 .
- 4) Miura T, Kondou Y<sup>1)</sup>, Akimoto M<sup>2)</sup>, Sakuma Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The First Department of Physiology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> The Department of Urology, Nippon Medical School ): Electromyography of Male Rat Perineal Musculature during Copulatory Behavior . Urologia Internationalis 2001 ; 67 : 240-245 .
- 5) Tomita M, Kimura G<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>2)</sup>, Abe H<sup>3)</sup>, Ohba S<sup>4)</sup>, Hattori T<sup>5)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School 2nd Hospital , <sup>3)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital , <sup>4)</sup> Tousei National Hospital , <sup>5)</sup> Ebina General Hospital ): Clinical experiences with a Ellik type bladder evacuator without fragment reflux . Jpn J Endourol ESWL 2001 ; 15 ( 1 ): 56-58 .
- 6) Nishimura T<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Tomita M, Abe H<sup>2)</sup>, Miura T, Uchikoba T ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital ): Deformation of the bladder due to collateral circulation caused by thrombosis of the left femoral vein . International journal of Urology 2001 ; 8 : 254-256 .

- 7) 堀内和孝<sup>2)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 内木場拓史, 三浦剛史, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 第二病院泌尿器科): 上部尿路腫瘍に対する Ho: YAG レーザーを用いた腎温存内視鏡手術を施行した3例. J Nippon Med Sch 2001; 68(3): 275-278.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 佐藤三洋, 坪井成美<sup>2)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 第二病院泌尿器科): 前立腺体積が前立腺癌の特性に与える影響について. 第89回日本泌尿器科学会総会, 2001. 4.
- 2) 佐藤三洋, 木村 剛<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科): 前立腺偶発癌における PSA と移行域の全体積に占める割合の検討. 第89回日本泌尿器科学会総会, 2001. 4.
- 3) 小山行秀<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 佐藤三洋, 坪井成美<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 第二病院泌尿器科): 前立腺粘液癌の1例. 第547回日本泌尿器科学会東京地方会, 2001. 6.
- 4) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 佐藤三洋, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 第二病院泌尿器科): 膀胱 mesonephric adenocarcinoma の1例. 第548回日本泌尿器科学会東京地方会, 2001. 7.
- 5) 内木場拓史, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 三浦剛史, 阿部裕行<sup>3)</sup>, 西村泰司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院泌尿器科): 尿路原発 hepatoid adenocarcinoma. 第66回 日本泌尿器科学会東部総会, 2001. 10.
- 6) 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 齋藤友香<sup>1)</sup>, 内木場拓史, 三浦剛史, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 第二病院泌尿器科): 生検で発見される前立腺移行領域癌の臨床病理学的特性. 第66回日本泌尿器科学会東部総会, 2001. 10.
- 7) 佐藤三洋, 木村 剛<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科): TUR - P により発見された偶発癌の検討. 第66回日本泌尿器科学会東部総会, 2001. 10.
- 8) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 三浦剛史, 内木場拓史, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 第二病院泌尿器科): 腹腔鏡下副腎摘出術: 21世紀の標準術式として. 第5回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001. 12.

## 16. 眼科学講座

### [ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]

#### 研究概要

眼サルコイドーシス（眼サ症）の診断と治療につき臨床研究を行った。前年度に続き眼サ症診断においてサ症診断基準を適応する問題点を調査した。第4内科学教室との共同研究で、眼サ症例における気管支肺胞洗浄（BAL）で陽性所見を示すものが多いことが明らかとなった。日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会の治療ガイドライン策定委員会世話人として、眼サ症のステロイド内服の適応の指針を策定した（大原 他）。角結膜疾患について羊膜移植の臨床研究を行い、再生医学の一環として生化学第2教室との共同で角膜上皮細胞の幹細胞への遺伝子導入研究を行った（高橋，五十嵐 他）。角膜移植免疫について基礎研究を行った（Hori 他）。水晶体上皮細胞の接着因子について細胞科学的研究を継続した（Oharazawa 他）。網膜硝子体疾患について手術法や手術補助剤の使用法を研究した（志和）。白内障関連として各種の新素材foldableレンズ挿入例の術後成績を調査した（大原，志和 他）。角膜内皮スベキュラーマイクロスコープの再現性と解析法を研究した（大原，鈴木，郡司 他）。

その他，多くの症例報告を行った。学術展示においてPCプレゼンテーションを応用し新しい学術発表形式を確立した。学生教育部門では，眼科領域で得られる画像情報を蓄積してデータベース化し医学教育法の改善策を検討した（志和 他）。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ozaki N, Ishizaki M, Ghazizadeh M, Yamanaka N : Apoptosis mediates decrease in cellularity during the regression of Arthus reaction in cornea . *British Journal of Ophthalmology* 2001 ; 85 : 613-618 .
- 2) Takahashi T, Azuma A<sup>1)</sup>, Abe S<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>, Ohara K, Kudoh S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4) : Significance of lymphocytosis in bronchoalveolar lavage in suspected ocular sarcoidosis . *European Respiratory Journal* 2001 ; 18 : 515-521 .
- 3) Oharazawa H, Ibaraki N, Matsui H, Ohara K : Age-related changes of human lens epithelial cells in vivo . *Ophthalmic Res* 2001 ; 33 : 363-366 .
- 4) Hori J, Streilein JW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ハーバード大学) : Role of recipient epithelium in promoting survival of orthotopic corneal allografts in mice . *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2001 ; 42 : 720-726 .
- 5) Hori J, Streilein JW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ハーバード大学) : Dynamics of donor cell persistence and recipient cell replacement in orthotopic corneal allograft in mice . *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2001 ; 42 : 1820-1828 .
- 6) Kagaya F<sup>1)</sup>, Hori J, Kamiya K<sup>1)</sup>, Kaji Y<sup>1)</sup>, Oshika T<sup>1)</sup>, Amano S<sup>1)</sup>, Yamagami S<sup>2)</sup>, Tsuru T<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>3)</sup>, Mtsuda H<sup>4)</sup>, Yagita H<sup>4)</sup>, Okumura K<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学眼科, <sup>2)</sup>自治医科大学眼科, <sup>3)</sup>帝京大学眼科, <sup>4)</sup>順天堂大学免疫) : Inhibition of murine corneal allograft rejection by treatment with antibodies to CD80 and CD86 . *Exp Eye Res* 2002 ; 74 : 131-139 .
- 7) 山口恵子, 東 永子, 中嶋花子, 陳 軍, 中元兼二, 中村 弘, 志和利彦, 大原國俊 : 内因性ぶどう膜炎におけるラタノプロストの起炎性 . *眼臨* 2001 ; 95 : 498-501 .
- 8) 山口恵子, 東 永子, 中嶋花子, 陳 軍, 大原國俊 : 眼サルコイドーシスに対するメトトレキサート内服療法 . *臨眼* 2001 ; 55 : 781-786 .
- 9) 中村 弘, 鈴木康之<sup>1)</sup>, 山田幸永, 大原國俊 (<sup>1)</sup>東京大学) : 日本人における年齢別緑内障有病率および発症率

の推定．臨眼 2001；55：1417-1421．

- 10) 李 俊成，滝本正子<sup>1)</sup>，梁島謙次<sup>1)</sup>，林 弘美<sup>1)</sup>，中島花子，志和利彦，大原國俊，平上智子，稲垣泰子，脇大悟，宗像夏樹<sup>(1)</sup>国立リハビリテーションセンター)：新しいコントラスト敏感度検査装置(CAT-2000)試作機の評価．臨眼 2001；55：1147-1150．
- 11) 吾妻安良太<sup>1)</sup>，高橋卓夫<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，山口恵子，大原國俊<sup>(1)</sup>内科第4)：眼サルコイドーシス疑い患者における気管支肺胞洗浄液中のリンパ球増多の診断的有用性．眼紀 2001；52：567-572．
- 12) 山口恵子：眼サルコイドーシスの診断の現状と問題点?眼科から?．眼紀 2001；52：627-629．
- 13) 山口恵子，大原國俊，東 永子，中嶋花子，矢口智恵美，茨木信博：眼サルコイドーシスにおける網膜新生血管の病期分類．臨眼 2001；55：209-214．
- 14) 村上順子<sup>1)</sup>，杉田 達：LASIKでフリーキャップを生じた4症例．眼科手術 2001；14：514-520．
- 15) 杉田 達：マイクロケラトーム：予報的臨床評価 モリア LSKC&B．眼科手術 2001；14：74-75．
- 16) 中元兼二，南野麻美<sup>1)</sup>，紀平弥生<sup>1)</sup>，村井恵子<sup>1)</sup>，安田典子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院)：正常眼圧緑内障におけるラタプロスト点眼前後の眼圧及び視神経乳頭の変化．あたらしい眼科．あたらしい眼科 2001；18：1417-1419．
- 17) 堀 純子：羊膜の免疫学的な特殊性．眼科手術 2002；15：11-15．
- 18) 大塚千明，高橋 浩，大原國俊：鼻側角膜切開超音波乳化吸引術を行った壊死性強膜炎．あたらしい眼科 2002；19：223-226．
- 19) 中元兼二：糖尿病網膜症．自警 2002；84：40-41．

## (2) 綜説：

- 1) 大原國俊：治療に難渋するぶどう膜炎症例へのレスキュー．ぶどう膜炎の長期例に白内障が進行してきたが，虹彩前癒着なども見られる．ぶどう膜炎症例の併発白内障手術術式および術後管理．大野重昭編，ケーススタディと解説で学ぶ眼科診療レスキュー，難治ぶどう膜炎・難治白内障手術のレスキュー 2001；120-123．
- 2) 大原國俊：第34回日本眼炎症学会シンポジウム 眼サルコイドーシスのすべて 眼サルコイドーシスの非典型例．眼紀 2001；52：630-632．
- 3) 杉田 達：VI エキシマレーザー：LASIK ノモグラムについて教えて下さい．あたらしい眼科 2001；18：149-151．
- 4) 大原國俊：超音波生体顕微鏡(UBM)のぶどう膜炎への応用．大野重昭編，ケーススタディと解説で学ぶ眼科診療レスキュー，難治ぶどう膜炎・難治白内障手術のレスキュー 2001；236-237．
- 5) 堀 純子：眼表面の再生医学と羊膜移植．羊膜の免疫学的な特殊性．眼科手術 2001；15：11-15．
- 6) 高橋 浩：写真セミナー，Pre-Descemet's dystrophy．あたらしい眼科 2001；18：873-874．
- 7) 東 永子，大原國俊，山口恵子，中嶋花子，志和利彦：ケースノート・巨大なBusacca結節を認めた眼サルコイドーシスの1例．眼科 2001；43：1083-1086．

## 著 書

- 1) 赤星隆幸：〔共著〕眼科 day surgery 術後管理：緊急連絡システムと対応．月間眼科診療プラクティス73 眼科 day surgery の管理，2001；pp38-40，文光堂．
- 2) 杉田 達：〔共著〕一人で対処する眼科診療．一人で対処する眼科診療，2001；pp54-58，南江堂．
- 3) 大原國俊：〔共著〕サルコイドーシス．内科領域と視覚障害 内科領域の眼合併症，2001；pp843-846，カレントセラピー．
- 4) 大原國俊：〔共著〕サルコイドーシス．今日の治療指針 2002. 私はこう治療している，2001；pp903-903，医学書院．
- 5) 大原國俊：〔共著〕第5章肺外サルコイドーシス 眼サルコイドーシス．新しい診断と治療のABC：サルコイドーシス，2001；pp181-189，最新医学社．



## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Akahoshi T : Ophthalmology in Japan now . 19th ESCRS, Amsterdam ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 2) Akahoshi T, Ohara K : Phaco Prechop . XIX Congress of the ESCRS , 2001 . 9 .
- 3) Akahoshi T : Phaco prechop & Neo Sonix . 2001 Irvine Technology Center Executive Conference ( Irvine ), 2001 . 11 .
- 4) 赤星隆幸：最近の白内障手術/理想的な白内障手術への模索．第11回東邦大学第二眼科と地区眼科医会合同勉強会，
- 5) 高橋 浩：アレルギー性結膜疾患．東京都眼科医会研修研究会，2001．4．
- 6) 高橋 浩：瘢痕性角結膜疾患に対する羊膜移植の試み．日本医大炎症・免疫・アレルギー研究会，2001．6．
- 7) 高橋 浩：新しい角膜疾患治療：当教室のテーマ．日本医科大学眼科症例検討会，2001．6．
- 8) 大原國俊：眼サルコイドーシスの臨床：診断 非典型例，治療．第461回慈眼会，2001．7．
- 9) 中嶋花子：ぶどう膜炎による続発緑内障．第12回日本緑内障学会，2001．8．
- 10) 大原國俊：眼炎症最近の話題 眼サルコイドーシスのぶどう膜炎，白内障術中の縮瞳と術後炎症．第3回京滋眼疾患セミナー，2001．9．
- 11) 赤星隆幸，大原國俊：インストラクションコース：Phaco Prechop．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 12) 大原國俊：サルコイドーシスの治療指針眼科部会．第21回日本サルコイドーシス学会，2001．10．
- 13) 大原國俊：眼サルコイドーシスと続発緑内障．ファルマシアテレフォンカンファランス，2001．10．
- 14) 大原國俊：プレチヨップPEAの習得法と利点．第4回白内障ビスコサージェリーセミナー，2001．11．

### (2) シンポジウム：

- 1) Akahoshi T : Karte prechop for the efficient phacoemulsification of soft nucleus. Counter prechop for a nuclear cataract. multiple counter prechop for the phaco of very hard nucleus. soft shell stain for white mature cataract. Phaco of traumatic white matur . 2001 OFTALMOS International Symposium of Cataract and Refractive Surgery ( Buenos Aires ), 2001 . 10 .
- 2) Akahoshi T : Posterior capsule rupture . 2001 OFTALMOS International Symposium of Cataract and Refractive Surgery ( Buenos Aires ), 2001 . 10 .
- 3) Akahoshi T : Prechopper technique . 2001 OFTALMOS International Symposium of Cataract and Refractive Surgery ( Buenos Aires ), 2001 . 10 .
- 4) Akahoshi T : White mature cataract . 2001 OFTALMOS International Symposium of Cataract and Refractive Surgery ( Buenos Aires ), 2001 . 10 .
- 5) Akahoshi T : Recent cataract surgery in Japan and its future . 2001 OFTALMOS International Symposium of Cataract and Refractive Surgery ( Buenos Aires ), 2001 . 10 .
- 6) 中元兼二：Monotherapy．キサラタンシンポジウム，2001．5．
- 7) 堀 純子：角膜移植後拒絶反応の回避．第35回眼炎症学会，2001．6．
- 8) 中嶋花子：眼サルコイドーシスに対するステロイド内服適応．第35回日本眼炎症学会，2001．6．
- 9) 志和利彦：手術教育．第25会眼科手術学会総会，2002．1．
- 10) 杉田 達：シンポジウム屈折矯正手術．第25回眼科手術学会総会，2002．1．

### (3) 一般講演：

- 1) Takahashi T : Pre-Descemet's Dystrophy . 第8回Cornea and Ocular surface ,
- 2) Akahoshi T : Recent advances in cataract and refractive instrumentation and devices/phaco prechop 2001 . 2001 ASCRS ( Sun Diego ), 2001 . 4 .
- 3) Akahoshi T : Maturing phaco prechop . 2001 ASCRS ( Sun Diego ), 2001 . 4 .

- 4) Akahoshi T : Interocular lenses . 2001 ASCRS ( Sun Diego ), 2001 . 4 .
- 5) Hori J, Streilein JW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Harvard Medical School): Role of recipient epithelium in promoting survival of orthotopic corneal allografts in low- and high-risk mouse eyes . ARVO ( Fort Lauderdale ), 2001 . 4 .
- 6) Noda Y<sup>1)</sup>, Kaji Y<sup>1)</sup>, Hori J, Streilein JW<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Medical School , <sup>2)</sup> Harvard Medical School): Amniotic membrane confers immune privilege on corneal allografts when placed at a non-privileged site . ARVO ( Fort Lauderdale ), 2001 . 4 .
- 7) Kagaya F<sup>1)</sup>, Uchida S<sup>1)</sup>, Amano S<sup>1)</sup>, Oshika T<sup>1)</sup>, Sakuragawa N<sup>2)</sup>, Hori J ( <sup>1)</sup> Tokyo Medical School ): Antiangiogenic effect of culture supernatant of human orthotopic corneal allografts in mice . ARVO ( Fort Lauderdale ), 2001 . 4 .
- 8) Ng TF<sup>1)</sup>, Hori J, Streilein JW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Harvard Medical School ): Allogeneic neonatal retina displays partial immune privilege when placed at a non-privileged, non-ocular site . ARVO ( Fort Lauderdale ), 2001 . 4 .
- 9) Akahoshi T, Ohara K : Phaco Prechop . 2001 ASCRS ( Sun Diego ), 2001 . 4 .
- 10) Akahoshi T : Phacoemulsification/Special cases and pediatric cataract . 2001 ASCRS ( Sun Diego ), 2001 . 4 .
- 11) Akahoshi T : Ultrahigh vacuum phaco with a high-infusion irrigation sleeve . 2001 ASCRS ( Sun Diego ), 2001 . 5 .
- 12) Akahoshi T : Clinical results with 19. 000 acrysof implantations . 2001 ASCRS ( Sun Diego ), 2001 . 5 .
- 13) Akahoshi T : Phaco nowadays . 2001 Mexican Congress of Ophthalmology Live Suregery Session ( Monterrey ), 2001 . 5 .
- 14) Akahoshi T : Q&A Discussion about the live surgery and recent cataract techniques . 2001 Mexican Congress of Ophthalmology Live Suregery Session ( Monterrey ), 2001 . 5 .
- 15) Akahoshi T : Karate prechop phaco and large IOL implantation for diabetic case. Karate prechop and single piece acrysof. Counter prechop for brown cataract and weak sphincter. Visco-ICG staining and counter prechop . 2001 Mexican Congress of Ophthalmology Live Suregery Session ( Monterrey ), 2001 . 5 .
- 16) Akahoshi T : Phaco prechop /Karate prechop . The 13th SOE Congress of the European Society of Ophthalmology ( Istanbul ), 2001 . 6 .
- 17) Akahoshi T : Soft shell stain . The 13th SOE Congress of the European Society of Ophthalmology ( Istanbul ), 2001 . 6 .
- 18) Akahoshi T : Phaco prechop technique with acrysof implant . The 13th SOE Congress of the European Society of Ophthalmology ( Istanbul ), 2001 . 6 .
- 19) Akahoshi T : Phaco of postrior polar cataract. Phaco prechop and single piece acrysof implantation. Counter prechop technique and single piece acrysof of implantation. Counter prechop technique for a rock hard nucleus and single piece acrysof implantat . 2001 Hungarian Ophthalmic Society Meeting ( Budapest ), 2001 . 6 .
- 20) Akahoshi T : A " Phaco prechop " technikak ismertetese . 2001 Hungarian Ophthalmic Society Meeting ( Budapest ), 2001 . 6 .
- 21) Akahoshi T : 19. 000 acrysof mulencsevel szerzett klinikai tapasztalatok . 2001 Hungarian Ophthalmic Society Meeting ( Budapest ), 2001 . 6 .
- 22) Akahoshi T : Az SA30AL egytestu acrysof mulencse deultetese csipesszel es injektorral . 2001 Hungarian Ophthalmic Society Meeting ( Budapest ), 2001 . 6 .
- 23) Akahoshi T : A " Soft Shell stain " technika ismertetese . 2001 Hungarian Ophthalmic Society Meeting ( Budapest ), 2001 . 6 .
- 24) Akahoshi T : Temporal clear corneal surgery by karte prechop technique. Counter prechop for cataract

- with PE syndrome. Visco-ICG stain for corneal opacity . 2001 Rumanian Ophthalmic Society Meeting ( Bucharest ), 2001 . 6 .
- 25 ) Akahoshi T : Temporal clear corneal surgery and three piece acrysof implantation. Counter prechop and single piece acrysof implantation with forceps. Management of rock hard cataract. Phaco of white and black cataract by visco-ICG technique. Soft shell sta . 2001 Rumanian Ophthalmic Society Meeting ( Bucharest ), 2001 . 6 .
- 26 ) Akahoshi T : Most efficient and least invasive cataract surgery . 2001 Rumanian Ophthalmic Society Meeting ( Bucharest ), 2001 . 6 .
- 27 ) Akahoshi T : Mastering phaco prechop . 2001 Rumanian Ophthalmic Society Meeting ( Bucharest ), 2001 . 6 .
- 28 ) Akahoshi T : Phaco prechop ( telecast via satellite ) . 2001 Rumanian Ophthalmic Society Meeting ( Bucharest ), 2001 . 6 .
- 29 ) Akahoshi T : Phaco prechop . 2001 Rumanian Ophthalmic Society Meeting ( Bucharest ), 2001 . 6 .
- 30 ) Akahoshi T : Fast and safe phaco . The 14th ICIMARK, Barcelona ( Barcelona ), 2001 . 6 .
- 31 ) Kato K<sup>1,2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Igarashi T, Nagashima M<sup>2)</sup>, Yosino S<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology , <sup>2)</sup> Department of Joint Disease and Rhermatism ): Angiostatic gene therapy of rheumatoid arthritis . The Japan Society of Gene Therapy ( Toyko ), 2001 . 7 .
- 32 ) Akahoshi T : Updates and innovations for the next decade . The 14th ICIMARK, Barcelona ( Barcelona ), 2001 . 7 .
- 33 ) Akahoshi T : Advancement in the cataract surgery/New phaco technique and new acrysof . 2001 Ophthalmic Society Meeting in Hong Kong ( Hong Kong ), 2001 . 7 .
- 34 ) Azuma H, Ohara K, Shiwa T, Ishii Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> ニュービジョン眼研究所 ): Early postop changes of lens epithelial cells and capsular bag after IOL implantation . XIX Congress of the ESCRS ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 35 ) Azuma Y, Ohara K, Shiwa T, Azuma H, Gunji K, Uetama A : Endothelial protection by viscot in prechop PEA . XIX Congress of the ESCRS ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 36 ) Akahoshi T : Soft shell stain and phaco prechop for a white cornea and white cataract . XIX Congress of the ESCRS ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 37 ) Akahoshi T : Phaco Prechop with single piece acrysof and monarch II . XIX Congress of the ESCRS ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 38 ) Akahoshi T : Mastering phaco Prechop . XIX Congress of the ESCRS ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 39 ) Akahoshi T : Phaco Prechop . XIX Congress of the ESCRS ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 40 ) Akahoshi T : Acrysof 19. 000 experience . XIX Congress of the ESCRS ( Amsterdam ), 2001 . 9 .
- 41 ) Akahoshi T : Karate prechop technique for a soft nucleus. Counter prechop technique for a hard nucleus. Management of small pupil. Phaco surgery of subluxated hard nucleus. Single piece acrysof implantation with monarch II system . 1st International Congress of Refractive Surgery and Cataract ( Lima ), 2001 . 9 .
- 42 ) Akahoshi T : Visco ICG staining . 1st International Congress of Refractive Surgery and Cataract ( Lima ), 2001 . 9 .
- 43 ) Akahoshi T : Clinical experience with 20. 000 acrysof . 1st International Congress of Refractive Surgery and Cataract ( Lima ), 2001 . 9 .
- 44 ) Akahoshi T : Management of posterior capsule rupture . 1st International Congress of Refractive Surgery and Cataract ( Lima ), 2001 . 9 .
- 45 ) Akahoshi T : Phaco Prechop . 1st International Congress of Refractive Surgery and Cataract ( Lima ), 2001 . 9 .

- 46) Akahoshi T : Mechanical nucleofracture . 1st International Congress of Refractive Surgery and Cataract ( Lima ), 2001 . 9 .
- 47) Akahoshi T : Phaco prechop with single piece acrysof and monarch II . LACAR IMPACT ( Cusco ), 2001 . 10 .
- 48) Akahoshi T : Recent cataract surgery in Japan and its future . 2001 Round Table Discussin about Phaco ( Taipei ), 2001 . 10 .
- 49) Akahoshi T : Recent cataract surgery in Japan and its future . 2001 Round Table Discussin about Phaco ( Taipei ), 2001 . 10 .
- 50) Akahoshi T : More about prechop & acrysof . 2001 Annual Meeting of Medical Ultrasound Society ( Taipei ), 2001 . 10 .
- 51) Akahoshi T : Phaco surgery nowadays . 2001 Tri-Service General Hospital Ophthalmic Meeting ( Taipei ), 2001 . 10 .
- 52) Akahoshi T : Complication management during cataract surgery . 2001 Tri-Service General Hospital Ophthalmic Meeting ( Taipei ), 2001 . 10 .
- 53) Akahoshi T : Mastering phaco prechop . 2001 UAE Ophthalmic Congress ( Dubai ), 2001 . 10 .
- 54) Akahoshi T : Soft shell stain . 2001 UAE Ophthalmic Congress ( Dubai ), 2001 . 10 .
- 55) Akahoshi T : Comparison of phaco tips . 2001 UAE Ophthalmic Congress ( Dubai ), 2001 . 10 .
- 56) Akahoshi T : Mechanical Nucleofracture . 2001 UAE Ophthalmic Congress ( Dubai ), 2001 . 10 .
- 57) Akahoshi T : Counter prechop & burst phaco with neosonix technology . The 105th AAO ( New Orleans ), 2001 . 11 .
- 58) Akahoshi T : Karate prechop & burst phaco with neosonix technology . The 105th AAO ( New Orleans ), 2001 . 11 .
- 59) Akahoshi T : Development of new injector system for single piece acrysof . The 105th AAO ( New Orleans ), 2001 . 11 .
- 60) Akahoshi T : Phaco prechop with single piece acrusof and monarch II . The 105th AAO ( New Orleans ), 2001 . 11 .
- 61) Akahoshi T : Phaco prechopping . The 105th AAO ( New Orleans ), 2001 . 11 .
- 62) Akahoshi T : Karate prechop for soft nucleus .2001 Irvine Technology Center Executive Conference( Irvine ), 2001 . 11 .
- 63) Akahoshi T : 公開手術： Karate prechop for soft nucleus. Couter prechop and neosonix. White mature cataract and visco-ICG stain . 第4回三井記念病院ビス弧サージェリーセミナー , 2001 . 11 .
- 64) Akahoshi T : Recent cataract surgery with neosonix and single piece acrysof . Phaco Surgery Update 2001 ( Thailand ), 2001 . 11 .
- 65) Akahoshi T : Phaco prechop and single piece acrysof implantation. Phacoemulsification with advantec and neosonix . Phaco Surgery Update 2001 ( Thailand ), 2001 . 11 .
- 66) Akahoshi T : Phaco prechop in extreme cases . 10th Annual Meeting of the Royal College of Ophthalmologists of Thailand ( Bangkok ), 2001 . 11 .
- 67) Akahoshi T : New Phaco prechop technique and single piece AcrySof . 10th Annual Meeting of the Royal College of Ophthalmologists of Thailand ( Bangkok ), 2001 . 11 .
- 68) Ng TF<sup>1)</sup>, Hori J, Klassen H<sup>1)</sup>, Streilein JW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harvard Medical School ): Comparison of the immunogenicity of neonatal brain and neural stem cells . Neuroscience meeting ( San Diego ), 2001 . 11 .
- 69) Akahoshi T : Phaco vs Laser vs Phacofragmentation . 創立15周年ファイヨドロフ研究所記念講演会 ( Moscow ), 2001 . 12 .

- 70) Akahoshi T : Phaco prechop . 創立15周年フイヨドロフ研究所記念講演会 ( Moscow ) , 2001 . 12 .
- 71) Akahoshi T : Acrysof of 20. 000 experience . 創立15周年フイヨドロフ研究所記念講演会 ( Moscow ) , 2001 . 12 .
- 72) 堀 純子 , Streilein JW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Harvard Medical School ) : ハイリスク眼に対するキメラ角膜移植の効果 . 第105回日本眼科学会総会 , 2001 . 4 .
- 73) 遠藤加寿子<sup>1)</sup> , 神谷和孝<sup>1)</sup> , 加賀谷文絵<sup>1)</sup> , 内田彩子<sup>1)</sup> , 天野史朗<sup>1)</sup> , 大鹿哲郎<sup>1)</sup> , 新家 真<sup>1)</sup> , 櫻川宣男<sup>2)</sup> , 堀純子 ( <sup>1)</sup> 東京大学眼科 , <sup>2)</sup> 国立精神神経センター疾病第5部 ) : ヒト羊膜上皮細胞培養上清の角膜血管新生抑制およびランゲルハンス細胞遊走抑制効果 . 第105回日本眼科学会総会 , 2001 . 4 .
- 74) 野田康男<sup>1)</sup> , 堀 純子 , 内田彩子<sup>1)</sup> , 加治優一<sup>1)</sup> , 天野史朗<sup>1)</sup> , 大鹿哲郎<sup>1)</sup> , 新家 真<sup>1)</sup> , Streilein JW<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学眼科 , <sup>2)</sup> ハーバード大学 ) : 羊膜上皮細胞はアログラフト角膜に免疫特権を与える . 第105回日本眼科学会総会 , 2001 . 4 .
- 75) 五十嵐勉 , 三宅弘一<sup>1)</sup> , 鈴木紀子<sup>1)</sup> , 加藤 興<sup>1)</sup> , 高橋 浩 , 大原國俊 , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第二 ) : 角膜輪部上皮細胞およびTA細胞への遺伝子導入 . 第105回日本眼科学会総会 , 2001 . 4 .
- 76) 五十嵐勉 , 三宅弘一<sup>1)</sup> , 鈴木紀子<sup>1)</sup> , 加藤 興<sup>1)</sup> , 高橋 浩 , 大原國俊 , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第二 ) : 角膜上皮幹細胞およびTA細胞への遺伝子導入 . 第105回日本眼科学会総会 , 2001 . 4 .
- 77) 中元兼二 , 中村 弘 , 南野麻美<sup>1)</sup> , 安田典子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京警察病院 ) : ラタノプロストの眼圧コントロール維持率についての検討 . 第105回日本眼科学会総会 , 2001 . 4 .
- 78) 東 佑美 , 中嶋花子 , 志和利彦 , 大原國俊 : Rieger型中心性滲出性網脈絡炎の1例 . 日本医科大学眼科症例検討会 , 2001 . 4 .
- 79) 郡司桂子 , 上玉麻子 , 東 永子 , 志和利彦 , 大原國俊 : ノンコロンボ , いくつ数えればいいの ? . 日本医科大学眼科症例検討会 , 2001 . 4 .
- 80) 北原由紀 , 中山滋章 , 山口 貴 , 秋庭幹生 : 網膜剥離手術後に黄斑円孔をきたした1例 . 日本医科大学眼科症例検討会 , 2001 . 4 .
- 81) 東 永子 , 大原國俊 , 志和利彦 , 石井康雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> ニュービジョン眼研究所 ) : 白内障術後早期の水晶体嚢と嚢内IOLの組織所見 . 第16回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2001 . 6 .
- 82) 郡司桂子 , 大原國俊 , 志和利彦 , 東 永子 , 上玉麻子 : 角膜内皮細胞形態計測に必要な入力細胞数 . 第16回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2001 . 6 .
- 83) 東 佑美 , 郡司桂子 , 加藤美穂 , 上玉麻子 , 東 永子 , 志和利彦 , 大原國俊 : 分散型粘弾性剤の角膜内皮保護効果 ( 予報 ) . 第16回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2001 . 6 .
- 84) 志和利彦 , 大原國俊 , 東 永子 , 郡司桂子 , 堀口さおり : 各種眼内レンズのインドシアニングリーンおよびトリパンブルーに対する染色性 . 第16回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2001 . 6 .
- 85) 東 永子 , 高橋 浩 , 志和利彦 , 大原國俊 : 羊膜移植後に再発した角膜ヘルペスの1例 . 日本医科大学眼科症例検討会 , 2001 . 6 .
- 86) 新井江里子 , 森瀬景子 , 若山かおり , 高橋 琢 , 清水暢夫 : 両眼水晶体完全脱臼を認めたMarfan症候群の父子例 . 日本医科大学眼科症例検討会 , 2001 . 6 .
- 87) 東 永子 , 高橋 浩 , 志和利彦 , 大原國俊 : 羊膜移植後に再発した角膜ヘルペスの1例 . 第6回東京オキュラーサーフェスフォーラム , 2001 . 7 .
- 88) 杉田 達 : スーパーパルス炭酸ガスレーザーの眼瞼手術への臨床応用 . 第18回関東眼科学会 , 2001 . 7 .
- 89) 北原由紀 , 中山滋章 , 山口 貴 , 秋庭幹生 : 網膜剥離手術直後に黄斑円孔をきたした1例 . 第18回関東眼科学会 , 2001 . 7 .
- 90) 中元兼二 , 南野麻美<sup>1)</sup> , 紀平弥生<sup>1)</sup> , 村井恵子<sup>1)</sup> , 丸山和道<sup>1)</sup> , 安田典子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京警察病院 ) : 正常眼圧緑内障におけるラタノプロスト点眼前後の乳頭解析 . 第12回日本緑内障学会 , 2001 . 8 .
- 91) 上玉麻子 , 東 永子 , 高橋 浩 , 志和利彦 , 大原國俊 : 羊膜移植により角膜窄孔が閉鎖した強角膜軟化症の1

- 例．日本医科大学眼科症例検討会，2001．9．
- 92) 郡司桂子，大原國俊，上玉麻子，加藤美穂，東 佑美，志和利彦：視神経乳頭に血管腫を呈した von Hippel Lindau 病の4例5眼．日本医科大学眼科症例検討会，2001．9．
- 93) 秋庭幹生，中山滋章，山口 貴，北原由紀，堀口さおり：網膜血管炎を呈した眼内悪性リンパ腫の1例．日本医科大学眼科症例検討会，2001．9．
- 94) 東 佑美，上玉麻子，高橋 浩，大原國俊：シクロフォスファミド内服を試みた壊死性強膜炎の2例．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 95) 大原國俊，志和利彦，東 永子，郡司桂子，上玉麻子，大久保彰<sup>1)</sup>，宮久保寛<sup>2)</sup>，宮本孝文<sup>3)</sup>，禰津直久<sup>(1)</sup> 医療法人雄三会おおくぼ眼科，<sup>2)</sup> 宮久保眼科，<sup>3)</sup> 明瞳眼科クリニック)：ブロムフェナクナトリウム (ブナロックR) の白内障術中散瞳の抑制効果．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 96) 東 永子，大原國俊，大木孝太郎<sup>1)</sup>，志和利彦，岸岡浩之，郡司桂子<sup>(1)</sup> 大木眼科)：分散型粘弾性物質の前房内注入に伴う thermal burn の危険性．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 97) 中元兼二，南野麻美<sup>1)</sup>，安田典子<sup>1)</sup>，根本 繁<sup>1)</sup>：脈絡膜剥離及び浅前房を合併した内頸動脈海綿静脈洞瘻の1例．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 98) 高橋 浩，坂本篤弘<sup>1)</sup>，高橋良樹<sup>2)</sup>，大村武雄<sup>2)</sup>，葛西洋芳<sup>2)</sup>，榛村重人<sup>3)</sup>，大原國俊<sup>(1)</sup> 麻酔科学，<sup>2)</sup> わかもと製薬研究所，<sup>3)</sup> 東京歯科大学)：電子スピン共鳴法による超音波手術由来のフリーラジカル測定．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 99) 志和利彦，大原國俊，長谷川豊<sup>1)</sup>，岸岡浩之，東 永子，郡司桂子<sup>(1)</sup> 岩手医科大学眼科学教室)：赤外蛍光眼底撮影が困難となったハイドロジェル眼内レンズ挿入眼の1例．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 100) 郡司桂子，大原國俊，岩波美陽，李 俊哉：視神経乳頭に血管腫を呈した von Hippel Lindau 病の2例．第55回日本臨床眼科学会，2001．10．
- 101) 土坂寿行：経年的な眼圧の変動と眼圧降下剤の効果．第21回日本眼薬理学会，2001．10．
- 102) 中嶋花子，大原國俊，陳 軍，山口恵子，東 永子：眼サルコイドーシスにおける結膜生検．第21回日本サルコイドーシス学会，2001．10．
- 103) 杉田 達：インストラクションコース：日帰り白内障手術 各医院の工夫．第55回日本臨床眼科学会総会，2001．10．
- 104) 杉田 達：インストラクションコース：日帰り白内障手術 こうすれば安全だ．第55回日本臨床眼科学会総会，2001．10．
- 105) 赤星隆幸：最近の白内障手術．第4回三井記念病院ピス弧サージェリーセミナー，2001．11．
- 106) 杉田 達：眼科手術野の盲点．第1回富士眼科研究会，2001．11．
- 107) 加藤美穂，大原國俊，志和利彦，高橋 浩，森瀬景子，森 隆浩：日本医科大学眼科における過去2年間の穿孔性眼外傷の統計．東京都眼科集談会，2001．12．
- 108) 赤星隆幸：2001年度活動報告．平成13年度白内障手術合併病研究会，2001．12．
- 109) 川添奈緒，志和利彦，東 永子，郡司桂子，加藤美穂，大原國俊：眼内レンズを交換した5眼の検討．日本医科大学眼科症例検討会，2001．12．
- 110) 岩波美陽，清水暢夫，森田 琢，若山かおり，新井江里子：傍乳頭網膜血管腫の1症例．日本医科大学眼科症例検討会，2001．12．
- 111) 加藤宗彦<sup>1)</sup>，志和利彦<sup>(1)</sup> 加藤アイクリニック)：強度近視および調節緊張に対するオルソKレンズの使用経験．日本医科大学眼科症例検討会，2001．12．
- 112) 中嶋花子，大原國俊，志和利彦：Berger 腔の混濁により白内障に酷似した所見を呈した稀な1例．第25会眼科手術学会総会，2002．1．
- 113) 梅野克哉<sup>1)</sup>，原 優二<sup>2)</sup>，志和利彦，吉富文昭<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 梅野眼科医院，<sup>2)</sup> 西村眼科医院，<sup>3)</sup> 大宰府吉眼科)：急激

- な転帰をたどった白内障術後眼内炎の1例．第25回眼科手術学会総会，広島，平成14年1月25日（抄録集P. 252），2002．1．
- 114) 大原國俊，志和利彦：背景照明・TVカメラ付きスリットランプによるIOL術後眼の観察．第25回眼科手術学会総会，2002．1．
- 115) 赤星隆幸：新しい手術器具・新しいアクリル眼内レンズを用いた最近の白内障手術．第723回東京眼科集談会，2002．2．
- 116) 高橋 浩，五十嵐勉，藤本千明，大原國俊，石崎正通<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第一)：角膜アルカリ熱傷に対する羊膜移植の免疫組織学的検討．第26回角膜カンファランス，2002．2．
- 117) 松井洋法，堀 純子，大原國俊，竹森利忠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所免疫)：新鮮羊膜上皮異色が角膜アログラフトに及ぼす影響．第26回角膜カンファランス，2002．2．
- 118) 上玉麻子，高橋 浩，東 永子，志和利彦，大原國俊：慢性関節リウマチに合併した周辺部角膜穿孔に対し羊膜移植術を施行した1例．第26回角膜カンファランス，2002．2．
- 119) 堀 純子，Streilein JW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ハーバード大学)：角膜移植後のドナー細胞の維持とレシピエント細胞による置換のダイナミクス．第26回角膜カンファランス，2002．2．
- 120) 藤本千明，堀 純子，大原國俊，竹森利忠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所免疫)：キメラ角膜移植は抗原提示細胞の遊走を抑制する．第26回角膜カンファランス，2002．2．

## [ 千葉北総病院眼科 ]

### 研究概要

教室員全員で，白内障手術のクリティカルパス構築のための臨床研究を行った．また，教室員全員で緑内障治療薬の効果，副作用に関する臨床研究を継続した．また，斜視・弱視外来で斜視患者の臨床研究を行った．横山恭典助手を中心に，点眼液中の防腐剤の抗菌力についての臨床研究を行った．茨木信博診療教授は，EBMに基づく白内障診療ガイドラインを作成した．

基礎研究では，茨木教授，後藤医局長を中心に，水晶体上皮細胞の培養実験で，白内障，後発白内障の成因，予防，治療法開発の研究を行った．さらに，偽水晶体黄斑症が点眼薬に含まれる防腐剤に起因することを培養実験で確認した．種元桂子助手を中心に，水晶体上皮細胞の細胞周期に関する基礎研究を行った．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) Wen Y<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Reddy V<sup>2)</sup>, Sachs G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>School of Medicine, UCLA, <sup>2)</sup>University of Michigan, Kellogg Eye Center): Functional analysis of the promoter and chromosomal localization for human LEP503, a novel lens epithelium gene. Gene 2001; 269: 61-71.

2) Oharazawa H<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Matsui H<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School): Age-related changes of human lens epithelial cells in vivo. Ophthalmic Res 2001; 33: 363-366.

##### (2) 綜説：

1) 茨木信博：細隙灯顕微鏡検査：中間透光体のみかた．日本の眼科 2001; 72: 1307-1310.

#### 著書

1) Ibaraki N: [ 自著 ] Human lens epithelial cell culture. In Methods in molecular biology, 188; Epithelial cell culture protocols (Ed: Clare Wise), 2001; pp1-6, The Humana Press Inc.

- 2) 茨木信博：〔自著〕水晶体疾患・看護のための最新医学講座眼科疾患（日野原重明・井村裕夫監修，水流忠彦編集），2001；pp131-139，中山書店。

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 茨木信博：白内障手術後の諸問題．第1回千葉県眼科医会総会，2001．7．

##### (2) シンポジウム：

- 1) 茨木信博：Cell Cycleについて（水晶体）．第13回国際眼研究会議日本部会，2001．9．

##### (3) 一般講演：

- 1) Ibaraki N, Goto Y, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Simodate Public Hospital, <sup>2)</sup>Miyake Eye Clinic): Effects of Latanoprost and Timolol Maleate on the Expression of Cytokine in Human Lens Epithelial SRA01/04 cells. ARVO meeting ( Ft. Lauderdale, Florida, USA. ), 2001 . 4 .
- 2) Wen Y<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Reddy V<sup>2)</sup>, Sachs G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>School of Medicine, UCLA, <sup>2)</sup>University of Michigan, Kellogg Eye Center): Cloning and functional analysis of the promoter for human LEP503 a novel lens epithelium gene. ARVO meeting ( Ft. Lauderdale. Florida, USA. ), 2001 . 4 .
- 3) Torrado M<sup>1)</sup>, Tanemoto K, Tomarev SI<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>LMDB. NIH. ): The mouse Myoc/Tigr promoter directs protein expression to the tissue of the eye angle in adult transgenic mouse. ARVO meeting ( Ft, Lauderdale. Florida, USA. ), 2001 . 5 .
- 4) 後藤陽子, 茨木信博, 三宅謙作<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>三宅眼科病院): ラタノプロスト, マレイン酸チモロール, 塩化ベンザルコニウムがヒト培養水晶体上皮細胞に与える影響. 第105回日本眼科学会総会, 2001 . 4 .
- 5) 茨木信博, 後藤陽子, 種元桂子, 鈴木輝彦, 深川 晃, 横山恭典: 各種インジェクターによる眼内レンズの破損. 第104回日本医大眼科症例検討会, 2001 . 6 .
- 6) 深川 晃, 種元桂子, 後藤陽子, 鈴木輝彦, 横山恭典, 茨木信博: 巨大な脈絡膜下出血をきたした1例. 第238回千葉県眼科集談会, 2001 . 9 .
- 7) 神元亜季子, 横山恭典, 茨木信博: 血管新生緑内障を伴った両眼性網膜中心動脈閉塞症の1例. 第238回千葉県眼科集談会, 2001 . 9 .
- 8) 後藤陽子, 茨木信博, 三宅謙作: 点眼液中の防腐剤によって白内障術後に嚢胞様黄斑浮腫が生じる. 第55回日本臨床眼科学会, 2001 . 10 .
- 9) 深川 晃, 種元桂子, 後藤陽子, 鈴木輝彦, 横山恭典, 茨木信博: 加齢性黄斑部変性症（疑診）に多量の脈絡膜出血をきたした1例. 第106回日本医大眼科症例検討会, 2001 . 12 .
- 10) 種元桂子, 茨木信博: ヒト水晶体上皮細胞の細胞周期に関する因子. 第28回水晶体研究会, 2002 . 1 .
- 11) 茨木信博: 小児の眼内レンズ移植術に対する分散型粘弾性物質の有用性. 第25回日本眼科手術学会, 2002 . 1 .
- 12) 横山恭典, 種元桂子, 後藤陽子, 茨木信博: 防腐剤非添加緑内障点眼薬に点眼瓶の汚染について. 第239回千葉県眼科集談会, 2002 . 3 .



## 17. 麻酔科学講座

### [ 付属病院麻酔科 ]

#### 研究概要

本教室の研究テーマは、ショックの病態生理と治療、手術侵襲機序の解明とその対策、麻酔と循環動態、周術期体液代謝管理、術後疼痛管理、ペインクリニック、外科系集中治療管理である。本年度は、さらに多くの博士論文が発表され、麻酔と呼吸生理、麻酔と中枢神経生理、日帰り麻酔や内視鏡手術管理等、臨床および基礎的研究が幅広く行われた。以下に本年度の主な研究内容を示す。

#### 臨床的研究：

- (1) ショック患者の麻酔と病態生理（ショック患者、敗血症患者への対策と麻酔）、
- (2) 外科侵襲防御（神経内分泌免疫系の評価）、
- (3) 周術期の循環動態制御・心機能評価（経食道心エコー、DOB負荷エコーによる評価）、
- (4) 心疾患患者の周術期管理（心筋虚血指標の変動）、
- (5) 周術期の体液代謝管理（膠質浸透圧変動、循環血液量変動測定）、
- (6) 外科系患者の集中治療と呼吸管理（周術期ストレス指標の評価）、
- (7) ペインクリニック（末梢神経機能評価、胸腔鏡下交感神経切除術の応用）、
- (8) 日帰り手術の麻酔管理（適応と安全性評価）

#### 基礎的研究：

- (1) 心、血管、内臓還流モデル（サイトカイン、麻酔薬による虚血保護）、
- (2) ショックモデル（抗ショック薬の検討、ガス状モノオキシドの検討）、
- (3) 培養細胞研究（アポトーシスとフリーラジカル）
- (4) パッチクランプモデル（麻酔薬と呼吸中枢、中枢神経活動）
- (5) 神経原性疼痛モデル（機序解明と鎮痛物質の作用）
- (6) PCRによる遺伝子発現の検討（ショック時発現物質、麻酔による脳内発現）など。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kishikawa H, Sakamoto A, Ogawa R : Nitric oxide suppresses hepatocyte apoptosis induced by free radicals . Biomedical Research 2001 ; 22 ( 2 ) : 83-89 .
- 2) Kawahara H, Sakamoto A, Takeda S, Onodera H, Imaki J, Ogawa R : A prostaglandin E2 receptor subtype EP1 receptor agonist (ONO-8711) reduces hyperalgesia, allodynia, and c-fosgene expression in rats with chronic nerve constriction . Anesthesia & Analgesia 2001 ; 93 ( 4 ) : 1012-1017 .
- 3) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital ) : The effects of diltiazem on hemodynamics and seizure duration during electroconvulsive therapy . Anesthesia and Analgesia 2001 ; 92 ( 5 ) : 1327-1330 .
- 4) Shimizu J, Sakamoto A, Ogawa R : Activation of the adenosine triphosphate sensitive mitochondrial potassium channel is involved in the cardioprotective effect of isoflurane . Journal of Nippon Medical School 2001 ; 68 ( 3 ) : 125-132 .

- 5) Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>2)</sup>, Ogura A, Inoue T<sup>2)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital ): Epidural anesthesia with lidocaine decreases propofol injection pain . Canadian Journal of Anesthesia 2001 ; 48 ( 6 ): 538-544 .
- 6) Sonoda S, Ogawa R : Changes in renal function during epidural analgesia and effect of noradrenalin . Anesthesia and Resuscitation 2001 ; 37 ( 6 ): 51-52 .
- 7) Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>2)</sup>, Ogura A, Inoue T<sup>2)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anaesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anaesthesia, Chiba Hokusoh Hospital ): Orally administered clonidine significantly reduces pain during injection of propofol . British Journal of Anaesthesia 2001 ; 86 ( 6 ): 874-876 .
- 8) Tokunaga A, Onda M, Yoshiyuki T, Onodera H, Fujita I, Mizutani T, Kiyama T, Kato S, Matsuoka N, Takano T, Ogawa R : Biochemical assessment of cardiac function in patients undergoing surgery for gastric cancer . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 4 ): 351-352 .
- 9) Burgener D, Laesser M, Treggiari-Venzi M, Oi Y, Jolliet P, Strasser S, Hadengue A, Neman A : Endothelin-1 blockade corrects mesenteric hypoperfusion in a porcine low cardiac output model . Critical Care Medicine 2001 ; 29 ( 8 ): 1615-1620 .
- 10) Xu X, Tajima H, Ishioh M, Watari J, Miyashita T, Kumazaki T, Ogawa R : Study on the treatment of treatment of tracheobronchial stenosis using expandable metallic stents . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ): 318-327 .
- 11) Suzuki N, Sakamoto A, Ogawa R : Effect of L-canavanine, an inhibitor of inducible nitric oxide synthase, on myocardial dysfunction during septic shock . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ): 13-18 .
- 12) Oshima M<sup>1)</sup>, Ogawa R, Daniel LM ( <sup>1)</sup> 第二病院麻酔科 ): Current perception threshold increases during pregnancy but does not change across menstrual cycle . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 1 ): 17-21 .
- 13) Iwasaki K, Sakamoto A, Hoshino T, Ogawa R : Electroconvulsive therapy with thiamylal or propofol during pregnancy . Canadian Journal of Anesthesia 2002 ; 49 ( 3 ): 324-325 .
- 14) Ishida H<sup>1)</sup>, Suganura T<sup>1)</sup>, Fujii E<sup>1)</sup>, Yoshikawa T, Muraki T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学医学部薬理学 ): A lipid analog ONO-4007 induces tolerance to plasma leakage in mice . Inflamm Res 2002 ; 51 ( 1 ): 38-43 .
- 15) Yamada R, Shuichi T, Hara Y, Tagawa M, Ogawa R : Apoptotic lymphocytes induced by surgical trauma in dogs . J Anesth 2002 ; 16 ( 2 ): 131-137 .
- 16) 小川 龍 : 麻酔と免疫 . Pharmacoaesthesiology 2001 ; 13 : 31-36 .
- 17) 坂本篤裕, 志賀俊哉, 小川 龍, 小泉 潔<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院外科第二 ): 胸腔鏡下胸部交感神経節切除術による多汗症治療の有効性と問題の検討 . 日美容外会報 2001 ; 23 ( 2 ): 61-67 .
- 18) 小川 龍 : ショック - ショックの治療にプロテアーゼインヒビターは役立つか? . 医のあゆみ 2001 ; 198 : 83-87 .
- 19) 遠藤正宏, 丸山晃一, 大越麻里子, 小川 龍 : 長時間開腹術の術中輸液に関する臨床的検討: 酢酸リンゲル液はどの位必要か? . 臨麻 2001 ; 25 : 1235-1240 .
- 20) 坂本篤裕, 小川 龍, 鈴木博子<sup>1)</sup>, 木村真人<sup>1)</sup>, 藤屋哲夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院神経科 ): 維持期電気痙攣療法に対する日帰り麻酔の安全性検討 . 日臨麻会誌 2001 ; 21 ( 10 ): 495-501 .
- 21) 大井良之, 小川 龍 : 脱血に対する輸液効果 -腸管微小循環を指標として . 自己血輸血学会誌 2001 ; 14 ( 2 ): 180-184 .
- 22) 北村 晶, 佐藤良一<sup>1)</sup>, Narahashi T<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University Medical School ): ラット皮質ニューロンにおける抑制性シナプス伝達へのハロセンおよびプロポフォルの作用への考察 . 麻と蘇生 2001 ; 37 ( 3 ): 69-70 .
- 23) 佐藤良一<sup>1)</sup>, 松田裕之<sup>2)</sup>, 北村 晶 ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University

Medical School, <sup>2)</sup>金沢医科大学第2生理学): 重症心不全患者より得たヒト心筋細胞における  $K_{ATP}$  チャンネルへのニコランジルの薬理作用. Therapeutic Research 2001; 22(4): 4-8.

- 24) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>第二病院麻酔科): AIII 低下開心術中にヘパリンに加えてアルガトロバン投与が有用であった二症例. 臨麻 2002; 26(1): 85-86.
- 25) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>第二病院麻酔科): 卵巣癌の術後に甲状腺クリーゼを発症した1症例. 臨麻 2002; 26(2): 235-236.
- 26) 小川 龍: 手術室での輸液と注意. 臨看 2002; 28: 873-876.
- 27) 大島正行<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍, 小河原美代子<sup>2)</sup>, 増子ハルミ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>同手術室): 過去20年における帝王切開患者の変遷. 手術医学 2002; 23: 183-184.
- 28) 小川 龍: ロジスチック分析. 救急集中治療 2002; 13: 128-131.

## (2) 綜説:

- 1) 坂本篤裕: ガス状ラジカルの動向. Medical Gases 2001; 3(1): 29-33.
- 2) 坂本篤裕: 体内における一酸化炭素(CO)産生とその役割. 呼吸と循環 2001; 49(8): 771-780.
- 3) 大井良之, 小川 龍: 術中輸液の組織を再評価する. 日臨麻会誌 2001; 21(7): 351-355.
- 4) 池崎弘之, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): 危機的呼吸障害患者の病態と管理: 心臓性低酸素血漿. ICUとCCU 2002; 25(6): 433-442.

## 著 書

- 1) 本郷 卓: [分担]胃カテーテルの挿入・留置法. 麻酔のHow to 技術編(小川 龍), 2001; pp194-195, 克誠堂出版.
- 2) 輪嶋善一郎: [分担]心機図. 麻酔のHow to 技術編(小川 龍), 2001; pp118-121, 克誠堂出版.
- 3) 清水 淳: [分担]肺動脈カテーテル留置・カテーテル位置確認法. 麻酔のHow to 技術編(小川 龍), 2001; pp22-25, 克誠堂出版.
- 4) 池崎弘之: [分担]大動脈バルーンパンピングの手法. 麻酔のHow to 技術編(小川 龍), 2001; pp138-139, 克誠堂出版.
- 5) 坂本篤裕: [分担]頸椎損傷患者における挿管法. 麻酔科診療プラクティス3巻「緊急手術の麻酔」(稲田英一), 2001; pp189-193, 文光堂.
- 6) 田中啓治<sup>1)</sup>, 池崎弘之(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): [分担]急性心不全; 急性心不全の治療: 人工呼吸, 呼吸管理 いつ始めるのか?. EBM 循環器疾患の治療(三田村秀雄, 山科 章, 川名正敏, 桑島 巖), 2001; pp363-369, 中外医学社.
- 7) 中西一浩: [分担]術後病棟・循環不全(ショック). 麻酔のHow to 診断編(小川 龍), 2001; pp206-209, 克誠堂出版.

## 学会発表

### (1) 教育講演:

- 1) 坂本篤裕: 心筋保護とサイトカイン. 日本臨床麻酔学会第21回大会, 2001. 10.

### (2) シンポジウム:

- 1) 北村 晶: 糖尿病性自立神経障害と麻酔管理. 日本臨床麻酔学会第21回大会, 2001. 10.
- 2) 大井良之: 周術期の輸液管理を考える(輸液シンポジウム). 第17回体液・代謝管理研究会, 2002. 1.
- 3) 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 中西一浩, 坂本篤裕, 池崎弘之, 金 徹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同外科第一): 手術侵襲による各種メディエーターの変化と生体反応. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 小川 龍：認定制度委員会（21世紀の麻酔科学会のありかた：各種委員会活動より）．日本麻酔科学会第48回大会，2001．4．

(4) ワークショップ：

- 1) 中西一浩，竹田晋浩，清水 淳，坂本篤裕，小川 龍：術前評価にEBMはあるか？．日本臨床麻酔学会第21回大会，2001．10．

(5) 一般講演：

- 1) Oi Y, Terajima K, Ogawa R：Re-evaluation of maintenance-type fluids during surgery．the 9th Annual Meeting of European Society of Anaesthesiology ( Göteborg, Sweden ), 2001．4．
- 2) Leasser M, Oi Y, Ewert S, Fändriks L, neman A：Pre-emptive angiotensin II receptor blockade increases survival during porcine endotoxin shock．the 9th Annual Meeting of European Society of Anaesthesiology ( Göteborg, Sweden ), 2001．4．
- 3) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>3)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Yale University School of Medicine, USA ): Oral tizanidine, an  $\alpha_2$ -adrenoceptor agonist, reduces minimum alveolar concentration ( MAC ) of sevoflurane．American Society of Anesthesiologists 2001 Annual Meeting ( New Orleans, Louisiana, USA ), 2001．10．
- 4) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>3)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Yale University School of Medicine, USA ): Intravenous Nicorandil Prevents Thiethylal-fentanyl-induced Bronchoconstriction．American Society of Anesthesiologists 2001 Annual Meeting ( New Orleans, Louisiana, USA ), 2001．10．
- 5) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>1)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital ): Prophylactic Administration of Intravenous Verapamil Blunts Hyperdynamic Responses during Electroconvulsive Therapy and Does not Seizure Duration．76th clinical and scientific congress of the international anesthesia research society ( IARS )( San Diego, CA USA ), 2002．3．
- 6) Shiga T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Addition of nitrous oxide to propofol alters global cardiac performance : an esophageal Doppler ultrasound study．76th clinical and scientific congress of the international anesthesia research society ( IARS )( San Diego, CA USA ), 2002．3．
- 7) 北村 晶, William M<sup>1)</sup>, Yeh J<sup>1)</sup>, 佐藤良一<sup>1)</sup>, Narahashi T<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University Medical School ): ラット皮質ニューロンにおけるハロセンおよびプロポフォールのシナプス伝達への影響．日本麻酔科学会第48回大会，2001．4．
- 8) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明, 今永和幸<sup>3)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup> 博慈会記念総合病院麻酔科, <sup>3)</sup> 三井記念病院麻酔科 ): プロポフォール単独麻酔, セボフルレン単独麻酔, プロポフォール・セボフルレン併用麻酔が電気痙攣療法時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響．日本麻酔科学会第48回大会，2001．4．
- 9) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明, 今永和幸<sup>3)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup> 博慈会記念総合病院麻酔科, <sup>3)</sup> 三井記念病院麻酔科 ): リドカイン静注が電気痙攣療法時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響．日本麻酔科学会第48回大会，2001．4．
- 10) 渡邊朋子, 小川 龍：カンレノ酸カリウムの術前投与は開腹術においてマグネシウムを保持するか．日本麻酔

科学会第48回大会, 2001. 4.

- 11) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明, 今永和幸<sup>3)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>博慈会記念総合病院麻酔科, <sup>3)</sup>三井記念病院麻酔科): プロスタグランディンE<sub>1</sub>の静注はチアミラール-フェンタニルにより生じる気道収縮を防ぐ. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 12) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明, 今永和幸<sup>3)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>博慈会記念総合病院麻酔科, <sup>3)</sup>三井記念病院麻酔科): チアミール-フェンタニルにより生じる気道収縮はヒスタミンに関連しない. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 13) 岩崎かな子<sup>1)</sup>, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 横田哲也<sup>1)</sup>, 上原 清<sup>1)</sup>, 野本幸子<sup>1)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>関東労災病院麻酔科): Sevoflurane (5%・8%) と propofol の導入法の比較・・・ Bispectral index からの検討. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 14) 杉本季久造<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 少量ケタミンと高齢者大腿骨頸部骨折. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 15) 赤田信二, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍 (<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): 延髄呼吸中枢におけるサリチル酸の影響. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 16) 坂羽秀徳, 北村 晶, 本郷 卓, 小川 龍: 長期ステロイド服用患者における周術期心筋虚血の検討. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 17) 坂本篤裕, 羽鳥信郎<sup>1)</sup>, 清水 淳, 小野寺英貴, 中島祐史, 小川 龍 (<sup>1)</sup>付属病院第二外科): エンドトキシンショック時の一酸化窒素・一酸化炭素関連とヘパリンによる抑制効果. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 18) 中西一浩, 竹田晋浩, 藤谷 仁, 山下理恵子, 小川 龍: 周術期における前負荷の最適指標は何か?. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 19) 中島祐史, 小川 龍: キラー細胞の誘導, 細胞障害に対する温度の影響. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 20) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明, 今永和幸<sup>3)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>博慈会記念総合病院麻酔科, <sup>3)</sup>三井記念病院麻酔科): ジルチアゼムが電気痙攣療法時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 21) 吉河達祐<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎<sup>2)</sup>, 小倉 明, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 西邑信男<sup>1)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院麻酔科, <sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): プロポフォール注入時痛は20%アルブミンの先行投与により有意に減少した. 日本麻酔科学会第48回大会, 2001. 4.
- 22) 金 徹, 中西一浩, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍 (<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): ミダグラムは頸動脈小体の活動電位を抑制する?. 日本麻酔・薬理学会第23回学術大会, 2001. 6.
- 23) 金 徹, 小林克也, 岸川洋昭<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 坂本篤裕, 田中啓治<sup>2)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>付属千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室): 薬剤性喉頭痙攣に続発したNPPEの1症例. 日本麻酔・薬理学会第23回学術大会, 2001. 6.
- 24) 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科): プロポフォールによる笑気を併用した場合の心機能の検討: 食道ドップラーモニターによる研究. 日本麻酔・薬理学会第23回学術大会, 2001. 6.
- 25) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 今永和幸<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>2)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>博慈会記念総合病院麻酔科): 脊椎麻酔直後に下肢に激痛を生じた1症例: プロポフォールは治療薬として有効か?. 第35回日本ペインクリニック学会, 2001. 7.
- 26) 寺嶋克幸, 坂本篤裕, 小川 龍: 四端紅痛症に対する胸腔鏡下胸部交感神経節焼灼術と腰部交感神経ブロックの効果. 日本ペインクリニック学会第35回大会, 2001. 7.
- 27) 寺嶋克幸, 池崎弘之, 竹田晋浩, 中西一浩, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 小川 龍, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一外科): 開胸開腹食道亜全摘術後の凝固機能異常と血栓症の発生について. 第38回日本外科代謝栄養学会, 2001. 7.

- 28) 北村 晶, 小川 龍, Narahashi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University Medical School): ラット皮質ニューロンにおける抑制性シナプス伝達への麻酔薬の作用. 第19回麻酔メカニズム研究会, 2001. 7.
- 29) 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 丸茂穂積<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 卵巣癌の術後に甲状腺クリーゼを発症した1症例. 第41回日本麻酔科学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 30) 小林克也, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍: 糖尿病患者における気管内挿管時の自律神経系への影響. 第41回日本麻酔科学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 31) 北澤由香, 大井良之, 小川 龍: 麻酔導入時の輸液負荷は必要か. 第41回日本麻酔科学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 32) 北村 晶, 佐藤良一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Molecular Pharmacology, Northwestern University Medical School): 全身麻酔薬のニューロンにおける影響: シングルチャンネル解析をもちいて. 第4回ヒト心筋電気生理研究会, 2001. 9.
- 33) 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 腸間膜牽引症候群による冠動脈スパズムの1症例. 日本臨床麻酔学会第21回大会, 2001. 10.
- 34) 四維東州, 北村 晶, 小川 龍: 脊椎麻酔におけるアドレナリン添加のsedationへの影響. 日本臨床麻酔学会第21回大会, 2001. 10.
- 35) 北村 晶, 小林克也, 小川 龍: 全身麻酔中の糖尿病患者へのhead-up tiltの影響. 日本蘇生学会第20回大会, 2001. 10.
- 36) 大島正行<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍, 小河原美代子<sup>2)</sup>, 増子はるみ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>第二病院中央手術室): 過去20年間での帝王切開手術患者の検討. 第23回日本手術医学会総会, 2001. 11.
- 37) 杉本季久造<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍, 増子はるみ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>第二病院中央手術室): ここ20年間での婦人科手術患者の変遷. 第23回日本手術医学会総会, 2001. 11.
- 38) 赤田信二<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 小川 龍, 原 千鶴<sup>1)</sup>, 前原茂子<sup>1)</sup>, 大林 香<sup>1)</sup>, 遠藤晴子<sup>1)</sup>, 金徹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): 気管内チューブカフ上部吸引. 持続的吸引と間歇的吸引の比較. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 39) 松村純也<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍, 金 徹<sup>1)</sup>, 中島祐史<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): ミルリノンによる肺コンプライアンスに対する効果. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.

## [ 第二病院麻酔科 ]

### 研究概要

従来の研究に引き続いて産科麻酔の研究を継続し, 硬膜外麻酔分娩の手法・方法, 帝王切開患者の変遷, 脊椎麻酔下帝王切開術での不整脈, また子宮収縮と硬膜外圧の変動についての研究を行った.

呼吸回路内に二酸化炭素を再呼吸させて測定する新しい心拍出量測定法を用いて腹腔鏡下手術での有用性を研究した. プロポフォルによるアナフィラキシー様反応, ATIII低下心臓手術でのアルゴトロパンの有用性, 術後甲状腺クリーゼ, 筋ジストロフィー患者の麻酔, 腸間膜牽引症候群に引き続いて発症した冠動脈スパズム, 冠動脈疾患と悪性腫瘍合併例での管理について報告した.

Current Perception Thresholdを用いた妊婦, 月経周期での変化や, 心電図への影響を報告した.

最近再評価されているケタミンを用いた大腿骨頸部骨折手術での有用性や婦人科手術患者の変遷について報告した.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Oshima M, Ogawa R<sup>1)</sup>, Menkes DL<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Neurology, University of Tennessee, Memphis, USA ): Current Perception Threshold Increases During Pregnancy but does not Change Across Menstrual Cycle . Journal of Nippon Medi Sch 2002 ; 69 ( 1 ): 17-21 .
- 2) 島田洋一: 硬膜外麻酔分娩の基本手技・方法・使用薬物・分娩と麻酔 2001 ; 81 : 67-74 .
- 3) 稲木敏一郎, 菊谷健彦, 横山健至, 杉本季久造, 島田洋一: 娩出児の異常によって筋緊張性ジストロフィーが判明した帝王切開術の1症例 . 神奈川医会誌 2001 ; 28 ( 2 ): 197-197 .
- 4) 菊谷健彦, 杉本季久造, 島田洋一, 寺嶋真理子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院産婦人科 ): プロポフォールによるアナフィラキシー様反応が疑われた1症例 . 臨麻酔 2001 ; 25 ( 11 ): 1771-1772 .
- 5) 大島正行, 稲木敏一郎, 菊谷健彦, 赤羽日出男, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): ATIII 低下患者の開心術中にヘパリンに加えてアルガトロバン投与が有用であった2症例 . 臨麻酔 2002 ; 26 ( 1 ): 85-86 .
- 6) 大島正行: 心電図モニター下でのCurrent Perception Threshold測定時, 二重盲検法では注意が必要 . 臨麻酔 2002 ; 26 ( 1 ): 109-109 .
- 7) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): 卵巣癌の術後に甲状腺クリーゼを発症した1症例 . 臨麻酔 2002 ; 26 ( 2 ): 235-236 .
- 8) 菊谷健彦, 稲木敏一郎, 杉本季久造, 島田洋一: 同一筋緊張性ジストロフィー患者に対する計3回の麻酔経験 . 麻酔 2002 ; 51 ( 3 ): 274-276 .

### 著書

- 1) 大島正行, 島田洋一: [ 分担 ] 肥大型心筋症 . 麻酔科診療プラクティス . 第1巻まれな疾患の麻酔, 2001 ; pp52-53, 文光堂 .
- 2) 大島正行: [ 分担 ] 4. 術後病棟 . 呼吸合併症 . 麻酔のHow to - 診断編 - ( 小川 龍編 ), 2001 ; pp200-201, 克誠堂 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) Suzuki M : Cardiac Output Monitoring by Carbon Dioxide Rebreathing Technique during Laparoscopic Surgery . 12th ASEAN Congress of Anaesthesiologists ( Philipines ), 2001 . 11 .
- 2) 杉本季久造, 稲木敏一郎, 横山健至, 大島正行, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): 少量ケタミンと高齢者大腿骨頸部骨折 . 日本麻酔科学会第48回大会, 2001 . 4 .
- 3) 内木亮介, 横山健至, 赤羽日出男, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): エピドラスコピーが効果的であった症例 硬膜外ブロック効果低下例を中心として . 日本ペインクリニック学会第35回大会, 2001 . 7 .
- 4) 稲木敏一郎, 大島正行, 横山健至, 菊谷健彦, 丸茂穂積, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): 卵巣癌の術後に甲状腺クリーゼを発症した1症例 . 第41回日本麻酔科学会関東甲信越地方会, 2001 . 9 .
- 5) 稲木敏一郎, 横山健至, 大島正行, 菊谷健彦, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): 腸間膜牽引症候群による冠動脈スパズムの1症例 . 日本臨床麻酔学会第21回大会, 2001 . 10 .
- 6) 横山健至, 稲木敏一郎, 大島正行, 菊谷健彦, 杉本季久造, 島田洋一: 冠動脈バイパス術を先行させた胃悪性腫瘍の1症例 . 日本臨床麻酔学会大会第21回大会, 2001 . 10 .

- 7) 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup>, 増子ハルミ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院麻酔科, <sup>2)</sup> 第二病院中央手術室): 過去20年間における帝王切開患者の変遷についての検討. 第23回日本手術医学会総会, 2001. 11.
- 8) 杉本季久造, 大島正行, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 増子ハルミ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院麻酔科, <sup>2)</sup> 第二病院中央手術室): ここ20年間における婦人科手術の変遷. 第23回日本手術医学会総会, 2001. 11.
- 9) 大島正行, 菊谷健彦, 島田洋一, 菊谷真理子<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>1)</sup>, 石原楷輔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院女性診療科・産科): 脊椎麻酔下での帝王切開術時にエフェドリンによる2度AVブロックを来たした1症例. 第103回分娩と麻酔研究会, 2001. 12.
- 10) 菊谷健彦, 菊谷真理子<sup>1)</sup>, 吉松和彦<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 大島正行, 小西英喜<sup>1)</sup>, 石原楷輔<sup>1)</sup>, 島田洋一(<sup>1)</sup> 第二病院女性診療科・産科): 子宮収縮と胸部硬膜外圧の変動. 第103回分娩と麻酔研究会, 2001. 12.
- 11) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 赤羽日出男, 杉本季久造, 島田洋一: ATIII低下開心術中ヘパリンに加えてアルガトロパンの併用が有用であった2症例. 平成13年度神奈川麻酔医会学術集会, 2002. 2.

## [ 多摩永山病院麻酔科 ]

### 研究概要

本年度も脊椎麻酔, 硬膜外麻酔を中心とした局所麻酔領域の臨床的研究を継続し, 報告した.

臨床研究に加えて, 当院女性診療科・産科の協力の下, 胎児, 新生児低酸素脳症に関する動物実験も継続し行ってきた.

ペインクリニック領域では, 様々な治療困難な痛みに対して, 新しい神経ブロックの治療方法を考案している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Nakai A<sup>1)</sup>, Shibasaki Y, Taniuchi Y<sup>1)</sup>, Oya A<sup>1)</sup>, Asakura H<sup>1)</sup>, Kuroda S<sup>2)</sup>, Koshino T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Neurosurgery, Hokkaido University): Influence of mild hypothermia on delayed mitochondrial dysfunction after transient intrauterine ischemia in the immature rat brain. *Developmental Brain Research* 2001; 128: 1-7.
- 2) 横山和子: 産褥期不安と疼痛. *総臨床* 2001; 50(9): 2505-2509.
- 3) 南須原宏城, 横山和子: 0.5%ピピバカイン脊椎麻酔におけるbaricityの違いによるdifferential blockadeの比較について. *麻酔* 2001; 50(9): 977-985.

##### (2) 研究報告書:

- 1) 横山和子: 合併症を有する超高齢者に対する等比重0.5%bupivacaineによる脊椎麻酔. *Pharmacoaesthesiology* 2001; 13(2): pp99-102.
- 2) 近江禎子, Lee Tat-L<sup>1)</sup>, 横山和子(<sup>1)</sup> シンガポール国立大学病院麻酔科): 日帰り麻酔における包皮輪状切除術に対するNSAID座薬の術後鎮痛への有用性. *Pharmacoaesthesiology* 2001; 13(2): pp148-149.
- 3) 飯野 治, 近江禎子, 横山和子: 0.25%高比重ピピバカインによる脊椎麻酔の広がりとは2分節下降時間. *麻酔* 2001; 50(7): pp762-765.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 横山和子: 脊椎麻酔の魅力と不可思議さ. 日本麻酔薬理学会第23回学術大会, 2001. 6.
- 2) 横山和子: 脊椎麻酔を上手に施行するには. 北海道麻酔薬理談話会, 2001. 7.



- 3) 横山和子：古くて新しい現在の脊椎麻酔．第41回日本麻酔学会関東甲信越地方会，2001．9．
- (2) シンポジウム：
- 1) 近江禎子：低流量麻酔．第5回日本医療ガス学会総会，2001．9．
- (3) 海外留学者講演：
- 1) 近江禎子：日帰り麻酔における包皮輪状切除術に対するNSAID座薬の術後鎮痛への有用性．第69回日本医科大学医学学会総会，2001．9．
- (4) 一般講演：
- 1) Yokoyama K, Oumi S, Nasuhara H：Comparison of Glucose-free Bupivacaine 0.5% and Bupivacaine 0.5% with Preservatives in Spinal Anesthesia．The American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine 26th Annual Meeting ( Vancouver ), 2001．5．
- 2) Oumi S, Yokoyama K：Influence of Bevel Direction of Quinke Needle on Spinal Anesthesia by Using 0.5% Glucose-free Bupivacaine．The American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine 26th Annual Meeting ( Vancouver ), 2001．5．
- 3) Oumi S, Yokoyama K：The Influence of Baricity on Differential Blockade with 0.5% Bupivacaine Spinal Anaesthesia．XX Joint Annual European Society of Regional Anaesthesia and European Society of Anaesthesiologists Congress ( Warsaw ), 2001．9．
- 4) Shibasaki Y, Yokoyama K, Iino O：The Spread of Spinal Analgesia by Using 0.5% Plain Bupivacaine for Caesarian Section．XX Joint Annual European Society of Regional Anaesthesia and European Society of Anaesthesiologists Congress ( Warsaw ), 2001．9．
- 5) Masuda R<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Yokoyama K, Kajiwara K<sup>1)</sup>, Tubota K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Chiba-Hokusou Hosp. ): Stellate Ganglion Block Increases Conjunctive Oxygen Tension and Decreases Intraocular Pressure．XX Joint Annual European Society of Regional Anaesthesia and European Society of Anaesthesiologists Congress ( Warsaw ), 2001．9．
- 6) 横山和子：0.5%ブピバカイン注とブピバカイン注脊麻用0.5%等比重液は脊椎麻酔薬としての違いはあるか．日本麻酔学会第48回大会，2001．4．
- 7) 近江禎子，横山和子：高比重0.5%ブピバカイン2.5mlによる脊椎麻酔．日本麻酔学会第48回大会，2001．4．
- 8) 近江禎子，山田光輝，横山和子：非観血の心拍出量モニターNICO<sup>TM</sup>使用による経尿道的前立腺切除術時の心拍出量の測定．日本麻酔学会第48回大会，2001．4．
- 9) 柴崎敬乃，中井章人<sup>1)</sup>，横山和子(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科)：免疫抑制剤TK506が一過性子宮内虚血による新生仔脳の遅発性エネルギー代謝不全に及ぼす影響について．日本麻酔学会第48回大会，2001．4．
- 10) 南須原宏城，柴崎敬乃，飯野 治，石原之法，山田光輝：ラテックスアレルギーが疑われた妊婦の帝王切開術に対する麻酔経験．第69回日本医科大学医学学会総会，2001．9．
- 11) 飯野 治，近江禎子，山田光輝：低濃度ヘモグロビン測定装置ヘモキューローヘモグロビンテストを用いたTUR-P中での出血量の把握．日本臨床麻酔学会第21回大会，2001．10．
- 12) 柴崎敬乃，中井章人<sup>1)</sup>，横山和子(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科)：母体体温変化が一過性子宮虚血再還流による新生仔脳障害に及ぼす影響について．日本臨床麻酔学会第21回大会，2001．10．
- 13) 近江禎子，横山和子：0.5%高比重ブピバカイン脊椎麻酔．第63回日本臨床外科学会総会，2001．10．
- 14) 益田律子<sup>1)</sup>，田沼久美子<sup>2)</sup>，斉藤敏之<sup>2)</sup>，横山和子，井上哲夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科，<sup>2)</sup>解剖学第2)：硬膜上腔とクモ膜下腔の解剖学的構造について．第14回日本局所麻酔学会，2001．11．

## [ 千葉北総病院麻酔科 ]

### 研究概要

「外科的侵襲に対する生体防御反応の調整・抑止」,「硬膜外麻酔・脊椎麻酔の生体への影響および管理法・手技」をテーマとした臨床研究が継続されている。

本年度も、手術室、病室、外来（ペインクリニック）など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践主義に基づいた研究が行われた。目標として患者の苦痛の除去、QOLの改善はもとより、医師側の治療への協力・助力となる方向での手技的配慮などが含まれる。鎮痛法（術後鎮痛、難治性疼痛、脊椎麻酔、神経ブロック）の向上に向けた研究は、継続して行うことにしている。

産科麻酔後の鎮痛法、プロポフォール麻酔による鎮静度の評価、慢性疼痛患者の痛覚認識の特徴、電気痙攣療法の麻酔管理、麻酔中の気道の保護、モニタリングや薬物などに関する新たな知見が得られつつあるところである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Wajima Z, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A, Imanaga K, Shiga T, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesia Haku-jikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesia Nippon Medical School ): The effects of diltiazem on hemodynamics and seizure duration electroconvulsive therapy . *Anesthesia and Analgesia* 2001 ; 92 ( 5 ) : 1327-1330 .
- 2) Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Wajima Z, Ogura A<sup>2)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anaesthesia, Haku-jikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Anaesthesia, Nippon Medical School ): Orally administered clonidine significantly reduces pain injection of propofol . *British Journal of Anaesthesia* 2001 ; 86 ( 6 ) : 874-876 .
- 3) Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Wajima Z, Ogura A<sup>2)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesia, Haku-jikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesia, Nippon Medical School ): Epidural anesthesia with lidocaine decreases propofol injection pain . *Canadian Journal of Anesthesia* 2001 ; 48 ( 6 ) : 538-544 .

##### (2) 総説：

- 1) 井上哲夫, 久保田博南<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> K&K ジャパン Ltd. ): 規格化が進むパルスオキシメータのキャリブレーション . *クリニカル・エンジニアリング* 2001 ; 12 ( 6 ) : 519-522 .
- 2) 井上哲夫 : 困難気道の管理 : 特に器具について . *LiSA 別冊* 2001 ; 8 ( 6 ) : 12-23 .
- 3) 益田律子 : 頭痛・顔面痛に対する神経ブロック療法 . *痛みと臨床* 2001 ; 1 ( 2 ) : 69-75 .
- 4) 益田律子 : 高比重液と等比重液の使い分け , プピバカインとテトラカインの使い分け . *臨麻* 2001 ; 25 ( 6 ) : 998-1000 .
- 5) 益田律子, 萩原万里子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都立荏原病院神経内科 ): 頭痛の予防的管理 . *臨床と薬物治療* 2001 ; 20 ( 12 ) : 1283-1287 .

#### 著書

- 1) 益田律子 : [ 分担 ] エアウェイの使い方 . 麻酔の How to - 技術編 - ( 小川 龍 ), 2001 ; pp84-85 , 克誠堂 .
- 2) 輪嶋善一郎 : [ 分担 ] 心機図 . 麻酔の How to - 技術編 - ( 小川 龍 ), 2001 ; pp118-121 , 克誠堂出版 .
- 3) 益田律子 : [ 分担 ] 結膜酸素分圧と眼圧におよぼす影響 . 星状神経節ブロックの生理学的意義 ( 小川節郎 ), 2001 ; pp138-149 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版 .
- 4) 益田律子 : [ 分担 ] 硬膜外カテーテル挿入時に血管穿刺をしてしまったとき . 麻酔科診療プラクティス 3 ( 稲田英一 ), 2001 ; pp222-223 , ( 株 ) 文光堂 .

- 5) 井上哲夫：〔分担〕定型的気管切開法・臨床応用と合併症．集中治療医学講座13：気管切開・外科的気道確保のすべて（丸川征四郎），2002；pp20-25，医学図書出版．

#### 学会発表

〔2000年度追加分〕

#### シンポジウム：

- 1) 小倉 明：硬膜外麻酔併用全身麻酔時の局所麻酔薬の投与方法．第7回硬膜外麻酔研究会（金沢），2001．2．

#### （1）一般講演：

- 1) Masuda R, Inoue T, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Kajiwar K<sup>2)</sup>, Tsubota K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Tamagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> The Institute of Physical and Chemical Research, <sup>3)</sup> Department of Ophthalmology, Ichikawa General Hospital, Tokyo Dental College ): Stellate ganglion block increases conjunctival oxygen tension and decreases intraocular pressure . ESRA XX Annual Congress [Highlights in Regional Anaesthesia and Pain Therapy ( Warsaw ), 2001 . 9 .
- 2) Wajima Zen'ichiro, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Imanaga K, Shiga T, Inoue T, Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesiology, Yale University School of Medicine, <sup>3)</sup> Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Oral tianidine, an  $\alpha_2$ -adrenoceptor agonist, reduces minimum alveolar concentration ( MAC ) of sevoflurane . American Society of Anesthesiologists 2001 Annual Meeting ( New Orleans ), 2001 . 10 .
- 3) Wajima Zen'ichiro, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Imanaga K, Shiga T, Inoue T ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesiology, Yale University School of Medicine, <sup>3)</sup> Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Intravenous nicorandil prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction . American Society of Anesthesiologists 2001 Annual Meeting ( New Orleans ), 2001 . 10 .
- 4) Ogura A<sup>1)</sup>, Inoue T, Wajima Z, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Kazuyuki I ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology, Yale University School of Medicine, <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai Memorial Hospital ): Approaches for epidural catheterization in the lumbar region . American Society of Anesthesiologists 2001 Annual Meeting ( New Orleans ), 2001 . 10 .
- 5) Wajima Z, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Imanaga K<sup>3)</sup>, Toshiya S<sup>4)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Dept. of Anesthesiology, Mitsui Memorial Hospital ): Prophylactic administration of intravenous verapamil blunts hyperdynamic responses during electroconvulsive therapy and does not shorten seizure duration . 76th Clinical and Scientific Congress of the International Anesthesia Research Society ( IARS )( San Diego ), 2002 . 3 .
- 6) Shiga T<sup>1)</sup>, Wajima Z, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Center of Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation, <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Addition of nitrous oxide to propofol alters global cardiac performance : an esophageal Doppler ultrasound study . 76th Clinical and Scientific Congress of the International Anesthesia Research Society ( IARS )( San Diego ), 2002 . 3 .
- 7) 益田律子, 井上哲夫, 横山和子<sup>1)</sup>, 輪嶋善一郎, 山口真人 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院 ): 帝王切開における脊椎麻酔薬としての等比重プロピバカイン濃度と用量および臨床効果 . 日本麻酔学会第48回大会, 2001 . 4 .
- 8) 輪嶋善一郎, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>2)</sup>, 今永和幸<sup>3)</sup>, 志賀俊哉, 井上哲夫 ( <sup>1)</sup> 博慈会記念病院麻酔科, <sup>2)</sup> Yale 大学麻酔科, <sup>3)</sup> 三井記念病院麻酔科 ): プロスタグランジンE1の静注はチアミラルール フェンタニルにより生じる気道収縮を防ぐ . 日本麻酔学会第48回大会, 2001 . 4 .
- 9) 輪嶋善一郎, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>2)</sup>, 今永和幸<sup>3)</sup>, 志賀俊哉, 井上哲夫 ( <sup>1)</sup> 博慈会記念病院麻酔科, <sup>2)</sup> Yale

大学麻酔科,<sup>3)</sup>三井記念病院麻酔科):チアミラルル フェンタニルにより生じる気道収縮はヒスタミンに関連しない.日本麻酔学会第48回大会,2001.4.

- 10) 輪嶋善一郎,吉河達祐<sup>1)</sup>,小倉 明<sup>2)</sup>,今永和幸<sup>3)</sup>,志賀俊哉,井上哲夫(<sup>1)</sup>博慈会記念病院麻酔科,<sup>2)</sup>Yale大学麻酔科,<sup>3)</sup>三井記念病院麻酔科):リドカイン静注が電気痙攣療法時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響.日本麻酔学会第48回大会,2001.4.
- 11) 輪嶋善一郎,吉河達祐<sup>1)</sup>,小倉 明<sup>2)</sup>,今永和幸<sup>3)</sup>,志賀俊哉,井上哲夫(<sup>1)</sup>博慈会記念病院麻酔科,<sup>2)</sup>Yale大学麻酔科,<sup>3)</sup>三井記念病院麻酔科):プロポフォール単独麻酔,セボフルレン単独麻酔,プロポフォール・セボフルレン併用麻酔が電気痙攣療法時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響.日本麻酔学会第48回大会,2001.4.
- 12) 輪嶋善一郎,吉河達祐<sup>1)</sup>,小倉 明<sup>2)</sup>,今永和幸<sup>3)</sup>,志賀俊哉,井上哲夫(<sup>1)</sup>博慈会記念病院麻酔科,<sup>2)</sup>Yale大学麻酔科,<sup>3)</sup>三井記念病院麻酔科):ジルチアゼムが電気痙攣療法時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響.日本麻酔学会第48回大会,2001.4.
- 13) 志賀俊哉,輪嶋善一郎,井上哲夫,小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科):プロポフォールに笑気を併用した場合の心機能の検討:食道ドップラーモニターによる研究.日本麻酔・薬理学会第23回大会,2001.6.
- 14) 益田律子,井上哲夫,竹井麻生<sup>1)</sup>,山口真人,小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科):特発性低頭蓋内圧症候群の臨床的検討:ペインクリニックの立場から.日本ペインクリニック学会第35回大会,2001.7.
- 15) 輪嶋善一郎,今永和幸<sup>1)</sup>,志賀俊哉,吉河達祐<sup>2)</sup>,小倉 明,井上哲夫,小川 龍<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>三井記念病院麻酔科,<sup>2)</sup>博慈会記念病院麻酔科,<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院麻酔科):脊椎麻酔直後に下肢に激痛を生じた1症例:プロポフォールは治療薬として有効か?.日本ペインクリニック学会第35回大会,2001.7.
- 16) 山口真人,北村純一<sup>1)</sup>,益田律子,池田健次<sup>2)</sup>,井上哲夫(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院リハビリテーション科,<sup>2)</sup>流山中央病院麻酔科):不随意筋収縮を伴う開胸術後疼痛症候群において顕在化したSkin-Muscle Network.日本ペインクリニック学会第35回大会,2001.7.
- 17) 池崎弘之<sup>1)</sup>,竹田晋浩<sup>1)</sup>,井上哲夫,小川 龍<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室,<sup>2)</sup>同麻酔科):当院ICUでのIntra-pulmonary Percussion Ventilator の効果:特に背側肺障害に対して.第23回日本呼吸療法医学会・第11回日本呼吸管理学会合同学術集会,2001.8.
- 18) 益田律子,田沼久美子<sup>1)</sup>,斎藤敏之<sup>1)</sup>,井上哲夫,横山和子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第2,<sup>2)</sup>多摩永山病院麻酔科):硬膜外上腔とクモ膜下腔の解剖学的構造について.第14回日本局所麻酔学会,2001.11.

## 18．救急医学講座

### [ 付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック ]

#### 研究概要

平成 13 年度の研究概要を班別に述べる．

##### 1. 外傷班：

多発外傷の治療成績を TRISS method による unexpected death 症例の検討を行った．重症症例では damage control surgery や abdominal compartment syndrome についての症例，治療，総説等を報告した．また，外傷の評価，治療に関して PTCJ, JATEC への参加，協力をを行っている．

##### 2. 熱傷班：

- 1) 過去 30 年間の臨床成績を検討し，同種植皮術・スキンバンク・人工真皮の有用性についての検討を行った．
- 2) 熱傷患者における鎮痛・鎮静に対する持続プロポフォール・フェンタネスト療法の研究を行った．
- 3) 厚生省ミレニアムプロジェクトの班員となり，同種真皮の研究を行った．
- 4) 国際協力としてベトナム熱傷センターにて講演し，交流を深めた．

##### 3. 脳外班：

例年に引き続き重症頭部外傷，脳血管障害の先駆的なモニタリングを実施した．本年は S-100 protein に着目し，予後との関係を明らかにした．

##### 4. 災害班：

厚生科学研究「Mass-gathering における集団災害ガイドラインの作成とその評価に関する研究」として，FIFA ワールドカップにおける集団災害対応のためのマニュアルの整備，教科書，ビデオの作成を行った．また国際緊急援助に関する研究としては，JMTDR における研修のあり方，活動の評価法に関する研究を行った．

##### 5. 感染症班：

救命救急センターにおける MRSA，多剤耐性緑膿菌等の検出状況調査と感染予防として手洗い，ガウンテクニク等の指導，徹底率の評価を行った．また，MRSA に関して入院時からの保菌者と入院後感染者の検討を行った．

##### 6. 整形班：

脊髄損傷の予後因子の解析と脂肪塞栓症候群の病態解明の研究をすすめた．

##### 7. 中毒班：

現在繁用されている消毒薬 chlorhexidine gluconate の急性中毒に関し，ラットを用いて薬理的検討を行った．症例報告 Chlorhexidine gluconate ingestion resulting in fatal respiratory distress syndrome を Vet Hum Toxicol に投稿した．FPIA 分析を導入し，一般用感冒剤主成分 acetaminophen 中毒の早期診断を可能とした．包括化医療に向け，薬毒物中毒のクリティカルパスを検討中である．

##### 8. 病態生理：

頭部外傷急性期における凝固線容動態の検討を行い，過剰線溶，フィブリノゲン分解の重要性を論文にて報告した．また，敗血症における凝固系を中心とした病態解析，ナトリウム利尿ペプチドの病態への関与を解析した．

##### 9. 基礎研究班：

出血性ショック後の ARDS/MOF の発現機序を解明することを主テーマとした．特に腸間膜リンパ液の役割を明らかにし，リンパ液中に存在する mediators の同定・定量の研究を行った．さらに代用血液の出血性ショック後の多臓器不全への効果について検討している．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Aiboshi J, Moore EE<sup>1)</sup>, Ciesla DJ<sup>1)</sup>, Sillimann CC<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Denver Health Medical Center): Blood transfusion and the two-insult model of post-injury multiple organ failure. Shock 2001; 15(4): 302-306.
- 2) Shimura T, Sugisaki Y, Fukino K, Node Y, Teramoto A, Kawamoto M: Detection of Epstein-Barr virus DNA and expression of CD30 antigen in primary anaplastic diffuse large B-cell lymphoma of the brain. Brain Tumor Pathol 2001; 18: 161-165.
- 3) Kushimoto S, Yamamoto Y, Shibata Y<sup>1)</sup>, Sato H, Koido Y(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部): Implications of excessive fibrinolysis and 2-plasmin inhibitor deficiency in patients with severe head injury. Neurosurgery 2001; 49(5): 1084-1090.
- 4) Hata N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Makino T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属病院集中治療室, <sup>3)</sup> 新東京国際空港クリニック): Prognosis of economy class syndrome treated in intensive care unit. Internal Medicine 2002; 141(2).
- 5) 小井土雄一, 森村尚登<sup>1)</sup>, 勝見 敦<sup>2)</sup>, 杉本勝彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 昭和大学横浜市北部病院救命センター助教授): 2002年 FIFA ワールドカップ大会における集団災害医療体制計画. 救急医 2001; 26(2): 205-210.
- 6) 小井土雄一, 小池 薫, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. Therapeutic Research 2001; 22(11): 2423-2445.
- 7) 久志本成樹, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 山本保博, 小池 薫, 小井土雄一, 川井 真, 佐藤秀貴(<sup>1)</sup> 付属病院中央検査部): 頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解の関与. バイオメディカル 2001; 11: 19-29.
- 8) 吉田竜介, 山本保博: 第三次救急医療施設での保険請求の査定における問題点: 腹部救急疾患を中心に. 日腹部救急医学会誌 2001; 21(5): 823-829.
- 9) 吉田竜介, 小井土雄一, 山本保博: 救急救命士要請課程からみた救急救命士教育に関する総合的検討. 日臨救急医学会誌 2001; 4(4): 372-379.
- 10) 佐藤秀貴, 野手洋治, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博, 池田幸穂: クモ膜下出血患者における脳脊髄液および血清中 S-100 蛋白の測定: 機能予測の予後. 救急集中治療 2001; 13(1): 147-148.
- 11) 本間正人<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 災害時におけるヘリコプター搬送: 大型ヘリコプターを用いた災害訓練の経験から. 日集団災医学会誌 2001; 5: 121-128.
- 12) 本間正人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 医療機関における外傷医療の質の確保. 日外傷会誌 2001; 15(4): 312-313.
- 13) 本間正人<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): NBC 災害における病院施設面の対策. プレホスピタルケア 2001; 14(6): 15-19.
- 14) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター救命救急センター): 脊髄麻痺を伴った頸椎損傷の治療: 早期神経除圧の意義. 日救急医学会誌 2002; 13(2): 57-62.
- 15) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 松浦知史<sup>1)</sup>, 真鍋公二<sup>1)</sup>, 太田知明<sup>1)</sup>, 川井 真, 大泉 旭, 原 義明<sup>2)</sup>, 野崎正太郎(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター整形外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属千葉北総病院): 出血性ショックを伴った骨盤骨折の初期治療: pelvic C-clamp の使用経験. 骨折 2002; 23(1): 78-81.
- 16) 松浦有里子, 小池 薫, 辻井厚子, Saeed S, 久志本成樹, 山本保博: マウスにおける小腸虚血・再灌流後の遠隔臓器障害の検出. 救急医 2002; 13(3): 144-150.

(2) 綜説：

- 1) Makino T<sup>1)</sup>, Asano Y<sup>1)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup>, Yamashita K<sup>2)</sup>, Yamamoto Y ( <sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>2)</sup> 附属千葉北総病院集中治療部, <sup>3)</sup> 同内科): International airports and pulmonary thromboembolism. 血栓止血誌 2001 ; 12 ( 6 ) .
- 2) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 日本における腹部外傷診断の現状とその問題点. 日外傷会誌 2001 ; 15 : 97-109 .
- 3) 太田圭亮<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): ACLSにおける新しい薬剤の投与. 救急医 2001 ; 25 : 565-568 .
- 4) 山本保博, 吉田竜介, 小井土雄一: AHA Guidelines 2000改訂の背景. 救急医 2001 ; 25 ( 5 ): 499-502 .
- 5) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 救命救急センターから見る交通事故. たしかな目 2001 ; 46-47 .
- 6) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 日常診療の指針 外傷患者の救命率向上を目指して: Preventable Trauma Death ( 避け得た外傷死 ) を減少させるには. 外科治療 2001 ; 85 : 107-108 .
- 7) 小井土雄一, 山本保博: ショックの定義と分類, 重症度. 臨床医 2001 ; 27 ( 8 ): 2080-2083 .
- 8) 石川誠彦<sup>1)</sup>, 大友康裕 ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター救命救急センター): 創傷の外科的処置. 救急医 2001 ; 25 : 1466-1472 .
- 9) 小井土雄一, 吉田竜介, 山本保博: 酸素投与. 救急医 2001 ; 25 ( 10 ): 1333-1341 .
- 10) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 新東京国際空港クリニック): OxygenationとVentilationに関する新しい考え方. 救急医 2001 ; 25 ( 10 ): 1333-1341 .
- 11) 辺見 弘<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 特集/第15回日本外傷学会シンポジウム「日本の外傷医療の問題点と今後の課題: 21世紀へ向けての展望」 基調講演: 日本外傷医療の実状. 日外傷会誌 2001 ; 15 : 298-301 .
- 12) 辺見 弘<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 特集/第15回日本外傷学会シンポジウム「日本の外傷医療の問題点と今後の課題-21世紀へ向けての展望」. 日外傷会誌 2001 ; 15 : 304-305 .
- 13) 小関一英<sup>1)</sup>, 坂本哲也, 杉本勝彦<sup>2)</sup>, 森村尚登<sup>3)</sup>, 木村昭夫<sup>4)</sup>, 小井土雄一, 大友康裕<sup>5)</sup>, 菊野隆明, 新藤正輝, 松田 潔<sup>6)</sup>, 平間久雄<sup>6)</sup>, 松園幸雅<sup>6)</sup>, 寺田泰蔵<sup>7)</sup>, 益子邦洋<sup>8)</sup>, 有賀 徹, 高柳 和江 ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター, <sup>2)</sup> 昭和大学横浜市北部病院, <sup>3)</sup> 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター, <sup>4)</sup> 国立国際医療センター, <sup>5)</sup> 国立病院東京災害医療センター, <sup>6)</sup> 山梨県立中央病院, <sup>7)</sup> 公立昭和病院, <sup>8)</sup> 千葉北総病院 ): 特集/第15回日本外傷学会シンポジウム「日本の外傷医療の問題点と今後の課題: 21世紀へ向けての展望」Trauma registryによって構築した日本版TRISSによる外傷重症度評価法. 日外傷会誌 2001 ; 15 : 310-311 .
- 14) 小井土雄一: 硫酸アトロピン ( アトクイック 0.05%注シリンジ ). 臨麻 2001 ; 25 ( 10 ): 1611-1613 .
- 15) 野口裕幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 高度救命救急センター臨床工学技士): 人工呼吸器に起こりうる事故とその防止. 月刊ナーシング 10月号 2001 .
- 16) 山本保博, 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属多摩永山病院救命救急センター): 来院時心肺停止症例と突然死. Cardiovascular Med-Surg 2001 ; 3 ( 4 ): 43 ( 439 ) -47 ( 443 ) .
- 17) 太田圭亮<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター): 二次救命処置における薬剤の使い方: AHA Guidelines 2000を踏まえて. Emergency Nursing 2001 2001 ; 14 : 1119-1123 .
- 18) 山本保博: 国際化の進展と危機管理. 救急医療ジャーナル 2001 ; 9 ( 9 ): 3-3 .
- 19) 久志本成樹: 血球貧食症候群. Surgery Frontier 2001 ; 8 ( 3 ): 28-33 .
- 20) 久志本成樹, 相星淳一, 新井正徳: ショックとDIC. ICUとCCU 2001 ; 25 ( 11 ): 833-841 .
- 21) 吉田竜介, 寺田泰蔵<sup>1)</sup>, 山本保博, 前川和彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 公立昭和病院, <sup>2)</sup> 東京大学附属病院救急部): 米国の病院前

救護体制におけるメディカルコントロールおよび本邦における問題点と今後の対応について．救急医療ジャーナル 2001；47（9）：11-14．

- 22) 吉田竜介，寺田泰蔵<sup>1)</sup>，山本保博，前川和彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 公立昭和病院，<sup>2)</sup> 東京大学附属病院救急部)：病院前救護におけるメディカルコントロールについて：米国 prehospital care 事情の調査結果から．現代医療 2001；33（3）：735-740．
- 23) 吉田竜介，山本保博：Advanced challenges in resuscitation．救急集中治療 2001；13（7）：713-724．
- 24) 川井 真：後方病院の現状と課題．救急医 2001；25（8）：934-935．
- 25) 本間正人<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター)：21世紀の日本の外傷医療：米国の外傷医療から学ぶべきもの．日外傷会誌 2001；15（2）：78-96．
- 26) 本間正人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター)：救命救急・必ず遭遇する急変時の対応：中心静脈がとれなくても．レジデントノート 2001；3（4）：38-43．
- 27) 牧野俊郎(<sup>1)</sup> 新東京国際空港クリニック)：日本医科大学新東京国際空港クリニック．救急医療ジャーナル 2002；10（1）：40-44．
- 28) 牧野俊郎(<sup>1)</sup> 新東京国際空港クリニック)：成田空港にみる旅行者血栓症いわゆるエコノミークラス症候群の実態．Medical ASAHI 2002；2：29-31．
- 29) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター)：化学災害事故におけるトリアージと除染．救急医 2002；26：219-223．
- 30) 山本保博，田中一成<sup>1)</sup>，小井土雄一，浅井康文<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学医療管理学，<sup>2)</sup> 札幌医科大学救急集中治療部)：Mass-gathering medicine とは-Introduction of mass-gathering medicine．救急医 2002；26（2）：191-194．
- 31) 山本保博，川井 真，二宮宣文，望月 徹<sup>1)</sup>，野口裕幸<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 高度救命救急センター臨床工学技士)：医療機関のバイオテロ対策．月刊保険診療 2002；57（2）：65-70．
- 32) 山本保博，横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター)：予後評価とインフォームドコンセント．救急・集中治療 2002；14（4）：331-336．
- 33) 野手洋治：頭蓋骨 osteoblastoma．Clinical Neuroscience 2002；20（1）：107-108．
- 34) 本間正人<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター)：化学災害事故におけるトリアージと除染：医療機関前除染エリア．救急医 2002；26：235-238．
- 35) 本間正人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター)：アメリカにおける NBC（放射線，生物，化学）テロ災害対策の現状．日病会誌 2002；49（4）：530-532．

### (3) 研究報告書：

- 1) 山本保博，小井土雄一，勝見 敦<sup>1)</sup>，森村尚登<sup>2)</sup>，杉本勝彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 武蔵野赤十字病院，<sup>2)</sup> 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター，<sup>3)</sup> 昭和大学横浜市北部病院)：2002年FIFAワールドカップ大会における集団災害医療体制計画作成のためのガイドライン．2002年FIFAワールドカップ大会における集団災害医療体制計画作成のためのガイドライン 2001．
- 2) 山本保博：災害時における Mobile ICUの有用性に関する研究．厚生科学特別研究事業「沖縄サミットにおける地域の危機管理体制のあり方に関する研究（H12-特別-006） 2001；pp102-112．
- 3) 山本保博<sup>1)</sup>，浅井康文<sup>2)</sup>，石井 昇<sup>3)</sup>，石原 哲<sup>4)</sup>，勝見 敦<sup>5)</sup>，小井土雄一<sup>6)</sup>，杉本勝彦<sup>7)</sup>，杉山 貢<sup>8)</sup>，藤井千穂<sup>9)</sup>，辺見 弘<sup>10)</sup>，森村尚登<sup>8)</sup>，研究協力者：太田宗夫（日本集団災害医学会），布施明（川口市立病院救命救急センター），広瀬保夫（新潟市民病院救命救急センター），山崎元靖（東北大学医学部附属病院救急部），奥村徹（川崎医科大学救急医学）(<sup>1)</sup> 主任研究者，<sup>2)</sup> 分担研究者（札幌医科大学附属病院救急集中治療部），<sup>3)</sup> 分担研究者（神戸大学医学部救急部），<sup>4)</sup> 分担研究者（白鬚橋病院），<sup>5)</sup> 分担研究者（武蔵野赤十字病院救命救急センター），<sup>6)</sup> 分担研究者（日本医科大学附属病院高度救命救急センター），<sup>7)</sup> 分担研究者（昭和大学横浜市北部病院救命救急センター），<sup>8)</sup> 分担研究者（横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター救命救急センター），



9) 分担研究者 (大阪府立千里救命救急センター), 10) 分担研究者 (国立病院東京災害センター救命救急センター): Mass gathering における集団災害医療体制作成のためのマニュアル (2002年 FIFA ワールドカップ大会における集団災害医療体制モデル). 厚生科学研究「Mass gathering における集団災害ガイドラインの作成とその評価に関する研究」班 2002.

- 4) 山本保博, 桑原紀之<sup>1)</sup>, 岩本愛吉<sup>2)</sup>, 大久保一郎<sup>3)</sup>, 岡部信彦<sup>4)</sup>, 小竹久平<sup>4)</sup>, 佐多徹太郎<sup>4)</sup>, 中村 修<sup>5)</sup>, 原口義座<sup>6)</sup>, 川井 真, 二宮宣文, 小井土雄一, 望月 徹<sup>7)</sup>, 野口裕幸<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>自衛隊中央病院研究検査部, <sup>2)</sup>東京大学医科学研究所, <sup>3)</sup>筑波大学社会医学系, <sup>4)</sup>国立感染症研究所, <sup>5)</sup>慶応大学環境情報学, <sup>6)</sup>国立病院東京災害医療センター, <sup>7)</sup>付属病院千葉北総病院救急部, <sup>8)</sup>救命救急センター臨床工学技士): 大規模感染症発生時の緊急対応のあり方に関する研究. 平成13年度厚生科学研究費補助金 新興・再興研究事業 2002.
- 5) 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>主任研究者): 大規模感染症発生時の緊急対応のあり方に関する研究 (総合研究報告書). 平成13年度厚生科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「大規模感染症発生時の緊急対応のあり方に関する研究」班 2002.
- 6) 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大規模感染症発生時の緊急対応のあり方に関する研究班主任研究者): 「天然痘アウトブレイク (Cold Summer)」シミュレーションと対応のためのツールキット. 平成13年度厚生科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「大規模感染症発生時の緊急対応のあり方に関する研究」班 2002.

#### (4) その他:

- 1) 吉田竜介, 山本保博: プレホスピタルケアにおけるメディカルコントロールの考え方. 救急医 2001; 25 (13): 1803-1806.
- 2) 野手洋治: Neuroimaging Quiz: pilocytic astrocytoma. Clinial Neuroscience 2001; 19: 93-94.
- 3) 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博, 野手洋治, 小井土雄一, 久志本成樹, 松園幸雅 (<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 臓器提供施設からみた臓器提供手順の問題点. 日急医誌 2002; 13 (2): 73-77.

#### (5) 症例報告:

- 1) Kushimoto S, Mun M, Yamamoto Y, Harada N, Sato N, Koido Y: Duodenal mucosal injury caused by blunt abdominal trauma. J Trauma 2001; 51 (3): 591-593.
- 2) 堀内義仁<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>2)</sup>, 大友康裕<sup>2)</sup>, 友保洋三<sup>3)</sup>, 辺見 弘<sup>2)</sup>, 荒井他嘉司<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター皮膚科, <sup>2)</sup>同救命救急センター, <sup>3)</sup>同臨床研究部, <sup>4)</sup>同院長): 災害対応訓練におけるLDRPSの応用: とくにチェック項目と評価について. 日本集団災害医学会誌 2001; 6: 48-51.
- 3) 増野智彦, 久志本成樹, 小池 薫, 新井正徳, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 山本保博 (<sup>1)</sup>国立国際医療センター): 単球 HLA-DR のモニター下にインターフェロン 療法を施行した sepsis の1例. 日救医学会誌 2001; 12 (6): 308-313.
- 4) 小川 令<sup>1)</sup>, 石丸さやか<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 原田尚重, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博 (<sup>1)</sup>形成外科): 治療に難渋した肛門・臀部III度熱傷の1例. 熱傷 2001; 27 (5): 271-277.
- 5) 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 三橋 清<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 野手洋治 (<sup>1)</sup>形成外科): 50歳女性の前頭骨に発生した骨肉腫の1症例. 形成外科 2001; 44 (3): 257-264.

#### 著 書

- 1) 久志本成樹, 山本保博: [分担] 多発外傷の初期診療と重傷度の評価. 救急医療カラーアトラス, 2001; pp680-695, 医薬ジャーナル社.
- 2) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): [分担] 研修医のための最新救命救急マニュアル: 胸部外傷. 研修医のための最新救命救急マニュアル (大塚敏文), 2001; pp129-140, メディカルジャーナル社.
- 3) 小井土雄一: [分担] 胸腔穿刺法. 麻酔のHOW TO技術編 (小川 龍), 2001; pp158-161, 克誠堂.
- 4) 加藤 宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): [分担] 指切断と再接着. 研修医のための最新救命救急MANUAL (大塚敏文), 2001; pp162-166, メディカルジャーナル社.

- 5) 山本保博：〔分担〕溺水・呼吸器疾患の最新の治療，2001；pp170-172，南江堂．
- 6) 加藤 宏<sup>1)</sup>，小原 周<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター，<sup>2)</sup>昭和大学藤ヶ丘病院整形外科)：〔分担〕創外固定による開放性骨折の治療．MB Orthopaedics (川井 真)，2001；pp92-97，全日本病院出版会．
- 7) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター)：〔分担〕第19回救急救命士国家試験問題 解答・解説集．第19回救急救命士国家試験問題 解答・解説集，2001；pp60-100，へるす出版．
- 8) 山本保博：〔監修〕第19回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第19回救急救命士国家試験問題解答・解説集(監修)，2001；へるす出版．
- 9) 山本保博：〔分担〕多発外傷．標準救急医学第3版，2001；pp357-362，医学書院．
- 10) 山本保博：〔自著〕救急医，世界の災害現場へ，2001；筑摩書房．
- 11) 山本保博，牧野俊郎<sup>1)</sup>，平田清貴，田口吉子(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：〔共著〕2002年度輸液・輸血・救急薬 TODAY，2001；メディカ出版．
- 12) 牧野俊郎<sup>1)</sup>，山本保博，平田清貴<sup>2)</sup>，田口吉子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック，<sup>2)</sup>薬剤部，<sup>3)</sup>第二病院総看護師長)：〔共著〕2002年度輸液・輸血・救急薬 Today，2001；メディカ出版．
- 13) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター)：〔分担〕第20回救急救命士国家試験問題 解答・解説集．第20回救急救命士国家試験問題 解答・解説集，2001；pp64-98，へるす出版．
- 14) 山本保博：〔監修〕第20回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第20回救急救命士国家試験問題解答・解説集(監修)，2001；へるす出版．
- 15) 牧野俊郎：〔分担〕第19回救急救命士国家試験問題 解答・解説集．第19回救急救命士国家試験問題 解答・解説集，2001；へるす出版．
- 16) 山本保博：〔翻訳〕成人の一次救命処置．AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のための国際ガイドライン 2000，2001；pp26-70，BIOMEDIS．
- 17) 久志本成樹：〔分担〕救命救急領域のDIC．DIC Quick Reference Book (丸山征郎)，2001；pp97-111，医科研出版．
- 18) 川井 真：〔分担〕顔面・頸部外傷．救急救命士標準テキスト第6版，2001；pp677-678，へるす出版．
- 19) 川井 真：〔分担〕脊椎・脊髄外傷．救命救急士標準テキスト第6版，2001；pp682-689，へるす出版．
- 20) 野手洋治，寺本 明：〔分担〕臨床病型の病態と治療：脳動静脈奇形．脳卒中ハンドブック(片山泰朗)，2001；pp114-116，ヴァンメディカル．
- 21) 野手洋治，寺本 明：〔分担〕臨床病型の病態と治療：もやもや病．脳卒中ハンドブック(片山泰朗)，2001；pp117-119，ヴァンメディカル．
- 22) 野手洋治，寺本 明：〔分担〕臨床病型の病態と治療：脳内海綿状血管腫．脳卒中ハンドブック(片山泰朗)，2001；pp120-121，ヴァンメディカル．
- 23) 山本保博，中谷壽男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>関西医科大学救急医学科)：〔共著〕急性中毒．今日の治療指針 2002，2002；pp1041-1064，医学書院．
- 24) 山本保博：〔分担〕[G]感染対策/感染対策の原則，[H]救急蘇生法の着手，中止と続行の断念/心肺蘇生法の開始・中止・断念，[H]救急蘇生法と法的問題/法的問題の基本的な考え方．[改訂版]救急蘇生法の指針(医師用)(監修/日本救急医療財団，編著/心肺蘇生法委員会)，2002；pp116-121，へるす出版．
- 25) 大友康裕(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター)：〔分担〕プレホスピタル外傷学 第4部 各論1 CPA (Cardio-pulmonary arrest, 心肺停止)．プレホスピタル外傷学(石原 晋)，2002；pp166-172，永井書店．
- 26) 大友康裕(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター)：〔分担〕プレホスピタル外傷学 第4部 各論7 腹部外傷．プレホスピタル外傷学(石原 晋)，2002；pp216-228，永井書店．
- 27) 山本保博，宮内雅人(<sup>1)</sup>国立国際医療センター)：〔分担〕急性中毒の診断と治療．中毒学：基礎・臨床・社会医学，2002；pp15-25，朝倉書店．

- 28) 山本保博：〔分担〕医薬品・中毒学：基礎・臨床・社会医学，2002；pp161-164，朝倉書店。
- 29) 山本保博：〔分担〕溺水・呼吸器疾患の治療と看護，2002；pp166-168，南江堂。
- 30) 小井土雄一：〔分担〕NBCの防護服．集団災害時における一般医の役割～ Mass-gathering medicine～ビデオテキストブック（山本保博），2002；pp22-23，協和企画。
- 31) 小井土雄一：〔分担〕一般医の役割（集団災害及びNBC災害）．集団災害時における一般医の役割～ Mass-gathering medicine～ビデオテキストブック（山本保博），2002；p32，協和企画。

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 川井 真：骨盤骨折における急性期治療．第22回青森骨盤外科研究会，2001．6．
- 2) 新井正徳<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，井上幸彦<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>，山本保博（<sup>1)</sup>高度救命救急センター，<sup>2)</sup>形成外科）：モンゴルのヘリコプター墜落事故による熱傷患者への国際医療支援の報告（海外協力・クリニカルパス）．第27回日本熱傷学会総会・学術集会，2001．6．
- 3) 川井 真：広範囲熱傷に対する最近の治療戦略．第14回日本熱傷学会信州地方会，2001．7．
- 4) 川井 真：救急医療のあり方．第111回千葉内科懇話会，2001．7．
- 5) 浅野悦洋<sup>1)</sup>，恵志正輝<sup>2)</sup>，岩瀬龍之<sup>3)</sup>，牧野俊郎<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック事務室長，<sup>2)</sup>同放射線科，<sup>3)</sup>付属病院眼科学，<sup>4)</sup>新東京国際空港クリニック）：国際空港における医療費．第47回日本宇宙航空環境医学学会，2001．11．
- 6) 川井 真：創外固定法と最新治療について．第43回宮崎整形外科懇話会，2001．12．
- 7) 山本保博：AHAガイドラインズ2000に基づく心肺蘇生法．第10回全国救急隊員シンポジウム，2002．2．

##### (2) 招待講演：

- 1) Kawai M：Intensive care of Japanese Burn Unit．陸軍熱傷センター熱傷セミナー（ハノイ，ベトナム），2002．3．
- 2) 牧野俊郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック）：国際空港とエコノミークラス症候群．第37回日本交通科学協議会総会，2001．6．

##### (3) 教育講演：

- 1) 山本保博：わが国における新しい心肺蘇生法のガイドライン．第51回日本救急医学会関東地方会，2001．6．

##### (4) シンポジウム：

- 1) Kawai M：Poly Trauma．1<sup>st</sup> Annual International Conference in Paris SICOT（Paris, France），2001．8．
- 2) 近藤久禎<sup>1)</sup>，橋爪真弘<sup>2)</sup>，瀬尾憲正<sup>3)</sup>，笹館孝一<sup>4)</sup>，山本保博（<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所，<sup>2)</sup>東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学，<sup>3)</sup>自治医科大学麻酔科，<sup>4)</sup>JICA）：The evaluation of the health disaster management in Mozambique flood 2000．61th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine（福岡），2002．2．
- 3) 相星淳一，小池 薫，久志本成樹，吉田竜介，二宮宣文，小井土雄一，川井 真，山本保博：救急医療における代用血液の将来．第4回日本臨床救急医学会総会，2001．4．
- 4) 大友康裕<sup>1)</sup>，本間正人<sup>1)</sup>，井上潤一<sup>1)</sup>，徳永尊彦<sup>1)</sup>，加藤 宏<sup>1)</sup>，小笠原智子<sup>1)</sup>，太田圭亮<sup>1)</sup>，石川誠彦<sup>2)</sup>，原口義座<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター，<sup>2)</sup>同第2外科）：「救命救急センターの今後のあり方」Preventable Trauma Death（PTD）を減少させるには（3次救急施設の機能分担と外傷センター整備の意義）．第4回日本臨床救急医学会総会，2001．4．
- 5) 本間正人<sup>1)</sup>，大友康裕<sup>1)</sup>，徳永尊彦<sup>1)</sup>，井上潤一<sup>1)</sup>，加藤 宏<sup>1)</sup>，原口義座<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター）：米国における外傷医療の質を維持する機構（外傷センター施設基準と質の改善活動）．第15回日本外傷学会，2001．5．
- 6) 川井 真，久志本成樹，小井土雄一，黒川 顕<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>2)</sup>，山本保博（<sup>1)</sup>多摩永山病院，<sup>2)</sup>国立病院東京災害医療センター）：広範囲熱傷に対する人工真皮を用いた一治療戦略．第24回日本熱傷学会学術集会・総会，

2001. 6.

- 7) 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 東京奥多摩地区におけるヘリ搬送の現況(6年間の受け入れ病院の経験から). 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
  - 8) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 池見佳一郎<sup>2)</sup>, 星野 瑞<sup>2)</sup>, 真鍋公二<sup>2)</sup>, 川井 真, 大泉 旭, 原 義明<sup>3)</sup>, 野崎正太郎, 山本保博(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター救命センター, <sup>2)</sup>同整形外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院): 骨折治療中に発症した肺血栓塞栓症の検討. 第27回日本骨折治療学会, 2001. 7.
  - 9) 近藤久禎<sup>1)</sup>, 橋爪真弘<sup>2)</sup>, 瀬尾憲正<sup>3)</sup>, 小井土雄一, 山本保博(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学, <sup>3)</sup>自治医科大学麻酔科): 国際緊急援助隊医療チームの評価について(モザンビーク洪水災害救済の事例より). 日本評価学会第2回全国大会, 2001. 9.
  - 10) 山本保博, 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 臓器移植と手術室: 臓器提供サイドからみた臓器摘出手術の問題点. 日本臨床麻酔学会第21回大会, 2001. 10.
  - 11) 野手洋治, 山本保博: 卒前救急医学教育の現状と理想像. 第29回日本救急医学会総会・学術集会, 2001. 11.
  - 12) 山本保博, 小井土雄一, 野手洋治, 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 臓器提供サイドからみた臓器摘出の問題と解決策. 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.
  - 13) 大友康裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 助言者「集団災害に備えて」. 日本救急医学会関東地方会第39回救急隊員学術研究会, 2002. 2.
  - 14) 本間正人<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 災害時医療対応の問題点と対策(日本における災害時派遣医療チーム(DMAT)の構築と問題点について). 第7回日本集団災害医学会, 2002. 2.
  - 15) 本間正人<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 日本における災害時派遣医療チーム(DMAT)の構築と問題点について. 第7回集団災害医療学会, 2002. 2.
- (5) パネルディスカッション:
- 1) 小井土雄一, 高橋 聡<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>2)</sup>, 勝見 敦<sup>3)</sup>, 平間久雄, 今 明秀<sup>4)</sup>, 松田 潔<sup>5)</sup>, 大友康裕<sup>6)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>多摩永山病院, <sup>2)</sup>千葉北総病院, <sup>3)</sup>武蔵野赤十字病院, <sup>4)</sup>川口市立医療センター, <sup>5)</sup>山梨県立中央病院, <sup>6)</sup>国立病院東京災害医療センター): 救急初療室のあり方(救急初療室の必須条件). 第4回日本臨床救急医学会総会, 2001. 4.
  - 2) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博: 重症くも膜下出血に対する治療成績におけるEBM. 第4回日本臨床救急医学会総会, 2001. 4.
  - 3) 久志本成樹, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 新井正徳, 松園幸雅<sup>1)</sup>, 原田尚重, 登坂直規, 川井 真, 山本保博(<sup>1)</sup>山梨県立中央病院): Damage control celiotomy 施行例における interventional radiology の意義. 第15回東北救急医学会総会, 2001. 5.
  - 4) 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 「救急医療におけるヘリコプター搬送」東京多摩地区におけるヘリコプター搬送の現況(6年間の受け入れ病院の経験から). 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
  - 5) 大友康裕<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 友保洋三<sup>1)</sup>, 荒井他嘉司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 「災害時医療体制の改革」広域災害・救急医療情報システムの問題点と対策 運用訓練, 実災害時の運用状況を通して. 第49回日本職業・災害医学会, 2001. 11.
- (6) フォーラムセッション:
- 1) 加地正人<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>2)</sup>, 益子邦宏<sup>3)</sup>, 大友康裕<sup>2)</sup>, 小井土雄一, 木村昭夫<sup>4)</sup>, 犬塚 祥<sup>5)</sup>, 久志本成樹, 井上潤一<sup>2)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 颯<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>国立病院東京災害医療センター, <sup>3)</sup>千葉北総病院救命救急センター, <sup>4)</sup>国立国際医療センター,

- 5) 唐津第1病院): 討論セッション「胸部大動脈損傷に対するステントグラフト内挿術」現時点での胸部大動脈損傷の最良の治療とこれからの課題. 第15回日本外傷学会, 2001. 5.
- 2) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 田邊晴山<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 川井 真, 大泉 旭, 原 義明<sup>2)</sup>, 野崎正太郎, 山本保博<sup>(1)</sup>国立病院東京災害医療センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院): 頸椎損傷急性期における完全麻痺の判断. 第15回日本外傷学会, 2001. 5.
- (7) ランチョンセミナー:
- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): エコノミークラス症候群と深層海水. 第23回日本健康増進学会, 2001. 11.
- 2) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): 静脈血栓症の最前線: 旅行者血栓症(いわゆるエコノミークラス症候群). 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- (8) ワークショップ:
- 1) 大友康裕<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 友保洋三<sup>1)</sup>, 荒井他嘉司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 「災害医療ネットワークの運用法」広域災害・救急医療情報システムの問題点と対策(運用訓練, 実災害時の運用状況を通して). 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 2) 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 横田空軍病院からの外国人救急患者受け入れの現状(在日米軍病院との連携体制の構築と問題点). 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- (9) 一般講演:
- 1) 近藤久禎<sup>1)</sup>, 水谷哲也<sup>2)</sup>, 橋爪真弘<sup>3)</sup>, 京極多歌子<sup>4)</sup>, 山本佐枝子<sup>5)</sup>, 中窪信治<sup>6)</sup>, 谷口恵美子<sup>7)</sup>, 井上美智子<sup>8)</sup>, 大塚 恵<sup>9)</sup>, 鈴木三和<sup>10)</sup>, 山岸 勉<sup>11)</sup>, 村上 勉<sup>4)</sup>, 鈴木貴子<sup>11)</sup>, 興津圭一<sup>12)</sup>, 原田勝成<sup>12)</sup>, 大野龍男<sup>12)</sup>, 田代征児<sup>13)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>住友生命保険相互会社名古屋医療センター, <sup>3)</sup>東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学, <sup>4)</sup>大阪府立千里救命救急センター, <sup>5)</sup>国立国際医療センター, <sup>6)</sup>国立療養所北陸病院, <sup>7)</sup>飯田女子短期大学看護学部, <sup>8)</sup>JMTDR登録看護婦, <sup>9)</sup>北里大学病院, <sup>10)</sup>神奈川県衛生看護専門学校附属病院, <sup>11)</sup>JMTDR医療調整員, <sup>12)</sup>JICA, <sup>13)</sup>社団法人青年海外協力協会): Infectious Diseases during the Flood Disaster in Mozambique 2000. 12th World Congress on Disaster and Emergency Medicine (フランス, リヨン), 2001. 5.
- 2) Yoshida R, Koike T, Yamamoto Y, Sato N, Suzuki T, Aiboshi J: Serum Interleukin-18 Measurement in Surgical Patients with Peritonitis. 21st. annual meeting of Surgical Infection Society (Snowbird, Utah), 2001. 5.
- 3) Node Y, Sato H, Nakabayashi M, Araki T, Yamamoto Y, Kobayashi S, Shimura T, Teramoto A: Clinical examination of the patients with cerebellar hemorrhage following supratentorial aneurysmal surgery. 12th World Congress of Neurosurgery (Sydney Australia), 2001. 9.
- 4) Node Y, Yamamoto Y, Teramoto A: Clinical significance of external ventricle drainage in the patients with poor grade subarachnoid hemorrhage. 12th World Congress of Neurosurgery (Sydney Australia), 2001. 9.
- 5) Node Y, Yamamoto Y, Teramoto A: Hydroxyapatite ceramics in the reconstruction of the surgical skull defects following a frontotemporal skull base surgery. 12th World Congress of Neurosurgery (Sydney Australia), 2001. 9.
- 6) Node Y, Sato H, Yamamoto Y, Teramoto A: Surgical indications of ruptured cerebral aneurysms in elderly patients. 12th World Congress of Neurosurgery (Sydney Australia), 2001. 9.
- 7) Node Y, Yamamoto Y: Clinical features in the patients with "Platform accident". 12th World Congress of Neurosurgery (Sydney Australia), 2001. 9.
- 8) Sato H, Yokota H, Node Y, Yamamoto Y, Ikeda Y: Measurement of S-100 protein in the cerebrospinal fluid

- after aneurysmal subarachnoid hemorrhage . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney Australia ), 2001 . 9 .
- 9) Yokota H, Naoe Y, Ikakura K, Kurokawa A, Sato H, Node Y, Yamamoto Y : Cerebral endothelial injury in severe head injury . 12th World Congress of Neurosurgery ( Sydney Australia ), 2001 . 9 .
- 10) Kushimoto S, Tosaka N, Shibata Y<sup>1)</sup>, Aiboshi J, Yamamoto Y ( <sup>1)</sup> 付属病院中央検査部 ): Plasma brain natriuretic peptide concentrations in patients with severe sepsis . Society of Critical Care Medicine, 31th Critical Care Congress ( San Diego, CA, USA ), 2002 . 1 .
- 11) Honma M<sup>1)</sup>, Otomo Y<sup>1)</sup>, Henmi H<sup>1)</sup>, Takashi A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): TOP-OFF WCER-CISE IN WASHINGTON, D. C. ( WHAT SHOULD WE DO AGAINST WEAPONS OF MASS DESTRUCTION ATTACKS IN JAPAN? . 6th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine ( APCDM )( Fukuoka ), 2002 . 2 .
- 12) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博, 小林士郎<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 ): テント脳動脈瘤手術に合併した小脳出血の検討 . 第24回日本脳神経 CI 学会総会, 2001 . 3 .
- 13) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博, 小林士郎<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 ): 天幕上脳動脈瘤手術に合併した小脳出血例の検討 . 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001 . 3 .
- 14) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 村田憲一<sup>1)</sup>, 山本保博, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 春日居リハビリテーション病院 ): 高齢者脳血管障害患者の長期予後に関する検討 . 第26回日本脳卒中学会総会, 2001 . 3 .
- 15) 久志本成樹, 山本保博: 各種病態における単球HLA-DR 発現率モニタリングの臨床的検討 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
- 16) 上田康晴: propofol 鎮静は本当に有用か? ( アンケート調査結果から考察する ). 第48回日本麻酔学会総会, 2001 . 4 .
- 17) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 付属病院中央検査部 ): 頭部外傷急性期における線容動態の検討 . 第50回日本医学検査学会, 2001 . 5 .
- 18) 相星淳一, 小池 薫, 久志本成樹, 山本保博: 輸血と多臓器不全 . 日本ショック学会総会, 2001 . 5 .
- 19) 相星淳一, 小池 薫, 久志本成樹, 山本保博: 保存血輸血による好中球のcytotoxicityへの影響 . 日本外傷学会, 2001 . 5 .
- 20) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 池見佳一郎<sup>2)</sup>, 木下藤英<sup>2)</sup>, 星野 瑞<sup>2)</sup>, 真鍋公二<sup>2)</sup>, 宮下孝正<sup>2)</sup>, 中島伸哉<sup>2)</sup>, 友保洋三<sup>2)</sup>, 西法正<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター救命センター, 同整形外科 ): 重症頭部外傷を伴った下肢長管骨折の治療 . 第41回関東整形災害外科学会, 2001 . 5 .
- 21) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 田邊晴山<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見弘<sup>1)</sup>, 川井 真, 大泉 旭, 原 義明<sup>2)</sup>, 野崎正太郎, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 付属千葉北総病院救命救急センター ): 頸髄損傷急性期における完全麻痺の判断 . 第15回日本外傷学会, 2001 . 5 .
- 22) 久志本成樹: 救命救急医療における血液凝線溶系の役割 . 第15回東北救急医学会総会, 2001 . 6 .
- 23) 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 霧生信明<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 小島俊彦, 新井隆成 ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 子宮内胎児死亡後に発症した子宮壊死の1例 . 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001 . 6 .
- 24) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 田邊晴山<sup>1)</sup>, 霧生信明<sup>1)</sup>, 篠 美和<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター救命救急センター ): 広範な臀部壊死を生じた骨盤骨折の1例 . 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001 . 6 .

- 25) 本間正人<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 徳永尊彦<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 出血性損傷を伴う頭蓋内血腫症例の救命率向上のためには. 第26回日本外科系連合学会, 2001. 6.
- 26) 片山 映<sup>1)</sup>, 辻井厚子<sup>2)</sup>, 和田 明<sup>3)</sup>, 西野武士<sup>2)</sup>, 石浜 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立遺伝学研究所, <sup>2)</sup>日本医科大学学生化学, <sup>3)</sup>大阪医大・物理): 金属結合蛋白プロテオミクス(大腸菌亜鉛結合蛋白の探索と分析). 第1回日本蛋白質科学会年会, 2001. 6.
- 27) 吉田竜介, 小池 薫, 佐藤格夫, 鈴木宗生, 荒木 尚, 柴田泰史, 山本保博: 救急・集中治療領域におけるIL-18の動態. 第22回日本炎症・再生医学会, 2001. 7.
- 28) 上田康晴, 平田清貴<sup>1)</sup>, 林田真喜子<sup>2)</sup>, 仁平 信<sup>2)</sup>, 相星淳一, 平野公晟<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>附属病院薬剤部, <sup>2)</sup>法医学): 海外から持ち込んだ薬剤を大量誤食して意識障害を呈した小児中毒の1症例. 第23回日本中毒学会総会, 2001. 7.
- 29) 野口裕幸<sup>1)</sup>, 上田康晴, 荒木 尚, 中林基明, 佐藤秀貴, 山本保博(<sup>1)</sup>救命センター臨床工学技士): 低体温療法時PCVにて呼吸管理を行った2症例. 第23回日本呼吸療法医学会, 2001. 8.
- 30) 久志本成樹, 山本保博, 登坂直規, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 相星淳一(<sup>1)</sup>附属病院中央検査部): 重症敗血症症例における血漿BNPレベルの変動. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 31) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 野村克章<sup>1)</sup>, 小池 薫, 久志本成樹, 山本保博(<sup>1)</sup>附属病院中央検査部): エンドスベックESテストMK(改良法)を用いた血中エンドトキシン測定の実験的検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 32) 吉田竜介, 相星淳一, 佐藤格夫, 鈴木 崇男, 山本保博, 柴田泰史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院中央検査部): 腹膜炎症例における血清interleukin-18値の測定. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 33) 相星淳一, 小池 薫, 久志本成樹, 吉田竜介, 山本保博: 代用血液の将来. 第37回日本腹部救急医学会総会, 2001. 9.
- 34) 相星淳一: 輸血と多臓器不全. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 35) 山田貴子<sup>1)</sup>, 福井美和子<sup>1)</sup>, 森 知子<sup>1)</sup>, 田村由紀<sup>1)</sup>, 坂田るみこ<sup>1)</sup>, 加藤真紀<sup>1)</sup>, 増川基子<sup>1)</sup>, 城野香織<sup>1)</sup>, 磯由美子<sup>1)</sup>, 早坂百合子<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 山勢善江<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院看護部, <sup>2)</sup>中央検査部, <sup>3)</sup>日本赤十字九州国際看護大学): クリティカルケアにおける褥創の発生誘発因子の分析: 山勢の褥創発生予測式の改定に向けて. 第3回日本救急看護学会学術集会, 2001. 10.
- 36) 仁平 信<sup>1)</sup>, 林田真紀子<sup>1)</sup>, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 松本美保<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>法医学, <sup>2)</sup>附属病院中央検査部): 薬物スクリーニングキット TOX/Seeの有用性の検討. 第70回日本法医学会関東地方会, 2001. 10.
- 37) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 山本保博, 寺本 明: 重症くも膜下出血の治療方針. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2001. 10.
- 38) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 野村克章<sup>1)</sup>, 吉田竜介, 山本保博, 仁平 信<sup>2)</sup>, 林田真喜子<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院中央検査部, <sup>2)</sup>法医学): 乱用薬物スクリーニング検査キット TOX/Seeの有用性. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 39) 二宮宣史, 根本香代<sup>1)</sup>, 野口裕幸, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 小野寺謙吾, 小井土雄一, 山本保博(<sup>1)</sup>薬理学, <sup>2)</sup>附属病院中央検査部): 不活性ガス(IG-541)による低酸素環境の人体に対する影響. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 40) 久志本成樹, 登坂直規, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 相星淳一, 川井 真, 山本保博(<sup>1)</sup>附属病院中央検査部): 重症敗血症症例における血漿BNPレベルの変動とその意義. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 41) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>2)</sup>千葉北総病院救命救急センター, <sup>3)</sup>千葉北総病院外科): 降機後旅客およびCrewの救急疾患の検討. 第47回日本宇宙航空環境医学会, 2001. 11.

- 42) 三浦清彦<sup>1)</sup>, 森尾比呂志<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>3)</sup>, 牧野俊郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>航空医学センター, <sup>2)</sup>成田日赤病院, <sup>3)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>4)</sup>新東京国際空港クリニック): 航空機利用に伴う深部静脈血栓症(肺血栓塞栓症に関する全国調査). 第47回日本宇宙航空環境医学会, 2001. 11.
- 43) 相星淳一, 辻井厚子, 勝見 敦<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 登坂直規, 磯部将人, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博(<sup>1)</sup>武蔵野赤十字病院救命センター): 日本医科大学付属病院高度救命救急センターにおける広範囲熱傷の5年間の治療成績. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 44) 上田康晴, 磯部将人, 菊池広子<sup>1)</sup>, 白浜彰彦, 山本保博(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 熱傷患者の鎮静から見たペインコントロールの必要性について. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 45) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 霧生信明<sup>1)</sup>, 篠 美和<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見弘<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター): 頸髄損傷に対するステロイド大量療法の有用性と問題点. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 46) 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 横田空軍病院からの外国人救急患者受け入れの現状(在日米軍病院との連携体制の構築と問題点. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 47) 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 岩瀬龍之<sup>2)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>2)</sup>付属病院眼科): 国際空港における医療費. 第47回日本宇宙航空環境医学会, 2001. 11.
- 48) 上田康晴, 川井 真, 相星淳一, 久志本成樹, 山本保博: 救急領域における fluid resuscitation の新しい試み. 第6回 CCM 輸液・栄養研究会, 2002. 2.
- 49) 上田康晴, 磯部将人, 原田尚重, 野口裕幸<sup>1)</sup>, 吉田竜介, 山本保博(<sup>1)</sup>高度救命救急センター臨床工学技士): HOT 患者の現状と救命対応について. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 50) 足立宏太, 上田康晴, 野崎正太郎, 登坂直規, 相星淳一, 川井 真, 山本保博: 甲状腺機能亢進症が疑われた心・肝不全の一救命例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 51) 白浜彰彦, 上田康晴, 山本保博: 2001年熱中症の特徴. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 52) 久志本成樹: 法的脳死判定に基づく臓器提供における提供病院と患者家族の負担を軽減するために(自験2例の解析から). 第4回 脳死からの臓器提供についての勉強会, 2002. 3.
- 53) 本間正人<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 河面吉彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 出血性損傷を伴う重症頭部外傷の救命率向上のためには. 第25回日本神経外傷学会, 2002. 3.
- 54) 野口裕幸<sup>1)</sup>, 久志本成樹, 上田康晴, 相星淳一, 小井土雄一, 山本保博(<sup>1)</sup>救命センター臨床工学技士): パルスオキシメータの経時的変化管理の検討について. 第29回日本集中治療医学会総会, 2002. 3.
- 55) 小井土雄一, 新井正徳, 久志本成樹, 相星淳一, 上田康晴, 野口裕幸, 山本保博: 持続血液濾過透析中のウリナスタチンの体内動態の検討. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 3.
- 56) 小井土雄一, 小池 薫, 柴田泰史, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 57) 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 徳永尊彦<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見弘<sup>1)</sup>, 山田憲彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 災害時超急性期の救助・救急医療(Confined Space Medicineを我が国に). 第4回日本臨床救急医学会総会, 2001. 4.
- 58) 本間正人, 井上潤一, 徳永尊彦, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘: アメリカ・メリーランド州における救急医療体制とメディカルコントロール. 第4回日本臨床救急医学会総会, 2001. 4.
- 59) 篠 美和<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): 最近経験した肝膿瘍の2例. 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 60) 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 原口



- 義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 小島俊彦, 新井隆成 ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 子宮内胎児死亡後に発症した子宮壊死の1例. 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 61) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 田邊晴山<sup>1)</sup>, 霧生信明<sup>1)</sup>, 篠 美和<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 広範な臀部壊死を生じた骨盤骨折の1例. 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 62) 石川誠彦<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): シミュレーションソフトの災害対策への応用 ( 第2報 マンパワーの適正配分のために ). 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 63) 霧生信明<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): ピラニカ中毒の1例. 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 64) 加藤 宏<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 霧生信明<sup>1)</sup>, 篠 美和<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 頸髄損傷に対するステロイド大量療法の有用性と問題点. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 65) 河田真子<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 玉井文洋<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 長谷川栄寿<sup>1)</sup>, 八木橋巖<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 後天性免疫不全症と後に判明したサルモネラ腸炎の1例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 66) 霧生信明<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 玉井文洋<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 長谷川栄寿<sup>1)</sup>, 八木橋巖<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 盲腸捻転の1例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 67) 大西かよ子<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 太田圭亮<sup>1)</sup>, 玉井文洋<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 長谷川栄寿<sup>1)</sup>, 霧生信明<sup>1)</sup>, 八木橋巖<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 突発性大網出血の1例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 68) 太田圭亮<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 玉井文洋<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 長谷川栄寿<sup>1)</sup>, 霧生信明<sup>1)</sup>, 八木橋巖<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 激烈な経過をたどった甲状腺クリーゼの1例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 69) 大友康裕<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 友保洋三<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): START方式を採用したトリアージタグの試行. 第7回日本集団災害医学会, 2002. 2.
- 70) 井上潤一<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): レスキューチームと災害時派遣医療チーム ( DMAT ) の連携訓練のあり方について. 第7回日本集団災害医学会, 2002. 2.
- 71) 石川誠彦<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 市販のソフトを用いたシミュレーションの災害対策における有用性. 第7回日本集団災害医学会, 2002. 2.
- 72) 太田圭亮<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>1)</sup>, 加藤 宏<sup>1)</sup>, 石川誠彦<sup>1)</sup>, 徳永尊彦<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター ): 意識障害を伴った髄膜炎症例の検討. 第4回日本臨床救急医学会総会, 2001. 4.
- (10) ビデオセッション:
- 1) 川嶋隆久, 加来信雄, 奥村 徹, 漢那朝雄, 谷川攻一, 大友康裕, 本間正人, 二宮宣文, 郡山一明: 化学災害事故におけるトリアージと除染. 第7回日本集団災害医学会, 2002. 2.
- (11) ポスター:
- 1) Suzuki S<sup>1)</sup>, Katsumi A<sup>1)</sup>, Makino T<sup>2)</sup>, Yamamoto Y ( <sup>1)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 新東京国際空港クリニック ): Activities of New Tokyou International Airport Clinic ( NTIAC ) ( First Established International Airport Affiliated Travel Clinic in Japan. 第7回国際トラベル学会 ( Swiss ), 2001. 6.

- 2) 目黒真嬉子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>3)</sup>, 牧野俊郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査室,<sup>2)</sup>千葉北総病院中央検査室,<sup>3)</sup>同内科,<sup>4)</sup>新東京国際空港クリニック): 超音波診断装置 Sonosite TM180の使用経験と臨床的有用性. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 3) 中田恵理<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>3)</sup>, 牧野俊郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査室,<sup>2)</sup>千葉北総病院中央検査室,<sup>3)</sup>同内科,<sup>4)</sup>新東京国際空港クリニック): 新東京国際空港クリニックにおける小型血糖測定装置(アントセンスII)の有用性. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 4) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>2)</sup>, 小井土雄一, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック,<sup>2)</sup>千葉北総病院救急部): 国際空港と外国人に対する救急医療. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 5) 林 幹彦, 上田康晴, 磯部将人, 菊池広子, 白浜彰彦, 山本保博: 肺血栓塞栓症の診断・治療戦略(重症ARDSの加療中に肺梗塞を合併した1例). 第29回日本集中治療医学会総会, 2002. 2.
- 6) 上田康晴, 川井 真, 相星淳一, 小井土雄一, 山本保博: hANP 持続投与における利尿効果および腎保護作用について. 第29回日本集中治療医学会総会, 2002. 2.
- 7) 上田康晴, 磯部将人, 白浜彰彦, 山本保博: CHDF 施行時におけるプロポフォル持続鎮静の検討. 第29回日本集中治療医学会総会, 2002. 3.
- 8) 上田康晴, 川井 真, 相星淳一, 小井土雄一, 山本保博: 重傷患者に続発する心不全に対する olprinone の使用経験. 第29回日本集中治療医学会総会, 2002. 3.
- 9) 大友康裕<sup>1)</sup>, 本間正人<sup>1)</sup>, 徳永尊彦<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 原口義座<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター): IIIb型肝損傷 TAE 後の継時的腹腔内貯溜血採取の意義(胆汁性腹膜炎の手術適応決定に関して). 第101回日本外科学会, 2001. 4.
- (12) ミニシンポジウム:
- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): わが国におけるエコノミークラス症候群の実態. 第24回日本血栓止血学会, 2001. 11.
- (13) 教育セミナー:
- 1) 野手洋治: 頭蓋形成術の最先端. 第21回日本脳神経外科コンgres総会, 2001. 5.
- (14) 指定討論:
- 1) 原田尚重, 野崎正太郎, 相星淳一, 吉田竜介, 二宮宣文, 川井 真, 山本保博, 岩田一義<sup>1)</sup>, 梁田宣明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京消防庁): 日本医科大学救命救急センターにおける過去5年間の心原性心肺停止症例の検討. 第29回救急医学会総会, 2001. 11.
- (15) 要望課題:
- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック,<sup>2)</sup>付属千葉北総病院集中治療部): 国際空港と肺血栓塞栓症. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- (16) 要望課題講演:
- 1) 吉田竜介, 大泉 旭, 相星淳一, 久志本成樹, 山本保博: 外国人の救急医療における医療経済的問題点の検討. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.

## [ 多摩永山病院救命救急センター ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 中林基明<sup>1)</sup>, 横田裕行, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 重症頭部外傷における内頸静脈酸素

飽和度を利用した脳血管反応性の測定．救急集中治療 2001；13：103-104．

(2) 綜説：

- 1) 黒川 顕：症状・症候と鑑別診断 不安・不穏．救急医 2001；25：399-401．
- 2) 江上 格<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，松田 健<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>付属病院第一外科，<sup>3)</sup>同高度救命救急センター)：小児肝外傷の重症度と予後．小児外科 2001；33：641-646．
- 3) 黒川 顕：急性中毒ファイルシートNo. 137 ACE阻害剤．中毒研究 2001；14(3)．
- 4) 黒川 顕：急性中毒情報ファイルシート ACE阻害剤．中毒研究 2001；14：287-291．
- 5) 弥富俊太郎，横田裕行，黒川 顕：遷延性意識障害患者の療養治療．救急医 2001；25：883-887．
- 6) 直江康孝，横田裕行：過換気療法の適応．救急医 2001；25：1557-1570．
- 7) 横田裕行：脳死判定法．Medical Practice 2001；18：235-240．
- 8) 久保田稔<sup>1)</sup>，黒川 顕，横田裕行(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室)：救命救急領域における神経生理学検査．北日本ME技術者会機関誌テクニシャン 2001；40：43-54．
- 9) 黒川 顕：心電図でどこまでわかるか．救急医 2002；26：333-338．
- 10) 横田裕行，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，松園幸雅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター)：臓器提供施設からみた臓器提供手順の問題点．日救急医学会誌 2002；13：73-77．
- 11) 黒川 顕，横田裕行，久保田稔：救急医療とモニター(脳神経)．ABR Clinical Engineering 2002；13：327-331．
- 12) 小川理郎，横田裕行，黒川 顕：救急救命での輸液と注意．臨看 2002；28：862-869．

(3) 研究報告書：

- 1) 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>主任研究者)：脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究．厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業総合研究報告書 2002．
- 2) 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>分担研究者)：臓器提供施設内における臓器提供システムに関する研究．厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業 2002．

(4) 症例報告：

- 1) 弥富俊太郎，島田 靖，小野寺謙吾，加地正人，高橋 聡，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：持続動注療法にて著効なく開腹ドレナージ術に至った重症急性肺炎の1例．Therapeutic Research 2002；23：192-198．
- 2) 中村敏弘，島田 靖，中間哲郎，小野寺謙吾，中野渡雄一，直江康孝，弥富俊太郎，加地正人，高橋 聡，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：重篤な呼吸不全に対しECLAを導入し，救命しえた胸腹部外傷の1症例．Therapeutic Reseach 2002；23：220-227．

著 書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕肝損傷．今日の治療指針 Vol. 44，2001；pp43-44，医学書院．
- 2) 横田裕行：〔分担〕四肢外傷．救急外来マニュアル(山本保博，上嶋権兵衛)，2001；pp64-95，メディカルサイエンスインターナショナル．
- 3) 黒川 顕，横田裕行：〔分担〕周術期管理 脳外科．集中治療医学(日本集中治療医学会)，2001；pp472-478，秀潤社．
- 4) 黒川 顕：〔分担〕第19回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第19回救急救命士国家試験問題解答・解説集，2001；pp3-15，へるす出版．
- 5) 横田裕行：〔分担〕頭蓋内圧降下療法．今日の治療指針(多賀須幸男，尾形悦郎，山口 徹，北原光男)，2001；pp70-71，医学書院．
- 6) 横田裕行：〔分担〕頭痛，めまい．救急現場のピットフォール(山本保博)，2001；pp98-106，荘道社．
- 7) 横田裕行：〔分担〕脳死判定．研修医のための最新救命救急(大塚敏文)，2001；pp36-40，メディカルジャー

ナル。

- 8) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷．研修医のための最新救命救急（大塚敏文），2001；pp118-122，メディカルジャーナル．
- 9) 横田裕行：〔分担〕未破裂動脈瘤．脳卒中ハンドブック（片山泰朗），2001；pp219-223，ウアンメディカル．
- 10) 横田裕行：〔分担〕頭頸部および顔面外傷．救急外来マニュアル（山本保博，上嶋権兵衛），2001；pp104-117，メディカルサイエンスインターナショナル．
- 11) 横田裕行：〔分担〕擦過傷，剥離創，挫滅創，刺創．救急外来マニュアル（山本保博，上嶋権兵衛），2001；pp419-433，メディカルサイエンスインターナショナル．
- 12) 横田裕行：〔分担〕熱傷．救急外来マニュアル（山本保博，上嶋権兵衛），2001；pp449-453，メディカルサイエンスインターナショナル．
- 13) 横田裕行：〔分担〕異物．救急外来マニュアル（山本保博，上嶋権兵衛），2001；pp471-477，メディカルサイエンスインターナショナル．
- 14) 畝本恭子：〔分担〕頭痛．研修医のための最新救命救急マニュアル，2001；pp54-57，メディカルジャーナル．
- 15) 畝本恭子：〔分担〕眩暈．研修医のための最新救命救急マニュアル，2001；pp62-65，メディカルジャーナル．
- 16) 黒川 顕：〔分担〕第20回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第20回救急救命士国家試験問題解答・解説集，2001；pp3-13，へるす出版．
- 17) 横田裕行：〔分担〕脳震盪．今日の治療指針（監修：多賀須幸男，尾形悦郎 総編集：山口 徹，北原光男），2002；p32，医学書院．
- 18) 横田裕行：〔分担〕脳死．看護のための最新医学講座（日野原重明，井村裕男），2002；pp114-119，中山書店．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 横田裕行，直江康孝，猪鹿倉恭子，黒川 顕，荒木 尚<sup>1)</sup>，中林基明<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，布施 明<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 同脳神経外科）：重症頭部外傷急性期における全身管理の問題点：全身代謝と呼吸および栄養管理の検討．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．
- 2) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>1)</sup>，横田裕行，荒木 尚<sup>1)</sup>，中林基明<sup>1)</sup>，猪鹿倉恭子，山本修三<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター）：高度救命救急センターにおける重症頭部外傷の治療戦略．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．
- 3) 猪鹿倉恭子，直江康孝，中間哲郎，横田裕行，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 同脳神経外科）：高齢者重症クモ膜下出血の救命救急センターにおける適応と管理．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．

##### (2) パネルディスカッション：

- 1) 加地正人，辺見 弘<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>2)</sup>，大友康弘<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>3)</sup>，木村昭夫<sup>4)</sup>，犬塚 祥<sup>2)</sup>，久志本成樹<sup>3)</sup>，井上潤一<sup>1)</sup>，弥富俊太郎，中野渡雄一，小野寺謙吾<sup>3)</sup>，横田裕行，黒川 顕，山本保博<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 国立病院東京災害医療センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属千葉北総病院救命救急センター，<sup>3)</sup> 同高度救命救急センター，<sup>4)</sup> 国立国際医療センター）：現時点での胸部大動脈損傷の最良の治療とこれからの課題．第15回日本外傷学会，2001．5．

##### (3) 一般講演：

- 1) Huke Nobuo<sup>1)</sup>，Taki Kenji<sup>2)</sup>，Yokota Hiroyuki（<sup>1)</sup> Teikyo University Ichikawa Hospital，<sup>2)</sup> Saga Medical School）：Activities of JMTDR in Sumatera．12th. World Congress on Disaster and Emergency Medicine（Rion），2001．5．
- 2) Yokota H，Naoe Y，Ikakura K，Kurokawa A，Sato H<sup>1)</sup>，Node Y<sup>1)</sup>，Yamamoto Y<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Critical

- Care, Nippon Medical School): Cerebral Endothelial Injury in Severe Head Injury . 12th. World Congress of Neurosurgery ( Sydney ), 2001 . 9 .
- 3) Sato H<sup>1)</sup>, Yokota H, Node Y<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Critical Care, Nippon Medical School): Measurement of S-100 protein in the cerebrospinal fluid after aneurysmal subarachnoid hemorrhage . 12th. World Congress of Neurosurgery ( Sydney ), 2001 . 9 .
  - 4) 中村敏弘, 島田 靖, 中間哲郎, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 直江康孝, 弥富俊太郎, 加地正人, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 重篤な肺損傷に対しPCPSを導入し, 救命し得た胸腹部外傷の1例 . 第27回過大侵襲研究会, 2001 . 4 .
  - 5) 高橋 聡, 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 弥富俊太郎, 中野渡雄一, 小野寺謙吾, 島田 靖, 山本保博, 横山 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横山記念病院): 当院救命救急センターにおいて構築したネットワークの意義と問題点 . 第4回日本臨床救急医学会総会, 2001 . 4 .
  - 6) 加地正人, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 中間哲郎, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 島田 靖, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 救急初療室での外科的アプローチの意義 . 第4回日本臨床救急医学会, 2001 . 4 .
  - 7) 中間哲郎, 直江康孝, 畝本恭子, 弥富俊太郎, 中村敏弘, 横田裕行, 黒川 顕: 低体温療法中に脳室内膿瘍を合併したクモ膜下出血の1例 . 第15回日本神経救急研究会, 2001 . 5 .
  - 8) 小川理郎, 加地正人, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 直江康孝, 中村敏弘, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 骨盤骨折後巨大臀部膿瘍を合併した2症例 . 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001 . 6 .
  - 9) 直江康孝, 横田裕行, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 重症頭蓋内疾患患者のrCO<sub>2</sub>測定の試み . 第5回日本脳代謝モニタリング研究会, 2001 . 7 .
  - 10) 直江康孝, 島田 靖, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 小川理郎, 加地正人, 中村敏弘, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 外傷性CCFの瘦孔閉鎖後に外傷性動脈瘤が残存した1例 . 第4回多摩神経外傷カンファレンス, 2001 . 7 .
  - 11) 平田清貴<sup>1)</sup>, 折戸謙介<sup>2)</sup>, 林田眞喜子<sup>3)</sup>, 仁平 信<sup>3)</sup>, 横田裕行, 平野公晟<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>3)</sup>, 黒川 顕, 山本保博<sup>4)</sup>, 堀 文昭<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>麻布大学救急医学, <sup>3)</sup>日本医科大学法医学, <sup>4)</sup>同多摩永山病院救命救急センター): ラットにおけるグルコン酸クロルヘキシジン投与時の血中濃度 . 第23回日本中毒学会総会, 2001 . 7 .
  - 12) 上田康晴<sup>1)</sup>, 平田清貴, 林田眞喜子<sup>3)</sup>, 仁平 信<sup>3)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>3)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup>同薬剤部, <sup>3)</sup>法医学): 海外から持ち込んだ薬剤を大量誤飲した小児中毒の1症例 . 第23回日本中毒学会総会, 2001 . 7 .
  - 13) 猪鹿倉恭子, 中間哲郎, 直江康孝, 中林基明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 重症くも膜下出血に対する脳低温療法: 頭蓋内圧亢進例に対する効果と低温中の経頭蓋ドップラー検査について . 第4回日本脳低温療法研究会, 2001 . 7 .
  - 14) 黒川 顕, 横田裕行, 黒木由美子<sup>1)</sup>, 田村満代<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本中毒情報センター): 追跡症例の自動収集と自動提供の可能性について . 第23回日本中毒学会総会, 2001 . 7 .
  - 15) 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 直江康孝, 中野渡雄一: 多種降圧薬等を大量に服用しショック状態で搬送された1救命例 . 第23回日本中毒学会総会, 2001 . 7 .
  - 16) 宮田淳子, 熊谷智昭, 島田 靖, 直江康孝, 中村敏弘, 小川理郎, 横田裕行, 黒川 顕: 救命救急センターにおける高齢者医療の特徴と問題点 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 17) 小柳美雪, 菊池広子, 上笹 宙, 弥富俊太郎, 中村敏弘, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 高齢者における呼吸管理の特徴と問題点 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 18) 白井潤二, 中野渡雄一, 加地正人, 横田裕行, 黒川 顕: 救命救急センターに搬送された熱中症 . 第69回日本

医科大学医学会総会，2001．9．

- 19) 杉原秀人<sup>1)</sup>，久保田稔<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>2)</sup>，島田 靖，小柳正雄，中野渡雄一，弥富俊太郎，直江康孝，中村敏弘，小川理郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕<sup>(1)</sup>多摩永山病院中央検査部，<sup>2)</sup>同内科): 当院救命救急センターにおける急性血液浄化法の施行状況と重症患者に対する持続的血液濾過透析 (CDHF) の検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 20) 小川理郎，菊池広子，上笹 宙，島田 靖，小柳正雄，中野渡雄一，直江康孝，弥富俊太郎，加地正人，中村敏弘，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：メチルアルコール中毒の1例．第32回日本医大・東京医大救命救急合同カンファランス，2001．10．
- 21) 上笹 宙，菊池広子，小柳美雪，玉井英世，弥富俊太郎，小川理郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：腹部症状から発症した特発性食道破裂の1例．第28回過大侵襲研究会，2001．10．
- 22) 小川理郎，島田 靖，中野渡雄一，弥富俊太郎，直江康孝，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：急性メタノール中毒の1例．東京医大・日本医大合同カンファランス，2001．10．
- 23) 平田清貴，恩田美穂<sup>2)</sup>，松本宣明<sup>2)</sup>，清水万紀子<sup>2)</sup>，福岡正道<sup>2)</sup>，平野公晟<sup>1)</sup>，山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>昭和薬科大学，<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター): フルコナゾール投与計画における初期投与量と薬物動態・薬効評価．第16回日本薬物動態学会年会，2001．10．
- 24) 横田裕行，黒川 顕，畝本恭子，高橋 聡，中村敏弘，加地正人，弥富俊太郎，直江康孝，中野渡雄一，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 脊椎・脊髄外傷，頭部外傷による血管障害の診断と治療の問題点．第29回日本救急医学会総会，2001．11．
- 25) 畝本恭子，直江康孝，中間哲郎，中林基明<sup>1)</sup>，布施 明<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，横田裕行，野手洋治<sup>1)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 当施設におけるクモ膜下出血治療を振り返る．第29回日本救急医学会総会，2001．11．
- 26) 畝本恭子，直江康孝，中間哲郎，中林基明<sup>1)</sup>，布施 明<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，横田裕行，野手洋治<sup>1)</sup>，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 当施設における重症クモ膜下出血に対する軽度脳低体温療法の臨床的検討．第29回日本救急医学会総会，2001．11．
- 27) 小川理郎，弥富俊太郎，中村敏弘，加地正人，高橋 聡，横田裕行，黒川 顕，小井土雄一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 東部太平洋上における洋上救急医療の現状と問題点．第29回日本救急医学会総会，2001．11．
- 28) 中野渡雄一，平田清貴<sup>1)</sup>，加地正人，直江康孝，高橋 聡，横田裕行，黒川 顕，山本保博<sup>2)</sup>，松本宣明<sup>3)</sup>，恩田美穂<sup>3)</sup>，福岡正道<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>同救命救急センター，<sup>3)</sup>昭和薬科大学薬物動態学): 重症患者の鎮静時におけるミダゾラムの至適投与量の検討：活性代謝産物の経時的変化測定より．第29回日本救急医学会総会，2001．11．
- 29) 黒川 顕，横田裕行，高橋 聡，畝本恭子，加地正人，直江康孝，弥富俊太郎，中村敏弘，中野渡雄一，小野寺謙吾，島田 靖：呼吸器症状以外で入院し退院後に結核菌陽性と判明した症例の問題点．第29回日本救急医学会総会，2001．11．
- 30) 横田裕行，上笹 宙，直江康孝，加地正人，畝本恭子，黒川 顕：外傷性脳血管障害の検討．第22回多摩地区脳卒中研究会，2001．11．
- 31) 黒川 顕，横田裕行，中野渡雄一，島田 靖，弥富俊太郎，直江康孝，加地正人，畝本恭子：いっ頸によりCPAになったBrugada症候群とICDの問題点．第16回日本救命救急医療学会総会，2001．11．
- 32) 猪鹿倉恭子，直江康孝，中間哲郎，横田裕行，黒川 顕，山本保博<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup>同脳神経外科): 高齢者重症くも膜下出血の当救命救急センターにおける適応と管理．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．11．
- 33) 平田清貴<sup>1)</sup>，中野渡雄一，松本宣明<sup>2)</sup>，恩田美穂<sup>2)</sup>，清水万紀子<sup>2)</sup>，中林基明<sup>3)</sup>，上田康晴<sup>3)</sup>，横田裕行，福岡

- 正道<sup>2)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 黒川 顕, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部,<sup>2)</sup>昭和薬科大学薬物動態学,<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 低体温療法施行患者におけるミダゾラム体内動態に関する検討. 第22回日本臨床薬理学会, 2001. 12.
- 34) 黒川 顕, 横田裕行, 小川理郎, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>1)</sup>, 林田眞喜子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 初回搬送時見逃した急性メタノール中毒の1例. 第16回日本中毒学会東日本地方会, 2002. 1.
- 35) 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 中野渡雄一, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>1)</sup>, 林田眞喜子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 急性一口根中毒の1例. 第16回日本中毒学会東日本地方会, 2002. 1.
- 36) 小川理郎, 島田 靖, 菊池広子, 弥富俊太郎, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 発症4日後の血栓溶解療法で改善した右腎梗塞の1例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 37) 小柳正雄, 上笹 宙, 中野渡雄一, 直江康孝, 小川理郎, 加地正人, 畝本恭子, 黒川 顕: 杖創による左大腿骨骨折に血管損傷を合併した1例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 38) 猪鹿倉恭子, 上笹 宙, 中野渡雄一, 小柳正雄, 弥富俊太郎, 直江康孝, 加地正人, 横田裕行, 黒川 顕: 受傷頭部外傷に対する脳低温療法の適応の再検討. 多摩神経外傷カンファレンス, 2002. 2.
- 39) 加地正人, 小川理郎, 上笹 宙, 弥富俊太郎, 玉井英世, 横田裕行, 黒川 顕: 心嚢を経由し, 心, 肝, 下大静脈を損傷した胸部刺創の1例. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- 40) 小川理郎, 加地正人, 横田裕行, 弥富俊太郎, 上笹 宙, 黒川 顕: 経横隔膜脾刺創を認めた多発刺創の1例. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- 41) 上笹 宙, 玉井英世, 弥富俊太郎, 小川理郎, 加地正人, 横田裕行, 黒川 顕: 腹膜刺激症状を主症状とし, まれな転帰をたどった特発性食道破裂の1知見例. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- 42) 横田裕行, 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 中林基明<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 分子マーカーからみた頭部外傷による脳血管内皮損傷のメカニズム. 第25回日本神経外傷学会, 2002. 3.
- 43) 平田清貴<sup>1)</sup>, 中野渡雄一, 松本宣明<sup>2)</sup>, 恩田美穂<sup>2)</sup>, 清水万紀子<sup>2)</sup>, 中林基明<sup>3)</sup>, 上田康晴<sup>3)</sup>, 横田裕行, 福岡正道<sup>2)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 黒川 顕, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部,<sup>2)</sup>昭和薬科大学,<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 脳死判定にミダゾラム持続静注が影響を与える可能性. 日本薬学会台122年会, 2002. 3.
- (4) ポスター:
- 1) 菊池広子, 小柳美雪, 上笹 宙, 弥富俊太郎, 小川理郎, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 腹部板状硬を伴って発症した特発性食道破裂の1例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.

## [ 千葉北総病院救命救急センター ]

### 研究概要

当施設は千葉県北総地域の救急医療機関として平成6年1月に開設された。その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害拠点病院に、また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。近年は救急患者のヘリ搬送ネットワークの構築も行い、平成11年4月には救命救急センターに認定され、各種学会において活発な活動を行っている。平成13年10月よりドクターヘリ事業を開始し、重傷外傷の治療に目覚ましい効果を挙げている。研究テーマとしては、救急医療ならびに災害医療システムの研究・開発、新しい心肺脳蘇生法の開発、多発外傷の病態生理、特に臓器相関の解明、重症熱傷や気道熱傷の病態解明、急性中毒の病態生理の解明ならびに敗血症、SIRS、多臓器不全の病態解明、感染制御、救急医学教育学の研究等がある。またプレホスピタルケアの充実を目指し、北総救命会においての救急隊員に対する講習会、北総救命会フォーラムの開催を通じてのメディカルコントロールの確立にも力を入れている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 伊良部徳次<sup>1)</sup>, 渡辺三郎<sup>1)</sup>, 大江恭司<sup>1)</sup>, 中村 朗<sup>1)</sup>, 杉山 宏<sup>1)</sup>, 村海信乃<sup>1)</sup>, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup>旭中央病院救命救急センター): 千葉県における災害医療訓練について. 日本集団災害医学会誌 2001 ; 6 (1): 43-47 .
- 2) 小関一英<sup>1)</sup>, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 杉本勝彦<sup>1)</sup>, 森村尚登<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 大友康裕<sup>1)</sup>, 菊野隆明<sup>1)</sup>, 新藤正輝<sup>1)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup>, 平間久雄<sup>1)</sup>, 松園幸雅<sup>1)</sup>, 寺田泰蔵<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 有賀 徹<sup>1)</sup>, 高柳和江<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Emergency Medical Study Group for Quality (EMSQ) 研究会): Trauma registry によって構築した日本版 TRISS による外傷重症度評価法. 日外傷学会誌 2001 ; 15 (4): 310-311 .
- 3) 梅里良正<sup>1)</sup>, 有賀 徹<sup>2)</sup>, 伊藤弘人<sup>3)</sup>, 井上徹英<sup>4)</sup>, 上嶋権兵衛<sup>5)</sup>, 坂本哲也<sup>6)</sup>, 鈴木荘太郎<sup>5)</sup>, 前田幸宏<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 山本修三<sup>7)</sup>( <sup>1)</sup>日本大学医学部, <sup>2)</sup>昭和大学医学部, <sup>3)</sup>国立医療・病院管理研究所, <sup>4)</sup>北九州総合病院, <sup>5)</sup>東邦大学医学部, <sup>6)</sup>東京大学医学部, <sup>7)</sup>済生会神奈川県病院): 救急医療領域におけるクリニカル・インディケータの開発に関する研究. 病院管理 2001 ; 38 (4): 31-40 .
- 4) 望月 徹: 救命救急センター 新世紀の院内感染対策 施設における感染対策. 臨と微生物 2001 ; 28 : 35-45 .

#### (2) 綜説:

- 1) 益子邦洋: 交通事故調査には医学・医療の視点が必要; 事故分析分科会の検討から. アスカ21 2001 ; 10 (2): 10-11 .
- 2) 松本 尚, 益子邦洋: 誤嚥. 臨成人病 2001 ; 31 (4): 441-443 .
- 3) 片田正一, 益子邦洋: 呼吸困難. 救急医 2001 ; 25 (4): 425-428 .
- 4) 原 義明, 川井 真: GustiloIIIB型開放骨折の治療. Monthly Book Orthopaedics 2001 ; 14 (5): 44-55 .
- 5) 益子邦洋: 外傷センターの整備は緊急の課題. アスカ21 2001 ; 10 (3): 12-13 .
- 6) 工廣紀斗司, 望月 徹, 益子邦洋: ウィルスを見直そう. エマージェンシー・ナーシング 2001 ; 14 (9): 19-25 .
- 7) 工廣紀斗司: 心肺蘇生法. レジデントノート 2001 ; 3 (3): 95-112 .
- 8) 片田正一, 益子邦洋: IABP. 救急医 2001 ; 25 (10): 1408-1412 .
- 9) 益子邦洋: 旅客自動車の運転手は応急救護処置の大切な担い手. アスカ21 2001 ; 10 (4): 10-11 .
- 10) 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 片田正一, 望月 徹, 東 和明, 森田良平, 廣瀬敦視, 益子邦洋: 米国に学ぶ本邦でのメディカルディレクターのあり方. 救急医 2001 ; 25 (11): 1640-1645 .
- 11) 東 和明, 福田令雄, 奥田貴久, 廣瀬敦視, 森田良平, 工廣紀斗司, 原 義明, 望月 徹, 片田正一, 松本尚, 益子邦洋: 血管異常. 救急医 2001 ; 25 (12): 1693-1697 .
- 12) 望月 徹, 益子邦洋: 電撃傷(落雷を含む): 病態・治療および対策. 救急集中治療 2001 ; 13 (12): 1257-1266 .
- 13) 益子邦洋, 松本 尚: 救命救急センターとメディカルコントロール. 救急医 2001 ; 25 (13): 1855-1859 .
- 14) 工廣紀斗司, 望月 徹, 益子邦洋: スタンダードプレコーション. 救急集中治療 2001 ; 13 (臨時増刊): e75-e79 .
- 15) 工廣紀斗司: 危険な不整脈. レジデントノート 2001 ; 3 (5): 63-75 .
- 16) 松本 尚, 益子邦洋: 検証作業のあり方. 救急医 2001 ; 25 (13): 1823-1827 .
- 17) 松本 尚: 出血性胃潰瘍. プレホスピタル・ケア 2001 ; 14 (4): 64-67 .
- 18) 田代賢司<sup>1)</sup>, 石原和典<sup>2)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup>印西地区消防組合消防本部, <sup>2)</sup>栄町消防): 事後検証のための救急活動評価表 (PRESheet) の導入. プレホスピタル・ケア 2001 ; 14 (6): 26-29 .
- 19) 工廣紀斗司, 望月 徹, 益子邦洋: HIV感染症 特集 新興・再興感染症を迎え撃つ: 備えは万全か?. 救急集中治療 2002 ; 14 (2): 135-144 .



- 20) 廣瀬敦視：人工呼吸中の胸部X線写真．エマージェンシー・ナーシング 2002；新春増刊号（通巻172号）（172）：163-172．
- 21) 益子邦洋：医療における信頼性確保の方策．日本信頼性学会誌 2002；24（2）：121-126．
- (3) 研究報告書：
- 1) 松本 尚：米国の高度救急医療施設における医療情報データベース構築の現状と課題．平成12年度厚生科学研究費補助金 - 医療技術評価総合研究推進事業 - 研究業績報告書 2001；pp292-312．
  - 2) 益子邦洋：パラメディックスと救急救命士の養成カリキュラムと業務内容．厚生科学特別研究事業 救急救命士による適切な気道確保に関する研究 平成13年度総括研究報告書 2002；pp35-36．
  - 3) 小濱啓次<sup>1)</sup>，山中郁男<sup>2)</sup>，益子邦洋，石川雅健<sup>3)</sup>，松尾庄一<sup>4)</sup>，末井誠史<sup>4)</sup>，吉武祥夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>川崎医科大学救急医学，<sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院救命救急センター，<sup>3)</sup>東京女子医科大学病院救命救急センター，<sup>4)</sup>警察庁交通局交通企画課，<sup>5)</sup>社団法人日本交通福祉協会)：交通事故現場における応急救護処置マニュアルに関する報告．交通事故現場における応急救護処置マニュアルに関する報告書 2002；pp1-35．
  - 4) 小濱啓次<sup>1)</sup>，山中郁男<sup>2)</sup>，益子邦洋，石川雅健<sup>3)</sup>，松尾庄一<sup>4)</sup>，末井誠史<sup>4)</sup>，吉武祥夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>川崎医科大学救急医学，<sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院救命救急センター，<sup>3)</sup>東京女子医科大学病院救命救急センター，<sup>4)</sup>警察庁交通局交通企画課，<sup>5)</sup>社団法人日本交通福祉協会)：交通事故現場における応急救護処置の効果等に関する調査研究報告．交通事故現場における応急救護処置の効果等に関する調査研究報告書 2002；pp1-64．
  - 5) 有賀 徹<sup>1)</sup>，伊藤弘人<sup>2)</sup>，井上徹英<sup>3)</sup>，梅里良正<sup>4)</sup>，上嶋権兵衛<sup>5)</sup>，坂本哲也<sup>6)</sup>，鈴木荘太郎<sup>7)</sup>，前田幸宏<sup>4)</sup>，益子邦洋，山本修三<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学医学部救急医学，<sup>2)</sup>国立医療病院管理研究所医療経済研究部，<sup>3)</sup>北九州総合病院救命救急センター，<sup>4)</sup>日本大学医学部医療管理学教室，<sup>5)</sup>東邦大学医学部第2内科，<sup>6)</sup>帝京大学医学部救急医学，<sup>7)</sup>東邦大学医学部病院管理学教室，<sup>8)</sup>済生会神奈川県病院)：院内の疾病登録を利用した心筋梗塞及び脳卒中の治療方針等の向上に関する研究．平成13年度厚生科学研究費補助金（21世紀型医療開拓推進 研究事業）研究報告書 2002；pp1-100．

## 著 書

- 1) 益子邦洋：〔分担〕疫学．プレホスピタル外傷学（プレホスピタル外傷研究会編集），2001；pp2-8，永井書店．
- 2) 松本 尚：〔分担〕胸部外傷．プレホスピタル外傷学（プレホスピタル外傷研究会編集），2001；pp207-215，永井書店．
- 3) 岡田芳明<sup>1)</sup>，桂田菊嗣<sup>2)</sup>，相馬一玄<sup>3)</sup>，塚田勝夫<sup>4)</sup>，堤 晴彦<sup>5)</sup>，益子邦洋（<sup>1)</sup>防衛医科大学校病院救急部，<sup>2)</sup>大阪府立病院，<sup>3)</sup>北里大学医学部救命救急医学，<sup>4)</sup>東京消防庁救急部救急指導課，<sup>5)</sup>埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター)：〔共著〕救急隊員標準テキスト（救急隊員用教本作成委員会編集），2001；pp1-303，へるす出版．
- 4) 原 義明：〔分担〕骨盤・四肢外傷．研修医のための 最新救命救急 MANUAL（大塚敏文編集），2001；pp152-161，メディカルジャーナル．
- 5) 工廣紀斗司：〔分担〕心肺蘇生法 - AHA Guidelines2000．研修医のための 最新救命救急 MANUAL（大塚敏文編集），2001；pp22-28，メディカルジャーナル．
- 6) 工廣紀斗司：〔分担〕ショック．研修医のための 最新救命救急 MANUAL（大塚敏文編集），2001；pp43-47，メディカルジャーナル．
- 7) 松本 尚：〔分担〕病院前救護体制（プレホスピタルケア）とメディカルコントロール．研修医のための 最新救命救急 MANUAL（大塚敏文編集），2001；pp10-13，メディカルジャーナル．
- 8) 松本 尚：〔分担〕減圧症．研修医のための 最新救命救急 MANUAL（大塚敏文編集），2001；pp184-186，メディカルジャーナル．
- 9) 肥田誠治，益子邦洋：〔分担〕熱傷性ショック．経静脈治療オーダマニュアル（和田孝雄・小川 龍・林田憲

- 明・島崎修次・飯野靖彦編集), 2001 ; pp59-63, メディカルレビュー社 .
- 10) 片田正一: [分担] 呼吸困難 . 研修医のための 最新救命救急 MANUAL (大塚敏文編集), 2001 ; pp72-74, メディカルジャーナル .
- 11) 片田正一: [分担] 末梢血管損傷 . 研修医のための 最新救命救急 MANUAL (大塚敏文編集), 2001 ; pp167-169, メディカルジャーナル .
- 12) 望月 徹: [分担] 嘔吐 . 研修医のための 最新救命救急 MANUAL (大塚敏文編集), 2001 ; pp86-89, メディカルジャーナル .
- 13) 望月 徹: [分担] 気道および食道異物 . 研修医のための 最新救命救急 MANUAL (大塚敏文編集), 2001 ; pp170-173, メディカルジャーナル .
- 14) 益子邦洋: [分担] 救急薬剤の使用法 . 研修医ノート ; 医の基本 (永井良三責任編集), 2001 ; pp432-438, 診断と治療社 .
- 15) 益子邦洋: [分担] 胸部外傷 . Emergency Bible (島崎修次編集主幹), 2001 ; pp216-217, メディカルレビュー社 .
- 16) 益子邦洋: [分担] 胸部外傷 . 標準救急医学 (日本救急医学会監修), 2001 ; pp313-330, 医学書院 .
- 17) 益子邦洋: [分担] 骨盤骨折 . 2002 TODAY'S THERAPY (多賀須幸男・尾形悦郎監修), 2002 ; pp49-49, 医学書院 .
- 18) 廣瀬敦視, 益子邦洋: [分担] 人工呼吸中の胸部 X線写真 . 救急ナースのための人工呼吸器マニュアル ; Emergency Nursing (藤井千穂・向仲真蔵監修, 塩見一成編著), 2002 ; pp163-172, メディカ出版 .
- 19) 益子邦洋: [分担] 緊急検査の理解 . 救急看護学 (加来信雄・藤井千穂・葛西 猛・千代孝夫・高橋章子編集), 2002 ; pp128-139, 医学書院 .
- 20) 益子邦洋, 望月 徹: [分担] 気道内異物吸引 . 呼吸器疾患の治療と看護 (工藤翔二編集), 2002 ; pp156-157, 南江堂 .
- 21) 石原 晋<sup>1)</sup>, 小川雄之亮<sup>2)</sup>, 加藤啓一<sup>3)</sup>, 上嶋権兵衛<sup>4)</sup>, 河村剛史<sup>5)</sup>, 小浜啓次<sup>6)</sup>, 鈴川正之<sup>7)</sup>, 田中経一<sup>8)</sup>, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 県立広島病院救命集中治療科, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター, <sup>3)</sup> 日本赤十字社医療センター麻酔科部兼集中治療科部, <sup>4)</sup> 東邦大学医学部内科学第二講座, <sup>5)</sup> 兵庫県立健康センター, <sup>6)</sup> 川崎医科大学救急医学, <sup>7)</sup> 自治医科大学救急医学, <sup>8)</sup> 福岡大学医学部救命救急医学 ): [共著] 救急法講習教本 (日本赤十字社編集), 2002 ; pp1-165, 図書印刷 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 益子邦洋: 我が国におけるプレホスピタルケアの現状と課題 ; 地域救急体制の高度化へむけて . 第10回青森救急医学会総会, 2001 . 7 .

##### (2) 教育講演:

- 1) 益子邦洋: 胸部外傷 ; 最新の治療 . 第29回日本救急医学会総会, 2001 . 11 .
- 2) 益子邦洋: 重度胸腹部外傷の治療戦略 . 第5回近畿外傷診療フォーラム, 2002 . 1 .

##### (3) シンポジウム:

- 1) 松本 尚, 廣瀬敦視, 工廣紀斗司, 片田正一, 益子邦洋, 小柳正雄, 原 義明, 望月 徹: メディカルコントロール体制の構築には何が必要か? . 第4回日本臨床救急医学会総会, 2001 . 4 .
- 2) 益子邦洋, 松本 尚, 望月 徹, 片田正一, 工廣紀斗司, 原 義明, 小柳正雄, 廣瀬敦視, 横堀将司, 高橋明子: 小児外傷診療システム構築の基礎となるデータベース作成の必要性 . 第15回日本小児救急医学会, 2001 . 6 .
- 3) 益子邦洋: メディカルコントロール体制を如何にして構築するか . 第23回救急コ・メディカルセミナー, 2001 . 9 .
- 4) 工廣紀斗司, 望月 徹, 松本 尚, 片田正一, 原 義明, 小柳正雄, 東 和明, 廣瀬敦視, 益子邦洋: Dy-

namic Simulation を用いた新しい救急医学教育の提案．第29回日本救急医学会総会，2001．11．

(4) パネルディスカッション：

- 1) 井上徹英<sup>1)</sup>，有賀 徹<sup>1)</sup>，益子邦洋，上嶋権兵衛<sup>1)</sup>，山本修三<sup>1)</sup>，坂本哲也<sup>1)</sup>，鈴木荘太郎<sup>1)</sup>，梅里良正<sup>1)</sup>，伊藤弘人<sup>1)</sup>，前田幸宏<sup>1)</sup>，杉本勝彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>厚生科学研究特別研究班[効果的な診療評価指標と登録手法の開発に関する研究])：救急医療における診療の質評価指標開発のためのデータベースについて．第29回日本救急医学会総会，2001．11．

(5) 一般講演：

- 1) Mashiko K, Otsuka T, Shimazaki S, Kohama A, Kamishima G, Katsurada K, Sawada Y, Matsubara I, Yamaguchi K : An outcome evaluation for out of hospital cardio-pulmonary arrest patients using utstein template . 12th WORLD CONGRESS ON DISASTER AND EMERGENCY MEDICINE ( LYON, FRANCE ), 2001 . 5 .
- 2) Takuhiro K, Matsumoto H, Mochizuki T, Wallace M, Mashiko K (<sup>1)</sup>EMS): Use of a High Fidelity Simulator for Training Japanese Doctor Helicopter Crews as a Method to Improve Patient Safety . International Meeting on Medical Simulation , 2002 . 1 .
- 3) 工廣紀斗司，松本 尚，望月 徹，片田正一，原 義明，小柳正雄，廣瀬敦視，赤石諭史，恩田秀賢，益子邦洋：重症肺損傷に対する緊急PCPSは救命救急センターの必須手技である．第4回日本臨床救急医学会総会，2001．4．
- 4) 横堀将司，望月 徹，原 義明，廣瀬敦視，小柳正雄，工廣紀斗司，松本 尚，片田正一，益子邦洋：後腹膜膿瘍，硬膜外膿瘍により敗血症に至り広範囲ドレナージにより救命し得た1例．第27回過大侵襲研究会，2001．4．
- 5) 田代賢司<sup>1)</sup>，鈴木 等<sup>1)</sup>，日暮尚明<sup>1)</sup>，松本 尚，益子邦洋(<sup>1)</sup>印西地区消防組合消防本部)：消防機関と医療機関の連携．第4回千葉県救急医療研究会，2001．4．
- 6) 須藤和義<sup>1)</sup>，安藤直也<sup>1)</sup>，松本 尚，片田正一，益子邦洋(<sup>1)</sup>佐倉市八街市酒々井町消防組合)：深部静脈血栓症により救急要請された1症例．第4回千葉県救急医療研究会，2001．4．
- 7) 松本 尚，横堀将司，高橋明子，廣瀬敦視，小柳正雄，原 義明，工廣紀斗司，片田正一，望月 徹，益子邦洋：メディカルコントロールの概念と構築．第4回千葉県救急医療研究会，2001．4．
- 8) 松本 尚，横堀将司，廣瀬敦視，小柳正雄，原 義明，工廣紀斗司，片田正一，望月 徹，益子邦洋：外傷症例に対するMedical Controlのあり方．第15回日本外傷学会，2001．5．
- 9) 加地正人<sup>1)</sup>，逸見 弘<sup>2)</sup>，益子邦洋，大友康裕<sup>2)</sup>，小井土雄一<sup>2)</sup>，木村昭夫<sup>2)</sup>，犬塚 祥<sup>2)</sup>，久志本成樹<sup>2)</sup>，井上潤一<sup>2)</sup>，弥富俊太郎<sup>2)</sup>，中野渡雄一<sup>2)</sup>，小野寺謙吾<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，黒川 顕<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>救急医学)：現時点での胸部大動脈損傷の最良の治療とこれからの課題．第15回日本外傷学会，2001．5．
- 10) 横堀将司，望月 徹，松本 尚，片田正一，工廣紀斗司，原 義明，小柳正雄，廣瀬敦視，佐藤優子，亀川禎央，益子邦洋：重症顔面外傷に合併した内頸動脈損傷に対して離脱式バルーン塞栓術が有効であった1症例．第51回日本救急医学会関東地方会，2001．6．
- 11) 高橋明子，亀川禎央，佐藤優子，横堀将司，廣瀬敦視，小柳正雄，原 義明，工廣紀斗司，片田正一，松本 尚，望月 徹，益子邦洋：当センターにおける小児救急搬送症例の検討．第51回日本救急医学会関東地方会，2001．6．
- 12) 廣瀬敦視，森田良平，東 和明，原 義明，工廣紀斗司，片田正一，松本 尚，望月 徹，益子邦洋：ACS予防目的としてのサイロクロージャー施行症例の検討．第15回千葉県重症患者管理研究会，2001．9．
- 13) 片田正一，松本 尚，工廣紀斗司，望月 徹，原 義明，小柳正雄，廣瀬敦視，横堀将司，亀川禎央，益子邦洋：腹部救急疾患に対するDamage Control Surgery．第37回日本腹部救急医学会総会，2001．9．
- 14) 福田令雄，東 和明，奥田貴久，廣瀬敦視，森田良平，工廣紀斗司，原 義明，松本 尚，片田正一，望月 徹，益子邦洋：絞扼性の腹壁癒痕ヘルニアから術中心停止を来した症例．第28回過大侵襲研究会，2001．10．

- 15) 奥田貴久, 望月 徹, 松本 尚, 片田正一, 工廣紀斗司, 原 義明, 東 和明, 森田良平, 廣瀬敦視, 福田令雄, 益子邦洋: 広範囲熱傷にてPBI100を超える高齢者の周術期輸液・栄養管理. 第2回千葉CCM輸液・栄養研究会, 2001. 10.
- 16) 白浜彰彦, 東 和明, 松本 尚, 片田正一, 工廣紀斗司, 益子邦洋: IIIb型膵損傷・IIa型十二指腸損傷に対して膵頭十二指腸切除術を施行した1例. 第28回外傷症例検討会, 2001. 11.
- 17) 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 片田正一, 望月 徹, 東 和明, 小柳正雄, 廣瀬敦視, 益子邦洋: 救急隊活動記録・評価票の導入とその評価. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 18) 片田正一, 望月 徹, 松本 尚, 工廣紀斗司, 原 義明, 小柳正雄, 東 和明, 廣瀬敦視, 益子邦洋, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): いわゆるエコノミークラス症候群により急速に死の転帰を取った1例. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 19) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 前田容子<sup>2)</sup>, 工廣紀斗司, 小井土雄一<sup>3)</sup>, 益子邦洋, 山下精彦<sup>4)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>2)</sup>千葉北総病院看護部, <sup>3)</sup>付属病院高度救命救急センター, <sup>4)</sup>千葉北総病院外科): 国際空港と外国人に対する救急医療. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 20) 望月 徹, 工廣紀斗司, 松本 尚, 片田正一, 原 義明, 小柳正雄, 東 和明, 廣瀬敦視, 横堀将司, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 劇症型溶連菌感染症2例の検討と現場におけるグラム染色検査での起菌菌同定の有用性. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 21) 白浜彰彦, 東 和明, 福田令雄, 島本 実, 奥田貴久, 廣瀬敦視, 品田卓郎, 森田良平, 工廣紀斗司, 原 義明, 松本 尚, 望月 徹, 片田正一, 益子邦洋: Damage control surgeryが奏効した重傷膵損傷の1例. 第13回千葉Critical Care Medicine研究会, 2001. 12.
- 22) 益子邦洋: 千葉県ドクターヘリ事業の現状と将来展望. 平成13年度千葉県医師会救急・災害医療対策医療研修会, 2002. 2.
- 23) 望月 徹, 松本 尚, 片田正一, 工廣紀斗司, 原 義明, 東 和明, 森田良平, 廣瀬敦視, 益子邦洋: 治療に難渋した若年者外傷性胸部仮性大動脈瘤の1手術例. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 24) 松本 尚, 原 義明, 工廣紀斗司, 片田正一, 望月 徹, 東 和明, 森田良平, 廣瀬敦視, 益子邦洋: ドクターヘリ運航のための諸条件. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 25) 工廣紀斗司, 松本 尚, 望月 徹, 片田正一, 原 義明, 東 和明, 森田良平, 廣瀬敦視, 益子邦洋: Patient Safetyの向上を目指した救急医学教育. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 26) 東 和明, 小池 薫<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>2)</sup>, 望月 徹, 柴田泰史<sup>3)</sup>, 久志本茂樹<sup>4)</sup>, 小井土雄一<sup>4)</sup>, 川井 真<sup>4)</sup>, 益子邦洋, 山本保博<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学医学部救急部, <sup>2)</sup>国立病院東京災害医療センター, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院検査室, <sup>4)</sup>同高度救命救急センター): 集中治療患者におけるスーパー抗原の測定. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- 27) 廣瀬敦視, 片田正一, 松本 尚, 工廣紀斗司, 望月 徹, 原 義明, 森田良平, 東 和明, 福田令雄, 益子邦洋: 高齢者破裂性腹部大動脈瘤の治療戦略. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.

## [ 新東京国際空港クリニック ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Hata N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Makino T (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室): Prognosis of Economy class Syndrome Treated in Intensive Care Unit. Internal Medicine 2002; 141 (2).

(2) 綜説：

- 1) Makino T, Asano Y, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup>, Yamasita K<sup>3)</sup>, Yamamoto Y<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室,<sup>2)</sup>同内科,<sup>3)</sup>同外科,<sup>4)</sup>付属病院高度救命救急センター): International Airports and Plumonary Thromboebolism . 血栓止血誌 2001 ; 12 ( 6 ) .
- 2) 牧野俊郎, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): OxygenationとVentilationに関する新しい考え方 . 救急医学 (へるす出版) 2001 ; 25 ( 5 ): 561-563 .
- 3) 牧野俊郎: 日本医科大学新東京国際空港クリニック . 救急医療ジャーナル 2002 ; 10 ( 1 ): 40-44 .
- 4) 牧野俊郎: 成田空港にみる旅行者血栓症いわゆるエコノミークラス症候群の実態 . Medical ASAHI 2002 ; 2 : 29-31 .

著 書

- 1) 牧野俊郎, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): [ 共著 ] 2002年度 輸液・輸血・救急薬 Today , 2001 ; メディカ出版 .
- 2) 牧野俊郎, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): [ 分担 ] 第19回救命救急士国家試験問題解答解説集, 2001 ; へるす出版 .

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 牧野俊郎: 国際空港とエコノミークラス症候群 . 第37回日本交通科学協議会総会, 2001 . 6 .

(2) シンポジウム：

- 1) 牧野俊郎: わが国におけるエコノミークラス症候群の実態 . 第24回日本血栓止血学会, 2001 . 11 .

(3) セミナー：

- 1) 牧野俊郎: エコノミークラス症候群と深層海水 . 第23回日本健康増進学会, 2001 . 11 .
- 2) 牧野俊郎: 静脈血栓症の最前線: 旅行者血栓症 (いわゆるエコノミークラス症候群) . 第29回日本救急医学会総会, 2001 . 11 .

(4) 一般講演：

- 1) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 恵志正輝, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター,<sup>2)</sup>同外科,<sup>3)</sup>付属病院高度救命救急センター): 降機後旅客およびCrewの救急疾患の検討 . 第47回日本宇宙航空環境医学会, 2001 . 11 .
- 2) 浅野悦洋, 恵志正輝, 岩瀬龍之, 牧野俊郎: 国際空港における医療費 . 第47回日本宇宙航空環境医学会, 2001 . 11 .
- 3) 三浦靖彦<sup>1)</sup>, 森比呂志<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>3)</sup>, 牧野俊郎 (<sup>1)</sup>航空医療センター, <sup>2)</sup>成田赤十字病院内科, <sup>3)</sup>千葉北総病院集中治療室): 航空機利用に伴う深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症に関する全国調査 . 第47回日本宇宙航空環境医学会, 2001 . 11 .

(5) ポスター：

- 1) Suzuki S<sup>1)</sup>, Katsumi A<sup>2)</sup>, Makino T, Asano Y, Yamamoto Y (<sup>1)</sup>武蔵野赤十字病院救命救急センター, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター): Activities of New Tokyo International Airport Clinic (NTIAC) - First Established International Airport Affiliated Travel Clinic in Japan . 第7回国際トラベル学会, 2001 . 6 .
- 2) 目黒真喜子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 牧野俊郎 (<sup>1)</sup>千葉北総病院中央検査室, <sup>2)</sup>同内科): 超音波診断装置 Sonosite TM180の使用経験と臨床的有用性 . 第69回日本医科大学医学会, 2001 . 9 .
- 3) 中田恵理<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 牧野俊郎 (<sup>1)</sup>千葉北総病院中央検査室, <sup>2)</sup>同内科): 新東京国際空港ク

リックにおける小型血糖測定装置（アントセンスII）の有用性．第69回日本医科大学医学会，2001．9．

- 4) 牧野俊郎，浅野悦洋，工廣紀斗司<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>3)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター，<sup>2)</sup>附属病院高度救命救急センター，<sup>3)</sup>千葉北総病院外科): 国際空港と外国人に対する救急医療．第29回日本救急医学会総会，2001．11．

(6) 要望課題：

- 1) 牧野俊郎，浅野悦洋，村越秀光，恵志正輝，今泉孝敬<sup>1)</sup>，畑 典武<sup>1)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室，<sup>2)</sup>附属病院高度救命救急センター): 国際空港と肺血栓塞栓症．第29回日本救急医学会総会，2001．11．

## 19 . 形成外科学講座

### [ 付属病院形成外科・美容外科 ]

#### 研究概要

ケロイドの分子遺伝学的研究（科研費対象）および核磁気共鳴（NMR）による解析，真皮下血管網皮弁の解剖学的ならびに臨床的研究において大きな成果をみた．また，腹直筋皮弁の実験的研究において世界的に注目される成果を得た．種々の皮弁の開発と臨床適用においても大きな成果を得ることができた．国際学会では，第12回日中形成外科学会を主催し最近の教室の研究成果を十分に披露することができ，極めて有意義であった．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Murakami M, Hiko H, Matsuzawa I<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Akimoto M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Department of Urology, Nippon Medical School Hospital ): Scrotal Reconstruction With a Thinned Flap Based On Both Inferior Epigastric Arteries . Scand J Plast Reconstr Hand Surg 2001 ; 35 ( 1 ): 99-101 .
- 2) Oba K<sup>1)</sup>, Ito T<sup>1)</sup>, Nakatani C<sup>1)</sup>, Okamura K<sup>1)</sup>, Yamaguti H<sup>1)</sup>, Ajiro Y<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Nakano H<sup>1)</sup>, Metori S<sup>1)</sup>, Sano K, Hyakusoku H, Yamada N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Geriatric Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): An Elderly Patient with Gastric Carcinoma Developing Multiple Metastasis in Skeletal Muscle . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 3 ): 271-274 .
- 3) Ogawa R, Hyakusoku H, Aoki R, Murakami M : Clinical and Anatomical Study of Dorsal Intercostal Cutaneous Perforators for Microvascular Augmented Subdermal Vascular Network ( SVN, Super-thin ) Flaps . Reconstructive Microsurgery 2001 ; 1 ( 1 ): 429-430 .
- 4) Akimoto M, Hyakusoku H, Aoki R, Ogawa R, Gao J-H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nan-fan Hospital, Guangzhou, P. R. China ): Pedicled or Microvascular Augmented Subdermal Vascular Network ( ma-SVN ) Flaps in Pectoral and Abdominal Region . Reconstructive Microsurgery 2001 ; 1 ( 1 ): 439-440 .
- 5) Hyakusoku H, Murakami M, Aoki R, Gao J-H<sup>1)</sup>, Pennington DG<sup>2)</sup>, Vinh VQ<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Nan-Fan Hospital, Guangzhou, P. R. China , <sup>2)</sup> Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia , <sup>3)</sup> National Institute of Burns, Hanoi, Vietnam ): Burned Neck Reconstruction Using Various Versions of the Microvascular Augmented Subdermal Vascular Network ( ma-SVN ) Flaps in Dorsal Area . Reconstructive Microsurgery 2001 ; 1 ( 1 ): 135-137 .
- 6) Sano K, Hallock G<sup>1)</sup>, Wasser T<sup>2)</sup>, Robson P<sup>2)</sup>, Rice D<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Plastic Surgery, The Lehigh Valley Hospitals , <sup>2)</sup> Department of Health Studies, The Lehigh Valley Hospitals , <sup>3)</sup> Advanced Clinical Technologies Department, The Lehigh Valley Hospitals ): Comparison of a New Method for Computer Analysis With Standard Techniques for Measuring Survival Rates in the Rat Transverse Rectus Abdominis Musculocutaneous Flap . Annals of Plastic Surgery 2001 ; 47 ( 6 ): 647-651 .
- 7) Sano K, Hallock G<sup>1)</sup>, Rice D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Plastic Surgery and the Advanced Clinical Technologies Department, Leigh Valley Hospital ): The Relative Importance of the Deep and Superficial Vascular Systems for Delay of the Transverse Rectus Abdominis Musculocutaneous Flap as Demonstrated in a Rat model . Plastic and Reconstructive Surgery 2002 ; 109 ( 3 ): 1052-1057 .
- 8) 大久保暁司，青木 律，糸井百里恵，小川 令，岩田友希江，百束比古，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属

- 病院皮膚科): r-IL2を含めた集学的治療を行ったMHEの長期生存例. Skin Cancer 2001; 16(2): 196-200.
- 9) 五十嵐司<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 青木 律, 百束比古<sup>(1)</sup> 付属病院皮膚科): 鼻翼の基底細胞癌の1手術例. Skin Cancer 2001; 16(2): 201-204.
- 10) 小川 令, 荒川亮介<sup>1)</sup>, 百束比古, 青木 律, 三橋 清<sup>(1)</sup> 付属病院神経科): 形成外科領域における, カラーチャートを用いたデジタルカメラの比較検討. 形成外科 2001; 44(8): 809-814.
- 11) 王 春梅<sup>1)</sup>, 百束比古, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 中沢南堂<sup>2)</sup><sup>(1)</sup> 中国医学科学院・協和医科大学付属形成外科病院, <sup>2)</sup> 病理学第2): 肥厚性癬痕と耳ケロイド体質の分子遺伝学的解析. 日本未病システム学会雑誌 2001; 7(1): 75-78.
- 12) 村上正洋, 百束比古: グルコン酸カルシウム動脈内注入療法が効果的であったフツ化水素酸損傷の1例. 日形会誌 2001; 21(6): 349-352.
- 13) 村上正洋<sup>1)</sup>, 小川 令, 百束比古<sup>(1)</sup> 北村山公立病院形成外科): 総鼻道に達した眼窩内木片異物の1例. 日形会誌 2001; 21(6): 353-356.
- 14) 青木 律, 平賀 剛<sup>1)</sup>, 佐藤永大<sup>1)</sup>, 中川秀巳<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 自治医科大学皮膚科): 皮膚表在性色素性病変に対するフラッシュランプ療法. 日美容外会誌 2001; 23(2): 87-94.
- 15) 小川 令, 三橋 清, 百束比古, 大木琴美: 熱傷肥厚性癬痕に対するシリコンゲルシート(エフシート)の使用経験. 熱傷 2001; 27(2): 61-66.
- 16) 岩切 致, WANG C-M, 百束比古, 平川慶子<sup>(1)</sup> 法医学): 1H-NMR法を用いたケロイド, 肥厚性癬痕の代謝的研究. 日本形成外科学会誌 2001; 21(8): 473-480.
- 17) 小川 令, 百束比古, 河原理子, 藤本将史, 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup><sup>(1)</sup> 法医学): シリコンバッグ挿入後, 被膜全体に高度の石灰沈着を来した1例. 日美容外会誌 2001; 23(3): 28-34.
- 18) 大久保暁司<sup>1)</sup>, 百束比古, 青木 律, 村上正洋<sup>(1)</sup> 総合会津中央病院形成外科): 診断に難渋した腰部巨大皮下腫瘍の1例. 日形会誌 2001; 21(11): 646-650.
- 19) 王 春梅, 百束比古, 岩切 致, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 中沢南堂<sup>1)</sup><sup>(1)</sup> 病理学第2): ケロイドおよび肥厚性癬痕におけるP53遺伝子多形性の解析. 第7回ケロイド・肥厚性癬痕研究会記録集 2001; 31-35.
- 20) 小川 令, 石丸さやか, 青木 律, 百束比古, 原田尚重<sup>1)</sup>, 久志本茂樹<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup><sup>(1)</sup> 救急医学): 治療に難渋した肛門・臀部III度熱傷の1例: 頸管拡張器による肛門狭窄治療の奏効. 熱傷 2001; 27(5): 271-277.
- 21) 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 糸井百里恵, 後藤宙人, 藤本将史: フロンガスによる手指凍傷の1例. 熱傷 2002; 28(1): 36-42.
- (2) 綜説:
- 1) 三橋 清: ケロイドと肥厚性癬痕の治療(特集: 皮膚科医に必要な形成外科の治療). Monthly Book Derma 2001; 48: 46-54.
- 2) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>(1)</sup> 総合会津中央病院形成外科): フリーフラップによる開放性骨折の治療(特集: 四肢新鮮開放性骨折治療実践マニュアル). Orthopaedics 2001; 14(5): 105-115.
- 3) 佐野和史: アメリカにおける形成再建外科治療の現状. J Nippon Med Sch 2001; 68(3): 286-287.
- 4) 百束比古: スポーツによる顔面外傷とその治療. 臨スポーツ医 2001; 18(6): 641-646.
- 5) 百束比古, 秋元正宇, 村上正洋, 青木見佳子<sup>1)</sup><sup>(1)</sup> 付属病院皮膚科): 1. 母斑細胞性母斑 2) 手足. 形成外科 2001; 44(増刊): 153-159.
- 6) 百束比古: 生体部品とman eater. 形成外科 2001; 44(12): 1163-1163.

## 著 書

- 1) 高久史磨<sup>1)</sup>, 百束比古, その他49名<sup>(1)</sup> 自治医科大学): [編集]ステッドマン医学略語辞典, 2001; 株式会社



社メジカルビュー社。

- 2) 百束比古：〔分担〕Secondary vascularized flap：特に遊離血管束移植による2次皮弁を中心に．皮弁・筋皮弁実践マニュアル，2002；pp241-246，全日本病院出版会．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 新井正徳<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，井上幸彦<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，百束比古，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター)：モンゴルのヘリコプター墜落事故による熱傷患者への国際医療支援の報告(海外協力・クリニカルバス)．第27回日本熱傷学会総会・学術集会，2001．6．

##### (2) シンポジウム：

- 1) 青木 律，百束比古：21世紀の形成外科-科学と哲学の対立そして欲望と倫理の対決(21世紀の形成外科の方向と役割)．第44回日本形成外科学会総会・学術集会，2001．4．
- 2) 百束比古，青木 律，村上正洋，岩切 致，小川 令，伊吾田慎一：マイクロサージャリーのエステティックマインド 露出部再建における血管束付加真皮下血管網皮弁の更なる refinement について．第28回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2001．11．

##### (3) パネルディスカッション：

- 1) Hyakusoku H, Gao：Long-term Result of the Subdermal Vascular Network (Super-thin) Flaps and Their Microvascular Augmented Versions using Various Intercostal Perforators．12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 (Tokyo)，2001．11．
- 2) 百束比古：美容目的の生体内充填物異物による後遺症と今後の課題(豊胸術の合併症とその対策)．第24回日本美容外科学会総会(第82回学術集会)，2001．10．
- 3) 秋元正宇，百束比古，平井 隆，村上正洋：当科における外鼻の全再建例．第19回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，2001．11．

##### (4) セミナー：

- 1) 王 春梅：遺伝子多型と病態発現遺伝子解析(ケロイド)．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．

##### (5) 一般講演：

- 1) Iwakiri I, Hyakusoku H, Wang C-M, Murakami M, Aoki R：Chemical Analytic Study and Effect of the Post-surgical Electron Beam Irradiation to Sever Earlobe Keloids After Piercing．The 8th Asian Pacific Congress of International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Taipei)，2001．4．
- 2) Okubo S, Hyakusoku H, Fumiiri M, Kawahara S：Late Complication after Foreign Materials including Hydrogel (Amazing Gel) Injected Patients 1. Our 30 Years Experience And New Problems．The 8th Asian Pacific Congress of International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Taipei)，2001．4．
- 3) Aoki R, Hyakusoku H, Hirai T<sup>1)</sup>，OkI K<sup>2)</sup>，Mizuno H (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属第二病院形成外科，<sup>2)</sup> 総合会津中央病院形成外科)：Free vascular bundle transfer for neovascularization of the tissue-clinical and allogenic experimental study．2001 Inaugural Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery (Taipei)，2001．10．
- 4) Aoki R, Hyakusoku H, Gao J-H<sup>1)</sup>，Pennington D<sup>2)</sup>，Vinh V-Q<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Nan fan Hospital, Guangzhou, PR of China，<sup>2)</sup> Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia，<sup>3)</sup> National Institute of Burn, Hanoi, Vietnam)：Burned neck reconstructions using various versions of the micro vascular augmented subdermal vascular network (ms-SVN) flaps in dorsal area．2001 Inaugural Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery (Taipei)，2001．10．

- 5) Okubo S, Hyakusoku H, Aoki R, Murakami M : Late Complication After Foreign Material Injected Patients 2. Long-Term Result of the Salvage Operations in 20 Cases Using Free Bilaterally Divided TRAMc Flap . The 8th Asian Pacific Congress of International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( Taipei ), 2001 . 10 .
- 6) Tosa M<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Hirai T<sup>1)</sup>, Iwata Y<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School 2nd Hospital ): Gene Expression Profiles Following Electron Irradiation of Cultured Keloid and Normal Skin Fibroblasts by cDNA Microarray Analysis . 12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 7) Wang Chun-M, Hyakusoku H, Nakazawa N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): Functional Genomics of Keloid Cells in Culture : Gene Expression Microarray Analysis . 12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 8) 西川みどり, 村上正洋, 石丸さやか, 佐野和史, 百束比古 : 顔面軟部組織萎縮症を呈した極めて稀な3例 . 第44回 日本形成外科学会総会学術集会, 2001 . 4 .
- 9) 大久保暁司, 百束比古, 青木 律, 村上正洋, 井上幸彦, 河原理子 : 乳房異物除去後divided TRAM flapによる再建を行った20例の検討 . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
- 10) 小川 令, 百束比古, 井上幸彦, 村上正洋 : 微小血管束付加真皮下血管網皮弁に用いた背部肋間動脈皮膚穿通枝の臨床的ならびに解剖学的検討 . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
- 11) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 井上尚子<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 第二病院 ): 頭部アポクリン腺癌の1例 . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
- 12) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 青木 律, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 総合会津中央病院 ): Sentinel nodeの生検により所属リンパ節を同定した腰部悪性黒色腫の1例 . 第17回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2001 . 5 .
- 13) 青木 律, 大久保暁司, 村上正洋, 小川 令, 百束比古 : 新しい色素法による Sentinel Node Biopsy の試み . 第17回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2001 . 5 .
- 14) 内谷栄一<sup>1)</sup>, 百束比古, 青木 律, 村上正洋, 岩切 到, 大木更一郎 ( <sup>1)</sup> 東戸塚記念病院形成外科 ): 手の熱圧損傷における再建術式の検討 . 第27回日本熱傷学会総会・学術集会, 2001 . 6 .
- 15) 石丸さやか, 内谷栄一, 百束比古, 村上正洋 : 酢酸による化学損傷の2例および動物実験における組織学的検討 . 第27回日本熱傷学会総会・学術集会, 2001 . 6 .
- 16) 村上正洋 : ベトナムにおける熱傷瘢痕拘縮治療の経験 . 第27回日本熱傷学会総会・学術集会, 2001 . 6 .
- 17) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科 ): 皮膚接着剤による皮膚縫合の工夫 ( RC法の考案と臨床応用 ). 第26回外科系連合会, 2001 . 6 .
- 18) 小川 令, 百束比古, 藤本将史, 青木 律, 平川慶子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 法医学 ): シリコンバッグ挿入後, 被膜全体に高度の石灰沈着をきたした1例 . 第225回日本形成外科学会東京地方会, 2001 . 7 .
- 19) 小川 令, 百束比古, 糸井由里恵, 後藤宙人, 藤本将史, 村上正洋 : 両手にフロンガスによる凍傷をきたした1例 . 第225回日本形成外科学会東京地方会, 2001 . 7 .
- 20) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 総合会津中央病院 ): 後頭部, 頂部および躯幹に多発した巨大表皮膿腫の治療経験 . 第226回日本形成外科学会東京地方会, 2001 . 7 .
- 21) 小池幸子, 石丸さやか, 村上正洋, 百束比古, 右田 真<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院小児科 ): 難治性下腿潰瘍を繰り返した Bruton型無ガンマグロブリン血症の1例 . 第227回日本形成外科学会東京地方会, 2001 . 9 .
- 22) 伊吾田慎一, 百束比古, 松浦英一<sup>1)</sup>, 新井克志<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 増尾駅皮膚科形成外科, <sup>2)</sup> 防衛医科大学校病院形成外科 ): 血管吻合を用いた頭頸部再建の自験例についての検討 : 形成外科の立場から, 他科との合同手術について . 第69回日本医科大学医学会総会・講演会, 2001 . 9 .
- 23) 佐野和史 : ( 海外 ) ラットを用いた有茎腹直筋皮弁における delay 効果とその生着域の実験的研究 . 第69回日

本医科大学医学会総会，2001．9．

- 24) 大木琴美，大木更一郎，百束比古，利根川均<sup>(1)</sup>総合会津中央病院形成外科，<sup>2)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): 踵部褥瘡のdistally based sural flapによる再建．第3回褥瘡学会，2001．9．
- 25) 村上正洋，百束比古，大木更一郎，井上幸彦，大久保暁司<sup>1)</sup>，嘉陽宗隆<sup>1)</sup>，石井和博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大浜第1病院形成外科): 陰茎注入物質の同定法および再建術式の検討．第24回日本美容外科学会総会(第82回学術集会)，2001．10．
- 26) 石丸さやか，村上正洋，百束比古，大久保暁司<sup>1)</sup>，嘉陽宗隆<sup>1)</sup>，石井和博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大浜第1病院): Visual Analogue Scale Methodを用いた腋臭症術後評価の試み．第24回日本美容外科学会総会(第82回学術集会)，2001．10．
- 27) 平井 隆<sup>1)</sup>，岩田友希江<sup>1)</sup>，土佐真美子<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>第二病院形成外科): ロングパルス色素レーザーが皮膚構造に与える影響について．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 28) 土佐真美子<sup>1)</sup>，モハマッド ガジザデ<sup>2)</sup>，清水 一<sup>2)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，岩田友希江<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>2)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>第二病院形成外科，<sup>2)</sup>老人研究所病理部門): cDNA マイクロアレイ法を用いたケロイドの電子線治療に対する遺伝子解析．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 29) 青木 律，百束比古，かづきれいこ<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>2)</sup>，大木琴美<sup>2)</sup>，大久保暁司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>スタジオ KAZKI，<sup>2)</sup>総合会津中央病院形成外科): 血液マッサージ(仮称)による皮膚の変化について．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 30) 大久保暁司<sup>1)</sup>，百束比古，河原理子，平川慶子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大浜第1病院形成外科，<sup>2)</sup>日本医科大学法医学): 注入用ハイドロジェルのウサギ生体内注入実験: シリコンジェルとの比較．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 31) モハマッド ガジザデ<sup>1)</sup>，土佐真美子<sup>2)</sup>，清水 一<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>2)</sup>，川並汪一<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>老人研究所病理部門，<sup>2)</sup>第二病院形成外科): Gene Expression Profile of Keloid Lesions．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 32) 秋元正宇<sup>1)</sup>，千明美保<sup>1)</sup>，黒田周一<sup>1)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>千葉北総病院形成外科): 皮膚接着剤の強度強度試験 第2報: 接着手順・補強剤の違いによる強度変化について．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 33) 小川 令，百束比古，秋元正宇，藤本将史: 人工骨が露出した頭部難治性皮膚潰瘍に対する皮弁による再建症例の検討．第19回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，2001．11．
- 34) 小川 令，百束比古，岩切 到，奥田貴久: 背部第9肋間穿通史を用いた微少血管束付加OCD真皮下血管網皮弁による再建症例．第28回日本マイクロサージャリー学会・学術集会，2001．11．
- 35) 大木琴美<sup>1)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，後藤宙人<sup>1)</sup>，村上正洋，青木 律，百束比古<sup>(1)</sup>総合会津中央病院形成外科): 口内法と脛縁外側切開を用いた頬骨弓骨折の治療経験．第19回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，2001．11．
- 36) 大木更一郎<sup>1)</sup>，石丸さやか，西川みどり，村上正洋，青木 律，百束比古<sup>(1)</sup>総合会津中央病院形成外科): 吸収性スクリューを用いた下顎骨関節突起高位骨折の治療経験．第19回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，2001．11．
- 37) 岩切 致，百束比古，村上正洋，青木 律: 頭部再建における遊離皮弁の適応の検討(有茎SCA皮弁との比較)．第28回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2001．11．
- 38) 石丸さやか，百束比古，河原理子，青木 律，大木更一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科): 微小血管付加ICP真皮下血管網皮弁による手の被覆．第28回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2001．11．
- 39) 伊吾田慎一，百束比古，村上正洋，岩切 致，石丸さやか: 外側胸動静脈付加遊離DP真皮下血管網皮弁の経験．第28回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2001．11．
- 40) 土佐真美子<sup>1)</sup>，モハマッド ガジザデ<sup>2)</sup>，清水 一<sup>2)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，岩田友希江<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>2)</sup>，百束比古<sup>(1)</sup>第二病院形成外科，<sup>2)</sup>老人研究所病理部門): ケロイドの電子線照射に対する基礎的研究: Cdc25A の mRNA の発現について．第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2001．11．
- 41) 徳永 昭<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，松田範子<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，小野寺浩之<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，吉

行俊郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 百束比古, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 難治性潰瘍に対する高気圧酸素療法の効果: VEGFは誘導される?. 第31回日本創傷治癒学会, 2001. 12.

42) 西川みどり, 青木 律, 伊吾田慎一, 中村 敏, かづきれいこ<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>スタジオKAZKI): 顔面熱傷後癍痕に対するメイクアップセラピーの意義について. 第10回日本熱傷学会関東地方会, 2002. 2.

43) 伊吾田慎一, 百束比古, 青木 律, 村上正洋: われわれの陥没乳頭形成術と術後ピアス固定法. 第229回日本形成外科学会東京地方会, 2002. 3.

(6) 展示:

1) Hyakusoku H, Ogawa R, Murakami M: Microvascular Augmented Subdermal Vascular Network (SVN) Flaps 2. Dorsal Intercostal Perforator (DIP) Augmented SVN Flaps for Postburn Neck Reconstruction. The 8th Asian Pacific Congress of International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Taipei), 2001. 4.

2) Yamamoto T, Hyakusoku Hiko: Our Method of Making Optional Drainage Holes in Skin Graft to Prevent Hematoma. The 8th Asian Pacific Congress of International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Taipei), 2001. 4.

3) Ogawa R, Hyakusoku H, Aoki R, Murakami M: Clinical and Anatomical study of Dorsal Intracostal Cutaneous Perforators for Microvascular Augmented Subdermal Vascular Network (SVN, Super-thin) Flaps. 2001 (1st) Inaugural Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, 2001. 10.

4) Ogawa R, Mitsuhashi K, Hyakusoku H, Wan C, Iwakiri I, Chigira M, Miyashita T<sup>1)</sup>, Kumasaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科医学): Postoperative Electron Beam Irradiation Therapy of Keloid and Hypertrophic Scar - About the cases followed up over 18 months in our department. 12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 (Tokyo), 2001. 11.

5) Okubo S<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Kawahara S(<sup>1)</sup>Ohama Diichi Hospital): The Complication after Foreign Material such as Hydrogel (Amazing Gel) Injected Patient and Rabbits. 12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 (Tokyo), 2001. 11.

6) Iwata Y, Tosa M, Hirai T, Hyakusoku H(<sup>1)</sup>Nippon Medical School 2nd Hospital): A Case of Sarcoidosis Presenting as a Tumorlike Muscular Lesion. 12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 (Tokyo), 2001. 11.

7) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 千明美保<sup>1)</sup>, 宮田実穂<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 皮膚用接着剤の抗張力を倍増する工夫~RC法の開発. 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001. 4.

8) 河原理子, 井上幸彦, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 顔面に対するハイドロジェル注入後, 後遺症例の経験. 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001. 4.

9) 小川 令, 百束比古, 村上正洋, 糸井由里恵, 後藤宙人, 藤本将史: われわれの提唱する凍傷の治療: フロンガスによる凍傷症例を経験して. 第69回日本医科大学学会, 2001. 9.

10) 岡 俊行<sup>1)</sup>, 佐伯和則<sup>2)</sup>, 黒田周一<sup>3)</sup>, 村上正洋, 百束比古(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院形成外科): 剖検にて判明したアポクリン腺癌と悪性リンパ腫のdouble cancerの1例. 第64回日本医科大学学会, 2001. 9.

11) 小川 令, 百束比古, 田沼久美子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>解剖学第2): 背部肋間動脈皮膚穿通史の解剖学的検討. 第10回日本形成外科学会基礎学術集会, 2001. 10.

12) Murakami M, Hyakusoku H, Gao J-H<sup>1)</sup>, Pennington DJ<sup>2)</sup>, Vinh VQ<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Nan-Fan Hospital, Goangzhou, China., <sup>2)</sup>Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia., <sup>3)</sup>National institute of Burn, Hanoi, Vietnam.): Microvascular Augmented Subdermal Vascular Network (SVN) Flaps 1. Result of the Circumflex Scapular Vessels Augmented Occipito-Cervico-Dorsal (OCD) Flaps. The 8th Asian Pacific Congress of Interna-

- tional Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery ( Taipei ), 2001 . 4 .
- 13) Kayou M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Okubo S, Hyakusoku H, Murakami M, Akimoto M ( <sup>1)</sup> Ohama Daiichi Hospital ): Cleft Earlobe Repair using the Square Flap Method and Its the Geometric Analysis using the Finite Element Method . 12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 ( Tokyo ), 2001 . 11 .
  - 14) 岩切 到, 内谷栄一, 糸井由里恵, 青木 律, 百束比古, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 総合会津中央病院形成外科 ): 多発したBCCと手掌の小陥凹から診断した基底細胞母斑症候群の1例 . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
  - 15) 石丸さやか, 岩田友紀江, 小川 令, 糸井由里恵, 村上正洋, 百束比古: 慢性下腿潰瘍を合併したクラインフェルター症候群の2例 . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
  - 16) 村上正洋, 百束比古, 河原理子: ベトナムにおける熱傷後頸部癭痕拘縮症例の手術経験 . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
  - 17) 山本 達<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 東戸塚記念病院形成外科 ): 植皮術における一工夫: チュールガーゼの包装紙を用いて植皮片に小孔を穿つ方法 . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
  - 18) Oki K<sup>1)</sup>, Ishimaru S, Nishikawa M, Murakami M, Aoki R, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> General Aizu Central Hospital ): Experience of Absorbable Screw Fixation for the Mandibular Condyle Head Fracture ; Evaluation of Fracture Lines by Three Dimentional CT . 12th Japan- China joint Meeting on Plastic Surgery 2001 ( Tokyo ), 2001 . 11 .
  - 19) 大久保暁司, 青木 律, 村上正洋, 小川 令, 百束比古: 皮膚悪性腫瘍における新しい染色法によるSentinel Node Biopsyの試み . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 4 .
  - 20) 山本 達<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 東戸塚記念病院形成外科 ): 下顎骨関節突起骨折における Lag Screw Osteosynthesis法の経験 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 21) 後藤宙人<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 伊吾田慎一, 村上正洋, 青木 律, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 総合会津中央病院形成外科 ): 後頭部, 頂部および躯幹に多発した巨大粉瘤の治療経験 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 22) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 石丸さやか, 西川みどり, 村上正洋, 青木 律, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 総合会津中央病院形成外科 ): 吸収性スクリューによる下顎骨関節突起高位骨折の治療について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 23) 西川みどり, 村上正洋, 石丸さやか, 青木 律, 百束比古: 部分顔面萎縮症を呈した2例 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 24) 百束比古, 青木 律, 村上正洋, 井上幸彦, 岩切 致, 石丸さやか: 当科における小耳症形成術(特に低年齢での手術について) . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 25) 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 石井和博<sup>1)</sup>, 百束比古, 秋元正宇 ( <sup>1)</sup> 大浜第一病院形成外科 ): 正方弁法による耳垂裂形成術の理論と結果 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 26) 青木 律, 百束比古, 平井 隆<sup>1)</sup>, 井上幸彦<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 第二病院形成外科, <sup>2)</sup> 付属病院高度救命救急センター ): A型ボツリヌス毒素製剤 ( BTXA ) による「しわ」の治療 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 27) 村上正洋, 青木 律, 百束比古: 成長障害を来した小児熱傷患者の検討 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 28) 陳 貴史, 村上正洋, 百束比古, Vinh Vu Q, 河原理子<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): ベトナムにおける熱傷後頸部癭痕拘縮症例の手術経験 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 29) 本部康隆, 百束比古, 青木 律, 中村 敏, 西川みどり: 遊離側頭筋膜皮弁による手背, 又は手掌の再建 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 30) 大木琴美<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 村上正洋, 青木 律, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 総合会津中央病院形成外科 ): Sentinel node の正検により所属リンパ節を同定した腰部悪性黒色腫の1例 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
  - 31) 片岡幸子, 岩切 致, 百束比古, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 奥田貴久<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科 ): 足趾部遊離皮弁にて再

- 建した指尖部組織欠損の2例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 32) 島本 実，伊吾田慎一，百束比古，小川 令，陳 貴史，村上正洋，新井克志<sup>1)</sup>，和宇慶晃一<sup>2)</sup>，宮本洋介<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>防衛医科大学校病院形成外科，<sup>2)</sup>付属病院リウマチ外科): posterior thigh flap．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 33) 岩切 致，百束比古，糸井由里恵<sup>1)</sup>，仲田幸世<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>下館市民病院形成外科，<sup>2)</sup>総合会津中央病院整形外科): 大腿筋膜張筋(TFL)穿通枝皮弁の使用経験．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 34) 石丸さやか，小池幸子，百束比古，右田 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院小児科): 下腿潰瘍を繰り返した先天性無 - グロブリン血症の1例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 35) 小池幸子，石丸さやか，小川 令，村上正洋，百束比古，岩田友希江<sup>1)</sup>，糸井由里恵<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科，<sup>2)</sup>下館市民病院形成外科): クラインフェルター症候群に難治性下腿潰瘍を合併した2例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 36) 大久保暁司<sup>1)</sup>，石井和博<sup>1)</sup>，百束比古，河原理子，平川慶子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大浜第一病院形成外科，<sup>2)</sup>日本医科大学法医学): 中国製ハイドロジェル(AmazingeIR)の注入実験と後遺症症例．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 37) 藤本将史，小川 令，百束比古，平川慶子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): シリコンバッグ挿入後の危険性: シリコン粒子の微妙な漏出を呈した症例を経験して．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．

## [ 第二病院形成外科 ]

### 研究概要

臨床面においては，三次元レーザー解析装置を用い，皮膚テクスチャー改善における低出力色素レーザーの有効性が示された．また従来より継続して行ってきたケロイド治療の症例をさらに重ね，外科的治療にあわせて行う電子線療法や，低出力レーザー照射，ドレッシング療法などの適切な併用により，治療効果の向上をみた．研究面においては，ケロイド電子線治療前後における遺伝子発現の相違について，cDNA マイクロアレイ法を用いた検索を行うとともに，細胞周期制御因子Cdc25遺伝子について定性，定量を行い，新知見を得た．これらはいずれケロイド発生機序の解明へつながるものと期待される．

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>，清水 一<sup>1)</sup>，土佐眞美子，平井 隆(<sup>1)</sup>老人病研究所): cDNA マイクロアレイ分析によるケロイド障害の遺伝子発現とフィンガープリント．J Nippon Med Sch 2001 ; 90 (1): 235．
- 2) Hirai T, Inoue N, Nagamoto K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Minnesota School of Public Health Regions Hospital): Potential use of beards for single-follicle micrografts．J Nippon Med Sch 2001 ; 47 (7): 37-40．
- 3) 尾見徳弥<sup>1)</sup>，本田光芳<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup>，加藤篤衛<sup>2)</sup>，平井 隆，浅野伍朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>クイーンズスクエア医療レーザーセンター，<sup>2)</sup>付属病院皮膚科，<sup>3)</sup>日本医科大学病理学第2): 病理組織学的観点から見たルビーレーザーとアレキサンドライトレーザーのレーザー脱毛における効果の相違．Aesthetic Dermatology 2001 ; 10 (3): 65-69．
- 4) 榎原貴子<sup>1)</sup>，川瀬容子<sup>1)</sup>，畑三恵子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>2)</sup>，土佐眞美子，平井 隆，詫間由一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科，<sup>2)</sup>付属病院皮膚科，<sup>3)</sup>都立清瀬小児病院皮膚科): 脂腺母斑症候群．日小児皮会誌 2001 ; 20 (1): 63-66．
- 5) 土佐眞美子，井上尚子，平井 隆，百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): 頭部に原発したアポクリン腺癌の1例．日形会誌 2001 ; 21 (11): 656-660．

## 著 書

- 1) Hirai T : [分担] External use of a wireframe for sheet skin grafting . Innovative techniques in skin surgery ( Marwali Harahap ), 2002 ; pp471-482 , Marcel Dekker .

## 学会発表

### (1) パネルディスカッション :

- 1) 平井 隆 : ロングパルスダイレーザーを用いた non-ablative wrinkle reduction ( Wrinkle reduction ). 第 81 回日本美容外科学会学術集会 , 2001 . 7 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Hirai T : Indication and limitation of hyaluronic acid injection . 12th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 2) Tosa M, Hirai T, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Iwata Y, Kawanami O<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): Gene expression profiles following electron irradiation of cultured keloid and normal skin fibroblasts by cDNA microarray analysis . 12th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 3) Iwata Y, Tosa M, Hirai T, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): A case of sarcoidosis presenting as a tumor like muscular lesion . 12th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 4) 土佐真美子, 井上尚子, 平井 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): 頭部アポクリン腺癌の 1 例 . 第 44 回日本形成外科学会総会, 2001 . 4 .
- 5) ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 土佐真美子, 清水 一<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所): Gene expression fingerprint of keloid lesion by cDNA microarray analysis . 第 90 回日本病理学会総会, 2001 . 4 .
- 6) 青木 律<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平井 隆, 井上幸彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科, <sup>2)</sup> 同高度救命救急センター): A 型ボツリヌス毒素製剤によるしわの治療 . 第 69 回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 7) 平井 隆, 岩田友希江, 土佐真美子 : ロングパルス色素レーザーが皮膚構造に与える影響について . 第 69 回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 8) 土佐真美子, 平井 隆, 岩田友希江, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): cDNA マイクロアレイ法を用いたケロイド電子線治療に関する遺伝子発現解析 . 第 69 回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 9) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Tosa M, Shimizu H<sup>1)</sup>, Hirai T, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所): Profiling gene expression in keloid lesion by cDNA microarray analysis . The 26th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 2001 . 9 .
- 10) 平井 隆 : ロングパルスダイレーザーを用いた non-ablative wrinkle reduction . 第 24 回日本美容外科学会学術集会, 2001 . 10 .
- 11) 平井 隆, 岩田友希江, 土佐真美子 : ロングパルス色素レーザーが皮膚構造に与える影響について . 第 10 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2001 . 10 .
- 12) 土佐真美子, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 平井 隆, 岩田友希江, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): ケロイドの電子線治療に関する基礎的研究 : Cdc25A の mRNA 発現について . 第 10 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2001 . 10 .
- 13) 土佐真美子, ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 平井 隆, 岩田友希江, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): cDNA マイクロアレイ法を用いたケロイドの電子線治療に関する遺伝子解析 . 第 10 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2001 . 10 .
- 14) ガジザデ モハマッド<sup>1)</sup>, 土佐真美子, 清水 一<sup>1)</sup>, 平井 隆, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): Gene expression profile of keloid lesions . 第 10 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2001 . 10 .

## [ 千葉北総病院形成外科 ]

### 研究概要

皮膚用接着剤の力学的強度に関する研究を行い、縫合糸に匹敵する強度を持つ新しい接着法であるRC法を開発しさらに臨床に応用し発表した。

縫合糸痕を残さない新しいタイオーバー法であるjelly-fish type tie over methodの研究、臨床応用を行った。  
有限要素法による皮膚手術のコンピュータシミュレーションの研究を継続して行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>1)</sup>, Rei O<sup>1)</sup>, Gao J-H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> Plastic and reconstructive surgery, Nan - fang hospital ( China )): Pedicled or microvascular augmented subdermal vascular network ( ma-SVN). Reconstructive Microsurgery 2001 ; 1 ( 1 ): 439-440 .
- 2) 千明美保, 秋元正宇, 黒田周一: クラゲ型テープを用いたタイオーバー法 . 日本美容外科学会会報 2001 ; 23 : 95-98 .

##### (2) 綜説：

- 1) 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 村上正洋<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 同皮膚科 ): 治療の実際：母斑細胞性母斑 . 形成外科 2001 ; 44 ( s ): 153-159 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 第二病院形成外科 ): 当科における外鼻の全再建 . 第19回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2001 . 11 .

##### (2) 一般講演：

- 1) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Gao J-H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> Plastic and reconstructive surgery Nan - fang hospital ( China )): Pedicled or microvascular augmented subdermal vascular network ( ma-SVN ) flaps in pectoral and abdominal region . Inaugural congress of the world society for reconstructive microsurgery ( Taipei ), 2001 . 11 .
- 2) Akimoto M, Chigira M, Kuroda S : New Method to Enhance the Strength of Skinadhesive . The 2nd Japan-China Joint Meeting on Psastic Surgery ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 3) Chigira M, Akimoto M, Kuroda S : Jellyfish-shaped Tie-over Dressing . The 12nd Japan-China Joint Meeting on Plastiv Surgery ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 4) Kayou M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Okubo S<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup>, Murakami M<sup>2)</sup>, Akimoto M ( <sup>1)</sup> Plastic and Reconstructive Surgery, Ohama 1dai-ichi hospital , <sup>2)</sup> Plastic reconstructive and aesthetic surgery, Nippon Medical School Main hospital ): Cleft earlobe repair using the square flap method and its geometric analysis using finite element method . The 12th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery ( Tokyo ), 2001 . 11 .
- 5) 秋元正宇, 千明美保, 宮田美穂, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科 ): 皮膚用接着剤の抗張力を倍増する工夫 ~ RC法の開発 ~ . 第44回日本形成外科学会総会・学術集会, 2001 . 5 .
- 6) 秋元正宇: 皮膚用接着剤による皮膚縫合の工夫 ~ RC法 ( 仮称 ) の考案と臨床適用 . 第26回日本外科系連合会学術集会, 2001 . 6 .
- 7) 秋元正宇, 千明美保, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科 ): 皮膚用接着剤の強度試験 第2報: 接着手順・補強材の違いによる接着強度の違いについて . 第10回日本形成外科学会基礎学術集会 , 2001 . 10 .



## 20. 付属病院付置施設等

### [ 付属病院集中治療室 ]

#### 研究概要

2000年以降に登場した種々のガイドラインに従い、各疾患の概念や研究方法に若干の修正を加えたり、新たな研究テーマに目標を定めなければならない時期である。まずはこれらのガイドラインに盲目的に従うのではなく、我々の施設においてその妥当性を評価しなくてはならない。

虚血性心疾患は従来の心筋病変を主体とした考え方より、冠動脈病変に重きをおいた、急性冠症候群という概念に基づいたガイドラインが提唱されている。冠動脈責任病変をターゲットとした種々のPCI (percutaneous coronary intervention) が行われており、我々の施設では、特に冠動脈血栓吸引療法 (RESCURE) の有用性がまとめられ、報告されてきた。

RESCUREをなぜ注目したかということ、PTCAやSTENTなどによる再灌流療法を行ってこれに成功しても、distal embolieなどによってslow flowあるいはno reflow現象を来すことが大きな問題となっているからである。プラークの破砕片などが末梢に流れていかないよう途中でブロックするdistal protection deviceも開発された。すなわち、かかる疾患の議論の対象が、冠動脈病変から再び心筋に戻り、心筋の微小循環が研究対象となっている。RIの冠動脈注入とモバイルガンマカメラを用いた研究が軌道に乗りつつある。

難治性心不全に対しては、biventricular pacingと骨髄幹細胞移植による血管新生がトピックスとなっている。前者は第二外科での植え込みが順調で次第に症例数が集まっている。後者のための前段階としてASOに対する血管新生治療が第一内科を中心に開始された。これによって集中治療も新しい展開が期待される。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Takeda S, Eriksson LI, Yamamoto Y, Joensen H, Onimaru H, Lindahl SGI: Opioid action on respiratory neuron activity of the isolated respiratory network in newborn rats. *Anesthesiology* 2001; 95: 740-749.
- 2) Hata N<sup>1)</sup>, Tanaka K, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Makino T<sup>2)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>新東京国際空港クリニック ): Prognosis of economy class syndrome treated in intensive care unit. *Internal Medicine* 2002; 41 (2): 91-94.
- 3) Hata N<sup>1)</sup>, Tanaka K, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. of Internal Med. Chiba hokuso Hospital, <sup>2)</sup>First Depaartment of Internal Medicine ): Clinical significance of pleural effusion in acute aortic dissection. *Chest* 2002; 121 (3): 825-830.
- 4) 山本 剛, 笠神康平, 高山英男<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>放射線医学 ): 血栓の色調からみた急性肺動脈血栓塞栓症の臨床的特徴. *脈管学* 2001; 41 (4): 207-211.
- 5) 池崎弘之, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 竹田晋弘, 中西一浩<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 田中啓治 ( <sup>1)</sup>麻酔科, <sup>2)</sup>内科第一 ): 当集中治療室におけるNOガス利用状況, 応用. *J of Medical Gases* 2001; 2 (1): 102-104.
- 6) 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 中条秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 秋山一義, 尾科隆司<sup>1)</sup>, 上森真理子<sup>1)</sup>, 小菅 豊<sup>1)</sup>, 水村直<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>2)</sup>, 田中啓治, 岸田 浩<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科, <sup>3)</sup>内科第一 ): 半導体検出器搭載モバイル型ガンマカメラ Digitad 2020tc Image™を用いた左室機能解析. *核医学* 2001; 38 (3): 249-254.

- 7) 安武正弘, 買 大林<sup>1)</sup>, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 石井健輔<sup>1)</sup>, 高木啓倫, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 田中啓治, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>内科第一): ラット低流量虚血モデルにおけるニコランジルの梗塞サイズ縮小効果. 臨薬理 2001 ; 33  
(1): 27S-28S .

(2) 綜説 :

- 1) 田中啓治: 経皮的心肺補助法 (PCPS) 無効あるいは依存の極めて難治な心不全の病態と対策. 循環制御  
2001 ; 22 : 4-8 .
- 2) 池崎弘之, 田中啓治: (特集: 危機的呼吸障害患者の病態と管理) 心臓性低酸素血症. ICUとCCU 2001 ; 25  
(6): 433-442 .
- 3) 田中啓治, 坂本俊一郎: 急性心不全に対するPCPS施工中の患者管理. ICUとCCU 2001 ; 25 (7): 479-485 .
- 4) 内田英二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 松下 晃, 池崎弘之, 田中啓治 (<sup>1)</sup>外科第一): 血液浄化  
法. 消化器の臨 2001 ; 4 (4): 467-470 .
- 5) 田中啓治, 亀山幹彦: 新しい強心薬 (特集: 救急・集中治療 key word ). 救急集中治療 2001 ; 13 : e2-e6 .
- 6) 安武正弘, 坏 宏一, 笠神康平, 佐藤直樹, 山本 剛, 田中啓治, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 切  
迫梗塞の病態と治療. Therapeutic Research 2001 ; 22 (10): 2326-2328 .
- 7) 竹田晋浩: 二酸化炭素再呼吸による非侵襲的心拍出量測定モニター: NICO (Non-invasive cardiac output).  
エレクトロニクスの臨床 2002 ; 72 : 1-8 .

著 書

- 1) 高野雅充<sup>1)</sup>, 田中啓治 (<sup>1)</sup>内科第一): [分担] 急性心筋炎. 循環器研修ノート改訂第2版 (永井良三編),  
2001 ; pp821-824, 診断と治療社 .
- 2) 田中啓治: [分担] 直流徐細動. 今日の循環器疾患治療指針第2版 (細田瑳一編), 2001 ; pp43-44, 医学書院 .
- 3) 田中啓治: [分担] PCPS (経皮的心肺補助法). 今日の循環器疾患治療指針第2版 (細田瑳一編), 2001 ;  
pp43-44, 医学書院 .
- 4) 田中啓治, 坏 宏一: [分担] 急性心不全の治療: カテコラミンとイノダイレータ~どう使い分ける?. EBM  
循環器疾患の治療 (三田村秀雄ほか編), 2001 ; pp356-362, 中外医学社 .
- 5) 田中啓治, 池崎弘之: [分担] 急性心不全の治療: 人工呼吸器, 呼吸管理~いつ始めるか?. EBM循環器の治  
療 (三田村秀雄ほか編), 2001 ; pp363-369, 中外医学社 .
- 6) 佐藤直樹, 清野精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): [分担] 急性心不全の初期治療: 利尿薬と血管拡張薬~どちらが先か?.  
EBM循環器疾患の治療 (三田村秀雄ほか編), 2001 ; pp352-355, 中外医学社 .
- 7) 山本 剛, 高山守正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): [分担] I. 虚血性心疾患. A. 急性心筋梗塞. 急性期のリスク層別化と  
は? 救急室, CCUでハイリスク (低リスク) と判断される臨床所見 (ない所見も) は?. EBM循環器疾患  
の治療 (三田村秀雄ほか編), 2001 ; pp22-31, 中外医学社 .
- 8) 山本 剛, 田中啓治: [分担] Valsalva 洞破裂. 循環器疾患最新の治療 (篠山重威, 矢崎義雄編), 2002 ;  
pp247-249, 南江堂 .
- 9) 山本 剛, 佐藤直樹: [分担] 急性期救急治療 とくにショック対策: 特集 急性肺動脈塞栓症. 総合臨床,  
2002 ; pp318-322, 永井書店 .

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 田中啓治: “虚血性心疾患と心不全~21世紀に向けた治療戦略” 急性心不全の病態と初期治療. 第22回冠不全  
研究会, 2001 . 7 .

(2) シンポジウム：

- 1) 竹田晋浩, 田中啓治, 池崎弘之, 安武正弘, 佐藤直樹, 岸川洋昭, 三井誠司, 高野照夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>麻酔科): 最新のモニター Non invasive cardiac output による心機能および肺機能モニター．第12回日本臨床モニター学会総会, 2001．5．
- 2) 林 明聡: 心筋梗塞急性期の難治性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療の可能性．第21回東京CCU研究会, 2001．11．
- 3) 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治, 山本 剛, 笠神康平, 佐藤直樹, 高山守正<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 急性冠症候群のリスク層別と初期治療．日本集中治療医学会第29回大会, 2002．2．
- 4) 竹田晋浩: 手術侵襲による各種メディエーターの変化と生体反応．日本集中治療医学会第29回大会, 2002．2．

(3) パネルディスカッション：

- 1) 笠神康平, 山本 剛, 坏 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): “心筋梗塞の急性期治療～再灌流戦略”病理組織学的検討からみたACSに対する血栓吸引療法の効果．第21回心筋梗塞研究会, 2001．7．

(4) セミナー：

- 1) 田中啓治: 内科医からみたIABPの適応とその応用例．第2回IABPに関するセミナー, 2001．9．
- 2) 竹田晋浩: 非侵襲的連続心拍出量測定モニター(NICO)に対する有効性の検討．第38回日本臨床生理学会総会, 2001．9．
- 3) 佐藤直樹: 集中治療室における移動型 カメラの有用性．第38回日本臨床生理学会総会, 2001．9．
- 4) 田中啓治: 急性心不全の最新の治療．第5回神奈川県保険医会循環器セミナー, 2001．11．

(5) 一般講演：

- 1) 田中啓治, 安武正弘, 佐藤直樹, 坏 宏一, 山本 剛, 笠神康平, 亀山幹彦, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 心嚢内血腫を伴った急性大動脈解離の病態．第98回日本内科学会総会, 2001．4．
- 2) 中島祐史, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科): キラー細胞の誘導, 細胞障害に対する温度の影響．日本麻酔学会第48回大会, 2001．4．
- 3) 中西一浩<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 山下理恵子<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科): 周術期における前負荷の最適な指標は何か?．第48回日本麻酔学会総会, 2001．4．
- 4) 坏 宏一, 中込明裕<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 入院時CRP値上昇は急性心筋梗塞の左心機能改善をもたらすか?．第12回日本臨床モニター学会総会, 2001．5．
- 5) ジハド ズレイガート, 安武正弘, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 急性冠動脈症候群におけるソノクロット血液凝固, 血小板機能分析装置を用いた血小板機能の推移．第12回日本臨床モニター学会総会, 2001．5．
- 6) 高井恵美子, 安武正弘, 田中啓治, 佐藤直樹, 山本 剛, 笠神康平, 坏 宏一, 中野博司<sup>1)</sup>, 大庭建三<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人科, <sup>2)</sup>内科第一): 高齢者における急性冠症候群の臨床的特徴．第43回日本老年医学会学術集会, 2001．6．
- 7) 杠葉 良, 山本 剛, 高井恵美子, 坏 宏一, 林 明聡, 亀山幹彦, 笠神康平, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>放射線科): 拡大偽腔の圧迫による左総腸骨動脈歪完全閉塞に対して自己拡張型ステント留置が奏功した逆行性III型急性大動脈解離の1例．第180回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001．6．
- 8) 福山正人<sup>1)</sup>, 藤岡幹雄<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 坏 宏一, 田中啓治, 亀山幹彦, 笠神康平, 高山英男, 山本 剛, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治(<sup>1)</sup>内科第一): 急性大動脈解離治療中に肺血栓塞栓症を再発し治療に苦慮した1例．第180回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001．6．
- 9) 藤岡幹雄<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 坏 宏一, 笠神康平, 高山英男, 山本 剛, 佐藤直樹, 安

- 武正弘, 田中啓治<sup>(1)</sup> (内科第一): 前壁中隔梗塞に極めて類似した所見を呈した肺血栓塞栓症の1例. 第180回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001. 6.
- 10) 山本 剛, 笠神康平, 坏 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> (1) 内科第一, 2) 放射線科): 吸引した血栓の色調からみた急性広範性肺血栓塞栓症の臨床的特徴. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 11) 笠神康平, 山本 剛, 坏 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高山守正<sup>1)</sup>, 田近研一郎<sup>1)</sup>, 椎葉邦人<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 山根吉人<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 藤岡幹雄<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): ACSにおける冠動脈吸引内容物の病理組織学的検討. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 12) 池崎弘之, 竹田晋浩, 田中啓治, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院麻酔科, 2) 付属病院麻酔科): 当院ICUでの Intrapulmonary Percussive Ventilator の効果. 第23回日本呼吸療法医学会学術総会, 2001. 7.
- 13) 中島祐史, 赤田信二, 池崎弘之, 竹田晋浩, 小川 龍<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 水口義昭, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 田中啓治 (1) 麻酔科, 2) 外科第一): 食道癌術後に心タンポナーデを呈した1例. 第10回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2001. 8.
- 14) 濱本達彦, 坏 宏一, 田中由里子, 三井誠司, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 田中啓治 (1) 外科第二): 不明熱の精査中に発見された原発性大動脈十二指腸癌の1例. 第10回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2001. 8.
- 15) 小柳美雪, 笠神康平, 岸川昭洋, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 池崎弘之, 竹田晋浩, 安武正弘, 田中啓治, 上野 亮<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): 血漿交換, グロブリン大量療法, ステロイド少量持続投与の併用により改善したアミオダロン誘発性肺毒性 (AIPT) の1例. 第10回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2001. 8.
- 16) 千葉久美子, 浦田麻衣子, 平原隆子: CCU入室患者と家族の社会的ニーズの現状を知る: 社会面へのアプローチを目指して. 第10回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2001. 8.
- 17) 坏 宏一, 中込明裕<sup>1)</sup>, 山本 剛, 笠神康平, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): C-Reactive Protein は再灌流療法成功例の急性心筋梗塞患者において心筋保護作用を有する. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 18) 佐藤直樹, 田中啓治, 安武正弘, 林 明聡, 笠神康平, 山本 剛, 坏 宏一, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): 心不全患者においてホスホジエステラーゼ阻害薬の強心作用は圧受容体機能に依存する. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 19) 林 明聡, 竹田晋浩, 池崎弘之, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): 非侵襲的連続心拍出量測定モニター (NICO) に対する有効性の検討. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 20) 安武正弘, 田中啓治, 佐藤直樹, 山本 剛, 笠神康平, 坏 宏一, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 岸田浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): 非Q波梗塞の予後は発症時のST上昇の有無で異なる. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 21) 山本 剛, 笠神康平, 坏 宏一, 高山英男, 亀山幹彦, 林 明聡, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): IABPカテーテル抜去時における経皮的血管縫合デバイス Proster の有用性. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 22) 笠神康平, 山本 剛, 坏 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup> (1) 内科第一, 2) 病理第二): ACS に対する血栓吸引療法の成績; 特に冠動脈吸引内容物の病理組織学的検討. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 23) 坏 宏一, 田中啓治, 安武正弘, 林 明聡, 笠神康平, 山本 剛, 佐藤直樹, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 内科第一): 急性大動脈解離における血清中MMP測定の意義. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.

- 24) 福島正人, 清野精彦, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中条秀信<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>集中治療室): 診断基準改訂により包括された急性心筋梗塞症例における微小心筋傷害の分析: TI/BMIPP Dual SPECT による評価. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 25) 江原彰仁, 山本 剛, 高井恵美子, 平泉良枝, 亀山幹彦, 林 明聡, 坏 宏一, 笠神康平, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>3)</sup>, 朽方規喜<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, (<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>放射線科, <sup>3)</sup>外科第二): 膝窩静脈瘤内血栓を塞栓源とした急性肺血栓塞栓症の1例. 第181回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001. 9.
- 26) Sato N, Tanaka K, Kumita S<sup>1)</sup>, Yasutake M, Yamamoto T, Kasagami Y, Akutsu K, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Radiology, <sup>2)</sup>First Department of Internal Medicine): Useful Markers For Functions Of Cardiac Sympathetic Nerves In Human Heart Failure. The 5th Annual Scientific Meeting of Japanese Heart Failure Society, 2001. 10.
- 27) 山本 剛, 笠神康平, 坏 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治: IABPカテーテル抜去時における経皮的血管縫合デバイス(Prostar)の有用性について. 第22回IABP研究会, 2001. 10.
- 28) 笠神康平, 山本 剛, 坏 宏一, Zreigart J, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高山守正<sup>1)</sup>, 椎葉邦人<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 山根吉人<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 藤岡幹雄<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 川原清子<sup>2)</sup>, 内藤義哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>病理第二): ACS診断治療における冠病変組織吸引療法のACS概念確立にもたらす意識. 第15回日本心臓血管内視鏡学会, 2001. 11.
- 29) 小野千速, 亀山幹彦, 池崎弘之, 竹田晋浩, 松田範子<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>外科第一): 高圧酸素療法を使用し意識障害改善を認めた蘇生後脳症の1例. 第36回日本高気圧環境医学会総会, 2001. 11.
- 30) 高木啓倫, 山本 剛, 笠神康平, 亀山幹彦, 林 明聡, 坏 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 血栓吸引療法のみで良好な再灌流が得られた急性心筋梗塞の1例. 第182回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001. 12.
- 31) 竹田晋浩, 中西一浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 金 徹, 田中啓治, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科, <sup>2)</sup>外科第一): 手術侵襲による各種メディエーターの変化と生体反応. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 32) 亀山幹彦, 高木啓倫, 林 明聡, 坏 宏一, 山本 剛, 笠神康平, 高山英男<sup>1)</sup>, 中島祐史, 金 徹, 佐藤直樹, 安武正弘, 竹田晋浩, 田中啓治, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 難治性不整脈に対する塩酸ニフェカラント注(シンビット)の使用経験. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 33) 松村純也, 竹田晋浩, 池崎弘之, 中西一浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 金 徹, 中島祐史, 佐藤直樹, 田中啓治(<sup>1)</sup>麻酔科): ミルリノンによる肺コンプライアンスに対する効果. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 34) 清水哲也, 山本 剛, 江原彰仁, 亀山幹彦, 高木啓倫, 林 明聡, 坏 宏一, 笠神康平, 中島祐史, 池崎弘之, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 高度骨粗鬆症に伴う多発性肋骨骨折, 胸郭変形から難治性重症呼吸不全を呈したCushing病の1例. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 35) 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治, 山本 剛, 笠神康平, 佐藤直樹, 高山守正<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 急性冠症候群のリスク層別と初期治療. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 36) 赤田信二, 竹田晋浩, 池崎弘之, 小川 龍<sup>1)</sup>, 原 千鶴, 鈴木智恵子, 前原茂子, 大林 香, 遠藤晴子, 金 徹, 田中啓治(<sup>1)</sup>麻酔科): 気管内チューブカフ上吸引. 持続的吸引と間欠的吸引の比較. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 37) 熊谷智昭, 山本 剛, 江原彰仁, 清水哲也, 亀山幹彦, 林 明聡, 高木啓倫, 坏 宏一, 笠神康平, 佐藤直樹, 田中啓治, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): Kennedy - Alter - Sung 病に急性心筋梗塞を合併した1例. 第183回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2002. 2.

- 38) 松村純也, 竹田晋浩, 林 明聡, 清水佳世, 熊谷智昭, 金 徹, 佐藤直樹, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>(1)</sup> (多摩永山病院内科): ECLS 導入により救命し得た重症呼吸不全の1例. 日本医工学治療学会第18回学術大会, 2002. 3.
- 39) 田中啓治, 佐藤直樹, 安武正弘<sup>1)</sup>, 坏 宏一, 山本 剛, 笠神康平<sup>(1)</sup> (内科第一): 集中治療室に収容した重症心不全患者の最近の特徴. 第99回日本内科学会総会, 2002. 3.

## [ 付属病院病理部 ]

### 研究概要

専任病理医2名, 暫定助手1名(現在 Washington 大学留学中)に技師10名が加わって日常診断業務の中にテーマを見出す努力をしているが, 第3学年に設定されている自主学習(現基礎配属 - 何故か名称が変更された)で付属病院病理部を選択した学生並びに技師の学会発表が定着し, それなりの評価が得られた年であった. 自主学習としてスタートした研究が期間修了後も継続され, 田村助教授を中心に"真の自主学習"として定着しつつある. 学内だけでなく, 病理学会総会でも成果を発表し, 高い評価を得た. 更に, 病理学講座を専攻した学生も, 川本助教授の下で病理部の検体を対象に研究し, 日本医科大学医学会に発表すると共に論文作成に取り組んでいる. 病理学的 backbone 持った新たな研究者の発芽となることが期待される.

各分野毎に見てみると, 心血管系に関しては, 自主学習関連の研究の他, 他施設との共同研究で成果が上がっている. 今後も他施設との共同研究が展開される予定である.

腎炎の治療に向けての研究も, 病理学教室スタッフと腎研究班での研究を継続しているが, 共焦点レーザー顕微鏡を用いた解析から病態解明に一步近づく結果が出始めている. 腎研究班の研究活動は, 腎生検組織からの情報を共有しつつ, 今後も色々な立場からのアプローチが計られることになる.

細胞診の分野では貴重症例の報告に止まらず, 纏まった形の研究報告・著書(分担)としてそれらの成果を発信出来たが, 年間1万7千余の症例の中から新たな宝を見出すための症例検討体制も稼働し始めている.

リンパ腫勉強会(千駄木)は34回を越え参加機関が増えた. この会での検討が新たな研究への足がかりの場になりつつある.

脳腫瘍に加え, 今年からは, 乳腺, 婦人科領域, 肝臓, 心筋等, 新たな検討会が発足した. 生検材料を介しての各分野での研究プロジェクトが生まれることが期待される. 宝の山に立ち向かう若人の参加を期待する.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Masuda Y<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Mori T<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Ohashi R<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第一, <sup>2)</sup>病理学第二 ): Vascular endothelial growth factor enhances glomerular capillary repair and accelerates resolution of experimentally induced glomerulonephritis. Am J Pathol 2001 ; 159 ( 2 ): 599-608 .
- 2) Liu Ai-M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Azuma K<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Sugisaki Y, Asano G<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>病理学第二 ): Use of electron microscopic evaluation for the diagnosis of adrenal cortical carcinoma in fine needle aspiration cytology : a case report and review of the literature. Med Electron Microsc 2001 ; 34 : 190-197 .
- 3) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Yuichi S, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): SI-27, A Novel inhibitor of matrix metalloproteinases with antiangiogenic activity : Detection with a variable-pressure scanning electron microscopy. Neurosurgery 2002 ; 50 ( 3 ): 578-587 .

- 4) 飯田竹美<sup>1,2)</sup>, 田村浩一, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>病理学第2): 僧帽弁弁膜症の血管に関する研究 正常弁と疾患弁の比較検討. J Nippon Med Sch 2001; 68(2): 171-180.
- 5) 中山智子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第一, <sup>2)</sup>長野県がん検診・救急センター検査部): Invasive micropapillary carcinomaの成分を認めた乳癌の2例. 診断病理 2001; 18(3): 270-273.
- 6) 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 石井伸<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田村浩一, 大野忠明<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>4)</sup>, 松信精一<sup>4)</sup>, 津久井拓<sup>5)</sup>, 川本雅司<sup>6)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 坂本静樹<sup>4)</sup>, 吉野榎一<sup>3)</sup>, 清水章<sup>6)</sup>, 清野精彦<sup>2)</sup> 寺崎泰弘<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>付属病院リウマチ科, <sup>4)</sup>内科学第2, <sup>5)</sup>内科学第3, <sup>6)</sup>病理学第1): 慢性関節リウマチ治療中に心不全を発症した1例. 内科 2001; 87(4): 766-775.
- 7) 小林義典<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 田尻孝<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 中山一隆<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>5)</sup>, 杉原仁<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>6)</sup>, 横山宗伯<sup>6)</sup>, 田村浩一, 福田悠<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第一, <sup>2)</sup>外科学第一, <sup>3)</sup>外科学第二, <sup>4)</sup>内科学第三, <sup>5)</sup>病理学第一, <sup>6)</sup>病理学第二): 炎症性偽腫瘍と診断された両側副腎癌の1例. 内科 2002; 89(5): 935-946.

## (2) 総説:

- 1) Nishiyama Y<sup>1)</sup>, Nejima J<sup>2)</sup>, Watanabe A<sup>3)</sup>, Kotani E<sup>2)</sup>, Sakai N<sup>3)</sup>, Hatamochi A<sup>4)</sup>, Shinkai H<sup>4)</sup>, Kiuchi K<sup>2)</sup>, Tamura K, Shimada T<sup>3)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室, <sup>3)</sup>生化学第2, <sup>4)</sup>千葉大学医学部皮膚科): Ehlers-Danlos syndrome type IV with a unique point mutation in COL3A1 and familial phenotype of myocardial infarction without organic coronary stenosis. J Int Med 2001; (249): 103-108.
- 2) 北村博司<sup>1)</sup>, 三瀬直文<sup>1)</sup>, 温敏, 山中宣昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一): 糸球体門部小血管増生. 腎と透析 2001; (増刊号): 228-232.
- 3) 田村浩一: 腎臓以外のPAM染色. 病理技術 2001; 63: 25-27.
- 4) 猪口孝一<sup>1)</sup>, 中山一隆<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 平山悦之<sup>4)</sup>, 杉崎祐一, 檀和夫<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>4)</sup>, 田村浩一, 片山泰朗<sup>5)</sup>, 青木見佳子<sup>6)</sup>, 弦間昭彦<sup>7)</sup>, 吉村明修<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第3, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>病理学第2, <sup>4)</sup>内科学第1, <sup>5)</sup>内科学第2, <sup>6)</sup>皮膚科, <sup>7)</sup>内科学第4): 皮膚病変増悪と食道癌の合併がみられ, 急性の転帰をとった成人T細胞性白血病症例. 内科 2001; 88: 551-562.
- 5) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 松信精一<sup>1)</sup>, 亀谷純<sup>2)</sup>, 青木宏<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>4)</sup>, 檀和夫<sup>2)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一, 勝田悌実<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>5)</sup>, 森修<sup>6)</sup>, 工藤翔二<sup>7)</sup>, 高野照夫<sup>4)</sup>, 北村博司<sup>5)</sup>, 清野精彦<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>内科学第3, <sup>3)</sup>腎クリニック, <sup>4)</sup>内科学第1, <sup>5)</sup>病理学第1, <sup>6)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>7)</sup>内科学第4): 敗血症をきたした Bartter 症候群の1例. 内科 2001; 89(1): 145-155.
- 6) 細根勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 各臓器の細胞診: リンパ節. 病理と臨床: 細胞診: 基礎と臨床 2002; 20: 301-315.

## (3) 症例:

- 1) Asakawa K, Asano T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y(<sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School): Cytological analysis of ascitic fluid from an adolescent male with intra-abdominal desmoplastic small round cell tumor. J. Jpn. Soc. Cytol 2001; 40(3): 286-289.
- 2) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 永井祥子, 浅川一枝, 松原美幸, 渡會泰彦(<sup>1)</sup>病理学第二, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 神経内分泌細胞への分化を伴った浸潤性乳癌の3例. 日臨細胞会誌 2002; 41(1): 14-20.

## (4) 症例報告:

- 1) Shimura T<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Fukino K<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>病理学第一): Detection of Epstein-Barr virus DNA and expression of CD30 antigen in primary anaplastic diffuse large B-cell lymphoma of the brain. The Japan Society of Brain Tumor Pathology 2001; 18: 161-165.

## 著 書

- 1) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 片山博徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): [分担] 軟部腫瘍. 細胞診断学入門(社本幹博, 長村義之), 2001; pp179-185, 名古屋大学出版会.
- 2) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 松原美幸, 細根 勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): [分担] 小児腫瘍. 細胞診断学入門(社本幹博, 長村義之), 2001; pp192-195, 名古屋大学出版会.

## 学会発表

### (1) 招待講演:

- 1) 田村浩一: 腎臓以外のPAM染色. 第63回病理技術研究会, 2001. 3.

### (2) ワークショップ:

- 1) 川本雅司<sup>1)</sup>, 松原美幸, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第一): 病理側から: Large cell neuroendocrine carcinomaの多くは小細胞癌に分類されていた(肺large cell neuroendocrine carcinomaの細胞所見). 日本臨床細胞学会, 2001. 11.

### (3) 一般講演:

- 1) Tamura K, Ishizaki M, Saku T<sup>1)</sup>, Yu Z Ferrans VJ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>新潟大学歯学部口腔病理, <sup>2)</sup>Pathology, NHLBI, NIH): Histopathological study of congenital bicuspid aortic valve. Americal College of Cardiology 50th Annual Scientific Session (Orlando USA), 2001. 3.
- 2) Matsubara M, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Yokayama M<sup>2)</sup>, Sugisaki Y(<sup>1)</sup>病理学第一, <sup>2)</sup>病理学第二): Degenerative tumor cell nuclei is a ususful marker for the diagnosis of chondrosarcoma. 14th International Congress of Cytology (Amsterdam, the Netherlands), 2001. 5.
- 3) Kawamoto M<sup>1)</sup>, Matsubara M, Sugisaki Y(<sup>1)</sup>病理学第一): Differential diagnosis of pulmonary large cell neuroendocrine carcinoma from large cell carcinoma and small cell carcinoma. 14th International Conference of Cytology (Amsterdam, the Netherland), 2001. 5.
- 4) Shimizu A<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>1)</sup>, Mori T<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>1)</sup>, Ohashi R<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y(<sup>1)</sup>病理学第一): Vascular endothelial growth factor 165 (VEGF165) prevents immune-mediated glomerular injury and accelerates the recovery from progressive crescentic glomerulonephritis (GN). ASN/ISN World Congress of Nephrology (San Francisco California, USA), 2001. 10.
- 5) 田村浩一, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第1): 僧帽弁および大動脈弁 floppy valveにおける proteoglycan についての免疫組織学的検討. 第90回日本病理学会総会, 2001. 4.
- 6) 谷地 織<sup>1)</sup>, 田村浩一, 吉田有里<sup>1)</sup>, 酒井 拓<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>日本医科大学学生): 剖検例における横紋筋融解症の検討. 第90回日本病理学会総会, 2001. 4.
- 7) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 王 若皎<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>2)</sup>, 白井康正<sup>2)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>整形外科): 骨外性粘液型骨肉腫の3例. 第90回日本病理学会総会, 2001. 4.
- 8) 広本敦之<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 保富佐穂里<sup>1)</sup>, 間瀬大司<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>日本医科大学学生): ペースメーカー植込み後の心筋電極接触部における病理組織変化について. 第91回日本病理学会総会, 2002. 3.
- 9) 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一): Thy-1腎炎のメサンギウム流路障害負荷による影響について. 第91回日本病理学会総会, 2002. 3.
- 10) 森 貴博<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 王 培榮<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一): HGFによる障害系球体の修復促進効果. 第44回日本腎臓学会学術総会, 2001. 5.
- 11) 王 培榮<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 森 貴博<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一): Thy-1腎炎への抗VEGF抗体投与による影響について. 第44回日本腎臓学会学術会議, 2001. 5.



- 12) 杉崎祐一, 温 敏, 石崎正通<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一): 糸球体病変における無吻合分葉の意義 連続切片及び共焦点レーザー顕微鏡による三次元的解析 . 第44回日本腎臓学会学術会議, 2001 . 5 .
- 13) 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 森 貴博<sup>1)</sup>, 王 培榮<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一): Thy-1 腎炎のメサンギウム流路障害負荷による影響について . 第44回日本腎臓学会学術会議, 2001 . 5 .
- 14) 沖野恵子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 松原美幸, 釜口晴美, 浅川一枝, 渡会泰彦, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>産婦人科学, <sup>2)</sup>第一病理学): 卵巣原発平滑筋肉腫 . 第43回日本臨床細胞学会, 2001 . 9 .
- 15) 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科): 穿刺吸引細胞診が有用であった乳腺原発B細胞性リンパ腫の1例 . 第43回日本臨床細胞学会, 2001 . 9 .
- 16) 渡会泰彦, 杉崎祐一, 田村浩一, 川本雅司<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第一, <sup>2)</sup>病理学第二, <sup>3)</sup>付属病院泌尿器科): 尿中に出現した膀胱中腎癌 (Mesonephric adenocarcinoma) の1例 . 第43回日本臨床細胞学会, 2001 . 9 .
- 17) 松原美幸, 川本雅司<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第一, <sup>2)</sup>病理学第二): 間質肺炎の細胞像 . 第43回日本臨床細胞学会, 2001 . 9 .
- 18) 澤田名美枝<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 磯辺宏昭<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 柳田裕美<sup>2)</sup>, 原 博<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 中村 孝<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>同外科): 生検時の捺印細胞診が診断に有用であった食道原発未分化癌・小細胞癌の1例 . 第43回日本臨床細胞学会, 2001 . 9 .
- 19) 村瀬幸宏, 並松茂樹, 渡会泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一: 甲状腺髄様癌と鑑別困難であった甲状腺腺腫の1例 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 20) 大森寛子<sup>1)</sup>, 揖斐孝之<sup>1)</sup>, 橋本 聡<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>医学部4学年): 心筋梗塞治癒過程でみられる凝固壊死心筋の長期残存について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 21) 小野真平<sup>1)</sup>, 橋本 聡<sup>1)</sup>, 揖斐孝之<sup>1)</sup>, 大森寛子<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>医学部第4学年): 心筋内線維化巣にみられる筋細胞型線維化について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 22) 鈴木あかね, 佐藤春明, 田村浩一, 杉崎祐一: 肺生検と同時施行細胞診の診断不一致症例の検討 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 23) 佐藤悦子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 岡田大輔<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>, 原口秀司<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>医学部第4学年, <sup>2)</sup>病理学第一, <sup>3)</sup>外科学第二): 肺低分化腺癌の亜分類の試み . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 24) 浅川一枝, 永井祥子, 渡会泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一: 付属病院における乳腺細胞診についての検討 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 25) 釜口晴美, 尾崎正行, 松原美幸, 渡会泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一: タモキシフェン長期服用中に出現した子宮内膜増殖症の1例 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 26) 新井孝司<sup>1)</sup>, 片岡光枝<sup>1)</sup>, 石川吾利美<sup>1)</sup>, 田村尚美<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第一): 補体依存性糸球体メサンギウム細胞死 . 第33回日本臨床電子顕微鏡学会, 2001 . 9 .
- 27) 石崎正通<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 安達彰子<sup>2)</sup>, 佐佐木喜広<sup>2)</sup>, 若松恭子<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>病理学第一, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 糸球体係締壁基底膜の高電子密度化と腎疾患 . 第33回日本電子顕微鏡学会総会, 2001 . 9 .
- 28) 杉崎祐一, 細根 勝<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): 7年間に3回組織学的検索された primary cutaneous CD30+ lymphoproliferative disorders . 第90回日本病理学会総会, 2001 .
- 29) 田村浩一, 鷲巢 誠<sup>1)</sup>, 村上真弓<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>日本獣医畜産大学): 心臓弁膜における創傷治癒過程: 動物実験による病理組織学的検討 . 第91回日本病理学会総会, 2002 . 3 .

## [ 付属病院中央検査部 ]

### 研究概要

我が国の中で膨大な検体検査処理実績を誇る当中央検査部は本年度も学術研究面において積極的に取り組み、着実な業績を記録している。今年度の主な概要は次の通りである。自動分析装置を用いた血漿FDP、第XIII因子の検出や血小板凝集能における惹起物質濃度の検索、輸血におけるType & Screenの現状調査、新化学発光分析によるHCV抗体、HBs抗体の検出、<sup>24</sup>Ccrの応用や尿中有形成分の自動分析化、Clostridium difficileに関する抗菌薬やトキシソリンAの検出、抗酸菌に関する薬剤感受性の検索、発色キレート剤の変化によるFe、UIBCの検討、救急分野における外傷時の線溶動態やフィブリンの関与、血中エンドトキシンの検索、症例毎による血漿BNPレベルや血清Interleukin-18の測定、乱用薬物スクリーニングの解析や環境問題、クリティカルケアへの対応、ワーファリン服用患者への対応、管理分野では臨床検査技師会50年史の作成、施設管理上の院内清浄化へのチェックや衛生委員会病院感染対策部会・エイズ結核対策部会への対応、更には都内外における公共機関を通じた精度管理事業への調査指導協力など多くの継続課題の遂行に加え幅広い領域において活動が行われた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kushimoto S<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Shibata Y, Koido Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): Implications of Excessive Fibrinolysis and 2-Plasmin Inhibitor Deficiency in Patients Severe Head Injury. Neurosurgery 2001; 49(5): 1084-1084.
- 2) 橋本政子, 田村哲彦<sup>1)</sup>, 新谷文隆<sup>2)</sup>, 小長谷勝利<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 壮健タムラ薬局, <sup>2)</sup> アラヤ薬局, <sup>3)</sup> 日本医学技術専門学校): 薬局・薬店における臨床検査に関するアンケート調査. 日本未病システム学会雑誌 2001; 7(1): 107-108.
- 3) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 山本保博<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 救急医学講座): 頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解の関与. パイオメデ 2001; 11: 19-29.

##### (2) One Point Advice：

- 1) 福田高久, 里村克章: ワーファリン治療の豆知識. 内科総合雑誌 Medical Practice 2002; 19(1): 155-155.

#### 著書

- 1) 福田高久: [分担] 東京都臨床衛生検査技師会50年史. 東京都臨床衛生検査技師会50年史学術研究活動((社) 東京都臨床衛生検査技師会), 2002; pp47-83, 山本企画.
- 2) 福田高久: [分担] 東京都臨床衛生検査技師会50年史. 東京都臨床衛生検査技師会50年史資料((社) 東京都臨床衛生検査技師会), 2002; pp155-164, 山本企画.
- 3) 福田高久: [分担] 東京都臨床衛生検査技師会50年史. 東京都臨床衛生検査技師会50年史年表((社) 東京都臨床衛生検査技師会), 2002; pp201-209, 山本企画.
- 4) 野本剛史: [分担] 精度管理調査結果報告. 平成13年度版. 第20回東京都衛生検査所精度管理事業報告書(東京都立衛生研究所), 2002; 東京都衛生局医療計画部.

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション：

- 1) 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 福田節子, 野本剛史, 里村克章: 自動グリコヘモグロビン分析装置HLC723G7の基礎的検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.

- 2) 高橋亜紀子, 亀山澄子, 植田貴子, 吉野早恵子, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: Type & Screen 導入後の現状について. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 3) 中島 愛, 三橋 太, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: 全自動化学発光免疫測定装置 'ARCHITECT' を使用したHCV抗体測定の評価. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 4) 中村祐三, 石野三智男, 野本剛史, 里村克章: 24時間クレアチニン・クリアランス (24Ccr) における平均体表面積の補正值とその応用について. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 5) 田尾清一, 石野三智男, 三橋 太, 中村祐三, 野本剛史, 里村克章: 尿中有形成成分分析装置UF - 100の有用性. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 6) 石野三智男, 田尾清一, 三橋 太, 田島克美, 中村祐三, 野本剛史, 里村克章: 尿中有形成成分分析装置UF - 100を用いた尿検査システムの運用及び再検基準について. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 7) 三橋 太, 中村祐三, 野本剛史, 里村克章: 全自動化学発光免疫測定装置 "ARCHITECT" を使用したHBs抗原測定の評価. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 8) 小嶋佳子, 小坂田直美, 橋本政子, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章: 小川培地を用いた抗酸菌薬剤感受性検査法の検討. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 9) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 小池 薫<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): エンドスペックESテストMK (改良法) を用いた血中エンドトキシン測定の臨床的検討. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 10) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 登坂直規<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 相星淳一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 重傷敗血症症例における血漿BNPレベルの変動. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 11) 吉田竜介<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 鈴木崇生<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 柴田泰史(<sup>1)</sup>救急医学): 腹膜炎症例における血清Interleukin-18値の測定. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 12) 寺尾幸重, 常木美智子, 海老原敦子, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: コアグレックス800による血漿FDPの基礎的検討. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
  - 13) 野本まさみ, 寺尾幸重, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: 血小板凝集能における惹起物質濃度の検索. 第69回日本医科大学医学学会総会, 2001. 9.
- (2) 一般講演:
- 1) Kushimoto S<sup>1)</sup>, Tosaka N<sup>1)</sup>, Shibata Y, Aiboshi J<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): Plasma brain natriuretic peptide concentrations in patients with severe sepsis. 31th Critical Care Congress ( San Diego, CA ), 2002. 1.
  - 2) 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 福田節子, 野本剛史: アミラーゼ測定値統一化の試み. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
  - 3) 三橋 太, 中村祐三, 野本剛史: 全自動化学発光免疫測定装置 "ARCHITECT" によるHBs抗原測定の評価. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
  - 4) 三橋 太, 中村祐三, 野本剛史: 全自動化学発光免疫測定装置 "ARCHITECT" によるHCV抗体測定の評価. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
  - 5) 園部一成, 篠山明宏, 青砥泰二, 橋本政子, 野本剛史: Clostridium difficile感染原因抗菌薬のリスクファクターの検討. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
  - 6) 園部一成, 小嶋佳子, 青砥泰二, 橋本政子, 野本剛史: Clostridium difficile ToxinA 検出試薬イムノカードCDトキシンAとクロストリジウムトキシンA検出キット「ユニクイック」の比較検討. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
  - 7) 柴田泰史, 野本剛史, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 頭部外傷急性期における線溶動態の検討. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
  - 8) 影山憲貴, 日ノ澤進一郎, 福田節子, 野本剛史: 発色キレート剤の異なるFe, UIBCの比較検討. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.

- 9) 寺尾幸重, 常木美智子, 長尾敦子, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史: コアグレックス800による血漿FDPの基礎的検討. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
- 10) 高木 豊, 長尾敦子, 常木美智子, 寺尾幸重, 萩原直久, 野本剛史: コアグレックス800による第XIII因子測定について. 第50回日本医学検査学会, 2001. 5.
- 11) 影山憲貴, 日ノ澤進一郎, 福田節子, 野本剛史, 里村克章: 発色キレート剤の異なる血清鉄測定試薬の比較検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 12) 山田貴子<sup>1)</sup>, 福井美和子<sup>1)</sup>, 森 知子<sup>1)</sup>, 田村由紀<sup>1)</sup>, 坂田るみ子<sup>1)</sup>, 加藤真紀<sup>1)</sup>, 増川基子<sup>1)</sup>, 城野香織<sup>1)</sup>, 磯由美子<sup>1)</sup>, 早坂百合子<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 山勢善江<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>日本赤十字九州国際看護大学): クリティカルケアにおける褥創の発生誘発因子の分析: 山勢の褥創発生予測式の改定にむけて. 第3回日本救急看護学会学術集会, 2001. 10.
- 13) 仁平 信<sup>1)</sup>, 林田眞喜子<sup>1)</sup>, 早川秀幸<sup>1)</sup>, 松本美保<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>法医学, <sup>2)</sup>救急医学): 薬物スクリーニングキットTOX / Seeの有用性. 第70回日本法医学会関東地方会, 2001. 10.
- 14) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 吉田竜介<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>3)</sup>, 林田眞喜子<sup>3)</sup>, 大野曜吉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>法医学): 乱用薬物スクリーニング検査キットTOX / Seeの有用性. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 15) 二宮宣文<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>2)</sup>, 堀口裕幸<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>薬理学): 不活性ガス (IG-541) による低酸素環境の人体に対する影響. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.
- 16) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 登坂直規<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 相星淳一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 重傷敗血症症例における血漿BNPレベルの変動とその意義. 第29回日本救急医学会総会, 2001. 11.

## [ 付属病院薬剤部 ]

### 研究概要

医療法では「良質な医療を効率よく提供する」ことを求めており, 今年も医薬品を通してこれらのことを実践するために, 毎日の薬剤業務の中から問題点を抽出し, 検討した結果をまとめ研究発表を行った.

医薬品の適正使用の面からは, 「モルヒネとフルボキサミンの併用の有用性」「グルコン酸クロルヘキシジン投与時の血中濃度」「フルコナゾールの体内動態」「口内炎に関するボラブレジンクとアロプリノールの効果比較」「低体温療法時におけるミダゾラムの体内動態」「脳死判定に与えるミダゾラムの影響」「CHDF施行時のIPM/CSの薬物動態」など, 多くのことについて検討し発表した. このうち低体温時の薬物動態, 脳死に与える薬物の影響, 透析時の薬物動態などについては, 今後も継続して研究すべき課題と考えている.

また医療経済の面からは, 「フロモキシセフとセフメタゾールの大腸癌術後感染発症阻止効果に関する費用対効果」について検討した結果を発表した. 医療の質の確保と効率化のために, クリティカルパスの作成と導入が積極的に進められているが, 医薬品からみた「費用対効果」についての検討も重要である. 医療経済的評価は多くの医療分野で必要であり, この問題も継続して研究すべき重要な課題と考えている.

その他, 現在15病棟で実施している病棟薬剤業務については, 質の確保と効率化の目的で標準化を進めており, 「脳神経外科病棟におけるマニュアルの作成」「薬剤管理指導業務におけるフォーカスチャータニングの有用性」などについて発表した.

医療環境が激変するとともに, 薬剤師に求められる役割も変化している. その役割に応えられる業務を適正に展開するためには, 検討しなければならない多くの問題があり, これらの問題を基盤とした研究を, 今後も積極的に進めていきたいと考えている.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 菅谷量俊, 平野公晟, 福生吉裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第二): ワルファリン投与患者のプロポリス服用により凝固異常を認めた1例. 日本末病システム学会雑誌 2001 ; 7 (1): 111-113 .
- 2) 内田 亨, 伊勢雄也, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟: Focus Charting を用いた薬剤管理指導業務 (その2) : チェック方式を用いた薬剤管理指導歴作成の有用性 (標準化と効率化) について. 医療薬 2002 ; 28 (1): 80-84 .
- 3) 伊勢雄也, 本城和義, 片山志郎, 平野公晟, 古川清憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第一): Flomoxef と Cefmetazole の大腸癌術後感染発症阻止効果における費用対効果分析. 医療薬 2002 ; 28 (1): 47-50 .

#### (2) 綜説：

- 1) 平田清貴: 救命救急センターにける病院薬剤師業務. ファーマシー&セラピー 2001 ; 27 : 1-4 .

### 著書

- 1) 平田清貴, 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 田口吉子<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>2)</sup>付属病院看護部, <sup>3)</sup>救急医学): [共著] 2002年度 輸液・輸血・救急薬 TODAY, 2001 ; pp1-244, メディカ出版 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 平野公晟: 日本私立医大協会薬剤部長会: 薬剤師業務における過誤防止対策アンケート結果について: (リスクマネジメント: 薬剤業務の安全性向上をめざして). 第38回関東私立医大病院薬剤部研究会, 2001 . 5 .

#### (2) 一般講演：

- 1) 伊勢雄也: モルヒネ併用薬としてのフルボキサミンの有用性に関する基礎的検討. 第6回「痛みの神経科学」神田川ワークショップ, 2001 . 5 .
- 2) 平田清貴, 折戸謙介<sup>1)</sup>, 林田眞喜子<sup>2)</sup>, 仁平 信<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 平野公晟, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>3)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>, 堀 文昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻布大学, <sup>2)</sup>日本医科大学法医学, <sup>3)</sup>同救急医学): ラットにおけるグルコン酸クロルヘキシジン投与時の血中濃度. 第23回日本中毒学会総会, 2001 . 7 .
- 3) 上田康晴<sup>1)</sup>, 平田清貴, 林田眞喜子<sup>2)</sup>, 仁平 信<sup>2)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 平野公晟, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 山本 保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>法医学): 海外から持ち込んだ薬剤を大量誤飲した小児中毒の1症例. 第23回日本中毒学会総会, 2001 . 7 .
- 4) 岸 大輔, 平田清貴, 宮田広樹, 片山志郎, 西澤健司, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 高度救命救急センターにおけるABK投与方法に関する検討. 第11回日本医療薬学会, 2001 . 9 .
- 5) 宮田広樹, 高田未来, 片山志郎, 平野公晟, 山崎綾子<sup>1)</sup>, 菅家甫子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>共立薬科大学薬学部): 脳神経外科病棟における疾患別服薬指導マニュアル作成の試み: 下垂体腺腫患者のマニュアル作成. 第11回日本医療薬学会, 2001 . 9 .
- 6) 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 山村重雄<sup>1)</sup>, 百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部): 口内炎に対するポラプレジンクとアロプリノールの比較. 第11回日本医療薬学会, 2001 . 9 .
- 7) 岩上正明, 片山志郎, 平野公晟, 山本保博<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup>, 野本剛史<sup>2)</sup>, 里村克章<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>中央検査部): 日本医科大学付属病院における抗菌剤の使用動向. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 8) 多田けい子, 川瀬晴子, 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟: 当院におけるDI業務の検討(第4報). 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 9) 宮田広樹, 高田未来, 片山志郎, 平野公晟: 脳神経外科病棟における下垂体腺腫患者の服薬指導. 第69回日本

医科大学医学会総会，2001．9．

- 10) 中嶋基広，西澤健司，片山志郎，平野公晟：日本医科大学付属病院における薬剤管理指導業務について．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 11) 平田清貴，恩田美穂<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>1)</sup>，清水万紀子<sup>1)</sup>，福岡正道<sup>1)</sup>，平野公晟，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>日本医科大学救急医学)：フルコナゾール投与計画における初期投与量と薬物動態/薬物評価．第16回日本薬物動態学会年会，2001．10．
- 12) 西澤健司，平野公晟：国際災害緊急援助における薬剤師の役割．第34回日本薬剤師会学術大会，2001．10．
- 13) 伊勢雄也，本城和義，片山志郎，平野公晟，古川清憲<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一外科)：FlomoxefとCefmetazoleの大腸癌術後感染発症阻止効果における費用対効果分析．第39回日本病院管理学会学術総会，2001．10．
- 14) 中野渡雄一<sup>1)</sup>，平田清貴，加地正人<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，高橋 聡<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>2)</sup>，恩田美穂<sup>2)</sup>，福岡正道<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup>昭和薬科大学薬学部)：重症患者の鎮静時におけるミダゾラム．第22回日本救急医学会総会，2001．11．
- 15) 平田清貴，中野渡雄一<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>1)</sup>，恩田美穂<sup>2)</sup>，清水万紀子<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，福岡正道<sup>2)</sup>，中林基明<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>1)</sup>，平野公晟，黒川 顕<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学，<sup>2)</sup>昭和薬科大学薬学部)：低体温療法施行患者におけるミダゾラム体内動態に関する検討．第22回日本臨床薬理学会，2001．12．
- 16) 菅谷量俊，福生吉裕<sup>1)</sup>，田村哲彦<sup>2)</sup>，新谷文隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院第二内科，<sup>2)</sup>タムラ薬局，<sup>3)</sup>クスリのアラヤ)：健康食品の実態調査(第1報)：「第3回21世紀 食と健康フォーラム」アンケート調査より．第8回日本未病システム学会，2002．1．
- 17) 新谷文隆<sup>1)</sup>，田村哲彦<sup>2)</sup>，菅谷量俊，福生吉裕<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>クスリのアラヤ，<sup>2)</sup>タムラ薬局，<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院第二内科)：消費者による健康食品の評価への試み：第3回 21世紀食と健康フォーラム参加者のアンケート調査より．第8回日本未病システム学会，2002．1．
- 18) 山崎綾子<sup>1)</sup>，平田清貴，相星淳一<sup>2)</sup>，野口裕幸<sup>2)</sup>，新井正徳<sup>2)</sup>，上田康晴<sup>2)</sup>，登坂直規<sup>2)</sup>，野崎正太郎<sup>2)</sup>，原田尚重<sup>2)</sup>，平野公晟，菅家甫子<sup>1)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>共立薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>日本医科大学救急医学)：CHDF施行症例におけるIPM/CSの薬物動態．第52回日本救急医学会関東地方会，2002．2．
- 19) 平田清貴，中野渡雄一<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>2)</sup>，恩田美穂<sup>2)</sup>，清水万紀子<sup>2)</sup>，中林基明<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，福岡正道<sup>1)</sup>，平野公晟，黒川 顕<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：脳死判定にミダゾラム持続静注が影響を与える可能性．日本薬学会第122年会，2002．3．
- 20) 山村重雄<sup>1)</sup>，西澤健司，片山志郎，平野公晟，百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部)：データマイニングを利用した抗菌薬の体内動態の予測と可視化の試み(その3)．日本薬学会第122年会，2002．3．

## [ 付属病院生理機能センター ]

### 研究概要

厳しい経済状況の中、「大学病院なら黙っていても患者は集まる」という神話は既に崩れ去り，病院自体の質を問われる時代になってきた．高額の検査機器の導入など，ハード面での充実が困難な状況の中，ソフト面での充実，つまり患者の立場に立った人的サービスをはじめ，臨床側への付加価値をつけたデータサービスをより多く提供することにより，結果として患者へのサービスのフィードバックにつながるという観点に基づき，スタッフ一同，昨年度にも増してセミナーへの参加，認定試験の受験，研究成果の学会での発表など個々の資質を高め，底上げをするべく努力を重ねている．

昨年度より導入した心疾患リハビリテーションは順調に業績を伸ばしており，臨床側からも高い信頼を得ている．研究発表では，ドブタミン負荷心エコー法を中心に，脳波検査における検査室外でのシールド電極の有用性に関する

る検討，気道の炎症の指標として注目されている呼気一酸化窒素（NO）に関する検討，抗酸化物質であるビタミンCの濃度が心臓リハビリテーション中の心筋梗塞患者に与える影響など多岐にわたり，臨床側の協力を得て，発表を行っている．

## 研究業績

### 著書

- 1) Honma H, Kusama Y<sup>1)</sup>, Matsuzaki T, Ohno T<sup>1)</sup>, Nishigaki R<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第一): [ 自著 ] Resting ultrasonic tissue characterization and dobutamine stress echocardiography for prediction of functional recovery in chronic left ventricular ischemic dysfunction . Jpn Circ J , 2001 ; pp381-388 , Jpn Circ J .
- 2) Ochi M<sup>1)</sup>, Hatori N<sup>1)</sup>, Besho R<sup>1)</sup>, Fujii M<sup>1)</sup>, Saji Y<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Honma H ( <sup>1)</sup>外科学第二): [ 自著 ] Adequacy of flow capacity of bilateral internal thoracic artery T graft . Ann Thorac Surg , 2001 ; pp2008-2012 , Ann Thorac Surg .
- 3) 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博 ( <sup>1)</sup>内科学第一): [ 分担 ] 4. 心臓編 心エコー図 経胸壁法 . 麻酔の how to 技術編 ( 小川 龍 ), 2001 ; pp126-127 , 克誠堂出版 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム :

- 1) 本間 博, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子 ( <sup>1)</sup>内科学第一): 心筋虚血と心筋の viability 評価の現状 ドブタミン負荷心エコー法・心筋虚血と心筋の viability の臨床評価 . 日本超音波学会 関東甲信越地方会 第13回学術集会, 2001 . 10 .

#### (2) パネルディスカッション :

- 1) 中村利枝, 青木 亘, 五十嵐亜希, 宗方祐美子, 山本雪貴美, 吉田由紀子, 與那嶺弘子, 平野美子, 瀬川純子, 菅谷寿理, 斎藤公一, 本間 博, 黒田 肇, 山口文雄<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学): 検査室外での脳波検査 検査環境調査とその対策 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 2) 青木 亘, 中村利枝, 五十嵐亜希, 宗方祐美子, 山本雪貴美, 吉田由紀子, 與那嶺弘子, 平野美子, 瀬川純子, 菅谷寿理, 斎藤公一, 本間 博, 黒田 肇, 山口文雄<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学): 検査室外での脳波検査 シールド電極の有用性について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 3) 五十嵐亜希, 吉田由紀子, 菅谷寿理, 山本雪貴美, 加藤政利, 平野美子, 中村利枝, 斎藤公一, 本間 博, 黒田 肇, 金澤宏美<sup>1)</sup>, 美浦和代<sup>1)</sup>, 木村祐子<sup>1)</sup>, 及川恵子<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第一): 心臓リハビリテーション施行中の心筋梗塞患者におけるビタミンC血中濃度と影響をおよぼす因子 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 4) 山本雪貴美, 吉田由紀子, 五十嵐亜希, 中村利枝, 菅谷寿理, 斎藤公一, 本間 博, 黒田 肇, 山本和男<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第四): 呼気一酸化窒素 ( NO ) 濃度に環境NOが与える影響 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .

#### (3) 一般講演 :

- 1) Ohno T<sup>1)</sup>, Honma H, Tokita Y<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Matsuzaki T, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第一): Combined assessment of coronary flow velocity and myocardial perfusion during dobutamine stress echocardiography in the detection of coronary artery disease . AHA ( Anaheim CA ), 2001 . 11 .
- 2) 宗像 亮<sup>1)</sup>, 本間 博, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第一): 非心臓手術のための周術期心評価におけるドブタミン負荷心エコー法の有用性 . 日本循環器学会 関

東甲信越地方会 第181回 学術集会, 2001. 9.

- 3) 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 本間 博, 大野忠明<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 菅原博子<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 石井玲子, 斎藤公一, 黒田 肇 (<sup>1)</sup>内科学第一): 急性心筋梗塞における再灌流療法後の心内膜下虚血-経静脈心筋コントラストエコー法を用いて. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第13回学術集会, 2001. 10.

## [ 付属病院看護部 ]

### 研究概要

1. 高度救命救急センター看護部では, 家族のケア参加を支援する方法の検討, 独自の不安尺度を作成しそれに基づいた家族の不安分析, 心肺停止状態にある児の死を受け入れなかった家族援助の分析, 山勢の褥創発生予測式妥当性の検証, 熱傷患者の食指を阻害する要因分析, AARCの呼吸管理基準に基づき集中治療領域における気道管理の現状調査, 多元的心理学的ストレス尺度を用いた救急領域新人看護師のストレスについて, 多角的に年間推移の分析を行った.

2. 集中治療室看護部では, 内科的治療を受ける解離性大動脈瘤患者のせん妄前駆症状とスタッフの関わり方の分析, 集中治療室に入室した患者とその家族が, どのような社会的, 経済的ニーズを抱えているかの実態調査, 虚血性心疾患で集中治療室に入室後, 社会復帰した患者の追跡調査を行い, 社会的側面における問題とそのケアの必要性について分析した.

3. 末期がん患者のスピリチュアルペインと思われる言動の中から, スピリチュアルなニードの8つのカテゴリー, 2つの苦悩のカテゴリーを導き出し, そのニードに対する看護師の役割を明らかにした.

4. 脳神経病棟看護師がリハビリテーションをどのようにとらえ, 日々実践しているかの実態調査を行った.

5. 気管支鏡クリティカルパスを活用し, 患者・看護師からのアンケート調査からその効果について分析した.

### 研究業績

#### 論文

(1) 綜説:

1) 木野毅彦: 救急・急変時に使われる「くすり」の知識. 臨看 2001; 27(5): 589-600.

2) 三橋恭子: 合併疾患患者の術前術後ケア: 精神疾患を持つ患者の術前術後の看護. 消化器外科NURSING 2001; 218-223.

3) 木野毅彦: 人災による災害にそなえる: 炭疽菌の感染の防御. 看護 2002; 54(2): 055-059.

4) 木野毅彦: 薬剤による便色調への影響. 臨看 2002; 28(2): 253-257.

5) 長谷川幸子: 中途障害者に対する支援: 患者の立場から. 東洋大学発達臨床紀要 2002; (2): 89-101.

(2) 研究報告書:

1) 伊与恭子, 遠藤晴子, 大平雅子, 原 千鶴: 夜勤看護婦の疲労緩和にアロマセラピーは有効か. 日集中治療医学会誌 2002; 9(1): pp55-56.

#### 著書

1) 佐藤憲明: [分担] 出血性ショック: 第2章フローチャートと事例でわかる急変時ケア. わかる! できる! 急変時ケア (中村美鈴編集), 2001; pp94-105, 学研.

2) 佐藤憲明: [分担] 人工呼吸器早わかりQ & A: 人工呼吸と栄養. 人工呼吸器のすべてがわかる本 (導又裕之編集), 2001; pp318-328, 照林社.

3) 小森邦子: [分担] 呼吸器疾患患者の看護の概要. 呼吸器疾患患者の治療と看護 (工藤翔二編集), 2002;



## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) 大貫朋子, 山上典子, 新宅好美, 内海清乃, 小林 梢, 山中鮎子, 磯崎奈津子, 安積幸代, 大橋留美, 磯由美子, 早坂百合子: 救命救急センターにおける家族援助を考える. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- 2) 海老原一行, 佐藤憲明, 伊藤博希, 末広善太, 石飛奈緒, 辛島有美, 椛島真由美: クリティカル領域の気道管理における現状調査. 第51回 日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 3) 福士真由美, 小杉佳代, 八木沙友里, 澤口瑞穂, 大橋留美, 早坂百合子: 対象喪失患者への危機介入. 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 4) 谷口かおり, 木村恵理子, 榊 由里, 田口涼子, 瀧川真朱美, 背戸陽子, 藤田昌久, 早坂百合子: 熱傷患者の経口摂取障害に関する要因分析. 第27回 日本熱傷学会総会学術集会, 2001. 6.
- 5) 千葉久美子, 平原隆子, 浦田麻衣子: CCU入室患者と家族の社会的ニーズの現状を知る: 社会面のアプローチを目指して. 第10回 日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2001. 8.
- 6) 山下いずみ, 竹内美恵子: 気管支鏡検査のクリティカルパスの効果について. 第11回日本呼吸療法医学会合同学術集会, 2001. 8.
- 7) 森田晃美, 竹原典子, 梅野奈美, 鈴木良子, 稗田多恵, 大竹仁実, 佐藤憲明: 新人看護婦のストレス調査. 第3回日本救急看護学会総会学術集会, 2001. 10.
- 8) 山田貴子, 福井美和子, 森 知子, 田村由紀, 坂田のみ子, 加藤真紀, 増川基子, 磯由美子, 早坂百合子: クリティカルケアに於ける褥創の発生誘発因子の分析: 山勢の褥創発生予測式の改定に向けて. 第3回日本救急看護学会総会学術集会, 2001. 10.
- 9) 星 佳江, 尾ヶ井一美: 脳神経疾患病棟の看護者が実践するリハビリテーションに対する意識と実態. 第8回未病学会, 2002. 1.
- 10) 萩原潤子, 早坂百合子: 緊急入院した患者を抱える家族の思い: 家族の不安の分析を通して. 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002. 2.
- 11) 池田恵美子, 土橋夕香, 原 千鶴: 解離性大動脈瘤患者のせん妄の前駆症状と発症のきっかけとなるスタッフの関わり方の分析. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 2.
- 12) 千田英理子: 末期がん患者のスピリチュアルなニーズについての分析. 第16回日本がん看護学会学術集会, 2002. 2.
- 13) 平原隆子, 千葉久美子, 浦田麻衣子: 集中治療室に入室した虚血性心疾患患者の社会復帰の実態調査: 社会面へのアプローチを目指して. 日本集中治療医学会第29回大会, 2002. 3.

## [ 付属病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

放射線科技術部門は, 診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である.

1) CT部門は, dynamic CTの技術を応用し脳血流の定量評価をおこなうCT perfusionとCT angiographyを1回の検査として施行する方法の臨床応用を試みた. 迅速かつ簡便にCT perfusionとCT angiographyを同時に施行でき, 臨床の有用性を確認した.

2) MR部門では, 口腔内の歯科用金属の影響による遊走性金属artifactの新しい除去方法を確立した. これにより, 画像上から完全にartifactを消すことが可能となった. また, MRCPの新しい撮像技術の評価, 造影MR angiographyの新しい手法に用いる脂肪抑制法を効果的な使用方法の研究を行った.

3) 一般撮影部門は、国内1号機としてGE社製セノグラフィ2000Dデジタルマンモグラフィが導入され、その有用性、物理的評価、精度管理等に関する研究を行った。デジタルマンモグラフィは、従来のスクリーン・フィルムマンモグラフィに対し、鮮鋭性は若干劣るものの、粒状性が優れ、同等線量であれば、総合画像評価において有意であるとの結論を得た。さらに検討を加え、撮影線量の低減に向け撮影条件の最適化を進めている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 土橋俊男, 藤田 功<sup>1)</sup>, 岩崎 淳, 森 克彦, 鈴木 健<sup>(1)</sup>さいたま市立病院): 磁性体による高信号 artifact (遊走性金属 artifact) の除去. 日放技学誌 2002 ; 58 (3): 406-411 .

#### (2) 綜説：

- 1) 土橋俊男: 基礎講座 MRIを理解するためのチェックポイント(12). 東京放射線 2001 ; 48 (563): 42-52 .
- 2) 松村善雄: 脳動脈狭窄および閉塞症例におけるCT perfusion の有用性. アールティ 2002 ; (12): 22-24 .

### 著書

- 1) 土橋俊男: [ 分担 ] 大血管・第5章 各種MR検査. 放射線技術学シリーズ: MR撮像技術学(日本放射線技術学会), 2001 ; pp203-215, オーム社 .

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 土橋俊男: k-space ordering 方式の違いによる画像の特徴: Elliptical Centric Ordering の特徴と活用術. 関西MR技術研究会, 2002 . 3 .

#### (2) 一般講演：

- 1) 松村善雄, 村木徹太郎, 町田和夫, 浅野恭司, 北川松雄, 鈴木 健, 高木 亮<sup>(1)</sup>付属病院放射線科医学): 脳動脈狭窄・閉塞症例におけるCT perfusion の初期臨床評価. 日本放射線技術学会第57回総会学術大会, 2001 . 3 .
- 2) 黒田大介, 谷越雅幸, 鈴木智之, 小林宏之, 鈴木 健: full - field digital mammography の有用性の検証. 日本放射線技術学会第57回総会学術大会, 2001 . 4 .
- 3) 小林宏之, 谷越雅幸, 鈴木 健, 門間正彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>茨城県立医療大学): フラットパネル型ディテクタ・マンモグラフィの物理的画質評価. 日本放射線技術学会第57回総会学術大会, 2001 . 4 .
- 4) 高月秀雄, 安部 勉, 増山桂一, 小林宏之, 鈴木 健: フラットパネル型ディテクタ・マンモグラフィの精度管理. 日本放射線技術学会第57回総会学術大会, 2001 . 4 .
- 5) 土橋俊男, 岩崎 淳, 榎 利夫, 森 克彦, 鈴木 健: 体内金属による異常高信号(遊走性金属 artifact) に関する検討. 日本放射線技術学会第57回総会学術大会, 2001 . 4 .
- 6) 岩崎 淳, 土橋俊男, 森 克彦, 鈴木 健: FRSSFSE (fast recovery single shot fast spin echo) を利用したMRCP: MRCPの画質改善と検査時間短縮について. 日本放射線技術学会第29回秋期学術大会, 2001 . 11 .
- 7) 土橋俊男, 岩崎 淳, 森 克彦, 鈴木 健, 松田 豪<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>GE横河メディカルシステム(株)): elliptical centric法における脂肪抑制(Spec-IR)の基礎的検討. 日本放射線技術学会第29回秋期学術大会, 2001 . 11 .
- 8) 谷越雅幸, 小林宏之, 増山桂一, 鈴木智之, 黒田大介, 鈴木 健: フルフィールドデジタルマンモグラフィの照射線量とノイズの関係. 日本放射線技術学会第29回秋期学術大会, 2002 . 11 .
- 9) 小林宏之, 谷越雅幸, 水谷光樹, 吉田伸二郎, 鈴木 健: 二つのデジタルマンモグラフィシステムのノイズ特性. 日本放射線技術学会第29回秋期学術大会, 2002 . 11 .

## [ 日本医科大学腎クリニック ]

### 研究概要

当施設は、付属病院の付置医療機関として、平成9年2月に開設され、付属病院腎臓内科（第二内科学教室）が診療・教育・研究を担当している。主たる診療は外来維持透析（血液透析、腹膜透析）のほか腎疾患一般の外来診療を行っている。それに伴い血液浄化を中心とする臨床研究をおこなっている。

平成13年度の研究概要としては、

- 1) 血液透析患者における血行動態把握のための循環血液量と各種パラメーターの検討に関する研究。
- 2) 閉塞性動脈硬化症におけるLDL - apheresisの効果と接着分子の関係についての研究。
- 3) 血液透析患者における腎性骨症の予防と治療に対する各種骨代謝マーカーについての経時的変化についての研究。
- 4) 血液透析における各種ダイアライザーの性能評価と生体適合性の比較についての研究。
- 5) 糖尿病性腎症における接着分子の尿中排泄についての研究。

現在、透析患者の血圧の日内変動と動脈硬化（主に頸動脈、動脈脳）の関係についての研究を進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 大内牧子，柏木哲也<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，林 美穂<sup>1)</sup>，中村正<sup>1)</sup>，青木 宏<sup>1)</sup>，松信精一<sup>1)</sup>，河邊満彦，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山康朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第二)：CAPDが腹膜病変により困難となった原発性腎サルコイドーシスの1例．腹膜透析2001 2001；209-211．
- 2) 高田大輔<sup>1)</sup>，柏木哲也<sup>1)</sup>，金子朋広<sup>1)</sup>，王 恒維<sup>1)</sup>，中村 正<sup>1)</sup>，臼田和弘<sup>1)</sup>，神谷達司<sup>1)</sup>，河邊満彦，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山康朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第二)：CAPD患者に腹膜サルコイドーシスが発症し透析効率の低下をきたした1例．日内会誌 2001；90(7)：160-162．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 河邊満彦，奥村ともみ，青木 宏，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第二)：血液透析前後における循環動態及び種々パラメーターの検討．第44回日本腎臓学会学術総会，2001．5．
- 2) 河邊満彦，奥村ともみ，青木 宏，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第二)：維持透析患者における各種血清骨マーカーでの検討．第46回日本透析医学会総会，2001．6．
- 3) 青木 宏，奥村ともみ，河邊満彦，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第二)：維持血液透析患者の循環血液量の検討．第46回日本透析医学会総会，2001．6．
- 4) 田畑一秀，斉藤綾子，岸川裕之，市川 匠，永田浩一，井上幸子，森田智子，青木栄美，工藤美美，若澤定子，河邊満彦，飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第二)：各種ダイアライザーによるHD とHDFの低分子蛋白除去について．第46回日本透析医学会総会，2001．6．
- 5) 内海甲一，河邊満彦，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第二)：糖尿病性腎症におけるインテグリン 1， 3の尿中排泄の増加．第99回日本内科学会総会，2002．3．

## [ ワクチン療法研究施設 ]

### 研究概要

当施設は、1972年の開設以来、丸山千里先生が開発されたSSM（人型結核菌体抽出物質）による癌の免疫療法を研究の中心課題としている。SSMの治験登録患者は、2002年3月31日現在、355,805例に達しており、丸山先生のご逝去後も、依然として多数の新規患者の紹介を受けており、新患・再来・郵送を含めると多い日には400名以上の患者を迎えている。SSMは有償治験薬という形で供給されているが、実際には治療薬として使用されていることを考慮し、主治医からの経過報告を基に画一的使用に限定せず個別に使用法を検討している。この研究の結果、当初からの基本投与方法であるSSM-A・SSM-Bの交互隔日法から、A単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日などに変更することで、化学療法・放射線療法などの副作用軽減や一般状態が改善される症例のあることなどが判明しつつある。SSM使用患者は、多くがSSM開始時点で進行期癌であったにも拘わらず、良好な一般状態（Performance Status）を維持しつつ長期延命の報告がみられることは、SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられる。現在は、SSMの使用状況や成績についての検討・報告に加え、SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifiers（BRM）としての作用ならびに癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌患者におけるQuality of Life（QOL）向上と延命効果の立場から、当施設ならではの膨大な症例数を基にした臨床生命表による検討と、SSMの作用が期待できる背景要因の検討を行っている。また、SSMの経口投与の可能性および癌予防への応用についても検討を重ねている。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Shinmura S<sup>1)</sup>, Iida K, Hirai T, Nagazumi A ( <sup>1)</sup> Seikei University, Dept. of Economics ): Aanalysis of 152, 989 Cancer Patients treated with SSM ( Maruyama Vaccine ). The 53rd Session of the International Statistical Institute ( Seoul, Koera ), 2001 . 8 .
- 2) 新村秀一<sup>1)</sup>, 飯田和美, 平井敏之 ( <sup>1)</sup> 成蹊大学, 経済学部 ): 丸山ワクチン15万症例の決定木による分析 . 計量統計学会第15回大会, 2001 . 5 .
- 3) 飯田和美, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 岩城弘子, 宮崎定活, 橋本英洋, 永積 惇 : 当施設における結核菌体抽出物質 ( SSM ) 使用登録癌患者の現況 ( 第23回 ). 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 4) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 土屋正己<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 桑原奈津子<sup>2)</sup>, 村上睦美<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, 飯田和美, 平井和人<sup>3)</sup>, Wattana C<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院小児科, <sup>2)</sup> 付属病院小児科, <sup>3)</sup> 日本医学技術専門学校, <sup>4)</sup> チェンマイ大学医学部小児科 ): タイ国小児における尿中 *H. pylori* 抗体陽性率および尿所見異常について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 5) 新村秀一<sup>1)</sup>, 飯田和美, 平井敏之, 永積 惇 ( <sup>1)</sup> 成蹊大学, 経済学部 ): 丸山ワクチン15万症例のデータマイニング . 日本オペレーションズリサーチ学会2001年度秋期研究発表会, 2001 . 9 .
- 6) 新村秀一<sup>1)</sup>, 飯田和美, 平井敏之, 永積 惇 ( <sup>1)</sup> 成蹊大学, 経済学部 ): 丸山ワクチン15万症例のデータマイニングについて . 日本行動計量学会第29回大会, 2001 . 9 .

## 21. 第二病院付置施設等

### [ 第二病院消化器病センター ]

#### 研究概要

消化器病センターは1989年より日本医科大学付属第二病院の診療科として診療を開始し、1991年独立した診療科として運営細則が制定された。初代部長三樹勝教授、二代目部長馬越正通教授指導のもと、消化器外科医および消化器内科医の協力にて、消化器疾患全般の診断から治療まで幅広く診療を行ってきた。1998年4月、第三代部長に森山雄吉教授が着任し、消化器外科、内科、内視鏡の各専門分野の充実が進み、臨床面だけでなく、臨床腫瘍学および消化器病学の基礎研究にも力を入れている。

研究内容：1) 消化器癌の集学的治療、2) 腸閉塞の保存的・外科的治療、3) 再建法・吻合法の工夫、4) 消化管穿孔に対する大網移植術、5) 低侵襲性手術の導入（各種腹腔鏡下手術、胸腔鏡下食道切除術）、6) 鏡視下手術の技術改良と適応拡大、7) 消化管・胆道・血管内ステント治療、8) 自己血輸血、9) 増殖因子阻害による大腸癌抑制、10) 肝細胞癌の発癌に関する研究（老人病研究施設との合同研究）、11) 胃癌、大腸癌の免疫組織化学および分子生物学的研究、12) ヘリコバクター・ピロリと上部消化管病変（胆汁逆流、微量元素との関連）、13) Laser capture microdissectionによるCGH解析法、14) 胆石、胆汁の微量元素分析、15) 食道癌放射線感受性に関する基礎研究、16) 電子内視鏡画像処理と病理組織所見との比較、17) functional dyspepsiaの病態生理、18) 血液浄化法（血漿交換、PMX）

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Matsuike A<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Watanabe M, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Second Pathology ): Expression of Fibroblast Growth Factor ( FGF ) -10 in Human Colorectal Adenocarcinoma Cells . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 1 ) : 397-404 .
- 2) Mizutani S, Inada T<sup>1)</sup>, Igarashi S<sup>1)</sup>, Ogata Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Tochigi Cancer Center ): The Significance of Subclassification of Submucosal layer in the Treatment of Gastric Cancer . International gastric Cancer 2001 ; 32 ( 3 ) : 246-250 .
- 3) Obara K, Mohammad G<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Arai R<sup>1)</sup>, Tenjin T<sup>2)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Moriyama Y, Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Institute of Gerontology Department of molecular Pathology , <sup>2)</sup>Second Department of Surgery ): Comparative genomic hybridization study of genetic changes associated with vindesine resistance in esophageal carcinoma . International journal of Oncology 2002 ; 20 ( 1 ) : 135-137 .
- 4) Shigeta A, Moriyama Y, Miki M<sup>1)</sup>, Tanaka M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Sun Clinic , <sup>2)</sup>Department of Chemistry ): Epidemiological Correlation Between Chromium Content in Gall Stones and Cholesterol in Blood . J MED Assoc. Thai 2002 ; 85 ( 2 ) : 1304-1306 .
- 5) 三並 敦 : Precutting Over Pancreatic Stent . 胆と膵 2001 ; 22 ( 8 ) : 665-670 .
- 6) 岩村太郎 , 田中洋一<sup>1)</sup> , 右田隆之<sup>1)</sup> , 内田健二<sup>1)</sup> , 小林光伸<sup>1)</sup> , 小林照忠<sup>1)</sup> , 網倉克己<sup>1)</sup> , 西村洋治<sup>1)</sup> , 坂本裕彦<sup>1)</sup> , 関根 毅<sup>1)</sup> , 大倉康男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>埼玉がんセンター腹部外科 , <sup>2)</sup>同臨床病理部 ) : 著名な口側浸潤と上縦隔リンパ節転移を認めた食道浸潤胃癌の一切除例 . 埼玉医学会雑誌 2002 ; 36 ( 6 ) : 452-455 .

## 著 書

- 1) 渋谷哲男, 森山雄吉: [分担] イレウスの処置. 実践 外科手術手技アトラス 増刊 外科治療, 2001; pp274-277, 永井書店.
- 2) 渋谷哲男, 塩谷 猛, 小熊将之, 森山雄吉: [分担] 腸管癒着剥離術 産婦人科の実際. 研修医のための図解 産婦人科手術手技, 2001; pp1727-1730, 金原出版.
- 3) 渡辺昌則, 森山雄吉: [分担] 催吐・瀉下・腸管洗浄. 中毒診療実践ガイド (和田 攻), 2001; pp99-103, 文光堂.
- 4) 小原邦彦, 佐藤 健<sup>1)</sup>, 徐 健泰<sup>1)</sup>, 平塚 卓<sup>1)</sup>, 桧山 護<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>平塚胃腸病院): [共著] 大腸疾患のあらまし. 大腸検査の正しいマネージメント (平塚秀雄), 2002; pp14-25, 医薬ジャーナル.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 松田範子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 吉村成子<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科第一, <sup>2)</sup>吉村せいこクリニック, <sup>3)</sup>日本医科大学病理第二): 高ビリルビン血症に対する高尿酸素療法の基礎的および臨床的研究. 第36回日本高気圧環境医学会総会, 2001. 11.

### (2) ワークショップ:

- 1) 三並 敦, 栗谷川彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>川崎協同病院): Precutting over pancreatic stent による precutting 後の膵炎予防. 第72回日本消化器内視鏡学会 関東地方会, 2001. 6.

### (3) プレナリーセッション:

- 1) 三並 敦, 杉山 靖<sup>1)</sup>, 栗谷川彰<sup>1)</sup>, 桜井 彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>川崎協同病院): EMSを利用した胆道 introducer. 第62回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 10.
- 2) 豊島 明, 伊藤正秀, 森山雄吉: *H. pylori* 陽性消化性潰瘍の除菌前後における逆流胆汁酸, 胃粘膜内微量元素, 胃粘膜萎縮の検討. 第62回日本内視鏡学会総会, 2001. 10.

### (4) サージカルフォーラム:

- 1) 栗原雄司, 森山雄吉, 川並汪一<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 塩谷 猛(<sup>1)</sup>老人病研究所): Laser capture microdissection を利用した CGH 解析法の検討. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.

### (5) 一般講演:

- 1) Ito M, Tsunoda M, Rikukawa H, Shibuya T, Moriyama Y: Natural appearance of colon tumors detected by immunological stool occult blood test, 2nd report; the timing of follow up colonoscopy. The VIth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (China), 2001. 5.
- 2) Komasaki T, Itoh M, Rikukawa H, Shibuya T, Moriyama Y: Natural appearance of colon tumors detected by immunological stool occult blood test, 3rd report; Comparison of both the decrease and the increase group at the number and pathology of colon polyp. The VIth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (China), 2001. 5.
- 3) Mizutani S, Shioya T, Shibuya T, Matsumoto K<sup>1)</sup>, Moriyama Y (<sup>1)</sup>2nd hospital pathology): A case of intramural metastasis of rectal cancer. The 39th World Congress of International Society of Surgery (Brussels Belgium), 2001. 8.
- 4) Shibuya T, Uchiyama K<sup>1)</sup>, Shioya T, Oguma M, Naitoh E, Watanabe M, Matoba Y, Nanbu K, Kurihara Y, Mizutani M, Moriyama Y, Matsumoto K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Ebina General Hospital, <sup>2)</sup>2nd Hospital Pathology): Examination of nm23 gene expression, LOH of the p53 gene, LOH of the DCC gene and RER in patients with colon cancer. The 39th World Congress of International Society of Surgery (Brussels Belgium), 2001. 8.

- 5) Shioya T, Mizutani S, Shibuya T, Hoshino A, Moriyama Y, Matsumoto K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>2nd Hospital Pathology): Clinical evaluation of PCNA, Ki67, c-erbB-2, p53 and nm23 expression in gastric cancer with submucosal invasion. The 39th World Congress of International Society of Surgery (Brussels Belgium), 2002. 8.
- 6) 山田雄介, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 森山雄吉: 外科治療を要した妊娠合併膵炎の1例. 第38回腹部救急医学会総会, 2001. 3.
- 7) 渋谷哲男, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 小熊将之, 尾形昌男, 内藤英二, 渡辺昌則, 的場康德, 南部弘太郎, 亀谷 肇, 森山雄吉(<sup>1)</sup>海老名総合病院): 大腸癌におけるnm23の発現, p53-LOH, DCC-LOH, およびreplication error (RER)の検討. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 8) 渡辺昌則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第二): 大腸癌増殖におけるkeratinocyte Growth Factor (KGF) ファミリーの役割. 第101回日本外科学会総会, 2001. 4.
- 9) 尾形昌男, 平塚 卓<sup>1)</sup>, 佐藤 健<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>平塚胃腸病院): 胃切除後にみられた胃空腸横行結腸瘻の1例. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.
- 10) 渡辺昌則, 重田明子, 小峯 修, 前島顕太郎, 伊藤正秀, 森山雄吉: 屈曲狭窄部への食道ステント挿入の工夫. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.
- 11) 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 小林照忠<sup>1)</sup>, 小林光伸<sup>1)</sup>, 尾形昌男, 右田隆之<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科): 膵癌切除術後補助療法としての腹腔動脈注入化学療法の試み. 第13回肝胆膵外科学会, 2001. 6.
- 12) 千原直人, 小熊将之, 塩谷 猛, 小泉正樹, 水谷 聡, 渋谷哲男, 森山雄吉: イレウスチューブ自己抜去による成人型小腸重積症の1症例. 第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- 13) 塩谷 猛, 小峯 修, 尾形昌男, 渋谷哲男, 森山雄吉, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 肝原発悪性リンパ腫の1例. 第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001. 6.
- 14) 新本雄健<sup>1)</sup>, 大場英巳<sup>1)</sup>, 渡辺一彦<sup>1)</sup>, 加藤秀和<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>1)</sup>, 三好将和<sup>1)</sup>, 小峯 修, 飯塚淳平<sup>1)</sup>, 田端美弥子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>立正佼成会附属佼成病院外科): 急性腹症を呈した小腸アニサキス症の1例. 第781回外科集談会, 2001. 6.
- 15) 尾形昌男, 西村光伸<sup>1)</sup>, 小林照恵<sup>1)</sup>, 右田隆之<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 赤木 究<sup>2)</sup>, 大倉康男<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup>同遺伝子研究室, <sup>3)</sup>同臨床病理部): 若年発症大腸早期印環細胞癌の1例. 第781回外科集談会, 2001. 6.
- 16) 永井信也, 伊藤正秀, 渡辺威之, 小山雅章, 重田明子, 森山雄吉: Rbにおける巨大炎症性ポリープの1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 17) 渡辺威之, 伊藤正秀, 永井信也, 小山雅章, 重田明子, 森山雄吉: 虚血性大腸炎を続発した下行結腸リンパ管腫の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.
- 18) 渡辺昌則: mRNA レベルでの増殖因子阻害による消化器癌制御の可能性. 第20回神奈川胃癌治療研究会, 2001. 7.
- 19) 小林照忠<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 小林光伸<sup>1)</sup>, 尾形昌男, 右田隆之<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 西村仁志<sup>2)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup>同胸部外科): 大腸癌肺転移切除例の検討. 第55回大腸癌研究会, 2001. 7.
- 20) 網倉克己<sup>1)</sup>, 小林照忠<sup>1)</sup>, 尾形昌男, 右田隆之<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科): 消化器癌の再発に伴う腸閉塞に対する治療. 第56回消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 21) 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 森山雄吉: 大腸癌肺転移症例の検討. 第56回大腸癌研究会, 2001. 7.
- 22) 小原邦彦, 森山雄吉, 渋谷哲男, 塩谷 猛, 栗原雄司, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理学部門): Comparative Genomic Hybridization法を用いた抗癌剤耐性食道癌細胞株における遺伝子解析. 第56回日本消化器外科

学会総会，2001．7．

- 23) 塩谷 猛，渡辺昌則，小熊将之，渋谷哲男，森山雄吉，松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 胃癌における PyN-Pase, DPD および apoptosis 関連遺伝子発現の臨床病理学的検討．第 56 回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 24) 右田隆之<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，小林光伸<sup>1)</sup>，小林照忠<sup>1)</sup>，尾形昌男，網倉克己<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，関根 毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科): 胸部食道癌に対する放射線・化学療法後根治手術を行う集学的治療の短期治療成績．第 56 回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 25) 田中洋一<sup>1)</sup>，三森功士<sup>2)</sup>，右田隆之<sup>1)</sup>，小林光伸<sup>1)</sup>，小林照忠<sup>1)</sup>，尾形昌男，網倉克己<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，関根 毅<sup>1)</sup>，森 正樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科，<sup>2)</sup>九州大学生体防御医学研究所腫瘍外科): 食道癌における integrin 6 の発現とその臨床病理学的意義．第 56 回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 26) 坂本裕彦<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，右田隆之<sup>1)</sup>，尾形昌男，小林光伸<sup>1)</sup>，小林照忠<sup>1)</sup>，関根 毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科): 胆管細胞癌切除の予後規定因子の検討．第 56 回日本消化器外科学会総会，2001．7．
- 27) 豊島 明，遠藤 健<sup>1)</sup>，小林秀郎<sup>1)</sup>，武村民子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本赤十字社医療センター外科，<sup>2)</sup>同病理部): 術前診断が困難であった胃所性後腹膜平滑筋腫の 1 例．第 37 回日本赤十字社医学会総会，2001．9．
- 28) 吉成大介<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，右田隆之<sup>1)</sup>，尾形昌男，小林照忠<sup>1)</sup>，渡部裕志<sup>1)</sup>，西田一典<sup>2)</sup>，大倉康男<sup>2)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科，<sup>2)</sup>同臨床病理部): 肝外性発育を呈した後腹膜腫瘍と鑑別が困難であった肝細胞癌の 1 例．第 782 回外科集談会，2001．9．
- 29) 鈴木洋一，塩谷 猛，的場康徳，南部弘太郎，三並 敦，渋谷哲男，森山雄吉，松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 同時性三重複癌 (胃・十二指腸・胆道) の 1 切除例．第 782 回外科集談会，2001．9．
- 30) 小林照忠<sup>1)</sup>，渡部博志<sup>1)</sup>，吉成大介<sup>1)</sup>，尾形昌男，右田隆之<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，関根 毅<sup>1)</sup>，西田一典<sup>2)</sup>，大倉康男<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科，<sup>2)</sup>同臨床病理部): 壁外性発育を示した大腸癌の 1 例．第 782 回外科集談会，2001．9．
- 31) 塩谷 猛，渋谷哲男，森山雄吉，山本泰一<sup>1)</sup>，松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): Calcium polystyrene sulfonate, sorbitol により結腸潰瘍・結腸膀胱瘻をきたした 1 例．第 63 回日本臨床外科学会総会，2001．10．
- 32) 渋谷哲男，小熊将之，塩谷 猛，南部弘太郎，水谷 聡，吉野雅則，千原直人，小泉正樹，森山雄吉，横須賀 巖<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小野病院): イレウスに対する吸引療法の有用性．第 63 回日本臨床外科学会総会，2001．10．
- 33) 松信哲朗，内藤英二，渡辺昌則，尾形昌男，小山雅章，小泉正樹，伊藤正秀，渋谷哲男，松本光司<sup>1)</sup>，森山雄吉(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 三重複癌を呈した表層拡大型食道粘膜癌の 1 例．第 781 回外科集談会，2001．10．
- 34) 西村洋治<sup>1)</sup>，小林照忠<sup>1)</sup>，吉成大介<sup>1)</sup>，尾形昌男，右田隆之<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>，関根 毅<sup>1)</sup>，腰塚慎二<sup>2)</sup>，野津 聡<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科，<sup>2)</sup>放射線診断部): 注腸で遡及でき，進行癌として発見された大腸癌の 10 例．第 19 回日本大腸癌検査学会総会，2001．11．
- 35) 徳永 昭<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，小野寺浩之<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，二見良平<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，松田範子<sup>1)</sup>，森山雄吉(<sup>1)</sup>外科第一): 高気圧酸素治療と創傷治癒 高気圧酸素治療によって血中増殖因子は増加するか．第 36 回日本高気圧環境医学会総会，2001．11．
- 36) 吉村成子<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>，森山雄吉，徳永 昭<sup>2)</sup>，松倉則夫<sup>2)</sup>，松田範子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>吉村せいこクリニック，<sup>2)</sup>日本医科大学外科第一): 最近の潜水事故 (減圧症を含む) の傾向．第 36 回日本高気圧環境医学会総会，2001．11．
- 37) 木山輝郎<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，松田範子<sup>1)</sup>，増田剛太郎<sup>1)</sup>，小野寺浩之<sup>1)</sup>，奥田武士<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，森山雄吉(<sup>1)</sup>外科第一): 難治性潰瘍に対する高気圧酸素療法の効果．第 36 回日本高気圧環境医学会総会，2001．11．
- 38) 小林照忠<sup>1)</sup>，西村洋治<sup>1)</sup>，関根 毅<sup>1)</sup>，小林光伸<sup>1)</sup>，尾形昌男，右田隆之<sup>1)</sup>，網倉克己<sup>1)</sup>，坂本裕彦<sup>1)</sup>，内田健二<sup>1)</sup>，田中洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科): 若年大腸癌症例の検討．第 39 回日本癌治療学会総会，



2001 . 11 .

- 39) 松信哲朗, 尾碕卓司, 千原直人, 重田明子, 内藤英二, 三並 敦, 渋谷哲男, 森山雄吉: ESTとEPDにて採石しえた輸入脚盲端と総胆管に瘻孔を形成したB-II再建後の総胆管多数結石の1例. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001 . 11 .
- 40) 三浦克洋, 渡辺昌則, 松信哲朗, 吉野雅則, 水谷 聡, 駒崎敏昭, 栗原雄司, 渋谷哲男, 森山雄吉: 内視鏡的拡張術により改善し得た大腸術後吻合部狭窄の1例. 日本医科大学医学会第105回例会, 2001 . 11 .
- 41) 小泉正樹, 渡辺昌則, 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 森山雄吉: TS-1+ CDDPの外来使用経験. 神奈川胃癌治療研究会, 2001 . 12 .
- 42) 三浦克洋, 渡辺昌則, 松信哲朗, 吉野雅則, 水谷 聡, 駒崎敏昭, 栗原雄司, 岩村太郎, 塩谷 猛, 内藤英二, 小熊将之, 渋谷哲男, 森山雄吉: 大腸術後吻合部良性狭窄に対する内視鏡的拡張術の経験. 第102回神奈川県臨床外科医学会集談会, 2001 . 12 .
- 43) 吉成大介<sup>1)</sup>, 右田隆之<sup>1)</sup>, 渡部裕志<sup>1)</sup>, 尾形昌男, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 大倉康男<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同臨床病理部): Barrett上皮より発生したと思われる食道腺癌の1例. 第19回埼玉県外科集談会, 2001 . 12 .
- 44) 渡辺昌則, 村上雅彦<sup>1)</sup>, 岩村太郎, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 草野満夫<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup> 昭和大学第二外科): 食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術および縦隔郭清手技. 第5回日本医科大学内視鏡手技懇話会, 2001 . 12 .
- 45) 渡部裕志<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 小林照忠<sup>1)</sup>, 右田隆之<sup>1)</sup>, 尾形昌男, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科): 高齢者に発症したメッケル憩室穿孔の1例. 第783回外科集談会, 2001 . 12 .
- 46) 西村洋治<sup>1)</sup>, 小林照忠<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 内田健二<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 右田隆之<sup>1)</sup>, 尾形昌男, 吉成大介<sup>1)</sup>, 渡部裕志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科): 大腸癌手術における小開腹 Moving Window法の工夫. 第39回埼玉県医学会総会, 2002 . 1 .
- 47) 三並 敦, 杉山 靖<sup>1)</sup>, 桜井 彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 川崎協同病院): EMSを利用したBillroth-II法胃再建例における総胆管結石治療. 第10回クリニカルビデオフォーラム, 2002 . 2 .
- 48) 重光剛志, 塩谷 猛, 小泉正樹, 渋谷哲男, 森山雄吉: 妊娠中に発生した腸管結節形成によるイレウスの1例. 第38回腹部救急医学会総会, 2002 . 3 .
- 49) 前島頭太郎, 岩村太郎, 南部弘太郎, 小熊将之, 渋谷哲男, 森山雄吉: 盲腸癌に起因する成人腸重積症の1例. 第784回外科集談会, 2002 . 3 .

## [ 第二病院リハビリテーションセンター ]

### 研究概要

リハビリテーション科では脳外科, 神経内科, 整形外科, 小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり, 患者層は多彩であるとともに, スタッフも医師をはじめ理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士, ソシアルワーカー, 看護師といわゆるコメディカルとのチーム医療が実践されている. 研究面にもこのことが反映され, 各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている.

リハ医学の基礎的な分野では主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ, またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている.

理学療法・作業療法分野では高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながらその問題点等の検討を行っている. 言語療法関係では言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている. ソシアルワーカー分野では障害者の職場復帰等社会的援助について検討を行っている.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説:

- 1) Takeuchi T : Cause of Active Motor Function by Passive Movement . J. Phys. Ther. Sci 2001 ; ( 13 ): 167-172 .
- 2) 竹内孝仁 : 在宅復帰につながるケアマネジメントの強化を . 老健 2001 ; 12 ( 1 ): 52-55 .
- 3) 竹内孝仁 : ケアプランと医療 . 臨床検査 2001 ; 45 ( 5 ): 517-519 .
- 4) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : 本人の価値観に問題のある困難事例 . GPnet 2001 ; ( 5 ): 36-37 .
- 5) 竹内孝仁 : 在宅医療 Q&A . Home Care Medicine 2001 ; ( 5 ): 46-46 .
- 6) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : サービスに “ 口やかましく ” 文句をつけるケース : 家族関係に問題のある事例 . GPnet 2001 ; ( 7 ): 36-38 .
- 7) 竹内孝仁 : 座談会 住民意識の啓発と政策責任 . 介護保険情報 2001 ; ( 7 ): 6-13 .
- 8) 竹内孝仁 : 福祉・医療の枠を取り払い , 生活支援の観点からサービスの構築を . メディフェア 2001 ; 3 ( 9 ): 23-27 .
- 9) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : サービスへの期待はずれが拒否を生んだ例 . GPnet 2001 ; ( 8 ): 40-42 .
- 10) 竹内孝仁 : 老健施設のリハビリテーションはチームで行うことが必要 . 老健 2001 ; 12 ( 5 ): 30-35 .
- 11) 竹内孝仁 : もっとリハビリテーションの活用を . 賠償科学 2001 ; ( 26 ): 126-129 .
- 12) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : ケアマネジャーの蔑視が援助関係を妨げた例 . GPnet 2001 ; ( 9 ): 40-42 .
- 13) 竹内孝仁 : どうなるか英国コミュニティケアの Best Value 改革 ( 1 ) . 介護保険情報 2001 ; ( 9 ): 24-27 .
- 14) 竹内孝仁 : 竹内式 「 事例研究 」 の進めかた . 医歯薬出版 2001 ; 61-84 .
- 15) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : 本人と家族 ( 介護者 ) の意向のくいちがい . GPnet 2001 ; ( 10 ): 43-45 .
- 16) 竹内孝仁 : どうなるか英国コミュニティケアの Best Value 改革 ( 2 ) . 介護保険情報 2001 ; ( 10 ): 26-32 .
- 17) 竹内孝仁 : 第 3 章ケアマネジメントの質の向上が急務 . 医療白書 2001 年度版 2001 ; 117-124 .
- 18) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : サービスの中止という困難事例 . GPnet 2001 ; ( 11 ): 44-46 .
- 19) 竹内孝仁 : 「 プロのケアマネジャー 」 が介護保険を完成させる . 月刊介護保険 2001 ; ( 11 ): 4-6 .
- 20) 竹内孝仁 : どうなるか英国コミュニティケアの Best Value 改革 ( 3 ) . 介護保険情報 2001 ; ( 11 ): 28-33 .
- 21) 竹内孝仁 : リハビリ 障害老人の日常生活自立度判定 . 日本醫事新報 2001 ; ( 4045 ): 93-94 .
- 22) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : 痴呆性高齢者に対するデイケアでのケアと困難事例 . GPnet 2001 ; ( 12 ): 48-50 .
- 23) 穂山尚子 : 褥瘡処置法・ストーマケア法 . Medical Practice 臨時増刊号 2001 ; 18 : 685-691 .
- 24) 竹内孝仁 : どうなるか英国コミュニティケアの Best Value 改革 ( 4 ) . 介護保険情報 2001 ; ( 12 ): 26-30 .
- 25) 竹内孝仁 : よりよい介護サービスを受けるために . ハナさん 2001 ; 10 .
- 26) 竹内孝仁 : どうなるか英国コミュニティケアの Best Value 改革 ( 5 ) . 介護保険情報 2002 ; ( 1 ): 36-41 .
- 27) 竹内孝仁 : 介護を知らないで在宅医療ができるのか ? . Home Care Medicine 2002 ; ( 1 ): 54-55 .
- 28) 竹内孝仁 : 書評 「 地域リハビリテーション原論 」 ( 大田仁史著 ) . 医学のあゆみ 2002 ; 200 ( 3 ): 262-263 .
- 29) 竹内孝仁 : 寝たきりと閉じこもり , そして介護予防 . 日医ニュース別冊 How to Manage 老年症候群 2002 ; 14-15 .
- 30) 竹内孝仁 : 人は地域で生きているという現実を見逃していないか ? . Home Care Medicine 2002 ; ( 2 ): 48-49 .
- 31) 竹内孝仁 : どうなるか英国コミュニティケアの Best Value 改革 ( 6 ) . 介護保険情報 2002 ; ( 2 ): 26-30 .
- 32) 竹内孝仁 : 介護保険を上手に利用する法 . 百歳万歳 2002 ; ( 3 ): 10-16 .

- 33) 竹内孝仁：監督となりチームワークをつくり上げる仕事．Home Care Medicine 2002；(3): 6-8．
- 34) 竹内孝仁：連携がうまく行かない根本にある教育の問題．Home Care Medicine 2002；(3)．
- 35) 竹内孝仁：どうなるか英国コミュニティケアのBest Value改革(7)．介護保険情報 2002；(3)：28-33．

(2) 研究報告書：

- 1) 竹内孝仁：東京都健康推進プラン21 検討会報告書．東京都健康推進プラン21検討会 2001．
- 2) 穠山尚子，穠山 憲，竹内孝仁：施設入所高齢者の日常生活活動(ADL)とその変化．公衆衛生 2001；65(12)：pp925-928．
- 3) 竹内孝仁：「閉じこもり」高齢者のスクリーニング尺度の作成と介入プログラムの開発．平成13年度長寿科学総合研究事業 2002．

(3) ビデオテープ：

- 1) 竹内孝仁：「高齢者の福祉」「高齢者の心とからだ」．一橋出版 2001．

著 書

- 1) 竹内孝仁：〔監修〕3章2節リハビリテーション医療の基礎知識．ホームヘルパー養成研修テキスト2級 1, 2, 3巻, 2001；pp169-194, 日本労働者協同組合連合会．
- 2) 竹内孝仁：〔自著〕脳卒中が起これば, 2001；講談社健康ライブラリー．
- 3) 竹内孝仁：〔自著〕ケアプランの見分け方・選び方, 2001；法研．
- 4) 竹内孝仁, 三浦文夫：〔共著〕介護サービスの基礎知識, 2001；自由国民社．
- 5) 竹内孝仁：〔共著〕介護相談員養成テキスト, 2001；介護相談・地域づくり連絡会．
- 6) 竹内孝仁：〔共著〕介護予防研修テキスト(厚生労働省老健局計画課監修 介護予防に関するテキスト等調査研究委員会編), 2001；厚生労働省．
- 7) 竹内孝仁, 細田多穂, 高橋輝雄, 五味敏昭：〔編集〕体表解剖と代償運動, 2001；医歯薬出版．
- 8) 竹内孝仁：〔自著〕介護福祉士のケアプラン作成, 2001；医歯薬出版．
- 9) 竹内孝仁, 黒田研二, 穠山尚子：〔共著〕社会福祉士養成テキストブック16 医学一般, 2001；ミネルア書房．
- 10) 竹内孝仁：〔共著〕最新リハビリテーション医学, 2002；医歯薬出版．
- 11) 竹内孝仁：〔自著〕介護予防：元気高齢者をつくろう, 2002；医歯薬出版．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Akiyama N, Takeuchi T：Ultrasonographic evaluation of the influence of different posture on diaphragmatic motion in mechanically ventilated patients and spontaneous breathing controls．1st ISPRM congress (Amsterdam), 2001．7．
- 2) 木村義徳, 宮田光明, 丸山玲子, 榎本雪絵, 井上直子, 竹内孝仁：老人姿勢下での膝屈伸運動と上肢運動の組み合わせ運動による心肺反応の比較検討．第36回理学療法士学会, 2001．5．
- 3) 榎本雪絵, 木村義徳, 宮田光明, 丸山玲子, 井上直子, 竹内孝仁：機能回復訓練における高齢障害者を対象とした体力測定の実施．第36回理学療法士学会, 2001．5．
- 4) 丸山玲子, 榎本雪絵, 木村義徳, 宮田光明, 井上直子, 竹内孝仁：大腿骨頸部骨折術後在宅生活者のハンドヘルドダイナモメーターによる下肢筋力測定(第二報)．第36回理学療法士学会, 2001．5．
- 5) 長田優香, 穠山尚子, 高橋祥子, 大矢亜野, 竹内孝仁：中枢神経系ループスによる小児後天性失語のリハビリテーションの経験．第38回日本リハビリテーション医学会学会, 2001．6．
- 6) 穠山尚子, 石川 聡, 竹内孝仁, 藤原 誠：股関節疾患症例歩行的時間距離因子と下肢機能・ADLとの関連(JOAスコアを用いて)．第38回日本リハビリテーション医学会学会, 2001．6．

- 7) 望月秀樹, 富田義昭, 熊耳さやか, 竹内孝仁: 注意障害の日常生活動作に及ぼす影響 (第2報). 第35回日本作業療法学会, 2001. 6.
- 8) 熊耳さやか, 富田義昭, 望月秀樹, 竹内孝仁: 職場復帰に向けての利き手交換訓練の経験. 第35回日本作業療法学会, 2001. 6.

## [ 第二病院病理部 ]

### 研究概要

これまでと同様に, 外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断の難解な症例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体である。また, 平成8年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが, リアルタイムに患者の既往歴の検索を行うことが出来ると同時に, 各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出が容易であることから, 疾患の統計学的な解析を計画している。

スタッフ (医師1名, 技師5名) の少ない当病理部としては, 各分野への細分化された研究を充分に行うことは出来ないが, 得意分野 (肝臓病理および臓器移植の病理, 細胞診断) から徐々に研究を発展させてゆきたいと考えている。

また, これまでの年報でも述べたが, 平成5年より続けている群馬大学との共同研究 (1) 臓器移植の際の保存再灌流障害 (肺, 肝臓, 小腸, 心臓) に関する研究, (2) NHBD (non-heart beating donor) からの臓器移植に関する研究は, 昨年度に引き続き国内外で高い評価を得たが, さらに課題を発展させ継続中である。また, 平成7年より慶応大学医学部で, 平成9年より日本大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的検討に関する共同研究も継続して行っているが, 一昨年より本学でも生体肝移植が行われるようになり, 付属病院病理部と共同して臨床病理学的な検討に協力している。学内外の症例を積み重ねることにより, 今後さらに活発に行われるであろう臓器移植に対応の出来る体制を整えて行きたい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Kawata K<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室 ): The effect of cyclooxygenase-2 inhibitor FK3311 on ischemia-reperfusion injury in a canine total hepatic vascular exclusion model. J Am Coll Surg 2001; 192 (1): 54-62.
- 2) Iwazaki S<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室 ): FR128998 ( a PAF Receptor Antagonist ) Counters the Increased Pulmonary Vascular Resistance Associated with Ischemia-Reperfusion Injury in the Canine Lung. Int J Angiol 2001; 10 (1): 10-14.
- 3) Iwazaki S<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室 ): FR128998 ameliorates liver injury in extended liver resection with ischemia in dogs. Hepatogastroenterology 2001; 48 (37): 197-202.
- 4) Mohara J<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Aizaki M<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室 ): The optimal pressure for initial flushout in heart procurement with the UW solution. J Heart Lung Transplant 2001; 20 (2): 181-182.
- 5) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawata K<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室 ): Effects of FK3311 on pulmonary is-

chemia-reperfusion injury in a canine model . J Surg Res 2001 ; 95 ( 2 ) : 167-173 .

- 6) Yoshinari D<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Koibuchi Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Koyama T<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of a dual inhibitor of tumor necrosis factor-alpha and interleukin-1 on lipopolysaccharide-induced lung injury in rats : involvement of the p38 mitogen-activated protein kinase pathway . Crit Care Med 2001 ; 29 ( 3 ) : 628-634 .
- 7) Ohwada S<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Kasahara M<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Celsior is superior to UW for graft preservation from non-heart-beating donors in a canine liver transplantation model . Transplant Proc 2001 ; 33 ( 1-2 ) : 922-923 .
- 8) Kawata K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Iwanami K<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of FK409 on small bowel ischemia-reperfusion injury in dogs . Transplant Proc 2001 ; 33 ( 1-2 ) : 883-883 .
- 9) Kobayashi M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Koibuchi Y<sup>1)</sup>, Koyama T<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): FR167653 ameliorates ischemia-reperfusion injury of the rat liver through P38 mitogen-activated protein kinase pathway . Transplant Proc 2001 ; 33 ( 1-2 ) : 865-865 .
- 10) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Kawata K<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Kasahara M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Selective cyclooxygenase-2 inhibitor ameliorates warm ischemia-reperfusion injury of the canine liver . Transplant Proc 2001 ; 33 ( 1-2 ) : 862-862 .
- 11) Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Iwanami K<sup>1)</sup>, Kamoshita N<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Kobayashi J<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Effect of Iazaroid U-74389G on pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs . J Invest Surg 2001 ; 14 ( 2 ) : 83-92 .
- 12) Mohara J<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Ohshima Yamagishi TK<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Yamagishi T<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of Celsior solution on 12-hour cardiac preservation in comparison with University of Wisconsin solution . J Cardiovasc Surg 2001 ; 42 ( 2 ) : 187-192 .
- 13) Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Ohshima K<sup>1)</sup>, Mohara J<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Aizaki M<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Cardiac transplantation following a 24-h preservation using a perfusion apparatus . J Surg Res 2001 ; 96 ( 2 ) : 260-267 .
- 14) Kawashima Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Otani Y<sup>1)</sup>, Koibuchi Y<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Koyama T<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): FR167653 attenuates ischemia and reperfusion injury of the rat lung with suppressing p38 mitogen-activated protein kinase . J Heart Lung Transplant 2001 ; 20 ( 5 ) : 568-574 .
- 15) Yamamoto S<sup>1)</sup>, Tanabe M<sup>1)</sup>, Wakabayashi G<sup>1)</sup>, Shimazu M<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Kitajima M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学医学部外科学教室): The role of tumor necrosis factor-a and interleukin-1b in ischemia-reperfusion injury of the rat small intestine . J Surg Res 2001 ; 99 ( 5 ) : 134-141 .
- 16) Yamada S<sup>1)</sup>, Hayashi Y<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Matsumoto K ( <sup>1)</sup>脳神経外科学 ): Histological and genetic diagnosis of gliomatosis cerebri Δ case report. J Neuro-Oncol . J Neuro-Oncol 2001 ; 52 ( 5 ) : 237-240 .
- 17) Matsumoto K, Yamamoto T, Asano G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二): Intravenous leiomyomatosis of the uterus with multiple pulmonary metastases associated with large bullae-like cyst formation A case report . Pathol Int 2001 ; 51 ( 5 ) : 396-401 .
- 18) Kawata K<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Iwanami K<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): A spontaneous nitric oxide donor ameliorates small bowel ischemia-

reperfusion injury in dogs . Dig Dis Sci 2001 ; 46 ( 8 ) : 1748-1756 .

- 19) Aiba M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Iwanami K<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Mtasumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Novel nitric oxide donor ( FK409 ) ameliorates liver damage during extended liver resection with warm ischemia in dogs . J Am Coll Surg 2001 ; 193 ( 3 ) : 264-271 .
- 20) Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Kasahara M<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of a selective cyclooxygenase-2 inhibitor in extended liver resection with ischemia in dogs . J Surg Res 2001 ; 100 ( 1 ) : 25-31 .
- 21) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Effect of a cyclooxygenase-2 inhibitor, FK3311, in a canine lung transplantation model . Ann Thorac Surg 2001 ; 72 ( 4 ) : 1165-1171 .
- 22) Sunose Y<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Kawatre S<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of endothelin receptor antagonist TAK-044 on small bowel autograft from a controlled non-heart-beating donor model . Surgery 2001 ; 130 ( 5 ) : 819-825 .
- 23) Ohwada S<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Advantages of Celsior solution in graft preservation from non-heart-beating donors in a canine liver transplantation model . J Surg Res 2002 ; 102 ( 2 ) : 71-76 .
- 24) Mohara J<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Aizaki M<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The optimal pressure for initial flush with UW solution in heart procurement . J Heart Lung Transplant 2002 ; 21 ( 3 ) : 383-390 .
- 25) Kobayashi M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): P38 mitogen-activated protein kinase inhibition attenuates ischemia-reperfusion injury of the rat liver . Surgery 2002 ; 131 ( 3 ) : 344-349 .
- 26) 織井恒安<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 家所良夫<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 川村純<sup>1)</sup>, 宅島美奈<sup>1)</sup>, 村野光和<sup>1)</sup>, 松本光司, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>外科学第二): 開心術後の腸管壊死症例の検討 . 日外科系連会誌 2001 ; 26 ( 5 ) : 1323-1328 .
- 27) 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 川田 清<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 心停止ドナーからの小腸移植におけるエンドセリン受容体抑制の有効性 . 今日 of 移植 2002 ; 15 ( 1 ) : 95-99 .

## 学会発表

### ( 1 ) 一般講演 :

- 1) Mohara J<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Aizaki M<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): The optimal pressure for initial flushout in heart procurement with the UW solution . The 21st Annual Meeting and Scientific Sessions of International Society for Heart and Lung Transplantation ( Vancouver ), 2001 . 4 .
- 2) Yoshinari D<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Owada S<sup>1)</sup>, Yabata Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): p38 Mitogen-activated protein kinase inhibitor as an additive to UW solution ameliorates reperfusion injury in liver transplantation . Transplant 2001 Joint Meeting ( Chicago ), 2001 . 5 .
- 3) Yoshinari D<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Koibuchi Y<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Yokoe T<sup>1)</sup>, Inoue Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of a dual inhibitor of TNF- and IL-1 on lipopolysaccharide-induced lung injury in rats . 21st International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine ( Brus-

- sels), 2001 . 5 .
- 4) Mizutani S<sup>1)</sup>, Shioya Takeshi<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Moriyama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器センター): A case of intramural metastasis of rectal cancer . International Surgical Week2001 ( Brussels ), 2001 . 8 .
  - 5) Shibuya T<sup>1)</sup>, Uchiyama K<sup>2)</sup>, Shioya T<sup>1)</sup>, Oguma M<sup>1)</sup>, Ogata M<sup>1)</sup>, Naitoh E<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Matoba Y<sup>1)</sup>, Nanbu K<sup>1)</sup>, Mizutani S<sup>1)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K (<sup>1)</sup>第二病院消化器センター , <sup>2)</sup>海老名総合病院外科): Examination of nm23 gene expression, LOH of the p53 gene, LOH of the DCC gene and RER in patients with colon cancer . International Surgical Week 2001 , 2001 . 8 .
  - 6) Shioya T<sup>1)</sup>, Mizutani S<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Hoshino A<sup>1)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K (<sup>1)</sup>第二病院消化器センター): Clinical evaluation of PCNA, Ki-67, c-erbB-2, p53 and nm23 expression in gastric cancer with submucosal invasion . International Surgical Week 2001 ( Brussels ), 2001 . 8 .
  - 7) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 饗場正明<sup>1)</sup>, 橋本直樹<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 血行遮断を伴う拡大肝切除における cyclooxygenase 2 inhibitor の効果 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
  - 8) 松本光司, 山本泰一: 肝原発と考えられる悪性リンパ腫の一剖検例 . 第91回日本病理学会総会, 2001 . 4 .
  - 9) 吉成大介<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小林光伸<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): ラット肝移植における p38 MAPK 阻害剤の臓器保存液への添加剤としての有効性 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
  - 10) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 犬肺の虚血再灌流傷害に対する bradykinin B2 receptor antagonist, FR173657 の効果 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
  - 11) 小林光伸<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 小山 透<sup>1)</sup>, 鯉淵幸生<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): ラット全肝温阻血再灌流傷害における小腸うっ血の関与とストレス応答 MAPK 活性の変動 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
  - 12) 堤 裕史<sup>1)</sup>, 大島清宏<sup>1)</sup>, 茂原 淳<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 相崎雅弘<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 群馬大学式冠灌流装置を用いた24時間心保存の実験的研究: 同所性移植を通じた評価 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
  - 13) 茂原 淳<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 相崎雅弘<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 石川 進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): UW液を用いた至適初期灌流圧の検討: 移植後心機能および血管内皮細胞傷害の観点から . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
  - 14) 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>2)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 内藤英二<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 的場康徳<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 亀谷 肇<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司 (<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院消化器センター , <sup>2)</sup>海老名総合病院外科): 大腸癌における nm23 の発現, p53-LOH, DCC-LOH および replication error ( RER ) の検討 . 第101回日本外科学会総会, 2001 . 4 .
  - 15) 矢端義弘<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小林光伸<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): p38 MAPK 阻害剤の肝移植時における臓器保存液への添加剤としての有効性 . 第19回日本肝移植研究会, 2001 . 5 .
  - 16) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司 (<sup>1)</sup>第二病院消化器センター): 肝原発悪性リンパ腫の1例 . 第26回日本外科系連合学会学術集会, 2001 . 6 .
  - 17) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 饗場正明<sup>1)</sup>, 橋本直樹<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 田中俊之<sup>1)</sup>, 岡野孝雄<sup>1)</sup>, 小山 透<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 選択的 cyclooxygenase 2 inhibitor は血行遮断を伴う拡大肝切除において肝障害を軽減する . 第56回日本消化器外科学会総会, 2001 . 7 .

- 18) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 饗場正明<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 虚血再灌流傷害における cyclooxygenase 2 inhibitor の関与: 血行遮断を伴う拡大肝切除モデルと Total Hepatic Vascular Exclusion モデルを用いた検討. 第22回日本炎症・再生医学会, 2001. 7.
- 19) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小熊將之<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器センター): 胃癌における PyNPase, DPD および apoptosis 関連遺伝子発現の臨床病理学的検討. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001. 7.
- 20) 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 的場康徳<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 三並 敦<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器センター): 同時性3重複癌(胃・十二指腸・胆道)の1切除例. 第782回外科集談会, 2001. 9.
- 21) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 犬の肺温阻血再灌流傷害および同所性肺移植モデルにおける bradykinin B2 受容体拮抗剤の効果. 第54回日本胸部外科学会総会, 2001. 10.
- 22) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 山本泰一, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器センター): Calcium polystyrene sulfonate, sorbitol により結腸潰瘍・結腸膀胱瘻をきたした1例. 第63回日本臨床外科学会総会, 2001. 10.
- 23) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 内藤英二<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 小山雅章<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 松本光司, 森山雄吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器センター): 三重複癌を呈した表層拡大型食道粘膜眼の1例. 第781回外科集談会, 2001. 10.
- 24) 松島 隆<sup>1)</sup>, 可世木久幸<sup>1)</sup>, 斉藤良明, 長澤由英, 太田吉男, 松本光司(<sup>1)</sup>産婦人科学): 子宮内膜症における卵管内マクロファージのCD71発現. 第40回日本臨床細胞学会秋季大会, 2001. 11.
- 25) 斉藤良明, 太田吉男, 長澤由英, 大庭孝男, 大塚俊司, 山本泰一, 松本光司: 二例の稀な乳腺悪性腫瘍. 第40回日本臨床細胞学会秋季大会, 2001. 11.
- 26) 長澤由英, 斉藤良明, 太田吉男, 大庭孝男, 大塚俊司, 山本泰一, 松本光司: 細胞診にて良悪の判定に苦慮した高分化肺腺癌の1例. 第40回日本臨床細胞学会秋季大会, 2001. 11.
- 27) 河村穂子<sup>1)</sup>, 井上正年<sup>2)</sup>, 太田吉男, 木村文一<sup>3)</sup>, 草野智恵美<sup>4)</sup>, 板倉 誠<sup>5)</sup>, 菅原 隆<sup>6)</sup>, 岡島弘幸<sup>6)</sup>, 中山裕樹<sup>7)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>川崎市癌検診センター, <sup>2)</sup>関東労災病院, <sup>3)</sup>京浜予防医学研究所, <sup>4)</sup>聖マリアンナ医科大学東横病院, <sup>5)</sup>自衛隊中央病院, <sup>6)</sup>神奈川県予防医学協会, <sup>7)</sup>神奈川県立ガンセンター): 川崎市中原地区細胞診勉強会活動報告. 第40回日本臨床細胞学会秋季大会, 2001. 11.
- 28) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 群馬大学式冠灌流装置を用いた心停止ドナー心の同所性移植実験. 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.
- 29) 大谷嘉己<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): ラットの肺虚血再灌流傷害に対する Cox-2 選択的拮抗剤 (FK3311) の効果 (第2報). 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.
- 30) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 犬の同所性肺移植モデルにおける bradykinin B2 受容体拮抗剤の効果. 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.
- 31) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 群馬大学式冠灌流装置を用いた心停止ドナーからの同所性心移植実験. 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.
- 32) 堤 裕史<sup>1)</sup>, 茂原 淳<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): 選択的 cyclooxygenase2 拮抗剤, FK3311 の心筋虚血再灌流傷害に対する保護効果. 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.
- 33) 小林光伸<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学教室): ラット肝温阻血再灌流傷害における選択的 COX-2 Inhibitor FK3311 の効果. 第37回日本移植学会総会, 2001. 12.



- 34) 寺田秀人<sup>1)</sup>, 鮎沢理人<sup>1)</sup>, 宜保陽介<sup>1)</sup>, 伊佐治剛<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 塩谷猛<sup>2)</sup>, 山本泰一( <sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>同消化器センター): ケーキザレットとソルビトールにより結腸潰瘍・結腸膀胱瘻をきたした1例. 第496回日本内科学会関東地方会, 2001. 12.
- 35) 松本光司, 山本泰一: 肝虚血再灌流障害の形態的な変化. 第91回日本病理学会総会, 2002. 3.
- 36) 山本泰一, 松本光司: 上腹部発生乳房外Paget病の1例. 第91回日本病理学会総会, 2002. 3.

## [ 第二病院中央検査室 ]

### 研究概要

平成11年より着手したシステム化による診療支援体制改善の試みも一段落し, 引き続き各種検査法の改善ならびに新規検査の導入を図る一方で, 近年の厳しい医療環境下において, 中央検査室として病院運営に如何に貢献すべきかを模索してきた. 24時間同一レベルを維持した輸血検査体制構築の試みや, 在院日数の抑制に効果が期待される栄養指標蛋白の導入などがその一例であるが, これらをさらに発展させるためには中央検査室独自の活動では限界があり, 臨床各科との連携が重要となる. 中央検査室の命題ともいえる正確なデータをより迅速に提供するための活動と並行し, 今後は臨床各科との連携の下で, より有用な検査を提供可能な検査体制を構築するよう努力していきたい.

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 臼井一城, 成定昌昭, 吉岡美香, 井出尚子, 中島由美子, 菅原 通, 新宅孝征, 松岡和彦: MDA-180による血漿FDP測定に関する基礎的検討(第一報). 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 2) 森本 進, 成定朋美, 津金香代子, 新宅孝征, 松岡和彦: 栄養指標蛋白測定の基礎的検討: 健常人の分布を中心として. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 3) 小伊藤保雄, 因泥弘之, 吉田美和, 新宅孝征, 松岡和彦: 無機リン・新規測定試薬の基礎的検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 4) 鈴木憲康, 坂倉剛志, 野本恵子, 新宅孝征, 松岡和彦: *Helicobacter pylori*分離培地の比較検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 5) 井梅和美, 井上雅則, 花出 豊, 新宅孝征, 松岡和彦, 島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 時間外輸血検査の取り組み. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 6) 成定昌昭, 井出尚子, 菅原 通, 新宅孝征, 松岡和彦: ウイルス抗体検査の臨床応用 第一報: 自動免疫蛍光測定装置の検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 7) 渡部紀子, 西島美輝子, 山賀節子, 越谷美由紀, 隠岐和美, 鈴木久美, 荒井誠一, 狩野貴子, 新宅孝征, 松岡和彦, 宗像一雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院健康管理科): 健常者におけるQTcの検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 8) 鈴木憲康: STDの薬剤治療と耐性菌の動向. 第50回神奈川県医学検査学会, 2001. 10.

## [ 第二病院薬剤科 ]

### 研究概要

薬剤師員数が削減される中で薬剤師が目に見える活躍が必至となった今日, 「適正な薬物療法の実践のため, 病院薬剤師が医療の中で何をしなければならないか」を引き続き今年のテーマとした. 入院患者に対してはメディカルスタッフの一員として, 又, 外来患者に対しては県下の病院薬剤師が行っている処方せんに対する疑義照会の統計, さ

らに、一般市民へ病院薬剤師の仕事をマンガストーリーで紹介しどの様に受け止められたかなど、患者を中心とした医療における諸事情に目を向けた研究を行った。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 小坂好男, 木村利美<sup>1)</sup>, 高尾良洋<sup>2)</sup>, 鷲見正宏<sup>3)</sup>, 水島規子<sup>4)</sup>, 坂下裕子<sup>5)</sup>, 竹内尚子<sup>6)</sup>, 中馬統一郎<sup>7)</sup>, 深谷真理子<sup>8)</sup>, 柳川忠二<sup>5)</sup>, 佐川賢一<sup>1)</sup>, 土田節男<sup>9)</sup>, 酒井英洋<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学病院・薬剤部, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学病院・薬剤部, <sup>3)</sup>昭和大学藤が丘病院・薬剤部, <sup>4)</sup>東海大学医学部附属病院・薬剤部, <sup>5)</sup>聖マリアンナ医科大学東横病院・薬剤部, <sup>6)</sup>かもめ薬局北里健康館, <sup>7)</sup>東名厚木病院・薬剤部, <sup>8)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院・薬剤部, <sup>9)</sup>けいゆう病院・薬剤部, <sup>10)</sup>横浜赤十字病院・薬剤部): 病院薬剤師の業務集計報告 : 処方せん疑義照会件数(割合). 日本病院薬剤師会雑誌 2001 ; 37(8): 1047-1049.
- 2) 菊池有道, 黒山政一<sup>1)</sup>, 岩田陽子<sup>2)</sup>, 大内文伸<sup>3)</sup>, 桜井民雄<sup>4)</sup>, 佐藤康信<sup>5)</sup>, 渡邊美智留<sup>6)</sup>, 三溝和夫<sup>7)</sup>, 根津良幸<sup>8)</sup>, 町田 充<sup>9)</sup>, 山田英紀<sup>10)</sup>, 添田真司<sup>3)</sup>, 矢後和夫<sup>1)</sup>, 永倉初江<sup>11)</sup>, 土田節男<sup>12)</sup>, 酒井英洋<sup>14)</sup>, 小林輝明<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup>北里大学東病院・薬剤部, <sup>2)</sup>藤沢市民病院・薬剤部, <sup>3)</sup>東海大学医学部附属病院・薬剤部, <sup>4)</sup>湯河原胃腸病院・薬剤部, <sup>5)</sup>神奈川県衛視看護専門学校付属病院・薬剤部, <sup>6)</sup>国際親善総合病院・薬剤部, <sup>7)</sup>望星大磯薬局, <sup>8)</sup>聖マリアンナ医科大学附属病院・薬剤部, <sup>9)</sup>北里大学病院・薬剤部, <sup>10)</sup>大和市立病院・薬剤部, <sup>11)</sup>川崎社会保険病院・薬剤部, <sup>12)</sup>けいゆう病院・薬剤部): 「マンガ病院薬剤師物語」に対する一般市民からの評価. 日本病院薬剤師会雑誌 2001 ; 37(8): 1171-1174.

### 学会発表

#### (1) セミナー：

- 1) 小坂好男：医薬品情報の実際．平成13年度神奈川県病院薬剤師会医薬情報委員会セミナー，2002．2．

#### (2) 一般講演：

- 1) 佐藤数馬, 小坂好男, 菊池有道, 山下浩二, 久吉隆郎, 日置正文：患者QOLへの薬剤師の関わり(第VI報): 外科病棟・疼痛管理．第11回日本医療薬学会, 2001．9．
- 2) 毛利多嘉江, 佐藤数馬, 赤羽伸一, 小坂好男, 菊池有道：日本医科大学付属第二病院における薬剤管理指導業務の実際．第106回日本医科大学医学会, 2002．2．

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [ 多摩永山病院病理部 ]

#### 研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，病理学教室から大学院生が病理部に配属され，また臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり，さらにタイ国病理学者の留学以外にも中国より留学中の整形外科医を大学院生及び研究生として迎え，研究部門もさらに充実してきた．

現在の主な研究テーマは以下の通りである．

(1) 乳腺腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立，2) 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について，3) 転移性乳癌の臨床病理学的研究（HER2タンパク質と基底膜分解酵素について）  
(2) 骨軟部腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用），2) Solitary fibrous tumor 及びGIST（gastro intestinal stromal tumor）について

(3) 子宮癌；1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法。

(4) リンパ節病変；1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ，2) リンパ節病変の分子生物学的検索，3) 悪性リンパ腫の細胞診断学。

(5) 体腔液の細胞診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法

(6) 術中迅速診断，免疫染色の確立

#### 研究業績

##### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

##### 原著：

1) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Maeda S, Hosone M, Onda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): Primary Leiomyoma of the Pancreas . International Journal of Pancreatology 2000 ; 28 ( 3 ): 235-238 .

##### (1) 原著：

1) Sanno N<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>1)</sup>, Maeda S, Yamamoto A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Tama Nagayama Hospital ): A case of solitary fibrous tumor of the meninges . Brain Tumor Pathol 2001 ; 18 ( 1 ): 43-47 .

2) Matsuda T<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Okihama Y<sup>1)</sup>, Egami K<sup>2)</sup>, Yoshioka M<sup>2)</sup>, Maeda S, Onda M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Tama Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> First Department of Surgery ): A Clinical Evaluation of Lymphangioma of the Large Intestine : A Case Presentation of Lymphangioma of the Descending Colon and a Review of 279 Japanese Cases . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 3 ): 262-265 .

3) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Maeda S, Hosone M, Onda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> First Department of Surgery ): Solid and papillary tumor of the pancreas complicating agenesis of the dorsal pancreas . J Hepatobiliary pancreat Surg 2001 ; 8 ( 5 ): 485-489 .

4) Matsushima S<sup>1)</sup>, Yamamoto H<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Maeda S, Tanaka S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,

Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup>Second Department of Surgery ): Dermatomyositis/Polymyositis and Lung Cancer : Report of Three Cases . 肺癌 2001 ; 41 ( 4 ) : 347-351 .

- 5) Liu Ai-Min<sup>1)</sup>, Maeda S, Hosone M, Azuma K, Katayama H, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Research , <sup>2)</sup>Department of Pathology ): Use of electron microscopic evaluation for the diagnosis of adrenal cortical carcinoma in fine needle aspiration cytology : a case report and review of the literature . Med Electron Microsc 2001 ; 34 ( 3 ) : 190-197 .
- 6) Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Murakami R<sup>1)</sup>, Toba M<sup>1)</sup>, Ichikawa T<sup>1)</sup>, Kanazawa R<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Sawada N<sup>3)</sup>, Hosone M, Kumazaki T<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup>Department of Pathology , <sup>4)</sup>Department of Radiology ): Chondroblastoma of the temporal bone . Skeletal Radiol 2001 ; 30 : 714-718 .
- 7) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Isobe H, Liu A, Azuma K, Sanno N<sup>1)</sup>, Yamamoto H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup>Department of Surgery, Tama Nagayama Hospital ): Amelanotic melanoma of the anterior mediastinum . J. Jpn. Soc. Clin. Cytol 2002 ; 41 ( 2 ) : 106-111 .
- 8) 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 非閉塞性腸管虚血症 (NOMI) の1例 . 日腹部救急医会誌 2001 ; 21 ( 4 ) : 737-742 .
- 9) 小林由子<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 小倉順子<sup>1)</sup>, 吉田太郎<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 細根 勝, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>放射線医学 ): Solid Cystic Tumor を合併した腓体尾部低形成の1例 . 腹部画像診断アトラスVI 2001 ; 140-141 .
- 10) 松久威史<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 除菌後にみられる食道, 胃, 十二指腸病変の観察 . Therapeutic Research 2001 ; 22 ( 8 ) : 1872-1874 .
- 11) 森 茂郎<sup>1)</sup>, 細根 勝, 竹内賢吾<sup>2)</sup>, 長谷哲男<sup>3)</sup>, 戸倉新樹<sup>4)</sup>, 瀧川雅浩<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医科学研究所人癌病因遺伝子分野, <sup>2)</sup>東京大学医学部附属病院病理部, <sup>3)</sup>横浜市立大学医学部皮膚科学, <sup>4)</sup>浜松医科大学皮膚科学 ): 血液疾患と皮膚病変 : 皮膚リンパ系腫瘍の病理を中心に . 血・免疫・腫瘍 2002 ; 7 ( 1 ) : 5-8 .
- 12) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 永井祥子<sup>2)</sup>, 浅川一枝<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 度会泰彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): 神経内分泌細胞への分化を伴った浸潤性乳癌の3例 . 日臨細胞会誌 2002 ; 41 ( 1 ) : 14-20 .
- 13) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 磯部宏昭, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 17. リンパ節 : 穿刺吸引細胞診の今日的意義と flow cytometry の併用の有用性 . 病理と臨床. 臨時増刊号 2002 ; 20 : 301-315 .

(2) 綜説 :

- 1) 細根 勝 : リンパ節の穿刺吸引細胞診 : フローサイトメトリーの併用と小型~中型の末梢性 B 細胞性リンパ腫の鑑別 . 第91回日本病理学会総会・病理診断講習会ハンドアウト 2002 ; 4-7 .

学会発表

[ 2000 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) Egami K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Wada M<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Yamamura S<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Maeda S, Isobe H, Uchida E<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第一): A Modified Procedure of Intraoperative Fine-Needle Aspiration Cytology for Pancreatic Tumors . 4th world congress International Hepato-Pancreato-Biliary association ( australia ), 2000 . 5 .
- 2) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 佐々部一<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 加藤圭介<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>,

前田昭太郎, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第一): 23歳男性に発生した巨大食道平滑筋肉腫の1例. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.

- 3) 飯田信也<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 消化管の創傷治癒: ヒト十二指腸潰瘍治癒過程における増殖因子およびその受容体の役割の局在・発現の解析. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 4) 飯田信也<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第一, <sup>3)</sup>多摩永山病院消化器科): 消化管の創傷治癒: ヒト十二指腸潰瘍治癒メカニズムにおける線維芽細胞増殖因子およびその受容体の役割の検討. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 10.
- 5) 飯田信也<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 徳永 昭<sup>2)</sup>, 池田研吾<sup>2)</sup>, 平本義浩<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>3)</sup>, 松田 健<sup>3)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山 博徳(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>多摩永山病院消化器科): 消化管の創傷治癒: ヒト十二指腸潰瘍治癒メカニズムにおける線維芽細胞増殖因子およびその受容体の役割の検討. 第42回日本消化器病学会, 2000. 12.
- 6) 松島申治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第二): 縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下治療の検討. 第13回日本内視鏡外科学会総会, 2000. 12.
- 7) 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 吉岡正智<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>外科学第1): 当科における胃内視鏡的粘膜切除術の検討. 第20回多摩消化器シンポジウム, 2001. 1.
- 8) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 細根勝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 非MALT型胃原発性悪性リンパ腫5例の検討. 第37回日本胃癌学会総会, 2001. 3.

(1) 招待講演:

- 1) Maeda S: How to make a correct diagnosis on breast tumors: A proposal as a cytopathologist. The Diagnostic cytopathology Workshop (Singapore), 2001. 10.

(2) 教育講演:

- 1) 細根 勝: 臓器別病理診断講習会: 細胞診: リンパ節の穿刺吸引細胞診(FNAC): 小型~中型の末梢性Bリンパ腫の鑑別. 第91回日本病理学会総会, 2002. 3.

(3) セミナー:

- 1) 長尾 緑<sup>1)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>荒川区ガン予防センター): 細胞診における診断困難例に関する問題. 第17回肺癌集検セミナー, 2001. 11.

(4) ワークショップ:

- 1) Maeda S: How to make a correct diagnosis on breast tumors: A proposal as a cytopathologist. The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2002. 1.
- 2) 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 阿部久美子, 日吾美栄子, 柳田裕美, 磯部宏昭, 片山博徳, 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 乳腺硬癌に関する細胞学的・組織学的検討. 第42回日本臨床細胞学会総会, 2001. 6.
- 3) 前田昭太郎: 脳腫瘍の術中迅速細胞診. 第40回日本臨床細胞学会秋期大会, 2001. 11.

(5) 一般講演:

- 1) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Sanno N<sup>1)</sup>, Yamamoto H<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School): Amelanotic Melanoma of The Mediastinum: A Case Report. 14th International Congress of

- Cytology ( Amsterdam ), 2001 . 5 .
- 2) Fujita C<sup>1)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup> Division of cytology, Arakawa City Cancer-Prevention Center ): The Utility of Cervical Smear Screening in Mass Surveys . The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 1 .
  - 3) Kohama M<sup>1)</sup>, Maeda S, Sakamoto A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Sakura Finetek Japan , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine ): Training Education and Qualification Systems for Cytotechnologists in Japan . The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 1 .
  - 4) Hagiwara Z<sup>1)</sup>, Maeda S, Katayama H, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Medical Student, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of pathology, Nippon Medical School ): The Role of Intraoperative Rapid Cytological Diagnosis for Brain Tumors . The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 1 .
  - 5) Isobe H, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Naito Z<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): Fine Needle Aspiration Cytology of Liposarcoma of the Thigh : A case report . The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 1 .
  - 6) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Isobe H, Yanagida Y, Tajima N, Kohama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Sakura Finetek Japan Co. , Ltd , <sup>2)</sup> Department of pathology, Nippon Medical School ): The Application of Rapid Immunostaining for Cytological Samples in Rapid Intraoperative Diagnosis . The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 1 .
  - 7) Tajima N, Kohama M<sup>1)</sup>, Maeda S, Hosone Masaru, Katayama H, Isobe H, Yanagida Y, Naito Z<sup>2)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Sakura Finetek Japan Co. , Ltd , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): The Utility of Fine Needle Aspiration ( FNA ) Cytology and Core Needle Biopsy ( CNB ) for Breast Tumors . The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 1 .
  - 8) Naito Z<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Maeda S ( <sup>1)</sup> Department of pathology, Nippon Medical School ): Cytological findings of invasive breast carcinomas with neuro-endocrine features . The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 1 .
  - 9) Sun Y, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Ishiwata T, Asano G, Sugisaki Y : Expression of Basic Fibroblastic Growth factor, p53 and MIB1 Protein in Benign and Malignant Solitary Fibrous Tumor . 91st Annual Meeting, United States and Canadian Academy of Pathology ( Chicago ), 2002 . 2 .
  - 10) Sun Y<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Sawada N<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Katayama H, Hosone M, Maeda S ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Expression of bFGF, p53, and MIB1 protein in benign and malignant solitary fibrous tumor . 第69回日本医科大学医学部総会 , 2001 . 9 .
  - 11) 澤田名美枝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 孫 宇良<sup>1)</sup>, 細根 勝, 片山博徳, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 淺野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): Solitary fibrous tumor の生物学的特性とその成長における血管新生因子の役割 . 第90回日本病理学会総会, 2001 . 4 .
  - 12) 孫 宇良<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 澤田名美枝<sup>1)</sup>, 李 仙峰<sup>1)</sup>, 片山博徳, 淺野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): 孤立性線維性腫瘍の良悪性に関する免疫組織化学的検討 . 第90回日本病理学会総会, 2001 . 4 .
  - 13) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 孫 宇良<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>2)</sup>, 山田浩子<sup>2)</sup>, 横田明重<sup>2)</sup>, 越野立夫<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 淺野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 , <sup>2)</sup> 多摩永山病院産婦人科 , <sup>3)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設 ): Deciduioid malignant mesothelioma が考えられる腹腔腫瘍の1例 . 第90回日本病理学会総会 , 2001 . 4 .
  - 14) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 淺野伍朗<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 , <sup>2)</sup> 同小児科 , <sup>3)</sup> 病理学第2 ): 骨髓系マーカーの発現を見た小児 T : 前駆細胞型リンパ腫と考えられる1例 . 第90回日本病理学会総会 , 2001 . 4 .
  - 15) 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 細根 勝, 福田 悠<sup>2)</sup>, 青木見佳子<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院病理部 , <sup>2)</sup> 病理学第一 , <sup>3)</sup> 付属病院皮膚科 ):

7年間に3回組織学的検索されたPrimary cutaneous CD30<sup>+</sup>lymphoproliferative disorders . 第90回日本病理学会総会, 2001 . 4 .

- 16) 松久威史<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, (<sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*除菌後の長期予後: 食道, 胃, 十二指腸病変の観察 . 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001 . 5 .
- 17) 白田忠男<sup>1)</sup>, 長尾 緑<sup>1)</sup>, 藤田千歳<sup>1)</sup>, 大嶋美子<sup>1)</sup>, 猪狩優子<sup>1)</sup>, 矢野 侃<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 相羽元彦<sup>3)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>(財)荒川区がん予防センター, (<sup>2)</sup>付属病院病理部, (<sup>3)</sup>東京女子医科大学附属第二病院病理部): 当センターでの過去10年間の集団検診における精度管理の方法及び工夫点 . 第42回日本臨床細胞学会総会, 2001 . 6 .
- 18) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 細根勝, 前田昭太郎, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山院外科, (<sup>2)</sup>外科第1): p53発現・MIB-1 indexからみた胃原発非Pure MALT型Bcell lymphoma 6例の検討 . 第56回日本消化器外科学会総会, 2001 . 7 .
- 19) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 山王直子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, (<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳転移が初発症状であった肺原発large cell neuroendocrine carcinomaと考えられる2例 . 第48回日本臨床検査医学会, 第41回日本臨床化学会年会連合大会-検査2001, 2001 . 8 .
- 20) 萩原 純<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 志村俊郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>医学部第3学年, (<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 脳腫瘍術中迅速における臨床, 病理カンファレンスの重要性 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 21) 秋山裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 阿部久美子, 日吾美栄子, 小浜真澄, 田島敬夫, 澤田名美枝, 孫 宇良, 劉 愛民<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 乳腺穿刺吸引細胞診での組織型推定の重要性について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 22) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 中村 孝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, (<sup>2)</sup>多摩永山病院外科): 生検材料からの電顕観察が診断に有用であった食道原発小細胞癌の1例 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 23) 山田浩子<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 三田俊二<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 東 敬子, 細根勝, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科): 妊娠中に合併した悪性腹膜中皮腫の1例 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 24) 川野記代子, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 秋山裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 前田昭太郎, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 藤井信人<sup>2)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, (<sup>2)</sup>整形外科学): 穿刺吸引細胞診が有用であったMyxoid Liposarcoma (mixed-type)の1例 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 25) 澤田名美枝<sup>1)</sup>, 孫 宇良<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 淺野伍朗<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>病理学第2): Solitary fibrous tumorにおける血管新生因子およびそのレセプターの発現 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 26) 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 前田昭太郎: リンパ節の穿刺吸引細胞診の有用性と限界: Flow Cytometryの併用と非Hodgkinリンパ腫の亜型分類 . 第15回日本臨床細胞学会関東連合会総会, 2001 . 9 .
- 27) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, (<sup>2)</sup>外科学第1): 胆嚢adenomyomatosisは前癌病変か?: 膵・胆管合流異常合併症例の検討 . 第24回日本膵管胆道合流異常研究会, 2001 . 9 .
- 28) 東 敬子, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>2)</sup>, 山田浩子<sup>2)</sup>, 横田明重<sup>2)</sup>, 越野立夫<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, (<sup>2)</sup>多摩永山病院産婦人科, (<sup>3)</sup>病理学第2): Deciduoid mesotheliomaの1例 . 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001 . 9 .
- 29) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 永野玲子<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, (<sup>2)</sup>多摩永山病院産婦人科): 電顕検索が診断に有用であった子宮頸部原発色素欠乏性悪性黒色腫 (amelanotic melanoma)の1例 . 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2001 . 9 .

- 30) 松久威史<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*の除菌治療に伴う上部消化管病変の内視鏡的検討. 第15回日本臨床内科学会, 2001. 10.
- 31) 磯部宏昭, 細根 勝, 片山博徳, 柳田裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 前田昭太郎, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 藤井信人<sup>2)</sup>, 伊藤博元<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院整形外科): 組織型判定に苦慮した Myxoid Liposarcoma (mixed-type). 第40回日本臨床細胞学会秋期大会, 2001. 11.
- 32) 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 前田昭太郎, 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 穿刺吸引細胞診が有用であった乳腺原発B細胞性リンパ腫の1例. 第40回日本臨床細胞学会秋期大会, 2001. 11.
- 33) 澤田名美枝, 細根 勝, 前田昭太郎, 磯部宏昭, 片山博徳, 柳田裕美, 原 博, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科): Solid cystic tumorの1例. 第40回日本臨床細胞学会秋期大会, 2001. 11.
- 34) 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 江上 格<sup>2)</sup>, 吉岡正智<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>外科学第1): 大腸内視鏡検査 (strip biopsy) にて2型直腸癌と鑑別しえた孤立性直腸潰瘍症候群の1例. 第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 12.
- 35) 寺本 忠<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 吉岡 正智<sup>1)</sup>, 前田 昭太郎, 細根 勝, 恩田 昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 偶発的に早期癌で発見された長期follow up 中潰瘍性大腸炎癌化の1例. 第267回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 36) 松久威史<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 感染率の地域差に関する検討: 東京都千代田区と多摩市の比較. 第73回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 12.
- 37) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 八木聡明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>皮膚科, <sup>3)</sup>耳鼻咽喉科): 頭蓋内黒色腫の臨床神経病理学的研究. 第60回日本脳神経外科学会総会, 2002. 1.
- 38) 日下部史郎<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科): *Helicobacter pylori* 除菌療法により治癒期間が短縮した活動期胃潰瘍の1例. 日本医科大学医学会第106回例会, 2002. 2.
- 39) 松久威史<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理学第2): これからの*Helicobacter pylori* 除菌 regimenの検討. 日本医科大学医学会第106回例会, 2002. 2.
- 40) 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科第1): 発熱を伴った小腸GISTの1例. 外科集談会, 2002. 3.
- 41) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科第1): 後腹膜リンパ節腫瘍を初発とした原発巣不明未分化癌の1例. 外科集談会, 2002. 3.
- 42) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝: 術中迅速診断における細胞診材料への迅速免疫染色併用. 第91回病理学会総会, 2002. 3.

## [ 多摩永山病院中央検査室 ]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法およ



び迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つつ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 久保田稔, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 救急救命領域における神経生理学検査. テクニシャン 2001 ; (40): 43-54 .
- 2) 黒川 顕<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 久保田稔(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 救急医療とモニタ: 脳神経: ABR. Clinical Engineering 2002 ; 13 (4): 327-331 .

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 手島浩恵, 酒井貴史, 水谷行伸, 杉原秀人, 田所久子, 久保田稔, 佐藤綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 鈴木健: 虚血発作より誘発された心室細動の1症例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 2) 藤木直美, 井上 淳, 菅野由紀, 相澤 正, 鈴木美子, 池野廣幸, 鈴木 健: 心筋梗塞急性期にトロポニン陽性に先行してhs-CRP上昇を認めた1例. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 3) 佐藤寛之, 水谷行伸, 手島浩恵, 佐藤綾子, 池野廣幸, 鈴木 健: 逆流率を用いた僧帽弁逆流重症度の再評価について. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 4) 杉原秀人, 久保田稔, 池野廣幸, 鈴木 健, 島田 靖<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 中野渡雄一<sup>1)</sup>, 弥富俊太郎<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中村敏弘<sup>1)</sup>, 小川理朗<sup>1)</sup>, 加地正人<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター): 当院救命救急センターにおける急性血液浄化法の施行状況と重症患者に対する持続的血液濾過透析(CHDF)の検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 5) 真下 恵, 柴田明佳, 鈴木純子, 佐藤知枝, 菊地英子, 池野廣幸, 鈴木 健: インフルエンザウイルスの検体別検出状況. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 6) 柴田明佳, 真下 恵, 鈴木純子, 佐藤知枝, 菊地英子, 池野廣幸, 鈴木 健: インフルエンザ OIA の判定を容易にする測定環境についての検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 7) 菊地英子, 浅井逸子, 澤柳妙子, 四田千穂美, 池野廣幸, 鈴木 健: ディメンション ARx を用いた 2 マイクログロブリンの基礎的検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 8) 澤柳妙子, 浅井逸子, 四田千穂美, 菊地英子, 池野廣幸, 鈴木 健: ディメンション ARx の基礎的検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 9) 四田千穂美, 菊地英子, 浅井逸子, 澤柳妙子, 池野廣幸, 鈴木 健: クリニテックマイクロアルブ・クレアチニンテストの基礎的検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 10) 相澤泰与, 井口輝彦, 浅井信治, 恩田怜子, 池野廣幸, 鈴木 健: 全自動輸血検査機器オートビューと試験管法の比較検討. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 11) 浅井信治, 井上 淳, 菊地英子, 恩田怜子, 池野廣幸, 鈴木 健: 臨床検査システム TLABO-CL の構築と導入効果について. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 12) 鈴木美子, 相澤 正, 井上 淳, 菅野由紀, 藤木直美, 池野廣幸, 鈴木 健: 東芝 TBA-200FR 自動分析装置の基礎的検討 (第1報). 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.
- 13) 相澤 正, 鈴木美子, 井上 淳, 菅野由紀, 藤木直美, 池野廣幸, 鈴木 健: 東芝 TBA-200FR 自動分析装置の基礎的検討 (第2報). 第69回日本医科大学医学会総会, 2001.9.

#### (2) 一般講演：

- 1) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 青木 亘<sup>3)</sup>, 中村利枝<sup>3)</sup>, 五十嵐亜希<sup>3)</sup>, 久保田稔, 山王直子<sup>4)</sup>, 高橋 弘<sup>5)</sup>, 志村

俊郎<sup>4)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 同麻酔科，<sup>3)</sup> 同生理機能センター，<sup>4)</sup> 多摩永山病院脳神経外科，<sup>5)</sup> 第二病院脳神経外科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおける BIS ( Bispectral Index ) モニタリングの有  
用性．第60回日本脳神経外科学会総会，2001．10．

## [ 多摩永山病院薬剤科 ]

### 研究概要

当薬剤科としては，患者中心の医療の中で病院薬剤師に求められている医薬品の適正使用の推進，患者のQOLの向上を目標にこの数年にわたり研究努力している．

その中で，外来患者に対し薬品情報を通して薬物適正使用のについて，入院患者に対し薬剤管理指導業務から患者QOLの向上に貢献できるか研究発表を行なった．また，内科，薬科大学との共同で喘息，心房細動，虚血性心疾患の薬物適正使用，QOLの向上についても研究発表を行なった．さらに小児科とは苦味を持つ薬物のコンプライアンスの向上について研究を行なった．

今後，我々薬剤師も医療チームの一員として医療の質の向上に大きく貢献できるように努力していく考えである．

### 研究業績

#### 論 文

##### (1) 原著：

- 1) 高田雅史，村田和也：前立腺肥大症治療薬と患者への説明．薬局2002年1月増刊号 2002；512-523．
- 2) 藤中祐美子，伊藤淳雄，村田和也，遠藤康実<sup>1)</sup>，新 博次<sup>1)</sup>，長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)：外来診療における抗凝固療法の現状：心房細動患者での検討．臨薬理 2002；33(2)．

#### 著 書

- 1) 宿前貴子：〔分担〕II各論 ホルモン剤．薬の事典(宮崎利夫，朝長文彌)，2001；朝倉書店．
- 2) 宿前貴子，畝本賜男，村田和也：〔分担〕心臓および血管性疾患・高血圧性緊急症．アプライドセラピューテイクス4巻，2001；pp74・01-74・18，テクノミック．

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 椎野元裕，村田和也，片岡ひろみ<sup>1)</sup>，佐久間哲<sup>2)</sup>，吉岡正智<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>看護部，<sup>2)</sup>事務部，<sup>3)</sup>外科学第1)：医薬品SPD導入による薬剤業務の改革と経費の変化．第51回日本病院学会，2001．6．
- 2) 村田和也：院内物流管理業務の現状．多摩病診薬局研究会第34回総会，2001．7．
- 3) 加藤浩子，亀山明美，伊藤淳雄，村田和也：当院外来糖尿病患者におけるpioglitazone ( ACTOS ) の服薬状況と副作用に関する検討．日本病院薬剤師会関東ブロック 第31回学術大会，2001．8．
- 4) 椎野元裕，村田和也：SPD導入による薬品管理業務への影響．日本病院薬剤師会関東ブロック第31回学術大会，2001．8．
- 5) 藤中祐美子，伊藤淳雄，村田和也，遠藤康実<sup>1)</sup>，新 博次<sup>1)</sup>，長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1)：心房細動におけるwarfarin療法の現状．第9回不整脈薬物療法研究会，2001．9．
- 6) 亀山明美，藤中祐美子，加藤浩子，稲葉育広，伊藤淳雄，村田和也：当院入院患者に対する薬剤管理指導業務における処方薬理解度に関する考察(第2報)．第11回日本医療薬学会年会，2001．9．
- 7) 椎野元裕，村田和也，佐久間哲<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>2)</sup>：当院における薬品管理業務の変革：薬品SPDを導入して．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．

- 8) 宿前貴子, 富岡勝世, 村田和也: 外来患者に対する処方薬適正使用の推進. 第11回日本医療薬学会年会, 2001. 9.
- 9) 藤中祐美子, 伊藤淳雄, 村田和也, 遠藤康実<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 外来心房細動患者における薬剤疫学的調査. 第7回日本薬剤疫学会学術総会, 2001. 11.
- 10) 藤中祐美子, 伊藤淳雄, 村田和也, 遠藤康実<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 外来診療における抗凝固療法の現状: 心房細動患者での検討. 第22回日本臨床薬理学会年会, 2001. 12.
- 11) 山田朋子<sup>1)</sup>, 森田茂英<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 新 博次<sup>2)</sup>, 長澤紘一<sup>2)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup>東京薬科大学大学院, <sup>2)</sup>内科学第1): 外来虚血性心疾患患者の薬物療法とQOL. 第22回日本臨床薬理学会年会, 2001. 12.
- 12) 伊藤淳雄, 藤中祐美子, 亀山明美, 村田和也: 気管支喘息患者に対する薬物治療とQOLの評価. 第3回薬物療法QOL研究学術大会, 2002. 1.
- 13) 亀山明美, 藤中祐美子, 伊藤淳雄, 村田和也: 当院喘息外来における気管支喘息患者に対する教育指導の検討: 再教育患者と喘息外来卒業患者を比較して. 第3回薬物療法QOL研究会学術大会, 2002. 1.
- 14) 藤中祐美子, 亀山明美, 伊藤淳雄, 村田和也: 気管支喘息患者の妊娠中における治療と指導について. 第3回薬物療法QOL研究会学術大会, 2002. 1.
- 15) 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>1)</sup>, 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 村田和也, 畝本賜男, 高田雅史, 江上 格<sup>2)</sup>, 吉岡正智<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>多摩永山病院外科, <sup>3)</sup>外科学第一): 潰瘍性大腸炎に対する薬物療法: とくに5アミノサリチル酸注腸療法の検討. 日本医科大学医学会第106回例会, 2002. 2.
- 16) 藤中祐美子, 伊藤淳雄, 村田和也, 吉川真由美<sup>1)</sup>, 遠藤康実<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 多摩永山病院における心房細動薬物療法の現状. 日本医科大学医学会第106回例会, 2002. 2.
- 17) 伊藤淳雄, 藤中祐美子, 加藤浩子, 亀山明美, 村田和也, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 三原 潔<sup>2)</sup>, 緒方宏泰<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>明治薬科大学大学院臨床薬学専攻): 当院における2型糖尿病患者の末梢神経障害に関する評価と自覚症状の検討. 日本薬学会第112年回, 2002. 3.
- 18) 畝本賜男, 村田和也, 本多秀雄<sup>1)</sup>, 向後博司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬科大学大学院): 高血圧自然発症ラット(SHR)の摘出大動脈標本におけるprogesterone(P4)の弛緩反応. 日本薬学会第112年会, 2002. 3.
- 19) 尾崎昌大<sup>1)</sup>, 大山良治<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 畝本賜男, 村田和也, 高瀬真人<sup>2)</sup>, 飛田正俊<sup>2)</sup>, 向後俊昭<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬科大学大学院, <sup>2)</sup>小児科学): 苦味を呈する小児用細粒剤に対する苦味マスキング剤の効果と味の評価. 日本薬学会第112年会, 2002. 3.
- 20) 鈴木貴之<sup>1)</sup>, 村田和也, 大山良治<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬科大学大学院): 点滴速度を変化させる因子の検討. 日本薬学会第122年会, 2002. 3.
- 21) 山田朋子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup>東京薬科大学大学院, <sup>2)</sup>内科学第1): 外来虚血性心疾患患者のQOL; 疾患の種類と治療内容による影響. 日本薬学会第122年会, 2002. 3.
- 22) 横田訓男<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 村田和也, 池田俊也<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京薬科大学大学院, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>慶応大医): 気管支喘息患者のQOLと薬剤師管理指導の効果. 日本薬学会第122年会, 2002. 3.

## [ 多摩永山病院看護部 ]

### 研究概要

当看護部は, 看護の質の維持・向上のために研究に取り組んでいる. 今年度は, 特に東京都看護協会の主催において研究発表の機会があり看護職員全体で積極的な参加ができた.

- 1). 出生後8~12時間以内の第一沐浴が新生児の膿疱疹発生予防に有効であったとの結果を得た.

2). CHDFの実施に関して、臨床工学技師不在の施設にとって、同じ視点で、統一した看護の提供をすることができるようマニュアルを作成することで成果を得た。

3). 化学療法を受ける患者に対し、交流分析を用いて患者の不安を受容し、悲しみを表出させる重要性の示唆を得た。

4). 急性期にある患者・家族へのインタビューを通し、危機段階の知識を深め、各期の家族の欲求を明らかにした。

5). 長期間の航空機搬送に頻回のスクウィージング、加湿、吸引が有効であるとの示唆を得た。

6). 看護婦は意識障害を有する患者の経口摂取開始時期を、患者のどのような行動の変化を捉え評価しているのか調査した。

7). 日頃、外来での待ち時間を説明する看護婦の返事の根拠を調査したことで、できるだけ患者にズレの小さい待ち時間を伝えられるようにとの看護婦の行動変容が見られた。

8). 早期リハビリテーションプログラムを作成・実施したことにより、リスク管理下において、積極的なリハビリテーションが可能であるとの実証を得た。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

1) 渡邊光恵，野田理奈，中村ひろみ，上藪里砂，酒井和子：出生後の第一沐浴と膿疱疹発生の関係．第19回東京母性衛生学会，2001．6．

2) 小笠原由佳，石ヶ森重之，神野麻優子，寺尾洋介，石川秀一，緋田雅美，野口 素：当施設におけるCHDFマニュアルを作成して．第11回日本急性血液浄化学会，2001．10．

3) 市坪弓枝，吉川順子，伊藤栄子，渡辺久子，加藤美穂：婦人科病棟看護婦の精神面の関わり方の特徴を探る：化学療法を受ける患者とのやりとり分析を通して．第21回関東甲信越地区看護研究学会，2001．11．

4) 後藤哲也，市川由紀子，桑畑志乃，藤井その子：急性期脳外患者の家族が医療者へ望むこと：危機モデルをもとにインタビューを実施して．第21回関東甲信越地区看護研究学会，2001．11．

5) 塩津正己，緋田雅美，富岡譲二<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター)：長期間航空機搬送における気管切開患者の呼吸管理．第21回関東甲信越地区看護研究学会，2001．11．

6) 前原美紀：意識障害患者の経口摂取開始時期の分析：看護婦が判断する経口摂取時期の調査から．第21回関東甲信越地区看護研究学会，2001．11．

7) 田中喜久美，下地初子，三谷千栄子，吉田明子：外来看護婦が患者に伝える待ち時間：予測根拠と時間のずれ．第21回関東甲信越地区看護研究学会，2001．11．

8) 佐々木愛，緋田雅美，後藤 円，森迫いずみ，熊谷真青吏，塩津正己，野口 素：急性期におけるリハビリテーション．第21回関東甲信越地区看護研究学会，2001．11．

## 23．千葉北総病院付置施設等

### [ 千葉北総病院内科 ]

#### 研究概要

内科4教室から医局員の派遣を受け、臨床的研究を積極的に行っている。そのため研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、内分泌および呼吸器疾患とほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では、虚血性心疾患が中心、心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である。また、不整脈の機序を心臓電気生理検査にて検討を行っている。

肝臓では、肝機能障害の患者に対し、各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断及び肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。

神経では、CT、MRI検査による各種筋疾患の経時変化、治療効果の検討、および電気生理検査による中枢、末梢神経疾患の定量的評価、検討を行っている。

腎臓では、蛋白尿から急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、大腸癌と血液疾患の関連、食堂蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

内分泌では、甲状腺を中心にFGSとの関連を研究している。

呼吸器では、肺癌に対する併用療法、および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析、検討を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Satomura K<sup>1)</sup>, Etuda H<sup>1)</sup>, Nishikawa K<sup>1)</sup>, Tanabe H<sup>1)</sup>, Isoda K<sup>1)</sup>, Takase B<sup>1)</sup>, Ohsuzu F<sup>1)</sup>, Kurita A<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> 防衛医科大学第一内科): Plasma Fibrinogen Level is Related to Intimal Pathology in Coronary Spastic Angina. International Journal of Angiology 2001 ; 10 : 111-114 .
- 2) Takano M, Mizuno K, Okamatsu K, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Sakai S ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): Mechanical and Structural Characteristics of Vulnerable Angioscopy and Intravascular Ultrasound. Journal of American College of Cardiology 2001 ; 38 ( 1 ): 99-104 .
- 3) Sakai S, Mizuno K, Tomimura M, Tanabe J<sup>2)</sup>, Seimiya K, Takano M, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Uemura R ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属病院第一内科): Visualized Plaque Debris as a Cause of Distal Embolization After Percutaneous Coronary Intervention in Patient With Unstable Angina. Catheterization and Cardiovascular Interventions 2002 ; 55 ( 3 ): 113-117 .
- 4) 岡松健太郎, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 石橋史行, 清宮康嗣, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 急性冠症候群における Coronary Artery Distensibility の重要性. 日冠疾会誌 2001 ; 7 ( 4 ): 155-159 .
- 5) 高野雅充, 酒井俊太, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 冠動脈インターベンションの合併症対策における血管内視鏡の有用性. 脈管学 2001 ; 41 ( 12 ): 877-881 .

- 6) 上村竜太, 豊田隆志, 岡松健太郎, 高野雅充, 掃部弘行, 清宮康嗣, 横山真也<sup>1)</sup>, 富村正登, 水野杏一, 高山守<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>付属病院第一内科): 急性冠症候群における新世代と旧世代冠動脈ステントの初期および長期成績の比較. 日血管内治療会誌 2002; 3(3): 29-35.
- 7) 日野光紀, 小野 靖, 小久保豊, 杣 知行, 田中庸介, 小俣雅稔, 上原隆志, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第四, <sup>2)</sup>院内感染症対策委員会): 医療関係者に対するツベルクリン反応およびBCG接種歴調査と二段階ツベルクリン反応の検討. 結核 2002; 77(4): 347-354.

(2) 綜説:

- 1) 横山真也<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 局所病変を観察する: 治療で何が変わったか. Heart View 2001; 5(2): 18(178)-26(183).
- 2) 水野杏一: 新しい方法による動脈硬化診断. 循環器疾患-state of arts-(別冊医学のあゆみ) 2001; ver2(8): 325-327.
- 3) 水野杏一: 心臓財団虚血性心疾患セミナー冠動脈内視鏡. HEART 心臓 2001; 33(3): 253-254.
- 4) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 血管内視鏡の適応と問題点?冠動脈に対する血管内腔所見?. 医のあゆみ 2001; 197(5): 443-449.
- 5) 岡松健太郎, 水野杏一: 画像診断でわかるもの: 5. 血管内視鏡. 循環器の画像診断ガイド(総合臨床) 2001; 50(5): 101(1209)-105(1213).
- 6) 上村竜太, 水野杏一, 笠神康平<sup>1)</sup>, 関戸司久<sup>2)</sup>, 横山広行<sup>3)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高山 守<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>付属病院第一内科, <sup>3)</sup>国立東静病院循環器科): 急性心筋梗塞の再灌流不良例における責任冠動脈内圧の特徴. Japanese Journal of Interventional Cardiology 2001; 16(5): 408-414.
- 7) 高野雅充, 水野杏一: 血管内視鏡による冠動脈攣縮の特徴. 循環器 2001; 50(4): 333-337.
- 8) 上原隆志, 木田厚瑞<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人医療センター 呼吸器科): 第10章 在宅医療手技 在宅酸素療法. Medical Practice 臨時増刊号 2001; 18(4): 781-788.
- 9) 水野杏一: 心筋梗塞急性期の薬物療法. Hert心臓 2001; 33(11): 877-878.
- 10) 掃部弘行, 水野杏一: 心筋梗塞. 血栓と循環 2002; 10(1): 22-27.
- 11) 高野雅充, 水野杏一: 冠動脈内視鏡から学ぶこと. Colony Intervention 2002; 1(1): 28-32.
- 1) 水野杏一: 冠動脈疾患におけるインターベンション治療の適応ガイドライン(冠動脈バイパス術の適応を含む): 待機的インターベンション. Japanese Circulation Journal 2001; 65(suppl. IV): 835-839.

著 書

- 1) 水野杏一: [分担] レイノー病, レイノー現象. 今日の治療指針私はこう治癒している 今日の治療指針改訂(山口 徹(編), 北原光夫(編), 多賀須幸男(監), 尾形悦郎(監)), 2001; pp276-276, 医学書院.
- 2) 石橋史行, 水野杏一: [分担] 急性冠症候群(acute coronary syndrome)の病態. 心筋傷害と心筋/血管マーカー 心筋梗塞再定義(ESC/ACC)に基づく迅速生化学診断(清野精彦), 2001; pp14-19, メジカルビュー.
- 3) 葉山修陽: [自著] MRSA 関連腎症. 腎疾患最新の治療, 2001; pp111-113, 南江堂.
- 4) 清宮康嗣, 水野杏一: [分担] 3. 侵襲的診断法 3-2. 血管内視鏡. 血管内科(江頭健輔, 久米典昭, 倉橋正彦, 栗原裕基, 堀内正嗣, 森下竜一), 2001; pp203-208, メディカルレビュー.
- 5) 佐野純子: [分担] 4. 冠攣縮性狭心症. 症例からはいる心臓核医学マニュアル, 2001; pp28-33, メディカルビュー社.
- 6) 岸田輝幸: [分担] 消化管の内視鏡検査(虚血性大腸炎, 腸管子宮内膜症, 放射線性直腸炎, 粘膜脱症候群). 図解消化器病シリーズ 2, 2001; pp168-172, メディカルビュー社.
- 7) 荒川 宏<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>防衛医科大学校病院第一内科): [分担] レーザー血管形成術. 循環器疾患最新の治療2002-2003(篠山重威, 矢崎義雄), 2002; pp405-408, 南江堂.

- 8) 掃部弘行, 水野杏一: [分担] 心筋梗塞の概念・定義・新しい診断と治療のABC4循環器1(高野照夫), 2002; pp9-18, 最新医学社.
- 9) 日野光紀, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第四): [共著] 肺癌の診断と治療 最新の研究動向 パクリタキセル. 日本臨床 60巻 増刊号5, 2002; pp343-348, 日本臨床社.

#### 学会発表

[ 2000 年度追加分 ]

##### 一般講演:

- 1) 城所 葉<sup>1)</sup>, 豊田隆志, 岡松健太郎, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 横山真也<sup>2)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 佐野純子, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 付属病院第三内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 血管内超音波にて特徴的な inflammatory halo を認めた炎症性大動脈瘤の1例. 第179回日本循環器学会関東甲信越地方会学術集会, 2001. 2.

##### (1) 特別講演:

- 1) 水野杏一: 血管内視鏡. 第7回日本血管内治療学会, 2001. 6.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 岡松健太郎, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 豊田隆志, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 佐野純子, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 径皮的冠動脈形成術における血管内視鏡の有用性. 第7回日本血管内治療学会, 2001. 6.
- 2) 上村竜太, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 豊田隆志, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 佐野純子, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): Pressure wire による冠内圧所見からみたPCI後の再狭窄予防. 第7回日本血管内治療学会, 2001. 6.
- 3) 高野雅充, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 野村敦宣, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 不安定プラークの構造的特徴ならびに物理的特性: 冠動脈内視鏡と血管内超音波による解析. 第7回日本血管内治療学会, 2001. 6.
- 4) 水野杏一: 虚血性心疾患と酸化ストレス. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.

##### (3) パネルディスカッション:

- 1) 畑 典武<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>3)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 掃部弘行, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属病院第一内科, <sup>3)</sup> 同集中治療室): Economy class syndromeの集中治療と長期予後. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.

##### (4) セミナー:

- 1) 水野杏一: 急性冠症候群の病態と化学迅速診断法~急性冠症候群の病態について~. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.

##### (5) 一般講演:

- 1) Takano M, Kyoichi M, Uemura R, Tomimura M, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seimiya K, Okamatsu K (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): Coronary Artery Distensibility and Plaque Disruption. American College of Cardiology (Orland, USA), 2001. 3.
- 2) Yokoyama S<sup>1)</sup>, Mizuno K, Okamatsu K, Seimiya K, Takano M, Ohba T<sup>1)</sup>, Tomimura M, Uemura R, Ino T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属病院第一内科): How Long Should We Antiplatelet Agents in Emergent Stenting of Acute Myocardial Infarction?. American College of Cardiology (Orland, USA), 2001. 3.
- 3) Ohba T<sup>1)</sup>, Mizuno K, Seimiya K, Takano M, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Uemura R, Sakai S, Kusama Y<sup>2)</sup>, Ino T<sup>2)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Hirasawa Y<sup>2)</sup>, Tanabe J<sup>2)</sup>, Tajika K<sup>2)</sup>, Kamon H (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属病院第一内科): Acute Coronary Syndrome Is Not Local Vascular Accident, but Pan-Coronary Process. American College of Cardiology (Orland, USA), 2001. 3.

- 4) Sano J, Okamatsu K, Sakai S, Mizuno K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科): Effects of green tea intake on prevention of coronary artery disease . The 6th International Conference on Atherosclerosis( Tokyo , Japan ), 2001 . 4 .
- 5) Uehara T<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Motegi T<sup>1)</sup>, Gotoh R<sup>1)</sup>, Katsura H<sup>1)</sup>, Kida K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Division Of Pulmonary Medicine, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital ): A Study Of Comparison Between Acute Bronchitis And Pneumonia As A Cause Of Acute Exacerbation In Elderly Patients With Chronic Obstructive Pulmonary Disease ( COPD ) . American Thoracic Society, 97th International Conference ( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 6) Uehara T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Katsura H<sup>1)</sup>, Motegi T<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup>, Gotoh R<sup>1)</sup>, Kida K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Division Of Pulmonary Medicine, TokyoMetropolitan Geriatric Hospital ): Simplified Estimation Of Hypercapnia Using "Sodium-Chloride Gap ( Saline Gap )" In Acute Exacerbation Of Chronic Obstructive Pulmonary Disease ( COPD ) . American Thoracic Society, 97th International Conference ( San Francisco ), 2001 . 5 .
- 7) Okamatsu K, Toyoda T, Takano M, Seimiya K, Kamon H, IshibashiF, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Tomimura M, Uemura R, Nomura A, Sano J, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Elevated Troponin T Levels and Lesion Characteristics in Unstable Angina : A Study with Coonary Angioscopy . Scientific Session 2001 AHA ( Anaheim, USA ), 2001 . 11 .
- 8) Okamatsu K, Seimiya K, Kamon H, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Tomimura M, Uemura R, Ma S, Sakai S, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Mechanical characteristics of vulnerable plaques : comparison of distensibility between yellow and white plaques . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 9) Takano M, Okamatsu K, Seimiya K, Kamon H, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Tomimura M, Uemura R, Ma S, Sakai S, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Why does positive remodeling of coronary artery induce unstable clinical presentations? . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 10) Ma S, Miura H<sup>1)</sup>, Toyota T, Okamatsu K, Kamon H, Takano M, Seimiya K, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>千葉北総集中治療室): The importance of Hypertension as an Asymptomatic PlaqueRupture Factor in Acute Coronary Syndorome ( ACS ) Patients . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 11) Sano J, Okamatsu K, Sakai S, Mizuno K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科): Effects of green tea intake on prevention of coronary artery disease . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 12) 岡松健太郎, 豊田隆志, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 横山真也<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 佐野純子, 水野杏一 (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Do Statins Decrease Plasma Levels of Oxidized Low-density Lipoprotein ( Ox-LDL ) ? . 第33回日本動脈硬化学会総会, 2001 . 6 .
- 13) 三井啓吾, 藤森俊二, 竹内雅文<sup>1)</sup>, 中島 泰<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 吉沢雅史, 岸田輝幸, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第三内科): 回転性めまいを初発症状とした, 胃癌脳転移の1剖検例 . 第267回日本消化器病学会関東支部例会, 2001 . 1 .
- 14) 馬 淑梅, 水野杏一: 急性冠症候群患者における無症候性プラーク崩壊発生因子としての高血圧の重要性 . 第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 15) 清宮康嗣, 水野杏一: 急性冠症候群におけるプラーク破裂部位および形態の検討 . 第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 16) 田邊 潤<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup>付属病院第一内科): 急性心筋梗塞に対するステント留置療法の有用性について: 血管内視鏡による検討 . 第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .



- 17) 上村竜太, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 豊田隆志, 岡松健太郎, 高野雅充, 掃部弘行, 清宮康嗣, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 佐野純子, 畑典武<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): ロータブレーター施行の際に血管内視鏡とIVUSが有用であった1例. 第18回日本心血管インターベンション学会, 2001. 4.
- 18) 日野光紀, 小野靖, 小久保豊, 杣知行, 田中庸介, 市野浩三, 五味淵誠<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 内科第四, 2) 千葉北総病院胸部外科): マクロライド長期投与療法による胃 *Helicobacter pylori* 感染への影響. 第41回日本呼吸器学会総会, 2001. 4.
- 19) 日野光紀, 小野靖, 小久保豊, 杣知行, 小俣雅稔, 田中庸介, 市野浩三, 工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 内科第四): 呼吸器疾患患者に対するマクロライド長期投与療法による *Helicobacter pylori* 感染への影響. 第98回日本内科学会総会, 2001. 4.
- 20) 日野光紀, 小野靖, 小久保豊, 杣知行, 小俣雅稔, 田中庸介, 市野浩三, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup> (1) 胸部外科, 2) 院内感染症対策委員会, 3) 内科第四): ツベルクリン反応陰性医療関係者に対するBCG接種歴調査とBCG接種の検討. 第76回日本結核病学会総会, 2001. 4.
- 21) 小久保豊, 日野光紀, 小野靖, 杣知行, 小俣雅稔, 田中庸介, 市野浩三, 工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 内科第四): 当院で経験した肺外結核5症例についての検討. 第76回日本結核病学会総会, 2001. 4.
- 22) 上原隆志<sup>1)</sup>, 桂秀樹<sup>1)</sup>, 山田浩一<sup>1)</sup>, 茂木孝<sup>1)</sup>, 荒木健彦<sup>1)</sup>, 後藤里江<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> (1) 東京都老人医療センター呼吸器科): 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の急性増悪時の高炭酸ガス血症の評価: Na-Cl gap (Saline Gap) の有用性に関する研究. 第41回日本呼吸器学会総会, 2001. 4.
- 23) 田中庸介, 小野靖, 小久保豊, 杣知行, 小俣雅稔, 市野浩三, 日野光紀, 工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 内科学第四): 慢性呼吸器疾患診療における心臓超音波右心循環動態評価の有用性の検討. 第41回日本呼吸器学会総会, 2001. 4.
- 24) 田中庸介, 日野光紀, 小野靖, 小久保豊, 小俣雅稔, 杣知行, 市野浩三, 工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 内科学第四): 陳旧性肺結核における超音波右心循環評価の有用性. 第76回結核病学会総会, 2001. 4.
- 25) 田中庸介, 日野光紀, 小野靖, 小久保豊, 杣知行, 小俣雅稔, 市野浩三, 工藤翔二<sup>1)</sup> (1) 内科学第四): 慢性呼吸器疾患患者の診療における心臓超音波検査を用いた右心循環動態評価の有用性の検討. 第98回日本内科学会総会, 2001. 4.
- 26) 杣知行<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野靖<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院呼吸器センター, 2) 内科第四): Noninvasive positive pressure ventilation (NIPPV) による急性喘息発作治療の試み. 第41回日本呼吸器学会総会, 2001. 4.
- 27) 清宮康嗣, 豊田隆志, 岡松健太郎, 掃部弘行, 高野雅充, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 小原俊彦<sup>2)</sup>, 佐野純子, 今泉孝敬<sup>2)</sup>, 畑典武<sup>2)</sup>, 水野杏一, 高野照夫<sup>1)</sup> (1) 付属病院第一内科, 2) 千葉北総病院集中治療室): 血管内視鏡モニター下の冠動脈インターベンション. 第12回日本臨床モニター学会総会, 2001. 5.
- 28) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 豊田隆志, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 富村正登, 上村竜太, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 佐野純子, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 山内茂生, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一, 高野照夫<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院集中治療室, 2) 付属病院第一内科): 糖尿病患者における血管内超音波モニター下のステント留置. 第12回日本臨床モニター学会総会, 2001. 5.
- 29) 北村和広<sup>1)</sup>, 小野靖<sup>1)</sup>, 川口直義<sup>1)</sup>, 市野浩三<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 杣知行<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup> (1) 付属千葉北総病院呼吸器病センター, 2) 同病理部, 3) 内科第四): 全肺野をwanderingするBOOPパターンを呈したリウマチ肺の1例. 第144回日本呼吸器学会関東地方会, 2001. 5.
- 30) 栗原怜<sup>1)</sup>, 小野田教高<sup>1)</sup>, 大和田一博<sup>1)</sup>, 桜井祐成<sup>1)</sup>, 須賀優<sup>1)</sup>, 大園英一<sup>1)</sup>, 葉山修陽, 秋葉隆<sup>2)</sup> (1) 春日部秀和病院, 2) 東京女子医大腎臓病総合医療センター): 透析患者腸骨における海綿骨部と皮質骨部の骨代謝動態について. 第44回日本腎臓学会, 2001. 5.
- 31) 小野瀬裕之, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 石井新哉<sup>1)</sup>, 周東祐二<sup>1)</sup>, 亀谷純<sup>1)</sup>, 杉原仁<sup>1)</sup>, 江本直也, 及川真一<sup>1)</sup>, 若林一

- 二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第三): 糖尿病初診時に合併する高脂血症の意義. 第44回日本糖尿病学会年次学術集会, 2001. 5.
- 32) 藤森俊二, 岸田輝幸, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 佐藤 順<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 桜井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第三): 平均赤血球容積 (MCV) と閉経後女性の大腸腺腫危険率の検討. 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001. 5.
- 33) 横山真也<sup>1)</sup>, 水野杏一, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): AMI急性期のステント留置後の抗血小板療法はいつまで必要か?. 第33回日本動脈硬化学会総会, 2001. 6.
- 34) 豊田隆志, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 高野雅充, 富村正登, 上村竜太, 野村敦宣, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 肺梗塞に伴う重症肺高血圧に対してPGI2 (フローラン) 製剤にて治療した2症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 第180回学術集会, 2001. 6.
- 35) 王 恒維<sup>1)</sup>, 中村 正<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 葉山修陽(<sup>1)</sup>内科第二): 当院における透析患者の脳血管障害についての検討. 第46回日本透析医学会学術集会, 2001. 6.
- 36) 千田和美<sup>1)</sup>, 藤田美保<sup>1)</sup>, 森 美幸<sup>1)</sup>, 王 恒維, 中村 正, 葉山修陽(<sup>1)</sup>千葉北総病院看護部): 栄養状態から検討する腹膜透析患者のQOL向上のための看護アプローチ. 第46回日本透析医学会学術集会, 2001. 6.
- 37) 御園恒一郎<sup>1)</sup>, 田口雪江<sup>1)</sup>, 久島英二<sup>1)</sup>, 葉山修陽, 五味淵誠<sup>2)</sup>, 今泉孝敬<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北病院血液浄化療法室, <sup>2)</sup>同胸部外科, <sup>3)</sup>同集中治療室): 心筋生検後心タンポナーゼに伴う慢性腎不全の急性増悪の対し各種血液浄化療法が著効した1例. 第46回日本透析医学会学術集会, 2001. 6.
- 38) 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 岡松健太郎, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 佐野純子, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): ステントを留置したAMIの径皮的な内膜変化. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 39) 豊田隆志, 上村竜太, 横山真也<sup>2)</sup>, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 富村正登, 畑 典武<sup>2)</sup>, 水野杏一, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科, <sup>2)</sup>千葉北総病院集中治療室): 新世代冠動脈ステントの使用は急性冠症候群への治療に有効か: 旧世代ステント使用時期との初期および長期成績の比較. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 40) 岡松健太郎, 豊田隆志, 清宮康嗣, 高野雅充, 掃部弘行, 横山真也<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 血管内視鏡はno reflow現象のpredictorと成り得るか. 第10回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 41) 高橋千秋<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央検査室): 腰交感神経ブロックの効果判定におけるサーモグラフィーの有用性について. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 42) 中田理恵<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一, 牧野俊郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央検査室, <sup>2)</sup>新東京国際空港クリニック): 新東京国際空港クリニックにおける小型血糖測定装置 (アントセンスII) の有用性. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 43) 三谷真美江<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一, 馬場俊吉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央検査室, <sup>2)</sup>同耳鼻咽喉科): 条件詮索反応聴力検査法. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 44) 目黒真喜子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央検査室, <sup>2)</sup>新東京国際空港クリニック): 超音波診断装置SonoSite TM180の使用経験と臨床の有用性. 第69回日本医科大学医学会総会, 2001. 9.
- 45) 宗像 亮<sup>1)</sup>, 掃部弘行, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 豊田隆志, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 野村敦宣, 佐野純子, 星野公彦<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 特異な心電図変化を呈したタコツボ心筋症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 第181回学術集会, 2001. 9.
- 46) 水野杏一: Simvastatinの冠動脈硬化に対する進展抑制効果 多施設共同試験 : Japanese Utilization of Simvastatin Therapy (JUST Study). 第49回日本心臓病学会 学術集会, 2001. 9.

- 47) 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 上村竜太, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 岡松健太郎, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 不安定プラークの色調定量評価の研究. 第49回日本心臓病学会 学術集会, 2001. 9.
- 48) 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 上村竜太, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 岡松健太郎, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 水野杏一, 斎藤 康<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 千葉大学医学部第2内科): A-CT 阻害剤によるプラークの安定化. 第49回日本心臓病学会 学術集会, 2001. 9.
- 49) 豊田隆志, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 富村正登, 上村竜太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一, 小川 紅<sup>2)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属多摩永山病院内科): 重症冠動脈3枝病変の心原性ショック症例において, Direct stentingにて救命しえた1例. 第19回インターベンション学会, 2001. 10.
- 50) 上原隆志, 日野光紀, 小野 靖, 柚 知行, 田中庸介, 市野浩三, 小久保豊, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 内科第四, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理部): サルコイドーシスと喘息の関連性について. 第147回日本呼吸器学会関東地方会, 2001. 10.
- 51) 柚 知行<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 内科第四): Noninvasive positive pressure ventilation (NIPPV) による急性喘息発作治療の試み. 第13回日本アレルギー学会秋期大会, 2001. 10.
- 52) 橋本和政, 大塚美穂, 葉山修陽, 北村博司<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理第一, <sup>2)</sup> 内科第2): 内皮下に大型のDepositの沈着を多量に認めたJgA腎症の1例. 第31回日本腎臓学会東部学術集会, 2001. 10.
- 53) 栗原 怜<sup>1)</sup>, 桜井祐成<sup>1)</sup>, 小野田教高<sup>1)</sup>, 須賀 優<sup>1)</sup>, 大園英一<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>(1)</sup> 春日部秀和病院): ₂MG吸着カラム使用中にEPO抵抗性貧血の増悪を認めた透析患者の1例. 第31回日本腎臓学会東部学術集会, 2001. 10.
- 54) 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 上村竜太, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 岡松健太郎, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): ACAT阻害剤によるプラークの安定化の検討. 第15回日本心臓血管内視鏡学会, 2001. 11.
- 55) 孫 亜清, 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 上村竜太, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 岡松健太郎, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 急性冠症候群患者におけるプラーク崩壊の発生頻度と発生因子. 第12回日本心臓血管画像動態学会, 2001. 11.
- 56) 豊田隆志, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 富村正登, 上村竜太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一, 小川 紅<sup>2)</sup>, 品田卓郎<sup>2)</sup>, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 横山真也<sup>2)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属多摩永山病院内科): 重症冠動脈3枝病変の心原性ショック症例において, Direct stentingにて救命しえた1例. 第19回インターベンション学会, 2001. 11.
- 57) 田中 庸介, 日野光紀, 小野 靖, 小久保豊, 柚 知行, 上原隆志, 榎戸律子, 葉山修陽, 大秋美治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部): 血清CA125上昇を認め, 著明な胸水を伴ったSScの1例. 第11回千葉膠原病セミナー, 2001. 11.
- 58) 田中庸介, 日野光紀, 小野 靖, 小久保豊, 柚 知行, 上原隆志, 榎戸律子, 大秋美治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部): IPT経過中にPSCを合併した1例. 第12回東葛肺癌研究会, 2001. 11.
- 59) 岡松健太郎, 水野杏一, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 富村正登, 上村竜太, 野村敦宣, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 急性冠症候群におけるCoronary Artery Distensibilityの重要性. 第15回日本冠疾患学会, 2001. 12.
- 60) 石橋史行, 水野杏一, 豊田隆志, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 富村正登, 上村竜太, 野村敦宣, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 血管内視鏡における黄色プラークと虚血性心疾患の予後. 第15回日本冠疾患学会, 2001. 12.
- 61) 孫 亜清, 高野雅充, 清宮康嗣, 岡松健太郎, 掃部弘行, 上村竜太, 石橋史行, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 畑

- 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): Frequency and determinants of silent plaque disruption in patients with stable coronary syndrome. 第15回日本冠疾患学会, 2001. 12.
- 62) 横山真也<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 上村竜太, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 石橋史行, 岡松健太郎, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一, 斉藤 康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>千葉大学医学部第2内科): ACAT 阻害剤によるプラークの安定化の検討. 第15回日本冠疾患学会, 2001. 12.
- 63) 酒井俊太, 上村竜太, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 石橋史行, 岡松健太郎, 水野杏一, 斉藤康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>千葉大学医学部第2内科): 安定性狭心症の責任病変の内視鏡的検討(新規病変と再狭窄病変との相違). 第15回日本冠疾患学会学術集会, 2001. 12.
- 64) 小野瀬裕之, 関田祥久<sup>1)</sup>, 竹内雅文<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>(1)</sup>内科第三): Insulin lisproによる持続皮下注入療法(CSII)を試みた糖尿病性胃症合併糖尿病の1例. 第39回日本糖尿病学会 関東甲信越地方会, 2002. 1.
- 65) 日野光紀, 樫戸律子, 田中庸介, 上原隆志, 柚 知行, 小久保豊, 小野 靖, 嶋崎千壽<sup>1)</sup>, 柳下照子<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>院内感染対策委員会): 14印環マクロライド長期少量持続投与中の慢性呼吸器疾患患者の鼻腔由来ブドウ球菌の耐性化について. 第17回環境感染学会総会, 2002. 2.
- 66) 小久保豊, 日野光紀, 小野 靖, 樫戸律子, 田中庸介, 上原隆志, 柚 知行, 川口直義, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第四, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): 血小板減少症をきたした肺癌intrasinusoidal metastasisの2例. 第132回日本肺癌学会関東地方会, 2002. 2.
- 67) 山本英世, 上村竜太, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 小川友裕, 岡松健太郎, 石橋史行, 高野雅充, 掃部弘行, 清宮康嗣, 富村正登, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一内科): 全身性エリテマトーデスに伴ったbraided lesionの1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第183回学術集会, 2002. 3.
- 68) 竹内雅文, 小野瀬裕之, 江本直也, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同放射線科): 頻回の妊娠中毒症の既往をもつ原発性アルドステロン症の1例. 第12回臨床内分泌代謝 Update, 2002. 3.
- (6) ラウンドテーブルディスカッション:
- 1) 藤森俊二, 琴寄 誠, 岸田輝幸: 当科における日帰り, 入院別での内視鏡的大腸ポリープ切除の分析. 第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001. 6.

## [ 千葉北総病院集中治療室 ]

### 研究概要

急性心筋梗塞, 不安定狭心症, うっ血性心不全, 肺血栓塞栓症, 解離性大動脈瘤を中心に集中管理を行い, 最新かつ安定した治療法の確立を目指し研究を重ねた. 本施設の特徴は多岐にわたる人工補助療法が可能であることであるが, 本年度途中よりドクターヘリコプターによる患者搬送が導入され, 県内広域からの重症患者受け入れが可能となった.

#### (1) 人工補助装置

救命救急センターでの重症患者受け入れ, 麻酔科, 全般的な外科的治療, 透析設備, 画像診断設備, 臨床検査部門が充実しており, 集中治療部では重症患者の管理においてこれらをフルに活用しつつ, 人工呼吸器, 血液浄化法, IABP, PCPSなどの補助装置をフルに駆使している. 多臓器不全合併患者の他施設からの転送も多く, 千葉県での循環器疾患管理, 多臓器不全患者管理, 血液浄化法に関する研究の拠点として活動している.

#### (2) 急性冠症候群

本施設では急性冠症候群(急性心筋梗塞ならびに不安定狭心症)の治療に冠動脈内視鏡, 血管内エコーを活用し, 新しい治療戦略の確立と治療法の選択基準の確立に努めている. また, 本疾患に関わるサイトカインについての研究にも着手し発表を積み重ねている.

#### (3) うっ血性心不全

急性心不全，慢性心不全の急性増悪の最新の治療に関し，新薬の治験に参加し新しい知見を構築している．

#### (4) 肺血栓塞栓症

術後症例とエコノミークラス症候群が多く入室する．画像診断部門，臨床検査部門の協力を得て，本症の急性期病態把握と最新かつ有効な治療法の確立を提唱できる全国でも筆頭の施設である．現在，本疾患に対する一時的ならびに永久下大静脈フィルター装着を含むカテーテル治療の有用性を検討し学会での提唱を行っている．

#### (5) 急性大動脈解離

本性の急性期ならびに慢性期の臨床像につき豊富な症例数をもとに発表を重ねている．特に合併症としての胸水貯留のメカニズムについて研究を続けている．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hata N, Takano M<sup>1)</sup>, Kunimi T<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Dept of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Lack of Antagonism Between Nicorandil and Sulfonylurea in Stable Angina Pectoris . International Journal of Clinical Pharmacology Research 2001 ; 21 ( 1 ): 59-63 .
- 2) Takano M<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T, Sakai S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Mechanical and Structural Characteristics of Vulnerable Plaques : Analysis by Coronary Angioscopy and Intravascular Ultrasound . J Am Coll Cardiol 2001 ; 38 ( 1 ): 99-104 .
- 3) Makino T<sup>1)</sup>, Asano Y<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>2)</sup>, Yamashita K<sup>3)</sup>, Yamamoto Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> New Tokyo International Airport Clinic, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , <sup>4)</sup> Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School ): International Airports and Pulmonary Thromboembolism . 血栓止血誌 2001 ; 12 ( 6 ): 480-486 .
- 4) Hata N, Tanaka K<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Ohba T, Ohara T, Shinada T, Yokoyama S, Makino T<sup>2)</sup>, Takano T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> ICU & CCU, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> New Tokyo International Airport Clinic, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> 1st Dept of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Prognosis of Economy Class Syndrome Treated in Intensive Care Unit . Internal Medicine 2002 ; 41 ( 1 ): 91-94 .
- 5) Hata N, Tanaka K<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Ohara T, Ohba T, Shinada T, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> ICU & CCU, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> 1st Dept of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Clinical Significance of Pleural Effusion in Acute Aortic Dissection . Chest 2002 ; 121 ( 3 ): 825-830 .
- 6) Yasutake M<sup>1)</sup>, Kunimi T<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Hata N, Takayama M<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Dept of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Effects of a single oral dose of cilostazol on epicardial coronary arteries and hemodynamics in humans . Circ J 2002 ; 66 ( 3 ): 241-246 .
- 7) Sakai S<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Tomimura M<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T, Uemura R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Visualized Plaque Debris as a Cause of Distal Embolization after Percutaneous Coronary Intervention in Patient with Unstable Angina . Catheterization and Cardiovascular Interventions 2002 ; 55 ( 1 ): 113-117 .
- 8) 大場崇芳，水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科 ): 血管内視鏡の適応と問題点：冠動脈に対する血管内腔所見．医のあゆみ 2001 ; 197 ( 5 ): 443-449 .
- 9) 岡松健太郎<sup>1)</sup>，品田卓郎，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，横山真也，大場崇芳，富村正登<sup>1)</sup>，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科 ): 急性冠症候群における Coronary Artery Distensibility の重要性．日冠疾会誌 2001 ;

7(4): 155-159 .

- 10) 高野雅充<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 冠動脈インターベンションの合併症対策における血管内視鏡の有用性. 脈管学 2001 ; 41 (12): 877-881 .
- 11) 上村竜太<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山真也, 富村正登<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科第一): 急性冠症候群における新世代と旧世代冠動脈ステントの初期および長期成績の比較. 日血管内治療会誌 2002 ; 3 (3): 29-35 .

(2) 総説:

- 1) 横山真也, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 局在病変を観察する: 治療で何が変わったか. Heart View 2001 ; 5 (2): 178-183 .
- 2) 畑典武: Economy Class Syndrome . カレントセラピー 2002 ; 20 (4): 83-84 .

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 横山真也, 宮原健吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>京都市埋蔵文化財研究所): 血管内視鏡におけるニューフロンティア(色調定量評価). 第15回日本心臓血管内視鏡学会, 2001 . 11 .

(2) シンポジウム:

- 1) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 経皮的冠動脈形成術における血管内視鏡の有用性. 第7回日本血管内治療学会, 2001 . 6 .
- 2) 上村竜太<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): Pressure wire による冠内圧所見からみたPCI 後の再狭窄予防. 第7回日本血管内治療学会, 2001 . 6 .
- 3) 高野雅充<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 不安定プラークの構造的な特徴ならびに物理的特性: 冠動脈内視鏡と血管内超音波による解析. 第7回日本血管内治療学会, 2001 . 6 .
- 4) 高野雅充<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 不安定プラークの構造的ならびに物理的特性(冠動脈内視鏡と血管内超音波による解析). 第15回日本心臓血管内視鏡学会, 2001 . 11 .

(3) ワークショップ:

- 1) 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 上村竜太<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 不安定プラークの色調定量評価の研究. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001 . 9 .

(4) 一般講演:

- 1) Hata N, Tanaka K<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Ohara T, Ohba T, Shinada T, Makino T<sup>2)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ICU & CCU, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>New Tokyo International Airport Clinic, Nippon Medical School): Treatment of Economy Class Syndrome . 5th Congress of European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (Odense), 2001 . 9 .
- 2) Okamatsu K<sup>1)</sup>, Toyota T<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T, Tomimura M<sup>1)</sup>, Uemura R<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): Elevated Troponin-T Levels and Lesion Characteristics in

Unstable Angina : A Study with Coronary Angioscopy . Scientific Session 2001 AHA ( Anaheim ) , 2001 . 11 .

- 3) 上村竜太<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): ローテーブル施行の際に血管内視鏡とIVUSが有用であった1例. 第18回日本心血管インターベンション学会, 2001. 4.
- 4) 大場崇芳, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 山内茂生<sup>2)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同心臓血管外科, <sup>3)</sup>内科第一): 糖尿病患者における血管内超音波モニター下のステント留置. 第12回日本臨床モニター学会総会, 2001. 5.
- 5) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科第一): 血管内視鏡モニター下の冠動脈インターベンション. 第12回日本臨床モニター学会総会, 2001. 5.
- 6) 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): AMI急性期のステント留置後の抗血小板療法はいつまで必要か?. 第33回日本動脈硬化学会総会, 2001. 6.
- 7) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 肺梗塞に伴う重症肺高血圧に対してPG12(フローラン)製剤にて治療した2症例. 第180回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001. 6.
- 8) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 横山真也, 品田卓郎, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 血管内視鏡は no reflow現象の predictor と成り得るか. 第10回心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 9) 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): ステントを留置したAMIの経時的な内膜変化. 第10回心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 10) 豊田隆志<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 新世代冠動脈ステントの使用は急性冠症候群への治療に有効か(旧世代ステント使用時期との初期及び長期成績の比較). 第10回心血管インターベンション学会学術集会, 2001. 7.
- 11) 大場崇芳, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 孫 亜清<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 上村竜太<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 軽中等度糖尿病患者におけるIVUSガイド下のステント療法の効果. 第38回六甲カルディアックセミナー, 2001. 8.
- 12) 金澤宏美, 山本英世, 高橋明子, 品田卓郎, 横山真也, 大場崇芳, 小原俊彦, 今泉孝敬, 畑 典武: 再発症を繰り返す心筋炎の1例. 第10回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2001. 8.
- 13) 宗像 亮, 鈴木雄一朗, 品田卓郎, 横山真也, 大場崇芳, 小原俊彦, 今泉孝敬, 畑 典武, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 長期間の集中管理が必要であったTAKOTSUBO心筋症の1例. 第15回千葉県重症患者管理研究会, 2001. 9.
- 14) 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 上村竜太<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 水野杏一<sup>1)</sup>, 斉藤 康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>千葉大学医学部第2内科): A-CAT阻害剤によるプラークの安定化. 第49回日本心臓病学会学術集会, 2001. 9.
- 15) 宗像 亮, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 特異な心電図変化を呈したタコツボ心筋症の1例. 第181回日本循環器学会関東甲信越地方会学術集会, 2001. 9.
- 16) 高野雅充<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 石橋史行<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳,

- 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 当院におけるRTCRA(ロータブレーター)治療の経験. 第20回循環器合同カンファ  
ランス, 2001. 10.
- 17) 豊田隆志<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野  
純子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 小川紅, 品田卓郎, 大場崇芳, 横山真也, 小原俊彦, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑典武  
(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 重症冠動脈3枝病変の心原性ショック症例において, Direct stentingにて救命しえた1  
例. 第19回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2001. 10.
- 18) 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 水野杏  
一<sup>1)</sup>, 斉藤康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>千葉大学医学部第2内科): A-CAT阻害剤による  
プラークの安定化. 第15回日本心臓血管内視鏡学会, 2001. 11.
- 19) 石橋史行<sup>1)</sup>, 馬淑梅<sup>1)</sup>, 孫亜清<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 横山  
真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏  
一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 急性冠症候群における無症候性プラーク崩壊発症と高血圧症の関連(血管内視鏡  
による検討). 第15回日本心臓血管内視鏡学会, 2001. 11.
- 20) 牧野俊郎<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑典武, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国際空港クリニック,  
<sup>2)</sup>救急医学): 国際空港と肺血栓塞栓症. 第29回日本救急医学会総会学術集会, 2001. 11.
- 21) 三浦靖彦<sup>1)</sup>, 森尾比呂志<sup>2)</sup>, 畑典武, 牧野俊郎<sup>3)</sup>, 桑野稔啓<sup>4)</sup>, 東日出夫<sup>5)</sup>, 福永昌幸<sup>6)</sup>, 片岡正一<sup>7)</sup>, 安  
江浩二<sup>1)</sup>, 福本正勝<sup>1)</sup>, 津久井一平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>(財)航空医学研究センター, <sup>2)</sup>成田赤十字病院, <sup>3)</sup>日本医科大学新  
東京国際空港クリニック, <sup>4)</sup>鳳生会藤立病院, <sup>5)</sup>泉州救急医療センター, <sup>6)</sup>福岡徳州会病院, <sup>7)</sup>日本医科大学  
千葉北総病院救急救命センター): 航空機利用に伴う深部静脈血栓・肺血栓塞栓症に関する全国調査. 第47回  
日本宇宙航空環境医学会総会, 2001. 11.
- 22) 孫亜清<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 岡松健太  
郎<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 急性冠症候群におけるプラーク崩壊の発生頻度と発生因子. 第12回  
日本心臓血管画像動態学会, 2001. 11.
- 23) 横山真也, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太  
郎<sup>1)</sup>, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>, 斉藤康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>千葉大学医学部第2内  
科): ACAT阻害剤によるプラークの安定化の検討. 第15回日本冠疾患学会学術集会, 2001. 12.
- 24) 石橋史行<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 豊田隆志<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村  
正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 星野公彦, 佐野純子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 血管  
内視鏡における黄色プラークと虚血性心疾患の予後. 第15回日本冠疾患学会学術集会, 2001. 12.
- 25) 三船俊英, 木田恵子, 時田祐吉, 原田英博, 品田卓郎, 横山真也, 大場崇芳, 小原俊彦, 星野公彦, 今泉孝敬,  
畑典武: 熱中症による横紋筋融解にclostridium感染の関連が疑われた1例. 第13回千葉CCM研究会, 2001. 12.
- 26) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正  
登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑典武(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 急性冠症  
候群におけるCoronary Artery Distensibilityの重要性. 第15回日本冠疾患学会, 2001. 12.
- 27) 孫亜清<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 上村竜太<sup>1)</sup>, 石橋史  
行<sup>1)</sup>, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): Frequency and determinants of silent plaque disruption  
in patients with stable coronary syndrome. 第15回日本冠疾患学会, 2001. 12.
- 28) 時田祐吉, 横山真也, 木田恵子, 三船俊英, 原田英博, 品田卓郎, 大場崇芳, 小原俊彦, 星野公彦, 今泉孝敬,  
畑典武: 冠動脈2枝同時血栓性閉塞による急性心筋梗塞を発生した進行胃癌の1例. 第183回日本循環器学会  
関東甲信越地方会学術集会, 2002. 2.
- 29) 今泉孝敬, 星野公彦, 小原俊彦, 大場崇芳, 横山真也, 品田卓郎, 畑典武: 肺血栓塞栓症に対するインター



- ベンションならびに一時的下大静脈フィルターの有用性についての検討．第29回日本集中治療学会，2002．2．
- 30) 大場崇芳，畑 典武，三船俊英，品田卓郎，横山真也，大場崇芳，小原俊彦，星野公彦，今泉孝敬：急性大動脈解離における胸水貯留の臨床的意義についての検討．第99回日本内科学会講演会，2002．3．
- 31) 畑 典武，今泉孝敬，星野公彦，小原俊彦，大場崇芳，横山真也，品田卓郎，三船俊英：集中治療室内科における血液浄化療法と他の人工補助装置についてのおねえ検討．第99回日本内科学会講演会，2002．3．
- 32) 三浦靖彦<sup>1)</sup>，森尾比呂志<sup>2)</sup>，畑 典武，牧野俊郎<sup>3)</sup>，桑野稔啓<sup>4)</sup>，東日出夫<sup>5)</sup>，福永昌幸<sup>6)</sup>，福本正勝<sup>1)</sup>，津久井一平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>(財)航空医学研究センター，<sup>2)</sup>成田赤十字病院，<sup>3)</sup>日本医科大学新東京国際空港クリニック，<sup>4)</sup>鳳生会藤立病院，<sup>5)</sup>泉州救急医療センター，<sup>6)</sup>福岡徳州会病院)：航空機利用に伴う静脈血栓塞栓症(いわゆるエコノミクス症候群：s-ECS)に関する全国調査．第99回日本内科学会講演会，2002．3．

## [ 千葉北総病院リハビリテーション科 ]

### 研究概要

#### 筋電比例式機能的電気刺激装置による感覚運動統合

従来回復困難であった重度から中等度の片麻痺機能障害に対し，わずかな筋収縮の筋電図を記録し，増幅された電気刺激によって麻痺筋をさらに収縮させる．その増幅された筋収縮時の固有感覚が入力刺激となって，中枢神経に感覚運動統合の再構築を促す新しいアプローチを行っている．特に閾値トリガー式ではなく，筋電比例式電気刺激であるので，より細かな筋収縮の促通が可能となり感覚運動統合に有利である．皮膚体性感覚入力刺激が，刺激部位に関わる大脳皮質運動野の抑制・促通に関与している．特に筋肉の固有感覚入力筋収縮に促通に働くという感覚運動統合の再構築を促すことを目的とする．

#### I. 筋電比例式治療的電気刺激装置

##### 1. 筋電比例式治療的電気刺激装置の回路の概要

- ・チャンネル1は同じ電極で筋電記録と電気刺激を兼用している．
- ・チャンネル2は電気刺激装置からの電気刺激のみを行う．
- ・記録電極は1チャンネルであるが，電気刺激は2チャンネル同時刺激が可能である．
- ・個々のチャンネル毎に電気刺激の強度と位相が自由に細かく設定できる．

##### 2. 筋電記録と電気刺激を兼用する電極の回路設定

- ・筋電計はノイズと電気刺激の影響を受けず，筋肉からの筋電信号のみをピックアップできるように回路を設定する．
- ・電気刺激相と筋電記録相の切り替えはリレー式電子スイッチ回路によって自動的に行われる．

##### 3. 筋電比例式電気刺激強度の設定

・チャンネル1で記録された10ケのpulseの整流した筋電信号を積分する．積分筋電図の振幅を測定し，その振幅の大きさに比例して電気刺激が増幅されるように回路を設定する．

・電気刺激は単4電池4本によって行われ，500ms毎(つまり10pulse毎)に更新される．電気刺激を開始する筋電信号の閾値と最大値は自由に設定可能とする．

#### II. 開発した筋電比例式治療的電気刺激装置を実際に用いて脳卒中片麻痺患者への応用を考慮する．

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著：

- 1) 永井朝子<sup>1)</sup>，原 行弘，都丸哲也<sup>1)</sup>，小川真司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都リハビリテーション病院，<sup>2)</sup>慶應義塾大学リハビリテーション科)：多要因が考えられる嚥下障害に対して側方傾斜姿勢が有効であった症例．総合リハ 2002；30(1)：73-76．

(2) 綜説：

- 1) 原 行弘：我々が用いている脳卒中の予後予測Ⅱ．臨床リハ 2001；10(4)：307-312．
- 2) 原 行弘：リハビリテーションにおけるQOL：脊髄損傷．総合リハ 2001；29(8)：719-723．

著 書

- 1) 原 行弘：〔分担〕心肺機能の評価．リハビリテーションレジデントマニュアル(千野直一，木村彰男)，2001；pp85-89，医学書院．
- 2) 原 行弘：〔分担〕福祉行政・福祉機器．リハビリテーションレジデントマニュアル(千野直一，木村彰男)，2001；pp308-314，医学書院．
- 3) 原 行弘：〔分担〕運動の代謝生理学的側面，呼吸と循環．看護のための最新医学講座27巻リハビリテーション・運動療法(岡島康友)，2002；pp64-74，中山書店．
- 4) 原 行弘：〔分担〕リハビリテーション・運動療法．看護のための最新医学講座第27巻リハビリテーション・運動療法(岡島康友)，2002；pp165-171，中山書店．

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 原 行弘：中枢性麻痺と運動単位(運動単位解析)．第31回日本臨床神経生理学学会学術大会，2001．11．

(2) 一般講演：

- 1) 原 行弘，都丸哲也<sup>1)</sup>，村岡慶裕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京都リハビリテーション病院，<sup>2)</sup>慶應義塾大学理工学部)：中枢性片麻痺に対する筋電比例式治療的電気刺激装置の紹介．第38回日本リハビリテーション医学会総会，2001．5．

## [ 千葉北総病院病理部 ]

### 研究概要

従来より，病理部に提出される臨床検体を用い以下の点を中心に検討を進めてきている．

1) 婦人科腫瘍

女性診療科，放射線科とともに，子宮，卵巣に発生する腫瘍性病変の形態学的，細胞生物学的特性につき，臨床的，画像診断学的所見を合わせ検索を進めている．特に，子宮頸癌の術前化学療法に際しての組織学的効果予知判定因子の検討とともに若年者子宮体癌症例については子宮温存を目的とした非手術的ホルモン療法の有用性及びその限界について，病巣部の経時的な形態学的変化の検討を行っている．

2) 消化管腫瘍

大腸癌，GISTなどの消化管腫瘍に関する臨床病理学的検討を進行中である．

3) 乳腺腫瘍

外科の協力を得て導入された乳癌治療薬 Herceptin の適応症例の選択に用いる検査法 Hercep Test を用いて，乳癌組織内における染色様式や生物学的特性との関連性などにつき解析を開始した．また，特徴的な形態( ICLs や微小乳頭状配列など ) を示す乳腺腫瘍において，その形成過程及び細胞生物学的意義につき，細胞診断学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的解析を継続中である．

3) 神経変性疾患：アルツハイマー病を中心とする中枢神経変性疾患の病態及び発症機構の解析を内科第二，病理第二などとの共同研究として進めている．

## 研究業績

### 論文

[ 1999 年度追加分 ]

原著 :

- 1) Kawanami O<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Jiang L<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Takemura T<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Arai S, Gomibuchi M<sup>3)</sup>, Takeda K<sup>4)</sup>, Yu ZX<sup>4)</sup>, Ferrans VJ<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Molecular Pathology, Institute for Gerontology , <sup>2)</sup> Dep. of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center , <sup>3)</sup> Dep. of Thoracic Surgery, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>4)</sup> NHLBI, NIH, USA ): Heterogeneous distribution of thrombomodulin and von Willebrand factor in endothelial cells in the human pulmonary microvessels . J Nippon Med Sch 2000 ; 83 ( 2 ): 196-203 .

[ 2000 年度追加分 ]

原著 :

- 1) 亀山孝二<sup>1)</sup>, 長谷場健<sup>2)</sup>, 王 若皎<sup>1)</sup>, 町田 幹<sup>3)</sup>, 町田 稔<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 森 修, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第二, <sup>2)</sup> 法医学, <sup>3)</sup> 放射線ハイテクリサーチセンター ): 冠動脈平滑筋細胞の膜障害とアルコール脱水素酵素 ( ADH ) の発現 . 脈管学 2000 ; 40 : 259-266 .

( 1 ) 原著 :

- 1) Uchihara T<sup>1)</sup>, Nakamura A<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>2)</sup>, Mori O ( <sup>1)</sup> Dep. of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience , <sup>2)</sup> Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Evolution from pretangle neurons to neurofibrillary tangles monitored by thiazin red combined with Gallyas method and double immunofluorescence . Acta Neuropathol ( Berl ) 2001 ; 101 ( 6 ): 535-539 .
- 2) Jin E<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Arai S, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Dep. of Thoracic surgery, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>3)</sup> Dep. of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center ): Angiogenesis and phenotypic alteration of alveolar capillary endothelium in areas of neoplastic cell spread in primary lung adenocarcinoma . Pathol Int 2001 ; 51 ( 9 ): 691-700 .
- 3) Jin E<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Pan X<sup>1)</sup>, Arai S, Ohaki Y, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Dep. of Thoracic surgery, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>3)</sup> Dep. of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center ): Aerogenous spread of primary lung adenocarcinoma induces ultrastructural remodeling of the alveolar capillary endothelium . Hum Pathol 2001 ; 32 ( 10 ): 1050-1058 .
- 4) Yokoi K<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Kyouno S<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Yamashita N<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Surgery, Nippon Medical School ): Gastrointestinal stromal tumor of the stomach diagnosed preoperatively . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ): 435-441 .
- 5) Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Arai S, Shimizu-Suganuma M<sup>2)</sup>, Shichinohe K<sup>2)</sup>, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Pathology, Nippon Medical School ): Ebola hemorrhagic fever ( EHF ): mechanism of transmission and pathogenicity . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ): 370-375 .
- 6) Yamazaki M<sup>1)</sup>, Makifuchi T<sup>2)</sup>, Chen KM<sup>2)</sup>, Mori O, Katayama Y<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Oyanagi K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Dep. of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience ): Progressive supranuclear palsy on Guam . Acta Neuropathol ( Berl ) 2001 ; 102 ( 5 ): 510-514 .
- 7) Uchihara T<sup>1)</sup>, Nakamura A<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>2)</sup>, Mori O, Ikeda K<sup>2)</sup>, Tsuchiya K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience , <sup>2)</sup> Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Different conformation of neuronal tau deposits distinguished by double immunofluorescence with AT8 and thi-

azin red combined with Gallyas method . Acta Neuropathol ( Berl ) 2001 ; 102 ( 5 ) : 462-466 .

- 8) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Okada S<sup>2)</sup>, Matsushita N<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dep of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Dep. of Radiology, Chiba-Hokuso hospital ): Mitotic index and ki-67 nuclear antigen labeling index as predictors of chemotherapy response in uterine cervical carcinoma . Gynecol Oncol 2001 ; 83 ( 3 ) : 555-559 .
- 9) Okada S<sup>1)</sup>, Uchiyama F<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Kamoi S<sup>2)</sup>, Kawamura T<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Dep. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School ): MRI findings of a case of uterine tumor resembling ovarian sex-cord tumors coexisting with endometrial adenocarcinoma . Radiat Med 2001 ; 19 ( 3 ) : 151-153 .
- 10) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Mori O, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Kawamoto Y<sup>2)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dep. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Dep. of Pathology, Nippon Medical School ): Epithelioid trophoblastic tumor of the uterus : cytological and immunohistochemical observation of a case . Pathol Int 2002 ; 52 ( 1 ) : 75-81 .
- 11) Fukumoto A<sup>1)</sup>, Nonaka M<sup>1)</sup>, Kamio T<sup>1)</sup>, Kamura E<sup>1)</sup>, Ozu C<sup>1)</sup>, Baba S<sup>1)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup> Dep. of Otolaryngology, Nippon medical school ): A case of ectopic parathyroid gland hyperplasia in the pyriform sinus . Arch Otolaryngol Head Neck Surg 2002 ; 128 ( 1 ) : 71-74 .
- 12) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 松信精一<sup>2)</sup>, 亀谷 純<sup>2)</sup>, 青木 宏<sup>2)</sup>, 藤田進彦<sup>2)</sup>, 壇 和夫<sup>2)</sup>, 森 修 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>2)</sup> 内科学第三 ): Conference ROOM 敗血症をきたした Bartter 症候群の 1 例 . 内科 2001 ; 89 ( 1 ) : 145-156 .
- 13) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 大秋美治, 松下径広<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 武内 務<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 荒木勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 産婦人科学 ): 卵巣硬化性間質性腫瘍の 1 例 . 日婦腫瘍会誌 2002 ; 20 ( 1 ) : 137-141 .

## (2) 総説 :

- 1) 森 修, 北村 伸<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 付属病院第二内科 ): 臨床検査 : 病態へのアプローチ ( 10 ) 痴呆症 : 脳血管性痴呆とアルツハイマー病 ( 1 ) . 医学検査 2001 ; 50 ( 11 ) : 1425-1432 .
- 2) 森 修 : 臨床検査 : 病態へのアプローチ 脳血管性痴呆の病理 . 医学検査 2001 ; 50 ( 11 ) : 1421-1424 .
- 3) 森 修 : 臨床検査 : 病態へのアプローチ : アルツハイマー病と関連疾患の病理 . 医学検査 2001 ; 50 ( 12 ) : 1533-1536 .
- 4) 森 修, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター ): 臨床検査-病態へのアプローチ ( 11 ) 痴呆症 : 脳血管性痴呆とアルツハイマー病 ( 2 ) . 医学検査 2001 ; 50 ( 12 ) : 1538-1545 .

## 著 書

- 1) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 清水秀樹, 森 修 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): [ 共著 ] 基礎と臨床 中枢神経系 . 細胞診断学入門 ( 社本幹博, 長村義之編 ), 2001 ; pp185-192, 名古屋大学出版会 .

## 学会発表

[ 2000 年度追加分 ]

### 一般講演 :

- 1) Jin E<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Jiang L<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dep. of Molecular Pathology, Institute for Gerontology , <sup>2)</sup> Dep. of Thoracic surgery, Chiba-Hokuso Hospital , <sup>3)</sup> Dep. of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center ): Phenotypic transformation of the alveolar capillary endothelium in areas of neoplastic invasion of primary lung adenocarcinoma . ALA/ATS International conference ( Toronto, Canada ), 2000 . 5 .
- 2) Kawanami O<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Jiang L<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>1)</sup>, Arai S, Ohaki Y ( <sup>1)</sup> Dep. of

Molecular Pathology, Institute for Gerontology ): Neoplastic invasion of primary adenocarcinoma induced phenotypic alteration to alveolar capillary endothelium in the lungs . XIth International vascular biology meeting ( Geneva, Switzerland ), 2000 . 9 .

- 3) ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>2)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 新井 悟, 森山雄吉<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): Feasibility of laser capture microdissection of immunostained cells for molecular analysis . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 4) ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 新井 悟, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門): Prognostic role of p16INK4 expression in bronchiolo-alveolar carcinoma . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 5) 清水 一<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 新井 悟, 金 恩京<sup>1)</sup>, 武村民子<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup>日赤医療センター病理部): 細気管支肺胞上皮癌に発現する VEGF について . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 6) 内山史生<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 井上幸平<sup>1)</sup>, 阿部裕行<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>2)</sup>, 大秋美治, 横井公良<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同泌尿器科, <sup>3)</sup>同外科): 精嚢腺から発生した malignant phyllodes tumor の1例 . 第14回腹部放射線研究会, 2000 . 5 .
- 7) 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>2)</sup>, 真崎義隆<sup>2)</sup>, 大秋美治, 益子邦洋<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同胸部外科, <sup>3)</sup>同救命救急センター): 消化管出血が死因であった小細胞肺癌の二剖検例 . 第9回東葛肺癌研究会, 2000 . 7 .
- 8) 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 真崎義隆<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>1)</sup>, 大秋美治, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>付属病院第四内科): downhill esophageal varices の出血が死因であった肺小細胞癌の1例 . 第142回日本肺癌学会地方会, 2000 . 7 .
- 9) 福元 晃<sup>1)</sup>, 野中 学<sup>1)</sup>, 神尾友信<sup>1)</sup>, 嘉村恵理子<sup>1)</sup>, 小津千佳<sup>1)</sup>, 馬場俊吉<sup>1)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科): 下咽頭梨状窩にみられた異所性甲状腺の1症例 . 日本耳鼻咽喉科学会第56回千葉県地方部会, 2000 . 9 .
- 10) 阿部裕行<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 内木場拓史<sup>1)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科): 精嚢腺に発生した葉状肉腫の1例 . 第65回日本泌尿器科学会東部総会, 2000 . 9 .
- 11) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup>, 森 修, 劉 愛民<sup>4)</sup>, 浅野伍朗<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>同脳神経外科, <sup>4)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>5)</sup>病理学第二): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例: 電顕的検索を中心として . 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000 . 9 .
- 12) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 小黒辰夫, 東 敬子<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第二, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部): 電顕検索の併用が有用であった穿刺吸引細胞診の症例 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 13) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup>, 森 修, 劉 愛民<sup>4)</sup>, 浅野伍朗<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>同脳神経外科, <sup>4)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>5)</sup>病理学第二): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例: 電顕的検索を中心として . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 14) 森山 岳<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>2)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同胸部外科): MPO-ANCA 陽性びまん性肺胞出血の3例 . 第10回千葉膠原病研究会, 2000 . 9 .
- 15) Arai R<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Arai S, Shimizu H<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門): Comparative genomic hybridization of cisplatin-resistant ovarian carcinoma cells . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 16) 清水 一<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 新井 悟, 武村民子<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup>日赤医療センター病理部): Laser capture microdissection ( LCM ) 法を用いた Bronchiolo-alveolar carcinoma における VEGF-isoform の解析 . 第59回日本癌学会総会, 2000 . 10 .

- 17) 亀山孝二<sup>1)</sup>, 長谷場健<sup>2)</sup>, 王 若皎<sup>1)</sup>, 町田 幹<sup>3)</sup>, 町田 稔<sup>3)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 森 修, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二, <sup>2)</sup>法医学, <sup>3)</sup>放射線ハテクリサーチセンター): 冠動脈硬化病変とアルコール脱水素酵素 (ADH) の発現との関連. 第41回日本脈管学会総会, 2000. 11.
- 18) 市野浩三<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 五味淵誠<sup>2)</sup>, 真崎義隆<sup>2)</sup>, 鈴木世孝<sup>2)</sup>, 大秋美治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同胸部外科): 外科的手術にて確定診断の得られた pleomorphic adenoma の1例. 第10回東葛肺癌研究会, 2001. 1.
- (1) 一般講演:
- 1) Yokoyama M<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Katuki H<sup>3)</sup>, Suzuki T<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Asakawa K<sup>4)</sup>, Sugisaki Y<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Dep. of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dep. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Pathology, Tokyo Metropolitan Police Hospital, <sup>4)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Main Hospital): Three Interesting Cases of Trophoblastic Tumor. The Eighth Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2002. 1.
- 2) 清水 一<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 新井 悟, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理): Bronchioloalveolar CarcinomaにおけるVEGF isoformの解析: Laser Capture Microdissection法による. 第90回日本病理学会総会, 2001. 4.
- 3) 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 森 修, 齊藤祐子<sup>3)</sup>, 山崎昌子<sup>2)</sup>, 新井裕至<sup>1)</sup>, 笠畑尚喜<sup>3)</sup>, 山之内博<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 村山繁雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第二内科, <sup>2)</sup>初石病院神経内科, <sup>3)</sup>都老人医療センター神経内科): アルツハイマー病の発症年齢は最終病理所見に影響するか?. 第42回日本神経学会総会, 2001. 5.
- 4) 新井裕至<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 森 修, 村松浩美<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 山崎昌子<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第二内科, <sup>2)</sup>病理学第二, <sup>3)</sup>初石病院神経内科): - シヌクレイン凝集は脳アミロイドアンギオパチーを促進するか?: アルツハイマー病での検討. 第42回日本神経学会総会, 2001. 5.
- 5) 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 森 修, 齊藤祐子<sup>3)</sup>, 山崎昌子<sup>2)</sup>, 笠畑尚喜<sup>3)</sup>, 新井裕至<sup>1)</sup>, 山之内博<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 村山繁雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第二内科, <sup>2)</sup>初石病院神経内科, <sup>3)</sup>都老人医療センター): アルツハイマー病の発症年齢が最終病理所見に与える影響に関する検討. 第42回日本神経病理学会学術研究会, 2001. 5.
- 6) 内原俊記<sup>1)</sup>, 中村綾子<sup>1)</sup>, 長岡詩子<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 森 修 (<sup>1)</sup>東京都神経研神経病理, <sup>2)</sup>付属病院第二内科): 免疫蛍光染色二重増感法で観察した神経原線維変化内のユビキチン. 第42回日本神経病理学会学術研究会, 2001. 5.
- 7) 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 新井裕至<sup>1)</sup>, 山崎昌子<sup>2)</sup>, 森 修, 小松崎八寿子<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>3)</sup>, 小柳清光<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第二内科, <sup>2)</sup>初石病院神経内科, <sup>3)</sup>病理学第二, <sup>4)</sup>都神経研神経病理): 軽度の進行性核上性麻痺の病変を伴うパーキンソン病の1剖検例. 第42回日本神経病理学会学術研究会, 2001. 5.
- 8) 森 修, 鈴木恒道<sup>1)</sup>, 渡辺英樹<sup>2)</sup>, 大秋美治, 山崎峰雄<sup>3)</sup>, 新井裕至<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>4)</sup>, 真柳佳昭<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院病理, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>付属病院第二内科, <sup>4)</sup>病理学第二): 皮質異形成 (FCD) に認められる神経細胞内封入体 (myelinoid body): 病理診断的意義と病因への関与. 第42回日本神経病理学会学術研究会, 2001. 5.
- 9) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 瀬戸真理子<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 松下径広<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 大秋美治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科, <sup>2)</sup>付属病院女性診療科): 卵黄嚢腫瘍を合併した卵巣類内膜癌の1例. 第30回日本婦人科腫瘍学会学術会, 2001. 7.
- 10) 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 武内 務<sup>1)</sup>, 太田雄治郎<sup>2)</sup>, 土居大祐<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 大秋美治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>付属病院女性診療科・産科): 12歳の若年女性に急性腹痛として発症した卵巣間質性腫瘍の1例. 第30回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2001. 7.
- 11) 新井 悟, 大秋美治, 森 修, 内木場拓史<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同放射線科): 血中AFPの高値を認めた尿管腎盂腫瘍の1例. 第16回日本病理学会関東支部千葉地区集会, 2001. 9.

- 12) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 安達彰子<sup>3)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>, 佐藤 茂<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup>, 森修, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡施設, <sup>4)</sup>付属病院病理部 ): 中枢性神経細胞腫の超微形態 . 第33回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会, 2001 . 9 .
- 13) 山崎峰雄<sup>1)</sup>, 森 修, 齊藤祐子<sup>3)</sup>, 山崎昌子<sup>2)</sup>, 笠畑尚喜<sup>3)</sup>, 新井裕至<sup>1)</sup>, 山之内博<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 村山繁雄<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院第二内科, <sup>2)</sup>初石病院神経内科, <sup>3)</sup>都老人医療センター神経内科, <sup>4)</sup>都老人研神経病理 ): アルツハイマー病の発症年齢が最終病理所見におよぼす影響 : 2施設多数例での臨床病理学的検討 . 第20回日本痴呆学会学術集会, 2001 . 10 .
- 14) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科 ): 肺内plasmacellgranulomaの外來経過観察中に眼窩への同病変の出現, 及びPrimary Biliary Cirrhosis (PBC) を合併した1例 . ( 第2報 ). 第12回東葛肺癌研究会, 2002 . 1 .

## [ 千葉北総病院中央検査室 ]

### 研究概要

当中央検査室では日常の臨床検査業務を通し, 新しい検査法や技術を検討および習得し, 臨床への有用性と応用を研究の主眼とし, 特に臨床検査の精度の向上と迅速対応に力点を置いて活動してきた .

今後, ますます進歩するであろうと推測される臨床検査領域全般の学術的・具術的習得を積極的に行い, 日常の臨床検査への応用と導入を視野に入れて積極的に活動していく予定である .

### 研究業績

#### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション :

- 1) 中田恵理, 飯野幸永, 水野杏一, 牧野俊郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック ): 新東京国際空港クリニックにおける小型血糖測定装置 ( アントセンスII ) の有用性 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 2) 小林理恵, 飯野幸永, 水野杏一 : ホルター心電図装着中に突然死した陳旧性心筋梗塞の1症例 ( HRVの有用性 ). 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 3) 目黒真喜子, 飯野幸永, 水野杏一, 牧野俊郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック ): 超音波診断装置SonoSite TM180の使用経験 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 4) 三谷真実江, 飯野幸永, 水野杏一, 馬場俊吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科 ): 条件詮索反応聴力検査 ( CORテスト ) の実施経験と乳幼児聴力検査法 . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 5) 高橋千秋, 飯野幸永, 水野杏一 : 腰交換神経節ブロックの効果判定におけるサーモグラフィーの有用性について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .
- 6) 稲川美実, 石渡統夫, 亀山雅弥, 飯野幸永 : 間接抗グロブリン試験でのポリエチレングリコール ( ガンマペグ ) と重合ウシアルブミンの比較検討について . 第69回日本医科大学医学会総会, 2001 . 9 .

#### (2) 一般講演 :

- 1) 石渡統夫, 稲川美実, 飯野幸永 : カラム・ウェルを利用した不規則性抗体スクリーニングの比較検討 . 第50回日本医学検査学会, 2001 . 5 .
- 2) 石渡統夫, 稲川美実, 亀山雅弥, 飯野幸永 : マイクロタイピングシステムの使用経験について . 第38回関東甲信地区医学検査学会, 2001 . 11 .

## [ 千葉北総病院薬剤科 ]

### 研究概要

MRSAにおける細菌学的検討を行った

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) minoru narita<sup>1)</sup>, kazumi yoshizawa<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Hoshi University ): Role of the NMDA receptor subunit in the expression of the discriminative stimulus effect induced by ketamine . European Journal of Pharmacology 2001 ; 41-46 .
- 2) minoru narita<sup>1)</sup>, kazumi yoshizawa<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Hoshi University ): A putative sigma receptor antagonist NE-100 attenuates the discriminative stimulus effects of ketamine in rats . Addiction Biology 2001 ; 373-376 .

##### (2) 綜説 :

- 1) 浜田康次 : 医薬安全行政について . 医薬品情報学 2001 ; 4-9 .
- 2) 浜田康次 : オーダリングのための機器 (1) . 薬事新報 2001 ; (2169) : 47-56 .
- 3) 浜田康次 : オーダリングのための機器 (2) . 薬事新報 2001 ; (2171) : 25-33 .
- 4) 浜田康次 : 医薬情報室の機器・備品 (1) . 薬事新報 2001 ; (2185) : 9-12 .
- 5) 浜田康次 : 医薬情報室の機器・備品 (2) . 薬事新報 2001 ; 9-15 .
- 6) 浜田康次 : 21世紀のパラダイムシフト . ビーぱ 2002 ; 63-63 .
- 7) 浜田康次 : 薬剤師も先を見据えた構造改革を . 薬事新報 2002 ; (2197) : 3-3 .
- 8) 浜田康次 : ステロイド吸入剤について . レシピ 2002 ; 1 (1) : 50-51 .

#### 著書

- 1) 浜田康次<sup>1)</sup>, 林 昌洋<sup>2)</sup>, 大嶋 繁<sup>3)</sup>, 小川雅史<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>国家公務員共済組合連合会虎ノ門病院薬剤部, <sup>3)</sup>独協医科大学越谷病院薬剤部, <sup>4)</sup>大阪市立大学医学部付属病院薬剤部 ): [ 分担 ] 精神神経障害, 他 . 重大な副作用回避のための服薬指導情報集, 2001 ; pp163-183, じほう .
- 2) 浜田康次<sup>1)</sup>, 阿部和史<sup>2)</sup>, 杉浦伸一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>都立府中病院薬剤科, <sup>3)</sup>名古屋大学医学部付属病院薬剤部 ): [ 共著 ] 第IV章薬剤編 . カルテの読み方と基礎知識 (第3版), 2001 ; pp207-273, じほう .
- 3) 浜田康次 : [ 自著 ] ベストセラーで読み解く : 医療情報ナビ, 2001 ; pp1-215, 南山堂 .

#### 学会発表

##### (1) 教育講演 :

- 1) 浜田康次 : 賢くつきあう薬講座3 . 地域健康セミナー, 2001 . 4 .
- 2) 伊藤義樹 : 調剤 . 実務研修会, 2001 . 9 .

##### (2) 一般講演 :

- 1) 本澤葉留美<sup>1)</sup>, 伊藤義樹<sup>2)</sup>, 中山 健<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>佐倉厚生園, <sup>2)</sup>千葉北総病院薬剤科 ): 医薬品の客観的評価の試み . 千葉県病会員研究発表会, 2001 . 3 .
- 2) 石井直子<sup>1)</sup>, 伊藤義樹<sup>2)</sup>, 中山 健<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>田中農協病院, <sup>2)</sup>千葉北総病院薬剤科 ): 医薬品の客観的評価の試み . 関東ブロック学術大会, 2001 . 8 .
- 3) 浜田康次<sup>1)</sup>, 加賀谷肇<sup>2)</sup>, 増原慶壮<sup>3)</sup>, 望月眞弓<sup>4)</sup>, 吉岡ゆうこ<sup>5)</sup>, 中島 守<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>済生会横浜南部病院薬剤部, <sup>3)</sup>聖マリアンナ医科大学薬剤部, <sup>4)</sup>北里大学薬学部臨床薬学センター, <sup>5)</sup>ネオフィ



スト研究所,<sup>6)</sup> エーザイ(株)): 21世紀の病院薬剤師業務の新たな展開に向けて「薬剤師のためのクリニカル・パス学術講演会」による卒後教育の新たな試み. 日本薬学会第122年会, 2002. 3.

## [ 千葉北総病院中央画像検査室 ]

### 研究概要

中央画像検査室では, 診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから, それぞれの画像検査についての研究を進めている.

一般撮影部門では, CRの画像処理パラメータの条件に関する検討や骨密度測定の精度向上及び撮影時の誠意の研究開発を各診療科との連携において行っている. 透視撮影部門では胃前壁二重造影を中心に体型別撮影技術の研究が進められている. CT検査部門では3D-CTの信頼性の向上を目的に設定条件の検討が進んでいる. MRI検査部門では造影3DMRAの血流背景信号の抑制による検出能の改善, MRミエログラフィおよびFRFSE法における肩関節の新しい撮像法の開発, DWIにおけるmotion probing gradient (MPG)の依存性に関する研究が進められている. RI検査部門ではSPECTにおける呼吸動態と心筋の信号検出能との関係に対する検討, 循環器系の研究を行っている. 放射線治療部門においては治療技術の研究や画像診断を総合的に取り扱った研究がある.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 丸山智之: CRにおけるmulti周波数処理のnoise特性の検討. 日放線技会誌 2001; 57(7): 837-844.

#### 著書

- 1) 櫻井 実: [共著] 症例からはいる心臓核医学マニュアル. 症例からはいる心臓核医学マニュアル(山崎純一, 汲田伸一郎), 2001; pp145-150, メディカルレビュー社.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演:

- 1) 櫻井 実: p-FAST2による心筋検査の実際. 日本放射線技術学会 平成13年度第2回学術講演会, 2001. 10.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 丸山智之: マルチ周波数処理の応用. 第2回日本放射線技術学会総会東京部会 技術シンポジウム, 2001. 4.
- 2) 丸山智之: 救急における骨, 軟部(CR). 日本放射線技術学会東京部会, 2002. 2.

##### (3) 一般講演:

- 1) Kato J, Kawamura Y, Watanabe T, Tomisato K, Nakamura A, Okada S<sup>1)</sup>, Ishihara M<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Main Hospital ): Study of Enhanced MR Angiography Using a Simulation Method. the 10th annual meeting of the section for magnetic resonance technologist and the 17th annual meeting of the british association of MR radiographer ( scotland, UK ), 2001. 4.
- 2) 松丸和弘, 中野 徹, 田村 京, 土井杏梨, 川村義彦: X線CTにおける低コントラスト分解能評価法の検討, 第三報. 第57回日本放射線技術学会総会学術大会, 2001. 4.
- 3) 櫻井 実, 斎藤晴美, 有馬光一, 牧野仁美, 中村亜矢, 川村義彦: 半導体検出器の基礎的検討: 半導体検出器とアンダー型カメラによる線広がり関数の比較. 第57回日本放射線技術学会総会学術大会, 2001. 4.
- 4) 富里謙一, 加藤丈司, 中村亜矢, 阿部雅志, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科 ):

- diffusion tensor 解析における多方向 vector mapping 画像化の検討．第57回日本放射線技術学会総会学術大会，2001．4．
- 5) 丸山智之，渡辺典男，川村義彦：低周波遮断による出力濃度分布の安定化．第57回日本放射線技術学会総会，2001．4．
  - 6) 高岡慎市，河原崎昇，今井 豪，菅沼一男，渡辺典男，川村義彦：三次元線量重畳積分（Convolution Superposition）モデルを用いた基礎的検討．第57回日本放射線技術学会総会，2001．4．
  - 7) 河原崎昇，高岡慎市，今井 豪，菅沼一男，渡辺典男，川村義彦：CT number-density 曲線を変化させたDRR の画像向上の試み．第57回日本放射線技術学会総会，2001．4．
  - 8) 菅沼一男，吉澤賢史，丸山智之，渡辺典男，川村義彦：PEM 処理とマルチ周波数処理による乳房における石灰化検出の支援．第57回日本放射線技術学会総会，2001．4．
  - 9) 齋藤晴美，牧野仁美，有馬光一，櫻井 実，川村義彦，尾科隆司<sup>1)</sup>，小菅 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院)：拍動型心臓ファントムによる半導体検出器の評価：半導体検出器とアンガー型カメラとの比較．第57回日本放射線技術学会総会，2001．4．
  - 10) 丸山智之，渡辺典男，川村義彦：マルチ周波数処理による肋骨の特徴描出．第57回日本放射線技術学会東京部会，2001．5．
  - 11) 櫻井 実，齋藤晴美，有馬光一，牧野仁美，中村亜矢，川村義彦，尾科隆司<sup>1)</sup>，小菅 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院)：半導体検出器とアンガー型カメラによる線広がり関数の比較．第21回日本核医学技術学会学術大会，2001．7．
  - 12) 齋藤晴美，牧野仁美，有馬光一，櫻井 実，川村義彦，尾科隆司<sup>1)</sup>，小菅 豊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院)：拍動型心臓ファントムによる半導体検出器の評価．第21回日本核医学技術学会学術大会，2001．7．
  - 13) 櫻井 実，汲田伸一郎<sup>2)</sup>，齋藤晴美，趙 圭一<sup>1)</sup>，牧野仁美，有馬光一，中條秀信<sup>2)</sup>，木島鉄仁<sup>1)</sup>，石原真木子<sup>1)</sup>，岡田 進<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院放射線科)：心筋SPECTにおける点広がり関数の変化と心筋集積偽欠損の関係について．第41回日本核医学会総会，2001．10．
  - 14) 齋藤晴美，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，櫻井 実，趙 圭一<sup>2)</sup>，石原真木子<sup>2)</sup>，木島鉄仁<sup>2)</sup>，中條秀信<sup>1)</sup>，岡田 進<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科，<sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科)：心筋SPECT像における定量解析誤差：数値ファントムによる検討．第41回日本核医学会総会，2001．10．
  - 15) 丸山智之，渡辺典男，川村義彦：マルチ周波数処理による肋骨の特徴描出 第2報．第28回日本放射線技術学会秋季学術大会，2001．11．
  - 16) 丸山智之，渡辺典男，川村義彦：小児胸部撮影に於けるマルチ周波数処理の効果．日本放射線技術学会，東京部会秋季学術大会，2001．11．
  - 17) 吉澤賢史，田村 京，小林宏之<sup>1)</sup>，鈴木智之<sup>1)</sup>，黒田大介<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院)：screen-film mammography と digital mammography の検出能の比較．第29回日本放射線技術学会秋季学術大会，2001．11．
- (4) フォーラム：
- 1) 齋藤晴美：救急における胸部画像（核医学）．第15回 FS フォーラム，2001．11．
- (5) 技術フォーラム：
- 1) 丸山智之：患者さんに優しい撮影技術4 患者さんからの正確な撮影指標の検出．第77回技術フォーラム日本放射線技術学会東京部会，2001．5．

## [ 千葉北総病院歯科 ]

### 研究概要

当歯科では，歯科治療における歯周治療への応用として炭酸ガスレーザーやNd-YGAレーザーを用い軟組織や硬組織の有用性についての基礎的，臨床的研究．

また、歯周組織再生療法の応用方法として、CAPセメントなどの移植材を用いての検討およびインプラント治療への長期応用についての研究。

有病者や身体障害者における口腔衛生管理に対する研究などを行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kamoi H, Ogura K<sup>1)</sup>, Sato T<sup>2)</sup>, Niwa M<sup>2)</sup>, Kamoi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座, <sup>2)</sup>同衛生学講座 ): Histological Changes in Oral Mucosa in Zinc-Deficient Rats : Focusing on Periodontal Tissue . The Journal of Dental Health 2001 ; 51 ( 2 ): 185-190 .
- 2) 草間雅之<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): エナメルマトリックスタンパク質によるイヌ露出歯根面被覆への応用 . 日口腔インプラント会誌 2001 ; 14 ( 1 ): 7-21 .
- 3) 貴志知宏<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): 架橋アルギン酸ゲル移植材の歯周組織再生誘導法への応用 . 日歯周会誌 2001 ; 43 ( 2 ): 128-140 .
- 4) 遊佐純子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 昭<sup>1)</sup>, 佐藤悦子<sup>1)</sup>, 沼部真理子<sup>1)</sup>, 吉田 聡<sup>1)</sup>, 永田達也<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): 毛先の運動の異なる電動付歯ブラシの効果 . 日歯保存誌 2001 ; 44 ( 6 ): 860-868 .

#### (2) 綜説：

- 1) 鴨井久博：歯周病のメカニズム . 都薬雑誌 2002 ; 24 ( 3 ): 20-23 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 遊佐純子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): 毛先の異なる電動歯ブラシの清掃効果について II . 第 114 回日本歯科保存学会春季学会, 2001 . 6 .
- 2) 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 佐藤 勉<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座, <sup>2)</sup>同衛生学講座 ): 注水・吸引機能付き歯ブラシ使用による入院患者の口腔内ケアについて . 第 50 回日本口腔衛生学会総会, 2001 . 9 .
- 3) 和崎佳子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): CAPセメントのインプラント埋入：初期固定に関する研究第 2 報 . 第 31 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 2001 . 9 .
- 4) 鴨井久博, 我妻瑞穂<sup>1)</sup>, 神田昌宏<sup>1)</sup>, 小川智久<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): CO2レーザーによる急性症状に対する歯周治療への応用 ( II ) . 第 115 回日本歯科保存学会秋季学会, 2001 . 11 .
- 5) 小川智久<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 遊佐純子<sup>1)</sup>, 神田昌宏<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): PCR法による歯周病原性細菌の検出について . 第 4 回日本歯科人間ドック学術大会, 2001 . 12 .
- 6) 和崎佳子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): CAPセメントのインプラント埋入：エックス線 CT による画像所見 . 日本口腔インプラント学会第 21 回関東甲信越支部学術大会, 2002 . 2 .
- 7) 小川智久<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 遊佐純子<sup>1)</sup>, 神田昌宏<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): 歯周病原性細菌に対する抗菌薬の応用 . 第 21 回日本歯科薬物療法学会, 2002 . 2 .
- 8) 小川智久<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 本山聖子<sup>1)</sup>, 神田昌宏<sup>1)</sup>, 久野彰子<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本歯科大学歯周病学講座 ): 電解水の高濃度による口腔内の殺菌効果 . 第 3 回日本口腔機能水学会学術大会, 2002 . 3 .

## [ 千葉北総病院看護部 ]

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 増淵美恵子：プリセプターが周囲の者に受けた支援と期待する支援．第5回日本看護管理学会，2001．8．
- 2) 福田悦子，平山靖子：モニター電極による皮膚の影響：マグネローデと皮膚との関係について．第20回千葉県看護研究学会，2002．2．

## 〔 4 〕 付 置 研 究 施 設

# 1. 老人病研究所

## [ 病理学部門 ]

### 研究概要

血管内皮細胞と癌の病理形態学的分析

病理組織学では、組織細胞へ向けられたあらゆる刺激を時間軸を含んだ結果として検索できる。その点が他の手段では把握できない特異性である。その際メッセンジャーRNAやタンパクレベルの裏付けを採ることでstaticな情報をpracticalな情報に転換できる。今年度は主として次の課題に挑戦し成果をあげた。

癌組織における内皮細胞の増生機序：肺胞壁の毛細血管は内皮細胞の細胞膜がトロンボモジュリン(TM)で被覆される。原発性肺癌が肺胞壁へ浸潤するとTMは消退し、壁に血管新生がおこることを電子顕微鏡や免疫組織学的観察から実証した。新鮮な標本からこの病変肺胞壁のみをマイクロダイセクションしRNAを抽出しRT-PCRを実施した。その結果、肺癌細胞は主としてVEGF165を有意に産生し血管内皮はその受容体であるKDRを発現した。これは内皮細胞の増生機序の少なくとも一部を裏付けた。血管内皮細胞のTMの消失はquiescentな状態に活性化をもたらしたものと考えられた。

in vitro系での内皮細胞のTMによる制御：上記結果より、TMが発現することで内皮細胞は増生が抑制されて恒常性が保持されると見なる。そこでTMに対するアンチセンス・オリゴヌクレオチドをHUVECの細胞内に導入しTMの発現を抑制した。その結果この細胞株では増生能を促さず低下させる事実を見出した。内皮細胞の増生にはTM以外の因子が複雑に関与するものと思われた。

II型肺胞上皮細胞に特異的な膜タンパクABCA3の分布：秋田大学生理学教室(稲垣教授)の分離同定したABCA3タンパクの分布がサーファクタント産生と貯留に関与するlamellar bodyの限界膜に相当することを共焦点顕微鏡で明らかにした。このタンパクは脂質代謝に重要な役割を果たすことからII型上皮の再生、分化、成熟に深く関与すると見なせる。

Comparative genomic hybridizationとcDNA microarray法：肺腺癌、食道扁平上皮癌、卵巣癌細胞株をanti-cancer agentに対するresistantおよびsensitive cell lineの2種類に分類しagent作用前後のmessenger RNAの発現の違いを検索した。その結果をInt. J. Oncolなどに発表した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著：

- 1) Imai J<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Naito Z<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Immunohistochemical expression of T, Tn and sialyl-Tn antigens and clinical outcome in human breast carcinoma. *Anticancer Res* 2001 ; 21 ( 2B ): 1327-1334 .
- 2) Ozaki N<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Ghazizadeh M, Yamanaka N<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Apoptosis mediates decrease in cellularity during the regression of Arthus reaction in cornea. *Br J Ophthalmol* 2001 ; 85 ( 5 ): 613-618 .
- 3) Yoshimura C<sup>1)</sup>, Miyamasu M<sup>1)</sup>, Nagase H<sup>2)</sup>, Iikura M<sup>1)</sup>, Yamaguchi M<sup>1)</sup>, Kawanami O, Morita Y<sup>2)</sup>, Iwata T<sup>4)</sup>, Yamamoto K<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Allergy and Rheumatology, University of Tokyo Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Bioregulatory Function, University of Tokyo Graduate School of Medicine , <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Mejirodai Campus University of Tokyo School of Medicine ): Glucocorticoids induce basophil

- apoptosis . J Allergy Clin Immunol 2001 ; 108 ( 2 ): 215-220 .
- 4) Jin E, Ghazizadeh M, Fujiwara M, Nagashima M, Shimizu H, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Arai S<sup>1)</sup>, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Pathology Section, Chiba Hokusoh Hospital, , <sup>2)</sup> Surgery Section, Chiba Hokusoh Hospital, , <sup>3)</sup> Pathology Laboratory, Nippon Red Cross Hospital Center. ): Angiogenesis and phenotypic alteration of alveolar capillary endothelium in areas of neoplastic cell spread in primary lung adenocarcinoma . Pathol Int 2001 ; 51 ( 9 ): 691-700 .
- 5) Takahashi T<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Abe S<sup>1)</sup>, Kawanami O, Ohara K<sup>1)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup> Fourth Dept of Internal Medicine ): Significance of lymphocytosis in bronchoalveolar lavage in suspected ocular sarcoidosis . Eur Respir J 2001 ; 18 ( 3 ): 515-521 .
- 6) Jin E, Fujiwara M, Nagashima M, Shimizu H, Ghazizadeh M, Pan X, Arai S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Pathology Section, Chiba Hokusoh Hospital, , <sup>2)</sup> Surgery Section, Chiba Hokusoh Hospital, , <sup>3)</sup> Pathology Laboratory, Nippon Red Cross Hospital Center ): Aerogenous spread of primary lung adenocarcinoma induces ultrastructural remodeling of the alveolar capillary endothelium . Hum Pathol 2001 ; 32 ( 10 ): 1050-1058 .
- 7) Yamano G<sup>1)</sup>, Funahashi H<sup>2)</sup>, Kawanami O, Zhao Li-X<sup>1)</sup>, Ban N<sup>1)</sup>, Uchida Y<sup>3)</sup>, Morohoshi T<sup>4)</sup>, Ogawa J<sup>5)</sup>, Shioda S<sup>2)</sup>, Inagaki N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology, Akita University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Showa University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Pulmonary Medicine, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba , <sup>4)</sup> Department of Pathology, Showa University School of Medicine , <sup>5)</sup> Department of Surgery, Akita University School of Medicine ): ABCA3 is a lamellar body membrane protein in human lung alveolar type II cells ( 1 ). FEBS Lett 2001 ; 508 ( 2 ): 221-225 .
- 8) Ghazizadeh M, Kawanami O, Araki T<sup>1)</sup> : Assesment of gene expression profile by cDNA microarray analysis . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 6 ): 460-461 .
- 9) Obara K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Shimizu H, Arai R, Tenjin T T<sup>2)</sup>, Suzuki S S<sup>2)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Kawanami O ( <sup>1)</sup> Center for digestive disease , <sup>2)</sup> Second department of surgery ): Comparative genomic hybridization study of genetic changes associated with vindesine resistance in esophageal carcinoma . Int. J. Oncology 2002 ; 20 ( 2 ): 255-260 .
- 10) Fujiwara M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O : Antisense oligodeoxynucleotides against thrombomodulin suppress the cell growth of lung adenocarcinoma cell line A549 . Pathology International 2002 ; 52 ( 3 ): 204-213 .

## 著 書

- 1) 川並汪一：〔分担〕肺好酸球形肉芽腫症（ランエルハンス細胞性組織球症）p142-151 . Annual Review 呼吸器（工藤翔二，土屋了介，金沢実，大田 健 ），2001 ; pp142-151，中外医学社 .
- 2) 金 恩京，川並汪一：〔分担〕気道と肺の微小血管内皮細胞．細胞：気道の構造と機能（編集委員会），2001 ; pp16-20，ニュー・サイエンス社 .
- 3) 川並汪一：〔総説〕気道のネットワーク機能．細胞：気道の構造と機能（編集委員会），2001 ; pp21-21，ニュー・サイエンス社 .
- 4) 川並汪一：患者不在の大学間競争．呼吸（編集委員会），2001 ; pp1173-1173，Respiration Research Foundation .
- 5) 川並汪一，持丸 博，新井 悟<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部)：〔総説〕シリカの経気道投与による肺胞とその毛細血管のリモデリング．エアロゾル研究（日本エアロゾル学会編集事務局），2001 ; pp285-288，日本エアロゾル学会 .

- 6) 川並汪一：〔分担〕気道リモデリングの病理．喘息（「喘息」編集委員会），2002；pp2-6，メディカルレビュー社．

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 川並汪一：肺癌における肺泡毛細血管の新生に関する因子．Angiogenesis in the alveolar walls with neoplastic cell spreading of primary lung carcinomas．第42回日本細胞化学会総会・学術集会，2001．12．

##### (2) 一般講演：

- 1) Kawanami O, Jin E, Fujiwara M, Ghazizadeh M, Shimizu H：Alveolar capillary endothelium：Immunohistochemical and gene expression in alveolar walls with or without neoplastic cell spread．97th ATS International Conference (San Francisco)，2001．5．
- 2) Fujiwara M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O：Inhibition of cell growth and synthesis by thrombomodulin antisense oligodeoxynucleotides．97th ATS International Conference (San Francisco)，2001．5．
- 3) Jin E, Fujiwara M, Ghazizadeh M, Kawanami O：Differential expression of growth factor genes in the microvessel endothelium in a model of bleomycin-induced lung fibrosis．97th ATS International Conference (San Francisco)，2001．5．
- 4) ガジザデ モハマッド，土佐眞美子<sup>1)</sup>，清水 一，川並汪一（<sup>1)</sup>形成外科学）：Gene expression fingerprint of keloid lesion by cDNA microarray analysis．第90回日本病理学会総会，2001．4．
- 5) Ghazizadeh M, Tosa M M<sup>1)</sup>，Shimizu H, Egawa S, Hirai T<sup>1)</sup>，Arai K<sup>2)</sup>，Kawanami O（<sup>1)</sup>形成外科学，<sup>2)</sup>防衛医科大学校形成外科）：Profiling gene expression in keloid lesion by cDNA microarray analysis．The 26th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology，2001．9．
- 6) Ghazizadeh M, Tosa M<sup>1)</sup>，Shimizu H, Hirai T<sup>1)</sup>，Kawanami O, Hyakusoku H<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>形成外科学）：Gene expression profile of keloid lesions．第10回形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 7) Ghazizadeh M, Shimizu H, Konishi H<sup>1)</sup>，Egawa S, Araki T<sup>1)</sup>，O Kawanami（<sup>1)</sup>女性診療科・産科）：Differential gene expression of ovarian carcinoma cells in relation to cisplatin-resistance．第39回日本癌治療学会，2001．11．
- 8) Funahashi H<sup>1)</sup>，Yamano G<sup>2)</sup>，Kawanami O, Zhao Li-X<sup>2)</sup>，Ban N<sup>2)</sup>，Inagaki N<sup>2)</sup>，Shioda S<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Anatomy, Showa University School of Medicine，<sup>2)</sup>Department of Physiology, Akita University School of Medicine）：ABCA3 is lamellar body membrane protein in human lung alveolar type II cells．第107回解剖学会総会・全国学術集会，2002．3．
- 9) 藤原正和，金 恩京，ガジザデ モハマッド，川並汪一：トロンボモジュリン・アンチセンスオリゴヌクレオチドによるA549細胞増殖抑制．第41回日本呼吸器学会総会，2001．4．
- 10) 金 恩京，藤原正和，清水 一，ガジザデ モハマッド，川並汪一：肺腺癌における肺泡毛細血管内皮細胞の表現型の転換とトロンピンレセプターの発現．第41回日本呼吸器学会総会，2001．4．
- 11) 清水 一，永島幹夫，ガジザデモハマッド，金 恩京，新井 悟<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>1)</sup>，川並汪一（<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部）：Bronchioloalveolar carcinomaにおけるVEGF isoformの解析：Laser capture microdissection法による．第90回日本病理学会総会，2001．4．
- 12) 清水 一，永島幹夫，ガジザデ モハマッド，金 恩京，川並汪一，福田剛明<sup>1)</sup>，杉野 隆<sup>1)</sup>，鈴木利光<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>福島県立医科大学第二病理学講座）：Comparative genomic hybridization (CGH)法によるDoxorubicin耐性骨髄性白血病細胞の染色体異常領域の解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 13) 清水 一，ガジザデ モハマッド，金 恩京，潘 欣，枝川聖子，藤原正和，岩切加奈，川並汪一：cDNA マイクロアレー法によるシスプラチン耐性卵巣癌細胞における遺伝子プロファイルの解析．第69回日本医科大学



医学会総会，2001．9．

- 14) 潘 欣，金 恩京，藤原正和，岩切加奈，清水 一，新井 悟<sup>1)</sup>，ガジザデ モハマッド，川並汪一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院病理部)：肺線癌細胞由来の因子と内皮細胞の増生との関連：in vivoとin vitroにおける検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 15) 岩切加奈，藤原正和，金 恩京，川並汪一：尋常性乾癬におけるセリン・プロテアーゼとプロテアーゼ活性化受容体 (PAR) の発現．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 16) 土佐真美子<sup>1)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，岩田友希江<sup>1)</sup>，ガジザデ モハマッド，清水 一，川並汪一<sup>(1)</sup> (形成外科学)：cDNA マイクロアレー法を用いたケロイド電子線照射治療に関する遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 17) 土佐真美子<sup>1)</sup>，ガジザデ モハマッド，清水 一，平井 隆<sup>1)</sup>，岩田友希江<sup>1)</sup>，川並汪一，百束比古<sup>1)</sup> (形成外科学)：ケロイド電子線照射治療に関する基礎的研究：cdc25A の mRNA 発現について．第10回形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 18) 土佐真美子<sup>1)</sup>，ガジザデ モハマッド，清水 一，平井 隆<sup>1)</sup>，岩田友希江<sup>1)</sup>，川並汪一，百束比古<sup>1)</sup> (形成外科学)：cDNA マイクロアレー法を用いたケロイド電子線照射治療に関する遺伝子発現解析．第10回形成外科学会基礎学術集会，2001．10．
- 19) 金 恩京，藤原正和，ガジザデ モハマッド，潘 欣，清水 一，岩切加奈，川並汪一：肺線癌における肺毛細血管内皮細胞の新生とセリンプロテアーゼとそのリセプターの役割．第9回日本血管細胞生物学会，2001．11．
- 20) 藤原正和，金 恩京，ガジザデ モハマッド，川並汪一：トロンボモジュリン遺伝子産物発現抑制による細胞増殖抑制．第9回日本血管細胞生物学会，2001．11．
- 21) 潘 欣，金 恩京，新井 悟<sup>1)</sup>，清水 一，枝川聖子，川並汪一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院病理部)：肺線癌細胞株由来の内皮細胞活性化因子について．第12回外国人留学者研究会，2001．11．
- 22) 藤原正和，金 恩京，ガジザデ モハマッド，川並汪一：ヒト肺癌細胞株 A549 における抗凝固因子トロンボモジュリンの発現抑制因子と増殖抑制．アレルギー・気道上皮細胞研究会，2001．12．
- 23) 金 恩京，潘 欣，藤原正和，清水 一，ガジザデ モハマッド，川並汪一：セリンプロテアーゼと内皮の protease-activated receptor (PAR) -2 を介する肺線癌の血管新生．アレルギー・気道上皮細胞研究会，2001．12．

## [ 生化学部門 ]

### 研究概要

老人病研究所生化学部門（大学院細胞生物学分野）研究室の考え方は「生命の基本原則を知ることによって、病気の原因がわかり治療法や予防法がわかる。逆に、病気を見ることによって、生命の基本原則がみえてくる。」である。

ミトコンドリア脳筋症；昨年までに、ミトコンドリア脳筋症 MELAS と MERRF を引き起こすミトコンドリア tRNA 遺伝子変異によって変異 tRNA のアンチコドンのタウリンの塩基修飾が失われることを発見し、そのアンチコドンのタウリンが欠損することにより変異 tRNA は mRNA との結合ができなくなることを発見した。この結果を基にタウリンの役割が明確になり、タウリンがミトコンドリア脳筋症の MELAS, MERRF 患者由来の培養細胞のミトコンドリアの機能を改善することを発見した。

蛋白テラピー；アポトーシスを抑制する因子 Bcl-x の遺伝子を改変し、強力にアポトーシスを抑制する因子、Bcl-xFNK を作成し、Bcl-xFNK 蛋白を細胞内に導入する系を作り出し、実際にマウスの肝臓障害や、軟骨細胞培養に適用した。放射線障害や脳虚血による神経細胞死の抑制に効果があることが判明した。

神経変性疾患；アルツハイマー病の原因解析には 昨年引き続きミトコンドリアのクエン酸回路の酵素 DLST と ALDH2 の解析を中心に行った。

DLST 遺伝子には本来の DLST mRNA の他にイントロン7から転写開始する POSTD は酸化ストレス耐性の役割をしていることを明確にし、アルツハイマー病と sDLST を結び付けることができた。

ミトコンドリア増殖因子；ミトコンドリア DNA の変異によって増加する新規遺伝子はミトコンドリアの増加を促す因子であることを明確にした。

本年度は、国立精神神経センター武蔵病院の埜中征哉院長を会長とした「日本ミトコンドリア研究会」を発足させ、太田成男が 学術会長として老人病研究所で第一回の年会を開催した。演題数は 49 で、参加者は 200 人と大盛況であり、ミトコンドリア研究の発展に大いに寄与した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ohsawa I, Takamura C<sup>1)</sup>, Kohsaka S ( <sup>1)</sup>国立精神・神経セ ) : Fibulin-1 binds the amino-terminal head of b-amyloid precursor protein and modulates its physiological function . J. Neurochem 2001 ; 76 ( 5 ) : 1411-1420 .
- 2) Yasukawa T, Suzuki T<sup>1)</sup>, Ishii N, Ohta S, Watanabe K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東大院・工学 ) : Wobble modification defect in tRNA disturbs codon-anticodon interaction in a mitochondrial disease . EMBO J 2001 ; 20 ( 17 ) : 4794-4802 .
- 3) Hatanaka Y<sup>1)</sup>, Nakae D<sup>2)</sup>, Mutai M<sup>3)</sup>, Hasizume K<sup>4)</sup>, Kamihara Y<sup>4)</sup>, Kinoshita N<sup>4)</sup>, Tani Y<sup>4)</sup>, Danno G<sup>4)</sup>, Ohta S, Konishi Y<sup>2)</sup>, Ashida H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Kobe University , <sup>2)</sup>Nara Medical University , <sup>3)</sup>Mitsubishi-Tokyo Pharmaceuticals, Inc. , <sup>4)</sup>DAKO Japan Co. ) : Decreased Expression of Bcl-x Protein during Hepatocarcinogenesis Induced Exogenously and Endogenously in Rats . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 : 1270-1277 .
- 4) Ozaki D, Shirai Y<sup>1)</sup>, Takeuchi T<sup>1)</sup>, Ide K<sup>1)</sup>, Nakase T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Orthopedic Surgery , <sup>2)</sup>Department of Orthopedics, Kureha General Hospital ) : Bilateral First Rib Fractures in Weight-lifting . Japanese Journal of Orthopaedic Sports Medicine 2001 ; 21 : 11-16 .
- 5) Yasukawa T, Suzuki T, Ohta S, Watanabe K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東大院・工学 ) : Wobble modification defect suppresses translational activity of tRNAs with MERRF and MELAS mutations . Mitochondrion 2002 .

## 著 書

- 1) 金森 崇, 太田成男: [分担] 電子伝達とエネルギー転換系. 新ミトコンドリア学 (内海耕慥・井上正康), 2001; pp8-13, 共立出版.
- 2) 太田成男: [分担] ミトコンドリアRNAとタンパク質の合成. 新ミトコンドリア学 (内海耕慥・井上正康), 2001; pp102-106, 共立出版.
- 3) 太田成男: [分担] ミトコンドリア脳筋症とDNA変異. 新ミトコンドリア学 (内海耕慥・井上正康), 2001; pp332-338, 共立出版.
- 4) 安川武宏, 太田成男: [分担] サイブリットの作製法と大量培養法. 新ミトコンドリア学 (内海耕慥・井上正康), 2001; pp392-394, 共立出版.
- 5) 安川武宏, 鈴木 勉<sup>1)</sup>, 太田成男, 渡辺公綱<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大院・工学): [分担] 変異ミトコンドリアtRNAの修飾欠損とdecoding異常. ミトコンドリアとミトコンドリア病 (増刊号), 2002; pp197-201, 日本臨床社.
- 6) 安川武宏: [分担] ミトコンドリアDNAの複製機構と複製機序. ミトコンドリアとミトコンドリア病 (増刊号), 2002; pp24-29, 日本臨床社.
- 7) 太田成男: [分担] ミトコンドリアの起原. ミトコンドリアとミトコンドリア病 (増刊号), 2002; pp799-804, 日本臨床社.
- 8) 麻生定光, 太田成男: [分担] 遺伝子治療と蛋白治療. ミトコンドリアとミトコンドリア病 (増刊号), 2002; pp674-678, 日本臨床社.
- 9) 金森 崇, 太田成男: [分担] 生化学的検査: 呼吸鎖複合体活性, プロトンATPase活性, ピルビン酸デヒドロゲナーゼ複合体活性など. ミトコンドリアとミトコンドリア病 (増刊号), 2002; pp256-260, 日本臨床社.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 太田成男: ミトコンドリアの糖尿病への関与 (ミトコンドリアの多彩な役割). 第37回インスリン研究会, 2002. 2.

### (2) シンポジウム:

- 1) Ohta S, Ohsawa I, Nishimaki K, Kamino K: Deficiency in a Mitochondrial Aldehyde Dehydrogenase Increases the Risk for Alzheimers Disease by Feeble protection against the Oxidative Stress. Euromit5 (The Fifth European Meeting on Mitochondrial Pathology) (Venice, Italy), 2001. 9.
- 2) Yasukawa T, Suzuki T<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>東大院・工学): Wobble modification defect suppresses translational activity of tRNAs with MERRF and MELAS mutations. Euromit5 (The Fifth European Meeting on Mitochondrial Pathology (Venice, Italy), 2001. 9.
- 3) 太田成男, 麻生定光, 尾崎大也, 山縣久美, 桂研一郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 臼井一裕<sup>2)</sup>, 貴和敏博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第二, <sup>2)</sup>東北大・加齢研): アポトーシス制御因子の改変による治療への適応. アポトーシス研究会第10回研究集談会, 2001. 8.
- 4) 貴和敏博<sup>1)</sup>, 西條康男<sup>1)</sup>, 田澤立之<sup>1)</sup>, 菊池利明<sup>1)</sup>, 前門戸任<sup>1)</sup>, 臼井一裕<sup>1)</sup>, 太田成男, 中村敏一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東北大・加齢研, <sup>2)</sup>大阪大・バイオメディカル教育セ): 肺癌遺伝子治療標的と導入遺伝子戦略. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 5) 渡辺公綱<sup>1)</sup>, 安川武宏, 鈴木 勉<sup>1)</sup>, 太田成男 (<sup>1)</sup>東大院・工学): ミトコンドリア病の原因となるミトコンドリア変異tRNAの異常特性. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 6) 太田成男: ミトコンドリアと生きる. 生体の時間秩序発現機構・秩序/無秩序の科学合同研究会, 2002. 1.

### (3) 一般講演:

- 1) 紙野晃人<sup>1)</sup>, 西槇貴代美, 太田成男, 武田雅俊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大阪大学院・医・神経機能): 日本人APOE-4キャリア

- ーにおける APOE-4 対立遺伝子量, ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素欠損, 性のアルツハイマー型老年痴呆発症リスク効果. 第16回日本老年精神医学会, 2001. 6.
- 2) 安川武宏, 鈴木 勉<sup>1)</sup>, 太田成男, 渡辺公綱<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大院・工学): 変異ミトコンドリア tRNA 修飾欠損に起因するミトコンドリア病の分子機構. 第3回RNA学会年会, 2001. 8.
- 3) 程久美子<sup>1)</sup>, 永野昌俊<sup>1)</sup>, 浜田 剛<sup>1)</sup>, 高橋史峰<sup>1)</sup>, 実川佐智恵<sup>1)</sup>, 太田成男, 宮田雄平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬理): 運動ニューロン生存活性をもつRNAの構造と分布. 第24回神経科学学会・第44回神経化学会合同大会, 2001. 9.
- 4) 尾崎大也, 麻生定光, 武内俊次<sup>1)</sup>, 中山義人<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 太田成男, 伊藤博元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科): スーパーアポトーシス抑制因子 Bcl-xFNK 蛋白導入による軟骨細胞の維持. 第16回日本整形外科学会基礎学術集会, 2001. 10.
- 5) 杉本 泉, 安川武宏, 石井徳恵, 鈴木 勉<sup>1)</sup>, 林 純一<sup>2)</sup>, 太田成男, 渡辺公綱<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大院・工学, <sup>2)</sup>筑波大・生物科学4): ミトコンドリア病の原因変異ミトコンドリア tRNA をもつ細胞の呼吸回復. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 6) 中島尚美, 向井有理, 石橋佳朋, 麻生定光, 太田成男: ミトコンドリアの障害を感知してミトコンドリアDNA複製を促進する因子 MIDAS の細胞内分布. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 7) 尾崎大也, 山縣久美, 麻生定光, 中山義人<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 太田成男 (<sup>1)</sup>整形外科): 改変型アポトーシス抑制因子 Bcl-xFNK 蛋白導入による軟骨組織培養の細胞死抑制. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 8) 麻生定光, 山縣久美, 尾崎大也, 北澤梨々, 平出智晴<sup>1)</sup>, 桂研一郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 太田成男 (<sup>1)</sup>内科第二): スーパーアポトーシス抑制因子 Bcl-xFNK 蛋白投与による虚血脳神経細胞死抑制. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 9) 佐藤佑一郎, 山縣久美, 尾崎大也, 麻生定光, 太田成男: アポトーシス抑制因子 Bcl-xL の C 末端疎水領域が関与したアポトーシス抑制. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 10) 大澤郁朗, 西槇貴代美, 安田知永, 紙野晃人, 太田成男: ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素 ALDH2 欠損による細胞死の促進. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 11) 大澤郁朗, 植松正樹, 木村 恵, 青景聡之, 西槇貴代美, 麻生定光, 太田成男: 中枢神経系における抗アポトーシス蛋白 survivin の発現. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 12) 青景聡之, 大澤郁朗, 石橋佳朋, 麻生定光, 太田成男: GFP と Bcl-2 ファミリー遺伝子産物の共発現下におけるミトコンドリアの凝集. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 13) 野本達也<sup>1)</sup>, 島崎久仁子<sup>2)</sup>, 岡田尚巳<sup>1)</sup>, 水上浩明<sup>1)</sup>, 花園 豊<sup>1)</sup>, 久米晃啓<sup>1)</sup>, 桂研一郎<sup>3)</sup>, 麻生定光, 太田成男, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 小澤敬也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>自治医大・遺伝子治療, <sup>2)</sup>自治医大・生理, <sup>3)</sup>内科第二): 5型 AAV ベクターを用いたスナネズミ海馬への遺伝子導入. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 14) 高橋史峰<sup>1)</sup>, 程久美子<sup>1)</sup>, 浜田 剛<sup>1)</sup>, 永野昌俊<sup>1)</sup>, 実川佐智恵<sup>1)</sup>, 三嶋拓也<sup>2)</sup>, 今城純子<sup>2)</sup>, 太田成男, 宮田雄平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬理, <sup>2)</sup>解剖第一): 運動ニューロン生存活性をもつRNAの胚発生における特異的分布. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.
- 15) 麻生定光, 北澤梨々, 木村 恵, 山縣久美, 大澤郁朗, 森 隆<sup>1)</sup>, 桂研一郎<sup>2)</sup>, 平出智晴<sup>2)</sup>, 尾崎大也, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 太田 成男 (<sup>1)</sup>埼玉医大・医療セ, <sup>2)</sup>第二内科): ミトコンドリアヘターゲットするスーパーアポトーシス抑制因子による蛋白治療. 第一回日本ミトコンドリア研究会年会, 2002. 1.
- 16) 大澤郁朗, 西槇貴代美, 安田知永, 紙野晃人, 太田成男: アルツハイマー病における ALDH2 の役割と酸化ストレス. 第一回日本ミトコンドリア研究会年会, 2002. 1.
- 17) 尾崎大也, 麻生定光, 中山義人<sup>1)</sup>, 太田成男, 伊藤博元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科): 改良型アポトーシス抑制因子 Bcl-xFNK 蛋白導入による変形性関節症軟骨細胞の維持. 第15回日本軟骨代謝学会, 2002. 3.

## [ 免疫部門 ]

### 研究概要

2001年6月より新しい研究室としてスタートした。田中は、これまでにがん抑制因子の機能解析及び遺伝子発現の制御機構を中心に研究を行ってきた。具体的には、大阪大学細胞工学センター、東京大学医学部免疫学教室に所属し、転写制御因子 IRF-1 が癌抑制因子として機能し、アポトーシスの制御を行なっていること、IRF-1 と p53 が協調して CDK 抑制因子の転写を制御して細胞周期を調節している事などを報告した (Cell, 77 : 829-, 1994 ; Nature, 382 : 816-, 1996)。更に、遺伝子欠損マウスを用いて IRF-1 が古典的な癌抑制因子の概念とは異なる tumor susceptibility gene であることを明らかにした (Genes Dev., 13 : 1240-, 1999)。更に、現助手の佐藤 (織田) と共同して p53 によるアポトーシス実行分子であり Bcl-2 ファミリー分子に属する新規因子 Noxa を同定した (Science, 288 : 1053-1058, 2000)。助手の飛梅は癌研究所及び東京医科歯科大学を通じてアポトーシスを誘導するストレス応答性キナーゼ ASK1 の機能解析、遺伝子欠損マウスの作成を行なった (EMBO Rep., 2 : 222-, 2001)。

現在、我々は p53 によるアポトーシスの実行機構の解析を行なっている。即ち、癌遺伝子が活性化していわゆる前癌状態となった細胞は、p53 によってアポトーシスにより排除される。この分子機構を明らかにする為に、我々はアポトーシス実行分子 Bax 及び Bak の p53 による活性化機構、癌化におけるクロマチン構造の再編と遺伝子発現の変化等の解析を進めており、新しい知見を既に得ている。これらの解析を更に推し進めて、癌抑制の分子機構を解明していき、それを応用した選択的な癌細胞の排除を目指した治療法の開発につなげていきたいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Nakaya T<sup>1)</sup>, Sato M<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Asagiri M<sup>1)</sup>, Suemori H<sup>2)</sup>, Noguchi S<sup>2)</sup>, Tanaka N, Taniguchi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo , <sup>2)</sup> Meiji Milk Products Co. Ltd. ): Gene induction pathways mediated by distinct IRFs during viral infection . Biochem. Biophys. Res. Commun 2001 ; 283 ( 5 ): 1150-1156 .
- 2) Tobiume K, Matsuzawa A<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Nishitoh H<sup>1)</sup>, Morita K<sup>1)</sup>, Takeda K<sup>1)</sup>, Minowa O<sup>1)</sup>, Miyazono K<sup>2)</sup>, Noda T<sup>2)</sup>, Ichijo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>2)</sup> Cancer Inst. ): ASK1 is required for sustained activations of JNK/p38 MAP kinases and apoptosis . EMBO Rep 2001 ; 2 ( 3 ): 222-228 .
- 3) Sawada Y<sup>1,2,4)</sup>, Nakamura K<sup>2)</sup>, Doi K<sup>2)</sup>, Takeda K<sup>1)</sup>, Tobiume K, Saitoh M<sup>1)</sup>, Morita K<sup>1)</sup>, Komuro I<sup>3)</sup>, De Vos K<sup>4)</sup>, Sheetz M<sup>4)</sup>, Ichijo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>2)</sup> Univ. Tokyo , <sup>3)</sup> Chiba Univ. , <sup>4)</sup> Columbia Univ. ): Rap1 is involved in cell stretching modulation of p38 but not ERK or JNK MAP kinase . J. Cell Sci 2001 ; 114 ( Pt 6 ): 1221-1227 .
- 4) Hata N<sup>1)</sup>, Sato M<sup>1)</sup>, Takaoka A<sup>1)</sup>, Asagiri M<sup>1)</sup>, Tanaka N, Taniguchi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo ): Constitutive IFN- / signal for efficient IFN- / gene induction by virus . Biochem. Biophys. Res. Commun 2001 ; 285 ( 2 ): 518-525 .
- 5) Mitani Y<sup>1)</sup>, Takaoka A<sup>1)</sup>, Kim SH<sup>1)</sup>, Kato Y<sup>1)</sup>, Yokochi T<sup>1)</sup>, Tanaka N, Taniguchi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo ): Cross talk of the interferon- / signalling complex with gp130 for effective interleukin-6 signalling . Genes Cells 2001 ; 6 ( 7 ): 631-640 .
- 6) Sato K<sup>1)</sup>, Hida S<sup>1)</sup>, Takayanagi H<sup>1)</sup>, Yokochi T<sup>1)</sup>, Kayagaki N<sup>2)</sup>, Takeda K<sup>2)</sup>, Yagita H<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>, Tanaka N, Taniguchi T<sup>1)</sup>, Ogasawara K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo , <sup>2)</sup> Juntendo Univ. ): Antiviral response by natural killer cells through TRAIL gene induction by IFN- / . Eur. J. Immunol 2001 ; 31 ( 11 ): 3138-3146 .
- 7) Morita K<sup>1)</sup>, Saitoh M<sup>1)</sup>, Tobiume K, Matsuura H<sup>1)</sup>, Enomoto S<sup>1)</sup>, Nishitoh H<sup>1)</sup>, Ichijo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): Negative feedback regulation of ASK1 by protein phosphatase 5 ( PP5 ) in response to ox-

idative stress . EMBO J 2001 ; 20 ( 21 ) : 6028-6036 .

(2) 綜説 :

- 1) Taniguchi T<sup>1)</sup>, Ogasawara K<sup>1)</sup>, Takaoka A<sup>1)</sup>, Tanaka N ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo ): IRF family of transcription factors as regulators of host defense . Annu. Rev. Immunol 2001 ; 19 : 623-655 .
- 2) Sato M<sup>1)</sup>, Taniguchi T<sup>1)</sup>, Tanaka N ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo ): The interferon system and interferon regulatory factor transcription factors - studies from gene knockout mice . Cytokine Growth Factor Rev 2001 ; 12 ( 2-3 ) : 133-142 .
- 3) 織田恵理, 田中信之 : p53の標的遺伝子 Noxaによるアポトーシスの制御 . 実験医学 増刊「p53研究の新たな挑戦」 2001 ; 19 : 1057-1062 .
- 4) 田中信之 : BH3タンパク質について . 実験医学 増刊「アポトーシス研究の新たな挑戦」 2001 ; 19 : 1630-1636 .
- 5) 飛梅 圭, 一條秀憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京医歯大): ストレス応答 MAPKKK分子ASK1に依存するアポトーシス . 実験医学 増刊「アポトーシス研究の新たな挑戦」 2001 ; 19 : 1720-1725 .

著 書

- 1) 田中信之 : [ 分担 ] アポトーシスの制御機構 転写因子による制御 . わかる実験医学シリーズ アポトーシスがわかる ( 田沼靖一 ), 2001 ; pp93-99 , 羊土社 .
- 2) 田中信之 : [ 分担 ] p53によるアポトーシスの誘導のメカニズム . わかる実験医学シリーズ アポトーシスがわかる ( 田沼靖一 ), 2001 ; pp118-122 , 羊土社 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 田中信之, 織田恵理, 渋谷 司<sup>1)</sup>, 谷口維紹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大): p53によるアポトーシス実行機構の解析 . 第60回日本癌学会総会 ( シンポジウム 「がん遺伝子 / がん抑制遺伝子研究の最前線」 ), 2001 . 9 .

(2) 一般講演 :

- 1) Tobiume K, Saitoh M<sup>1)</sup>, Henmi M<sup>1)</sup>, Ichijo H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): Regulation of apoptosis signal-regulating kinase 1 ( ASK1 ) activity through oligomerization and phosphorylation . Keystone Symposia "Molecular Mechanisms of Apoptosis" ( Keystone, Colorado, U. S. A. ), 2001 . 1 .
- 2) 飛梅 圭, 一條秀憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京医歯大): ASK1欠損細胞を用いたASK1依存性アポトーシス経路の解析 . 第60回日本癌学会総会 , 2001 . 9 .

## [ 疫学部門 ]

### 研究概要

神経内分泌学を中心として生体の機能制御機構を研究する．生体の個体としての機能とその制御機構についてホルモンを対象として研究している．本年度の研究概要を下記に示す．

#### I. Corticotropin-releasing factor (CRF) の中枢作用の研究

CRFはストレス反応の中軸となる視床下部神経ペプチドであると同時に、中枢神経系において多くの重要な機能を担っていると考えられる．CRF 1型受容体 (CRFR-1) は脳内に広く発現分布し、CRFの作用調節因子となっていると考えられる．CRFR-1の発現を視床下部神経細胞培養系や視床下部のスライス標本を用いて検討した．CRF自身や神経伝達物質がCRFR-1発現の調節に寄与していることを明らかとした．脳損傷におけるCRFの役割を検討し、CRFは脳損傷時に反応性アストロサイトに作用する可能性を示した．

#### II. 成長ホルモンの分泌調節機構の研究

成長ホルモンの分泌リズムの形成に中心的役割を担っているソマトスタチンの分泌に周期性を与えるメカニズムとして、アンドロゲンによる視床下部機能修飾機構の解明に取り組んできた．成長ホルモン分泌パターンを雄化するアンドロゲンの作用点は視索前野にあることを明らかとした．成長ホルモンの視床下部へのオートフィードバック機構と成長ホルモン受容体を介する細胞内シグナル伝達を検討し、成長ホルモンは視床下部細胞においては主としてSTAT5bを活性化し、SOCS3を発現誘導することがわかった．

#### III. 甲状腺乳頭癌の原因遺伝子の研究

甲状腺乳頭癌でc-retと融合している遺伝子として同定したELKSがalternative splicingによって組織特異的に様々なmRNAを発現していることを明らかにし、ELKSの機能と意義について検討中した．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ogata K<sup>1)</sup>, An E<sup>1)</sup>, Shioi Y<sup>1)</sup>, Nakamura K<sup>1)</sup>, Luo S<sup>1)</sup>, Yokose N<sup>1)</sup>, Minami S, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Int Med ): Association between natural killer cell activity and infection in immunologically normal elderly people . Clin Exp Immunol 2001 ; 124 : 392-397 .
- 2) Imaki T, Katsumata H, Miyata M<sup>1)</sup>, Naruse M<sup>2)</sup>, Imaki J<sup>3)</sup>, Minami S ( <sup>1)</sup> Dept Physiol, Tokyo Women's Med Col , <sup>2)</sup> Dept Med, Tokyo Women's Med Col , <sup>3)</sup> Dept Anatomy ): Expression of corticotropin-releasing factor ( CRF ), urocortin, and CRF type 1 receptors in hypothalamic-hypophyseal systems under osmotic stimulation . J Neuroendocrinol 2001 ; 13 ( 4 ): 328-338 .
- 3) Imaki T, Katsumata H, Miyata M<sup>1)</sup>, Naruse M<sup>2)</sup>, Imaki J<sup>3)</sup>, Minami S ( <sup>1)</sup> Dept Physiol, Tokyo Women's Med Col , <sup>2)</sup> Dept Med, Tokyo Women's Med Col , <sup>3)</sup> Dept Anatomy ): Expression of corticotropin-releasing hormone type 1 receptor in paraventricular nucleus after acute stress . Neuroendocrinology 2001 ; 73 ( 5 ): 293-301 .
- 4) Imaki T, Tsushima T<sup>1)</sup>, Hizuka N<sup>1)</sup>, Odagiri E<sup>1)</sup>, Murata Y<sup>1)</sup>, Suda T<sup>2)</sup>, Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Med, Tokyo Women's Med Univ , <sup>2)</sup> Hiroasaki Univ, Sch of Med ): Postoperative plasma cortisol levels predict long-term outcome in patients with Cushing's disease and determine which patients should be treated with pituitary irradiation, after surgery . Endocr J 2001 ; 48 ( 1 ): 53-62 .
- 5) Ujihara M<sup>1)</sup>, Yoshimoto T<sup>1)</sup>, Cho R<sup>2)</sup>, Totsuka Y<sup>2)</sup>, Imaki T, Nomura K<sup>1)</sup>, Nishikawa T<sup>3)</sup>, Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Med, Tokyo Women's Med Univ , <sup>2)</sup> Dept Pathol, Tokyo Women's Med Univ , <sup>3)</sup> Div Endocrinol, Kanto Med Center ): Ectopic adrenocorticotropin syndrome exhibiting paradoxical adrenocorticotropin re-

sponsiveness to gonadotropin-releasing hormone . Endocr J 2001 ; 48 ( 1 ): 19-23 .

6) Tanabe A<sup>1)</sup>, Naruse M<sup>1)</sup>, Nishikawa T<sup>2)</sup>, Yoshimoto T<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Seki T<sup>1)</sup>, Takagi S<sup>1)</sup>, Imaki T, Takano K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Med, Tokyo Women's Med Univ , <sup>2)</sup> Dept Pathol, Tokyo Women's Med Univ ): Autonomy of cortisol secretion in clinically silent adrenal incidentaloma . Horm Metab Res 2001 ; 33 : 444-450 .

7) 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医大2内 ): ACTH産生腫瘍の長期予後 : 術後内分泌検査との関連・術後放射線の効果 . 日内分泌会誌 2001 ; 77 ( Suppl. ) : 28-32 .

## (2) 綜説 :

1) 今城俊浩 : CRH受容体 : CRH受容体拮抗薬の臨床応用の可能性を探る . 別冊・医学のあゆみ「7回膜貫通型受容体研究の新展開」 2001 ; ( 3 ): 85-89 .

## 著 書

1) 今城俊浩 : [ 自著 ] 内分泌救急処置 , 臨床に役立つ内分泌疾患診療マニュアル2001 . ホルモンと臨床 , 2001 ; pp213-218 , 医学の世界社 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

1) 今城俊浩, 笠木陽子, 勝又晴美, 小西俊一郎, 宮田麻理子<sup>1)</sup>, 南 史朗 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大第一生理 ): ストレス伝達におけるCRF受容体の役割 ( ストレスホルモンと脳機能 ) . 第78回日本生理学会大会 , 2001 . 3 .

2) 南 史朗 : 成長ホルモンの視床下部作用と拍動性分泌調節機構 . 第28回日本神経内分泌学会 , 2001 . 10 .

### (2) 一般講演 :

1) Kasagi Y, Katsumata H, Nakata T, Minami S, Imaki T : Regulation of corticotropin-releasing factor ( CRF ) type-1 receptor gene expression by noradrenaline and acetylcholine in cultured rat hypothalamic neurons *in vitro* . The 83th Annual Meeting of the Endocrine Society ( Denver ), 2001 . 6 .

2) Minami S, Nakata T, Kasagi Y, Tokita R, Imaki J, Sakae K, Imaki T : Growth hormone stimulates phosphorylation of STAT5 and MAPK, and transcriptional activation of CIS and SOCS-3 in the rat hypothalamus . The 83th Annual Meeting of the Endocrine Society ( Denver ), 2001 . 6 .

3) Imaki T, Kasagi Y, Miyata M<sup>1)</sup>, Katsumata H, Konishi S, Minami S ( <sup>1)</sup> Dept Physiol, Tokyo Women's Med Univ ): Regulation of corticotropin-releasing factor ( CRF ) type-1 receptor gene expression by CRF in the hypothalamus . The 83th Annual Meeting of the Endocrine Society ( Denver ), 2001 . 6 .

4) 中田朋子, 笠木陽子, 時田玲子, 栄 兼作, 今城俊浩, 南 史朗 : 成長ホルモンによる視床下部細胞におけるSTAT-SOCS系の活性化 . 第74回日本内分泌学会学術総会 , 2001 . 6 .

5) 笠木陽子, 今城俊浩, 勝又晴美, 中田朋子, 時田玲子, 南 史朗 : 視床下部Corticotropin-releasing factor ( CRF ) 1型受容体 ( CRF-R1 ) 遺伝子のノルアドレナリン, アセチルコリンによる発現調節 : 培養視床下部神経細胞を用いた検討 . 第74回日本内分泌学会学術総会 , 2001 . 6 .

6) 今城俊浩, 笠木陽子, 勝又晴美, 小西俊一郎, 南 史朗 : 視床下部Corticotropin-releasing factor ( CRF ) 1型受容体 ( CRF-R1 ) 遺伝子発現のリガンドによる調節 . 第74回日本内分泌学会学術総会 , 2001 . 6 .

7) 今城俊浩, 勝又晴美, 小西俊一郎, 笠木陽子, 宮田麻理子<sup>1)</sup>, 南 史朗 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大第一生理 ): 損傷脳におけるCorticotropin-releasing factor ( CRF ) 受容体の発現 . 第24回日本神経科学大会 , 2001 . 9 .

8) 笠木陽子, 勝又晴美, 時田玲子, 南 史朗, 今城俊浩 : 視床下部Corticotropin-releasing factor ( CRF ) 1型受容体 ( CRF-R1 ) 発現調節機構について : 視床下部神経細胞培養系を用いた検討 . 第28回日本神経内分泌学会 , 2001 . 10 .

9) 今城俊浩, 宮田麻理子<sup>1)</sup>, 勝又晴美, 小西俊一郎, 笠木陽子, 南 史朗 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大第一生理 ): 視床下



部Corticotropin-releasing factor (CRF) 1型受容体(CRF-R1)発現調節機構の解明：視床下部スライス標本を用いた *in vitro*での解析．第28回日本神経内分泌学会，2001．10．

- 10) 小西俊一郎，勝又晴美，笠木陽子，宮田麻里子<sup>1)</sup>，南 史朗，今城俊浩(<sup>1)</sup>東京女子医大第一生理)：損傷脳におけるCorticotropin-releasing factor (CRF) 受容体の発現．第28回日本神経内分泌学会，2001．10．
- 11) 小西俊一郎，勝又晴美，笠木陽子，南 史朗，今城俊浩：脳損傷におけるCorticotropin-releasing factor (CRF) の役割．第13回CRH・ACTH研究会，2002．3．
- 12) 今城俊浩，成瀬光栄<sup>1)</sup>，高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内)：ACTH依存性Cushing症候群での副腎病変：副腎過形成と内分泌学的指標との関連．第13回CRH・ACTH研究会，2002．3．

## [ 分子生物学部門 ]

### 研究概要

本学部門は、日本医科大学大学院分子生物学科目であるとともに、丸子アイソトープおよび組換えDNA実験施設を兼ねている。現在26名の研究者（教職員6名、学内・学外からのポスドク・院生・研究生他20名）が日夜、本学学術フロンティア推進事業・共同研究推進センターとしてヒト疾患の病因解明と診断法の開発に取り組んでいる。

ヒトゲノムプロジェクト（文部省ゲノムサイエンス研究、文部省総合がん総括班研究）：乳癌、肝癌、膀胱癌、甲状腺癌の検体を用いて、高頻度な異常を見出した染色体についてこれらの癌の発生進展に関わる癌抑制遺伝子の同定を目指している。原因遺伝子の存在位置を限局化し、YAC, BAC, PACなどのクローンでカバーした後、ゲノムシーケンシングを行い、エキソン予測法とcDNA発現プロファイル解析を行い、17q25.1領域からDMC1, UBE2, DMHC, SRP68, また4q21領域からJNK3A1など、種々のヒトがんにて発現消失を示す新規遺伝子をクローニングした。

ヒトDNA多型（SNP）解析プロジェクト（未来開拓研究推進事業、厚生省長寿科学研究、厚生省特定疾患）：骨粗鬆症、高脂血症、高血圧症の候補遺伝子について、ゲノム上の数万種類のSNP=1塩基多型マーカーを用いることにより発症、進展および種々の薬剤感受性に関与する遺伝子を探索している。

乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断（文部省がん診断治療研究、同基盤（c）、厚生省がん研究助成金）：乳癌手術5年間の追跡調査と遺伝子解析により、no（リンパ節転移陰性）乳癌、n1, 2（リンパ節転移陽性）乳癌の各々において術後予知因子となる染色体欠失を同定した。これらの結果を踏まえ、平成12年夏より癌研附属病院および長野県下の主幹病院と連携し、毎週約12症例（年間600症例）の乳癌の遺伝子診断を実施し、臨床サイドへ遺伝子診断の結果を報告している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Hirano A, Nagai H, Harada H, Terada Y, Haga S<sup>1)</sup>, Kajiwara T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Med. Univ. ) : Nine novel single-nucleotide polymorphisms of the Intergrin beta4 gene in the Japanese population . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 1 ) : 35-37 .
- 2) Kajita M, Iwasaki H, Ota N, Shinohara Y, Kodaira M, Nakajima T, Emi M : Novel single nucleotide polymorphisms of the human Colony-stimulating factor 2 ( CSF2 ) identified by sequencing entire gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 1 ) : 48-49 .
- 3) Shinohara Y, Iwasaki H, Ota N, Nakajima T, Kodaira M, Kajita M, Shiba T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Kitasato Univ. ) : Novel single nucleotide polymorphisms of the human nuclear factor kappa-B 2 gene identified by sequencing the entire gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 1 ) : 50-51 .
- 4) Keicho N<sup>1)</sup>, Emi M, Kajita M, Matsushita I<sup>1)</sup>, Nakata K<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>2)</sup>, Ohishi N<sup>3)</sup>, Kudoh S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Int. Med. Ctr. Jpn. , <sup>2)</sup> Dept. Intern. Med. IV , <sup>3)</sup> Univ. Tokyo ) : Overestimated frequency of a possible emphysema-susceptibility allele when microsomal epoxide hydrolase is genotyped by the conventional polymerase chain reaction-based method . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 2 ) : 96-98 .
- 5) Kurose K, Mine N, Iida A, Araki T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Obs. Gyn. ) : Three aberrant splicing variants of the HMGIC gene transcribed in uterine leiomyomas . Genes, Chrom. Cancer 2001 ; 30 ( 2 ) : 212-217 .
- 6) Harada H, Nagai H, Mine N, Terada Y, Fujiwara H, Mikami I, Tsuneizumi M, Yabe A, Miyazaki K, Yokota T, Imoto I<sup>1)</sup>, Inazawa J<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ) : Molecular cloning, tissue expression, and chromosomal assignment of a novel gene encoding a subunit of the human signal-recognition particle . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 2 ) : 70-75 .

- 7) Mine N, Kurose K, Konishi H<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Nagai H, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Obs. Gyn. ): Fusion of a Sequence from HEI10 ( 14q11 ) to the HMGIC Gene at 12q15 in a Uterine Leiomyoma . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 ( 2 ): 135-139 .
- 8) Harada H, Nagai H, Tsuneizumi M, Mikami I, Sugano S<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> IMS, Univ. Tokyo ): Identification of DMC1, a novel gene in the TOC region on 17q25. 1, that shows loss of expression in multiple human cancers . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 2 ): 90-95 .
- 9) Hirano A, Utada Y, Haga S<sup>1)</sup>, Kajiwara T<sup>1)</sup>, Sakamoto G<sup>2)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>3)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>2)</sup> Cancer Inst. , <sup>3)</sup> IMS, Univ. Tokyo ): Allelic Losses as Prognostic Markers for Breast Cancers . Int. J. Clin. Oncol 2001 ; 6 ( 1 ): 6-12 .
- 10) Nagai H, Kim YS<sup>2)</sup>, Lee KT<sup>2)</sup>, Chu MY<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Fujimoto J<sup>4)</sup>, Baba M<sup>5)</sup>, Matsubara K<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Nara Inst. Sci. Tech. , <sup>2)</sup> KIST , <sup>3)</sup> Nara Med. Univ. , <sup>4)</sup> Hyogo Med. Coll. , <sup>5)</sup> Mie Univ. ): Inactivation of SSI-1, a JAK/STAT inhibitor, in human hepatocellular carcinomas, as revealed by two-dimensional electrophoresis . J. Hepatol 2001 ; 34 ( 3 ): 416-421 .
- 11) Nakazawa I, Nakajima T, Ishigami T<sup>1)</sup>, Umemura S<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Yokohama City Univ. ): Human calcitonin receptor-like receptor for Adrenomedullin : genomic structure, eight single-nucleotide polymorphisms, and haplotype analysis . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 3 ): 132-136 .
- 12) Yoshida S, Fukino K, Harada H, Nagai H, Imoto I<sup>2)</sup>, Inazawa J<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Neurosurg. , <sup>2)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): The c-Jun NH2-terminal kinase3 ( JNK3 ) gene : genomic structure chromosomal assignment, and loss of expression in brain tumors . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 4 ): 182-187 .
- 13) Mikami I, Harada H, Nagai H, Tsuneizumi M, Nobe Y, Koizumi K<sup>1)</sup>, Sugano S<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. II , <sup>2)</sup> IMS, Univ. Tokyo ): Down-regulation in multiple human cancers of a novel gene, DMHC, from 17q25. 1 that encodes an integral membrane protein . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 ( 4 ): 417-422 .
- 14) Yokota T, Nagai H, Harada H, Mine N, Terada Y, Fujiwara H, Yabe A, Miyazaki K, Emi M : Identification, tissue expression, and chromosomal position of a novel gene encoding human ubiquitin-conjugating enzyme E2-230k . Gene 2001 ; 267 ( 1 ): 95-100 .
- 15) Hirano A, Emi M, Tsuneizumi M, Utada Y, Yoshimoto M<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>1)</sup>, Akiyama F<sup>1)</sup>, Sakamoto G<sup>1)</sup>, Haga S<sup>2)</sup>, Kajiwara T<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Cancer Inst. , <sup>2)</sup> IMS, Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>3)</sup> IMS, Univ. Tokyo ): Allelic Losses of loci at 3p25. 1, 8p22, 13q12, 17p13. 3 and 22q13 Correlate with Postoperative Recurrence in Breast Cancer . Clin. Cancer Res 2001 ; 7 ( 4 ): 876-882 .
- 16) Hirano A, Nagai H, Harada H, Haga S<sup>1)</sup>, Kajiwara T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Med. Univ. ): Two novel single-nucleotide polymorphisms of the Caspase-9 ( CASP9 ) gene in the Japanese population . Genes and Immunity 2001 ; 2 ( 2 ): 117-118 .
- 17) Ota N, Nakajima T, Suzuki T<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Inoue S<sup>3)</sup>, Shirai Y<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Orthoped. , <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>3)</sup> Univ. Tokyo ): A nucleotide variant in the promoter region of the interleukin-6 gene associated with decreased bone-mineral density . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 5 ): 267-272 .
- 18) Gemma A<sup>1)</sup>, Seike Y<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Uematsu K<sup>1)</sup>, Kurimoto F<sup>1)</sup>, Hibino S<sup>1)</sup>, Yoshimura A<sup>1)</sup>, Shibuya M<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Intern. Med. IV ): Genomic Structure of the Human MAD2 Gene and Mutation Analysis in Human Breast and Lung Cancers . Lung Cancer 2001 ; 32 ( 3 ): 289-295 .
- 19) Nakazawa I, Nakajima T, Ishigami T, Umemura S<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Yokohama City Univ. ): Linkage disequilibrium and haplotype analysis among eight novel single nucleotide polymorphisms of human Tissue-type plasminogen activator gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 7 ): 367-371 .

- 20) Fujiwara H, Emi M, Nagai H, Ohgaki K<sup>1)</sup>, Imoto I<sup>2)</sup>, Inazawa J<sup>2)</sup>, Akimoto M<sup>1)</sup>, Ogawa O<sup>3)</sup>, Habuchi T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Urol. , <sup>2)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>3)</sup> Kyoto Univ. , <sup>4)</sup> Akita Univ. ): Definition of a 1-Mb homozygous deletion at 9q32-q33 in a human bladder-cancer cell line . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 7 ): 372-377 .
- 21) Mine N, Kurose K<sup>1)</sup>, Nagai H, Doi D<sup>1)</sup>, Ota Y<sup>1)</sup>, Yoneyama K<sup>1)</sup>, Konishi H<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Obs. Gyn. ): Gene fusion involving HMGIC is a frequent aberration in uterine leiomyomas . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 7 ): 408-412 .
- 22) Kohro T<sup>1)</sup>, Nakajima T, Wada Y<sup>1)</sup>, Sugiyama A<sup>1)</sup>, Ishii M<sup>1)</sup>, Tsutsumi S<sup>1)</sup>, Aburatani H<sup>1)</sup>, Imoto I<sup>2)</sup>, Inazawa J<sup>2)</sup>, Hamakubo T<sup>1)</sup>, Kodama T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Univ. Tokyo , <sup>2)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): Genomic Structure and Mapping of Human Orphan Receptor LXR Alpha : Upregulation of LXRA mRNA During Monocyte to Macrophage Differentiation . J. Atheroscl. Thromb 2001 ; 7 ( 3 ): 145-151 .
- 23) Shinohara Y, Ezura Y, Iwasaki H, Nakazawa I, Ishida R, Kodaira M, Kajita M, Shiba T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Kitasato Univ. ): Linkage disequilibrium and haplotype analysis among ten single nucleotide polymorphisms of interleukin 11 identified by sequencing of the gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 8 ): 494-497 .
- 24) Kitamura Y, Shimizu K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. II. , <sup>2)</sup> Ito Hosp. ): Allelotyping of Follicular Thyroid Carcinoma : Frequent Allelic Losses in Chromosome Arms 7q, 11p, and 22q . J. Clin. Endocrinol. Metab 2001 ; 86 ( 9 ): 4268-4272 .
- 25) Iwasaki H, Shinohara Y, Ezura Y, Kodaira M, Kajita M, Nakajima T, Shiba T<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Kitasato Univ. ): Thirteen single nucleotide polymorphisms of human osteopontin identified by sequencing of the entire gene in Japanese . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 9 ): 544-546 .
- 26) Terada Y, Imoto I<sup>2)</sup>, Nagai H, Suwa K<sup>3)</sup>, Momoi M<sup>3)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Inazawa J<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Surg. II. , <sup>2)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>3)</sup> Jichii Med. Sch. ): An 8-cM Interstitial deletion on 4q21-q22 in DNA from an infant with hepatoblastoma overlaps with commonly deleted in adult liver cancers . Am. J. Med. Genet 2001 ; 103 ( 2 ): 176-180 .
- 27) Ishida R, Ezura Y, Iwasaki H, Nakazawa I, Kajita M, Kodaira M, Ito H<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Dept. Orthoped. ): Linkage disequilibrium and haplotype analysis among novel four single nucleotide polymorphisms in human Leukemia inhibitory factor ( LIF ) gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 ( 10 ): 557-559 .
- 28) Tsuneizumi M, Emi M, Nagai H, Harada H, Sakamoto G<sup>2)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Inoue S<sup>3)</sup>, Kazui T<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Hamamatsu Univ. , <sup>2)</sup> Cancer Inst. , <sup>3)</sup> IMS, Univ. Tokyo ): Overrepresentation of the EBAG9 gene at 8q23 associated with early-stage breast cancers . Clin. Cancer Res 2001 ; 7 ( 11 ): 3526-3532 .
- 29) Haga S<sup>1)</sup>, Emi M, Hirano A<sup>1)</sup>, Utada Y<sup>1)</sup>, Kajiwara T<sup>1)</sup>, Akiyama F<sup>2)</sup>, Sakamoto G<sup>2)</sup>, Takahashi K<sup>2)</sup>, Tada T<sup>2)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Miki Y<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Women's Med. Univ. , <sup>2)</sup> Cancer Inst. , <sup>3)</sup> IMS, Univ. Tokyo ): Association of allelic losses aqt 3p25. 1, 13q12, or 17p13. 3 with poor prognosis in breast cancers with lymph node metastasis . Jpn. J. Cancer Res 2001 ; 92 ( 11 ): 1199-1206 .
- 30) Konishi N<sup>1)</sup>, Nakamura M<sup>1)</sup>, Ishida E<sup>1)</sup>, Kawada Y<sup>1)</sup>, Nishimine M<sup>1)</sup>, N, H, Emi M ( <sup>1)</sup> Nara Med. Univ. ): Specific Genomic Alterations in Rat Renal Cell Carcinomas Induced by *N*-Ethyl-*N*-hydroxyethylnitrosamine . Toxicologic Pathol 2001 ; 29 ( 2 ): 232-236 .
- 31) Nakajima T, Jorde BL<sup>1)</sup>, Ishigami T<sup>1,2)</sup>, Umemura S<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Univ. Utah Health Sci. Ctr. , <sup>2)</sup> Yokohama City Univ. ): Nucleotide Diversity and Haplotype Structure of the Human Angiotensinogen Gene in Two Populations . Am. J. Hum. Genet 2002 ; 70 ( 1 ): 108-123 .
- 32) Nagahata T, Kosaka N, Shimizu M, Emi M : Molecular Diagnosis for Breast Cancer . Jpn. Med. Assoc. J 2002 ; 45 ( 1 ): 1-6 .
- 33) Hattori H<sup>1)</sup>, Hirayama T, Nobe Y, Nagano M<sup>1)</sup>, Kujiraoka T<sup>1)</sup>, Egashira T<sup>1)</sup>, Ishii J<sup>2)</sup>, Tsuji M<sup>2)</sup>, Emi M

- (<sup>1</sup>) R&D Center, BML, <sup>2</sup>) Hokkaido Cent. Hosp. ): Eight Novel Mutations and Functional Impairments of the LDL Receptor in Familial Hypercholesterolemia in the North of Japan . J. Hum. Genet 2002 ; 47 ( 2 ): 80-87 .
- 34 ) Harada H, Yoshida S, Nobe Y, Ezura Y, Atake T, Koguchi T, Emi M : Genomic Structure of the Human NLK ( nemo-like kinase ) Gene and Analysis of its Promoter Region . Gene 2002 ; 20 ( 285 ): 175-182 .
- 35 ) Iwasaki H, Ezura Y, Ishida R, Kodaira M, Kajita M, Knight J<sup>1</sup>), Daniel S<sup>1</sup>), Shi M<sup>1</sup>), Emi M ( <sup>1</sup>) Genometrix Inc. ): Accuracy of Genotyping for Single Nucleotide Polymorphism Typing Method Involving hybridization of Short Allele-Specific Oligonucleotides . DNA Reserch 2002 ; 9 ( 2 ): 59-62 .
- 36 ) Harada H, Kimura A<sup>1</sup>), Fukino K, Yasunaga S<sup>2</sup>), Nishi H<sup>3</sup>), Emi M ( <sup>1</sup>) Med. Res. Inst. , <sup>2</sup>) Tsukumi Central Hosp. , <sup>3</sup>) Kurume Univ. ): Genomic structure and eight novel exonic polymorphisms of human N-cadherin gene . J. Hum. Genet 2002 ; 47 ( 6 ): 330-332 .
- 37 ) Tsuneizumi M, Emi M, Hirano A, Utada Y<sup>2</sup>), Tsumagari K, Takahashi K<sup>2</sup>), Kasumi F<sup>2</sup>), Akiyama F<sup>2</sup>), Sakamoto G<sup>2</sup>), Kazui T<sup>1</sup>), Nakamura Y<sup>3</sup>) ( <sup>1</sup>) Hamamatsu Univ. , <sup>2</sup>) Cancer Inst. , <sup>3</sup>) IMS, Univ. Tokyo ): Association of Allelic loss at 8p22 with Poor prognosis among Breast Cancers Cases treated with high-dose adjuvant chemotherapy . Cancer Lett 2002 ; 180 ( 1 ): 75-82 .
- 38 ) Yasui K<sup>1</sup>), Ariei S<sup>1</sup>), Zhao C<sup>1</sup>), Imoto I<sup>1</sup>), Ueda M<sup>2</sup>), Inazawa J<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup>) Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>2</sup>) Keio Univ. ): TFDP1, CUL4A, and CDC16 Identified as Targets for Amplification at 13q34 in Hepatocellular Carcinomas . Hepatology 2002 ; 35 ( 6 ): 1476-1484 .

( 2 ) 綜説 :

- 1 ) 江面陽一, 岩崎公典, 江見 充 : 慢性関節リウマチに伴う骨粗鬆症における遺伝子マーカーの意義 . Clinical Calcium 2001 ; 11 ( 5 ): 60-63 .
- 2 ) 太田信孝, 中島敏晶, 江見 充 : 骨粗鬆症予防のための遺伝子マーカーの開発 . 老年医学雑誌 2001 ; 38 ( 4 ): 181-184 .
- 3 ) 長幡武光, 江見 充 : 乳癌の遺伝子診断 ( 特集 : 乳癌診断・治療の現状と展望 ). 日医師会誌 2001 ; 125 ( 11 ): 1731-1734 .
- 4 ) 平野 明, 江見 充 : 乳癌の遺伝子診断 : 予後および治療感受性の予測 . 医のあゆみ 2001 ; 197 ( 13 ): 233-236 .
- 5 ) 江見 充 : ゲノム医学の展開と癌の遺伝子診断の進歩 . 癌の臨 2001 ; 47 ( 6 ): 459-459 .
- 6 ) 永井尚生, 寺田淑恵, 江見 充 : 肝癌の診断と臨床への応用 . 癌の臨 2001 ; 47 ( 6 ): 481-488 .
- 7 ) 長幡武光, 江見 充 : 乳癌の遺伝子診断 . 癌の臨 2001 ; 47 ( 6 ): 501-508 .
- 8 ) 峯 伸也, 荒木 勤<sup>1</sup>), 永井尚生, 江見 充 ( <sup>1</sup>) 産婦人科学 ): 子宮癌 . 癌の臨 2001 ; 47 ( 6 ): 513-516 .
- 9 ) 黒瀬圭輔<sup>1</sup>), 荒木 勤<sup>2</sup>), 江見 充 ( <sup>1</sup>) オハイオ州立大・癌遺伝学研, <sup>2</sup>) 産婦人科学 ): 卵巣癌 . 癌の臨 2001 ; 47 ( 6 ): 509-512 .
- 10 ) 岩崎公典, 江面陽一, 江見 充 : 骨粗鬆症の関連遺伝子群の同定法 . BIO Clinica 2001 ; 16 ( 9 ): 45-50 .
- 11 ) 江見 充 : CDNA マイクロアレイと SNP 解析 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ): 411-412 .
- 12 ) 江面陽一, 岩崎公典, 石田良太, 白木正孝<sup>1</sup>), 井上 聡<sup>2</sup>), 細井孝之<sup>3</sup>), 吉田英世<sup>4</sup>), 鈴木隆雄<sup>4</sup>), 折茂 肇<sup>3</sup>), 江見 充 ( <sup>1</sup>) 成人病診療研究所, <sup>2</sup>) 東大・医学部老年病科, <sup>3</sup>) 都老人医療セ, <sup>4</sup>) 都老人総合研究所 ): 骨粗鬆症の SNP 解析 : 関連遺伝子群の同定 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 ( 5 ): 426-429 .
- 13 ) 江面陽一, 岩崎公典, 石田良太, 江見 充 : 骨粗鬆症の SNP 解析 : 関連遺伝子群の同定 . 医のあゆみ 2001 ; 198 ( 9 ): 665-670 .
- 14 ) 永井尚生, 江見 充 : ゲノム地図の作製による癌および疾患遺伝子の同定 . 蛋・核・酸 2001 ; 46 ( 16 ): 2306-2312 .
- 15 ) 江面陽一, 岩崎公典, 石田良太, 江見 充 : SNP の解析 : 解析法の技術的進歩と疾患遺伝子の解析 . ゲノム医 2001 ; 1 ( 3 ): 85-89 .

16) 永井尚生, 寺田淑恵, 江見 充: 癌の個性とオーダーメイド治療. 放射線生物研究 2001 ; 36 (4): 361-374 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 江見 充: 医学情報に基づく新しい医療. 日本医科大学同窓会福島総会, 2001 . 9 .
- 2) 江見 充: 遺伝子診断研究の現況 ~ DNA マイクロアレイと SNP 解析. 第8回出生前診断研究会, 2001 . 11 .
- 3) 江見 充: 乳癌, 甲状腺癌の体系的ゲノム解析. 第17回福島県臨床腫瘍病態研究会, 2002 . 2 .

##### (2) シンポジウム:

- 1) Emi M : Genetic Diagnosis of Post-Operative Prognosis in Breast Cancer Analyses of Breast Cancer . 8th United States-Japan Clinical Trial Summit Breast Cancer ( Kyoto ), 2001 . 4 .
- 2) Emi M : Genetic Analysis of Human Cancer & Common Polygenic Disease at Nippon Medical School . Seminar at University of Hawaii ( Hawaii ), 2001 . 7 .
- 3) 江見 充: 生活習慣病を問い直す 環境かゲノムか. 第55回日本栄養・食糧学会, 2001 . 5 .
- 4) 江面陽一, 岩崎公典, 石田良太, 江見 充: 骨粗鬆症の SNP 解析. 日本医科大学医学会第11回公開「シンポジウム」, 2001 . 6 .
- 5) 平野 明: 乳癌の術後解析. 日本医科大学医学会第11回公開「シンポジウム」, 2001 . 6 .
- 6) 江見 充: ゲノム科学のシンポにもとづく新しい癌研究と臨床応用. 第3回千駄木外科セミナー, 2001 . 6 .
- 7) 江見 充: 遺伝子研究の最近の進歩. 第25回医学系大学倫理委員会連絡会議, 2001 . 7 .
- 8) 江見 充: 体系的ゲノム情報に基づく乳癌・甲状腺癌の個性診断. 第2回ミレニアムプロジェクト「がん・ゲノム・脳」合同シンポジウム, 2001 . 7 .
- 9) 江見 充, 小野秀二, 野辺由紀子, 高田大輔: 高脂血症発症における主遺伝子と修飾遺伝子の関与. 日本人類遺伝学会第46回大会シンポジウム, 2001 . 10 .
- 10) 江見 充, 平野 明, 長幡武光: 乳癌におけるホルモン依存性喪失機序. 第24回日本分子生物学会年会, 2001 . 12 .
- 11) 永井尚生: 肝細胞の発生分化と増殖機構の制御. 第24回日本分子生物学会年会, 2001 . 12 .
- 12) 江面陽一: 骨系細胞の分化増殖制御と骨代謝疾患との関連. 第24回日本分子生物学会年会, 2001 . 12 .

##### (3) 一般講演:

- 1) Iwasaki H, Ishida R, Otsuka H, Suzuki T<sup>1)</sup>, Hosoi T<sup>2)</sup>, Inoue S<sup>3)</sup>, Shiraki M<sup>4)</sup>, Ezura Y, Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>3)</sup> Univ. Tokyo , <sup>4)</sup> Res. Inst. Practice for Involuntional Dis. ): Genome-wide epidemiological Approaches for Osteoporosis Susceptible Genes in Japanese Population . ASBMR 23rd Annual Meeting ( Arizona ), 2001 . 10 .
- 2) 歌田貴仁<sup>1)</sup>, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 清水忠夫<sup>1)</sup>, 今村 洋<sup>1)</sup>, 渡辺 修<sup>1)</sup>, 木下 淳<sup>1)</sup>, 南雲 浩<sup>1)</sup>, 梶原哲郎<sup>1)</sup>, 平野明, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大第二病院外科, <sup>2)</sup> 癌研, <sup>3)</sup> 東大・医科研・ヒトゲノム ): 染色体欠失による n0 乳癌の予後診断. 第101回日本外科学会, 2001 . 4 .
- 3) 永井尚生, 松原謙一<sup>1)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup> 奈良先端科学技術大学院大学 ): 肝癌の発生母地としての肝硬変症における遺伝子及びゲノム変化 DNA 変化の解析. 第37回日本肝臓病学会, 2001 . 5 .
- 4) 長幡武光, 常泉道子, 江見 充, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 長野県がん検診セ, <sup>2)</sup> 癌研 ): 乳癌術後予後の遺伝子診断. 日本医科大学医学会第104回例会, 2001 . 5 .
- 5) 横田 隆, 立澤孝幸<sup>1)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup> 東京労災病院 ): 家族性脊髄上位腫瘍ゲノムにおける第22番染色体長腕の欠失. 日本医科大学医学会第104回例会, 2001 . 5 .
- 6) 平田知己, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 原田晴仁, 江見 充 ( <sup>1)</sup> 外科第二 ): 甲状腺癌の予後と遺伝子異常. 日本医科大学医学会第104回例会, 2001 . 5 .
- 7) 峯 伸也, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 小西英喜<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 永井尚生, 江見 充 ( <sup>1)</sup> 産婦人科学 ): 子宮平滑筋腫の遺伝

- 子診断．日本医科大学医学会第104回例会，2001．5．
- 8) 藤原博道，永井尚生，Sean V. T<sup>1)</sup>，西村奏司<sup>2)</sup>，江見 充<sup>(1) Myriad Genetics, Utah, 2) 泌尿器科</sup>): 遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常．日本医科大学医学会第104回例会，2001．5．
- 9) 石田良太，伊藤博元<sup>1)</sup>，岩崎公典，梶田満子，江面陽一，江見 充<sup>(1) 整形外科</sup>): 骨粗鬆症の遺伝診断．日本医科大学医学会第104回例会，2001．5．
- 10) 高田大輔，仲沢一郎，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1) 内科第二</sup>): SNPs検索による高脂血症の遺伝的解析．日本医科大学医学会第104回例会，2001．5．
- 11) 寺田淑恵，永井尚生，井本逸勢<sup>2)</sup>，稲澤譲治<sup>2)</sup>，桃井真里子<sup>2)</sup>，坂東功一<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1) 外科第一, 2) 東京医歯大・難治研, 3) 自治医大・小児科</sup>): 肝芽腫における遺伝子異常の検討．日本医科大学医学会第104回例会，2001．5．
- 12) 江面陽一，岩崎公典，大塚秀文，石田良太，白木正孝<sup>1)</sup>，井上 聡<sup>2)</sup>，細井孝之<sup>3)</sup>，鈴木隆雄<sup>4)</sup>，江見 充<sup>(1) 成人病診療研, 2) 東大・老年科, 3) 都老人医療セ, 4) 都老人総合研</sup>): 骨粗鬆症のSNP解析．Medical Genetics 研究会，2001．6．
- 13) 岩崎公典，江面陽一，石田良太，梶田満子，小平美奈，江見 充：一塩基置換タイピング法各種の比較検討．Medical Genetics 研究会，2001．6．
- 14) 高田大輔，仲沢一郎，江見 充，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1) 内科第二</sup>): 高脂血症の修飾因子遺伝的解析．Medical Genetics 研究会，2001．6．
- 15) 平田知己，小泉 潔<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>，原田晴仁，江見 充<sup>(1) 外科第二</sup>): 甲状腺癌の予後と遺伝子異常．Medical Genetics 研究会，2001．6．
- 16) 藤本崇司，平野 明<sup>1)</sup>，永井尚生，芳賀駿介<sup>1)</sup>，梶原哲郎<sup>1)</sup>，中村祐輔<sup>2)</sup>，江見 充<sup>(1) 東京女子医大第二病院外科, 2) 東大・医科研・ヒトゲノム</sup>): 乳癌のcDNA マイクロアレイ解析．第10回日本癌病態治療研究会，2001．6．
- 17) 江見 充：ゲノム科学の進歩にもとづく新しい癌研究と臨床応用．第3回千駄木外科セミナー，2001．6．
- 18) 常泉道子，永井尚生，原田晴仁，井本逸勢<sup>2)</sup>，稲澤譲治<sup>2)</sup>，井上 聡<sup>2)</sup>，数井暉久<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1) 浜松医大, 2) 東京医歯大・難治研, 3) 東大・老年科</sup>): 乳癌術後の病理遺伝子診断．第10回日本乳癌学会，2001．6．
- 19) 平野 明，永井尚生，芳賀駿介<sup>1)</sup>，歌田貴仁<sup>1)</sup>，梶原哲郎<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，坂元吾偉<sup>3)</sup>，中村裕輔<sup>4)</sup>，江見 充<sup>(1) 東京女子医大第二病院外科, 2) 癌研・外科, 3) 癌研・病理, 4) 東大・医科研・ヒトゲノム</sup>): cDNA マイクロアレイを用いた乳癌の遺伝子発現解析．第10回日本乳癌学会，2001．6．
- 20) 長幡武光，永井尚生，土屋眞一<sup>1)</sup>，三木義男<sup>2)</sup>，霞富士雄<sup>3)</sup>，江見 充<sup>(1) 長野県がん検診セ, 2) 癌研・研, 3) 癌研・外科</sup>): 乳癌術後の病理遺伝子診断．第10回日本乳癌学会，2001．6．
- 21) 永井尚生，江見 充：癌の個性とオーダーメイド治療．第31回日本医学放射線学会，2001．7．
- 22) Feng Dongyun<sup>1, 2)</sup>，腰原康子<sup>2)</sup>，石橋英明<sup>3)</sup>，山本精三<sup>3)</sup>，太田信孝，江見 充，細井孝之<sup>3)</sup>，折茂 肇<sup>3)</sup>(<sup>1) 埼玉大, 2) 東京都老人総合研究所, 3) 東京都医療センター</sup>): ヒト骨髄細胞培養系におけるIL-6産生と骨量について とくにIL-6遺伝子多型との関連．第19回日本骨代謝学会，2001．8．
- 23) 江見 充，平野 明，常泉道子，長幡武光，梶原哲郎<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，坂元吾偉<sup>3)</sup>，中村祐輔<sup>4)</sup>(<sup>1) 女子医大・二病, 2) 癌研・外科, 3) 癌研・病理, 4) 東大・医科研・ヒトゲノム</sup>): 乳癌のcDNA マイクロアレイによる体系的遺伝子発現解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 24) 永井尚生，寺田淑恵，馬場 優<sup>1)</sup>，矢部 彩，長幡武光，岩崎公典，江見 充<sup>(1) 三重県総合医療セ</sup>): 肝硬変再生結節における遺伝子及びゲノムDNA変化の解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 25) 原田晴仁，吉田祥子，野辺由紀子，江面陽一，江見 充：Wntシグナル伝達系に関わるヒトnemo-like kinase (NLK) 遺伝子の構造解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 26) 横田 隆，吹野晃一<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1) 脳神経外科学</sup>): cDNA マイクロアレイを用い

- た神経膠腫の遺伝子発現解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 27) 長幡武光，小坂夏紀，清水將史，永井尚生，江見 充：B型肝炎ウイルス産生癌細胞株における遺伝子発現プロファイルの体系的解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 28) 寺田淑恵，永井尚生，藤元治朗<sup>2)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>外科第一，<sup>2)</sup>兵庫医大)</sup>：cDNA マイクロアレイを用いた肝臓癌の段階的遺伝子発現様式の検討．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 29) 藤原博通，永井尚生，羽瀨友則<sup>1)</sup>，小西 登<sup>2)</sup>，執印太郎<sup>3)</sup>，窪田吉信<sup>4)</sup>，西村泰司<sup>5)</sup>，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>秋田大，<sup>2)</sup>奈良医大，<sup>3)</sup>高知医大，<sup>4)</sup>横浜市立大，<sup>5)</sup>泌尿器科学)</sup>：日本・米国間の遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の変異スペクトラムの比較検討．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 30) 常泉道子，永井尚生，磯垣 淳<sup>1)</sup>，吉田雅行<sup>1)</sup>，数井暉久<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>浜松医大)</sup>：cDNA マイクロアレイを用いた乳癌の抗癌剤感受性の検討．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 31) 吉田祥子，原田晴仁，阿竹智子，古口智子，江見 充：ヒト乳癌におけるFas-associated phosphatase-1 (FAP-1) 遺伝子のゲノム構造解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 32) 中川内哲治<sup>1)</sup>，副島英伸<sup>1)</sup>，佐藤勇司<sup>1)</sup>，松倉史朗<sup>1)</sup>，北島吉彦<sup>2)</sup>，原田晴仁，中別府雄作<sup>3)</sup>，関口睦夫<sup>4)</sup>，宮崎耕治<sup>2)</sup>，江見 充，向井常博<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>佐賀医大・医・生化，<sup>2)</sup>佐賀医大・医・外，<sup>3)</sup>九大・生医研・生化，<sup>4)</sup>福岡歯大・生物)</sup>)：プロモーター領域のメチル化によるO6メチルグアニンDNAメチルトランスフェラーゼ(MGMT)の転写制御．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 33) 安居幸一郎<sup>1)</sup>，有井滋樹<sup>2)</sup>，上田政和<sup>3)</sup>，永井尚生，江見 充，稲澤譲治<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>東京医歯大・難治研，<sup>2)</sup>東京医歯大・分子外科治療学，<sup>3)</sup>慶應大・医・外科)</sup>)：肝細胞癌における13q34遺伝子増幅領域の解析．第60回日本癌学会総会，2001．9．
- 34) 江見 充，平田知己，原田晴仁，小泉 潔<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>(<sup>1)</sup>外科第二)</sup>)：甲状腺癌の予後とDNA診断．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 35) 永井尚生，寺田淑恵，馬場 優<sup>1)</sup>，矢部 彩，長幡武光，岩崎公典，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>三重県立総合医セ・内科)</sup>：肝硬変再生結節における遺伝子及びゲノムDNA変化の解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 36) 原田晴仁，吉田祥子，野辺由紀子，江面陽一，江見 充：Wntシグナル伝達系に関わるヒトnemo-like kinase (NLK) 遺伝子の構造解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 37) 横田 隆，吹野晃一<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学)</sup>：骨粗鬆症の体系的SNP解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 38) 梶田満子，岩崎公典，石田良太，横田 隆，小平美奈，江面陽一，江見 充：蛍光標識を用いたSNP依存性PCR (SNP dependent-PCR ; Sd-PCR) による多型タイピング法の開発．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 39) 常泉道子，永井尚生，磯垣 淳<sup>1)</sup>，吉田雅行<sup>1)</sup>，数井暉久<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>浜松医大・一外)</sup>：CDNA マイクロアレイを用いた乳癌の抗癌剤感受性の検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 40) 寺田淑恵，永井尚生，藤元治朗<sup>2)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>外科第一，<sup>2)</sup>兵庫医大・一外)</sup>：cDNA マイクロアレイを用いた肝臓癌の段階的遺伝子発現様式の検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 41) 藤原博通，永井尚生，Sean V. T<sup>2)</sup>，西村泰司<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科学，<sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah)</sup>：白人および日本人における遺伝性前立腺癌遺伝子HPC2の異常．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 42) 岩崎公典，江面陽一，石田良太，梶田満子，小平美奈，江見 充：11mer オリゴ・マイクロアレイによるハイブリダイゼーション法を用いたSNPタイピングの検討．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 43) 吉田祥子，原田晴仁，阿竹智子，古口智子，江見 充：ヒト乳癌におけるFas-associated phosphatase-1 (FAP-1) 遺伝子のゲノム構造解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 44) 長幡武光，常泉道子，野辺由紀子，横山史朗<sup>1)</sup>，永井尚生，江見 充<sup>(<sup>1)</sup>長野日赤病院・外科)</sup>：乳癌の体系的



遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．

- 45) 高田大輔，仲沢一郎，梶田満子，野辺由紀子，江見 充，飯野靖彦，片山泰朗<sup>(1)</sup>横浜市大・第二内科): 家族性高脂血症における LDL 受容体とアポ AII 変異の遺伝子相互作用．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 46) 石田良太，江面陽一，岩崎公典，横田 隆，梶田満子，小平美奈，伊藤博元<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1)</sup>整形外科学): SNP 依存性 PCR ( SNP-dependent PCR ) による SNP 解析法の開発．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 47) 平田知己，長幡武光，寺田淑恵，常泉道子，横山史朗<sup>1)</sup>，永井尚生，江見 充<sup>(1)</sup>長野日赤病院・外科): 腫瘍径別にみた乳癌の体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 48) 藤本崇司，長幡武光，寺田淑恵，常泉道子，横山史朗<sup>1)</sup>，永井尚生，江見 充<sup>(1)</sup>長野日赤病院・外科): 腋窩リンパ節転移陽性乳癌の体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 49) 八田充子，長幡武光，寺田淑恵，常泉道子，横山史朗<sup>2)</sup>，永井尚生，荒木 勤<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1)</sup>産婦人科学，<sup>2)</sup>長野日赤病院・外科): エストロゲンレセプター陽性乳癌の体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 50) 小野秀二，高田大輔，江見 充，梅村 敏<sup>(1)</sup>横浜市立大・第二内科): HDL-C レベルへの LDL 受容体とアポ L の遺伝子相互作用．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 51) 津曲幸二，長幡武光，寺田淑恵，常泉道子，横山史朗<sup>1)</sup>，永井尚生，江見 充<sup>(1)</sup>長野日赤病院・外科): 乳癌の臨床病理学的因子と体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 52) 小坂夏紀，清水將史，長幡武光，横山史朗<sup>1)</sup>，永井尚生，江見 充<sup>(1)</sup>長野日赤病院・外科): 1p34-36LOH 陽性乳癌の体系的遺伝子発現解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 53) 清水將史，小坂夏紀，長幡武光，永井尚生，土屋眞一<sup>2)</sup>，秋山 太<sup>3)</sup>，坂元吾偉<sup>3)</sup>，吉本賢隆<sup>3)</sup>，霞富士雄<sup>3)</sup>，柴 忠義<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里大・分子生物，<sup>2)</sup>長野県がん検診セ，<sup>3)</sup>癌研・病理・外科): 乳癌術後予後の病理遺伝子診断．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 54) 江面陽一，岩崎公典，石田良太，江見 充，白木正孝<sup>1)</sup>，井上 聡<sup>2)</sup>，細井孝之<sup>3)</sup>，折茂 肇<sup>3)</sup>，吉田英世<sup>3)</sup>，鈴木隆雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>成人病診療研，<sup>2)</sup>東大・老年科，<sup>3)</sup>都老人医療セ，<sup>4)</sup>都老人総合研・疫学): 骨粗鬆症の体系的 SNP 解析．第69回日本医科大学医学会総会，2001．9．
- 55) 岩崎公典，江面陽一，石田良太，梶田満子，小平美奈，江見 充: 11mer オリゴ・マイクロアレイによるハイブリダイゼーション法を用いた SNP タイピングの正確性についての検討．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．
- 56) 長幡武光，平野 明，常泉道子，横山史朗<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，坂元吾偉<sup>3)</sup>，中村祐輔<sup>4)</sup>，江見 充<sup>(1)</sup>長野日赤病院・外科，<sup>2)</sup>癌研・外科，<sup>3)</sup>癌研・病理，<sup>4)</sup>東大・医科研・ヒトゲノム): 乳癌の cDNA マイクロアレイによる体系的遺伝子発現解析．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．
- 57) 藤原博道，永井尚生，Sean V. T<sup>1)</sup>，西村泰司<sup>2)</sup>，江見 充<sup>(1)</sup>泌尿器科，<sup>2)</sup>Myriad Genetics, Utah): 白人および日本人における遺伝性前立腺癌遺伝子 HPC2 の異常．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．
- 58) 高田大輔，仲沢一郎，江見 充，飯野靖彦<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第二): 家族性高脂血症における LDL 受容体とアポ A2 変異の遺伝子相互作用．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．
- 59) 石田良太，江面陽一，岩崎公典，横田 隆，梶田満子，小平美奈，江見 充: SNP 依存性 PCR ( SNP-dependent PCR ) による SNP 解析法の開発．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．
- 60) 小野秀二，高田大輔，江見 充，梅村 敏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市大・第二内科): HDL-C レベルへの LDL 受容体とアポ L の遺伝子相互作用．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．
- 61) 永井尚生，寺田淑恵，馬場 優<sup>1)</sup>，矢部 彩，藤本崇司，津曲幸二，長幡武光，岩崎公典，江見 充<sup>(1)</sup>三重県立総合医療セ・内科): 肝発癌過程における遺伝子及びゲノム DNA 変化の解析．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．
- 62) 原田晴仁，永井尚生，常泉道子，山口健次郎<sup>1)</sup>，大植千春<sup>1)</sup>，江見 充<sup>(1)</sup>(株)先端生命科学研): 高頻度 LOH 領域 4q21-22 からの新規 NAP 類似遺伝子の単離．日本人類遺伝学会第46回大会，2001．10．

- 63) 江面陽一, 岩崎公典, 石田良太, 江見 充, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 折茂 肇<sup>3)</sup>, 吉田英世<sup>4)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>成人病診療研, <sup>2)</sup>東大・老年科, <sup>3)</sup>都老人医療セ, <sup>4)</sup>都老人総合研): 骨粗鬆症の体系的SNP解析. 日本人類遺伝学会第46回大会, 2001. 10.
- 64) 横田 隆, 吹野晃一<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>脳神経外科): 神経膠腫発生進展の体系的遺伝子発現解析. 日本人類遺伝学会第46回大会, 2001. 10.
- 65) 高津圭介, 平田知己, 永井尚生, 長浜充二<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup>外科第二, <sup>2)</sup>伊藤病院): 甲状腺乳頭癌のcDNA マイクロアレイによる体系的遺伝子発現解析. 第44回日本甲状腺学会, 2001. 11.
- 66) 藤本崇司, 長幡武光, 常泉道子, 横山史朗<sup>1)</sup>, 清水忠夫<sup>2)</sup>, 今村 洋<sup>2)</sup>, 渡辺 修<sup>2)</sup>, 木下 淳<sup>2)</sup>, 歌田貴仁<sup>2)</sup>, 平野 明<sup>2)</sup>, 加藤博之<sup>2)</sup>, 芳賀駿介<sup>2)</sup>, 梶原哲郎<sup>2)</sup>, 永井尚生, 江見 充(<sup>1)</sup>長野日赤病院・外科, <sup>2)</sup>東京女子医大・二病・外科): マイクロアレイを用いた乳癌の体系的遺伝子発現解析. 第14回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2001. 12.
- 67) 中川内哲治<sup>1)</sup>, 副島英伸<sup>1)</sup>, 佐藤勇司<sup>1)</sup>, 松倉史朗<sup>1)</sup>, 北島吉彦<sup>2)</sup>, 原田晴仁, 中別府雄作<sup>3)</sup>, 関口睦夫<sup>4)</sup>, 宮崎耕治<sup>2)</sup>, 江見 充, 向井常博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>佐賀医大・医・生化, <sup>2)</sup>佐賀医大・医・外, <sup>3)</sup>九大・生医研・脳機能, <sup>4)</sup>福岡歯大・生物): プロモーター領域のメチル化による06-メチルグアニンDNAメチルトランスフェラーゼ(MGMT)の転写制御. 第24回日本分子生物学会年会, 2001. 12.

## [ 臨床部門 ]

### 研究概要

当部門は大坂元久1名なので、以下大坂の研究テーマである。

1. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で、慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究している。とくに自律神経の関連から検討している。従来は予想されていても実証できなかった自律神経の1Hz以下のゆらぎに高血圧、腎血流に関わる成分があることを発見し、その生理学的意味を明らかにした。さらにその自律神経のゆらぎは中枢由来で、従来異論のあったノイズ説を否定する結果になった。これは大坂が考案した計算方法を用いて、無麻酔覚醒状態のラットで初めて実証された。Circulationに掲載予定である。今後、高血圧の薬物療法の新しい枠組みを考案する予定である。
2. 心拍変動は長い周期の交感神経活動に関わっていることを無麻酔覚醒状態のラットから見出した。これにもとづいて心拍変動の1/fゆらぎモデルを考案して現在投稿中である。
3. 京大生理解研の野間教授と心筋イオンチャンネルのモデルを考案することを目指している。非線形理論をもちいて洞結節の自動能に関与するイオンチャンネルの種類数を推定した。現在、この成果を投稿中である。
4. 第一内科の研究班と、QT間隔不均一性と不整脈出現の関連、房室結節の伝導性と自律神経の関連を共同研究している。
5. 成長ホルモンの分泌の時間的変動には性差があり、雄と雌で異なる分泌機構なのかそれとも基本的には同じ機構だが調節パラメーターに相違があるだけなのかまったく不明である。そこで、これを明らかにするために老人病研究所南教授のグループとの共同研究で、ラットの実験データにもとづいて数理モデルを作成中である。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Osaka M, Gohara K<sup>1)</sup>, Ishii S<sup>2)</sup>, Ito N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept of Engineering, Hokkaido Univ, <sup>2)</sup> Nara Institute of Science and Technology, <sup>3)</sup> Dept of Engineering, The University of Tokyo ): A model on spatial 1/f spectra of DNA sequences . 4th International Conference on Biological Physics ( Kyoto ), 2001 . 7 .
- 2) 大坂元久：時間遅れのある生体コントロール系の次元解析。第5回生体カオス研究会，2001．9．
- 3) 松本 真，平山悦之<sup>1)</sup>，齋藤寛和<sup>1)</sup>，岩崎雄樹<sup>1)</sup>，大野則彦<sup>1)</sup>，緒方憲一<sup>1)</sup>，大坂元久<sup>1)</sup>，小林義典<sup>1)</sup>，清野精彦<sup>1)</sup>，新 博次<sup>1)</sup>，加藤貴雄<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科第一)：基礎疾患別に検討した重症心室性不整脈予測におけるT-wave alternans ( TWA ) の有用性。第18回日本心電学会学術集会，2001．10．
- 4) 佐方克史<sup>1)</sup>，熊谷裕生<sup>1)</sup>，大坂元久，松浦友一<sup>1)</sup>，今井正樹<sup>1)</sup>，大波敏子<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>2)</sup>，猿田亨男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶応義塾大学医学部腎臓内科，<sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所病理部門)：カンデサルタン慢性経口投与によりSHRの腎交感神経活動 ( RSNA ) は低下し，RSNAと血圧 ( BP ) ・腎血流量 ( RBF ) とのコヒーレンス ( 相関性 ) は低下した。第24回日本高血圧学会総会，2001．10．

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成 13 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究者代表	所属・職	交付額 (千円)	研究課題
特定領域研究(A)(2)		西野 朋子	生化学第一・助手	1,800	複反応中心をもつ金属フラビン蛋白質群の構造と機能
特定領域研究(B)(2)		池島三与子	生化学第二・講師	8,500	Muts ヘテロダイマーによるミスマッチ認識機構の解析
"		西野 武士	生化学第一・教授	3,800	金属が関与するセンサーとスイッチのケミカルバイオロジー
"		西野 武士	生化学第一・教授	14,000	活性酸素種による遺伝子発現誘導の分子基盤
特定領域研究(C)(2)		江見 充	老人病研究所・教授	12,800	体系的遺伝子異常解析に基づく乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断法の開発
"		島田 隆	生化学第二・教授	11,200	HIV ベクターの開発
"		太田 成男	老人病研究所・教授	5,000	糖尿病の危険因子としてのミトコンドリア遺伝子ヘテロプラズミー変異
"		程 久美子	薬理学・助教授	5,600	運動ニューロンの生存および維持に關与する分子の同定と機能の解析
"		杉田 昌彦	微生物学・免疫学・教授	5,300	結核菌感染樹状細胞における、CD1分子を介した脂質抗原提示経路の解明
基盤研究(B)(1)一般		坂本 長逸	内科学第三・教授	5,500	EGF 様構造と follistatin 様構造から成る新規蛋白質の消化管における役割
基盤研究(B)(2)一般		長谷場 健	法医学・講師	2,300	細胞防御系ハウスキーピング酵素 Class III ADH のアルコール代謝における役割
"	"	川並 汪一	老人病研究所・教授	3,500	肺の微小血管内皮細胞の cDNA 作製と特異プローブの検討
"	"	南 正康	衛生学・公衆衛生学・教授	2,900	サリンおよびサリン合成時の副生成物による長期的人体影響に関する研究
"	"	太田 成男	老人病研究所・教授	3,400	神経変性疾患の危険因子としてのミトコンドリアに蓄積するアルデヒド関連化合物の役割
"	"	荒木 勤	産婦人科学・教授	4,200	胎児脳の ischemic preconditioning による虚血耐性発現機構
"	"	八木 聡明	耳鼻咽喉科学・教授	3,000	前庭性眼球運動の両眼同時記録とその3次元解析
"	"	田中 信之	老人病研究所・教授	5,500	転写因子 p53 による細胞周期、アポトーシスの制御機構の解析
"	"	西野 武士	生化学第一・教授	6,900	フリーラジカルを生成する複合金属フラビン酵素の構造と機能
基盤研究(C)(1)一般		今城 俊浩	老人病研究所・講師	1,800	CRF の鎮痛作用の解明 ノックアウトマウスを用いた解析
基盤研究(C)(2)一般		今城 純子	解剖学第一・講師	800	ラット大脳皮質における c-fos 発現の日内変動とその発現機構
"	"	長島 隆	哲学・倫理学・助教授	800	ドイツ観念論(シェリング,ヘーゲルを中心とする)における自然哲学の研究
"	"	安武 正弘	内科学第一・講師	700	心筋ミトコンドリア Na <sup>+</sup> / H <sup>+</sup> 交換系と Ca <sup>2+</sup> イオン動態, redox 状態との関連

基盤研究(C)(2)一般	新 博次	内科学第一・助教授	500	心房筋電気生理学的特徴における renin-angiotensin 系の役割
"	" 清水 章	病理学第一・講師	900	同種腎移植における免疫寛容(トランス)導入と移植臓器における免疫応答の特異性
"	" 吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	400	悪性グリオーマ細胞における微小管蛋白の微小管阻害剤投与時の細胞内動態
"	" 坂本 篤裕	麻酔科学・助教授	700	一酸化窒素および一酸化炭素変動からみたショック時の循環動態変動とその対策
"	" 明樂 重夫	産婦人科学・講師	700	ラット視床下部 CRF mRNA の感染ストレスに対する応答への NOS の関与
"	" 野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	800	好酸球性炎症における気道構築細胞(特に線維芽細胞)の役割について
"	" 西谷 里美	生物学・講師	1,800	変動環境におけるプレフォーメーションの意義:北極圏のムカゴトラノオを例として
"	" 近藤 保彦	生理学第一・助手	1,000	雌ラットの性的動機づけと嗅覚神経系による調節
"	" 折茂 英生	生化学第二・助教授	1,600	ヒト骨芽細胞におけるアルカリホスファターゼ遺伝子の脂溶性ビタミンによる発現調節
"	" 阿部 靖子	生化学第一・講師	1,400	細胞内レドックス制御機構におけるヘム結合蛋白質 HBP23 の機能解析
"	" 大野 曜吉	法医学・教授	800	Aconitine・Tetrodotoxin 混合投与時の生体内薬物動態の解明
"	" 真下 啓子	法医学・助手	600	エタノールによるミトコンドリアの融合と巨大化
"	" 三宅 一昌	内科学第三・助手	900	胃粘膜に誘導された COX2 粘膜保護作用の解析と選択的 COX2 阻害剤の影響
"	" 吾妻安良太	内科学第四・講師	1,100	間質性肺炎における血管内皮細胞接着阻止,組織浸潤抑制による基礎的治療研究
"	" 福田 悠	病理学第一・助教授	700	プレオマイシン肺線維症におけるマトリックスメタロプロテアーゼ 2 の役割
"	" 五十嵐博中	内科学第二・講師	600	多核磁気共鳴法を用いた脳賦活時のエネルギー代謝の解明
"	" 片山 泰朗	内科学第二・教授	1,000	脳虚血耐性現象のメカニズムの解明 Caspase の関与
"	" 山本 剛	内科学第一・助手	900	心不全進展時における高親和性受容体, アレスチン, 及び受容体キナーゼの役割
"	" 中込 明裕	内科学第一・助手	1,200	心不全患者の単球上 TNF- $\alpha$ 産生における CRP の関与
"	" 佐藤 直樹	内科学第一・助手	600	心不全進展過程における延髄のイミダゾリン-1受容体と $\alpha$ 2アドレナリン受容体の変化
"	" 勝部 康弘	小児科学・講師	1,100	血管平滑筋における酸素感受性イオンチャンネルに関する研究

基盤研究(C)(2)一般	深澤 隆治	小児科学・助手	1,200	増殖因子 Neuregulin と心筋緻密層形成不全,心筋リモデリングとの関係の解明	
"	"	田島 廣之	放射線医学・助教授	500	致命的急性肺血栓栓症に対する血栓破砕吸引療法の基礎並びに臨床応用に関する研究
"	"	保坂 純郎	放射線医学・講師	600	超音波検査による下肢静脈血流および弁機能の解析 静脈疾患危険因子の同定
"	"	横室 茂樹	外科学第一・助手	900	胆管上皮の癌化に対するサイトカイン IL-6, HGF, TGF- $\beta$ 1 の役割
"	"	秋丸 琥甫	外科学第二・助教授	900	腹膜を用いた門脈再建
"	"	寺本 明	脳神経外科学・教授	800	下垂体 incidentaloma の臨床・組織学的検討
"	"	山王 直子	脳神経外科学・講師	900	下垂体腺腫の機能分化・増殖における転写活性因子と各種受容体の相互作用に関する研究
"	"	竹田 晋浩	麻酔科学・講師	1,300	ケミカルメディエーターによる延髄呼吸中枢抑制メカニズムの解明
"	"	池崎 弘之	麻酔科学・助手	600	微小循環不全に対する抗炎症剤の果たす役割の解明
"	"	小川 龍	麻酔科学・教授	500	ショック及び臓器不全発生機序における一酸化炭素ラジカルの役割
"	"	石川 源	産婦人科学・助手	900	胎児虚血心筋における No Reflow 現象の制御
"	"	百束 比古	形成外科学・教授	1,000	ケロイド:肥厚性癬痕の分子病態の解明;無癬痕外科治療をめざし
"	"	程 久美子	薬理学・助教授	900	ショウジョウバエをモデルとしたステロイドホルモンによるアポトーシス誘導機構の解析
"	"	杉本 啓治	解剖学第一・助教授	2,400	ジアミノフルオルセインジアセテートとアルデヒド基による内皮細胞内 NO の固定検出
"	"	佐藤(折笠)千登世	生理学第一・助手	2,200	排卵調節におけるエストロゲン受容体の生理機能に関する研究
"	"	高橋 秀実	微生物学・免疫学・教授	1,500	ヘリコバクター・ピロリのウレアーゼ活性を抑制する抗体の認識エピトープの同定
"	"	和田 謙	内科学第三・助手	1,800	胃病変における IL-1 による EGF 様増殖因子と EGF 受容体の発現調節に関する研究
"	"	石渡 俊行	病理学第二・講師	1,100	慢性膵炎における線維芽細胞増殖因子(FGF)-10 の発現と役割
"	"	弦間 昭彦	内科学第四・講師	2,300	樹立したヒト肺癌高転移株による高転移能の機序の解明と臨床応用可能な分子の選択
"	"	桂 研一郎	内科学第二・講師	1,500	アシドーシスにより増悪する虚血性神経細胞障害の分子生物学的機構の解明
"	"	神谷 達司	内科学第二・講師	1,800	虚血脳損傷におけるトロンビンの Apoptosis 誘導作用のメカニズムの解明
"	"	平山 悦之	内科学第一・助手	2,000	Electrotonic interaction が心筋 M 細胞に及ぼす効果
"	"	丸 栄一	生理学第二・助教授	2,300	てんかん防御機構における海馬顆粒細胞新生の役割に関する実験的研究

基盤研究(C)(2) 一般	浅野 健	小児科学・講師	700	薬剤耐性癌腫における薬剤耐性とトポイソメラーゼ遺伝子のエピジェネティクスの研究	
"	"	猪口 孝一	内科学第三・助教授	2,200	変異 p51/p63 ,calpastatin 導入 bcr/abl-Tg マウス病態解析
"	"	亀谷 純	内科学第三・講師	1,800	グレリンの中樞作用
"	"	及川 眞一	内科学第三・教授	1,800	新しい糖尿病発症機序の解明: 血中過酸化脂質の増加による膵細胞障害について
"	"	木山 輝郎	外科学第一・助手	1,700	創傷治癒におけるマトリックス・メタロプロテアーゼの発現と機能解析
"	"	田尻 孝	外科学第一・助教授	900	脾静脈血行動態の肝線維化に及ぼす影響
"	"	鈴木 成治	外科学第一・助手	1,200	CGH 法と定量的経時的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織の新しい遺伝子診断
"	"	坊 英樹	外科学第一(消化器病センター)・助手	1,100	食道扁平上皮癌に対する放射線照射効果のジーンフィルターによる解析
"	"	新田 隆	外科学第二・助教授	500	左心房容量負荷モデルにおける心房細動の電気生理学的機序
"	"	羽鳥 信郎	外科学第二・助教授	1,000	心臓外科手術侵襲と接着分子: 特に白血球と血管内皮接着分子の遺伝子発現
"	"	北村 晶	麻酔科学・講師	2,000	全身麻酔薬の中樞神経系シナプス・イオンチャンネルレベルへの作用
"	"	米山 剛一	産婦人科学・講師	1,500	HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) を用いた卵巣癌遺伝子治療への戦略
"	"	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・助教授	1,100	内耳自己免疫病における内耳免疫傷害機序解明の研究
"	"	ルビー・パワンカール	耳鼻咽喉科学・講師	2,100	アレルギー性鼻炎における鼻粘膜上皮層内への肥満細胞集積の機序: 肥満細胞の subset MC(T) と MC(TC) の役割
"	"	石崎 正通	病理学第一・助教授	1,500	胎生期限組織および損傷角膜における Epimorphin の発現動態と役割について
"	"	ガジザデ・モハマッド	老人病研究所・助教授	900	ケロイド発生に關与する遺伝子群の同定
"	"	川井 真	救急医学・助教授	2,000	救急医療における卒後教育モデルの開発とデジタル画像教育効果の研究
"	"	加藤 昌克	生理学第一・助教授	1,900	内側視索前野 GnRH ニューロンの解析から思春期発来機構を考える
萌芽的研究		佐久間康夫	生理学第一・教授	700	トランスジェニックラットにおけるエストロゲン受容体陽性ニューロンの選択的破壊
"		川並 汪一	老人病研究所・教授	1,100	肺胞壁の線維化過程における血管内皮細胞の役割について
奨励研究(A)		濱田 知宏	生理学第一・助手	900	エストロゲンによるロードシス反射発現に伴う視床下部ニューロン興奮特性の変化



奨励研究(A)	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	1,000	有機リン農薬によるNK細胞及び細胞傷害性T細胞活性低下とそのメカニズム
"	横瀬 紀夫	内科学第三・助手	600	老化によるナチュラルキラー細胞活性の低下に関する基礎的検討
"	浅井 邦也	内科学第一・助手	1,100	心不全進展過程における性ホルモンの役割
"	植田 高弘	小児科学・助手	800	NOD/SCIDマウスを用いたヒト造血幹細胞の体外増幅法の研究
"	三石 剛	皮膚科学・助手	800	臓器移植患者に生じた疣贅病変におけるヒト乳頭腫ウイルスの遺伝子型と発癌能の解析
"	町田 稔	放射線医学・助手	600	光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた不安定ブランク形成過程の早期検出および阻害
"	渡辺 昌則	外科学第一(消化器病センター)・助手	500	大腸癌における線維芽細胞増殖因子グループとレセプターの発現に関する研究
"	三上 巖	外科学第二・助手	1,000	肺癌新規癌抑制遺伝子の単離
"	田原 重志	脳神経外科学・助手	400	脳下垂体腺腫におけるホルモンの開口分泌を制御する因子に関する基礎的研究
"	渡邊 健一	耳鼻咽喉科学・助手	800	誘導型一酸化窒素合成酵素阻害によるシスプラチンの蝸牛障害軽減の試み
"	中島 英逸	生化学第二・助手	900	インタグラーゼ活性を利用した非ウイルス性遺伝子組込みベクターの開発
"	山本 直之	解剖学第二・講師	800	中脳のゴナドトロピン放出ホルモン細胞への入力
"	石川 朋子	解剖学第一・助手	1,700	肝実質細胞の部位差に基づく領域区分と各種血管樹との肝葉内立体配置の観察
"	岡本 研	生化学第一・助手	1,100	X線結晶解析及び、部位特異的変異法によるキサンチン脱水素酵素の構造・機能の研究
"	恩田 宗彦	病理学第二・助手	1,200	糖尿病例の動脈硬化病変に対する糖化物質と脂質過酸化産物の傷害性についての検討
"	二神 生爾	内科学第三・助手	1,400	消化管上皮細胞を介した粘膜内T細胞への刺激伝達の解析
"	原田 晴仁	老人病研究所・助手	1,100	cDNAマイクロアレイによる甲状腺癌関連遺伝子の検索
"	周東 祐仁	内科学第三・助手	1,100	グレリンおよびgrowth hormone secretagogue(GHS)の性腺系への作用の検討
"	新井 悟	病理部・助手	1,400	CGH法による肺癌細胞の放射線照射に対する感受性判定
"	村井 保夫	脳神経外科学・助手	1,600	下垂体腺種の増殖能、浸潤能における分子生物学的検討
"	鈴木 康友	泌尿器科学・助手	1,500	ホルモン不応性前立腺癌におけるレドックス制御機構に関する検討
"	嘉村恵理子	耳鼻咽喉科学・助手	400	空間認識における耳石器の役割について
"	小津 千佳	耳鼻咽喉科学・助手	800	アレルギー性鼻炎における上皮細胞の新たなる役割・DEPによる影響

奨励研究(A)	堀 純子 眼科学・助手	1,400	角膜移植後の拒絶反応を回避するキメラ角膜組織の作成および免疫特権の機序の解明
"	永野 昌俊 薬理学・助手	1,100	新しいモデル動物を用いた神経因性疼痛の上位中枢に及ぼす可塑的变化の検討
特別研究員奨励費	佐藤(織田) 老人病研究所・助手 恵理	1,500	p53の標的遺伝子 Noxa による癌化とアポトーシスの制御機構

2. 平成 13 年度科学研究費補助金(分担研究)の採択・交付状況

研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研究課題名
1 高市 真一 生物学	基盤研究(C)企画	南後 守 名古屋工業大学	光エネルギー変換の組織化とその機能解析
2 高橋 秀実 微生物学・免疫学	特定領域研究(1)	内山 卓 京都大学大学院医学研究科	エイズ制御のための基礎研究 柱2. HIV 感染症の病変と免疫
3 及川 真一 内科学第三	基盤研究(C)	宮澤 陽夫 東北大学大学院農学研究科	粥状動脈硬化における HDL の脱泡沫化作用への過酸化リ ン脂質の関与とその画像化
4 及川 真一 内科学第三	基盤研究(C)	斉藤 喬 福岡大学医学部	アポ蛋白 E 遺伝子導入実験モ デルによるリポ蛋白系球体症 発症機序の解析
5 小川 俊一 小児科学	基盤研究(C)	赤木 禎治 久留米大学医学部	川崎病冠動脈病変に対するカ テーテル治療の遠隔成績に関 する多施設研究
6 太田 成男 老人病研究所	特定領域研究(A1)	井原 康夫 東京大学大学院医学系研究科	脳科学の先端的研究
7 田中 信之 老人病研究所	特定領域研究(A1)	仲野 徹 大阪大学微生物学研究所	転写調節による造血分化制御
			補助金額合計 17,145,000 円

3. 平成 13 年度厚生省科学研究費補助金(主任研究・分担研究)の交付状況

研究者・所属	主任 分担	研究事業名・主任研究者・所属	研究課題名
1 高市 真一 生物学	分担	研究情報データベース化事業・ 大島美恵子・国立国際医療センター研究 所	生理活性脂質データベース
2 柴崎 保 生理学第二	分担	特定疾患対策研究事業・ 中尾一和・京都大学医学部	中枢性摂食異常症に関する調査研 究
3 柴崎 保 生理学第二	分担	長寿科学総合研究事業・ 寒川賢治・国立循環病センター	新規ホルモン・グレリンの生理的意 義と老化における役割の解明
4 福田 悠 病理学第一	分担	びまん性肺疾患調査研究・ 工藤翔二・日本医科大学	NSZP, Boop のモデルとしての Mmp-2KO マウス
5 高橋 秀実 微生物・免疫学	分担	エイズ対策研究事業・ 竹森利忠・国立感染症研究所	HIV 感染予防に関する研究
6 木村 哲彦 医療管理学	主任	医療技術評価総合研究事業	アウトカムによるリハビリテー ション病院の機能評価に関する研 究開発
7 木村 哲彦 医療管理学	分担	21 世紀型医療開拓推進研究事業・ 白井康正・日本医科大学	科学的根拠に基づいた腰痛症診療 ガイドラインの策定に関する研究
8 太田 久彦 医療管理学	主任	医療技術評価総合研究事業	情報技術を応用した老人リハビリ テーション評価書の基づくアウト カムデータベースの構築
9 岸田 浩 内科学第一	分担	ニトゲノム・再生医療等研究事業・ 千葉 寛・千葉大学薬学部	有害反応の回避を目指した副作用 原因遺伝子の同定と SNP の探索
10 片山 泰朗 内科学第二	分担	21 世紀型医療開拓推進研究事業・ 成富博章・国立循環器病センター	脳梗塞急性期の具体的な医療手順 に関する調査研究
11 吉野 慎一 リウマチ科	主任	感覚器障害及び免疫・アレルギー研究事 業	リウマチ医療における集学的医療
12 坂本 長逸 内科学第三	分担	癌研究助成金・ 松倉則夫・日本医科大学	胃癌の発生・進展に関わる要因の把 握とその診療への応用に関する研

13	及川 眞一 内科学第三	分担	特定疾患調査研究・北 徹・ 京都大学大学院	原発性高脂血症調査研究
14	工藤 翔二 内科学第四	主任	特定疾患対策臨床調査研究	びまん性肺疾患の臨床調査研究
15	工藤 翔二 内科学第四	分担	ニトゲノム・再生医療等研究事業・ 慶長直人・国立国際医療センター	びまん性汎細気管支炎等遺伝要因 を有する慢性呼吸器疾患の疾患感 受性遺伝子の研究
16	遠藤 俊吉 精神医学	分担	障害保健福祉総合研究事業・ 守谷裕文・埼玉県立精神保健総合セン ター	精神医療の機能分化や専門的医療 に関する研究
17	村上 睦美 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業・ 五十嵐隆・東京大学大学院医学系研究科	小児腎尿路疾患の早期発見システ ムの導入に関する研究
18	大木 由加志 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業・ 松浦信夫・北里大学医学部	2型糖尿病を持つ子供の QOL の改 善のための研究
19	伊藤 保彦 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業・ 三池輝久・熊本大学医学部	思春期の保健対策の強化及び健康 教育の推進に関する研究
20	松倉 則夫 外科学第一	主任	がん研究助成金	胃がんの発生・進展に関わる要因の 把握とその診療への応用に
21	加藤 俊二 外科学第一	分担	がん研究助成金・ 安井 弥・広島大学医学部	食道および胃の前がん性病変に関 する分子病理学的
22	寺本 明 脳神経外科学	分担	特定疾患対策間脳下垂体機能障害調査 研究・ 加藤 謙・島根医科大学	Pituitary incidentaloma の病態と自 然史
23	八木 聡明 耳鼻咽喉科学	主任	特定疾患対策研究事業	前庭機能異常調査研究
24	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	分担	感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究 事業 今野昭義・千葉大学医学部	花粉症に対する各種治療法に関す る科学的根拠を踏まえた評価研究
25	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	分担	21世紀型医療開拓推進研究事業・ 馬場廣太郎・独協医科大学	アレルギー性鼻炎の科学的根拠に 基づく医療によるガイドライン
26	茨木 信博 眼科学	分担	21世紀型医療開拓推進研究事業・ 小原喜隆・独協医科大学	科学的根拠に基づく白内障診療ガ イドラインの策定に関する研究
27	黒川 顕 救急医学	分担	21世紀型医療開拓推進研究事業・ 島崎修次・杏林大学医学部	心臓、脳卒中中の急性期における診療 機能の向上及びその研修のありか たに関する研究
28	益子 邦洋 救急医学	分担	21世紀型医療開拓推進研究事業・ 有賀 徹・昭和大学医学部	院内の疾病登録を利用した心筋梗 塞及び脳卒中の治療方法等の向上 に関する研究
29	益子 邦洋 救急医学	分担	21世紀型医療開拓推進研究事業・ 島崎修次・杏林大学医学部	救命救急センターにおける重症外 傷患者への対応の充実に向けた研 究
30	竹内 孝仁 第二病院リハビ リセンター	分担	長寿科学総合研究・ 安村誠司・福島県立医科大学	閉じこもり高齢者のスクリーニン グ尺度の作成と介入プログラムの 開発
31	江見 充 老人病研究所	分担	長寿科学総合研究・折茂 肇・東京都老 人医療センター	骨粗しょう症における原因遺伝子 の検索と遺伝疫学的解析
32	江見 充 老人病研究所	分担	特定疾患研究・北 徹・京都大学大学 院医学研究系	原発性高脂血症調査研究
33	太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患研究・ 清水輝夫・国立神経・精神センター	筋ジストロフィー及び関連疾患の 臨床病態解明と治療法開発に関す る研究
34	太田 成男 老人病研究所	分担	長寿医療研究・ 下方浩史・帝京大学医学部	老化および老年病に関する遺伝子 の分子疫学的研究
				補助金額合計 145,513,000 円

4. 平成13年度その他省庁、自治体、財団による研究助成金等の交付状況

研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1 柴崎 保 生理学第二	(財)喫煙科学研究財団	研究助成	ニコチンによる食欲抑制機序に関する解析
2 新井 桂子 生理学第二	(財)成長科学協会	研究助成	GHS 受容体 (GHSR) 発現抑制トランスジェニックラットを用いた GHS の Gh 分泌促進機序に関する検討
3 鈴木 秀典 薬理学	科学技術新興事業団	分担研究	抑制性シナプス可塑性の分子機構の解明とその応用
4 浜田 剛 薬理学	薬力学研究会	研究助成	成熟ニューロンで発現する新規細胞成長因子 SCDGF-B の機能解析
5 高橋 秀実 微生物・免疫学	ヒューマンサイエンス財団	研究助成	生体内のリアルタイムの情報に基づいた HIV ウイルス特異的 T 細胞の試験管内再構築技術の確立
6 高橋 秀実 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス財団	研究助成	HIV 構造遺伝子と HIV 制御遺伝子のコンピネーションワクチンの開発に関する研究
7 高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学協力研究費	ウイルス蛋白によるキラー T 細胞のアポトーシス誘導
8 太田 久彦 医療管理学	(財)医療科学研究所	研究助成	新しく開発されたりウマチ治療薬 Etanercept に関する費用分析の研究
9 河野貴美子 情報科学センター	科学技術振興事業団	研究助成	脳波による生命情報の計測に間する研究
10 片山 泰朗 内科学第二	大和証券ヘルス財団	研究助成	画像画素統計解析を応用した老年期脳疾患の画像診断システムの開発
11 吉野 槇一 リウマチ科	上原記念科学財団	研究助成	自己免疫疾患における免疫、神経内分泌クロスター機構の解明と涙して泣くことの影響について
12 猪口 孝一 内科学第三	高橋産業経済研究財団	研究助成	変量 p51/p63 導入 6cv/abl Tg マウス病態解析
13 工藤 翔二 内科学第四	喫煙科学研究財団	研究助成	肺癌発生母地としての突発性肺線維症の遺伝子不安定性の解析
14 吉村 明修 内科学第四	喫煙科学研究財団	研究助成	肺癌発生母地としての突発性肺線維症の遺伝子不安定性の解析
15 村田 朗 内科学第四	公害健康被害補償予防協会	研究分担	高齢者の気管支喘息、慢性気管支炎肺気腫の保健指導等に関する研究
16 小川 俊一 小児科学	日本心臓血圧研究振興会	研究助成	酸素で閉じるカリウムチャンネルのクローニング
17 吉田 大蔵 脳神経外科学	日本脳神経財団	研究助成	GFP 遺伝子導入細胞を用いた脳腫瘍浸潤モデルの研究
18 大久保公裕 耳鼻咽喉科学	東京都衛生局医療福祉部	東京都花粉症対策事業	アレルギー性鼻炎の経舌下口腔粘膜減感作治療研究
19 益子 邦洋 救急医学	(財)救急振興財団	調査研究	救急業務の高度化とメディカルコントロール体制の基盤作りに関する調査研究
20 江見 充 老人病研究所	日本学術新興会	未来開拓学術研究事業	体系的 SNP 解析に基づく骨粗しょう症発症に関する遺伝的要因
21 田中 信之 老人病研究所	日本白血病研究基金	研究助成	癌抑制遺伝子による造血系細胞の分化・アポトーシス制御及びその制御系の破綻による白血病成因の分子機構の解析
22 田中 信之 老人病研究所	(財)大阪癌研究会	研究助成	癌抑制因子 p53 による細胞周期制御系の破綻した細胞の排除機構の解析

23	田中 信之 老人病研究所	医科学応用研究財団	研究助成	癌抑制因子による癌細胞の排除機構： レチノブラストーマ癌抑制因子と p53 による異常細胞の識別と排除に関する 解析及びその機構を介した癌の治療法 の検討	
24	田中 信之 老人病研究所	がん研究振興財団	研究助成	がん抑制因子 p53 によるアポトーシス の実行機構の解析	
25	佐藤 恵理 老人病研究所	上原記念生命科学財団	研究奨励金	p53 と RB のアポトーシス誘導機構の解 析	
				研究助成金額合計	115,410,000 円

5. 平成 13 年度各種補助金の交付状況一覧 [ 内訳 ]

単位：千円

項 目	平成 13 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
文部科学省科学研究費補助金 交付金額		204,400	204,400
私立大学研究設備整備費補助金			
・研究設備	27,155	36,002	63,157
・情報関係設備			
計	27,155	36,002	63,157
私立学校施設整備費補助金			
・研究施設			0
・研究装置	46,763	42,487	89,250
・教育装置	25,249	22,940	48,189
・学内 LAN 装置			0
・創造教育装置 ( 10 年度で廃止 )			0
・マルチメディア装置			0
計	72,012	65,427	137,439
・教育・学習方法高度情報化推進事業	7,860	7,140	15,000
・最先端 IT 基盤総合整備事業	53,668	47,655	101,323
・バーチャル・ユニバーシティー推進事業	60,245	51,916	112,161
経常費補助金・特別補助			
高度化推進特別経費			
・大学院重点特別経費 ( 研究科・学生・共同 )	53,603	47,500	101,103
・ティーチング・アシスタント経費	2,144	3,200	5,344
・教育研究交流事業費 ( 特別研究学生・外人招聘 )	305	840	1,145
・大学院の基盤整備 ( 拠点整備 )		609,480	609,480
・研究機能の強化 ( 研究基盤の充実 )		28,651	28,651
・研究機能の強化 ( 共同研究 )			0
・リサーチ・アシスタント、ポスト・ドクター支援経費	36,400	36,300	72,700
・研究施設・設備等の運営 ( 研究所等 )	43,383	39,200	82,583
・研究施設・設備等の運営 ( 大型設備等 )	5,601	4,700	10,301
情報化推進特別経費			0
・情報処理関係設備 ( 借入 )	7,266	7,240	14,506
・教育学術情報ネットワーク	38,538	28,900	67,438
・教育研究用ソフトウェア	16,517	16,470	32,987
・教育学術情報データベース等の開発	21,188	21,170	42,358
国際交流特別経費			0
・外国人教員による教育		1,000	1,000
・アジア諸国語教育			0
・外国大学等との学生・教員の交流			0
・海外研修派遣	1,212	1,211	2,423
・外国人留学生の受入れ		3,867	3,867

大学改革推進特別経費〔11年度から組替〕			0
・高等教育研究改革推進経費	7,102	5,000	12,102
・大学改革推進経費(多面的評価)	614	500	1,114
・少人数教育の推進		6,000	6,000
・特色ある教育研究			0
計	233,873	861,229	1,095,102
学術研究振興資金			0
総合計	454,813	1,069,369	1,524,182

#### 6. 平成13年度「私立大学学術研究高度化事業」関係補助金

項 目	平成13年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
ハイテク・リサーチセンター整備事業			
・文・研・設(研究設備)			
・文・施・設(研究施設)			
・文・施・設(研究装置)			
・経常費補助金特別補助(共同研究)	20,008	20,000	40,008
計	20,008	20,000	40,008
学術フロンティア推進事業			
・文・研・設(研究設備)			
・経常費補助金特別補助(共同研究)	48,500	48,500	97,000
計	48,500	48,500	97,000
新技術開発研究			
・経常費補助金特別補助	10,000	10,000	20,000
計	10,000	10,000	20,000
バイオベンチャー研究開発経費			
・経常費補助金特別補助	20,002	20,000	40,002
計	20,002	20,000	40,002



## あ と が き

本学の年間発表英文論文数は増え続け、2001年度の研究業績年報をみると、この1年間の英文論文数は前年度に比べさらに増し、総論文数における英文論文数の比率も40%近くに到達した。これはその成果を国際的に問える研究が増加し続けていることを意味しており、歓迎されるべき傾向である。今後はさらに質の高い研究が増えていくことが期待される。

医学部の学生教育に対する評価にも通じる医師国家試験合格率に関して、今春の結果は本学史上最悪のものとなってしまった。卒後教育に関しては、卒後臨床研修必修化が間もなく始まるようしており、研修体制の評価も全国的にされるようになるであろう。臨床研修必修化に伴い、臨床系の教室によっては今後研究に携われるマンパワーの減少という状況が生じることが予想される。このような厳しい状況の中で、本学は他大学と競い、生き残るためにしっかりと将来を見据えて、本学がどの方向に向かうのか再確認しなければならない時期にあると思われる。教育、研究に関する議論において大切なのは、教育か研究かの選択ではなく、教育も研究もさらに診療においても国立大学で行われている改革の模倣ではなく、本学の力に見合った、より個性ある医科大学を創り上げていくことであると思われる。そのような中で独創性に富んだ質の高い研究が静かにそして着実に生まれていくことが望まれる。

研究委員会委員長 芝崎 保

平成14年 12 月 5 日 印 刷

平成14年 12 月 10 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 委 員 会

〒113 8602 東京都文京区千駄木 1 1 5

T E L 03 ( 3822 ) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114 0024 東京都北区西ヶ原 3 46 10

T E L 03 ( 3910 ) 4 3 1 1 5